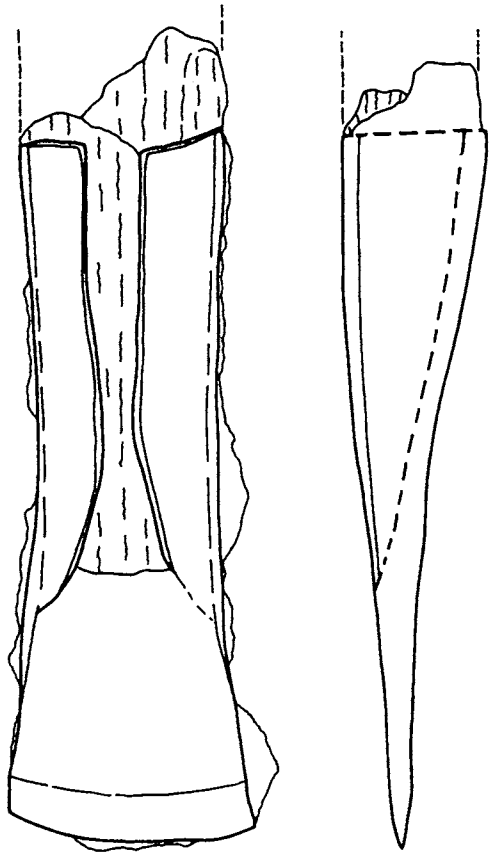
熊本県文化財調査報告書第199集

梅ノ木遺跡 II

上巻

－県道益城菊陽線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－



2001
熊本県教育委員会

序　文

熊本県教育委員会は、県道益城菊陽線道路改良事業に伴い、菊池郡菊陽町津久礼に所在する梅ノ木遺跡の発掘調査を実施しました。

梅ノ木遺跡は、白川の中流域の氾濫原に位置します。この遺跡は、昭和57年度のほ場整備に伴う発掘調査により、住居跡と墓地からなる弥生時代のムラ跡であることが知られていました。今回の発掘調査では、新たに200軒を超える竪穴住居と20基以上の土器棺を検出し、従来の知見をより豊かにふくらませる成果を得ました。中でも、弥生時代中頃のムラの様相が具体的に明らかになったこと、100点以上の鉄器が出土したこと、並びに、未だ鉄器の普及が本格化していない時期においても梅ノ木遺跡では鉄器が使用されていたことは、熊本県の歴史を語る上で貴重な成果であると考えられます。

なお、今回、発掘調査を実施した隣接地には、土器棺が数基眠っていることが確認されています。現在、当該地は公園となり、県民のみなさんの憩いの場となっていますが、この数基の土器棺が身近な文化財として、今回出土した遺物等と併せて広く活用されることを望みます。

また、本報告書が、広く県民のみなさんの文化財に対する認識と理解の深まりに貢献し、地元菊陽町をはじめとする地域の歴史、社会教育、学術研究の進展に寄与することが適うならば、望外の喜びです。

末尾となりましたが、発掘調査を実施するにあたり文化財保護の観点から多大な協力をいただいた県土木部、県国体道路建設事務所、県熊本土木事務所、菊陽町教育委員会、下津久礼地区をはじめとする地元関係者の方々、及び御指導を賜りました諸先生方に深甚なる感謝申し上げます。

平成13年3月31日

熊本県教育長　田中力男

例　言

1　本書は、熊本県菊池郡郡菊陽町津久礼に所在する梅ノ木遺跡の第２次発掘調査の報告書である。

2　発掘調査は、県道益城菊陽線道路改良工事に伴い、県土木部の依頼を受け、熊本県教育委員会が実施した。

3　遺物の整理は、熊本県文化課梅ノ木遺跡調査事務所（現地）で行った。

4　遺跡の発掘調査は平成８年度から11年度まで実施し、整理作業を平成９年度から11年度まで行った。

5　本書で用いる地形図は、県農政部･土木部から提供された図幅並びに国土地理院発行の２万５千分の１及び５万分の１地形図をもとに作成した。

6　現地での写真撮影は亀田学、戸田清恵、安達武敏、後藤貴美子、矢野布美子、濱田智美、前川真由美、山下直哉、池田朋生、田部英俊が行った。

実測は前記10人の他、中村幸弘、川井田久子、平川恵里子、田中知恵美 、冨田智子、土田ちえみ、林田恵子 、岡部祐亮、佐藤洋子、佐藤昌代、上田まゆみ、宇野公子、原田春子、古庄美伊子、山口和子、上野栄子が行った。

航空写真撮影は、㈱朝日航洋（スカイサーベイ）に委託した。

7　遺物の実測は、亀田、後藤、戸田、矢野、濱田、前川、山下、緒方智子、藤江望、井島秀子、岩下恵美子、上田、上野、宇野、川井田、古閑満代、坂本貴美子、佐藤紀子、園田智子、田中、冨田、原田、平川恵、平川早苗、平木智子、古庄美、右田美津子、山口、吉武知佐子、吉田久美、小野美樹、古庄志真子が行った。

製図は、前川、山下、藤江、井島、上田、宇野、川井田、古閑、坂本、園田、田中、冨田、原田、平川恵、平川早、平木、古庄美、松本直枝、右田、山口が行った。

遺物の写真撮影は、亀田、山下義満、古閑、平川恵、平木、坂本、園田が行った。

8　鉄器の分析は㈱新日鐵テクノリサーチ、花粉分析･樹種同定及び放射性炭素年代測定は㈱古環境研究所、人骨の整理並びに鑑定分析は豊浦郡豊北町立土井ヶ浜人類学ミュージアムに委託した。

また、鉄器のＸ線撮影に福岡市立埋蔵文化財センター（比佐陽一郎氏･片多雅樹氏ほか）の協力を得た。赤色顔料については、鹿児島県立埋蔵文化財センター大久保浩二氏に、陶磁器等については、竹田知美氏に御教示を得た。

9　本書の執筆は、亀田、後藤、戸田、矢野、濱田、前川、山下が行った。

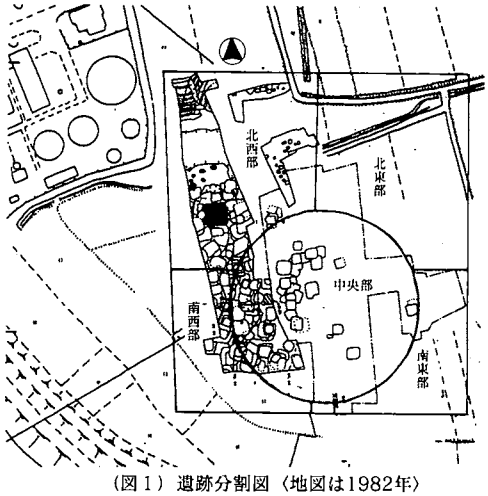
なお、第Ⅳ章第1節を㈱古環境研究所、第Ⅳ章第２節を、豊浦郡豊北町立土井ヶ浜人類学ミュージアム（松下孝幸氏）、第Ⅳ章第３節を㈱新日鐵テクノリサーチ（大沢正巳氏）に委託した。

10　整理後の保管は熊本県文化財収蔵庫でおこなっている。

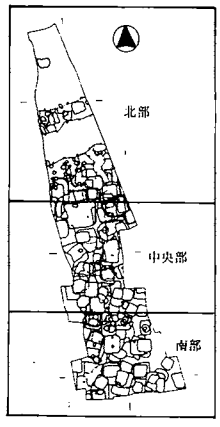
11　本書の編集は、熊本県教育庁文化課が行い、亀田が担当した。

12　付編については、六地蔵遺跡、鹿帰瀬遺跡の本調査の成果をまとめたものである。この調査は、益城菊陽線道路改良工事施設に伴い、九州電力株式会社の送電塔移設が必要になり、移転先及び工事に影響する部分について平成９年11月末から平成10年２月末まで本調査を実施したうちの一部である。遺物･図面整理･遺構図の版下粗図作成等は、現地調査事務所で行った。その後、文化財収蔵庫にて後藤貴美子が遺物実測・製図・原稿執筆を実施した。この付編については、後藤が編集した。

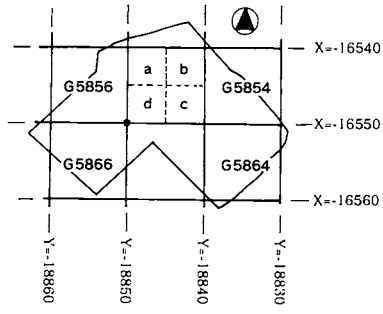
凡　例



（図１）遺跡分割図（地図は1982年）

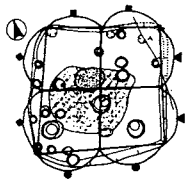


（図２）２区分割図

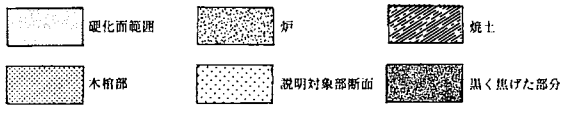


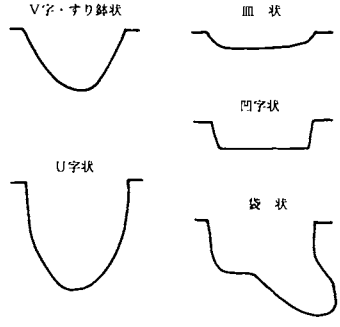
（図３）グリッド図例

（図４）



※法量計測方法
▶長軸・短軸…各辺の1/2を結んだ線を軸とし長い方を長軸とする。
▲円形の遺構については、最も長い部分と短い部分を測る。
▶深さ…中央部の安定した部分を検出面から測る。
※床面積計測法
法量の長軸・短軸の求め方によって、下端ラインの長さを計測し、それを乗じたもの。
※トーンについては、下記の通りである。それ以外については各図面上に記す。





（図５）土坑断面形態

1　**遺構図版　方位**　国土座標第Ⅱ系を基準とし、方位もそれに準じた。（図１～４）

2　**遺跡地区名（図１～３）**　遺跡全体の地区（図１）、２区の地区（図２）の通りである。国土座標第Ⅱ系のＸ座標、Ｙ座標の下３ケタおよび下２ケタを利用し、Ｘ・Ｙを交互に呼んで地区杭とし、南西杭をもって小地区名（グリット（Ｇ））とした。（図３）

3　**遺構名略号**　次の通りである。ＳＤ：溝、ＳＩ：竪穴住居、ＳＫ：土坑・貯蔵穴、ＳＸ：その他

4　**遺構番号**　遺構番号は、遺構確認段階で検出した順に付し、その後に略号を付した。（例 132 ＳＩ）ただし、遺構内の施設（例、竪穴住居内のピット＜柱穴＞・貯蔵穴他）は、略号を先に付け、後に検出順に番号をその遺構内で１から付した。

5　**遺構図版　標高**　標高は、東京湾平均海水面（TokyoPeil［Ｔ．Ｐ.］）に基づく。

6　**遺構図版　縮尺**　遺構図版は、各ブロックごとに掲載し、縮尺は、屋外炉・土坑は 1/40、竪穴住居は 1/80、土器棺墓は 1/20、木棺墓は 1/40 である。これに該当しないものについては、その縮尺を図版中に示した。

7　**遺構図版　線種**　遺構平面図は完掘状態で掲載し、遺構上端の推定線は破線で示した。下端線のない一点破線は、その遺構より新しい遺構を示す。

8　**遺構図版**　スクリーントーンの指示は（図4）の通りである。その他のトーンについては各図面上で示した。断面形態については（図５）の通りである。

9　**遺構の時期**　下巻第Ｖ章　考古学的分析（1）の項で使用されている時期区分による。

凡　例

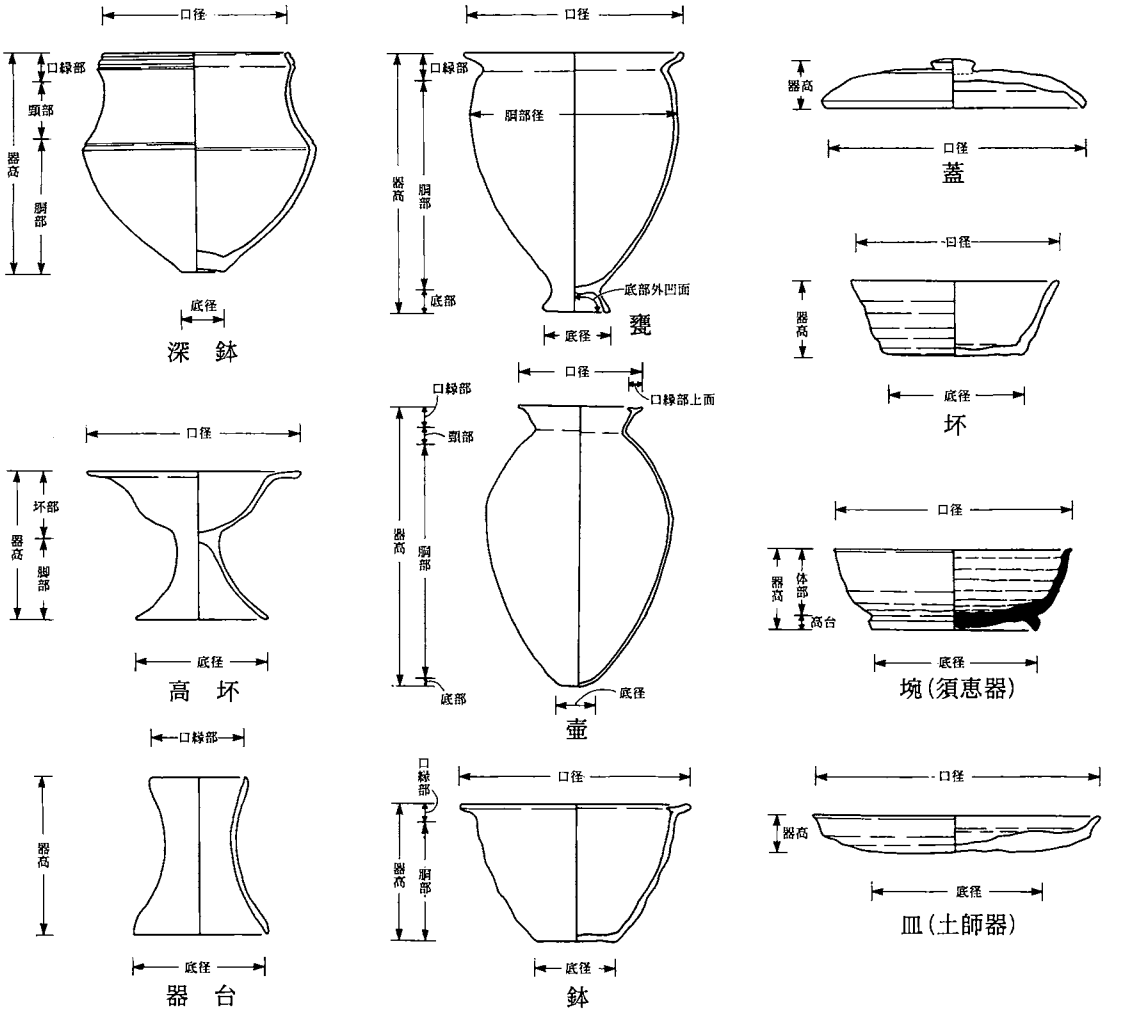


図6　土器計測部位

10　**遺物図版　縮尺**　遺物実測は原則として土器を1/3、石器・鉄器は2/3で掲載した。但し、これに該当しないものは、その縮尺を図中に示した。拓本及び径の復元できない破片の立面図は、断面の左側に外面図、右側に内面図を掲載した。

11　**遺物図版　線種**　外形線、中心線及び区画線は実線、稜線は一点破線または二点破線、推定線は破線で示した。また、須恵器については、断面を塗りつぶしている。顔料については、スクリーントーンで指示している。(図6) また、石器の使用痕についても、スクリーントーンで指示している。(図7)

12　**遺物観察表**　すべての実測個体について、遺物観察表を掲載した。その凡例は、各観察表の欄に別記した。

13　**遺物図版**　土器については、赤彩▒、黒彩■、石器についてはⅢ－201図に示す通りである。

凡　例

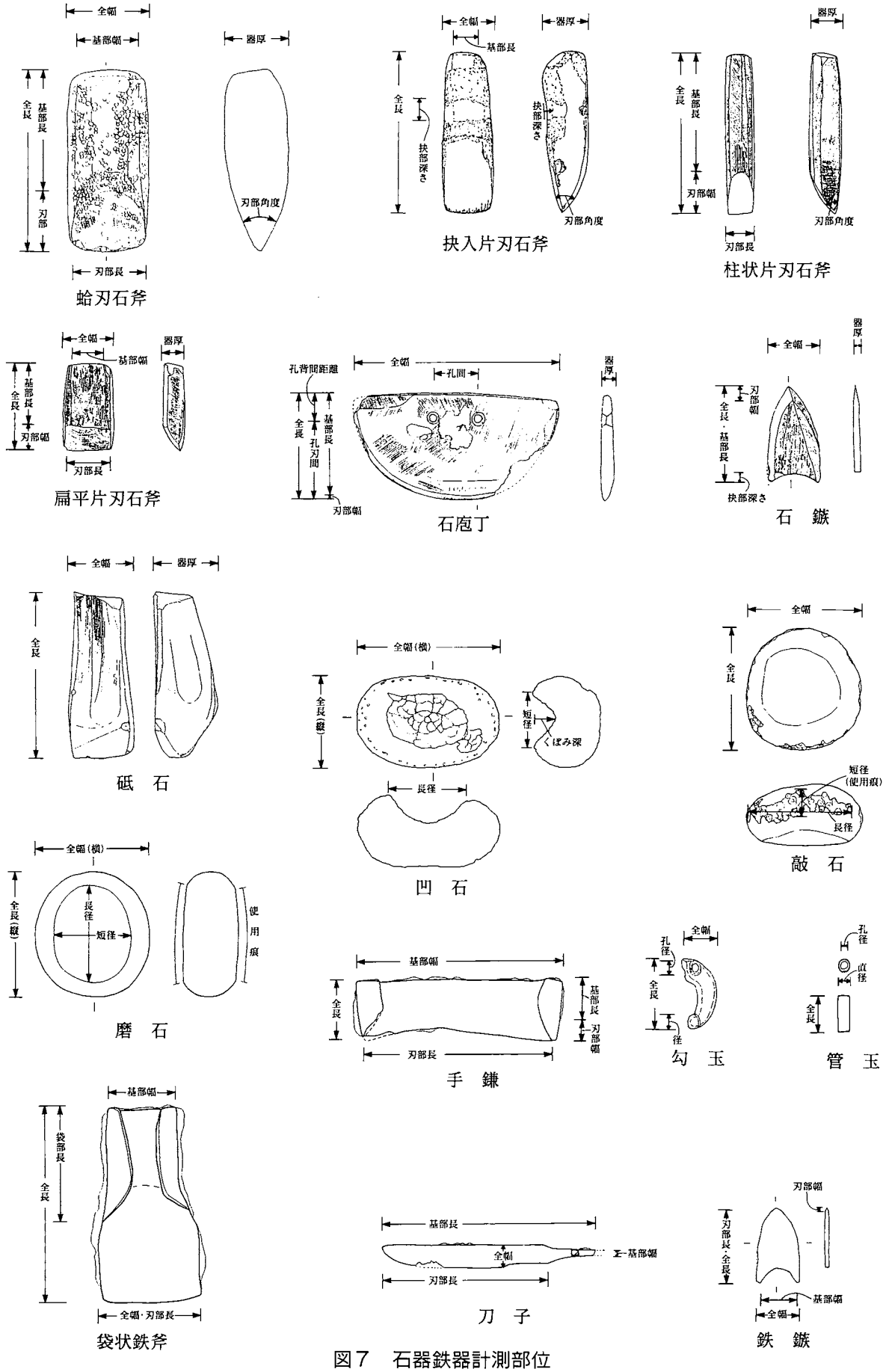


図７　石器鉄器計測部位

本 文 目 次 （上巻）

序文
例言
凡例
第Ⅰ章　調査の経過と方法
第１節　調査に至る経緯…… 1
第２節　調査の組織…… 1
第３節　調査の経過及び協議・保存措置…… 2
第４節　調査の方法…… 2
第Ⅱ章　環境…… 3
第Ⅲ章　調査の成果
第１節　層序…… 6
第２節　縄文時代
(1)　調査の概要…… 7
(2)　集石…… 7
(3)　土坑…… 9
(4)　住居状遺構…… 9
(5)　遺物包含層・撹乱の遺物…… 10
第３節　弥生時代
(1)　調査の概要…… 42
(2)　竪穴住居…… 47
①２区の調査…… 47
②九電鉄塔No.82 調査区の調査…… 320
③東西水路調査区の調査…… 329
(3)　屋外土坑…… 343
①２区の調査…… 343
②九電鉄塔No.82 調査区の調査…… 371
(4)　屋外炉（２区の調査）…… 373
(5)　土器棺墓…… 381
①２区の調査…… 381
②道路橋脚Ｐ18 調査区の調査…… 422
③九電鉄塔新No.61 調査区の調査…… 427
(6)　木棺墓・土壙（墓）…… 429
①２区の調査…… 429
②東西水路調査区の調査…… 435
③九電鉄塔新No.61 調査区の調査…… 436
④九電鉄塔仮No.61 調査区の調査…… 451
(7)　遺物包含層・撹乱の遺物…… 454
①２区・東西水路調査区の土器…… 454
②２区の石器…… 461
③２区の鉄器…… 469
④１・４区出土の土器…… 473
⑤１・４区出土の鉄器…… 482

本 文 目 次 （下巻）

第Ⅲ章
第４節　平安時代
(1)　調査の概要…… 1
(2)　竪穴住居…… 1
(3)　屋外炉…… 2
(4)　Pit 群１…… 5
(5)　Pit 群２…… 5
(6)　溝…… 6
(7)　遺物包含層・撹乱の遺物…… 7
第５節　江戸時代以降…… 13
(1)　調査の概要…… 16
(2)　耕作遺構…… 16
第６節　確認調査…… 16
(1)　調査区１…… 16
(2)　調査区２…… 18
(3)　調査区３…… 21
(4)　調査区４…… 21
(5)　調査区５…… 23
(6)　調査区６…… 23
第Ⅳ章　自然科学分析
A 年代測定・樹種同定・種実同定・植物珪酸体・蛍光Ｘ線・リン、カルシウム分析…… 25
B 弥生時代人骨の分析…… 46
C 鉄製品の金属学的分析…… 55
第Ⅴ章　考古学的分析
第１節　熊本平野周辺の土器の編年案…… 115
第２節　竪穴住居群について…… 119
第３節　墓について…… 120
第４節　鉄器について…… 121
第５節　石器について…… 122
第Ⅵ章　まとめと課題…… 145
弥生時代遺跡分布図…… 147
観察表…… 150～218
写真図版…… 219～272
付編　六地蔵・鹿帰瀬遺跡の調査…… 273

表 目 次

表１　２区遺構グリット一覧表…… 45
表２　九電鉄塔新No.61 調査区木棺墓法量表…… 453

挿　図　目　次（上巻）

第Ⅱ-1図　梅ノ木遺跡周辺遺跡分布図……4
第Ⅱ-2図　梅ノ木遺跡周辺地図……5
第Ⅲ-1図　基本土層図……6
第Ⅲ-2図　1・4区縄文時代遺構配置図……7
第Ⅲ-3図　2区縄文時代遺構配置図・土器接合状況図……7
第Ⅲ-4図　1区縄文時代遺構配置図及び
V層遺物出土状況平面図……8
第Ⅲ-5図　1区縄文時代集石出土状況平面・断面図……8
第Ⅲ-6図　1区V層出土縄文土器実測図……9
第Ⅲ-7図　1区V層出土縄文土器実測図……10
第Ⅲ-8図　1221SX　平面・断面図……11
第Ⅲ-9図　1214SX　平面・断面図……11
第Ⅲ-10図　1227SX　平面・断面図……11
第Ⅲ-11図　遺物包含層・撹乱出土石器実測図……12
第Ⅲ-12図　1・4区縄文土器（J）出土分布図……12
第Ⅲ-13図　4区イ地区出土縄文土器実測図……13
第Ⅲ-14図　4区ロ地区出土縄文土器実測図……13
第Ⅲ-15図　1区ニ地区出土縄文土器実測図……13
第Ⅲ-16図　1区ホ地区出土縄文土器実測図……14
第Ⅲ-17図　1区ヘ地区出土縄文土器実測図……14
第Ⅲ-18図　1区ト地区出土縄文土器実測図……15
第Ⅲ-19図　1区チ地区出土縄文土器実測図……15
第Ⅲ-20図　1・4区用水路出土縄文土器実測図1……16
第Ⅲ-21図　1・4区用水路出土縄文土器実測図2……17
第Ⅲ-22図　1・4区用水路出土縄文土器実測図3……18
第Ⅲ-23図　2区グリット分割図……19
第Ⅲ-24図　2区リ地区出土縄文土器実測図……19
第Ⅲ-25図　2区ヌ地区出土縄文土器実測図……19
第Ⅲ-26図　2区ル地区出土縄文土器実測図……20
第Ⅲ-27図　2区ヲ地区出土縄文土器実測図1……21
第Ⅲ-28図　2区ヲ地区出土縄文土器実測図2……22
第Ⅲ-29図　2区ヲ地区出土縄文土器実測図3……23
第Ⅲ-30図　2区ヲ地区出土縄文土器実測図4……24
第Ⅲ-31図　2区ワ地区出土縄文土器実測図……25
第Ⅲ-32図　2区カ地区出土縄文土器実測図1……26
第Ⅲ-33図　2区カ地区出土縄文土器実測図2……27
第Ⅲ-34図　2区カ地区出土縄文土器実測図3……28
第Ⅲ-35図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図1……29
第Ⅲ-36図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図2……30
第Ⅲ-37図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図3……31
第Ⅲ-38図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図4……31
第Ⅲ-39図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図5……32
第Ⅲ-40図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図6……33
第Ⅲ-41図　2区タ地区出土縄文土器実測図1……34
第Ⅲ-42図　2区タ地区出土縄文土器実測図2……35
第Ⅲ-43図　2区タ地区出土縄文土器実測図3……36
第Ⅲ-44図　2区レ地区出土縄文土器実測図1……36
第Ⅲ-45図　2区レ地区出土縄文土器実測図2……37
第Ⅲ-46図　2区ソ地区出土縄文土器実測図1……38
第Ⅲ-47図　2区ソ地区出土縄文土器実測図2……39
第Ⅲ-48図　2区ソ地区出土縄文土器実測図3……40
第Ⅲ-49図　2区ソ地区出土縄文土器実測図4……41
第Ⅲ-50図　梅ノ木遺跡　弥生時代遺構配置図……42
第Ⅲ-51図　2区遺構配置図……43・44
第Ⅲ-52図　181SI・炉　平面・断面図……47
第Ⅲ-53図　181SI出土土器実測図……48
第Ⅲ-54図　186SI・炉　平面・断面図……49
第Ⅲ-55図　186SI出土土器実測図……50
第Ⅲ-56図　189・174・162・192・175・163SI
平面・断面図……51
第Ⅲ-57図　189・174・162・192・175・163SI
平面・断面図……52
第Ⅲ-58図　192・162・163・189SI内
炉・SK平面・断面図……53
第Ⅲ-59図　189SI出土土器実測図……54
第Ⅲ-60図　174SI出土土器実測図……54
第Ⅲ-61図　162SI出土土器実測図……55
第Ⅲ-62図　162SI出土石器実測図……55
第Ⅲ-63図　162SI出土鉄器実測図……56
第Ⅲ-64図　192SI出土土器実測図……56
第Ⅲ-65図　175SI出土土器実測図……57
第Ⅲ-66図　164SI出土土器実測図……57
第Ⅲ-67図　175SI出土鉄器実測図……58
第Ⅲ-68図　163SI出土土器実測図……58
第Ⅲ-69図　164・160SI平面・断面図……59
第Ⅲ-70図　160SI出土土器実測図1……60
第Ⅲ-71図　160SI出土土器実測図2……61
第Ⅲ-72図　160SI内炉　平面・断面図……61
第Ⅲ-73図　172SI出土土器実測図……61
第Ⅲ-74図　160SI出土石器実測図……62
第Ⅲ-75図　172SI　平面・断面図……62
第Ⅲ-76図　187・182・176・185・177・1236
（167SX）SI・炉　平面・断面図……63
第Ⅲ-77図　187・182・176・185・177・1236
（167SX）SI　平面・断面図……64
第Ⅲ-78図　187SI出土土器実測図……64
第Ⅲ-79図　182SI出土土器実測図……68
第Ⅲ-80図　176SI内炭化材出土状況平面・断面図……68
第Ⅲ-81図　176SI出土土器実測図……69
第Ⅲ-82図　185SI出土土器実測図……69
第Ⅲ-83図　177SI出土土器実測図……70
第Ⅲ-84図　167SX・1236SI出土石器実測図……70
第Ⅲ-85図　167SX出土鉄器実測図……70
第Ⅲ-86図　167SX　遺物出土状況平面・断面図……71

第Ⅲ-87図　167ＳＸ出土土器実測図１…… 72
第Ⅲ-88図　167ＳＸ・1236ＳＩ出土土器実測図２……73
第Ⅲ-89図　167ＳＸ出土土器実測図３…… 74
第Ⅲ-90図　297ＳＩ・169ＳＩ平面・断面図……75
第Ⅲ-91図　169ＳＩ内炉・ＳＫ01～05平面・断面図‥ 76
第Ⅲ-92図　297ＳＩ出土土器実測図……76
第Ⅲ-93図　169ＳＩ出土土器実測図１…… 77
第Ⅲ-94図　169ＳＩ出土土器実測図２…… 78
第Ⅲ-95図　169ＳＩ出土土器実測図３…… 79
第Ⅲ-96図　169ＳＩ出土土器実測図４…… 80
第Ⅲ-97図　169ＳＩ出土鉄器実測図……80
第Ⅲ-98図　169ＳＩ出土石器実測図１…… 81
第Ⅲ-99図　169ＳＩ出土石器実測図２…… 82
第Ⅲ-100図 292ＳＩ　平面・断面図……83
第Ⅲ-101図 292ＳＩ出土土器実測図……83
第Ⅲ-102図 1045・1044・179・180・183・1035ＳＩ
平面・断面図…… 84
第Ⅲ-103図 179ＳＩ出土土器実測図１…… 86
第Ⅲ-104図 179ＳＩ出土土器・鉄器実測図２…… 87
第Ⅲ-105図 180ＳＩ遺物出土状況平面・断面図‥88
第Ⅲ-106図 180ＳＩ出土土器実測図１…… 89
第Ⅲ-107図 180ＳＩ出土土器実測図２…… 90
第Ⅲ-108図 180ＳＩ出土土器実測図３…… 91
第Ⅲ-109図 180ＳＩ出土石器実測図……91
第Ⅲ-110図 183ＳＩ内炉・遺物出土状況 平面・断面図‥ 92
第Ⅲ-111図 183ＳＩ出土鉄器実測図……92
第Ⅲ-112図 183ＳＩ出土土器実測図１…… 92
第Ⅲ-113図 183ＳＩ出土土器実測図２…… 93
第Ⅲ-114図 1035ＳＩ遺物出土状況平面・断面図……94
第Ⅲ-115図 1035ＳＩ出土土器実測図１…… 94
第Ⅲ-116図 1035ＳＩ出土土器実測図２…… 95
第Ⅲ-117図 1060・1058・1059ＳＩ平面・断面図…… 96
第Ⅲ-118図 1058ＳＩ出土鉄器実測図…… 96
第Ⅲ-119図 1039ＳＩ平面・断面図…… 96
第Ⅲ-120図 1058ＳＩ出土土器実測図…… 97
第Ⅲ-121図 1039ＳＩ内ＳＫ01平面・断面図……97
第Ⅲ-122図 1039ＳＩ出土土器実測図…… 97
第Ⅲ-123図 1052・1019・1040ＳＩ平面・断面図‥98
第Ⅲ-124図 1040ＳＩ内ＳＫ01平面・断面図‥ 99
第Ⅲ-125図 1019ＳＩ出土土器実測図…… 99
第Ⅲ-126図 1040ＳＩ出土土器実測図……100
第Ⅲ-127図 1017ＳＩ・炉平面・断面図……102
第Ⅲ-128図 1020ＳＩ平面・断面図……102
第Ⅲ-129図 1020ＳＩ出土土器実測図……103
第Ⅲ-130図 1017ＳＩ出土土器実測図……103
第Ⅲ-131図 1008・195・166・190ＳＩ平面・断面図……104
第Ⅲ-132図 1008・195・166・190ＳＩ平面・断面図……105
第Ⅲ-133図 190ＳＩ内ＳＫ01～03平面・断面図…… 105
第Ⅲ-134図 1008ＳＩ出土土器実測図…… 107
第Ⅲ-135図 195ＳＩ出土土器実測図…… 107
第Ⅲ-136図 190ＳＩ出土石器実測図…… 107
第Ⅲ-137図 190ＳＩ出土鉄器実測図…… 107
第Ⅲ-138図 166ＳＩ出土土器実測図…… 108
第Ⅲ-139図 190ＳＩ出土土器実測図…… 109
第Ⅲ-140図 212ＳＩ平面・断面図…… 110
第Ⅲ-141図 212ＳＩ内ＳＫ01平面・断面図……110
第Ⅲ-142図 212ＳＩ出土鉄器実測図…… 110
第Ⅲ-143図 212ＳＩ出土土器実測図１……111
第Ⅲ-144図 212ＳＩ出土土器実測図２……112
第Ⅲ-145図 197・196・1220・1004・173・165・
161ＳＩ　平面・断面図…… 113
第Ⅲ-146図 1004・1220・173ＳＩ・
173ＳＩ内SK01平面・断面図…… 114
第Ⅲ-147図 173ＳＩ出土土器実測図…… 115
第Ⅲ-148図 197・196・165・161SI平面・断面図‥ 116
第Ⅲ-149図 161SI内炉・SK01、165SI内SK01平面・断面図‥ 117
第Ⅲ-150図 165ＳＩ出土土器実測図１…… 117
第Ⅲ-151図 197ＳＩ出土土器実測図…… 118
第Ⅲ-152図 165ＳＩ出土土器実測図２…… 118
第Ⅲ-153図 165ＳＩ出土石器実測図…… 119
第Ⅲ-154図 161ＳＩ出土土器実測図１…… 120
第Ⅲ-155図 161ＳＩ出土土器実測図２…… 121
第Ⅲ-156図 161ＳＩ出土石器実測図１…… 122
第Ⅲ-157図 161ＳＩ出土石器実測図２…… 123
第Ⅲ-158図 161ＳＩ出土鉄器実測図…… 123
第Ⅲ-159図 207ＳＩ平面・断面図…… 124
第Ⅲ-160図 207ＳＩ出土土器実測図…… 125
第Ⅲ-161図 253ＳＩ出土土器実測図…… 125
第Ⅲ-162図 205・213・253SI・SK平面・断面図…… 126
第Ⅲ-163図 205ＳＩ出土土器実測図…… 127
第Ⅲ-164図 213ＳＩ出土土器実測図…… 127
第Ⅲ-165図 210ＳＩ平面・断面図…… 128
第Ⅲ-166図 210ＳＩ出土土器実測図…… 128
第Ⅲ-167図 210ＳＩ出土石器実測図１…… 129
第Ⅲ-168図 210ＳＩ出土石器実測図２…… 130
第Ⅲ-169図 210ＳＩ出土鉄器実測図…… 131
第Ⅲ-170図 209ＳＩ平面・断面図…… 131
第Ⅲ-171図 209ＳＩ内炉　平面・断面図…… 131
第Ⅲ-172図 209ＳＩ出土石器実測図…… 131
第Ⅲ-173図 209ＳＩ出土土器実測図…… 132
第Ⅲ-174図 216・217ＳＩ・ＳＫ平面・断面図…… 132
第Ⅲ-175図 217ＳＩ出土土器実測図…… 133
第Ⅲ-176図 216ＳＩ出土土器実測図…… 134
第Ⅲ-177図 216ＳＩ出土鉄器実測図…… 134
第Ⅲ-178図 221ＳＩ平面・断面図…… 135
第Ⅲ-179図 221ＳＩ内SK01平面・断面図…… 135

第Ⅲ-180図 221ＳⅠ出土土器実測図…… 136
第Ⅲ-181図 259･247･245･235･220ＳⅠ平面･断面図‥ 137
第Ⅲ-182図 259･247･245･235･220ＳⅠ平面･断面図‥ 138
第Ⅲ-183図 259･245･235ＳⅠ内SK及び炉平面･断面図‥ 139
第Ⅲ-184図 259ＳⅠ出土土器実測図…… 139
第Ⅲ-185図 247ＳⅠ出土土器実測図…… 139
第Ⅲ-186図 247ＳⅠ出土石器実測図…… 140
第Ⅲ-187図 245ＳⅠ出土土器実測図…… 140
第Ⅲ-188図 245ＳⅠ出土石器実測図1…… 141
第Ⅲ-189図 245ＳⅠ出土石器実測図2…… 142
第Ⅲ-190図 235ＳⅠ出土土器実測図…… 143
第Ⅲ-191図 235ＳⅠ出土石器実測図1…… 144
第Ⅲ-192図 235ＳⅠ出土石器実測図2…… 145
第Ⅲ-193図 220ＳⅠ出土土器実測図…… 146
第Ⅲ-194図 232ＳⅠ平面・断面図…… 146
第Ⅲ-195図 232ＳⅠ出土土器実測図…… 146
第Ⅲ-196図 1064ＳⅠ・SK01～04平面・断面図‥‥ 148
第Ⅲ-197図 1064ＳⅠ出土土器実測図…… 149
第Ⅲ-198図 1073ＳⅠ平面・断面図…… 149
第Ⅲ-199図 1029ＳⅠ・SK01平面・断面図…… 150
第Ⅲ-200図 1029ＳⅠ出土土器実測図…… 151
第Ⅲ-201図 1029ＳⅠ出土石器実測図…… 152
第Ⅲ-202図 286ＳⅠ平面・断面図…… 153
第Ⅲ-203図 286ＳⅠ内SK01・02平面・断面図…… 153
第Ⅲ-204図 286ＳⅠ出土土器実測図…… 154
第Ⅲ-205図 286ＳⅠ出土石器実測図…… 155
第Ⅲ-206図 269ＳⅠ平面・断面図…… 156
第Ⅲ-207図 269ＳⅠ出土土器実測図1…… 157
第Ⅲ-208図 269ＳⅠ出土土器実測図2…… 158
第Ⅲ-209図 269ＳⅠ内炉・ＳＫ01平面・断面図……158
第Ⅲ-210図 269ＳⅠ出土鉄器実測図…… 158
第Ⅲ-211図 269ＳⅠ出土石器実測図…… 159
第Ⅲ-212図 1065ＳⅠ平面・断面図…… 160
第Ⅲ-213図 1065ＳⅠ出土土器実測図…… 160
第Ⅲ-214図 270ＳⅠ平面・断面図…… 161
第Ⅲ-215図 270ＳⅠ出土土器実測図…… 162
第Ⅲ-216図 270ＳⅠ出土石器実測図…… 162
第Ⅲ-217図 1071ＳⅠ平面・断面図…… 163
第Ⅲ-218図 1071ＳⅠ内SK01平面・断面図……163
第Ⅲ-219図 1071ＳⅠ出土土器実測図…… 163
第Ⅲ-220図 1005・1048ＳⅠ平面・断面図…… 164
第Ⅲ-221図 1005ＳⅠ出土土器実測図…… 165
第Ⅲ-222図 1048ＳⅠ出土土器実測図…… 165
第Ⅲ-223図 1048ＳⅠ出土石器実測図…… 166
第Ⅲ-224図 272ＳⅠ平面・断面図…… 167
第Ⅲ-225図 272ＳⅠ内炉・SK01・02平面・断面図‥ 167
第Ⅲ-226図 272ＳⅠ出土土器実測図…… 168
第Ⅲ-227図 272ＳⅠ出土石器実測図…… 169
第Ⅲ-228図 275ＳⅠ平面・断面図…… 169
第Ⅲ-229図 275ＳⅠ出土石器実測図…… 169
第Ⅲ-230図 275ＳⅠ出土土器実測図…… 170
第Ⅲ-231図 1010ＳⅠ平面・断面図…… 171
第Ⅲ-232図 288ＳⅠ・ＳＫ01平面・断面図‥‥ 172
第Ⅲ-233図 288ＳⅠ出土土器実測図…… 172
第Ⅲ-234図 101ＳⅠ平面・断面図…… 173
第Ⅲ-235図 101ＳⅠ出土土器実測図1…… 174
第Ⅲ-236図 101ＳⅠ出土土器実測図2…… 175
第Ⅲ-237図 101ＳⅠ内炉　平面・断面図…… 175
第Ⅲ-238図 101ＳⅠ出土石器実測図…… 176
第Ⅲ-239図 101ＳⅠ出土鉄器実測図…… 176
第Ⅲ-240図 1014ＳⅠ平面・断面図……177
第Ⅲ-241図 1022ＳⅠ　平面・断面図……177
第Ⅲ-242図 1015･268･224ＳⅠ平面･断面図‥‥ 178
第Ⅲ-243図 268ＳⅠ出土土器実測図…… 179
第Ⅲ-244図 224ＳⅠ出土土器実測図…… 179
第Ⅲ-245図 224ＳⅠ出土石器実測図…… 180
第Ⅲ-246図 233ＳⅠ平面・断面図…… 180
第Ⅲ-247図 234ＳⅠ・SK01平面・断面図…… 182
第Ⅲ-248図 234ＳⅠ出土土器実測図…… 182
第Ⅲ-249図 234ＳⅠ出土石器実測図…… 182
第Ⅲ-250図 143・149ＳⅠ平面・断面図…… 183
第Ⅲ-251図 143ＳⅠ出土土器実測図…… 183
第Ⅲ-252図 149ＳⅠ出土土器実測図…… 184
第Ⅲ-253図 132ＳⅠ平面・断面図…… 185
第Ⅲ-254図 132ＳⅠ出土土器実測図1…… 186
第Ⅲ-255図 132ＳⅠ出土土器実測図2…… 187
第Ⅲ-256図 132ＳⅠ出土土器実測図3…… 188
第Ⅲ-257図 132ＳⅠ出土石器実測図1…… 189
第Ⅲ-258図 132ＳⅠ出土鉄器実測図…… 189
第Ⅲ-259図 132ＳⅠ出土石器実測図2…… 190
第Ⅲ-260図 145・126ＳⅠ平面・断面図…… 191
第Ⅲ-261図 126ＳⅠ出土土器実測図1…… 192
第Ⅲ-262図 126ＳⅠ出土土器実測図2…… 193
第Ⅲ-263図 126ＳⅠ出土石器実測図…… 194
第Ⅲ-264図 126ＳⅠ出土鉄器実測図…… 194
第Ⅲ-265図 103ＳⅠ出土土器実測図…… 195
第Ⅲ-266図 103ＳⅠ出土石器実測図…… 195
第Ⅲ-267図 1226ＳⅠ平面・断面図…… 196
第Ⅲ-268図 102ＳＸ遺物出土状況･炉平面･断面図‥‥ 196
第Ⅲ-269図 1226ＳⅠ・102ＳＸ出土土器実測図‥ 197
第Ⅲ-270図 102ＳＸ出土土器実測図2…… 198
第Ⅲ-271図 102ＳＸ出土鉄器実測図…… 198
第Ⅲ-272図 105･128･125･141Sl平面･断面図…… 199
第Ⅲ-273図 105ＳⅠ出土土器実測図…… 200
第Ⅲ-274図 128ＳⅠ出土土器実測図…… 201
第Ⅲ-275図 125ＳⅠ出土土器実測図…… 202

第Ⅲ-276図 141ＳＩ出土土器実測図…… 203
第Ⅲ-277図 155ＳＩ平面・断面図…… 205
第Ⅲ-278図 155ＳＩ出土土器実測図…… 205
第Ⅲ-279図 127･122SI･122SI内炉･SK01平面･断面図‥ 206
第Ⅲ-280図 122ＳＩ炭化材･遺物出土状況平面･断面図‥‥207
第Ⅲ-281図 127ＳＩ出土土器実測図…… 208
第Ⅲ-282図 127ＳＩ出土石器実測図…… 209
第Ⅲ-283図 122ＳＩ出土鉄器実測図…… 209
第Ⅲ-284図 158ＳＩ平面・断面図…… 209
第Ⅲ-285図 122ＳＩ出土土器実測図Ⅰ…… 210
第Ⅲ-286図 122ＳＩ出土土器実測図2…… 211
第Ⅲ-287図 122ＳＩ出土石器実測図…… 211
第Ⅲ-288図 113ＳＩ平面・断面図…… 212
第Ⅲ-289図 113ＳＩ内炉平面・断面図…… 212
第Ⅲ-290図 113ＳＩ出土石器実測図1…… 213
第Ⅲ-291図 113ＳＩ出土石器実測図2…… 214
第Ⅲ-292図 1174・124SI・SK01･炉平面・断面図‥‥ 215
第Ⅲ-293図 124ＳＩ出土土器実測図1…… 216
第Ⅲ-294図 124ＳＩ出土土器実測図2…… 217
第Ⅲ-295図 124ＳＩ出土石器実測図…… 218
第Ⅲ-296図 124ＳＩ出土鉄器実測図…… 218
第Ⅲ-297図 1174ＳＩ出土土器実測図…… 218
第Ⅲ-298図 1175ＳＩ平面・断面図…… 220
第Ⅲ-299図 1175ＳＩ出土土器実測図…… 220
第Ⅲ-300図 1194ＳＩ平面・断面図…… 221
第Ⅲ-301図 1194ＳＩ出土土器実測図…… 221
第Ⅲ-302図 1194ＳＩ内SK01･炉01･02平面･断面図‥ 222
第Ⅲ-303図 1194SI内SK02・03平面・断面図‥ 222
第Ⅲ-304図 1194ＳＩ出土石器実測図…… 223
第Ⅲ-305図 1192ＳＩ平面・断面図…… 224
第Ⅲ-306図 1192ＳＩ出土土器実測図…… 224
第Ⅲ-307図 1176ＳＩ平面・断面図…… 225
第Ⅲ-308図 1176ＳＩ出土土器実測図…… 225
第Ⅲ-309図 1191ＳＩ平面・断面図…… 226
第Ⅲ-310図 1191ＳＩ出土土器実測図…… 226
第Ⅲ-311図 153ＳＩ平面・断面図…… 226
第Ⅲ-312図 153ＳＩ出土土器実測図…… 226
第Ⅲ-313図 153ＳＩ出土石器実測図…… 226
第Ⅲ-314図 1209・1211・138ＳＩ平面・断面図‥‥ 227
第Ⅲ-315図 1209ＳＩ出土土器実測図…… 228
第Ⅲ-316図 1209ＳＩ出土石器実測図…… 228
第Ⅲ-317図 1211ＳＩ出土土器実測図…… 228
第Ⅲ-318図 138ＳＩ出土土器実測図1…… 229
第Ⅲ-319図 138ＳＩ出土土器実測図2…… 230
第Ⅲ-320図 1213ＳＩ平面・断面図…… 231
第Ⅲ-321図 1201ＳＩ平面・断面図…… 232
第Ⅲ-322図 1201ＳＩ出土土器実測図…… 232
第Ⅲ-323図 123ＳＩ平面・断面図…… 233
第Ⅲ-324図 123ＳＩ内炉･SK01～04平面･断面図‥‥ 234
第Ⅲ-325図 123SI内SK03･獣歯･獣骨床面出土状況…… 234
第Ⅲ-326図 123ＳＩ遺物出土状況及び範囲平面・断面図‥‥235
第Ⅲ-327図 123ＳＩ出土土器実測図1…… 236
第Ⅲ-328図 123ＳＩ出土土器実測図2…… 236
第Ⅲ-329図 123ＳＩ出土土器実測図3…… 237
第Ⅲ-330図 123ＳＩ出土土器実測図4…… 238
第Ⅲ-331図 123ＳＩ出土土器実測図5…… 239
第Ⅲ-332図 123ＳＩ出土土器実測図6…… 240
第Ⅲ-333図 123ＳＩ出土石器実測図1…… 241
第Ⅲ-334図 123ＳＩ出土石器実測図2…… 242
第Ⅲ-335図 1204・1198ＳＩ平面・断面図……243
第Ⅲ-336図 1198ＳＩ内SK01平面・断面図…… 243
第Ⅲ-337図 1195･1203･1208･1094SI平面･断面図‥ 244
第Ⅲ-338図 1195ＳＩ出土土器実測図…… 245
第Ⅲ-339図 1094ＳＩ出土土器実測図…… 245
第Ⅲ-340図 1208ＳＩ内SK01 平面･断面図…… 245
第Ⅲ-341図 1208ＳＩ出土土器実測図…… 245
第Ⅲ-342図 1196ＳＩ平面・断面図…… 247
第Ⅲ-343図 1196ＳＩ出土土器実測図…… 247
第Ⅲ-344図 1196ＳＩ内炉平面・断面図…… 247
第Ⅲ-345図 1172ＳＩ・炉平面・断面図…… 248
第Ⅲ-346図 1172ＳＩ出土土器実測図1…… 249
第Ⅲ-347図 1172ＳＩ出土土器実測図2…… 250
第Ⅲ-348図 1172ＳＩ出土石器実測図…… 250
第Ⅲ-349図 1172ＳＩ出土鉄器実測図…… 250
第Ⅲ-350図 1173ＳＩ出土石器実測図…… 250
第Ⅲ-351図 1173ＳＩ・炉平面・断面図…… 251
第Ⅲ-352図 1173ＳＩ出土土器実測図…… 252
第Ⅲ-353図 1202･1205･1178ＳＩ平面･断面図‥ 253
第Ⅲ-354図 1202ＳＩ出土土器実測図…… 253
第Ⅲ-355図 1205ＳＩ出土土器実測図…… 253
第Ⅲ-356図 1178ＳＩ出土土器実測図…… 254
第Ⅲ-357図 1205ＳＩ内SK01平面・断面図…… 254
第Ⅲ-358図 1105ＳＩ平面・断面図…… 255
第Ⅲ-359図 1105ＳＩ内炉・SK01平面･断面図‥‥ 255
第Ⅲ-360図 1105ＳＩ出土石器実測図…… 255
第Ⅲ-361図 1105ＳＩ出土土器実測図…… 256
第Ⅲ-362図 1190SI（第二面･三面)、炉･SK平面･断面図‥‥ 258
第Ⅲ-363図 1190SI(第一面) 平面・遺構断面図‥‥ 259
第Ⅲ-364図 1190SI(第一面･二面･三面)･1185SI平面･断面図‥ 260
第Ⅲ-365図 1190ＳＩ出土土器実測図…… 260
第Ⅲ-366図 1190SI(第一面)炭集中部分平面･断面図‥‥ 260
第Ⅲ-367図 1190ＳＩ出土石器実測図1…… 261
第Ⅲ-368図 1190ＳＩ出土石器実測図2…… 262
第Ⅲ-369図 1190ＳＩ出土鉄器実測図…… 262
第Ⅲ-370図 1185ＳＩ平面・断面図…… 263
第Ⅲ-371図 1185ＳＩ出土土器実測図…… 263

第Ⅲ-372図 1185ＳＩ内炉01・02平面・断面図‥ 264
第Ⅲ-373図 1185ＳＩ出土石器実測図‥‥‥‥ 265
第Ⅲ-374図 1095ＳＩ（第二面）平面・断面図‥‥ 266
第Ⅲ-375図 1095ＳＩ（第一面）平面・断面図‥‥ 266
第Ⅲ-376図 1095ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 267
第Ⅲ-377図 1095ＳＩ（第二面）出土石器実測図‥‥ 268
第Ⅲ-378図 1095ＳＩ（第一面）出土石器実測図1‥‥ 268
第Ⅲ-379図 1095ＳＩ（第一面）出土石器実測図2‥‥ 269
第Ⅲ-380図 1095(第一面･二面)･1167･1163ＳＩ平面･断面図‥ 269
第Ⅲ-381図 1167・1163ＳＩ平面・断面図‥‥ 270
第Ⅲ-382図 1167ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 270
第Ⅲ-383図 1163ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 270
第Ⅲ-384図 1167ＳＩ出土石器実測図‥‥‥‥ 270
第Ⅲ-385図 1169ＳＩ平面・断面図‥‥‥‥‥ 271
第Ⅲ-386図 1169ＳＩ内炉01・02平面・断面図‥ 271
第Ⅲ-387図 1169ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 271
第Ⅲ-388図 1100・1097ＳＩ平面・断面図‥‥ 272
第Ⅲ-389図 1100ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 273
第Ⅲ-390図 1097ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 273
第Ⅲ-391図 129ＳＩ（第三面）平面・断面図‥ 274
第Ⅲ-392図 129ＳＩ（第二面）平面・断面図‥ 275
第Ⅲ-393図 129ＳＩ(第二面)SK01～05･SX01平面･断面図‥276
第Ⅲ-394図 129ＳＩ（第一面）平面・断面図‥ 277
第Ⅲ-395図 129SI(第一面)内炉01～05･SK01平面･断面図‥ 278
第Ⅲ-396図 129ＳＩ出土鉄器実測図‥‥‥‥ 278
第Ⅲ-397図 129ＳＩ出土土器実測図1‥‥‥‥ 279
第Ⅲ-398図 129ＳＩ出土土器実測図2‥‥‥‥ 280
第Ⅲ-399図 129ＳＩ出土土器実測図3‥‥‥‥ 281
第Ⅲ-400図 129ＳＩ出土土器実測図4‥‥‥‥ 282
第Ⅲ-401図 129ＳＩ出土石器実測図1‥‥‥‥ 282
第Ⅲ-402図 129ＳＩ出土石器実測図2‥‥‥‥ 283
第Ⅲ-403図 1113ＳＩ(第二面)平面・断面図‥‥‥ 284
第Ⅲ-404図 1113ＳＩ(第一・二面)出土土器実測図‥‥ 284
第Ⅲ-405図 1113（第一面）・1088・1124・1218ＳＩ
平面・断面図‥‥‥ 285
第Ⅲ-406図 1088ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 286
第Ⅲ-407図 1124SI内SK01平面・断面図‥‥ 286
第Ⅲ-408図 1124ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 286
第Ⅲ-409図 1099・1101ＳＩ平面・断面図‥‥ 287
第Ⅲ-410図 1099ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 287
第Ⅲ-411図 1101ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 287
第Ⅲ-412図 1101ＳＩ出土石器実測図‥‥‥‥ 288
第Ⅲ-413図 1133・1103ＳＩ平面・断面図‥‥ 289
第Ⅲ-414図 1103ＳＩ内炉01・SK01平面・断面図‥‥290
第Ⅲ-415図 1103ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 290
第Ⅲ-416図 1133ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥ 290
第Ⅲ-417図 1133ＳＩ出土石器実測図‥‥‥‥ 291
第Ⅲ-418図 1103ＳＩ出土石器実測図‥‥‥‥ 291
第Ⅲ-419図 1215･1121･1160SI平面･断面図‥‥ 292
第Ⅲ-420図 1160ＳＩ内炉・SK01～03平面･断面図‥‥‥293
第Ⅲ-421図 1121ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 293
第Ⅲ-422図 1160ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 293
第Ⅲ-423図 1121ＳＩ出土石器実測図‥‥‥‥‥ 294
第Ⅲ-424図 1139･1119･1152ＳＩ平面･断面図‥ 295
第Ⅲ-425図 1152ＳＩ内SK01･炭集中部分平面･断面図‥‥ 296
第Ⅲ-426図 1119ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 296
第Ⅲ-427図 1152ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 296
第Ⅲ-428図 1200・1096ＳＩ平面・断面図‥‥‥ 297
第Ⅲ-429図 1096ＳＩ内SK01～03・炉01･02、
1200ＳＩ内炉･SK01平面･断面図‥‥ 298
第Ⅲ-430図 1200ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 299
第Ⅲ-431図 1096ＳＩ出土土器実測図1‥‥‥‥‥ 299
第Ⅲ-432図 1096ＳＩ出土土器実測図2‥‥‥‥‥ 300
第Ⅲ-433図 1096ＳＩ出土石器実測図1‥‥‥‥‥ 301
第Ⅲ-434図 1096ＳＩ出土石器実測図2‥‥‥‥‥ 302
第Ⅲ-435図 1096ＳＩ出土鉄器実測図‥‥‥‥‥ 302
第Ⅲ-436図 284ＳＩ平面・断面図‥‥‥‥‥‥ 303
第Ⅲ-437図 284ＳＩ内炉平面・断面図‥‥‥‥‥ 303
第Ⅲ-438図 284ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 303
第Ⅲ-439図 1206ＳＩ平面・断面図‥‥‥‥‥‥ 304
第Ⅲ-440図 1186・1182ＳＩ平面・断面図‥‥‥ 305
第Ⅲ-441図 1182SI内SK01･02､1186SI内SK01平面･断面図‥ 306
第Ⅲ-442図 1182ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 306
第Ⅲ-443図 1186ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 306
第Ⅲ-444図 1186ＳＩ出土鉄器実測図‥‥‥‥‥ 306
第Ⅲ-445図 1189・1179ＳＩ平面・断面図‥‥‥‥307
第Ⅲ-446図 1179ＳＩ内ＳＫ01～03､炉平面･断面図‥‥‥308
第Ⅲ-447図 1179ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 309
第Ⅲ-448図 1188・1183ＳＩ平面・断面図‥‥‥‥310
第Ⅲ-449図 1183ＳＩ内炉01･02､SK01平面･断面図‥ 310
第Ⅲ-450図 1183SI内集石平面・断面図‥‥‥‥‥ 311
第Ⅲ-451図 1188ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 311
第Ⅲ-452図 1183ＳＩ出土鉄器実測図‥‥‥‥‥ 311
第Ⅲ-453図 1183ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 311
第Ⅲ-454図 1147・1146ＳＩ平面・断面図‥‥‥ 312
第Ⅲ-455図 1146ＳＩ内炉01･02平面･断面図‥‥ 312
第Ⅲ-456図 1146ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 313
第Ⅲ-457図 1145ＳＩ平面・断面図‥‥‥‥‥‥ 313
第Ⅲ-458図 1145ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 313
第Ⅲ-459図 1143ＳＩ・SK01平面・断面図‥‥‥ 315
第Ⅲ-460図 1157･1158･1219ＳＩ平面･断面図‥ 316
第Ⅲ-461図 1157ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 316
第Ⅲ-462図 1158ＳＩ出土土器実測図‥‥‥‥‥ 316
第Ⅲ-463図 1148･1162ＳＩ･SK平面･断面図‥‥ 317
第Ⅲ-464図 1089ＳＩ平面・断面図‥‥‥‥‥‥ 318
第Ⅲ-465図 279ＳＸ（Pit群）平面・断面図‥‥‥ 318

第Ⅲ-466図 279ＳＸ出土土器実測図…… 318
第Ⅲ-467図 No.82調査区第三次検出遺構配置図‥ 320
第Ⅲ-468図 19ＳＩ平面・断面図……320
第Ⅲ-469図 19ＳＩ出土土器実測図……320
第Ⅲ-470図 14ＳＩ平面・断面図……321
第Ⅲ-471図 14ＳＩ内炉01・02平面・断面図…… 321
第Ⅲ-472図 14ＳＩ出土土器実測図……322
第Ⅲ-473図 13ＳＩ平面・断面図……323
第Ⅲ-474図 13ＳＩ出土土器実測図……323
第Ⅲ-475図 13ＳＩ内SK01平面・断面図……324
第Ⅲ-476図 02ＳＩ平面・断面図……324
第Ⅲ-477図 02ＳＩ出土土器実測図……324
第Ⅲ-478図 No.82調査区第二次検出遺構配置図……324
第Ⅲ-479図 08・07・01ＳＩ平面・断面図…… 325
第Ⅲ-480図 08ＳＩ出土土器実測図……326
第Ⅲ-481図 01ＳＩ出土土器実測図……326
第Ⅲ-482図 07ＳＩ出土土器実測図……326
第Ⅲ-483図 03ＳＩ平面・断面図……326
第Ⅲ-484図 03ＳＩ出土土器実測図……327
第Ⅲ-485図 05ＳＩ平面・断面図……327
第Ⅲ-486図 05ＳＩ出土土器実測図……328
第Ⅲ-487図 東西水路調査区第二次検出遺構配置図‥329
第Ⅲ-488図 23ＳＩ平面・断面図……329
第Ⅲ-489図 23ＳＩ出土土器実測図……329
第Ⅲ-490図 27・25ＳＩ平面・断面図…… 330
第Ⅲ-491図 25ＳＩ出土土器実測図……330
第Ⅲ-492図 33ＳＩ平面・断面図……330
第Ⅲ-493図 33ＳＩ出土土器実測図……330
第Ⅲ-494図 35ＳＩ・36ＳＸ平面・断面図…… 331
第Ⅲ-495図 36ＳＸ出土土器実測図……331
第Ⅲ-496図 32・04・34ＳＩ平面・断面図…… 332
第Ⅲ-497図 34SI内炉平面・断面図……332
第Ⅲ-498図 04ＳＩ出土土器実測図……332
第Ⅲ-499図 32ＳＩ出土土器実測図……333
第Ⅲ-500図 34ＳＩ出土土器実測図……333
第Ⅲ-501図 東西水路調査区第一次検出遺構配置図‥333
第Ⅲ-502図 29・15・12・28・19ＳＩ平面・断面図‥ 334
第Ⅲ-503図 15ＳＩ出土土器実測図……334
第Ⅲ-504図 19ＳＩ出土土器実測図……334
第Ⅲ-505図 12ＳＩ出土土器実測図……334
第Ⅲ-506図 11ＳＩ平面・断面図……335
第Ⅲ-507図 11ＳＩ出土土器実測図……335
第Ⅲ-508図 11ＳＩ出土鉄器実測図……335
第Ⅲ-509図 24ＳＩ平面・断面図……335
第Ⅲ-510図 24ＳＩ出土土器実測図……335
第Ⅲ-511図 21・20・13・14ＳＩ平面・断面図……336
第Ⅲ-512図 20ＳＩ出土土器実測図……336
第Ⅲ-513図 13ＳＩ出土土器実測図……336
第Ⅲ-514図 14ＳＩ出土土器実測図……337
第Ⅲ-515図 08・01ＳＩ平面・断面図…… 338
第Ⅲ-516図 08ＳＩ出土土器実測図……338
第Ⅲ-517図 01ＳＩ出土土器実測図……338
第Ⅲ-518図 07ＳＩ平面・断面図……339
第Ⅲ-519図 07ＳＩ出土土器実測図……339
第Ⅲ-520図 02・03ＳＩ平面・断面図…… 340
第Ⅲ-521図 02ＳＩ出土土器実測図……340
第Ⅲ-522図 03ＳＩ出土土器実測図……340
第Ⅲ-523図 06ＳＩ平面・断面図……341
第Ⅲ-524図 06ＳＩ内炉平面・断面図……341
第Ⅲ-525図 06ＳＩ出土土器実測図……341
第Ⅲ-526図 05ＳＩ平面・断面図……342
第Ⅲ-527図 05ＳＩ炭化材出土状況平面・断面図‥ 342
第Ⅲ-528図 05ＳＩ出土土器実測図……342
第Ⅲ-529図 05ＳＩ出土鉄器実測図……342
第Ⅲ-530図 2区屋外土坑配置図…… 344
第Ⅲ-531図 屋外土坑1(1234・1233・1033・1036・1070・1224・211SK)平面・断面図・配置図……345
第Ⅲ-532図 1033SK・1036SK・1070SK・1224SK出土土器実測図…… 346
第Ⅲ-533図 1036SK出土鉄器実測図…… 346
第Ⅲ-534図 屋外土坑10（171SK・170SX）平面・断面図・配置図…… 347
第Ⅲ-535図 170ＳＸ遺物出土状況平面・断面図…… 347
第Ⅲ-536図 170ＳＸ出土土器実測図…… 347
第Ⅲ-537図 171ＳＫ出土土器実測図…… 347
第Ⅲ-538図 屋外土坑2(244・218・291SX、1042・1006・1053SK)平面・断面図・配置図…… 348
第Ⅲ-539図 218ＳＸ出土土器実測図…… 349
第Ⅲ-540図 218ＳＸ出土鉄器実測図…… 349
第Ⅲ-541図 1006ＳＫ出土土器実測図…… 350
第Ⅲ-542図 244ＳＸ出土石器実測図…… 351
第Ⅲ-543図 291ＳＸ出土土器実測図…… 351
第Ⅲ-544図 291ＳＸ出土石器実測図…… 351
第Ⅲ-545図 屋外土坑3(1027・1026・1021・1023SK)(228SX)平面・断面図……352
第Ⅲ-546図 屋外土坑3配置図…… 352
第Ⅲ-547図 1027SK出土土器実測図…… 352
第Ⅲ-548図 1026SK出土土器実測図…… 353
第Ⅲ-549図 1026SK出土石器実測図…… 353
第Ⅲ-550図 1021SK出土土器実測図…… 353
第Ⅲ-551図 1023SK出土土器実測図…… 353
第Ⅲ-552図 屋外土坑4（1028SK・226SX）平面・断面図・配置図…… 354
第Ⅲ-553図 226ＳＸ出土土器実測図…… 354
第Ⅲ-554図 屋外土坑5(227SX、273・1001SK)平面・断面図・配置図…… 355

第Ⅲ-555図 227ＳＸ出土土器実測図１…… 356
第Ⅲ-556図 227ＳＸ出土土器実測図２…… 357
第Ⅲ-557図 1001ＳＫ出土土器実測図…… 357
第Ⅲ-558図 227ＳＫ出土石器実測図…… 357
第Ⅲ-559図 273ＳＫ出土土器実測図…… 357
第Ⅲ-560図 屋外土坑６（1012・1066・1062・1063・1054・1051SK）平面・断面図…… 358
第Ⅲ-561図 屋外土坑６配置図…… 358
第Ⅲ-562図 屋外土坑７(249SX・1041・1037・134・139・146・147SK）平面・断面図・配置図…… 361
第Ⅲ-563図 249ＳＸ出土土器実測図…… 362
第Ⅲ-564図 249ＳＸ出土石器実測図…… 362
第Ⅲ-565図 134ＳＫ出土土器実測図…… 363
第Ⅲ-566図 134ＳＫ出土石器実測図…… 364
第Ⅲ-567図 139ＳＫ出土土器実測図…… 364
第Ⅲ-568図 139ＳＫ出土石器実測図…… 364
第Ⅲ-569図 屋外土坑８（1232・1223・1228・1217・1085・1212・1106・1161・1141・1187・1199SK）平面・断面図・配置図……365
第Ⅲ-570図 1106・1217・1141・1212・1187ＳＫ出土土器実測図…… 366
第Ⅲ-571図 屋外土坑９（1114SX・1156・1149・1225・1140・1170SK）平面・断面図・配置図…… 367
第Ⅲ-572図 1114SX・1156・1149SK出土土器実測図…368
第Ⅲ-573図 1140ＳＫ出土石器実測図…… 368
第Ⅲ-574図 1091ＳＸ（①一面・②二面）平面・断面図・配置図…369
第Ⅲ-575図 No.82調査区屋外土坑　配置図…… 371
第Ⅲ-576図 12SX・10SK・11SK・20SK・06SX・21SK平面・断面図…… 372
第Ⅲ-577図 04ＳＸ平面・断面図……372
第Ⅲ-578図 12SX・10SK・11SK・04SX出土土器実測図…372
第Ⅲ-579図 ２区屋外炉配置図…… 374
第Ⅲ-580図 屋外炉１（239・252・251・250・137・136・1111・1184SX）平面・断面図・配置図…375
第Ⅲ-581図 239・251・137・136・1111・1184ＳＸ出土土器実測図…… 376
第Ⅲ-582図 251ＳＸ出土石器実測図…… 376
第Ⅲ-583図 屋外炉２（135・1237・1110SX）平面・断面図・配置図…… 378
第Ⅲ-584図 1237・1110ＳＸ出土土器実測図…… 378
第Ⅲ-585図 屋外炉３（1055・264・1034・191・1016・222・256・1229SX）平面・断面図・配置図…379
第Ⅲ-586図 264・1016・191ＳＸ出土土器実測図…… 380
第Ⅲ-587図 1086ＳＸ平面・断面図・配置図…380
第Ⅲ-588図 梅ノ木遺跡 弥生時代遺構配置図…381
第Ⅲ-589図 ２区土器棺墓配置図…… 382
第Ⅲ-590図 230ＳＸ平面・断面図…… 382
第Ⅲ-591図 230ＳＸ（壷棺）実測図１…… 383
第Ⅲ-592図 230ＳＸ出土土器実測図２…… 383
第Ⅲ-593図 208ＳＸ平面・断面図…… 384
第Ⅲ-594図 208ＳＸ（甕棺）実測図１…… 384
第Ⅲ-595図 208ＳＸ出土土器実測図２…… 384
第Ⅲ-596図 229ＳＸ平面・断面図…… 385
第Ⅲ-597図 229ＳＸ（壷棺）実測図１…… 386
第Ⅲ-598図 229ＳＸ出土土器実測図２…… 386
第Ⅲ-599図 228ＳＸ平面・断面図…… 387
第Ⅲ-600図 228ＳＸ見通し平面・断面図…… 387
第Ⅲ-601図 228ＳＸ（鉢・壷棺）実測図１…… 388
第Ⅲ-602図 228ＳＸ出土土器実測図２…… 389
第Ⅲ-603図 289ＳＸ平面・断面図…… 390
第Ⅲ-604図 289ＳＸ見通し平面・断面図…… 390
第Ⅲ-605図 289ＳＸ（甕棺・壷棺）実測図１…391
第Ⅲ-606図 289ＳＸ出土土器実測図２…… 392
第Ⅲ-607図 1129ＳＸ平面・断面図…… 393
第Ⅲ-608図 1150SX平面・断面図、見通し平面・断面図…393
第Ⅲ-609図 1129ＳＸ甕棺据石(1・2)、基底石(3)実測図…394
第Ⅲ-610図 1129ＳＸ（胴丸甕棺）実測図…… 395
第Ⅲ-611図 1150ＳＸ甕棺基底石実測図…… 395
第Ⅲ-612図 1150ＳＸ（壷棺）実測図…… 396
第Ⅲ-613図 1154ＳＸ平面・断面図…… 397
第Ⅲ-614図 1154ＳＸ平面、見通し平面・見通し断面図…397
第Ⅲ-615図 1154ＳＸ（胴丸甕棺）実測図…… 398
第Ⅲ-616図 1075ＳＸ平面・断面図、見通し平面・断面図…399
第Ⅲ-617図 1131ＳＸ平面・断面図、見通し平面・断面図…399
第Ⅲ-618図 1075ＳＸ（胴丸甕棺）実測図１…400
第Ⅲ-619図 1075ＳＸ出土土器実測図２…… 400
第Ⅲ-620図 1131ＳＸ（胴丸甕棺）実測図１…401
第Ⅲ-621図 1131ＳＸ出土土器実測図２…… 401
第Ⅲ-622図 1083ＳＸ平面・断面図…… 402
第Ⅲ-623図 1076ＳＸ平面・断面図…… 402
第Ⅲ-624図 1084ＳＸ平面・断面図…… 402
第Ⅲ-625図 1083ＳＸ（甕棺）実測図…… 403
第Ⅲ-626図 1076ＳＸ出土土器実測図２…… 403
第Ⅲ-627図 1076ＳＸ（胴丸甕棺）実測図１…404
第Ⅲ-628図 1084ＳＸ（壷棺）実測図…… 405
第Ⅲ-629図 1108ＳＸ平面・断面図…… 407
第Ⅲ-630図 1108ＳＸ（壷棺）実測図…… 407
第Ⅲ-631図 1081ＳＸ平面・断面図…… 408
第Ⅲ-632図 1081ＳＸ（壷棺）実測図…… 408
第Ⅲ-633図 1082ＳＸ平面・断面図…… 409
第Ⅲ-634図 1082ＳＸ（壷棺）実測図…… 409
第Ⅲ-635図 1082ＳＸ見通し平面・断面図…… 410
第Ⅲ-636図 1080ＳＸ見通し平面・断面図…… 411
第Ⅲ-637図 1080ＳＸ平面・断面図…… 412
第Ⅲ-638図 1080ＳＸ（甕棺）実測図…… 412
第Ⅲ-639図 1078ＳＸ平面・断面図、見通し平面・断面図…413

第Ⅲ-640図 1078ＳＸ平面・断面図…… 413
第Ⅲ-641図 1078ＳＸ（甕棺）実測図…… 414
第Ⅲ-642図 1079ＳＸ平面・断面図…… 415
第Ⅲ-643図 1079ＳＸ（甕棺）実測図…… 416
第Ⅲ-644図 1077ＳＸ平面・断面図、見通し平面・断面図‥ 417
第Ⅲ-645図 1077ＳＸ（壷棺）実測図１…… 418
第Ⅲ-646図 1077ＳＸ（壷棺）実測図２（俯瞰）…… 419
第Ⅲ-647図 1077ＳＸ（壷棺）実測図３…… 420
第Ⅲ-648図 1077ＳＸ壷棺基底石実測図…… 420
第Ⅲ-649図 1210ＳＸ（胴丸甕棺）実測図…… 421
第Ⅲ-650図 1238ＳＸ平面・断面図…… 422
第Ⅲ-651図 1238ＳＸ見通し平面・断面図…… 423
第Ⅲ-652図 1238ＳＸ（甕棺）実測図…… 424
第Ⅲ-653図 1239ＳＸ平面・断面図…… 425
第Ⅲ-654図 1239ＳＸ（壷棺）実測図…… 426
第Ⅲ-655図 新No.61調査区土器棺墓位置図…… 427
第Ⅲ-656図 新No.61調査区04ＳＸ平面・断面図‥ 427
第Ⅲ-657図 04ＳＸ（胴丸甕棺）実測図…… 428
第Ⅲ-658図 04ＳＸ出土土器実測図…… 428
第Ⅲ-659図 ２区木棺墓・土壙墓配置図…… 429
第Ⅲ-660図 287ＳＸ平面・断面図…… 429
第Ⅲ-661図 1135ＳＸ出土土器実測図…… 429
第Ⅲ-662図 1135ＳＸ平面・断面図…… 430
第Ⅲ-663図 1136ＳＸ平面・断面図(上)、見通し断面図(下)‥ 431
第Ⅲ-664図 1136ＳＸ出土土器実測図…… 431
第Ⅲ-665図 1137ＳＸ平面・見通し断面図…… 432
第Ⅲ-666図 1153ＳＸ出土土器実測図…… 432
第Ⅲ-667図 1153ＳＸ平面・断面・見通し断面図‥ 433
第Ⅲ-668図 東西水路調査区木棺墓配置図…… 434
第Ⅲ-669図 16・17ＳＸ平面・断面図…… 434
第Ⅲ-670図 16ＳＸ出土土器実測図…… 435
第Ⅲ-671図 17ＳＸ出土土器実測図…… 435
第Ⅲ-672図 新No.61調査区遺構配置図…… 436
第Ⅲ-673図 新No.61調査区出土土器実測図…… 436
第Ⅲ-674図 85・41・44・53・87・78・43ＳＸ
平面・断面図…… 437
第Ⅲ-675図 30・33・83・81・17・80・29ＳＸ
平面・断面図…… 438
第Ⅲ-676図 28・50・38・16・95ＳＸ平面・断面図‥ 439
第Ⅲ-677図 13・56ＳＸ平面・断面図…… 440
第Ⅲ-678図 24・26・25・12・88・27ＳＸ平面・断面図‥ 441
第Ⅲ-679図 63・47・23ＳＸ平面・断面図…… 442
第Ⅲ-680図 46・19・36・14ＳＸ平面・断面図‥ 443
第Ⅲ-681図 58・51・57・10・86・62ＳＸ
平面・断面図…… 444
第Ⅲ-682図 70・45・49・92・39・93ＳＸ
平面・断面図…… 445
第Ⅲ-683図 60・89・90・05・73ＳＸ平面・断面図‥ 446
第Ⅲ-684図 75・76・74・72・71・40・09ＳＸ
平面・断面図…… 447
第Ⅲ-685図 06・08ＳＫ・55ＳＸ平面・断面図…… 448
第Ⅲ-686図 55・07・52ＳＸ平面・断面図…… 449
第Ⅲ-687図 84・77・96ＳＫ平面・断面図…… 450
第Ⅲ-688図 仮No.61調査区遺構配置図、07・09ＳＸ
03・01・06・10・05ＳＫ平面・断面図‥ 452
第Ⅲ-689図 ２区グリット分割図…… 454
第Ⅲ-690図 ２区遺物包含層出土夜臼式～板付式土器実測図‥ 454
第Ⅲ-691図 ２区遺物包含層出土弥生土器実測図…… 456
第Ⅲ-692図 東西水路Ｅ地区出土土器実測図…… 457
第Ⅲ-693図 東西水路調査区撹乱出土顔料土器実測図‥ 457
第Ⅲ-694図 ２区遺物包含層出土石器実測図１‥ 458
第Ⅲ-695図 ２区遺物包含層出土石器実測図２‥ 459
第Ⅲ-696図 ２区遺物包含層出土石器実測図３‥ 460
第Ⅲ-697図 ２区遺物包含層出土石器実測図４‥ 461
第Ⅲ-698図 ２区遺物包含層出土石器実測図５‥ 462
第Ⅲ-699図 ２区遺物包含層出土石器実測図６‥ 463
第Ⅲ-700図 ２区遺物包含層出土石器実測図７‥ 464
第Ⅲ-701図 ２区遺物包含層出土石器実測図８‥ 465
第Ⅲ-702図 ２区遺物包含層出土石器実測図９‥ 465
第Ⅲ-703図 ２区遺物包含層出土石器実測図10‥ 465
第Ⅲ-704図 ２区撹乱出土石器実測図１…… 466
第Ⅲ-705図 ２区撹乱出土石器実測図２…… 467
第Ⅲ-706図 ２区撹乱出土石器実測図３…… 468
第Ⅲ-707図 ２区遺物包含層出土鉄器実測図１‥ 470
第Ⅲ-708図 ２区遺物包含層出土鉄器実測図２‥ 471
第Ⅲ-709図 ２区撹乱出土鉄器実測図１…… 471
第Ⅲ-710図 ２区撹乱出土鉄器実測図２…… 472
第Ⅲ-711図 No.82調査区遺物包含層出土鉄器実測図‥ 472
第Ⅲ-712図 東西水路調査区遺物包含層出土鉄器実測図‥ 472
第Ⅲ-713図 １・４区弥生土器（Ｙ）出土分布図…… 473
第Ⅲ-714図 ４区イ地区出土弥生土器実測図…… 474
第Ⅲ-715図 ４区ロ地区出土弥生土器実測図…… 474
第Ⅲ-716図 １区ニ地区出土弥生土器実測図…… 474
第Ⅲ-717図 １区ホ地区出土弥生土器実測図…… 475
第Ⅲ-718図 １区ヘ地区出土弥生土器実測図１‥ 475
第Ⅲ-719図 １区ヘ地区出土弥生土器実測図２‥ 476
第Ⅲ-720図 １区ト地区出土弥生土器実測図…… 477
第Ⅲ-721図 １区チ地区出土弥生土器実測図…… 478
第Ⅲ-722図 １・４区用水路出土弥生土器実測図１‥ 478
第Ⅲ-723図 １・４区用水路出土弥生土器実測図２‥ 479
第Ⅲ-724図 １・４区用水路出土弥生土器実測図３‥ 480
第Ⅲ-725図 １・４区用水路出土弥生土器実測図４‥ 481
第Ⅲ-726図 １・４区用水路出土弥生土器実測図５‥ 482
第Ⅲ-727図 ４区出土鉄器実測図…… 483
第Ⅲ-728図 １区出土鉄器実測図２…… 483
第Ⅲ-729図 １区出土鉄器実測図１…… 484

第Ⅰ章　調査の経過と方法

第１節　調査に至る経緯

平成11（1999）年度開催のくまもと未来国体にあたり、熊本市平山町に所在する熊本県立総合運動公園が主会場に選定されるとともに、該地にアクセスする道路網の整備が計画された。熊本県教育庁文化課は、土木部道路建設課との協議に基づき、平成６年度から計画路線の踏査を行い、平成７年度から周知の遺跡を中心に試掘・確認調査を実施した。本報告する調査部分は、平成７年度11月15・16日、平成８年４月10・11日の２次にわたり確認調査を実施した部分で、県道益城菊陽線道路新設工事部分である。

昭和57（1982）年度県営ほ場整備事業に伴い発掘調査（本調査）が行われ、弥生時代の竪穴住居27軒、土器棺墓４基、支石墓２基等の他、平安時代の竪穴住居４軒などを検出している。その隣接地であり、弥生時代の住居跡や甕棺群の存在が予想された。また、過去の調査では、ほ場整備工事中に７基以上の土器棺と推定される土器が出土した。

今回の調査は、弥生時代の集落の広がりと土器棺墓の分布が注目されることになった。

第２節　調査の組織

調査主体　熊本県教育委員会

［発掘調査、平成８年度］

調査責任者　桑山裕好（文化課長）

調査総括　島津義昭（主幹兼文化財調査第１係長）

調査担当　木村元浩（主任学芸員）、亀田　学（学芸員）、戸田清恵（嘱託）、安達武敏（嘱託）

［発掘調査・報告書作成、平成９年度］

調査責任者　豊田貞二（文化課長）

調査総括　松本健郎（主幹兼文化財調査第１係長）

調査担当　亀田　学（学芸員）、戸田清恵（嘱託）、後藤貴美子（文化財保護主事）、矢野布美子（嘱託）

調査指導　武末純一（福岡大学教授）、村上恭通（愛媛大学助教授）、西健一郎（九州大学助手）、大澤正巳（新日鐵テクノリサーチ）

［発掘調査・報告書作成、平成10年度］

調査責任者　豊田貞二（首席教育審議員兼文化課長）

調査総括　松本健郎（主幹兼文化財調査第１係長）

調査担当　亀田　学（学芸員）、後藤貴美子（文化財保護主事）、矢野布美子（嘱託）、濱田智美（嘱託）

調査指導　武末純一（福岡大学教授）、中園　聡

［発掘調査・報告書作成、平成11年度］

調査責任者　豊田貞二（首席教育審議員兼文化課長）、島津義昭（課長補佐）

調査総括　江本　直（主幹兼文化財調査第２係長）

調査担当　亀田　学（主任学芸員）、前川真由美（嘱託）、山下直哉（嘱託）

調査指導　松本幡郎（元熊本大学教授）、石橋新次（鳥栖市教育委員会）、佐藤伸二（八代高専教授）

この他、甲元眞之（熊本大学教授）、小畑弘巳（熊本大学助教授）小田富士雄（福岡大学教授）、岡本勇人（菊陽町教育委員会）、大久保浩二（鹿児島県立埋蔵文化財センター）の諸氏から御指導を賜った。

第３節　調査の経過及び協議・保存措置

確認調査の結果を受けて、本調査を平成８年５月20日から実施した。１区の水路の付け替え部分の工事が急を要するということから１区から調査を実施した。１区調査完了後、２区は国体道路建設事務所と協議のうえ、工事部分の急を要する部分から実施した。

２区は、本調査を進めると確認調査で予測した遺構の密度を大幅に超えた。そのため、２度にわたり、道路建設課と協議をおこない、調査期間及び予算措置の協力をお願いした。

平成８（1996年）年度は、１・４区及び２区の西側約2/3を完了し、残りの主要部分を平成９年度12月まで調査を実施した。それと一部併行して、道路建設に付帯する九州電力鉄塔建設に伴う調査(No.82区・新No.61区、仮No.61区)を平成９（1997）年11月末から平成10（1998）年３月末まで実施した。

平成11（1999）年度には道路周辺整備に伴う東西に走る水路部分建設に伴う調査（東西水路調査区）を平成11（1999）年７月下旬から８月上旬まで調査を実施した。

調査期間中の平成８年度には、発掘調査区の隣接地で道路建設工事中に土器棺が２基発見され、緊急に調査を行った。その周辺部にも土器棺が分布する可能性が高いため、再確認調査の協議を行った。その結果、平成９（1997）年２月17日～18日まで再試掘を実施し、遺跡が残存する部分の範囲を確定した。再度協議を実施し、平成10年度以降に本調査を実施することになり、土器棺等も検出したまま簡易に埋め戻した。

平成10年度になり、再協議のうえ、再確認調査部分が今後、道路及び周辺整備事業により埋蔵文化財に影響が及ばないことが確定した。そのため、調査区を再掘削し、土器棺検出部分を中心に山砂で埋め戻し、遺構面を養生したうえ、埋め戻しを実施し、現地保存を行った。

第４節　調査の方法

原則的に、遺物の取り上げグリッド（区画）については、国土座標第Ⅱ系を基準とし、５ｍを基本単位に設定した。設定したグリッドの名称は、次の様に取り決めた。まず、10ｍグリッドは、国土座標第Ⅱ系を基準としてＸ・Ｙ座標の下２桁を下２桁目からＸ・Ｙの順に交互に数字を並べ４桁の数字で表記した。また、その10ｍグリッドを４分割し、左上をａとし、時計回りにｂ・ｃ・ｄと名付けて５ｍグリッドとした。但し、１区については、調査区に沿う形になり統一されていない。

調査区ごとの基本的調査方法は、以下のとおりである。

１・４区については、近世～近代の耕作遺構により、縄文時代の遺構面まで削平されていたことにより、表土層を重機で掘削した後、耕作遺構及び削平されたピット及び土坑を検出した。その調査後、土器棺と下層の縄文時代の遺構の検出を目的に適宜トレンチを設定した。その結果、１区南側のＶ層中に縄文土器を検出したため、幅約４ｍ、長さ約９ｍの範囲に調査区を広げた。その結果、縄文時代の集石を検出した。

２区については、２ｂ層まで重機で掘削し、２ｂ層で一部の遺構を検出し、大多数の遺構を３層上面で検出した。

遺物包含層 の取り上げを５ｍグリッド、住居内の遺物は、原位置を保っている遺物以外は、セクション設定位置をもとに４区画で取り上げを行い調査を実施した。

住居跡の重複がある場合は、その重複関係が断面で確認できる様に、セクションベルトを残した。かなりの数の重複関係に及んだため、１回目の遺構検出は、セクションベルトの残す位置を設定するために行う形になった。セクションベルトの横にトレンチを設定し、断面で確認後、原則的に新しい住居跡から掘削した。

遺構実測は、原則として国土座標第Ⅱ系を基準として実測した。１・４区については、遺構配置図を1/100・断面図を1/20で実測を実施した。２区他については、遺構配置図を1/100を原則とし、平・断面図については、1/20を基本とし、遺物出土状況は、1/10及び1/5等で実測を行った。

第II章　環境

梅ノ木遺跡は、熊本県菊池郡菊陽町津久礼に所在する。熊本県の中央部に位置し、熊本市東部に隣接する。津久礼は、上・下に分けられており、下津久礼に所在する。

南阿蘇の南郷谷に水源を持つ白川の中流域の右岸に所在する。熊本市内に向けてちょうど、蛇行する箇所に当たり、最近まで台風等の雨に伴い白川の水位が上がり、土砂の堆積が顕著なところであり、現在河川改修も計画されている。白川が蛇行する直前は直線的に付け替えており、以前はもう少し南側の熊本市鹿帰瀬地区の方に入り組んで流れていた。

遺跡が位置するのは白川及び支流の氾濫原及び、後背湿地である。遺跡の現況は、水田及び畑として利用されていた。

北側は、合志町から伸びる台地に接し、遺跡の範囲を限定している。台地の下に用水路を掘削しており、遺跡の北側にも水の流れが想定できた。

今回の調査で確認できた遺跡の時期は、縄文時代前期末から中期初め、後期・晩期、弥生時代早期・前期～後期中葉、古代・近世～近代である。

また、遺構は検出できなかったが、中世の遺物も出土している。

周辺で、発掘調査が行われているのは、梅ノ木遺跡の東方700～800ｍの六地蔵遺跡、北方の河岸段丘上の駄飼代遺跡、左岸では、縄文時代後・晩期（黒色磨研土器期）は、左岸の段丘上（上中原遺跡等）に竪穴住居が検出されている。石の本遺跡では、竪穴住居跡80基以上、土器埋設遺構30基以上検出されている。

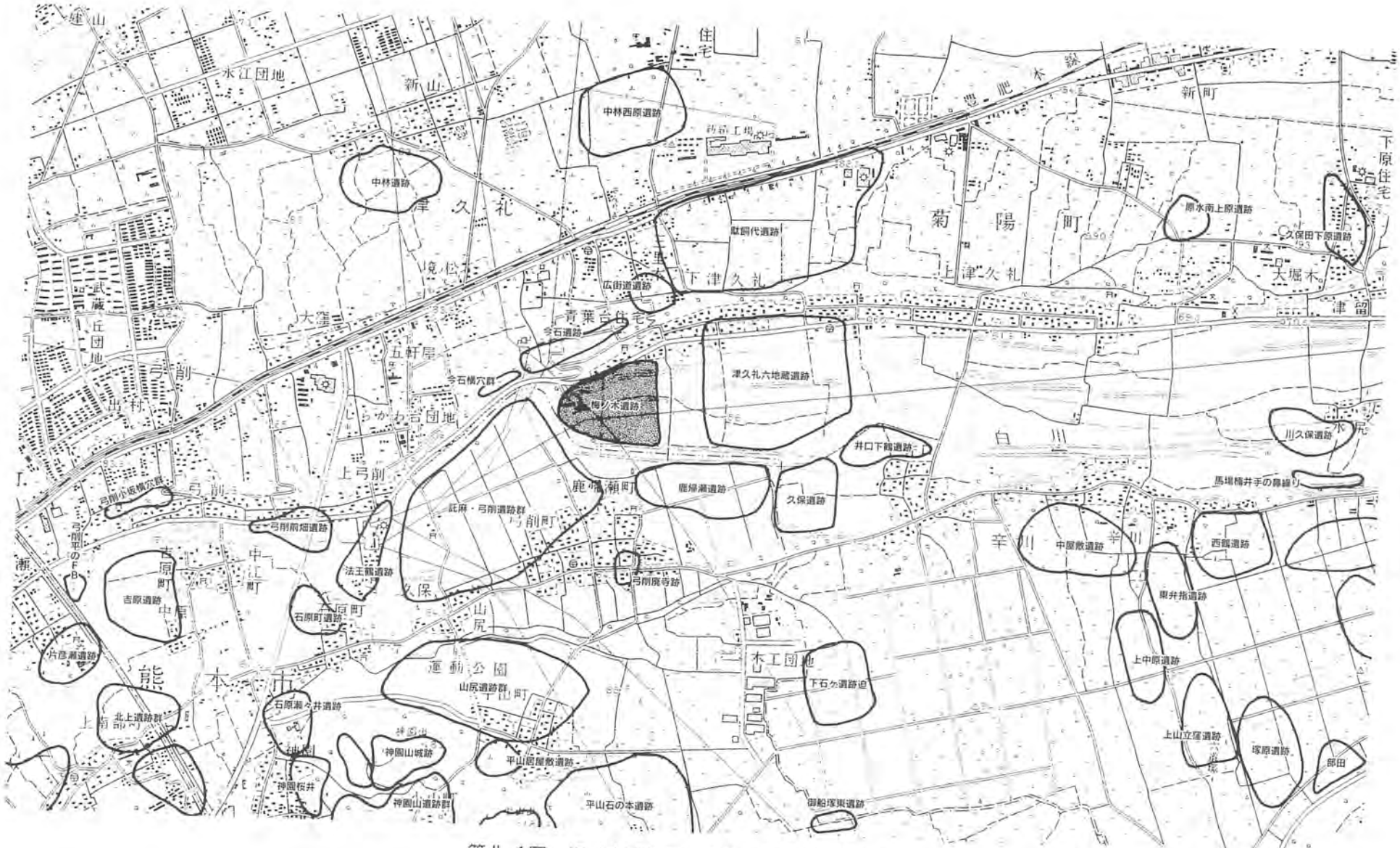
また、弥生時代中期初め、後期前半の集落が密集して検出された山尻遺跡が位置している。左岸の氾濫原及び自然堤防上では、鹿帰瀬遺跡、託麻・弓削遺跡群等で縄文時代後・晩期の土器が表採できる。

弥生時代の遺跡は、六地蔵遺跡で土器棺が３基検出されている。また、検出段階で埋め戻して現地保存しており詳細は不明であるが、弥生時代中期から後期の住居跡が200軒以上を数えると推定されている。梅ノ木遺跡周辺が、長期間にわたり、弥生時代の集落が営まれていることが判明している。

左岸には、弥生時代中期前半の住居群及び後期前葉から中葉の住居が多数検出されている山尻遺跡群や後期後半には、今回九電の鉄塔建設に伴う調査で、竪穴住居群（８軒）が検出された鹿帰瀬遺跡がある。

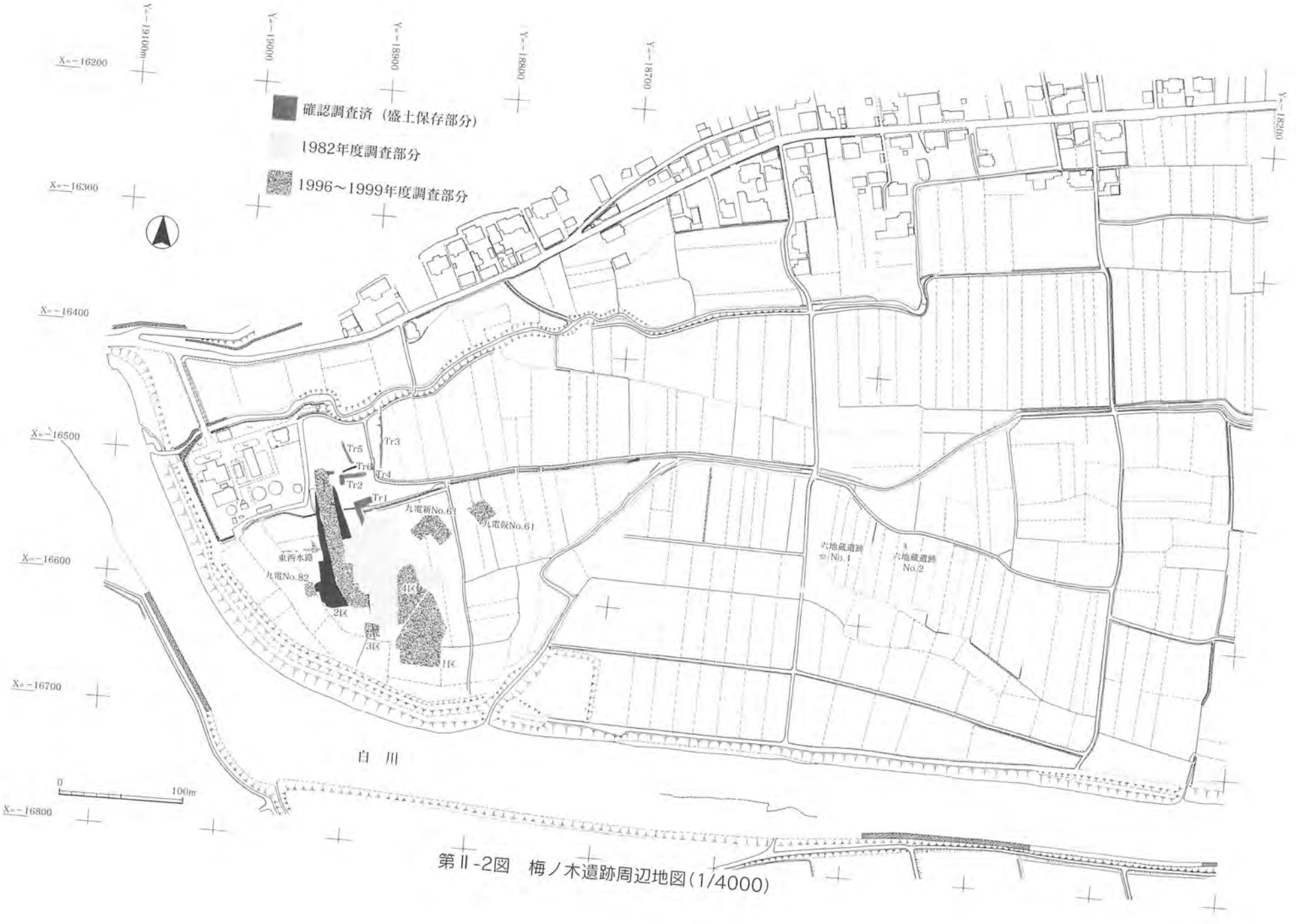
古代の遺跡は、右岸に六地蔵遺跡、左岸に楠の木遺跡が発掘されている。楠の木遺跡では、掘立柱建物群が検出されており、倉庫や官衙等の可能性を指摘されている。

中～近世は、六地蔵遺跡で溝状遺構や竪穴状遺構が検出されている。また、中世後期には、今石城や砦の伝承、また、現在の下津久礼集落以前は現在よりやや川沿いの今の六地蔵遺跡の付近に集落が存在したらしい。



第Ⅱ-1図　梅ノ木遺跡周辺遺跡分布図(1/25000)

0　1,000m



第Ⅱ-2図　梅ノ木遺跡周辺地図(1/4000)

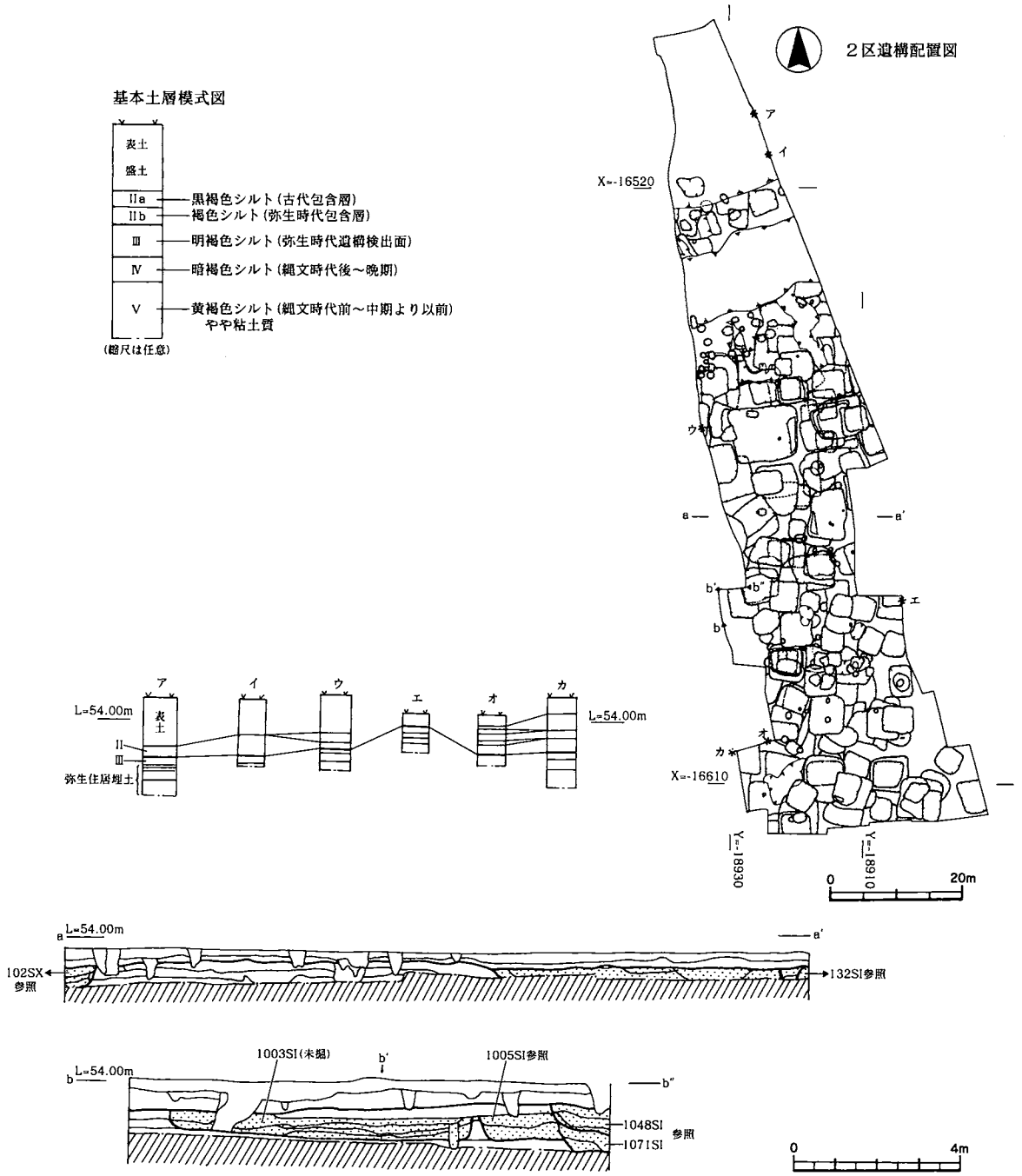
第Ⅲ章　調査の成果

第１節　層序（第Ⅲ -1 図）

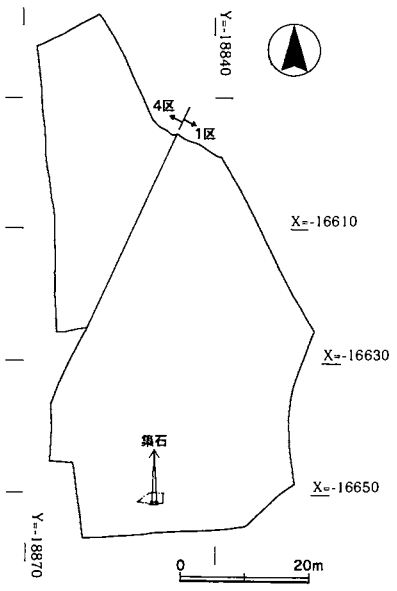
調査区の基本層序を追うのは、困難である。なぜならば、ほ場整備のため削平を受けている箇所が多いことと白川及びその支流の氾濫によって堆積した土壌によって形成されるためである。さらに、２区では、弥生時代の竪穴住居が、検出面の高さがほとんどないほど重複しており、基本層序の把握を困難にしている。

ここでは、削平があまり及んでいない２区を中心に１・４区の層序を考慮して復元概説する。（第Ⅲ -1 図）

想定される層序は、表土・盛土（Ⅰ）、黒褐色シルト（Ⅱａ層；古代包含層）、褐色シルト（Ⅱｂ層；弥生時代包含層）、明褐色シルト（Ⅲ層；弥生時代遺構検出面）、暗褐色シルト（Ⅳ層；縄文時代後・晩期）、黄褐色シルト（やや粘質）（Ⅴ層；縄文時代前期～中期以前）である。（Ⅴ層は１区の調査成果による）



第Ⅲ-1図　基本土層図



第Ⅲ-2図　1･4区縄文時代遺構配置図(1/1200)

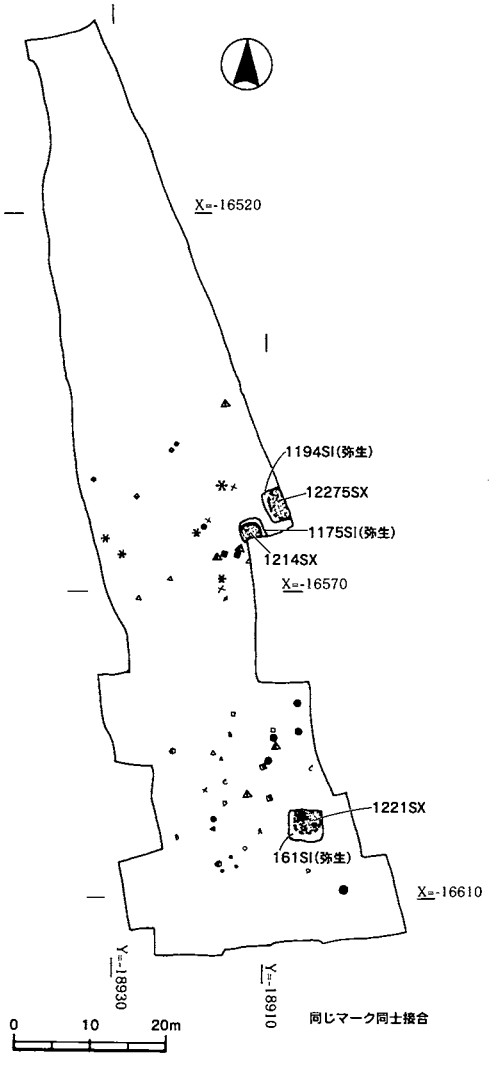
第２節 縄文時代

(1) 調査の概要（第Ⅲ-2・3図、PL.11）

1982年度の調査では、縄文時代の遺構は検出されていないが、縄文後・晩期の土器や石器類が出土しており、遺構の存在が予想された。今回の調査では、1区で尾田式土器段階（縄文時代前期末から中期初め）の集石1基、土坑1基、台石1基が出土している。

2区は、弥生時代の竪穴住居の重複が激しく、しかも竪穴部の深さが深いため、縄文時代後・晩期の遺構が存在しても撹乱されている可能性が高いと考えられた。しかし、明確ではないが、3箇所、縄文時代の住居と推定可能な遺構を確認した。

また、包含層には縄文時代早期末から晩期まで土器型式をほぼ網羅する形で1・2・4区で検出している。石器も打製石器（石鏃、石匙、打製石斧）等縄文時代と推定できるものを多数検出している。(PL.48・49)



第Ⅲ-3図　2区縄文時代遺構配置図･土器接合状況図(1/1000)

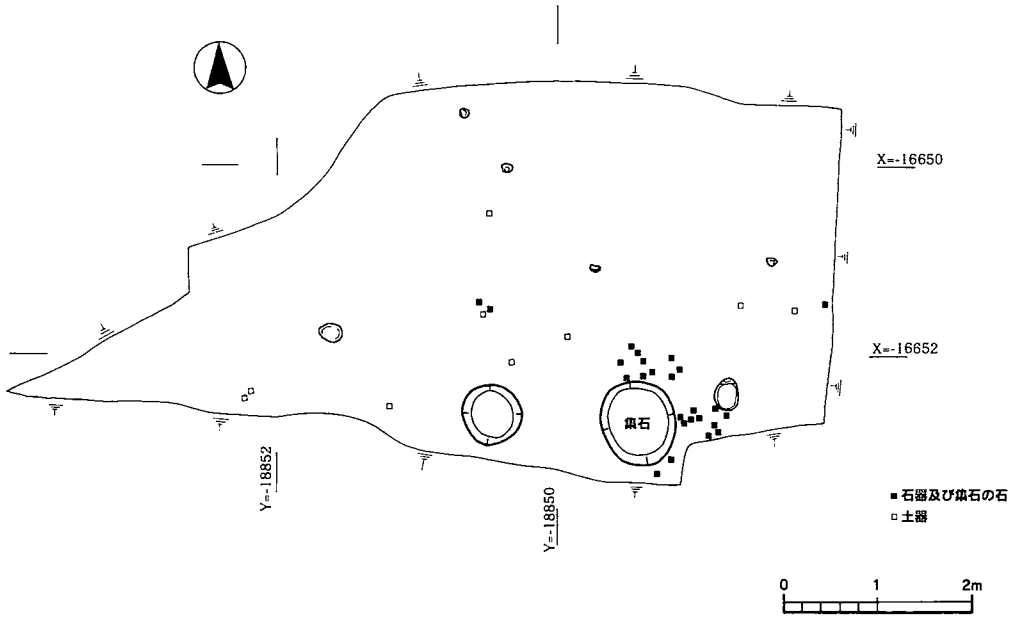
(2) 集石（第Ⅲ2・4・5図、PL.11）

位置　1区のチ地区（第Ⅲ-12図）に位置する。検出面の標高は、約52.7ｍである。検出面は黄褐色シルト層（1区3（V）層）中である。

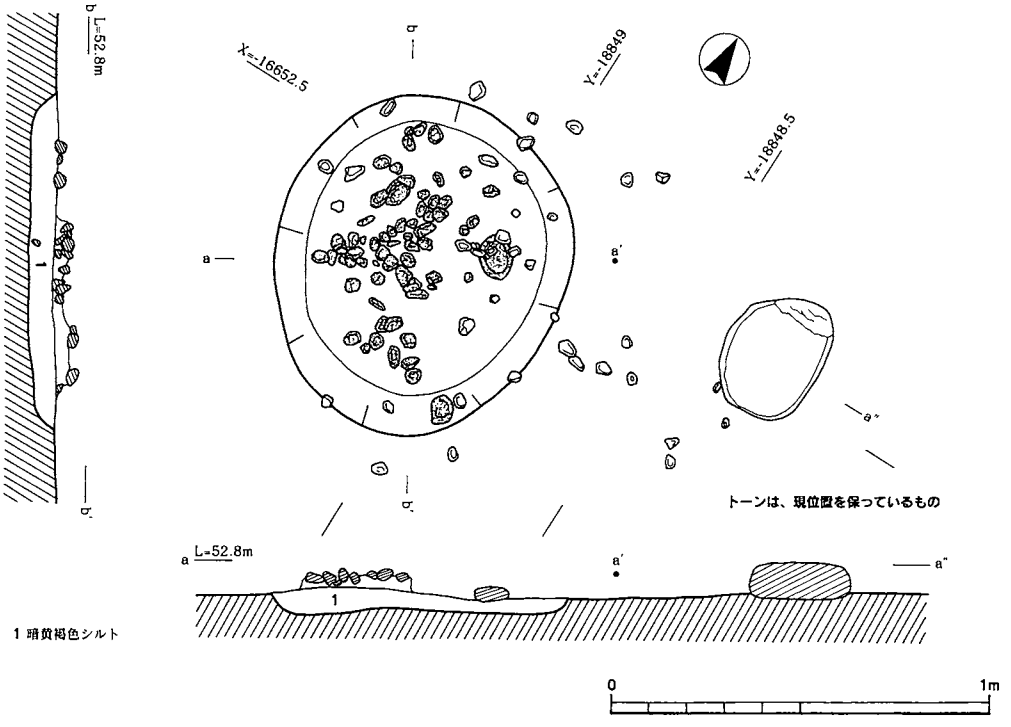
形態　平面形態は、楕円形を呈し、長軸90㎝、短軸80㎝深さ約8㎝の若干の掘り込みを持つ。断面は、皿状を呈する。集石は、3～10㎝の河原（丸）石で構成されている。焼成の痕跡は残存しない。

遺物出土状況・遺物　集石の周辺の検出面直上の層位中に尾田式及び轟Ｃ・Ｄ式の土器が出土している。ただし、検出面の黄褐色シルト層（1区3（V）層）は、削平されており、完全には復元できない。

尾田式土器（第Ⅲ-6図、PL.18上）は、完全に復元するには、至らなかったが、拓本に呈示した資料を中心に文様帯及び器形を復元した。推定口径は約25.6㎝、高さ約29㎝である。底部は欠損している。底部が残存する部分から推定すると丸底の可能性が高い。口縁端部は、面を持つ。口縁部付近は口縁部に行くに従いやや外反すると推定される。口縁部直下に鋸歯（連続三角形）状の張りつけ突帯文を施している。胴部の文様帯は横方向の5群の帯状押し引き文により区画されている。1群の押し引き文は、2単位もしくは3単位で帯を形成している。縦方向には、突帯を4条1単位として区画している。さらに縦方向の突帯間を縦方向の2条の沈線により区画していると推定できる。上から1条目と2条目の間は



第Ⅲ-4図　1区縄文時代遺構配置図及びⅤ層遺物出土状況平面図(1/80)

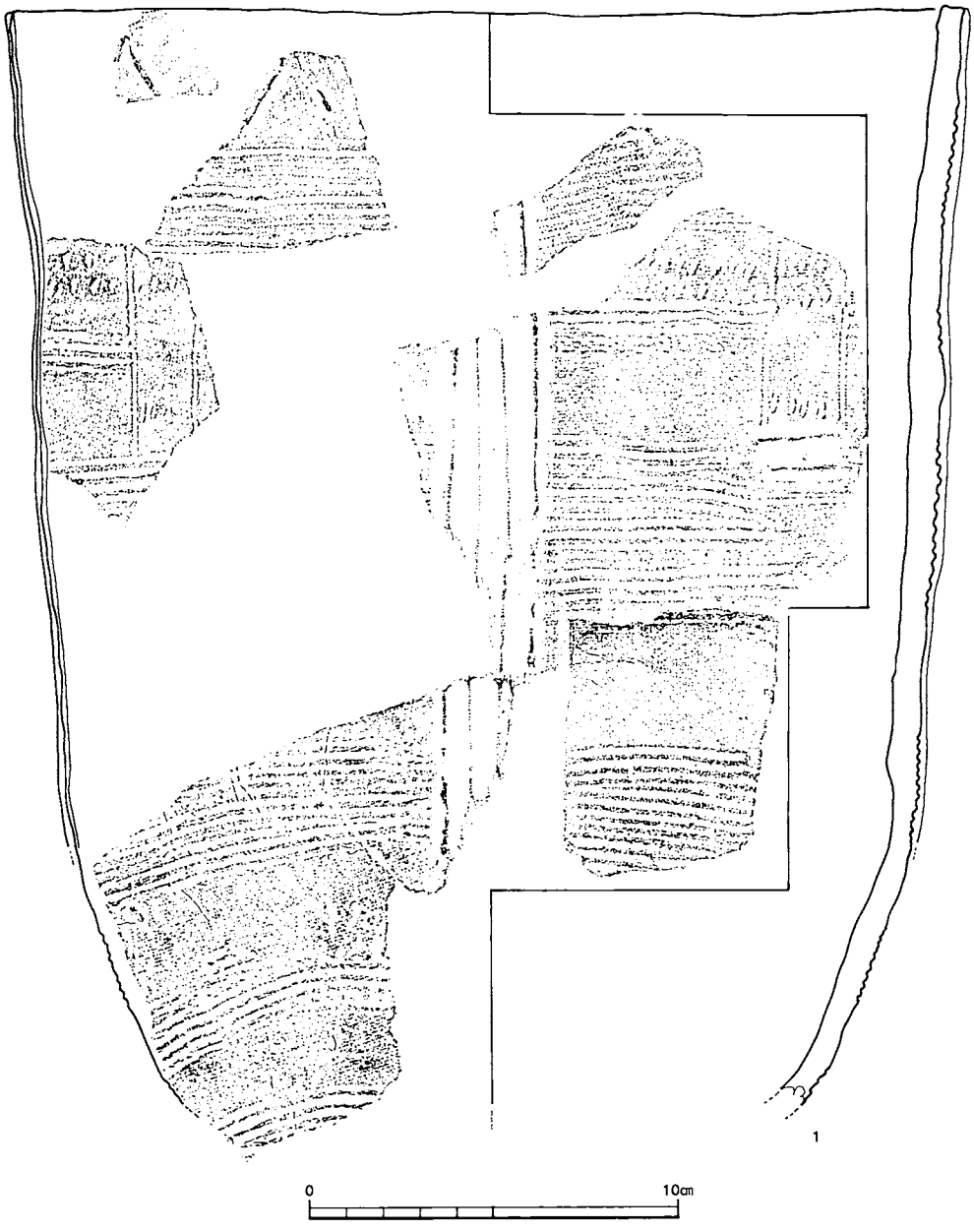


第Ⅲ-5図　1区縄文時代集石出土状況平面・断面図(1/20)

2列の横方向の列点文を施す。

轟C・D式土器（第Ⅲ-7図、PL.18下）は、口径約29㎝、高さ20㎝以上で、胴部上半から口縁部にかけてやや外反する器形を持つ。胴部下半以下が欠損する。口縁部には4箇所に2個を一単位とする突起を持つ。内外面に条痕文を施す。胴部下半は、左上がりの条痕文、胴部上半は、横方向の条痕が残存する。縦方向の2条の波状の沈線文をところどころ施す。4単位以上あったと推定できる。

まとめ　集石周辺の出土土器の型式から、この遺構の時期は、縄文時代前期末から中期初頭の時期に位置づけ



第Ⅲ-6図　1区Ⅴ層出土縄文土器実測図(1/2)

られると推定できる。

(3)　土坑（第Ⅲ-4図）

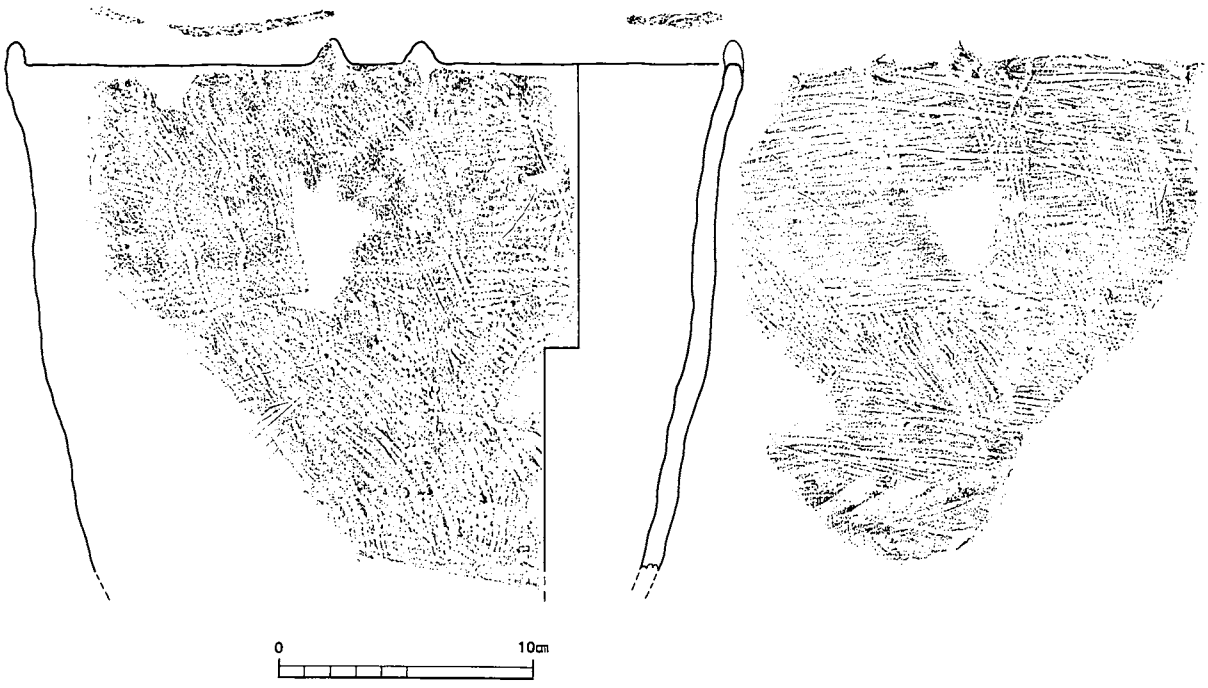
位置　1区のチ地区（第Ⅲ-12図）に位置する。集石の約80㎝西側に位置する。検出面の標高は、約52.7ｍである。検出面は黄褐色シルト層（Ⅴ層；1区3層）中である。

形態　平面形態は、ほぼ円形を呈し、径約60㎝で、深さ約10㎝の若干の掘り込みを持つ。断面はU字状を呈する。埋土は、暗黄褐色シルトである。

まとめ　集石の検出面と同様であることから、集石とほぼ同時期と推定できる。

(4) 住居状遺構

1221ＳＸ（第Ⅲ-8図）



第Ⅲ-7図　1区Ⅴ層出土縄文土器実測図(1/3)

位置　遺跡南西部（2区南部）に位置する。161SIの床面10㎝下層で検出した。検出面の標高は約53.5 mである。

柱穴　柱穴の掘り方は、径30～60㎝で、柱痕跡の径は15～25㎝を測る。

住居形態　柱穴は、楕円形に配置される。

まとめ　柱配置から、長軸4 m以上の楕円形もしくは円形の竪穴住居跡の可能性がある。住居の時期の詳細は不明であるが、包含層等の出土遺物と推定の住居形態から縄文時代後・晩期の可能性がある。

1214ＳＸ（第Ⅲ-9図）

位置　遺跡西部（2区中央部）に位置する。1175SIの床面で検出した。検出面の標高は約52.9 mである。

柱穴　柱穴の掘り方は、径20～30㎝で、柱痕跡の径は10～15㎝を測る。

住居形態　掘り方は円形で、柱穴は、40～60㎝間隔で弧状に配置される。

まとめ　柱配置や掘り方から規模を推定するのは困難であるが、径5 m程度の楕円形もしくは円形の竪穴住居跡の可能性がある。住居の時期の詳細は不明であるが、床面に流れ込んだ状態で黒色磨研土器の破片が出土していることと、包含層等の出土遺物と推定の住居形態から縄文時代後・晩期の可能性がある。

1227ＳＸ（第Ⅲ-10図）

位置　遺跡南西部（2区南部）に位置する。1194SIの床面で検出した。検出面の標高は約53.1 mである。

柱穴　柱穴の掘り方は、径20～22㎝で、柱痕跡の径は15～20㎝を測る。

住居形態　柱穴は、50～80㎝間隔で弧状に配置される。

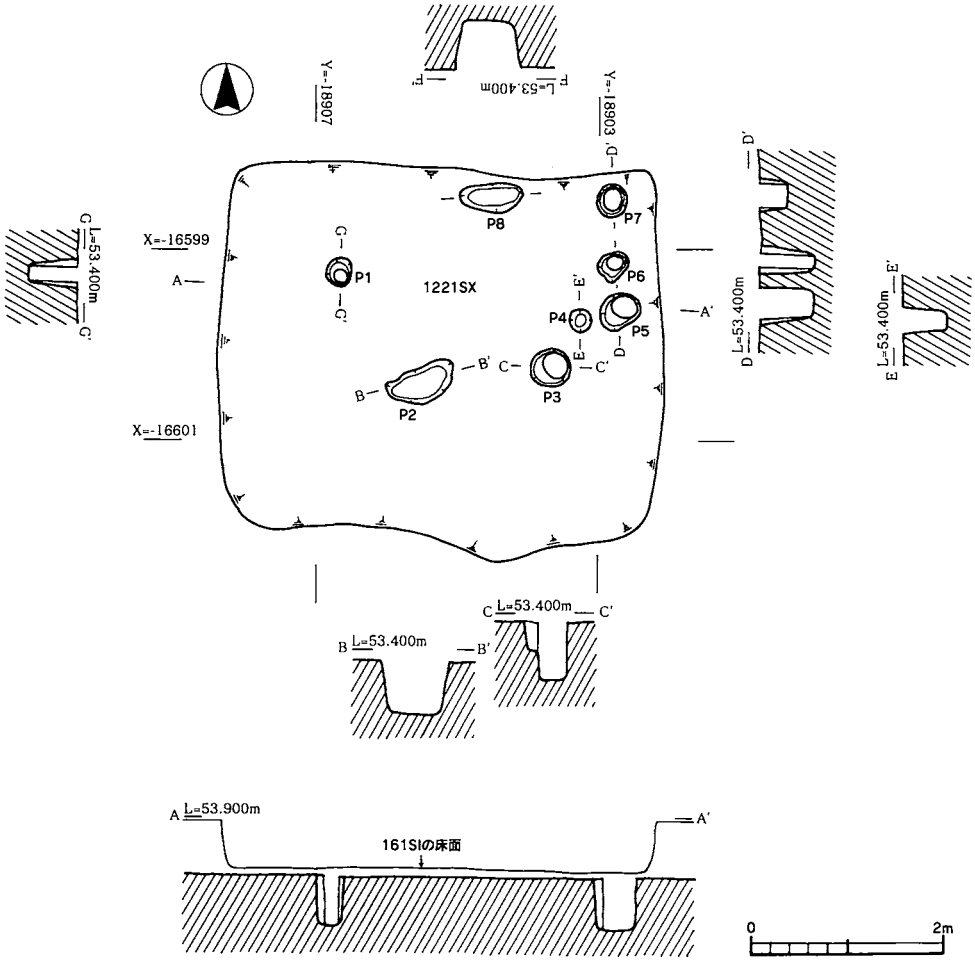
まとめ　推定の住居形態から縄文時代後・晩期の可能性がある。

（5）遺物包含層、撹乱の遺物

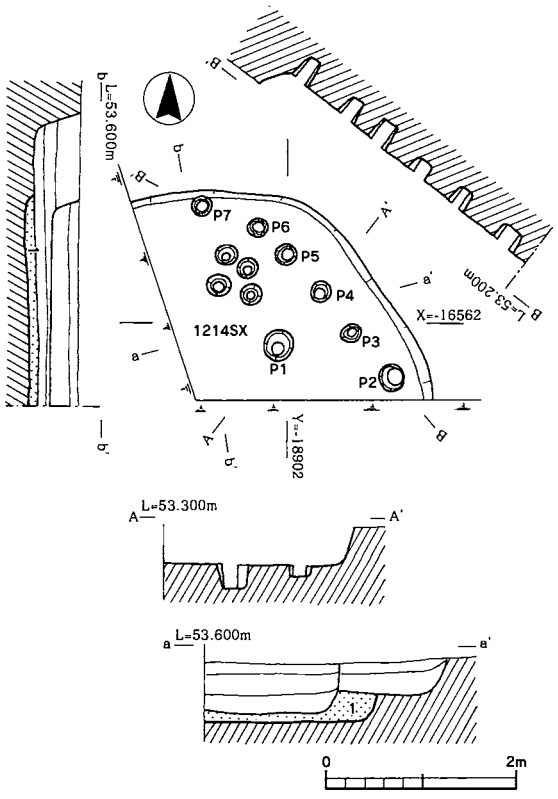
a.1・4区（第Ⅲ-12図・第Ⅲ-11・13～22図、PL.19・20）

縄文土器は、主に近世以降の耕作溝や水路などから出土している。（第Ⅲ章第5節）出土地点や調整は、観察表を参照していただきたい。

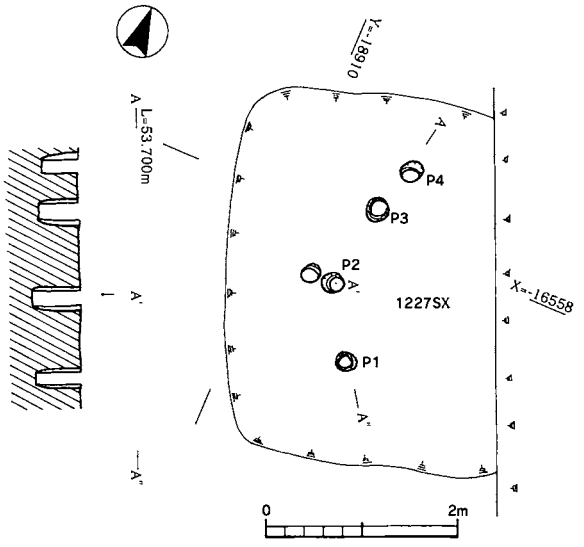
1・4区は、縄文時代の後・晩期の遺構面は、削平されていると推定できる。1区の一部（卜地区）でⅤ層中



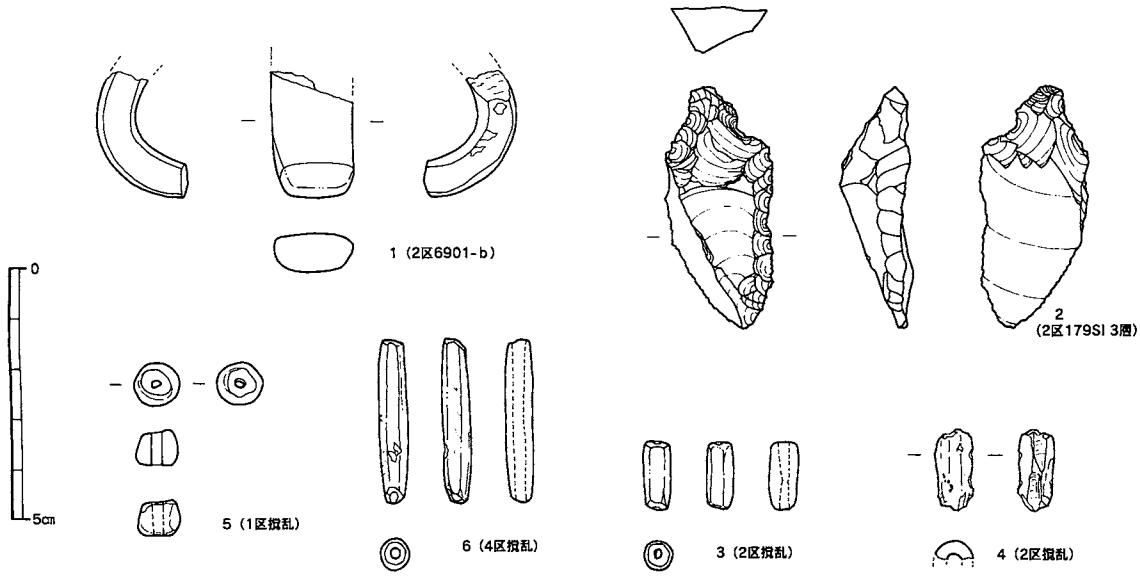
第Ⅲ-8図　1221SX平面・断面図(1/80)



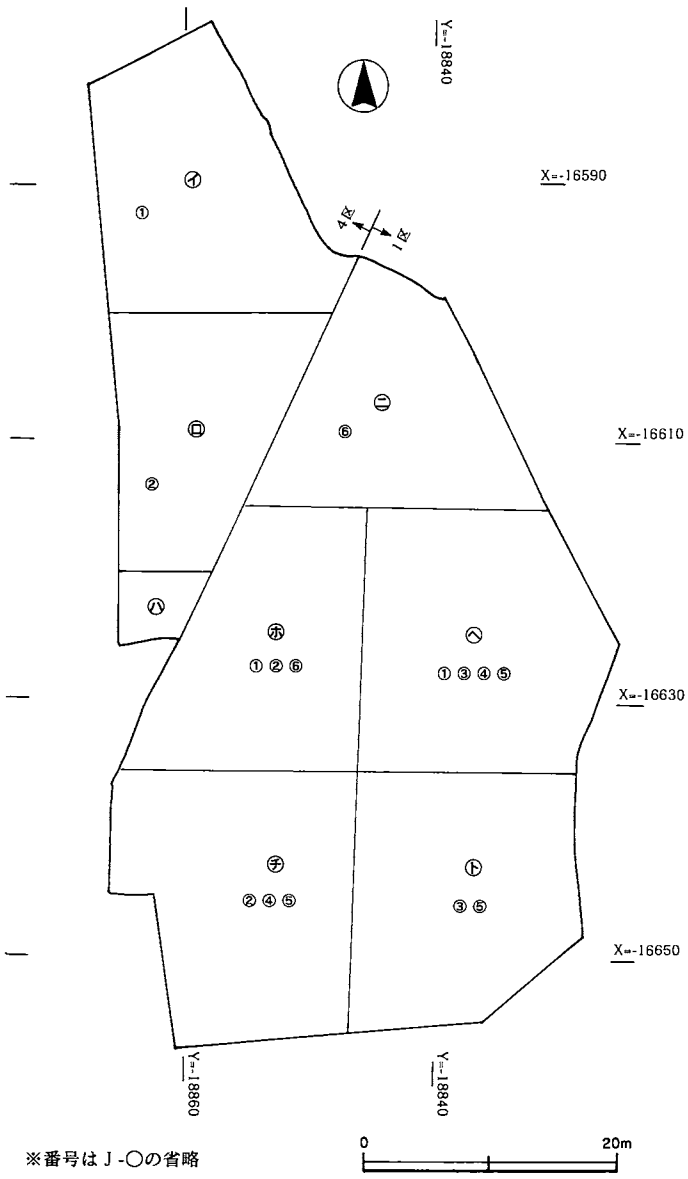
第Ⅲ-9図　1214SX平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-10図　1227SX平面・断面図(1/80)

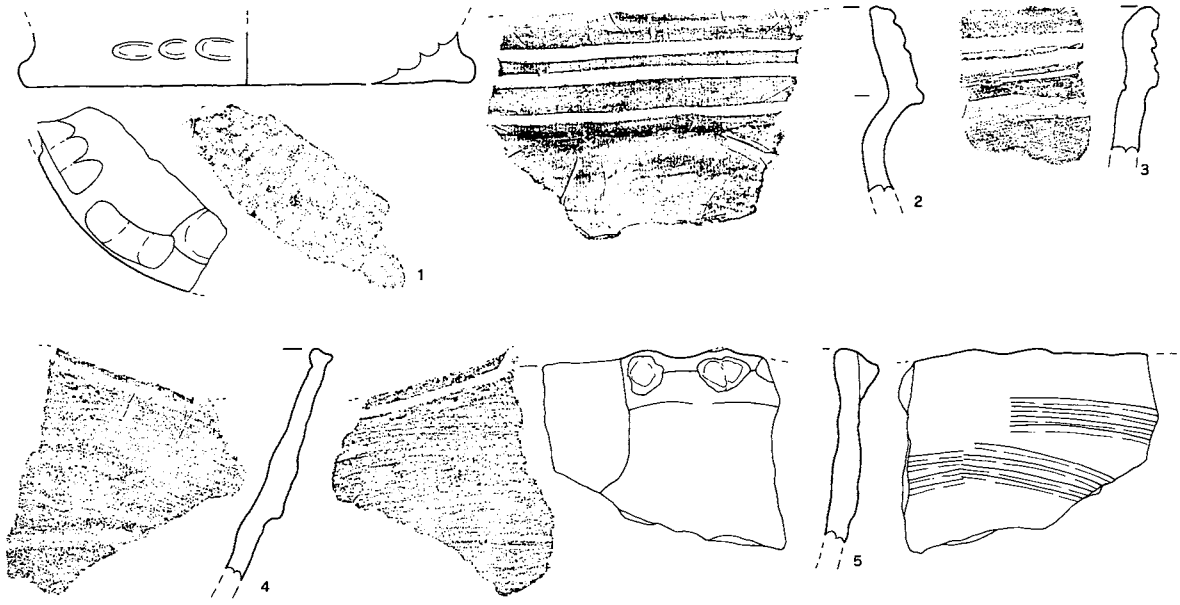


第Ⅲ-11図　遺物包含層・撹乱出土石器実測図(2/3)

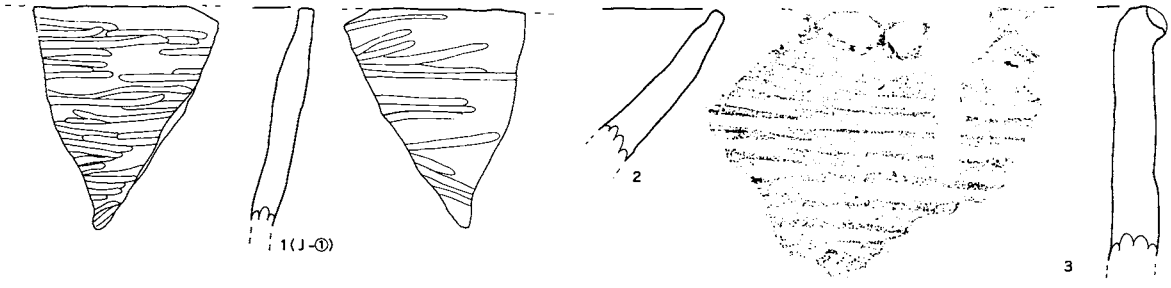


※番号はＪ-○の省略

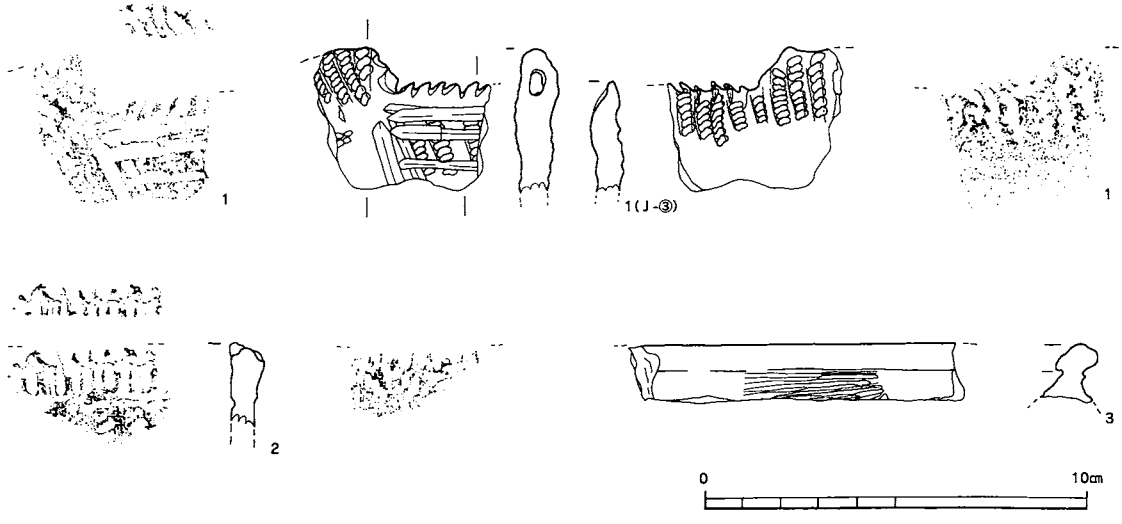
第Ⅲ-12図　1・4区縄文土器(J)出土分布図(1/600)



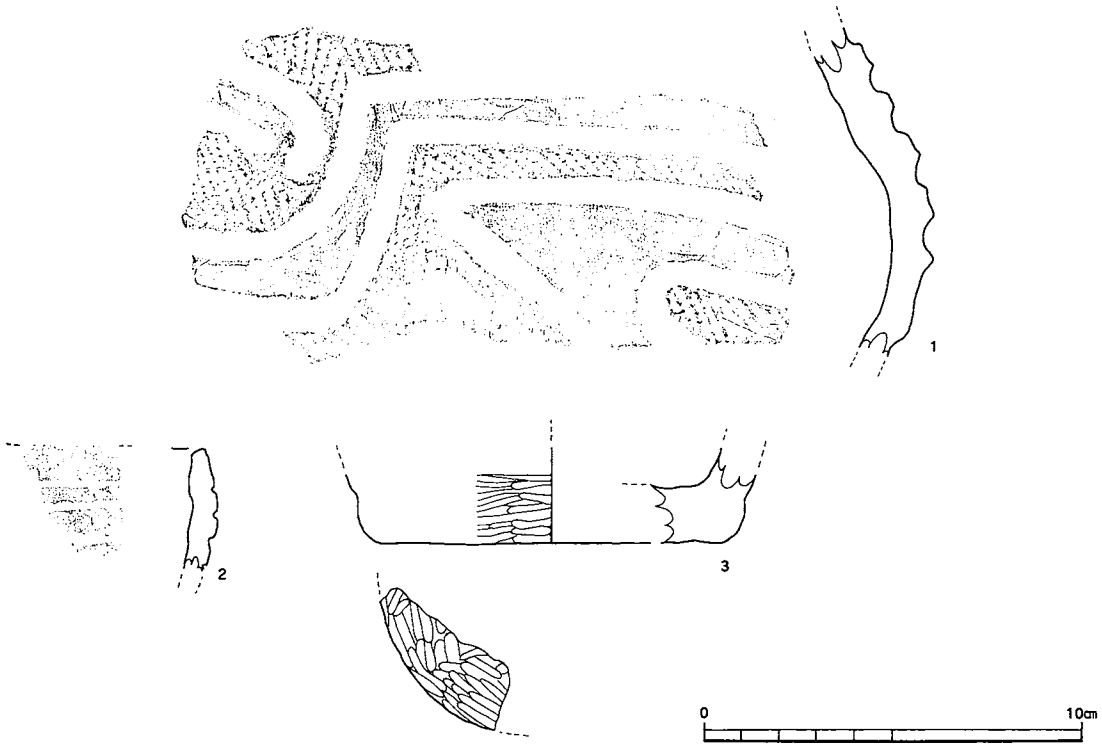
第Ⅲ-13図　4区イ地区出土縄文土器実測図(1/2)



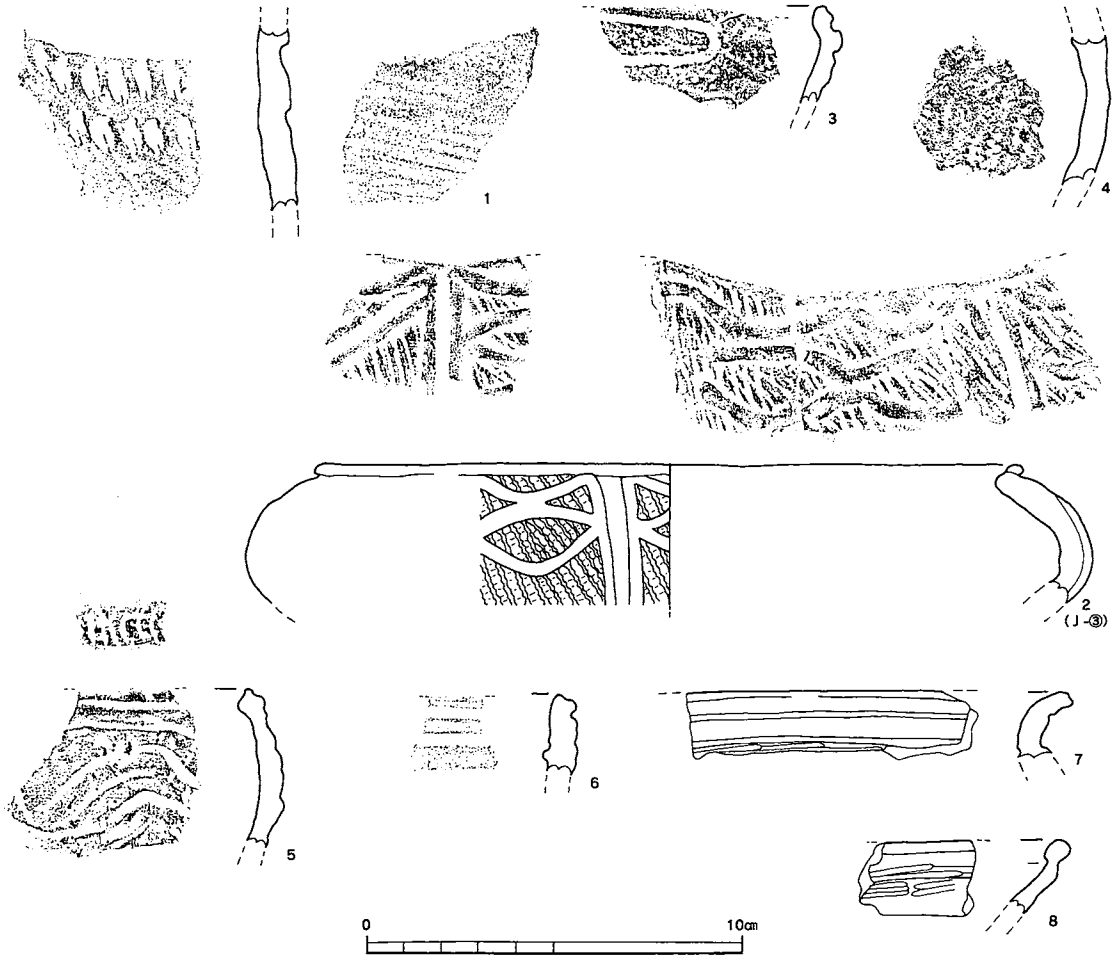
第Ⅲ-14図　4区ロ地区出土縄文土器実測図(1/2)



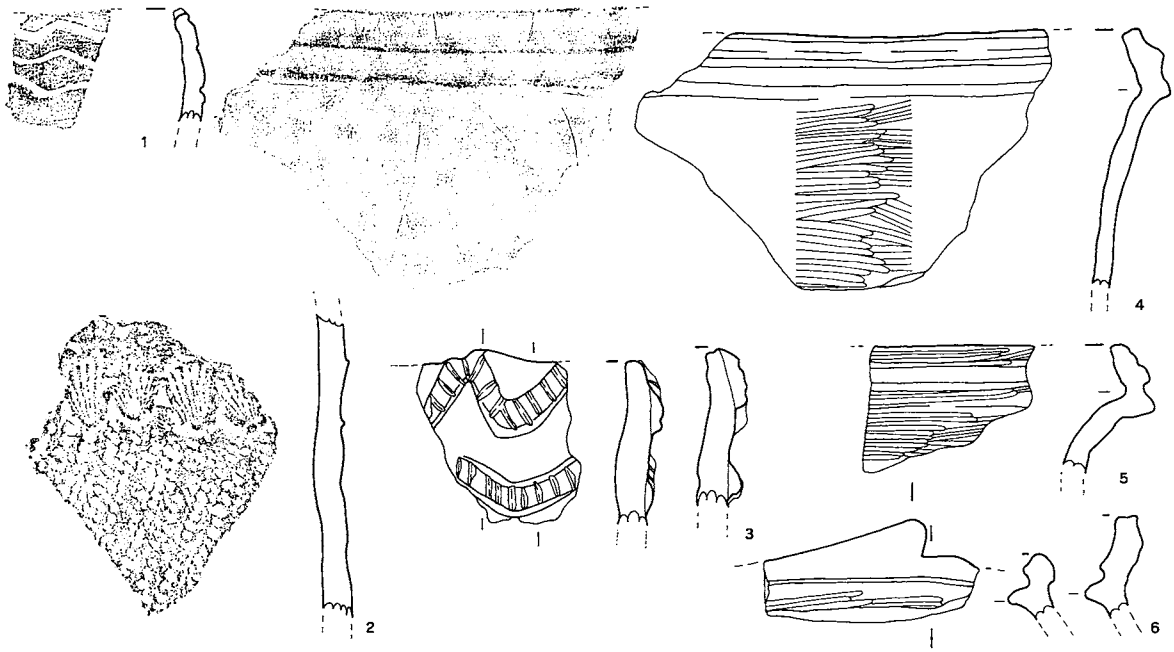
第Ⅲ-15図　1区二地区出土縄文土器実測図(1/2)



第Ⅲ-16図　1区ホ地区出土縄文土器実測図(1/2)

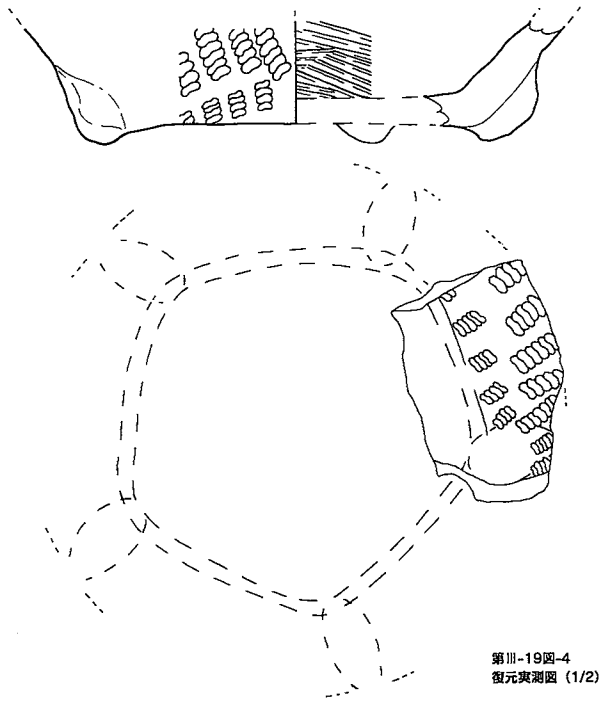


第Ⅲ-17図　1区ヘ地区出土縄文土器実測図(1/2)

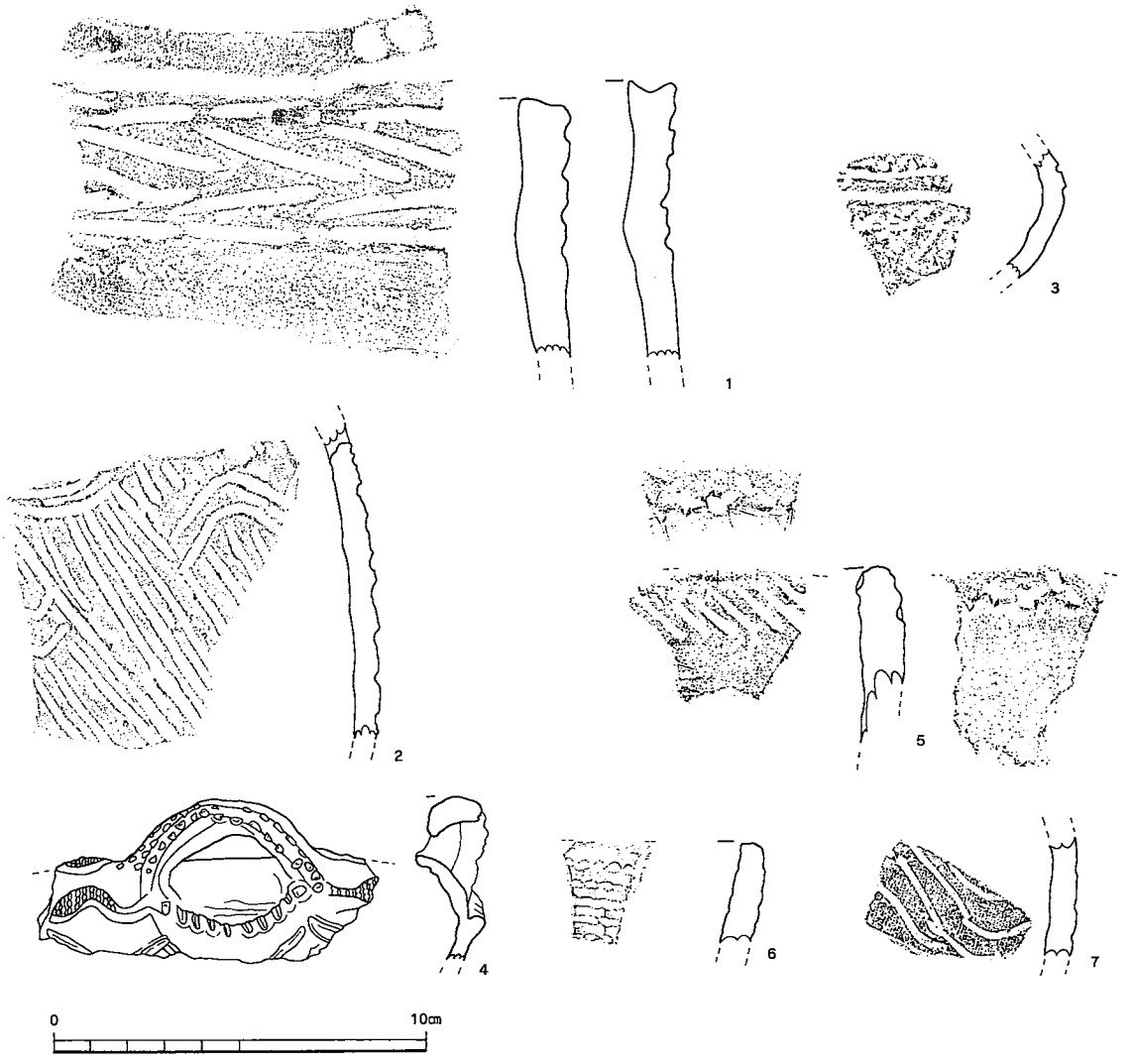


第Ⅲ-18図　1区ト地区出土縄文土器実測図(1/2)

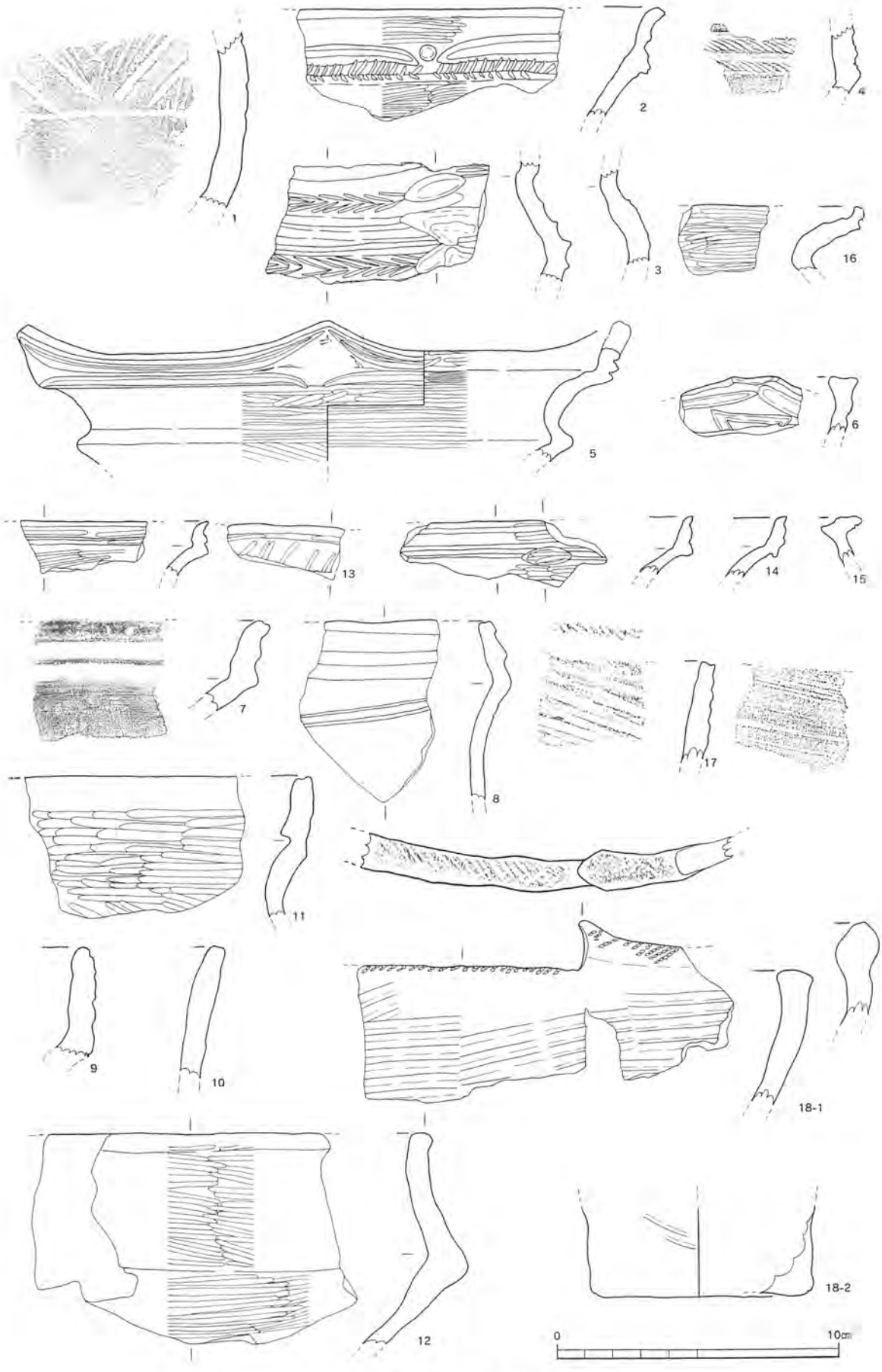
第Ⅲ-19図　1区チ地区出土縄文土器実測図(1/2)



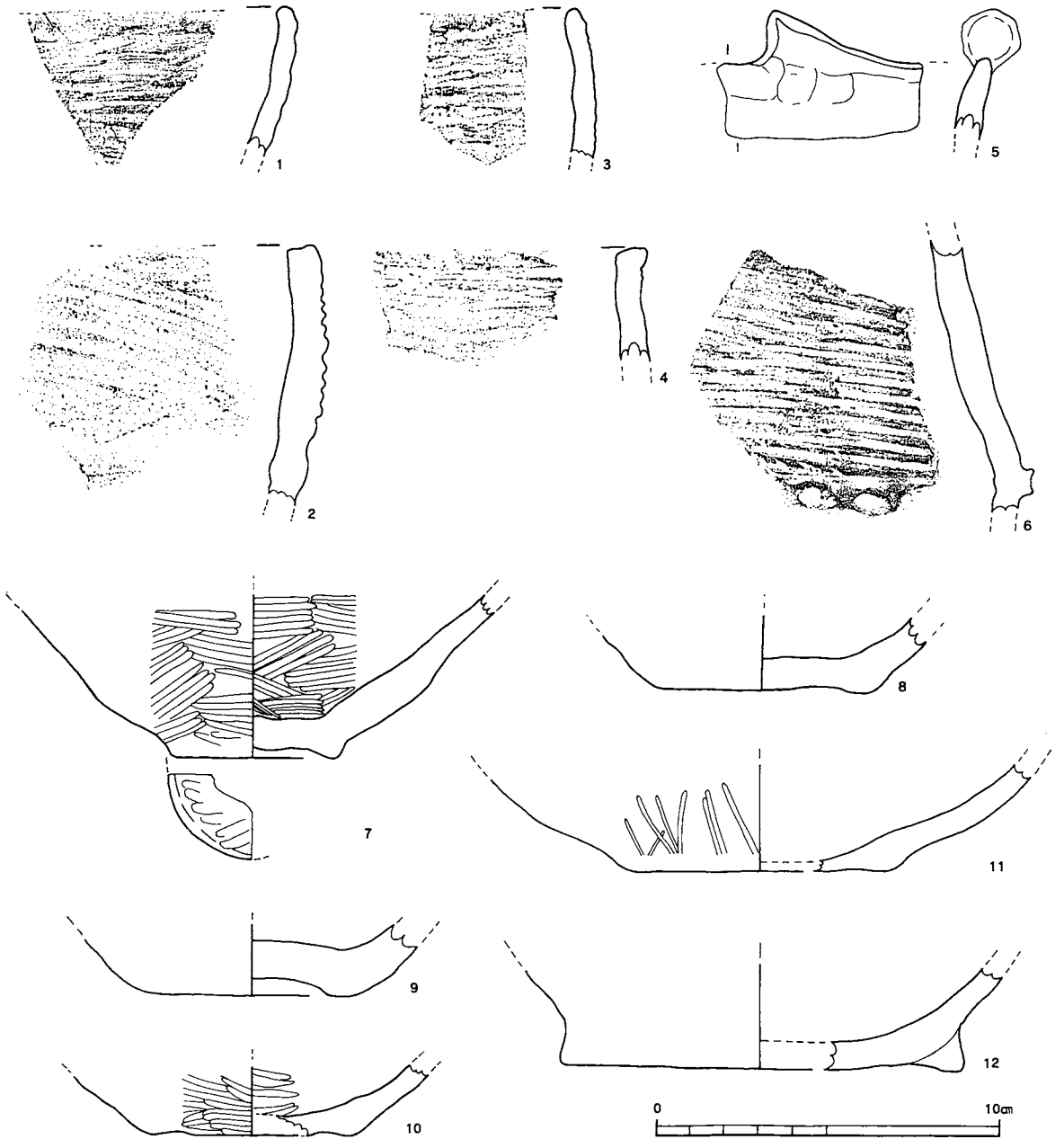
第Ⅲ-19図-4
復元実測図（1/2）



第Ⅲ-20図　1･4区用水路出土縄文土器実測図1（1/2）



第Ⅲ-21図　1･4区用水路出土縄文土器実測図2(1/2)



第Ⅲ-22図　1・4区用水路出土縄文土器実測図3(1/2)

に轟式土器系の尾田式土器が出土しているが、その他の出土遺物を見ると原位置をさほど移動していないと推定できる遺物はない。時期的には、縄文時代中期から晩期までと推定できる。水路内出土遺物は、耕作溝等出土遺物より原位置からの移動の度合いが大きいと考え、別レイアウトにより提示した。

出土遺物の地区別傾向を述べて、遺跡の時期別分布の復元の一助としたい。

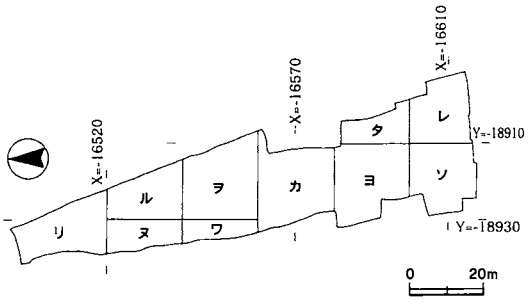
出土状況　調査区全域にわたり、黒色磨研土器が出土している。

イ・ロ地区では、刻目突帯文土器及び阿高系土器が出土している。刻目突帯文土器のうち第Ⅲ-13図5は内面に条痕を残し、第Ⅲ-14図3は外面に条痕を施したままナデ調整がない。第Ⅲ-13図1は、阿高系土器の底部と推定される。滑石を含み、底部外面の周縁部に鯨の脊椎を台にした痕跡を持つ。

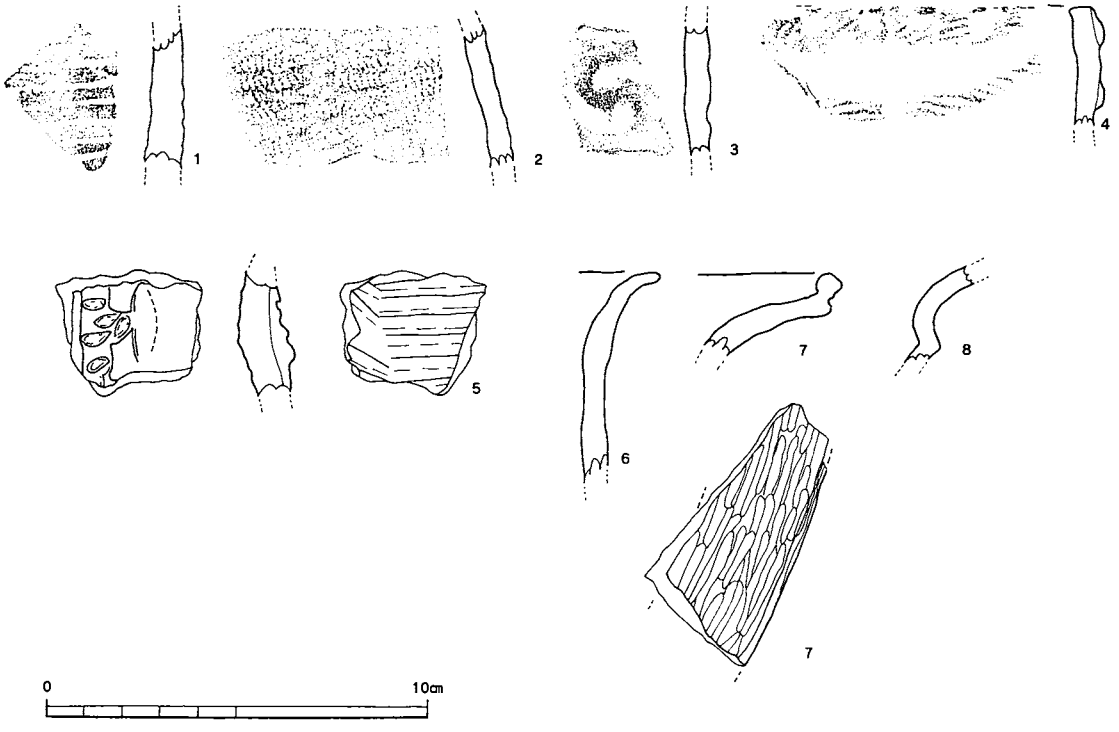
ニ・ホ地区は、磨消縄文系土器の北久根山式土器や鐘崎式土器が出土している。

北久根式土器（第Ⅲ-15図1・2）は、口縁部に突起（隆帯）を持ち、内外面を縄文で施文している。

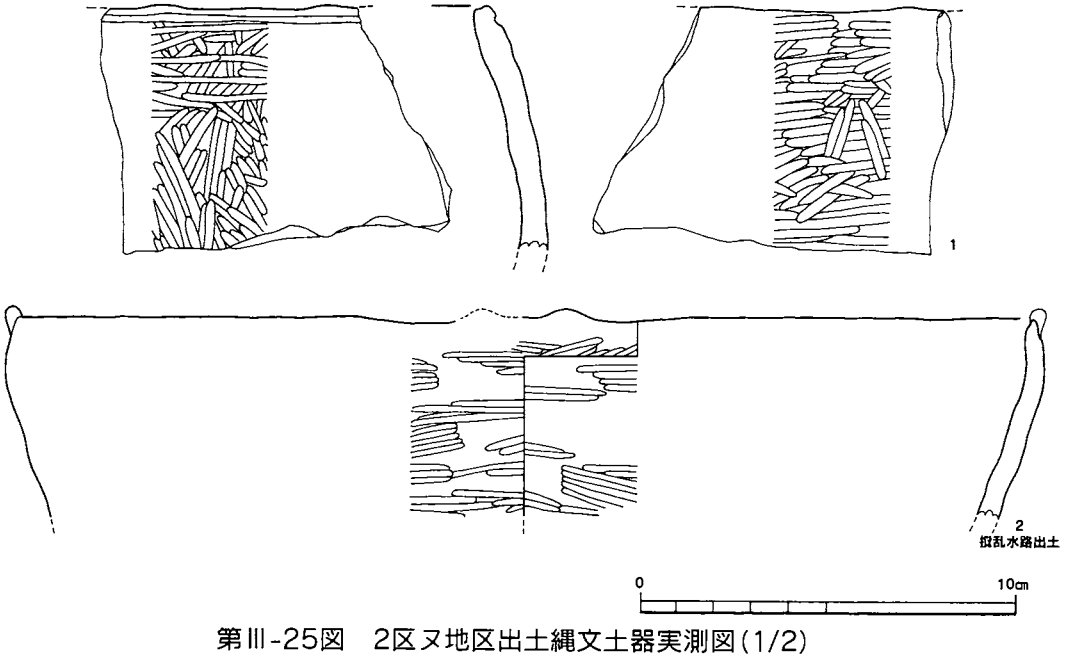
ヘ・ト・チ地区では、瀬戸内で使われている土器型式の船元・里木式（春日式）が顕著に出土している。撚



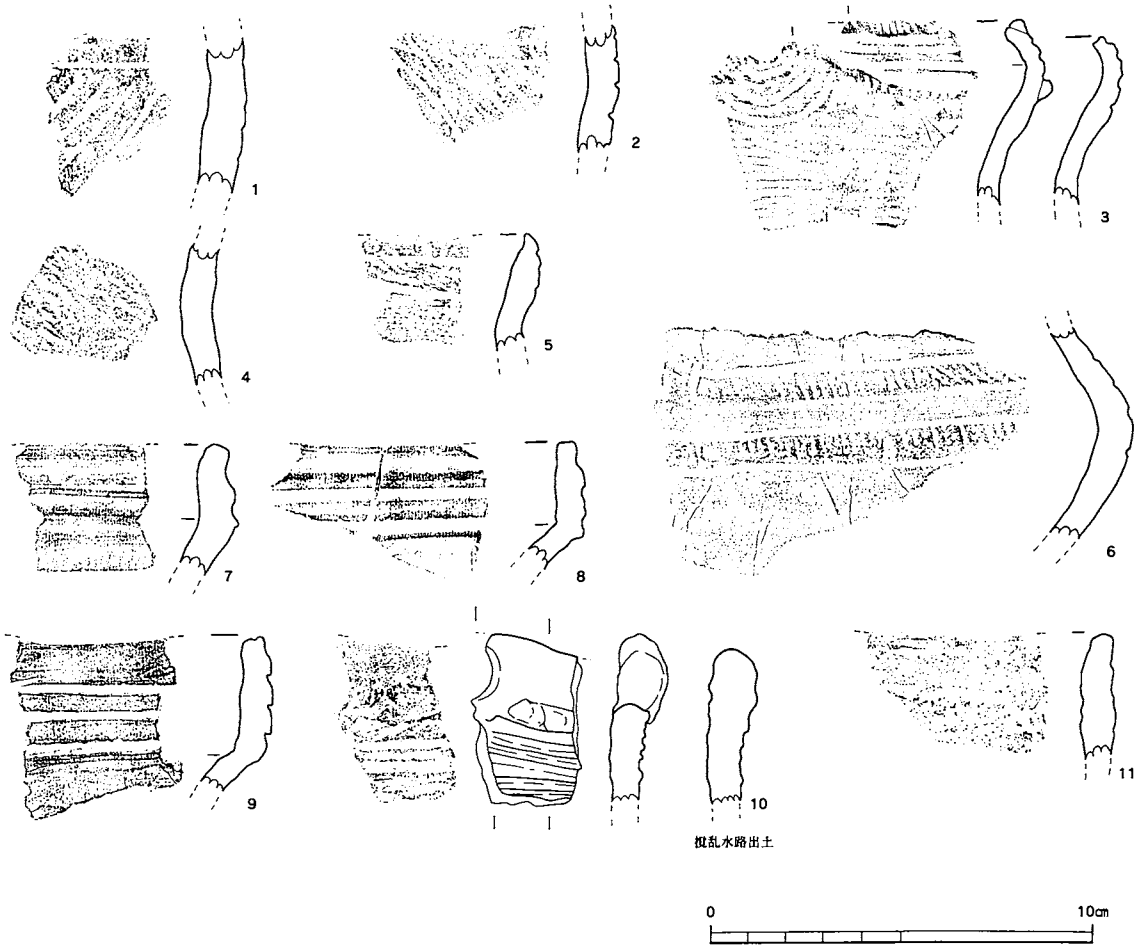
第Ⅲ-23図　2区グリッド分割図(1/2000)



第Ⅲ-24図　2区リ地区出土縄文土器実測図(1/2)



第Ⅲ-25図　2区ヌ地区出土縄文土器実測図(1/2)



第Ⅲ-26図　2区ル地区出土縄文土器実測図(1/2)

り戻した縄文で施文したもの（第図Ⅲ-17図2）や沈線（第Ⅲ-17図5、第Ⅲ-18図1）や浮文（第Ⅲ-17図2）で文様帯を構成するもの等いくつかの型式を持つ。粗い縄文を地紋とするもの（第Ⅲ-18図2、第Ⅲ-19図3・4）も同様の型式と推定できる。また、第Ⅲ-19図4は底部で、熊本県菊池郡七城町岡田遺跡の出土例を考えると五角形を呈すると推定できる。(第Ⅲ-19図4復元図参照)

ト地区では、阿高系土器と推定できる口縁部片（第Ⅲ-19図2）も出土している。

用水路出土土器では、阿高系土器、船元・里木系土器細片・磨消縄文系・黒色磨研土器等多型式にわたる。貝殻による押引文も出土している。集石に伴うと推定できる尾田式土器との関連が指摘される。その他、用水路出土遺物では、把手状の隆帯を持つ北久根山式土器、船元・里木式系土器、黒色磨研土器の古相のものから新相のものまで出土している。

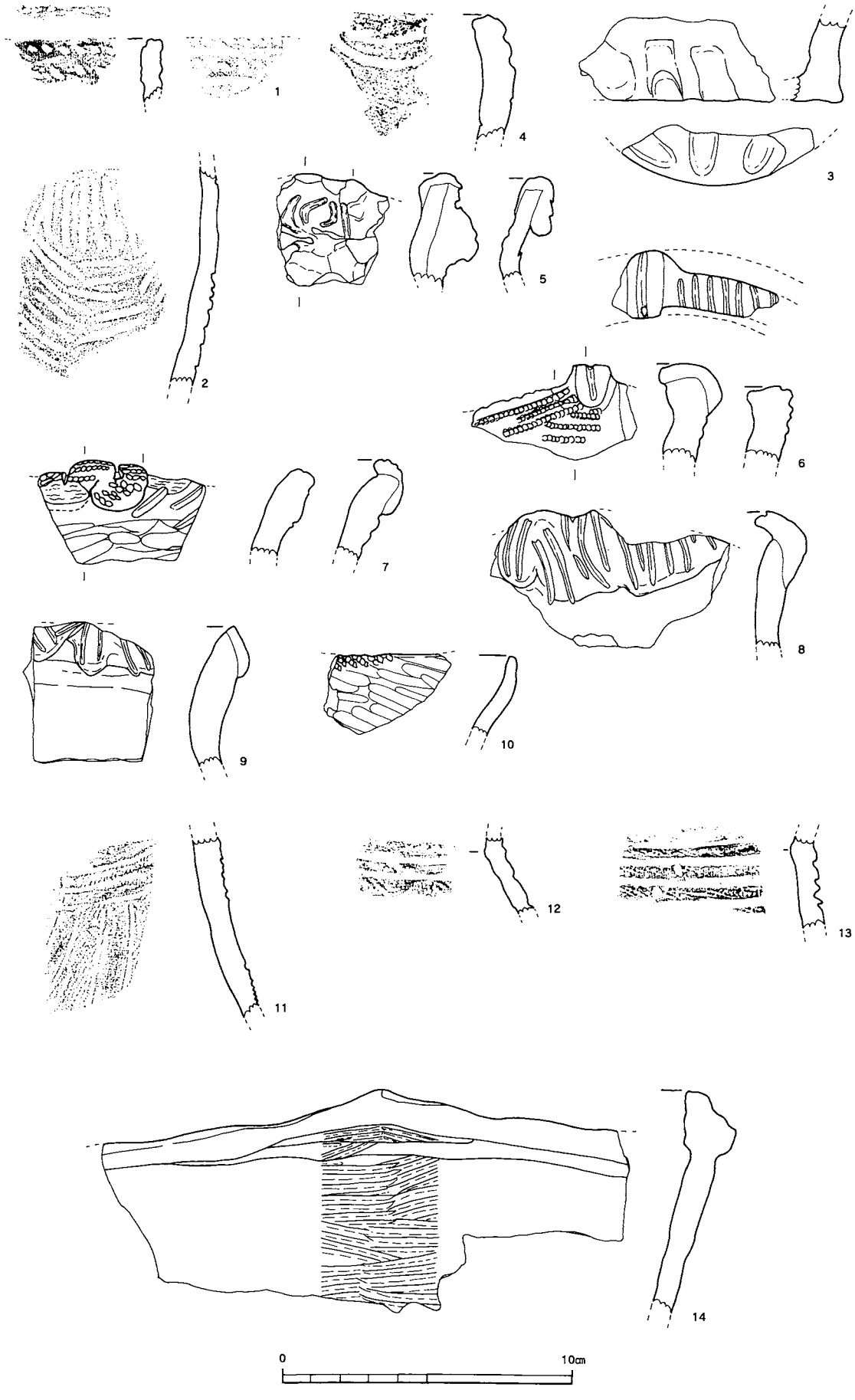
b.2区（第Ⅲ-23図・第Ⅲ-24～49図、PL.20～24）

縄文土器は、包含層（2 b（Ⅱ b）層）や弥生時代竪穴住居から出土している。出土地点や調整は、1・4区同様に観察表を参照していただきたい。

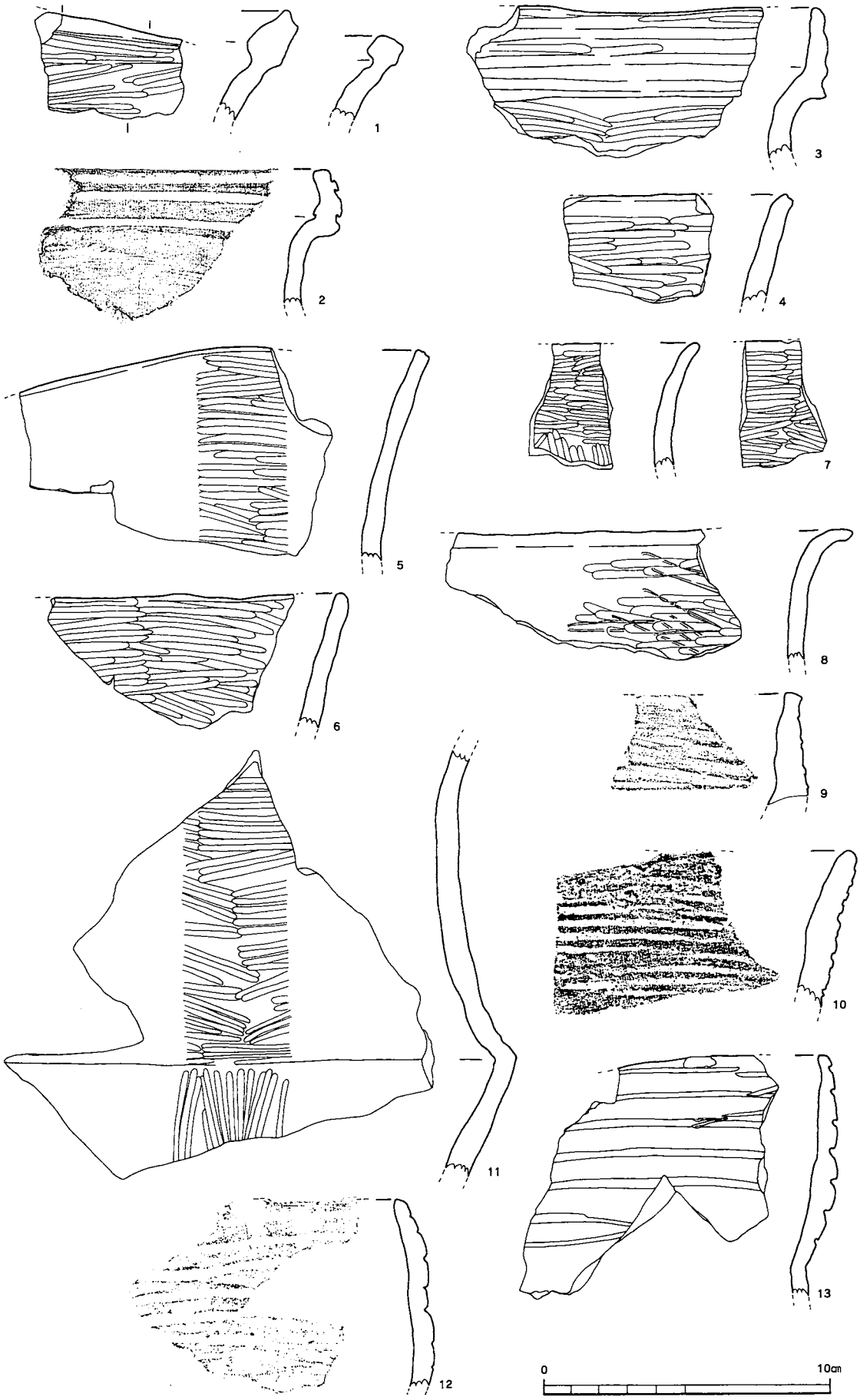
縄文土器は弥生時代の竪穴住居の埋土から出土しているので、原位置は移動している。ただ、土器の接合状況図（第Ⅲ-3図）を見ると、ほぼ10mのグリッド（区画）におさまる。そうしたことを考慮してグリッドごとに、型式が推定できそうな土器や特徴を持つ土器を提示した。

出土状況　調査区全域にわたり、黒色磨研土器が出土している。

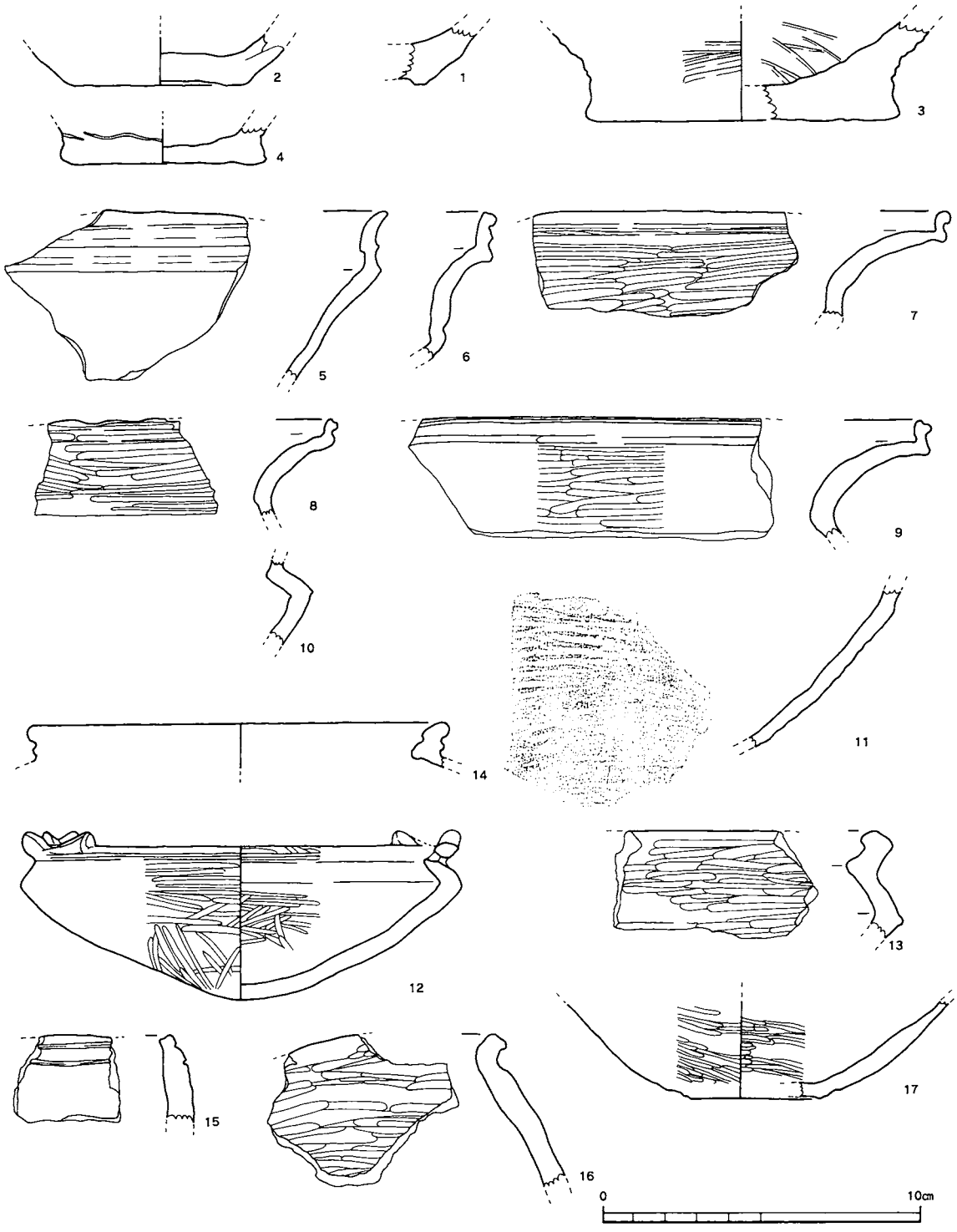
轟式土器と推定できるもの（第Ⅲ-41図1）がタ地区で出土している。条痕を内外面に施しているが、一部ナデ消しているもので、口縁部は直行し、端部は、若干内面側に押さえている。全体の器形は、不明であるが、



第Ⅲ-27図　2区ヲ地区出土縄文土器実測図1(1/2)



第Ⅲ-28図　2区ヲ地区出土縄文土器実測図2(1/2)



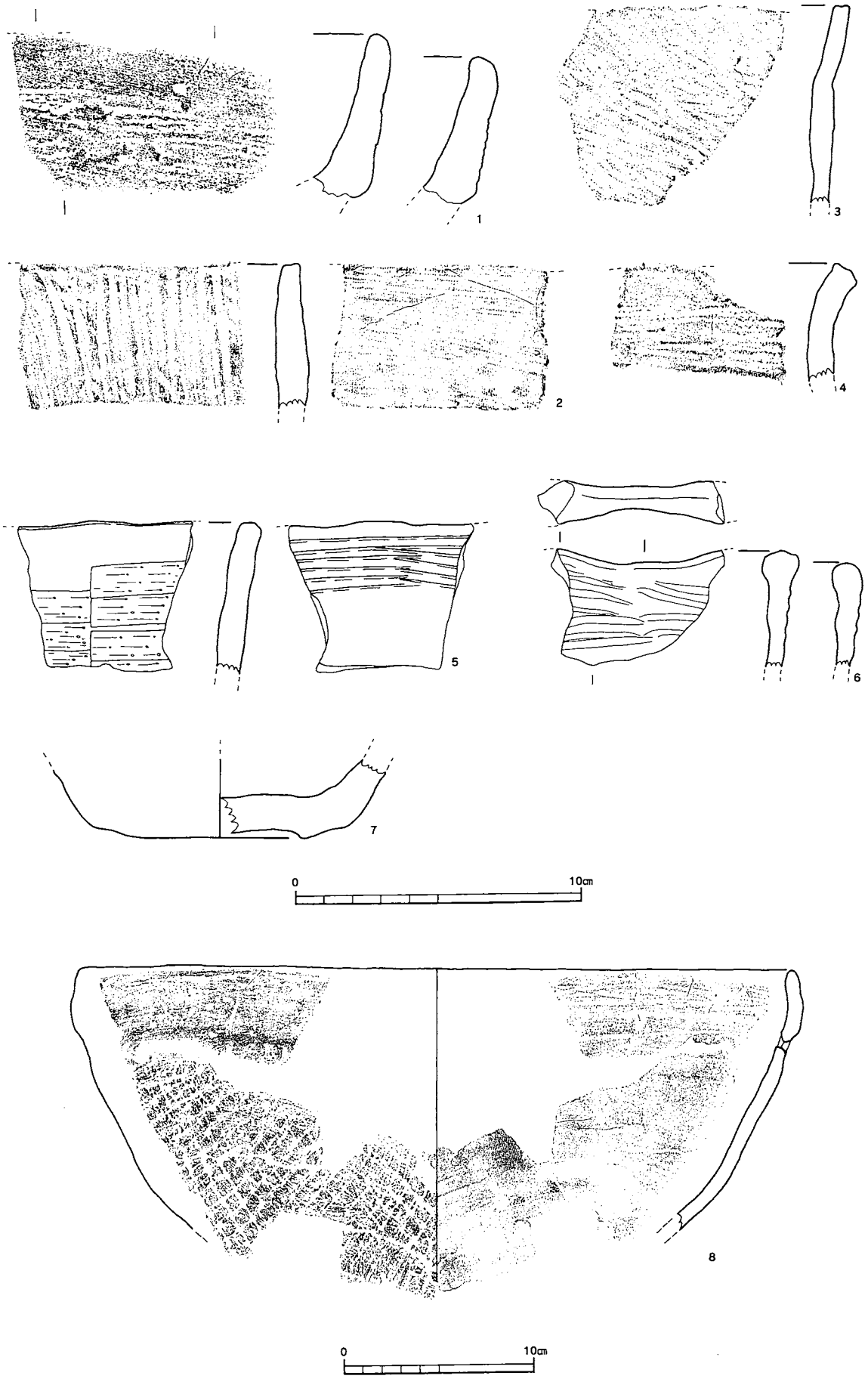
第Ⅲ-29図　2区ヲ地区出土縄文土器実測図3(1/2)

砲弾状を呈する可能性が高い。

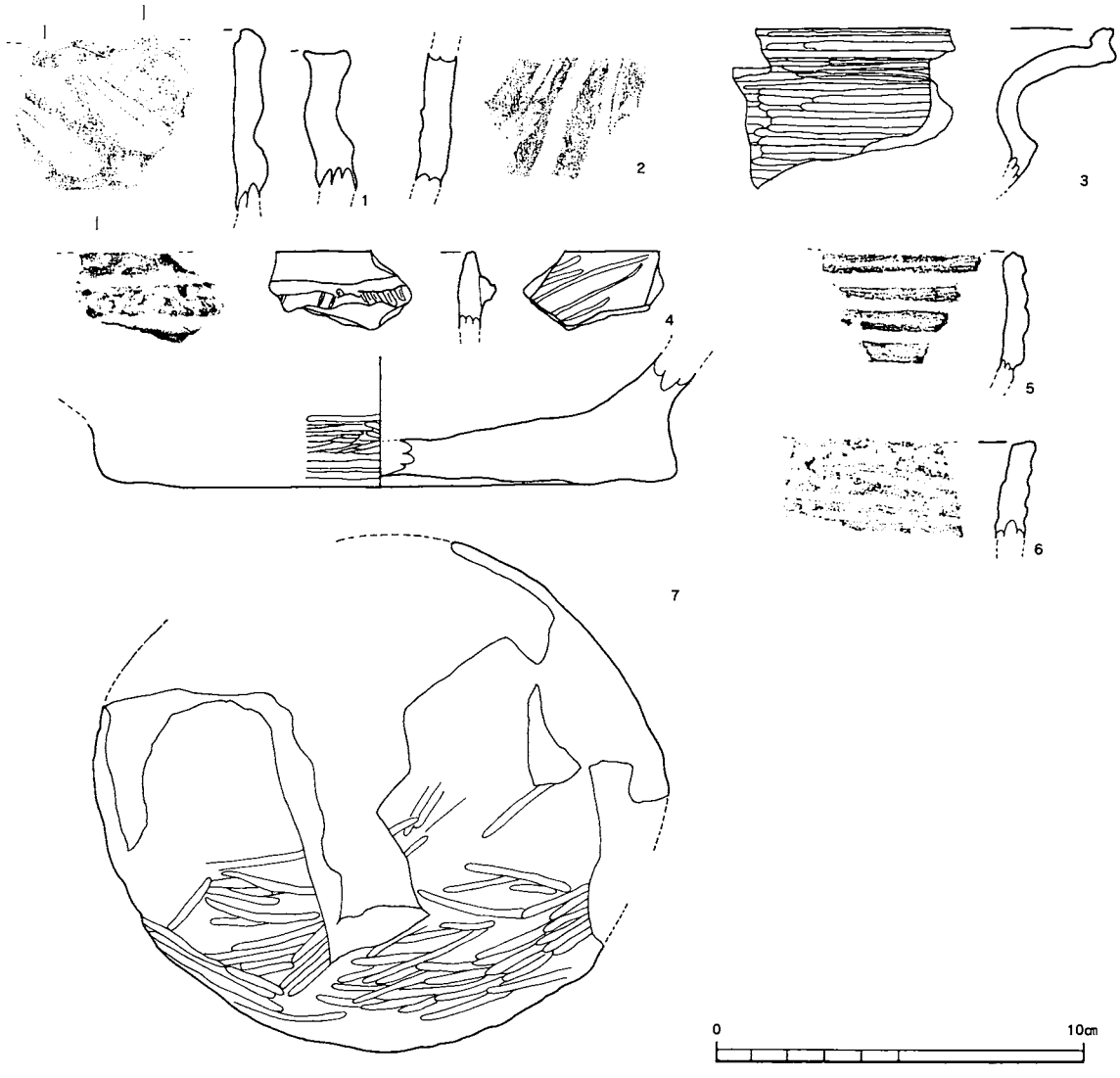
同じグリッド内で、玦状耳飾（第Ⅲ-11図1）が出土していることから、関連が注目される。

曽畑式土器は、ヨ・タ・レ・ソ地区に集中している。(第Ⅲ-35図1～5、第Ⅲ-41図2～11、第Ⅲ-45図1・2、第Ⅲ-46図1～5）遺構は、この周辺に存在した可能性が高い。口縁部は列点文で、横位の沈線文を縦位の沈線文が区画するタイプと縦位と斜位の沈線文により区画するタイプが出土している。内面は、条痕が残るものも存在する。

押し引き文は、ソ地区で出土している。(第Ⅲ-46図6～8）尾田式土器との関連が注目される。



第Ⅲ-30図　2区ヲ地区出土縄文土器実測図4（1～7は1/2、8は1/3）



第Ⅲ-31図　2区ワ地区出土縄文土器実測図(1/2)

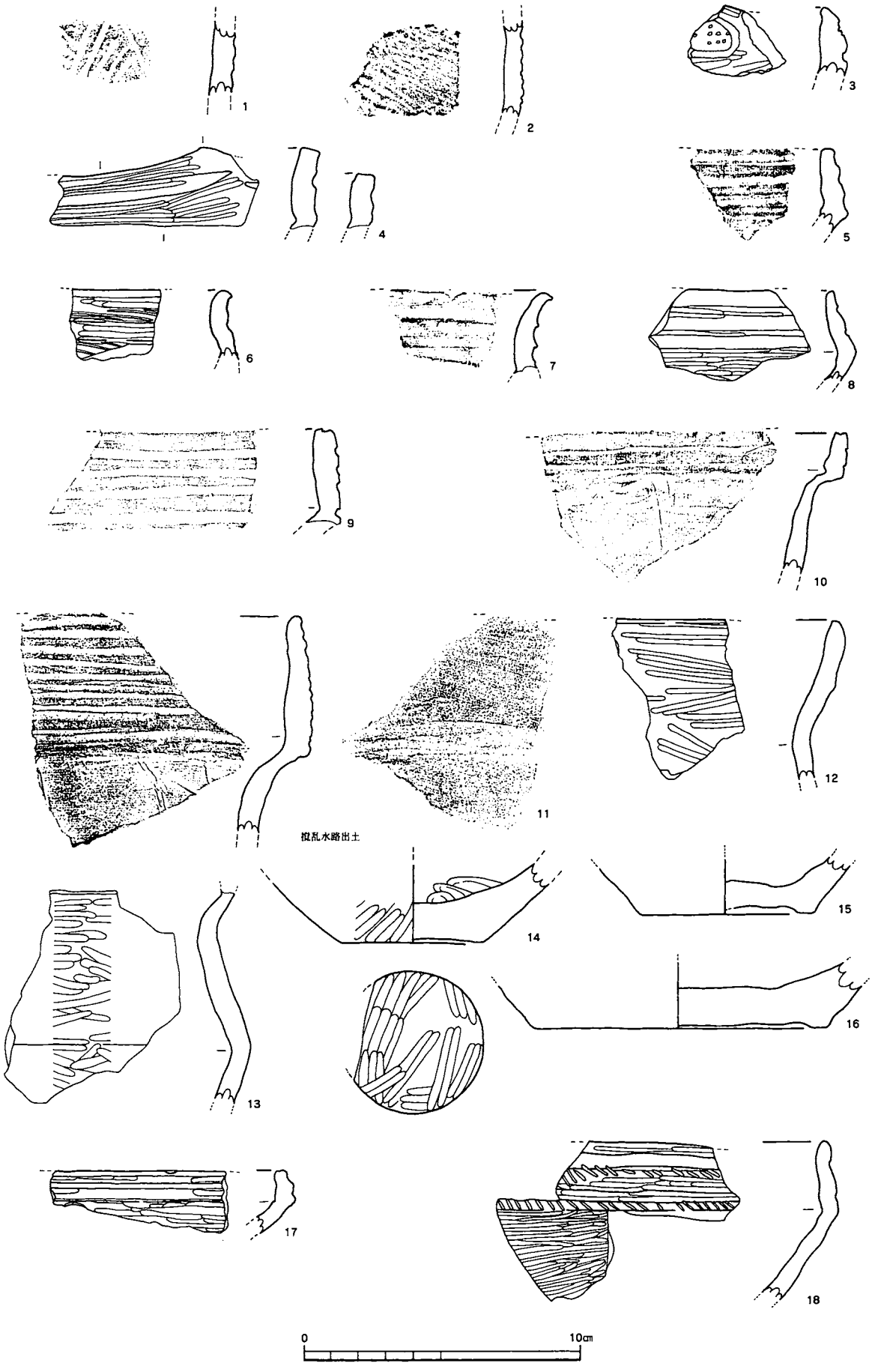
阿高系土器は、ソ・レ地区（第Ⅲ-45図3・4、第Ⅲ-46図9～11）とワ・リ地区（第Ⅲ-31図1・2）で出土している。2箇所に分けられる。細片であるため、型式差を指摘するのは困難である。

船元・里木式系土器は、2区北部（リ・ル地区）とタ・レ・ソ地区（2区南部）の大きく2カ所に出土している。リ・ルは、浮文を持つものが出土している（第Ⅲ-24図4・第Ⅲ-26図3等）。タ地区は、縄文時代の粗い縄文を地文とするものが目につく（第Ⅲ-42図2～4）。レ・ソ地区は、細かい縄文や条痕を地文とするものが多い（第Ⅲ-45図5・6、第Ⅲ-46図17・18・20・21、第Ⅲ-47図1～6等）。

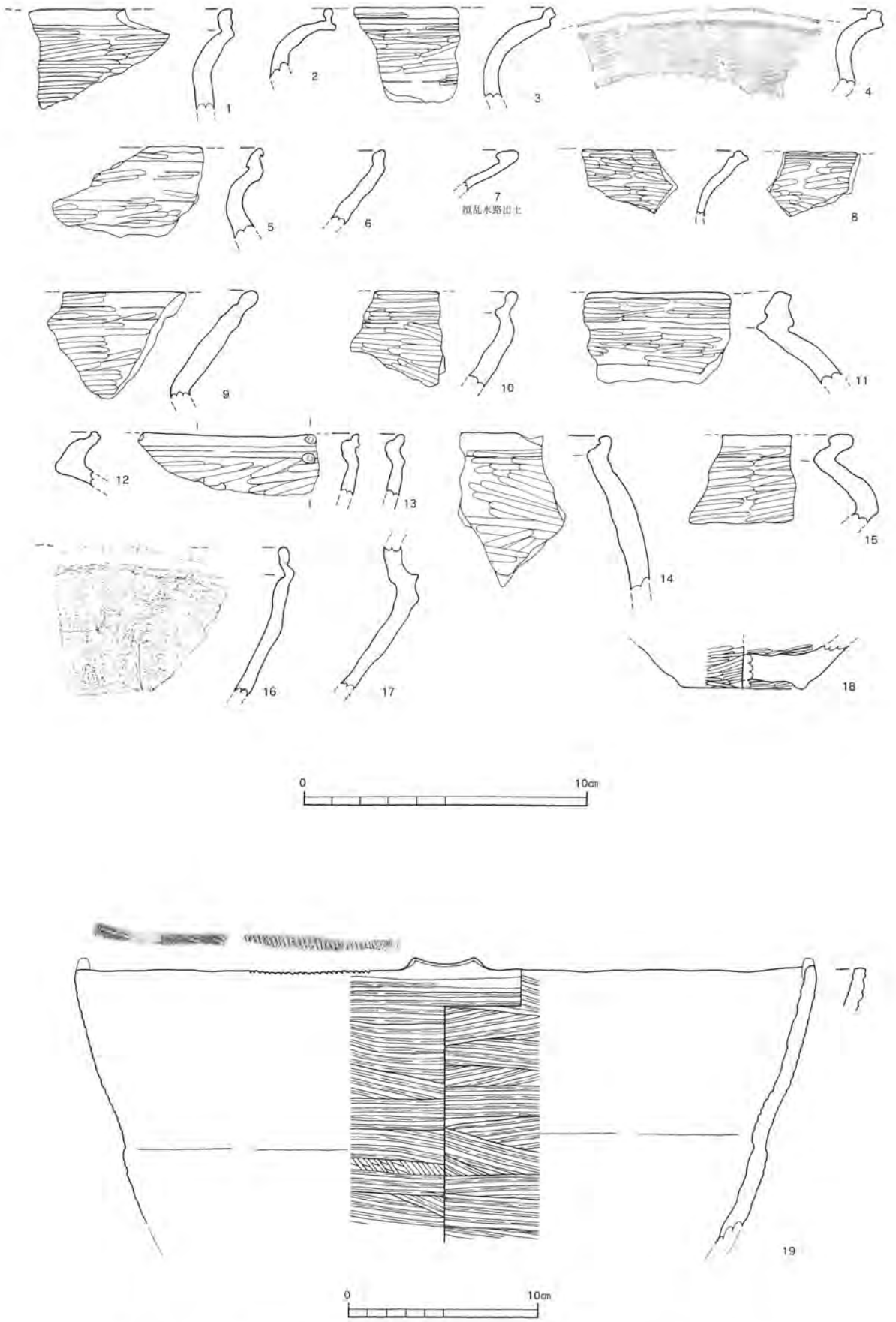
磨消縄文を施しているものは、2区北部（ル地区）の他、ヨ・レ地区でも細片ではあるが見受けられる。

北久根山式土器が顕著に出土しているのは、ヲ地区である。口縁部にW字状の浮文を持つもの（第Ⅲ-27図7・8・9等）や波状口縁に浮文がつくもの（第Ⅲ-27図5・6等）が出土している。

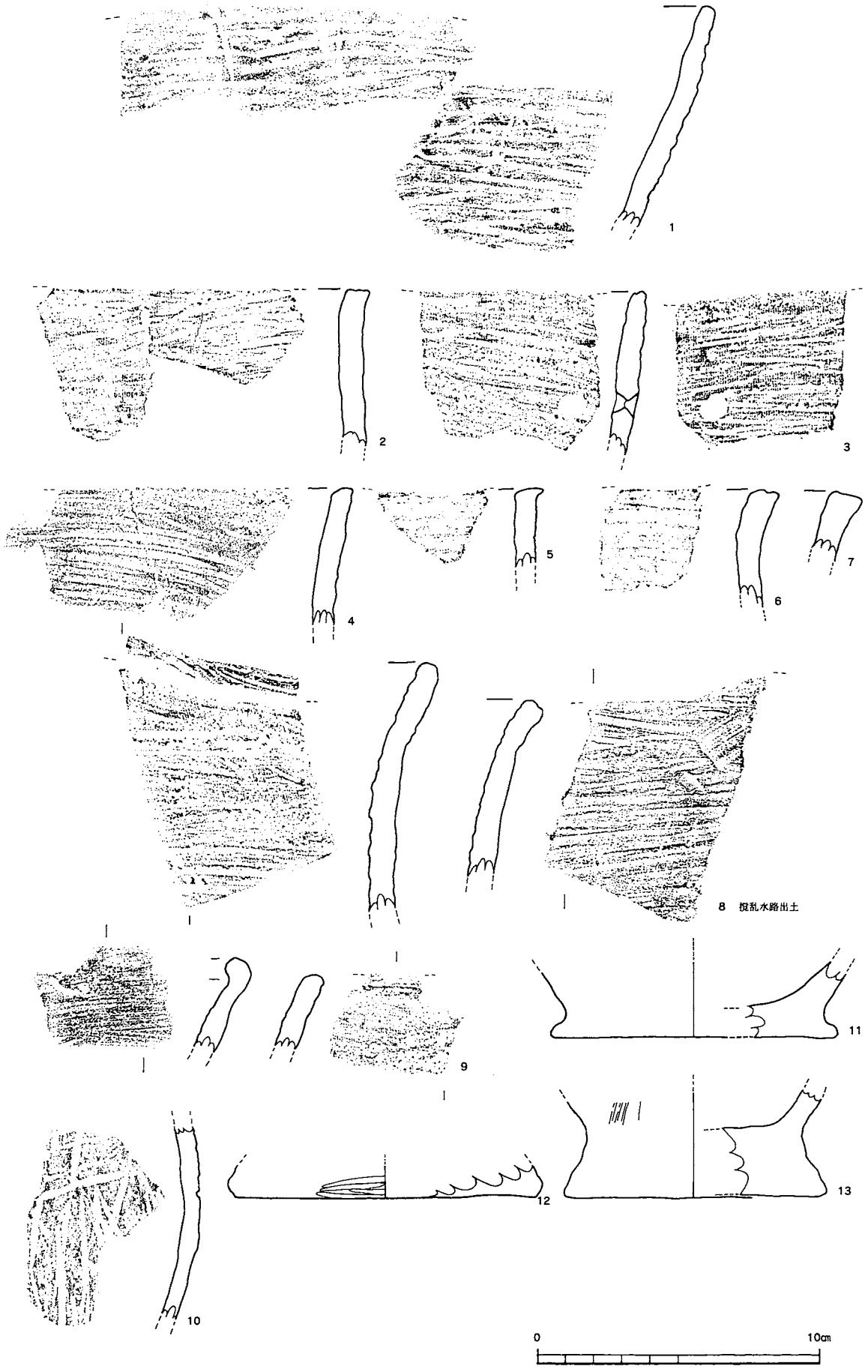
黒色磨研土器は、前述したように調査区全域にわたって各型式出土しているが、カ地区等は、天城～黒川式（無刻目突帯文土器併行期）の新しい傾向を持つ土器が顕著である。



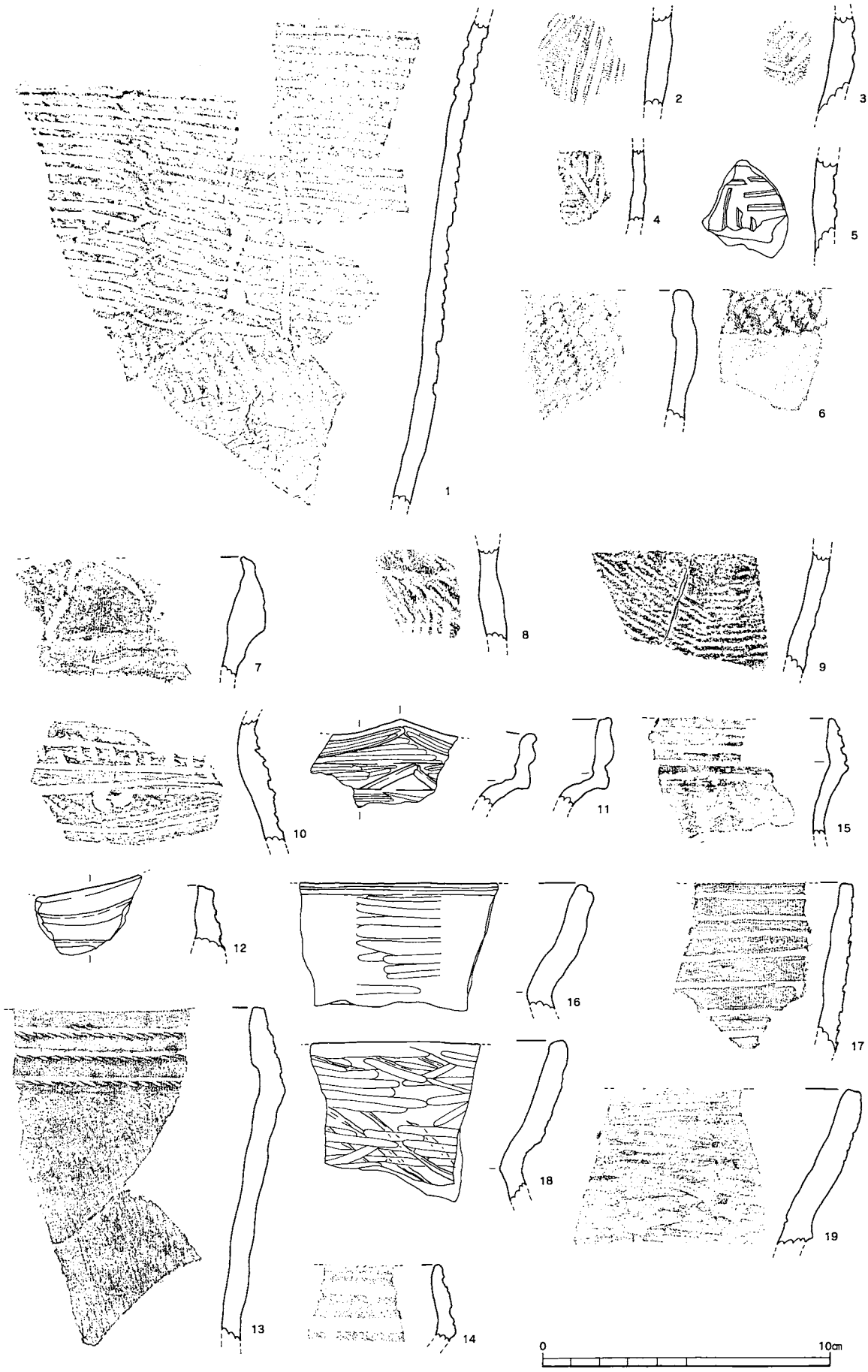
第Ⅲ-32図　2区カ地区出土縄文土器実測図1(1/2)



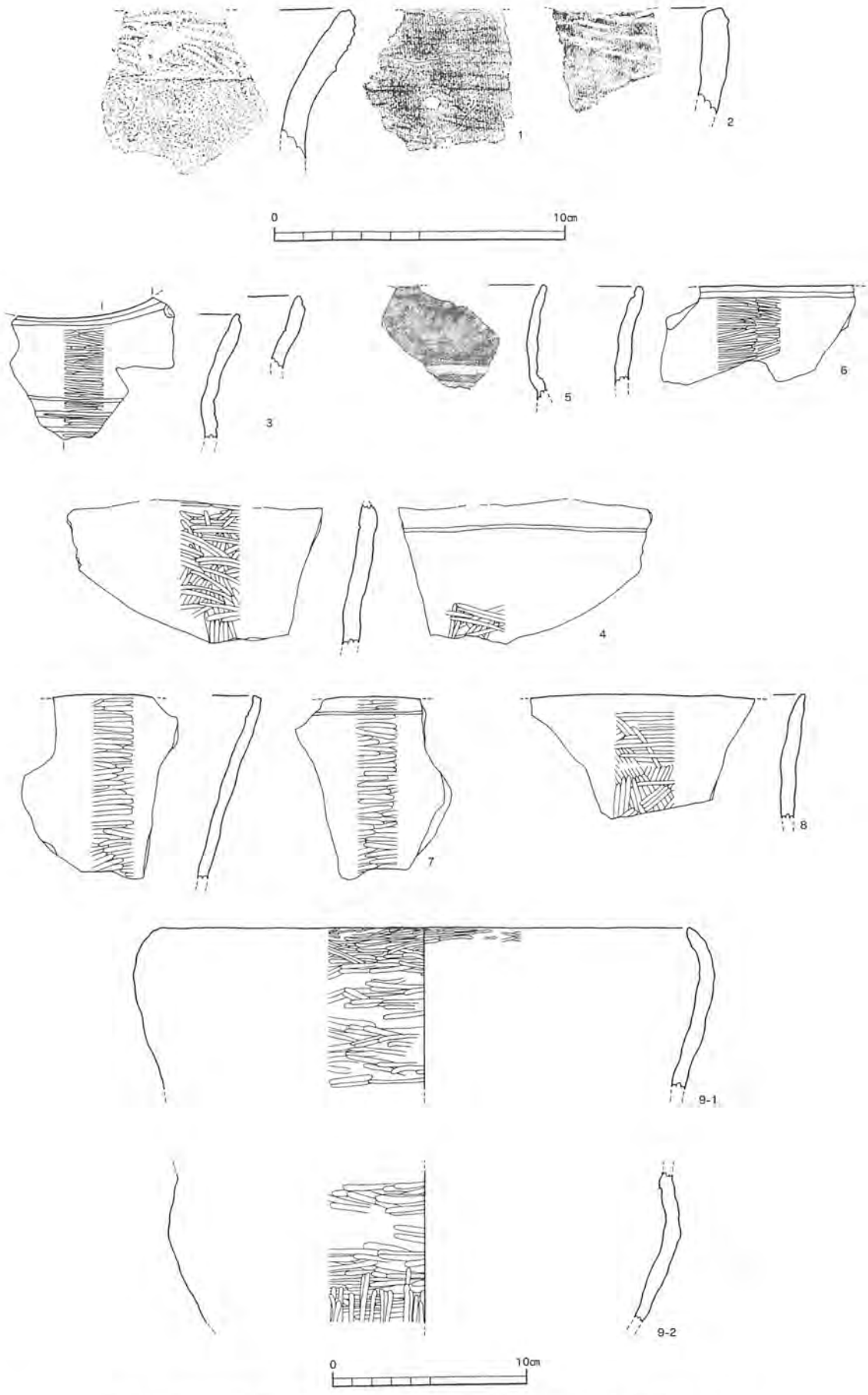
第Ⅲ-33図　2区カ地区出土縄文土器実測図2（19は1/3、その他は1/2）



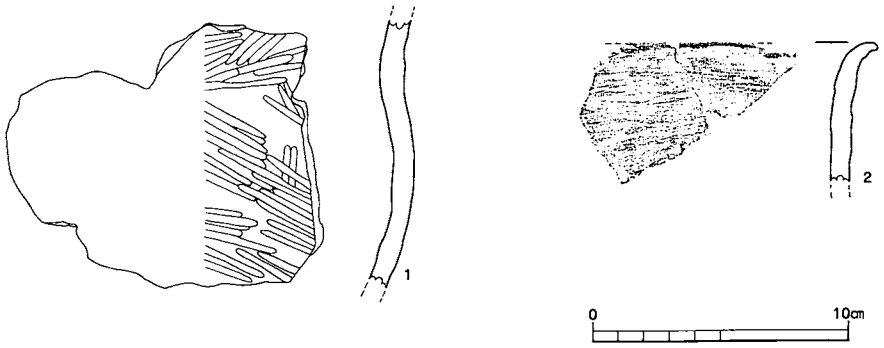
第Ⅲ-34図　2区カ地区出土縄文土器実測図3(1/2)



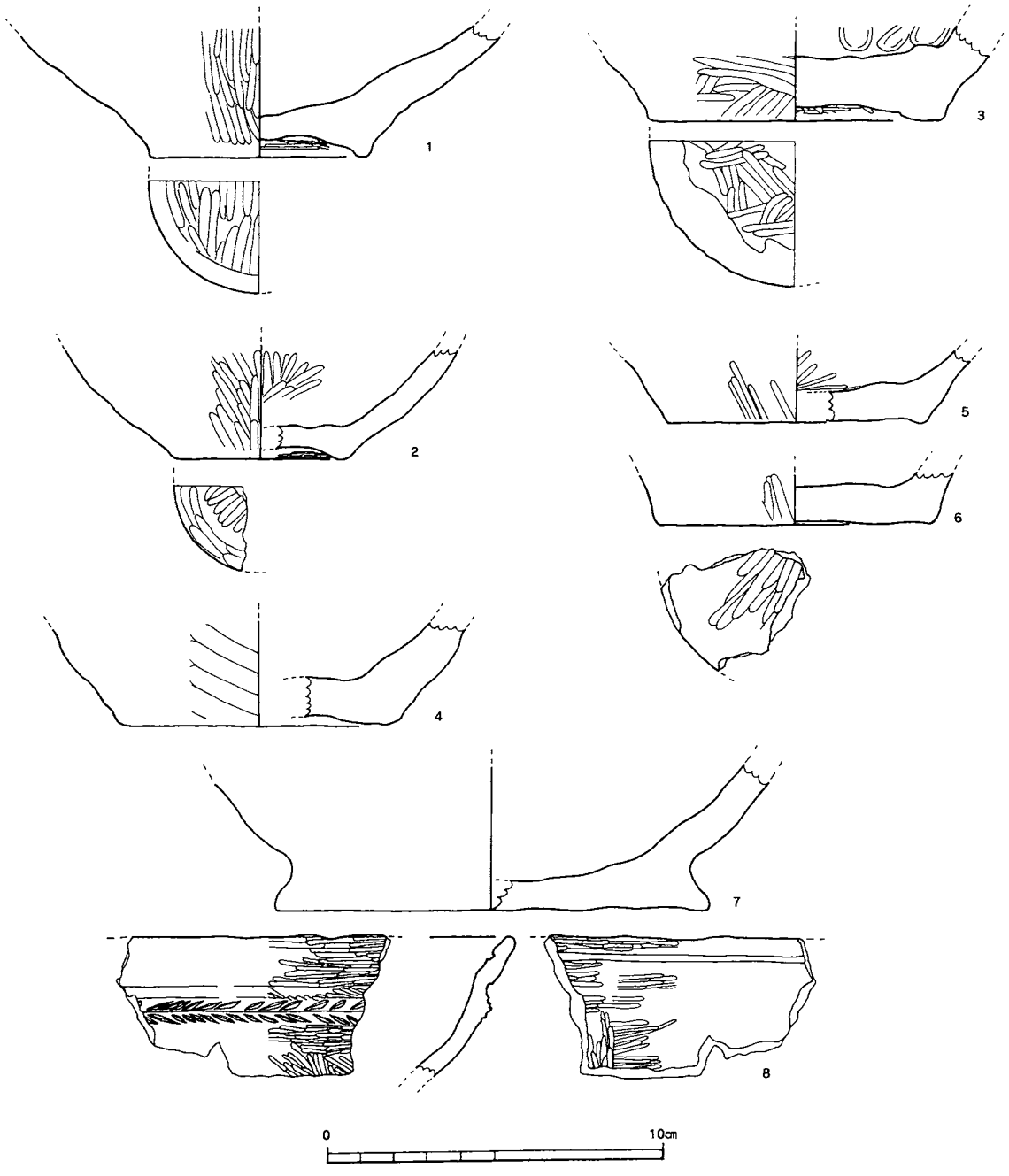
第Ⅲ-35図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図1（1/3）



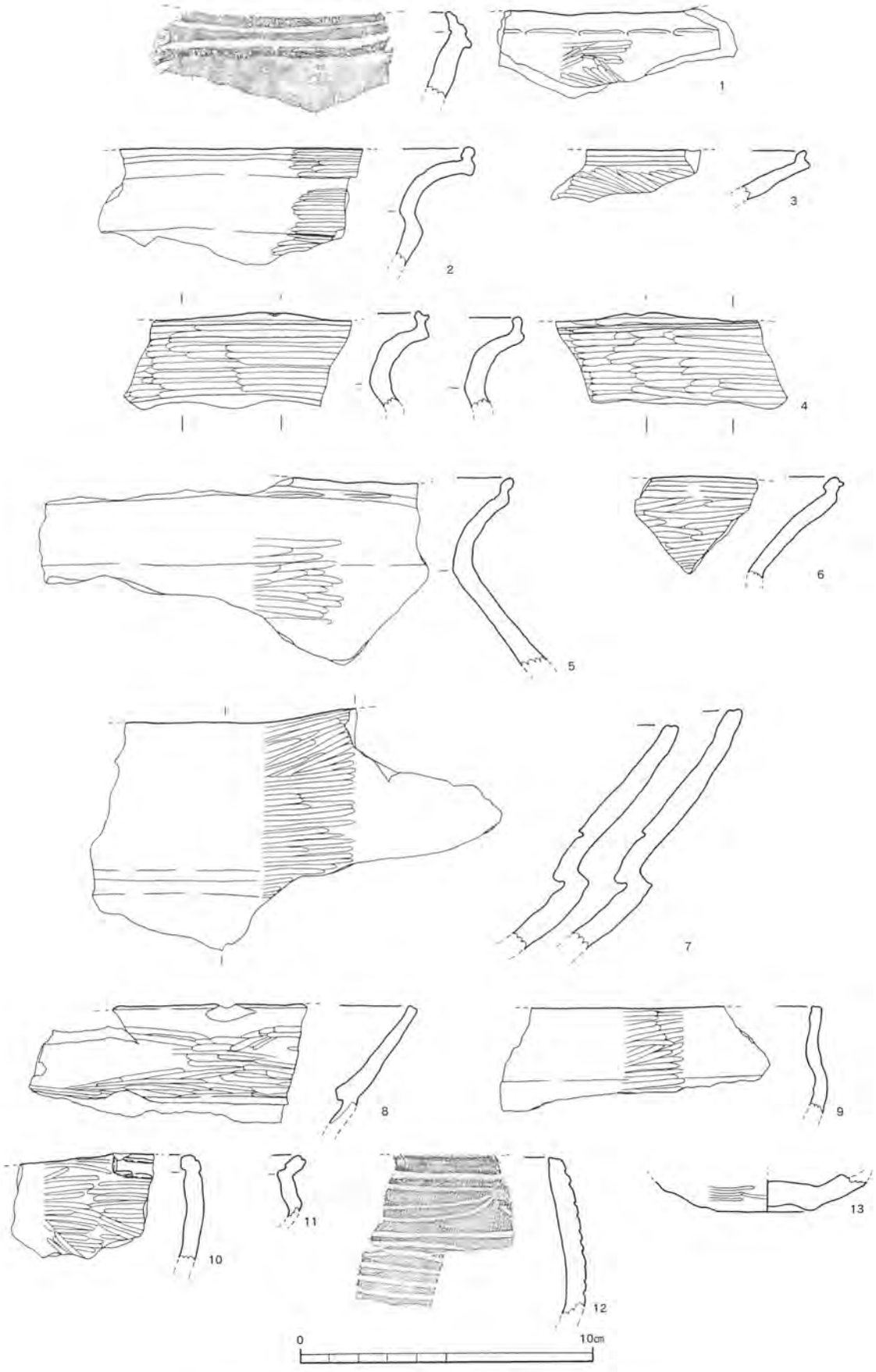
第Ⅲ-36図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図2（1・2は1/2、その他は1/3）



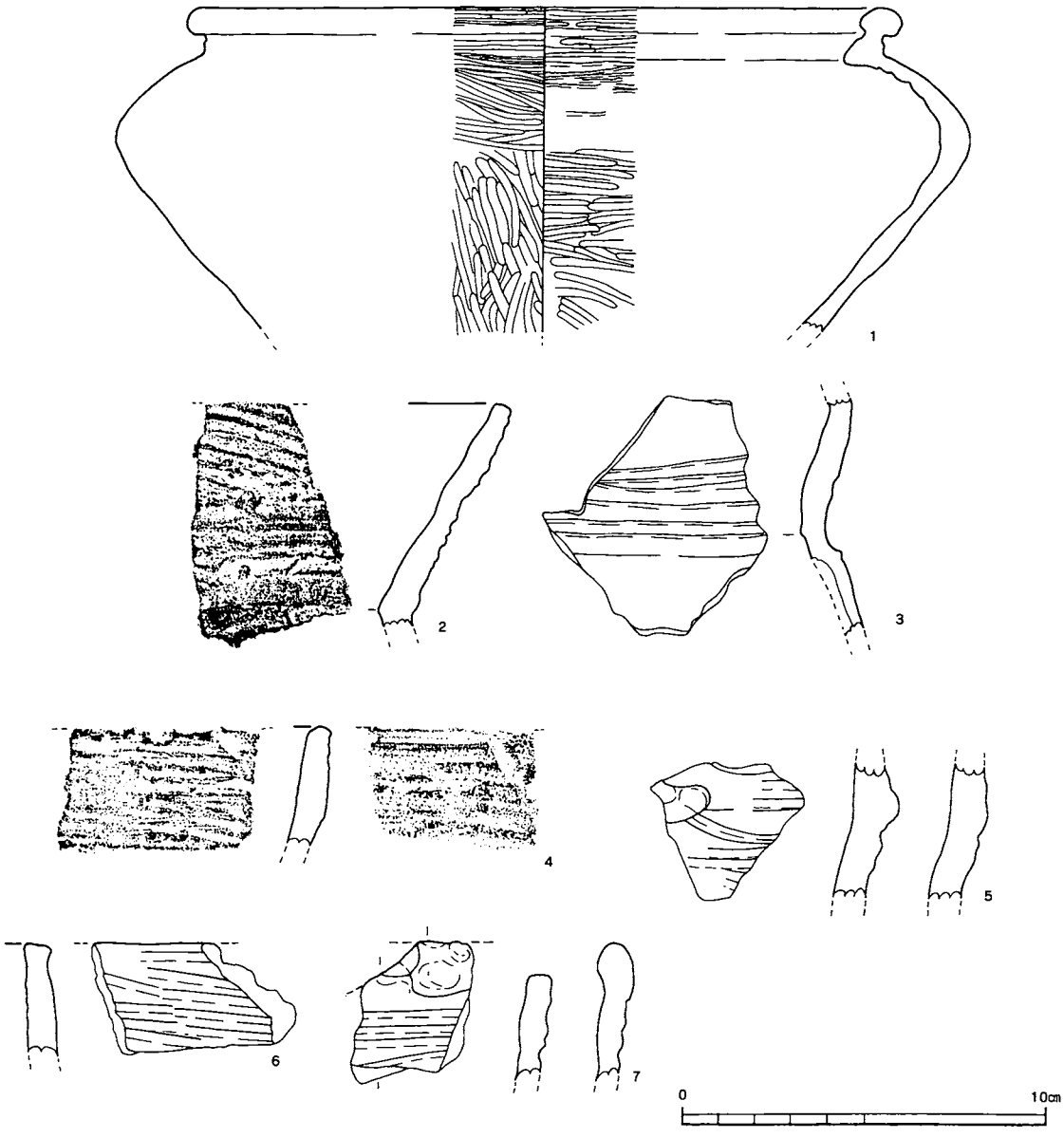
第Ⅲ-37図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図3(1/3)



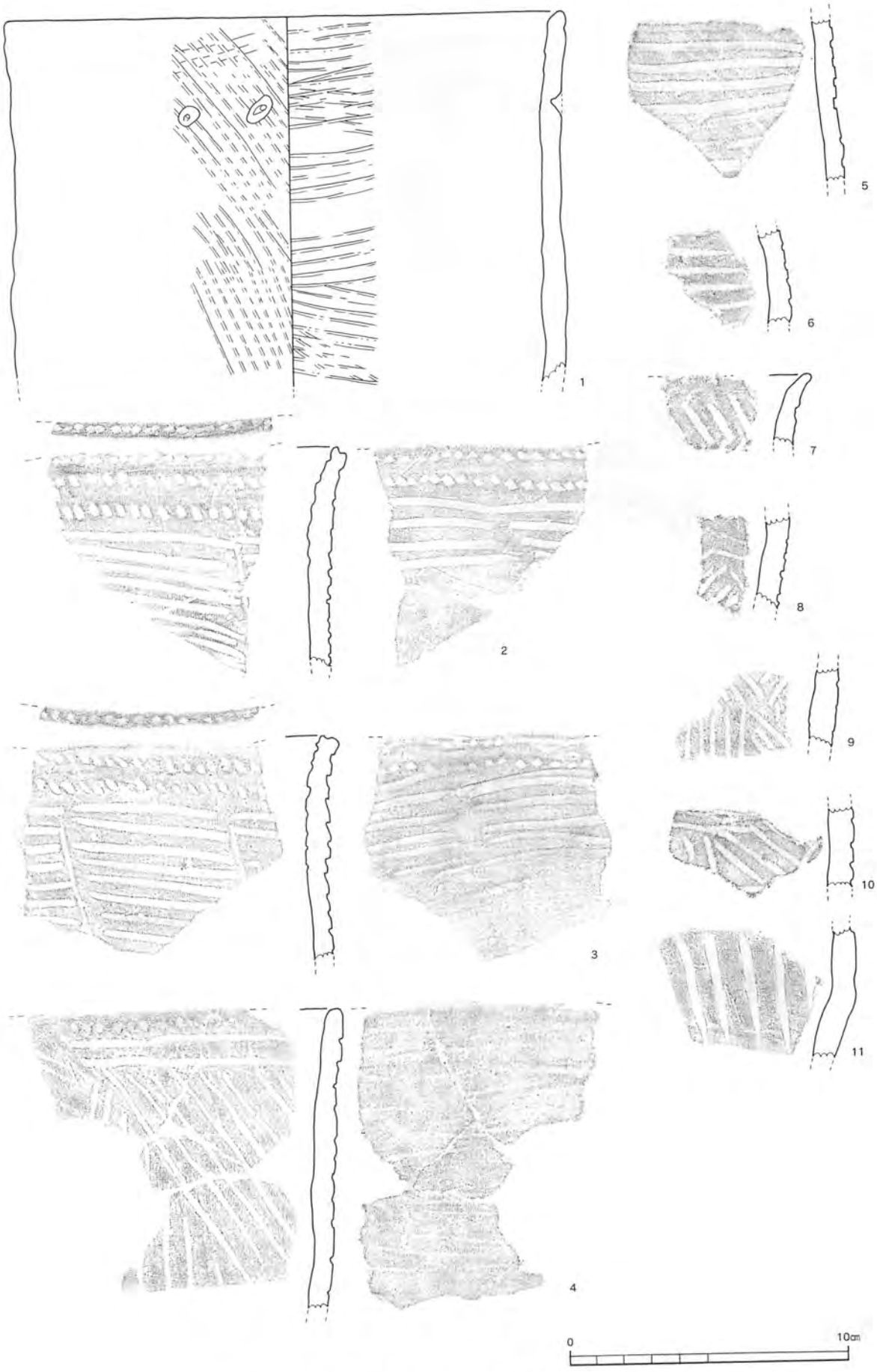
第Ⅲ-38図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図4(1/2)



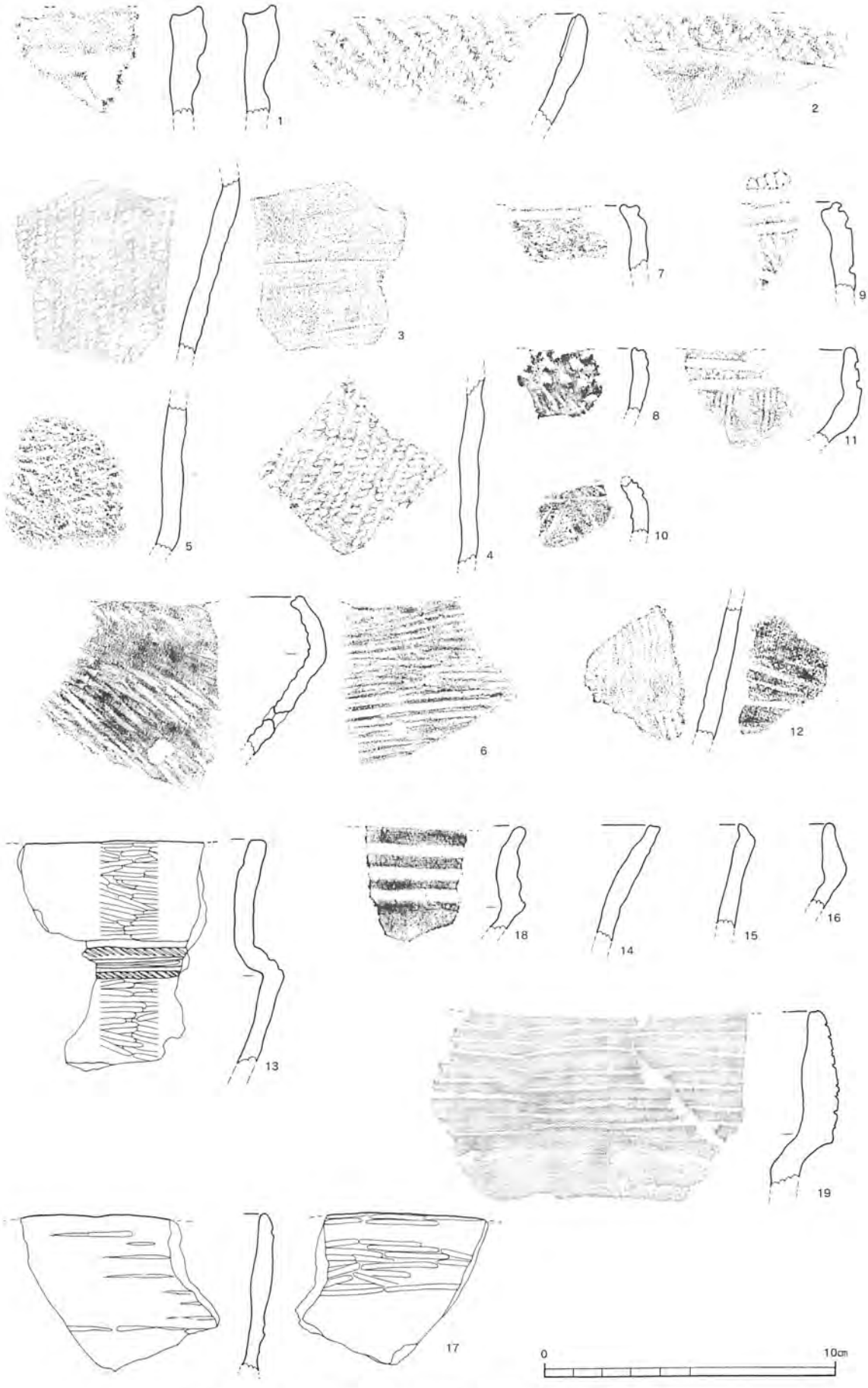
第Ⅲ-39図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図5(1/2)



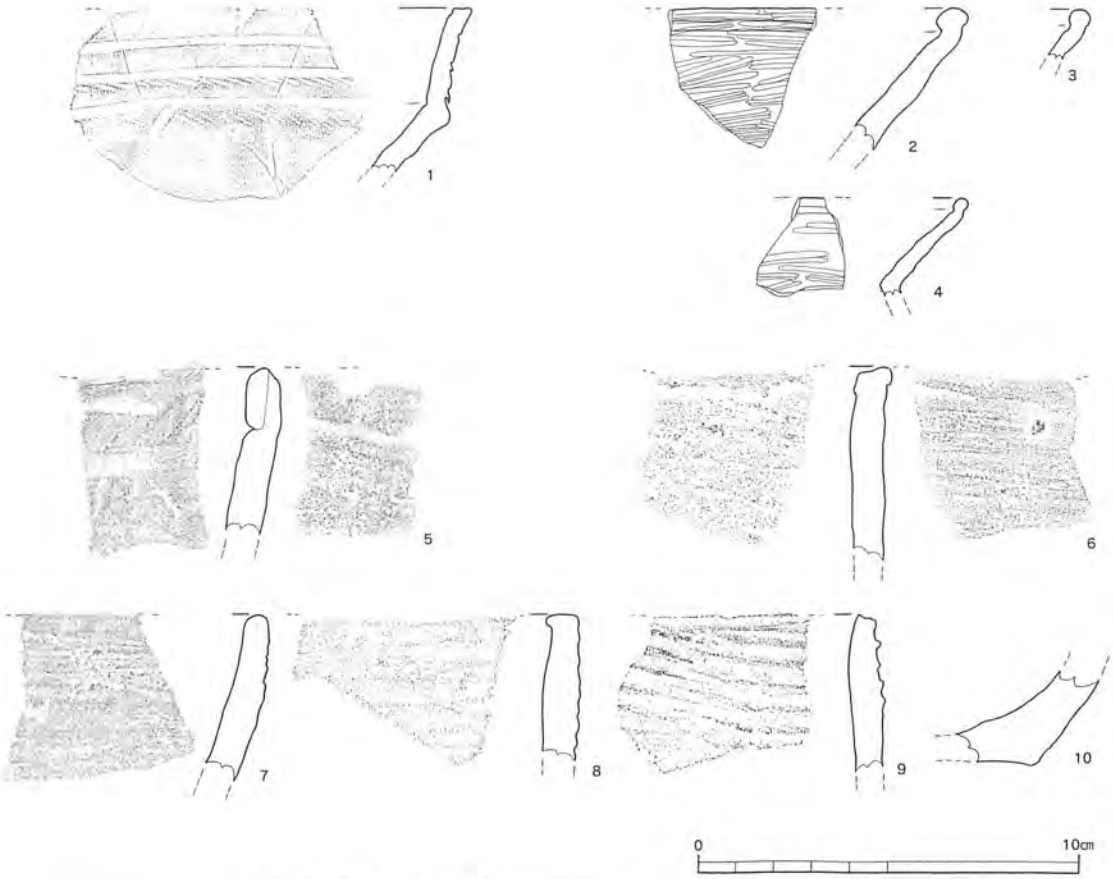
第Ⅲ-40図　2区ヨ地区出土縄文土器実測図6(1/2)



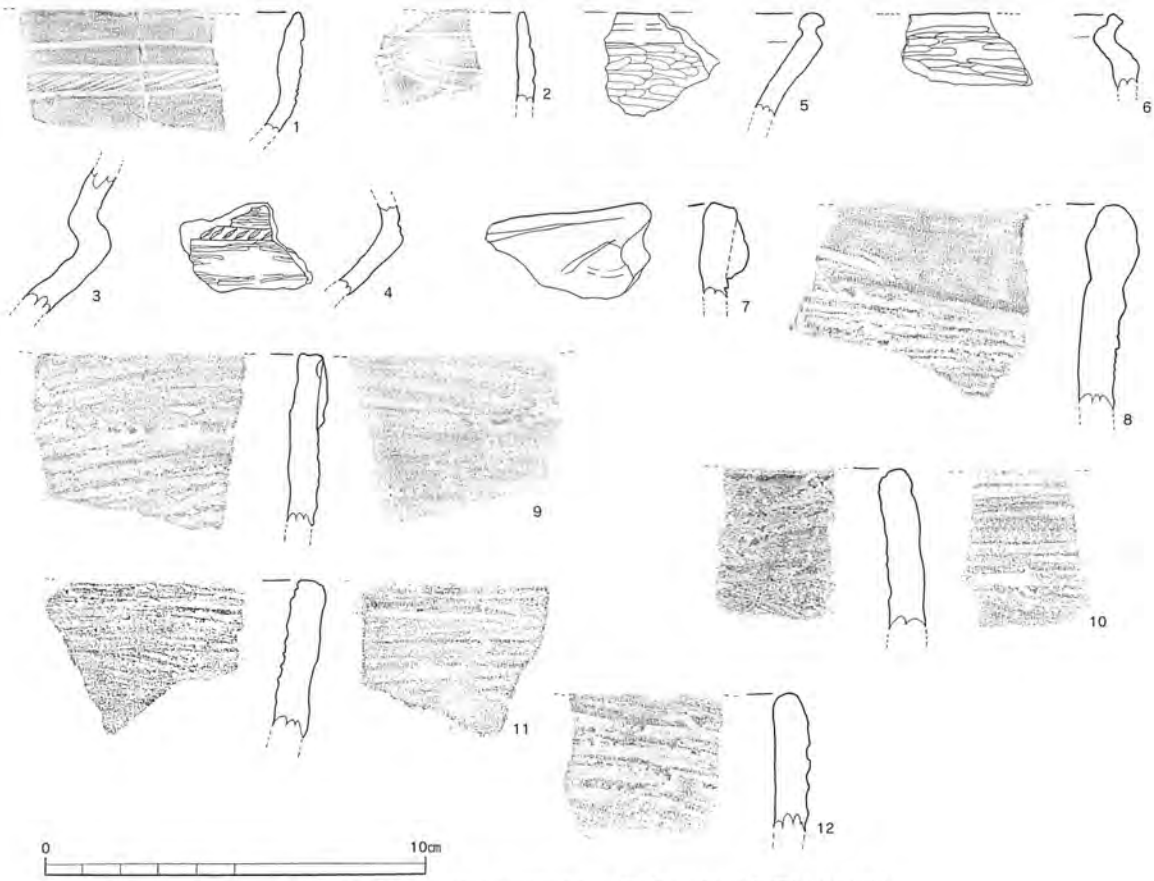
第Ⅲ-41図　2区夕地区出土縄文土器実測図1(1/2)



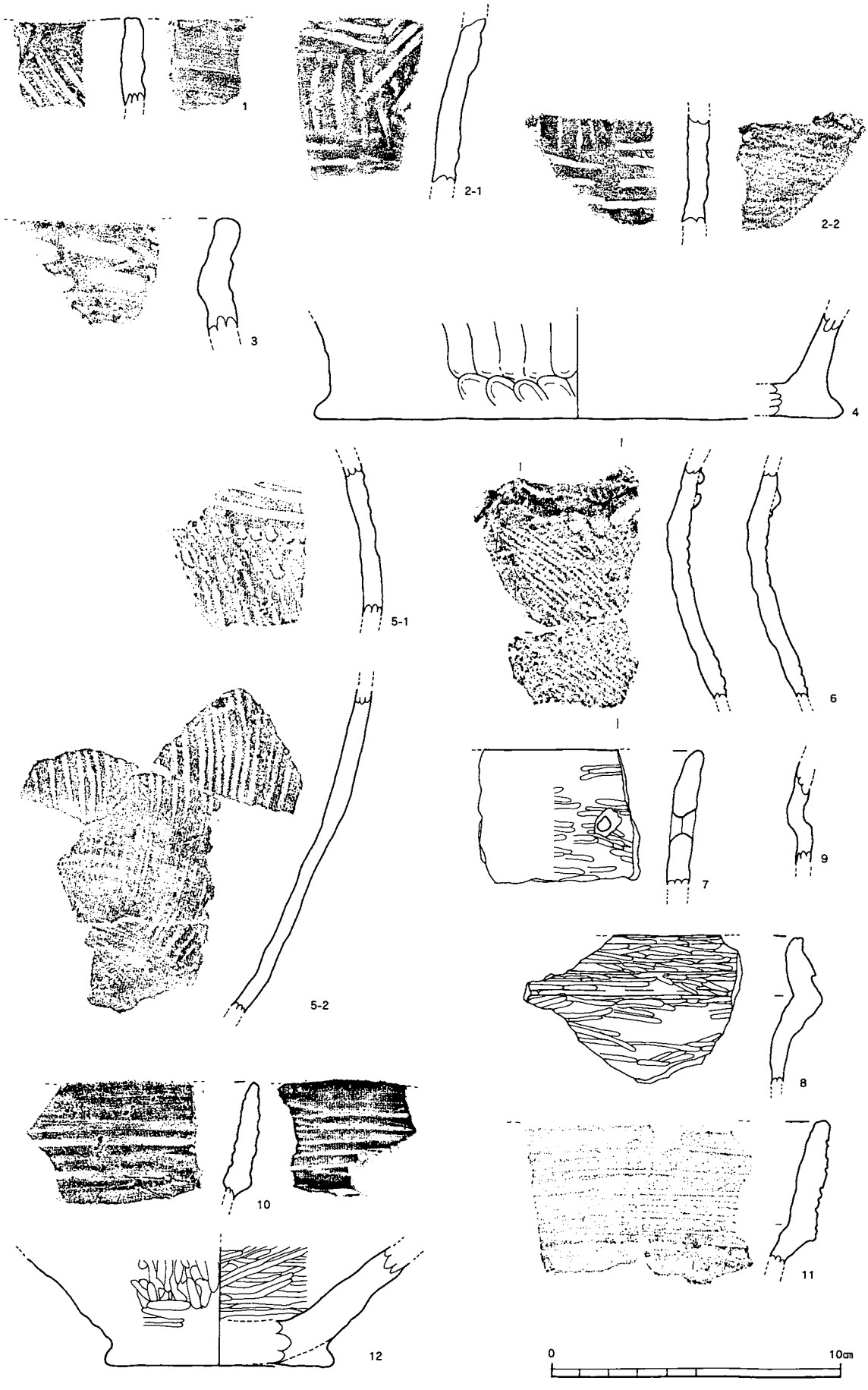
第Ⅲ-42図　2区タ地区出土縄文土器実測図2(1/2)



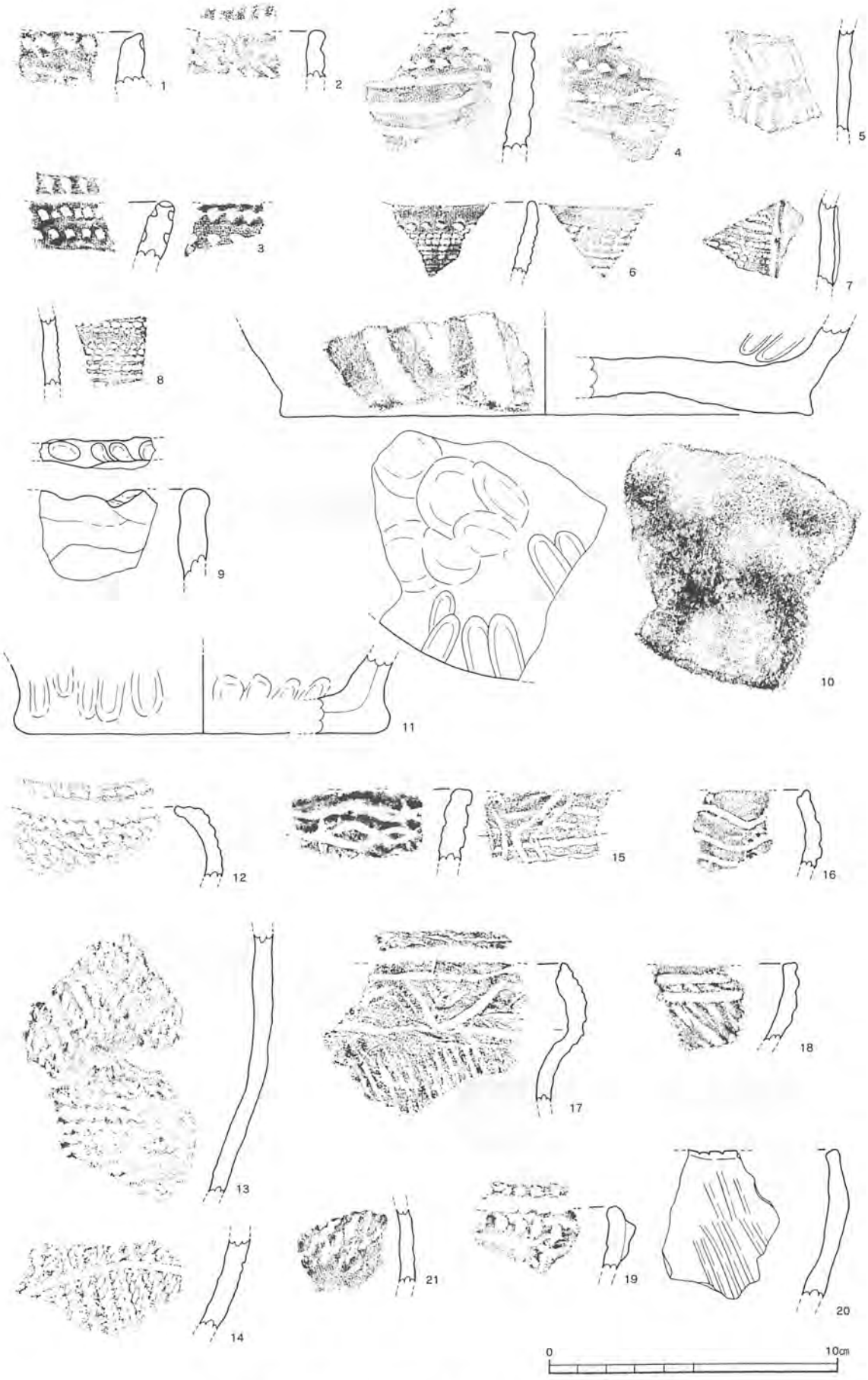
第Ⅲ-43図　2区タ地区出土縄文土器実測図3(1/2)



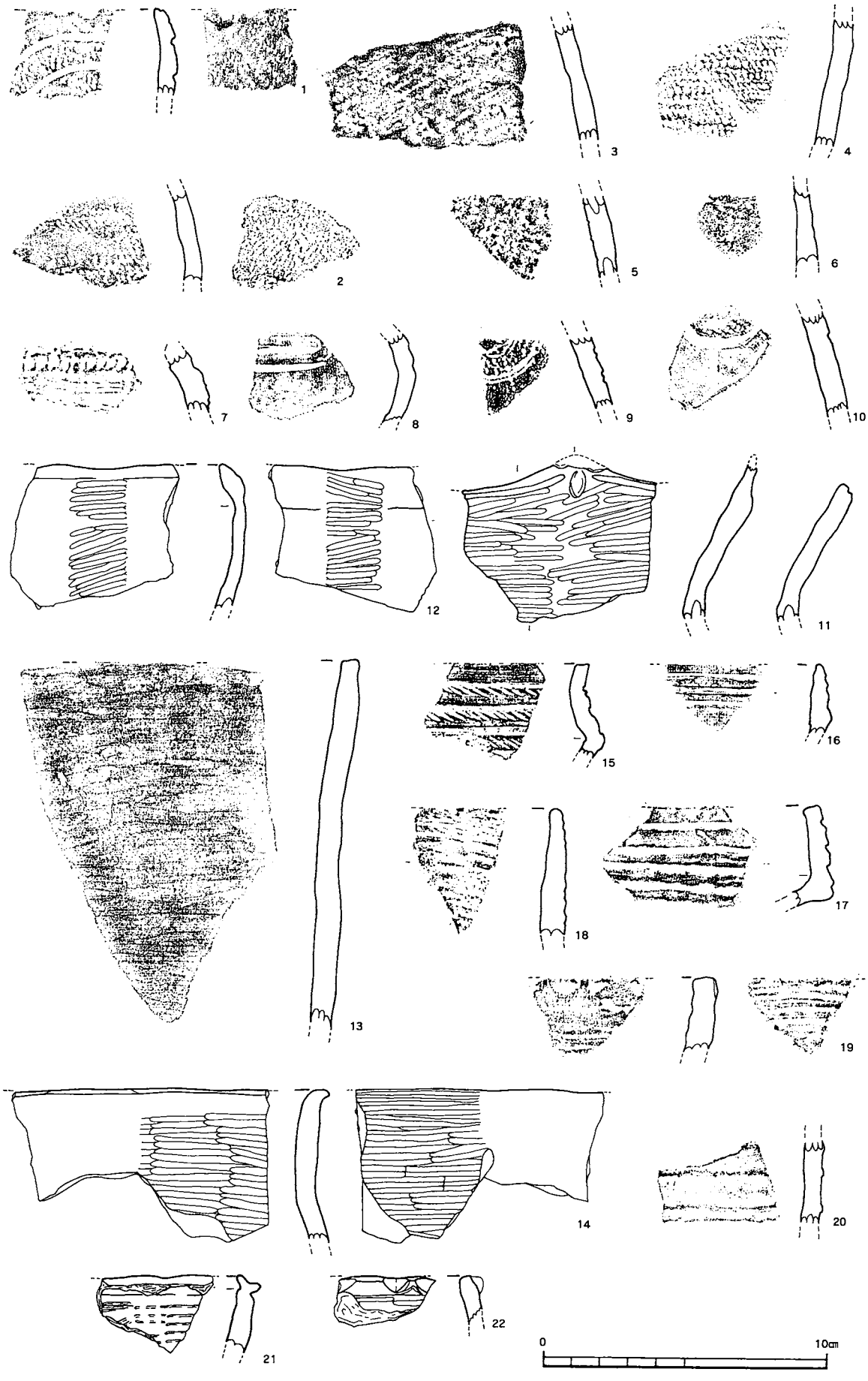
第Ⅲ-44図　2区レ地区出土縄文土器実測図1(1/2)



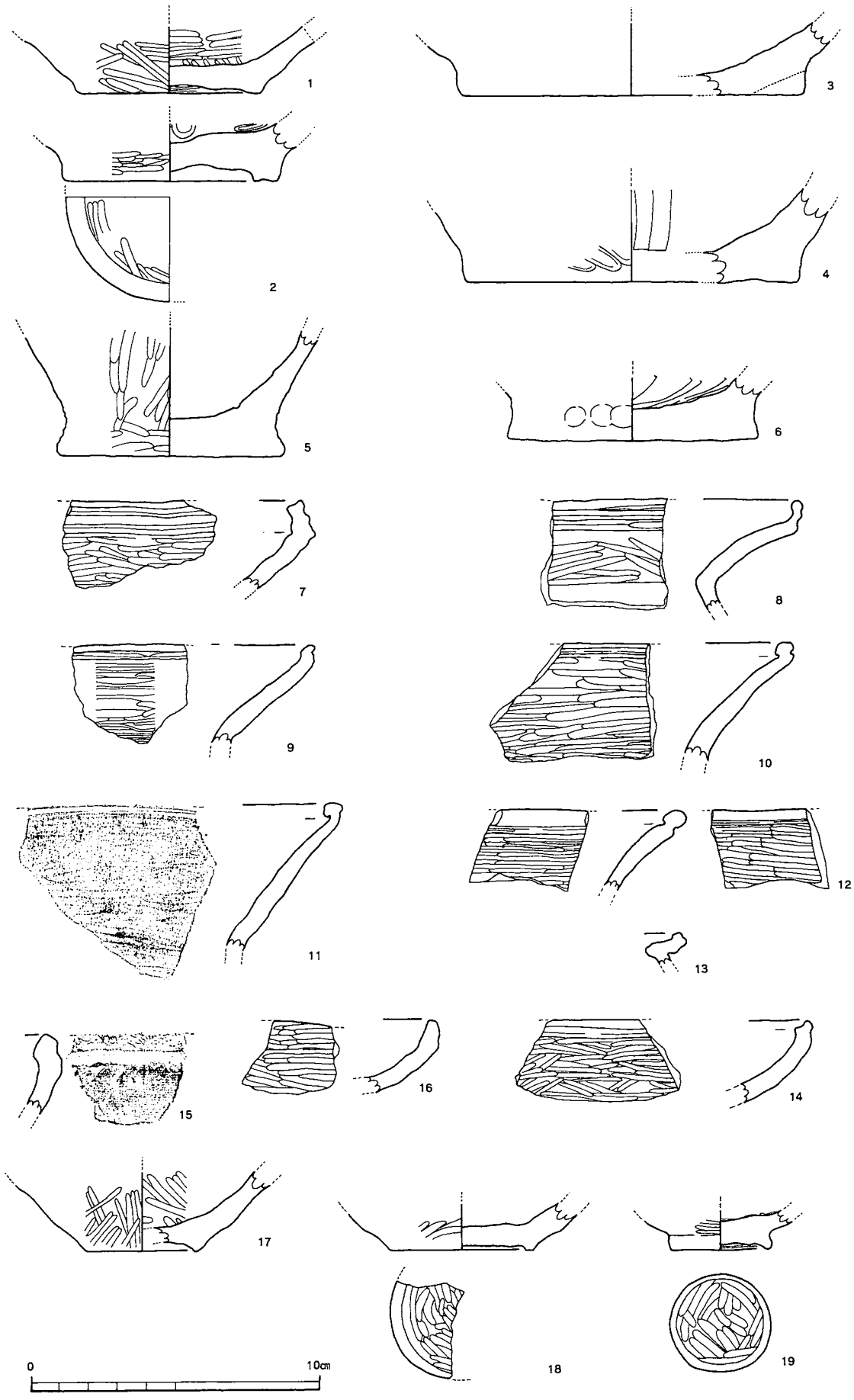
第Ⅲ-45図　2区レ地区出土縄文土器実測図2(1/2)



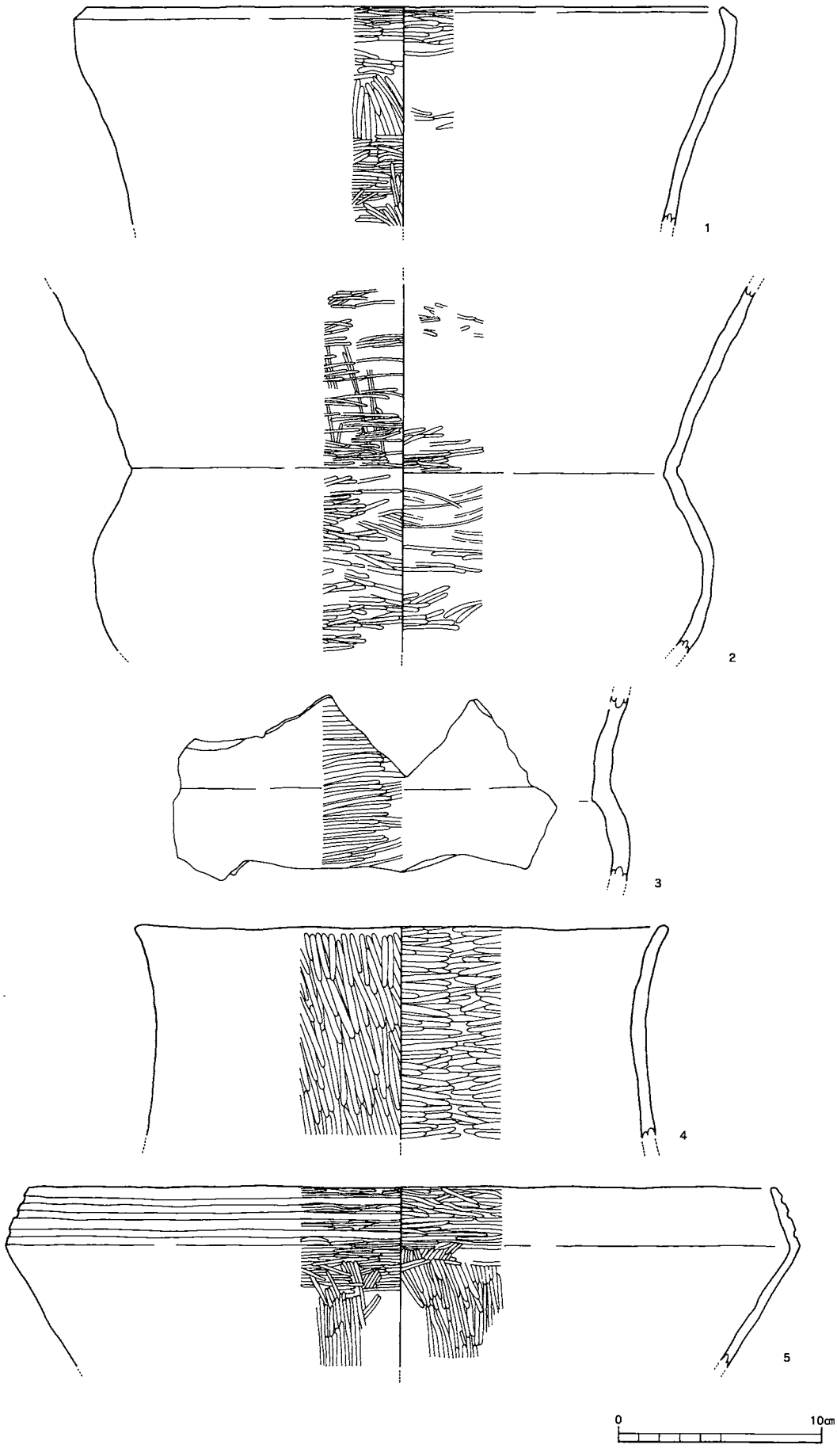
第Ⅲ-46図　2区ソ地区出土縄文土器実測図1(1/2)



第Ⅲ-47図　2区ソ地区出土縄文土器実測図2(1/2)



第Ⅲ-48図　2区ソ地区出土縄文土器実測図3(1/2)



第Ⅲ-49図　2区ソ地区出土縄文土器実測図4(1/3)

第３節 弥生時代

（1）調査の概要（第Ⅲ-50図、PL.1）

1982年の調査で弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡27軒を検出している。それら住居域の東側に３つの土器棺墓を検出している。また、ほ場整備事業中にも北側に土器棺と推定される土器を７個体発見されており、北方にも墓域が形成されていたことが推定されていた。また、南側に支石墓２基を検出し、南側にも墓域が存在していたことが判明していた。その他、土坑２基、土器溜め遺構１基が出土している。

今回の調査では、弥生時代中期から後期の竪穴住居を２区で180軒、九電鉄塔No.82区で10軒、東西水路調査区で25軒、合わせて215軒以上検出している。その他屋外炉19基、土坑55基（一部、古代に下る可能性のあるものもある。）を検出した。また、赤色顔料の入った土坑も１基検出している。

第Ⅲ-50図　梅ノ木遺跡 弥生時代遺構配置図(1/1000)

X=−16500
X=−16510
X=−16520
X=−16530
X=−16540
X=−16550
X=−16560
流路
1089
1170
1137
1153
1225
1158
1146
1147
1157
1150
1145
1143
1149
1219
1229
1148
1162
1183
1184
1187
1188
1136
1139
1199
1189
1135
1131
1091
1215
1075
1156
1161
1179
1077
1076
1119
1079
1106
1182
1186
1212
1083
1154
1111
1152
1078
1206
1080
1085
1150
1160
1110
1081
1082
1129
284
1228
1096
1108
1084
1133
1121
1163
1105
1202
1095
1200
1205
1218
1103
1097
1185
1223
1208
1113
1100
1190
1201
1204
1169
1094
1195
1124
1099
1101
1167
1203
1213
1173
287
123
1172
1198
1232
1196
129
138
1176
1088
153
1192

表1-2　2区屋外炉グリット一覧表

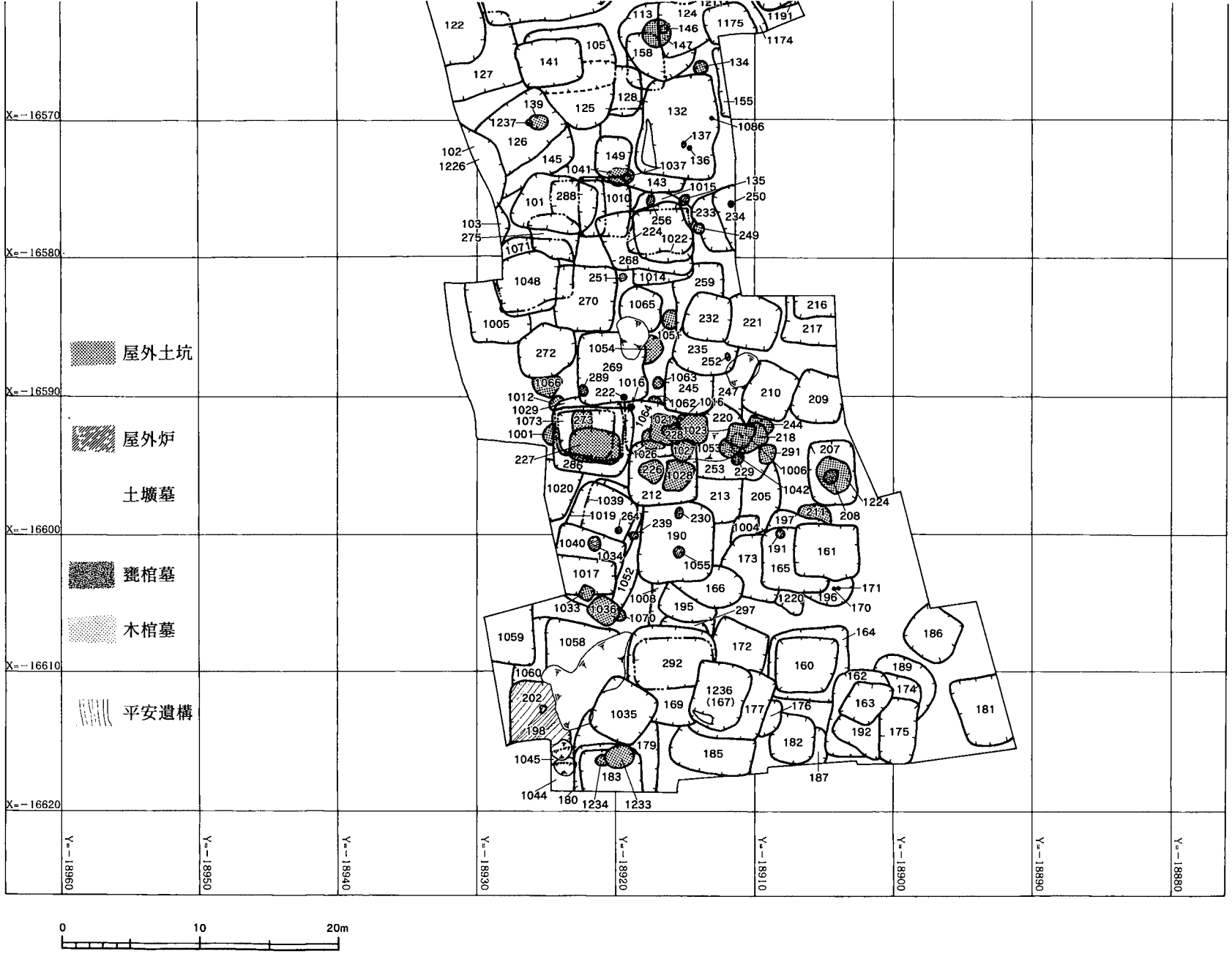
挿図番号	遺構番号	記号	グリット	備考
第Ⅲ－580図	239	ＳＸ	6912ａ	
第Ⅲ－580図	252	ＳＸ	5992ｃ	
第Ⅲ－580図	251	ＳＸ	5992ａ	
第Ⅲ－580図	250	ＳＸ	5982ｃ	
第Ⅲ－580図	137	ＳＸ	5982ｂ	
第Ⅲ－580図	136	ＳＸ	5982ｂ	
第Ⅲ－580図	1111	ＳＸ	5953ｃ	
第Ⅲ－580図	1184	ＳＸ	5942ｄ	
第Ⅲ－583図	135	ＳＸ	5982ｄ	
第Ⅲ－583図	1237	ＳＸ	5973ｄ	
第Ⅲ－735図	120	ＳＸ	5963ｃ	
第Ⅲ－583図	1110	ＳＸ	5952ｄ	
第Ⅲ－735図	202	ＳＸ	6923ａ	
第Ⅲ－585図	1055	ＳＸ	6902ｄ	
第Ⅲ－585図	1034	ＳＸ	6903ｃ	
第Ⅲ－585図	191	ＳＸ	6901ｄ	
第Ⅲ－585図	264	ＳＸ	6902ｄ	
第Ⅲ－585図	1016	ＳＸ	5992ｄ	
第Ⅲ－585図	222	ＳＸ	5993ｃ	
第Ⅲ－585図	256	ＳＸ	5982ａ	
第Ⅲ－585図	1229	ＳＸ	5934ｄ	
第Ⅲ－587図	1086	ＳＸ	5972ｃ	朱

表1-4　2区土器棺・土坑・木棺墓グリット一覧表

挿図番号	遺構番号	記号	グリット	備考
第Ⅲ－590図	230	ＳＸ	6902ｄ	
第Ⅲ－593図	208	ＳＸ	6901ｂ	
第Ⅲ－596図	229	ＳＸ	6902ａ	
第Ⅲ－599図	228	ＳＸ	6902ａ	
第Ⅲ－603図	289	ＳＸ	5993ｃ	
第Ⅲ－607図	1129	ＳＸ	5953ｄ	
第Ⅲ－608図	1150	ＳＸ	5953ｄ	
第Ⅲ－613図	1154	ＳＸ	5953ａ・ｂ	
第Ⅲ－616図	1075	ＳＸ	5953ａ・ｂ	
第Ⅲ－617図	1131	ＳＸ	5953ａ・ｂ	
第Ⅲ－622図	1083	ＳＸ	5952・5953	
第Ⅲ－623図	1076	ＳＸ	5953ａ・5954ｂ	
第Ⅲ－624図	1084	ＳＸ	5954ｃ	
第Ⅲ－629図	1108	ＳＸ	5954ｃ	
第Ⅲ－631図	1081	ＳＸ	5954ｃ	
第Ⅲ－633図	1082	ＳＸ	5954ｃ	
第Ⅲ－637図	1080	ＳＸ	5954ｃ	
第Ⅲ－639図	1078	ＳＸ	5954ｃ	
第Ⅲ－642図	1079	ＳＸ	5954	
第Ⅲ－644図	1077	ＳＸ	5954ａ・ｂ	
第Ⅲ－660図	287	ＳＸ	5953ａ	
第Ⅲ－662図	1135	ＳＸ	5954ａ・ｂ	
第Ⅲ－663図	1136	ＳＸ	5953ａ	
第Ⅲ－665図	1137	ＳＸ	5934ｂ	
第Ⅲ－667図	1153	ＳＸ	5934ｂ	

表1-3　2区屋外土坑グリット一覧表

挿図番号	遺構番号	記号	グリット	備考
第Ⅲ－531図	1234	ＳＫ	6923ｂ・ｃ	
第Ⅲ－531図	1233	ＳＫ	6922ａ・ｄ	
第Ⅲ－531図	1033	ＳＫ	6913ｂ	
第Ⅲ－531図	1036	ＳＫ	6913ｂ・ｃ、6912ａ	
第Ⅲ－531図	1070	ＳＫ	6912ａ・ｄ	
第Ⅲ－531図	1224	ＳＫ	6901ａ・ｂ・ｃ・ｄ	
第Ⅲ－531図	211	ＳＫ	6901ｄ	
第Ⅲ－534図	171	ＳＫ	6911ｂ	
第Ⅲ－534図	170	ＳＸ	6911ｂ	
第Ⅲ－538図	244	ＳＸ	6901ａ、6902ｂ	
第Ⅲ－538図	218	ＳＸ	6901ａ、6902ｂ	
第Ⅲ－538図	1042	ＳＫ	6902ｂ	
第Ⅲ－538図	1006	ＳＸ	6902ｂ	
第Ⅲ－538図	1053	ＳＸ	6902ｂ	
第Ⅲ－538図	291	ＳＸ	6901ａ	
第Ⅲ－545図	1027	ＳＫ	6902ａ	
第Ⅲ－545図	1026	ＳＫ	6902ａ	
第Ⅲ－545図	1021	ＳＫ	6902ａ	
第Ⅲ－545図	1023	ＳＫ	6902ｂ	
第Ⅲ－552図	1028	ＳＫ	6902ａ	
第Ⅲ－552図	226	ＳＫ	6902ａ	
第Ⅲ－554図	227	ＳＫ	6903ｂ、6902ａ	
第Ⅲ－554図	273	ＳＫ	6903ｂ	
第Ⅲ－554図	1001	ＳＫ	6903ｂ	
第Ⅲ－560図	1012	ＳＫ	5993ｃ	
第Ⅲ－560図	1066	ＳＫ	5993ｄ	
第Ⅲ－560図	1062	ＳＫ	5992ｄ	
第Ⅲ－560図	1063	ＳＫ	5992ｄ	
第Ⅲ－560図	1054	ＳＫ	5992ｄ	
第Ⅲ－560図	1051	ＳＫ	5992ａ	
第Ⅲ－562図	249	ＳＸ	5982ｃ	
第Ⅲ－562図	1041	ＳＫ	5982ａ	
第Ⅲ－562図	1037	ＳＫ	5982ａ	
第Ⅲ－562図	134	ＳＫ	5972ｃ	
第Ⅲ－562図	139	ＳＫ	5973ｃ	
第Ⅲ－562図	147	ＳＫ	5972ａ	
第Ⅲ－562図	146	ＳＫ	5972ａ	
第Ⅲ－569図	1232	ＳＫ	5962ｄ	
第Ⅲ－569図	1223	ＳＫ	5962ｂ	
第Ⅲ－569図	1228	ＳＫ	5953ｃ	
第Ⅲ－569図	1217	ＳＫ	5954ｃ	
第Ⅲ－569図	1085	ＳＫ	5954ｃ	
第Ⅲ－569図	1212	ＳＫ	5954ｃ	
第Ⅲ－569図	1106	ＳＫ	5953ａ	
第Ⅲ－569図	1161	ＳＫ	5953ａ	
第Ⅲ－569図	1141	ＳＫ	5953ｂ	
第Ⅲ－569図	1187	ＳＫ	5942ｄ	
第Ⅲ－569図	1199	ＳＫ	5942ｄ	
第Ⅲ－571図	1114	ＳＸ	5964ｃ、5963ｄ	
第Ⅲ－571図	1156	ＳＫ	5953ｂ	
第Ⅲ－571図	1149	ＳＫ	5934ｄ	
第Ⅲ－571図	1225	ＳＫ	5934ａ・ｄ	
第Ⅲ－571図	1140	ＳＫ	5933ａ・ｄ	
第Ⅲ－571図	1170	ＳＫ	5933ｂ	
第Ⅲ－574図	1091	ＳＸ	5953ａ	



第Ⅲ-51図　2区遺構配置図（1/400）

表1-1　2区竪穴住居グリット一覧表

挿図番号	遺構番号	記号	グリット	備考
第Ⅲ－8図	1221	SX	6901c	縄文時代遺構第Ⅲ-51図には省略
第Ⅲ－9図	1214	SX	5972b	
第Ⅲ－10図	1227	SX	5961d，5971a	
第Ⅲ－52図	181	SI	6920a・b，6910c	
第Ⅲ－54図	186	SI	6910a・d	
第Ⅲ－56図	189	SI	6910d，6920a，6911c	
第Ⅲ－56図	174	SI	6910d，6920a，6911c	
第Ⅲ－56図	162	SI	6921b，6911c	
第Ⅲ－56図	192	SI	6921b，6911c	
第Ⅲ－56図	175	SI	6920a，6921b	
第Ⅲ－56図	163	SI	6921b，6911c	
第Ⅲ－69図	164	SI	6911c・d，6921c・d	
第Ⅲ－69図	160	SI	6911c・d，6921c・d	
第Ⅲ－75図	172	SI	6912c，6911d	
第Ⅲ－76図	187	SI	6921a	
第Ⅲ－76図	182	SI	6921a	
第Ⅲ－76図	176	SI	6921a	
第Ⅲ－76図	185	SI	6922a・b	
第Ⅲ－76図	177	SI	6922b，6921a，6911d	
第Ⅲ－76図	1236	SI	6922b，6911c	
第Ⅲ－90図	297	SI	6912a・b	
第Ⅲ－90図	169	SI	6912c・d，6922a	
第Ⅲ－100図	292	SI	6912c・d，6922a	
第Ⅲ－102図	1045	SI	6923c	
第Ⅲ－102図	1044	SI	6923c	
第Ⅲ－102図	179	SI	6922a・d，6923b・c	
第Ⅲ－102図	180	SI	6922d，6923c	
第Ⅲ－102図	183	SI	6922d，6923c	
第Ⅲ－102図	1035	SI	6922a，6923b	
第Ⅲ－732図	198	SI	6923a・b	
第Ⅲ－117図	1060	SI	6913d	
第Ⅲ－117図	1058	SI	6913c	
第Ⅲ－117図	1059	SI	6913d	
第Ⅲ－119図	1039	SI	6902d，6903c	
第Ⅲ－123図	1052	SI	6912a，6902d	
第Ⅲ－123図	1019	SI	6903c，6902d	
第Ⅲ－123図	1040	SI	6903c，6913b，6912a	
第Ⅲ－127図	1017	SI	6913b	
第Ⅲ－128図	1020	SI	6903c・d	
第Ⅲ－131図	1008	SI	6912a・b	
第Ⅲ－131図	195	SI	6912a・b	
第Ⅲ－131図	166	SI	6912b	
第Ⅲ－131図	190	SI	6902c・d，6912a・b	
第Ⅲ－140図	212	SI	6902a・d	
第Ⅲ－146図	1004	SI	6902c，6901d	
第Ⅲ－146図	1220	SI	6911a	
第Ⅲ－146図	173	SI	6911a，6912b	
第Ⅲ－148図	197	SI	6901d	
第Ⅲ－148図	196	SI	6911c・d，6921c・d	
第Ⅲ－148図	165	SI	6911a，6901d	
第Ⅲ－148図	161	SI	6901c・d，6911a・b	
第Ⅲ－159図	207	SI	6901a・b・c・d	
第Ⅲ－162図	205	SI	6901d，6902c	
第Ⅲ－162図	213	SI	6902b・c	
第Ⅲ－162図	253	SI	6902b・c	
第Ⅲ－165図	210	SI	5991d，6901a	
第Ⅲ－170図	209	SI	5991d，6901a	
第Ⅲ－174図	216	SI	5991a	
第Ⅲ－174図	217	SI	5991a	
第Ⅲ－178図	221	SI	5991a，5992b	
第Ⅲ－181図	259	SI	5992a・b，5982c	
第Ⅲ－181図	247	SI	5992c	
第Ⅲ－181図	245	SI	5992c・d	
第Ⅲ－181図	235	SI	5992b・c	
第Ⅲ－181図	220	SI	6902b，5992c	
第Ⅲ－194図	232	SI	5992b・c	
第Ⅲ－196図	1064	SI	6902a，5992d	
第Ⅲ－198図	1073	SI	6903b	
第Ⅲ－199図	1029	SI	6903b，5993c	
第Ⅲ－202図	286	SI	6903b，6902a	
第Ⅲ－206図	269	SI	5993c，5992d	
第Ⅲ－212図	1065	SI	5992a	
第Ⅲ－214図	270	SI	5993b	
第Ⅲ－217図	1071	SI	5993a・b，5983c・d	
第Ⅲ－220図	1005	SI	5993a	
第Ⅲ－220図	1048	SI	5993a，5983d	
第Ⅲ－224図	272	SI	5993a・b・c・d	
第Ⅲ－228図	275	SI	5983c・d	
第Ⅲ－231図	1010	SI	5983b・c，5982a・d	
第Ⅲ－232図	288	SI	5983b・c	
第Ⅲ－234図	101	SI	5983a・b・c・d	
第Ⅲ－240図	1014	SI	5982d，5992a	
第Ⅲ－241図	1022	SI	5982d	
第Ⅲ－242図	1015	SI	5982a	
第Ⅲ－242図	268	SI	5982d・5983c	
第Ⅲ－242図	224	SI	5982d	
第Ⅲ－246図	233	SI	5982c	
第Ⅲ－247図	234	SI	5982c	

挿図番号	遺構番号	記号	グリット	備考
第Ⅲ－250図	143	SI	5982a，5972d，5983b，5973c	
第Ⅲ－250図	149	SI	5982a，5983b	
第Ⅲ－253図	132	SI	5972c・d，・5982a・b	
第Ⅲ－260図	145	SI	5983a・b	
第Ⅲ－260図	126	SI	5973c・d，5983a	
第Ⅲ－51図	103	SI	5983d	単独図版なし
第Ⅲ－267図	1226	SI	5983a	
第Ⅲ－272図	105	SI	5973a・b	
第Ⅲ－272図	128	SI	5972d	
第Ⅲ－272図	125	SI	5973c	
第Ⅲ－272図	141	SI	5973a・b・c・d	
第Ⅲ－277図	155	SI	5972b・c	
第Ⅲ－279図	127	SI	5973a・d，5974c	
第Ⅲ－279図	122	SI	5974b，5973a，5964c	
第Ⅲ－284図	158	SI	5972a・d	
第Ⅲ－288図	113	SI	5972a・d	
第Ⅲ－292図	1174	SI	5962c，5972b	
第Ⅲ－292図	124	SI	5972a・b	
第Ⅲ－298図	1175	SI	5972b	
第Ⅲ－300図	1194	SI	5961d，5971a	
第Ⅲ－305図	1192	SI	5961d，5971a	
第Ⅲ－307図	1176	SI	5961d，5971a	
第Ⅲ－309図	1191	SI	5971a	
第Ⅲ－311図	153	SI	5962d	
第Ⅲ－314図	1209	SI	5962c	
第Ⅲ－314図	1211	SI	5962c	
第Ⅲ－314図	138	SI	5962d	
第Ⅲ－320図	1213	SI	5962a・b	
第Ⅲ－321図	1201	SI	5962a・d	
第Ⅲ－323図	123	SI	5962a・b・c・d	
第Ⅲ－335図	1204	SI	5962b	
第Ⅲ－335図	1198	SI	5961a	
第Ⅲ－337図	1195	SI	5962a・b	
第Ⅲ－337図	1203	SI	5962a・b	
第Ⅲ－337図	1208	SI	5962a・b	
第Ⅲ－337図	1094	SI	5962a，5963b	
第Ⅲ－342図	1196	SI	5962b・c	
第Ⅲ－345図	1172	SI	5962b・c	
第Ⅲ－351図	1173	SI	5962b・c，5961a・d	
第Ⅲ－353図	1202	SI	5962b，5952c	
第Ⅲ－353図	1205	SI	5962b，5952c	
第Ⅲ－353図	1178	SI	5952c・d，5962b	
第Ⅲ－358図	1105	SI	5962a・b，5952c・d	
第Ⅲ－363図	1190	SI	5963b，5962a	(第二・三面Ⅲ－362図)
第Ⅲ－370図	1185	SI	5963b，5962a	
第Ⅲ－375図	1095	SI	5963b，5962a	(第二面Ⅲ－374図)
第Ⅲ－381図	1167	SI	5962a・5963b	
第Ⅲ－381図	1163	SI	5962a・5963b	
第Ⅲ－385図	1169	SI	5963a・b	
第Ⅲ－388図	1100	SI	5963a，5964b	
第Ⅲ－388図	1097	SI	5963a・b	
第Ⅲ－394図	129	SI	5963a・b・c・d，5973a・b	(第二面Ⅲ－392図・第三面Ⅲ－391図)
第Ⅲ－405図	1113	SI	5964b	(第二面Ⅲ－403図)
第Ⅲ－405図	1088	SI	5964c	(第二面Ⅲ－404図)
第Ⅲ－405図	1124	SI	5964c	
第Ⅲ－405図	1218	SI	5964a，5954d	
第Ⅲ－409図	1099	SI	5964b・c	
第Ⅲ－409図	1101	SI	5964c	
第Ⅲ－413図	1133	SI	5954c，5953d	
第Ⅲ－413図	1103	SI	5954c，5964b	
第Ⅲ－419図	1215	SI	5953a	
第Ⅲ－419図	1121	SI	5953d	
第Ⅲ－419図	1160	SI	5953a・b・c・d	
第Ⅲ－424図	1139	SI	5943c，5953b	
第Ⅲ－424図	1119	SI	5953b	
第Ⅲ－424図	1152	SI	5952b・c，5952d	
第Ⅲ－428図	1200	SI	5952d，5962a	
第Ⅲ－428図	1096	SI	5952d，5962c	
第Ⅲ－436図	284	SI	5952c	
第Ⅲ－439図	1206	SI	5952d	
第Ⅲ－440図	1186	SI	5952b・c，5952d	
第Ⅲ－440図	1182	SI	5952d	
第Ⅲ－445図	1189	SI	5942d	
第Ⅲ－445図	1179	SI	5952a・d	
第Ⅲ－448図	1188	SI	5942d	
第Ⅲ－448図	1183	SI	5942d	
第Ⅲ－454図	1147	SI	5933a・b	
第Ⅲ－454図	1146	SI	5933a・5934b	
第Ⅲ－457図	1145	SI	5933d，5934c	
第Ⅲ－459図	1143	SI	5934c	
第Ⅲ－460図	1157	SI	5934a・d	
第Ⅲ－460図	1158	SI	5934d	
第Ⅲ－460図	1219	SI	5934d	
第Ⅲ－463図	1148	SI	5934c・d，5944a・b	
第Ⅲ－463図	1162	SI	5934d，5944a	
第Ⅲ－464図	1089	SI	5924d	
第Ⅲ－465図	279	SX	5991d	

墓域も新たに20基土器棺を検出し、西側・北側に3群の土器棺の墓域を検出した。また、東側の墓域（塚坊主付近）にも土器棺を1基検出しており、1次調査で確認していた墓域の広がりを確認できた。また、隣接して、木棺墓群61基以上が検出された。

（2）竪穴住居

① 2区の調査

181SI（第Ⅲ-52・53図、PL.25）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は、削平されていると考えられる。床面の標高は約53.7 mで、主軸の方位は、N-5°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、東側が調査区外、南側は撹乱によって壊されており、長軸5.38 m、短軸3.43 m以上を測る。床面積は15.81 ㎡で、検出面からの深さは0.36 mである。硬化面は床全体に認められた。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～44 ㎝、深さは20～30 ㎝で、柱痕跡は認識できない。

炉　住居の中央部に位置し、長軸55 ㎝、短軸46 ㎝、深さ8 ㎝を測る。断面は皿状を呈する。埋土は1層からなり、焼土や炭化物が含まれている。

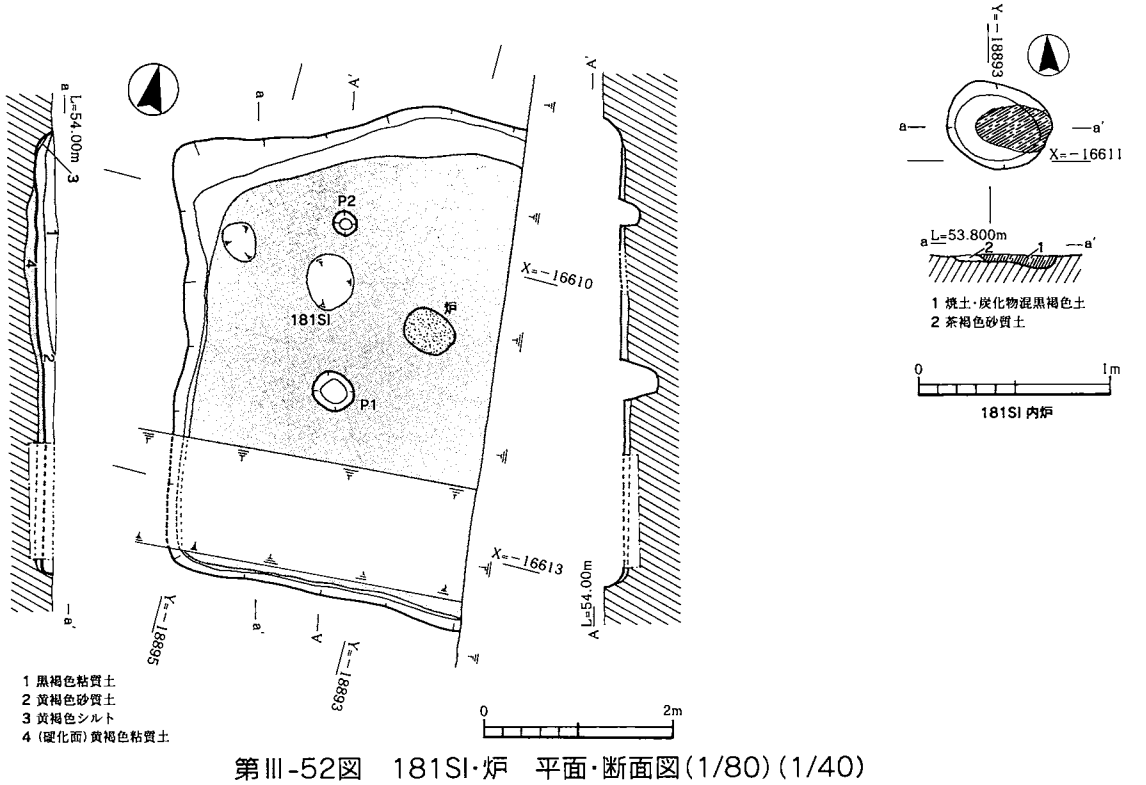
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片21・底部片4、壺口縁部片4・底部片1、高坏片1が出土している。1層に多くの遺物が出土していることから流れ込みないし、ある程度住居の埋まった段階で廃棄されたものと推定できる。なお、1層に土師器の坏（第Ⅲ-53図16・17）が混入している。

まとめ　東側が調査区外に伸びるため、2本柱構造か4本柱構造かは明確でない。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器から住居の時期は8期と推定される。

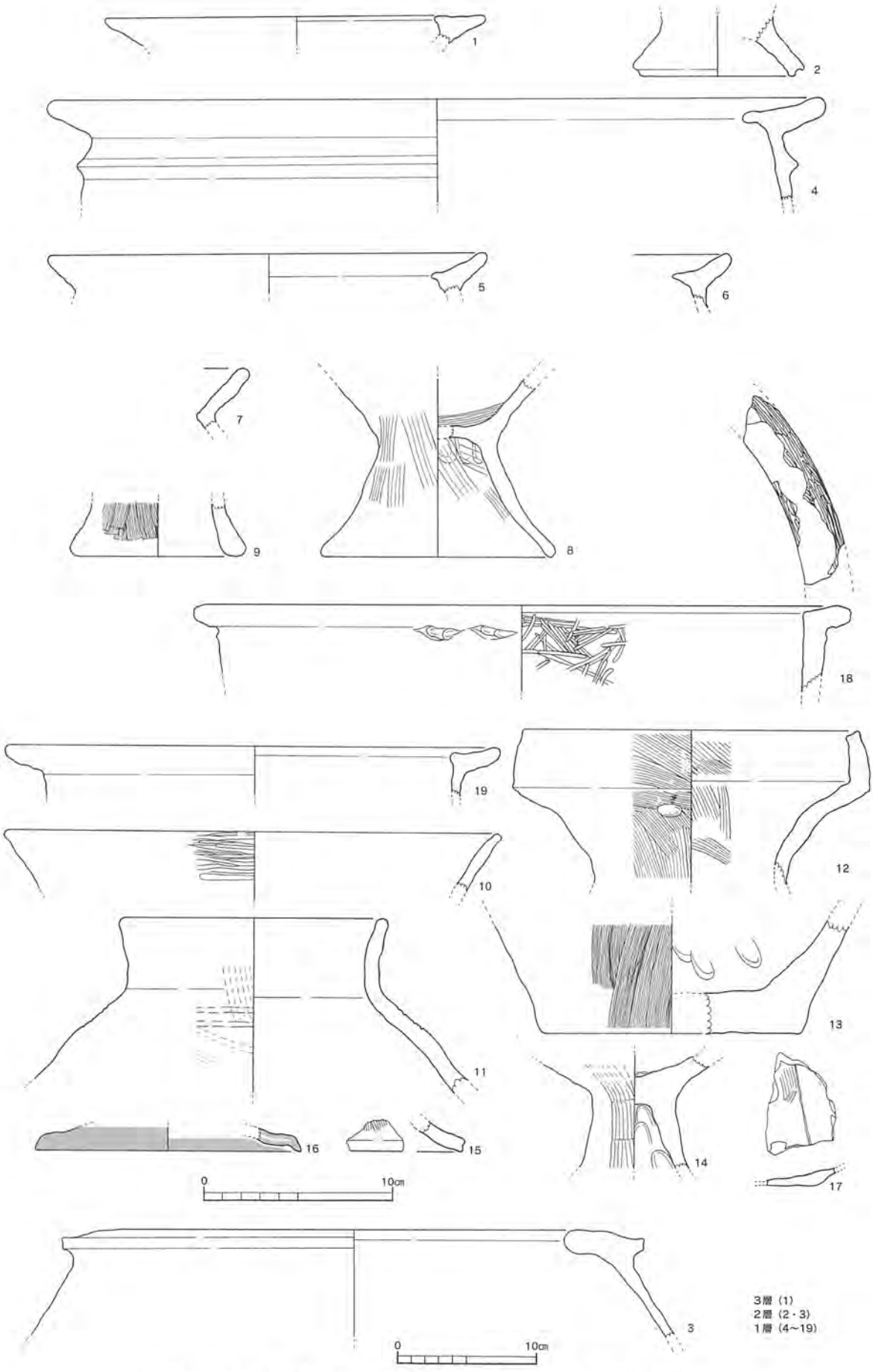
186SI（第Ⅲ-54・55図、PL.25）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、主軸の方位はN-35°-Eである。北側は調査区外に伸びる。

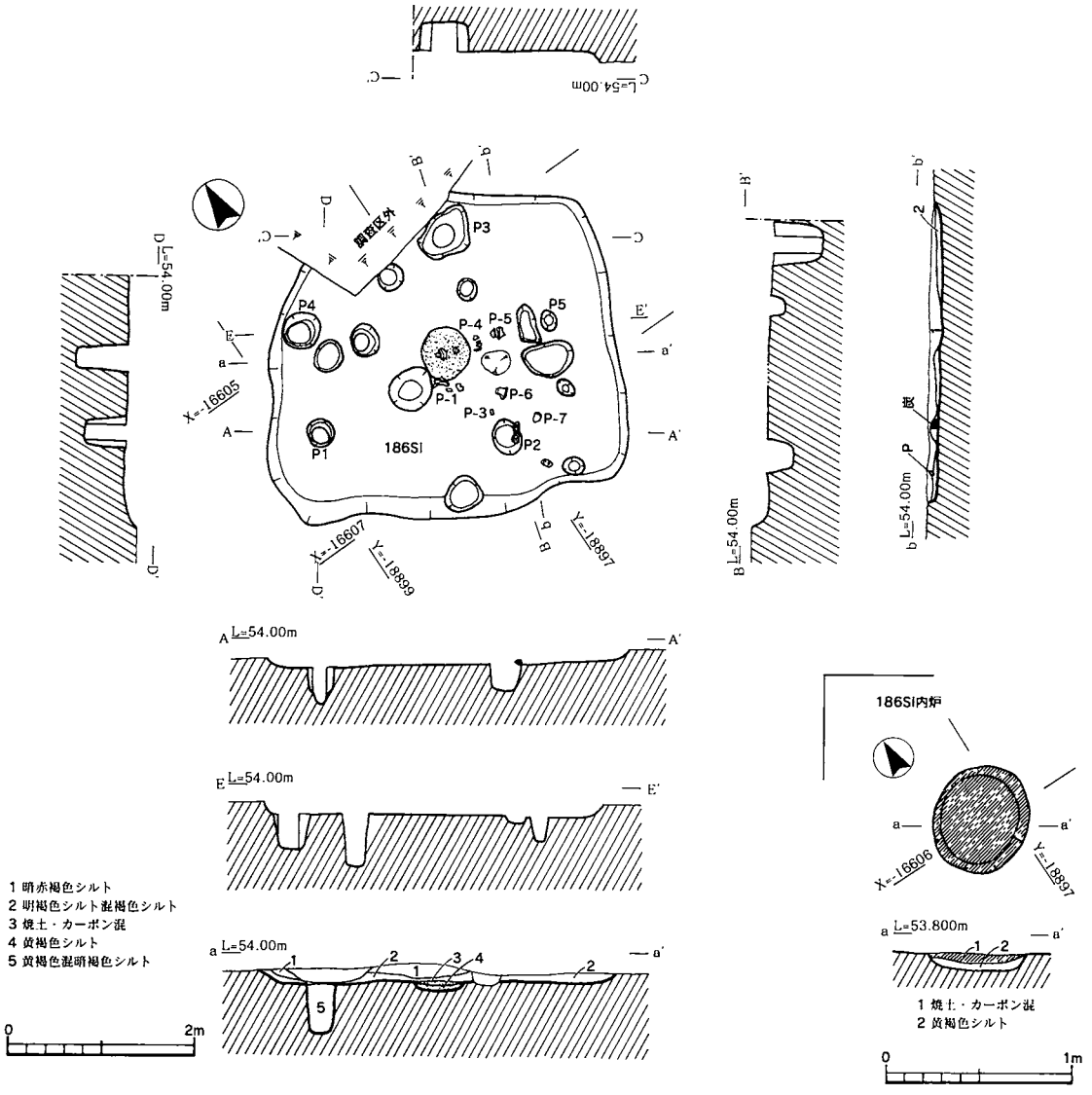
住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸3.85 m、短軸3.58 mを測る。推定床面積は11.2 ㎡で、検出



第Ⅲ-52図　181SI・炉　平面・断面図(1/80)(1/40)



第Ⅲ-53図　181SI出土土器実測図（3のみ1/4、その他は1/3）



第Ⅲ-54図　186SI・炉　平面・断面図(1/80)(1/40)

面からの深さは0.7 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は28～54 cmで、深さは17～55 cmである。柱痕跡の径は17～30 cmである。

炉　住居の中央部に位置し、長軸60 cm、短軸50 cm、深さ10 cmを測る。断面はⅢ状を呈する。埋土は2層に分かれ、上層の黄褐色シルトに焼土・炭が混入する。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片3・底部片2、壺口縁部片3・底部片2、が出土している。1層に土師器の坏（第Ⅲ-55図11）が混入している。床面に張り付いて出土したものとして第Ⅲ-55図1・2・3・5がある。3はP7から出土した。その他の遺物は流れ込みである。

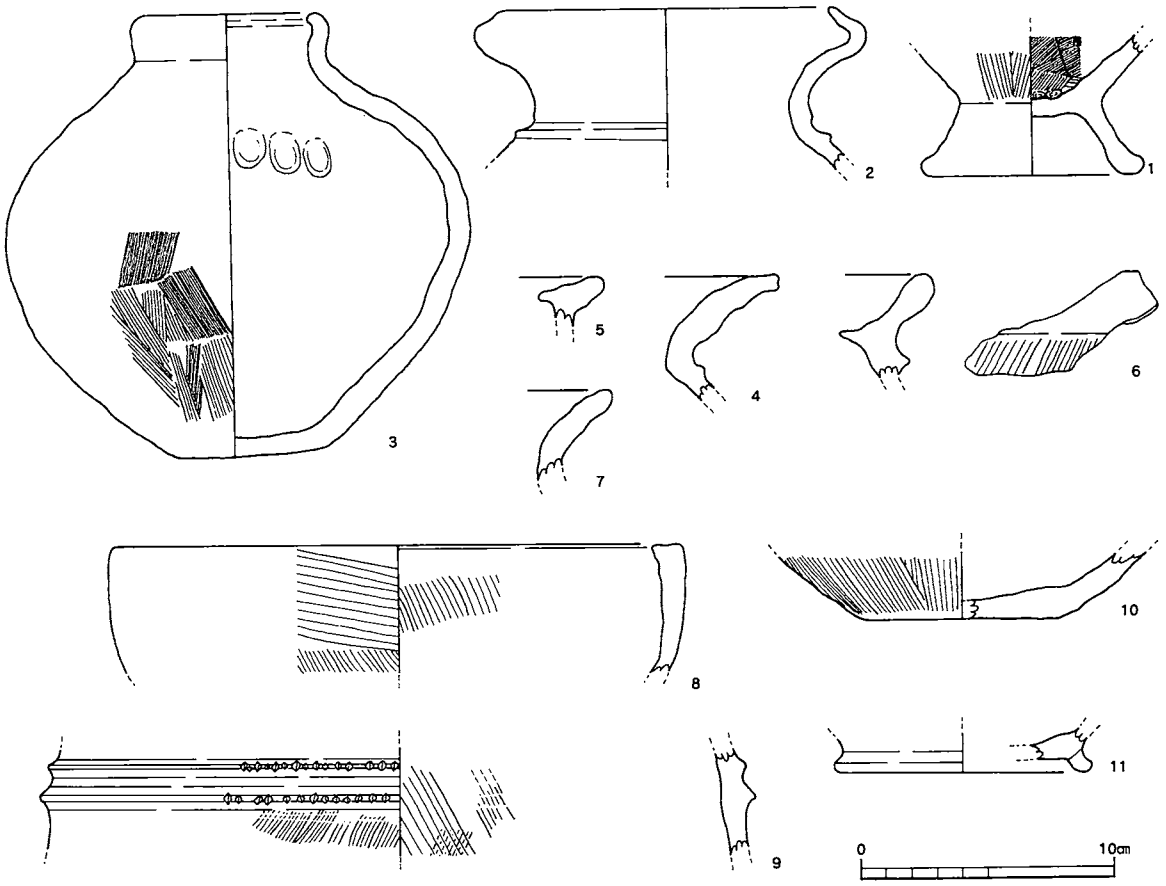
まとめ　P1～3とP4・5で構成される4＋2本柱構造の柱穴を持つと考えられる。しかし、柱穴の1ヶ所は調査区外のため確認されていない。床面出土土器等から、住居の時期は6B期と推定される。

189SI（第Ⅲ-56・57・58・59図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約53.7 mで、主軸の方位はN-29°-Eである。この住居埋没後、南側に162・174・175・163SIが建てられている。

住居形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸4.62 m、短軸3.20 m以上を測る。残存床面積は5.8 ㎡で、検出面からの深さは0.16 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は30～50 cmで、深さは30～36 cmである。柱痕跡の径は20 cmである。



第Ⅲ-55図　186SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～3･5)、P(4)、1層(6～11)〉

貯蔵穴　住居の北側に2基検出された。SK01は、長軸82㎝、短軸60㎝、深さ31㎝を測り、埋土は黄白色砂のブロックを含む。SK02は、長軸61㎝、短軸49㎝、深さ47㎝を測る。埋土下層は、炭塊を含む粘質土、上層には、黄色白色砂を含む。SK01・SK02とも断面はU字状を呈する。

遺物出土状況　SK01の埋土から第Ⅲ-59図1～5･7、SK02の埋土から第Ⅲ-59図6が出土している。他の遺物は1層から出土し、流れ込みの遺物と推定できる。住居の埋土等から、甕口縁部片5・底部片5、壺口縁部片1が出土している。

まとめ　主柱穴はP1・2の2本柱で構成されるものと考えられる。数件の住居に壊されているため詳細は不明である。出土遺物等から住居の時期は5期と推定される。

174SI（第Ⅲ-56・57・60図）

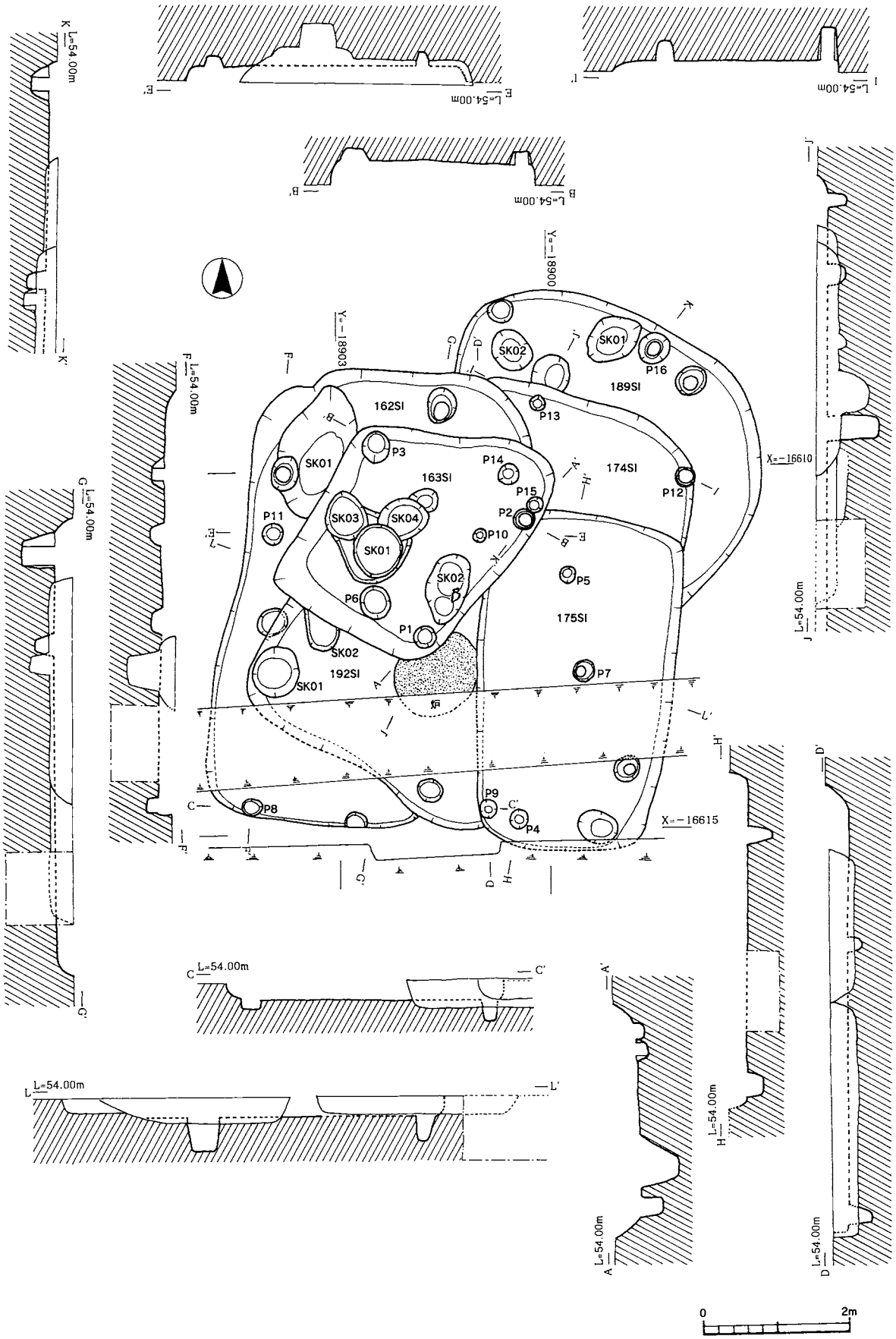
位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。185SI埋没後建てられており、床面の標高は約53.8 m、主軸の方位はN-8°-Eである。この住居埋没後、西側には162・163SI、南側に175SIが建てられている。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.20 m以上、短軸1.48 m以上を測る。残存床面積は2.51 ㎡で、検出面からの深さは0.2 mである。埋土は2層からなる。

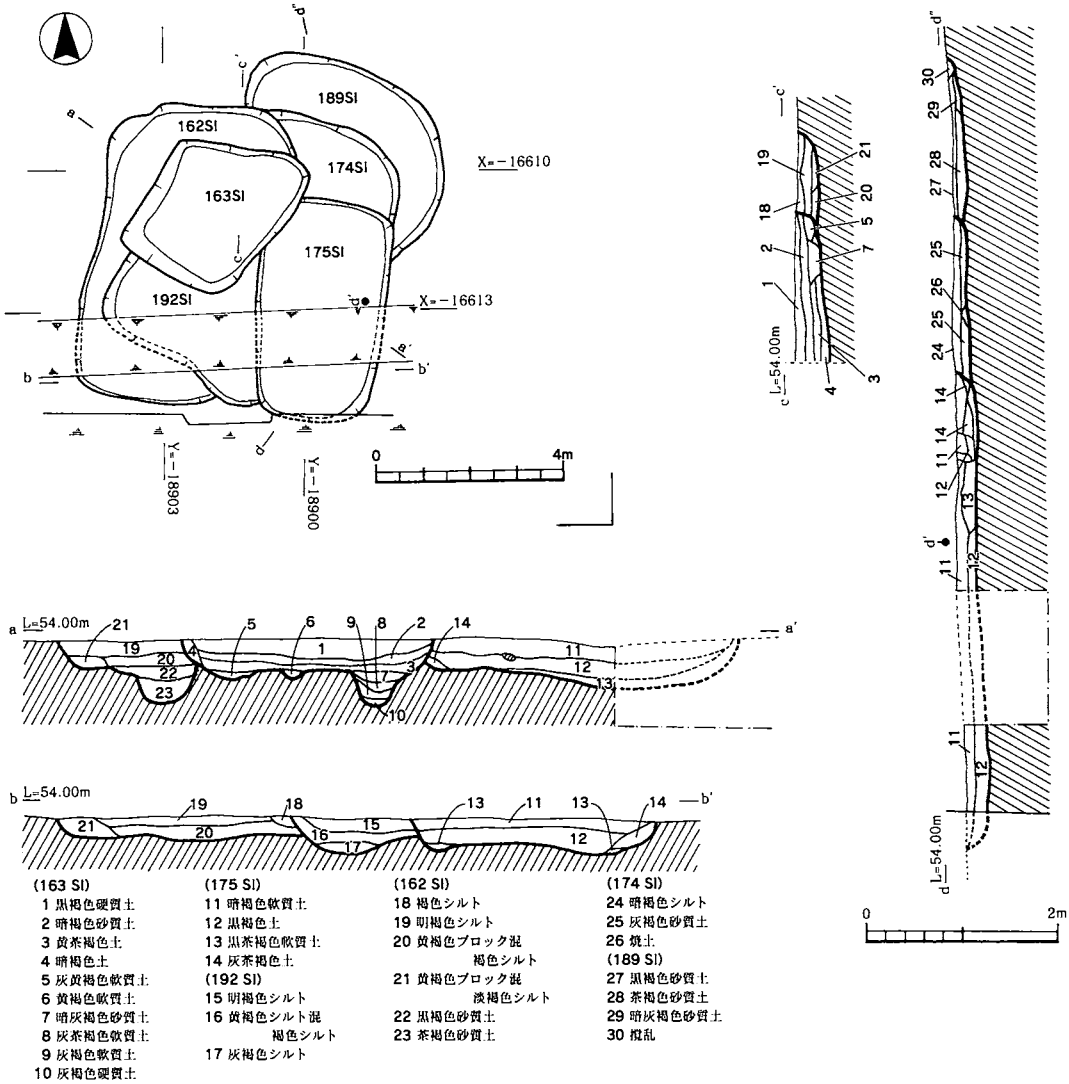
柱穴　柱穴の径は20㎝で、深さは19～30㎝である。柱痕跡の径は15㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、甕口縁部片1・底部片1、壺口縁部片5・底部片1が出土している。出土状況から1・2層とも流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　住居の一部が162・163・175SIに壊されているため、詳細は不明であるが、P1・2を主柱とする2本柱構造の住居と推定される。遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期と推定される。



第Ⅲ-56図　189・174・162・192・175・163SI平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-57図　189・174・162・192・175・163SI平面・断面図(1/160)(1/80)

162SI（第Ⅲ-56・57・58・61・62・63図、ＰＬ.39・50）

位置　遺跡中央部（2区南部）自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。189・174SI埋没後建てられ、床面の標高は約53.6 m、主軸の方位は、N -8 °-Eである。この住居埋没後には、中央から南側に163・192・175SIが建てられている。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸6.28 m、短軸3.82 mを測る。床面積は20.4 ㎡で、検出面からの深さは0.3 mである。埋土は2層からなる。

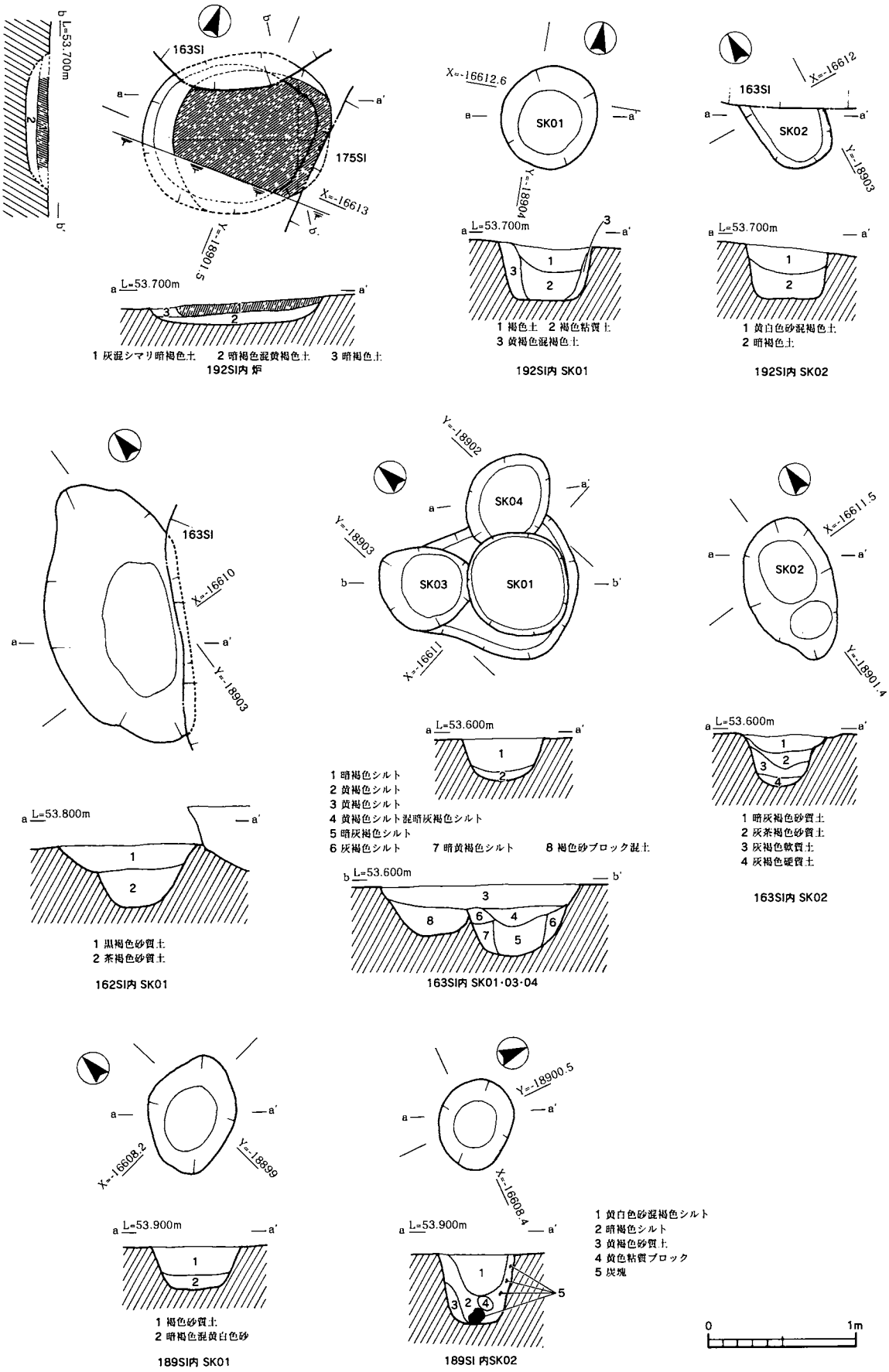
柱穴　柱穴の径は30～48 ㎝で、深さは20～35 ㎝である。柱痕跡の径は21～27 ㎝である。

貯蔵穴　住居の北西部に位置し、長軸90 ㎝、短軸50 ㎝、深さ54 ㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は2層からなる。

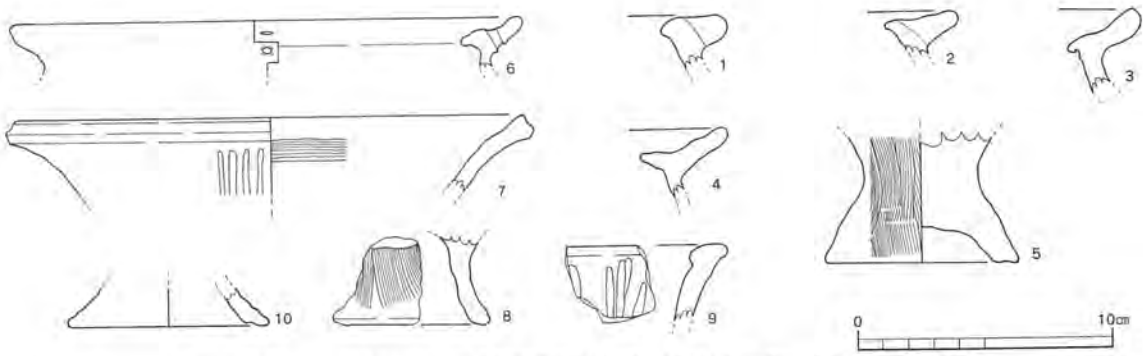
遺物出土状況　流れ込みの遺物ではあるものの、貯蔵穴（SK01）から第Ⅲ-61図1・2が出土している。1層上層・下層は流れ込みの遺物と推定される。住居の埋土等から甕口縁部片15・底部片1、壺口縁部片21・底部片8が出土している。

埋土上層からやりがんな1、鋳造鉄斧再利用の素材鉄片1、（剣形）鉄製品の柄1、鉄鏃1の鉄器及び石包丁等が出土している。土器と同様に流れ込みないしは廃棄されたものと推定される。

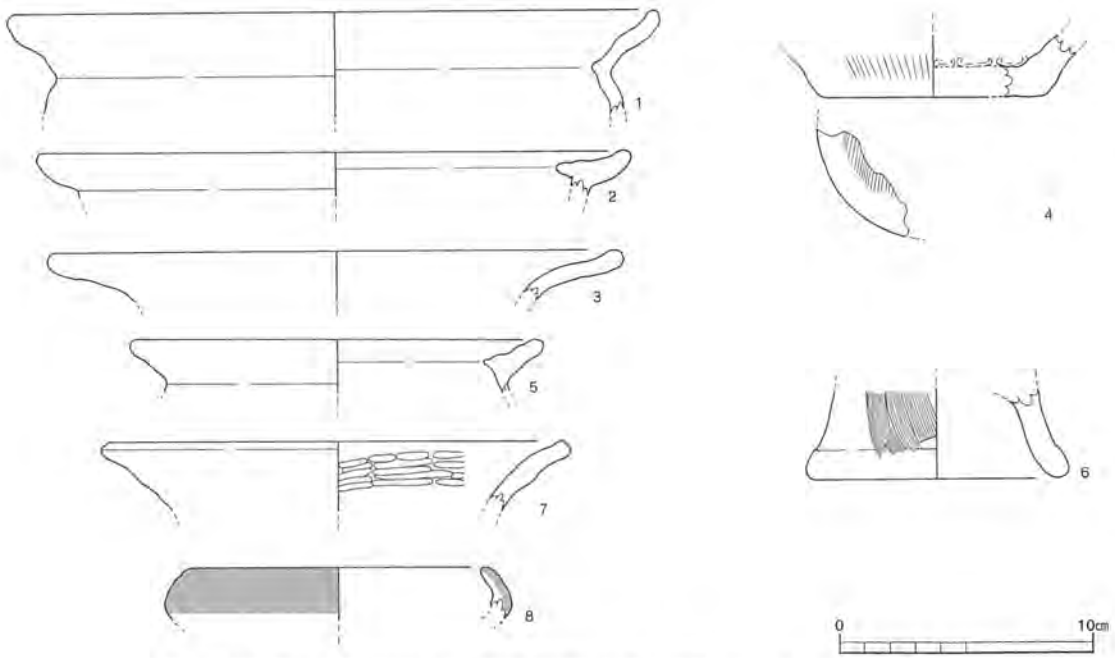
まとめ　P1～4を主柱穴とする4本柱構造の住居跡と推定される。住居の北西隅に長軸90 ㎝、深さ約50 ㎝の楕円形の貯蔵穴を持つことは特出される。住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新



第Ⅲ-58図　192・162・163・189SI内　炉・SK　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-59図　189SI出土土器実測図(1/3)〈SK(1～7)、1層(8～10)〉



第Ⅲ-60図　174SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～4)、1層(5～8)〉

旧関係から考えて、住居の時期は6A期と推定される。

192SI（第Ⅲ-56・57・58・64図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。162・174SI埋没後建てられており、床面の標高は約53.6mで、主軸の方位は、N-35°-Eである。この住居埋没後、163SI・175SIが建てられている。

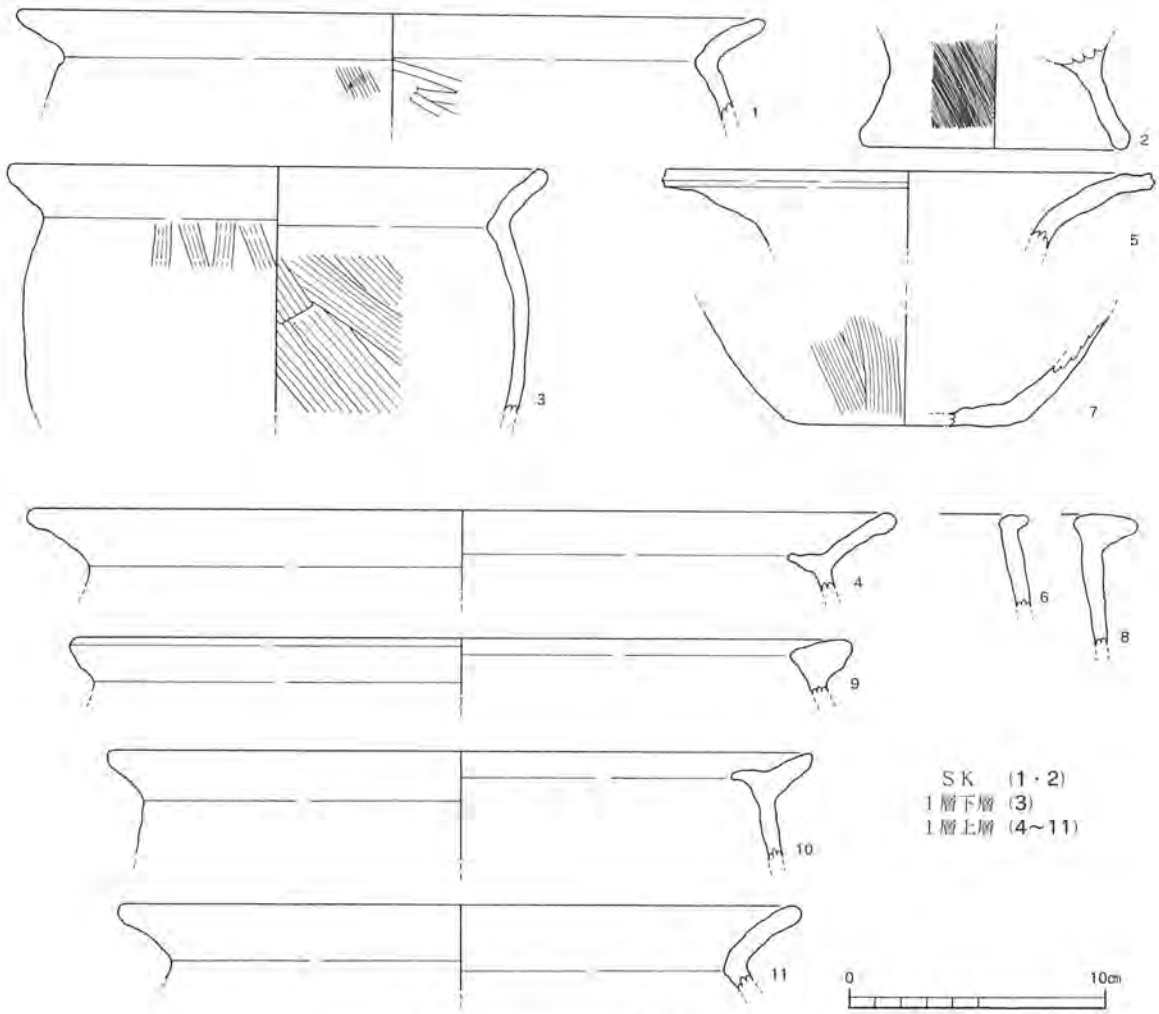
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.00 m、短軸3.00 m以上を測る。検出面からの深さは0.24 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は30～40 cmで、深さは56 cmである。柱痕跡の径は20 cmである。

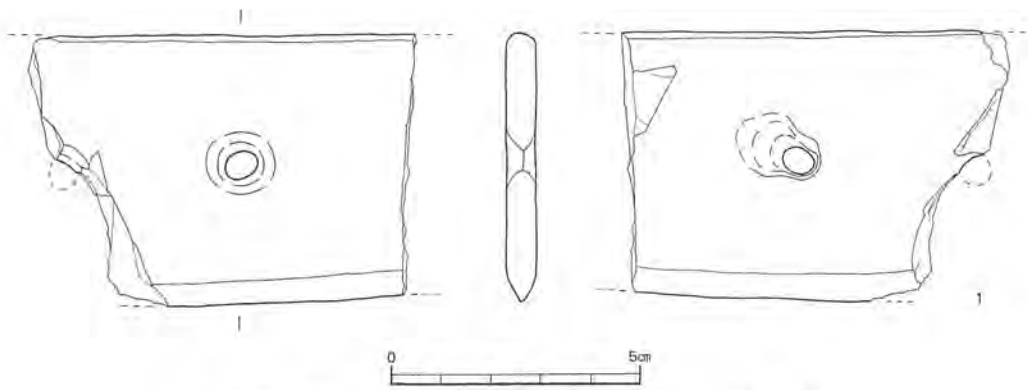
炉　住居の南側に位置し、長軸128 cm、短軸110 cm、深さ14 cmを測る。断面は皿状を呈し、埋土は2層からなる。

貯蔵穴　住居内の南西隅に2基存在する。SK01は、長軸70 cm、短軸66 cm、深さ32 cmである。埋土は肩部から堆積している様子が追える。SK02は、長軸90 cm、短軸50 cm、深さ38 cmである。埋土は2層に分けられる。いずれも断面は凹字状を呈する。

遺物出土状況　住居跡南西隅の2つの貯蔵穴に流れ込んだ状況で第Ⅲ-64図1～5が出土している。また、柱穴からも、6～8が流れ込んだ状況で出土している。その他、住居の埋土からは、甕口縁部片6・底部片2、



第Ⅲ-61図　162SI出土土器実測図(1/3)



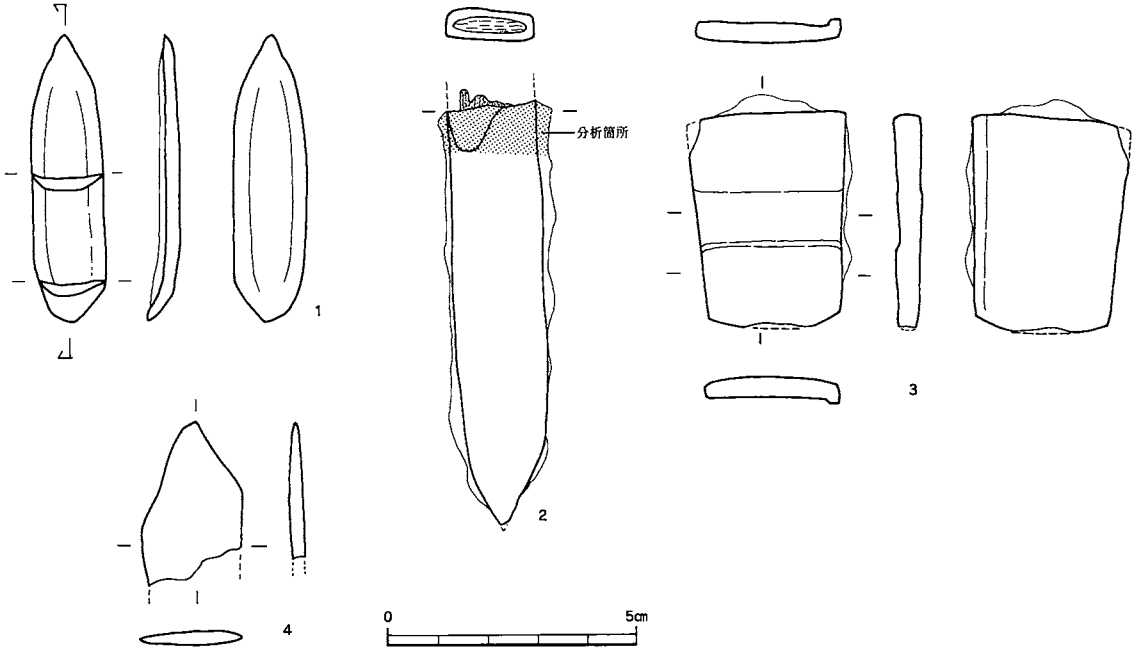
第Ⅲ-62図　162SI出土石器実測図(2/3)〈1層上層〉

壺底部片1、鉢口縁部片1が出土している。

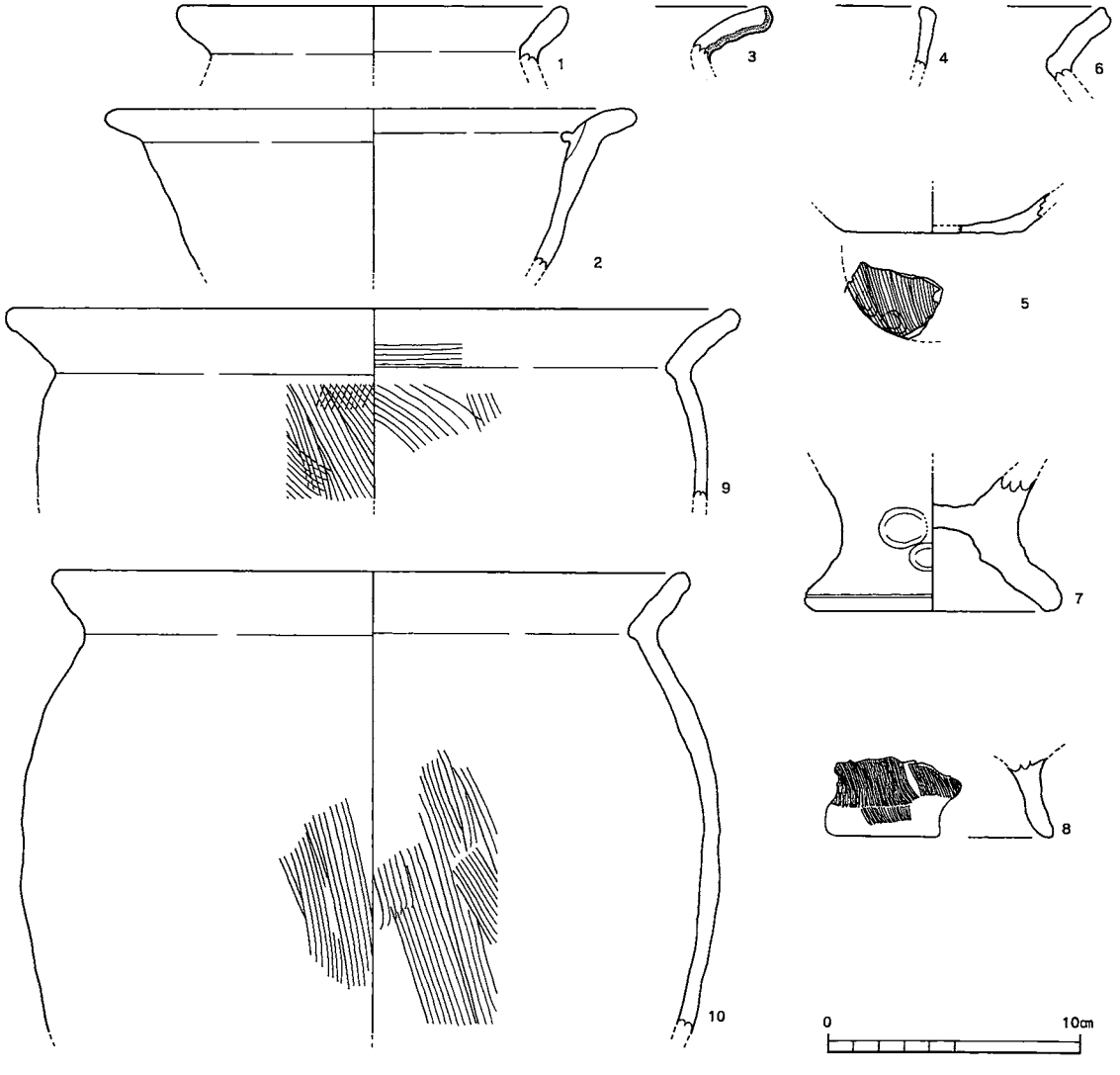
まとめ　163SI・175SIに壊されているため、詳細は不明であるが、2本柱を主柱穴とする構造と推定される。遺物の出土状況からは住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B期と推定される。

175SI（第Ⅲ-56・57・65・67図・PL.50）

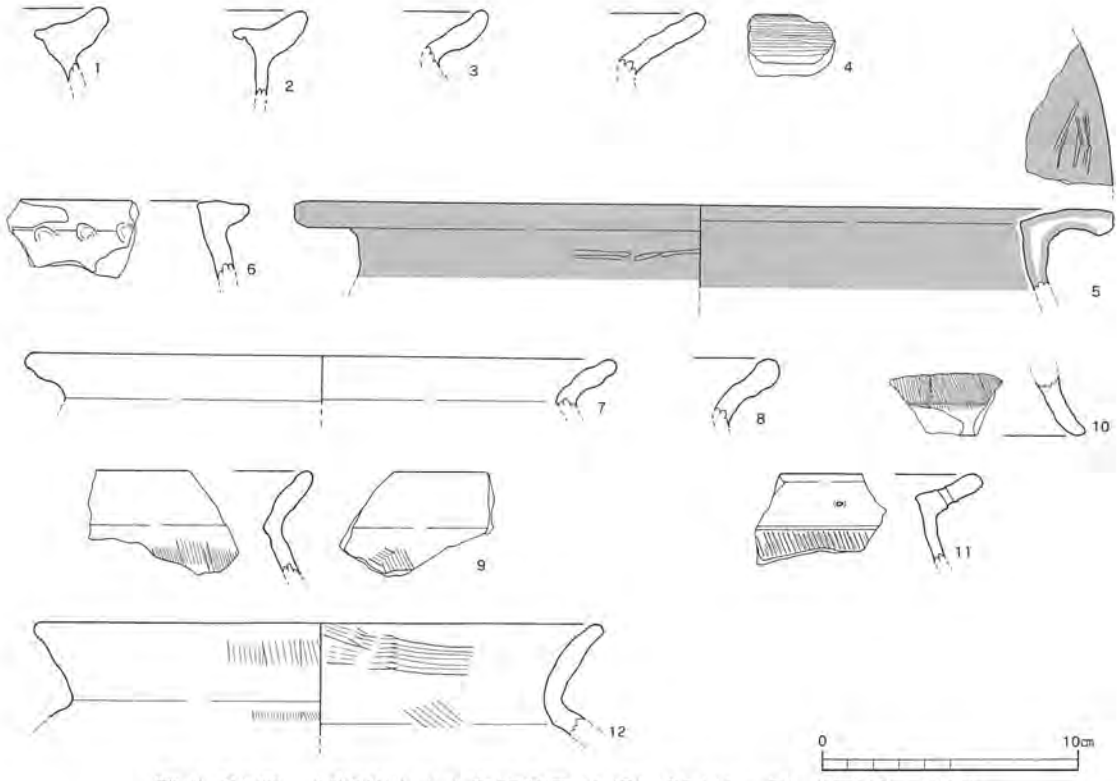
位置　遺跡中央部（2区南部）自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約53.7mで、



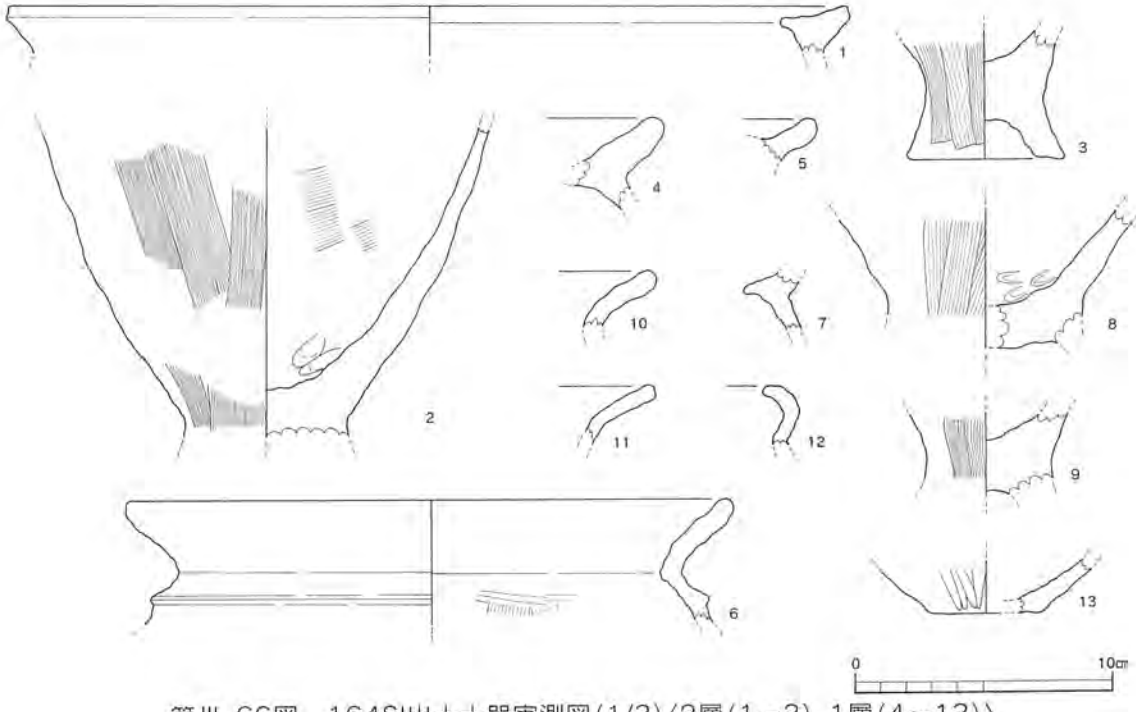
第Ⅲ-63図　162SI出土鉄器実測図(2/3)〈1層上層(1・2)、1層下層(3・4)〉



第Ⅲ-64図　192SI出土土器実測図(1/3)〈SK(1～5)、P(6～8)、2層(9)、1層(10)〉



第Ⅲ-65図　175SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～5)、1層(6～12)〉



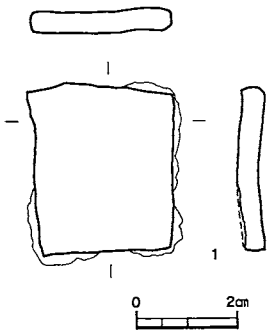
第Ⅲ-66図　164SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～3)、1層(4～13)〉

192・174SI 埋没後建てられ、この住居埋没後、北西部分には 163SI が建てられている。主軸の方位は、N-5°-E である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 4.68m、短軸 2.76m を測る。床面積は 11.0 ㎡で、検出面からの深さは 0.2 m である。埋土は 2 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 22 ～ 56 ㎝で、深さは 21 ～ 32 ㎝である。柱痕跡の径は 16 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 3・底部片 2、壺口縁部片 6 が出土している。流れ込みの遺物



第Ⅲ-67図　175SI出土鉄器実測図(2/3)〈1層〉

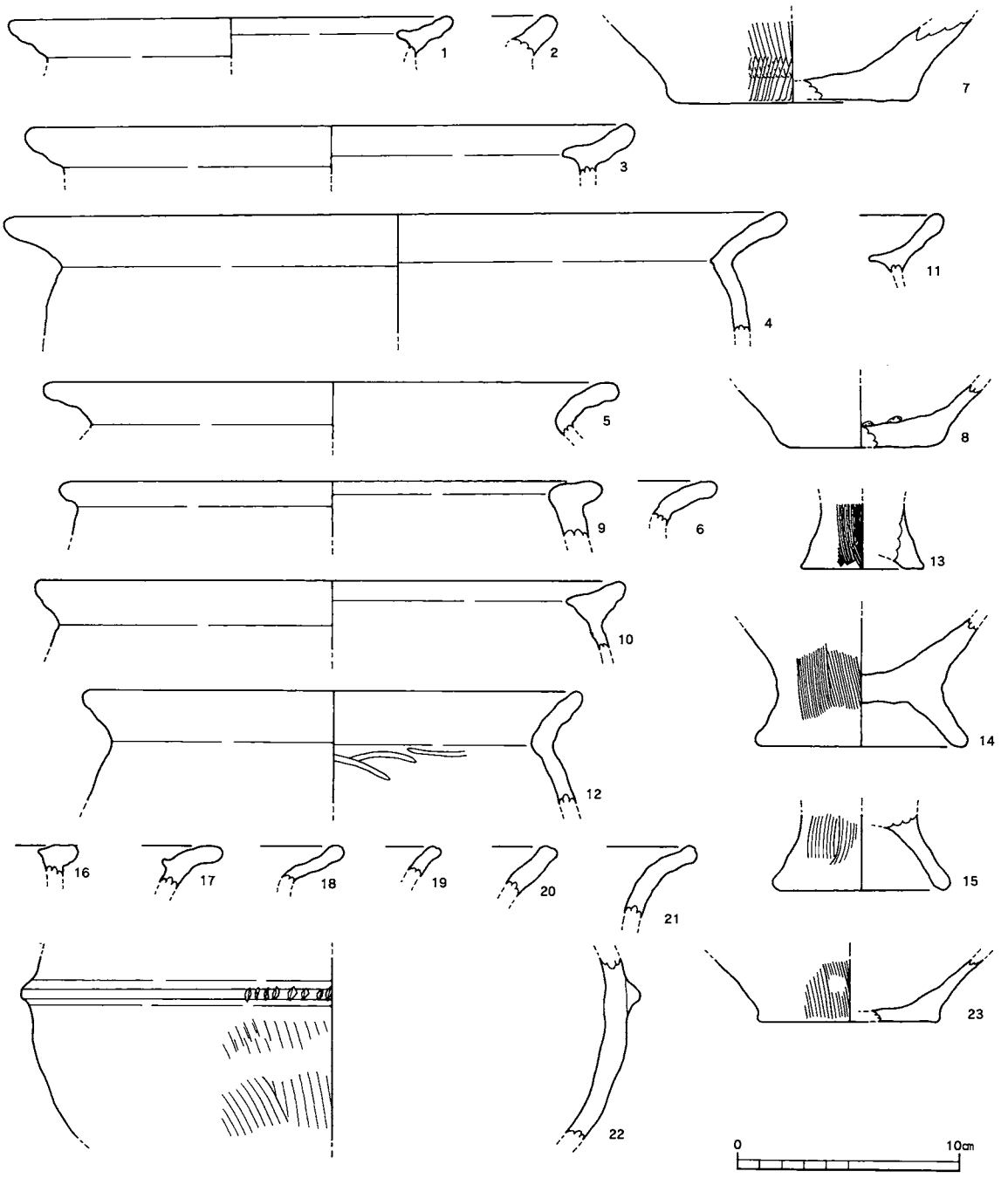
と推定できる。

まとめ　P1・2の2本柱を主柱穴とする構造と推定できる。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B（6C）期と推定される。

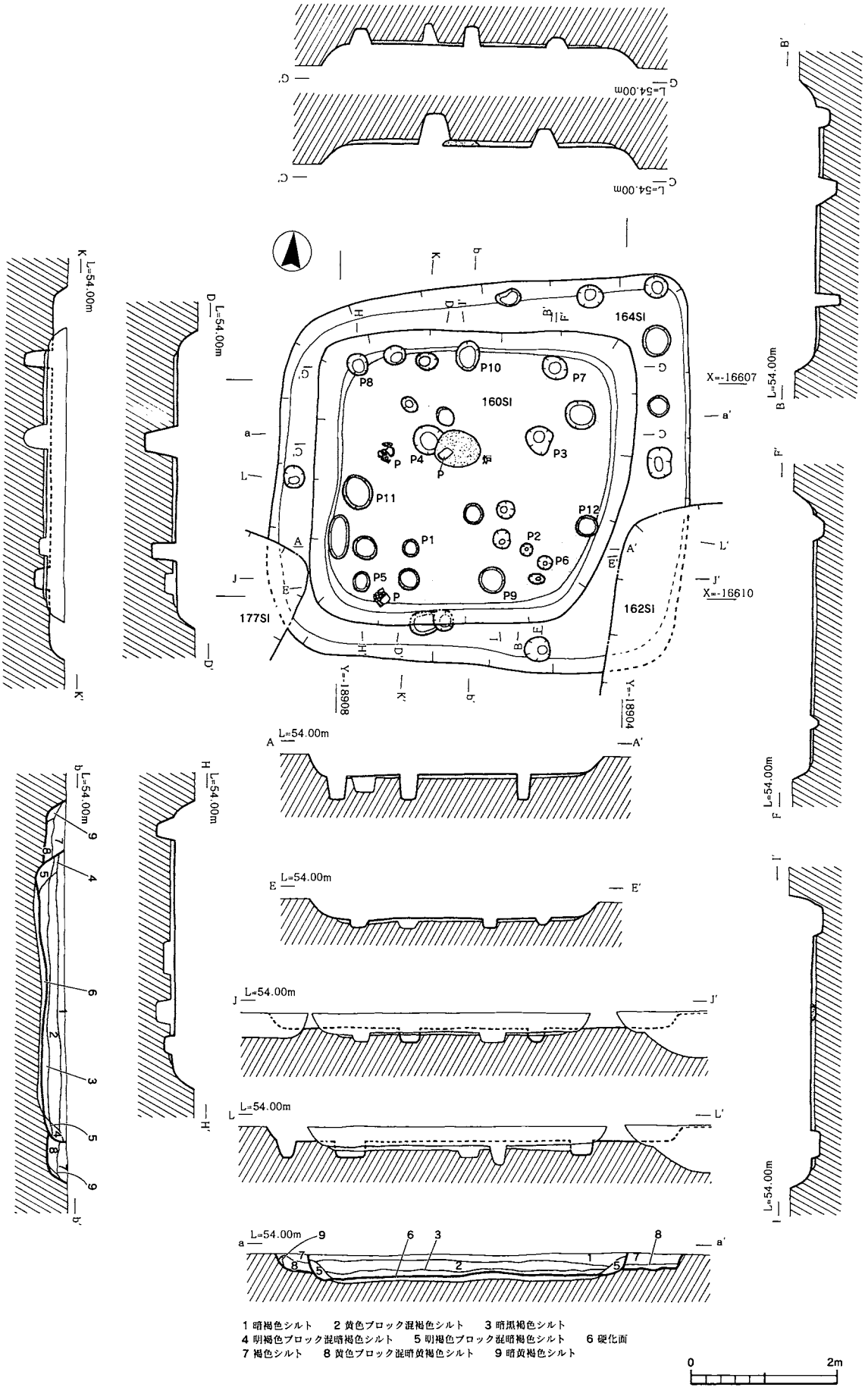
163SI（第Ⅲ-56・57・58・68図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約53.6mで、175・192・162・174SI埋没後建てられている。主軸の方位は、N-30°-Eである。

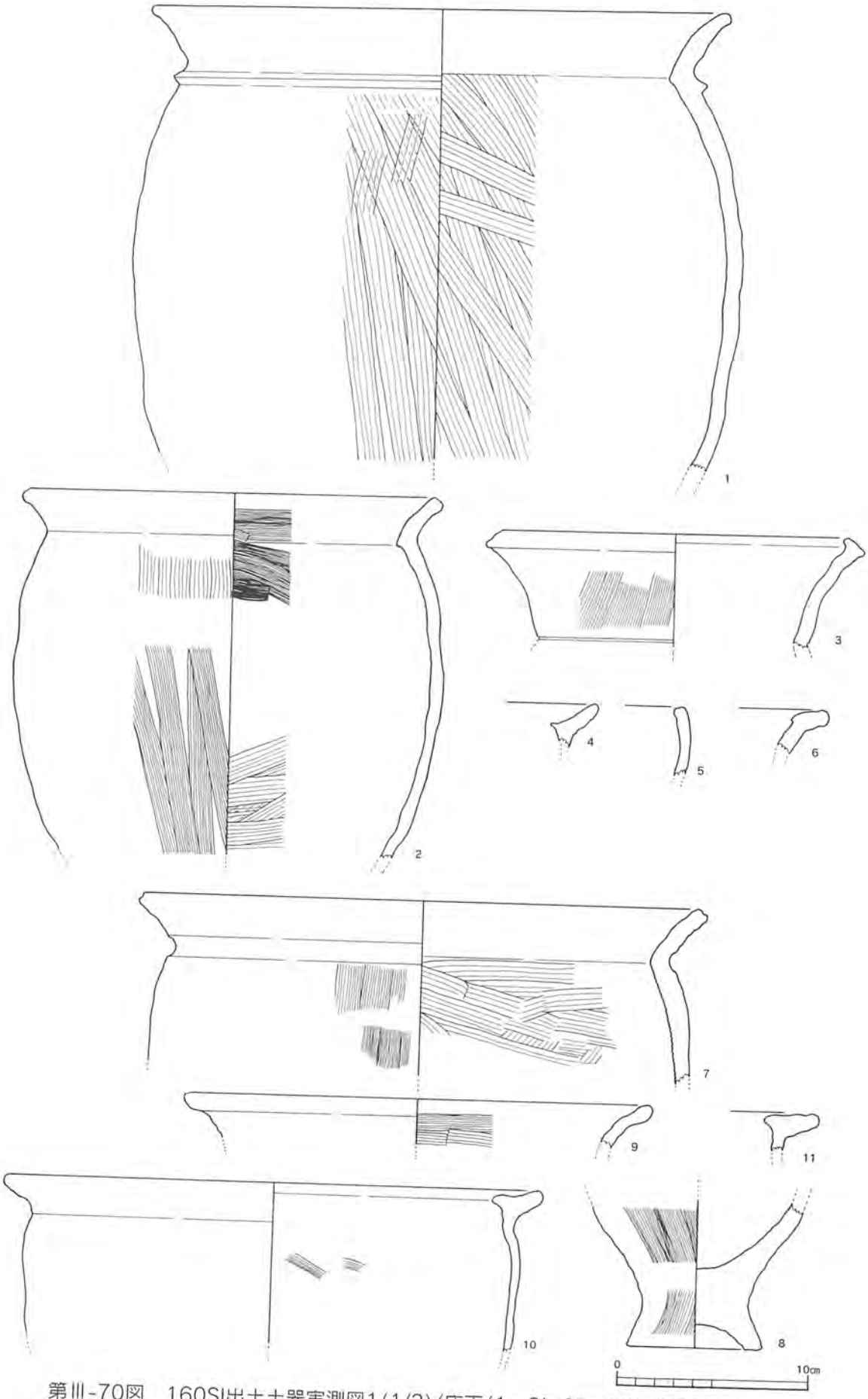
住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸3.24m、短軸2.76mを測る。床面積は5.72㎡で、検出面からの深さは36㎝である。埋土は3層からなる。



第Ⅲ-68図　163SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～8)、1層(9～23)〉

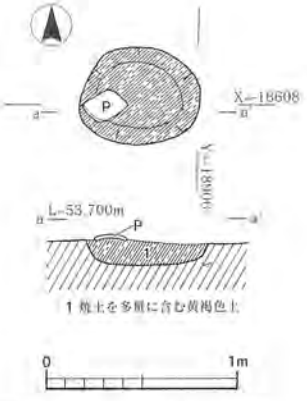


第Ⅲ-69図　164・160SI　平面・断面図(1/80)

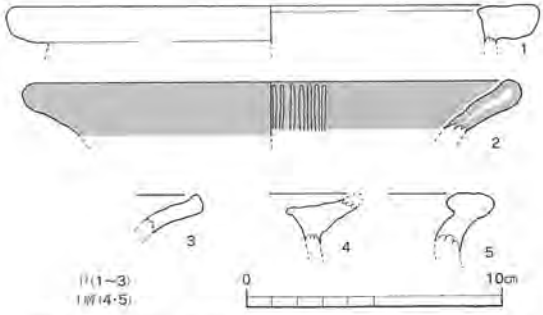


第Ⅲ-70図　160SI出土土器実測図1(1/3)〈床面(1～9)、3層(10)、2層(11)〉

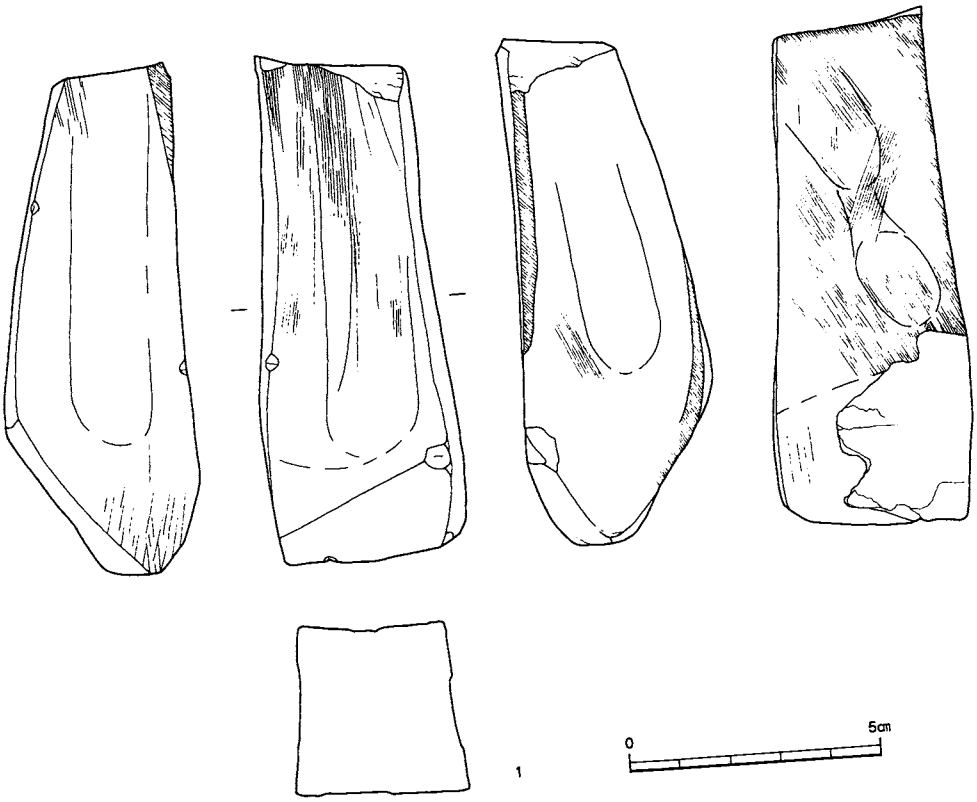
第Ⅲ-71図　160SI出土土器実測図2(1/3)〈2層(1～7)、1層(8～26)〉



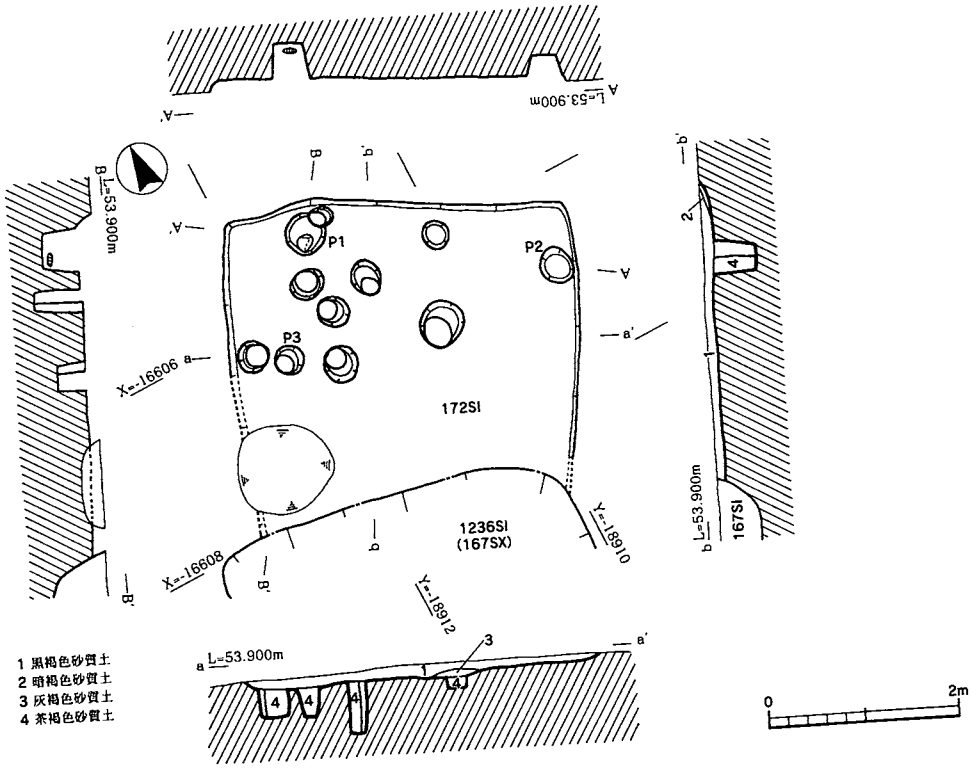
第Ⅲ-72図　160SI内炉
平面・断面図(1/40)



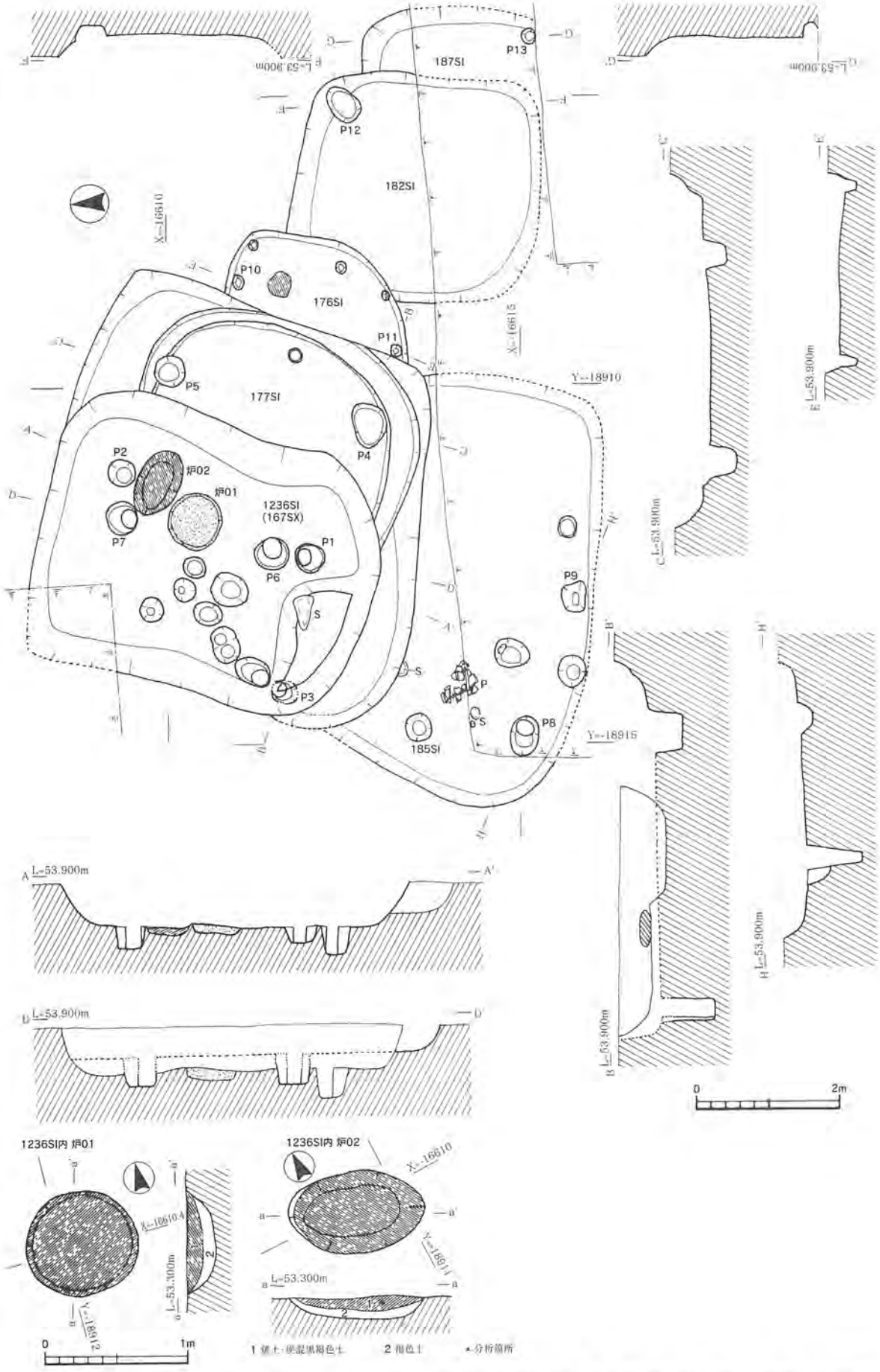
第Ⅲ-73図　172SI出土土器実測図(1/3)



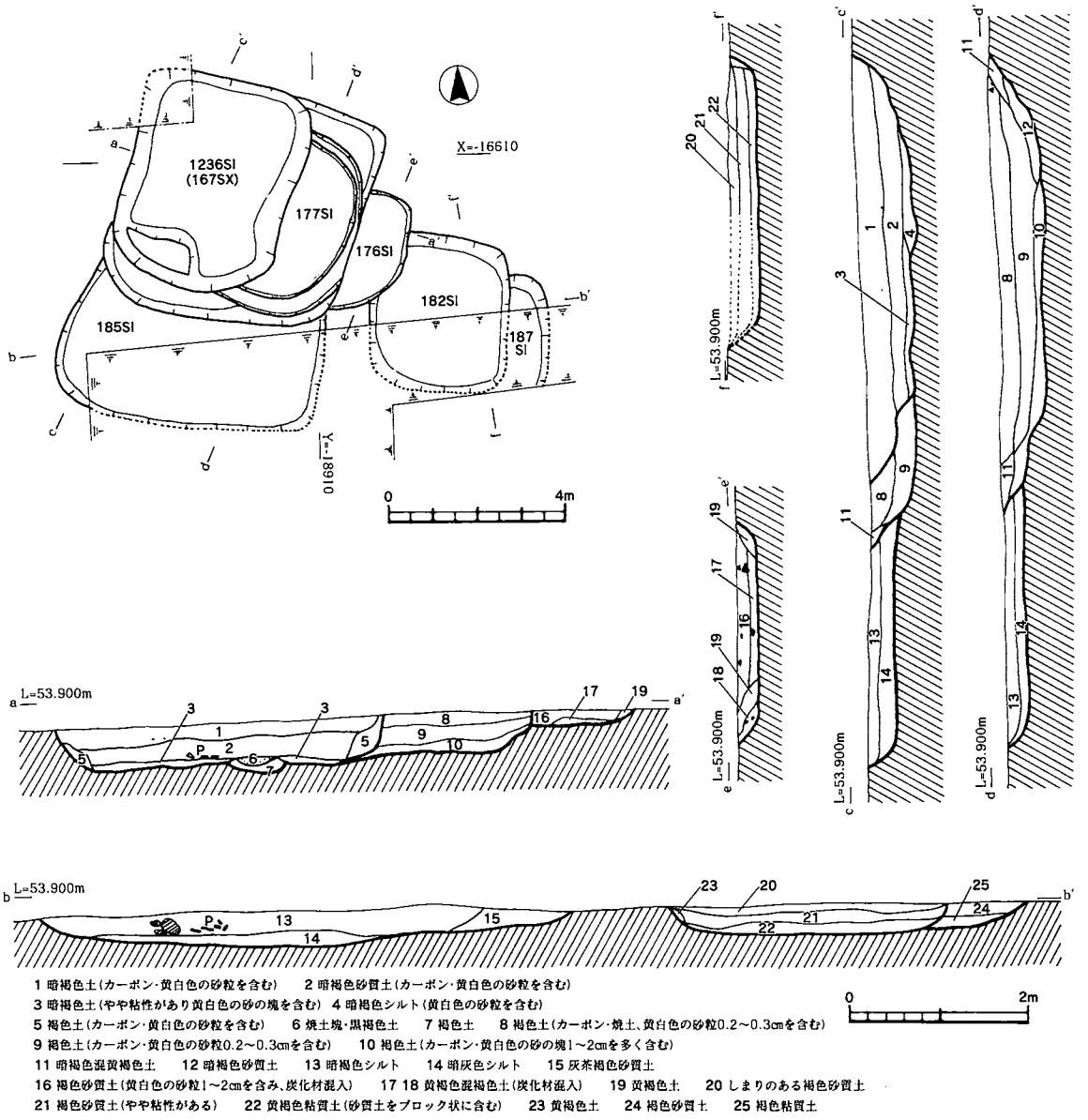
第Ⅲ-74図　160SI出土石器実測図(2/3)〈1層〉



第Ⅲ-75図　172SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-76図　187SI・182SI・176SI・185SI・177SI・1236(167SX)SI・炉　平面・断面図(1/80)(1/40)



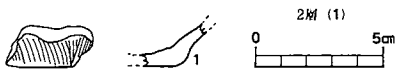
第Ⅲ-77図　187・182・176・185・177・1236(167SX)SI　平面・断面図(1/160)(1/80)

柱穴　柱穴の径は20～46cmで、深さは12～55cmである。柱痕跡の径は20～46cmである。

貯蔵穴　住居の中央部に位置し、長軸が56～100cmの4基が検出されている。そのうち3基は重複して検出されている。断面観察から、埋没段階ではSK02・03は、同時に存在していたものと推定できる。断面形態はU字状を呈する。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片18・底部片11、壺口縁部片12・底部片3が出土している。出土状況から1～3層とも流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　主柱穴はP1～3を主柱穴とする4本柱構造の住居跡と推定される。遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B～7期と推定される。



第Ⅲ-78図　187SI出土土器実測図(1/3)

164SI（第Ⅲ-69・66図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。162・177SI埋没後建てられ、床面の標高は約53.6mで、主軸の方位は、N-3°-Eである。この住居埋没後、160SIが建てられている。

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸5.76 m、短軸5.36 mを測る。床面積は26.4 ㎡で、検出面からの深さは0.2 mである。硬化面は160SIが重複して検出されているため不明である。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は30～40 ㎝で、深さは4～20 ㎝である。柱痕跡は認識できない。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片5・底部片2、壺口縁部片3・底部片2が出土している。出土状況から1・2層とも流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　主柱穴はP5～8で構成されるものと考えられる。P11・12が支柱になる可能性がある。(P9・10も支柱になる可能性がある。) 遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器（第Ⅲ-66図6）や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期と推定される。

160SI（第Ⅲ-69・70・71・72・74図、PL.25・26・39）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面積の標高は約53.5 mで、164SI埋没後建てられている。主軸の方位は、N-6°-Eである。

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸4.44 m、短軸4.04 mを測る。床面積は13.68 ㎡で、検出面からの深さは0.3 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は18～42 ㎝で、深さは10～45 ㎝である。柱痕跡は、認識できない。

炉　掘り込みは見られないが、長軸約60 ㎝、短軸約50 ㎝の範囲の焼土を住居内の中央部に検出した。

遺物出土状況　住居に伴うと考えられる遺物は、第Ⅲ-70図1～3で、第Ⅲ-70図5～8は床面近くで出土しているものの、流れ込みの遺物と推定される。住居の埋土から、甕口縁部片41・底部片6、壺口縁部片38・底部片3・高坏片3・無形壺片2が出土している。埋土上層から砥石も出土している。

まとめ　主柱穴はP1～4で構成されるものと考えられる。164SIを縮小したものと推定できる。P9・10は支柱になる可能性がある（164SIの柱穴の可能性もある)。住居の時期は、遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器第Ⅲ-70図1や住居の新旧関係から考えて7期と推定される。

172SI（第Ⅲ-73・75図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約53.7 mで、主軸の方位は、N-26°-Eである。この住居埋没後、南側に167・177・169SIが建てられている。

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸3.76 m、短軸3.00 mを測る。検出面からの深さは0.1 mである。硬化面は認められない。埋土は1層からなる。

柱穴　柱穴の径は20～44 ㎝で、深さは20～50 ㎝である。柱痕跡の径は20～32 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から甕口縁部片3、壺口縁部片3が出土している。出土状況から流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　主柱穴はP1・2ほかで構成される4本柱構造のものと推定される。ただし、P3等の2本柱構造の主柱穴の様相も持つ。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4B期と推定される。

187SI（第Ⅲ-76・77・78図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約53.5 mで、主軸の方位は座標北である。この住居埋没後、西側に182SIが建てられ、南側は後世の水路により削平されている。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.48 m以上、短軸1.00 m以上を測る。残存床面積は1.65 ㎡で、検出面からの深さは0.28 mである。硬化面は認められない。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は24 ㎝、深さは32 ㎝、柱痕跡は認識できない。

遺物出土状況　住居の埋土から無頸壺片１・壺底部片１が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　後世の水路により削平されているので詳細は不明である。検出された１つの柱から４本柱構造の住居の可能性がある。182SI との新旧関係から、住居の時期は４Ｂ期以前と推定される。

182SI（第Ⅲ-76・77・79図、PL.25）

位置　遺跡南西部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約 53.5 m で、主軸の方位は、N -4°-E である。この住居埋没後、北西側に 176SI が建てられ、中央部は後世の水路により削平されている。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸 3.48 m、短軸 3.16 m を測る。残存床面積は 8.33 ㎡で、検出面からの深さは 0.32 m である。硬化面は認められない。埋土は３層からなる。

柱穴・その他　柱穴の径は 17 ㎝、柱痕跡は認識できない。炉の痕跡は、検出されなかった。

遺物出土状況　第Ⅲ-79 図３は形がかなり復元されているが、ほとんどの遺物は流れ込みの遺物と推定される。住居の埋土からは、甕口縁部片６・底部片１、壺口縁部片５・底部片１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　中央部が後世の水路により削平されているため、住居の構造は不明である。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器（第Ⅲ-79 図２～４・10 等）や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 6A 期と推定される。

176SI（第Ⅲ-76・77・80・81図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置し、旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.5 m で、主軸の方位はN -10°-E 程度と推定できる。この住居埋没後、西側に 177SI が建てられている。

住居形態　平面形態は、楕円形を呈し、長軸 2.75 m、短軸 1.20 m 以上を測る。残存床面積は 2.27 ㎡で、検出面からの深さは 0.25 m である。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は 12 ～ 17 ㎝で、深さは 13 ～ 45 ㎝である。柱痕跡は認識できない。

炉　掘り込みは検出されなかったが、住居内の東側に、長軸 33 ㎝、短軸 30 ㎝の範囲に焼土を検出した。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片２・底部片１、壺口縁部片１、無頸壺片１が出土している。出土状況から埋土上層に流れ込んでいる遺物と推定される。

まとめ　西側が 177SI で壊されているため、詳細は不明であるが、主柱穴はP10・11 の２本柱で構成されるものと考えられる。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 6A 期と推定される。

185SI（第Ⅲ-76・77・82図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.3 m で、主軸の方位はN -18°-E である。この住居埋没後、北側に 167・177SI が建てられ、南側は一部後世の水路により削平されている。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 5.80 m、短軸 3.00 m 以上を測る。残存床面積は 12 ㎡で、検出面からの深さは 0.36 m である。硬化面は認められない。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は 54 ㎝、柱痕跡の径は、20 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片３、壺底部片３、壺底部１が出土している。第Ⅲ-82 図１・２は廃棄された状況で検出された。他の遺物は流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　167・177SI に壊されていて詳細は不明であるが、P8・9 を主柱穴とする４本柱構造と推定される。残りの２基の柱穴については検出できなかった。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器

や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は３～4A 期と推定される。

177SI（第Ⅲ-76・77・83図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.2 mで、主軸の方位は、N -19°-E である。この住居埋没後、西側に 167SI が建てられている。

住居形態　住居は長方形を呈し、長軸 5.28 m、短軸 5.14 mを測る。推定床面積は 16.56 ㎡で、残存床面積は 5.2 ㎡で検出面からの深さは 0.54 mである。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は 30 ～ 48 ㎝で、深さは 40 ～ 72 ㎝である。柱痕跡の径は、20 ～ 24 ㎝である。

遺物出土状況　ほとんどの遺物は流れ込みの遺物と推定される。住居の埋土からは、甕口縁部片 16・底部片３・壺口縁部片 12・無頸壺片１が出土している。

まとめ　167SX に切られていて詳細は不明であるが、P3 ～ 5 を主柱穴とし、P6・７を支柱とする構造と考えられる。また、住居内の北側周縁に２段の段が見られる。いわゆるベット状遺構と推定される。遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は６Ｂ期と推定される。

1236SI（167SX）（第Ⅲ-76・77・84・85・86・87・88・89図、PL.26・39・50）

位置　遺跡南西部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は多少削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.1 mである。主軸の方位はN -13°-E である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 4.86 m、短軸 3.82 mを測る。床面積は 12.08 ㎡で、検出面からの深さは 0.48 mである。硬化面は認められない。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は 29 ～ 43 ㎝で、深さは 20 ～ 39 ㎝である。柱痕跡の径は、18 ～ 22 ㎝である。

炉　住居の中央部に２基位置する。SX01 は円形を呈し、長軸 78 ㎝、短軸 72 ㎝、深さ 18 ㎝を測る。断面はＵ字状を呈する。埋土は２層からなり、黒褐色シルトで焼土を多く含む。特に中央部に炭を顕著に含む。SX02 は楕円形を呈し、長軸 96 ㎝、短軸 58 ㎝、深さ 14 ㎝を測る。断面はⅢ状である。埋土は２層からなり、黒褐色シルトで炭化物を多く含む。

遺物出土状況　床面から 20 ㎝程浮いた状況（２層最下層）で敷き詰められたように土器棺が出土した。接合するとほぼ完形に復元できた。この層までを 167SX として把握したい。その他の埋土からは、甕口縁部片 121（床付近７）、壺口縁部片 45（床付近８）、高坏３、無頸壺２、甕底部片 20（床付近１）、壺底部片 11（床付近２）が出土している。廃棄又は流れ込みの遺物と推定できる。

埋土上層から、やりがんな１、鉄鏃１、磨製石鏃１が出土している。砥石は床面直上から出土している。

まとめ　主柱穴は P1・２で構成される２本柱の建物と考えられる。

また、竪穴南側で床面より 20 ㎝上の高さで長軸 1.0 m、短軸 0.6 mの平らな部分があり、台ないしは竪穴入口の階段としての利用が考えられる。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は６Ｂ（Ｃ）期と推定される。住居廃絶後、廃棄土坑（167SX）として利用されたと考えられる。

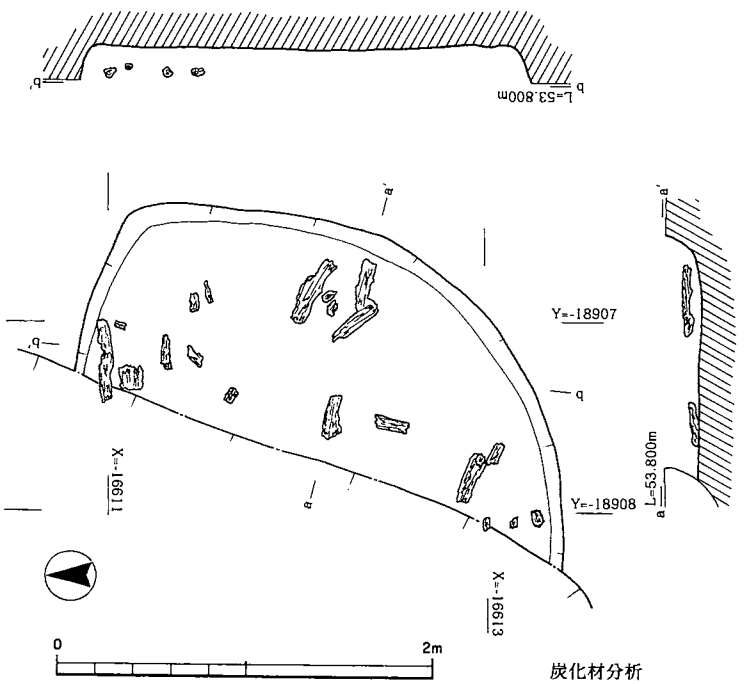
297SI（第Ⅲ-90・92図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 53.0 mで、この住居埋没後に南側に 169SI が建てられ、北側に 195SI が建てられている。主軸の方位は、N -9°-E である。

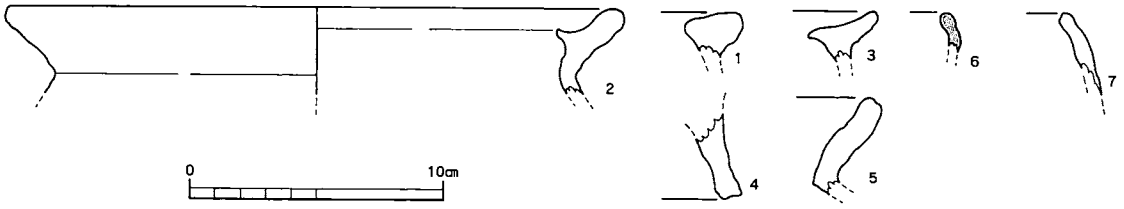
住居形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.80 m以上、短軸は 3.32 m以上を測る。残存床面積は１㎡で、検出面からの深さは 0.63m である。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は 26 ～ 35 ㎝で、深さは 29 ～ 54 ㎝である。柱痕跡の径は、16 ～ 25 ㎝である。

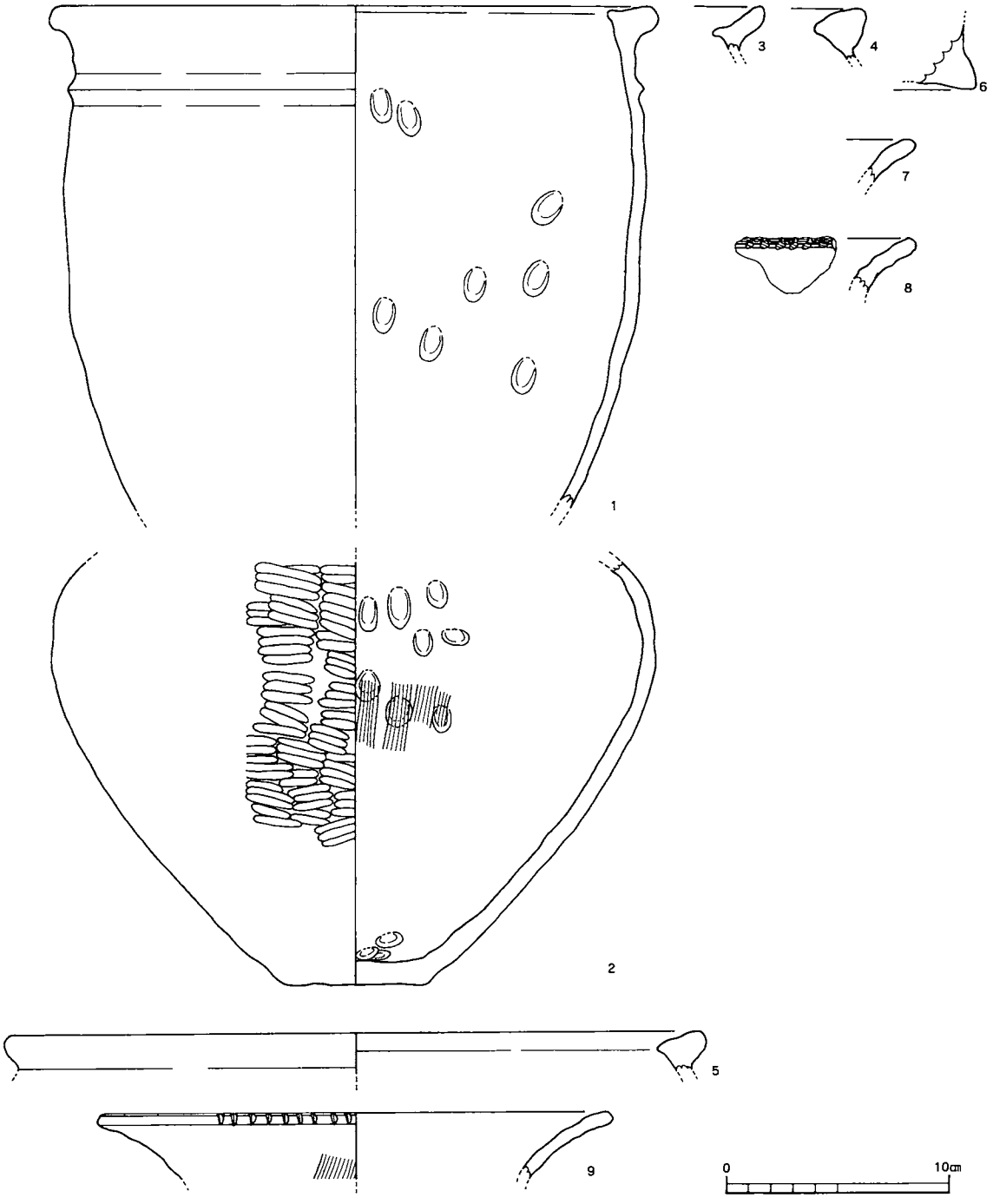
第Ⅲ-79図　182SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1～7)、1層(8～10)〉



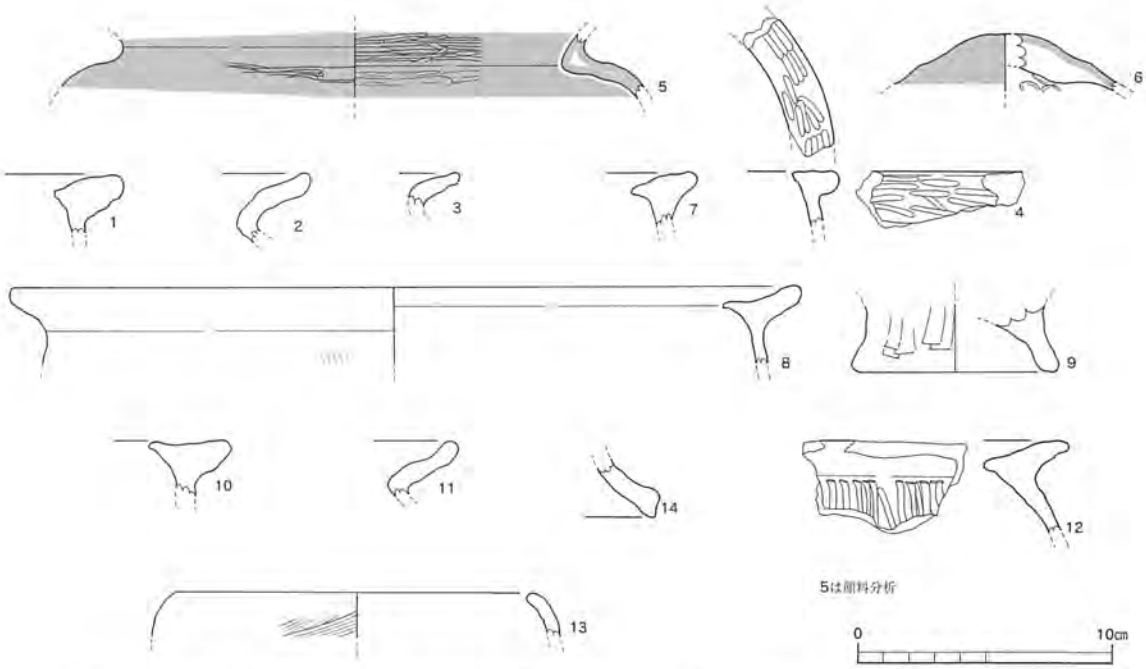
第Ⅲ-80図　176SI内炭化材出土状況　平面・断面図(1/40)



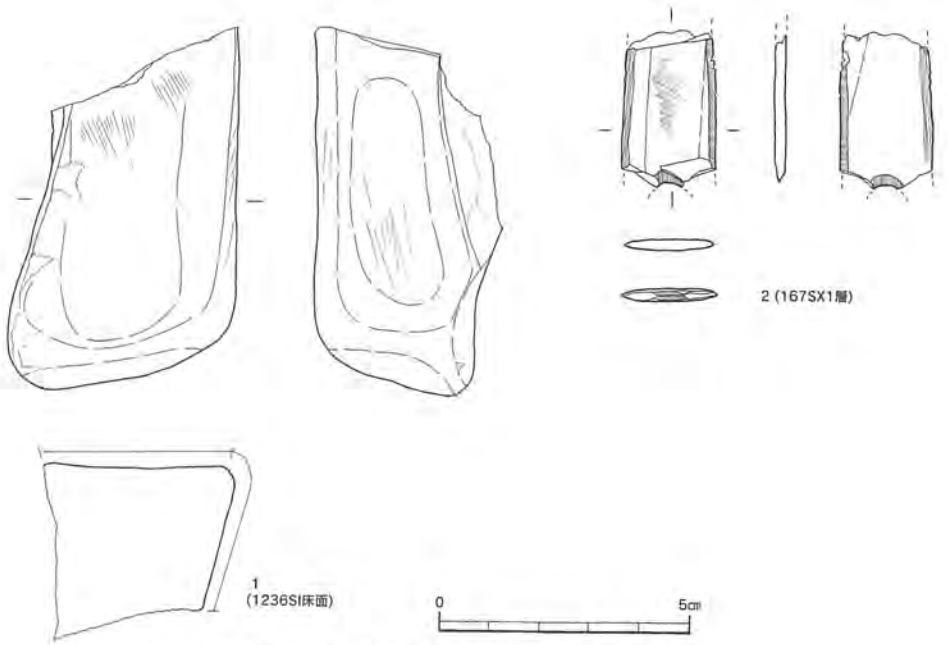
第Ⅲ-81図　176SI出土土器実測図(1/3)〈1層(1～7)〉



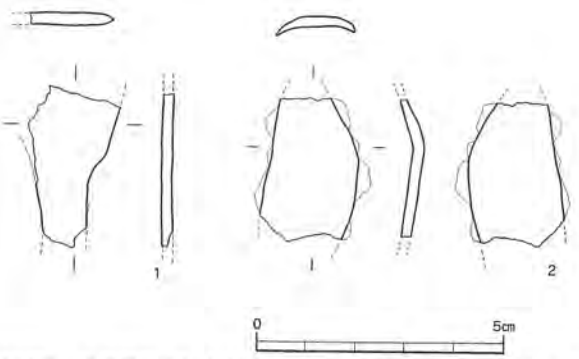
第Ⅲ-82図　185SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～9)〉



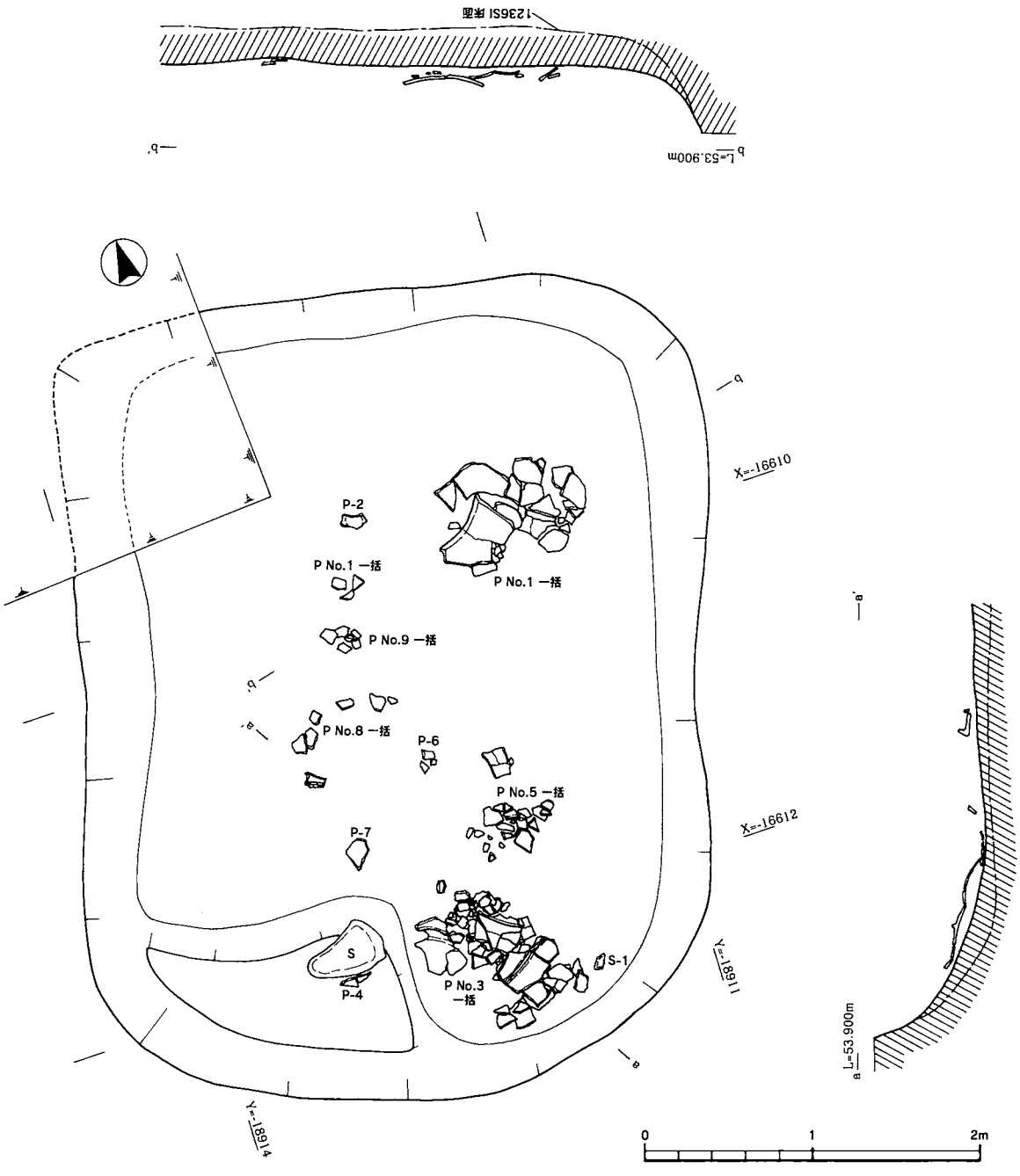
第Ⅲ-83図　177SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1～6)、2層(7～9)、1層(10～14)〉



第Ⅲ-84図　167SX･1236SI出土石器実測図(2/3)



第Ⅲ-85図　167SX出土鉄器実測図(2/3)〈2層(1)、1層(2)〉



第Ⅲ-86図　167SX遺物出土状況　平面・断面図(1/40)

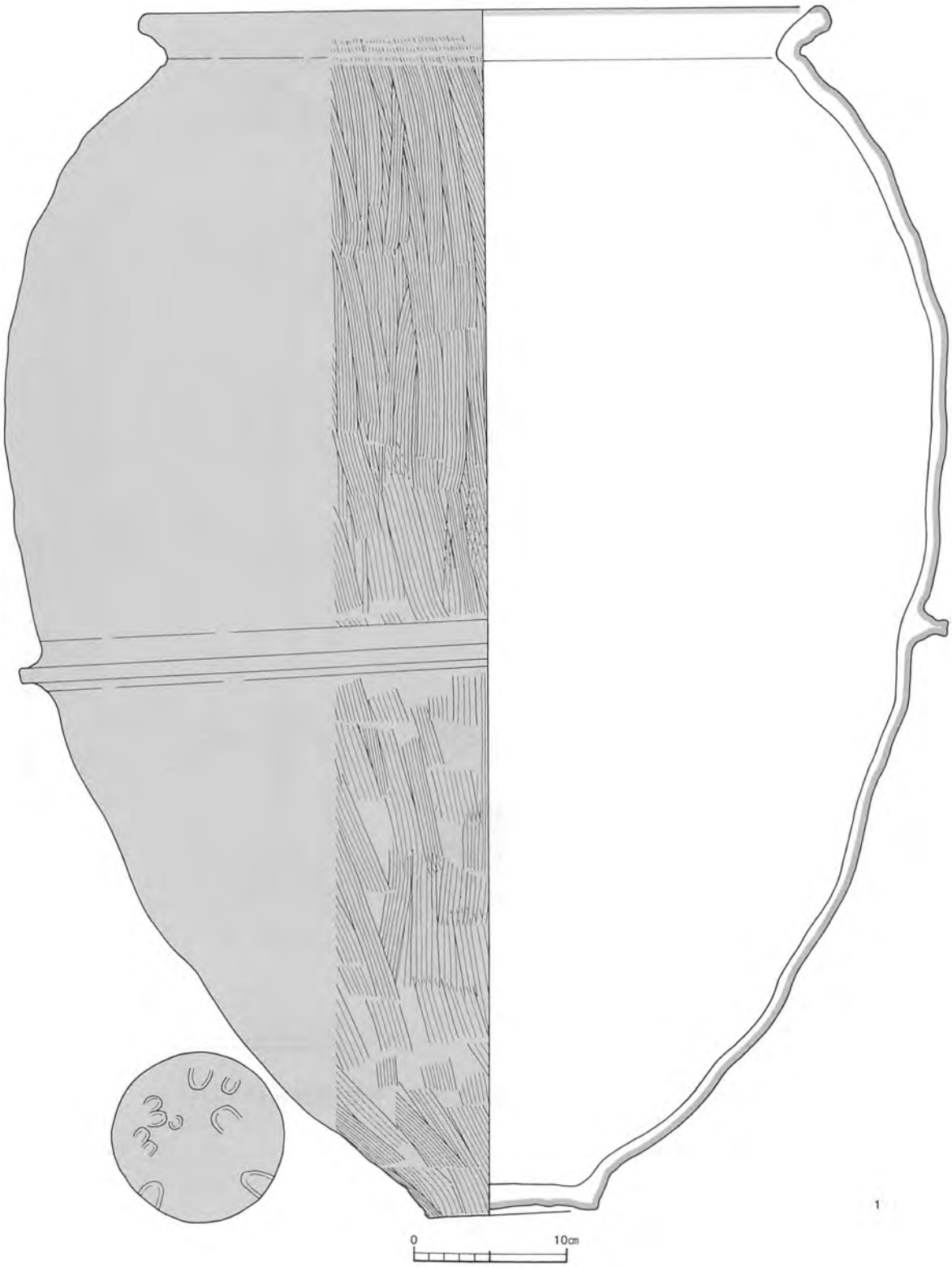
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片２・底部片２・壺口縁部片１が出土している。遺物は流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　残存面積が狭いため柱の構成などは不明である。遺物の出土状況から住居に直接伴うと考えられる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は４Ｂ期と推定される。

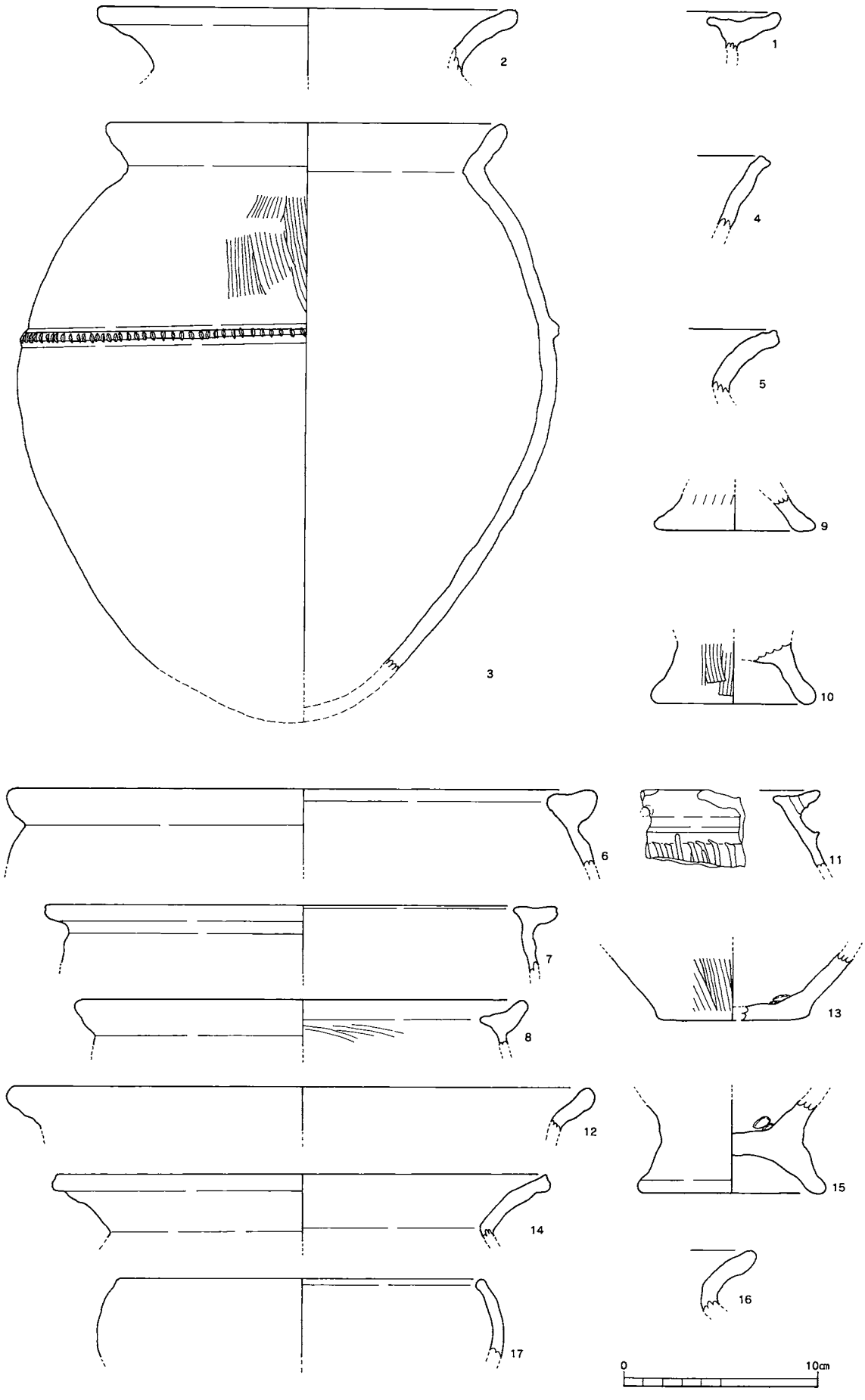
169SI（第Ⅲ-90・91・93・94・95・96・97・98・99図、PL.3・26・39・50）

位置　遺跡南西部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.2ｍで、埋没後、南東部分に167・185・177SIが建てられている。主軸の方位は、N-7°-Eである。

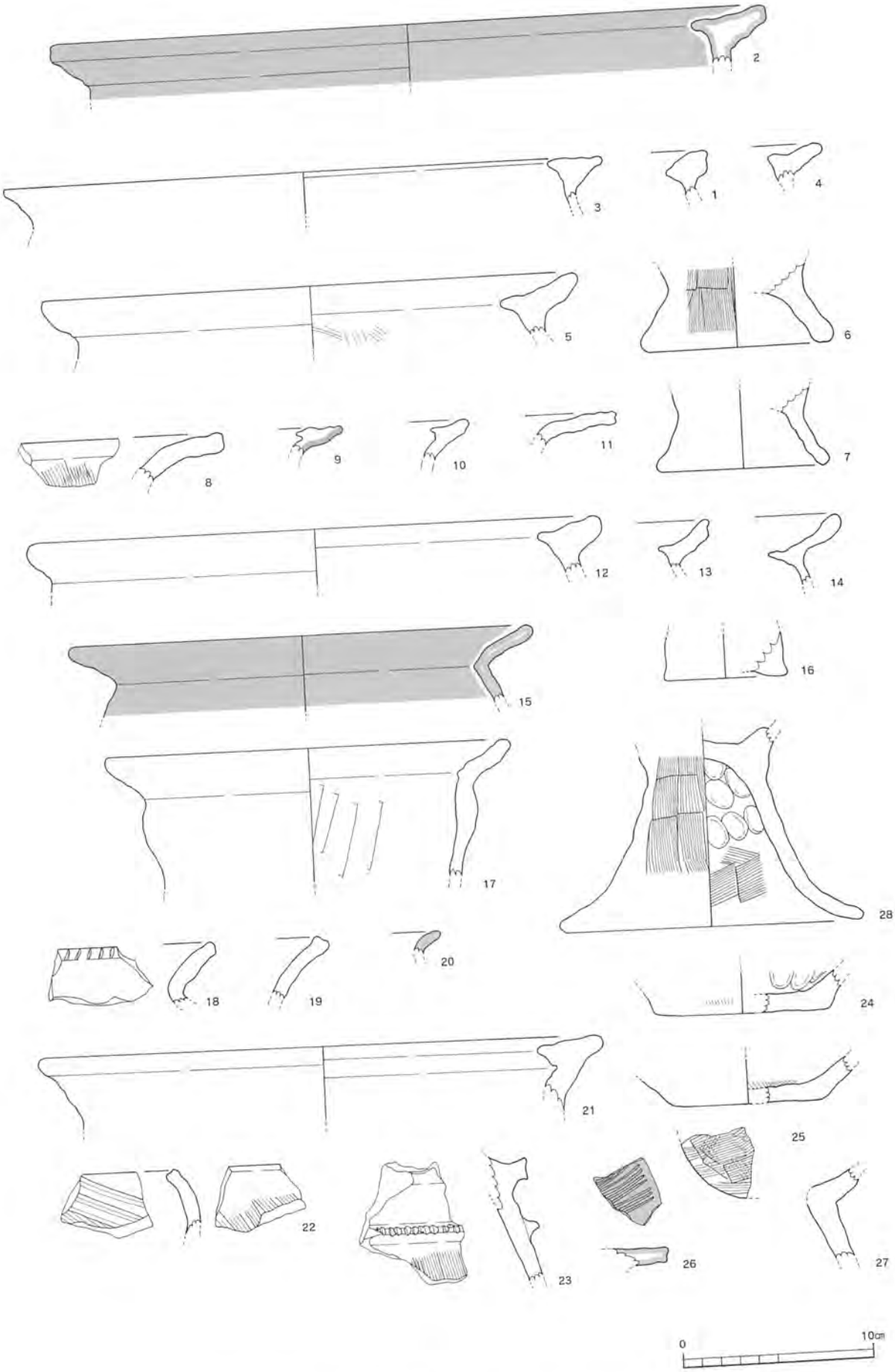
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸7.14ｍ、短軸6.22ｍを測る。推定床面積は39.23㎡で、残存床



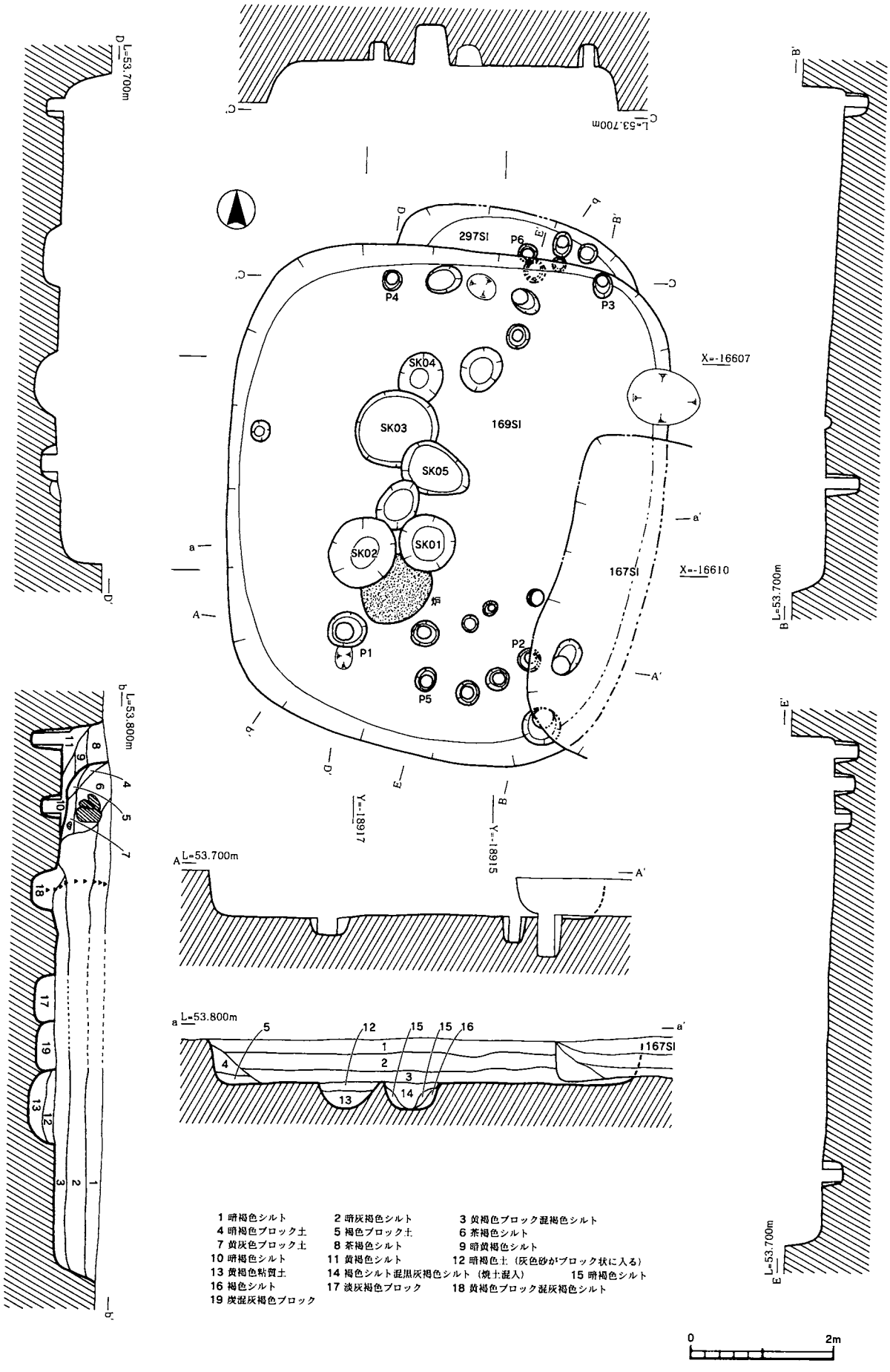
第Ⅲ-87図　167SX出土土器実測図1(1/4)〈3層(1)〉



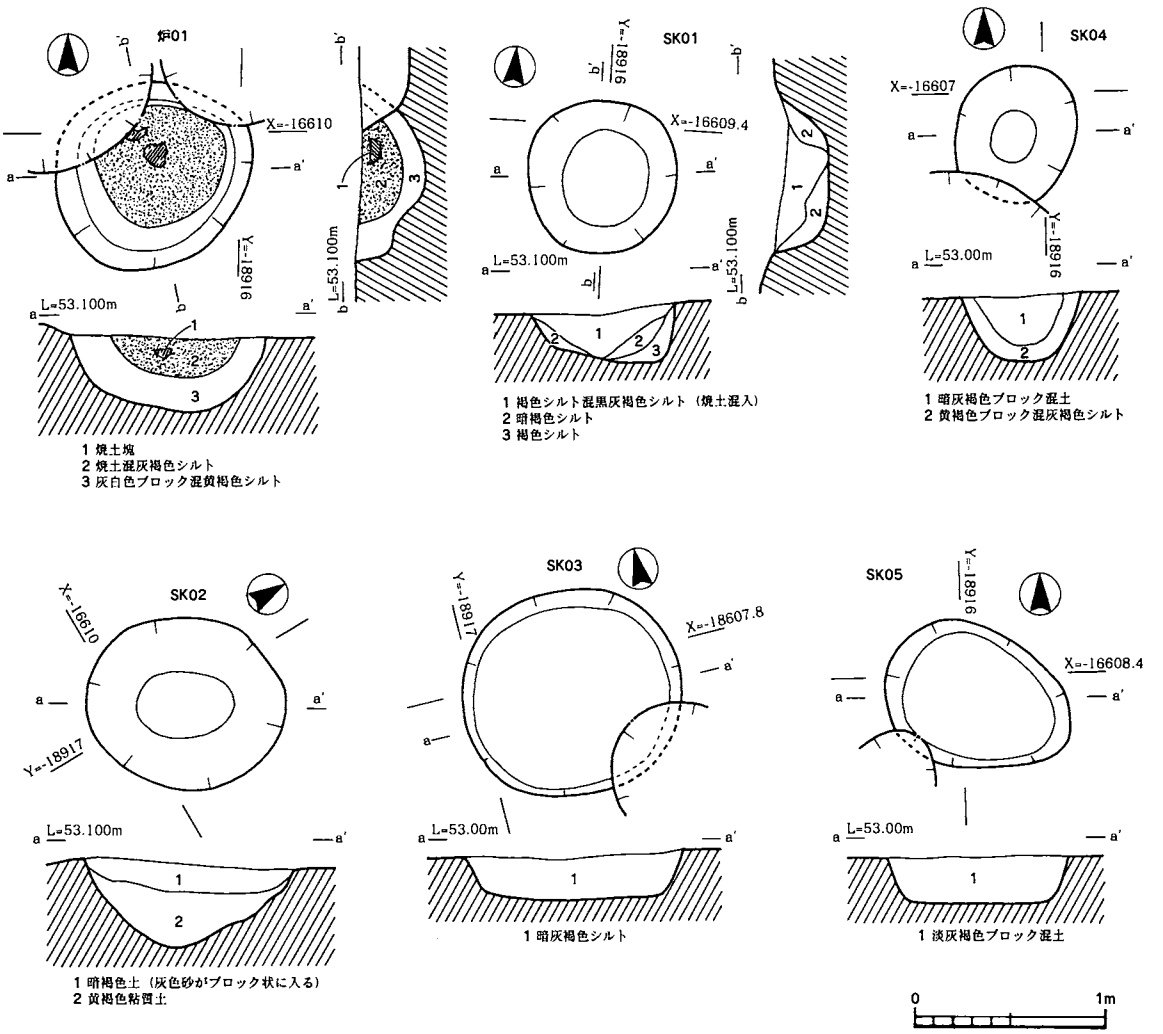
第Ⅲ-88図　167SX・1236SI出土土器実測図2(1/3)〈167SXNo(1～5)、1236SI(6～13)、肩部(14)、3層(15～17)〉



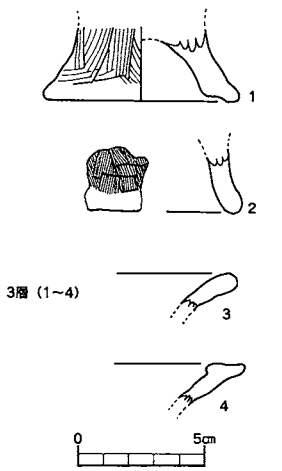
第Ⅲ-89図　167SX出土土器実測図3(1/3)〈2層(1～11)、1層(12～28)〉



第Ⅲ-90図　297SI・169SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-91図　169SI内炉・SK01~05　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-92図　297SI出土土器実測図(1/3)

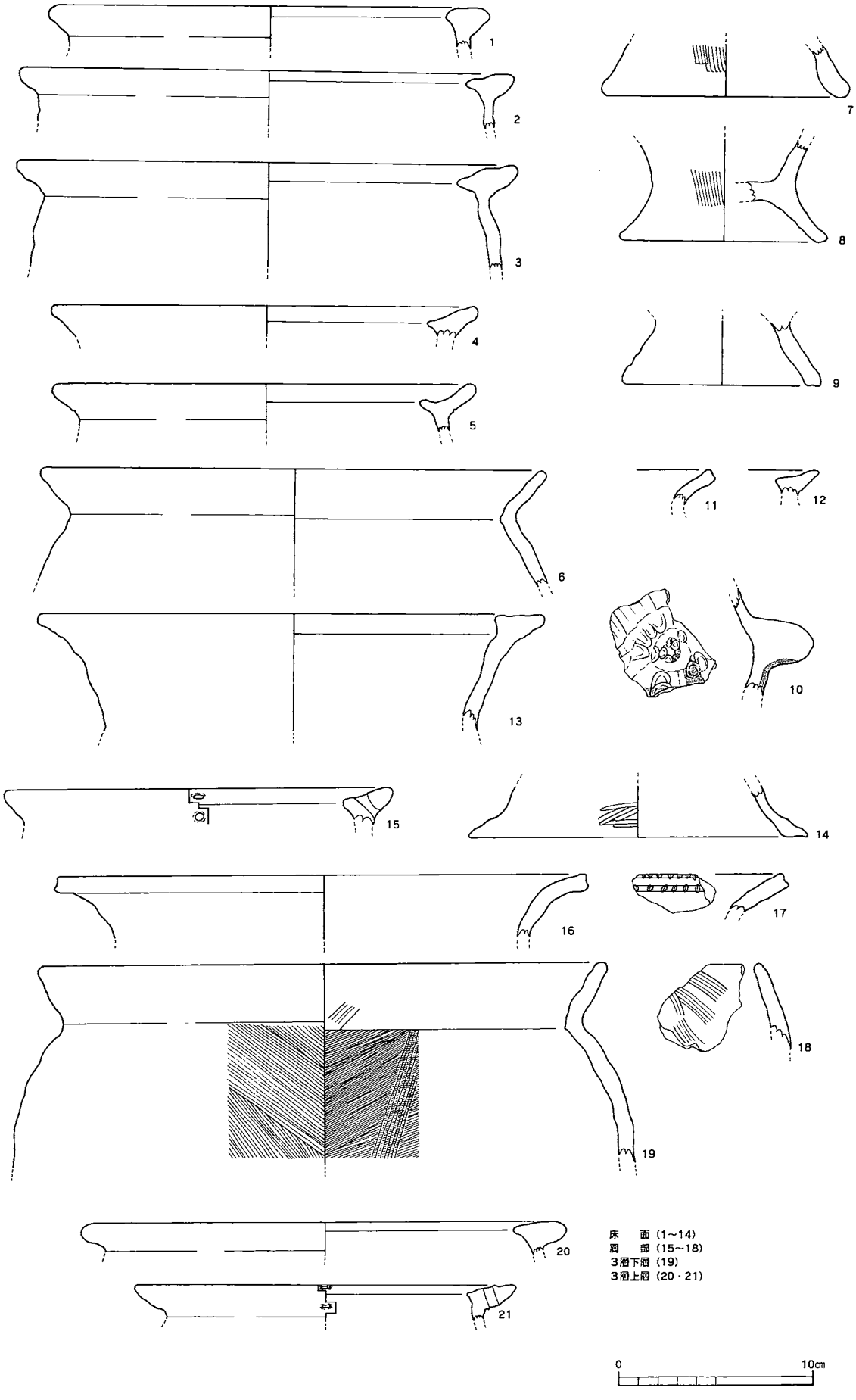
面積36.19㎡で、検出面からの深さは0.65 mである。埋土は3層からなる人為的に埋められた堆積が見られる。

柱穴　柱穴の径は20～56 cmで、深さは8～68 cmである。柱痕跡の径は、10～28 cmである。

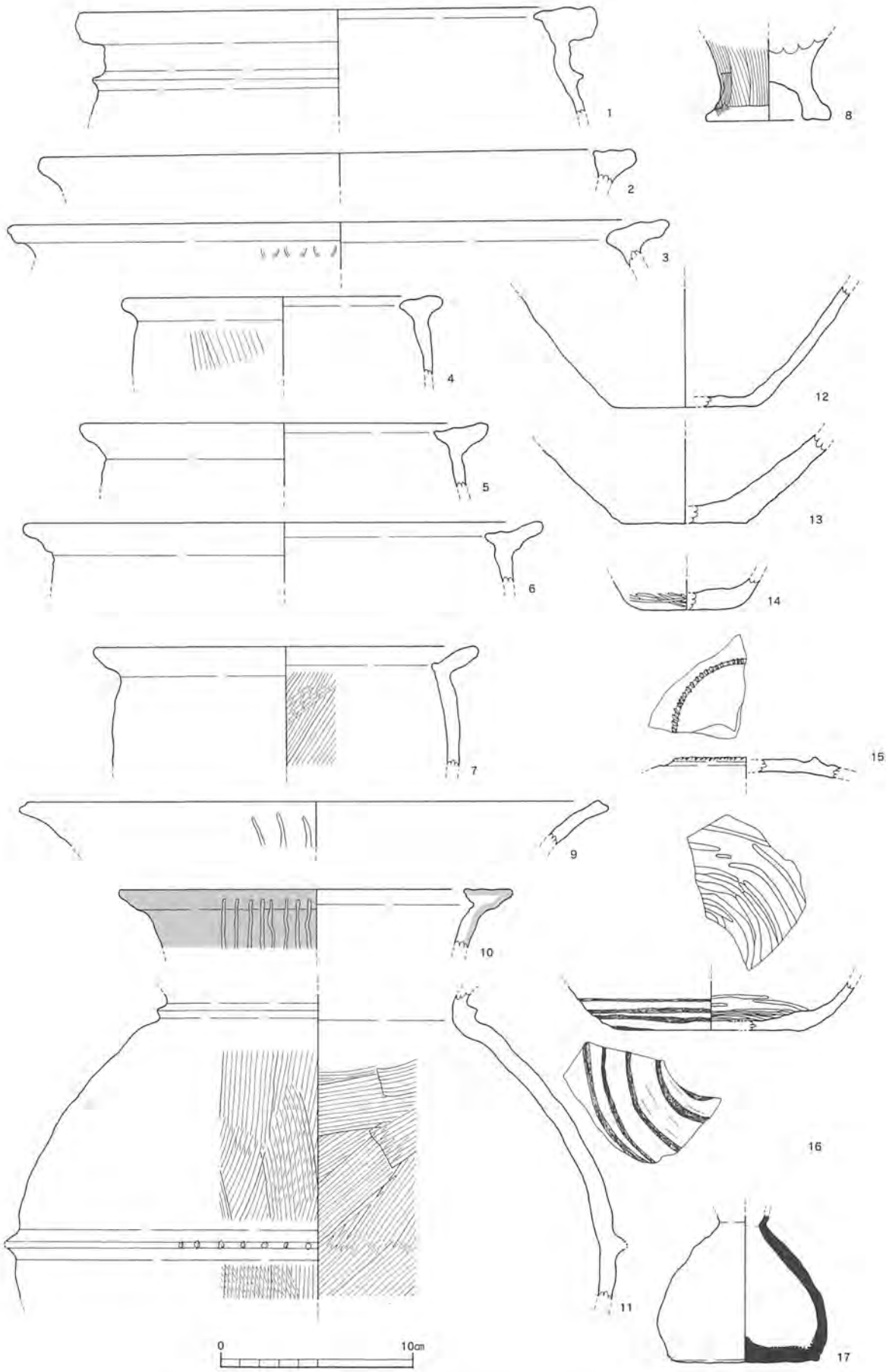
炉　住居の南側に位置し、長軸104 cm、短軸55 cm、深さ35 cmである。断面はU字状を呈する。埋土は2層からなり、下層は灰白色ブロックを含む黄褐色シルトで上層は焼土塊を多く含む。

貯蔵穴　住居の中央部に位置し、5カ所重複して検出された。SK01は長軸80 cm、短軸80 cm、深さ28 cmで、埋土は3層からなり、焼土を含む。SK02は長軸106 cm、短軸93 cm，深さ44 cmで埋土は2層からなる。SK03は長軸118 cm、短軸107 cm、深さ20 cmである。SK04は長軸70 cm、短軸62 cm、深さ42 cmである。SK05は長軸101 cm、短軸75 cm、深さ23 cmである。断面はいずれもU字状を呈する。SK03～05は、埋土は1層である。

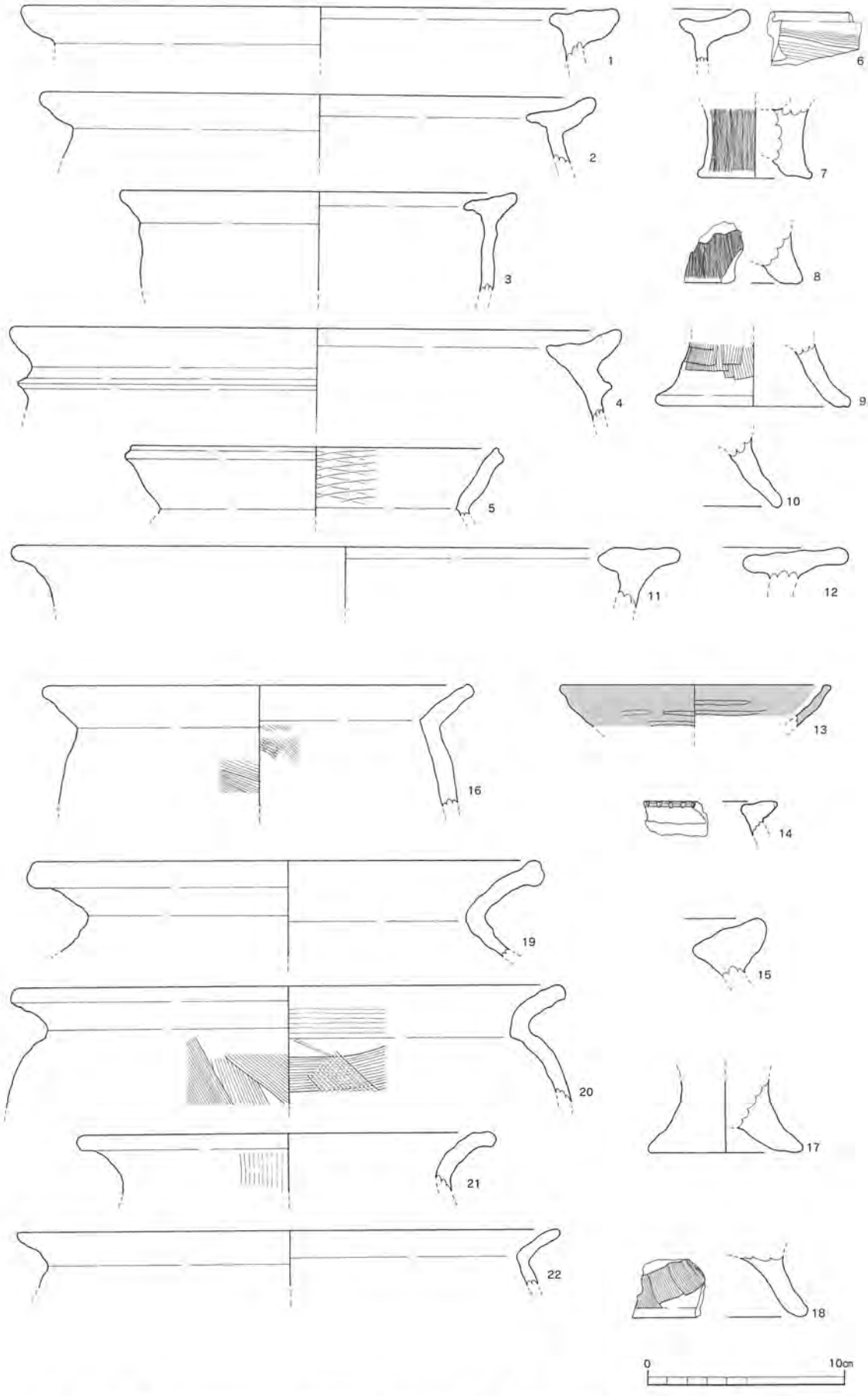
遺物出土状況　第Ⅲ-93図1～14は床面近くから出土しているが流れ込みの可能性が高い。ほとんどの遺物は流れ込みの遺物と推定される。住居の埋土からは、甕口縁部片6・底部片2、壺口縁部片5・高坏片1が出



第Ⅲ-93図　169SI出土土器実測図1（1/3）

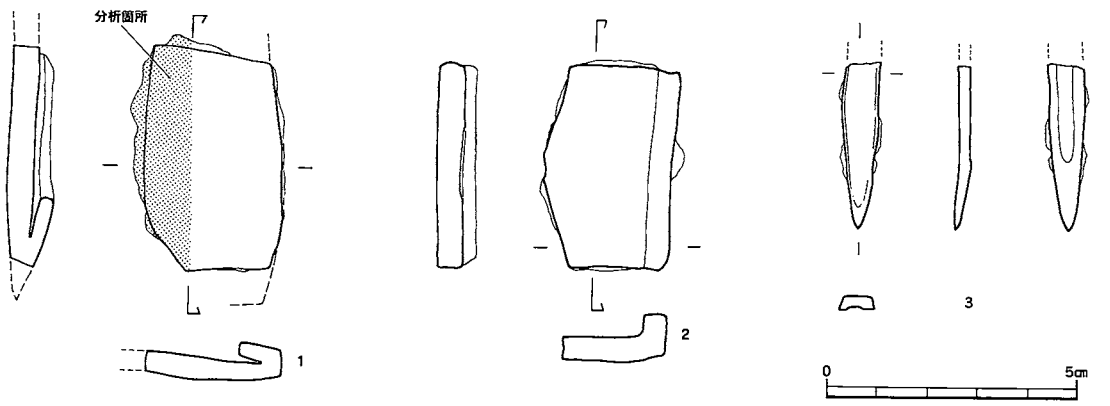


第Ⅲ-94図　169SI出土土器実測図2(1/3)〈2層(1～17)〉

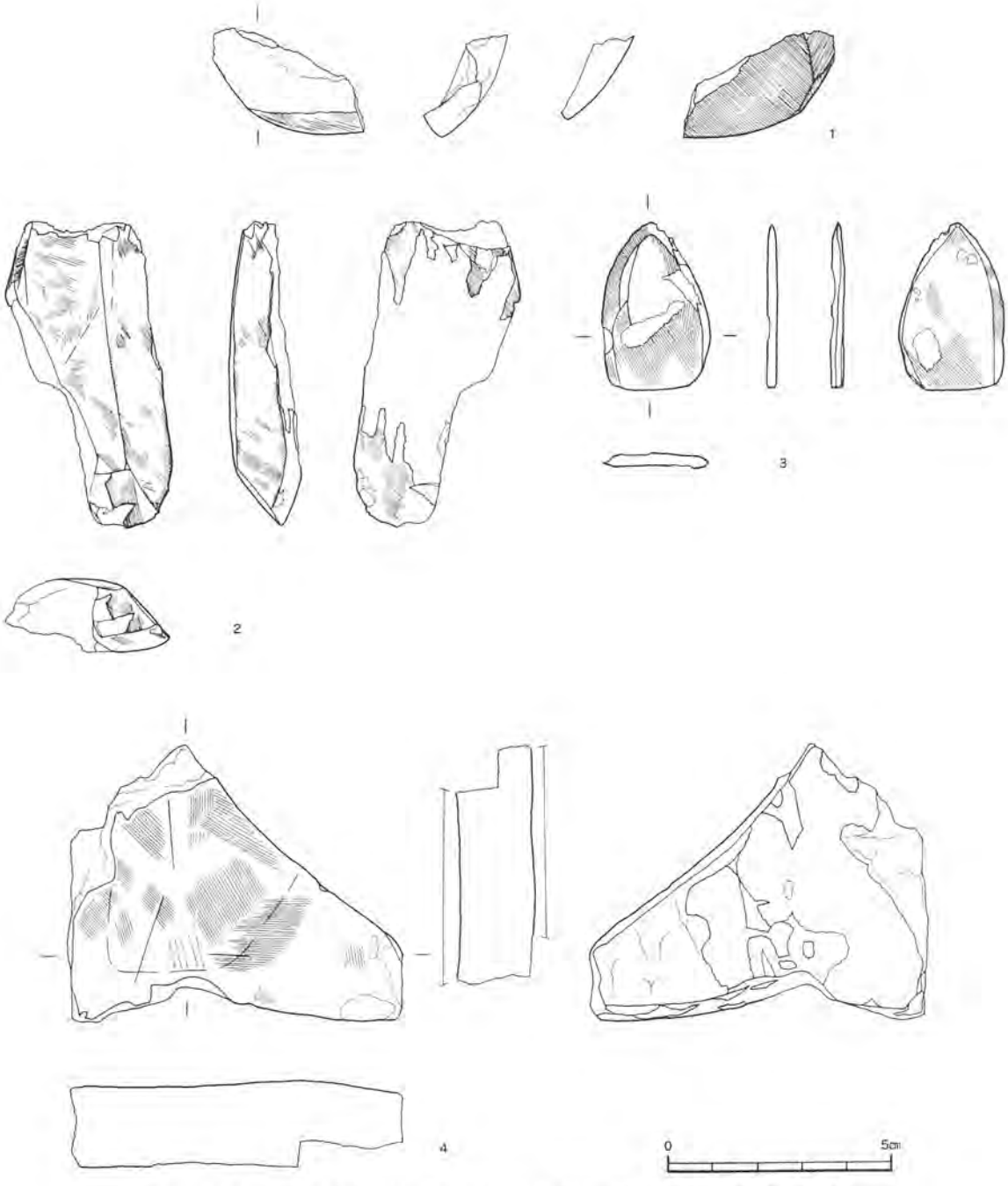


第Ⅲ-95図　169SI出土土器実測図3(1/3)〈1層下層(1～12)、1層上層(13～22)〉

第Ⅲ-96図　169SI出土土器実測図4(1/3)〈1層上層(1～13)〉



第Ⅲ-97図　169SI出土鉄器実測図(2/3)〈2層(1)、1層(2・3)〉



第Ⅲ-98図　169SI出土石器実測図1(2/3)〈2層(1)、1層(2～4)〉

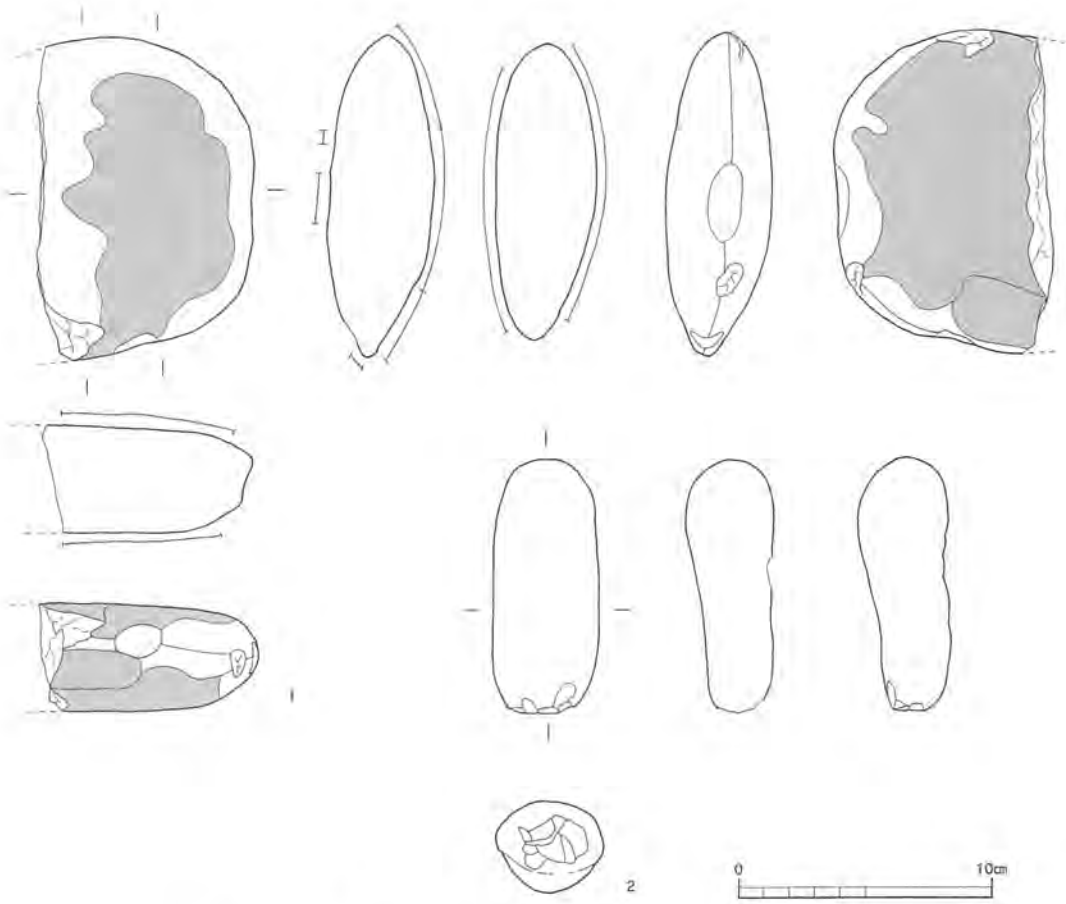
土している。なお、須恵器の瓶子（第Ⅲ-94図17、PL26）は、混入遺物と考えられる。

埋土上層から鋳造鉄斧再利用の素材鉄片2、棒状鉄片1、敲石1、磨製石斧2、砥石1が出土している。磨石は下層から出土している。

まとめ　主柱穴はP1～6の4＋2本柱構造の建物と推定できる。貯蔵穴は住居のほぼ中央に5基、炉は南側に1基確認でき、炉と土坑4・5の時期と、土坑1～3の時期の少なくとも2時期の利用が考えられる。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器（第Ⅲ-93図6・19）や住居の新旧関係から、住居の時期は6B期と推定される。

292SI（第Ⅲ-100・101図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形はほぼ留めていると考えられる。床面の標高



第Ⅲ-99図　169SI出土石器実測図2(2/3)〈3層(1・2)〉

は約52.9 mで、この住居埋没後に上層部全面に169SIが建てられている。主軸の方位は、N -3°-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸5.72 m、短軸3.62 mを測る。床面積は19.26 ㎡で、検出面からの深さは0.23 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は34 ～ 55 ㎝で、深さは21 ～ 60 ㎝である。柱痕跡の径は、15 ～ 25 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2、壺口縁部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴はＰ1～4の4本柱で構成されるものと考えられる。遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の時期は出土土器や住居の新旧関係から考えて4A期と推定される。

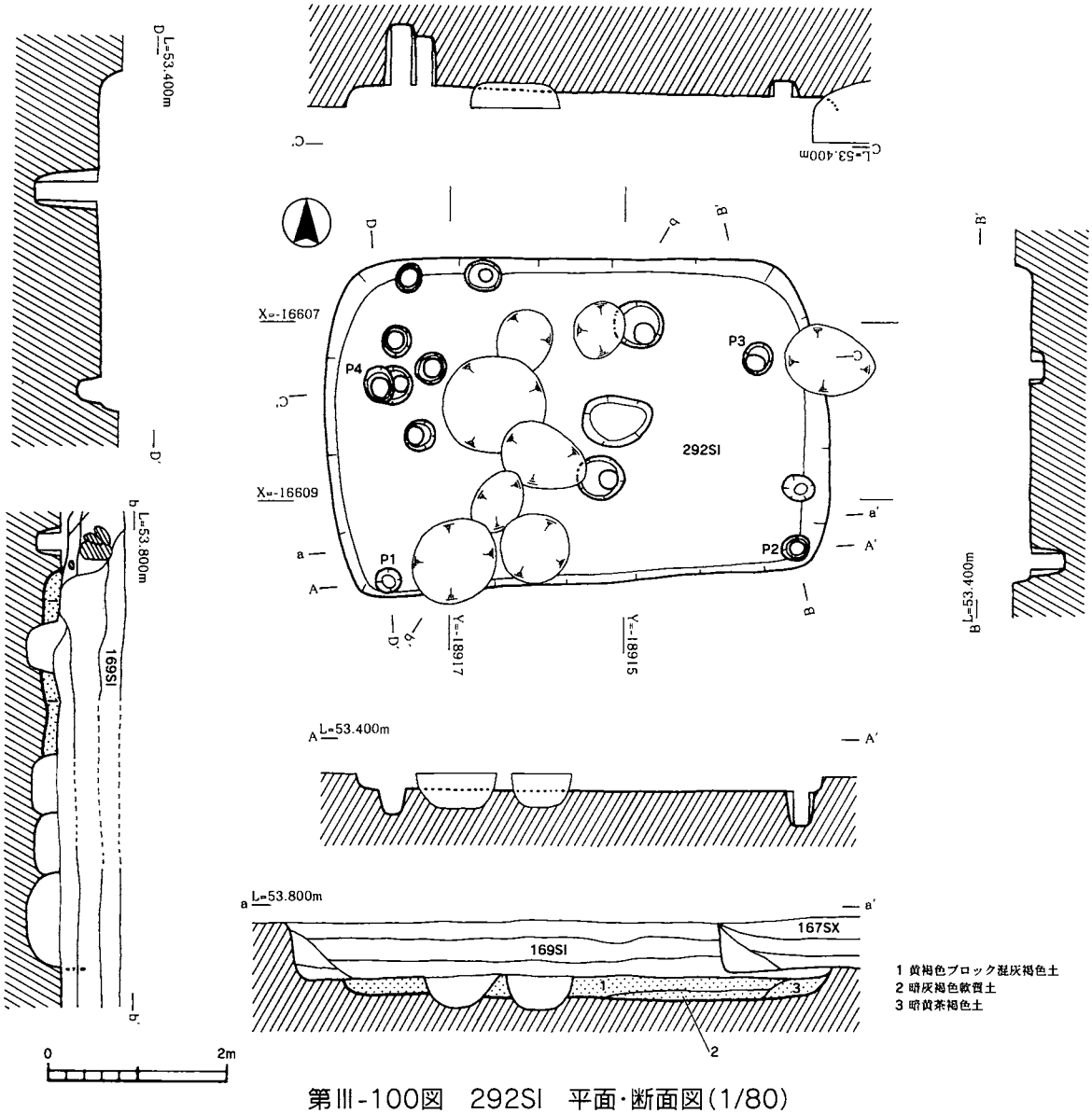
179SI（第Ⅲ-102・103・104図・PL.26・50）

位置　遺跡南西部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、この住居埋没後、南側に183SIが建てられている。主軸の方位はN -5°-Eである。

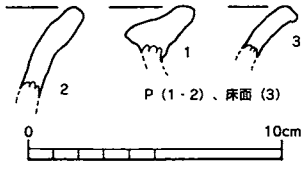
住居形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸6.24 m以上、短軸6.06 mを測る。残存床面積は21.0 ㎡で、検出面からの深さは0.9 mである。硬化面は認められない。埋土は4層からなる。

遺物出土状況　床面近くに第Ⅲ-103図1・2が出土しているが、ほとんどが廃棄及び流れ込みの遺物と推定される。廃棄の遺物としては、第Ⅲ-103図7・12、第Ⅲ-104図10・11・12等が考えられる。住居埋土からは、甕口縁部片75・底部片8、壺口縁部片18・底部片9、無頸壺片1、鉢片3、高坏片1が出土している。3層から、木質の残存した鉄鏃1（第Ⅲ-104図24・PL.50）が出土している。

まとめ　この住居埋没後180・183・169・1035SIが建てられており、また完掘していないため柱穴の配置



第Ⅲ-100図　292SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-101図　292SI出土土器実測図(1/3)

等は不明であるが、短軸6m・長軸6m以上、深さ1m以上の楕円形を呈する竪穴住居と推定できる。

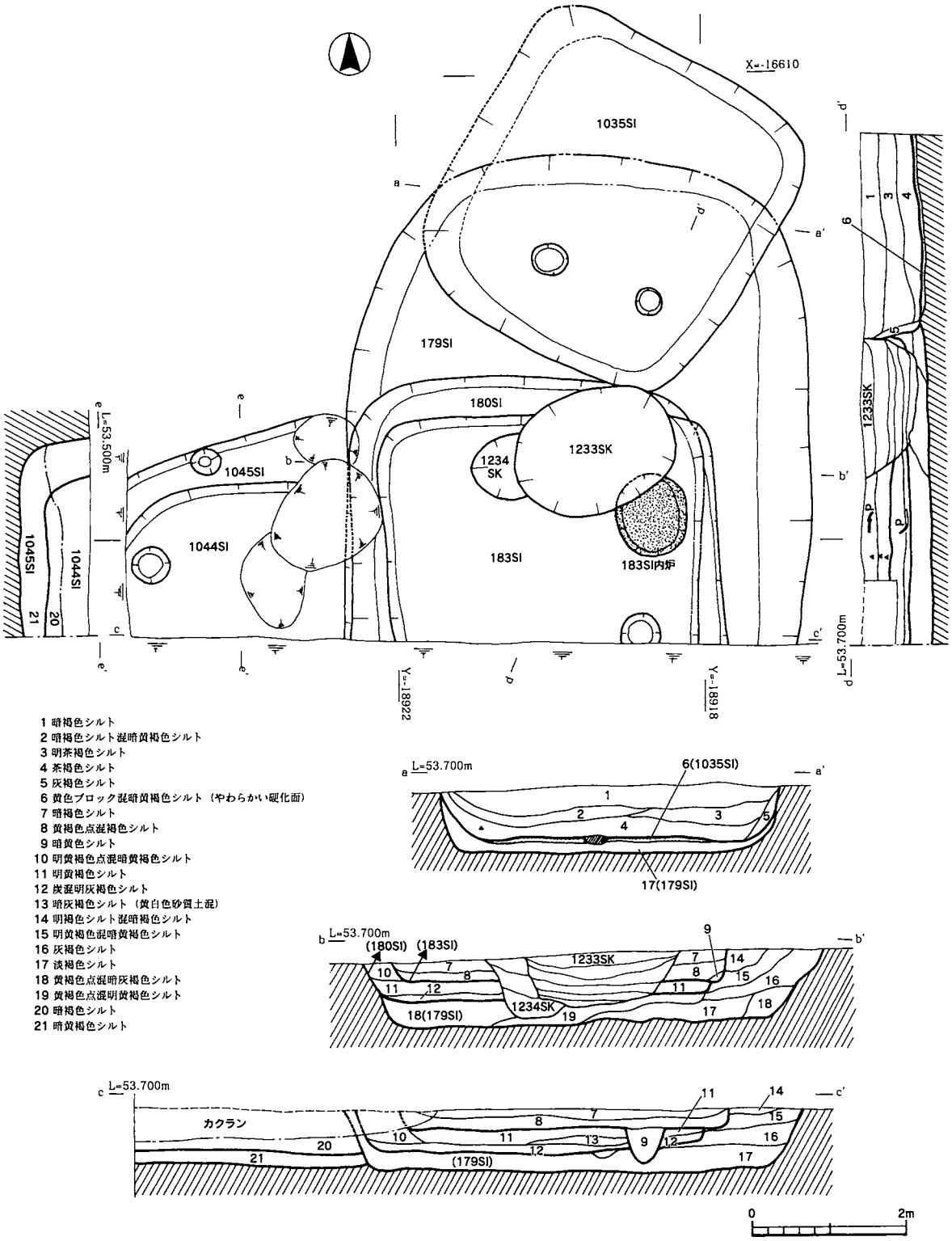
遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B期に位置づけられると推定できる。

180SI（第Ⅲ-102・105・106・107・108・109図、PL.27・40）

位置　遺跡南西部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9mで、南部は調査区外にかかり、この住居埋没後上層部に183SIが建てられ、主軸の方位はN-4°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.44m以上、短軸4.70mを測る。残存床面積は14.2㎡で、検出面からの深さは0.48mである。硬化面は認められない。埋土は3層からなり、ブロックを顕著に含む。

遺物出土状況　第Ⅲ-106図2・3・5・6・7は集中して床面近くに出土しており、廃棄された可能性が高い。第Ⅲ-106図8は床面近くに流れ込んだ遺物と考えられる。住居の埋土からは、甕口縁部片32・底部片5、壺



第Ⅲ-102図　1045SI・1044SI・179SI・180SI・183SI・1035SI　平面・断面図(1/80)

口縁部片44・底部片2、無頸壺片2、鉢片4が出土している。2・1層から石包丁が1点ずつ出土している。(第Ⅲ-109図1・2、PL.40)

まとめ　土坑2基（1233SK, 1234SK）に撹乱を受け、柱穴の配置は不明だが、一辺4.5m以上で深さ0.8mの竪穴住居と推定される。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B期と推定される。

183SI（第Ⅲ-102・110・111・112・113図、PL.27・50）

位置　遺跡南西部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.2ｍで、南側は調査区外にかかる。主軸の方位はN-4°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸は2.90ｍ以上、短軸4.40ｍを測る。残存床面積は11.0㎡で、検出面からの深さは0.24ｍである。硬化面は認められない。埋土は２層からなる。ブロックを顕著に含む。

炉　住居の北東部に位置し、長軸100㎝、短軸52㎝、深さ40㎝を測る。断面はU字状を呈する。埋土は２層からなり、上層に炭が集中して検出された。

遺物出土状況　炉に据えられた状況で甕（第Ⅲ-112図1）が出土した。埋土からは、甕口縁部片32・底部片2、壺口縁部片10・底部片２が出土している。１層から鉄鏃片１点が出土している。いずれも流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　柱穴が１基住居内で検出されており、その位置から、一辺4.3ｍ以上で深さ0.7ｍの２本柱主柱穴構造の竪穴住居と推定される。住居の時期は、出土土器や住居の新旧関係から考えて６Ｂ期と推定される。180SIの床面をかさあげして再利用した可能性がある。

1035SI（第Ⅲ-102・114・115・116図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7ｍで、東側にはこの住居埋没後に169SIが建てられている。主軸の方位はN-30°-Eである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.30ｍ、短軸4.04ｍを測る。床面積は12.9㎡で、検出面からの深さは70㎝である。硬化面は床全面に認められる。埋土は３層からなる。ブロックを顕著に含む。

柱穴・その他　柱穴の径は36～40㎝で、深さは15～45㎝である。柱痕跡は認識できない。炉・貯蔵穴は見られない。

遺物出土状況　第Ⅲ-115図1・3、第Ⅲ-116図2・4がまとまって出土しており、住居に伴う可能性がある。他の遺物は、廃棄されたと考えられる。

まとめ　柱穴を２基しか検出していないため詳細は不明であるが、４本柱を主柱穴とする竪穴住居と推定できる。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は７期に位置づけられると推定できる。

1045SI（第Ⅲ-102図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.5ｍで、この住居埋没後、上層部に1044SIが、東側に179SIが建てられ、西側は撹乱で、南側は調査区外にかかる。

遺物出土状況　住居からは時期が確定できるような遺物は出土していない。

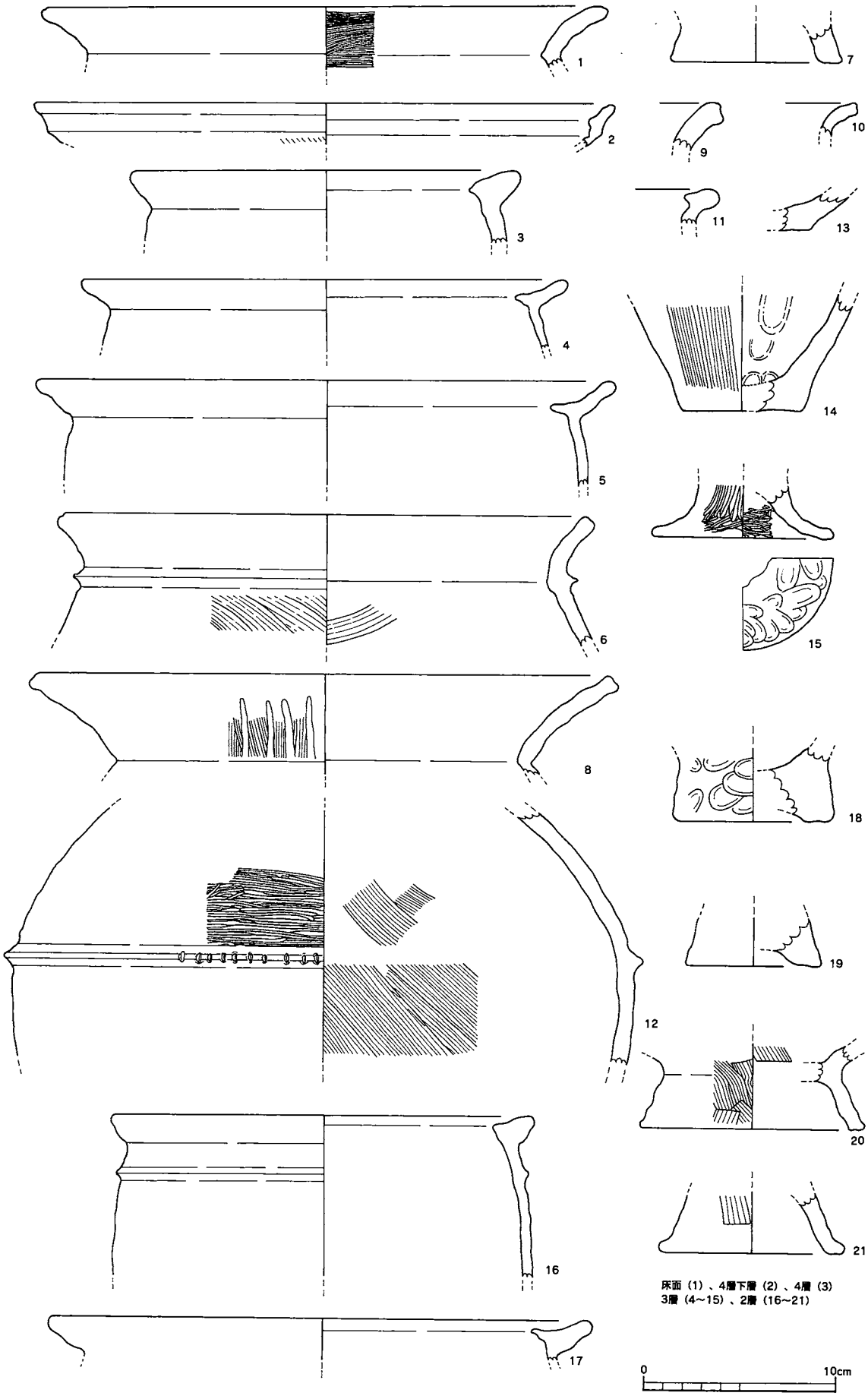
まとめ　1044SIの下層に住居の床面があり、保存部分であるため、トレンチで床面を確認したに留まった。そのため、住居形態・柱位置・炉・貯蔵穴等詳細は不明である。住居の新旧関係から、時期は6B期以前と考えられる。

1044SI（第Ⅲ-102図）

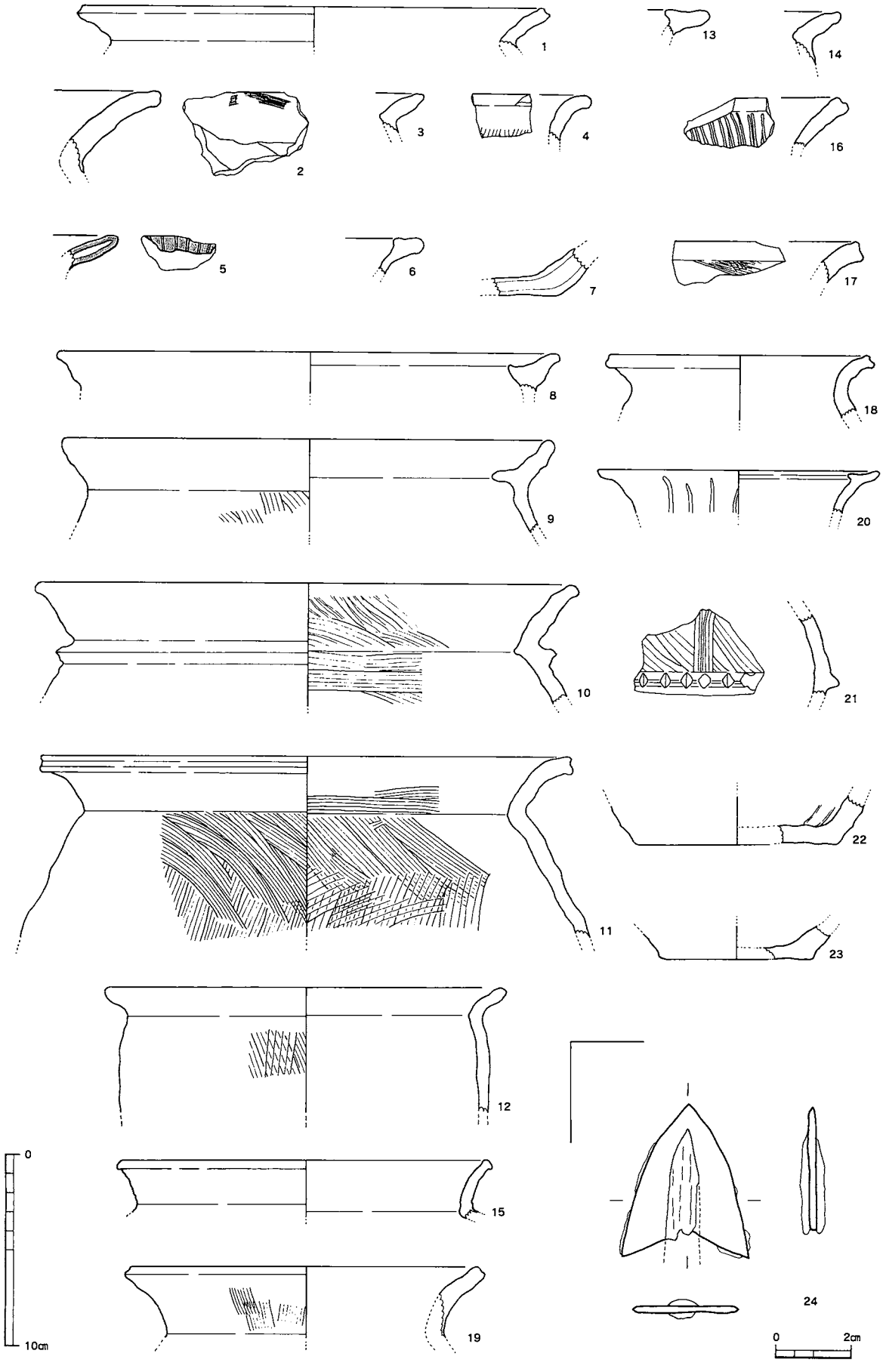
位置　遺跡南西部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9ｍで、埋没後、東側に179SIが建てられ、西側は撹乱で、南側は調査区外である。

遺物出土状況　住居からは時期が確定できるような遺物は出土していない。

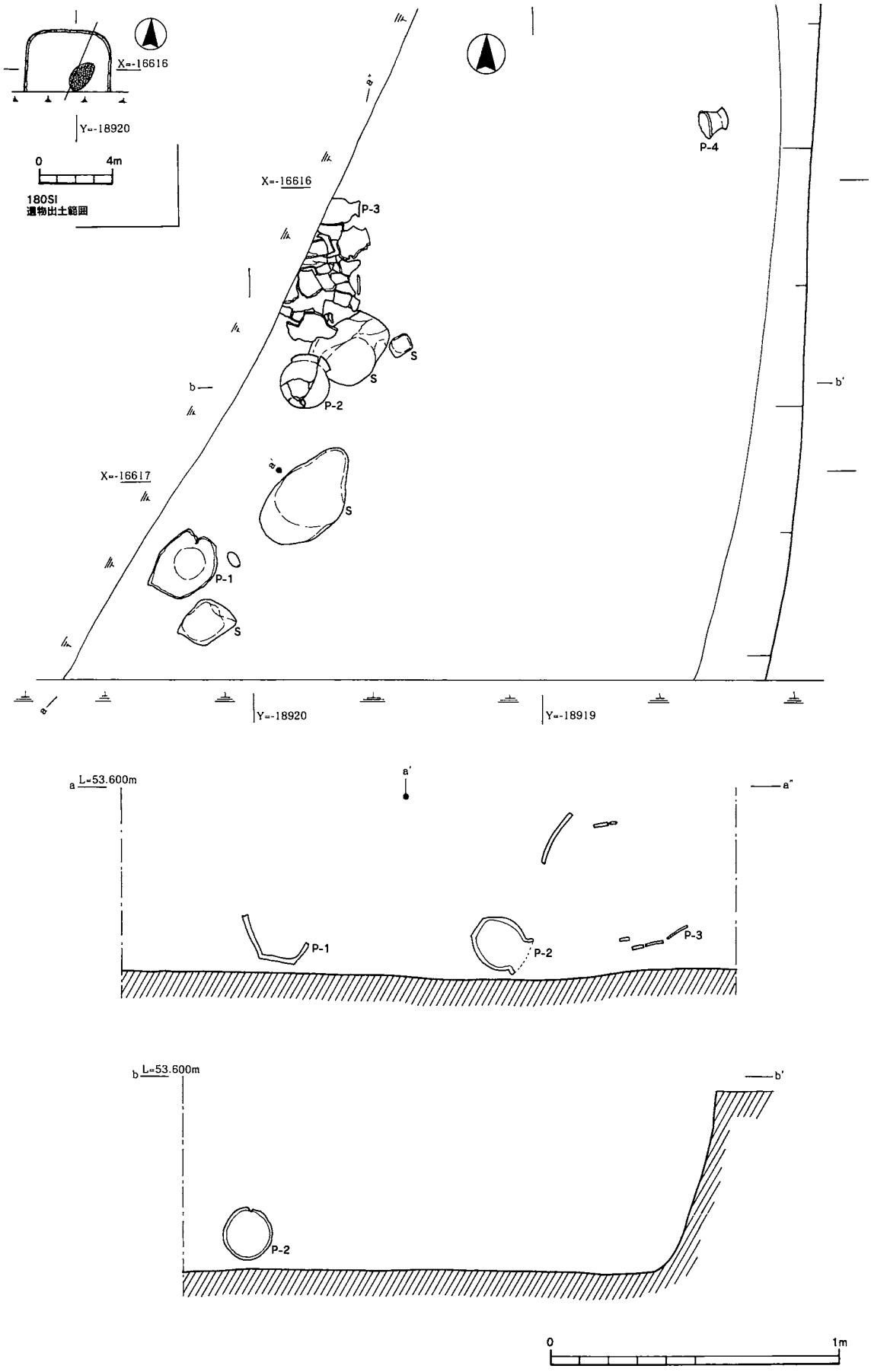
まとめ　柱穴が１基検出されているが、南側が調査区外に伸びていることと北東部分が撹乱で壊されているため、住居形態・柱配置等住居の構造は不明である。住居の新旧関係から時期は６Ｂ期以前と考えられる。



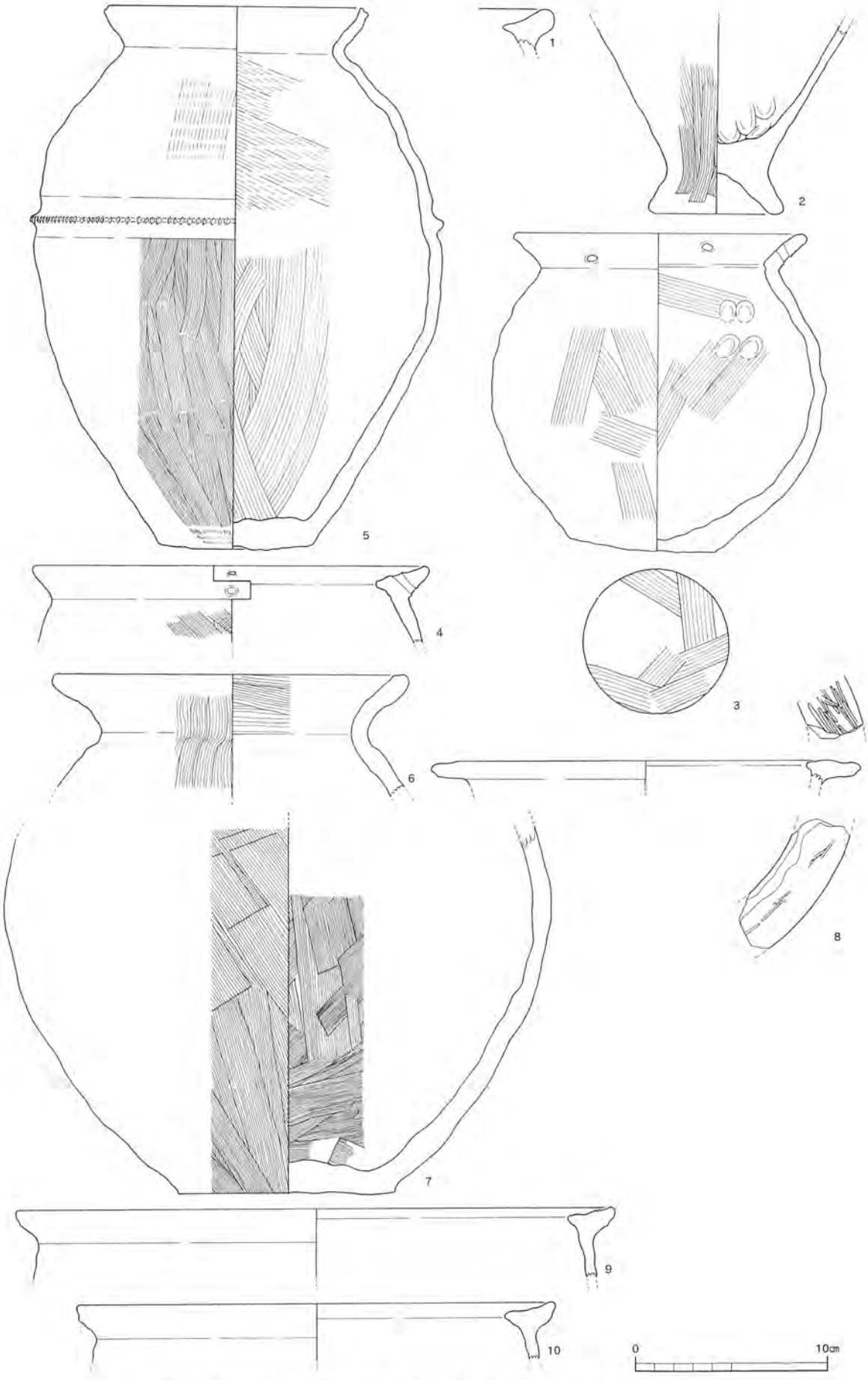
第Ⅲ-103図　179SI出土土器実測図1(1/3)



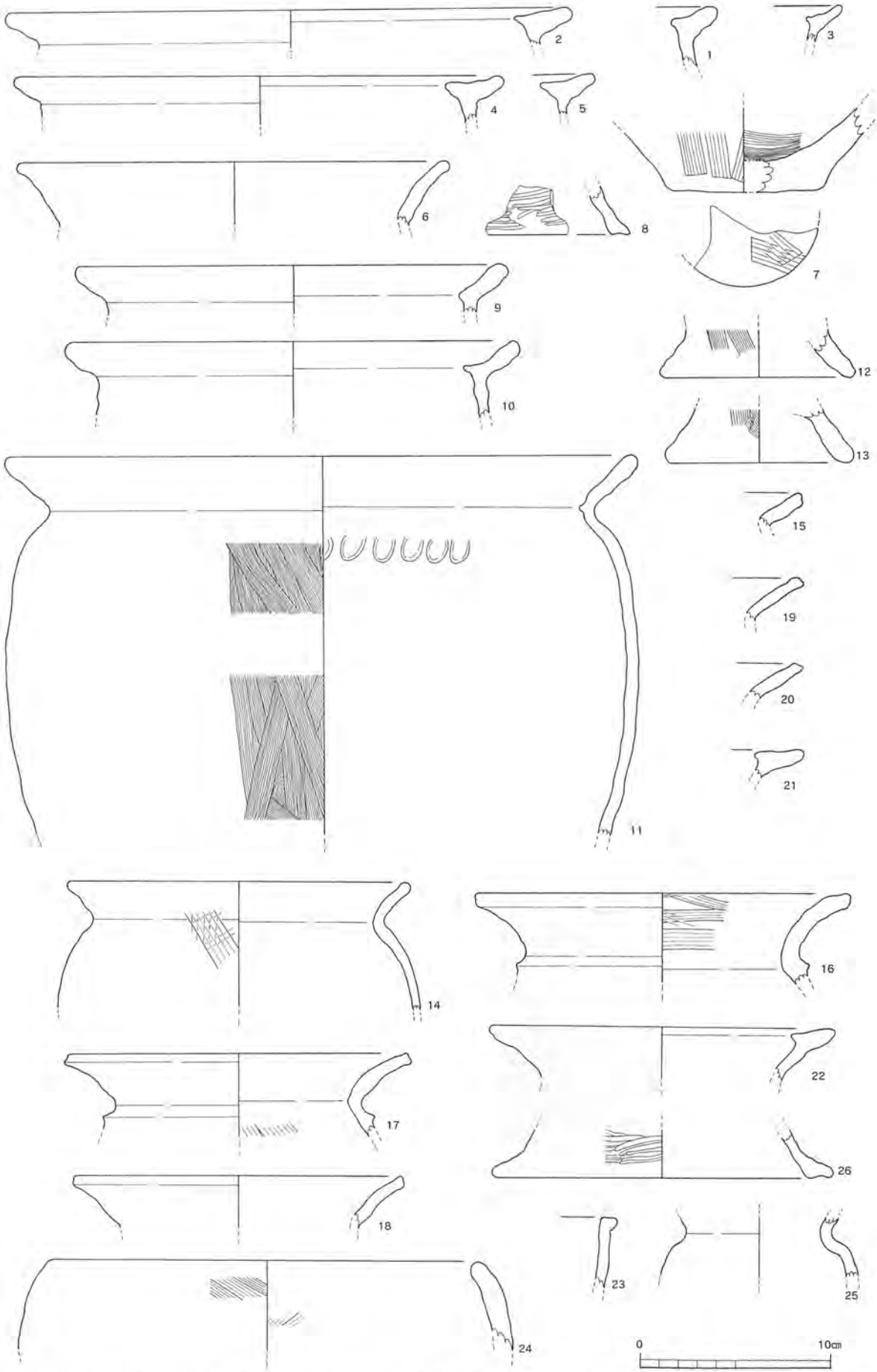
第Ⅲ-104図　179SI出土土器・鉄器実測図2(1/3)〈2層(1～7)、1層(8～23)〉(2/3)〈3層(24)〉



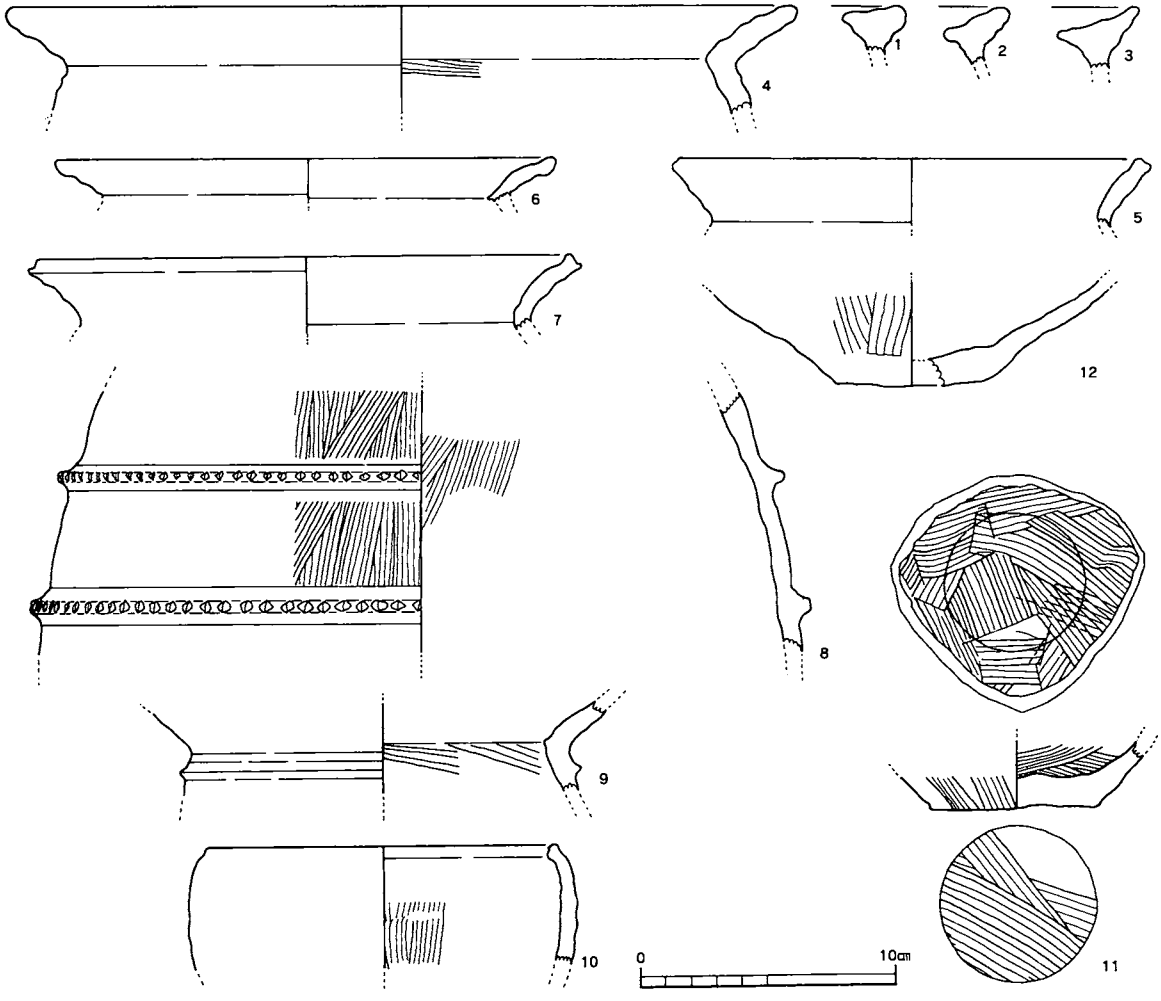
第Ⅲ-105図　180SI遺物出土状況　平面・断面図(1/20)



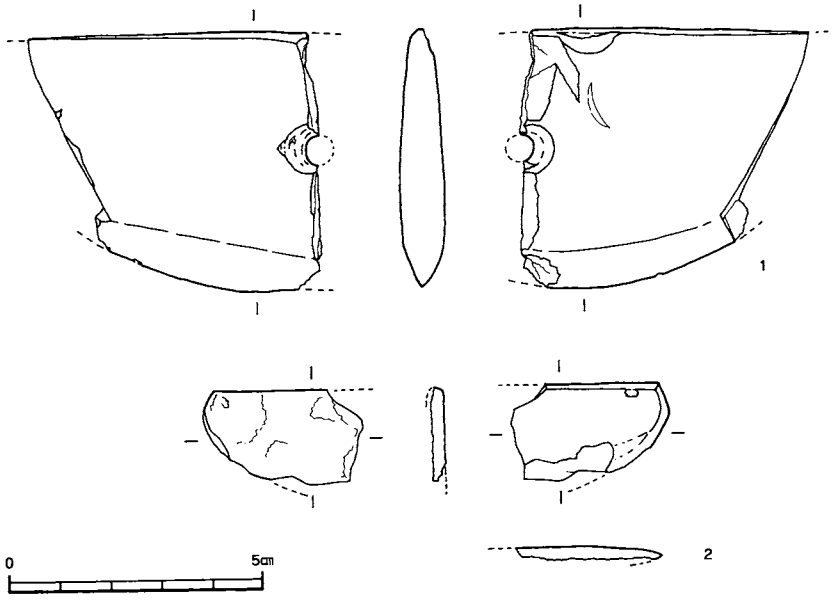
第Ⅲ-106図　180SI出土土器実測図1(1/3)〈床面(1～10)〉



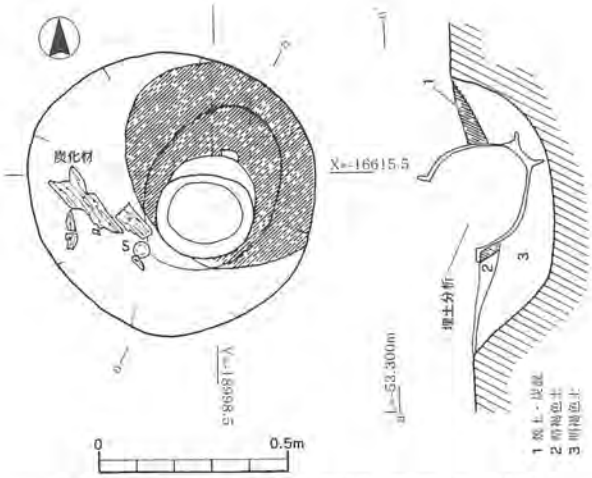
第Ⅲ-107図　180SI出土土器実測図2(1/3)〈2層下層(1～3)、2層上層(4～8)、1層下層(9～26)〉



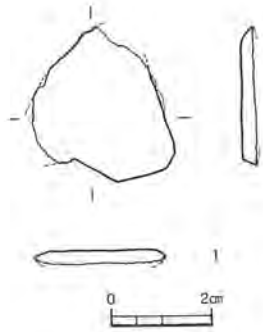
第Ⅲ-108図　180SI出土土器実測図3(1/3)〈1層上層(1～12)〉



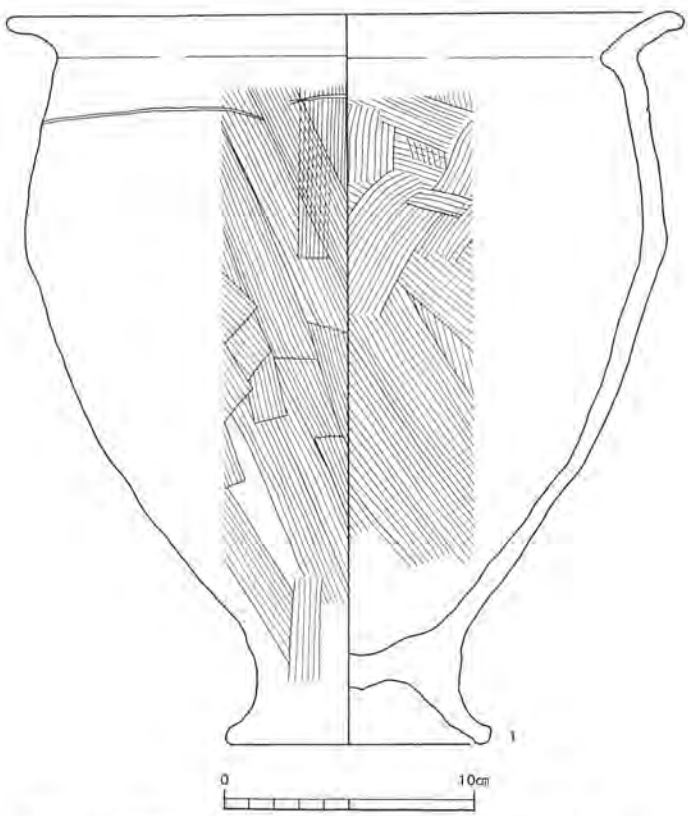
第Ⅲ-109図　180SI出土石器実測図(2/3)〈3層(1)、2層(2)〉



第Ⅲ-110図　183SI内炉・遺物出土状況
平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-111図　183SI出土鉄器
実測図(2/3)
〈1層〉



第Ⅲ-112図　183SI出土土器実測図1(1/3)〈炉(1)〉

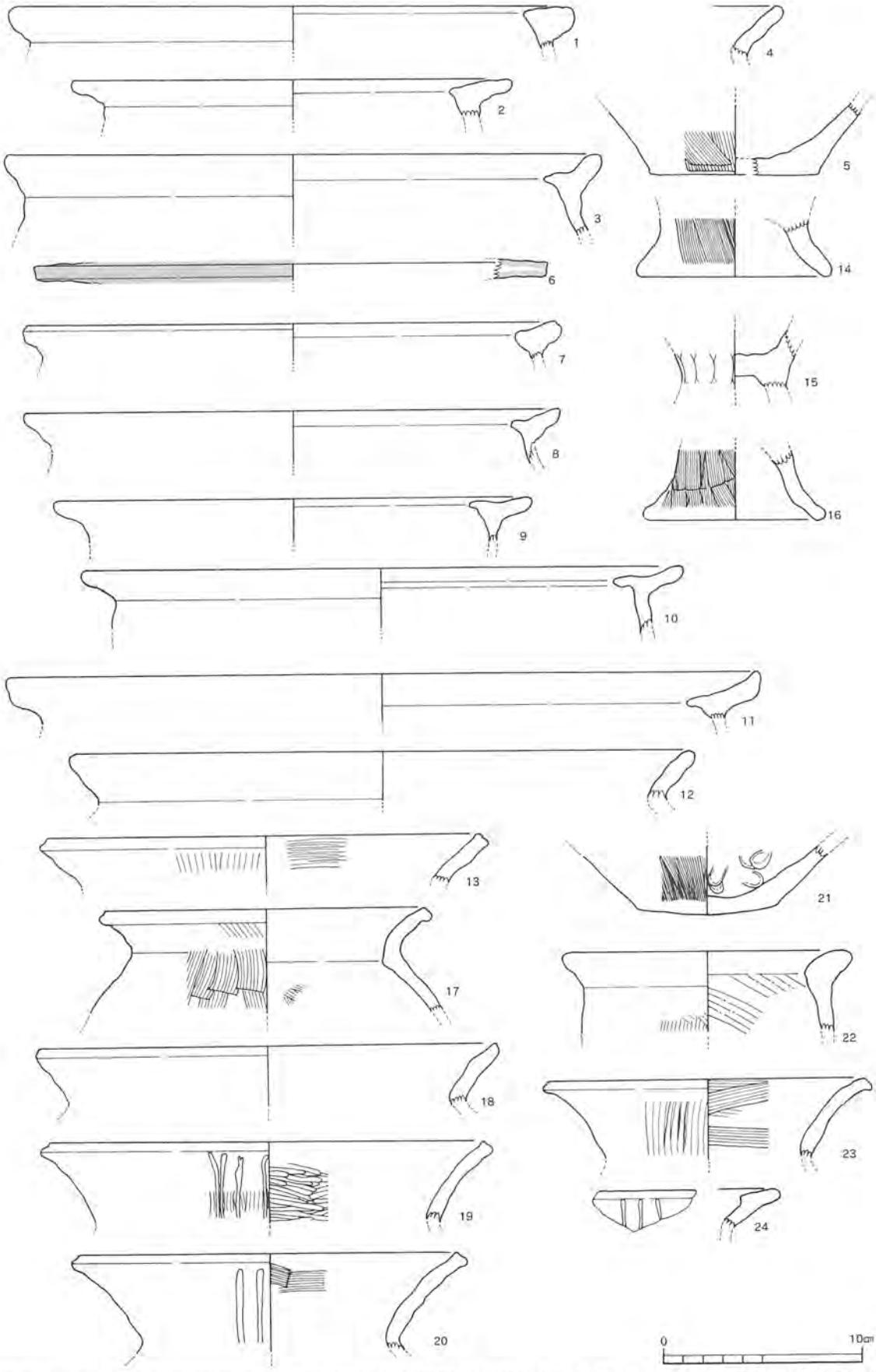
1060SI（第Ⅲ-117図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原から自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9 mで、この住居埋没後、東側に1058SI、西側に1059SI、南側に198SIが建てられている。

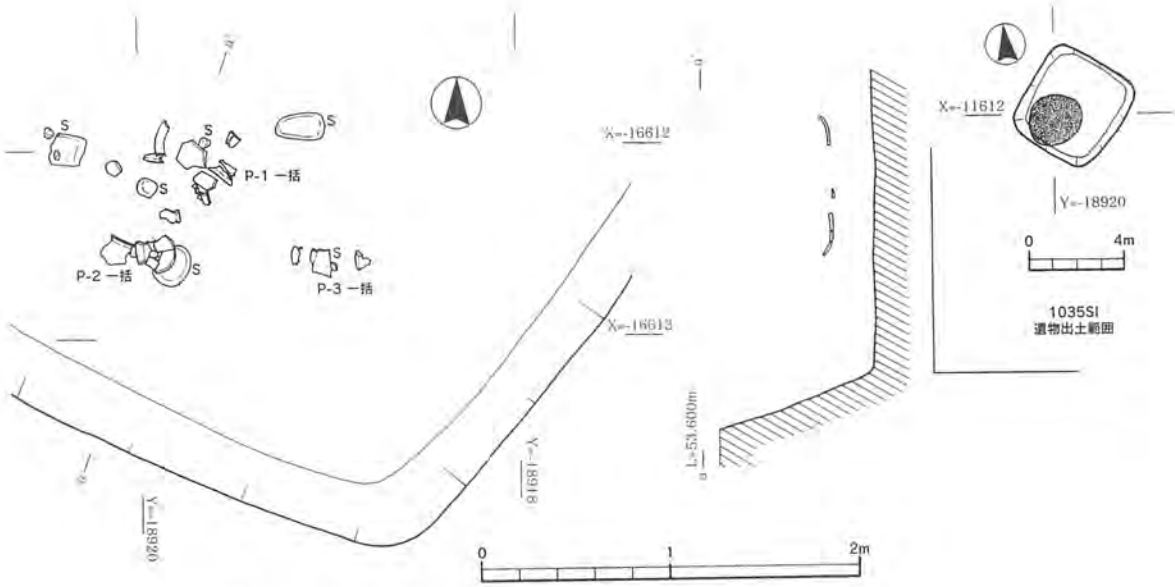
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.48 m以上、短軸2.40 m以上を測る。床面積は不明で、検出面からの深さは約0.40 mである。硬化面は未確認である。埋土は2層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

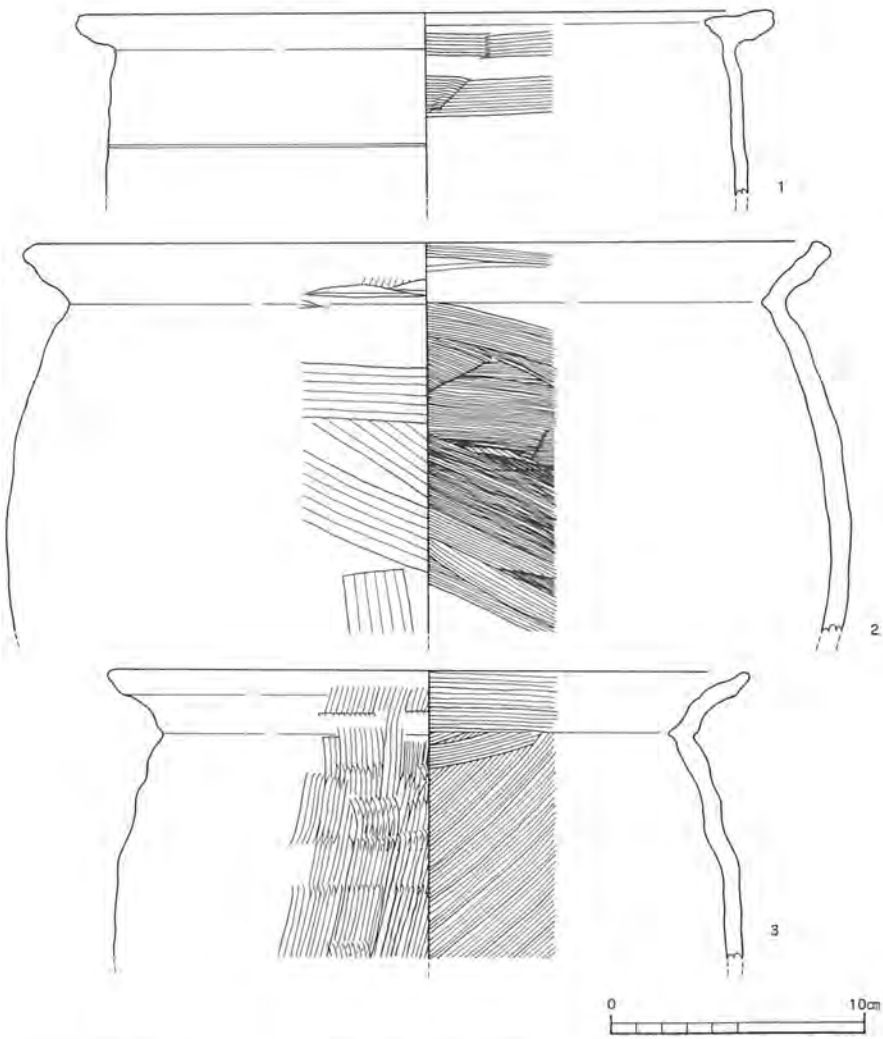
まとめ　道路敷区域外に伸びるため平面形態およびトレンチで竪穴部の深さを確認するにとどまった。住居の時期の詳細は不明であるが、1058SIとの新旧関係から、4A期以前で3期の可能性が高い。



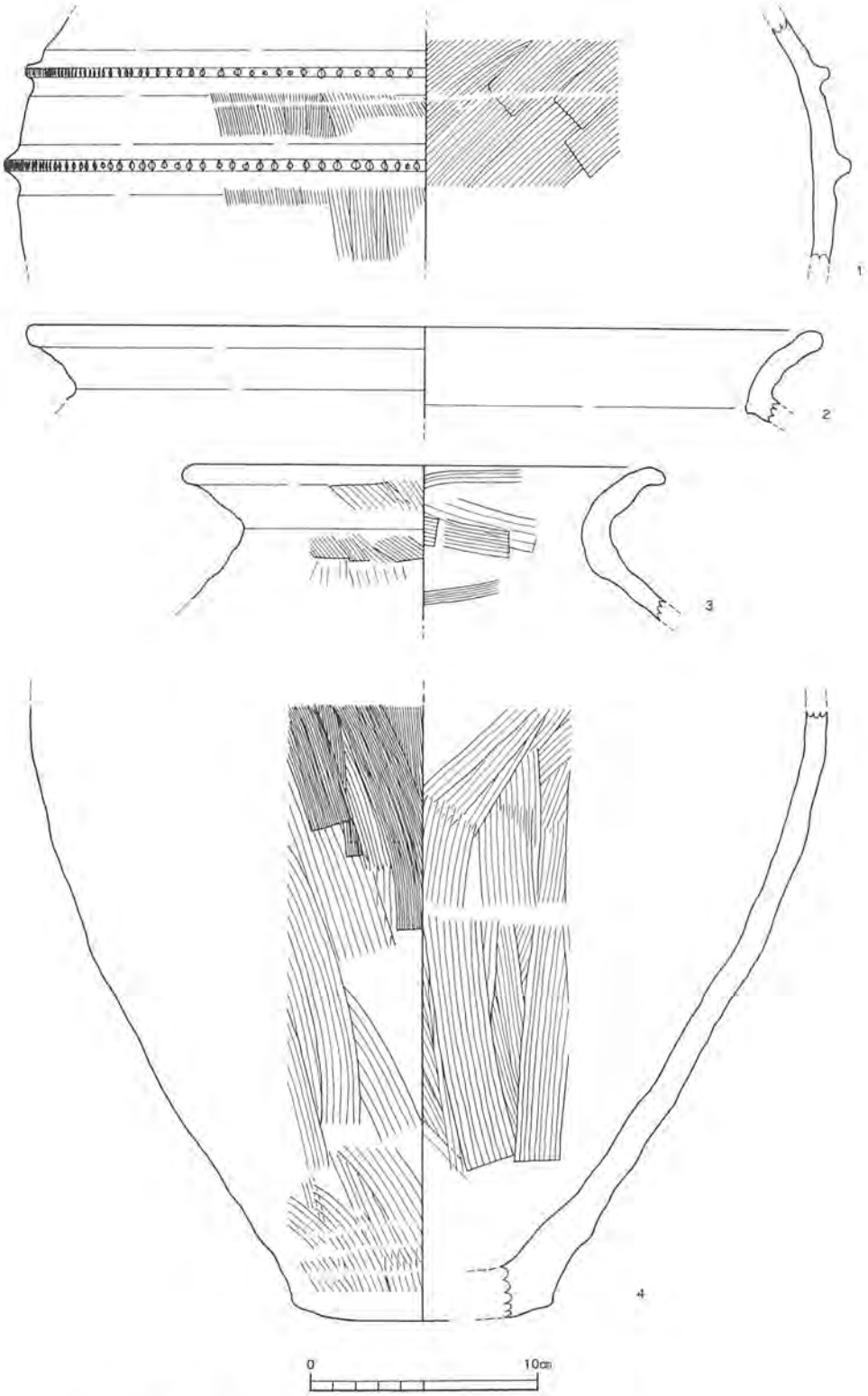
第Ⅲ-113図　183SI出土土器実測図2(1/3)〈2層(1～6)、1層下層(7～22)、1層上層(23・24)〉



第Ⅲ-114図　1035SI遺物出土状況　平面・断面図(1/40)



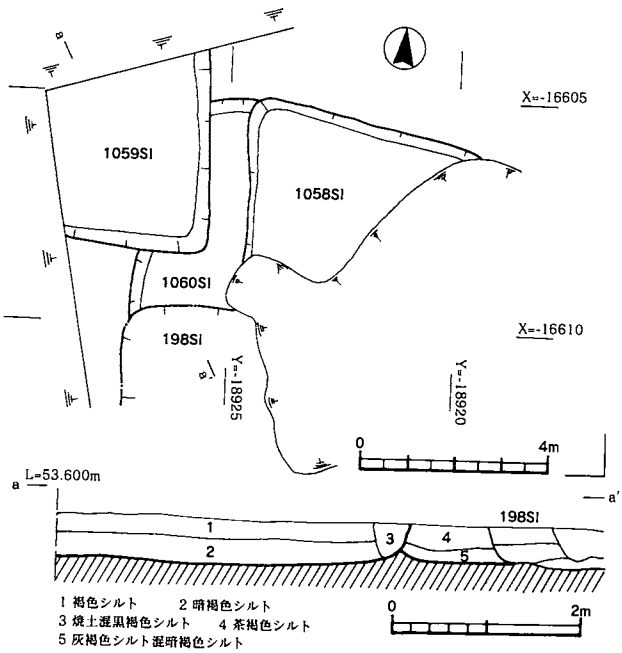
第Ⅲ-115図　1035SI出土土器実測図1(1/3)〈3層(1～3)〉



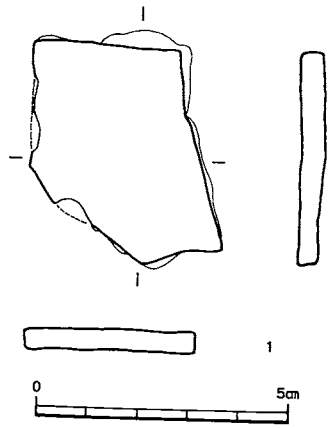
第Ⅲ-116図　1035SI出土土器実測図2(1/3)〈3層(1～4)〉

1058SI（第Ⅲ-117・118・120図、PL.50）

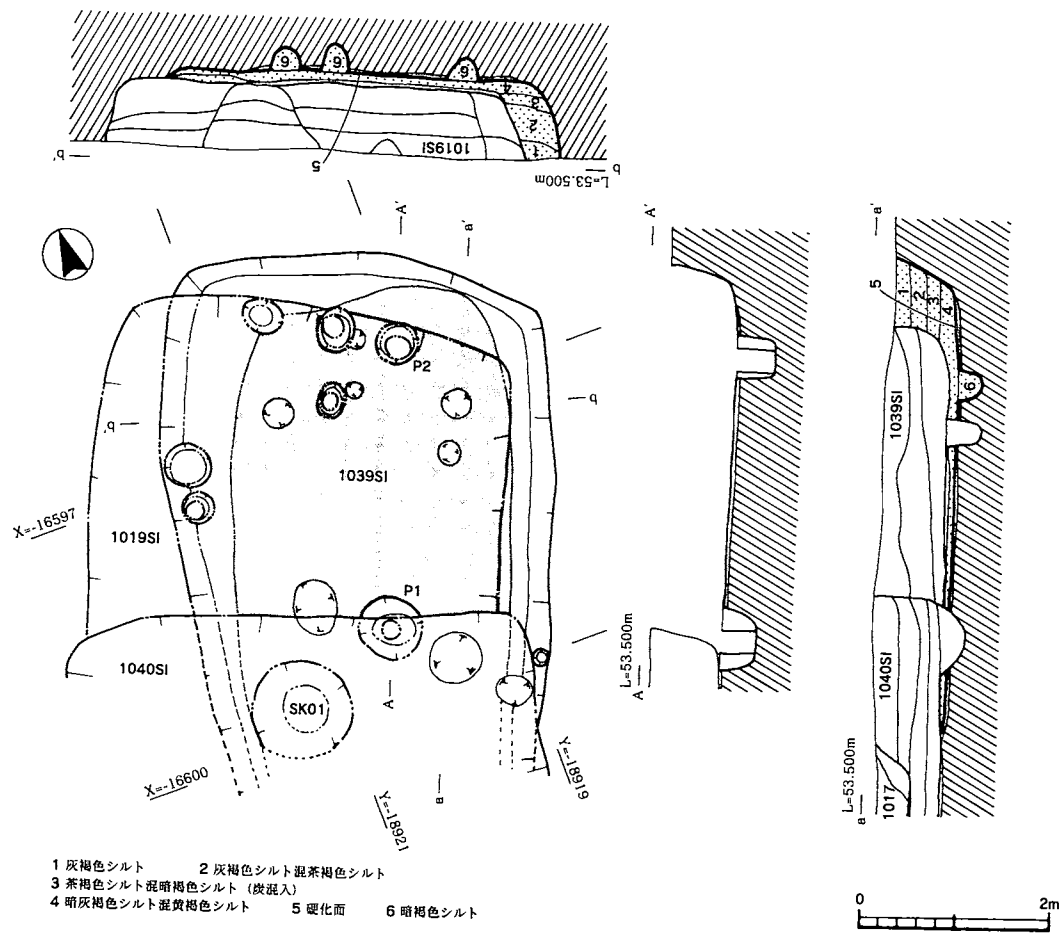
位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原～自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.0 mで、この住居埋没後、東側に1035SI、南側に179SI、西側に1060SIが建てられ、一部撹乱により壊されている。主軸の方位は北からやや西に振れていると推定できる。



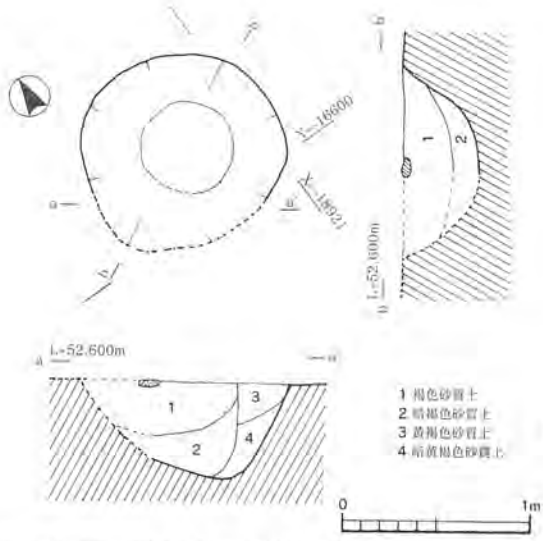
第Ⅲ-117図　1060SI・1058SI・1059SI
平面・断面図(1/160)(1/80)



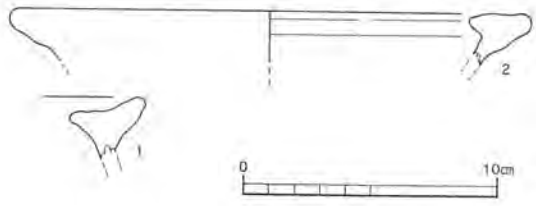
第Ⅲ-118図　1058SI
出土鉄器実測図(2/3)〈1層〉



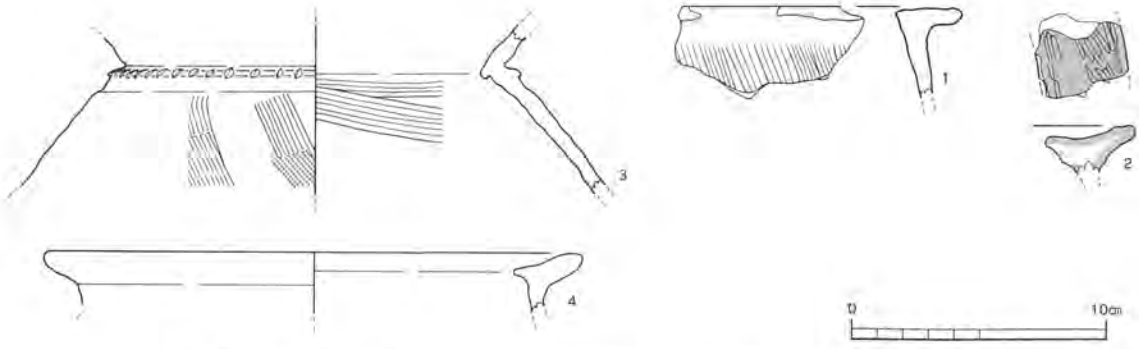
第Ⅲ-119図　1039SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-121図　1039SI内SK01　平面･断面図(1/40)



第Ⅲ-120図　1058SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1･2)〉



第Ⅲ-122図　1039SI出土土器実測図(1/3)〈SK(1～3)、1層(4)〉

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 4.48 m以上、短軸 3.52 m以上を測る。撹乱もあり、保存部分にかかるため確認にとどまった。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 1、壺口縁部片 2・底部片 2 が出土している。鋳造鉄斧の再利用素材鉄片 1 が上層より出土している。いずれも流れ込みの遺物と考えられる。

まとめ　道路敷区域外に伸びるため、平面形態を確認するにとどまり、詳細は不明である。出土土器から、住居の時期は 4A 期以降と推定できる。

1059SI（第Ⅲ-117図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.9 mで、西側及び北側は調査区外である。主軸の方位はほぼ南北である。

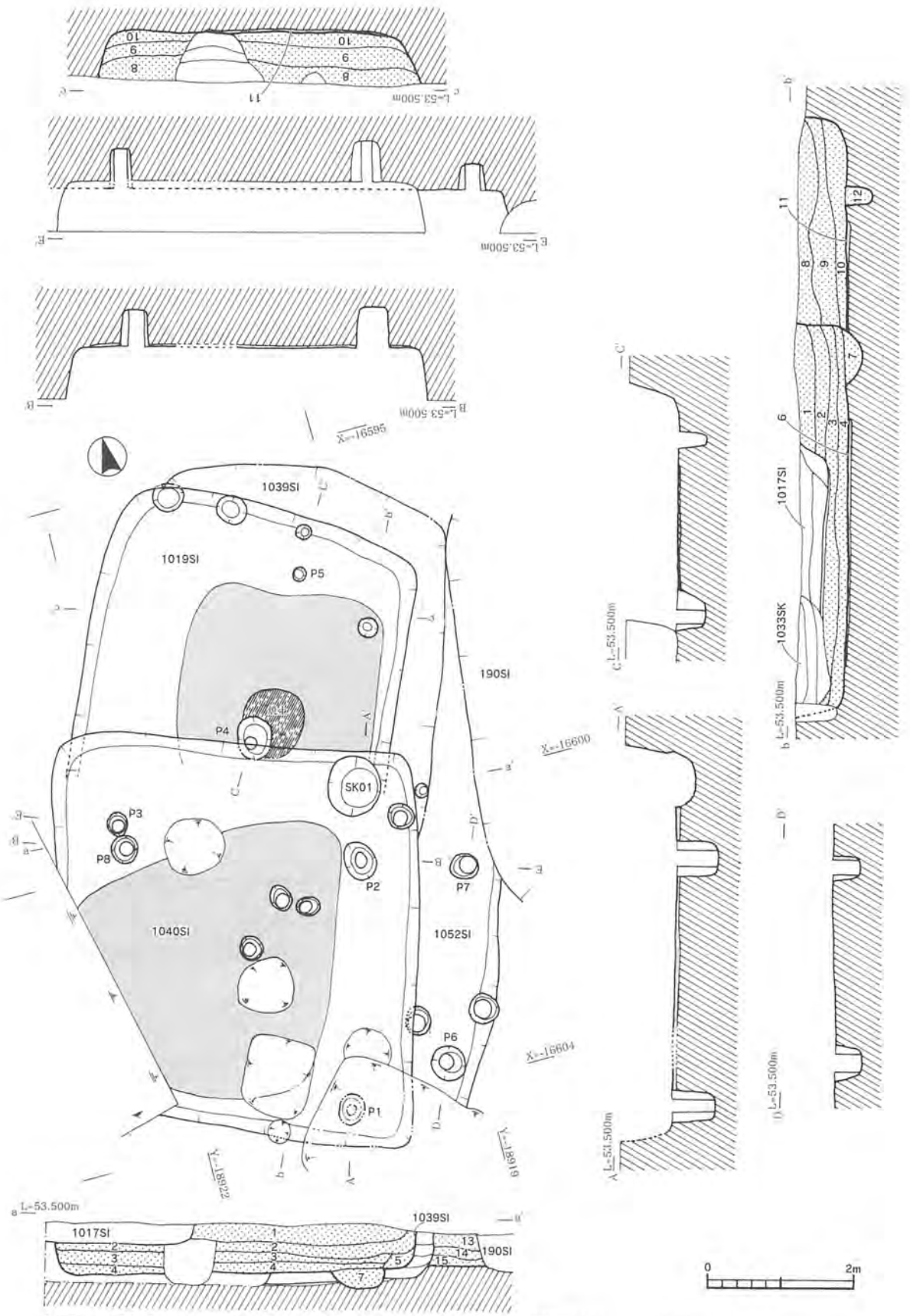
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 4.32 m以上、短軸 3.12 m以上を測る。床面積は不明で、検出面からの深さは 0.5 mである。硬化面・柱穴は未確認である。埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　道路敷区域外に伸びるため、平面形態および竪穴部の深さを確認するにとどまり、詳細は不明である。

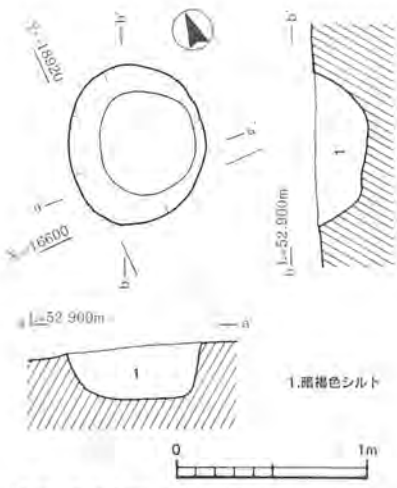
1039SI（第Ⅲ-119・121・122図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.6 mで、この住居埋没後、上層部全面及び南側に 1019・1040SI が建てられている。主軸の方位はN-23°-E である。



1 灰褐色シルト混暗褐色砂質土
2 褐色砂質土
3 暗褐色砂質土
4 灰褐色砂質土
5 黄褐色シルト混暗灰褐色シルト
6 硬化面（黄褐色シルト混褐色シルト）
7 暗褐色シルト
8 灰褐色シルト混黒褐色シルト
9 灰褐色シルト混暗黒褐色シルト
10 明黄褐色ブロック混暗褐色シルト
11 硬化面
12 暗褐色シルト
13 暗褐色シルト
14 黄褐色混暗褐色シルト
15 暗褐色混黄褐色シルト

第Ⅲ-123図　1052SI・1019SI・1040SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-124図　1040SI内SK01
平面・断面図(1/40)

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.00 m以上、短軸4.24 mを測る。残存床面積は13.0 ㎡で、検出面からの深さは0.66 mである。硬化面は床全面に認められる。埋土は4層からなる。

柱穴　柱穴の径は25～44 cmで、深さは28～44 cmである。柱痕跡の径は、20～27 cmである。

貯蔵穴　住居の南側に位置し、長軸110 cm、短軸100 cm、深さ50 cmを測る。堆積状況から再掘削していると考えられる。断面はU字状を呈し、埋土は2層からなる。

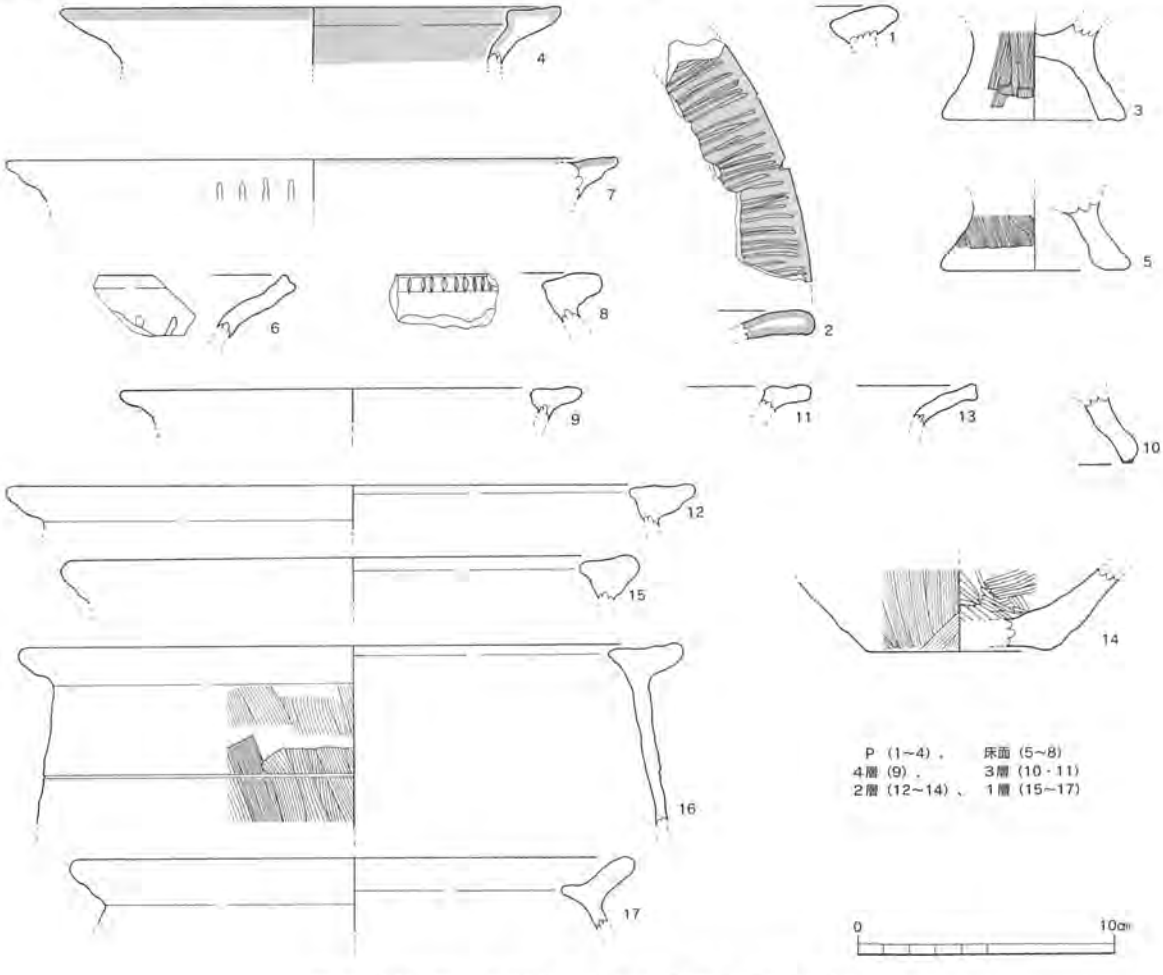
遺物出土状況　埋土からは、甕口縁部片5、壺口縁部片2が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　主柱穴はP1・2で構成される2本柱と推定される。出土土器や住居の新旧関係から、住居の時期は4A期と推定できる。

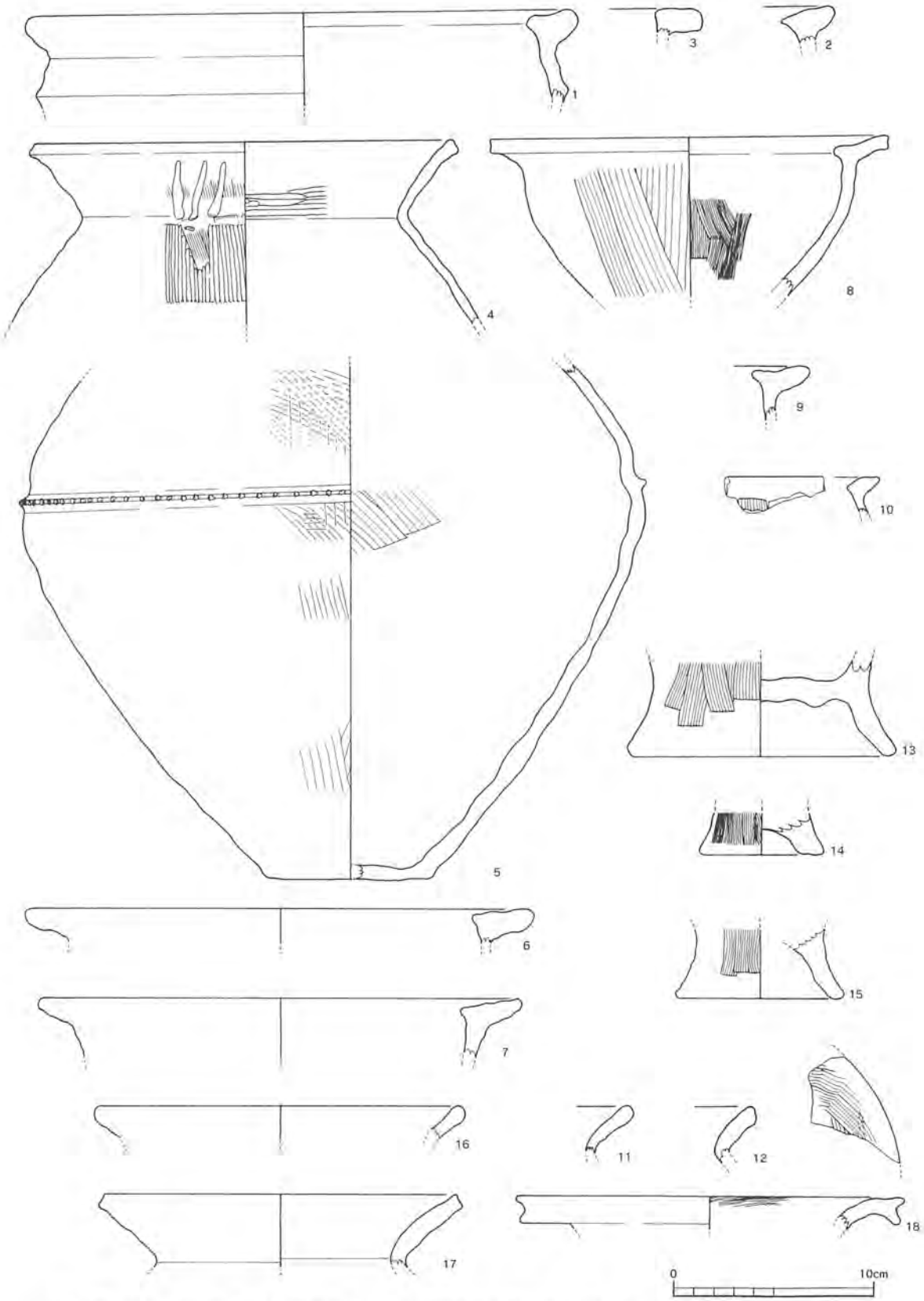
1052SI（第Ⅲ-123図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている。床面の標高は約52.8 mで、この住居埋没後、北東側に190SI、西側に1040SI・1039SIが建てられている。主軸の方位はN-20°-Wと推定できる。

住居形態　検出した部分の平面形態が直線的に伸びるため方形の住居と考えられる。床面積は不明で、残存床



第Ⅲ-125図　1019SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-126図　1040SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1～5)、2層(6～8)、1層(9～18)〉

面積は 1.6 ㎡で、検出面からの深さは約 0.25 mである。埋土は 1 層である。

柱穴　柱穴の径は 40 ～ 48 ㎝で、深さは 34 ～ 52 ㎝である。柱痕跡の径は、22 ～ 28 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　柱穴の配置や検出状況から推定すると一辺が 4 ～ 6 m程の方形の竪穴住居と推定できる。

この住居埋没後、1039SIが建てられていることから、住居の時期は４Ｂ期以前と推定される。

1019SI（第Ⅲ-123・125図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7ｍで、この住居埋没後、南側に1040SIが建てられている。主軸の方位はＮ-28°-Eである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.22ｍ以上、短軸4.42ｍを測る。残存床面積は12.8㎡で、検出面からの深さは0.68ｍである。硬化面は床全面に認められる。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は20～56㎝で、深さは36～40㎝である。柱痕跡の径は、17㎝である。

炉　住居の南側に位置し、平面形態は楕円形を呈し、長径90㎝、短径80㎝、深さ10㎝を測る。焼土・炭が集中している。断面はすり鉢状を呈し、埋土は１層からなる。

遺物出土状況　住居埋土から甕口縁部片６・底部片１、壺口縁部片４が出土しているが、流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　Ｐ４・５の２本柱で構成される建物と考えられる。Ｐ５周辺に焼土・炭が集中していることから、竪穴住居築造当初に使用された炉の可能性がある。出土土器や住居の新旧関係から考えて４Ｂ期と推定される。

1040SI（第Ⅲ-123・124・126図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6ｍで、この住居埋没後、上層部に1017SIが建てられ、南西部は調査区外にかかる。主軸の方位はＮ-20°-Eである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.30ｍ、短軸5.24ｍを測る。推定床面積は23.4㎡、残存床面積は20.8㎡で、検出面からの深さは0.7ｍである。硬化面は床全面に認められる。埋土は４層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～40㎝で、深さは10～60㎝である。柱痕跡の径は、16～25㎝である。

貯蔵穴　住居の北北東側に位置し、長軸80㎝、短軸70㎝、深さ26㎝を測る。断面はＵ字状を呈し、埋土は１層からなる。

遺物出土状況　第Ⅲ-126図５・８は、廃棄された遺物の可能性があるが、その他は流れ込みの遺物と推定できる。住居の埋土からは、甕口縁部片６・底部片３、壺口縁部片４、鉢片４が出土している。

まとめ　４本柱で構成されるものと考えられるが、一部調査区外に伸びるためＰ１～３の３本の柱穴だけが検出された。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は６Ｂ～７期に位置づけられると推定できる。

1017SI（第Ⅲ-127・130図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.0ｍで、西側は調査区外のため検出されていない。主軸の方位はＮ-10°-Eである。

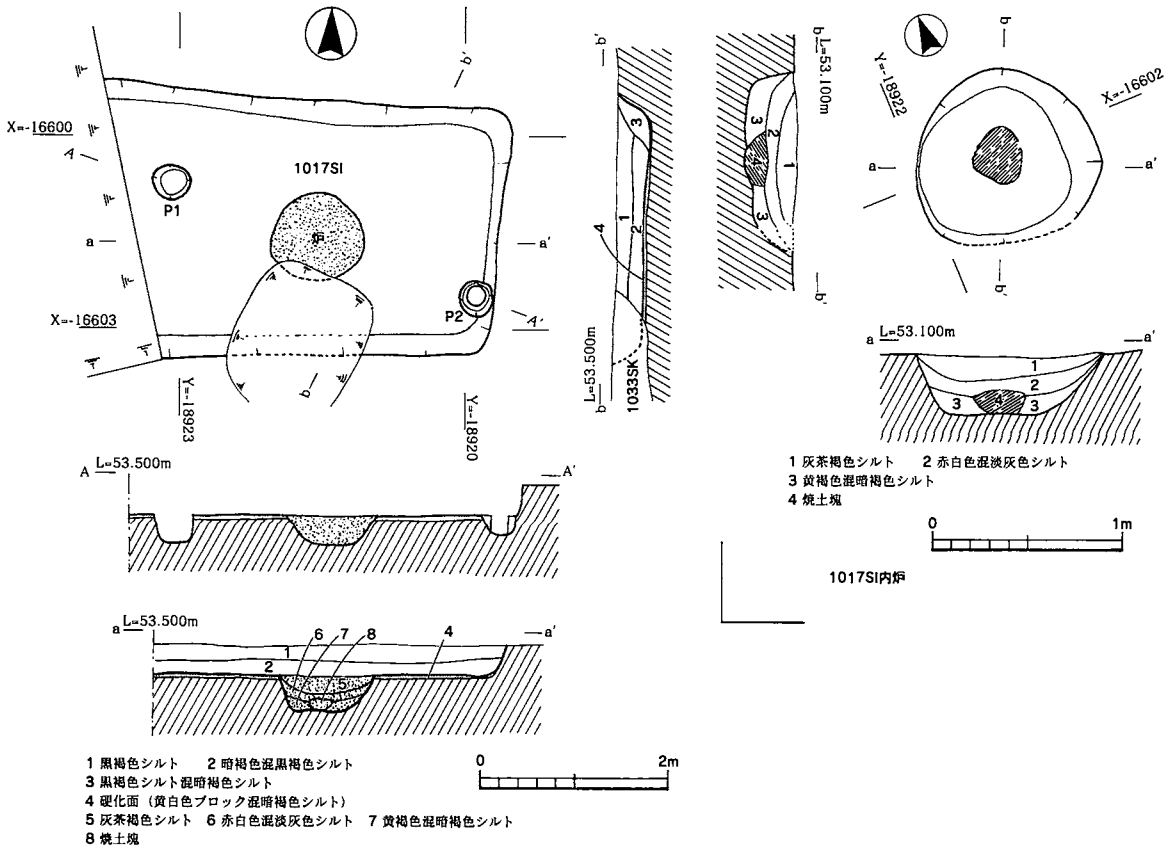
住居形態　平面形態は長方形と推定され、長軸4.12ｍ以上、短軸2.64ｍを測る。残存床面積は8.6㎡で、検出面からの深さは0.32ｍである。硬化面は床全面に認められる。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は32㎝で、深さは19㎝である。柱痕跡の径は、18㎝である。

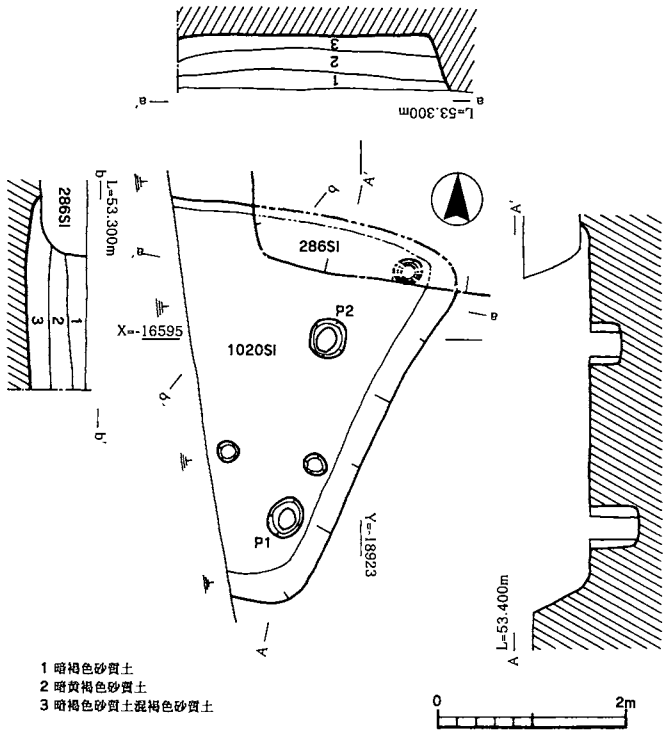
炉　住居の中央部に位置し、長軸94㎝、短軸94㎝、深さ30㎝を測る。断面はＵ字状を呈する。埋土は３層からなり、炉の底部に焼土塊を含む。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片２・底部片１、壺口縁部片５・底部片１が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

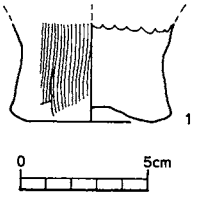
まとめ　主柱穴はP1・2の２本柱構造と推定される。住居の時期は、出土土器や住居の新旧関係から考えて、７期～８期に位置づけられると推定できる。



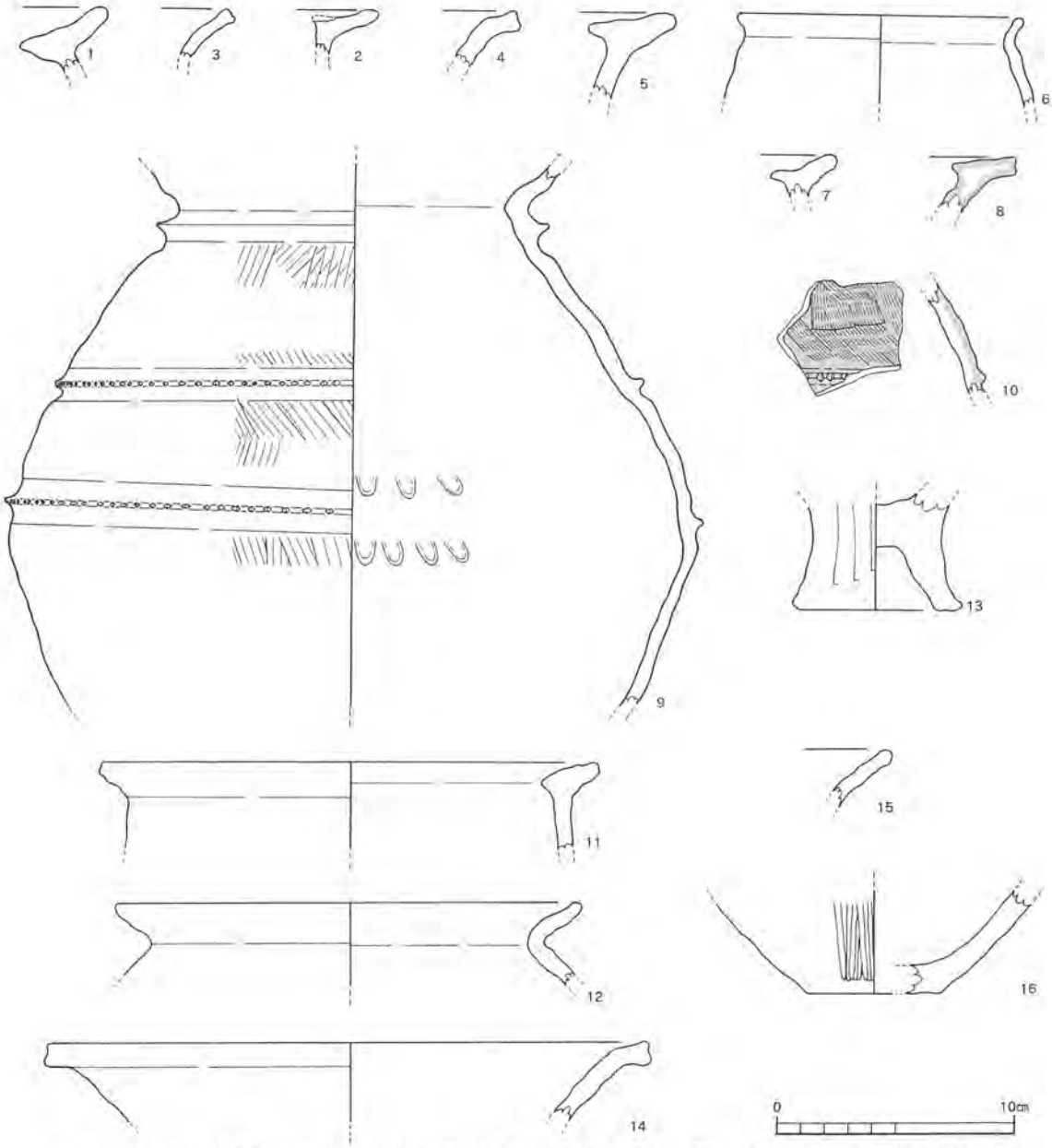
第Ⅲ-127図　1017SI・炉　平面・断面図(1/80)(1/40)



第Ⅲ-128図　1020SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-129図
1020SI出土土器実測図
(1/3)〈1層〉



第Ⅲ-130図　1017SI出土土器実測図(1/3)〈炉(1～6)、2層(7～10)、1層(11～16)〉

1020SI（第Ⅲ-128・129図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6 mで、この住居埋没後、北東上層部に286SIが建てられ、西側は調査区外にかかる。主軸の方位はN-30°-Eである。

住居形態　平面形態は方形と推定され、長軸4.12 m、短軸2.92 m以上を測る。残存床面積は5.3 ㎡で、検出面からの深さは0.6 mである。埋土は3層からなる。

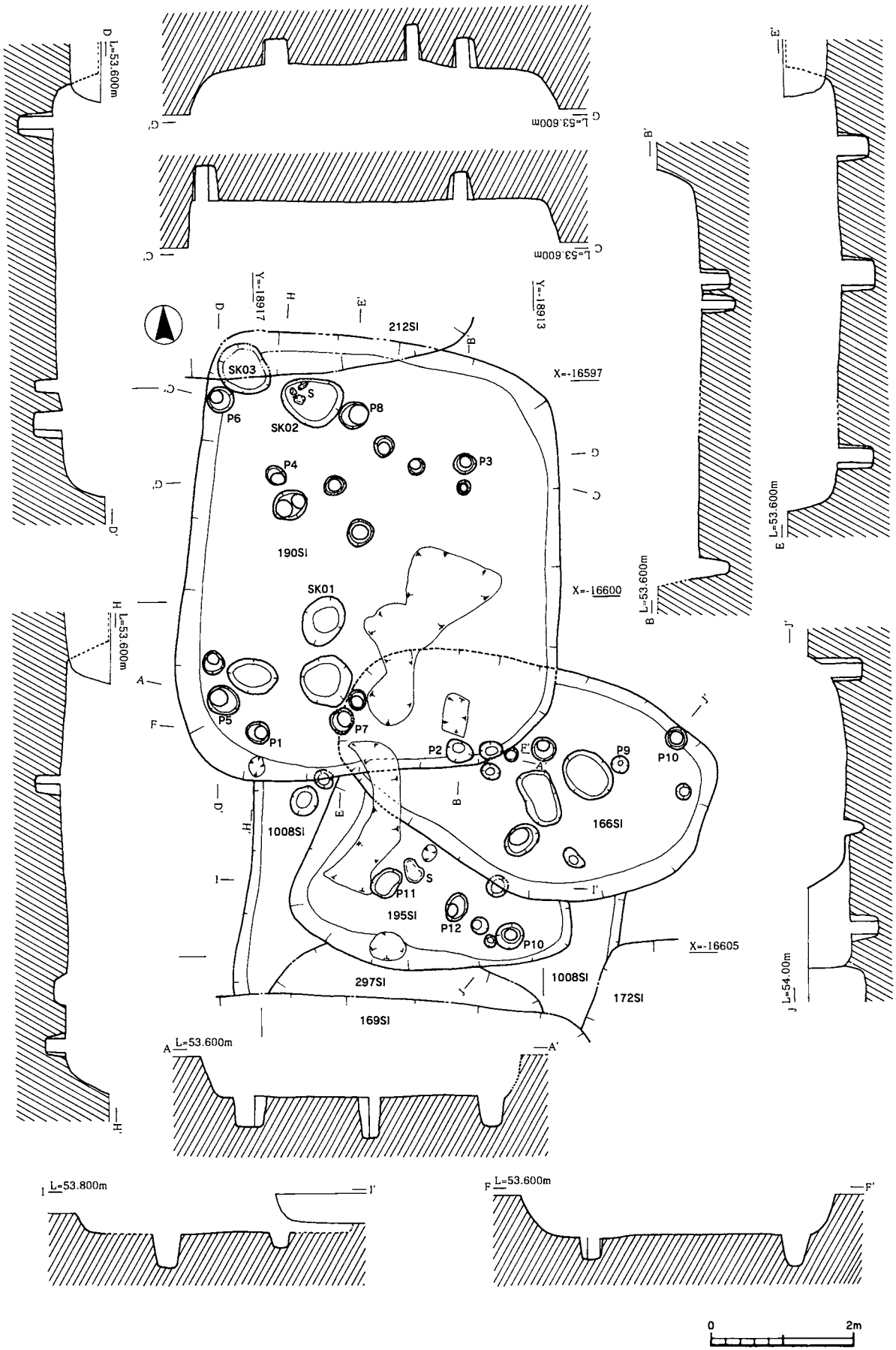
柱穴　柱穴の径は20～45 ㎝で、深さは32～52 ㎝である。柱痕跡の径は、17～26 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

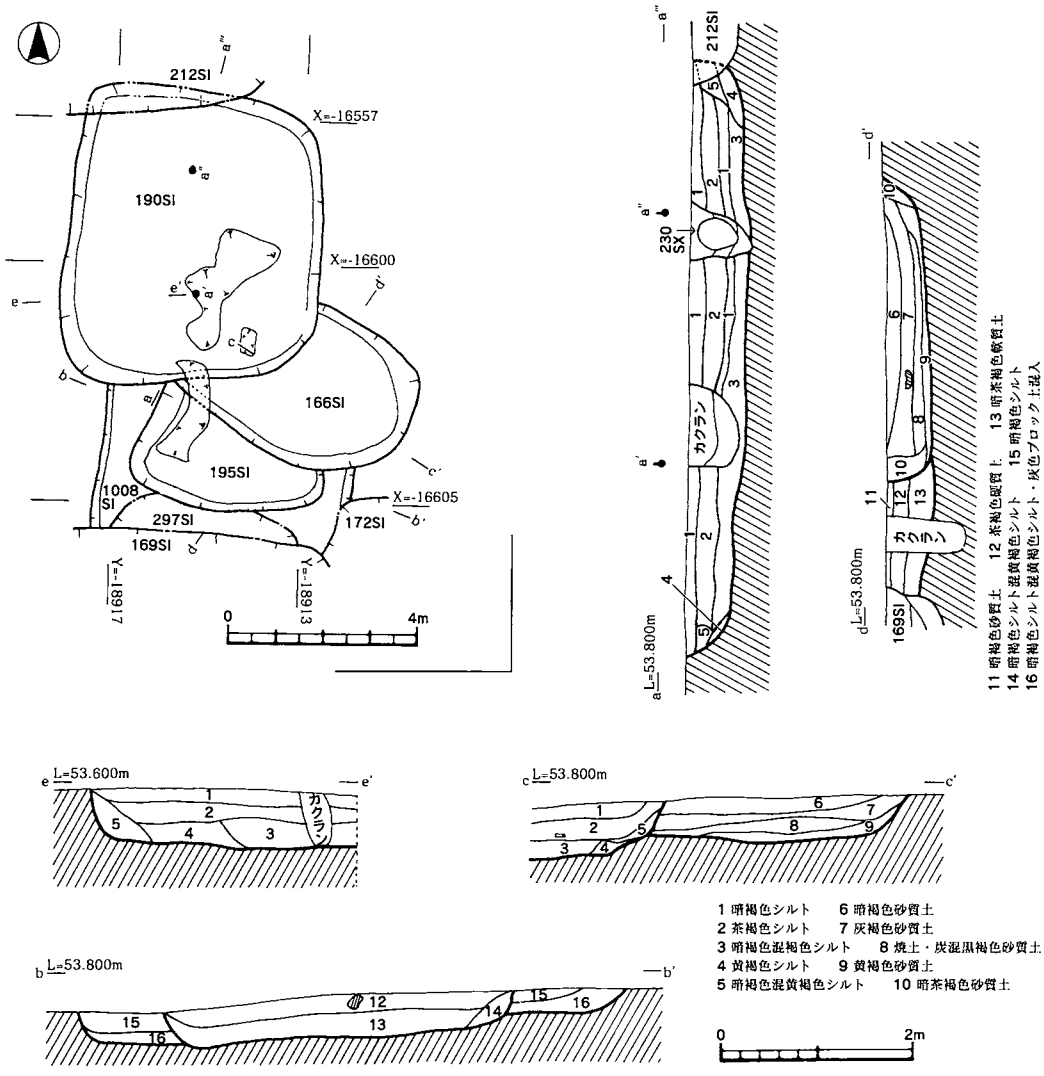
まとめ　西側が調査区外であるため詳細は不明であるが、P1・2を主柱穴とする4本柱構造の住居跡と推定される。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は3期に位置づけられると推定できる。

1008SI（第Ⅲ-131・132・134図）

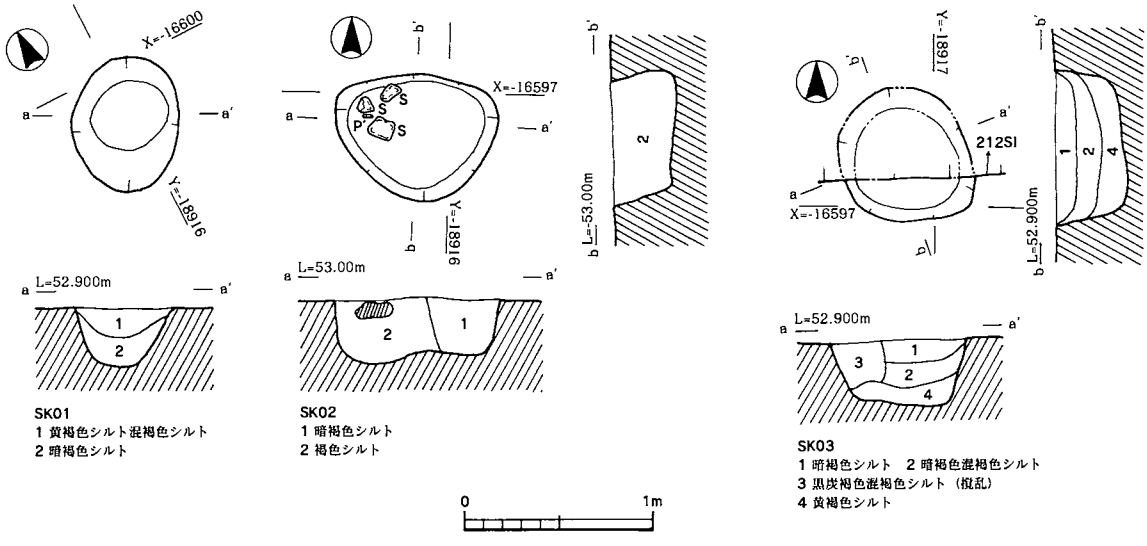
位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、東西の輪廓が少し見つかっただけで南北と中央部分はほとんど残っていない。



第Ⅲ-131図　1008SI・195SI・166SI・190SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-132図　1008SI・195SI・166SI・190SI　平面・断面図(1/160)(1/80)



第Ⅲ-133図　190SI内SK01～03　平面・断面図(1/40)

住居形態　平面形態は不明である。長軸は不明、短軸は5.3 mを測る。残存床面積は11.5 ㎡で、検出面からの深さは0.55 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は26～37 ㎝で、深さは29～35 ㎝である。柱痕跡は見つからない。

遺物出土状況　住居の埋土から甕の口縁が1点のみ出土している。流れ込みの遺物と考えられる。

まとめ　残存面積が狭く、詳細は不明である。新旧関係や出土遺物から考えて、住居の時期は4A期と推定される。

195SI（第Ⅲ-131・132・135図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、北側に190・166SI、南側に297SIが建てられている。主軸の方位は、N-15°-Eである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.30 m以上、短軸3.85 mを測る。残存床面積は2.88 ㎡で、検出面からの深さは0.45 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は28～38 ㎝で、深さは40～59 ㎝である。柱痕跡の径は、18～20 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、時期の推定できる遺物は、出土していない。

まとめ　P 10～P 12等を主柱穴とする構造の竪穴住居と考えられる。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期と推定される。

166SI（第Ⅲ-131・132・138図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.2 mで、この住居埋没後、北西側に190SIが建てられている。

住居形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸4.60 m、短軸3.24 mを測る。推定床面積は15.66 ㎡で、検出面からの深さは0.44 mである。埋土は4層からなる。

柱穴　柱穴の径は30～34 ㎝で、深さは33～52 ㎝である。柱痕跡の径は、16～20 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片23・底部片14、壺口縁部片12・底部片3、無頸壺片2、鉢片6が出土している。流れ込みの遺物と考えられる。

まとめ　P 9等を主柱穴とする2本柱構造と推定される。遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B期と推定される。

190SI（第Ⅲ-131・132・133・136・137・139図、PL.39・50）

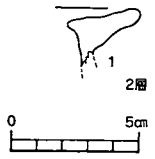
位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9 mで、この住居埋没後、北側に212SIが建てられている。埋土は4層からなる。主軸の方位は、N-4°-Eある。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸6.06 m、短軸5.26 mを測る。推定床面積は27.26 ㎡で、検出面からの深さは0.60 mである。硬化面は認められない。

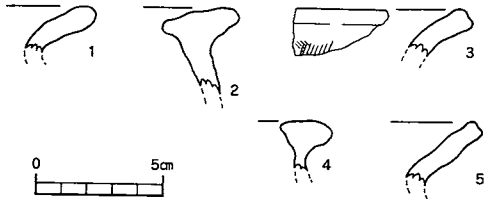
柱穴　柱穴の径は18～46 ㎝で、深さは30～72 ㎝である。柱痕跡の径は10～28 ㎝である。

貯蔵穴　住居内に3基検出し、断面はいずれもU字状を呈する。SK01は住居内の中央部に位置し、長軸70 ㎝、短軸58 ㎝、深さ31 ㎝を測り、埋土は2層からなる。SK02は長軸86 ㎝、短軸65 ㎝、深さ30 ㎝で、埋土は1層からなる。SK03は長軸70 ㎝、短軸66 ㎝、深さ34 ㎝で、埋土は2層からなる。SK02・03は住居内の北側に位置する。

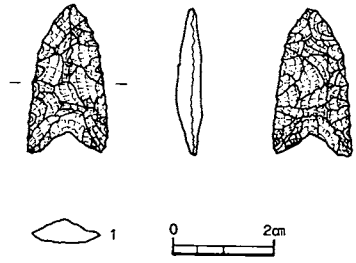
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片87・底部片18、壺口縁部片10・底部片3、無頸壺片4が出土している。流れ込みの遺物である。柱穴の掘り方から鉄鏃形鉄片1（第Ⅲ-137図1）が出土している。上層から磨製石鏃の形態に類似した打製石鏃（第Ⅲ-136図1、PL.39）も出土している。



第Ⅲ-134図
1008SI出土
土器実測図(1/3)



第Ⅲ-135図
195SI出土土器実測図(1/3)
〈P(1)、3層(2)、2層(3)、1層(4・5)〉



第Ⅲ-136図　190SI出土
石器実測図(2/3)〈1層〉

まとめ　主柱穴はP1～4で構成されるものと、P2・3を共有しP5～8で構成されるものとが考えられる。竪穴の形状、大きさなどから、P1～4で建てられたのち、P2・3、P5～8を主柱穴とするものに建て替えられたものと考えられる。遺物の出土状況から住居に直接伴う土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7期と推定される。

212SI（第Ⅲ-140・141・142・143・144図、PL.50）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9 mである。主軸の方位は、N -2°- Wである。

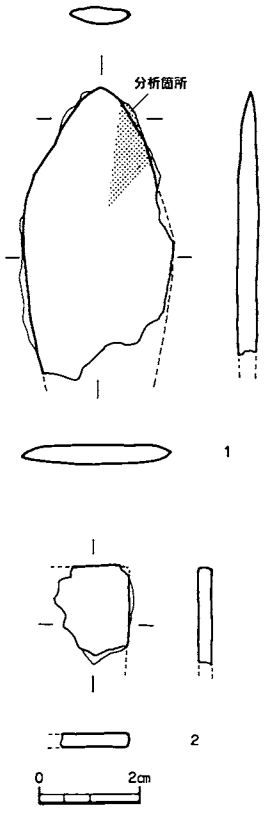
住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.90 m、短軸4.68 mを測る。床面積は18.14 ㎡で、検出面からの深さは0.6 mである。硬化面は認められない。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～46 ㎝で、深さは25～78 ㎝である。柱痕跡の径は、16～30 ㎝である。

貯蔵穴　住居の西側に位置し、長軸70 ㎝、短軸64 ㎝、深さ51 ㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は4層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片98・底部片16、壺口縁部片13・底部片7、無頸壺片1、鉢片1が出土している。鋳造鉄斧再利用素材鉄片1（第Ⅲ-142図1）磨製石斧片1及び柱状片刃石斧片1が上層より出土している。いずれも廃棄及び流れ込みの遺物と考えられる。

まとめ　主柱穴はP1・2で構成される2本柱構造のものと、P3・4で構成される2本柱構造のものとが考えられる。前後関係は不明である。下層（床面～3層）に特に型式学的に古い土器が出土しているが、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7期以降と考えられる。



第Ⅲ-137図
190SI出土鉄器実測図
(2/3)〈P(1)、1層(2)〉

1004SI（第Ⅲ-145・146図）

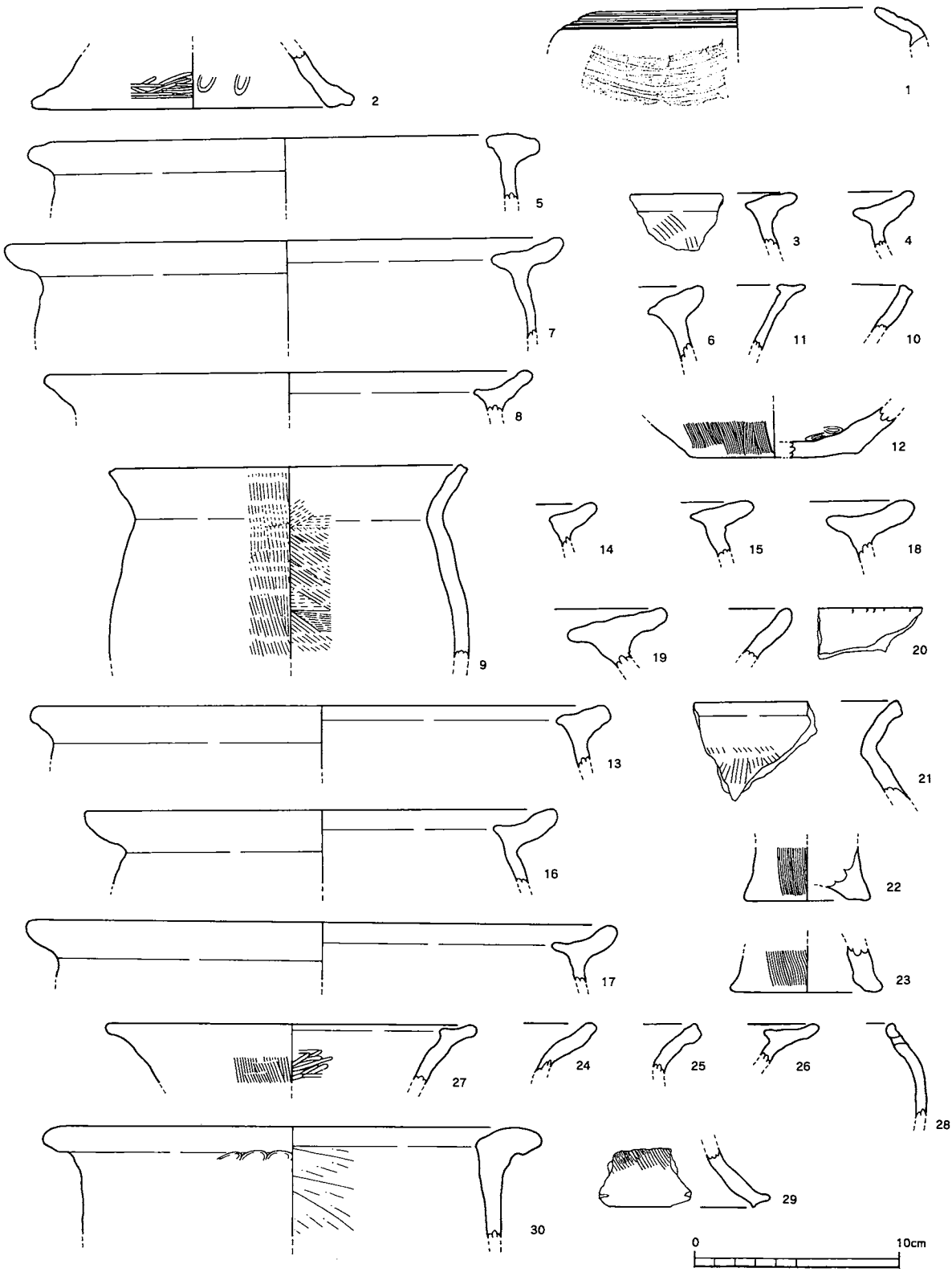
位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形が若干削平されていると考えられる。床面の標高は約53.4 mで、この住居埋没後、南側に173SIが建てられている。主軸の方位は、N -10°- Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.24 m以上、短軸約1.92 mを測る。残存床面積は1.95 ㎡で、検出面からの深さは0.4 mである。硬化面は認められない。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は23～30 ㎝で、深さは19～24 ㎝で、柱痕跡の径は12～18 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、時期の推定できる遺物は、出土していない。

まとめ　南側半分が173SIに壊されており、詳細は不明である。幅が約2 mしかないが、柱穴が検出されたことにより小形の竪穴住居と推定できる。173SIとの新旧関係から、住居の時期は4A以前と推定される。

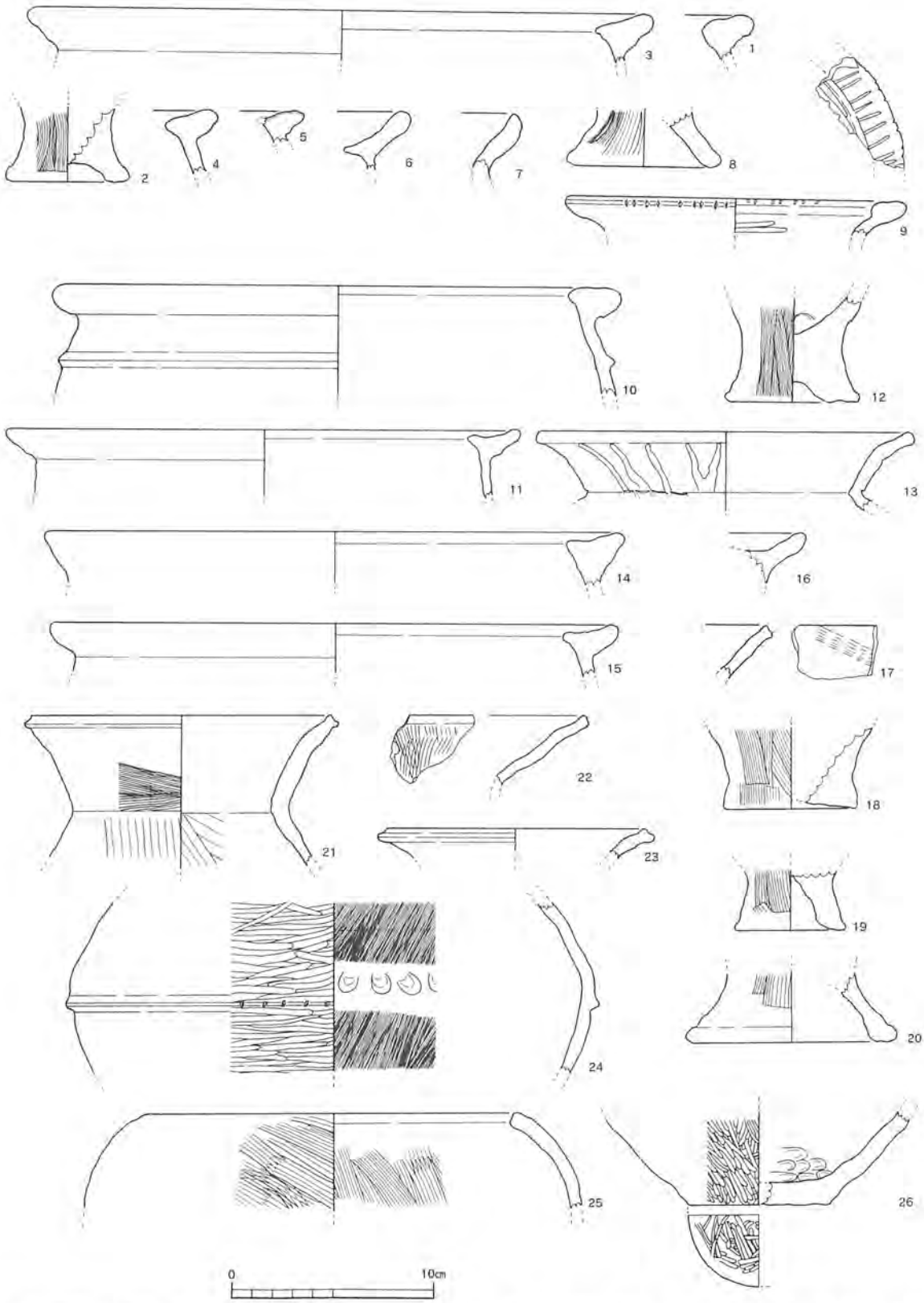


第Ⅲ-138図　166SI出土土器実測図(1/3)〈P(1)、床面(2)、3層(3・4)、2層(5～12)、1層(13～30)〉

1220SI（第Ⅲ-145・146図）

位置　遺跡中央部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.6 mで、この住居埋没後、165・173SI が建てられている。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 2.00 m以上、短軸 1.40 m以上を測る。残存床面積は 2.0 ㎡で、検



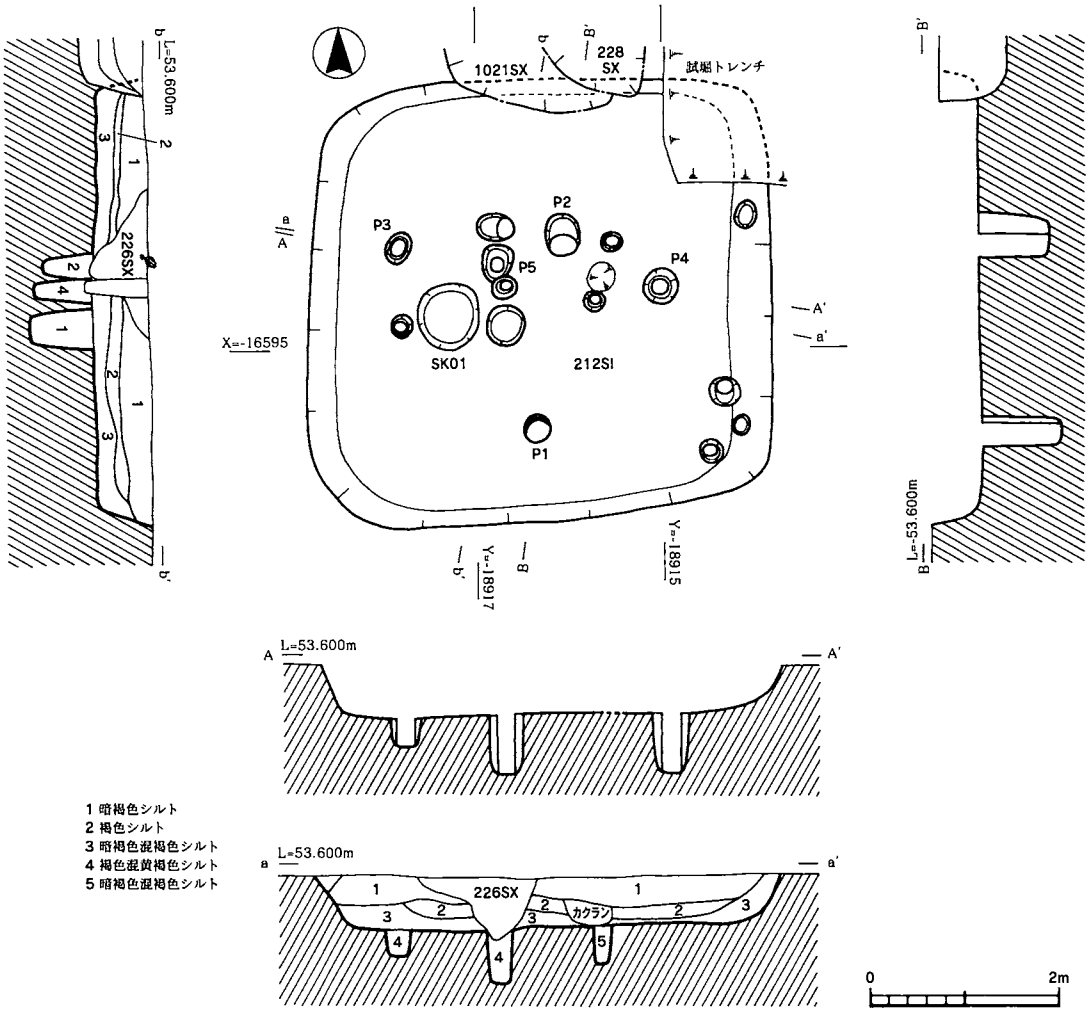
第Ⅲ-139図　190SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、4層(2)、3層(3～9)、2層(10～13)、1層(14～26)〉

出面からの深さは0.14 mである。硬化面は認められない。埋土は不明である。

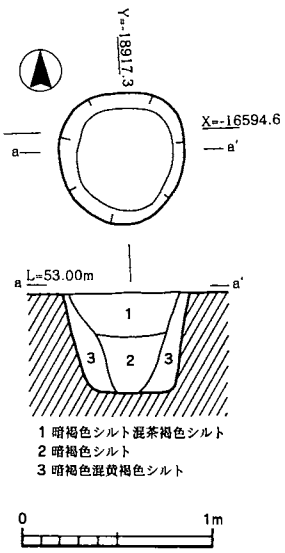
柱穴　柱穴の径は44～58 cmで、深さは20～45 cmである。柱痕跡の径は、25～30 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土から、時期の推定できる遺物は、出土していない。

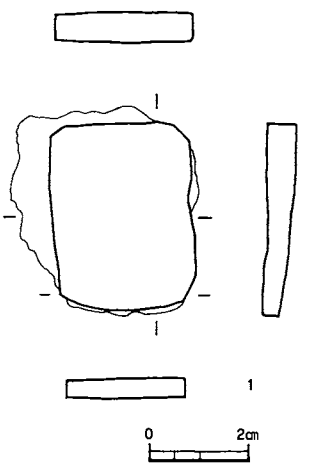
まとめ　住居のほとんどを165・173SIにより壊されているため詳細は不明である。柱穴が南東隅に存在する



第Ⅲ-140図　212SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-141図　212SI内
SK01平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-142図　212SI出土
鉄器実測図(2/3)〈1層〉

ため、４本柱構造の住居跡と推定できる。住居の新旧関係から考えて４Ｂ～５期と推定される。

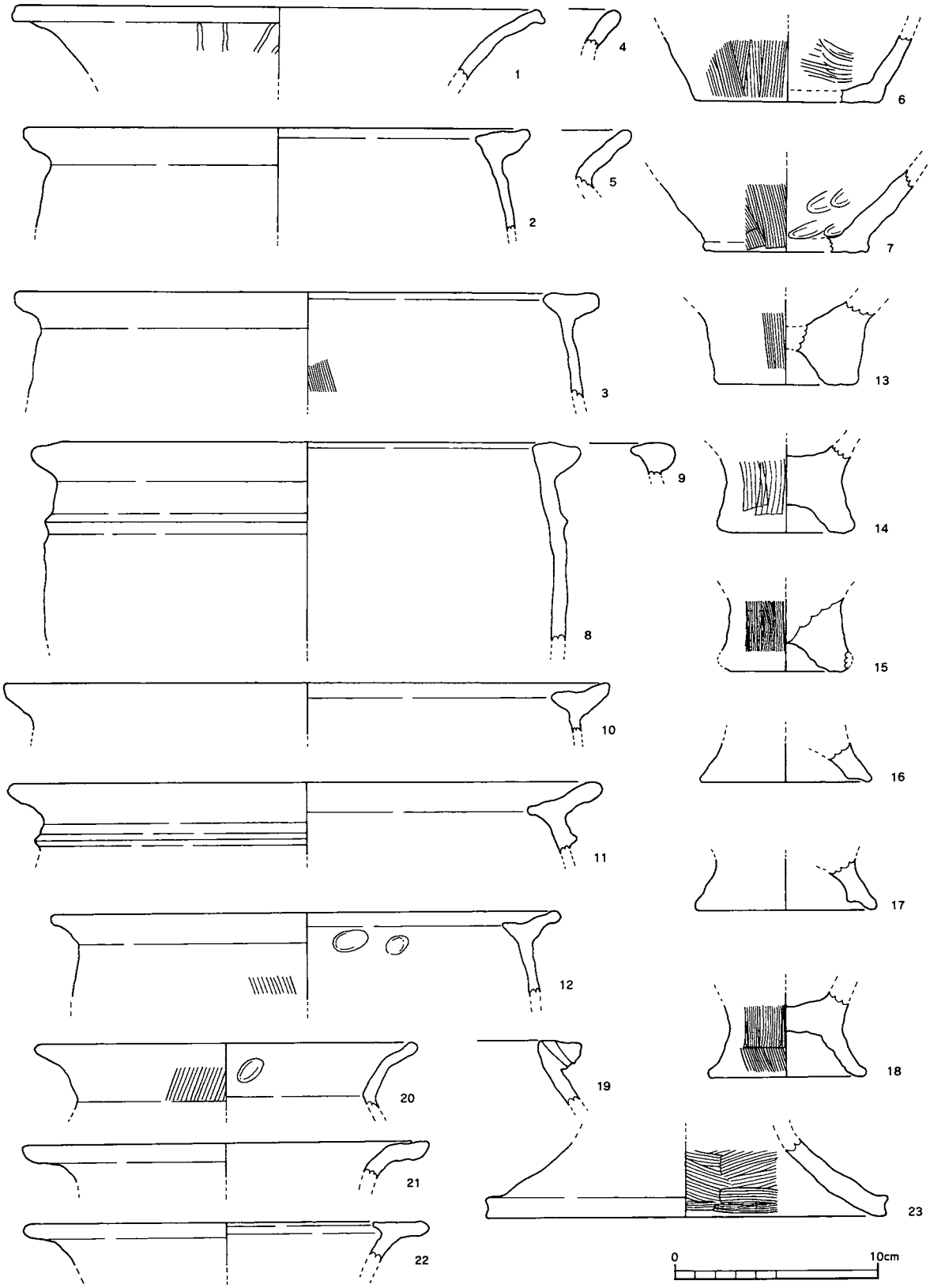
173SI（第Ⅲ-145・146・147図、PL.4）

位置　遺跡中央部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形が削平されていると考えられる。床面の標高は約53.2ｍで、この住居埋没後、北東側に165SI、南西側に166SIが建てられている。主軸の方位は、N-15°-Eである。

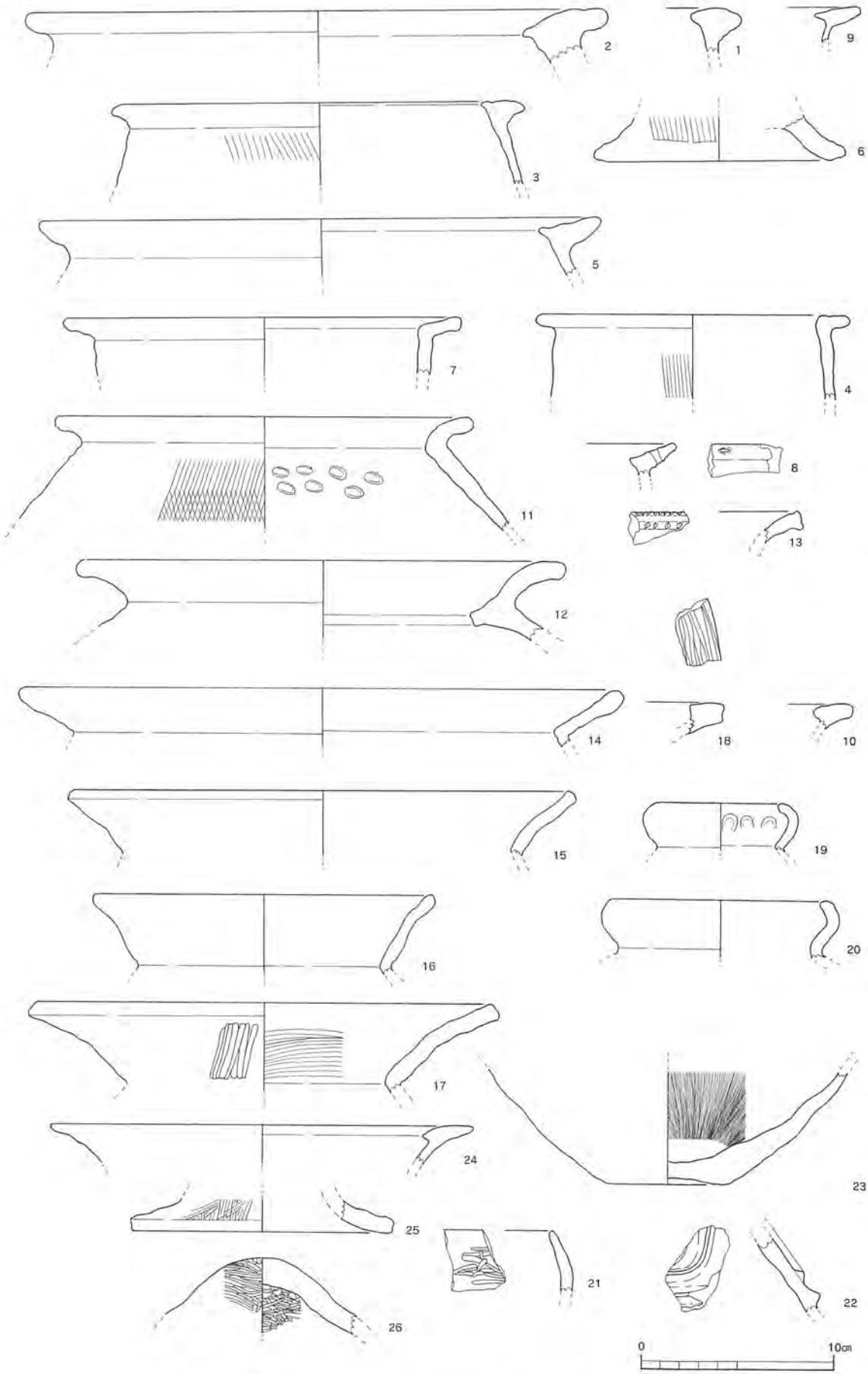
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.82ｍ、短軸4.46ｍを測る。推定床面積は18.0㎡で、残存床面積は13.0㎡。検出面からの深さは0.65ｍである。硬化面は床全面に認められる。埋土は４層からなる。

柱穴　柱穴の径は18～58㎝で、深さは24～68㎝である。柱痕跡の径は、16～22㎝である。

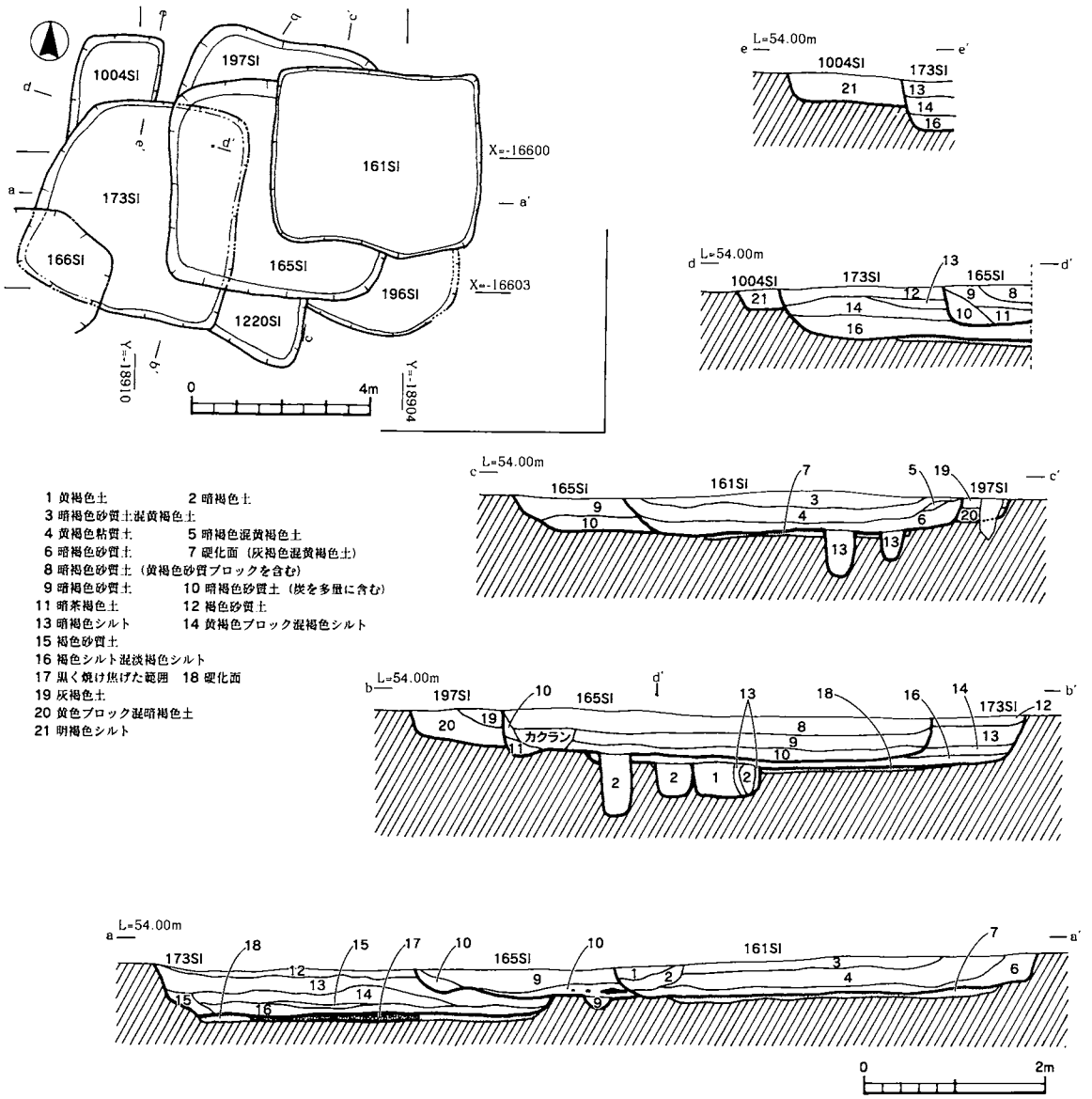
貯蔵穴　住居の東側に位置し、長軸90㎝、短軸72㎝、深さ50㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は２層からなる。



第Ⅲ-143図　212SI出土土器実測図1(1/3)〈床面(1)、3層(2～7)、2層(8～23)〉



第Ⅲ-144図　212SI出土土器実測図2(1/3)〈1層(1～26)〉



第Ⅲ-145図　197SI・196SI・1220SI・1004SI・173SI・165SI・161SI　平面・断面図(1/160)(1/80)

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片27・底部片1、壺口縁部片1・底部片1、鉢片5が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　主柱穴はＰ１～６で構成されるものと考えられる。住居内の中央部の長軸2.0ｍ、短軸1.2ｍの範囲の硬化面直上が焼けている。さらに硬化面を除去すると径20～25㎝、深さ約20㎝の焼土が検出された。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は５期と推定される。

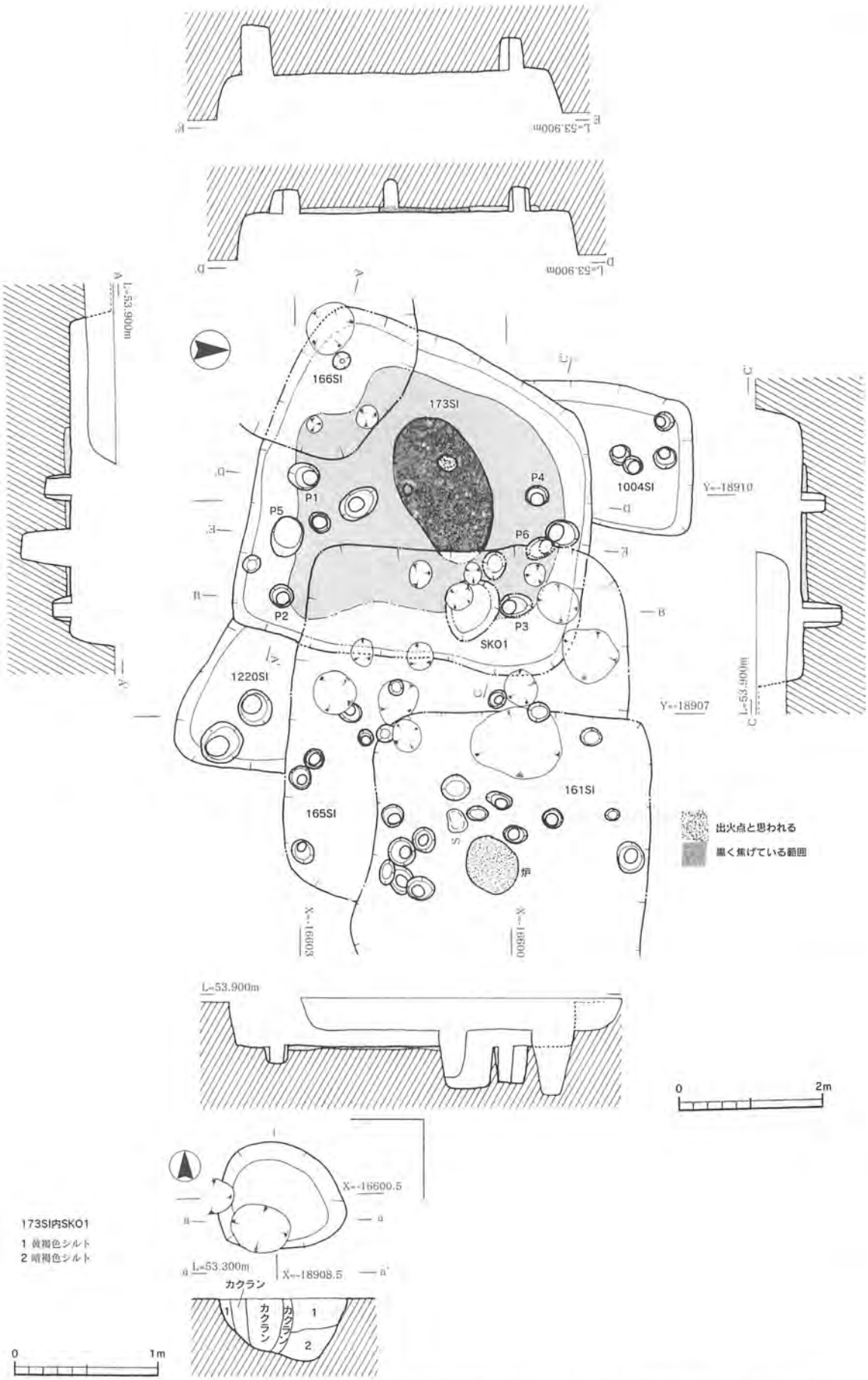
197SI（第Ⅲ-145・148・151図）

位置　遺跡中央部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約53.4ｍで、この住居埋没後、南側に161・165SIが建てられている。主軸の方位は、N-4°-Eである。

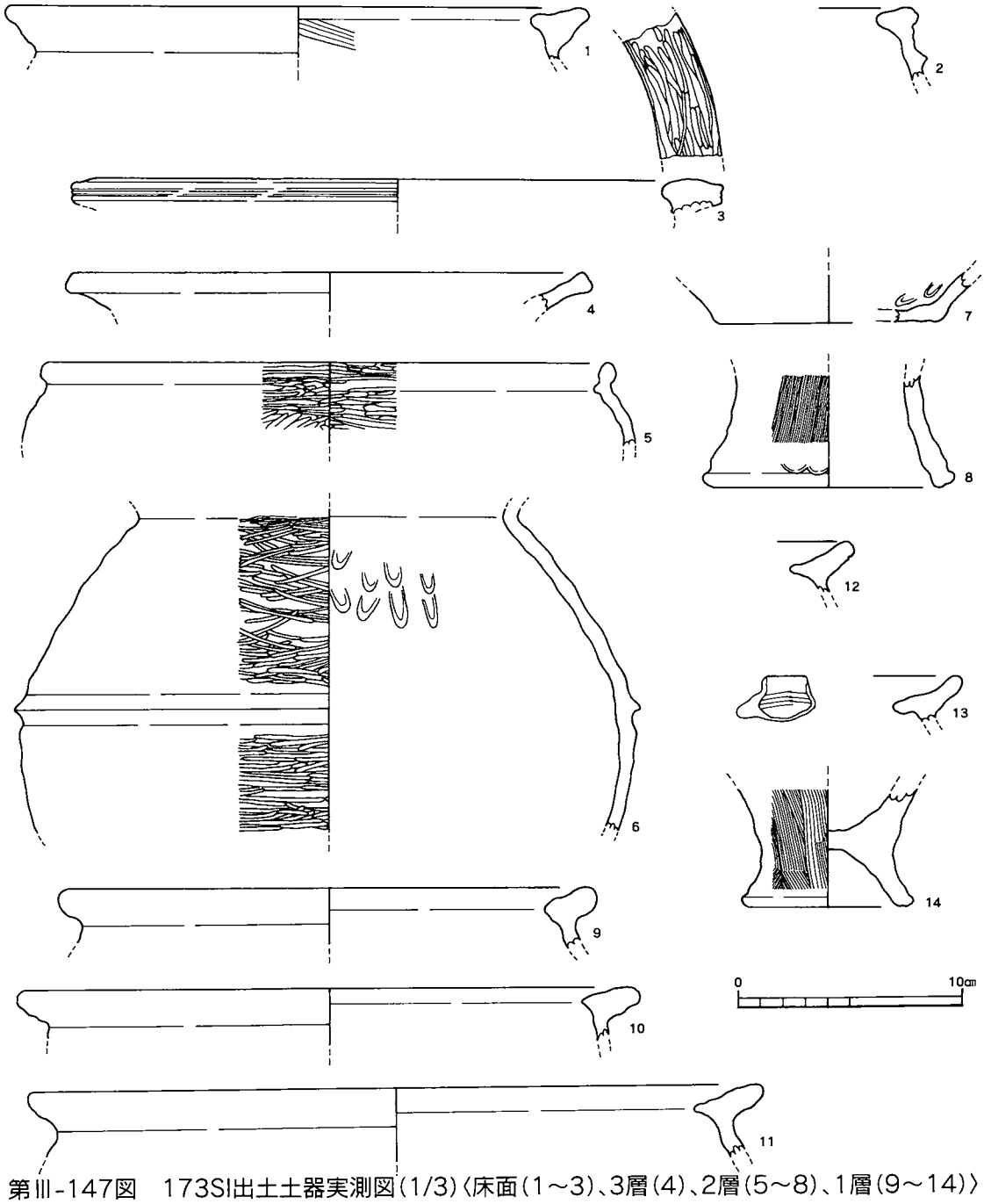
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.26ｍ以上、短軸2.00ｍを測る。残存床面積は1.28㎡で、検出面からの深さは0.36ｍである。硬化面は認められず、埋土は２層からなる。２層目に粘質の灰白色ブロックを顕著に含む。

柱穴　柱穴の径は18～34㎝で、深さは21～48㎝である。柱痕跡の径は、18～20㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から甕口縁部片9・底部片2、壺口縁部片2が出土している。流れ込みの遺物と推



第Ⅲ-146図　1004SI・1220SI・173SI・173SI内SK01　平面・断面図(1/80)(1/40)



第Ⅲ-147図　173SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～3)、3層(4)、2層(5～8)、1層(9～14)〉

定される。

まとめ　主柱穴はＰ17・18を主柱穴とする４本柱構造と推定される。あとの２本の柱はＰ15・16の可能性がある。そのように推定すると４～4.5ｍほどの規模の竪穴住居と考えられる。住居の時期は、出土土器や住居の新旧関係から考えて４Ｂ期と推定される。

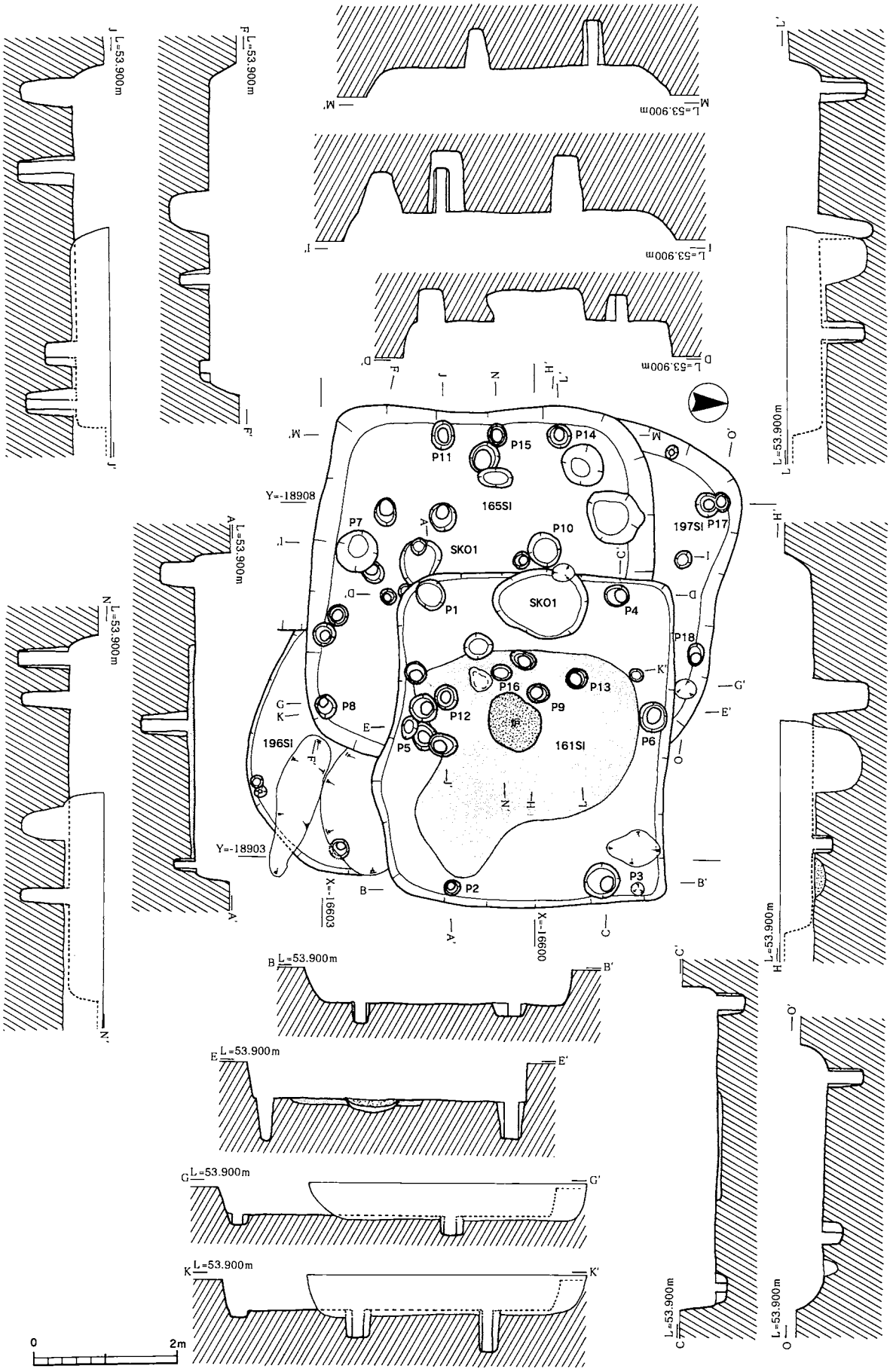
196SI（第Ⅲ-148図）

位置　遺跡中央部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている考えられる。床面の標高は約53.7ｍで、この住居埋没後、北側に161SI、西側に165SIが建てられている。

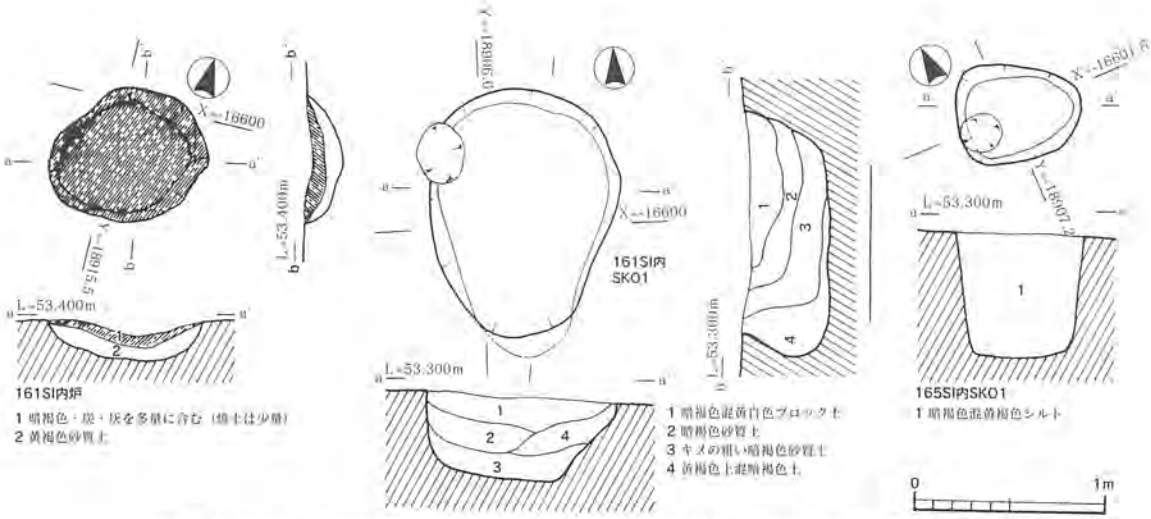
住居形態　平面形態は楕円形を呈し、法量は不明である。床面積も不明で、検出面からの深さは0.10ｍである。硬化面は認められない。埋土は１層からなる。

柱穴　柱穴の径は26㎝で、深さは13㎝である。柱痕跡は認識できない。

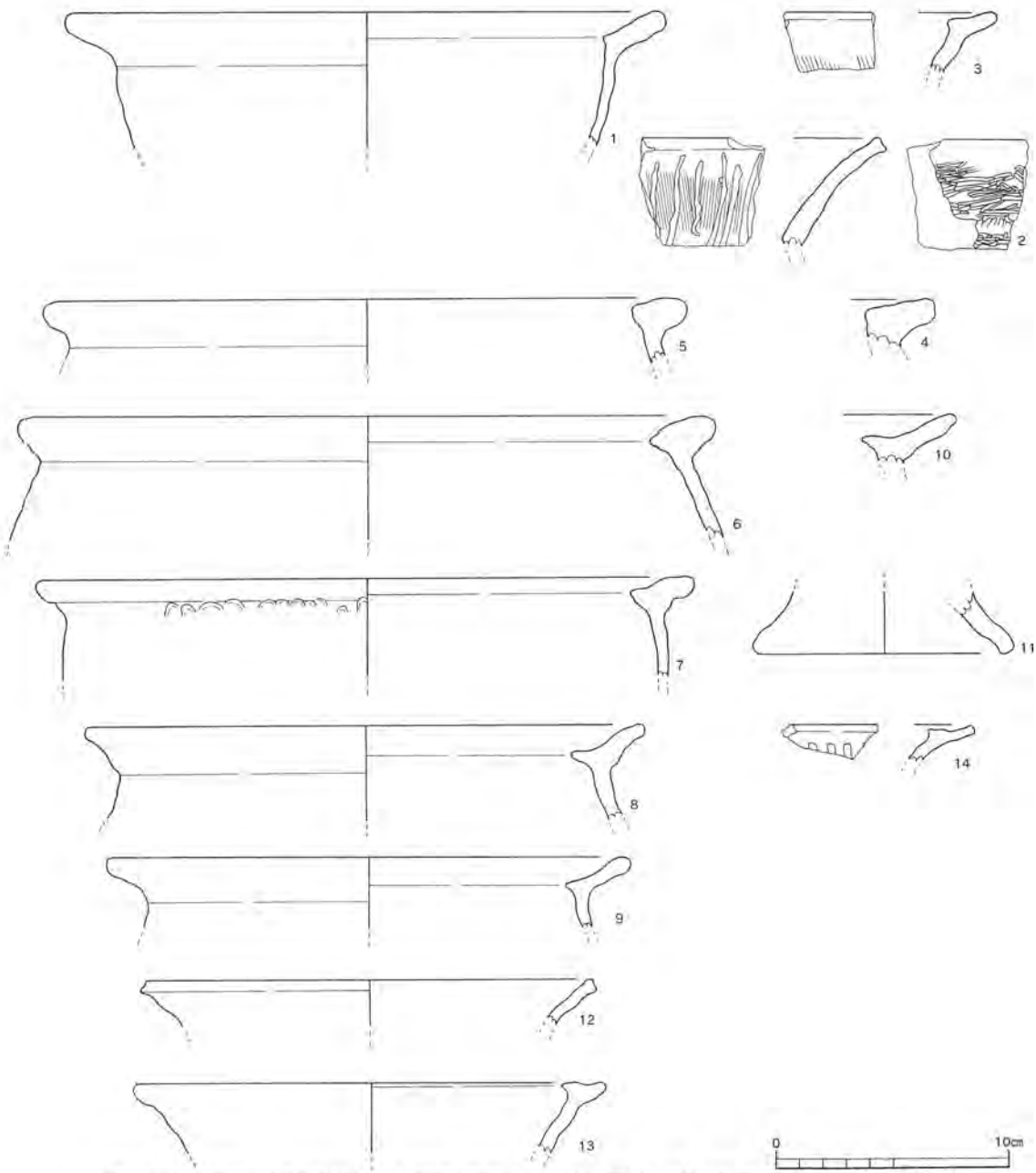
遺物出土状況　住居の埋土から、時期の推定できる遺物は出土していない。



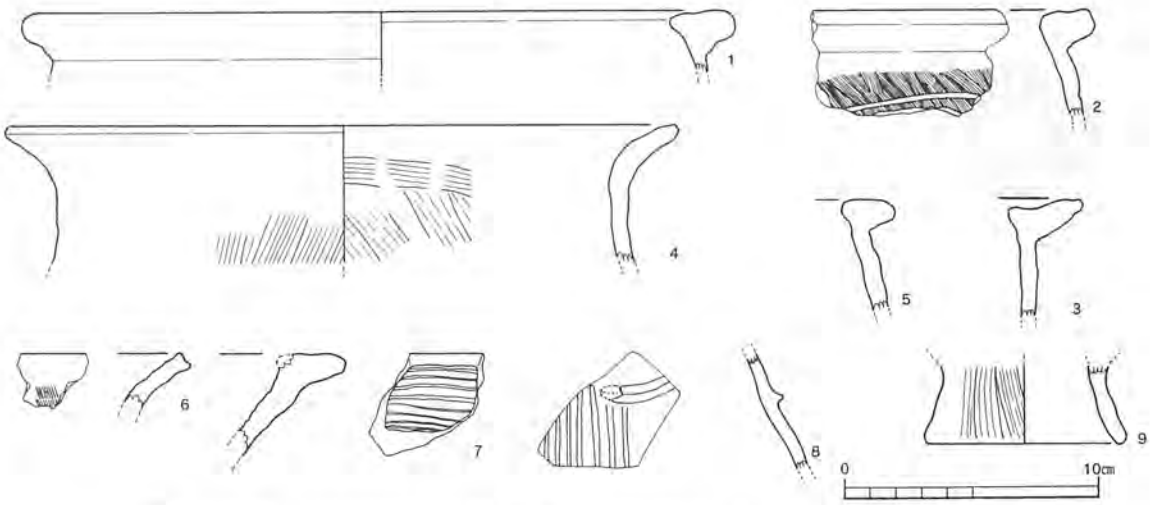
第Ⅲ-148図　197SI・196SI・165SI・161SI　平面・断面図(1/80)



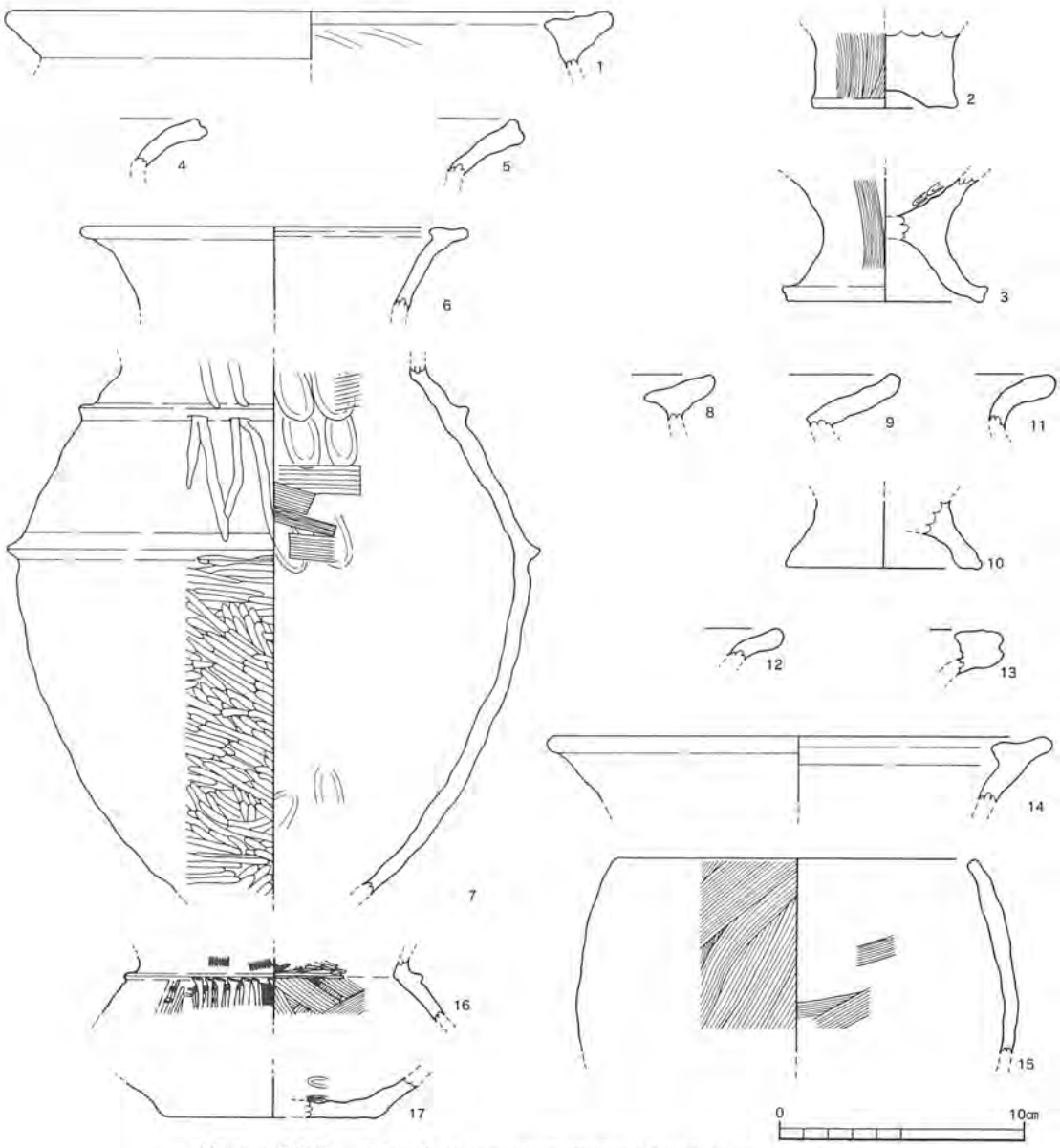
第Ⅲ-149図　161SI内炉・SK01・165SI内SK01　平面・断面図(1/40)



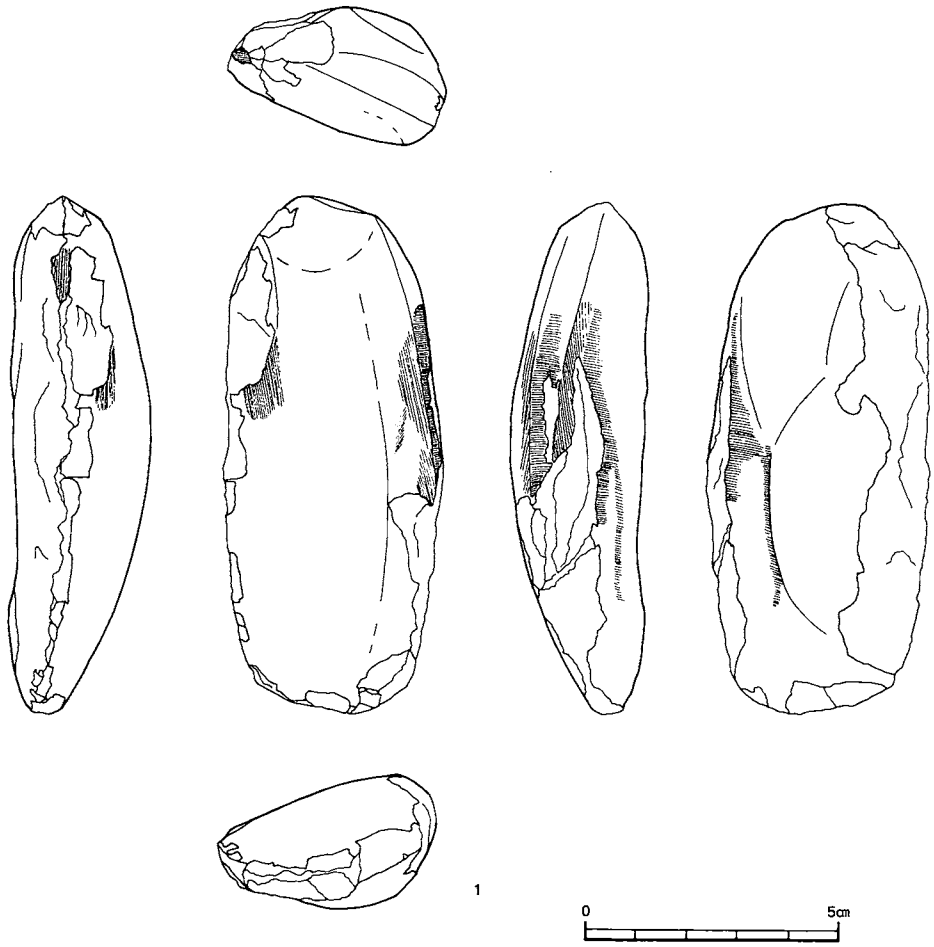
第Ⅲ-150図　165SI出土土器実測図1(1/3)〈肩(1・2)、床面(3)、2層(4～14)〉



第Ⅲ-151図　197SI出土土器実測図(1/3)〈P(1)、2層(2～4)、1層(5～9)〉



第Ⅲ-152図　165SI出土土器実測図2(1/3)〈1層(1～17)〉



第Ⅲ-153図　165SI出土石器実測図(2/3)〈1層〉

まとめ　弥生時代の遺構面が削平されているのと161・165SI、171SK及び撹乱に壊されており詳細は不明である。165SIとの新旧関係から、住居の時期は5期以前と推定される。

165SI（第Ⅲ-148・149・150・152・153図、PL.40）

位置　遺跡中央部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されている考えられる。床面の標高は約53.4 mで、この住居埋没後、北東側に161SIが建てられている。主軸の方位は、N -2 °-Eである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.86 m、短軸4.84 mを測る。推定床面積は19.6 ㎡で、検出面からの深さは0.40 mである。硬化面は認められない。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は20～60 ㎝で、深さは24～78 ㎝である。柱痕跡の径は、16～20 ㎝である。

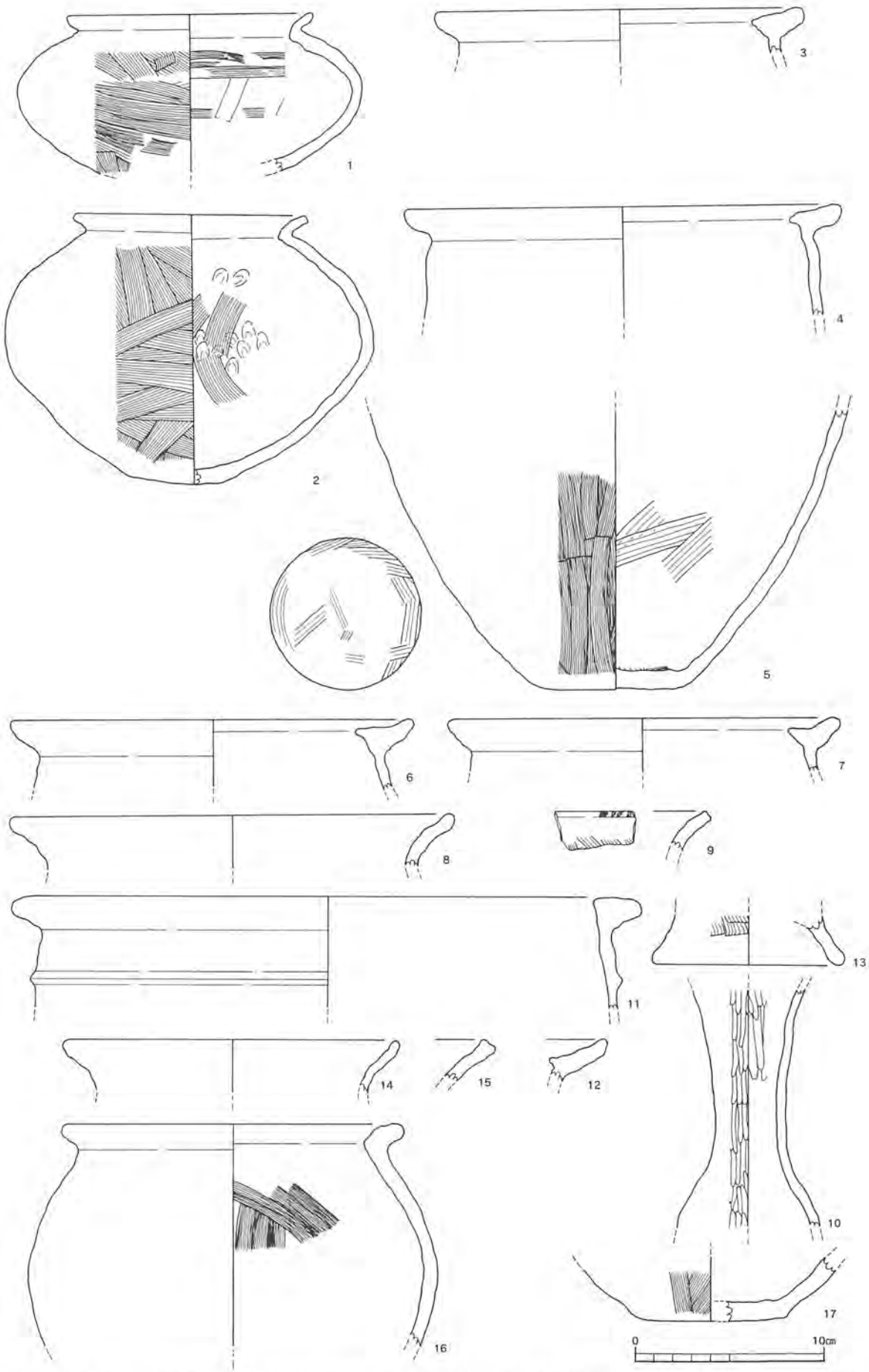
貯蔵穴　住居の中央部に位置し、長軸65 ㎝、短軸52 ㎝、深さ65 ㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は一括に埋没している。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1・底部片1が出土している。上層から磨製石斧を再利用した砥石（第Ⅲ-153図1）が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

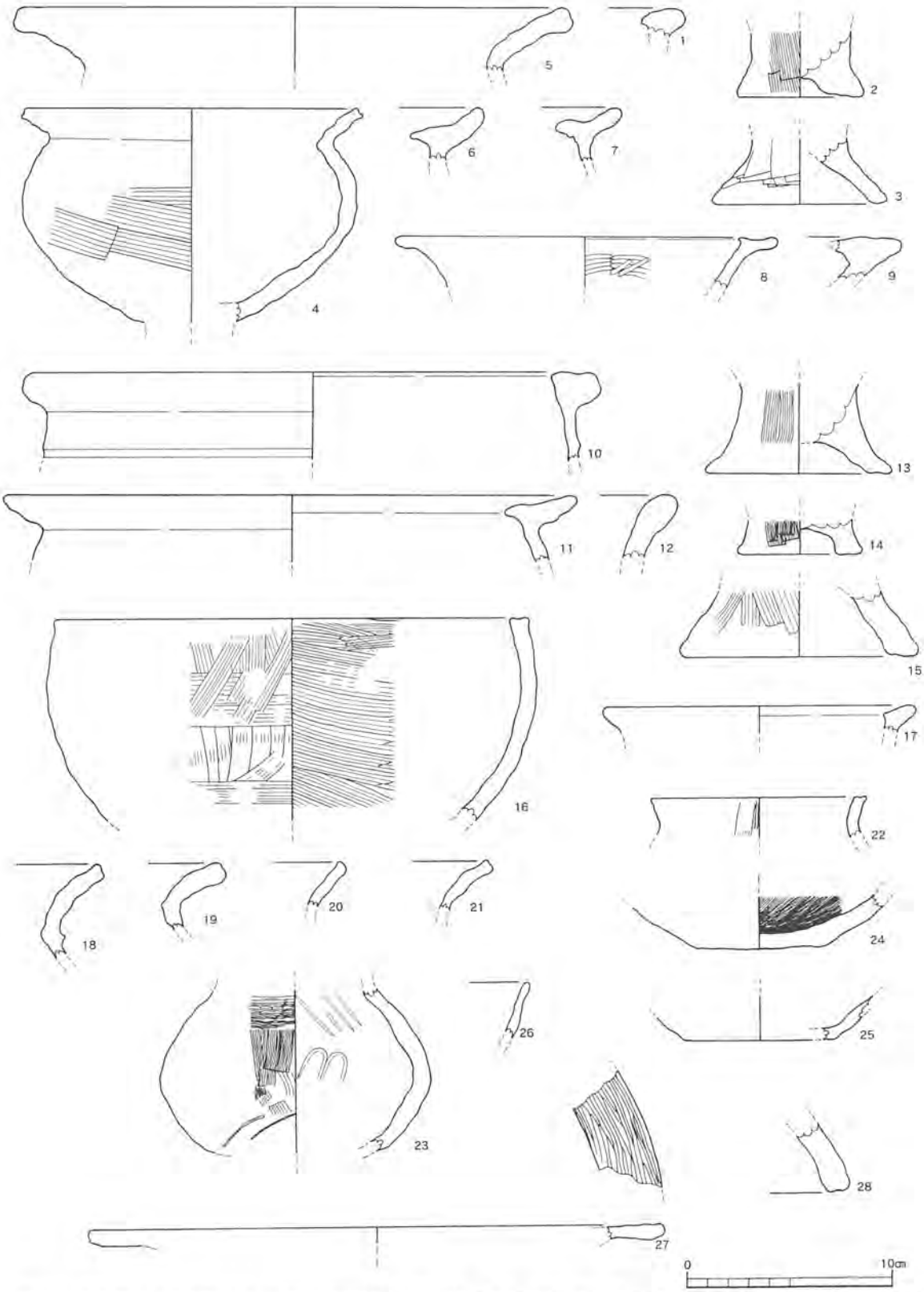
まとめ　主柱穴はP7～10で構成されるものとP11～16で構成されるものとが考えられ、竪穴の形状・大きさなどからP7～10で建てられた後、P11～16を主柱穴とするものに建て替えられたものではないかと考えられる。住居の時期は、遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて6A期と推定される。

161SI（第Ⅲ-148・149・154・155・156・157・158図、PL.40・50）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.4 mで、主軸の方位は、座標北である。



第Ⅲ-154図　161SI出土土器実測図1(1/3)〈床面(1～5)、3層下層(6～9)、3層上層(10～17)〉

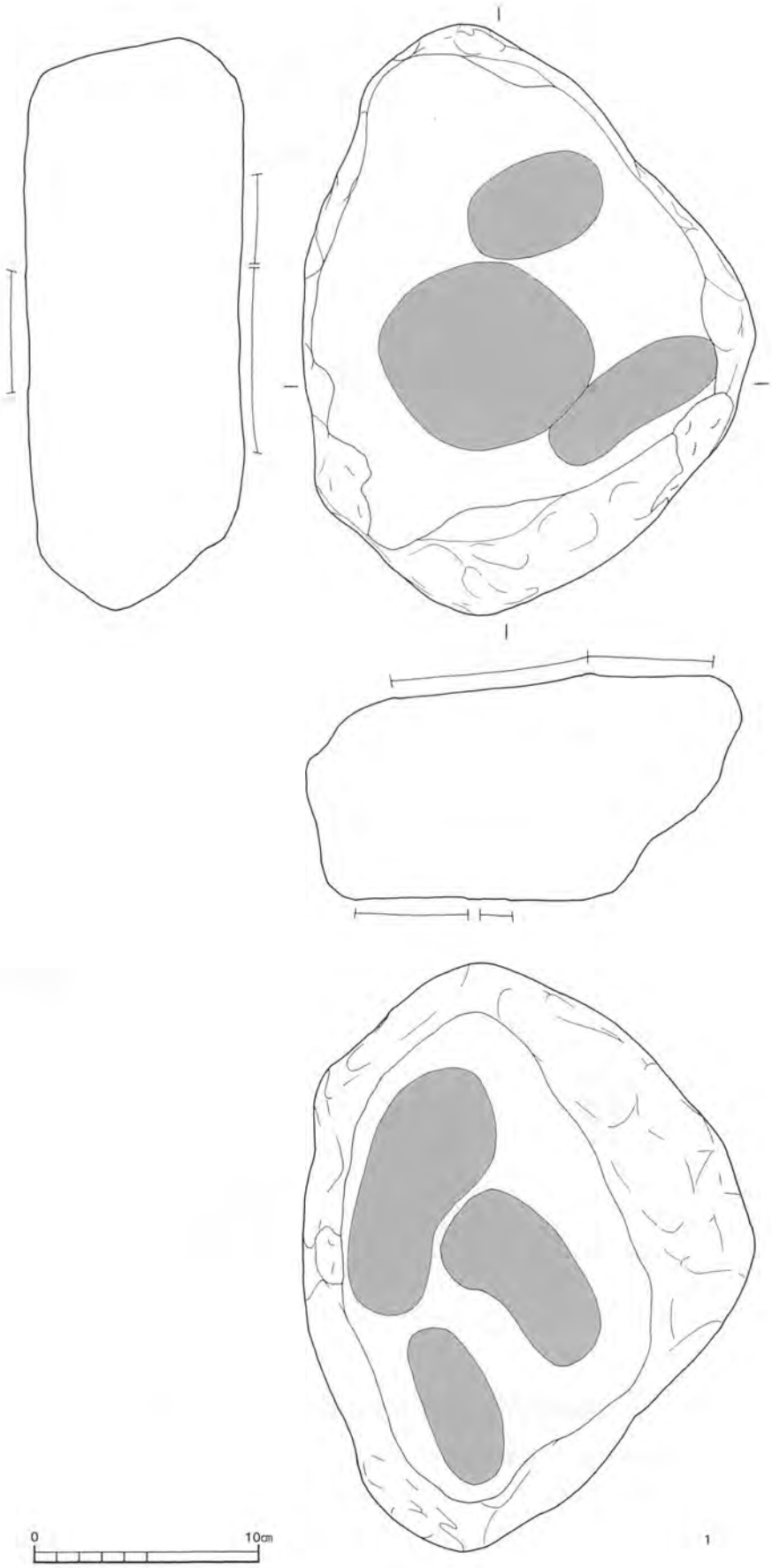


第Ⅲ-155図　161SI出土土器実測図2(1/3)〈2層下層(1～5)、2層上層(6～9)、1層(10～28)〉

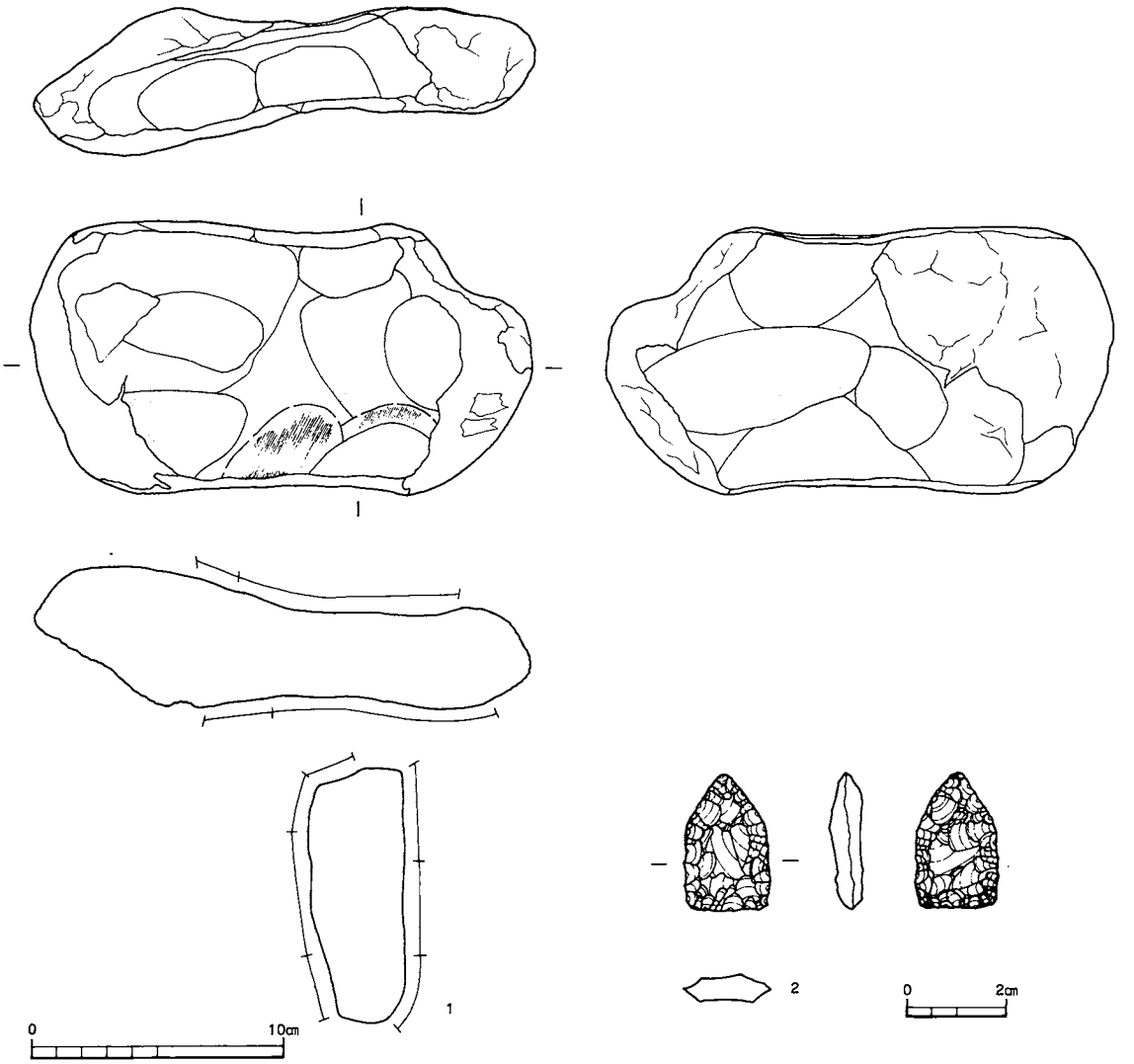
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.70 m、短軸4.30 mを測る。床面積は16.88 ㎡で、検出面からの深さは0.4 mである。硬化面は床中央部2/3に認められる。埋土は3層からなる。埋土にブロックを多く含む。

柱穴　柱穴の径は20～42 ㎝で、深さは16～66 ㎝である。柱痕跡の径は、11～20 ㎝である。

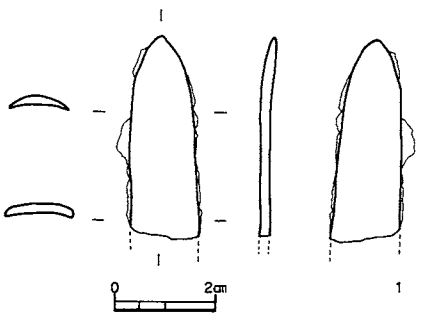
炉　住居の中央部に位置し、長軸83 ㎝、短軸72 ㎝、深さ16 ㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は2層で上



第Ⅲ-156図　161SI出土石器実測図1(1/3)〈床面〉



第Ⅲ-157図　161SI出土石器実測図2(1/3)〈3層下層(1)〉(2/3)〈1層(2)〉



第Ⅲ-158図　161SI出土鉄器実測図(2/3)〈床面〉

層に焼土を多く含む。

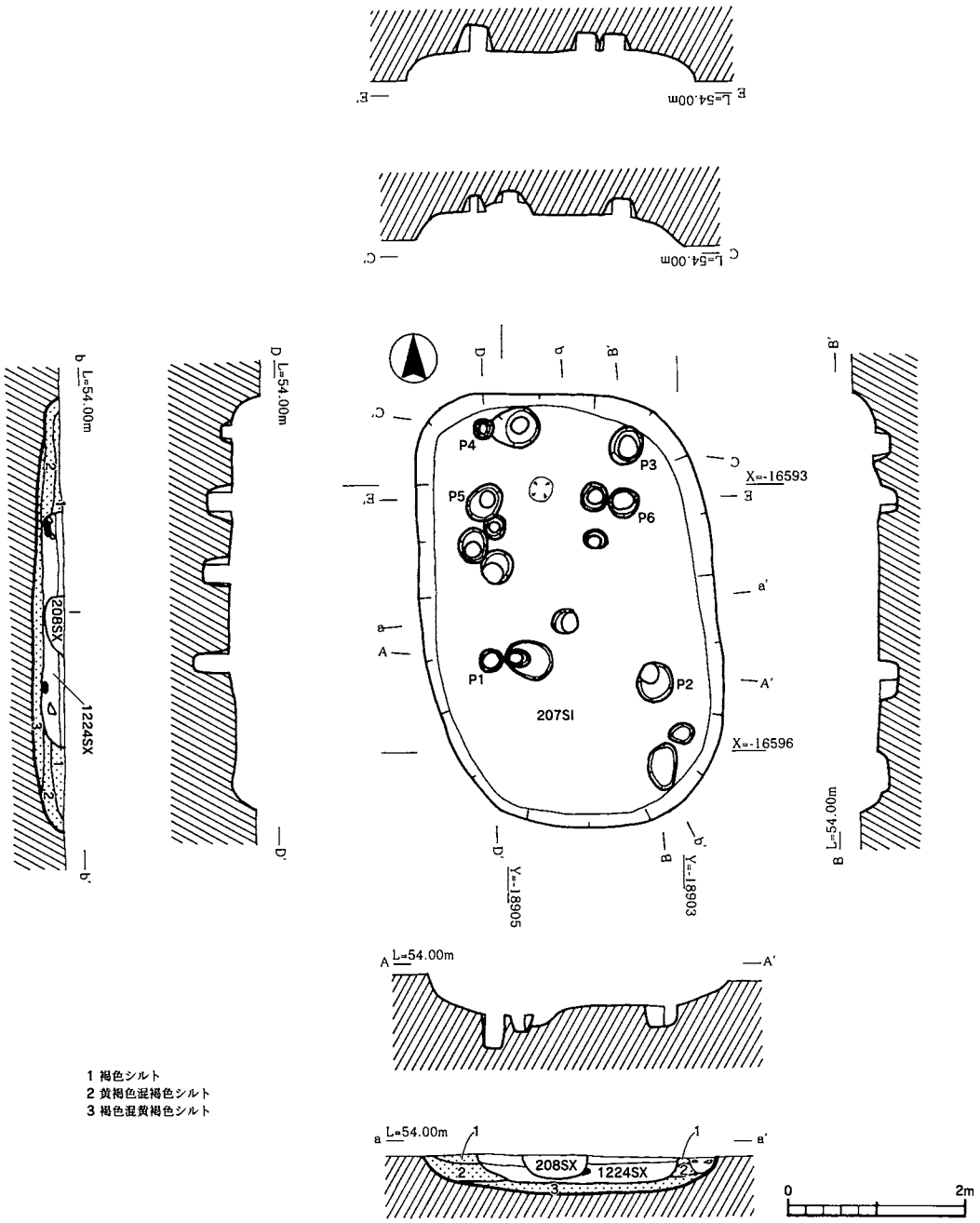
貯蔵穴　住居の西側に位置し、長軸1.3 m、短軸1.0 m、深さ40 cmである。断面はU字状を呈する。埋土は3層からなり、ブロックを多く含む。

遺物出土状況　第Ⅲ-154図1・2は、ほぼ原位置を保っていると考えられる。第Ⅲ-154図3～5は、床面から出土しているが、流れ込みの遺物と推定される。他の遺物も流れ込みないし廃棄の遺物と推定される。住居の埋土からは、甕口縁部片29・底部片8、壺口縁部片16・底部片4、鉢片1、高坏片1が出土している。硬化面下よりやりがんな1（第Ⅲ-158図1）、下層より台石（第Ⅲ-156図1）、砥石（第Ⅲ-157図1）、上層より打製石鏃（第Ⅲ-157図2）が出土している。

まとめ　主柱穴はP1～6で構成されるものと考えられる。出土土器（第Ⅲ-154図1・2等）や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は、7期と推定される。

207SI（第Ⅲ-159・160図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約53.5 ㎡で、主軸の方位は、N-5°-W　である。



第Ⅲ-159図　207SI　平面･断面図(1/80)

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.86 m、短軸3.44 mを測る。床面積は13.8 ㎡で、検出面からの深さは0.40 mである。埋土は3層に分かれる。

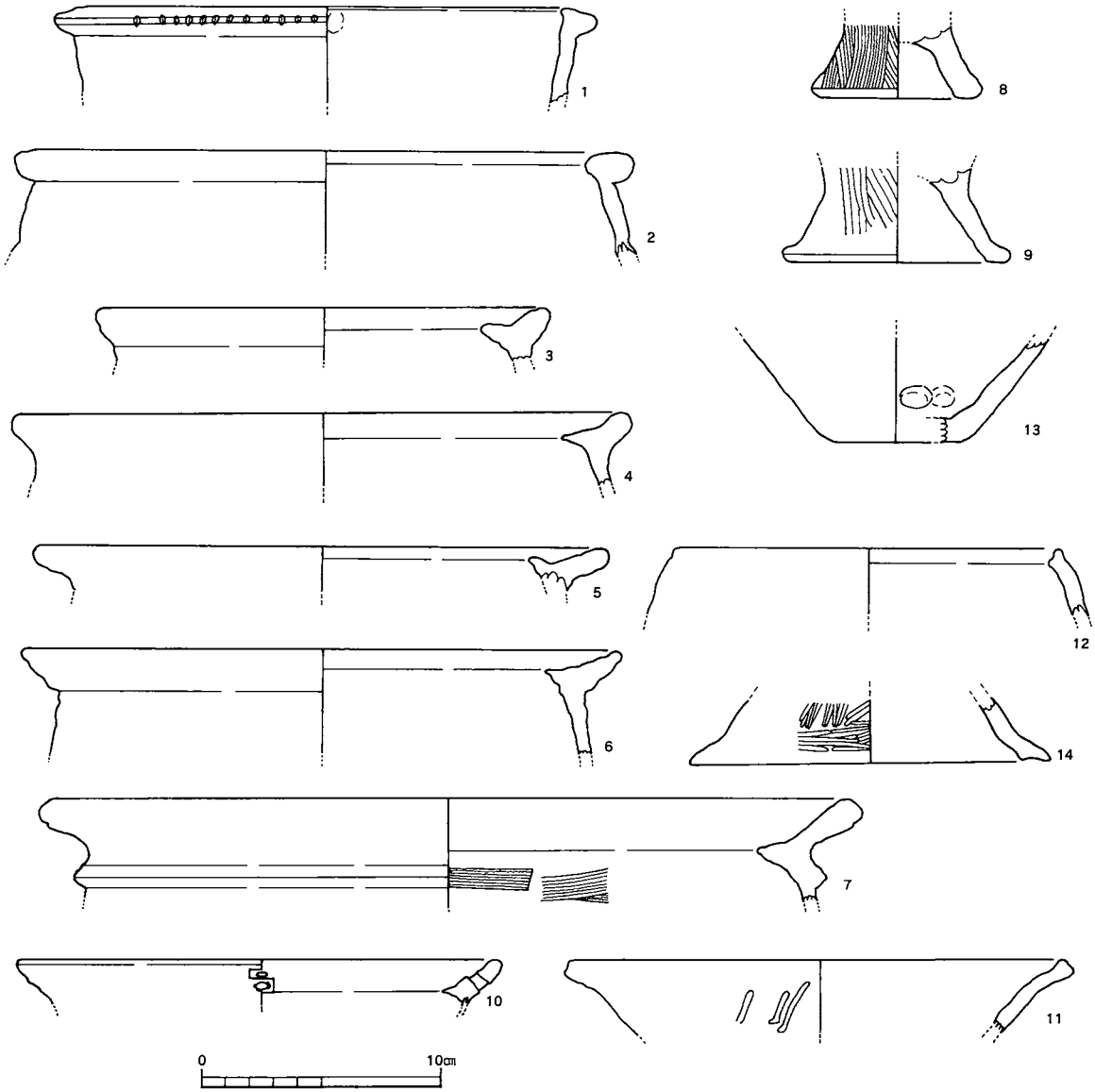
柱穴　柱穴の径は24～44 ㎝で、深さは、12～39cmである。柱痕跡の径は、16～25 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片27・底部片3、壺口縁部片4・底部片6が出土している。

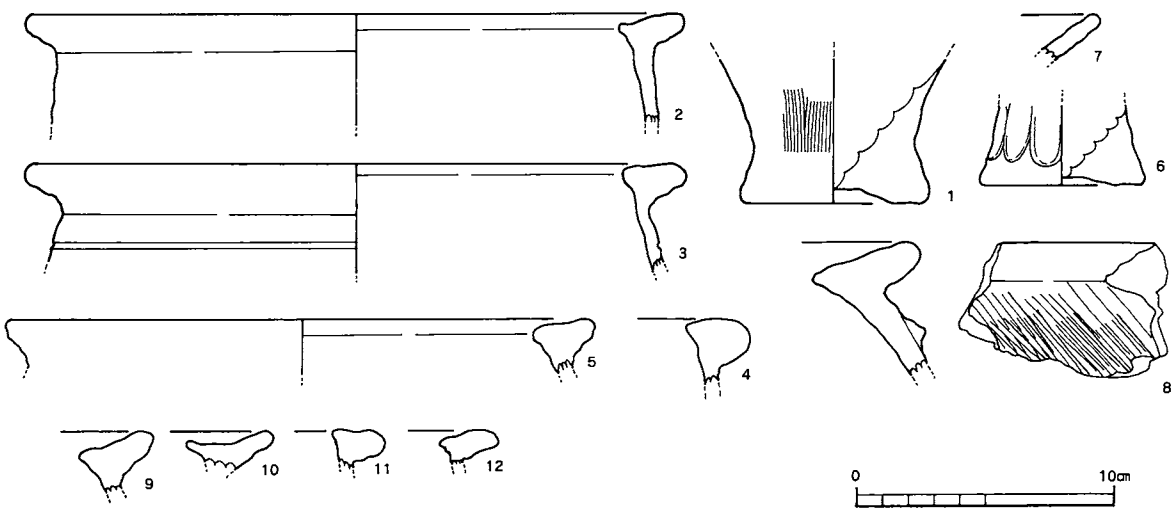
まとめ　主柱穴はＰ１～６で構成されるものと考えられ、Ｐ３・４が支柱となるかＰ５・６が建て替えの柱になるかは不明である。床面10 ㎝程埋没後、住居中央部の長軸2.5 m、短軸2 mの範囲に炭の堆積が顕著に見られる。住居跡が埋没したのち、焼土坑としての役割も考えられる。出土土器から考えて、住居の時期は５期と推定される。

205SI（第Ⅲ-162・163図）

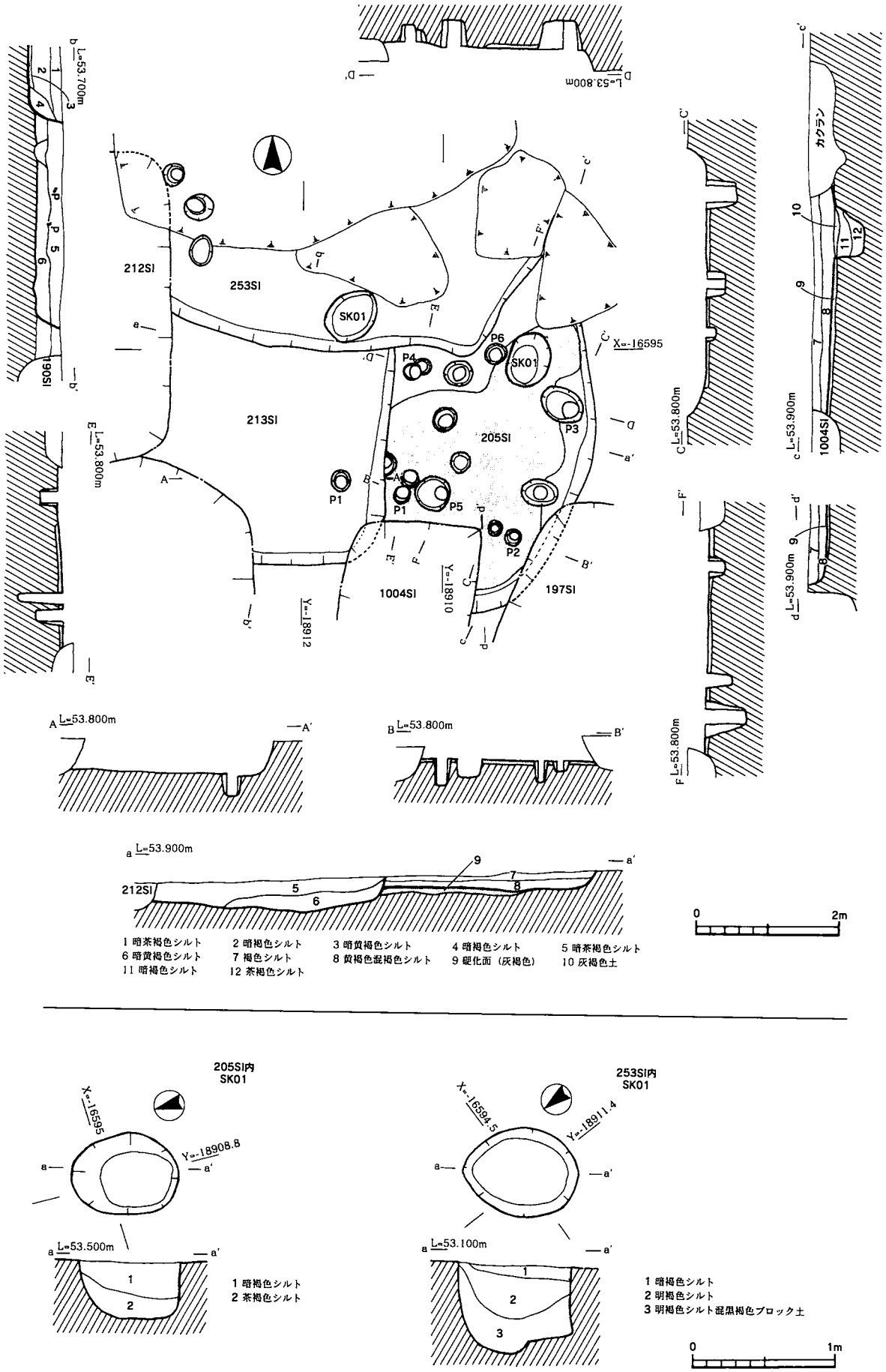
位置　遺跡中央部（２区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.4 mで、この住居埋没後、南東側に197SI、南西側に1004SI、西側に213SI、北側に253SIが建てられている。埋土は２層からなる。主軸の方位は、N -6 °-Eである。



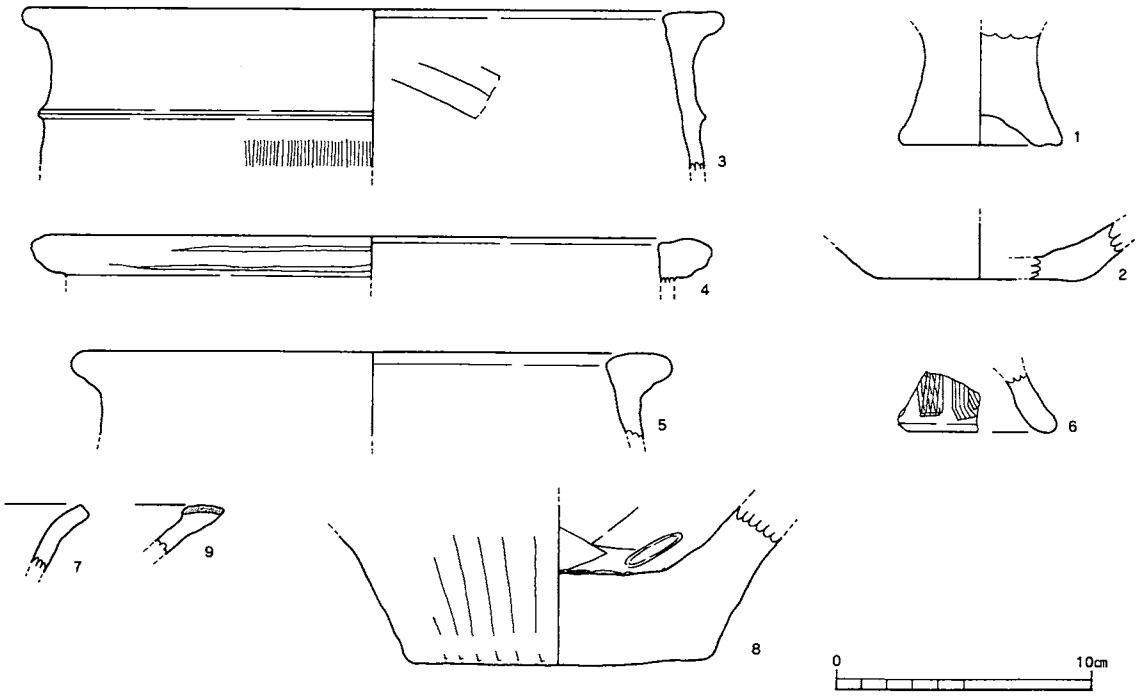
第Ⅲ-160図　207SI出土土器実測図(1/3)〈1層(1～14)〉



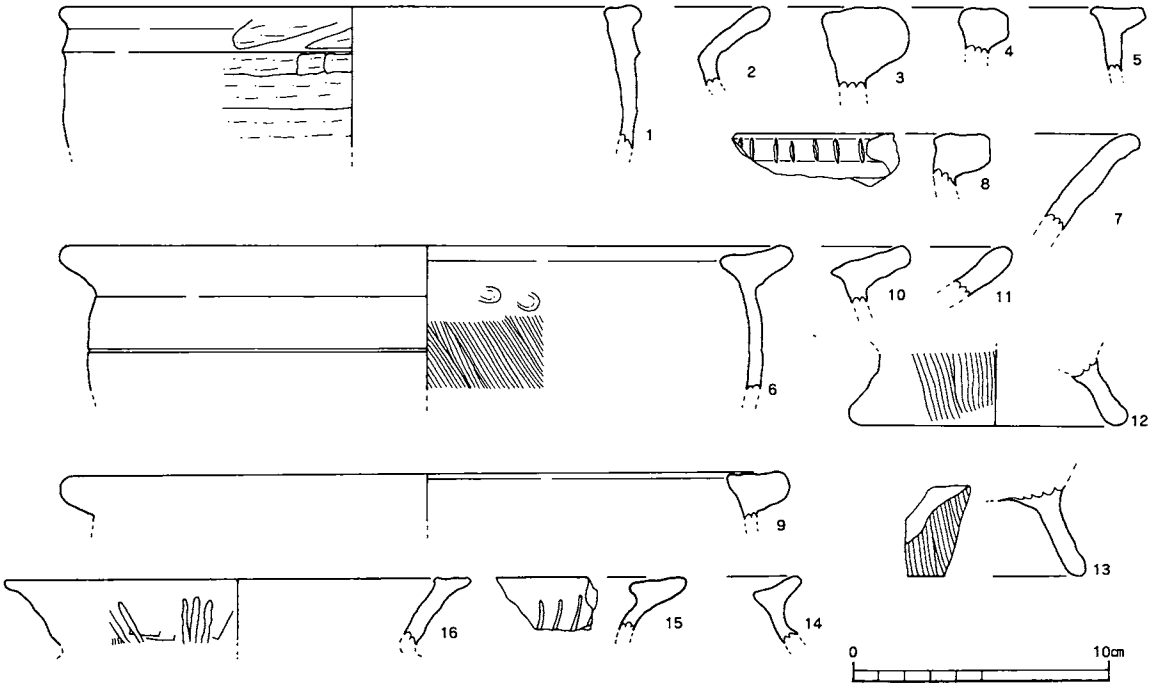
第Ⅲ-161図　253SI出土土器実測図(1/3)〈床面下(1)、2層(2～7)、1層(8～12)〉



第Ⅲ-162図　205SI・213SI・253SI・SK平面・断面図(1/80)(1/40)



第Ⅲ-163図　205SI出土土器実測図(1/3)〈P(1)、2層(2)、1層(3～9)〉



第Ⅲ-164図　213SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、3層(2)、2層(3～7)、1層(8～16)〉

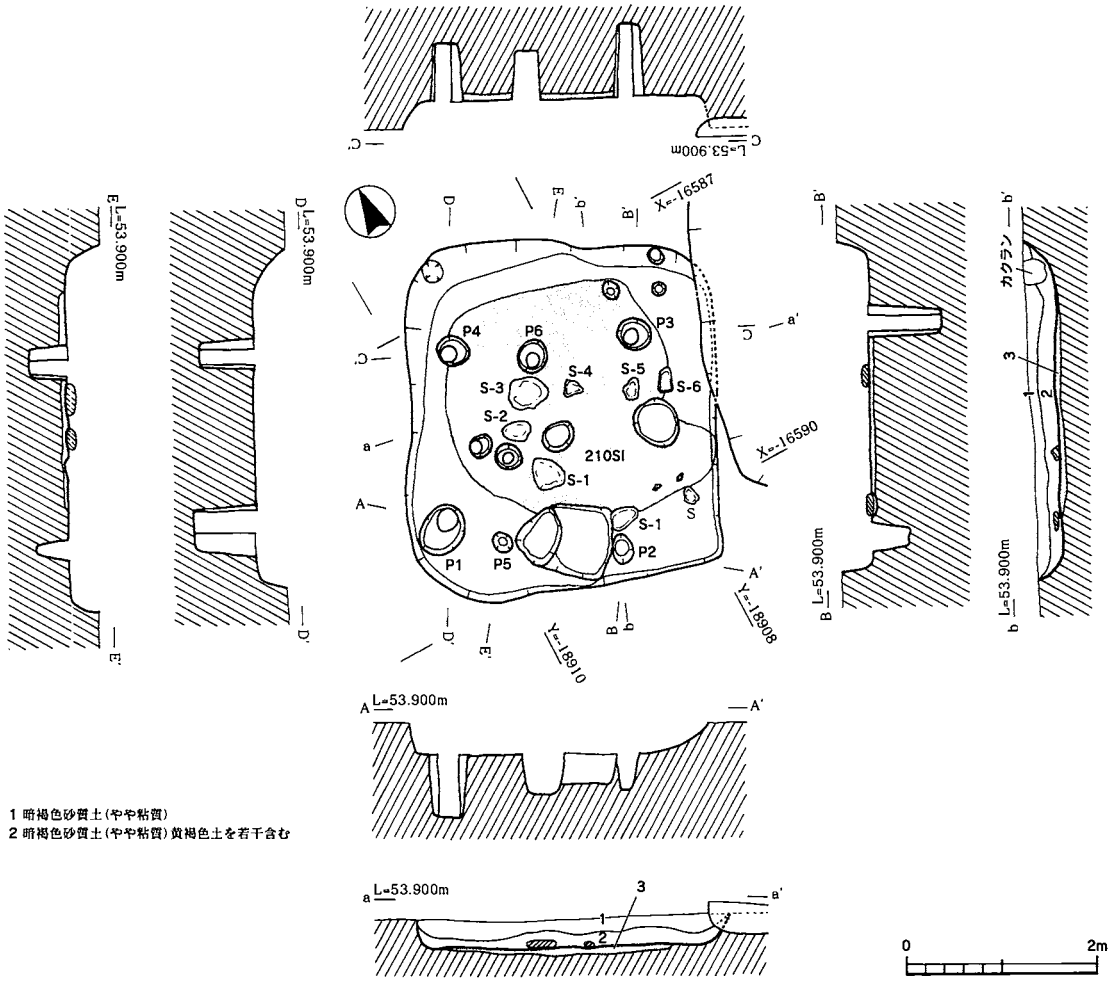
住居形態　平面形態はほぼ方形を呈し、長軸5.00 m以上、短軸2.88 m以上を測る。残存床面積は7.5 ㎡で、検出面からの深さは0.2m である。硬化面はほぼ床全面に認められる。

柱穴　柱穴の径は22 ～ 64 ㎝で、深さは14 ～ 36 ㎝である。柱痕跡の径は16 ～ 22 ㎝である。

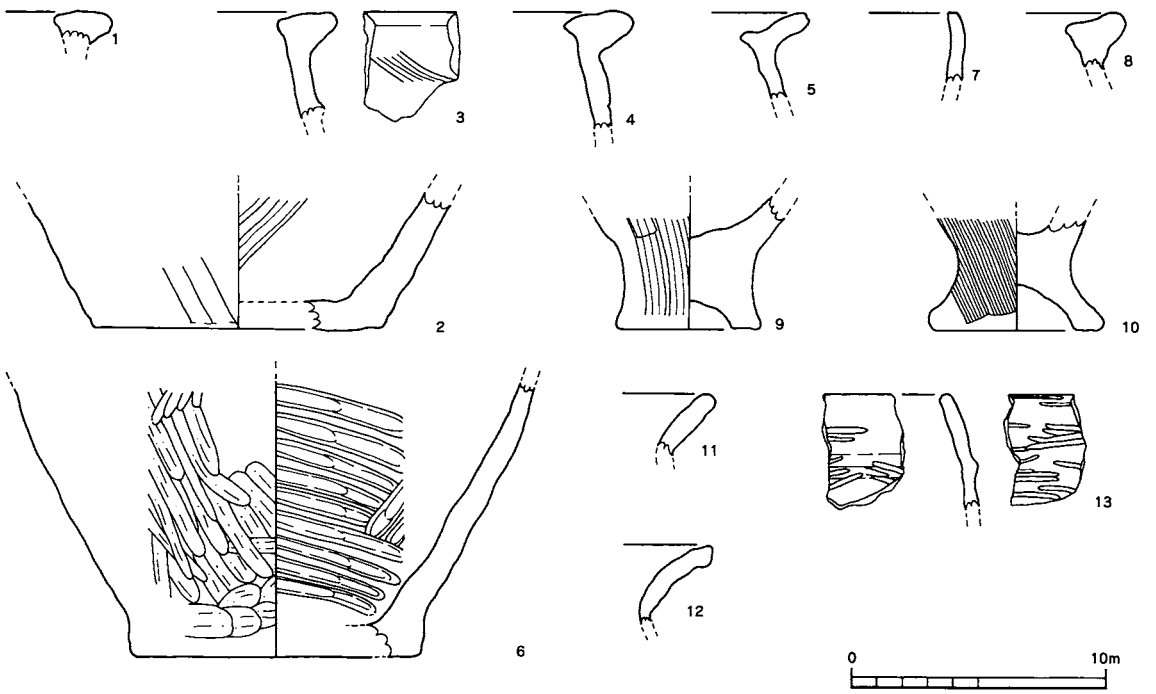
貯蔵穴　住居の北東部に位置し、長軸75 ㎝、短軸58 ㎝、深さ4 ㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は2層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土から甕口縁部片8・底部片2、壺口縁部片1・底部片2、鉢片1が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　西側を深い住居跡213SI に壊されていて、詳細は不明であるが、P1 ～4を主柱穴とする4本柱構造



第Ⅲ-165図　210SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-166図　210SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1・2)、1層下層(3～7)、1層上層(8～13)〉

第Ⅲ-167図　210SI出土石器実測図1(2/3)〈1層〉

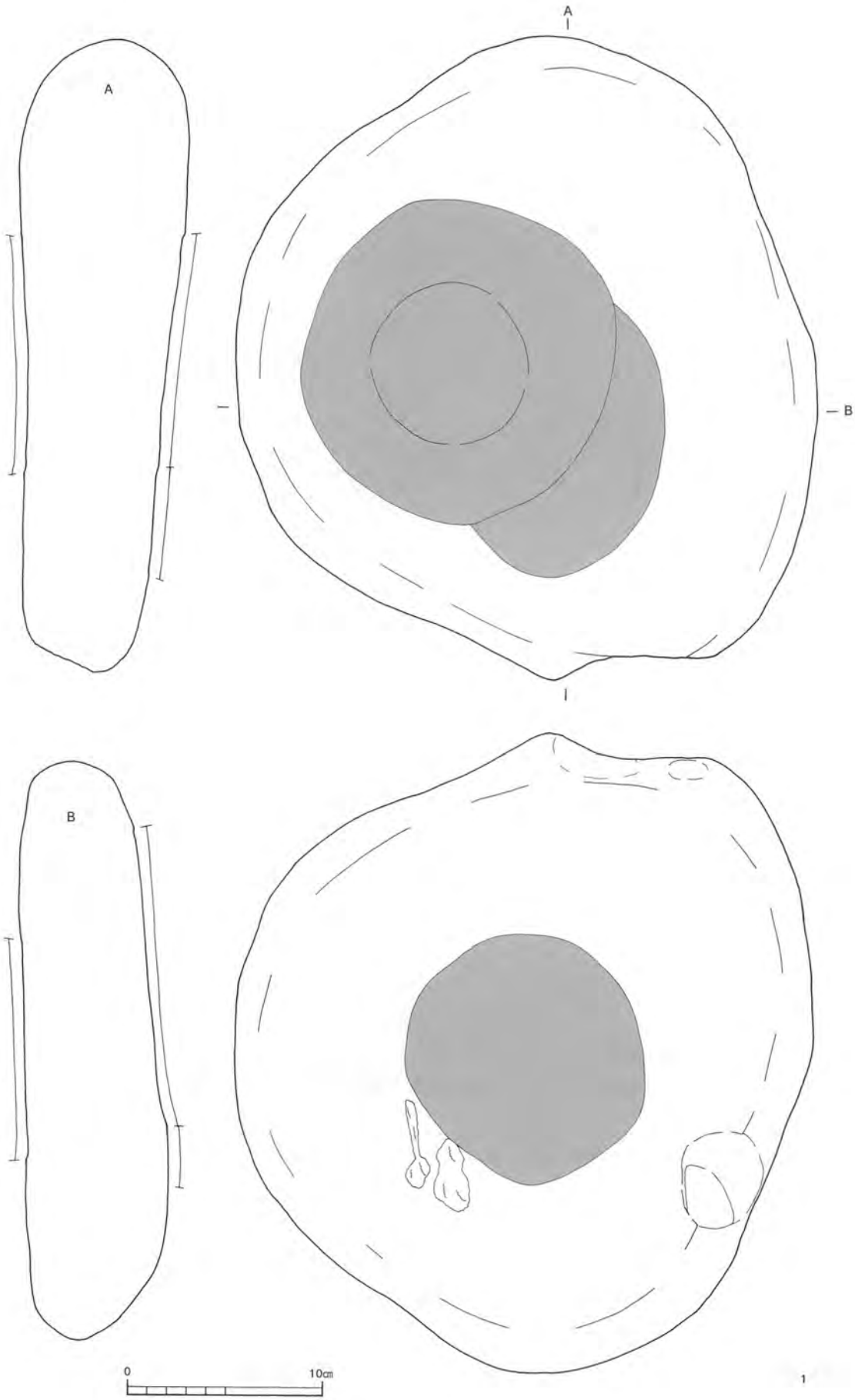
にP5・6を支柱とする構造と考えられる。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は3期と推定される。

213SI（第Ⅲ-162・164図）

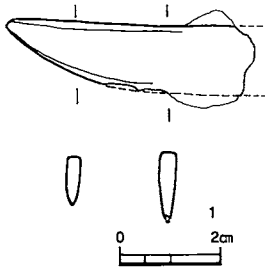
位置　遺跡中央部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、北側に253SI、西側に212SI、南東側に1004SI、南西側はに190SIが建てられている。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.10 m以上、短軸3.06 m以上を測る。残存床面積は5.88 ㎡で、検出面からの深さは0.4mである。硬化面は認められない。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は20 ㎝で、深さ33cmである。柱痕跡は18 ㎝である。



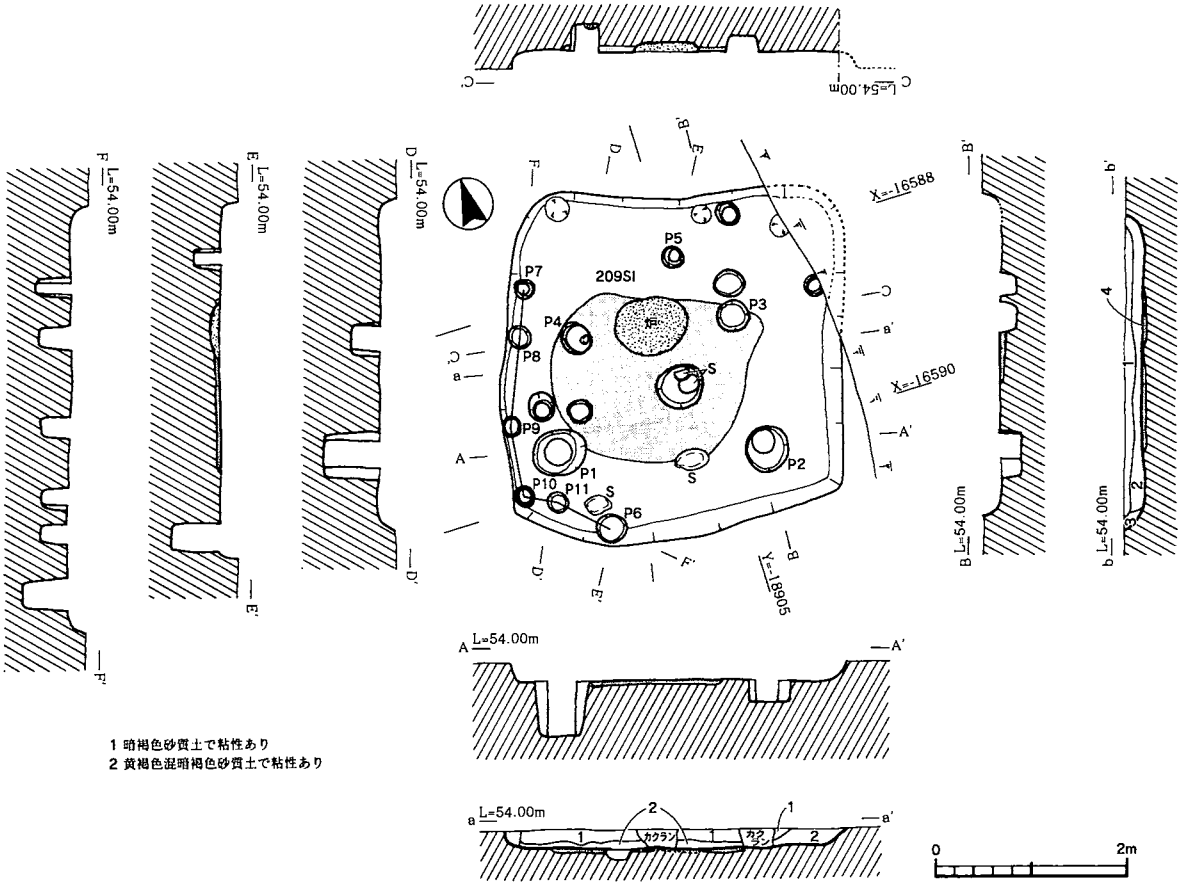
第Ⅲ-168図　210SI出土石器実測図2(1/3)〈1層〉



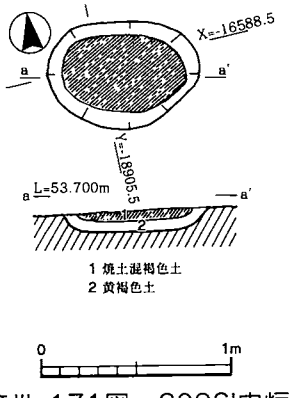
第Ⅲ-169図　210SI出土
鉄器実測図(2/3)〈1層〉

遺物出土状況　住居埋土から、甕口縁部片22・底部片3、壺口縁部片8が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

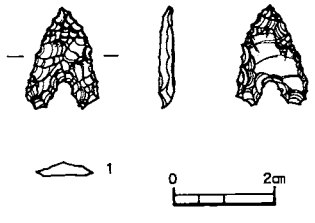
まとめ　229SX（甕棺）に壊されて詳細は不明であるが、この住居跡のＰ１と212SI内のＰ２及び253SI内のＰ３を主柱穴とする４本柱構造の可能性を指摘したい。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期と推定される。



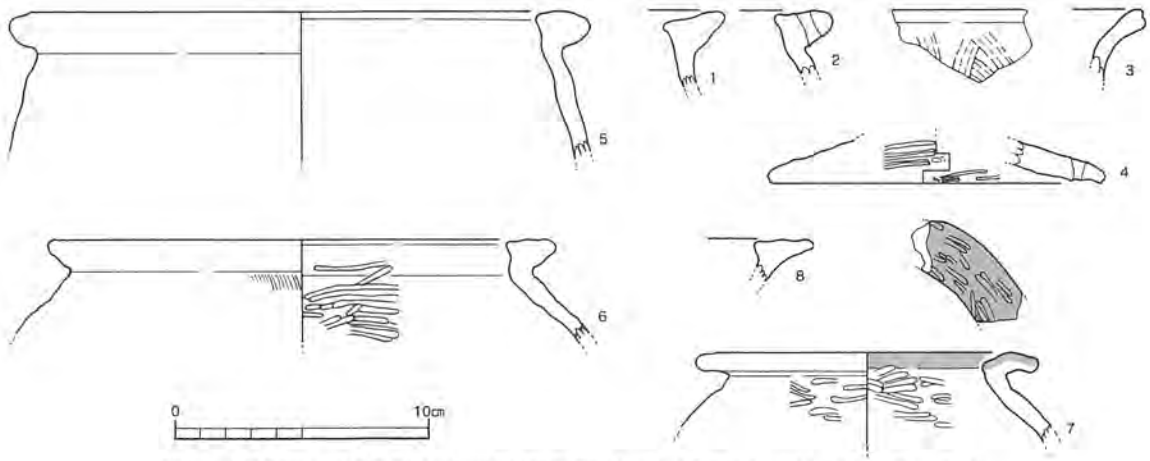
第Ⅲ-170図　209SI　平面・断面図(1/80)



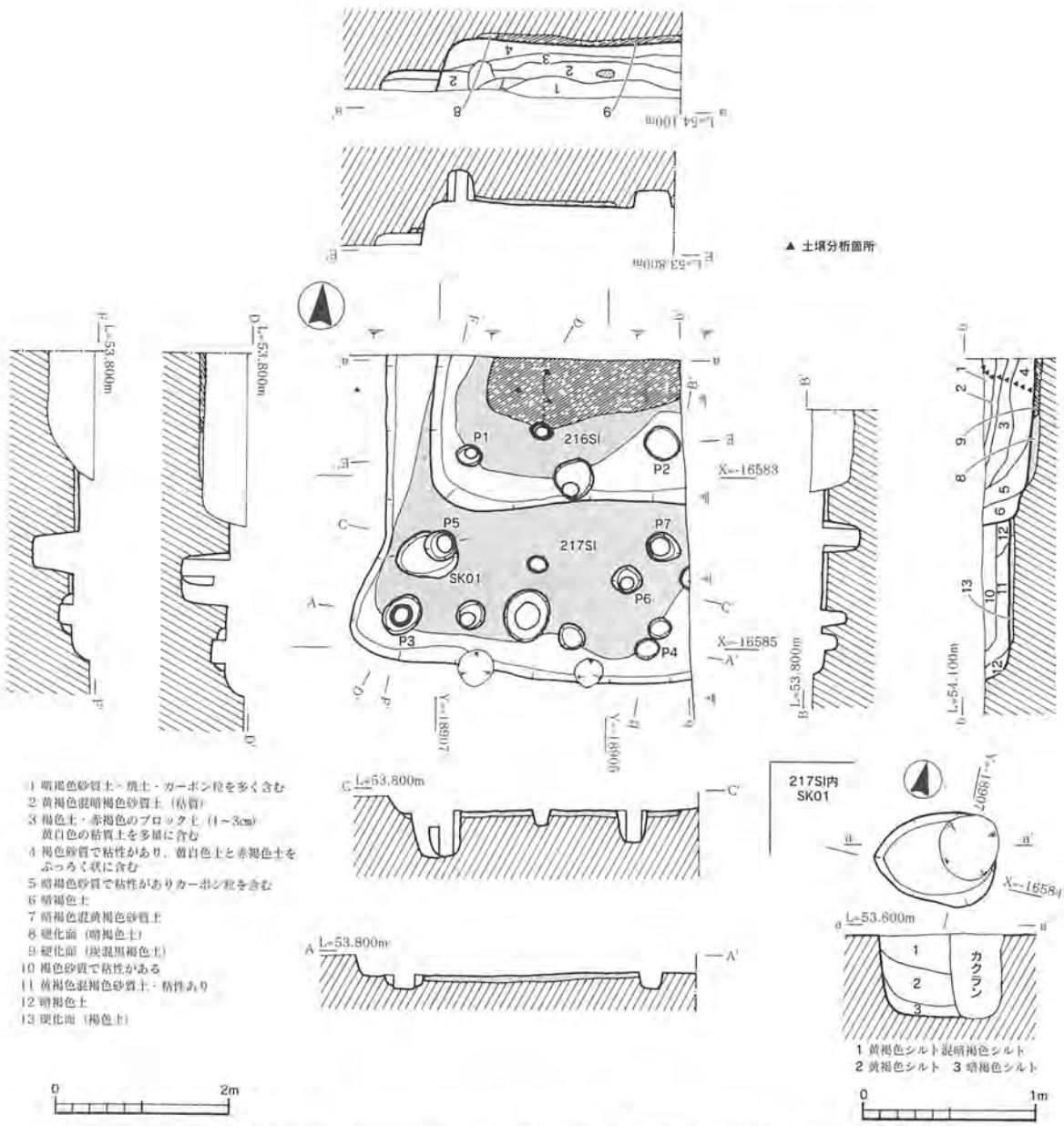
第Ⅲ-171図　209SI内炉
平面・断面図(1/40)



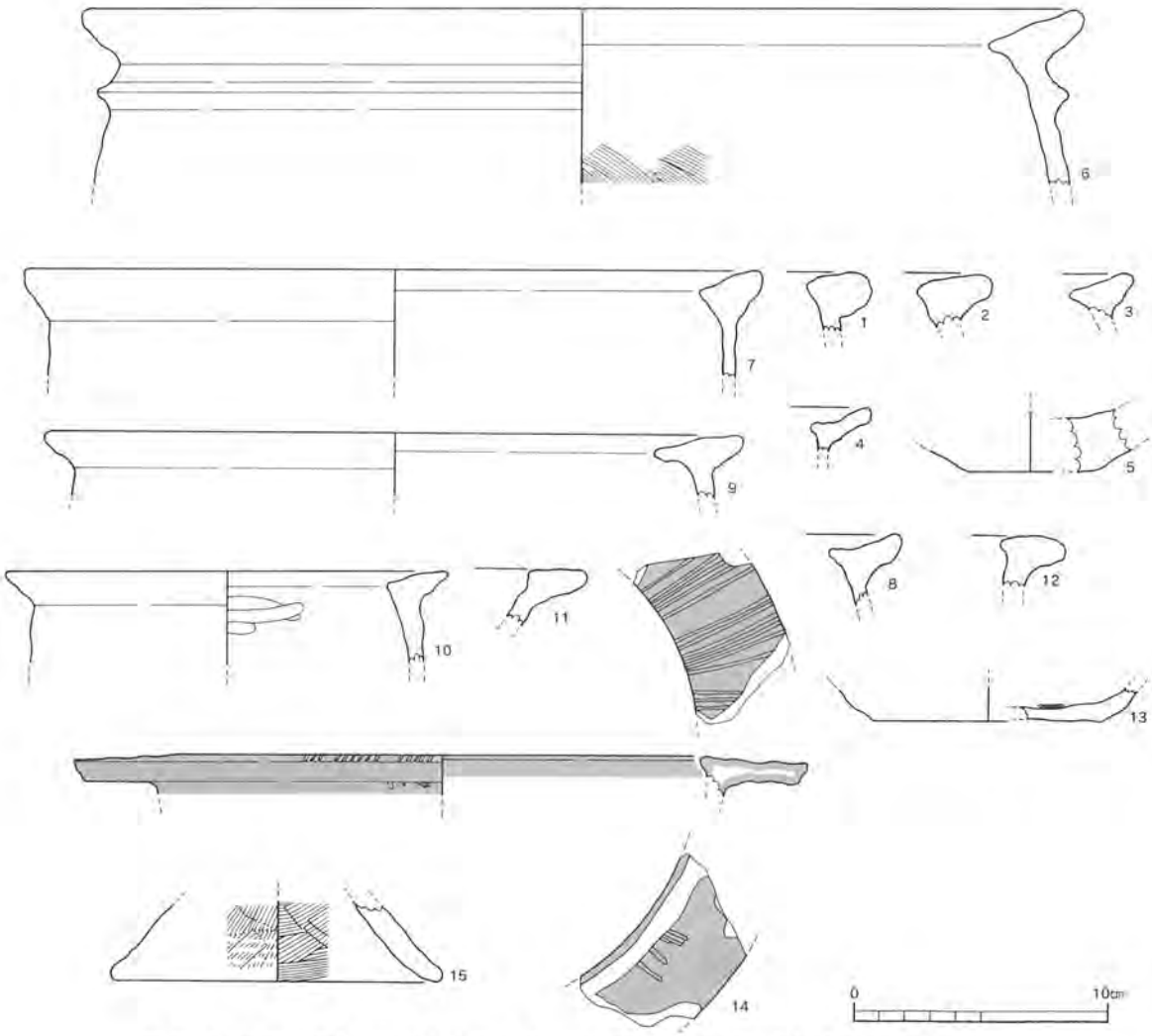
第Ⅲ-172図　209SI出土
石器実測図(2/3)〈2層〉



第Ⅲ-173図　209SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～4)、1層(5～8)〉



第Ⅲ-174図　216SI・217SI・SK　平面・断面図(1/80)(1/40)



第Ⅲ-175図　217SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～5)、1層(6～15)〉

253SI（第Ⅲ-161・162図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、西側に212SIが建てられている。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸5.00 m以上、短軸2.26 m以上を測る。残存床面積は4.2 ㎡で、検出面からの深さは0.46mである。硬化面は認められない。埋土は3層からなる。

貯蔵穴　住居の南側に位置し、長軸80 cm、短軸63 cm、深さ64 cmを測る。断面はU字形を呈し、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片14・底部片3、壺口縁部片1・底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

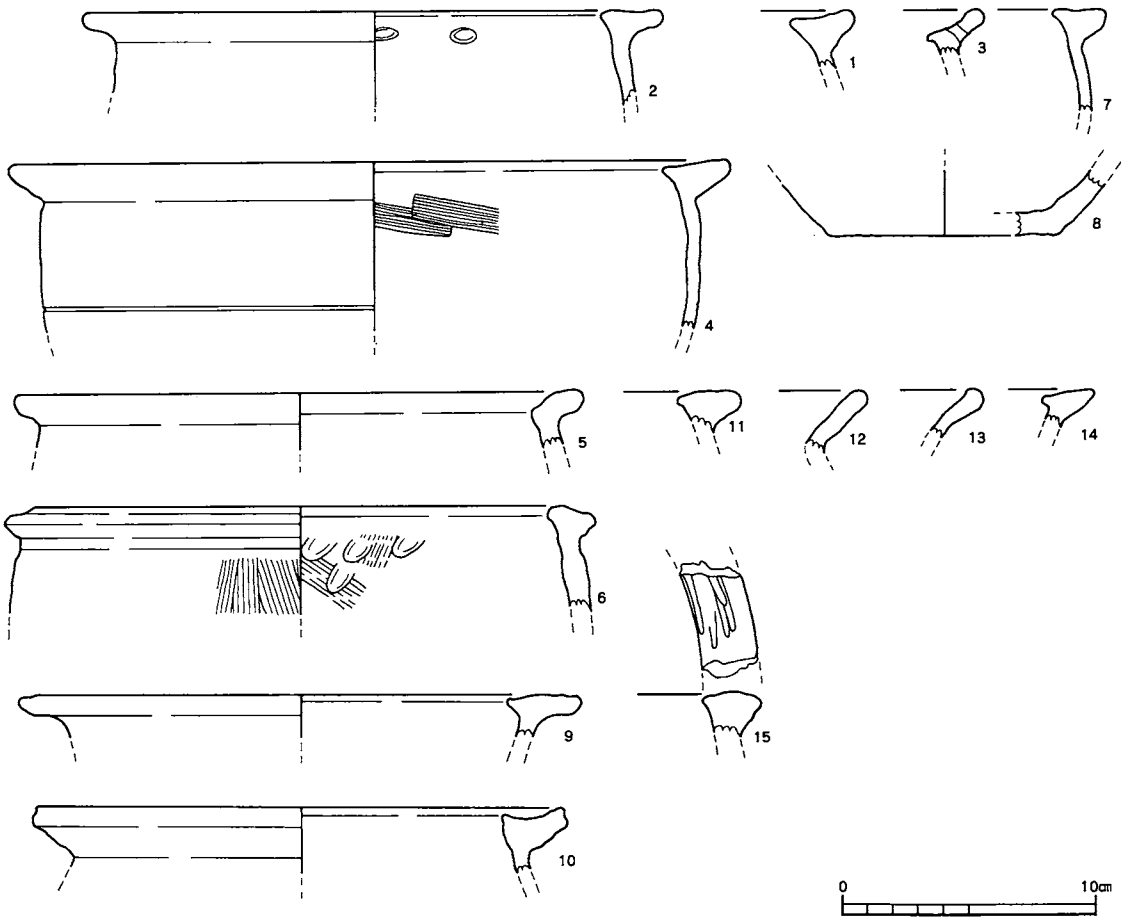
まとめ　229SX（甕棺）や土坑や試掘トレンチにより壊されているため、柱穴の配置が不明で住居構造が推定できない。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6 B期に位置づけられると推定できる。

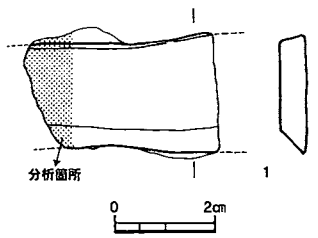
210SI（第Ⅲ-165・166・167・168・169図、PL.4・5・50）

位置　遺跡中央部（2区中央部）自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.4 mで、この住居埋没後、東側に209SIが建てられている。主軸の方位は、N -28°-Eである。

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸3.68 m、短軸3.25 mを測る。床面積は10.2 ㎡で、検出面からの



第Ⅲ-176図　216SI出土土器実測図(1/3)〈4層(1～3)、3層(4・5)、2層(6～9)、1層(10～15)〉



第Ⅲ-177図　216SI出土鉄器実測図(2/3)〈床面〉

深さは0.3 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は13～60 cmで、深さは11～70 cmである。柱痕跡の径は12～24 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕底部片2、壺口縁部片9・底部片1、鉢片1が出土している。

上層に鉄製刀子片、砥石1、石皿1が出土している。流れ込みの遺物であると推定できる。

まとめ　P1～4を主柱穴とし、P5・6を支柱する構造と考えられる。遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の時期は出土土器や住居の新旧関係から考えて4A期と推定される。

209SI（第Ⅲ-170・171・172・173図、PL.4・40）

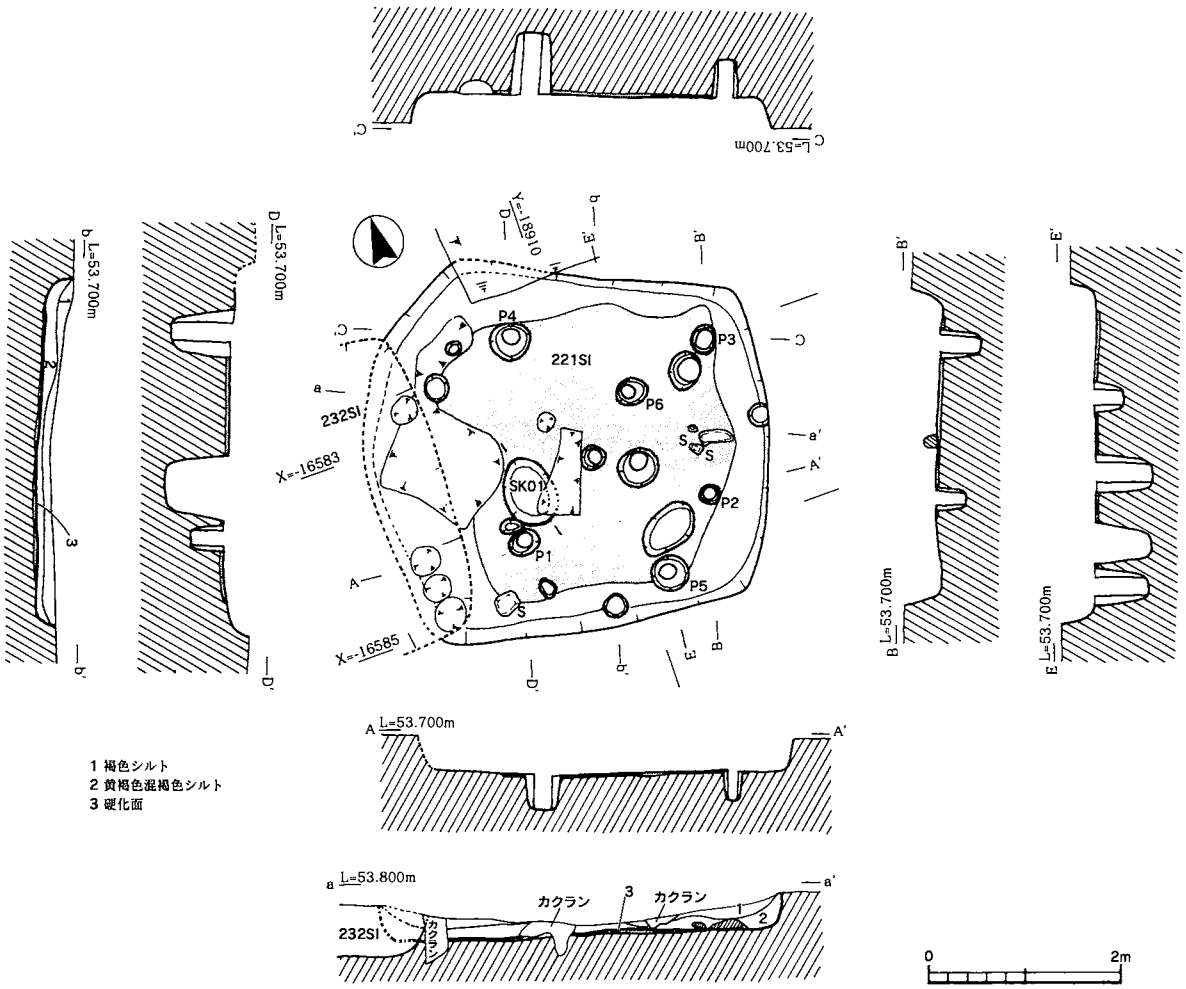
位置　遺跡中央部（2区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.6 mで、主軸の方位は、N-16°-Eである。

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸3.56 m、短軸3.34 mを測る。床面積は11.22 ㎡で、検出面からの深さは0.18 mである。硬化面は中央に一部認められる。埋土は2層に分かれる。

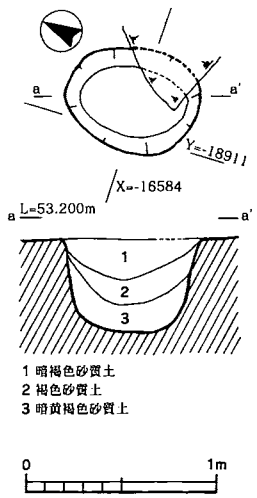
柱穴　柱穴の径は20～54 cmで、深さは18～46 cmである。柱痕跡の径は16～30 cmである。

炉　住居の中央部に位置し、長軸80 cm、短軸68 cm、深さ23 cmを測る。埋土は2層で、上層に焼土を顕著に含む。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片3、壺口縁部片5が出土している。上層から打製石鏃も出土し



第Ⅲ-178図　221SI　平面･断面図(1/80)



第Ⅲ-179図　221SI内SK01
平面･断面図(1/40)

ている。流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　主柱穴はP1～4とする4本柱構造でP5・6を支柱とする構造と考えられる。遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の時期は出土土器や住居の新旧関係から考えて4B期以降と推定される。

217SI（第Ⅲ-174・175図、PL.5）

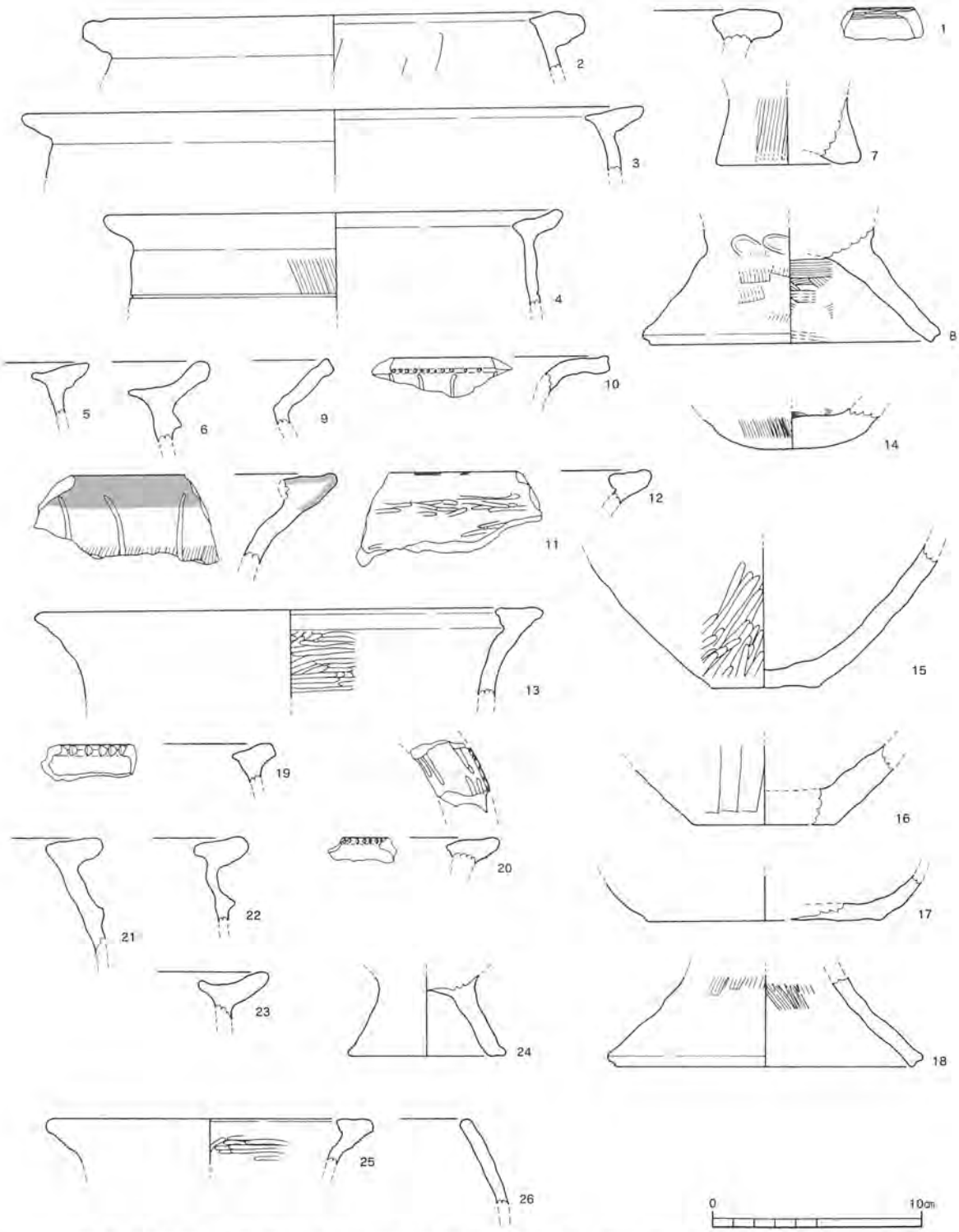
位置　遺跡中央部（2区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約53.5mで、この住居埋没後、北側に216SIが建てられている。一部調査区外に伸びる。主軸の方位は、N-3°-Eである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.70m以上、短軸3.54m以上を測る。残存床面積は6.3㎡で、検出面からの深さは30cmである。硬化面は床全面に認められる。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は34～63cmで、深さは15～53cmである。柱痕跡の径は、15～56cmである。

貯蔵穴　住居の南西側に位置し、長軸74cm、短軸52cm、深さ53cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は3層からなる。埋没後、柱穴が掘削されており、最終段階には存在しない。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片9・底部片1、壺口縁部片1・底部片2、高坏片1が出土している。流れ込みの遺物である。



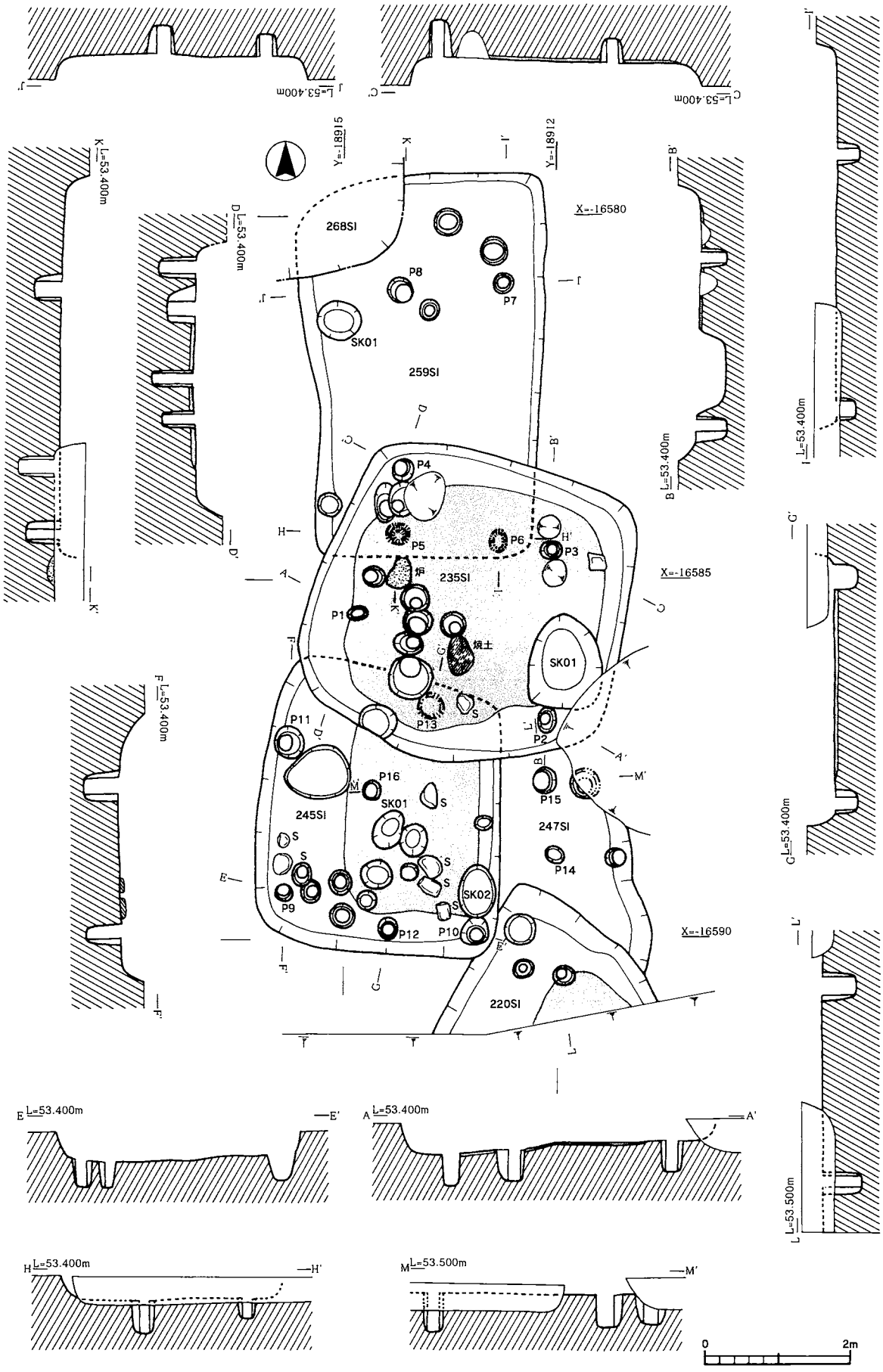
第Ⅲ-180図　221SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、2層(2～18)、1層(19～26)〉

まとめ　北側が216SIに壊されており詳細は不明であるが、P3・4を主柱穴とする4本柱構造でP5・6を支柱とする構造と考えられる。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は5期と推定される。

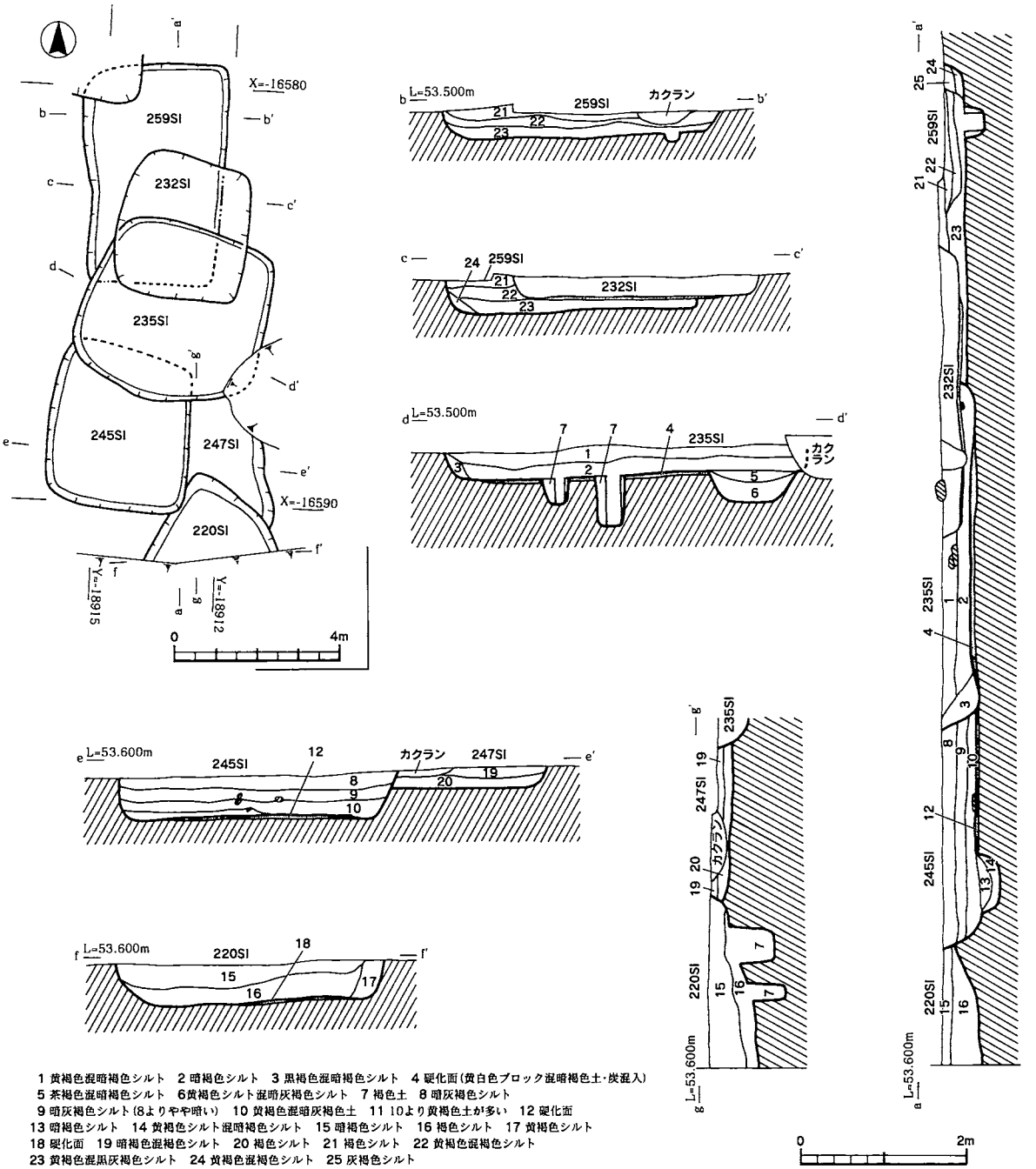
216SI（第Ⅲ-174・176・177図、PL.5・50）

位置　遺跡中央部（2区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.2 mで、北と東側は調査区外に伸びると推定できる。主軸の方位は、真北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.96 m以上、短軸1.70 m以上を測る。残存床面積は4.4 ㎡で、検出面からの深さは0.6 mである。硬化面は床全面に認められる。埋土は4層からなる。



第Ⅲ-181図　259SI・247SI・245SI・235SI・220SI　平面・断面図(1/80)



1 黄褐色混暗褐色シルト　2 暗褐色シルト　3 黒褐色混暗褐色シルト　4 硬化面(黄白色ブロック混暗褐色土・炭混入)
5 茶褐色混暗褐色シルト　6黄褐色シルト混暗灰褐色シルト　7 褐色土　8 暗灰褐色シルト
9 暗灰褐色シルト(8よりやや暗い)　10 黄褐色混暗灰褐色土　11 10より黄褐色土が多い　12 硬化面
13 暗褐色シルト　14 黄褐色シルト混暗褐色シルト　15 暗褐色シルト　16 褐色シルト　17 黄褐色シルト
18 硬化面　19 暗褐色混褐色シルト　20 褐色シルト　21 褐色シルト　22 黄褐色混褐色シルト
23 黄褐色混黒灰褐色シルト　24 黄褐色混褐色シルト　25 灰褐色シルト

第Ⅲ-182図　259SI・247SI・245SI・235SI・220SI　平面・断面図(1/160)(1/80)

柱穴　柱穴の径は、0.2～0.3 mで、深さは0.16～0.33 mである。柱痕跡の径は0.13～0.2 mである。

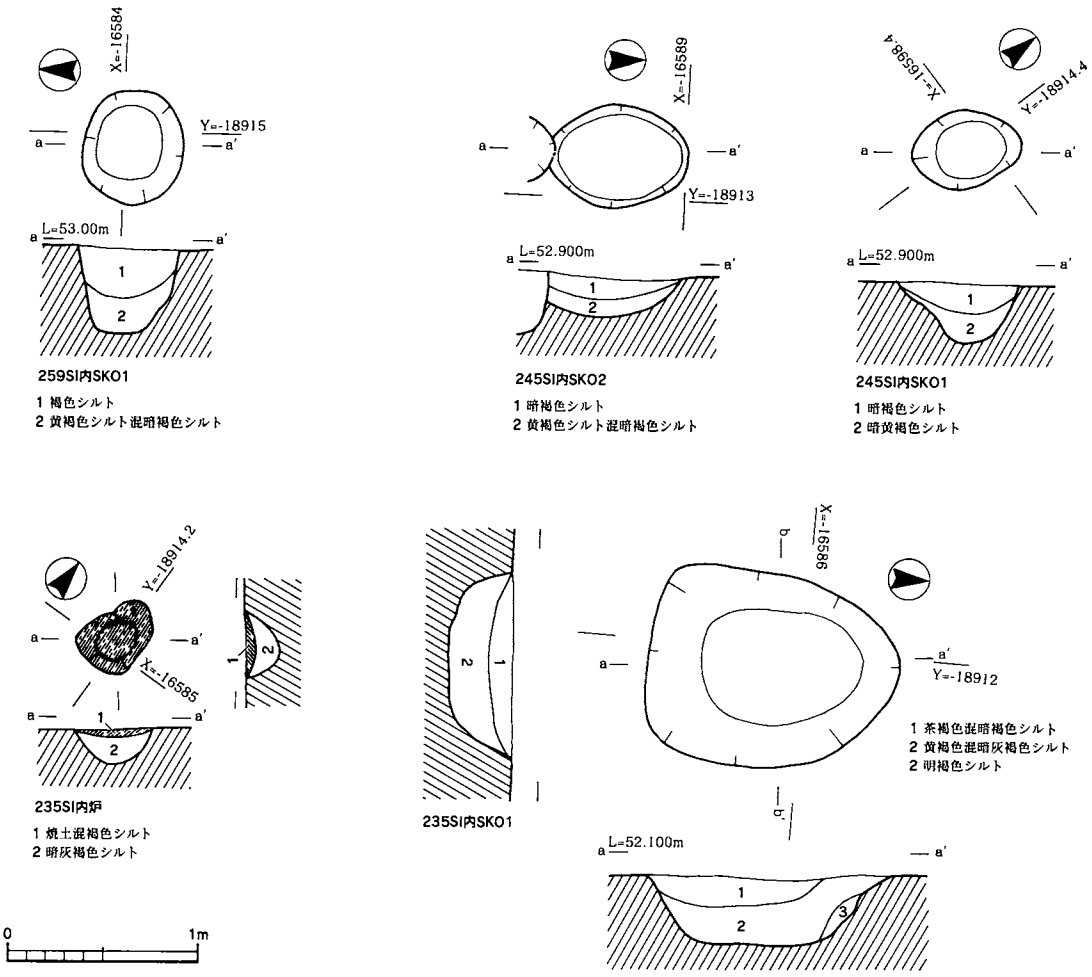
遺物出土状況　甕口縁部片11、壺口縁部片2、鉢口縁部片1、高坏1が出土した。流れ込みの遺物と推定できる。床面直上から鋳造鉄斧再利用鉄斧が出土している。

まとめ　北側が調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、検出された柱位置から考えてＰ１・２を主柱穴とする４本柱構造と推定できる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期に位置づけられると推定できる。

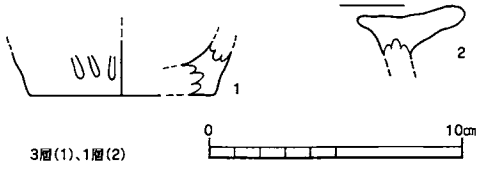
221SI（第Ⅲ-178・179・180図、PL.4）

位置　遺跡中央部（2区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.3 mで、232SI埋没後この住居は建てられている。主軸の方位は、N -18°-Eである。

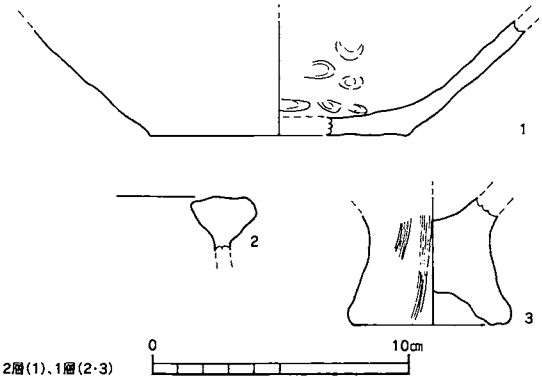
住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸4.36 m、短軸3.70 mを測る。床面積は14.28 ㎡で、検出面から



第Ⅲ-183図　259SI・245SI・235SI内SK及び炉　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-184図　259SI出土土器実測図(1/3)
〈3層(1)、2層(2)〉



第Ⅲ-185図　247SI出土土器実測図(1/3)
〈2層(1)、1層(2・3)〉

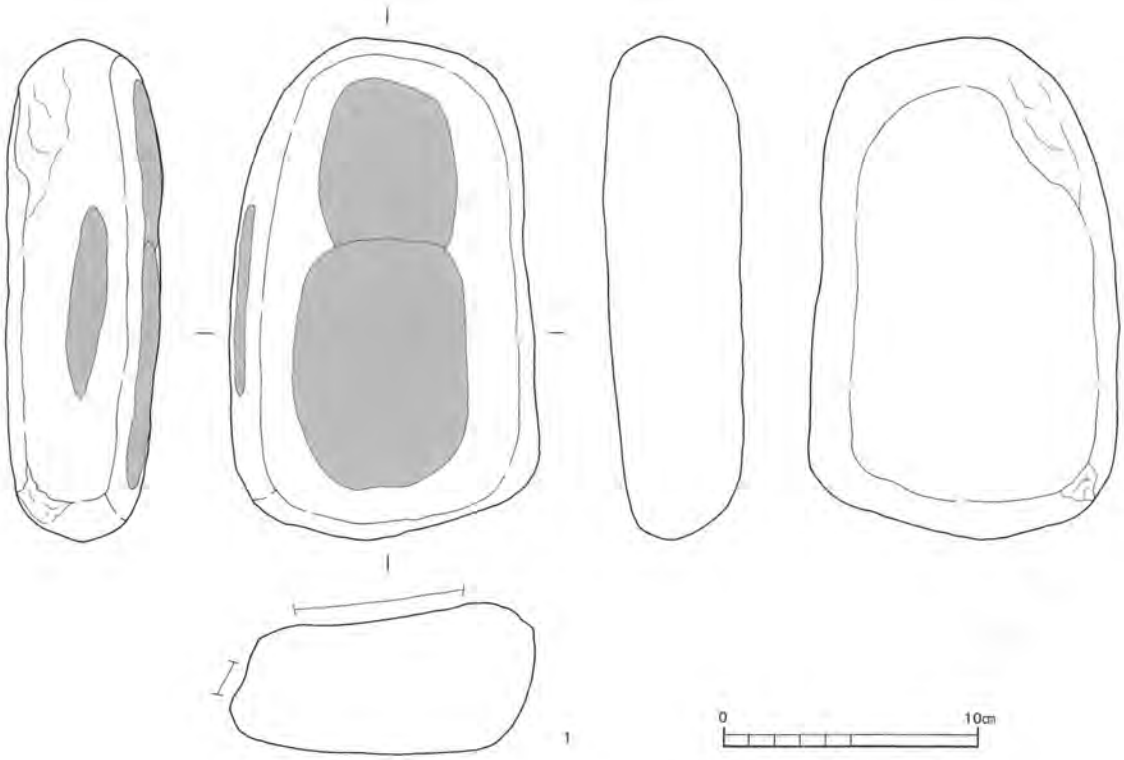
の深さは0.4 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は18～68 cmで、深さは30～66 cmである。柱痕跡の径は16～20 cmである。

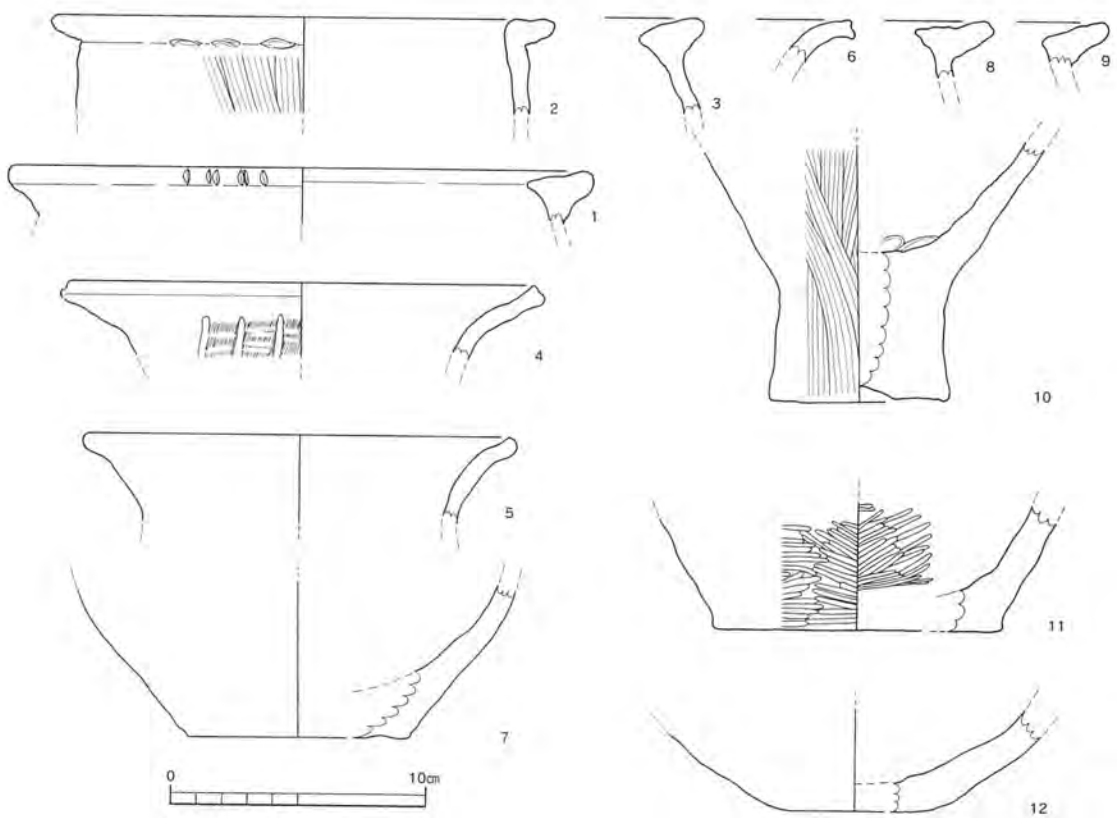
貯蔵穴　住居の中央に位置し、長軸72 cm、短軸54 cm、深さ51 cmを測る。断面はU字形を呈し、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片58・底部片13、壺口縁部片20・底部片13が出土している。流れ込みの遺物と推定される。

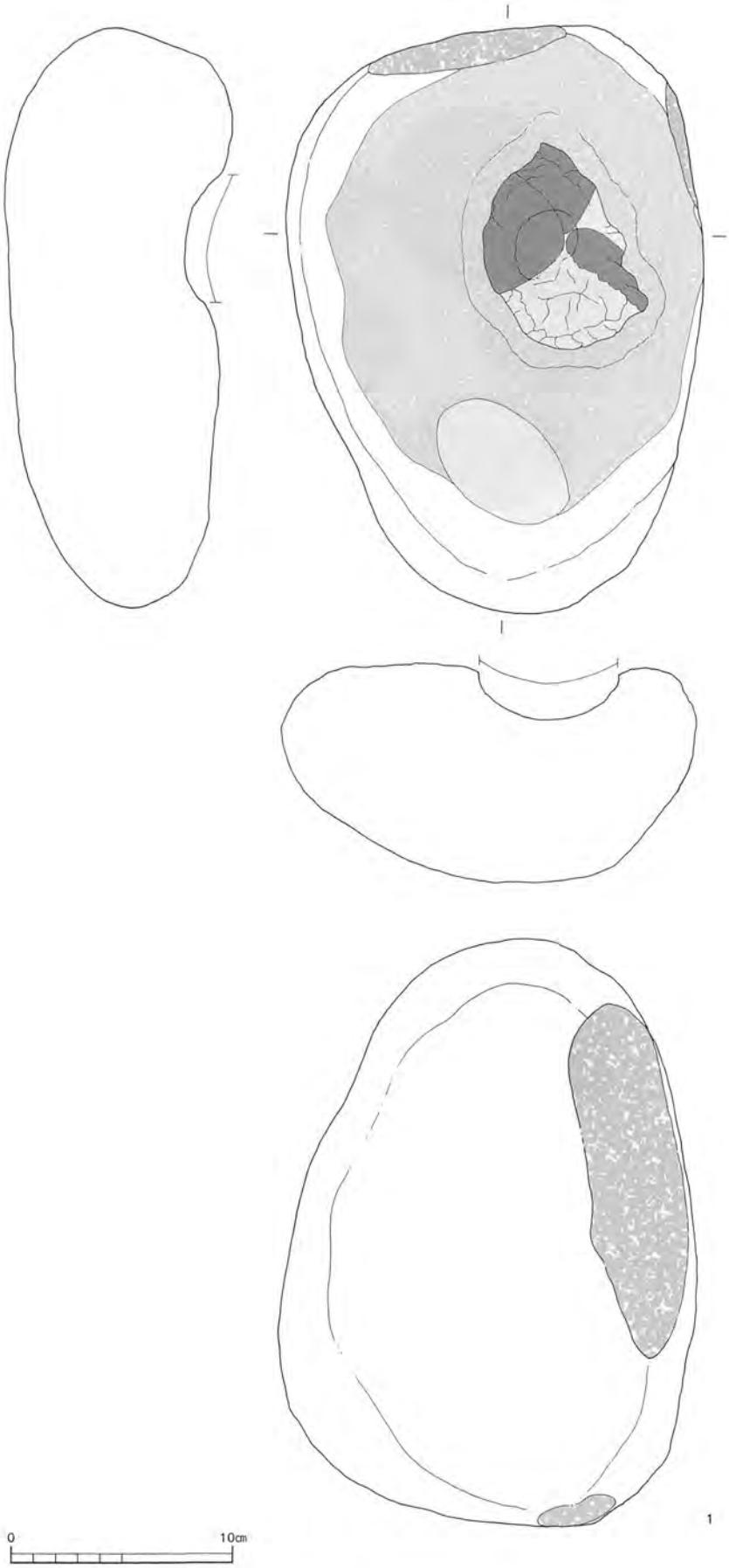
まとめ　主柱穴はP1～4で構成される4本柱構造のものと考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7期と推定できる。



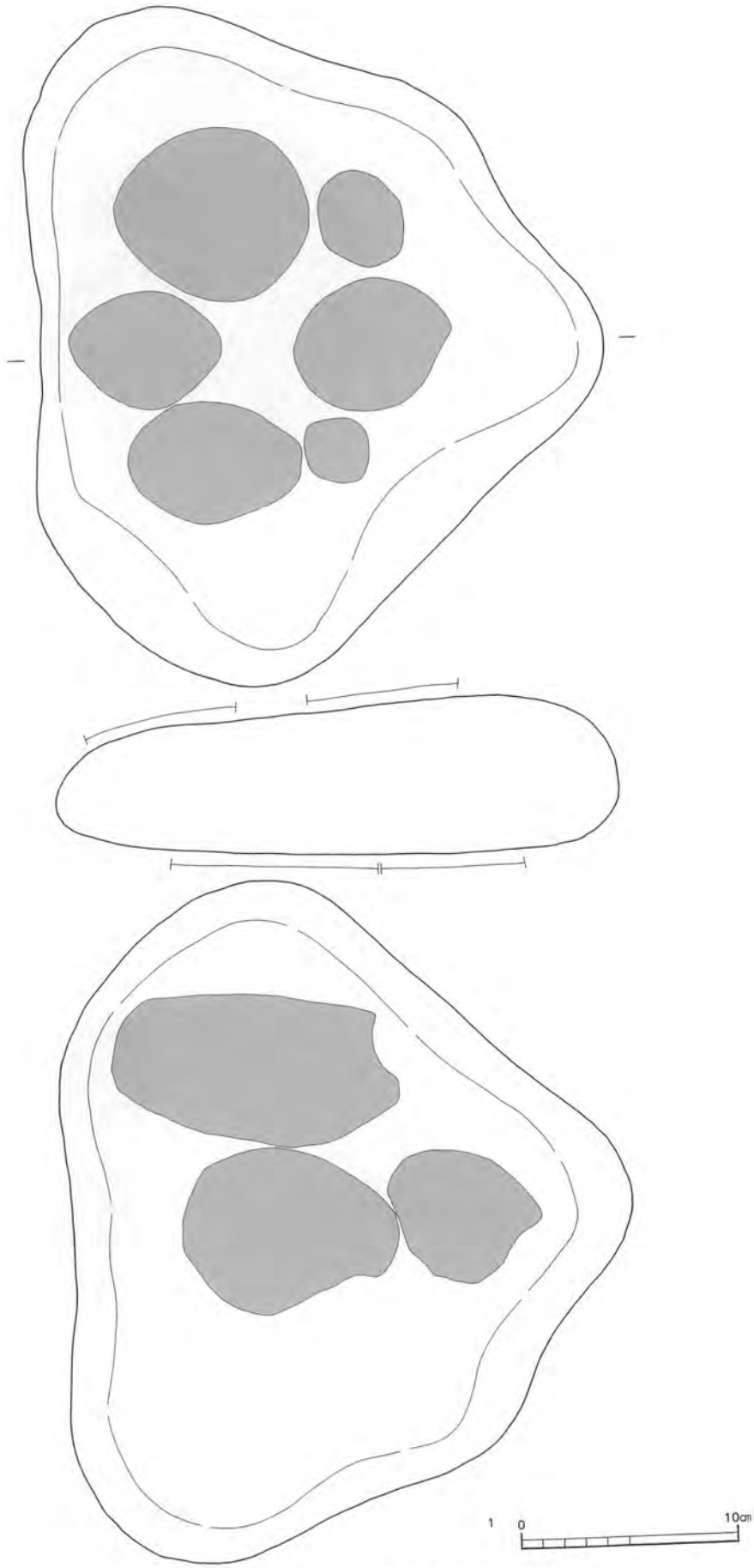
第Ⅲ-186図　247SI出土石器実測図(1/3)〈P〉



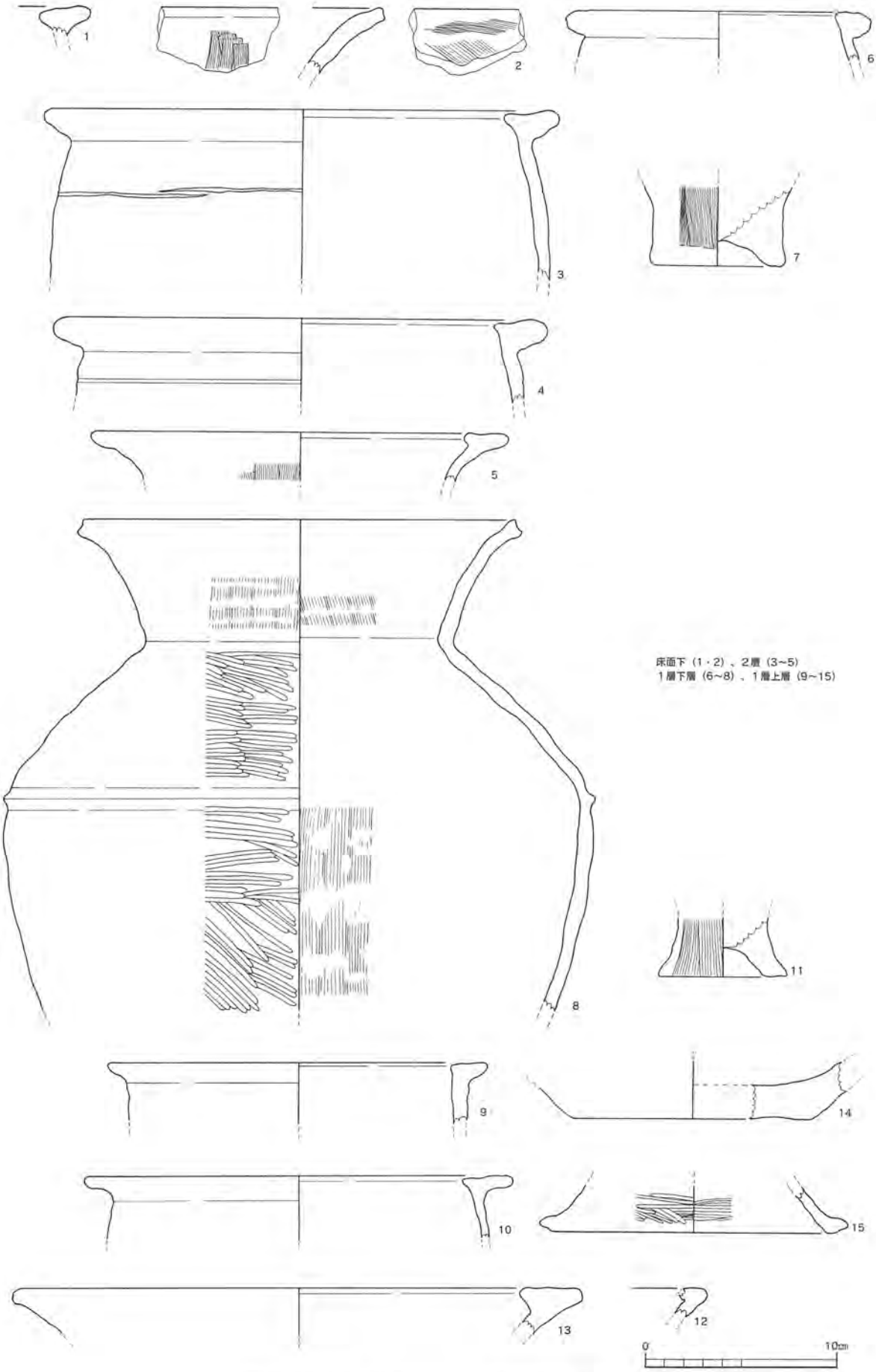
第Ⅲ-187図　245SI出土土器実測図(1/3)〈SK(1)、床面(2・3)、2層(4～7)、1層(8～12)〉



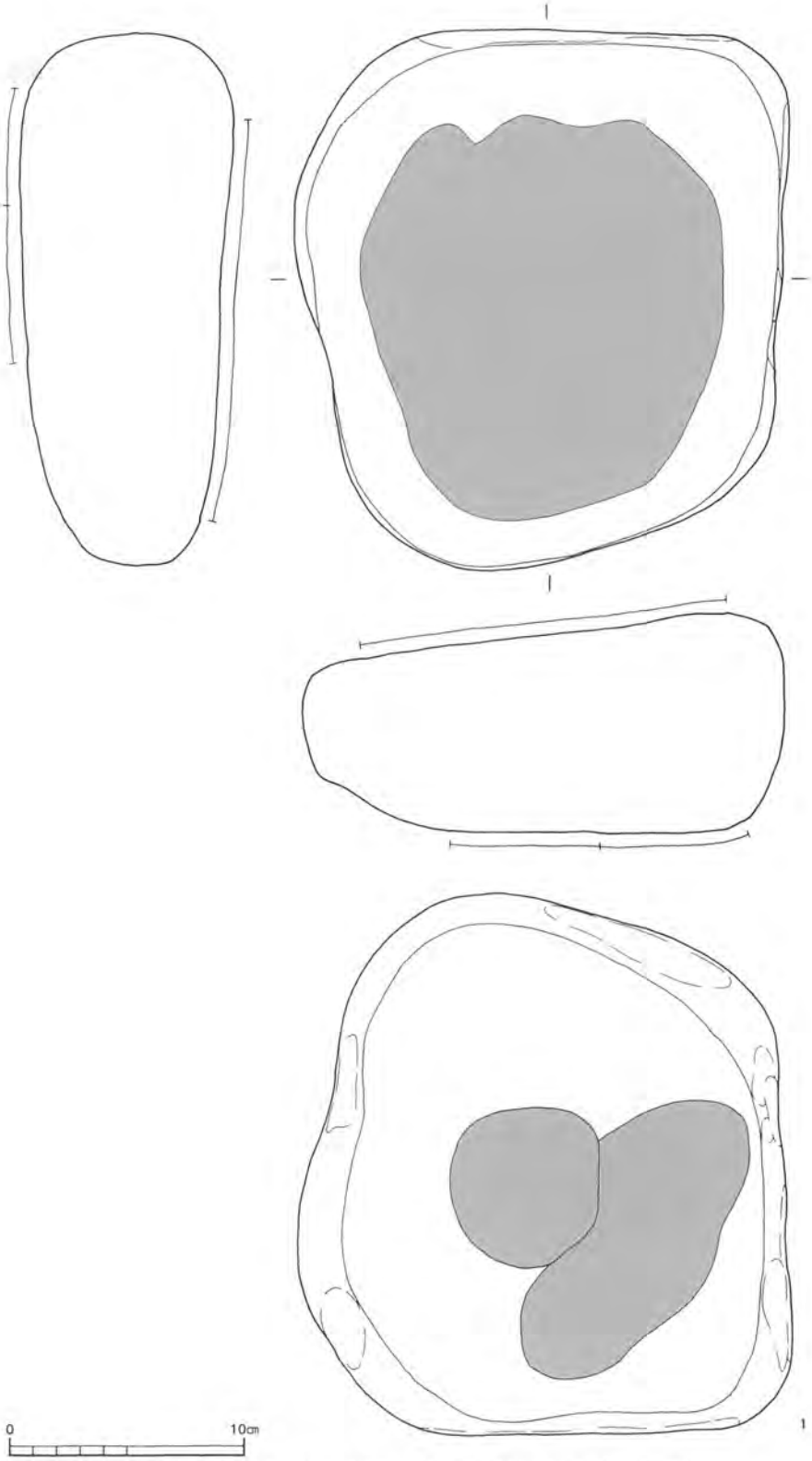
第Ⅲ-188図　245SI出土石器実測図1(1/3)〈P〉



第Ⅲ-189図　245SI出土石器実測図2(1/3)〈床面〉



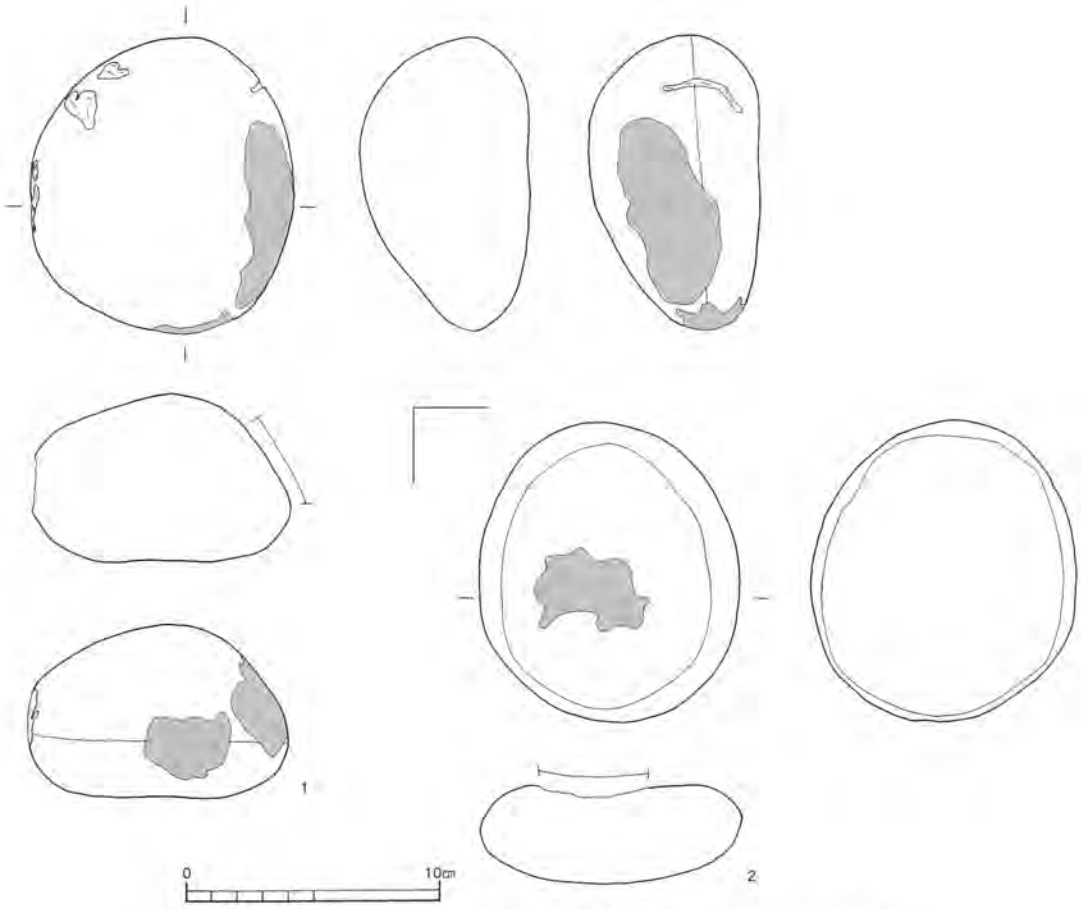
第Ⅲ-190図　235SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-191図　235SI出土石器実測図1(1/3)〈床面〉

259SI（第Ⅲ-181・182・183・184図）

位置　遺跡中央部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.0 mで、この住居埋没後、南側上層部に 232SI、南側に 235SI、北西側に 268SI が建てられている。主軸の方位はN -2 °-W である。



第Ⅲ-192図　235SI出土石器実測図2(1/3)〈床面(1)、1層(2)〉

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸5.28 m、短軸3.40 mを測る。推定床面積は14.9 ㎡で、残存床面積は10.2 ㎡検出面からの深さは30 cmである。硬化面は認められない。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は28～34 cmで、深さは21～46 cmである。柱痕跡の径は、13～30 cmである。

貯蔵穴　住居の西側に位置し、長軸61 cm、短軸51 cm、深さ47 cmを測る。断面はU字状を呈する。埋土は2層からなり、下層は黄褐色シルトのブロックを含む土である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1、壺底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴P5～8で構成される4本柱構造と考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は5期と推定できる。

247SI（第Ⅲ-181・182・185・186図）

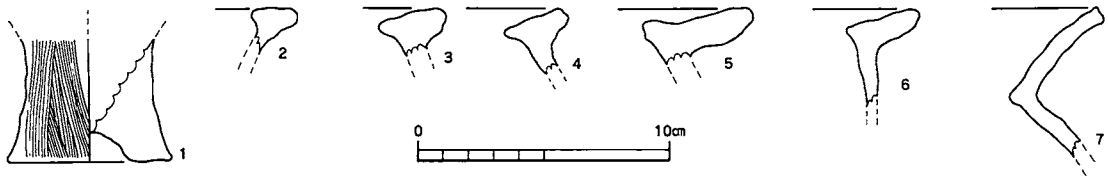
位置　遺跡中央部（2区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.2 mで、この住居埋没後、北側に235SI、西側に245SI、南側に220SIが建てられている。

住居形態　平面形態は不明で、長軸3.32 m以上、短軸1.82 m以上を測る。残存床面積は1.4 ㎡で、検出面からの深さは24 cmである。硬化面は認められない。埋土は2層からなる。

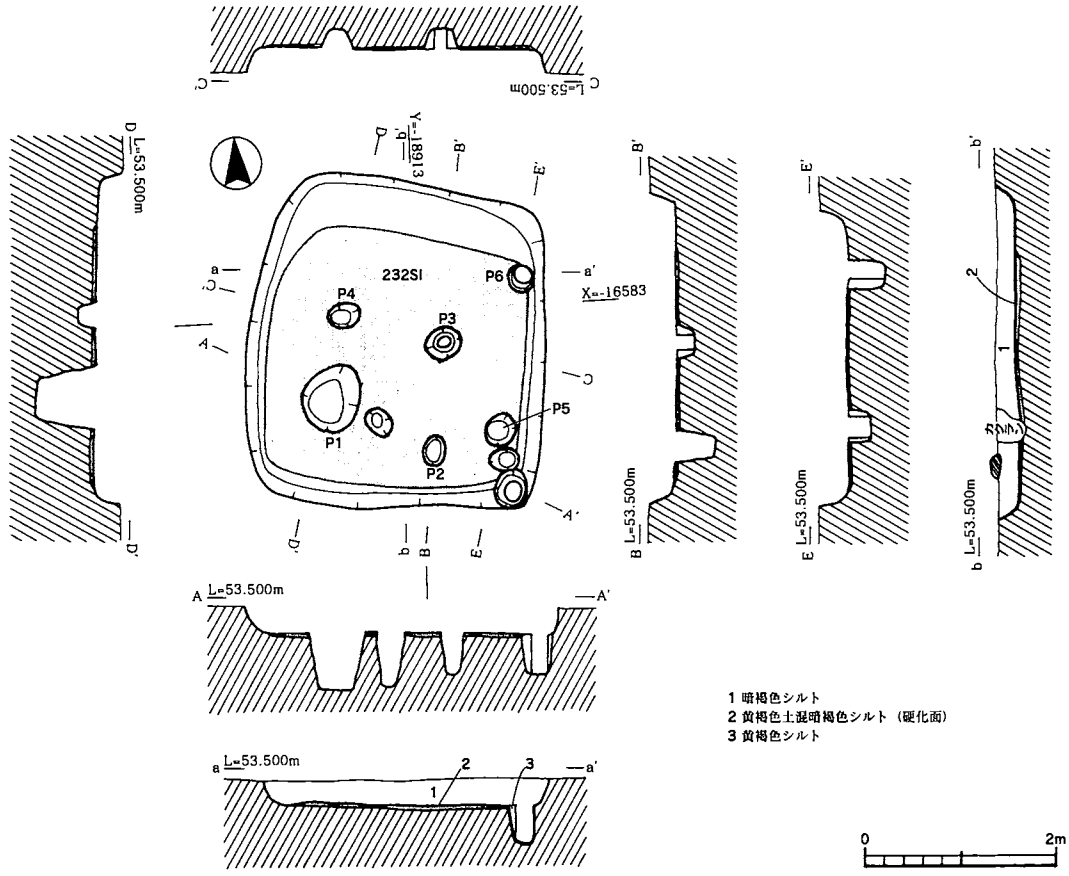
柱穴　柱穴の径は24～34 cmで、深さは41～46 cmである。柱痕跡の径は、18～24 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1・底部片1、壺底部片1が出土している。柱穴内から石皿（第Ⅲ-186図1）が出土した。これらは、流れ込み遺物である。

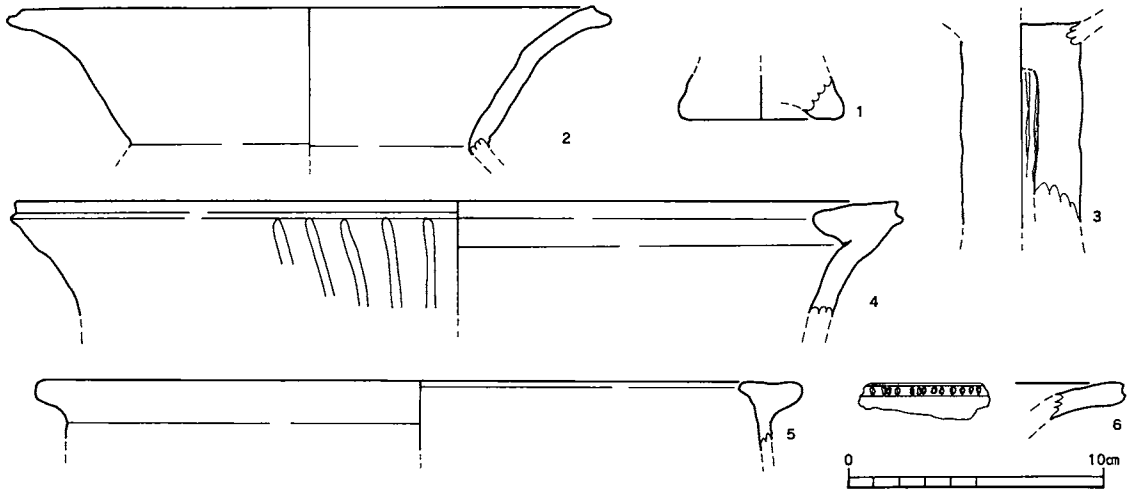
まとめ　4本柱で構成されるものと考えられる。P14～16が主柱穴の可能性がある。遺物の出土状況から住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から、住居の時期は3期以前と推定できる。



第Ⅲ-193図　220SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1・2)、2層(3～5)、1層(6・7)〉



第Ⅲ-194図　232SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-195図　232SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～3)、2層(4)、1層(5・6)〉

245SI（第Ⅲ-181・182・183・187・188・189図）

位置　遺跡中央部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約 52.9 mで、この住居埋没後、北側に 235SI が建てられている。主軸の方位はN -5°-E である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 3.89 m、短軸 3.42 mを測る。推定床面積は 11.52 ㎡で、残存床面積は 10.61 ㎡検出面からの深さは 42 ㎝である。硬化面は床中央部 2/3 に認められる。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は 24 ～ 38 ㎝で、深さは 32 ～ 52 ㎝である。柱痕跡の径は、16 ～ 22 ㎝である。

貯蔵穴　住居内に２基検出し、SK01 は住居の中央部に位置し、長軸 58 ㎝、短軸 41 ㎝、深さ 31 ㎝を測る。SK02 は住居の南東部に位置し、長軸 76 ㎝、短軸 55 ㎝、深さ 20 ㎝を測る。断面はU字形を呈し、埋土は２層からなる暗褐色シルト系である。

遺物出土状況　住居中央やや南側に南方向から投げ込まれた状態で 10 ～ 30cm の河原石を検出した。そのうちいくつかは石皿、敲石や磨石に使用されたものも存在した。住居の埋土からは、甕口縁部片４、壺底部片１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　４本の主柱と２本の支柱で構成されるものと考えられるが、Ｐ９～ 11 の主柱穴と、Ｐ 12・13 の支柱穴が検出されている。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は３期と推定できる。

235SI（第Ⅲ-181・182・183・190・191・192図）

位置　遺跡中央部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.0 mで、この住居埋没後、北側に 232SI が建てられている。主軸の方位はN -16°-E である。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸 4.38 m、短軸 4.22 mを測る。床面積は 16 ㎡で、検出面からの深さは 34 ㎝である。硬化面は床全面に認められる。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は 22 ～ 56 ㎝で、深さは 37 ～ 62 ㎝である。柱痕跡の径は、16 ～ 29 ㎝である。

炉　住居の中央付近に位置し、長軸 40 ㎝、短軸 32 ㎝、深さ 18 ㎝を測る。断面はすり鉢状を呈し、埋土は２層で上層に焼土を多く含む。

貯蔵穴　住居の南東部に位置し、長軸 130 ㎝、短軸 102 ㎝、深さ 34 ㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は２層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片５・底部片３、壺口縁部片５・底部片１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。床面の落ち込みから敲石１、埋土上層から磨石、石皿が出土している。

まとめ　Ｐ１～４の４本柱で構成されるものと考えられる。221SI との新旧関係が明確でないが、出土土器や住居の他の住居との新旧関係から考えて、住居の時期は 4A 期に位置づけられると推定できる。

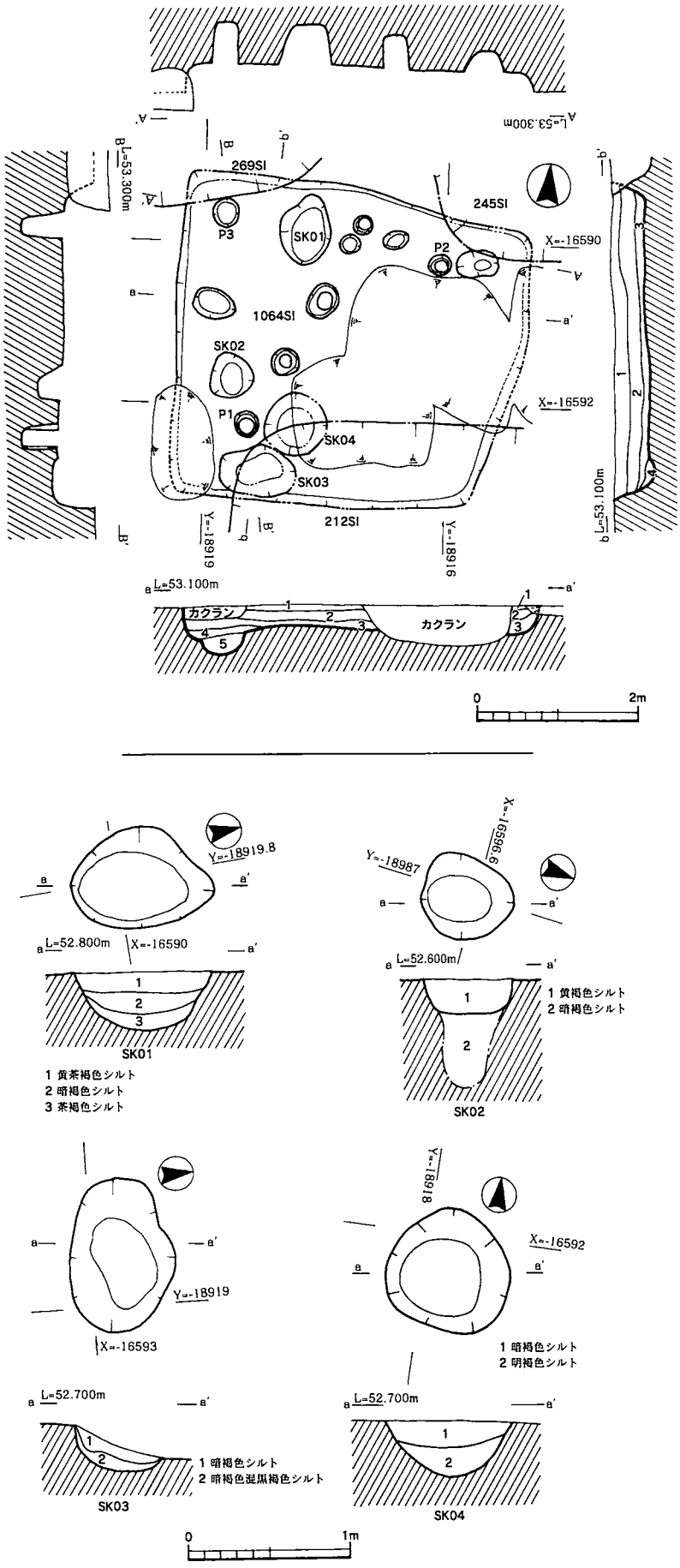
220SI（第Ⅲ-181・182・193図）

位置　遺跡中央部（２区中央部）自然堤防上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.1 mで、南側は試掘トレンチにより削平されている。主軸の方位は不明である。

住居形態　平面形態は不明で、長軸 2.46 m以上、短軸 2.44 m以上を測る。残存床面積は 2.38 ㎡で、検出面からの深さは 0.6 ㎝である。硬化面は認められない。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は 25 ～ 42 ㎝で、深さは 33 ～ 42 ㎝である。柱痕跡の径は、12 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片７・底部片２、壺口縁部片１が出土している。流れ込みの遺物である。



第Ⅲ-196図　1064SI・SK01～04　平面・断面図(1/80)(1/40)

まとめ　南側が試掘トレンチで分断されているため詳細は不明であるが方形の住居と考えられる。柱穴が隅に検出されているため、4本柱構造の住居と推定される。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4B期に位置づけられると推定できる。

232SI（第Ⅲ-194・195図）

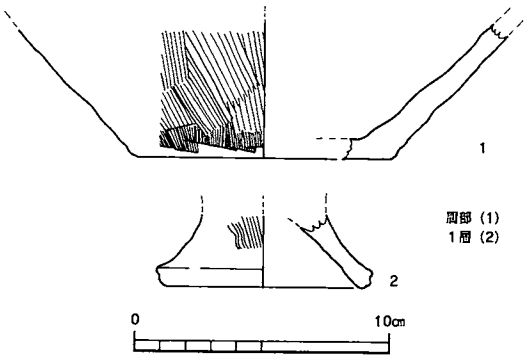
位置　遺跡中央部（2区中央部）の自然堤防上に位置し、旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、東側に221SIが建てられている。主軸の方位はN-10°-Eである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸3.43 m、短軸3.14 mを測る。床面積は8.96 ㎡で、検出面からの深さは0.22 mである。硬化面は床全面に認められる。埋土は1層からなる。

柱穴　柱穴の径は0.28～0.47 mで、深さは0.24～0.28 mである。柱痕跡の径は、19～22 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1・底部片1、壺口縁部片3・底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

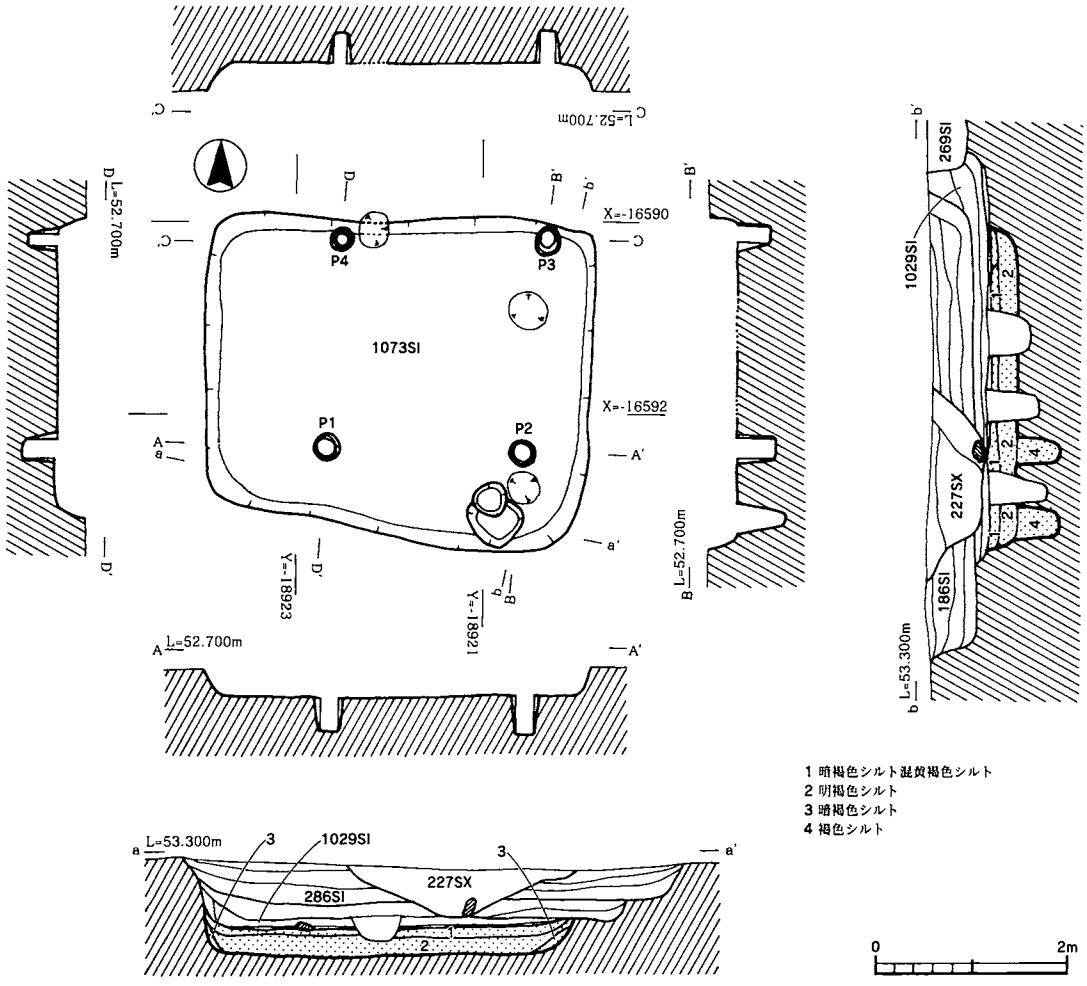
まとめ　P1は長径0.7 cm、短径0.55 cm、深さ0.33 cmである。形態・法量から見て貯蔵穴



第Ⅲ-197図　1064SI出土土器実測図(1/3)

とも考えられたが、配置から見ると柱の抜き取り穴と推定される。配置からみてＰ１～４の４本柱構造のものからＰ１・４・５・６の４本柱構造のものに変遷すると推定される。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は５～７期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-198図　1073SI　平面･断面図(1/80)

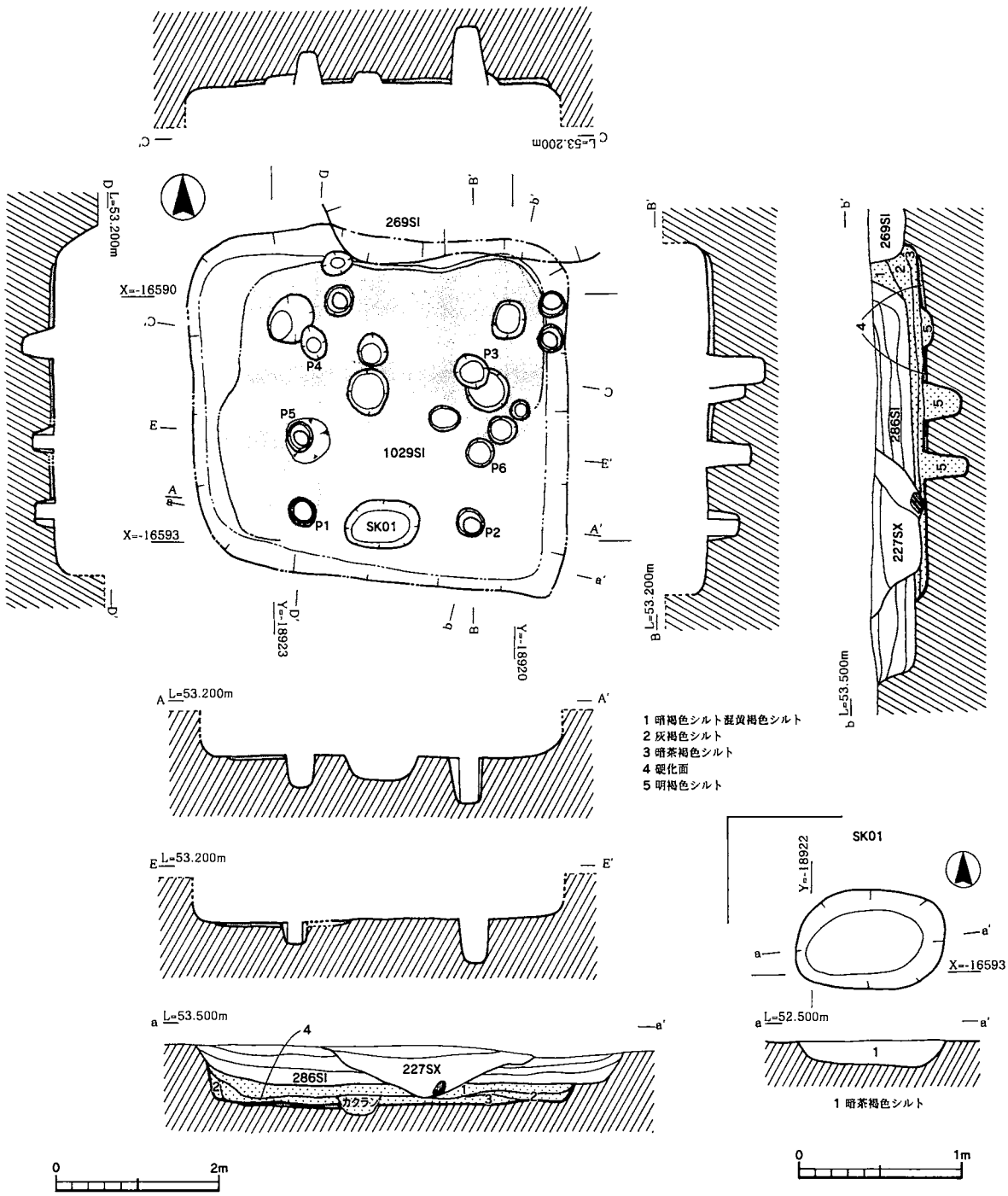
1064SI（第Ⅲ-196・197図）

位置　遺跡南西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6ｍで、この住居埋没後、北西側に269SI、西側に286SI・1029SI、南側に212SI、南東側に228SX・1021SK・1026SKが掘削されている。主軸の方位は、Ｎ-8°-Ｅである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.32ｍ、短軸3.96ｍを測る。推定床面積は15.5㎡、残存床面積は7.7㎡である。検出面からの深さは0.45ｍである。硬化面は認められない。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は25～45㎝で、深さは14～51㎝である。柱痕跡の径は14～20㎝である。

貯蔵穴　住居の西側半分に４基検出し、SK01は、長軸86㎝、短軸60㎝、深さ40㎝を測り、埋土は３層



第Ⅲ-199図　1029SI・SK01　平面・断面図(1/80)(1/40)

からなる。SK02は長軸58㎝、短軸38㎝、20㎝を測り、埋土は1層からなる。SK03は長軸60㎝、短軸54㎝、深さ30㎝を測り、SK04は長軸80㎝、短軸38㎝、深さ30㎝を測り、埋土は2層からなる。断面はいずれもU字状を呈する。

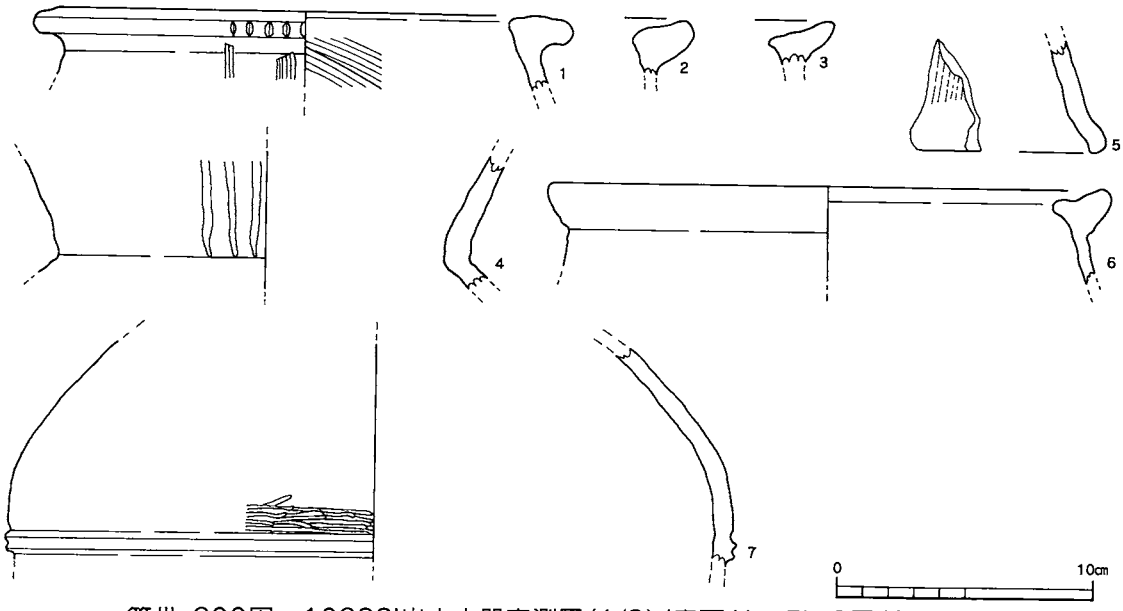
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕底部片1、壺底部片1が出土している。流れ込みの遺物と考えられる。

まとめ　住居南西部に住居廃絶後1026SKが掘削されており、詳細は不明であるがP1～3を主柱穴とする4本柱構造と推定される。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期以前の可能性が高い。

1073SI（第Ⅲ-198図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は



第Ⅲ-200図　1029SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～5)、2層(6・7)〉

約52.2 mで、この住居埋没後、上層部全面に1029SIが建てられている。主軸の方位は、N -1 °-Eである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.16 m、短軸3.28 mを測る。床面積は11.64 ㎡で、検出面からの深さは28 ㎝である。硬化面は認められない。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は22 ～ 28 ㎝で、深さは32 ～ 40 ㎝である。柱痕跡の径は、13 ～ 21 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、時期の確定する遺物は出土していない。

まとめ　上層が286SI、1029SI等により削平されているため詳細は不明であるが竪穴部の深さは1 m以上と推定される。主柱穴はＰ１～４で構成される４本柱構造のものと考えられる。

住居の新旧関係や286SI出土遺物等から考えて、住居の時期は3期に位置づけられると推定できる。

1029SI（第Ⅲ-199・200・201図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.5 mで、この住居埋没後、北側に269SI、上層部ほぼ全面に286SIが建てられている。主軸の方位は、N -1 °-Wである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.88 m、短軸4.38 mを測る。床面積は15.96 ㎡で、検出面からの深さは52 ㎝である。硬化面は床中央部2/3の範囲に認められる。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は32 ～ 40 ㎝で、深さは24 ～ 55 ㎝である。柱痕跡の径は、18 ～ 24 ㎝である。

貯蔵穴　住居の南側に位置し、長軸92 ㎝、短軸60 ㎝、深さ16 ㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は暗褐色シルトで、カーボンチップを含む。

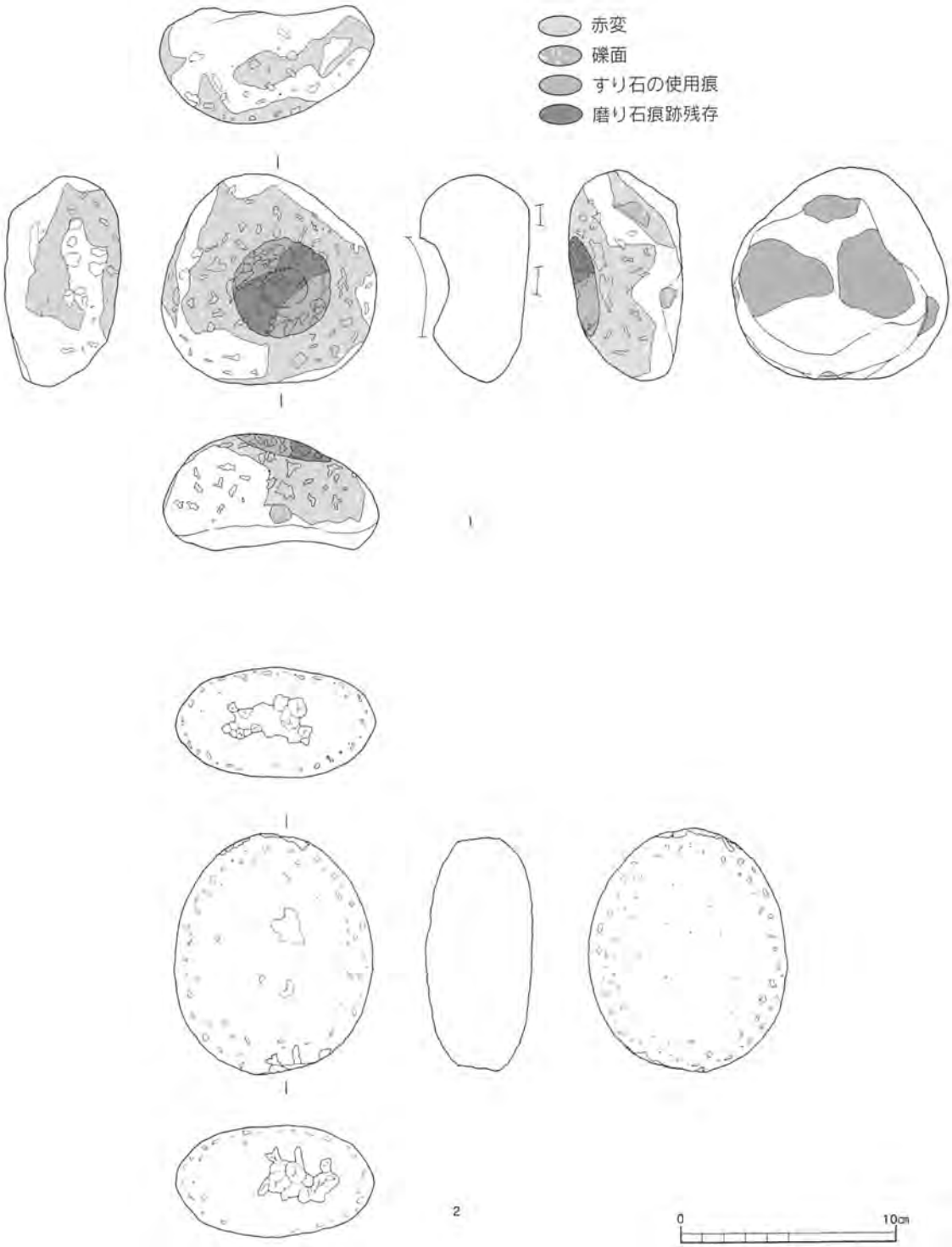
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片4・底部片1、壺口縁部片1が出土している。最下層から凹石及び敲石が出土している。これらは、流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴がＰ１～４、支柱穴がＰ５・６で構成される構造と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は3期に位置づけられると推定できる。

286SI（第Ⅲ-202・203・204・205図、PL.27・40）

位置　遺跡南西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、この住居埋没後、中央部分には227SXが、西側には1001SKは掘削されている。主軸の方位は、N -3 °-Eである。



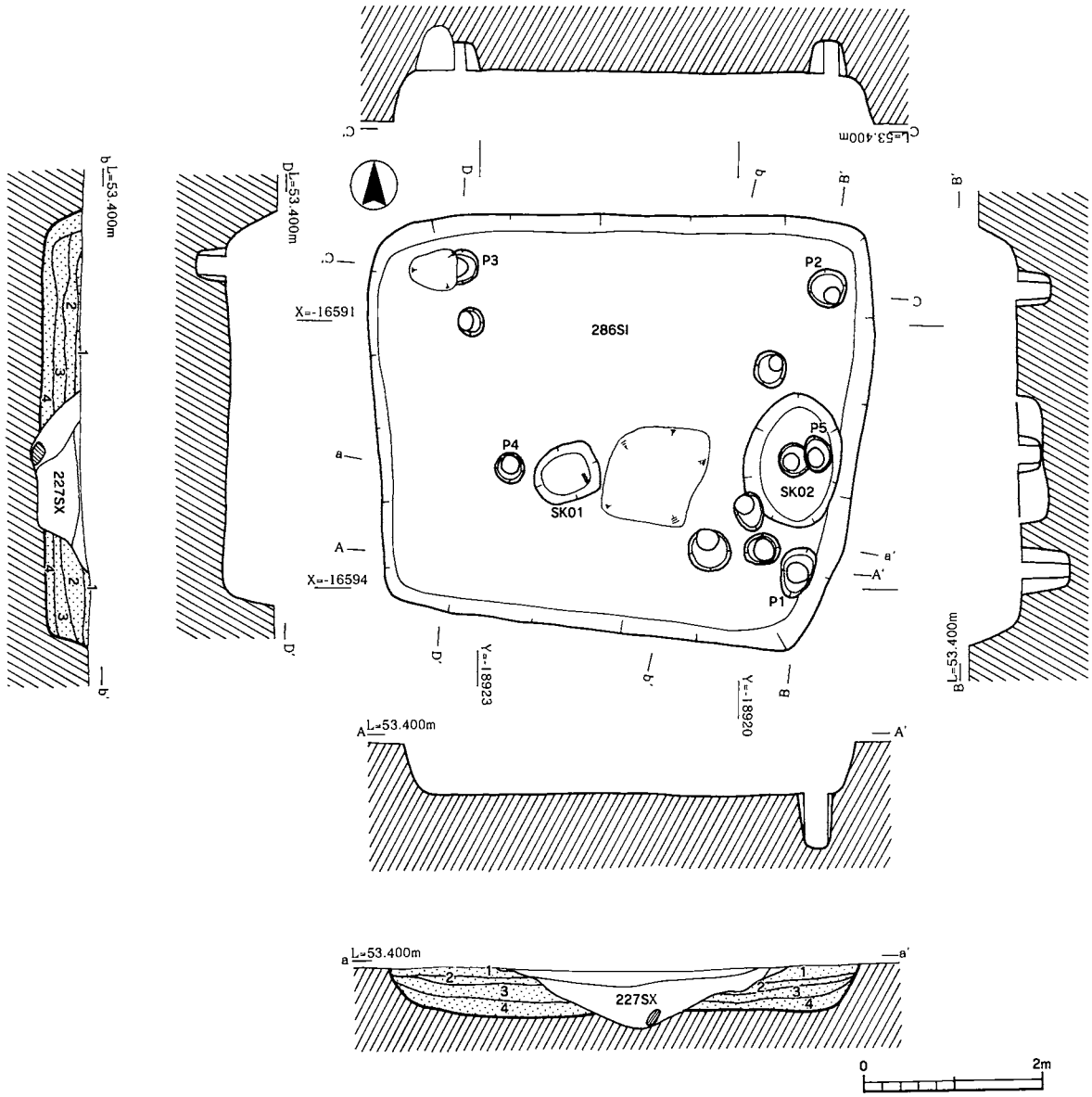
第Ⅲ-201図　1029SI出土石器実測図(1/3)〈床面(1)、3層(2)〉

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 5.56 m、短軸 4.66 mを測る。推定床面積は 23.22 ㎡で、残存床面積は 20.08 ㎡である。検出面からの深さは 0.44 mである。硬化面は認められず、埋土は 4 層からなる。

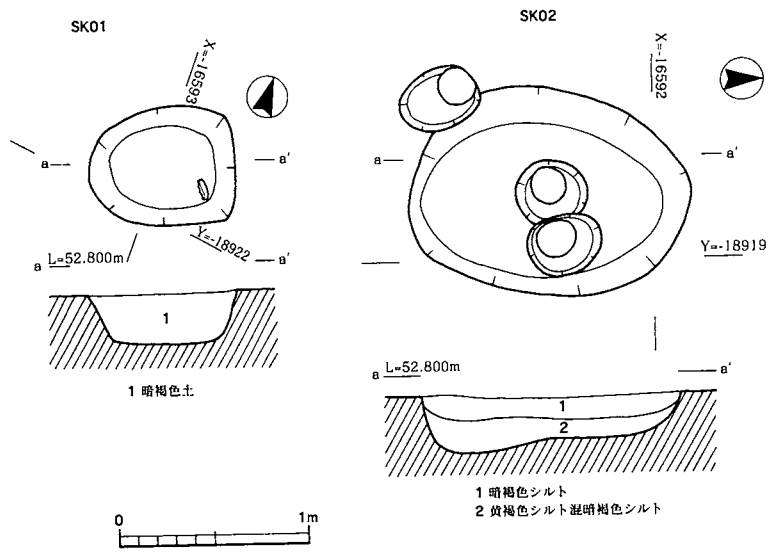
柱穴　柱穴の径は 28 ～ 58 ㎝で、深さは 14 ～ 60 ㎝である。柱痕跡の径は、20 ～ 24 ㎝である。

貯蔵穴　住居内に 2 基検出され、SK01 は住居の中央に位置し、長軸 79 ㎝、短軸 75 ㎝、深さ 26 ㎝を測る。SK02 は住居の東側に位置し、長軸 150 ㎝、短軸 108 ㎝、深さ 30 ㎝を測る。227 ＳＸに上面全体を削平されている。

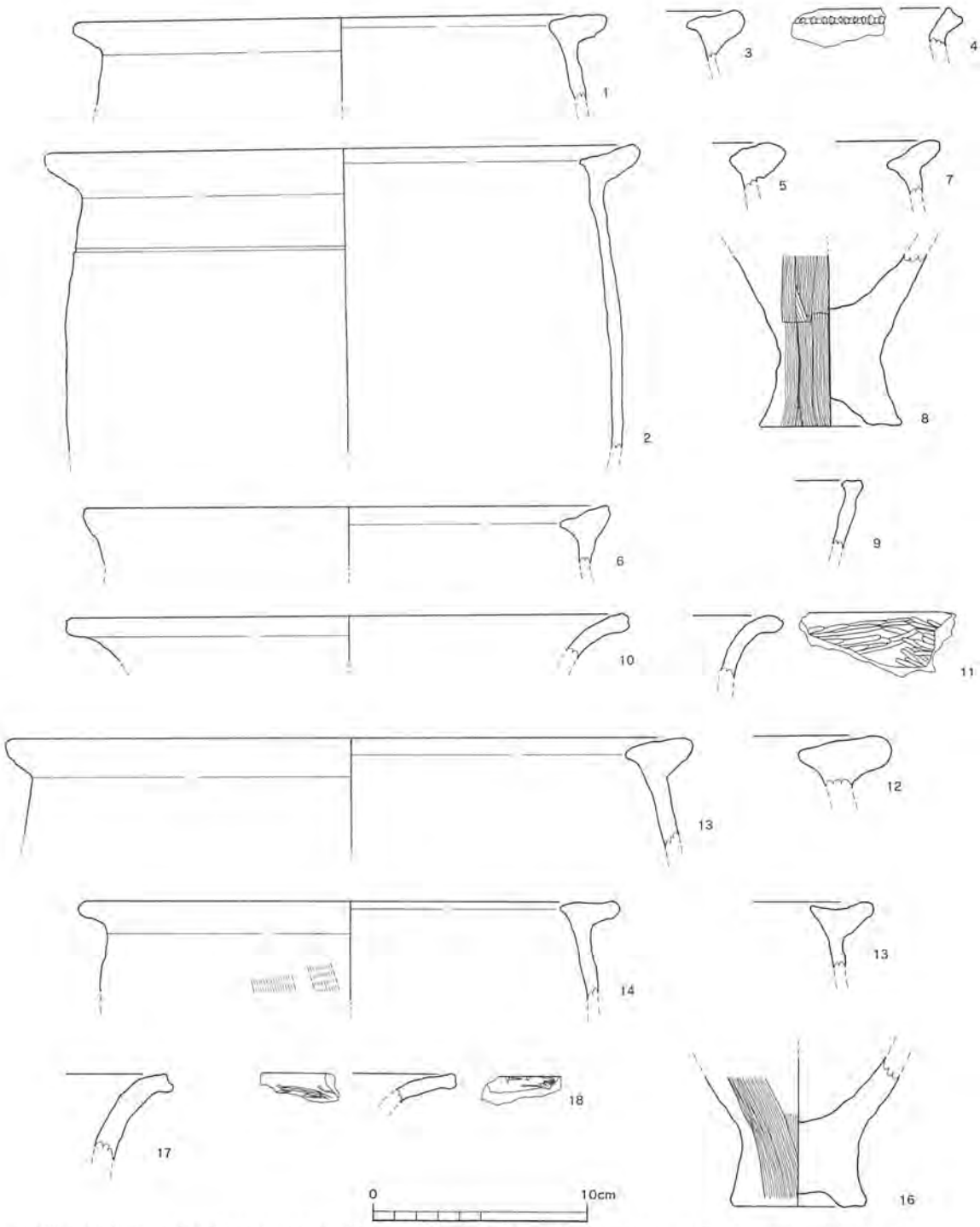
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 28・底部片 4、壺口縁部片 7、鉢片 2 が出土しており、2 層から砥石が出土している。これらは、流れ込みの遺物と推定できる。



第Ⅲ-202図　286SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-203図　286SI内SK01、SK02　平面・断面図(1/40)



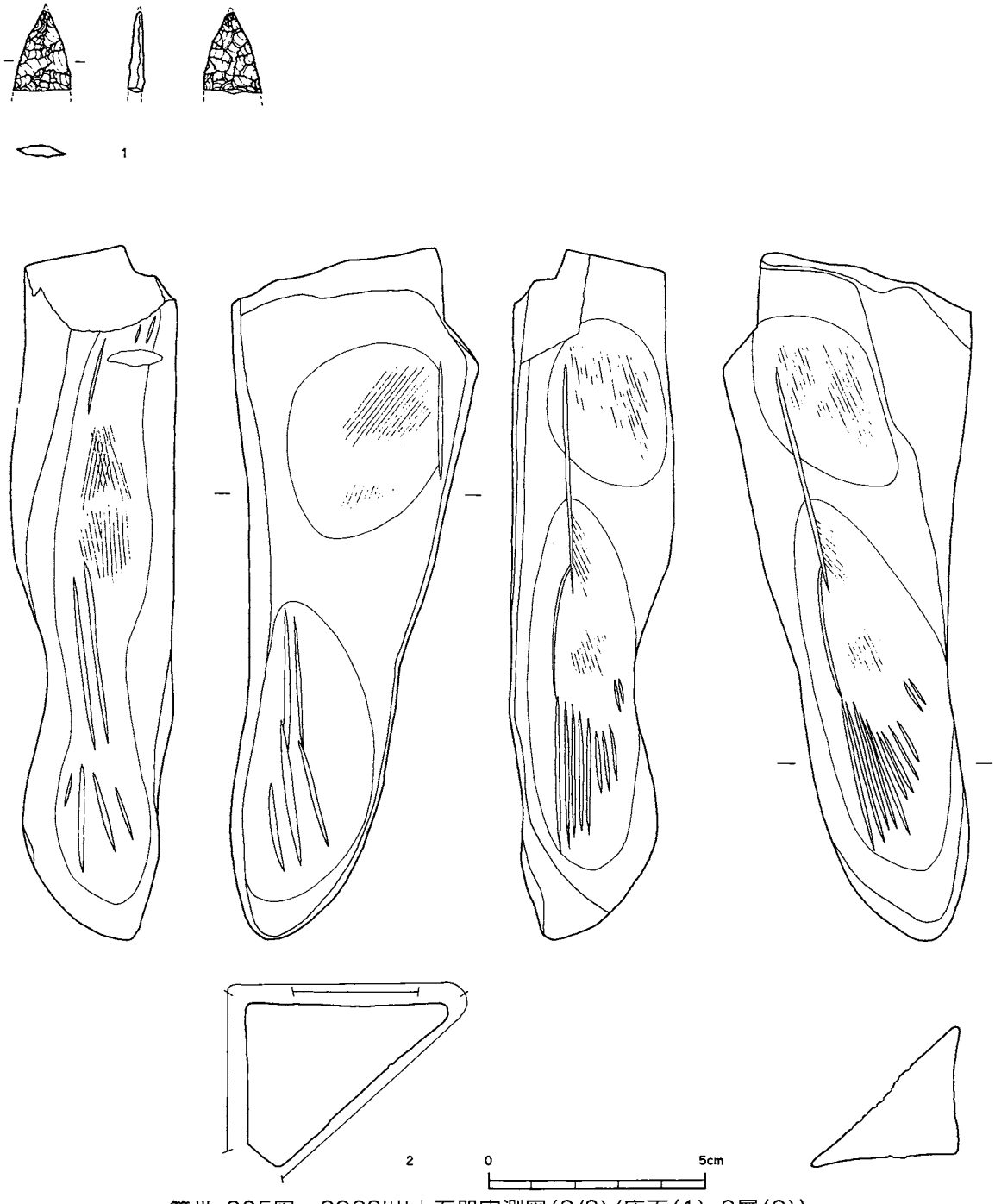
第Ⅲ-204図　286SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1・2)、3層(3)、2層(4～11)、1層(12～18)〉

まとめ　主柱穴はＰ１～３と、もう一本住居の南西隅にあったと考えられ、４本柱の構造と推定される。SK02が埋没した後、P4・5を主柱穴とする２本柱ないし、６本柱構造の住居に補修ないしは屋根の吹き替えが行われたと考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期に位置づけられると推定できる。

269SI（第Ⅲ-206・207・208・209・210・211図、PL.27・50）

位置　遺跡南西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7ｍで、北東側は231SXにより掘削されている。主軸の方位は、N -2°-Wである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸5.12ｍ、短軸4.62ｍを測る。推定床面積は19.81㎡で、検出からの深さは0.44ｍである。硬化面は床面中央部2/3に認められる。埋土は３層からなる。



第Ⅲ-205図　286SI出土石器実測図(2/3)〈床面(1)、2層(2)〉

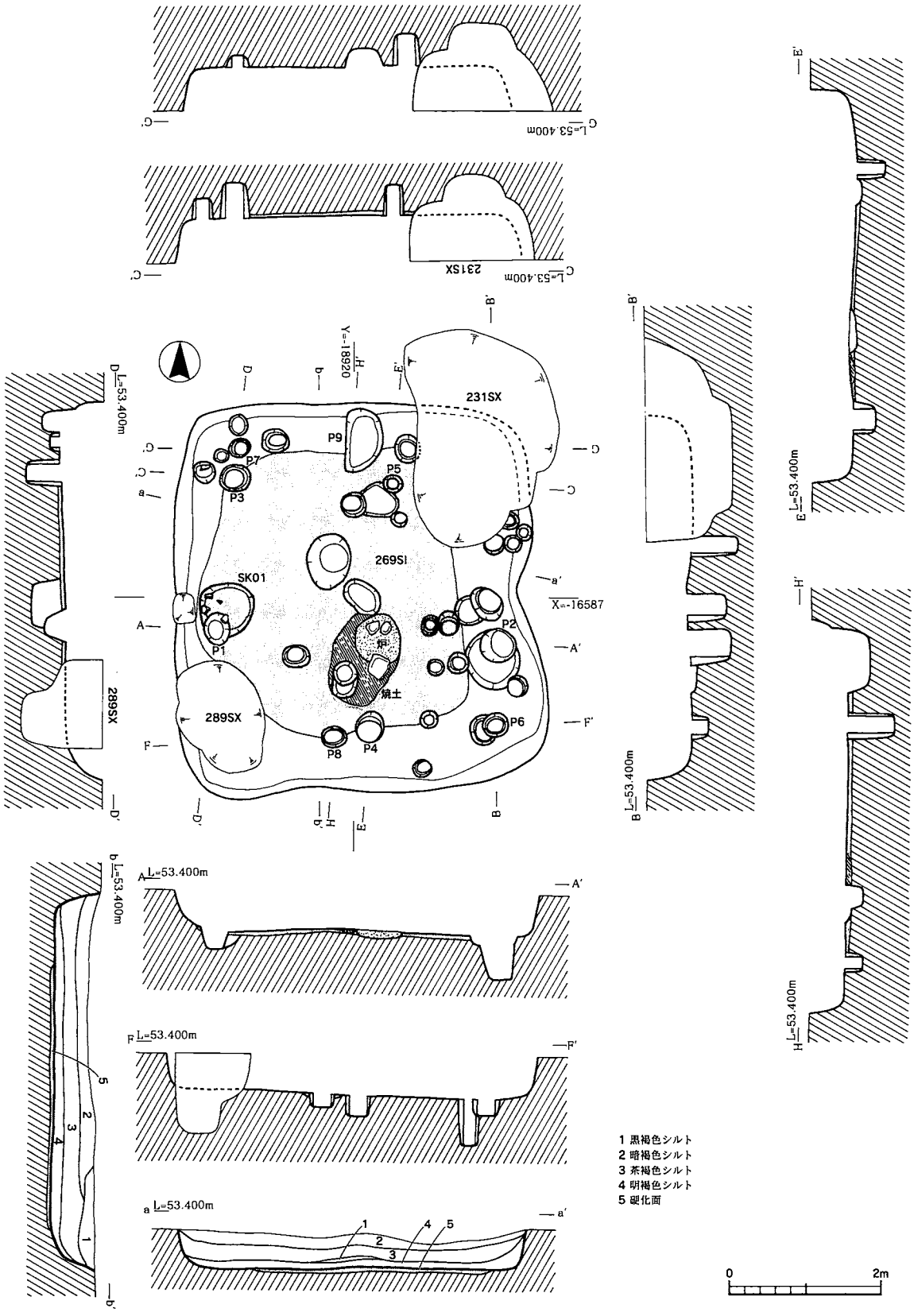
柱穴　柱穴の径は20㎝～42㎝で、深さは7～62㎝である。柱痕跡の径は、12～35㎝である。

炉　住居の中央部に位置し、炉本体は長軸68㎝、短軸60㎝、深さ10㎝を測る。周辺の黒く焼けた部分の長軸は124㎝、短軸92㎝、深さ3㎝を測る。断面は皿状を呈する。埋土は1層からなり、黒灰褐色シルトに炭や焼土を含む。

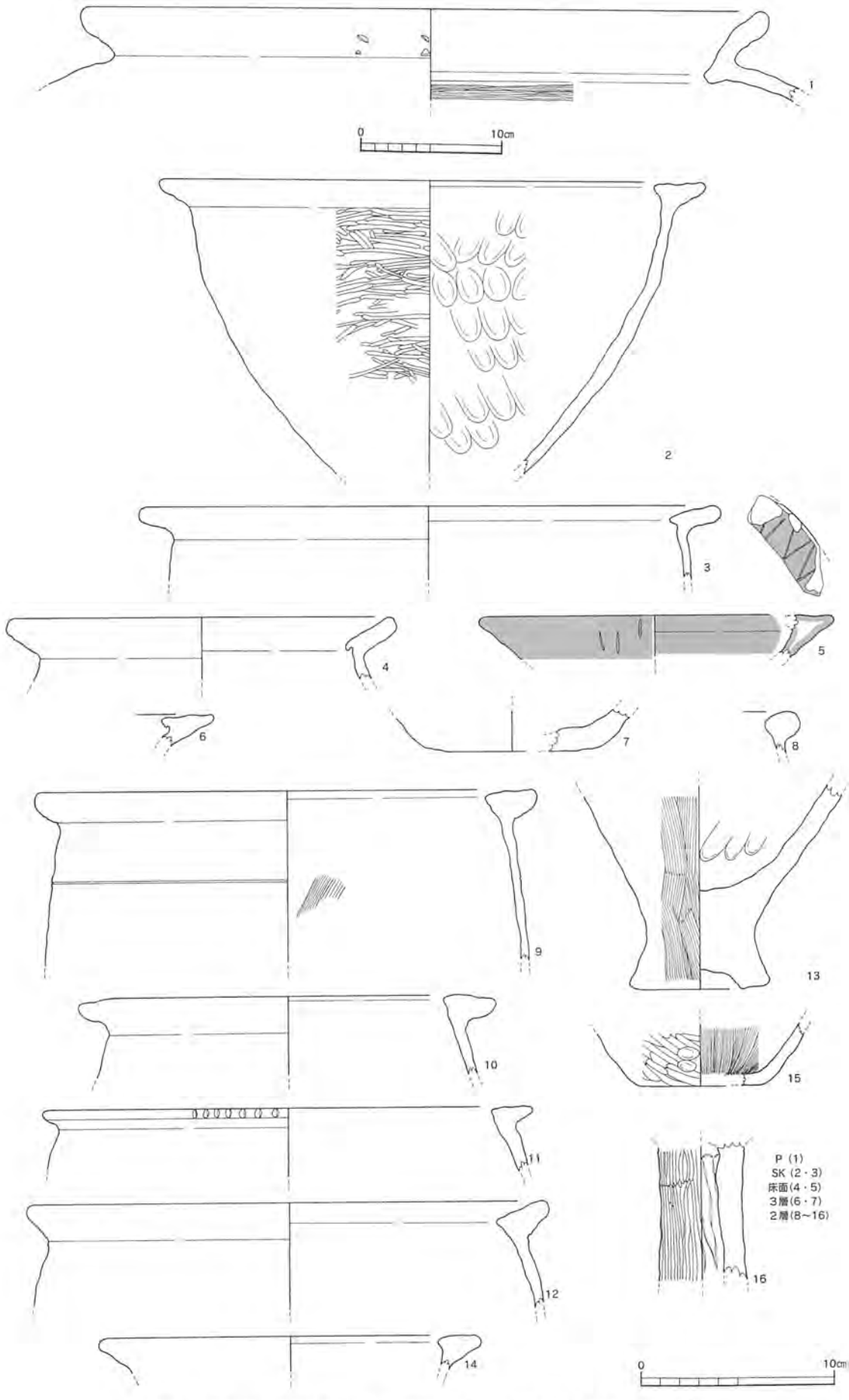
貯蔵穴　住居の西側に硬化面の下から検出している。長軸77㎝、短軸73㎝、深さ45㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は2層からなる。

遺物出土状況　第Ⅲ-207図1は、柱穴内から出土している。住居の埋土からは、甕口縁部片15・底部片1、壺口縁部片5・底部片2、高坏片1が出土している。上層に2条突帯の鋳造鉄斧の再利用素材鉄片（第Ⅲ-210図1)、敲石、床面に石皿が出土している。ほとんど流れ込みの遺物と推定できる。

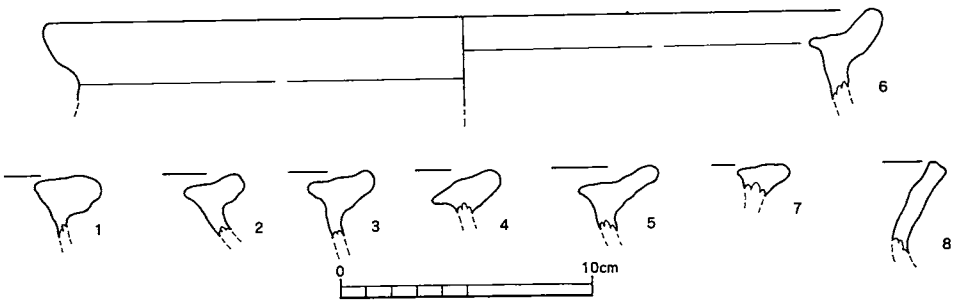
まとめ　289SX及び231SX（撹乱）に切られていて詳細は不明であるが、柱穴はＰ1～5で構成されるもの



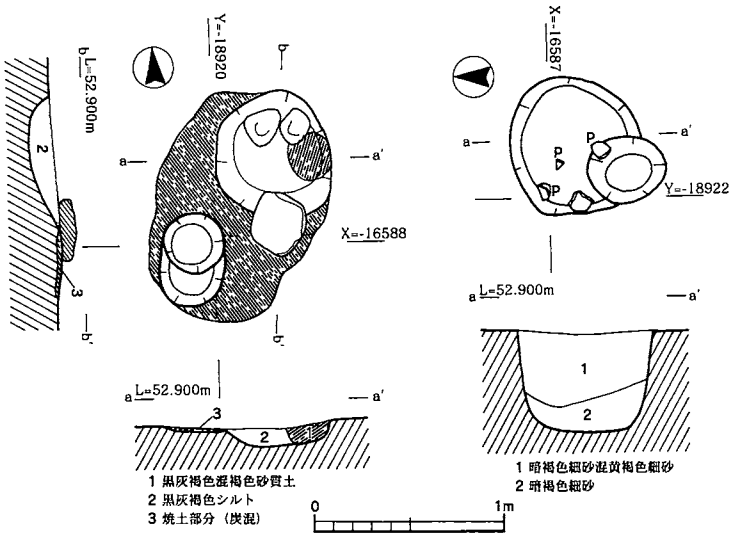
第Ⅲ-206図　269SI　平面・断面図(1/80)



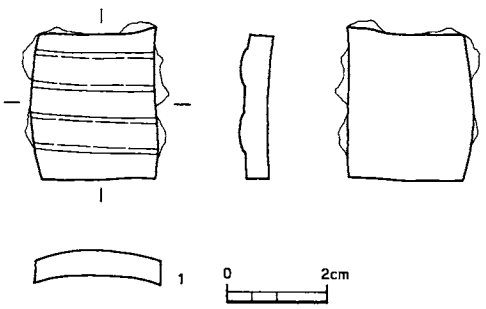
第Ⅲ-207図　269SI出土土器実測図1（1は1/4、その他は1/3）



第Ⅲ-208図　269SI出土土器実測図2(1/3)〈1層(1～8)〉



第Ⅲ-209図　269SI内炉・SK01　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-210図　269SI出土鉄器実測図(2/3)〈2層〉

と、Ｐ６～９で構成される４+2本柱構造のものとが考えられる。主柱穴はＰ１～５で構成されるものとＰ６～９で構成されるものとが考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器（第Ⅲ-207図1）や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期に位置づけられると推定できる。

1065SI（第Ⅲ-212・213図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.1ｍで、この住居埋没後、南部には231SX（撹乱）が掘削されている。主軸の方位はN-23°-Eである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸3.00ｍ、短軸2.60ｍを測る。床面積は5.76㎡（推定）で、検出面からの深さは0.3ｍである。硬化面は認められない。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～36㎝で、深さは44～53㎝である。柱痕跡の径は16～18㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片17・底部片3、壺口縁部片14・底部片1、無頸壺片1、鉢片1、高坏片2が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

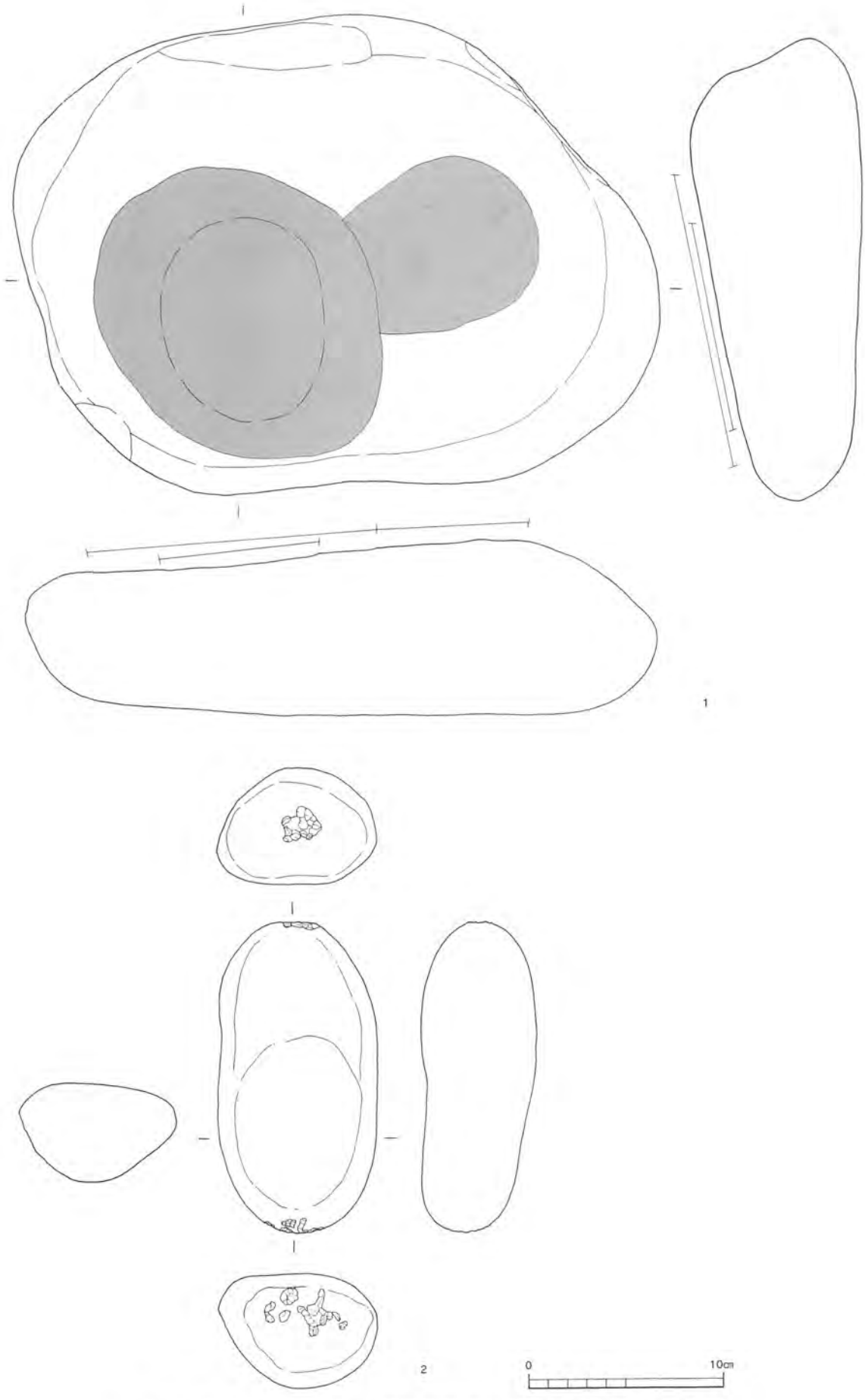
まとめ　主柱穴はＰ１～４で構成されるものと考えられる。南側が231SXにより壊されており、柱穴の配置は不明であるが、壁際を６本柱がめぐる構造の可能性もある。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期に位置づけられると推定できる。

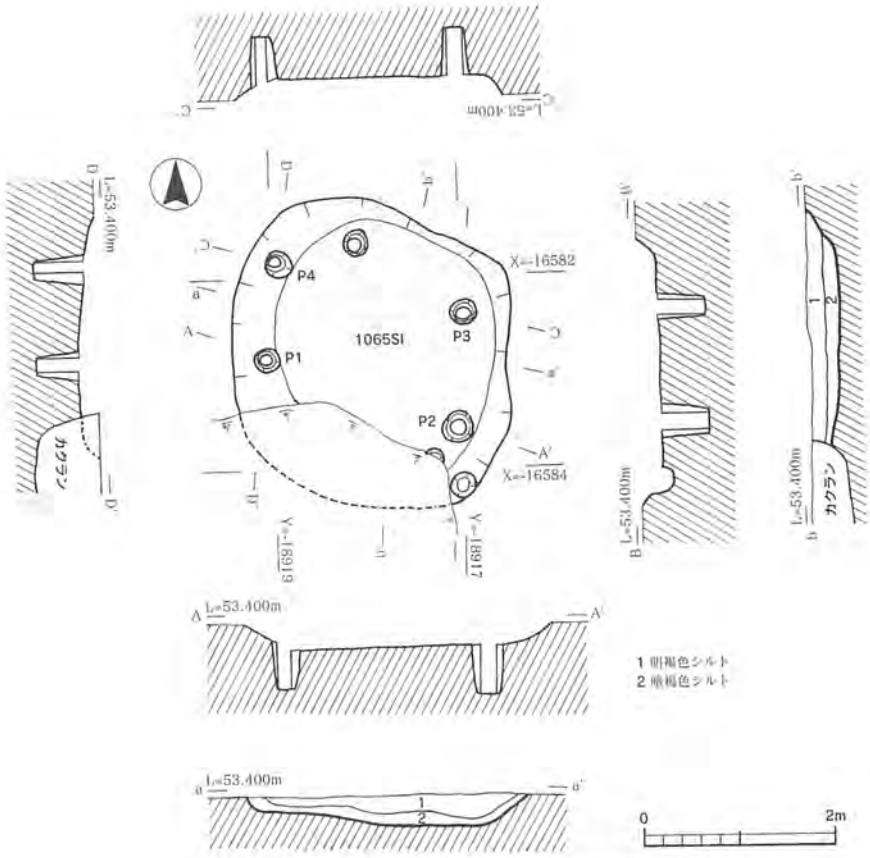
270SI（第Ⅲ-214・215・216図、PL.5・40）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、この住居埋没後、1048SI・272SIが建てられている。主軸の方位は、N-3°-Eである。

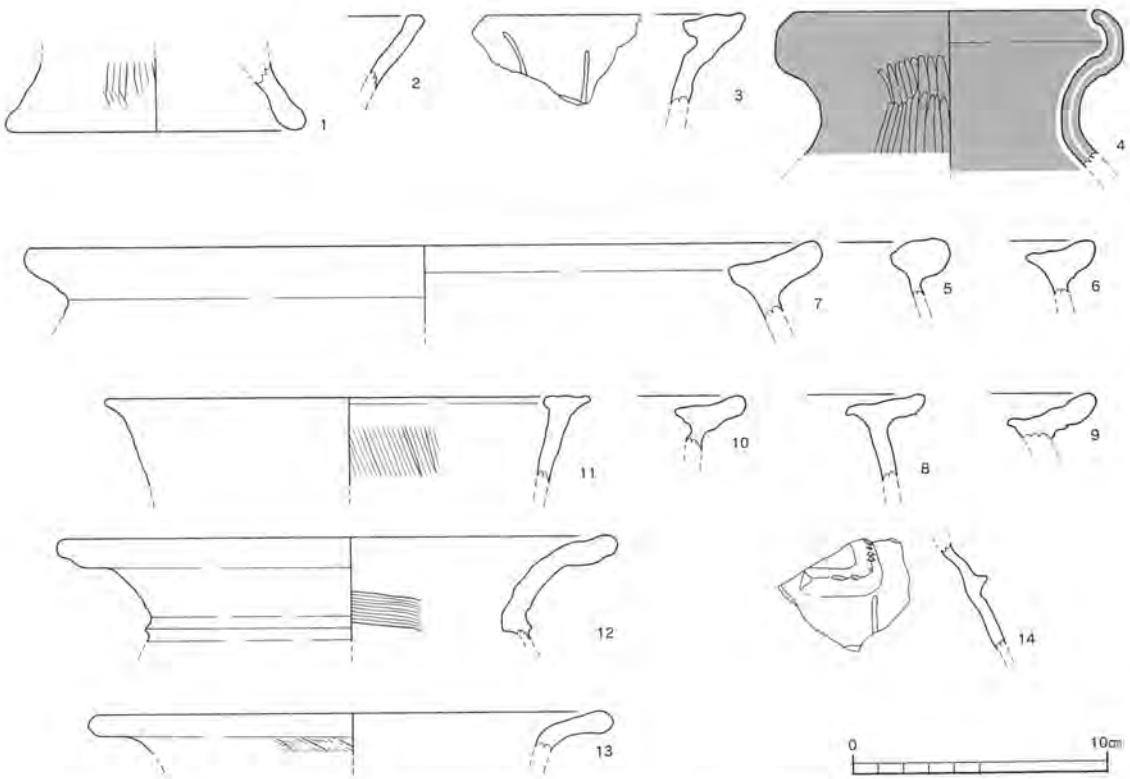
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.62ｍ、短軸4.36ｍを測る。床面積は17.2㎡で、検出面からの



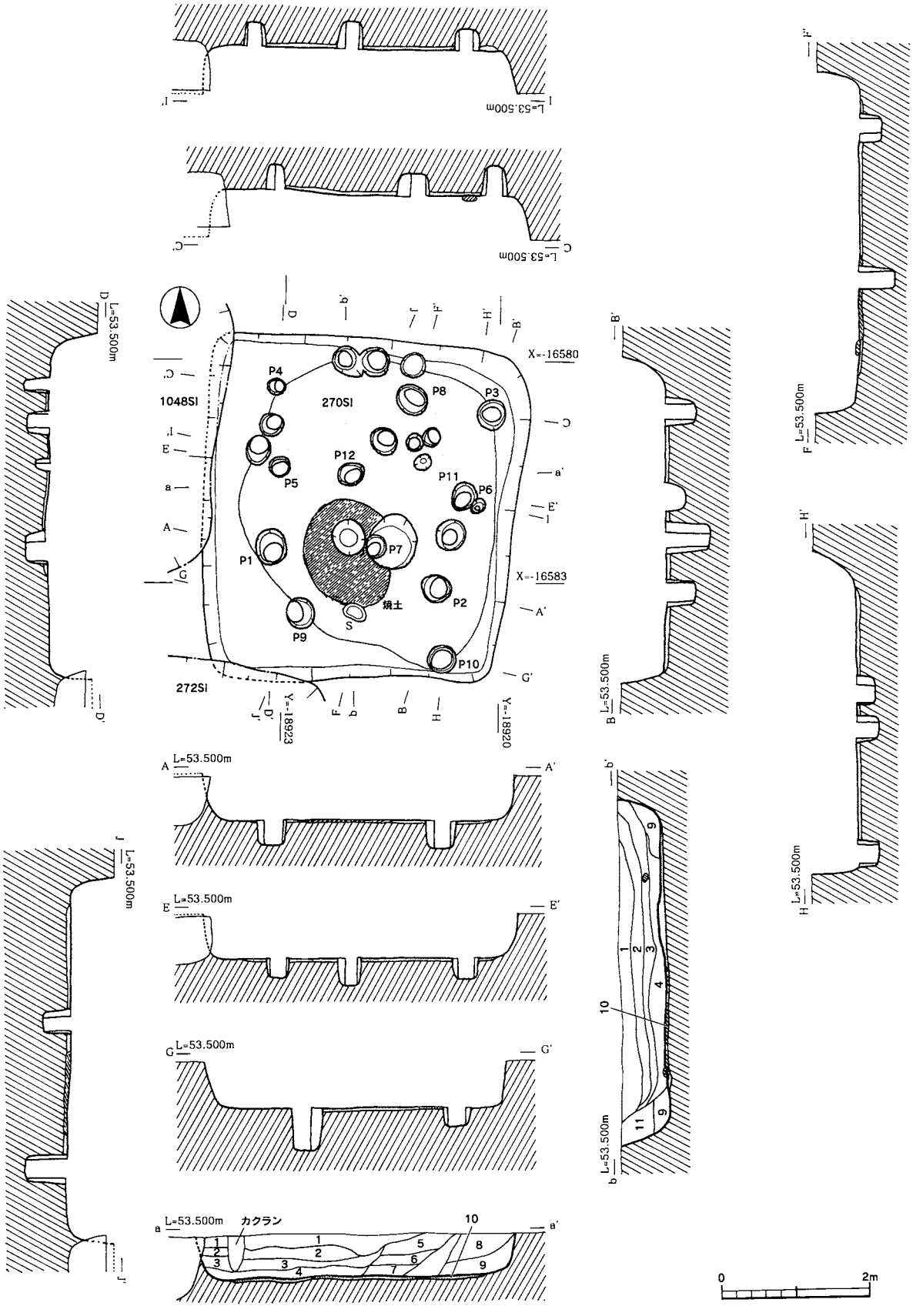
第Ⅲ-211図　269SI出土石器実測図(1/3)〈床面(1)、2層(2)〉



第Ⅲ-212図　1065SI　平面・断面図(1/80)

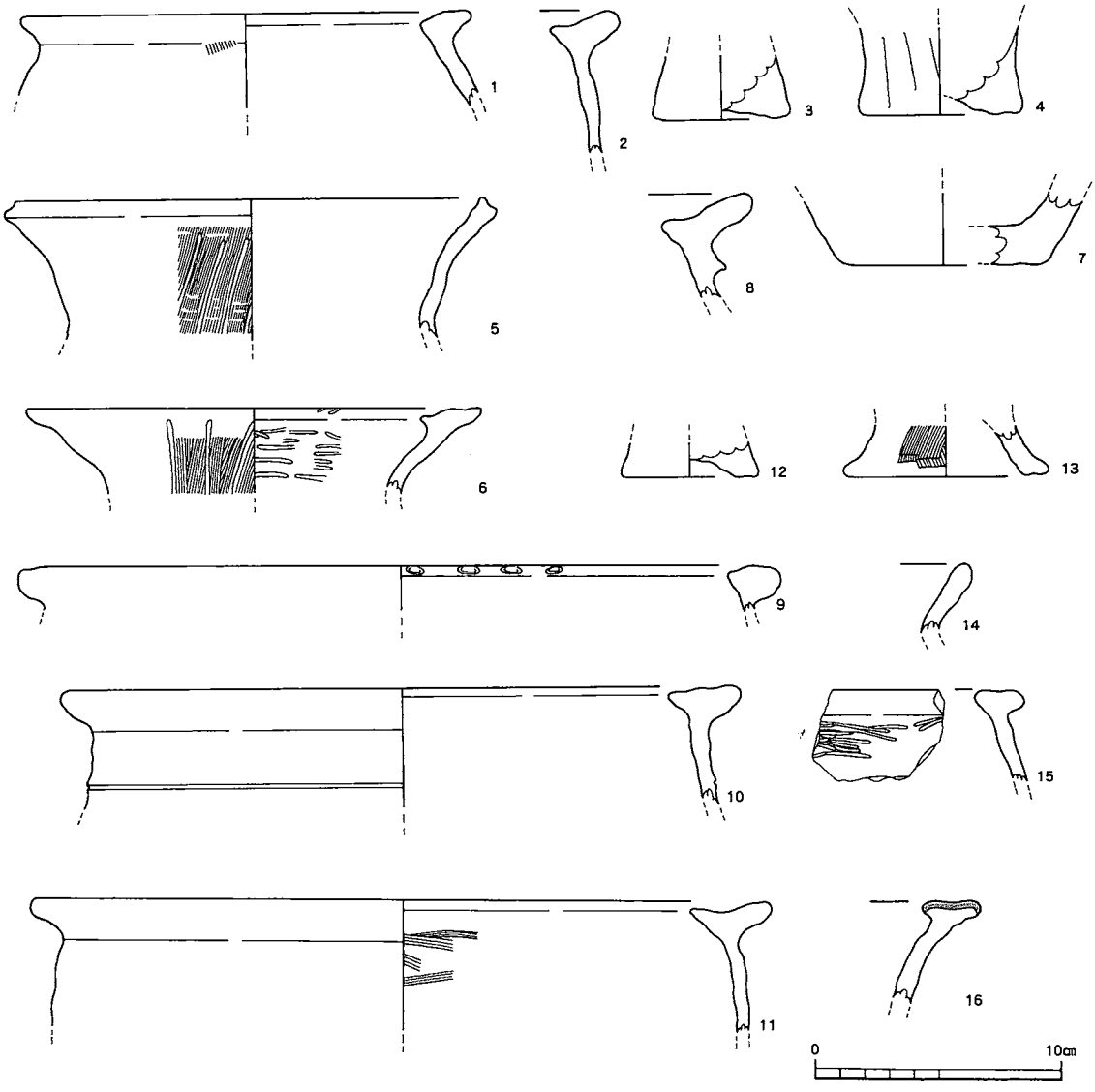


第Ⅲ-213図　1065SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～3)、1層下層(4)、1層上層(5～14)〉

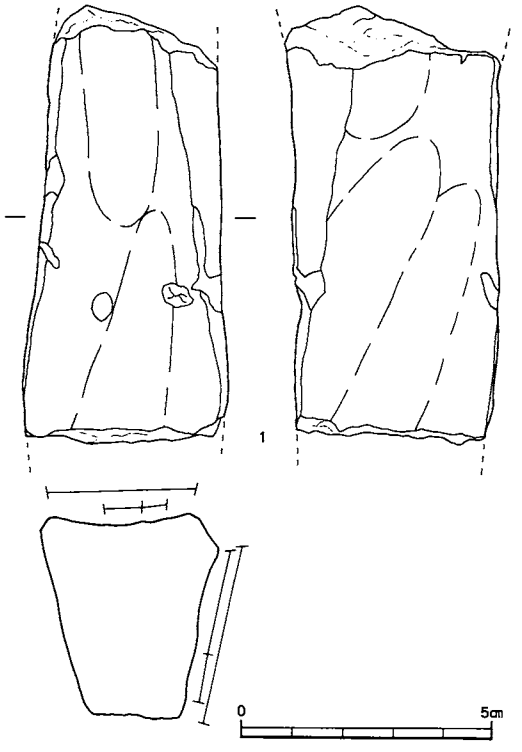


1 茶褐色砂質土　2 暗褐色砂質土　3 暗茶褐色砂質土　4 黄褐色点混茶褐色シルト　5 黄褐色点混暗褐色砂質土　6 黄褐色砂質土
7 暗灰褐色砂質土　8 黄褐色混暗褐色砂質土　9 暗褐色シルト　10 硬化面(黄褐色混灰褐色シルト)　11 暗褐色混黄褐色シルト

第Ⅲ-214図　270SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-215図　270SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1)、2層(2～7)、1層(8～16)〉



第Ⅲ-216図　270SI出土石器実測図(2/3)〈2層〉

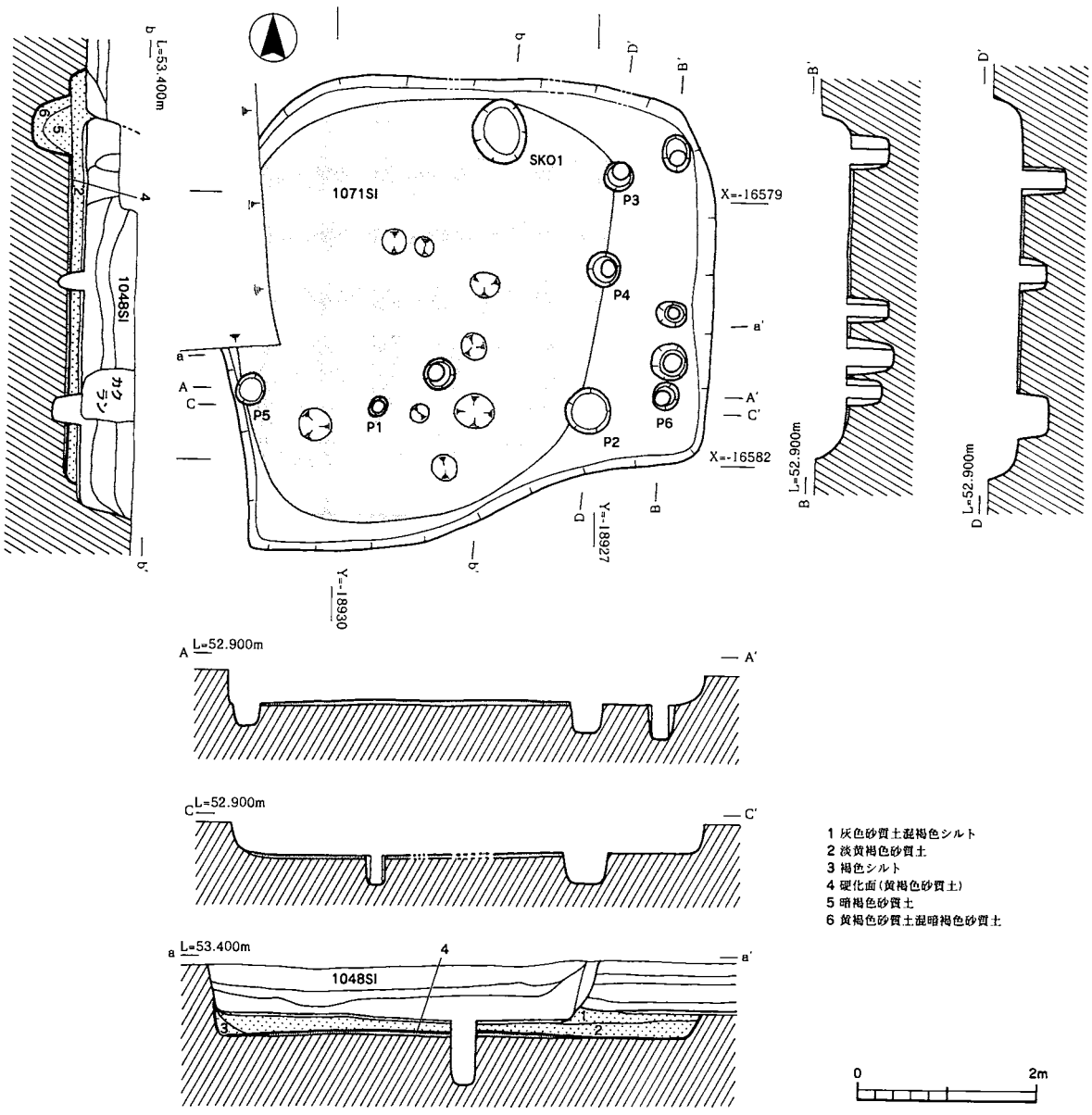
深さは0.6ｍである。硬化面は床全面に認められる。埋土は4層からなる。

柱穴　柱穴の径は20～46㎝で、深さは26～55㎝である。柱痕跡の径は14～28㎝である。

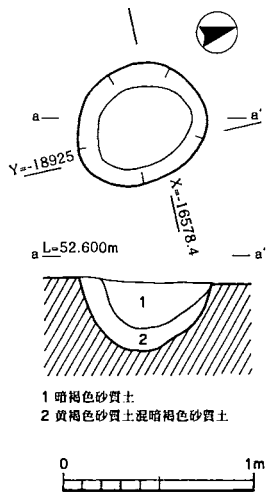
炉　掘り込みは不明であるが、中央やや南よりの長軸1.4ｍ、短軸1.3ｍの楕円形の範囲の床面に焼土が広がる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片8・底部片2、壺口縁部片3・底部片1、高坏片2が出土している。砥石が上層より出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

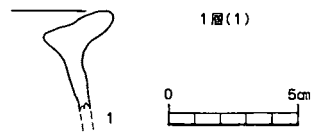
まとめ　主柱穴はＰ1～4で構成されＰ5・6、Ｐ7・8を支柱とする構造とＰ9～12を主柱穴とする構造の2タイプが想定される。住居の形態から後者から前者への住居の拡張と考えられる。



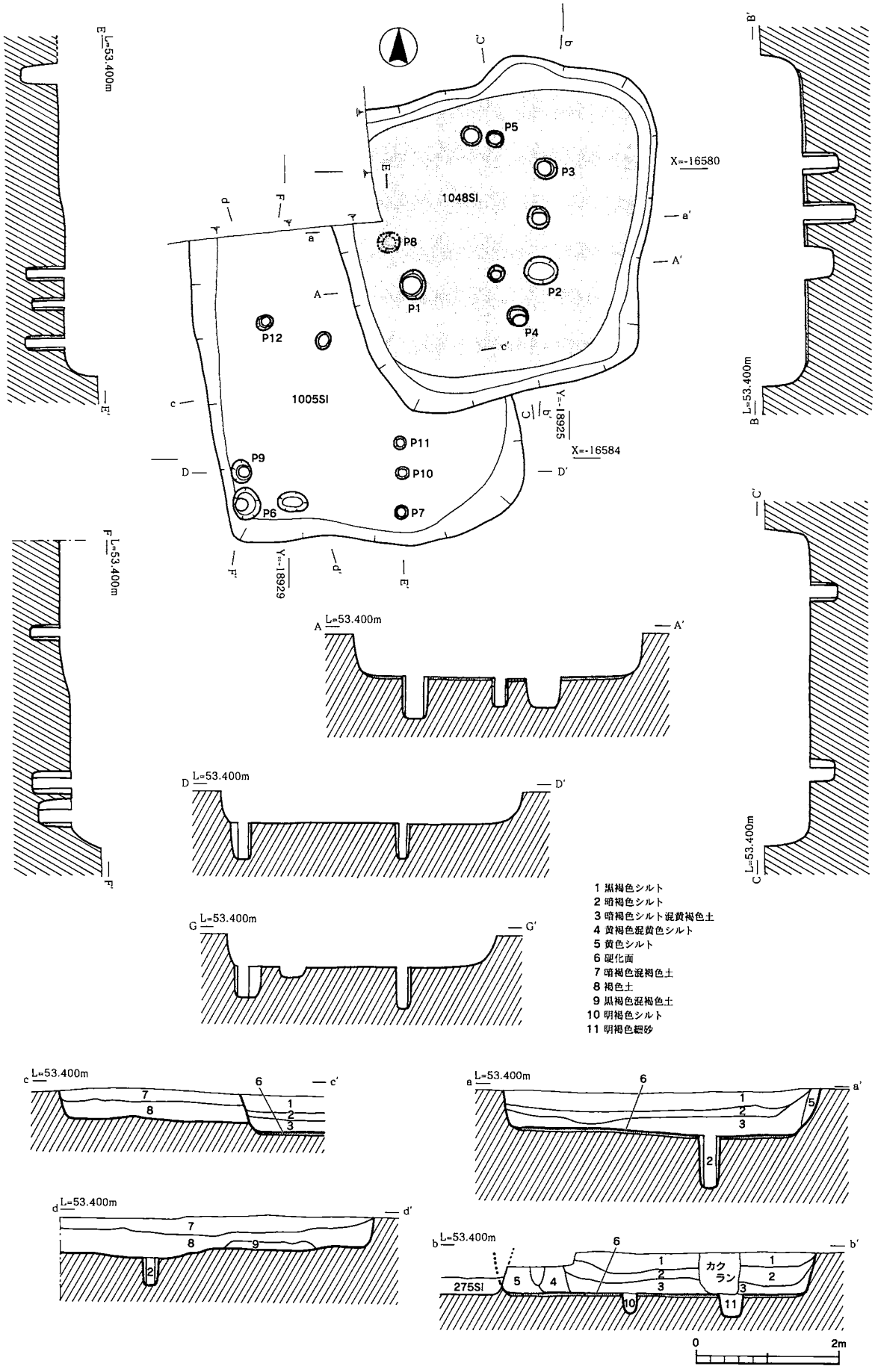
第Ⅲ-217図　1071SI　平面・断面図(1/80)



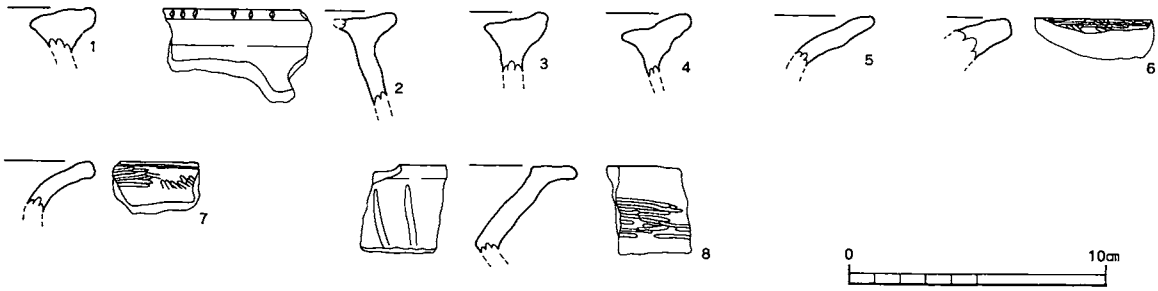
第Ⅲ-218図　1071SI内SK01
平面・断面図(1/40)



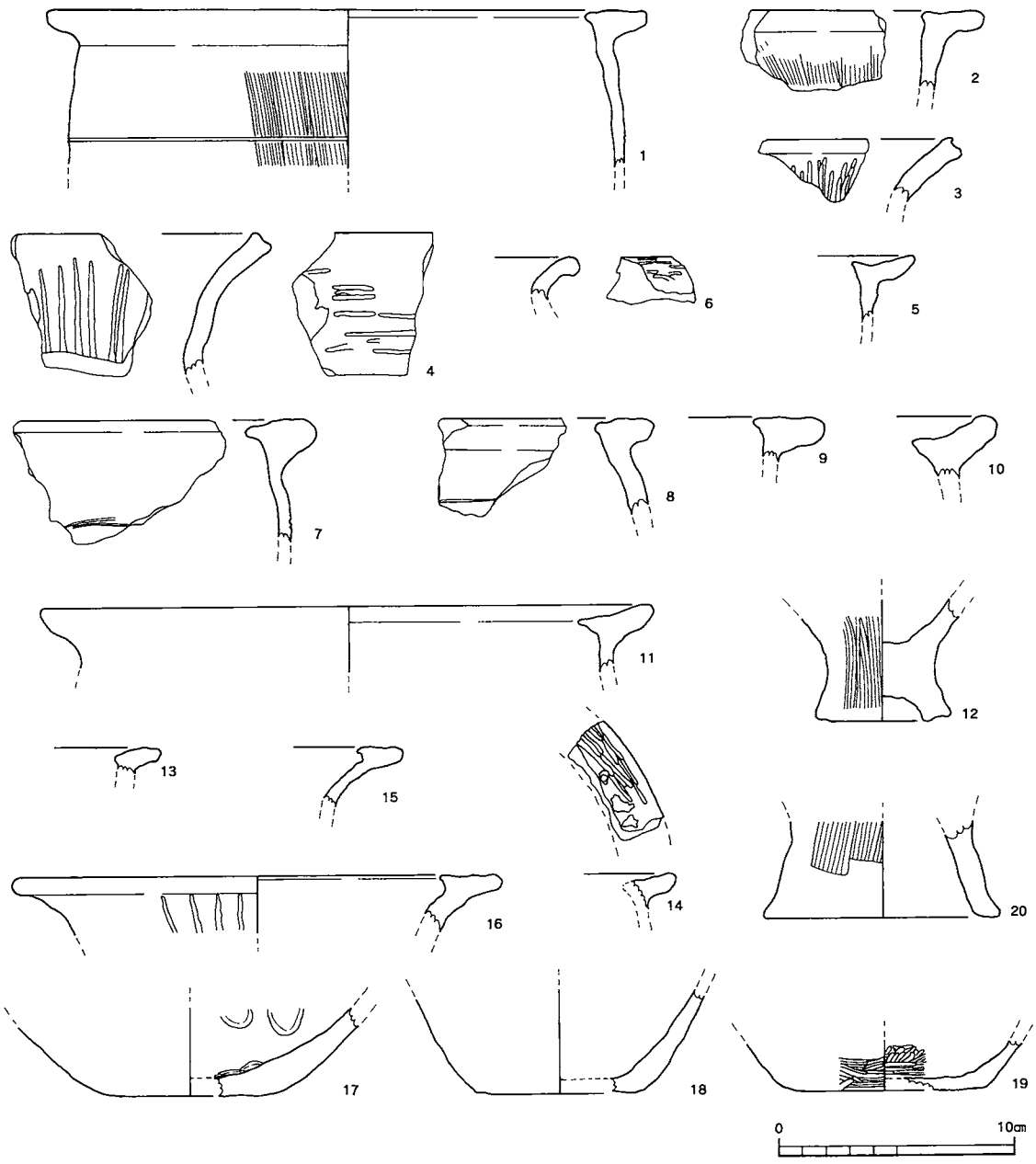
第Ⅲ-219図　1071SI出土土器
実測図(1/3)



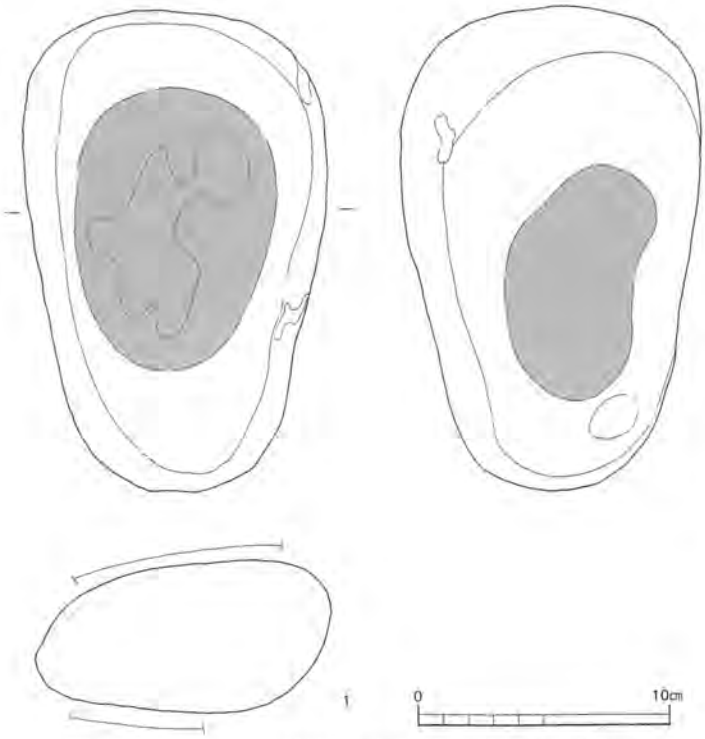
第Ⅲ-220図　1005SI・1048SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-221図　1005SI出土土器実測図(1/3)〈1層(1～8)〉



第Ⅲ-222図　1048SI出土土器実測図(1/3)〈肩部(1)、3層(2～4)、2層(5･6)、1層(7～20)〉



第Ⅲ-223図　1048SI出土石器実測図(1/3)〈床面〉

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4B期以降に位置づけられると推定できる。

1071SI（第Ⅲ-217・218・219図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.5 mで、上層部ほぼ全面を270・275・1005・1048SIにより壊されている。主軸の方位は、N-4°-Eである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.62 m、短軸5.07 mを測る。推定床面積は24.96 ㎡で、残存床面積は23.96 ㎡で、検出面からの深さは0.32 mである。硬化面は床全面に認められる。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は20～42 ㎝で、深さは29～53 ㎝である。柱痕跡の径は、14～20 ㎝である。

貯蔵穴　住居の北側に位置し、長軸70 ㎝、短軸60 ㎝、深さ46 ㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は3層からなる自然堆積によるものである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴がP1～3ともう1つ（北西側）からなる4本構造のものに、P4と西側に1本の支柱を加えた4+2本構造のものと、P5～7ともう1つ（北西側）からなる4本構造のものがある。竪穴の形状などから考慮すると、前者が建てられた後、竪穴を拡張して後者が建てられた可能性がある。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期に位置づけられると推定できる。

1005SI（第Ⅲ-220・221図）

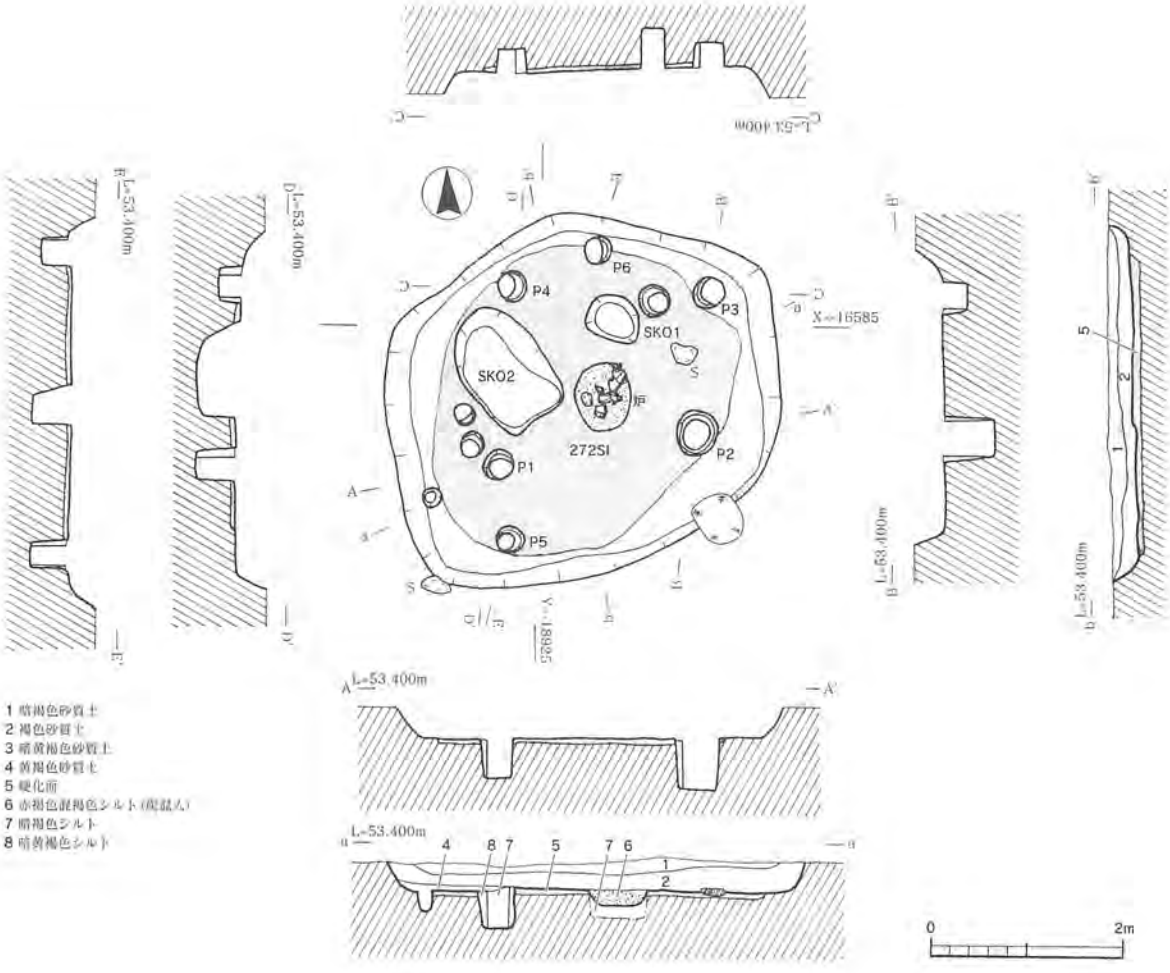
位置　遺跡南西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8 mで、この住居埋没後、北東に1048と1071SIが建てられ、北側は一部調査区外で未完掘である。主軸の方位は、N-10°-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.50 m以上、短軸4.34 mを測る。残存床面積は13.5 ㎡で、検出面からの深さは0.52 mである。埋土は3層からなる。

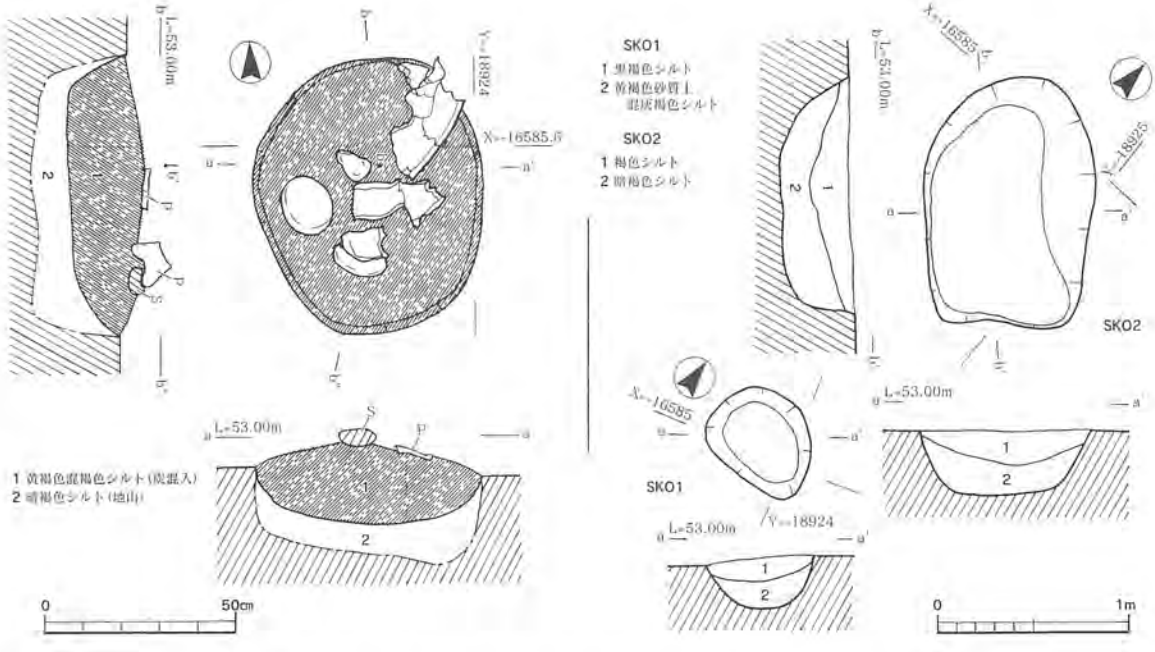
柱穴　柱穴の径は16～38 ㎝で、深さは44～58 ㎝である。柱痕跡の径は、12～16 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片9・底部片1、壺口縁部片3が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

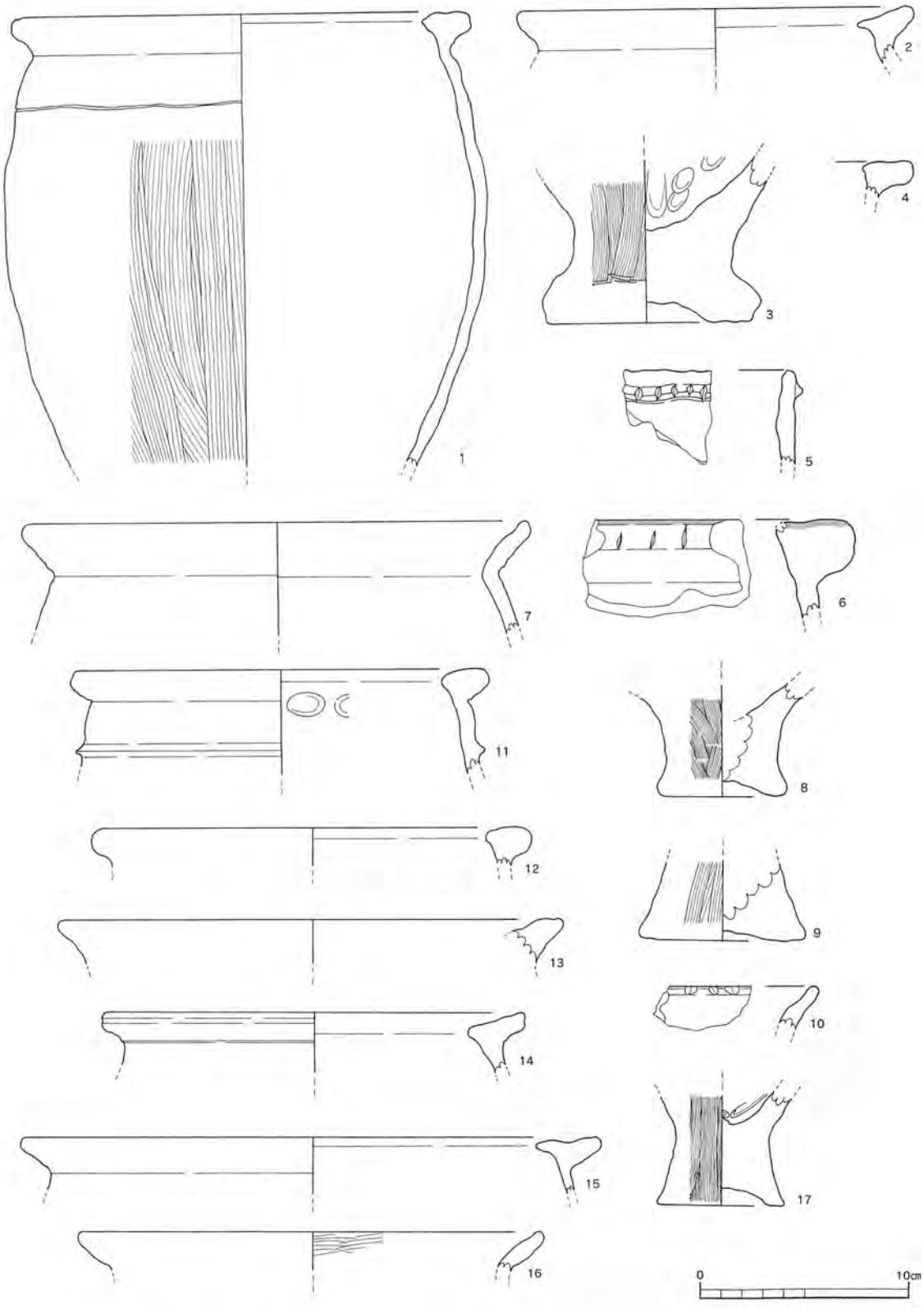
まとめ　主柱穴は4本構造のものと考えられるが、南側の柱2本にP1とP2，P4とP5を利用した2時期が考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器（第Ⅲ-221図3・4等）や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は3～4A期に位置づけられると推定できる。



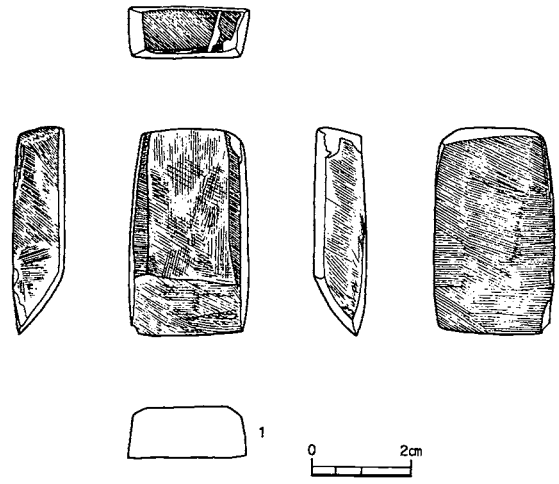
第Ⅲ-224図　272SI　平面・断面図(1/80)



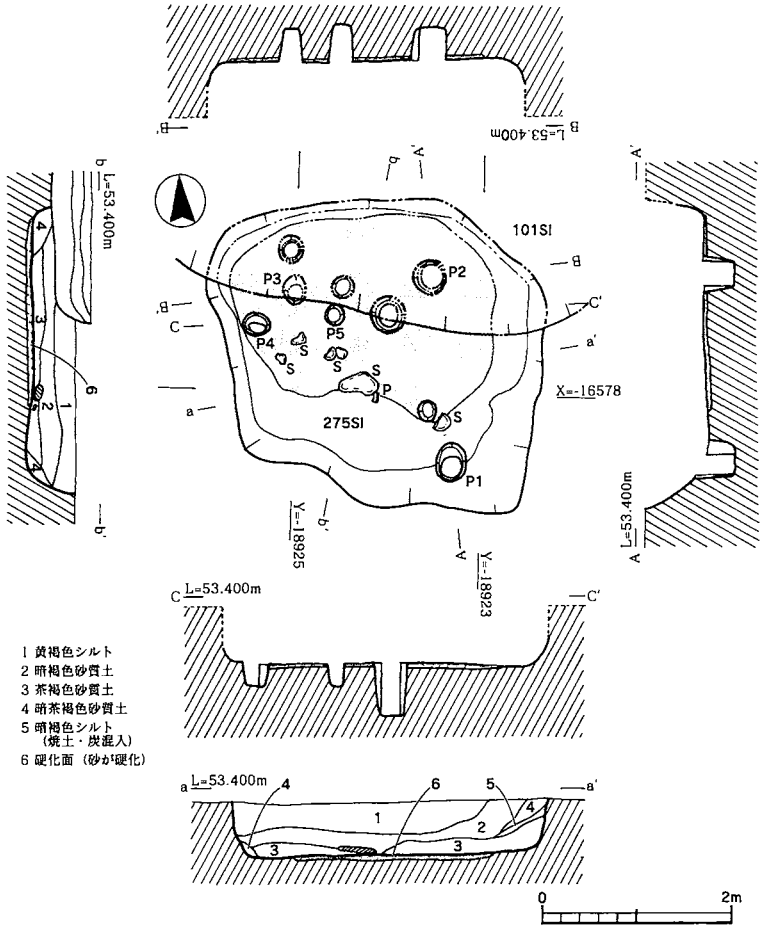
第Ⅲ-225図　272SI内炉(1/20)、SK01・02(1/40)　平面・断面図



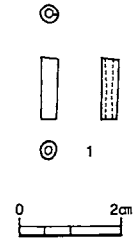
第Ⅲ-226図　272SI出土土器実測図(1/3)
炉(1・3)、SK(2)、2層(4)、1層下層(5～10)、1層上層(11～17)



第Ⅲ-227図　272SI出土石器実測図(1/3)〈床面〉



第Ⅲ-228図　275SI　平面・断面図(1/80)

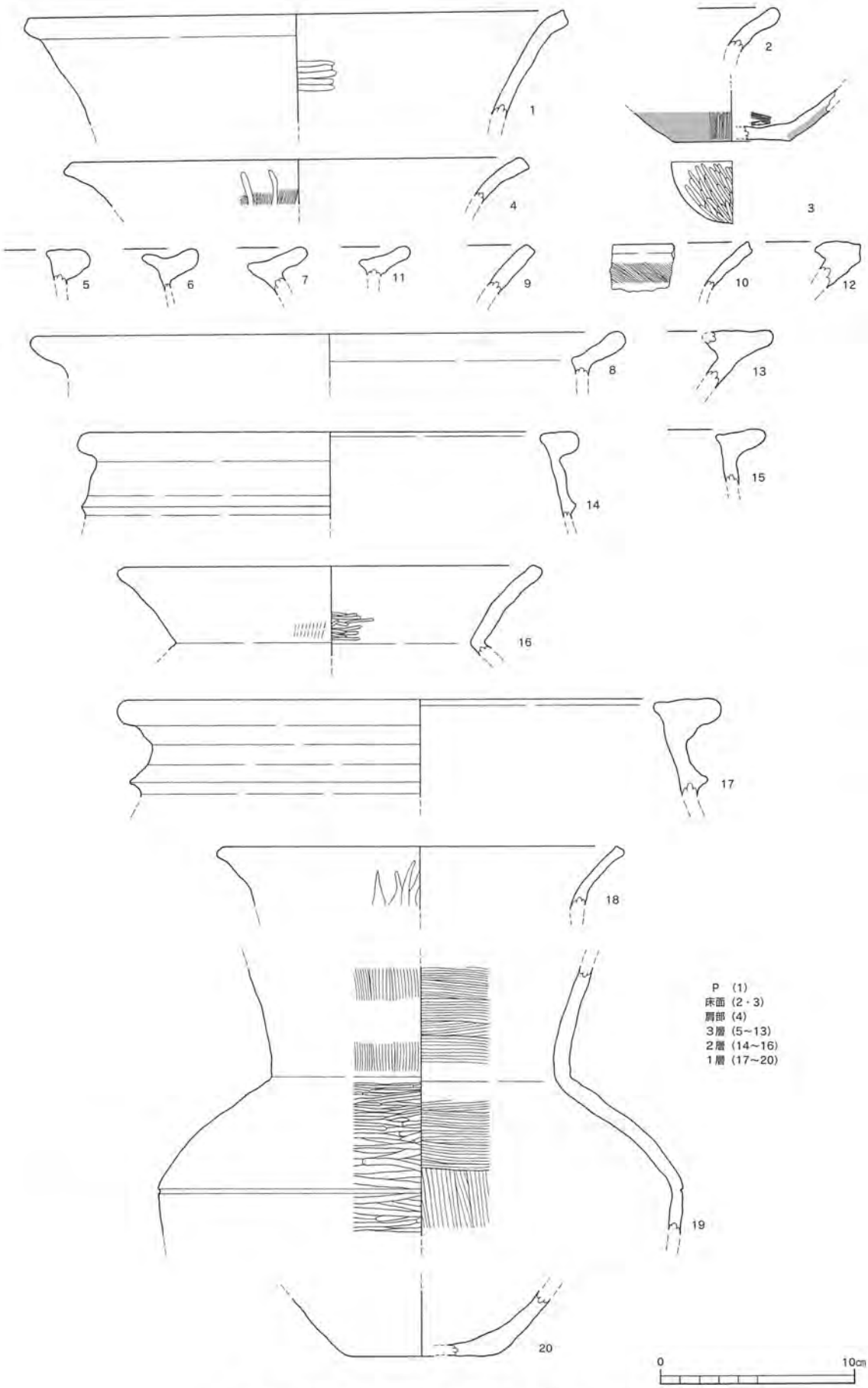


第Ⅲ-229図　275SI出土石器実測図(2/3)〈2層〉

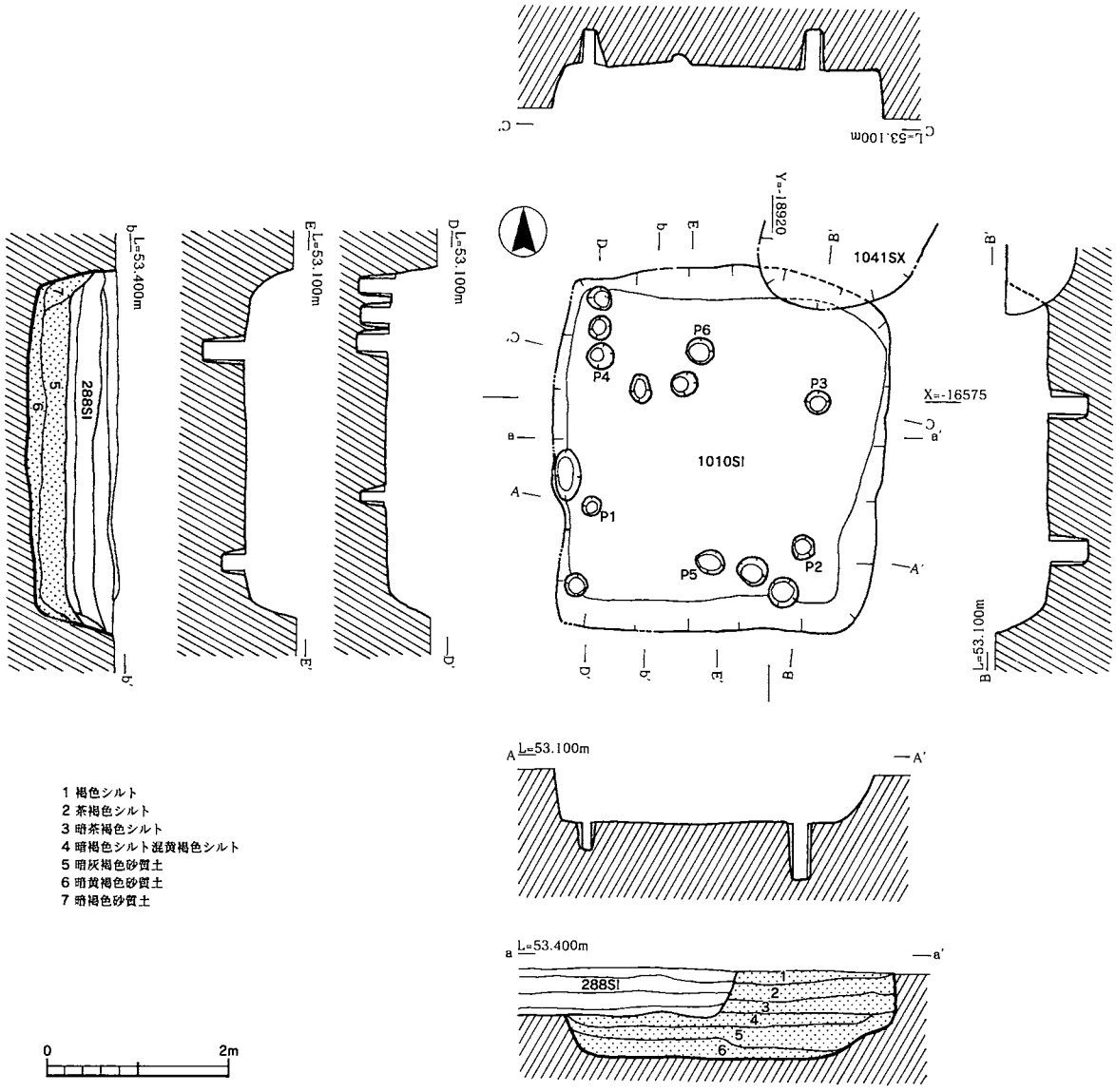
1048SI (第Ⅲ-220・222・223図)

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、一部調査区外のため未完掘である。主軸の方位は、N -4°-Wである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.46 m、短軸4.42 mを測る。推定床面積は17.64 ㎡、残存床面積は17.28 ㎡で、検出面からの深さは0.6 mである。硬化面は床全面に認められ、埋土は3層からなる。



第Ⅲ-230図　275SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-231図　1010SI　平面･断面図(1/80)

柱穴　柱穴の径は 22 ～ 38 ㎝で、深さは 39 ～ 72 ㎝である。柱痕跡の径は、16 ～ 26 ㎝である。

遺物出土状況　床面直上から石皿（第Ⅲ-223 図 1）が出土している。住居の埋土からは、甕口縁部片 11・底部片 2、壺口縁部片 6・底部片 3 が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴はＰ１～３と北西に１本の４本柱の構造とＰ４･５の２本柱構造の２通りが推定される。竪穴の形状から考えて前者から後者への変遷が考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 4A 期に位置づけられると推定できる。

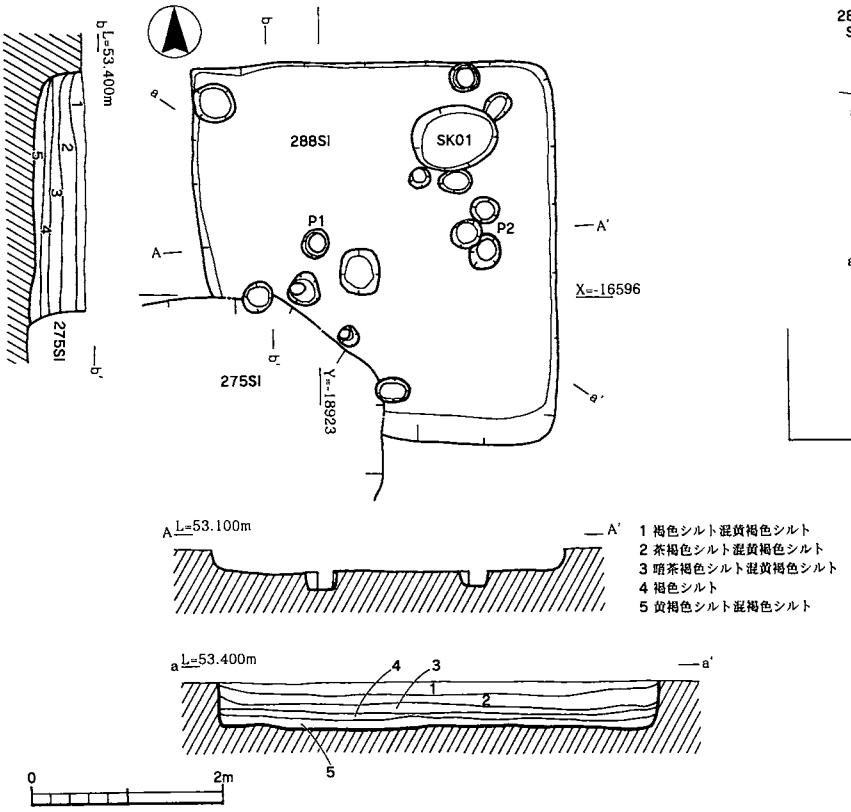
272SI（第Ⅲ-224・225・226・227図、PL.5・27・28・40）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.9 ｍである。主軸の方位は、N -4 °-W である。

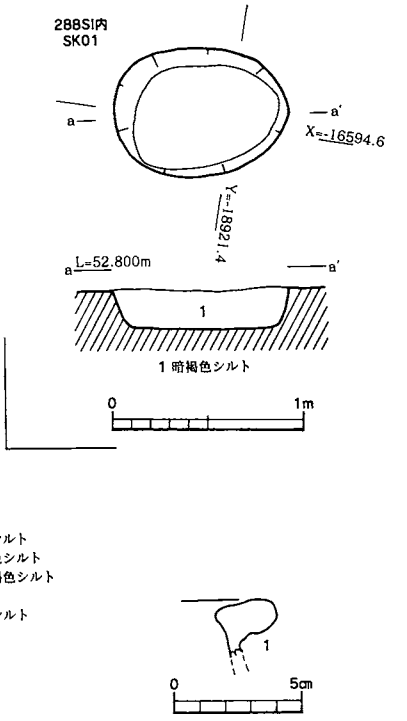
住居形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 4.24 ｍ、短軸 3.80 ｍを測る。床面積は 11.1 ㎡で、検出面からの深さは 0.28 ｍである。硬化面は床全面に認められる。埋土は 2 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 26 ～ 46 ㎝で、深さは 19 ～ 54 ㎝である。柱痕跡の径は、16 ～ 38 ㎝である。

炉　住居の中央部に位置し、長軸 76 ㎝、短軸 60 ㎝、深さ 30 ㎝を測る。断面は凹字状を呈する。埋土は褐色



第Ⅲ-232図　288SI・SK01　平面・断面図(1/80)(1/40)



第Ⅲ-233図
288SI出土土器
実測図(1/3)〈2層(1)〉

シルトで、炭が混入している。

貯蔵穴　住居内に２基検出し、SK01は住居の北側に位置し、長軸54㎝、短軸52㎝、深さ27㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は２層からなる。SK02は住居の北西側に位置し、長軸124㎝、短軸87㎝、深さ34㎝を測る。断面は凹字状を呈する。埋土は２層で、褐色シルト系の土である。

遺物出土状況　床面直上から扁平片刃石斧（第Ⅲ-227図1）が出土している。住居の埋土からは甕口縁部片11・底部片４が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴はＰ１～６で構成され、４＋２本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B期に位置づけられると推定できる。

275SI（第Ⅲ-228・229・230図、PL.5・40）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7ｍで、この住居埋没後、北側には101SIが建てられている。主軸の方位は、N-1°-Wである。

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸3.40ｍ、短軸3.20ｍを測る。床面積は8.37㎡で、検出面からの深さは0.55ｍである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は２層に分かれる。

柱穴　柱穴の径は22～38㎝で、深さは19～50㎝である。柱痕跡の径は16～26㎝である。

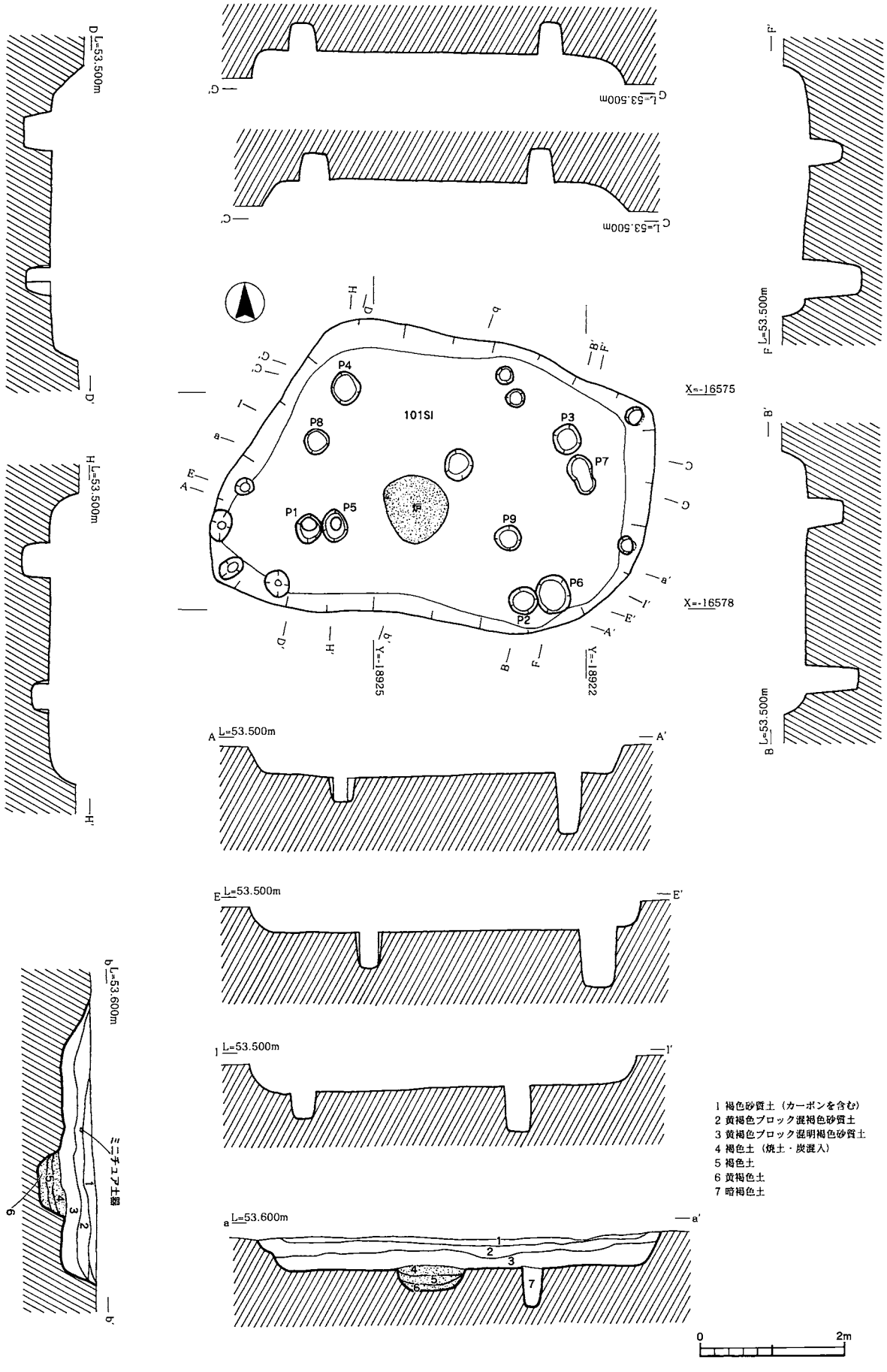
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片10・底部片1、壺口縁部片７・底部片２が出土している。２層から管玉１（第Ⅲ-229図1）が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴は４本柱でＰ１～３で構成されるものと２本柱Ｐ４・５の２通り考えられる。

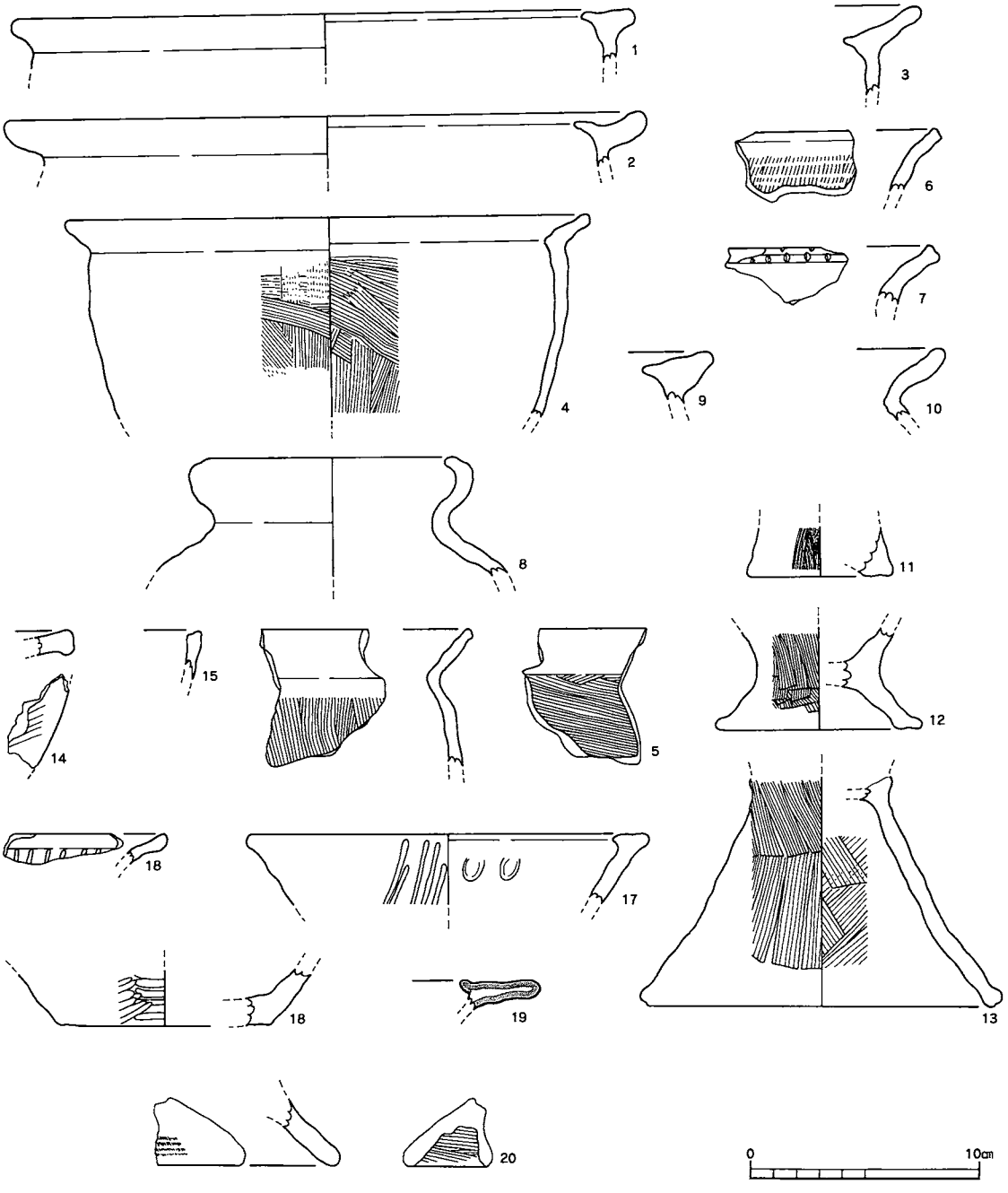
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は７期に位置づけられると推定できる。

1010SI（第Ⅲ-231図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約52.4ｍで、この住居埋没後、東側上層部に288SIが建てられている。主軸の方位は、N-3°-Eで



第Ⅲ-234図　101SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-235図　101SI出土土器実測図1(1/3)〈3層下層(1～7)、3層上層(8～20)〉

ある。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.00 m、短軸3.66 mを測る。床面積は10.75 ㎡で、検出面からの深さは0.95 mである。硬化面は認められない。埋土は6層からなる。

柱穴　柱穴の径は22～35 ㎝、深さは23～74 ㎝である。柱痕跡の径は16～22 ㎝である。

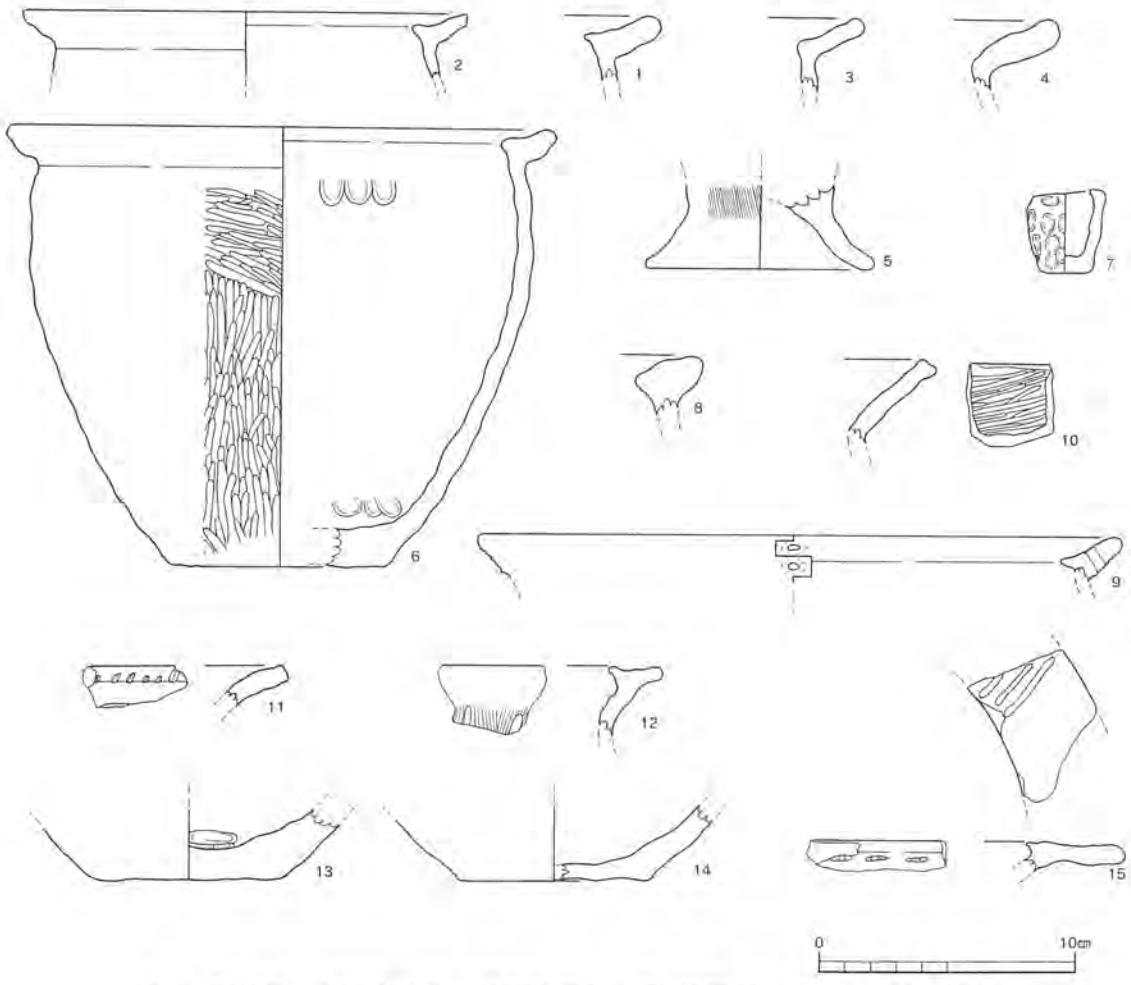
遺物出土状況　埋土からは時期の決定できるような遺物は出土していない。

まとめ　Ｐ１～４を主柱穴とする４本柱に、Ｐ５・６を支柱とする構造と考えられる。

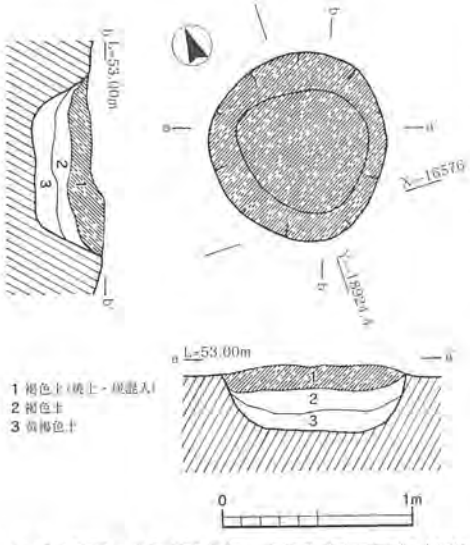
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は４Ａ期（３期）に位置づけられると推定できる。

288SI（第Ⅲ-232・233図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、この住居埋没後、上層部全面に101SI、南西部に275SIが建てられている。主軸の方位は、



第Ⅲ-236図　101SI出土土器実測図2(1/3)〈2層(1～6)、1層(7～15)〉



第Ⅲ-237図　101SI内炉　平面･断面図(1/40)

N -3°-Wである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸3.88 m、短軸3.76 mを測る。推定床面積は12.6 ㎡で、残存床面積は12.15 ㎡で、検出面からの深さは0.2 mである。硬化面は床全面に認められる。埋土は検出した部分で2層からなる。

柱穴　柱穴の径は22～34㎝で、深さは14～39㎝である。柱痕跡の径は、22～34 ㎝である。

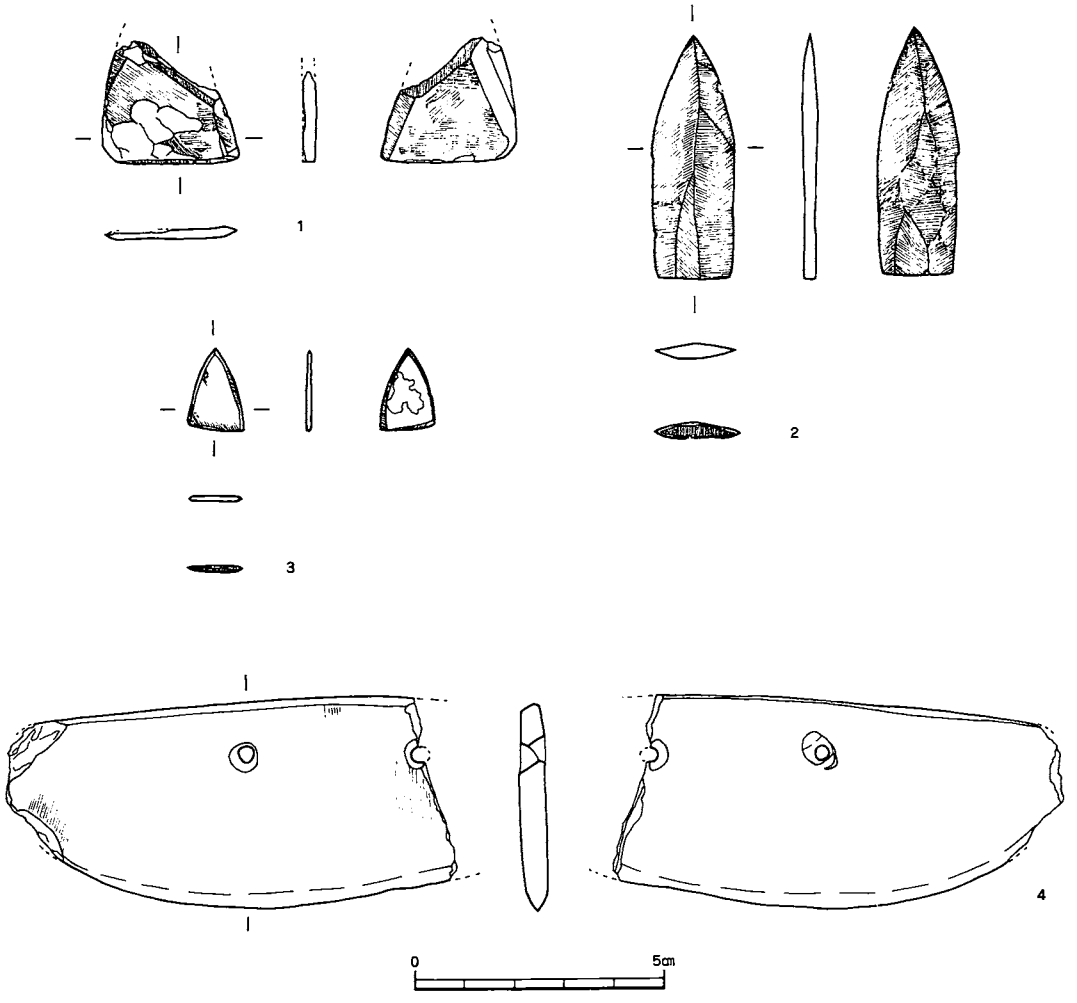
貯蔵穴　住居の北東部に位置し、長軸92 ㎝、短軸68 ㎝、深さ20 ㎝を測る。断面は凹字状を呈し埋土は1層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

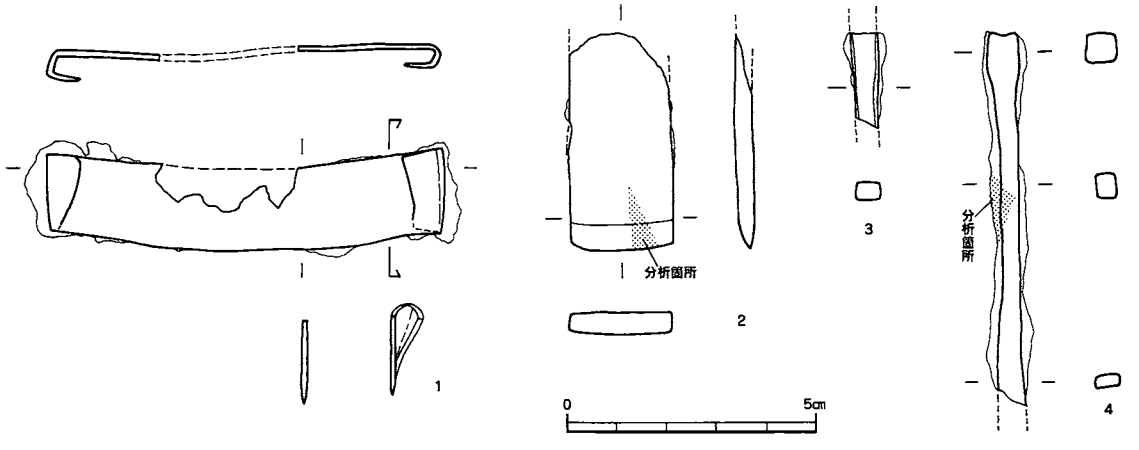
まとめ　柱穴とする2本柱構造と考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は3～8期に位置づけられると推定できる。

101SI（第Ⅲ-234・235・236・237・238・239図、PL.6・28・40・50）

位置　遺跡北西部（2区中央部）に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9 mである。主軸の方位は、N -20°-Eである。



第Ⅲ-238図　101SI出土石器実測図(2/3)〈2層(1～4)〉

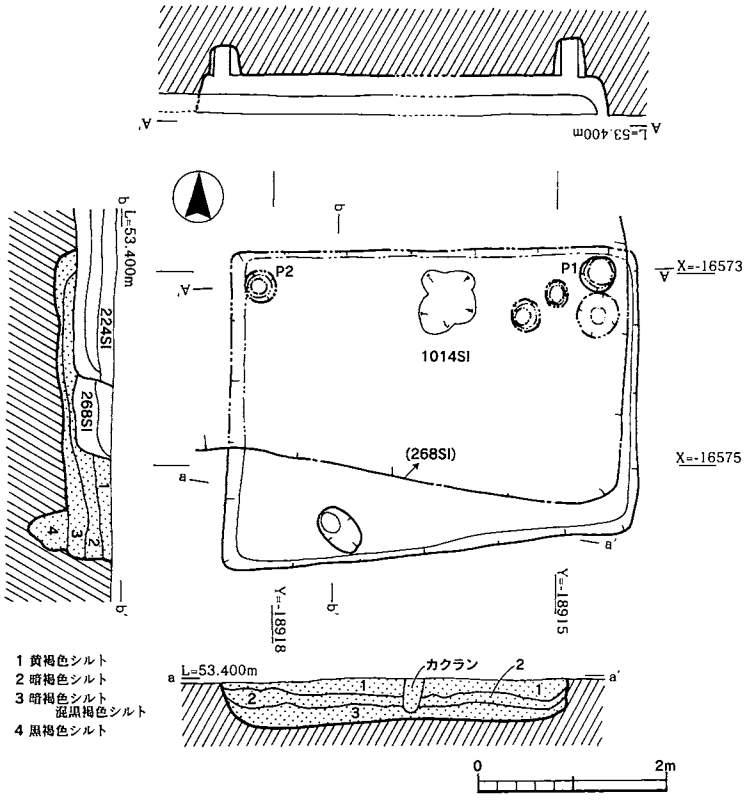


第Ⅲ-239図　101SI出土鉄器実測図(2/3)〈3層(1～4)〉

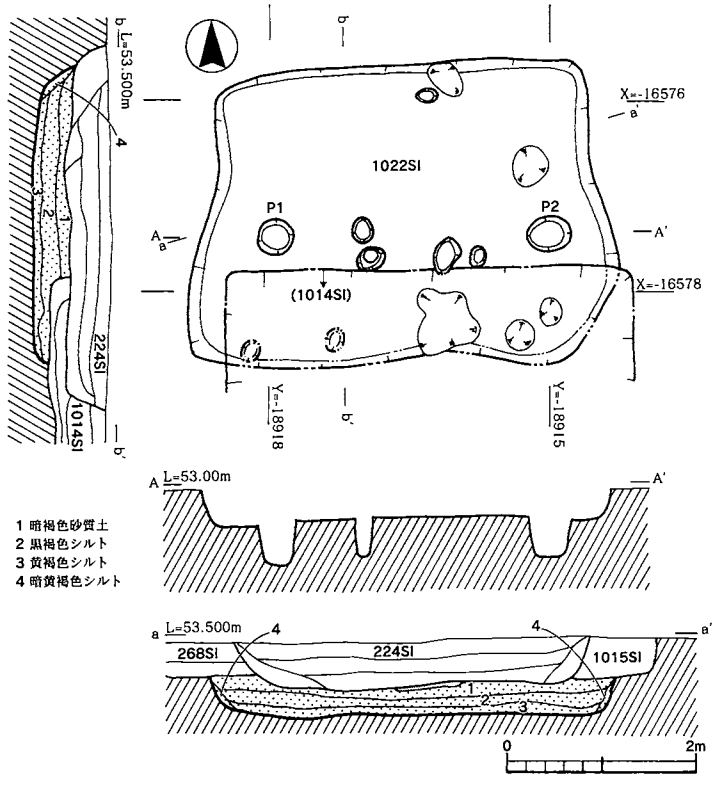
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸5.68 m、短軸4.04 mを測る。床面積は17.4 ㎡で、検出面からの深さは0.5 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～44 cmで、深さは33～48 cmである。柱痕跡の径は、14～22 cmである。

炉　住居の中央部に位置し、長軸86 cm、短軸84 cm、深さ34 cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は3層からなる。上層部は炭と焼土を含む褐色土である。



第Ⅲ-240図　1014SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-241図　1022SI　平面・断面図(1/80)

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片82・底部片13、壺口縁部片30・底部片8、鉢片4が出土している。3層より鉄製手鎌1、板状鉄斧(鑿状鉄器)、棒状鉄器2（第Ⅲ-239図)、2層から磨製石鏃3、石包丁1(第Ⅲ-238図）が出土し、ほとんど流れ込みの遺物である。1層からはミニチュア土器も出土している。(第Ⅲ-236図7)

まとめ　主柱穴はP1～4で構成されるものとP5～9で構成されるものとが考えられ、竪穴の形状・大きさなどからP1～4で建てられたのち、P5～9を主柱穴とするものに建て替えられたのではないかと考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器（第Ⅲ235図-5・13等）や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は8期に位置づけられると推定できる。

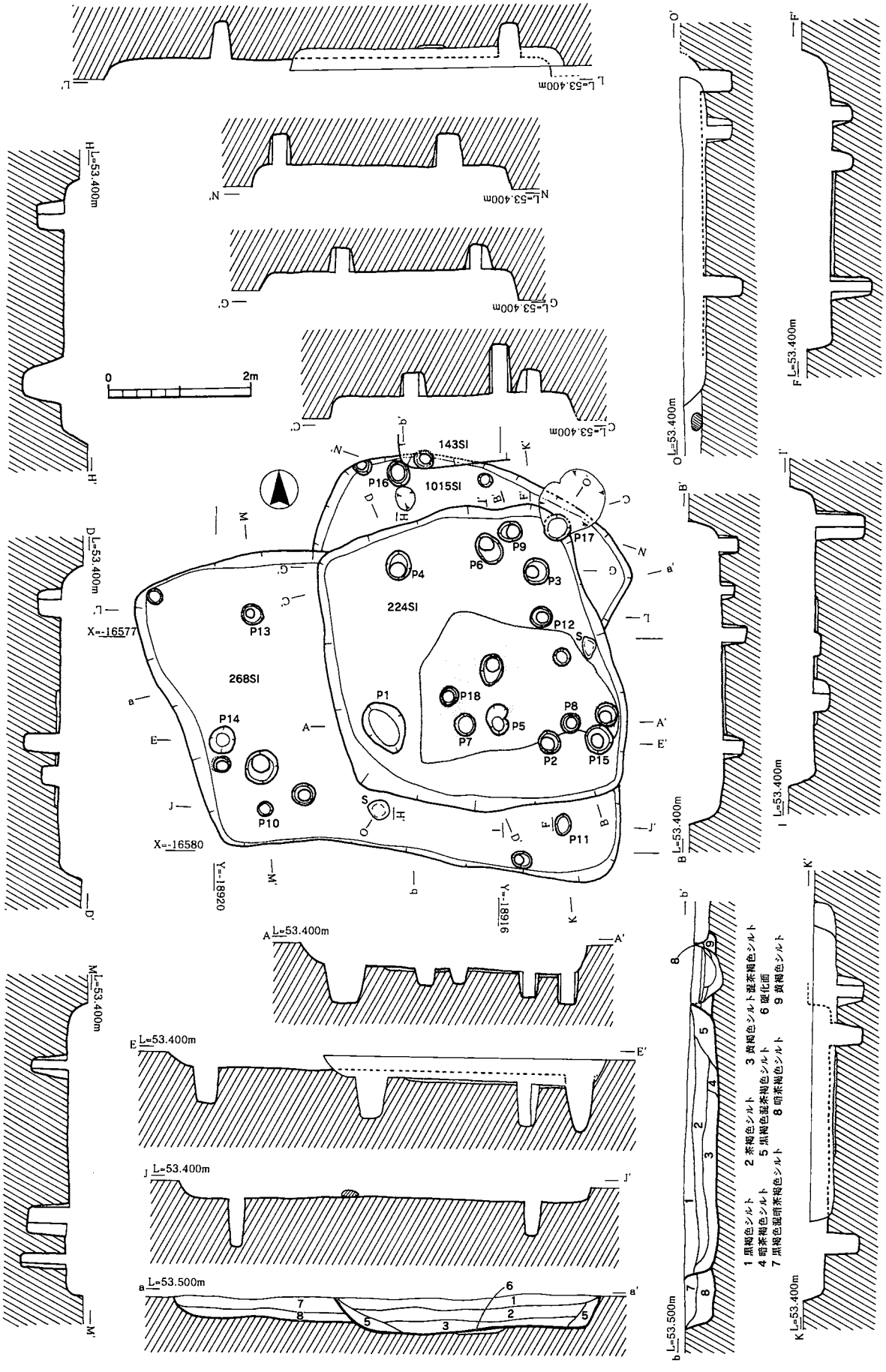
1014S1（第Ⅲ-240図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.0mで、この住居埋没後、北側に268SIが建てられている。主軸の方位は、N-5°-Wである。

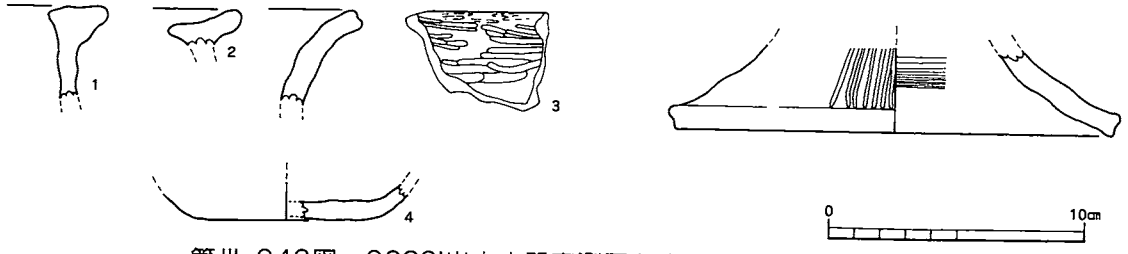
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.22mを測る。短軸は不明である。残存床面積は25.2㎡で、検出面からの深さは48cmである。硬化面は認められない。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は22～52cmで、深さは28～42cmである。柱痕跡の径は、12.0～14.3cmである。

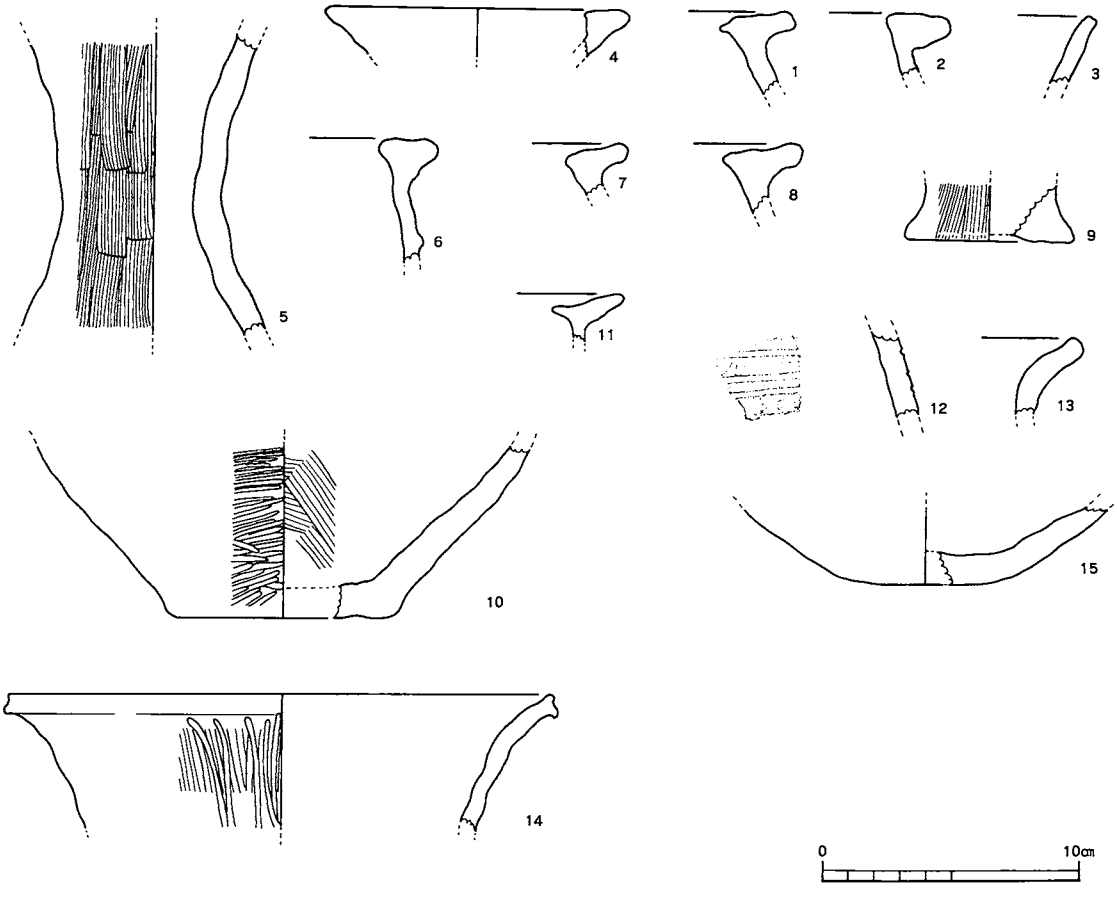
遺物出土状況　住居の埋土から時期の推定できる遺物は出土していない。



第Ⅲ-242図　1015SI・268SI・224SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-243図　268SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1)、1層(2～5)〉



第Ⅲ-244図　224SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～4)、4層(5)、2層(6～10)、1層(11～15)〉

まとめ　主柱穴Ｐ１～Ｐ２と南側に２本の４本構造のものと推定できる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 4A 期以前に位置づけられると推定できる。

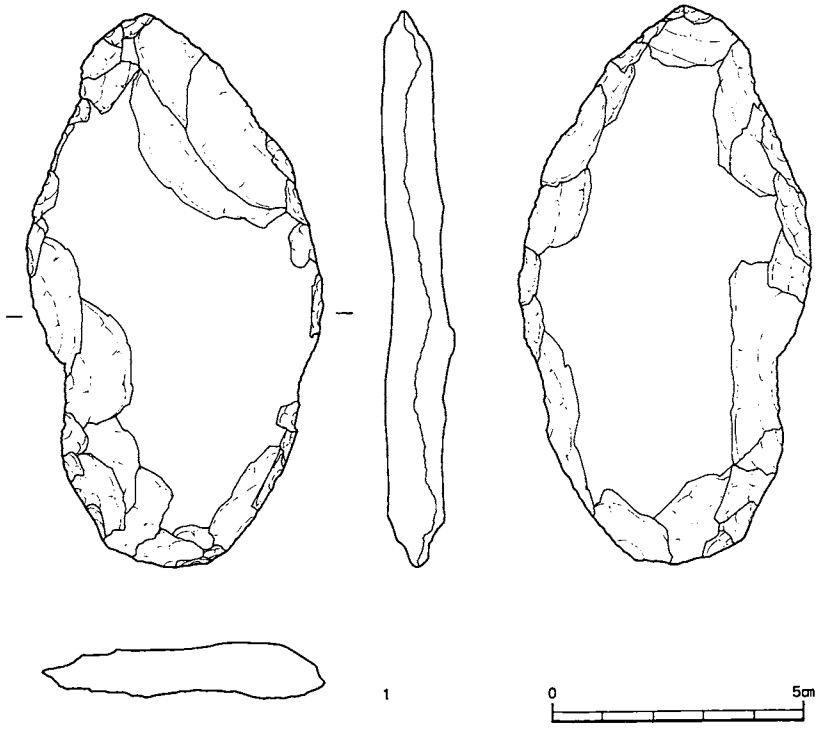
1022SI（第Ⅲ-241図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.6 mで、この住居埋没後、中央に 224SI、西側に 268SI、北側に 1015SI、南側に 1014SI が建てられている。主軸の方位は、N -3 °-E である。

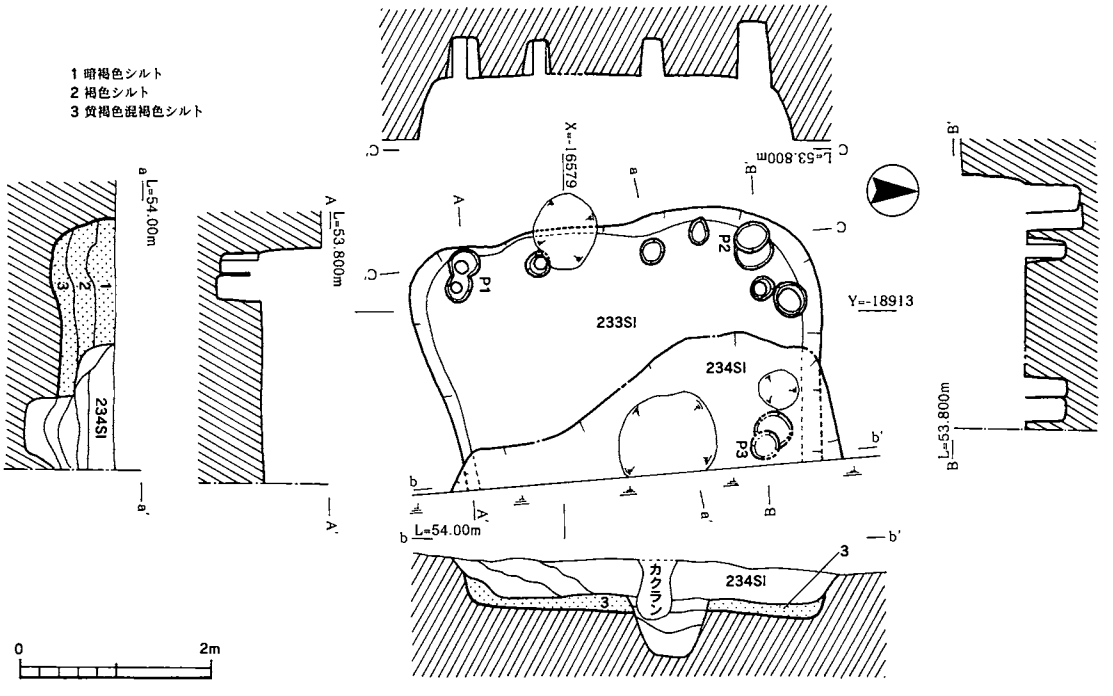
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 4.28 m、短軸 3.12 mを測る。床面積は 11.6 ㎡で、検出面からの深さは 0.36 mである。埋土は、３層からなる。

柱穴　柱穴の径は 20 ～ 46 ㎝で、深さは 30 ～ 62 ㎝である。柱痕跡の径は 15 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。



第Ⅲ-245図　224SI出土石器実測図(2/3)〈1層〉



第Ⅲ-246図　233SI　平面・断面図(1/80)

まとめ　主柱穴（Ｐ１～2）の２本柱で構成されるものと考えられる。竪穴は、少なくとも70㎝程度の深さがあったものと考えられる。住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4B期以前に位置づけられると推定できる。

1015SI（第Ⅲ-242図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.1ｍで、この住居埋没後、北側の一部分に143SI、南側に224SI・268SIが建てられている。主軸の

方位は、N -22 °- Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.42 m、短軸1.60 mを測る。残存床面積は1.65 ㎡で、検出面からの深さは0.3 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は20 ～ 38 ㎝で、深さは34 ～ 42 ㎝である。柱痕跡は見つからない。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　主柱穴Ｐ１～３ともう１本で構成される、４本構造のものと考えられる。住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4B期以前に位置づけられると推定できる。

268SI（第Ⅲ-242・243図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、北東側に224SIが建てられている。主軸の方位は、N -14 °-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸5.76 m、短軸4.06 mを測る。推定床面積は21.13 ㎡で、残存床面積は9.71 ㎡で、検出面からの深さは0.4 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は20 ～ 45 ㎝で、深さは43 ～ 65 ㎝である。柱痕跡の径は、12 ～ 22 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2、壺口縁部片1・底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴は、Ｐ10～13の４本構造のものと、Ｐ14・Ｐ15の２本構造のものを認めることができる。竪穴の形状より、４本＋２本の６本柱構造のものと推定される。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は5期に位置づけられると推定できる。

224SI（第Ⅲ-242・244・245図、PL.41）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.0 mである。主軸の方位は、N -12 °-Wである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.23 m、短軸4.12 mを測る。床面積は14.5 ㎡で、検出面からの深さは0.43 mである。硬化面は床中央部1/2に認められる。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は24 ～ 34 ㎝で、深さは20 ～ 66 ㎝である。柱痕跡の径は、13 ～ 22 ㎝である。

遺物出土状　住居の埋土からは、甕口縁部片24、壺口縁部片6・底部片4、高坏片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴はＰ１～６で構成されるものと、Ｐ４・７～９で構成されるものとが考えられ、竪穴の形状・大きさ・柱穴の位置等からＰ４・Ｐ７～９で建てられたのち、Ｐ１～６を主柱穴とするものに建て替えられたものではないかと考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期に位置づけられると推定できる。

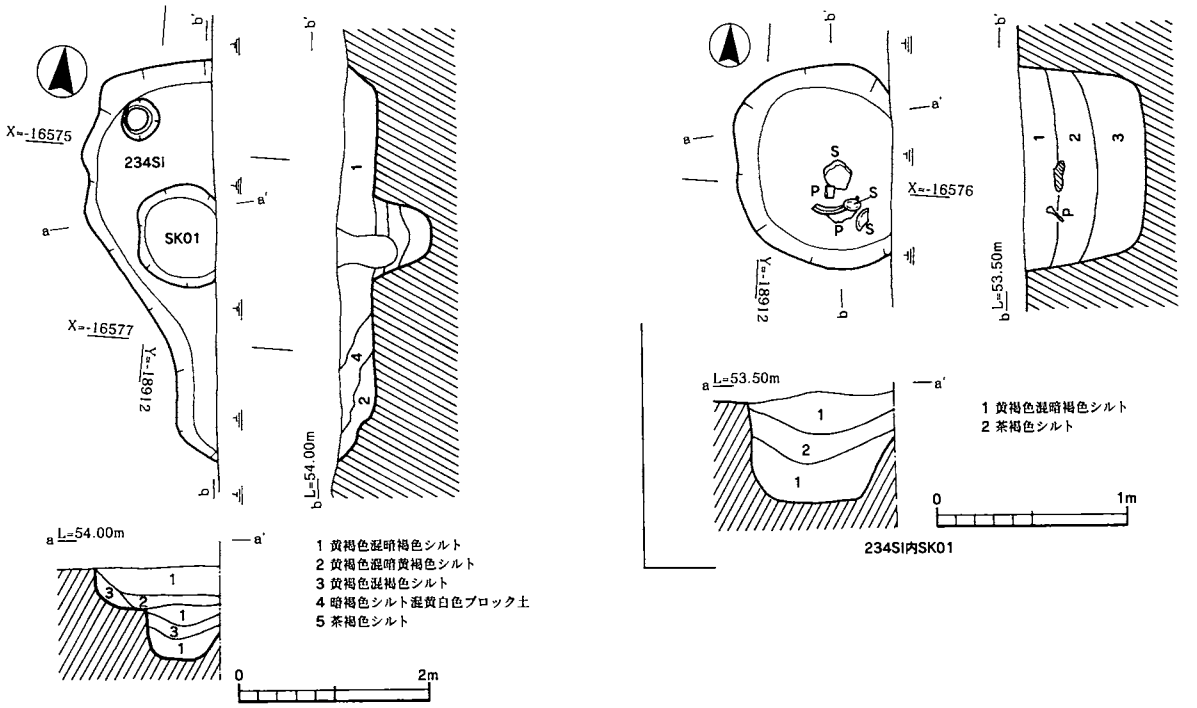
233SI（第Ⅲ-246図）

位置　遺跡中央部（２区中央部）の氾濫原に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、東側に234SIが建てられている。主軸の方位は、N -6 °-Wである。

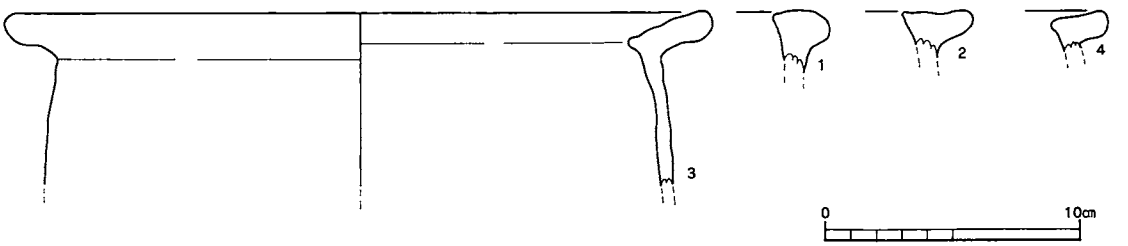
住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸4.26 m、短軸2.60 m以上を測る。床面積は推測できない。検出面からの深さは0.34 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は24 ～ 44 ㎝で、深さは44 ～ 64 ㎝である。柱痕跡の径は14 ～ 20 ㎝である。

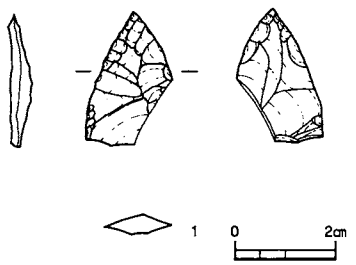
遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。



第Ⅲ-247図　234SI・SK01　平面・断面図(1/80)(1/40)



第Ⅲ-248図　234SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～3)、1層(4)〉



第Ⅲ-249図　234SI出土石器実測図(2/3)〈1層〉

まとめ　住居の東側が調査区外のため詳細は不明であるがＰ１・２ほかを主柱穴とする４本柱構造と推定できる。住居の新旧関係から考えて、住居の時期は４Ｂ～6A期に位置づけられると推定できる。

234SI（第Ⅲ-247・248・249図、PL.41）

位置　遺跡中央部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.3ｍで、主軸の方位は、Ｎ-6°-Wである。

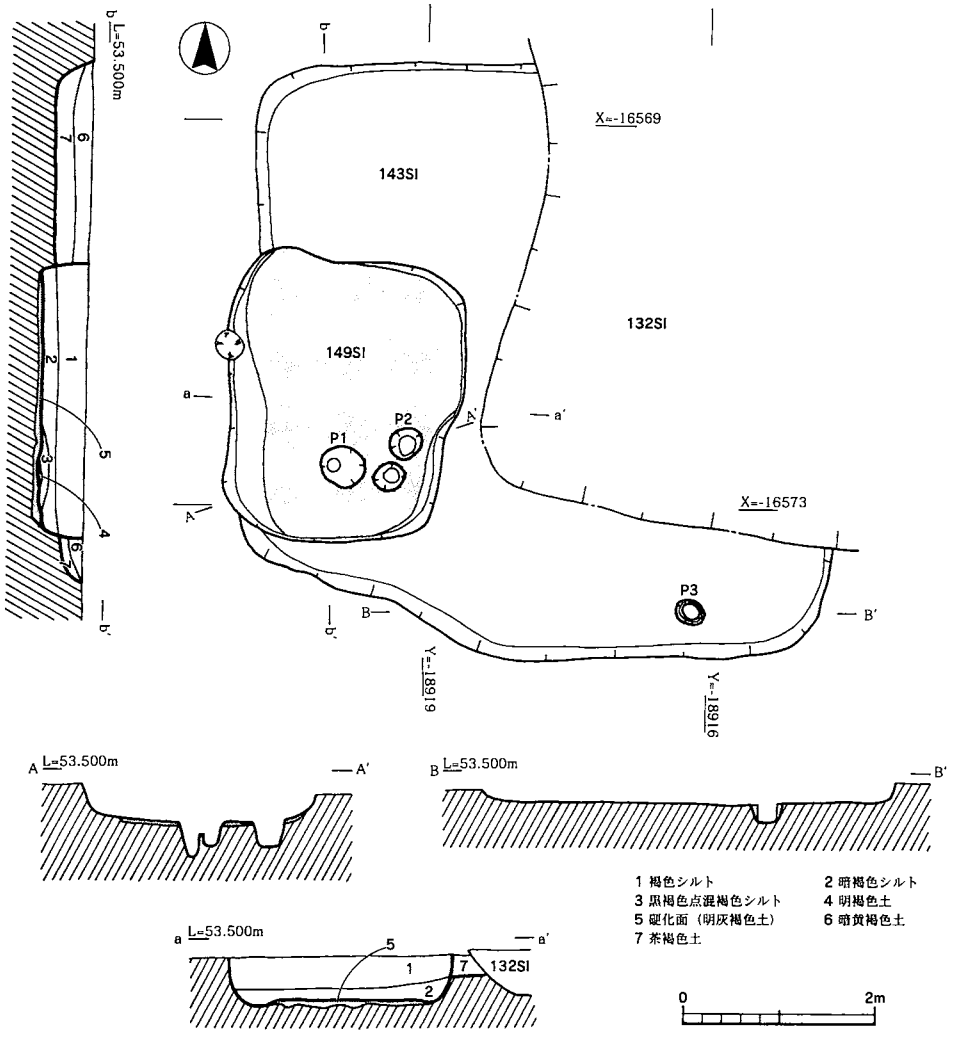
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.18ｍ、短軸1.40ｍ以上を測る。床面積は推測できず、検出面からの深さは0.36ｍである。埋土は２層に分かれる。

柱穴　柱穴の径は28～44㎝で、深さは16～42㎝である。柱痕跡は認められない。

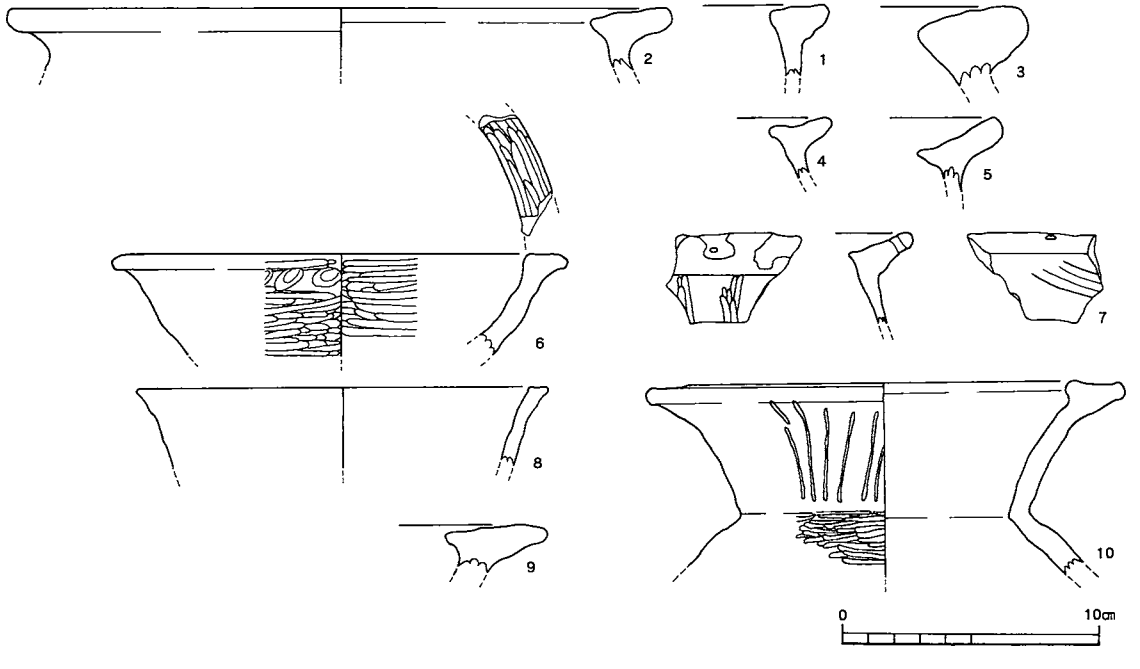
貯蔵穴　住居の西側に位置し、長軸110㎝、短軸80㎝、深さ60㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は３層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片８、壺口縁部片１・底部片１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

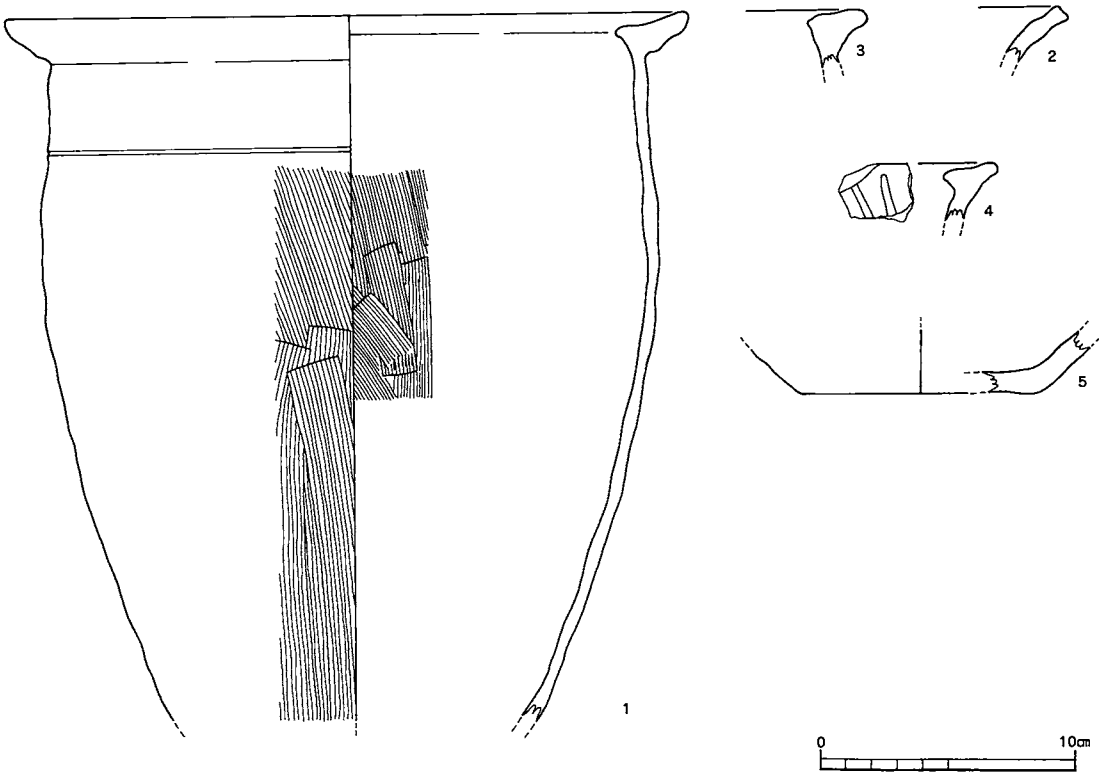
まとめ　住居の東側が調査区外のため詳細は不明であるが住居北西部に柱穴の検出があることから４本柱構造



第Ⅲ-250図　143SI・149SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-251図　143SI出土土器実測図〈2層(1・2)、1層(3～10)〉



第Ⅲ-252図　149SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、2層(2)、1層(3～5)〉

の可能性が高い。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器から考えて、住居の時期は6A期に位置づけられると推定できる。

143SI（第Ⅲ-250・251図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.0mで、この住居の埋没後、北東側に132SI、西側に149SIが建てられている。主軸の方位は真北である。

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸6.24m、短軸6.18mを測る。床面積は31.8㎡で、検出面からの深さは0.3mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は32㎝で、深さは16㎝である。柱痕跡の径は20㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片14、壺口縁部片4・底部片1が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　149SI及び132SIに壊されているため、柱構造が不明である。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A～4B期に位置づけられると推定できる。

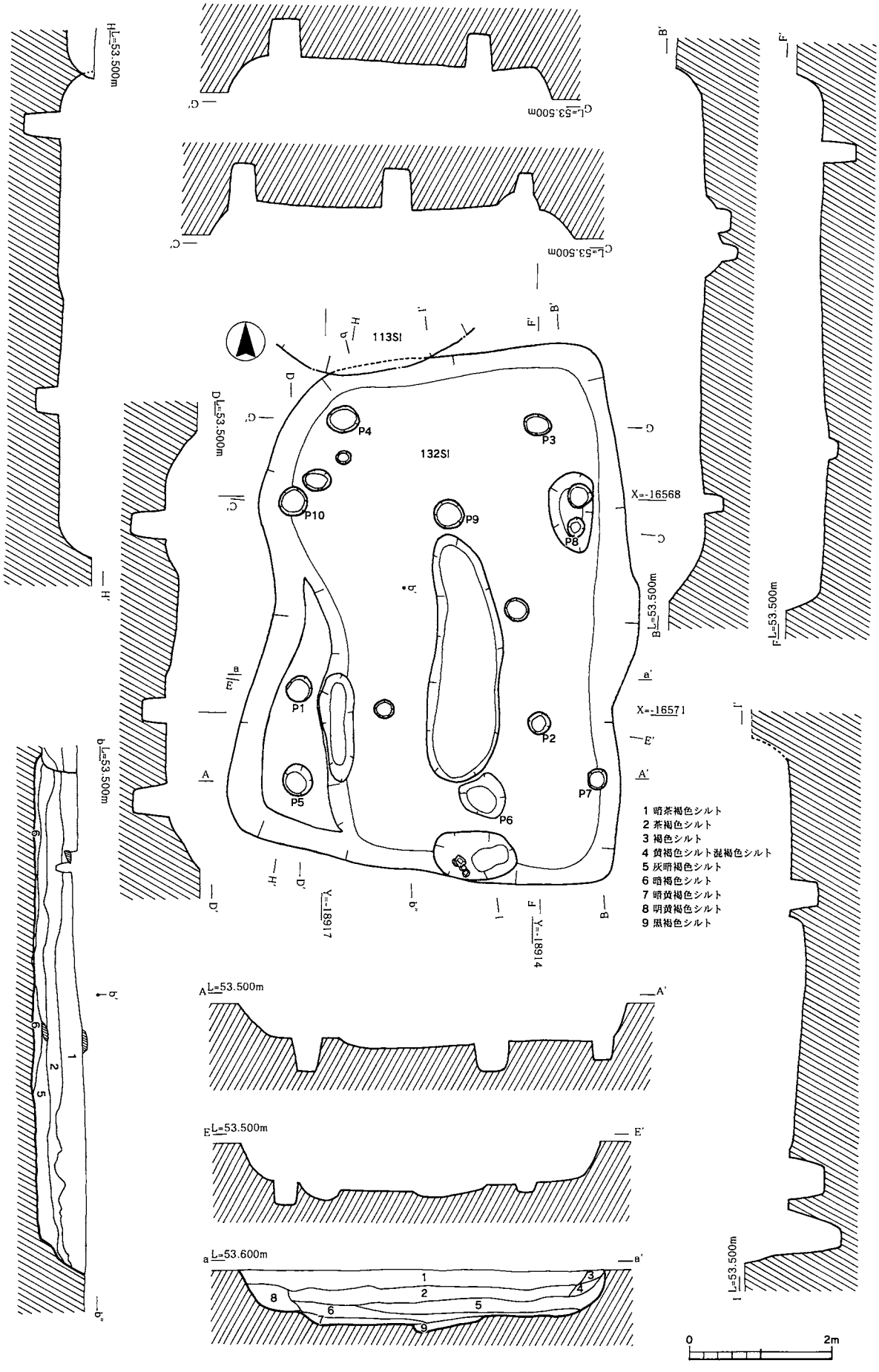
149SI（第Ⅲ-250・252図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形を多少削平されていると考えられる。床面の標高は約52.8mで、主軸の方位は、N-2°-Eである。

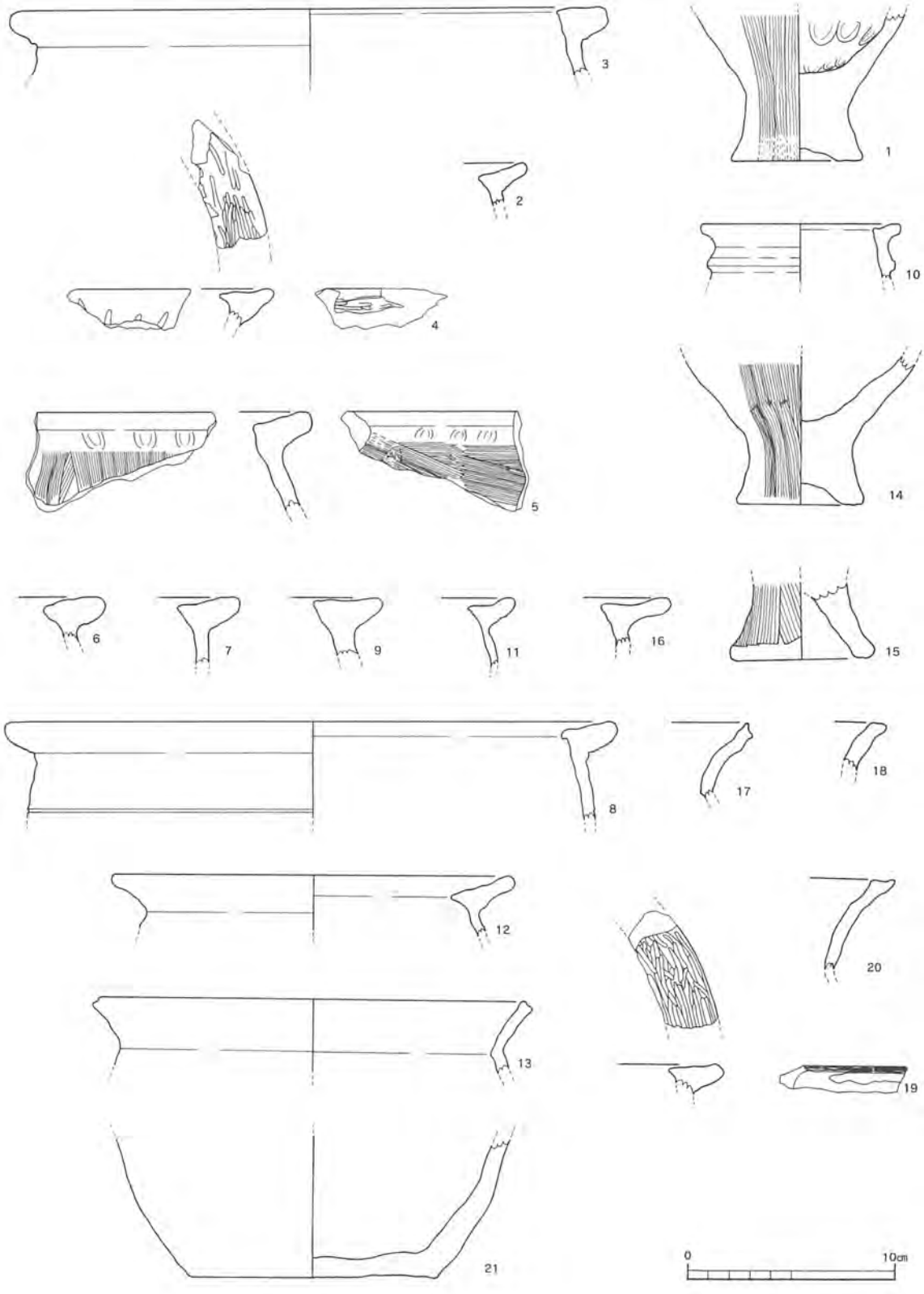
住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸2.89m、短軸2.48mを測る。床面積は6.16㎡で、検出面からの深さは0.5m以上であると推定される。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は28～46㎝で、深さは28～36㎝である。柱痕跡は認められない。

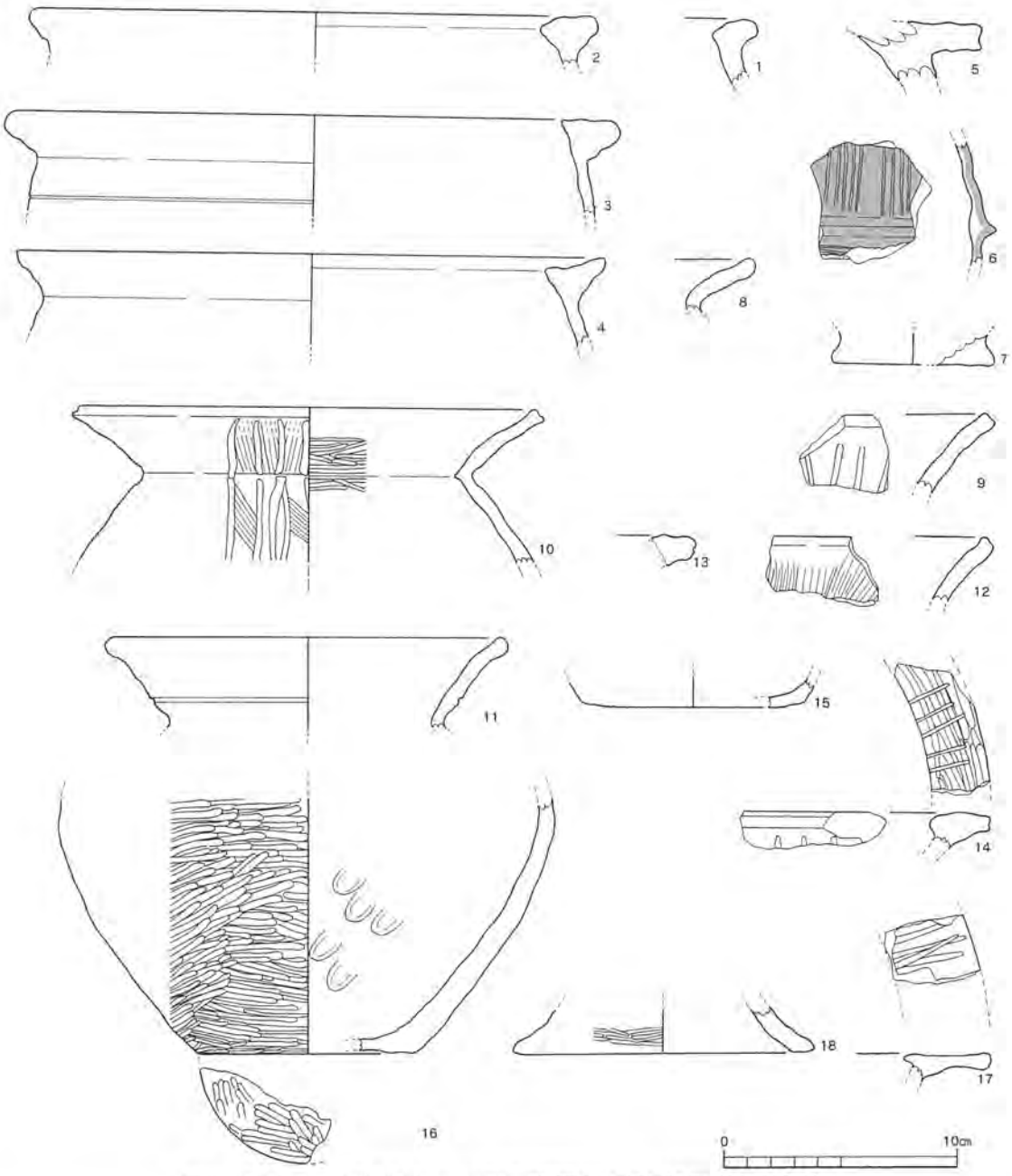
遺物出土状況　住居の埋土から、甕口縁部片3、壺口縁部片3・底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。



第Ⅲ-253図　132SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-254図　132SI出土土器実測図1(1/3)〈床面(1・2)、4層(3・4)、3層(5～21)〉



第Ⅲ-255図　132SI出土土器実測図2(1/3)〈2層(1～18)〉

まとめ　調査では143SIを先に発掘したが状況から判断して149SIの方が先行する遺構と考えられる。柱構造は明確でない。P1またはP2を主柱穴の1本とする2本柱構造の可能性がある。住居の時期は、出土遺物(第Ⅲ-252図-1)から4A期であると推定できる。

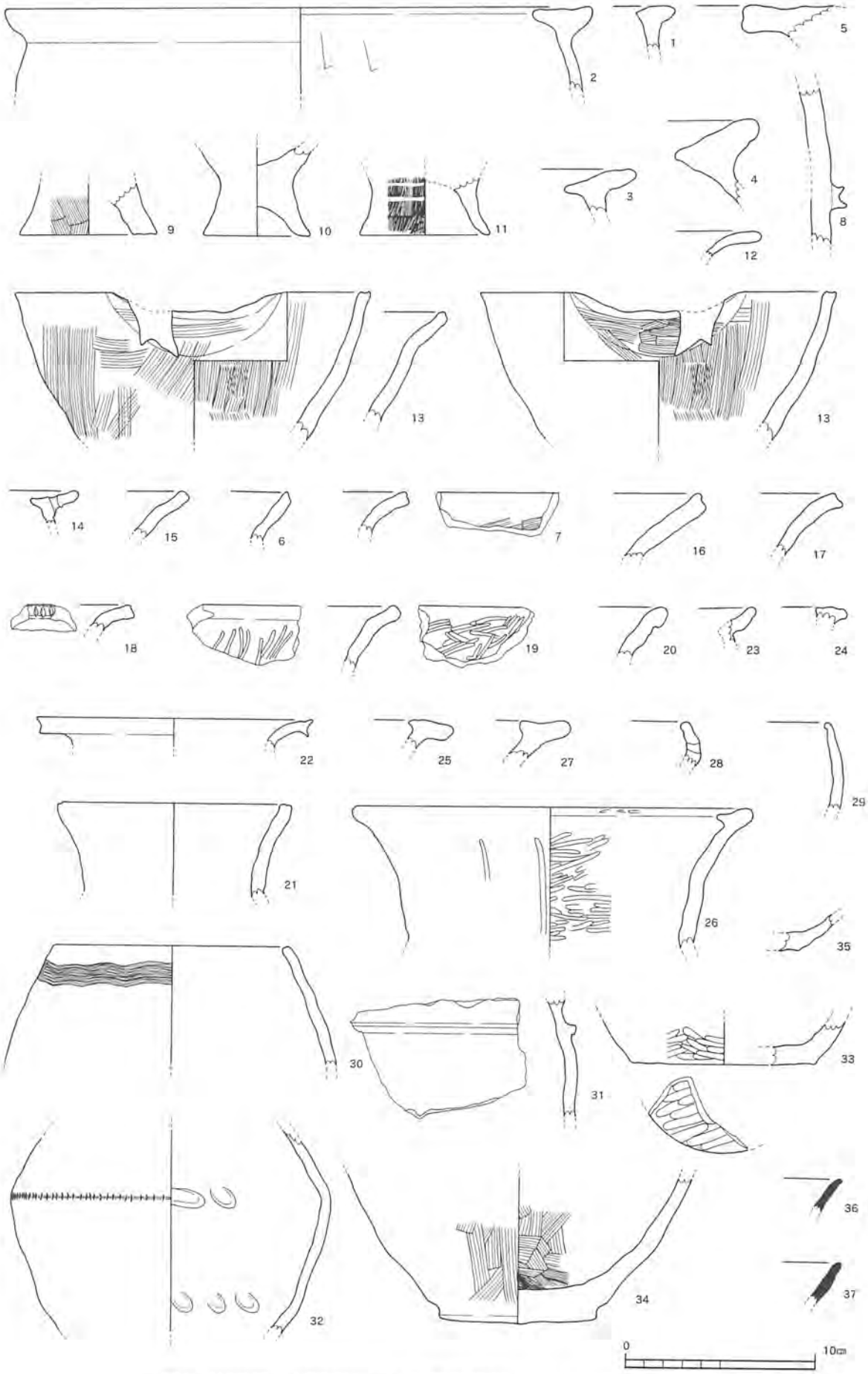
132SI(第Ⅲ-253・254・255・256・257・258・259図、PL.41・50)

位置　遺跡北西部(2区中央部)の自然堤防上に位置する。旧地形はほとんど削平されていると考えられる。床面の標高は約52.7mで、この住居埋没後、北側に113SIが建てられている。主軸の方位は、N-2°-Eである。

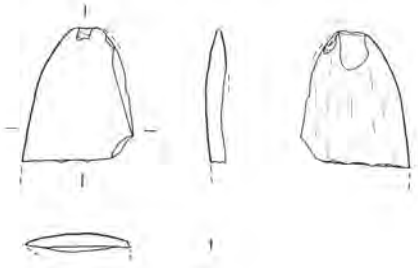
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸7.28m、短軸5.56mを測る。床面積は23.90㎡で、検出面からの深さは0.70mである。埋土は4層からなる。

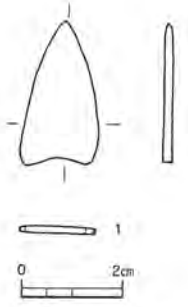
柱穴　柱穴の径は20～40㎝で、深さは32～57㎝である。柱痕跡は認められない。

遺物出土状況　床面直上から第Ⅲ-254図1・2が出土しているが、流れ込みの遺物と推定される。住居の埋土から合せて甕口縁部片185・底部片37、壺口縁部片63・底部片22、無頸壺片3が出土している。埋土上

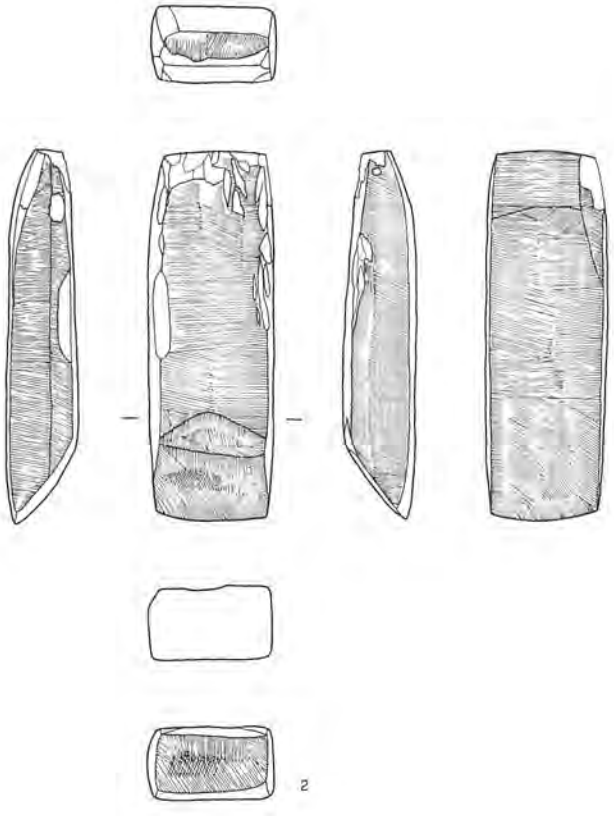


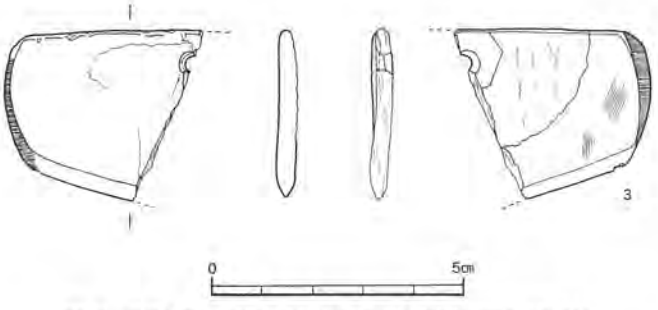
第Ⅲ-256図　132SI出土土器実測図3(1/3)〈1層(1～37)〉





第Ⅲ-258図
132SI出土鉄器実測図(2/3)〈2層〉





第Ⅲ-257図　132SI出土石器実測図1(2/3)
〈3層(1・2)、2層(3)〉

層から、鉄鏃1、磨製石斧を再利用した砥石1、磨製石斧1等が出土している。廃棄及び流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴はP1～4で構成されるものとP5～10で構成されるものとが考えられ、竪穴の形状・大きさなどからP1～4で建てられたのち、P5～10を主柱穴とするものに建て替えられたものではないかと考えられる。また、竪穴南東部には床面より20㎝の高さで最大幅90㎝、長さ3mのピット状遺構がある。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器(第Ⅲ-254図13・第Ⅲ-256図30等)や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7期に位置づけられると推定できる。

145SI（第Ⅲ-260図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9mで、この住居埋没後、北側に126SI、西側に102SI、南側に101SIが建てられている。主軸の方位は、N-26°-Wである。

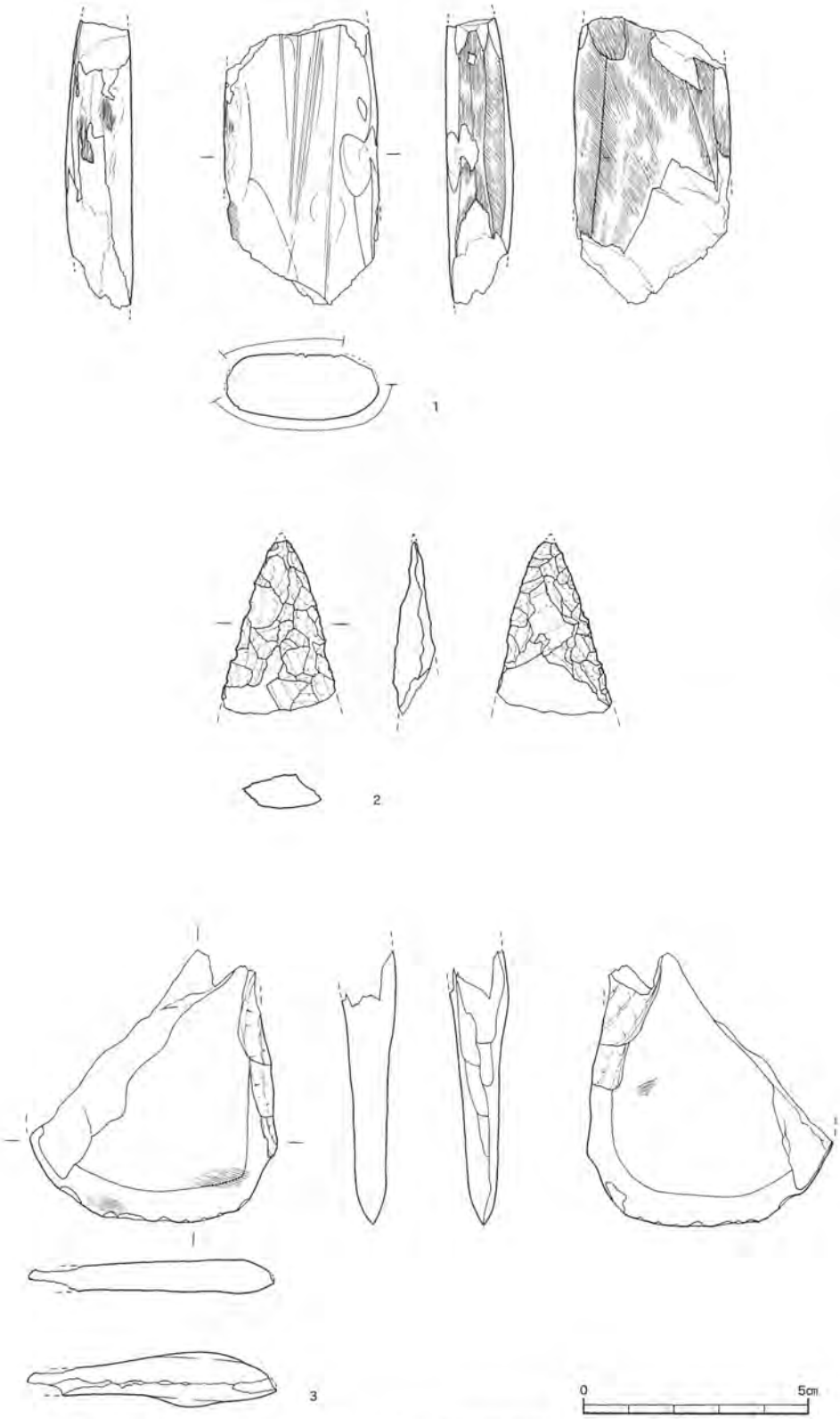
住居形態　平面形態は方形を呈する。長軸6.00m以上、短軸2.80m以上を測る。残存床面積は4.70㎡で、検出面からの深さは0.36mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は34～72㎝で深さは32～59㎝である。柱痕跡の径は21～26㎝である。

炉・貯蔵穴　未確認である。

遺物出土状況　住居の埋土から時期の決定できるような遺物は出土していない。

まとめ　P7～9を主柱穴とする4本柱構造でP10・11を支柱とする構造と考えられる。

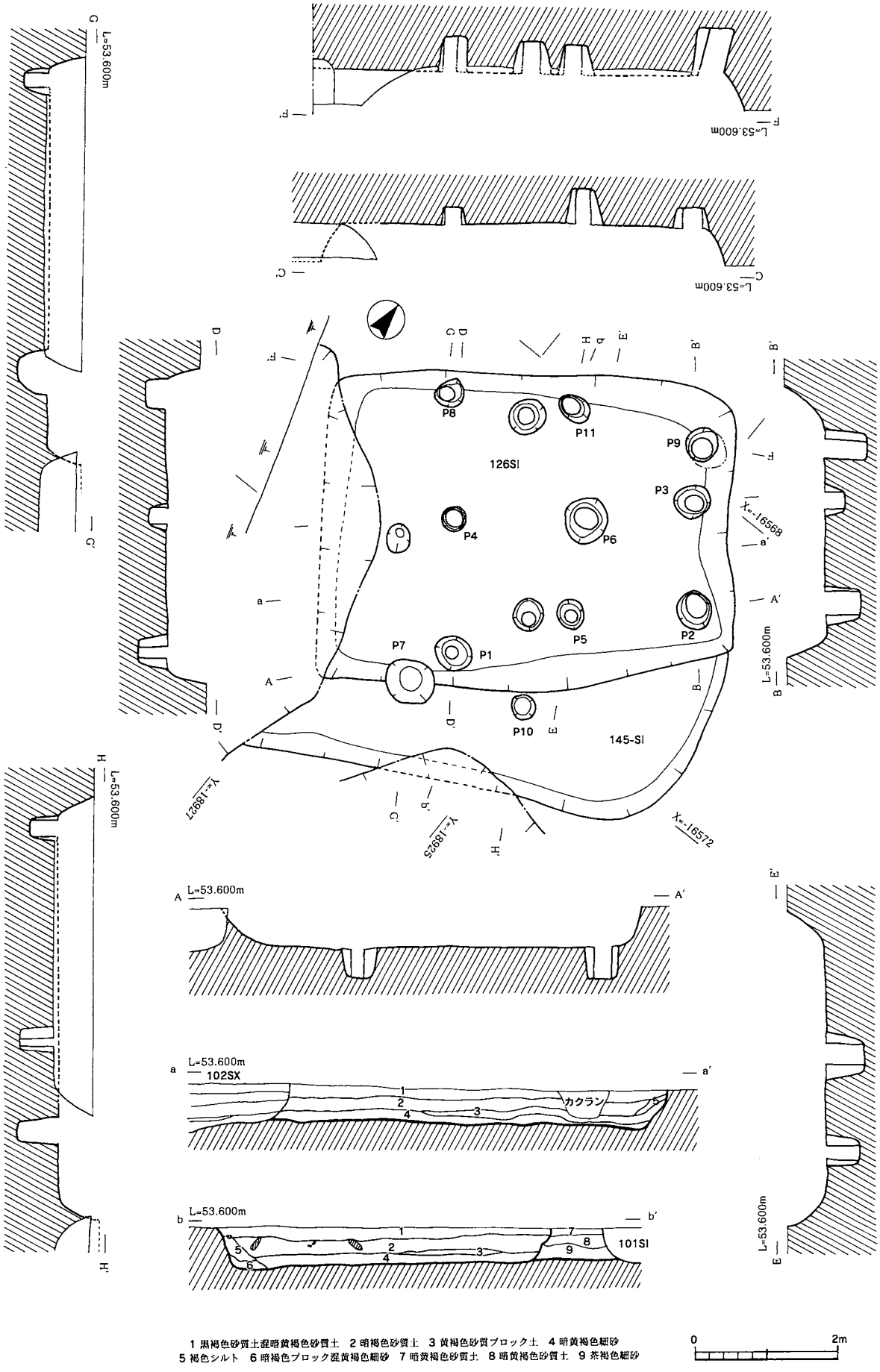


第Ⅲ-259図　132SI出土石器実測図2(2/3)〈2層(1)、1層(2･3)〉

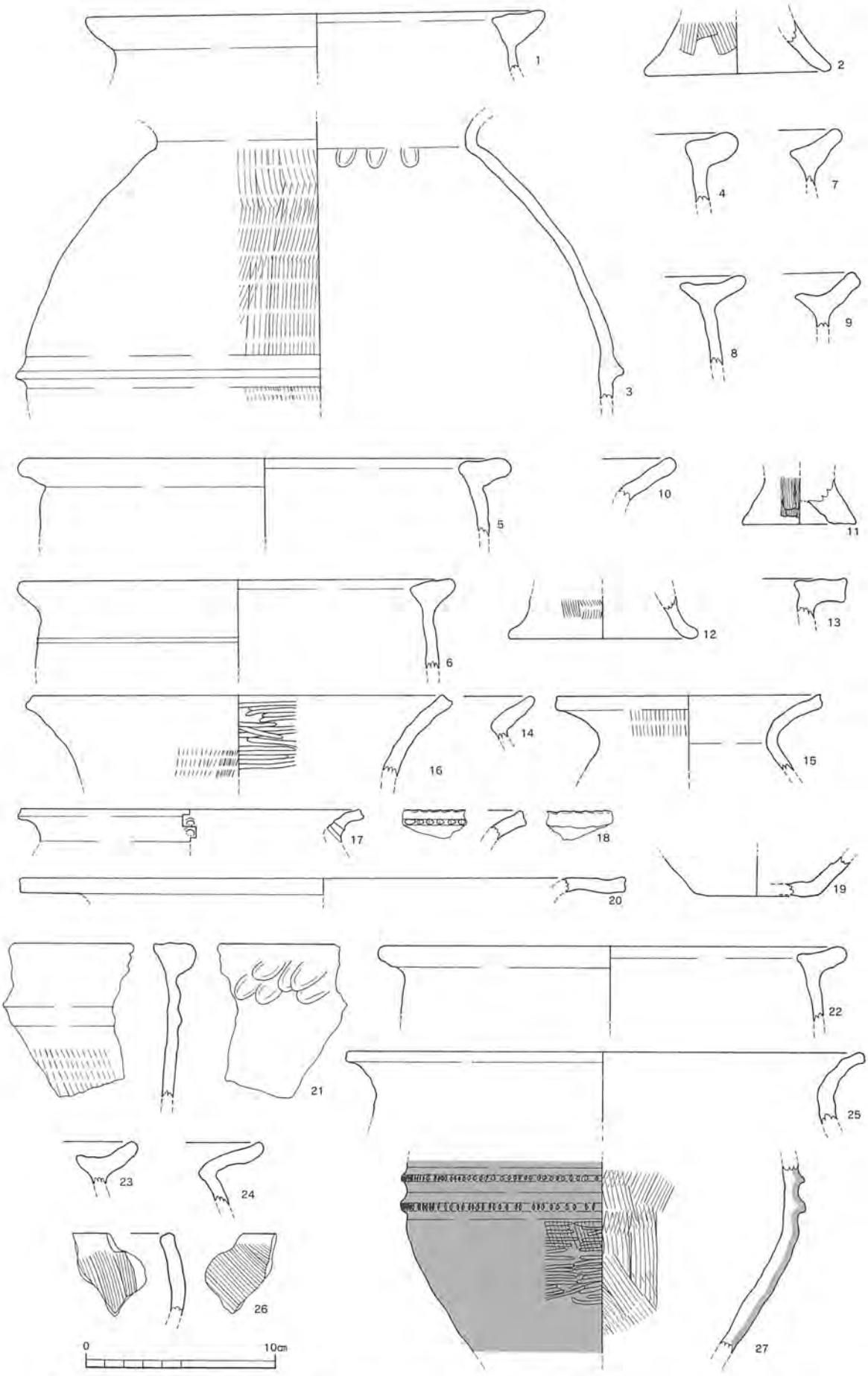
住居の時期は、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期以前に位置づけられると推定できる。

126SI（第Ⅲ-260・261・262・263・264図、PL.28・41・50）

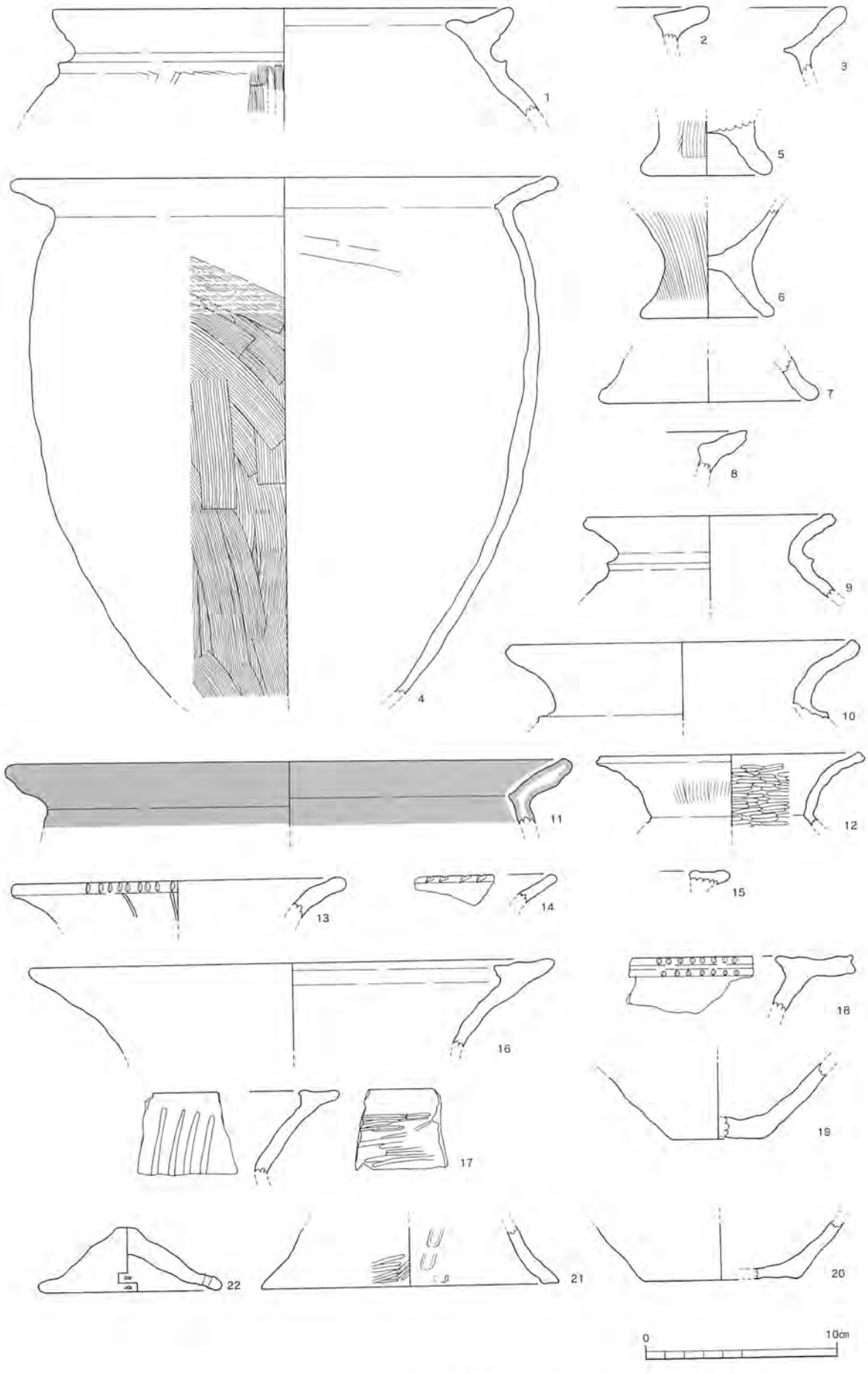
位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高



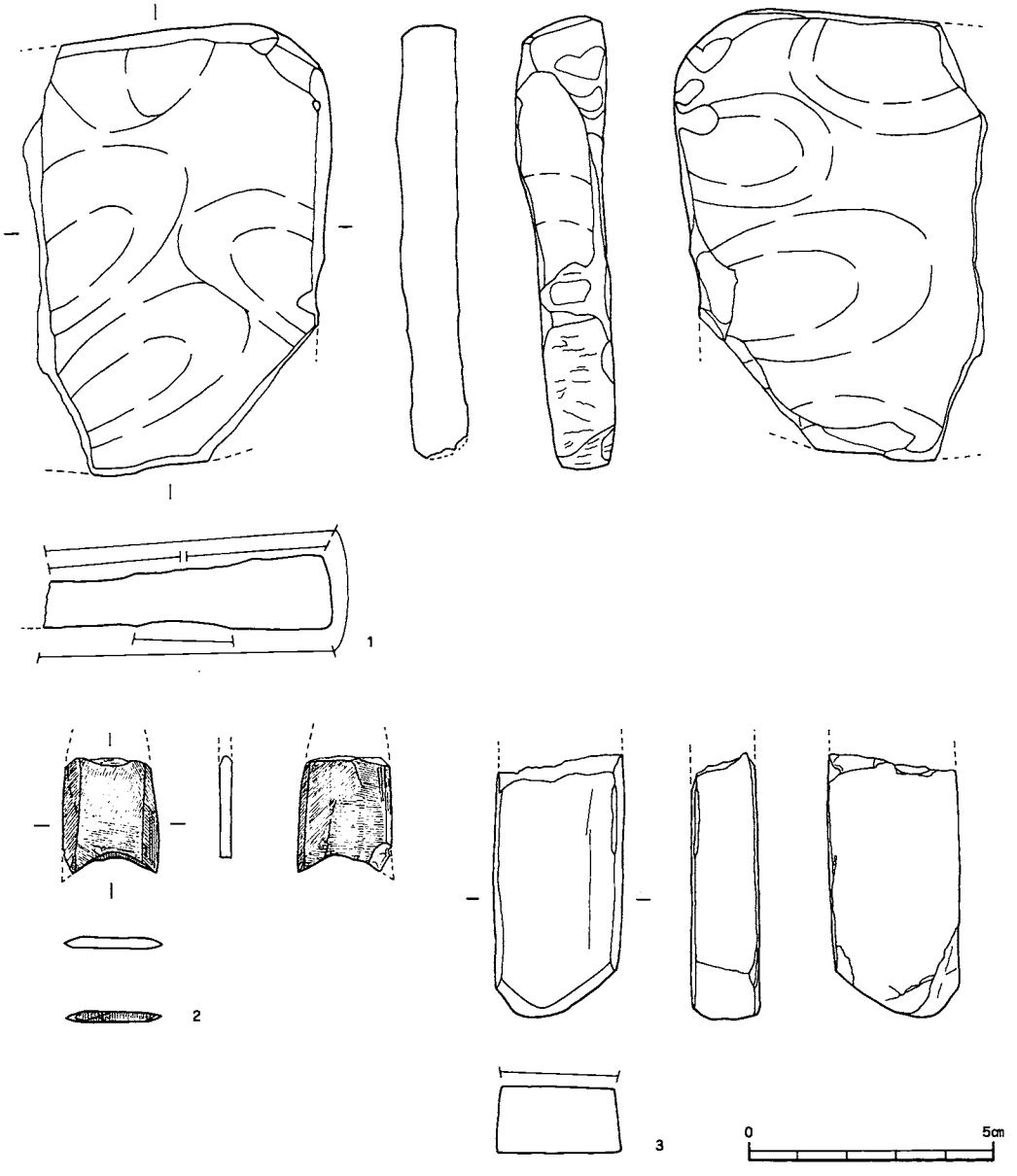
第Ⅲ-260図　145SI・126SI　平面・断面図(1/80)



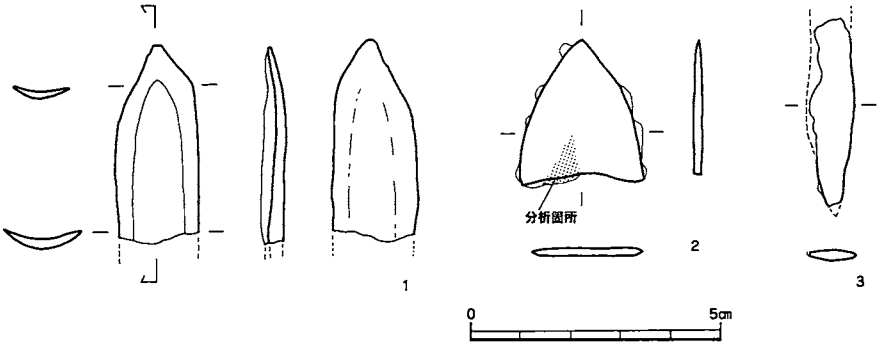
第Ⅲ-261図　126SI出土土器実測図1(1/3)〈4層(1～3)、3層(4～20)、2層(21～27)〉



第Ⅲ-262図　126SI出土土器実測図2(1/3)〈1層(1～22)〉



第Ⅲ-263図　126SI出土石器実測図(2/3)〈4層(1)、1層(2・3)〉



第Ⅲ-264図　126SI出土鉄器実測図(2/3)〈1層〉

は約 52.9 mで、この住居埋没後、西側に 102SI が建てられている。主軸の方位はN -35°-W である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 5.72 m、短軸 4.42 mを測る。推定床面積は 19.13 ㎡で、残存床面積は 18.35 ㎡、検出面からの深さは 0.54 mである。埋土は 4 層からなる。

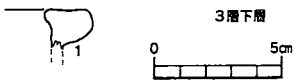
柱穴　柱穴の径は 34 ～ 64 ㎝で、深さは 24 ～ 58 ㎝である。柱痕跡の径は 18 ～ 30 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 42・底部片 9、壺口縁部片 33・底部片 3 が出土している。廃棄及び流れ込みの遺物と推定できる。埋土 1 層から、やりがんな片、鉄鏃、棒状鉄器、砥石 2、磨製石鏃片 1 が出土している。これらは、流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　P 1・2 を主柱穴とする 4 本柱構造で P 5・6 を支柱とする構造と考えられるが、隣接する 145SI とは床面のレベルがほとんど変わらないため、P 7・8・9 を主柱穴とする 4 本柱構造で、P 10・11 を支柱とする構造のものから縮小して使用した可能性がある。住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 6A 期に位置づけられると推定できる。

103SI（第Ⅲ-51・Ⅲ-265・266図、PL.41）

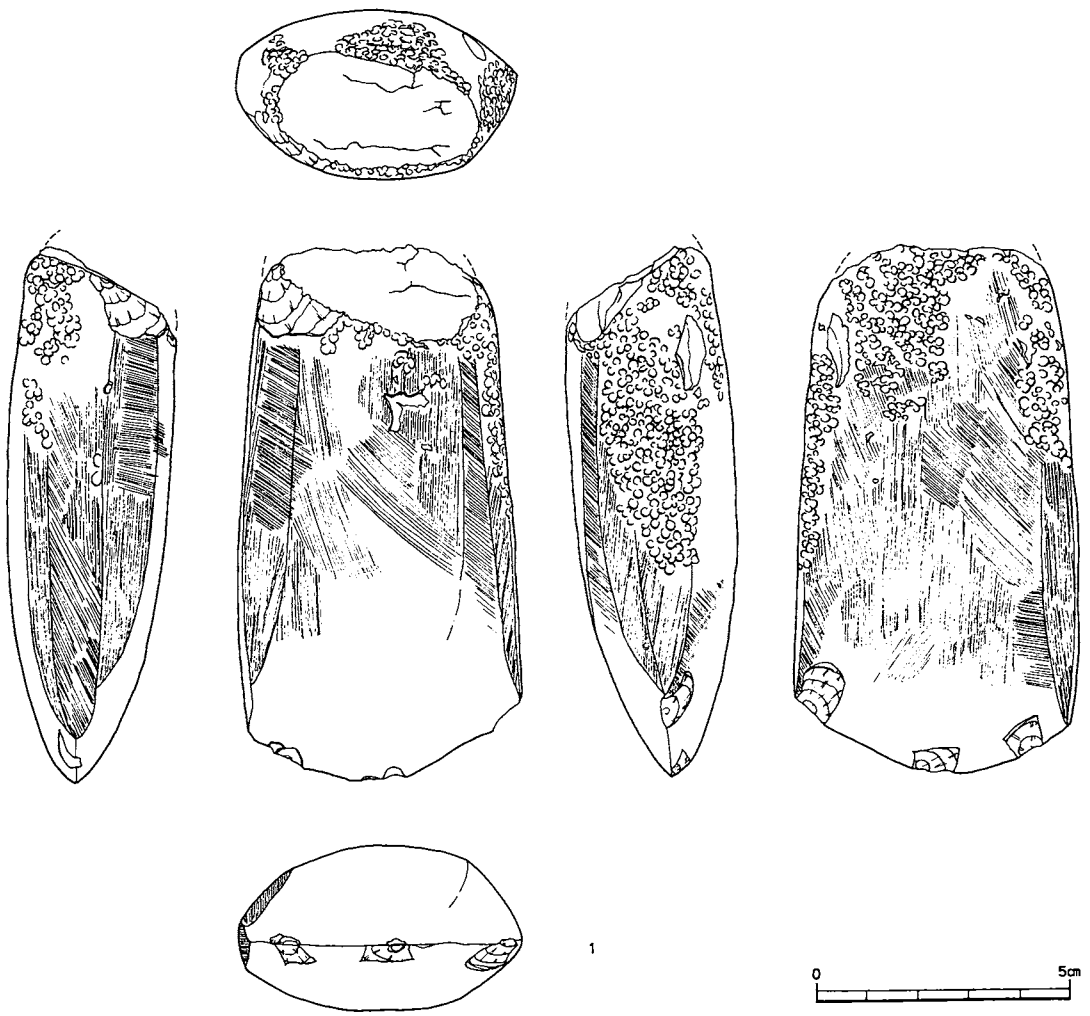
102SI の南側にわずかに検出した。埋土は、3 層からなる。住居形態・法量は不明である。遺物は、時期の推定できる遺物は 1 点（第Ⅲ -265 図 1）のみで、石斧（第Ⅲ -266 図 1）も出土している。



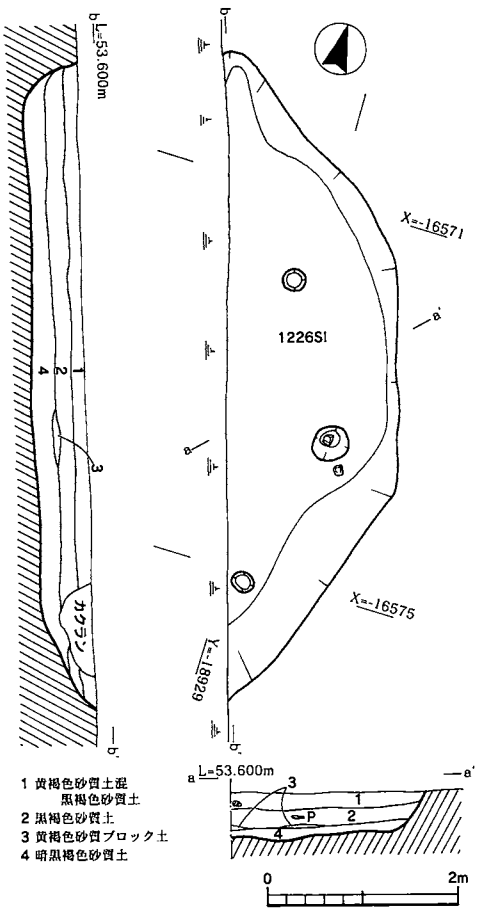
第Ⅲ-265図　103SI出土土器実測図(1/3)

1226SI（第Ⅲ-267・269図）

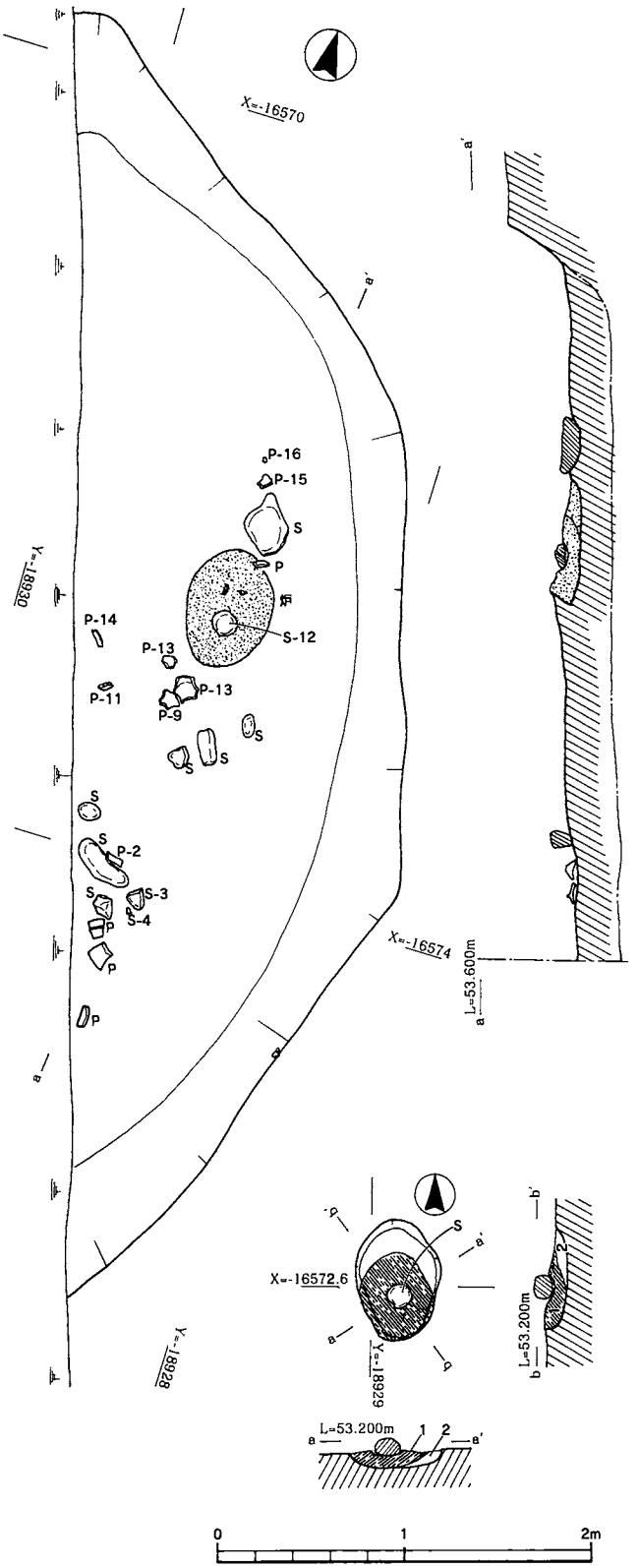
位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 53.0 m で、西側は調査区外にかかる。主軸の方位は、不明である。



第Ⅲ-266図　103SI出土石器実測図(2/3)〈3層〉



第Ⅲ-267図　1226SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-268図　102SX遺物出土状況・炉平面・断面図(1/40)

住居形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸6.82 m、短軸、1.96 m以上を測る。残存床面積は4.50 ㎡で、検出面からの深さは0.55 mである。埋土は3層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、細片が出土したのみで、時期を決定できるものはない。

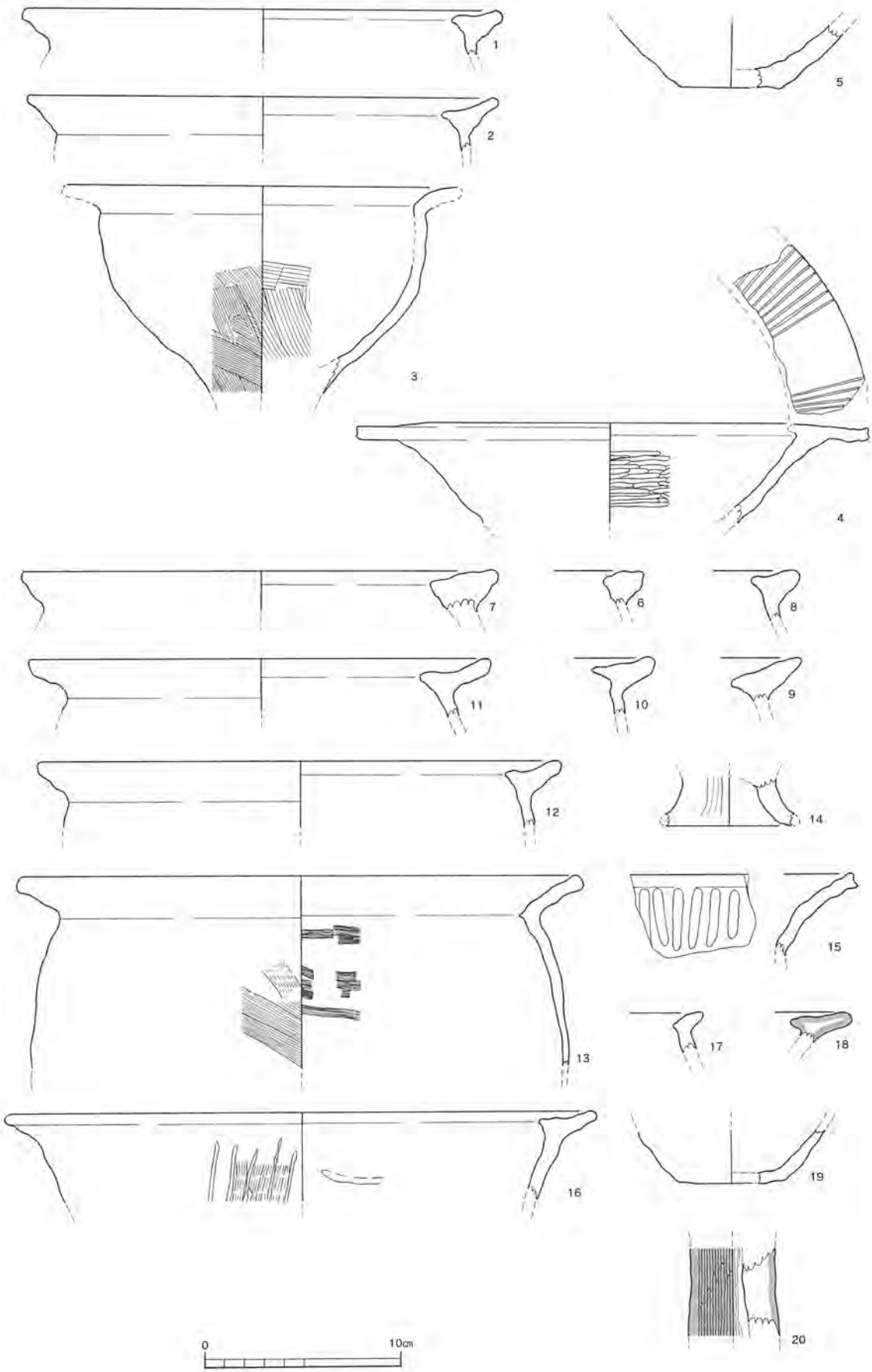
まとめ　遺構の大半が調査区外であり、詳細不明である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、102SIが同一の輪郭を持つことから考えて、住居の時期は7期よりさほどさかのぼらない時期に位置づけられると推定できる。

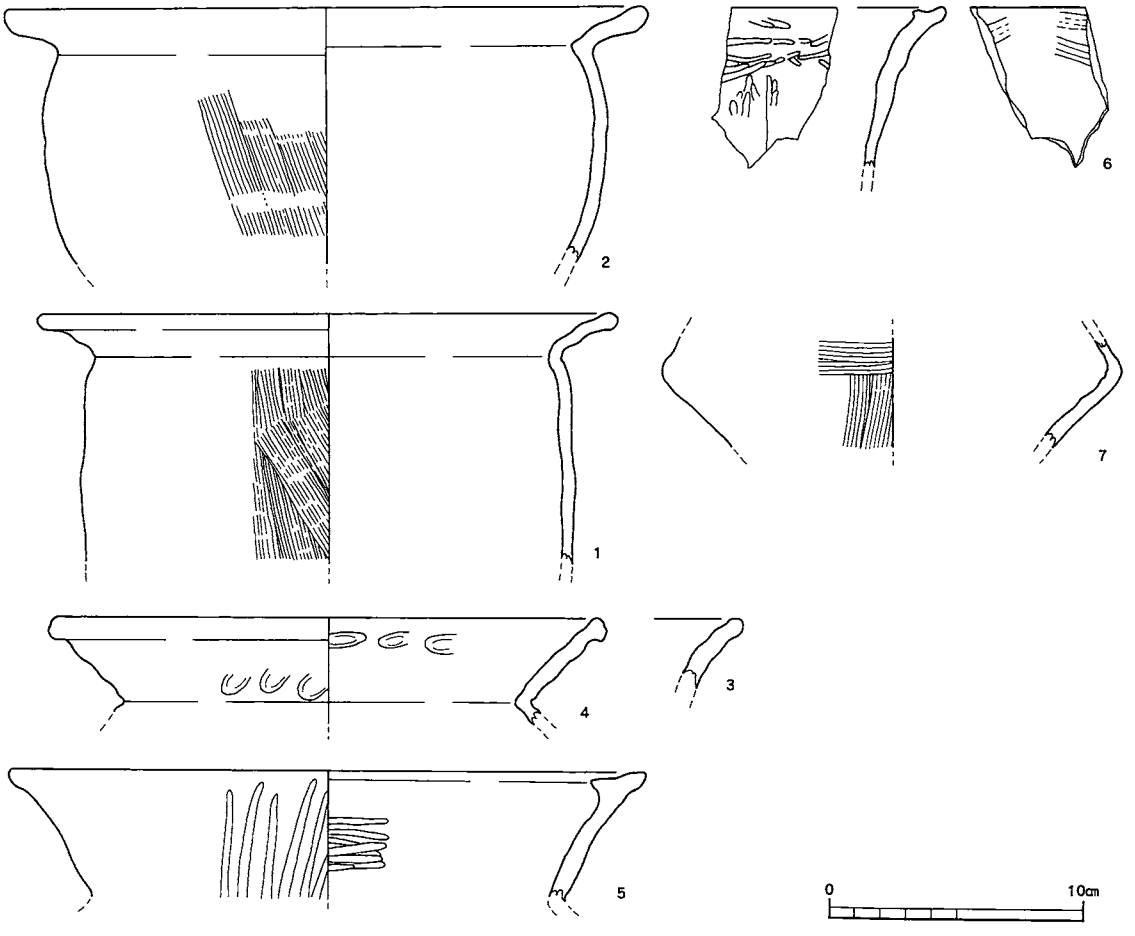
102 SX（第Ⅲ-268・269・270・271図、PL.50）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.0 mで、西側は調査区外にかかり、主軸の方位は不明である。

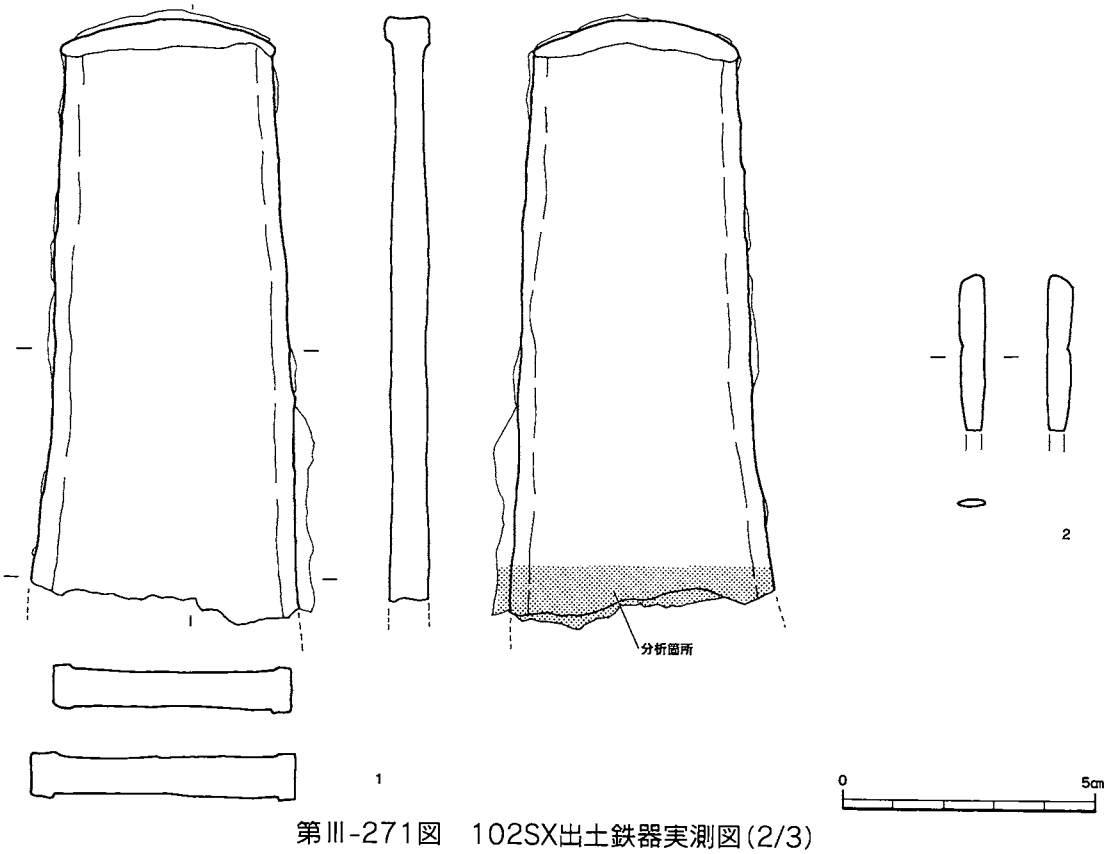
形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸6.82 m、短軸1.986 m以上を測る。残存床面積は4.50 ㎡で、検出面からの深さは0.28 mである。埋土は2層からなる。



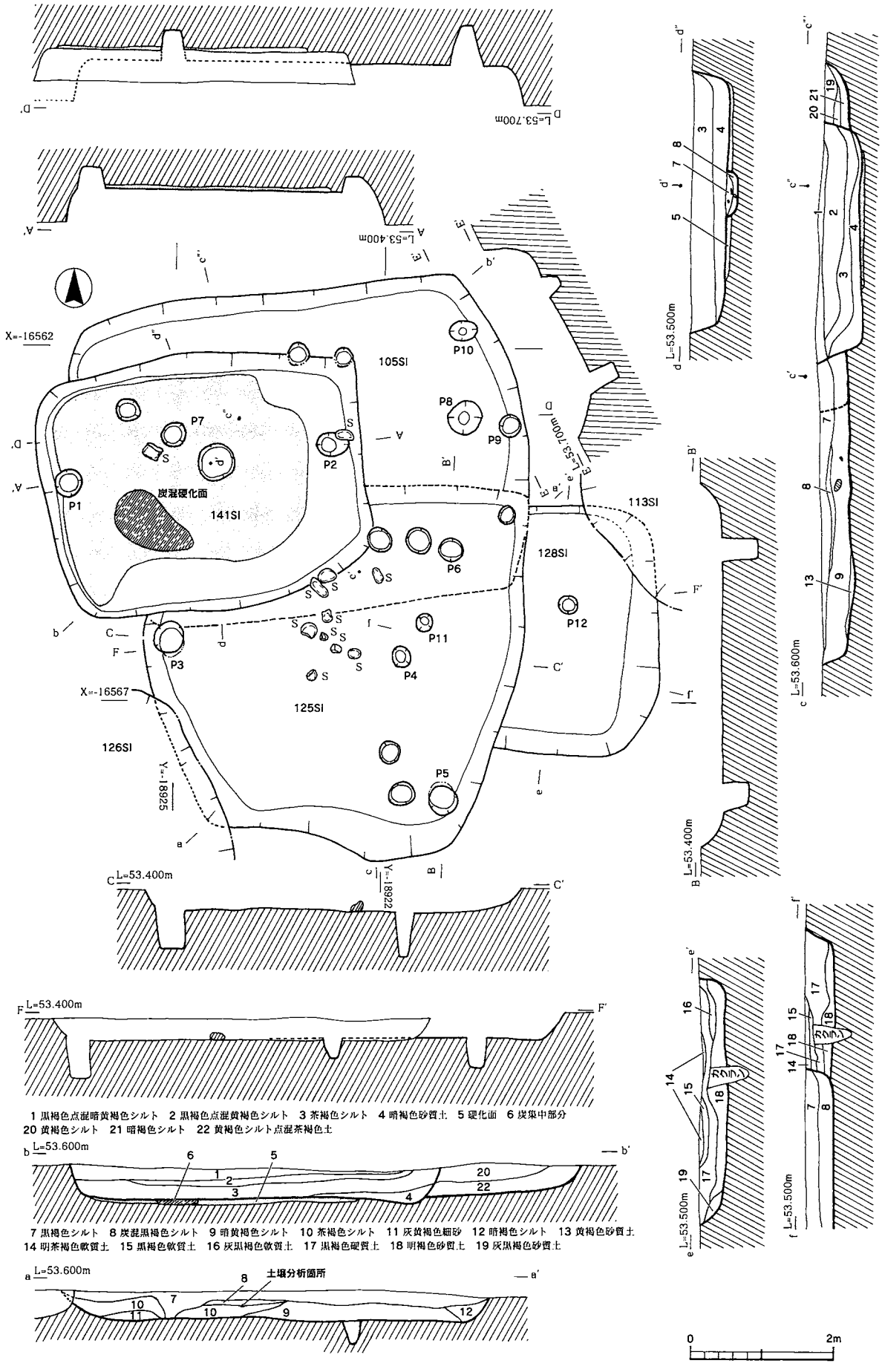
第Ⅲ-269図　1226SI〈床面(1～4)〉・102SX〈炉(5)、2層(6～17)、1層(18～20)〉出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-270図　102SX出土土器実測図2(1/3)〈1層(1～7)〉



第Ⅲ-271図　102SX出土鉄器実測図(2/3)



第Ⅲ-272図　105SI・128SI・125SI・141SI　平面・断面図(1/80)

炉　住居の東側に位置し、長軸65㎝、短軸45㎝、深さ10㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は1層からなる。

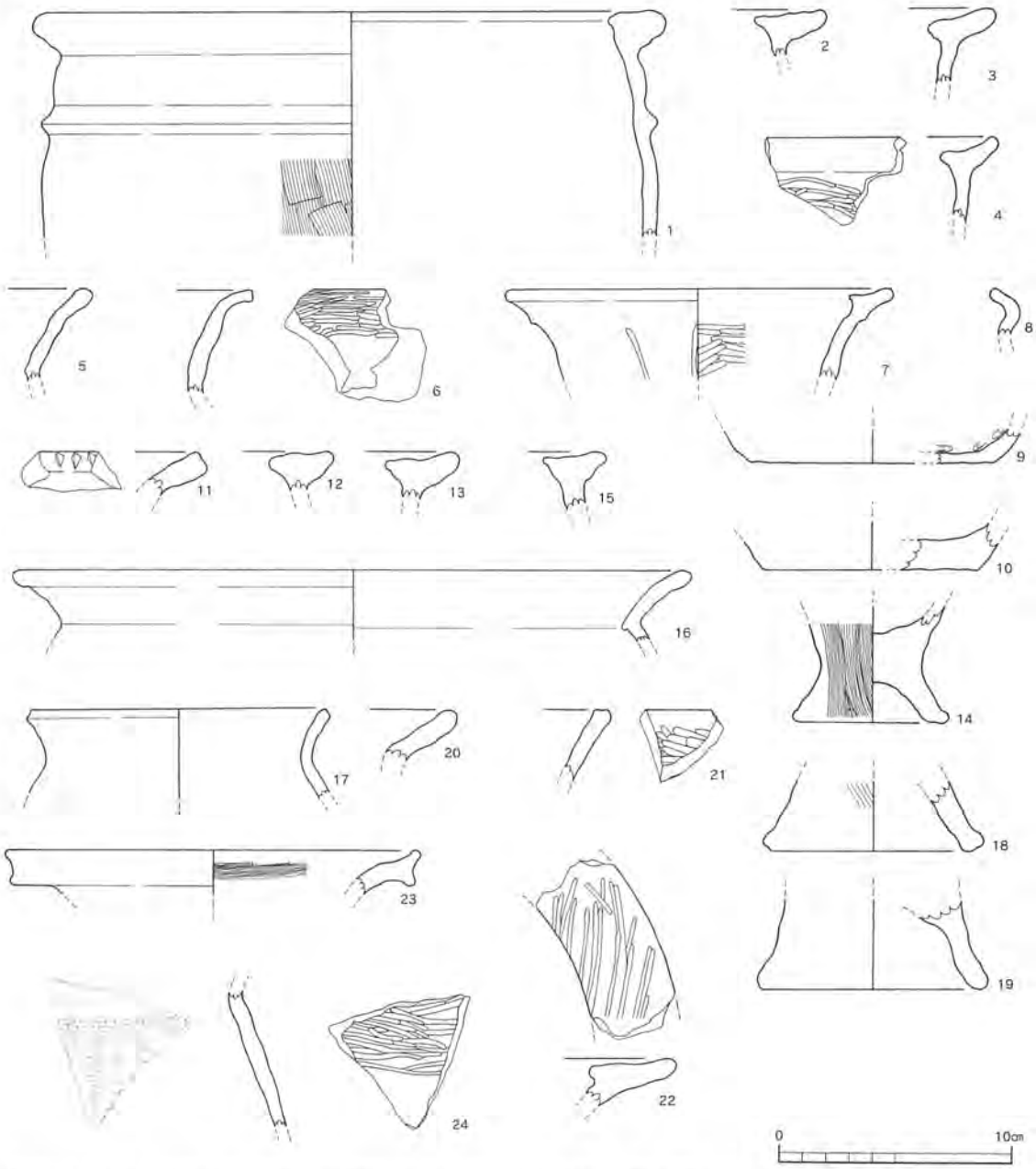
遺物出土状況　埋土からは、甕口縁部片25・底部片1、壺口縁部片7・底部片3、高坏片1が出土している。第Ⅲ-270図1・2・5は廃棄された状況で出土した。板状鉄斧（第Ⅲ-271図1）も下層に廃棄された状況で出土した。他遺物も流れ込み及び廃棄された遺物と考えられる。

まとめ　1226SIが埋没後に建て替えられた遺構と考えられる。東部に炉が検出されたことにより住居の可能性が高い。輪郭は同一で柱穴は検出されていない。遺物が床面に散乱して出土した。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、時期は7期に位置づけられると推定できる。

105SI（第Ⅲ-272・273図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は



第Ⅲ-273図　105SI出土土器実測図（1/3）〈2層（1～10）、1層下層（11～14）、1層上層（15～24）〉

約53.0 mで、この住居埋没後、南側に125SI、西側に141SIが建てられている。主軸の方位は、N -7 °-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸6.04 m、短軸2.80以上mを測る。推定床面積は20.2 ㎡で残存床面積7.2 ㎡、検出面からの深さは0.4 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は30 ～ 46 ㎝で、深さは35 ～ 58 ㎝である。柱痕跡は認められない。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片45・底部片8、壺口縁部片18・底部片3、無頸壺片3、鉢2、高坏2が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

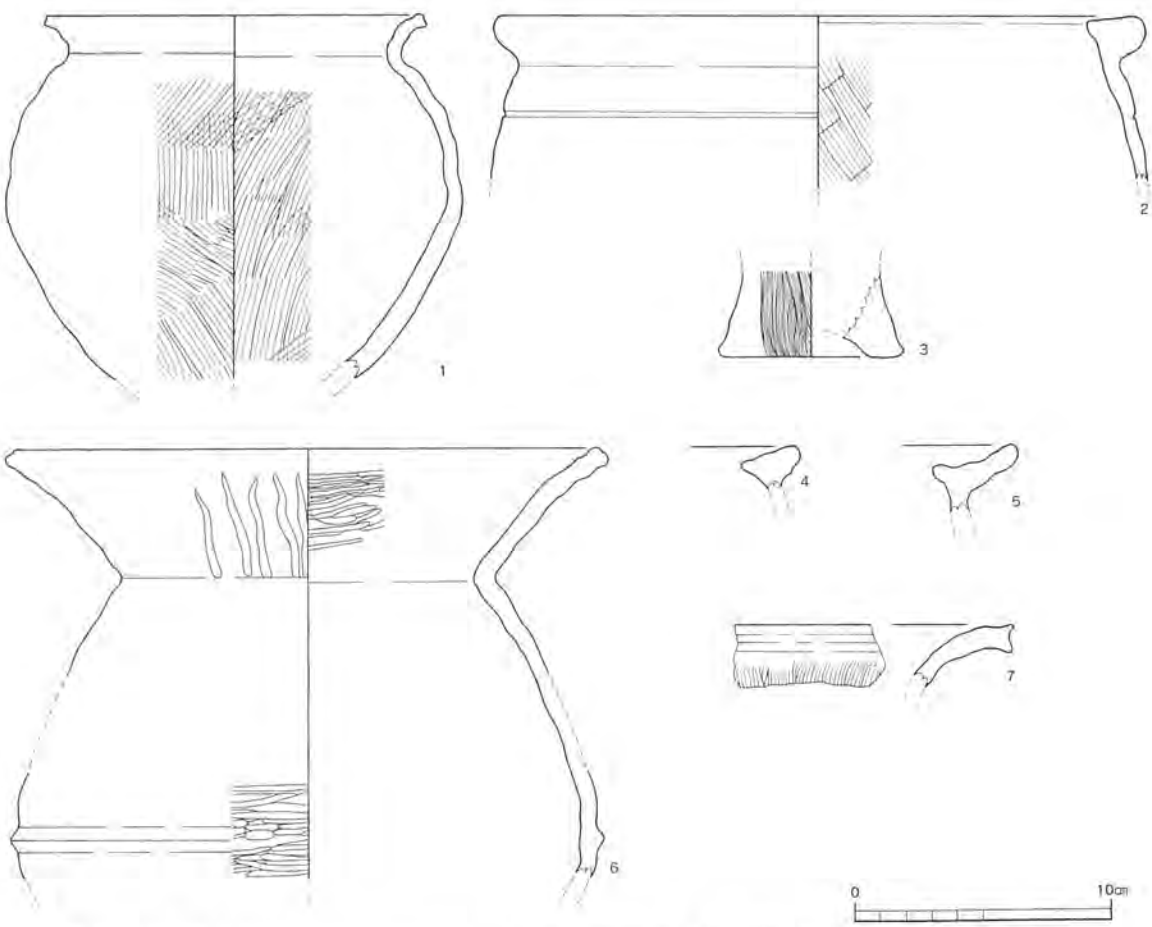
まとめ　主柱穴はP 7・8の2本柱で構成されるものと考えられる。また、竪穴東側で竪穴入口と見られるP 9・10の柱穴が検出される。発掘調査段階では、この住居は廃絶後に125SIが建てられたと考えたが、断面図の床面の微妙な段差及びこの住居の出土遺物から125SI住居廃絶後に105SIが建てられたと考えた方が妥当であり、出土遺物等からこの住居を7期と推定したい。

128SI（第Ⅲ -272・274図、PL.28）

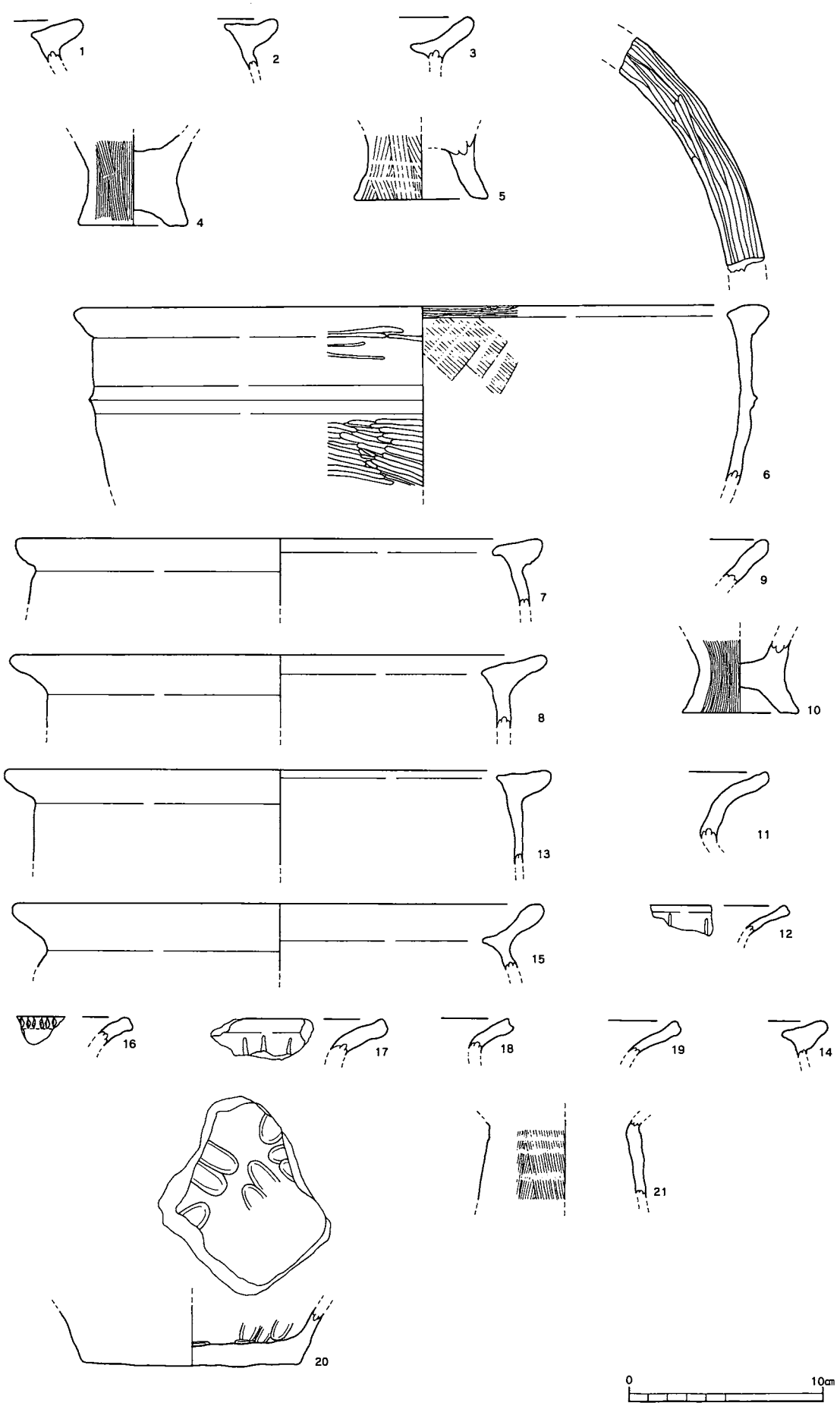
位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.0 mで、北東側はこの住居埋没後、東側に113SIが、西側に125SIが建てられている。主軸の方位は、真北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸1.86 m以上、短軸3.78 mを測る。残存床面積は4.50 ㎡で、検出面からの深さは0.5 mである。埋土は4層からなる。

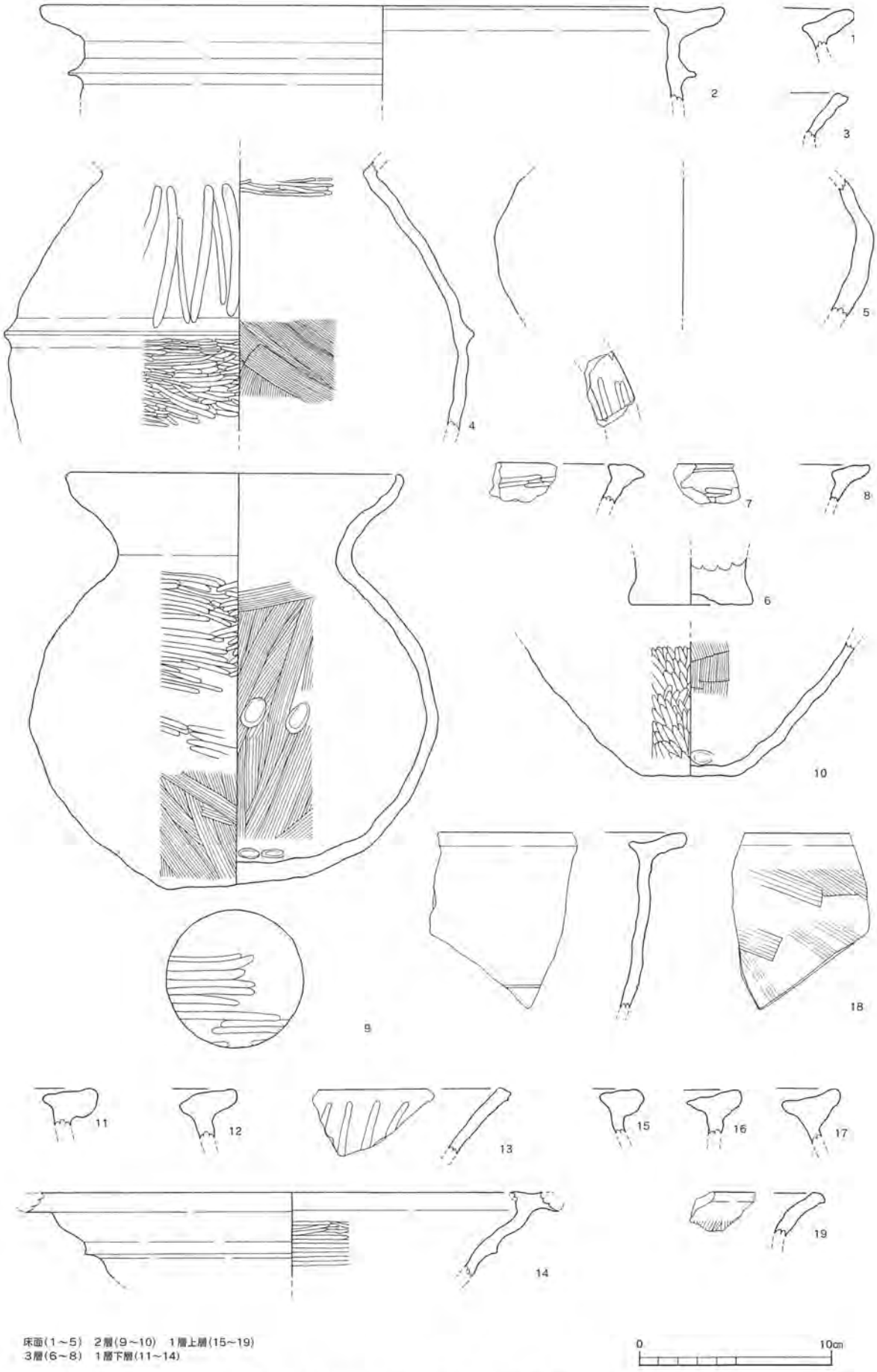
柱穴　柱穴の径は24 ㎝で、深さは24 ㎝である。柱痕跡は認められない。



第Ⅲ-274図　128SI出土土器実測図（1/3）〈肩部（1）、3層（2・3）、2層（4～6）、1層（7）〉



第Ⅲ-275図　125SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1～6)、2層(7～12)、1層(13～21)〉



床面(1～5)　2層(9～10)　1層上層(15～19)
3層(6～8)　1層下層(11～14)

第Ⅲ-276図　141SI出土土器実測図(1/3)

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 13・底部片 1、壺口縁部片 4 が出土している。廃棄及び流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴Ｐ 11・12 の 2 本柱で構成されていると考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器（第Ⅲ -274 図 1 等）や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 7 期に位置づけられると推定できる。

125 SI（第Ⅲ -272・275 図）

位置　1 遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 53.0 m で、この住居埋没後、北西部に 141SI が建てられている。主軸の方位は、N -3°-W である。

住居形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 5.40 m、短軸 5.38 m を測る。推定床面積は 22.05 ㎡で、残存床面積は 20.2 ㎡である。検出面からの深さは 0.44 m である。埋土は 3 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 22 ～ 46 ㎝で、深さは 23 ～ 56 ㎝である。柱痕跡は認められない。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 31・底部片 4、壺口縁部片 26・底部片 2、高坏 1 が出土している。流れ込みないし廃棄の遺物と考えられる。

まとめ　6 本の柱で構成されるものと考えられるが、Ｐ 3・4 の主柱穴と、Ｐ 5・6 の支柱だけしか検出できていない。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期 5 期に位置づけられると推定できる。

141SI（第Ⅲ -272・276 図、PL.28）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.8 m で、主軸の方位は、N -11°-W である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 4.58 m、短軸 3.64 m を測る。床面積は 13.44 ㎡で、検出面からの深さは 0.6 m である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は 3 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 34 ～ 50 ㎝で、深さは 35 ～ 54 ㎝である。柱痕跡は認められない。

炉　炉の本体は不明であるが、住居の南西部に長軸 1.2 m、短軸 0.7 m 厚さ 3 ～ 4 ㎝の楕円形の範囲で炭を検出した。

遺物出土状況　床面から 20 ㎝の上でほぼ完形の壺（第Ⅲ -276 図 9）が出土している。廃棄された可能性が高い。住居の埋土からは、甕口縁部片 21・底部片 1、壺口縁部片 6・底部片 3 が出土している。廃棄及び流れ込みの遺物と考えられる。

まとめ　主柱穴は（Ｐ 1・2）で構成される 2 本柱構造と考えられる。住居の新旧関係や出土土器から住居の時期は、8 期と考えられる。

155SI（第Ⅲ -277・278 図）

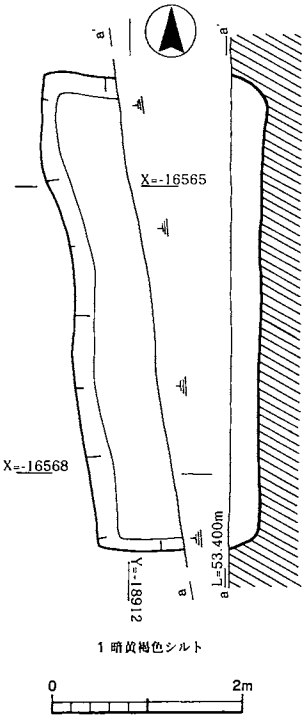
位置　遺跡北西部（2 区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.0 m で、東側のほとんどが調査区外にかかる。主軸の方位はN -8°-W である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 5.02 m、短軸 0.84 m 以上を測る。残存床面積は 3.30 ㎡で、検出面からの深さは 0.31 m である。埋土は 1 層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 14・底部片 1、壺口縁部片 6・底部片 2 が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　遺構のほとんどが調査区外にかかり詳細不明である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器から考えて、住居の時期は 6A 期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-277図　155SI
平面・断面図(1/80)

127SI（第Ⅲ-279・281・282図、PL.28・41）

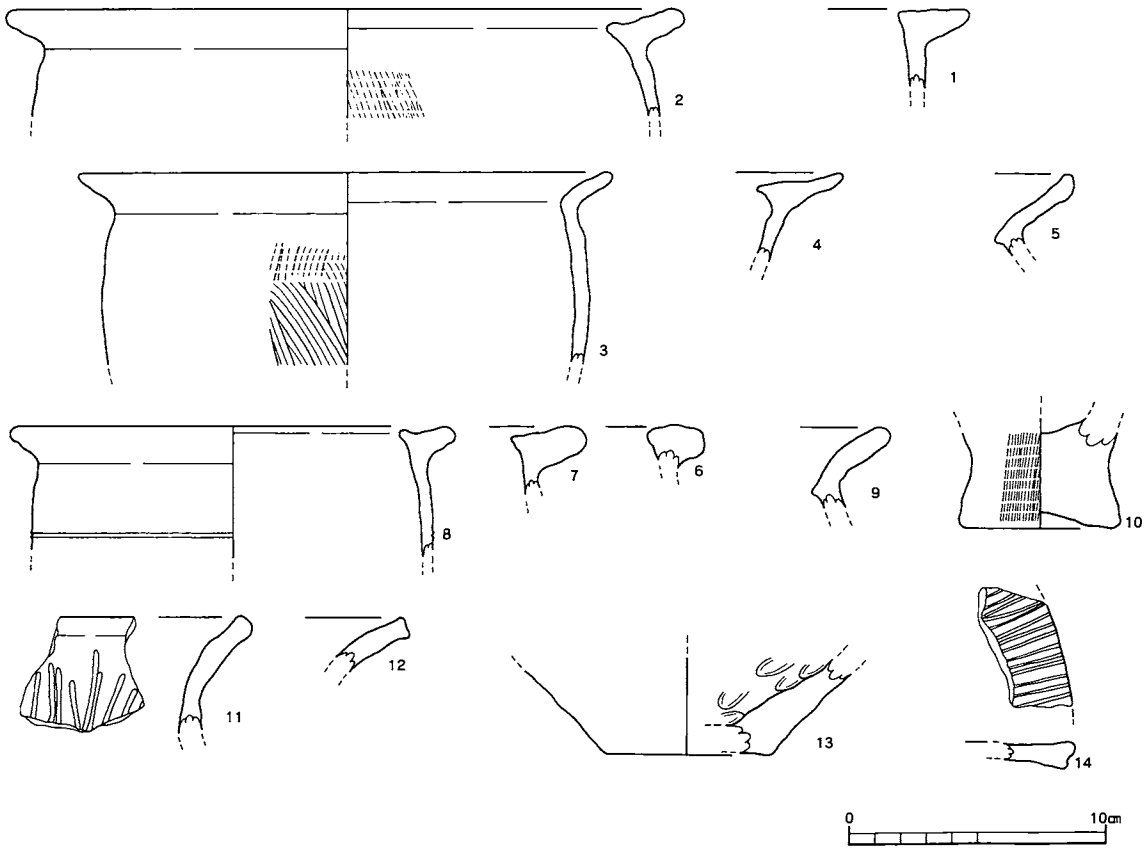
位置　遺跡南西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9 mで、この住居埋没後、北西部に122SI、北東部に129SIが建てられ、西側は調査区外にかかる。主軸の方位はN -13°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.86 m、短軸4.85 m以上を測る。残存床面積は14.8 ㎡で、検出面からの深さは0.55 mである。埋土は4層からなる。

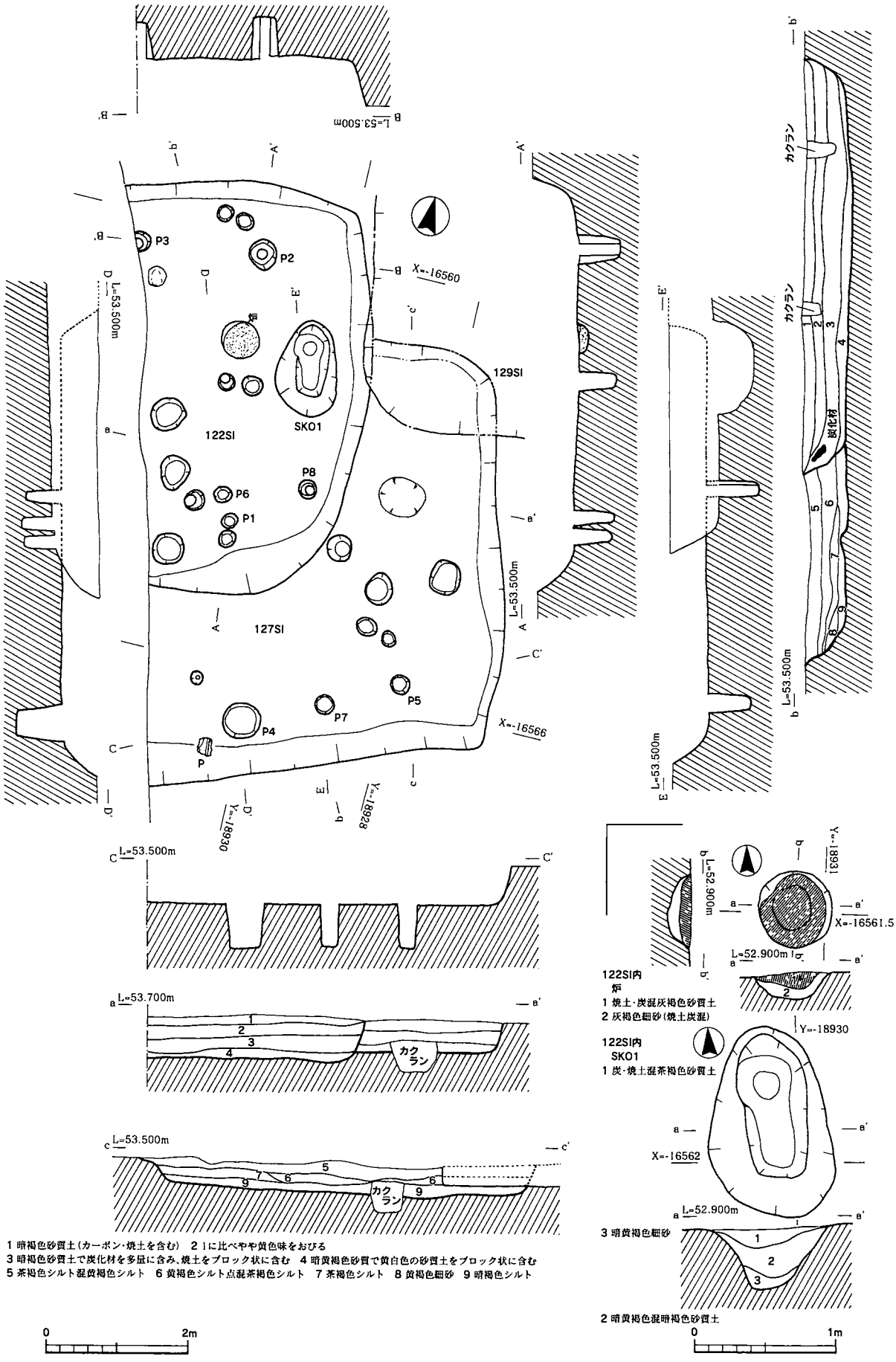
柱穴　柱穴の径は20～52 ㎝で、深さは23～62 ㎝である。柱痕跡は認められない。

遺物出土状況　第Ⅲ-281図1～3は床面に位置し、住居に伴う可能性がある。住居の埋土からは合わせて甕口縁部片30・底部片2、壺口縁部片7、無頸壺片1が出土しているが、ほとんど流れ込みの遺物と推定できる。扁平片刃石斧（第Ⅲ-282図1、PL.41）も上層から出土している。

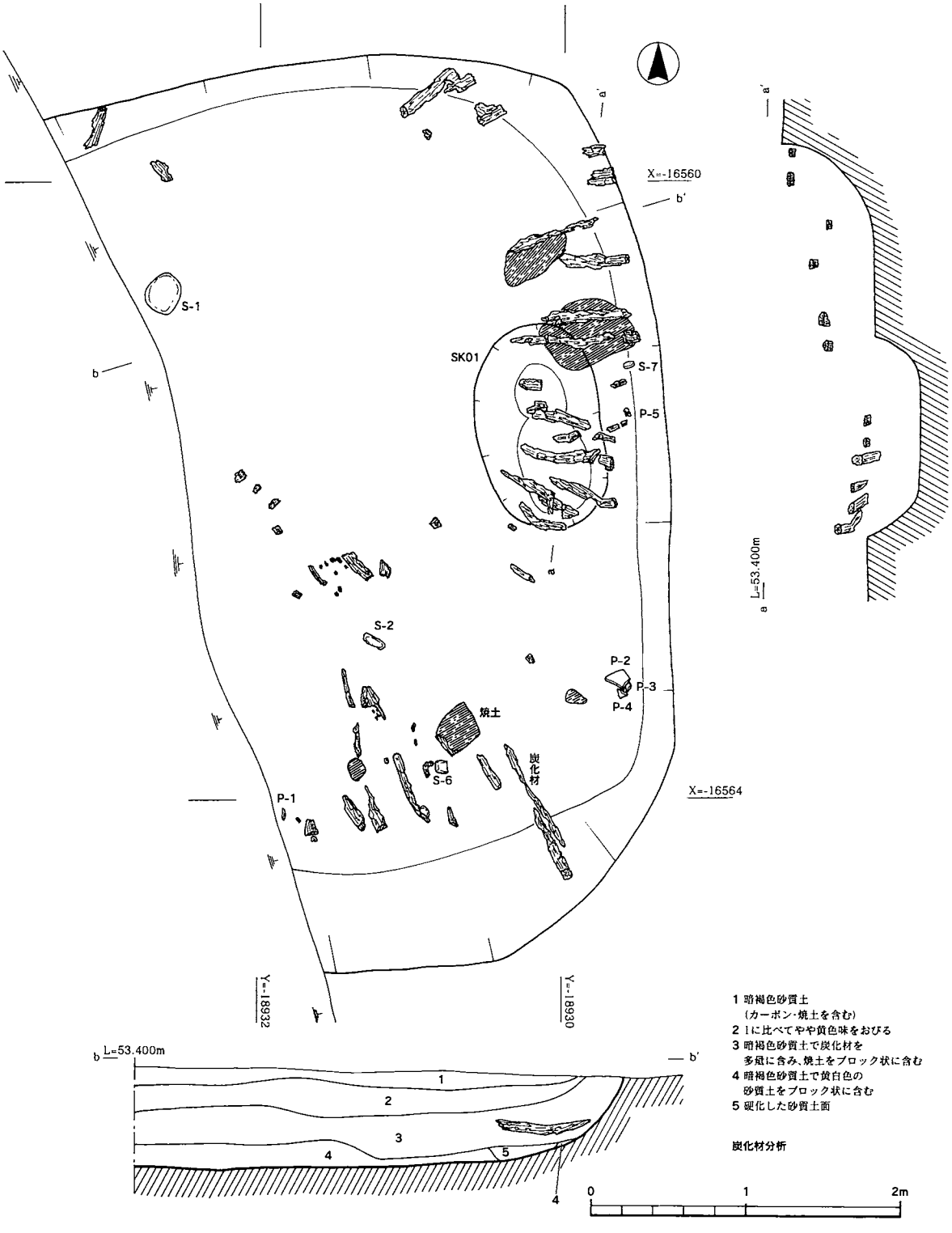
まとめ　主柱穴はP4～8で構成されるものと考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は5期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-278図　155SI出土土器実測図(1/3)〈1層下層(1～3)、1層上層(4～14)〉



第Ⅲ-279図　127SI・122SI・122SI内炉・SK01　平面・断面図(1/80)(1/40)



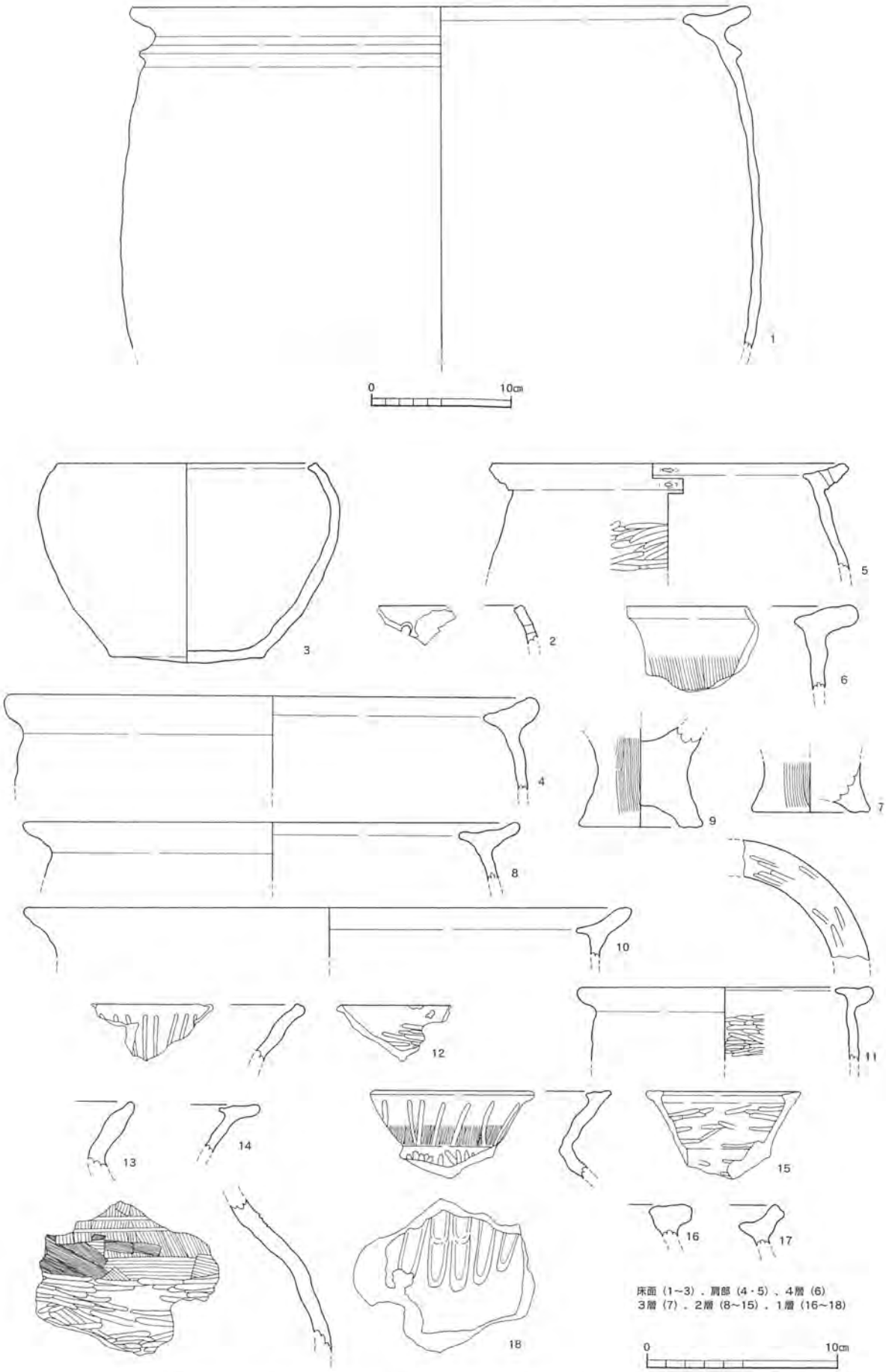
第Ⅲ-280図　122SI炭化材・遺物出土状況　平面・断面図(1/40)

122SI（第Ⅲ-279・280・283・285・286・287図、PL.6・41・50）

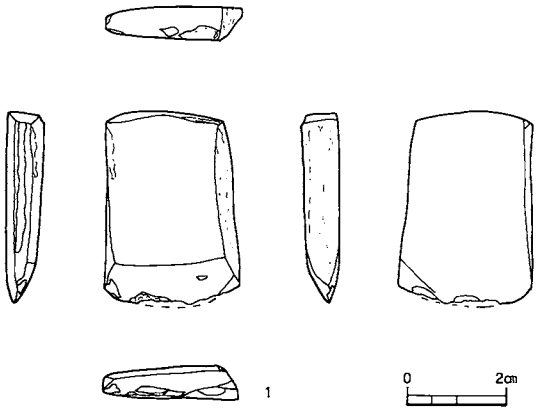
位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置し、旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、127SI埋没後この住居を建てている。主軸の方位はN-8°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.74 m、短軸3.24 m以上を測る。残存床面積は14.56 ㎡で、検出面からの深さは0.6 mである。埋土は4層からなる。

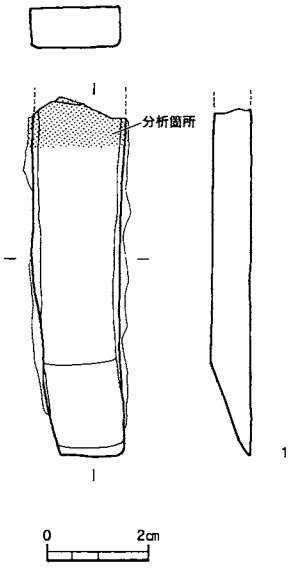
柱穴　柱穴の径は、20～50 ㎝で、深さは34～63 ㎝である。柱痕跡の径は、12～16 ㎝である。



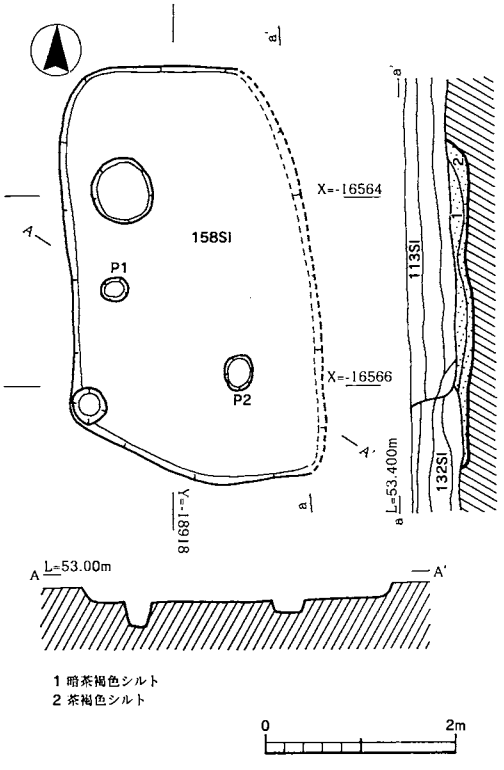
第Ⅲ-281図　127SI出土土器実測図（1は1/4、その他は1/3）



第Ⅲ-282図　127SI出土石器実測図(2/3)〈1層〉



第Ⅲ-283図　122SI出土鉄器実測図(2/3)〈2層〉



第Ⅲ-284図　158SI　平面・断面図(1/80)

炉　住居の中央部に位置し、長軸42㎝、短軸34㎝、深さ17㎝を測る。断面は凹字状を呈し、埋土は炭・焼土を含む2層からなる灰褐色砂質土である。

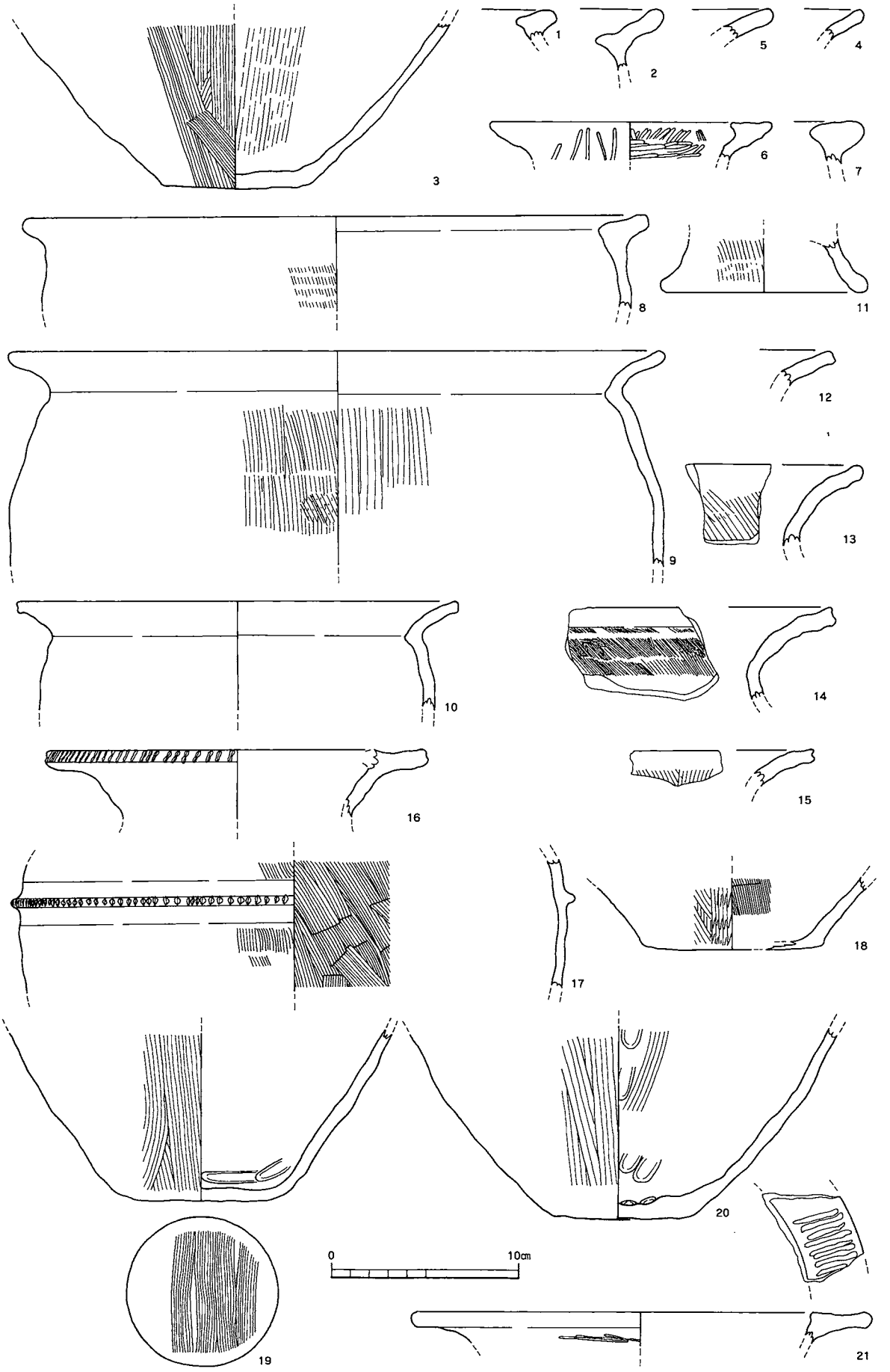
貯蔵穴　住居の東側に位置し、長軸138c m、短軸80c m、深さ46㎝を測る。断面はすり鉢状を呈し、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　第Ⅲ285図1～3は床面付近から、4～6は貯蔵穴から土器が出土しているが、いずれも流れ込みの遺物と推定できる。住居から、甕口縁部片47・底部片9、壺口縁部片23・底部片18、高坏片1、鉢片2が出土している。埋土上層から鉄斧1(第Ⅲ-283図1)が出土している。

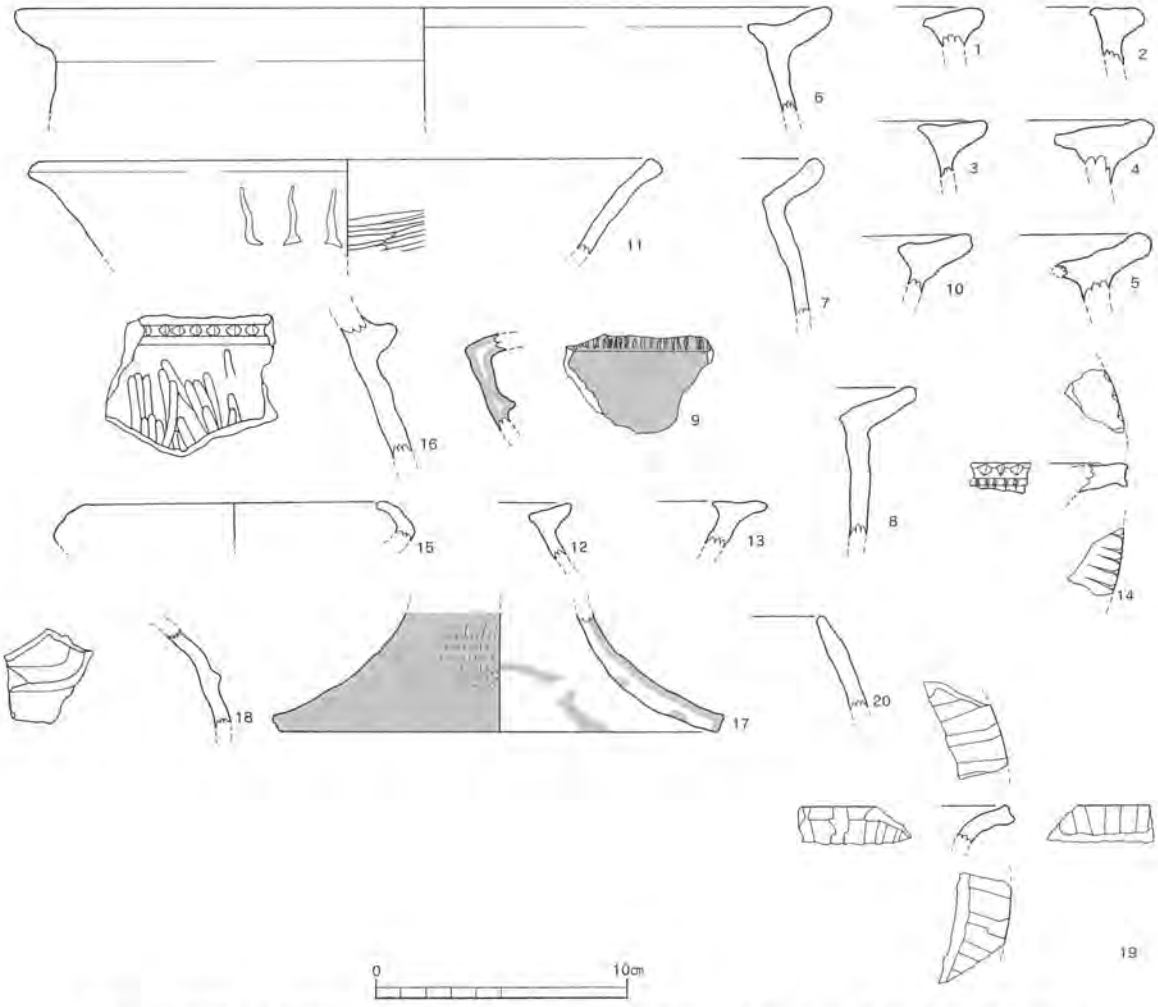
まとめ　主柱穴4本で構成されるものと考えられるが、調査区外にかかり、3本の柱穴(P1～3)だけを認めた。埋土の3層から火災の跡と考えられる。炭化材が出土している。住居の時期は、この住居埋没後、129SIが建てられていることと、遺物の出土状況から6B期と考えられる。

158SI(第Ⅲ-284図)

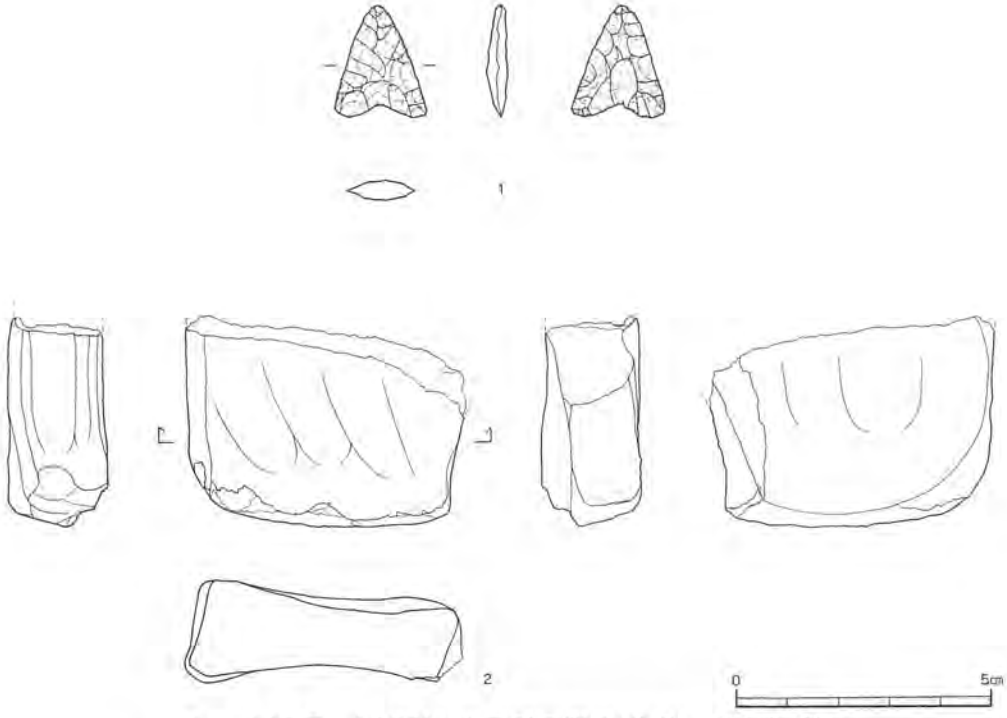
位置　遺跡北西部(2区中央部)の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、この住居埋没後、北側に113SI・南側に132SIが建てられている。主軸の方位は、N-5°-Wである。



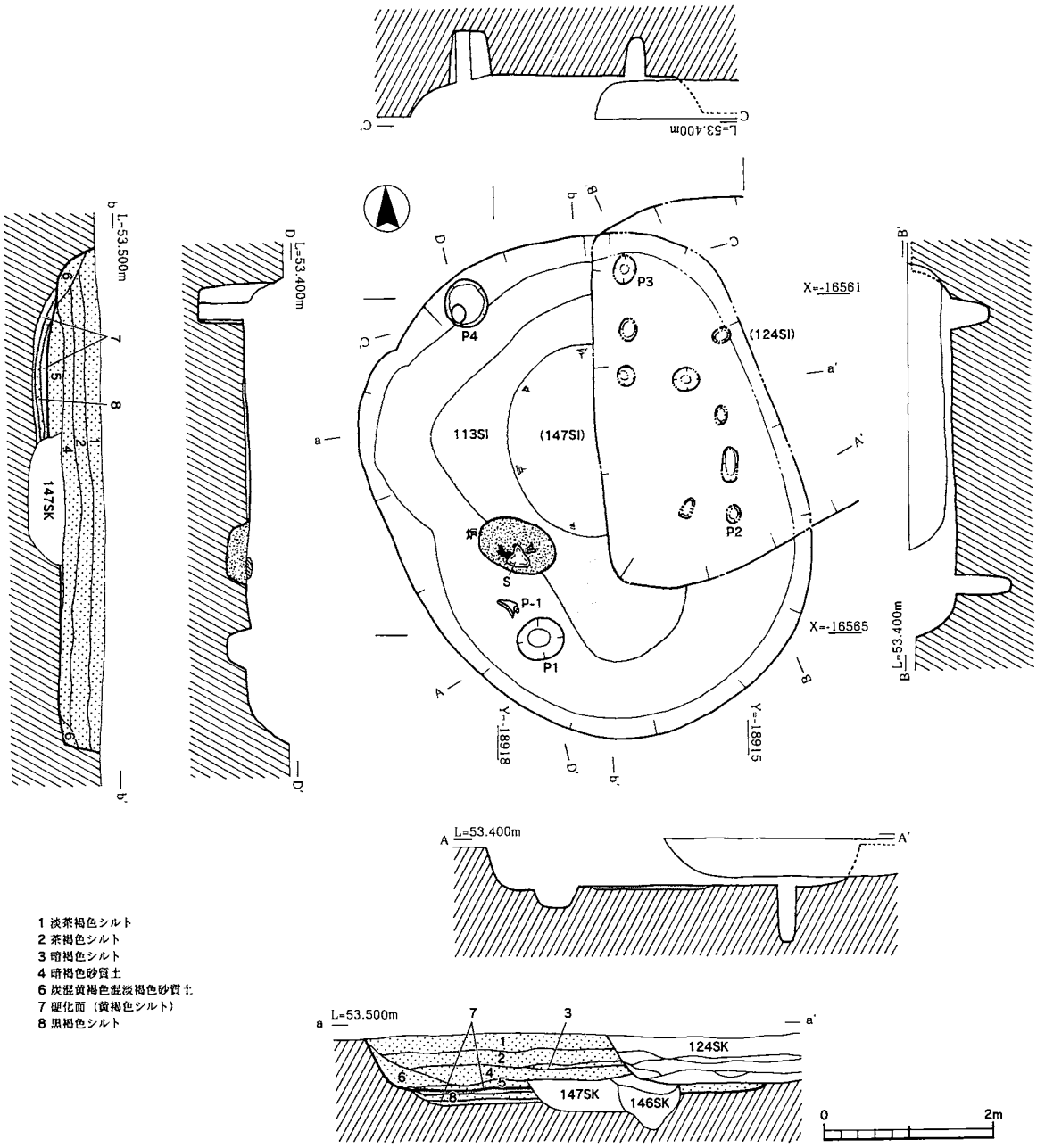
第Ⅲ-285図　122SI出土土器実測図1(1/3)〈床面(1～3)、SK(4～6)、4層(7～21)〉



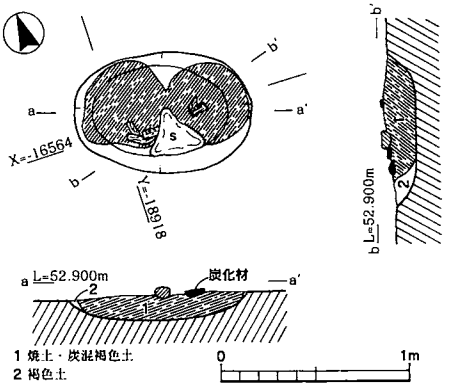
第Ⅲ-286図　122SI出土土器実測図2(1/3)〈3層(1～17)、2層(18)、1層(19･20)〉



第Ⅲ-287図　122SI出土石器実測図(2/3)〈3層(1･2)〉



第Ⅲ-288図　113SI　平面・断面図(1/80)



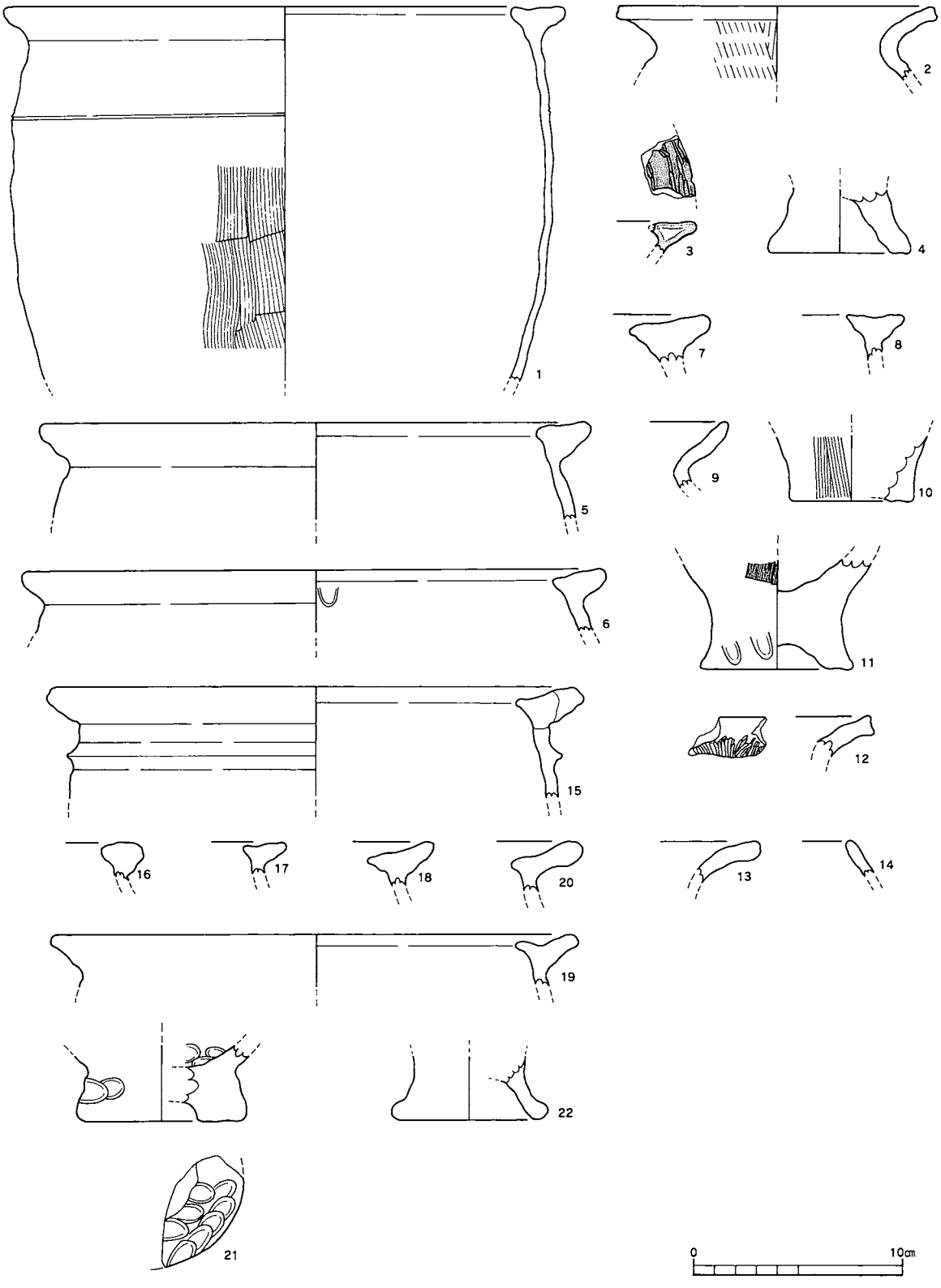
第Ⅲ-289図　113SI内炉　平面・断面図(1/40)

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.3ｍ.短軸2.4ｍを測る。床面積は9.2㎡で、検出面からの深さは20㎝である。埋土は2層からなる。

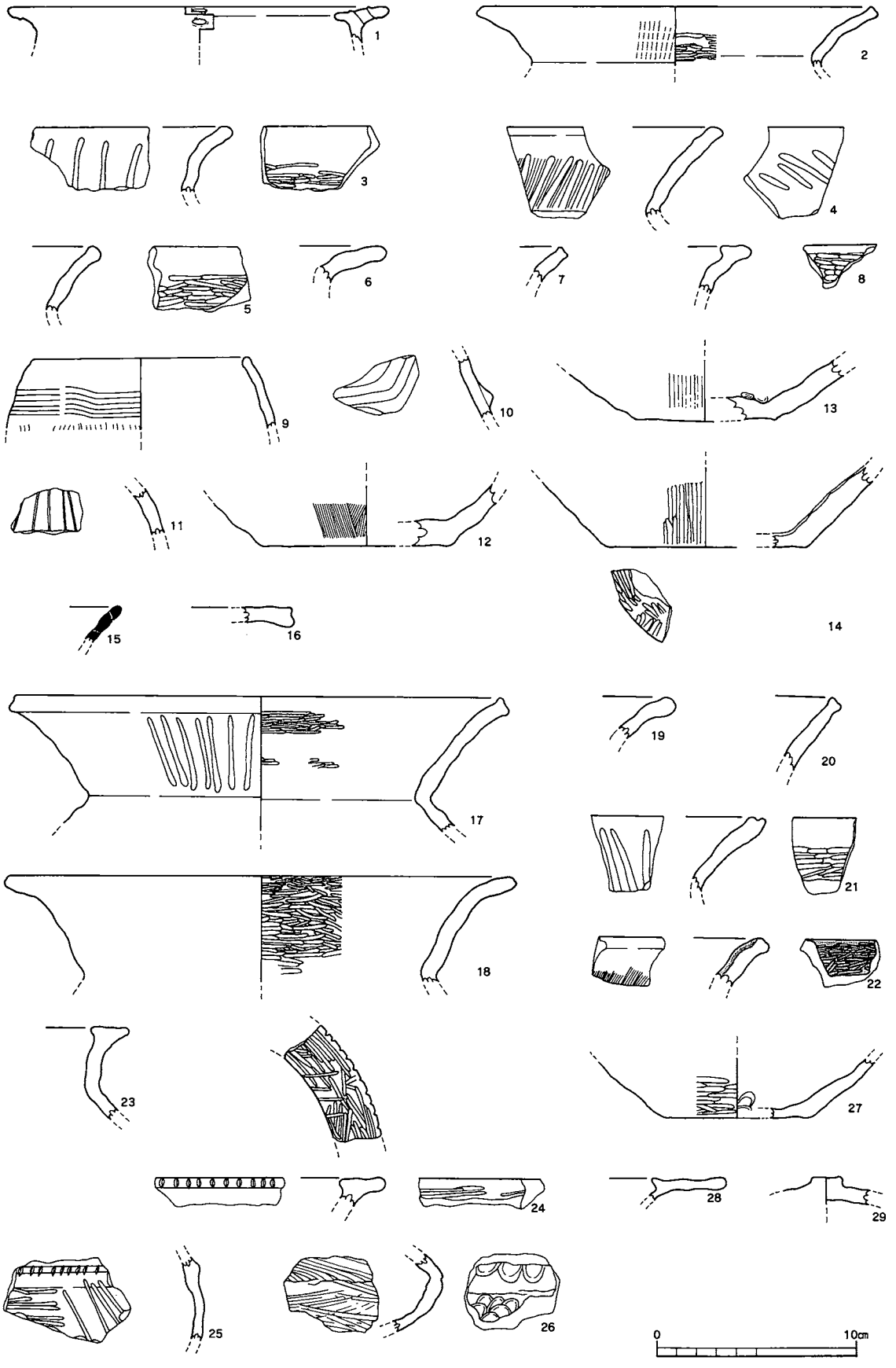
柱穴　柱穴の径は24～28㎝で、深さは14～26㎝である。柱痕跡は見つからない。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

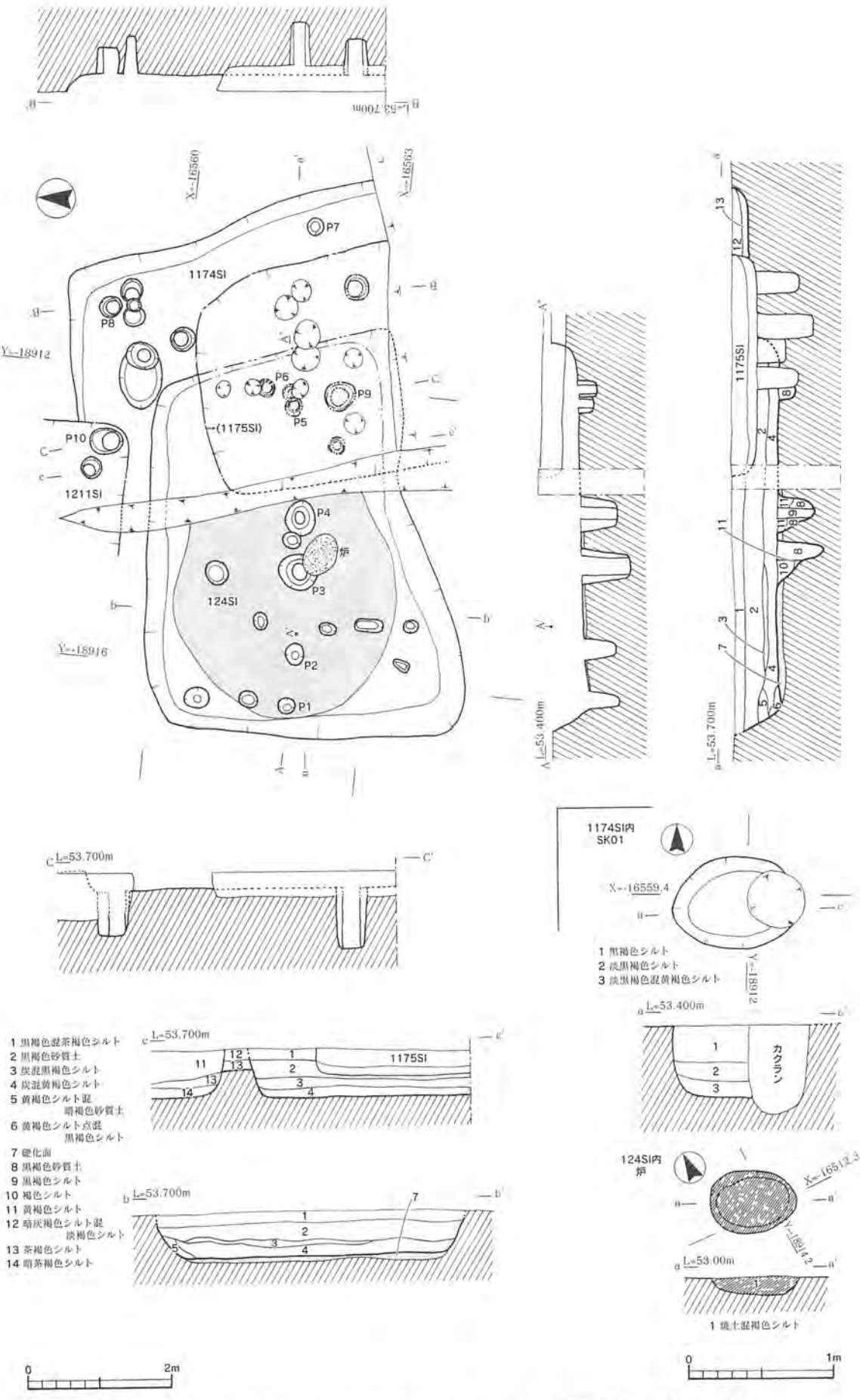
まとめ　竪穴部は検出面から考えて約65㎝以上の深さを推定できる。主柱穴は（Ｐ１・2）で構成される２本柱ものと考えられる。住居北西部に深さ５～８㎝で、径約70㎝の円形の落ち込みが



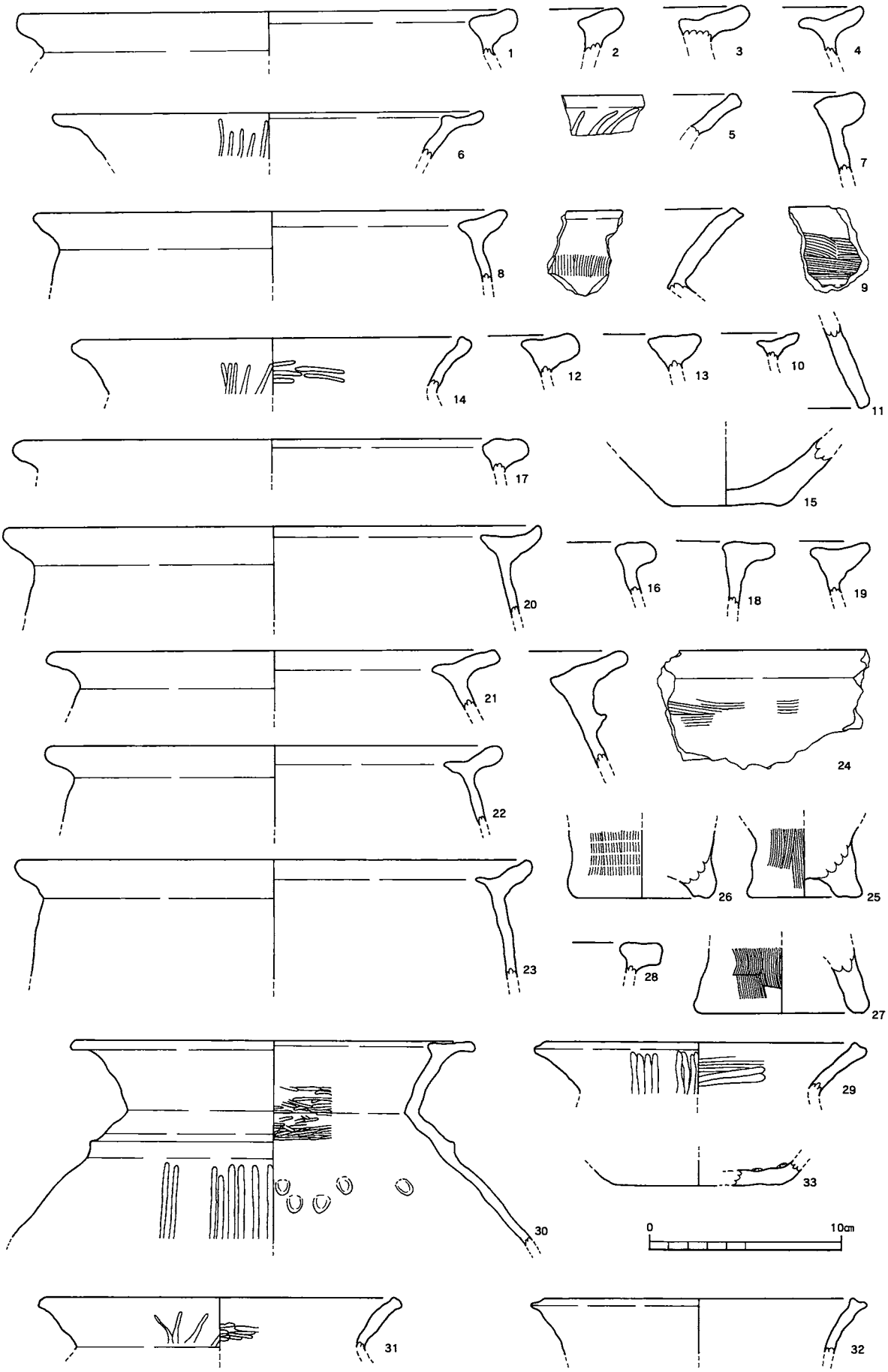
第Ⅲ-290図　113SI出土土器実測図1(1/3)〈床面(1・2)、肩部(3)、3層(4～6)、2層(7～14)、1層(15～22)〉



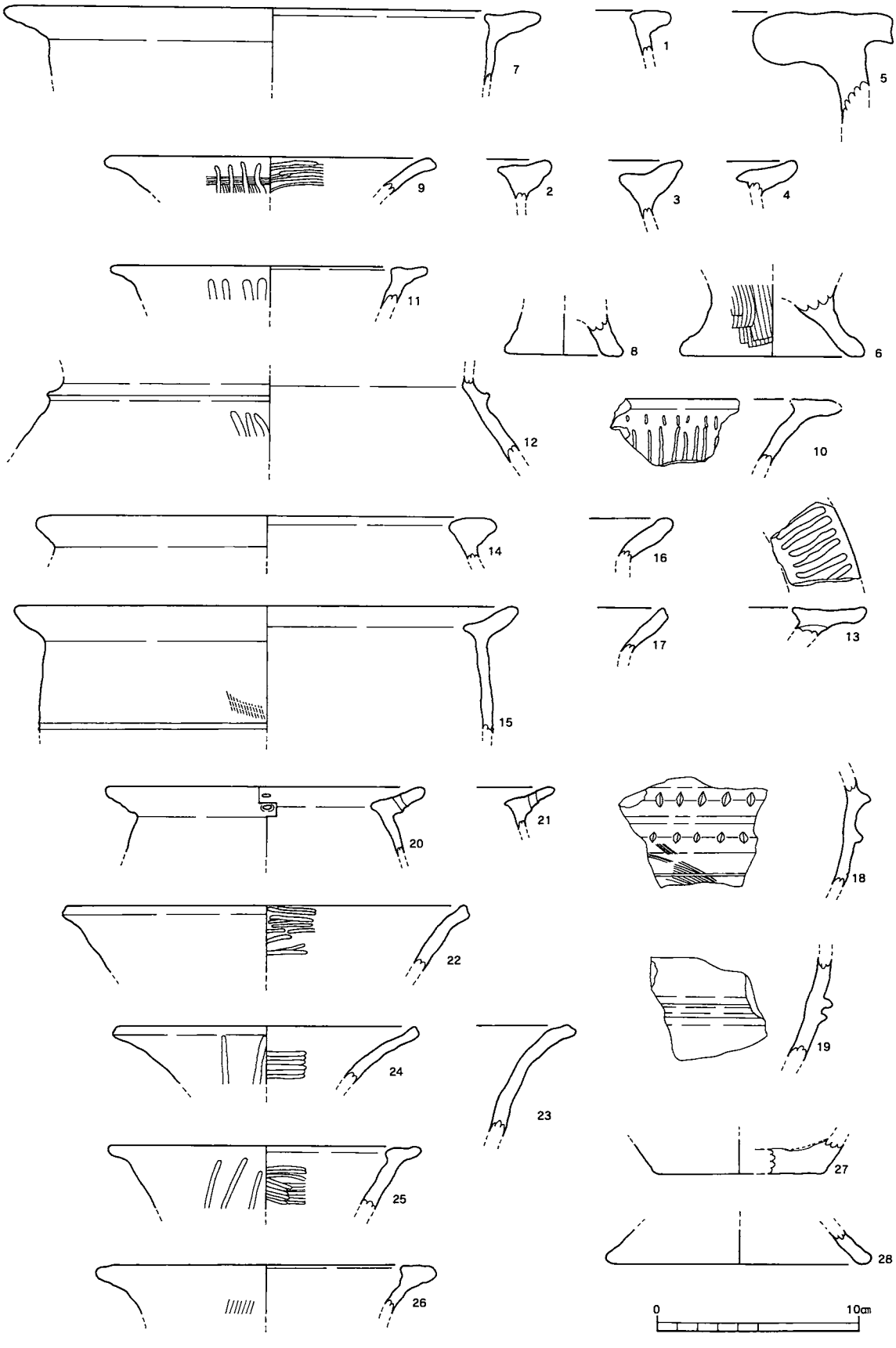
第Ⅲ-291図　113SI出土土器実測図2(1/3)〈2層(1～15)、1層(16～29)〉



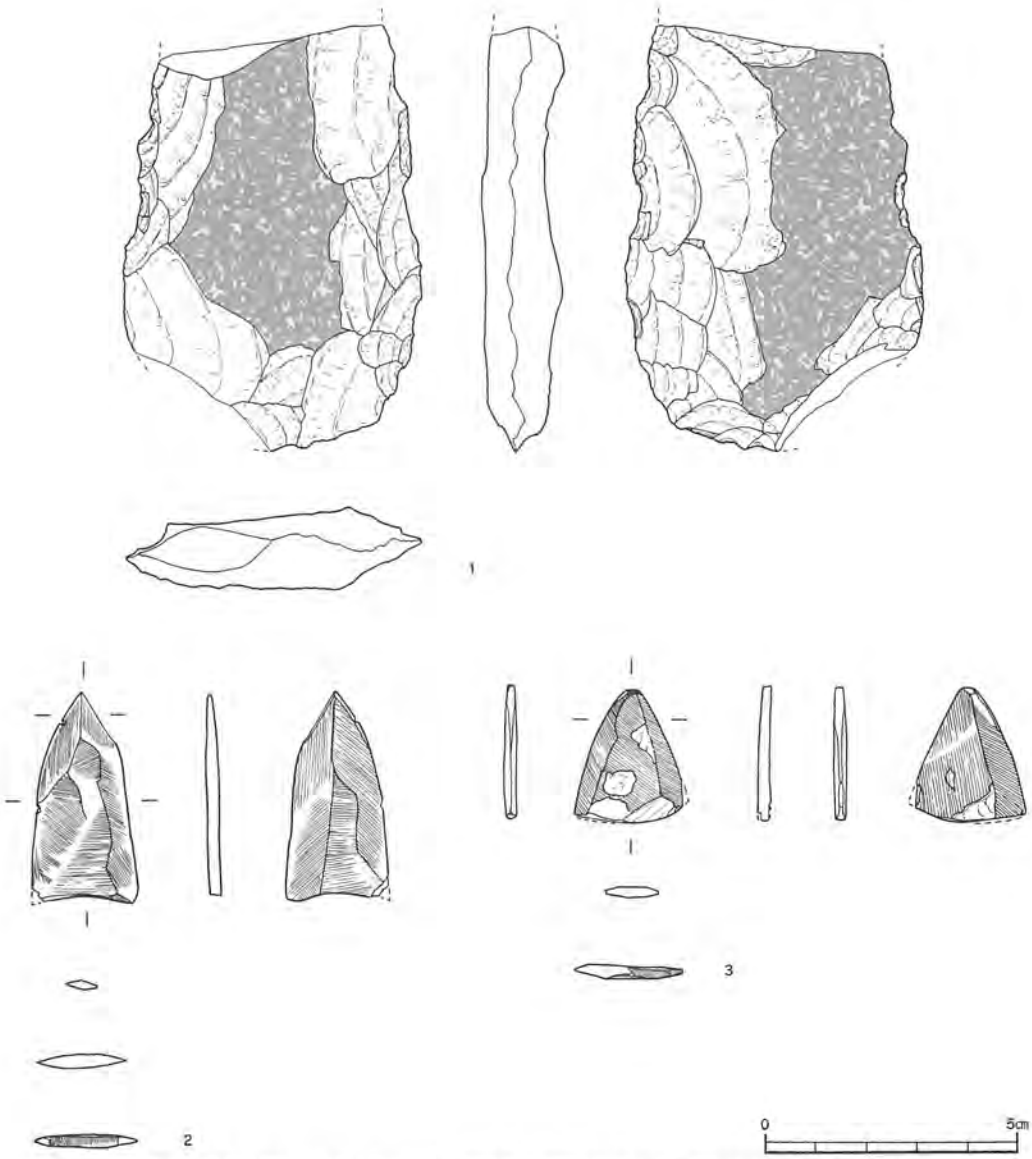
第Ⅲ-292図　1174SI・124SI・SK01・炉　平面・断面図(1/80)(1/40)



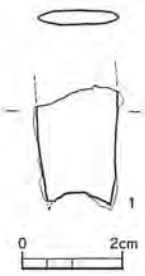
第Ⅲ-293図　124SI出土土器実測図1(1/3)〈炉(1～6)、5層(7～11)、肩(12～15)、3層(16～33)〉



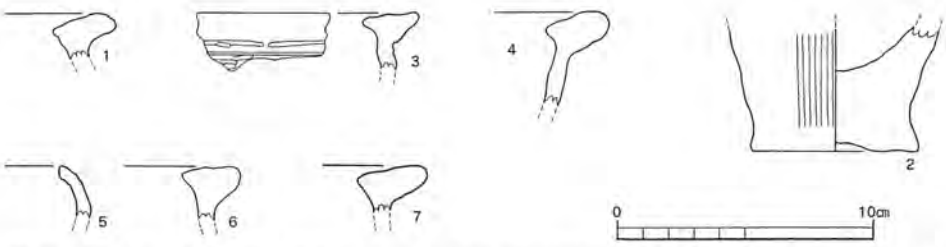
第Ⅲ-294図　124SI出土土器実測図2(1/3)〈2層(1～13)、1層(14～28)〉



第Ⅲ-295図　124SI出土石器実測図(2/3)〈肩部(1)、3層(2・3)〉



第Ⅲ-296図
124SI出土鉄器
実測図(2/3)〈3層〉



第Ⅲ-297図　1174SI出土土器実測図(1/3)〈P(1・2)、2層(3～5)、1層(6・7)〉

ある。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 4B ～ 7 期に位置づけられると推定できる。

113SI（第Ⅲ-288・289・290・291図）

位置　遺跡北西部部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、この住居埋没後、北東部に124SIが建てられている。主軸の方位はＮ-15°-Ｗである。

住居形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸5.94ｍ、短軸4.85ｍを測る。推定床面積は17.34㎡で、検出面からの深さは0.5ｍである。硬化面は床中央部2/3ほど認められる。埋土は３層からなる

柱穴　柱穴の径は20～56㎝で、深さは20～64㎝である。柱痕跡の径は20㎝である。

炉　住居の南西部に位置し、長軸90㎝、短軸60㎝、深さ10㎝を測る。断面は皿状を呈する。埋土は１層からなり、焼土及び炭化材を多く含む。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片101・底部片17、壺口縁部片24・底部片11、無頸壺１、高坏１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　Ｐ１～４の４本柱で構成されるものと考えられる。焼土と炭化物を住居の南西部で検出しているため、屋内に炉が存在した可能性が高い。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は７期に位置づけられると推定できる。

1174 SI（第Ⅲ-292・297図、PL.6）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.3ｍで、この住居埋没後、中央から南側に1175SI、北西側に1211SIが建てられている。南側は調査区外にかかる。主軸の方位はＮ-17°-Ｅである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.60ｍ以上、短軸2.08ｍ以上を測る。残存床面積は5.28㎡で、検出面からの深さは0.28ｍである。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は18～44㎝で、深さは38～84㎝である。柱痕跡の径は20～24㎝である。

貯蔵穴　住居の北側に位置し、長軸92㎝、短軸62㎝、深さ50㎝を測る。断面はＵ字状を呈し、埋土は２層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土から、甕口縁部片７、壺底部片１、無頸壺１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴はＰ７～10で構成される４本柱構造もしくは４＋２本柱構造と推定できる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期に位置づけられると推定できる。

124 SI（第Ⅲ-292・293・294・295・296図、PL.42・50）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9ｍで、この住居埋没後、東側上層部側に1175SIが建てられている。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸5.36ｍ、短軸4.34ｍを測る。床面積は17.0㎡で、検出面からの深さは0.44ｍである。硬化面は床全面に認められる。埋土は４層からなる。

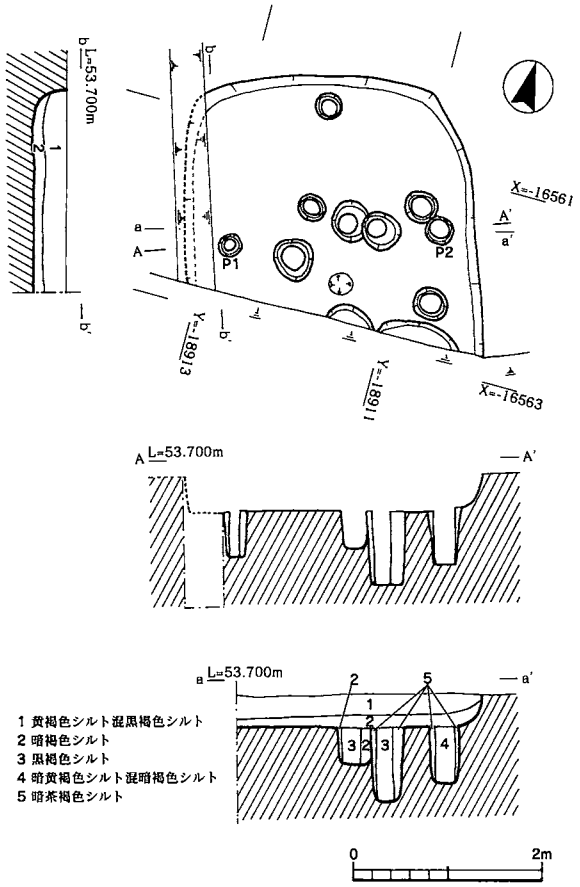
柱穴　柱穴の径は17～50㎝で、深さは12～64㎝である。柱痕跡の径は12～18㎝である。

炉　住居の中央部に位置し、長軸60㎝、短軸44㎝、深さ７㎝を測る。断面は皿状を呈する。埋土は１層からなり、焼土を多く含む。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片83・底部片13、壺口縁部片23・底部片７、鉢１が出土している。埋土上層から磨製石鏃・打製石斧・鉄鏃片が出土している。これらは流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　Ｐ１～６の６本の柱穴が東西一列に並んで検出される。Ｐ２・５を主柱穴とする２本柱構造と推定される。

住居の時期は、５期以前の遺物がほとんどであるが、113SIとの新旧関係から７期以降と推定できる。



第Ⅲ-298図　1175SI　平面・断面図(1/80)

1175 SI（第Ⅲ-298・299図・292図、PL.6）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.2 mで、南側は調査区外にかかる。主軸の方位はN -22°- Wである。

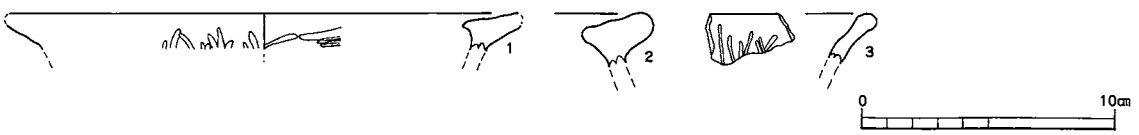
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 3.04 m、短軸2.70 m 以上を測る。残存床面積は7.54 ㎡で、検出面からの深さは 0.32 mである。埋土は２層からなる人為的な堆積の埋土が見られる

柱穴　柱穴の径は 22 ～ 40 cmで、深さは 40 ～ 74 cmである。柱痕跡の径は 12 ～ 25 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片２、壺口縁部片１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴（Ｐ１・2）の２本柱で構成されるものと考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の新旧関係から考えて住居の時期は７期以降（8 ～ 9 期）に位置づけられると推定できる。

1194 SI（第Ⅲ-300・301・302・303・304図、PL.6・42）



第Ⅲ-299図　1175SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、2層(2)、1層(3)〉

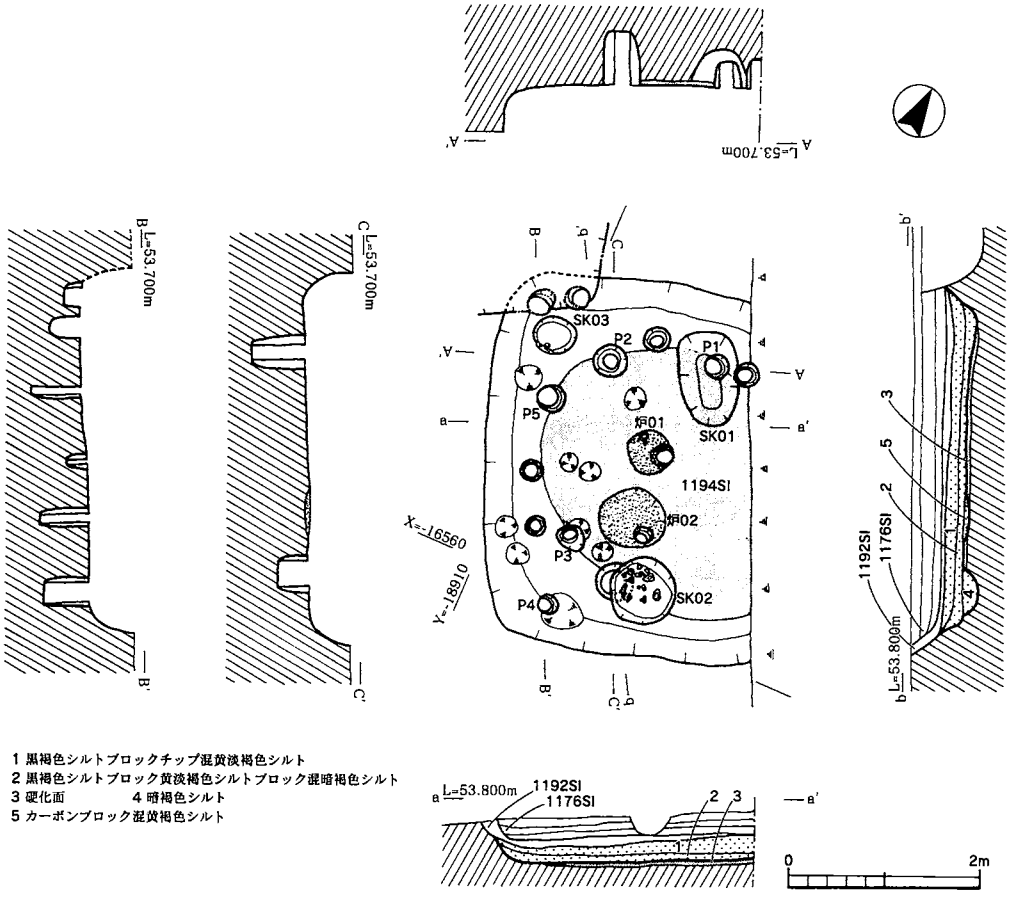
位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.1 mで、この住居埋没後、北西に 1172SI と 1196SI が建てられ、東側は調査区外にかかる。主軸の方位はN -24°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 3.92 m以上、短軸 2.82 m以上を測る。床面積、残存床面積ともに、推測不可能で、検出面からの深さは 0.53 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は１層からなる。

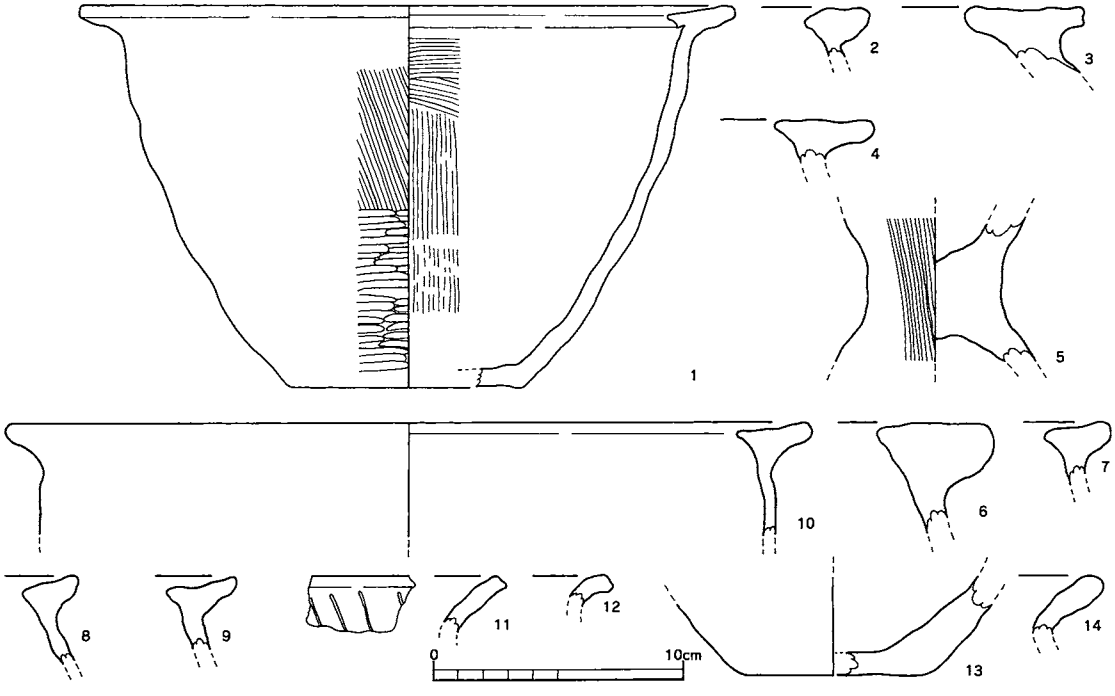
柱穴　柱穴の径は 20 ～ 38 cmで、深さは 18 ～ 54 cmである。柱痕跡の径は 8 ～ 26 cmである。

炉　住居内で２基検出され、炉 01 は中央部に位置し、長軸 50 cm、短軸 46 cm、深さ 17 cmで、断面は凹字状を呈し、埋土は２層からなる。炉 02 は中央より南側にあり、長軸 74 cm、短軸 65 cm、深さ 33 cmで、断面は皿状を呈し、埋土は３層からなる。

貯蔵穴　住居内に３基検出され、SK01 は東側に位置し、長軸 97 cm、短軸 62 cm、深さ 30 cm、断面はU字状を呈し、埋土は２層からなる。SK02 は南側に位置し、長軸 70 cm、短軸 68 cm、深さ 25 cm、断面は凹字状を呈し、埋土は１層からなる。SK03 は北西側に位置し、長軸 46 cm、短軸 40 cm、深さ 33 cm、断面はU字状を



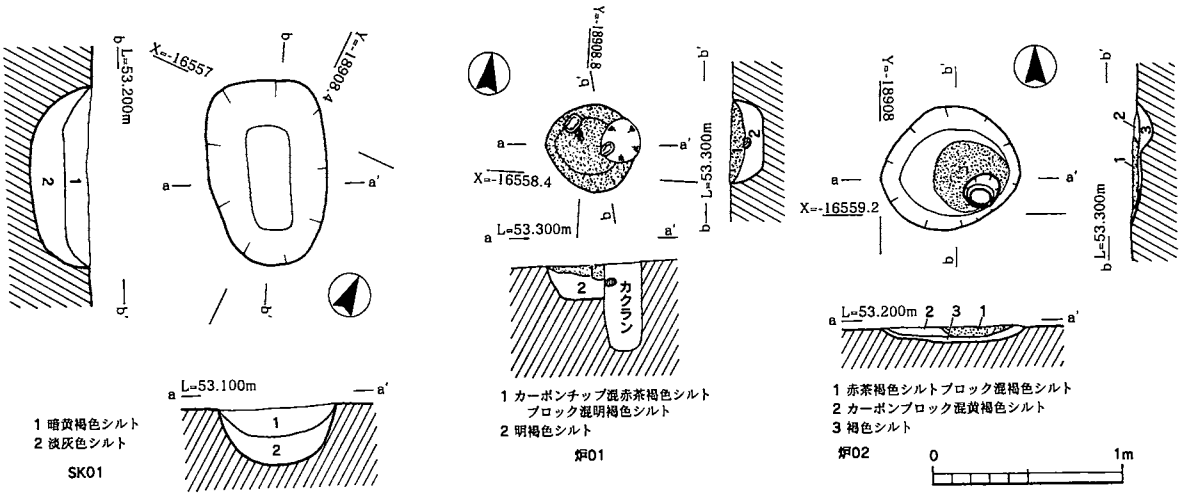
第Ⅲ-300図　1194SI　平面・断面図(1/80)



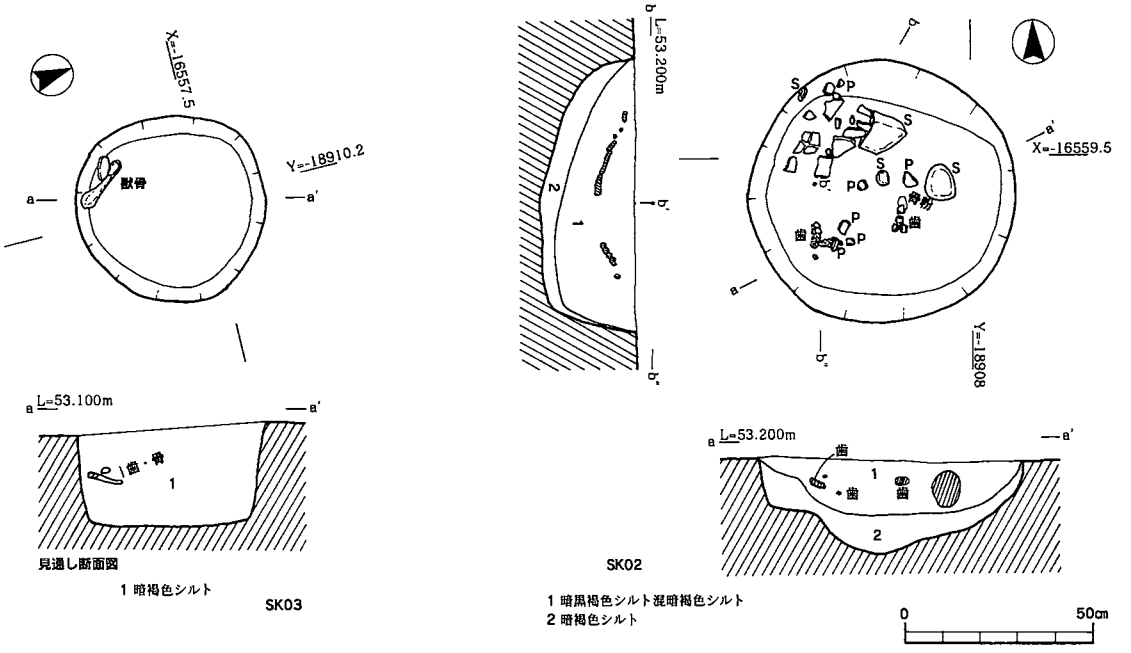
第Ⅲ-301図　1194SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、P(2)、3層(3～5)、2層(6～13)、1層(14)〉

呈し、埋土は2層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片18・底部片1、壺口縁部片5・底部片3が出土している。流



第Ⅲ-302図　1194SI内SK01・炉01・02　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-303図　1194SI内SK02・03　平面・断面遺物出土状況図(1/20)

れ込みの遺物と推定できる。

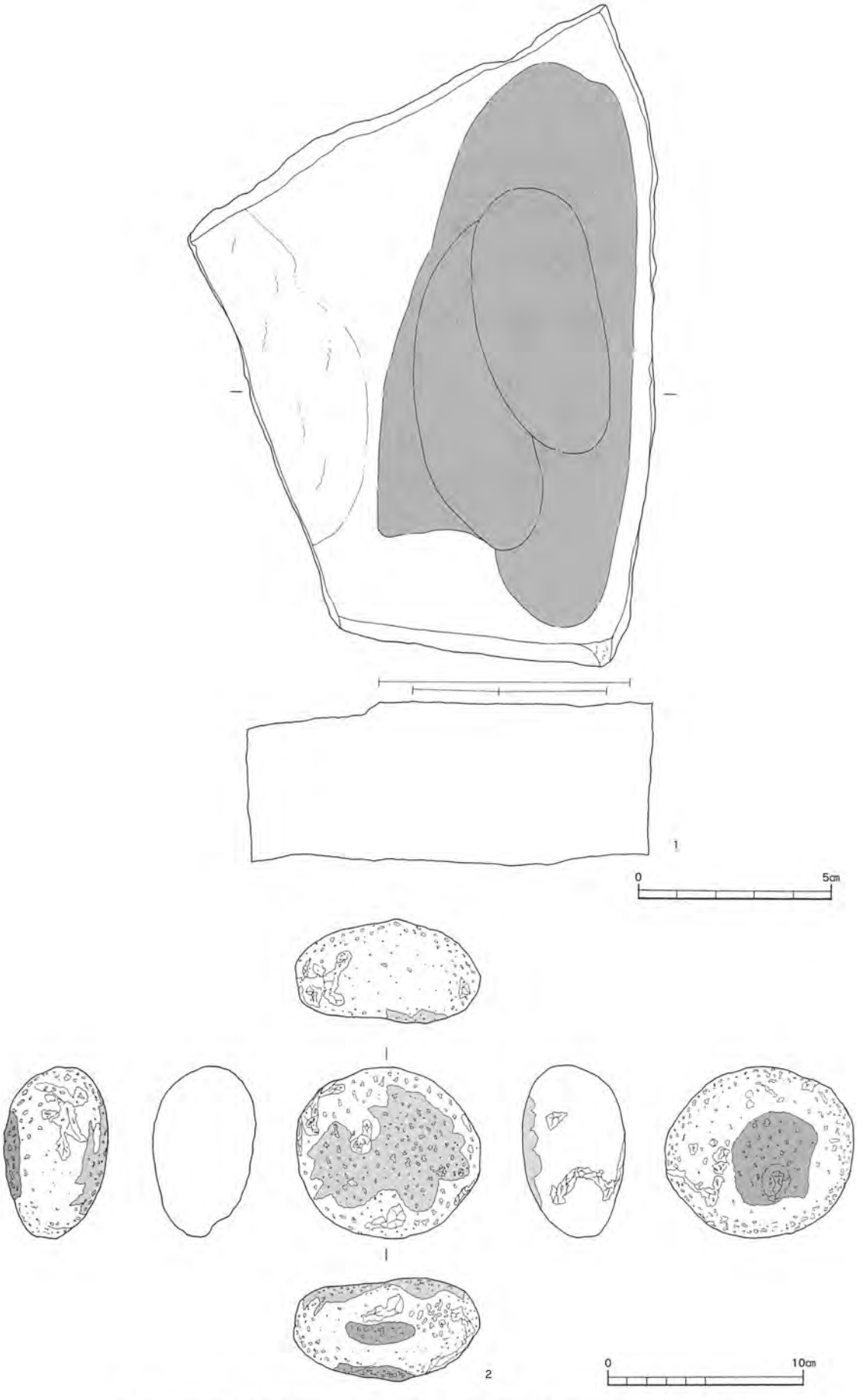
まとめ　主柱穴はＰ１～３他で構成される4+2本柱構造のものの可能性がある。SK03がある程度埋まった状況で獣骨が出土している。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は４Ｂ期に位置づけられると推定できる。

1192SI（第Ⅲ-305・306図）

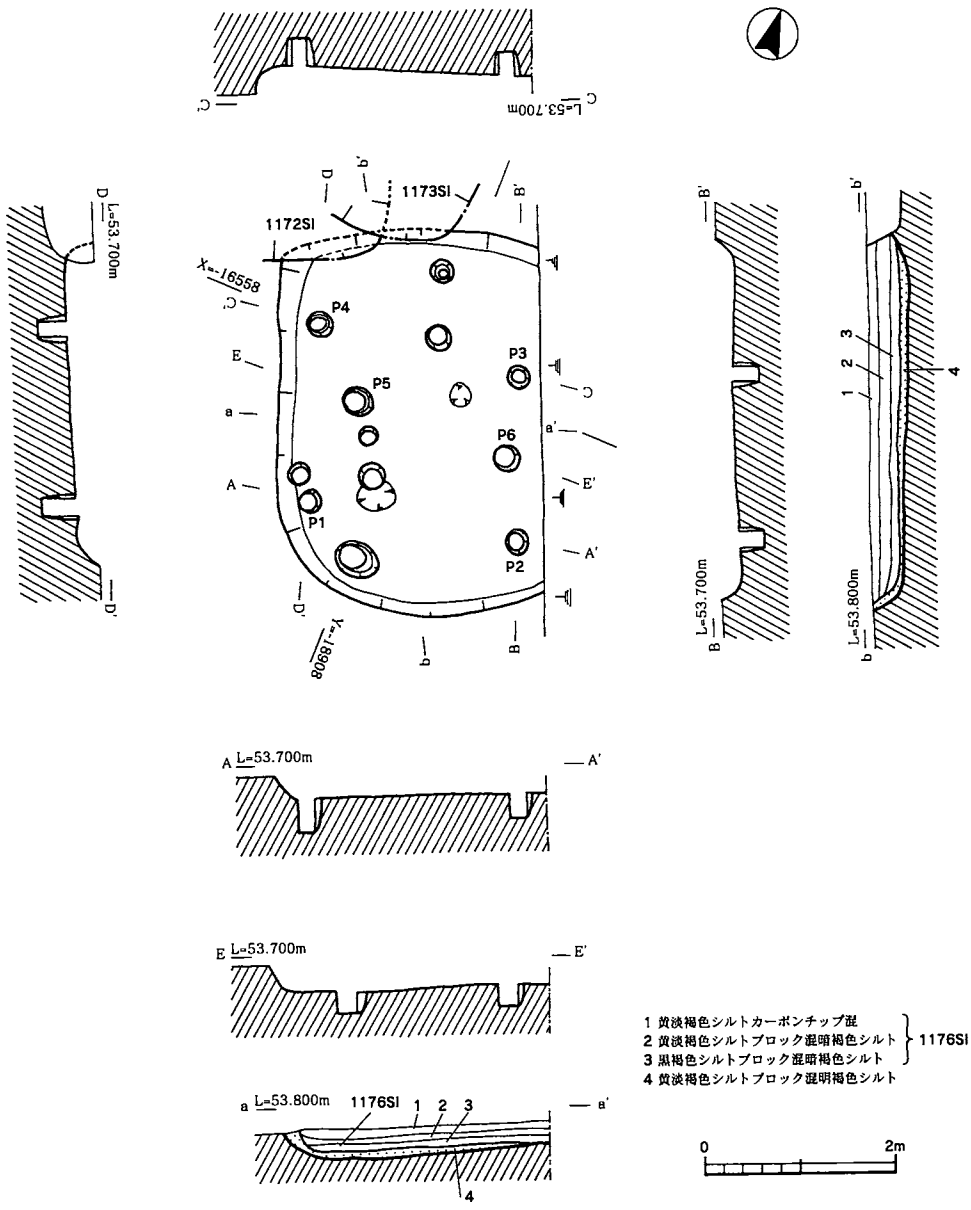
位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.4ｍで、この住居埋没後、北西側に1172SI、上層部に1176SIが建てられている。主軸の方位はN-24°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.70ｍ以上、短軸2.52ｍ以上を測る。残存床面積は10.27㎡で、検出面からの深さは0.3ｍである。埋土は４層からなる。

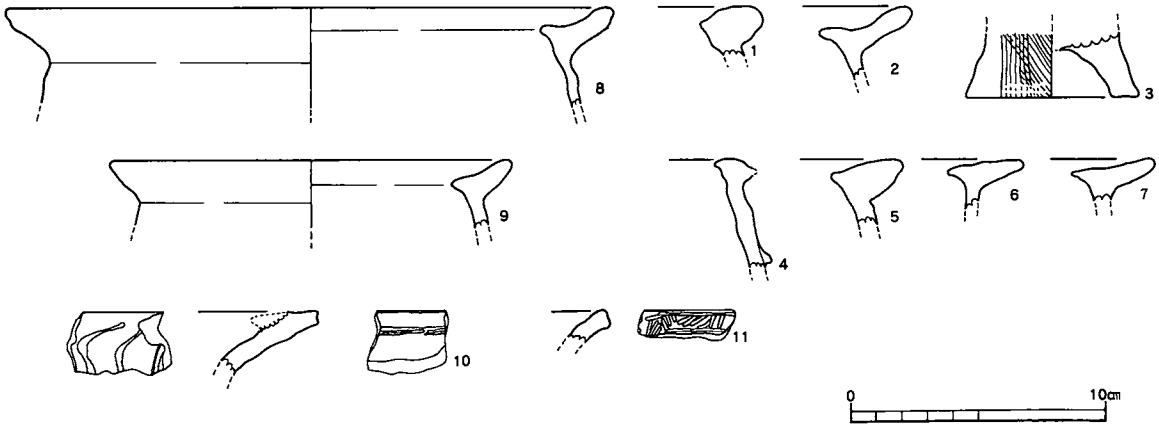
柱穴　柱穴の径は20～47㎝、深さは26～47㎝である。柱痕跡の径は15～30㎝である。



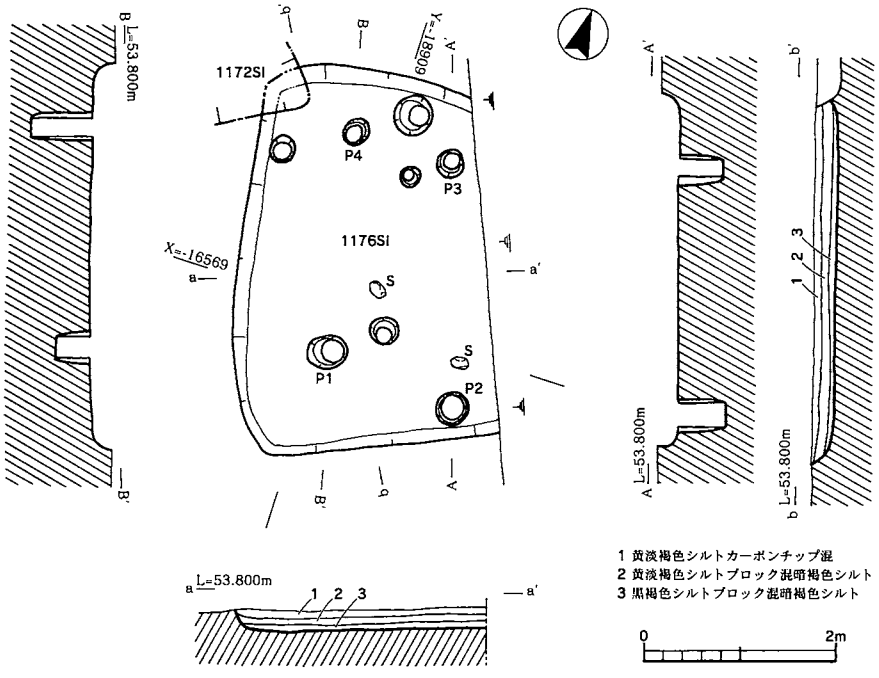
第Ⅲ-304図　1194SI出土石器実測図(2/3)〈SK(1)〉(1/3)〈床面(2)〉



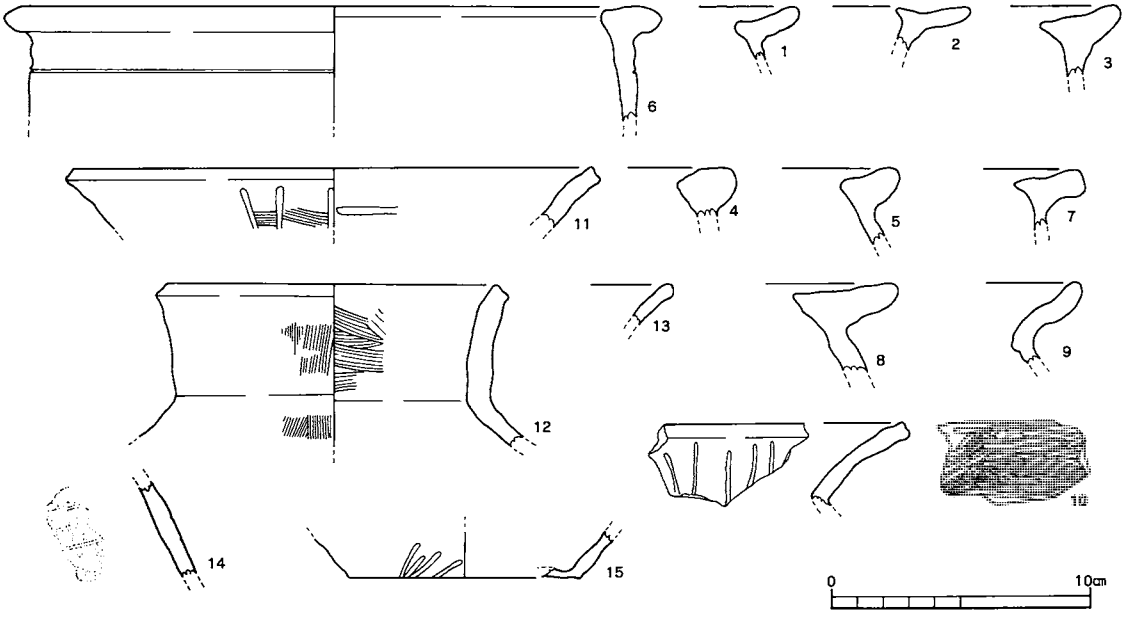
第Ⅲ-305図　1192SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-306図　1192SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～3)、1層(4～11)〉



第Ⅲ-307図　1176SI　平面・断面図(1/80)

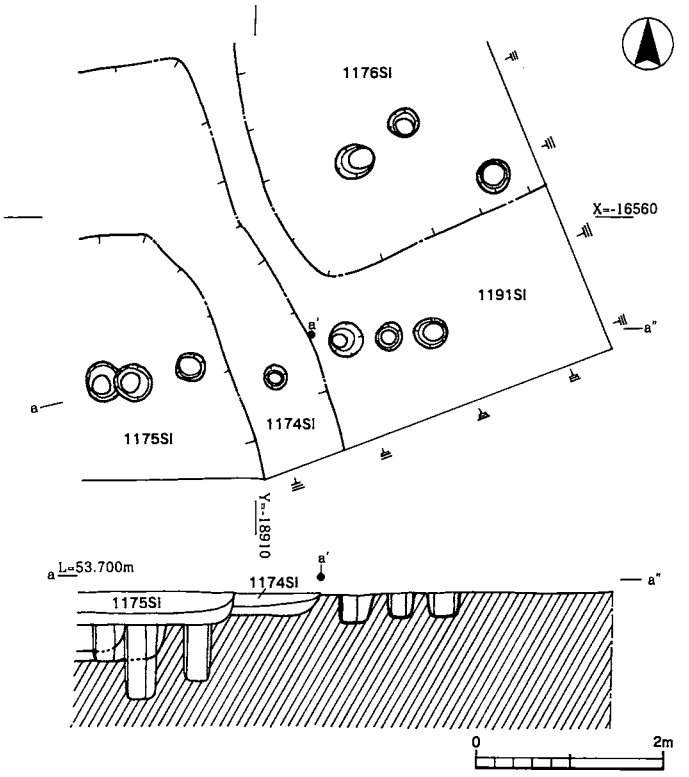


第Ⅲ-308図　1176SI出土土器実測図(1/3)〈P(1・2)、床面(3)、1層(4～15)〉

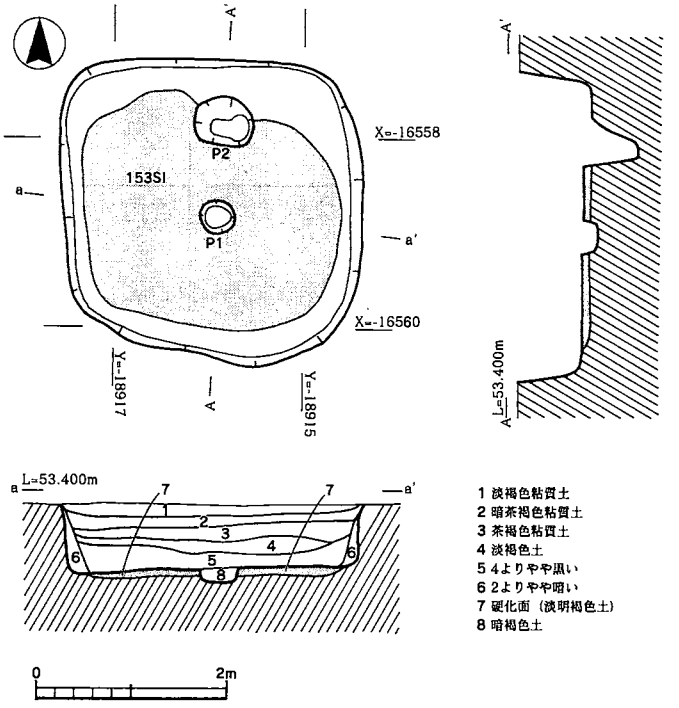
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片10、甕底部片2、壺口縁部片3が出土している。流れ込みの遺物であると推定できる。

まとめ　P1～4を主柱穴とする4本柱構造でP5・6を支柱とする構造と考えられる。

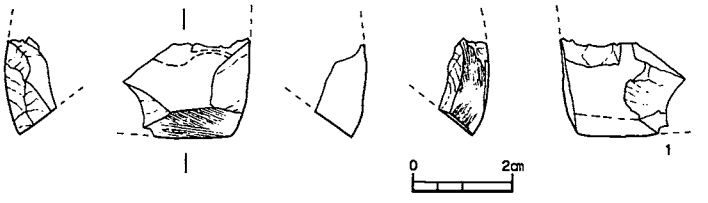
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は5期に位置づけられると推定できる。



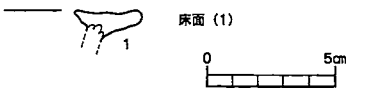
第Ⅲ-309図　1191SI　平面・断面図(1/80)



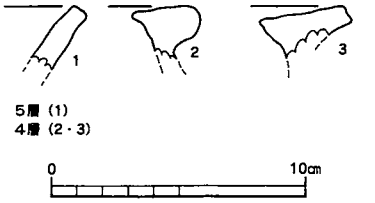
第Ⅲ-311図　153SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-313図　153SI出土石器実測図(2/3)〈4層〉



第Ⅲ-310図　1191SI
出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-312図　153SI出土土器
実測図(1/3)

1176 SI（第Ⅲ-307・308図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.4 mで、この住居埋没後、北西側に1172SIが建てられ、東側は調査区外である。主軸の方位はN-20°-Wである。

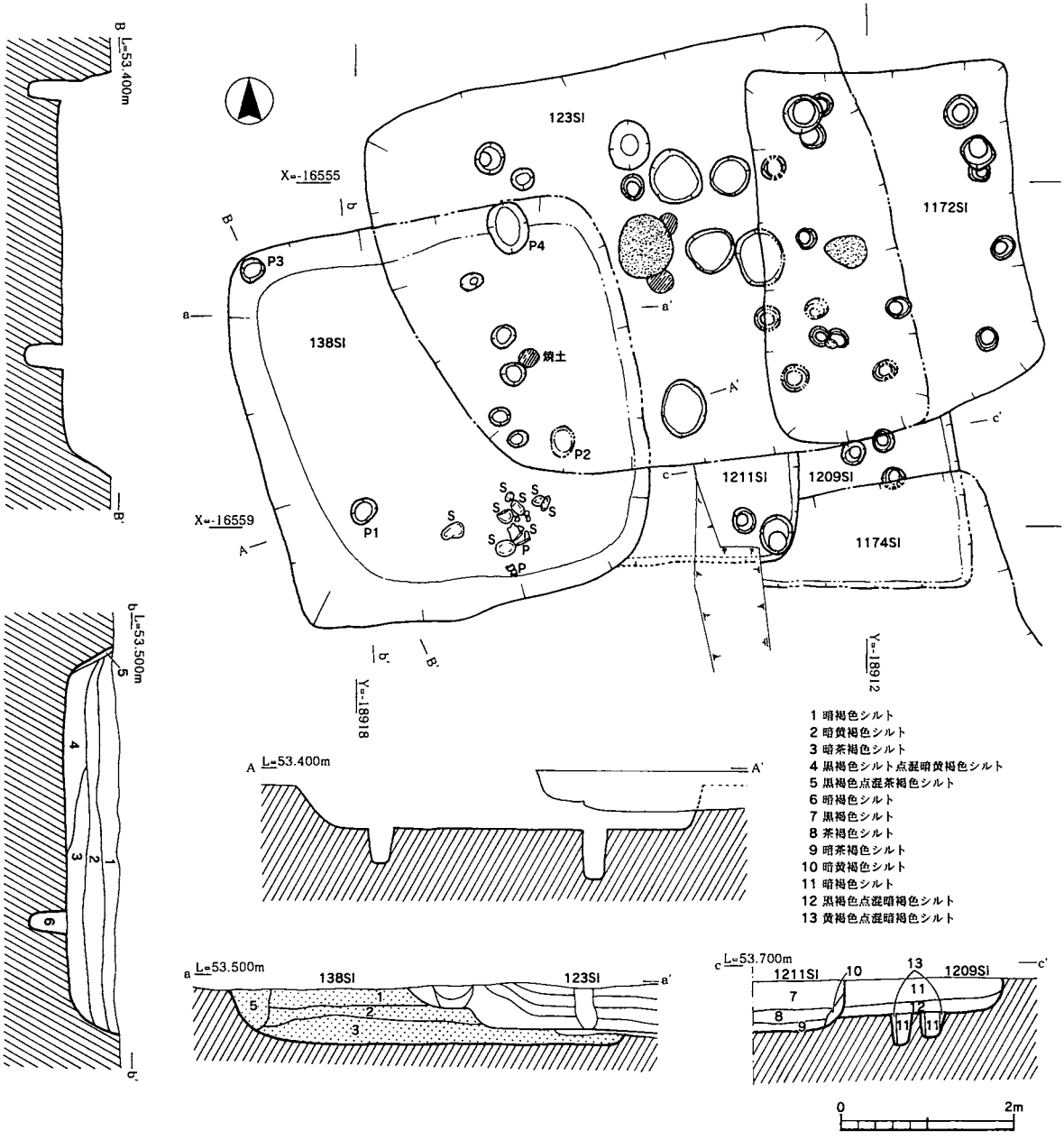
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.94 m、短軸2.68 m以上を測る。床面積は推定出来ず、残存面積は9.09 ㎡で、検出面からの深さは0.2 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は20～44 cmで、深さは35～51 cmである。柱痕跡の径は、12～26 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片26、壺口縁部片6、高坏1が出土している。流れ込みの遺物であると推定できる。

まとめ　東側は調査区外のため、詳細は不明であるが、4本柱+2本柱構造の竪穴住居であると考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-314図　1209SI・1211SI・138SI　平面・断面図(1/80)

1191SI（第Ⅲ-309・310図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている考えられる。床面の標高は約53.5mで、この住居埋没後1174SI・1194SI・1192SI・1176SIが建てられている。主軸の方位は不明である。

住居形態　住居形態、長軸・短軸・床面積・深さ・埋土はすべて不明である。

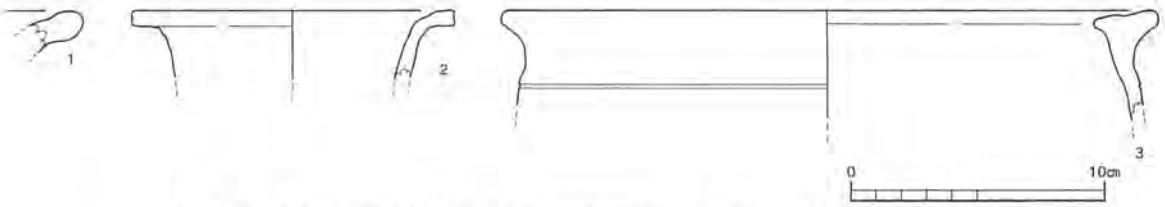
柱穴　柱穴の径は28～32cmで、深さは24～32cmである。柱痕跡の径は、16～20cmである。

遺物出土状況　住居埋土から、甕口縁部片2個出土している。

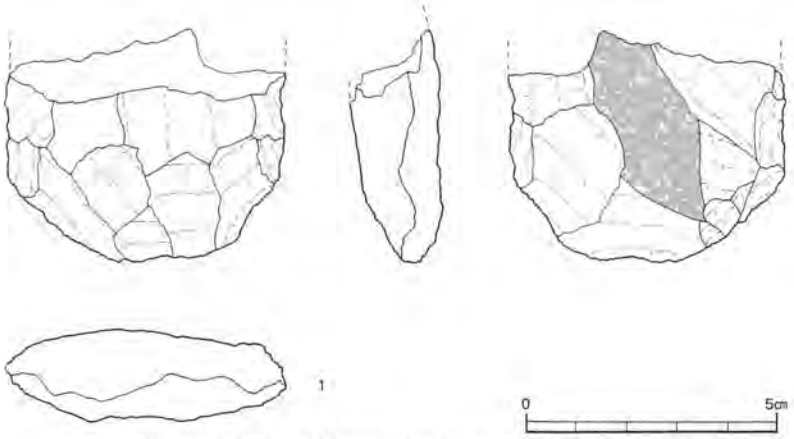
まとめ　1174・1176SIとの重複関係から6A期以前と推定できる。

153SI（第Ⅲ-311・312・313図）

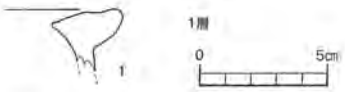
位置　遺跡北西部（2区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形がやや削平されていると考えられる。床面の標高は約52.6mで、この住居埋没後、123SI・124SI・138SIが建てられている。主軸の方位は、N-4°-Wである。



第Ⅲ-315図　1209SI出土土器実測図(1/3)〈P(1)、SK(2)、床面(3)〉



第Ⅲ-316図　1209SI出土石器実測図(2/3)〈床面〉



第Ⅲ-317図　1211SI出土土器実測図(1/3)

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸3.08 m、短軸2.83 mを測る。床面積は8.91 ㎡で、検出面からの深さは0.62 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は5層からなる。

柱穴　柱穴の径34～50 ㎝で、深さは18～36 ㎝である。柱痕跡は認められない。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2、壺口縁部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴は（P 1・2）、支柱（2本柱）で構成されるものと考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4B期に位置づけられると推定できる。

1209SI（第Ⅲ-314・315・316図）

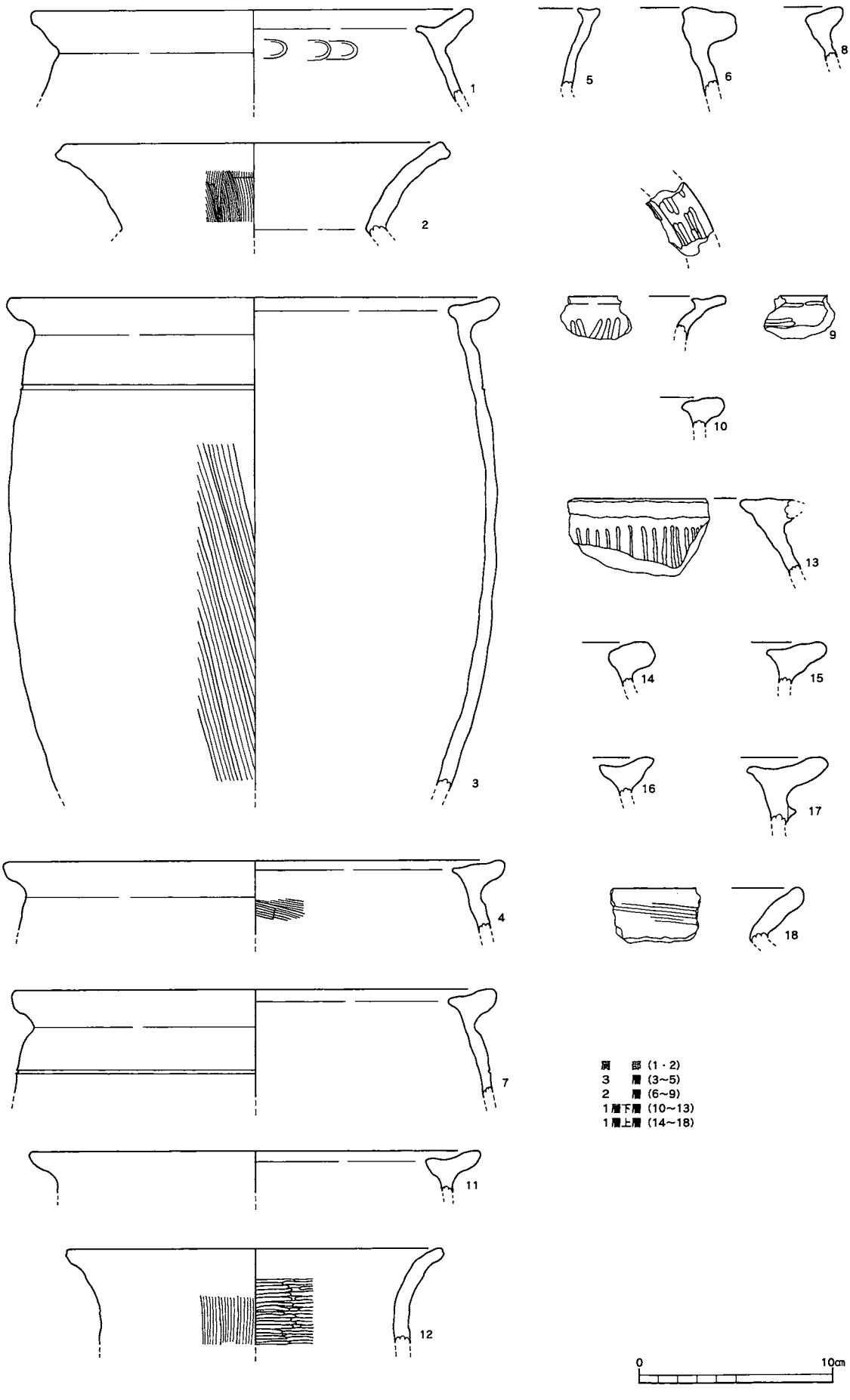
位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、北側に1172、1196SI、西側に1211SI、南側上層部に1174SIが建てられている。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.42 m以上．短軸2.06 m 以上を測る。残存床面積は3.47 ㎡で、検出面からの深さは42 ㎝である。埋土は2層からなる。

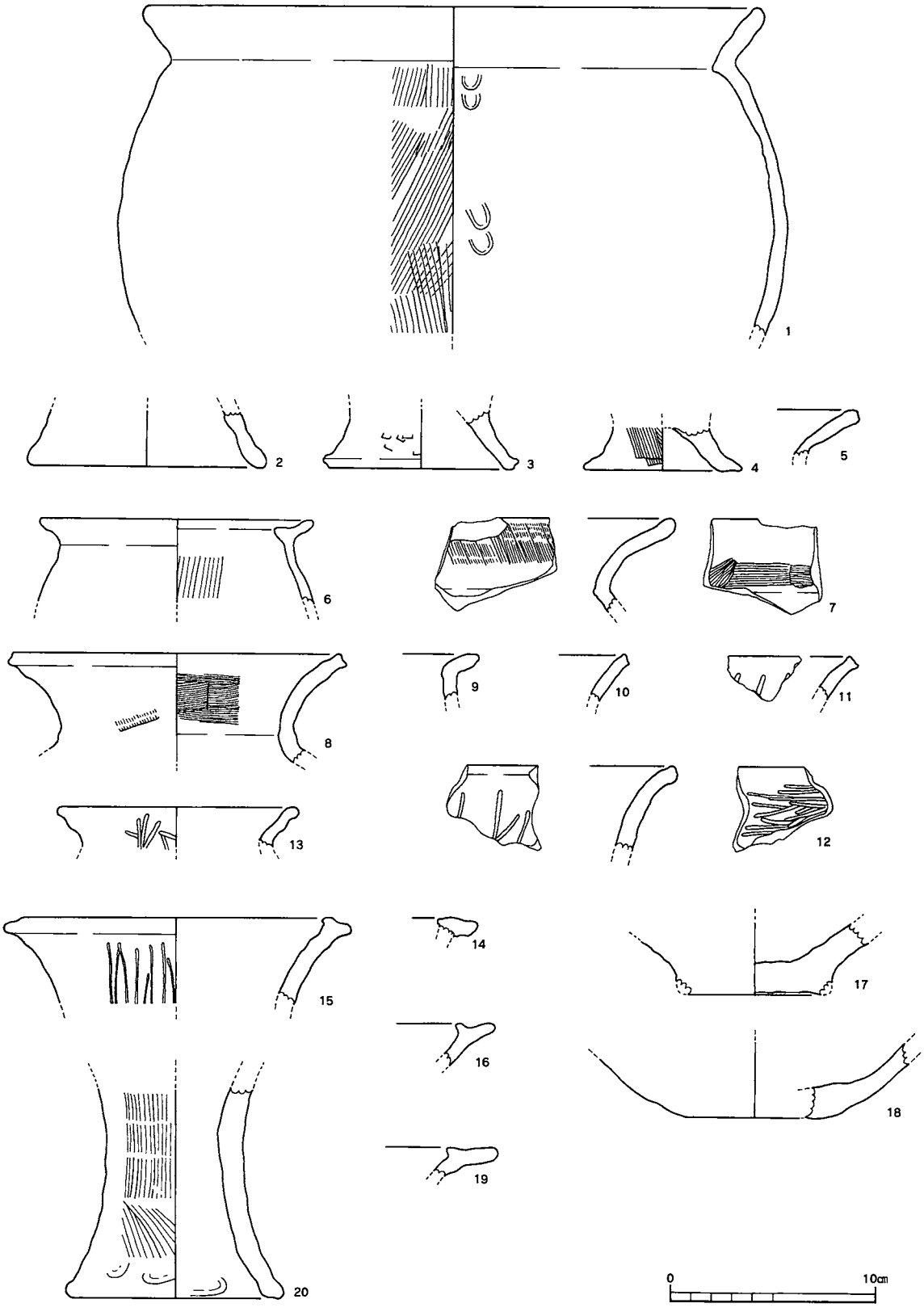
柱穴　柱穴の径は24～28 ㎝で、深さは25～40 ㎝である。柱痕跡の径は12～18 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2、壺口縁部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　残存面積が狭いため、詳細は不明である。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期以前（5期）に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-318図　138SI出土土器実測図1（1/3）



第Ⅲ-319図　138SI出土土器実測図2(1/3)〈1層上層(1～20)〉

1211SI（第Ⅲ-314・317図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.9ｍで、この住居埋没後、北側に123SI、西側に153SIが建てられている。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸1.66ｍ以上、短軸1.16ｍ以上を測る。残存床面積は0.84㎡で、検出面からの深さは0.6ｍである。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は26㎝で、深さは27㎝で、柱痕跡の径15㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片２が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　遺構のほとんどが壊されているため、詳細は不明である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A～８期以降に位置づけられると推定できる。

138 SI（第Ⅲ-314・318・319図、PL.28）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7ｍで、この住居埋没後、北東部上層には123SIが建てられている。主軸の方位は、Ｎ-10°-Ｗである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.66ｍ、短軸4.44ｍを測る。床面積は14.8㎡で、検出面からの深さは0.58ｍである。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は23～32㎝で、深さは28～42㎝である。柱痕跡は見つからない。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片38・底部片２、壺口縁部片14・底部片２が出土している。廃棄及び流れ込みの遺物と考えられる。

まとめ　主柱穴はＰ１～４で構成される４本柱構造と考えられる。住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B期に位置づけられると推定できる。

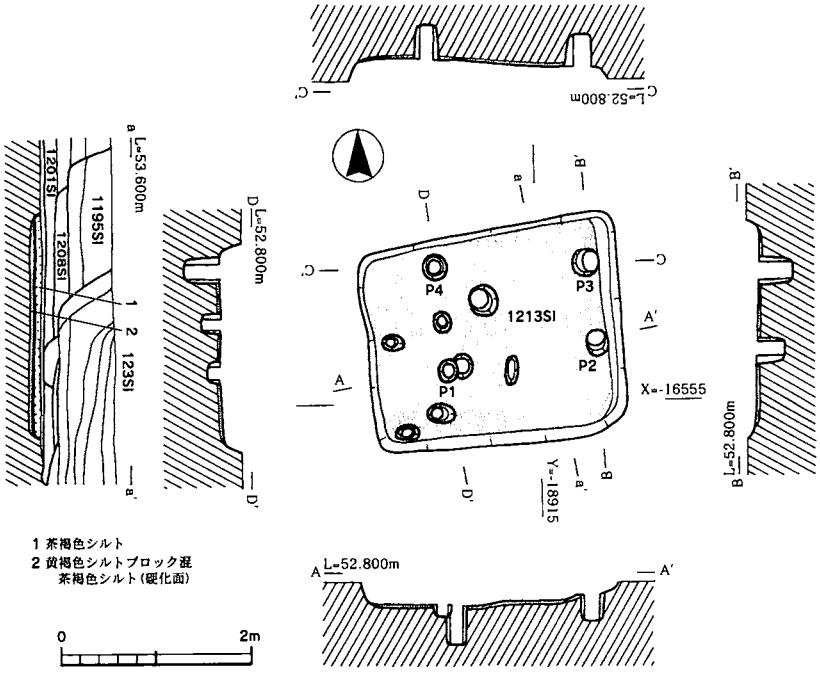
1213SI（第Ⅲ-320図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.5ｍで、この住居埋没後、上層面に1201SIが建てられている。主軸の方位は、Ｎ-４°-Ｗである。

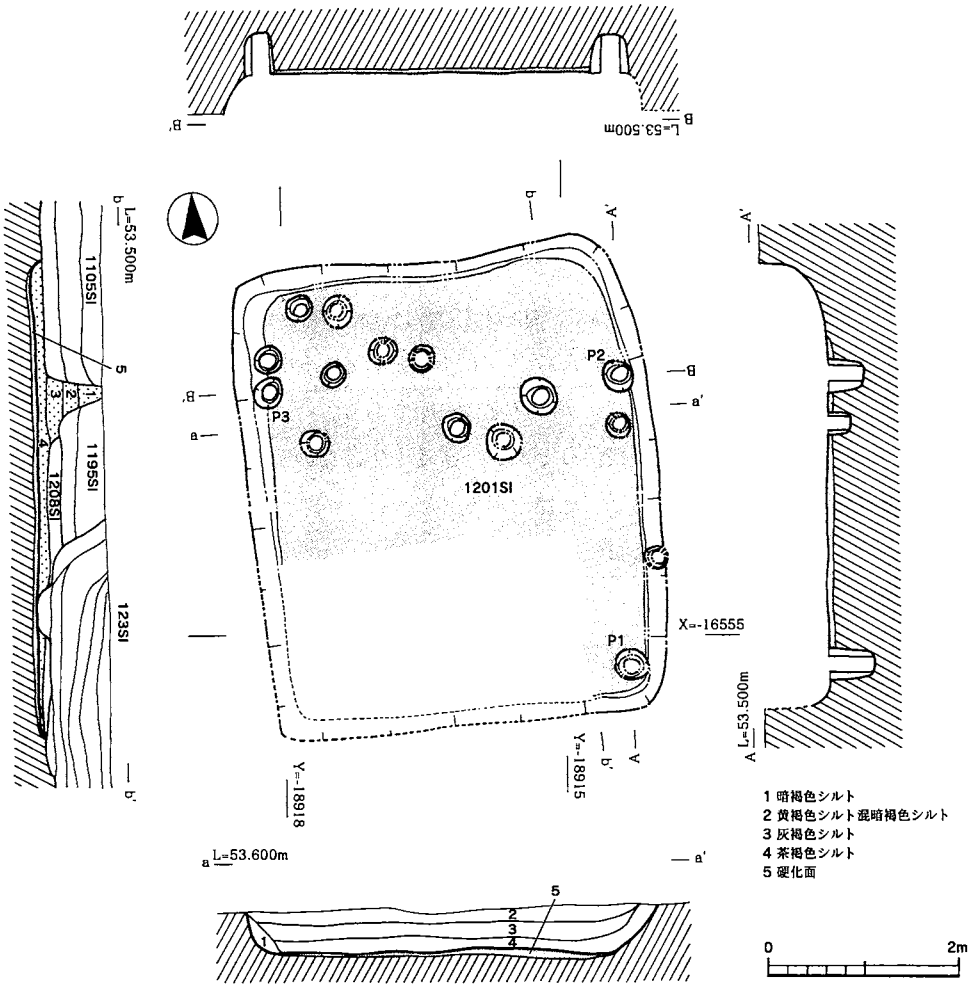
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸2.72ｍ、短軸2.24ｍを測る。床面積は5.23㎡で、検出面からの深さは0.20ｍである。硬化面は床全体に認められる。埋土は検出した部分は１層からなる。

柱穴　柱穴の径は17～32㎝で、深さは13～40㎝である。柱痕跡の径は12～18㎝である。

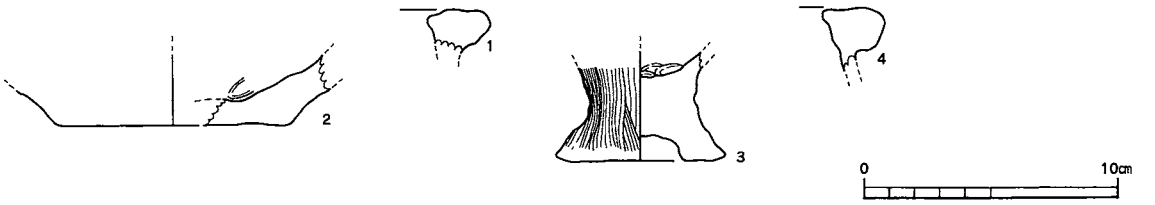
遺物出土状況　住居の埋土か



第Ⅲ-320図　1213SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-321図　1201SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-322図　1201SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1・2)、2層(3)、1層(4)〉

ら時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　竪穴部の上層部が1201SIによって壊されており、詳細は不明であるが、竪穴部の深さは80㎝以上と推定される。Ｐ１～４を主柱穴とする４本柱構造と考えられる。

住居の新旧関係から考えて、住居の時期は３期以前に位置づけられると推定できる。

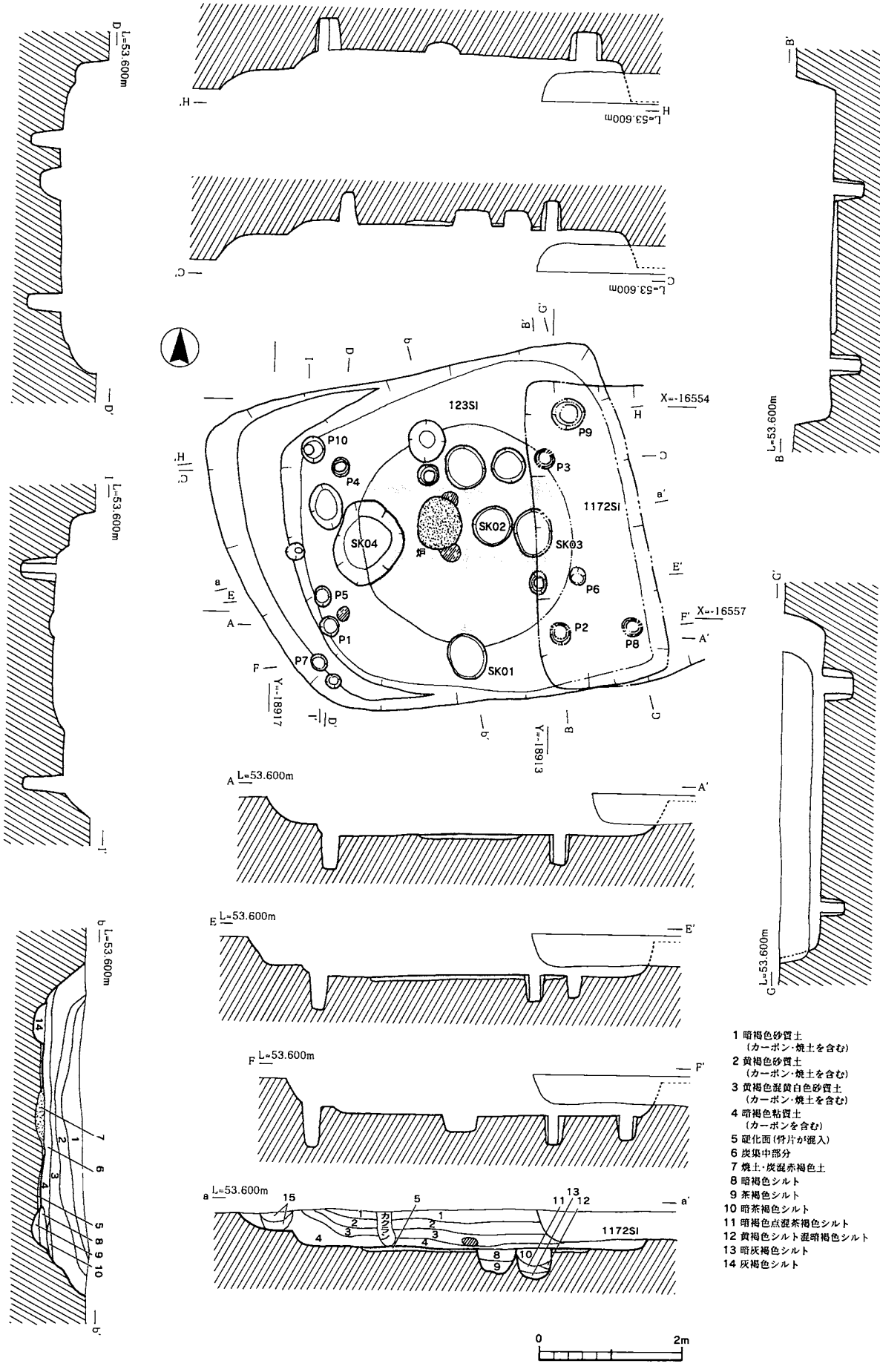
1201 SI（第Ⅲ-321・322図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7ｍで、この住居埋没後、北側上層部に1105SIと1200SI、南側上層部に123SI・1195SI・1208SIが建てられている。主軸の方位は、N-7°-Wである。

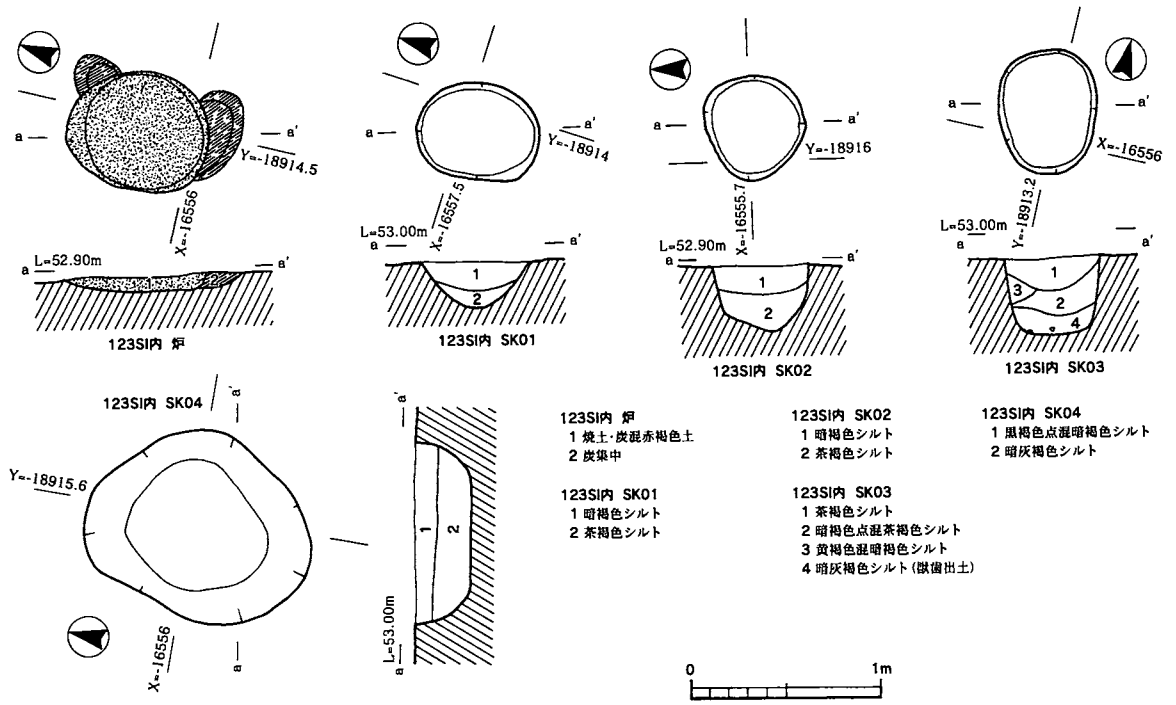
住居形態　平面形態はほぼ長方形を呈し、長軸4.94ｍ、短軸4.42ｍを測る。床面積は18.28㎡で、検出面からの深さは0.7ｍである。硬化面はほぼ床全面に認められる。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は21～38㎝で、深さは22～43㎝で、柱痕跡の径は14～18㎝である。

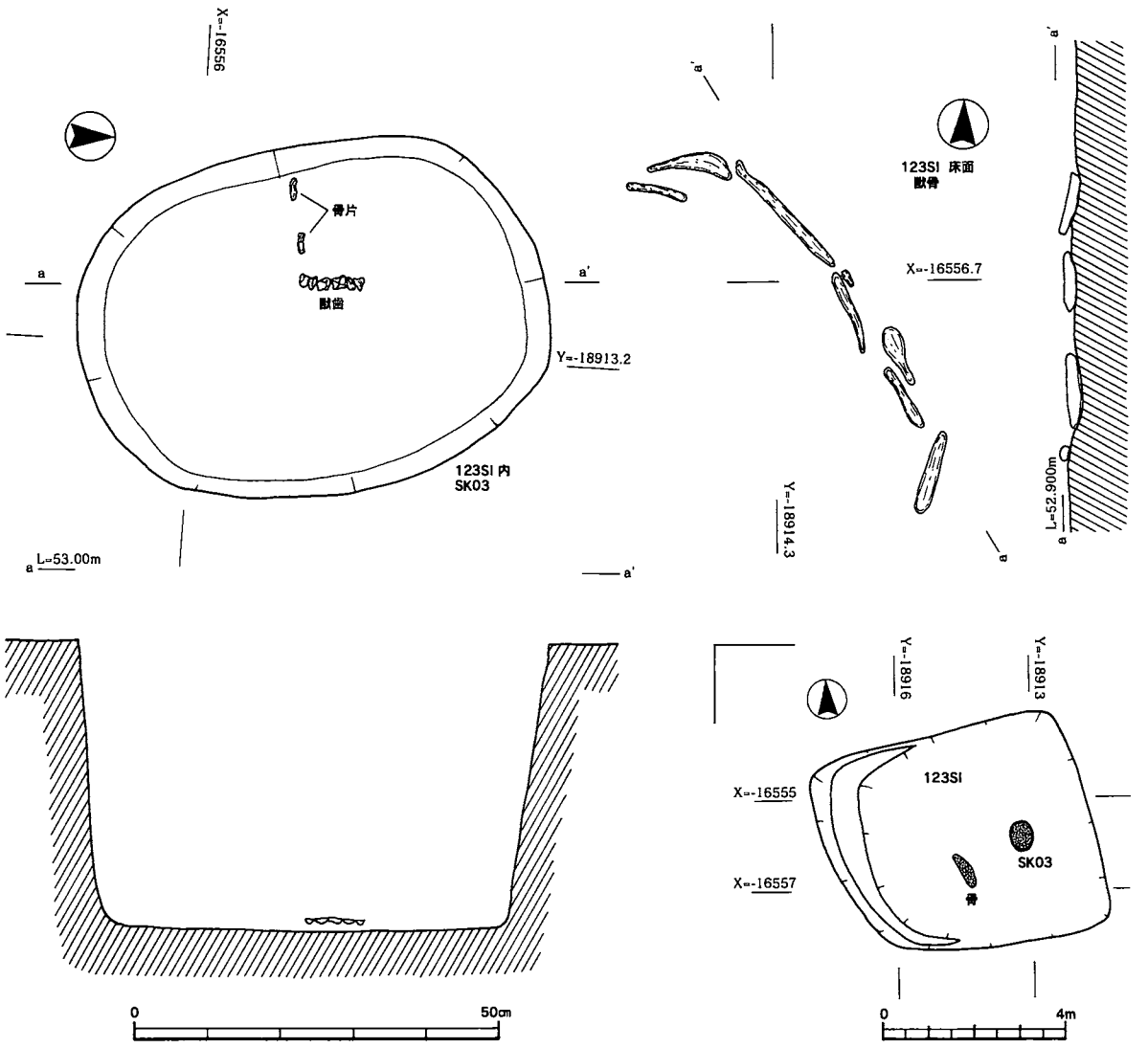
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片３・底部片１、壺底部片１が出土している。流れ込みの遺物で



第Ⅲ-323図　123SI　平面・断面図(1/80)

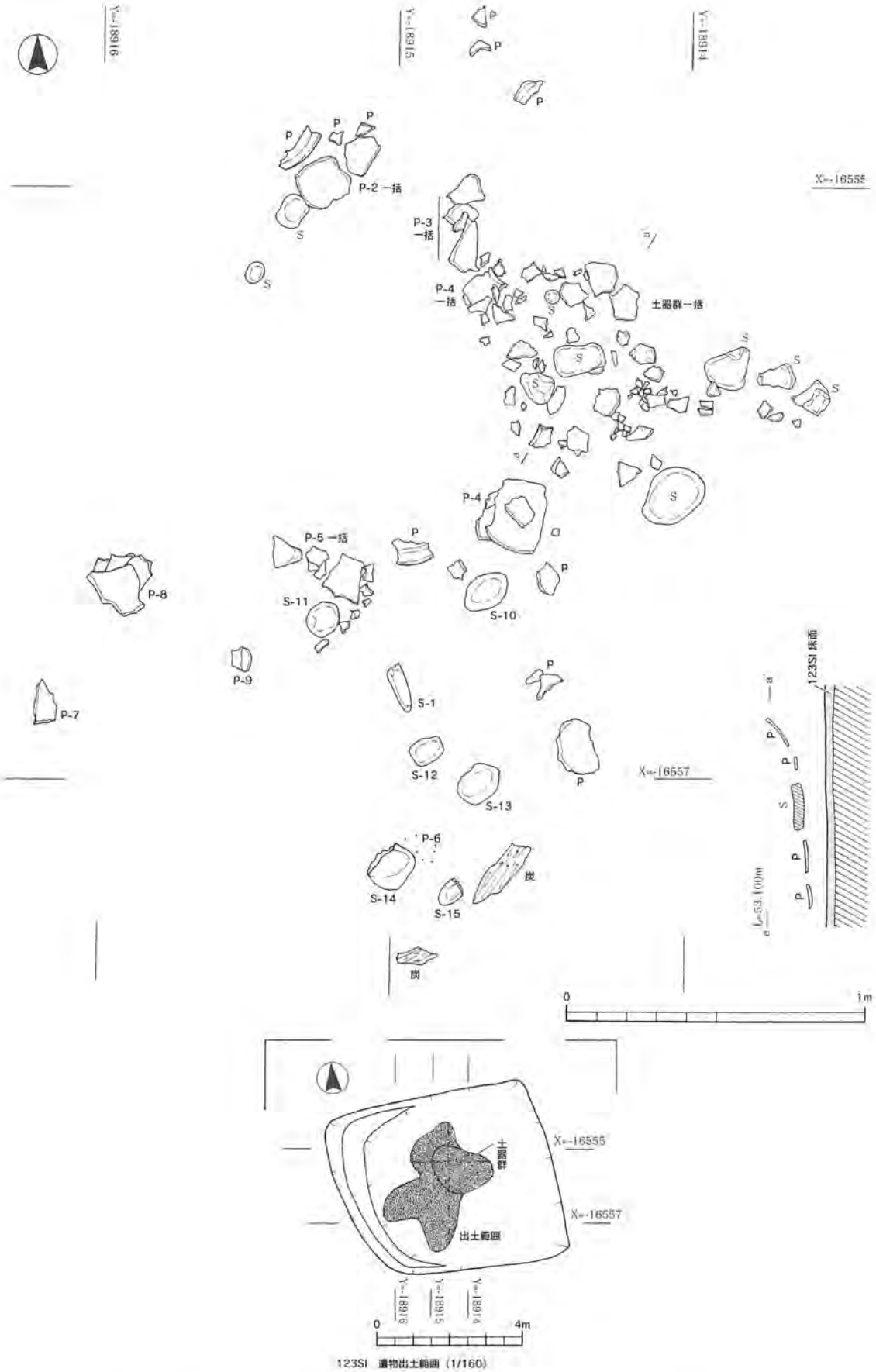


第Ⅲ-324図　123SI内炉・SK01～04　平面・断面図(1/40)

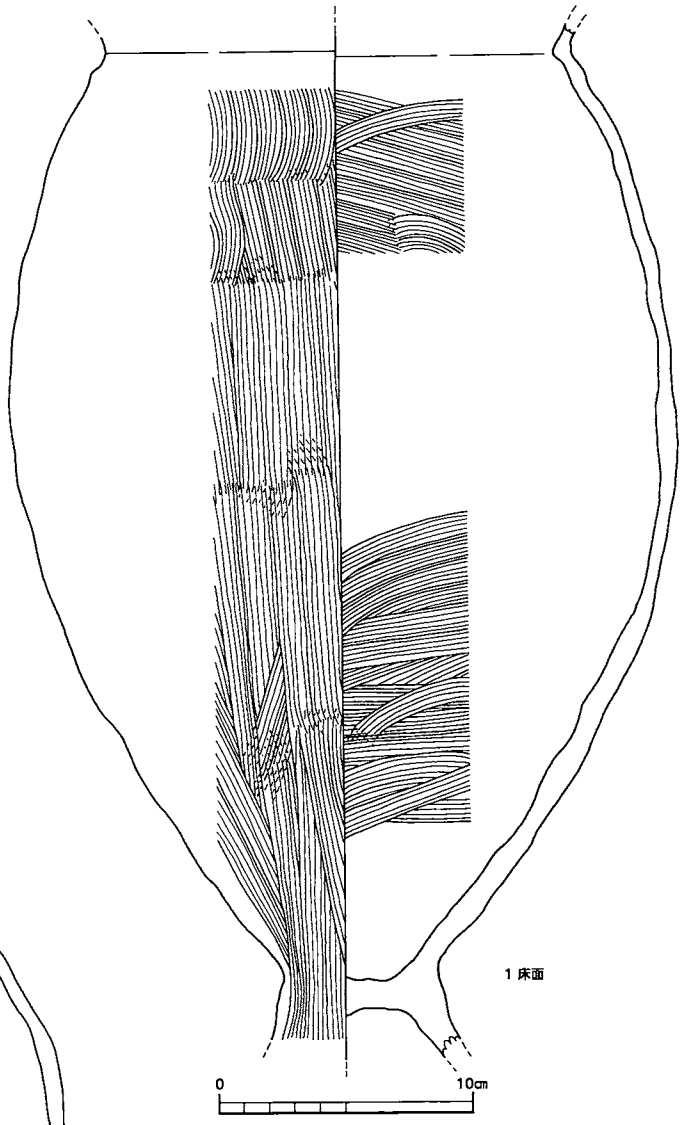


第Ⅲ-325図　123SI内　SK03・獣歯
床面・獣骨出土状況(1/10)

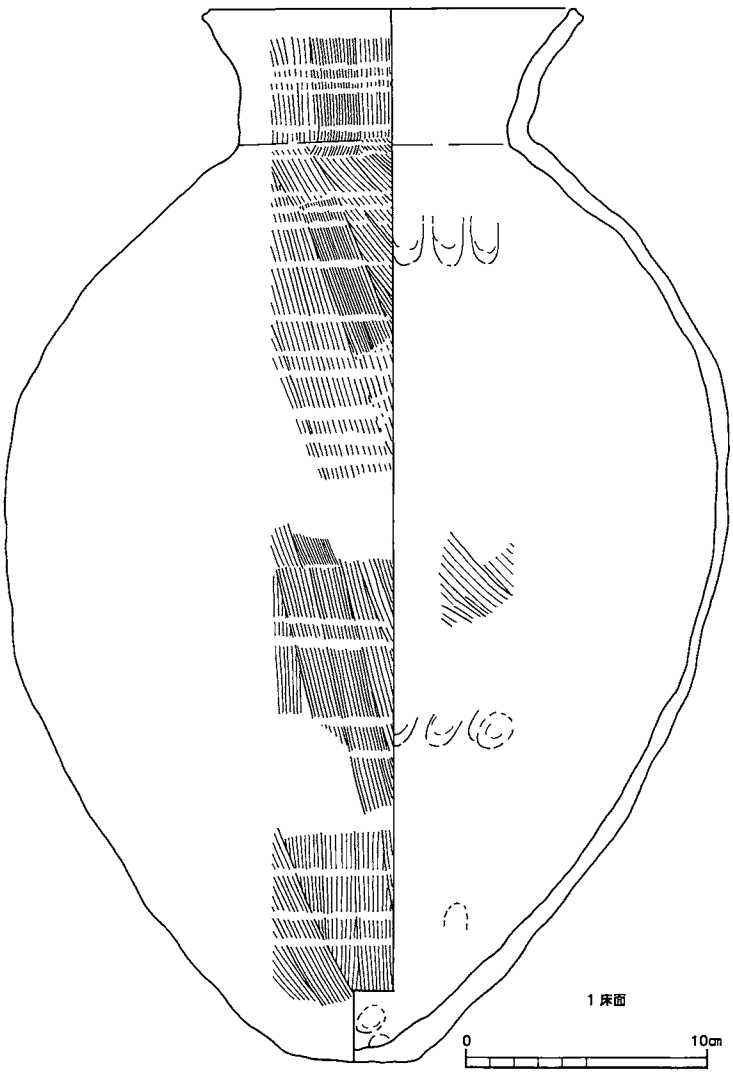
123SI内獣骨出土位置(1/160)



第Ⅲ-326図　123SI遺物出土状況及び範囲　平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-327図　123SI出土土器実測図1(1/3)

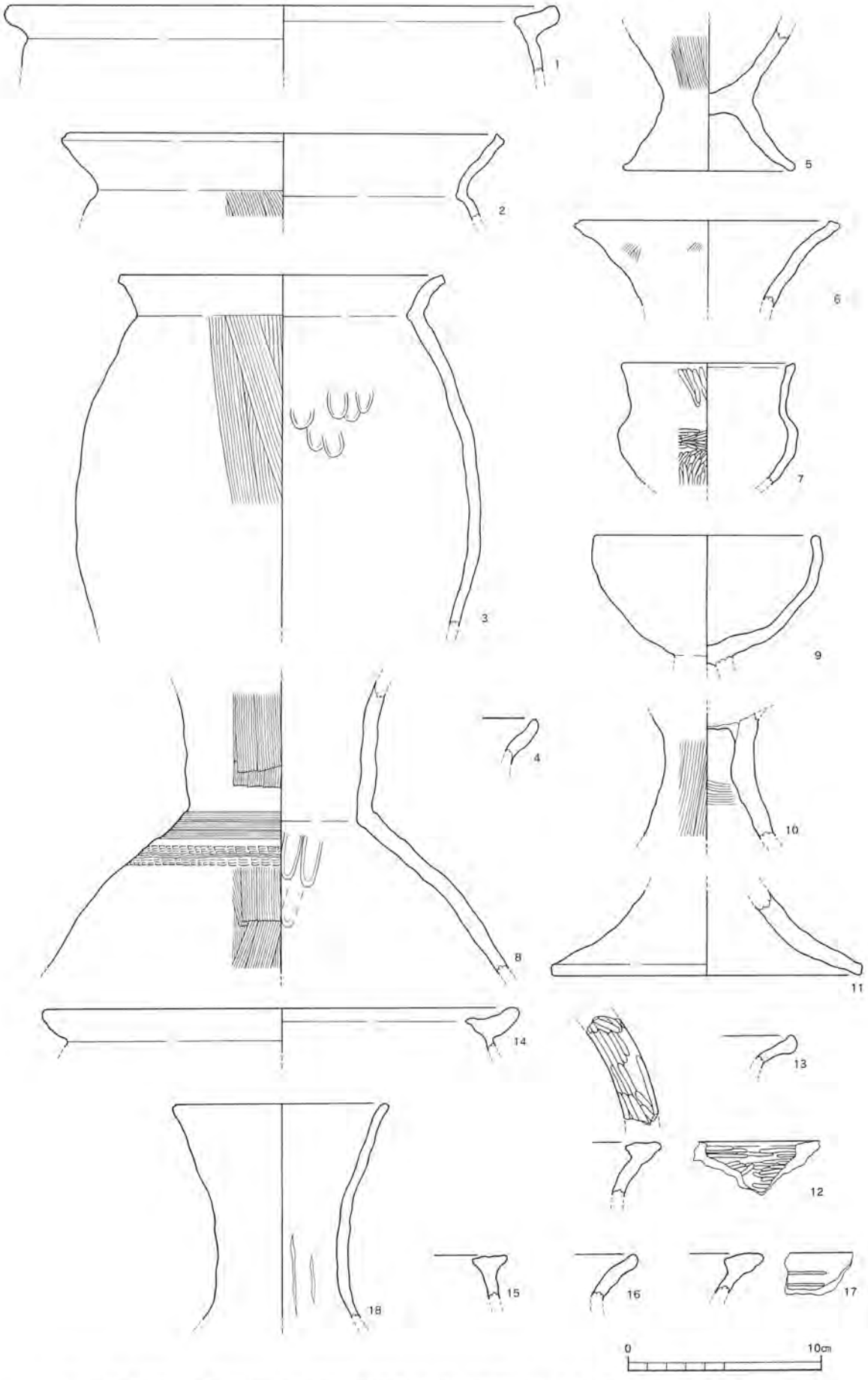


第Ⅲ-328図　123SI出土土器実測図2(1/3)

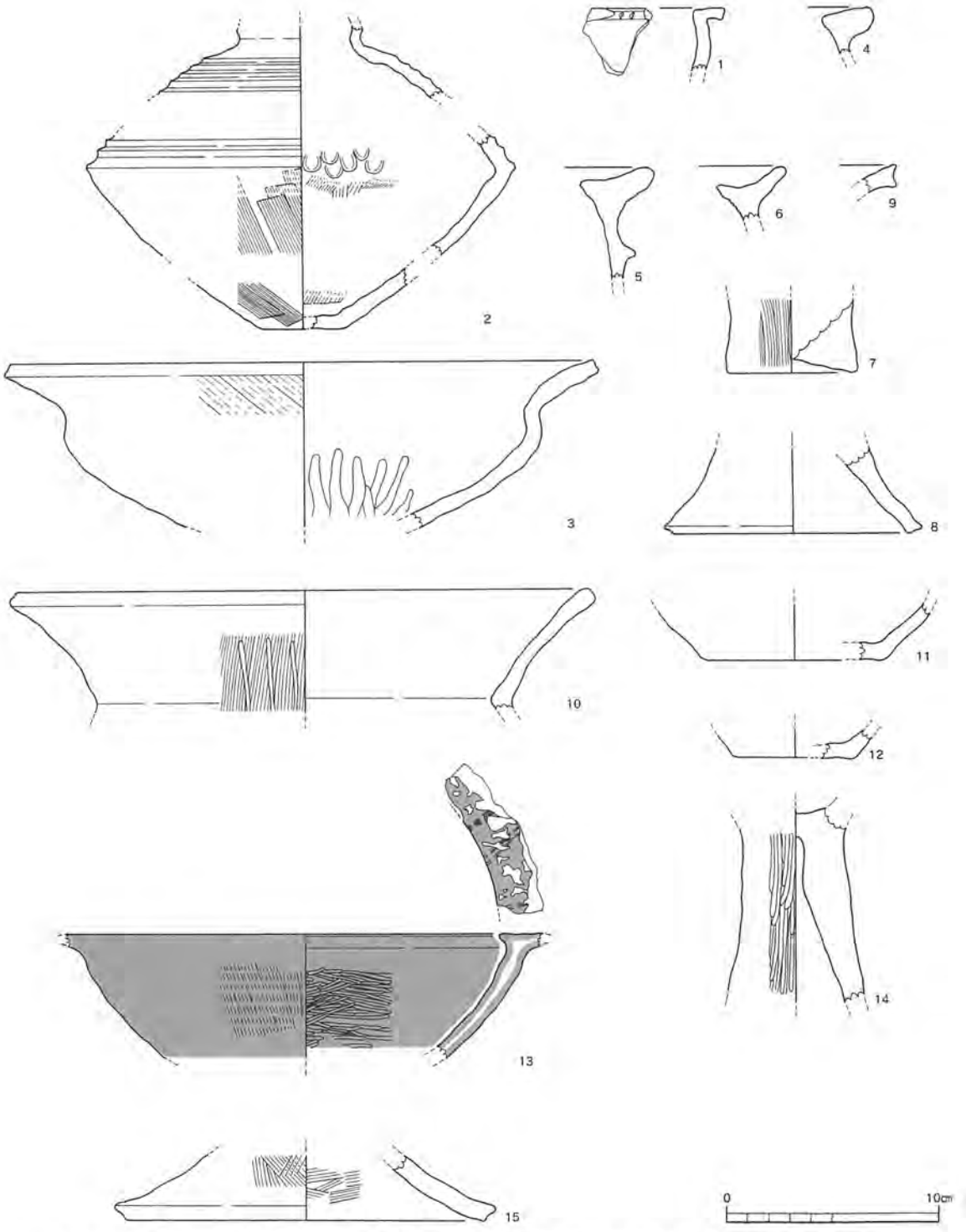
あると推定できる。

まとめ　Ｐ１～３を主柱穴とする４本柱の構造と考えられるが、南西隅の１本は検出できなかった。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は３期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-329図　123SI出土土器実測図3(1/3)〈床面(1～11)、P(12)、5層(13～18)〉



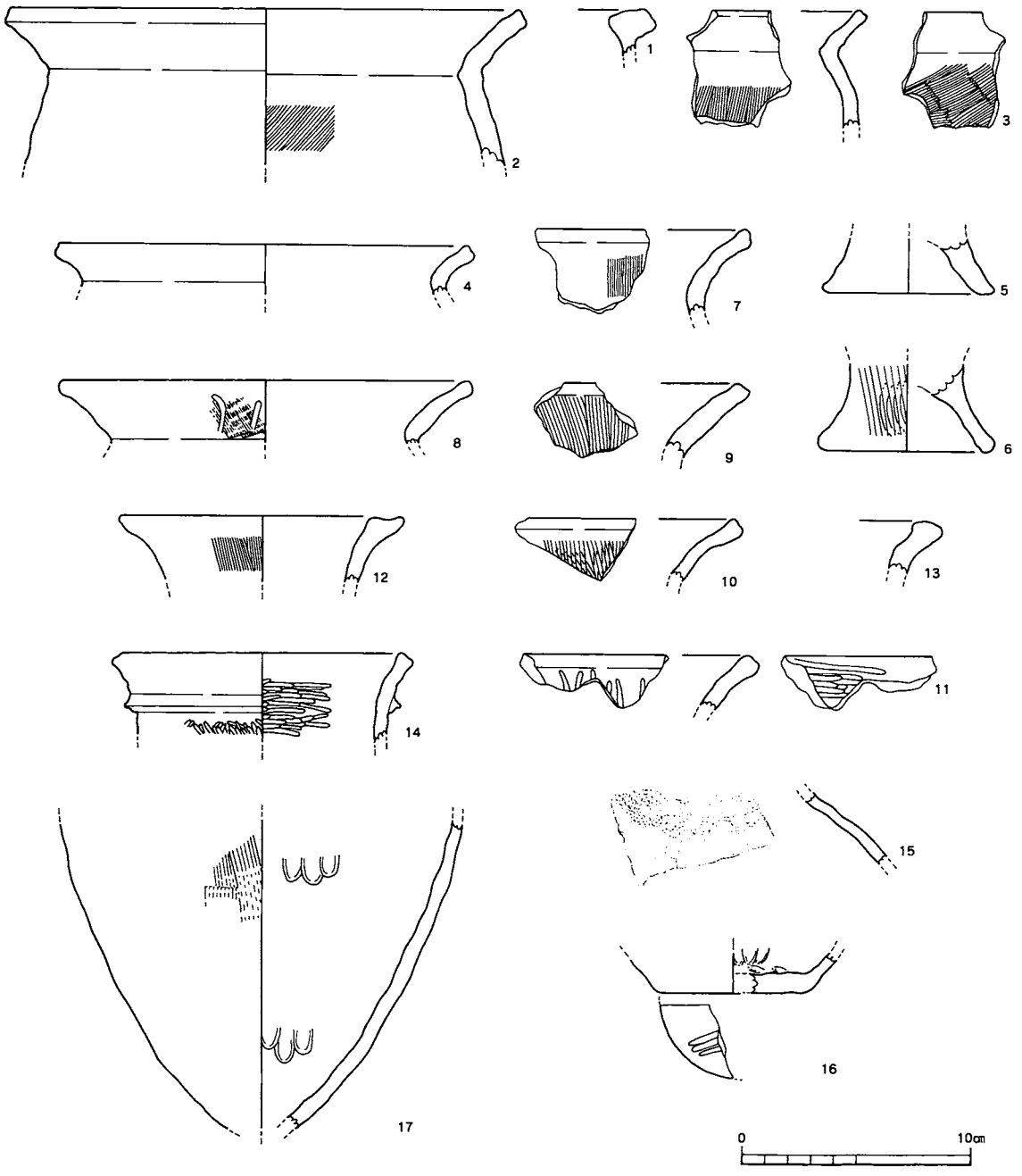
第Ⅲ-330図　123SI出土土器実測図4(1/3)〈肩部(1)、床面(2・3)、4層(4～15)〉

123SI（第Ⅲ -323 ～ 334 図、PL.6・7・28・29・42）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置し、旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約 52.9 mで、この住居埋没後、東側上層に 1172SI が建てられている。主軸の方位は、N -21 °-W である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 5.88 m、短軸 4.84 mを測る。床面積は 23.85 ㎡で、検出面からの深さは 0.6 mである。硬化面は中央部約 1/2 に認められる。埋土は５層からなる。

柱穴　柱穴の径は 24 ㎝～ 35 ㎝で、深さは 35 ～ 49 ㎝である。柱痕跡の径は 14 ～ 28 ㎝である。

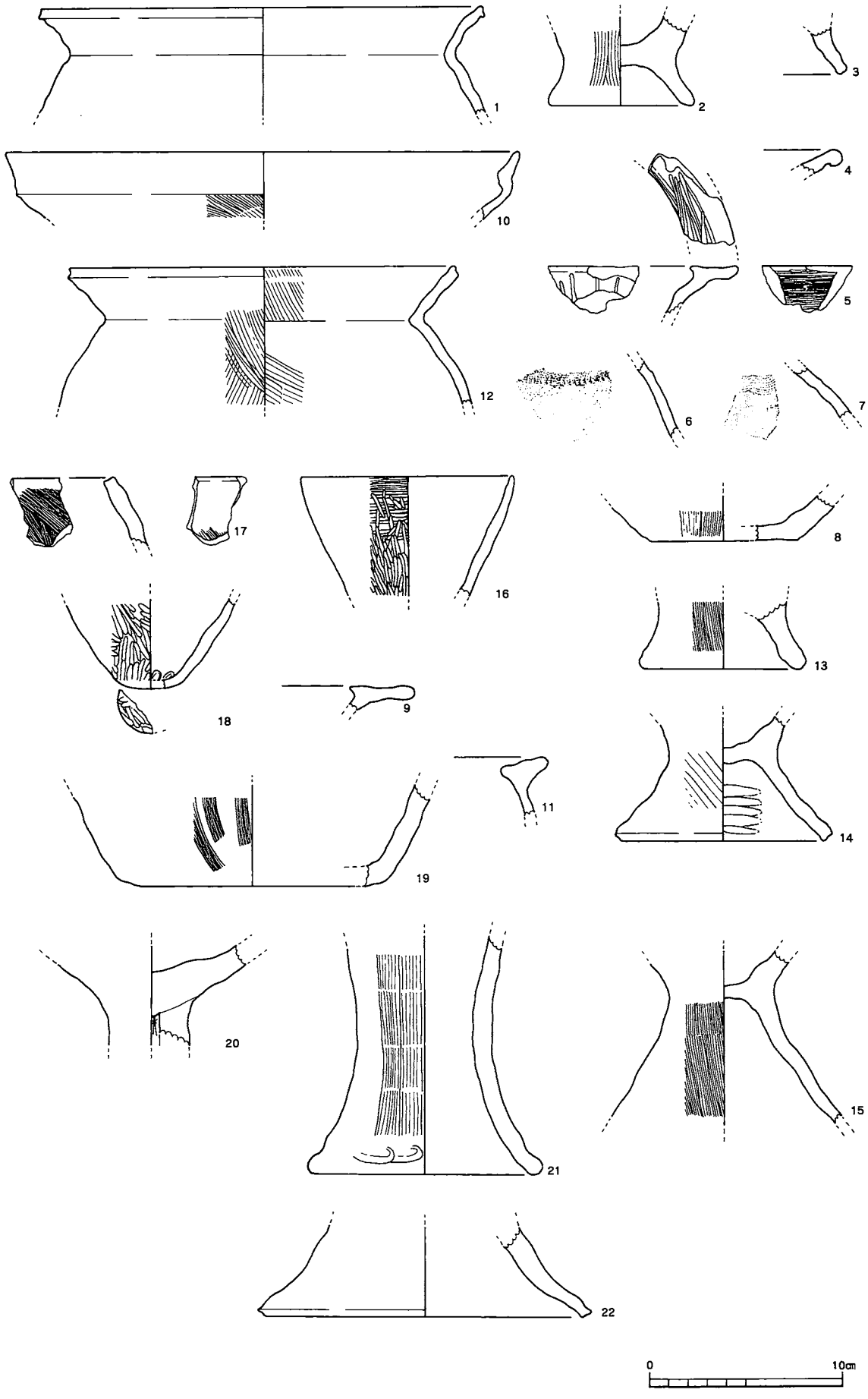


第Ⅲ-331図　123SI出土土器実測図5(1/3)〈3層(1～17)〉

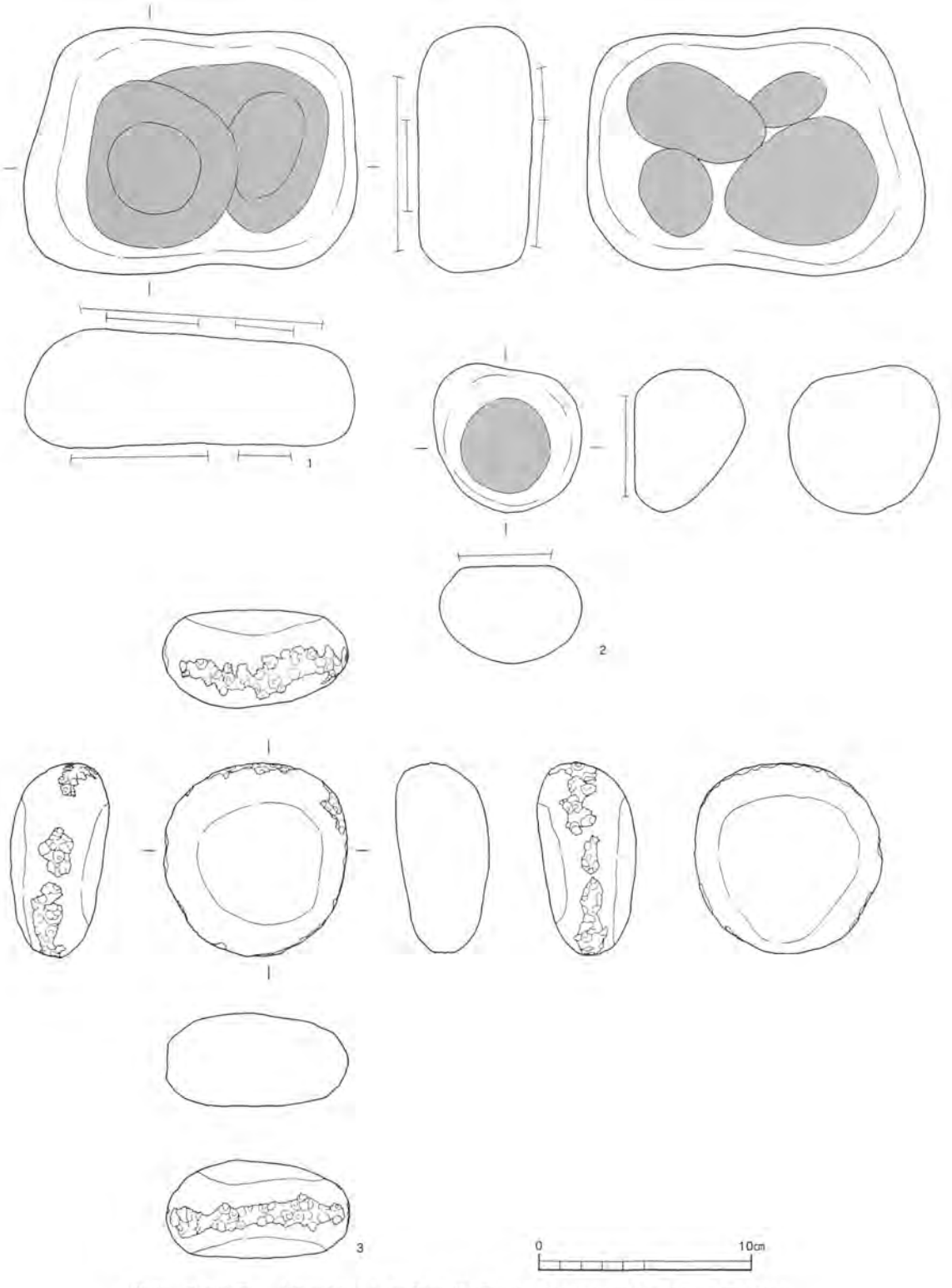
炉　住居の中央部に位置し、長軸 75 cm、短軸 56 cm、深さ 19 cmを測る。断面は皿状を呈する。埋土は 1 層からなり、周囲に炭が集中している。

貯蔵穴　住居内に 4 箇検出し、SK01 は住居の南側に位置し、長軸 66 cm、短軸 50 cm、深さ 24 cmで、断面はすり鉢状を呈し、埋土は 2 層からなる。SK02 は中央部に位置し、長軸 54 cm、短軸 52 cm 、深さ 30 cmで、断面はU字状を呈す。SK01・02 はいずれも埋土は 2 層で、1 層目暗褐色シルト、2 層目茶褐色シルトである。ほぼ同時期のものと推定される。SK03 は長軸 66 cm、短軸 50 cm、深さ 37 cmで、断面はU字状を呈し、埋土は 4 層からなる。SK04 は西側に位置し、長軸 120 cm、短軸 97 cm、深さ 29 cmで、断面はU字状を呈し、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 69・底部片 19、壺口縁部片 38・底部片 3・高坏 1 が出土している。第Ⅲ -326 図に示されるように廃棄された状況で出土した。SK03 より獣歯、床面で獣骨が出土している。



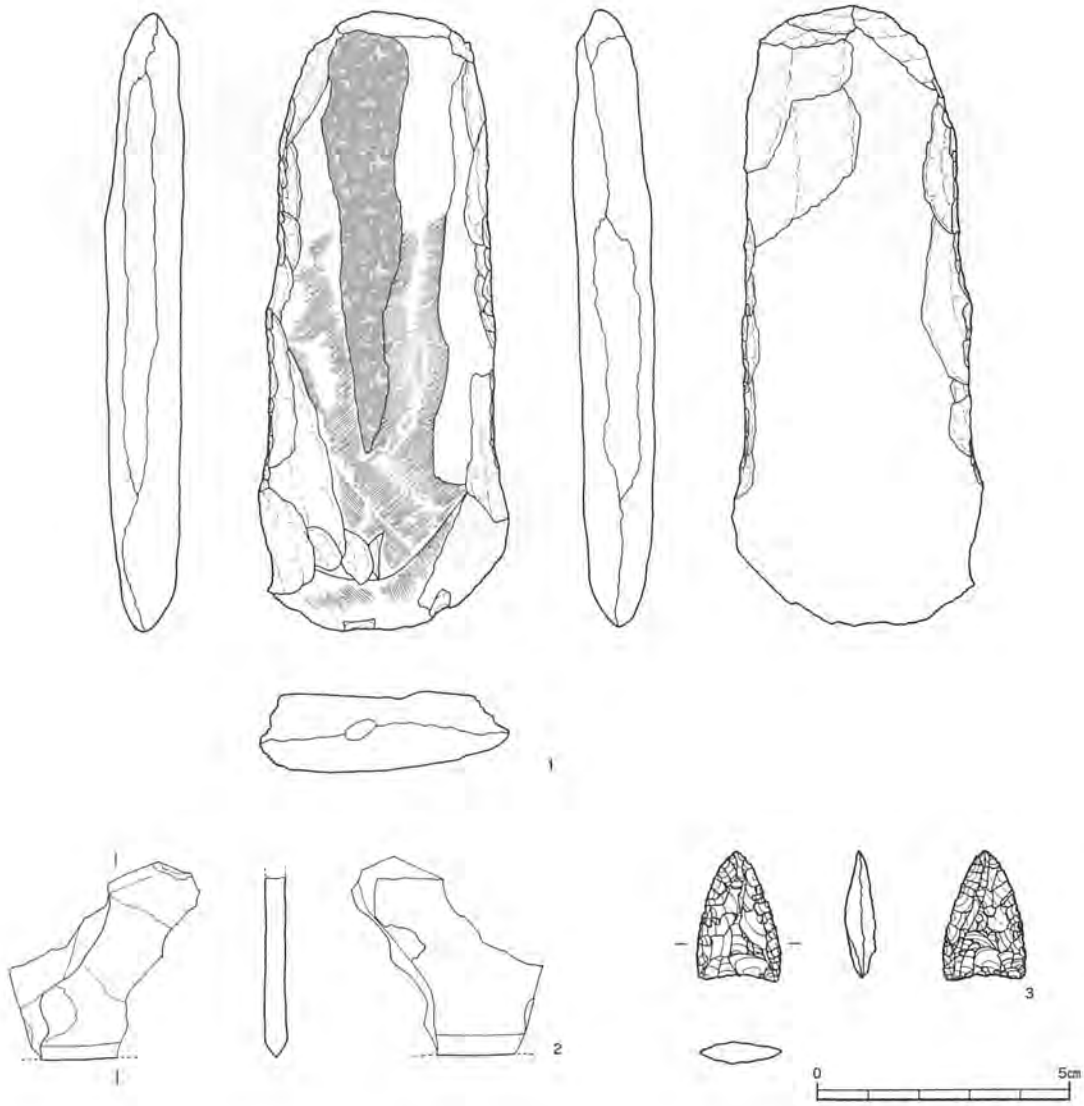
第Ⅲ-332図　123SI出土土器実測図6(1/3)〈2層(1～10)、1層(11～22)〉



第Ⅲ-333図　123SI出土石器実測図1(1/3)〈床面(1・2)、4層(3)〉

まとめ　典型的なレンズ状堆積の埋土である。北西側から埋没したと考えられる。竪穴西側で床面より20㎝の高さで最大幅90㎝の平らな部分があり、竪穴入口の階段としての利用が考えられる。柱構造はP1～6の6柱構造およびP7～10の4本柱構造と推定される。竪穴の形状・大きさなどからP1～6で建てられたのち、P7～10を主柱穴とするものに建て替えられたものと考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は8期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-334図　123SI出土石器実測図2(2/3)〈4層(1)、3層(2)、2層(3)〉

1204 SI（第Ⅲ-335図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.28 mで、この住居埋没後、南側に1198SIが建てられ、東側は調査区外である。主軸の方位はN-19°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸1.35 m以上、短軸0.66 m以上を測る。床面積は測定不可能で、残存床面積は0.61 ㎡、検出面からの深さは30 ㎝である。埋土は1層からなる。

柱穴　柱穴は検出されていない。

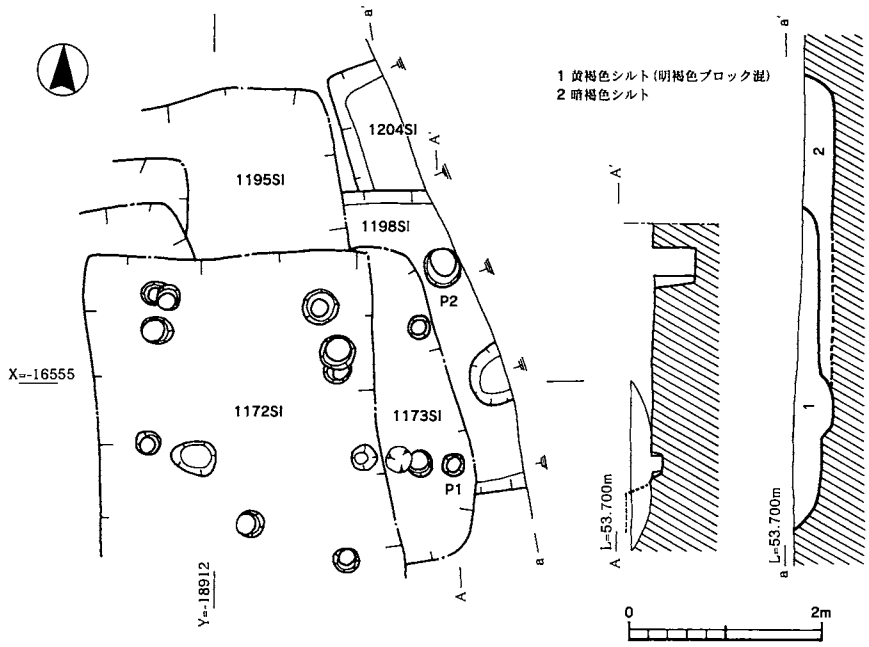
遺物出土状況　住居の埋土から時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　住居の大部分が調査区外及び破壊されているため詳細は不明である。住居の新旧関係から8期以前と推定できる。

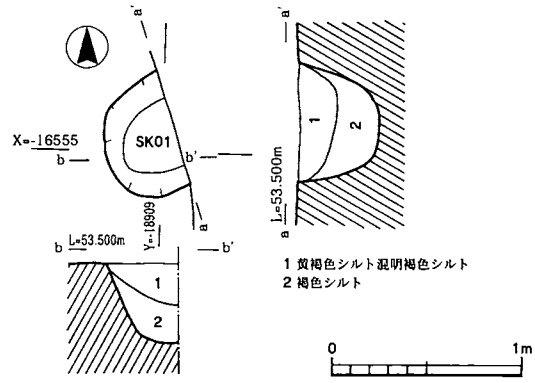
1198 SI（第Ⅲ-335・336図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.3 mで、この住居埋没後、西側に1173SI、北側に1195SIが建てられている。東側は調査区外である。主軸の方位は不明である。

住居形態　平面形態は方形であり、長軸3.36 m以上、短軸0.96 m以上を測る。床面積は不明で、残存床面



第Ⅲ-335図　1204SI・1198SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-336図　1198SI内SK01　平面・断面図(1/40)

積は約 1.56 ㎡、検出面からの深さは 0.3 mである。埋土は 1 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 23 ～ 42 cmで、深さは 12 ～ 45 cmである。柱痕跡の径は 16 ～ 30 cmである。

貯蔵穴　住居内での位置は不明で、長軸 62 cm、短軸 38 cm以上、深さ 42 cmで、断面はU字状を呈し、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土から時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　多数の住居に埋没後破壊され、しかも調査区外に伸びるため詳細は不明である。住居の新旧関係により８期以前と推定できる。

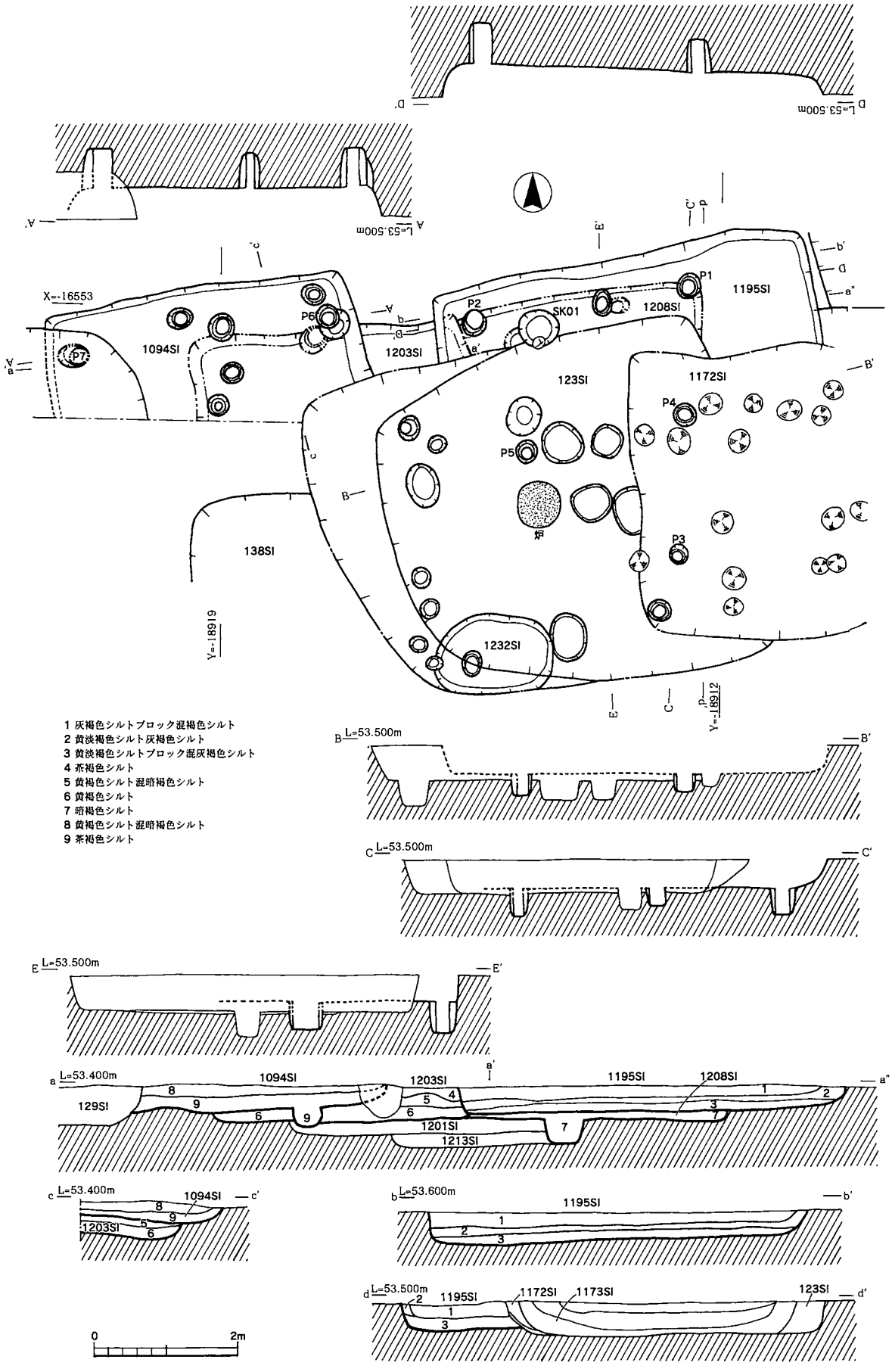
1195 SI（第Ⅲ -337・338 図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.0 mで、この住居埋没後、南側に 123SI と 1172SI が建てられている。主軸の方位はN - 19°-W である。

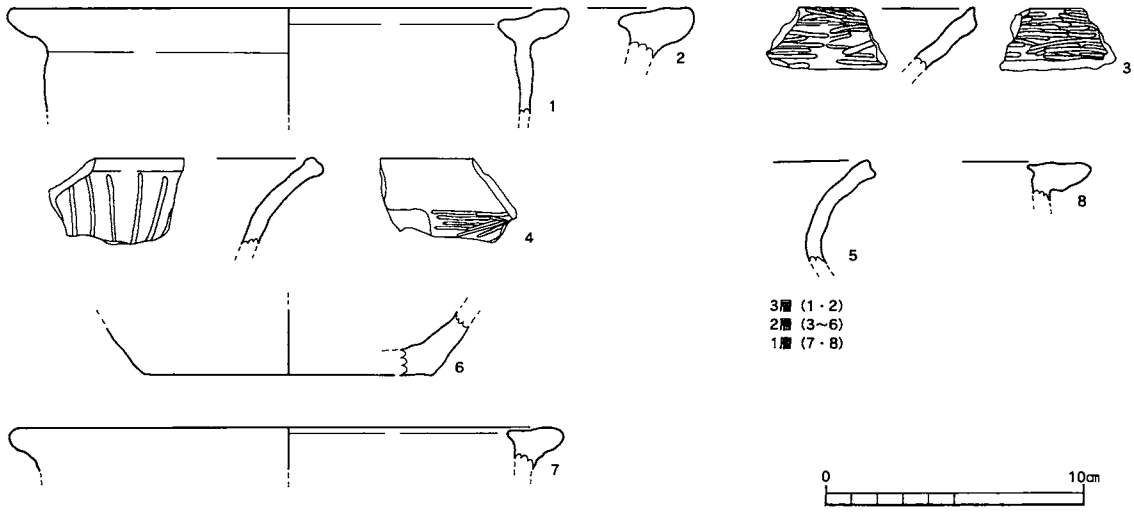
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 5.34 m、短軸 1.86 m以上を測る。床面積は不明で、残存床面積は 5.90 ㎡で、検出面からの深さは 0.32 mである。埋土は 3 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 14 ～ 33 cmで、深さは 25 ～ 49 cmである。柱痕跡の径は 18 ～ 28 cmである。

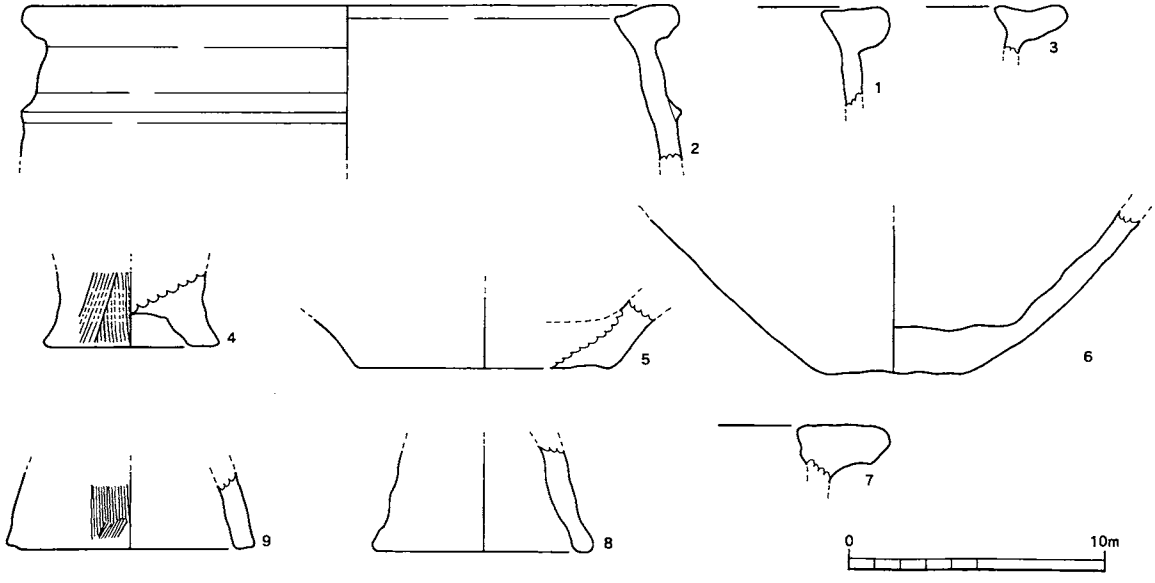
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 9、壺口縁部片 4 が出土している。



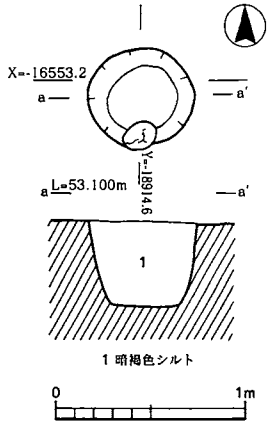
第Ⅲ-337図　1195SI・1203SI・1208SI・1094SI　平面・断面図(1/80)



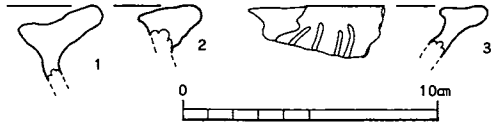
第Ⅲ-338図　1195SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-339図　1094SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～6)、1層(7～9)〉



第Ⅲ-340図
1208SI内SK01
平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-341図　1208SI出土土器実測図(1/3)〈1層(1～3)〉

まとめ　主柱穴はＰ１～５で構成される４本＋２本構造の住居とが考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期以降に位置づけられると推定できる。

1203SI（第Ⅲ-337図）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、この住居埋没後、西側に1094SI、東側に1195SIが建てられ、中央部分を撹乱により掘削されてい

る。主軸の方位はN -14°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.84 m、短軸0.88 m以上を測る。残存床面積は3.29 ㎡で、検出面からの深さは0.42 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は58～74 ㎝で、深さは33～43 ㎝である。柱痕跡の径は26～58 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から時期がわかる遺物は、出土していない。

まとめ　柱穴の確認位置から4本柱の竪穴住居の可能性がある。

住居の時期は、新旧関係から4A～8期と推定できる。

1208SI（第Ⅲ-337・340・341図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、上層部に1195SIに、西側に1203SI、南側に123SIが建てられている。主軸の方位はN -12°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.42 m、短軸0.52 m以上を測る。残存床面積は1.30 ㎡で、検出面からの深さは0.42 mである。埋土は1層からなる。

柱穴　柱穴の径は28～36 ㎝で、深さは22～56 ㎝である。柱痕跡の径は18～24 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2、壺口縁部片1が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　他の住居にほとんどの部分が壊されているため詳細は不明であるが、2本柱構造の住居である可能性がある。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期に位置づけられると推定できる。

1094SI（第Ⅲ-337・339図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんど削平されていると考えられる。床面の標高は約53.02 mで、この住居埋没後、西側に129SIが建てられている、南側は調査区外により未発掘である。主軸の方位はN -13°-Wである。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.42 m、短軸1.88 m以上を測る。床面積は不明で、残存床面積は6.37 ㎡で、検出面からの深さは0.34 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は32～42 ㎝で、深さは37～74 ㎝である。柱痕跡の径は16～26 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片4・底部片3、壺底部片2が出土している。

まとめ　確認された柱位置から、6本柱か4本柱を主柱とする竪穴住居と推定できる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A～4B期に位置づけられると推定できる。

1196SI（第Ⅲ-342・343・344図、PL.7）

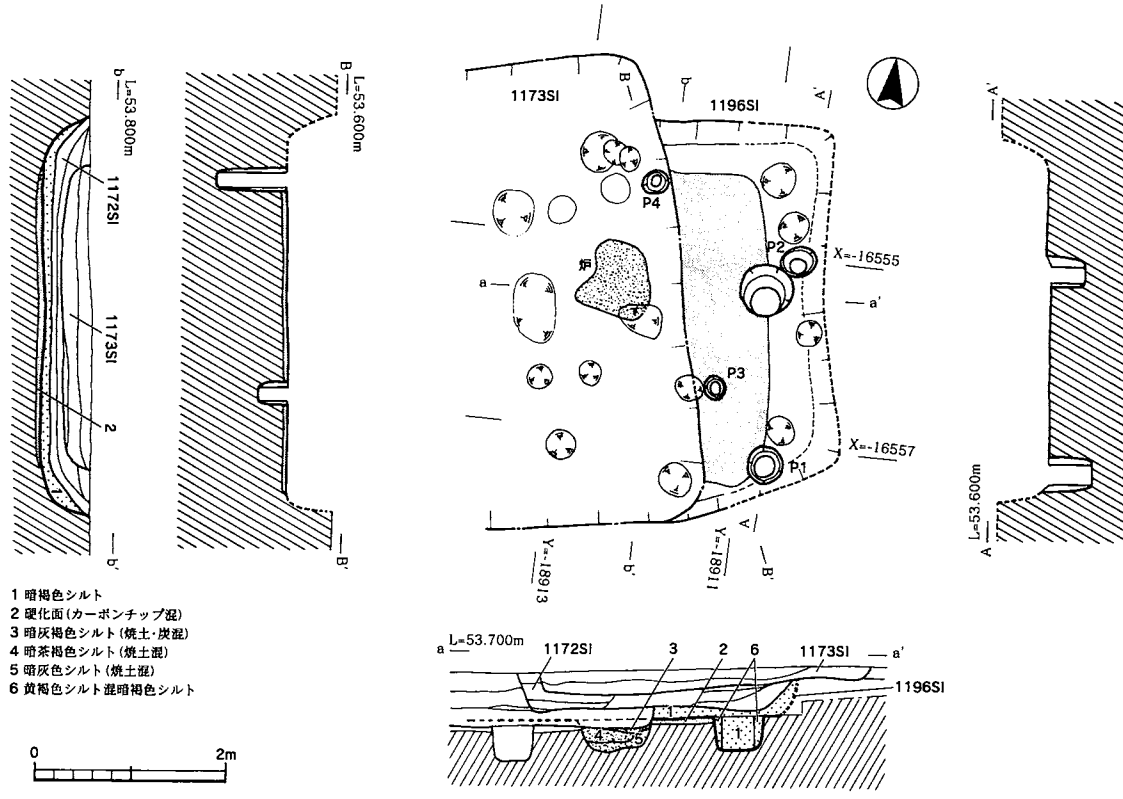
位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約53.0 mで、この住居埋没後、西側に1180SIが建てられている。主軸の方位はN -5°-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.16 m、短軸1.88 m以上を測る。残存床面積は5.55 ㎡であり、検出面からの深さは0.52 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は4層からなる。

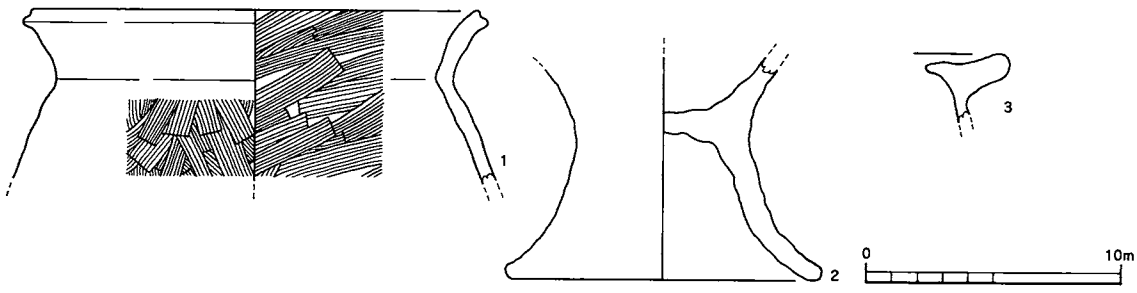
柱穴　柱穴の径は24～50 ㎝で、深さは32～74 ㎝である。柱痕跡の径は10～34 ㎝である。

炉　住居内での位置は不明で、長軸89 ㎝、短軸78 ㎝、深さ27 ㎝で、断面はU字状を呈する。埋土は3層からなり、全層に焼土及び炭が出土している。

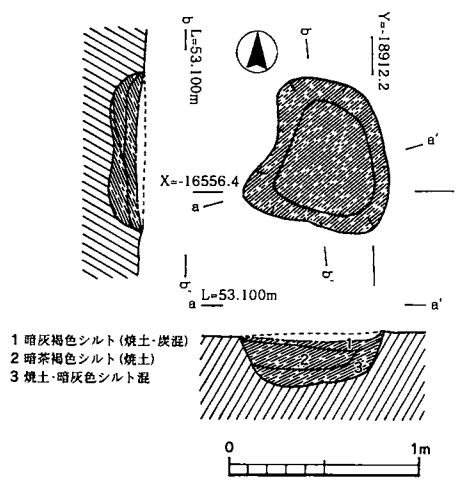
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1・底部片1、壺口縁部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。



第Ⅲ-342図　1196SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-343図　1196SI出土土器実測図(1/3)〈炉(1・2)、P(3)〉



第Ⅲ-344図　1196SI内炉
平面・断面図(1/40)

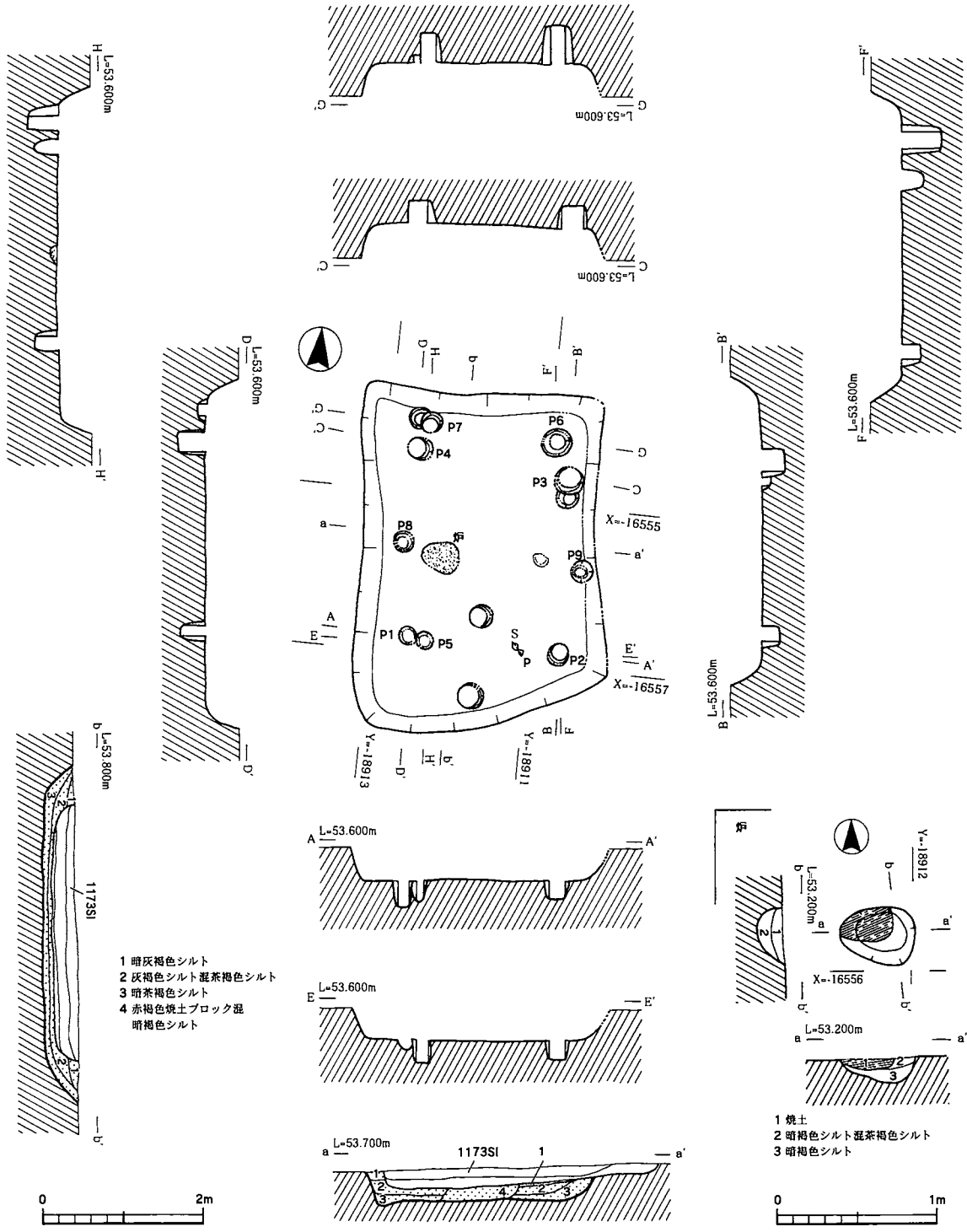
まとめ　主柱穴はＰ１～２で構成される２本柱構造の竪穴住居と推定できる。Ｐ３・４も主柱穴を構成する可能性がある。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は７期以降に位置づけられると推定できる。

1172 SI（第Ⅲ-345・346・347・348・349図、PL.7・42・51）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、上層に1173SIが建てられている。主軸の方位はN -6°-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.12 m、短軸2.95 mを測る。床面積は8.64 ㎡で、検出面からの深さは0.54 m



第Ⅲ-345図　1172SI内炉　平面・断面図(1/80)(1/40)

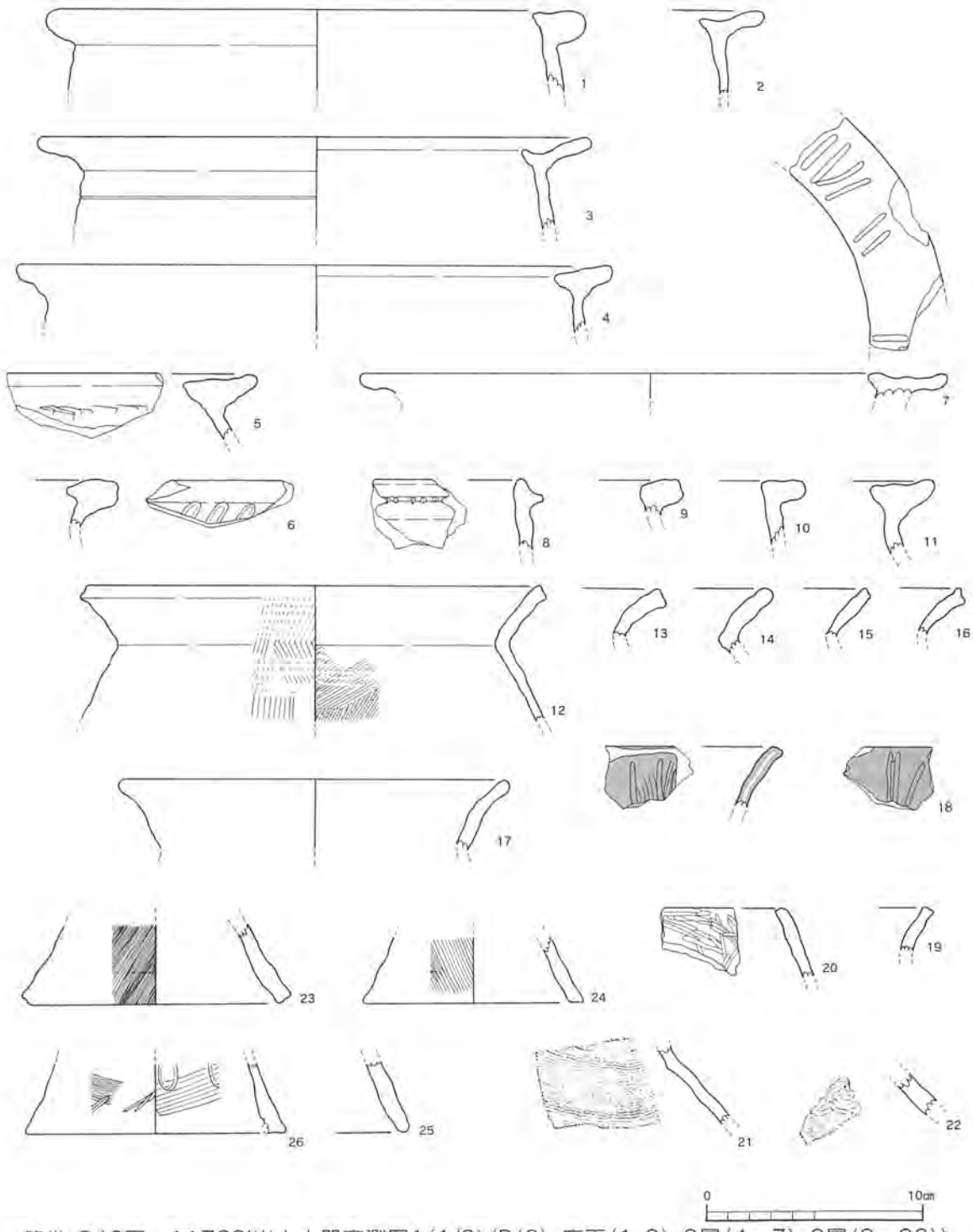
である。硬化面は床面の中央部を2/3程占めている。埋土は4層からなる。

柱穴　柱穴の径は23～37㎝で、深さは10～27㎝である。柱痕跡の径は11～27㎝である。

炉　住居のほぼ中央部に位置し、長軸47㎝、短軸35㎝、深さ16㎝で、断面はⅢ状を呈する。埋土は2層からなり、上層に焼土が見られる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片70・底部片6、壺口縁部片26・底部片1、鉢2が出土している。埋土上層から、磨製石鏃（第Ⅲ-348図1・2、PL.42)、手鎌（第Ⅲ-349図1、PL.51）が出土している。いずれも流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴は（P1～4）で構成されるものと（P5～9）で構成されるものとが考えられ、竪穴の形状・



第Ⅲ-346図　1172SI出土土器実測図1(1/3)〈P(2)、床面(1・3)、3層(4～7)、2層(8～26)〉

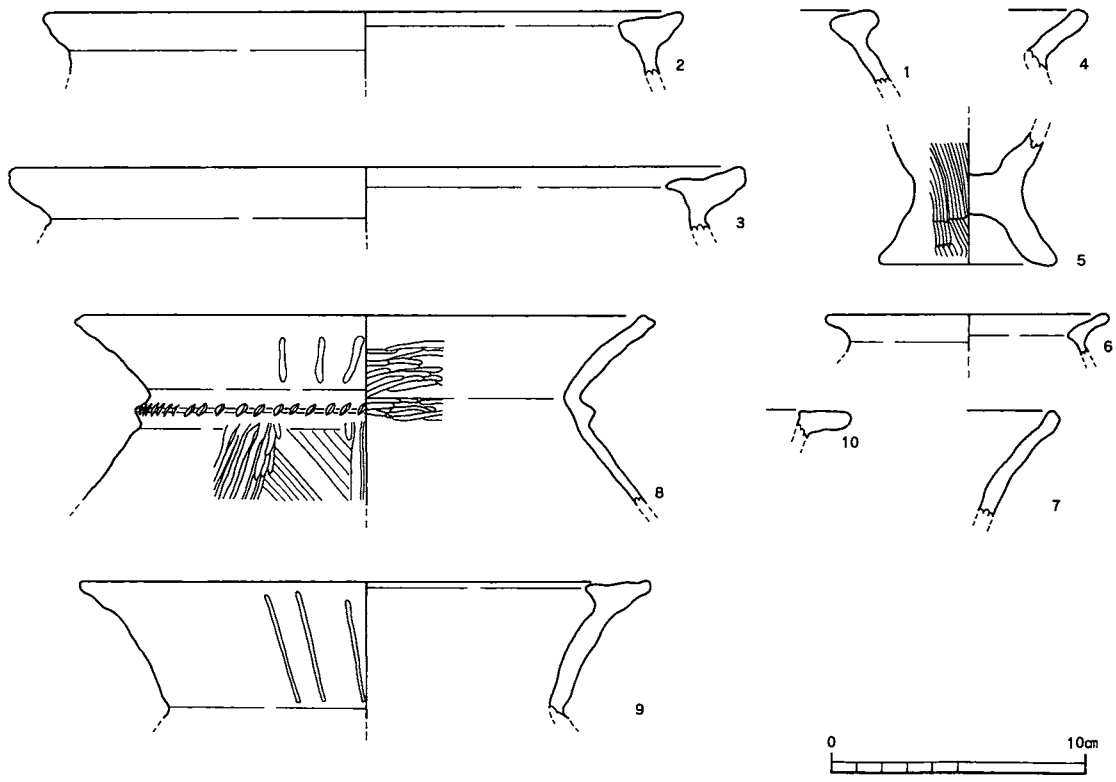
大きさなどからＰ１～４で建てられたのち、Ｐ５～10を主柱穴とするものに建て替えられたものではないかと考えられる。

南西隅の焼土は、長軸1.6ｍ、短軸１ｍの広がりを見せ、火災にあった可能性がある。

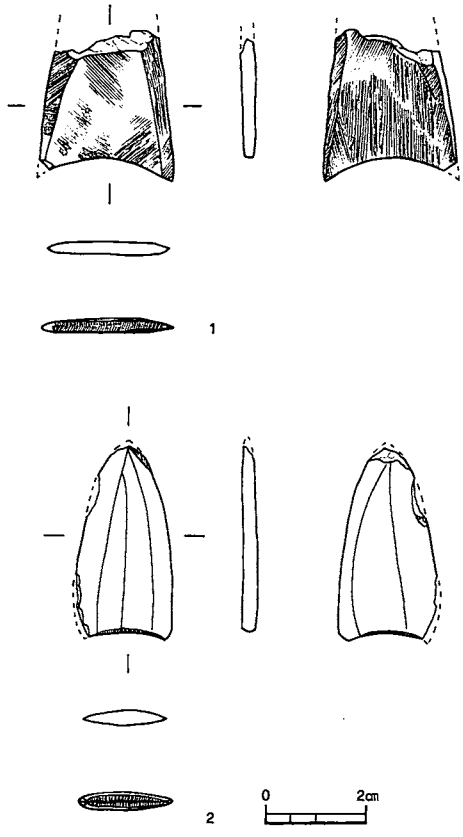
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は８期以降に位置づけられると推定できる。

1173 SI（第Ⅲ-350・351・352図、PL.7・42）

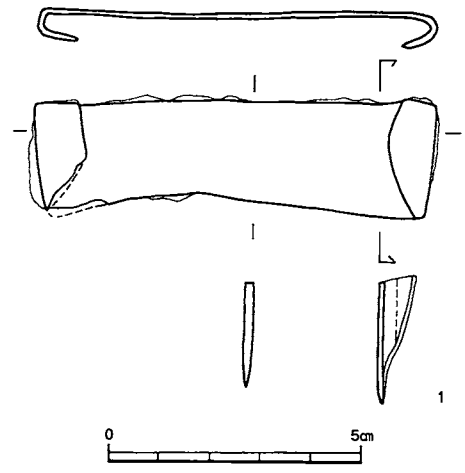
位置　遺跡北西部（２区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.25ｍである。主軸の方位はN-10°-Wである。



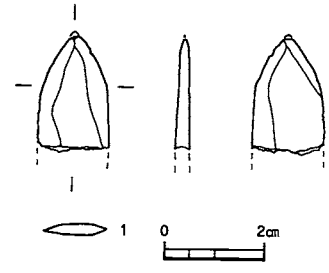
第Ⅲ-347図　1172SI出土土器実測図2(1/3)〈1層(1～10)〉



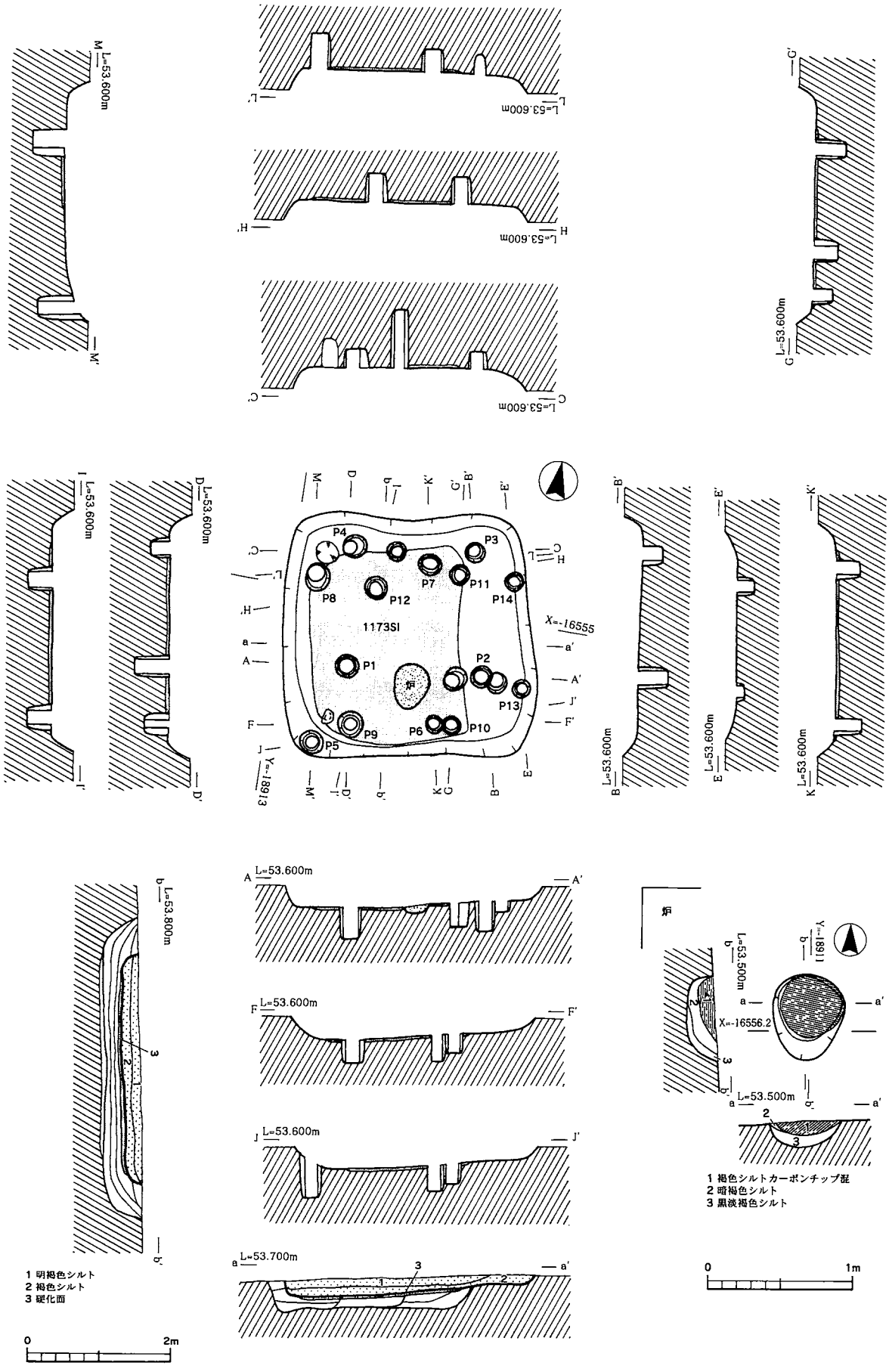
第Ⅲ-348図　1172SI出土
石器実測図(2/3)〈2層(1)、1層(2)〉



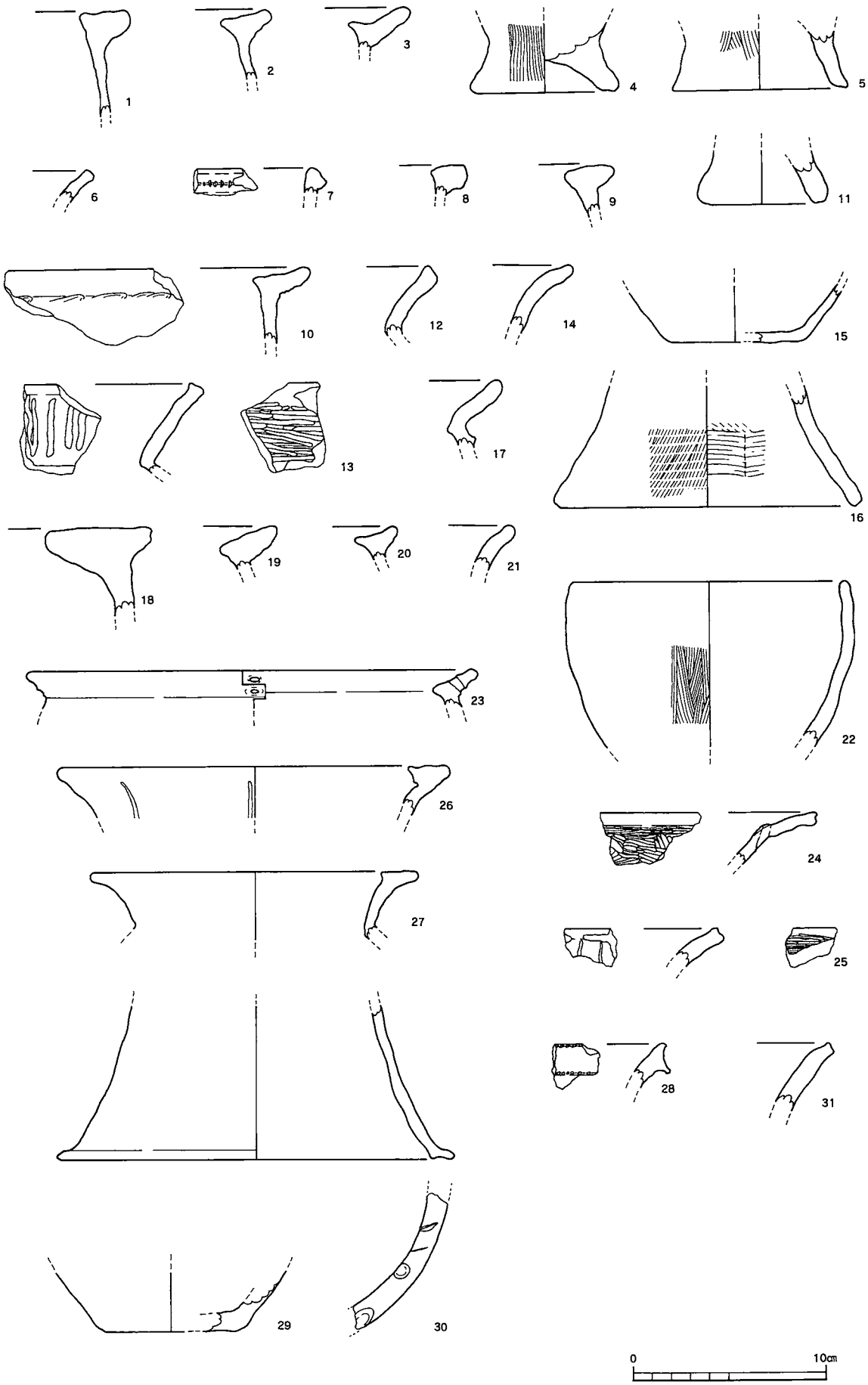
第Ⅲ-349図　1172SI出土鉄器実測図(2/3)〈2層〉



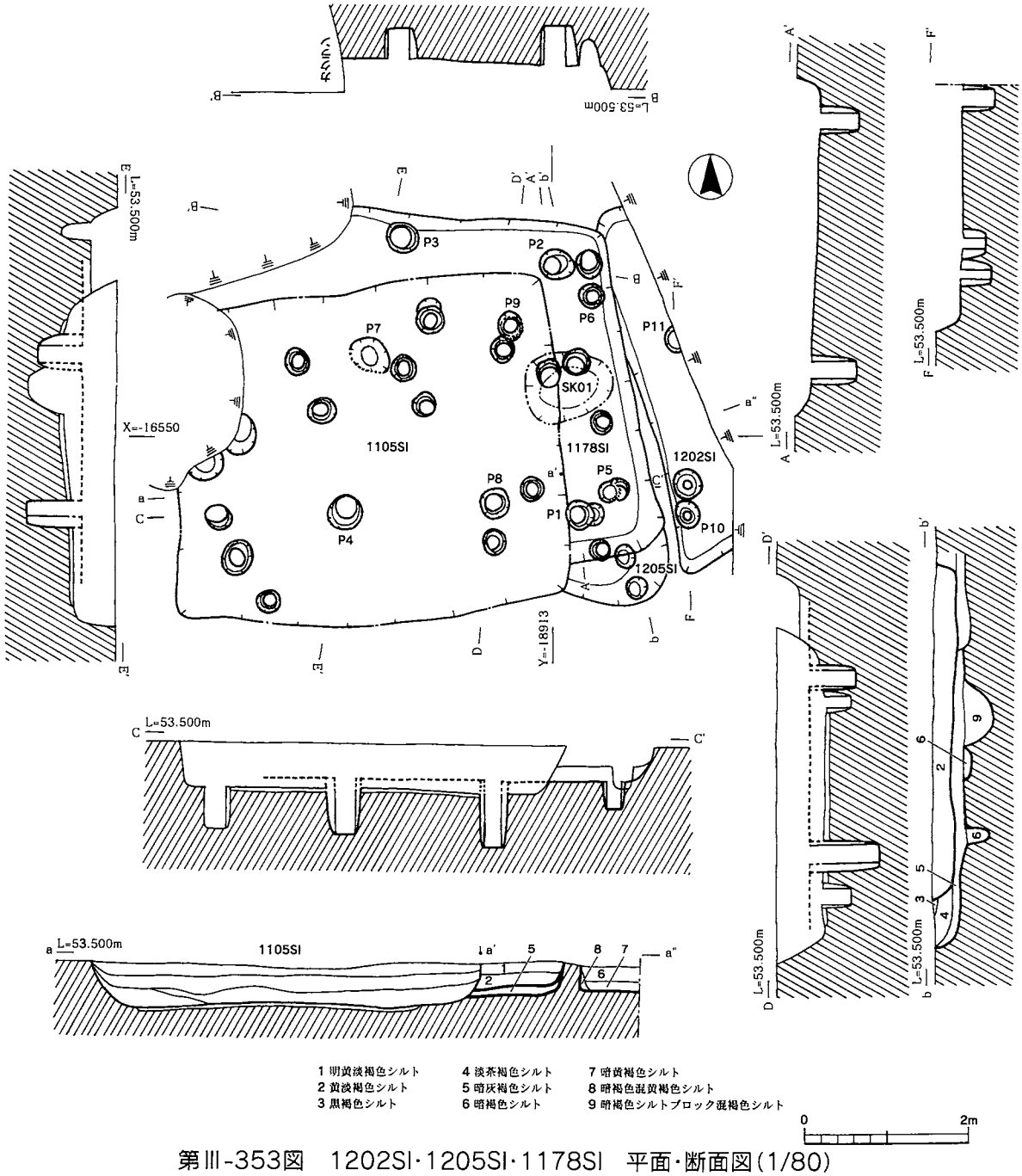
第Ⅲ-350図　1173SI出土
石器実測図(2/3)〈2層〉



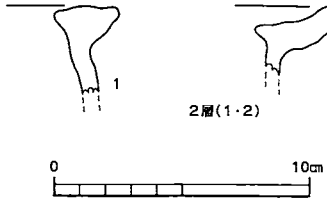
第Ⅲ-351図　1173SI・炉　平面・断面図(1/80)(1/40)



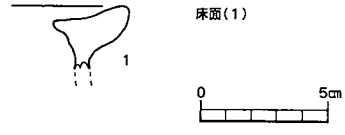
第Ⅲ-352図　1173SI出土土器実測図(1/3)〈P(1～6)、2層(7～16)、1層(17～31)〉



第Ⅲ-353図　1202SI・1205SI・1178SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-354図　1202SI出土土器実測図(1/3)

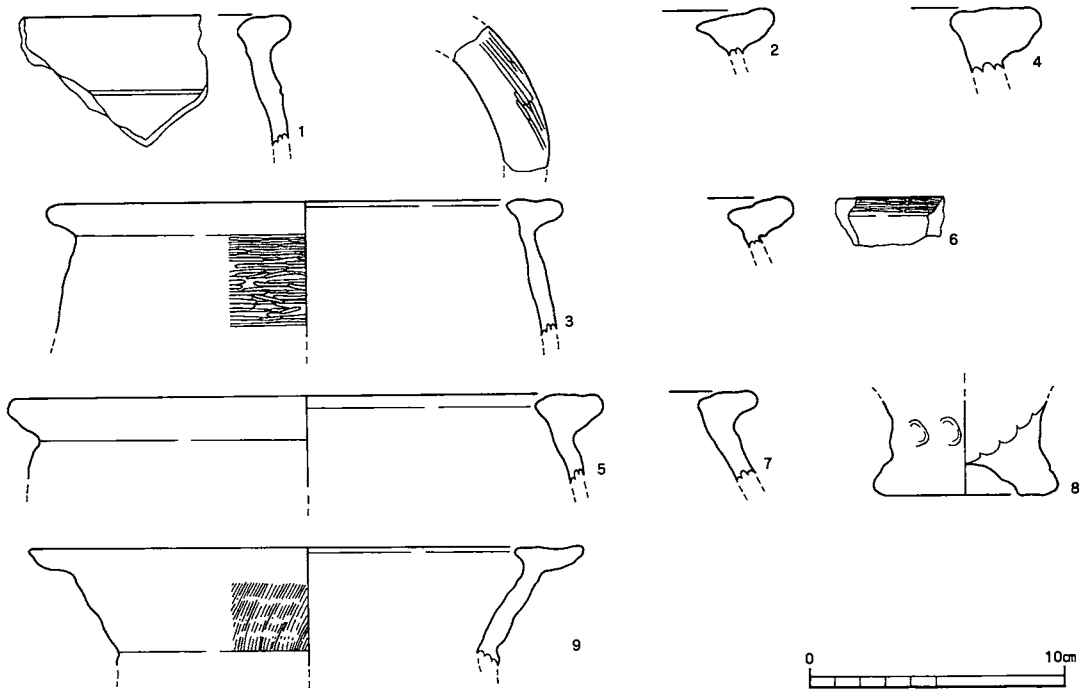


第Ⅲ-355図　1205SI出土土器実測図(1/3)

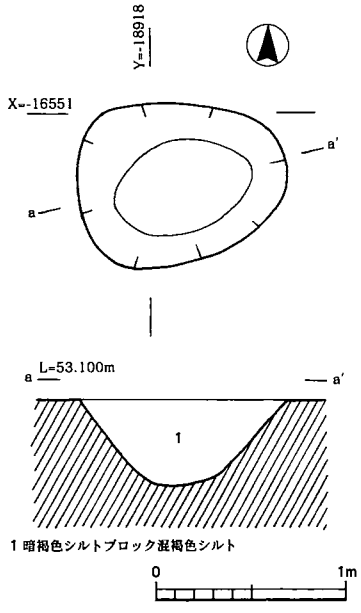
住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸3.50 m、短軸3.26 mを測る。床面積は、9.51 ㎡で、検出面からの深さは0.28 mである。硬化面は床面中央部の2/3を占めている。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は22～36 ㎝で、深さは13～82 ㎝である。柱痕跡の径は18～25 ㎝である。

炉　住居の南側に位置し、長軸60 ㎝、短軸48 ㎝、深さ20 ㎝で、断面はU字状を呈する。埋土は3層からなり、上層にカーボンチップを含む。



第Ⅲ-356図　1178SI出土土器実測図(1/3)〈P(1)、2層(2・3)、1層(4～9)〉



第Ⅲ-357図　1205SI内・SK01
平面・断面図(1/40)

遺物出土状況　住居の埋土から、甕口縁部片36・底部片8、壺口縁部片25・底部片1、無頸壺1、鉢1が出土している。磨製石鏃（第Ⅲ-350図1・2、PL.42）廃棄及び流れ込みの遺物と推定される。

まとめ　主柱穴は（P1～4）で構成されるものと、（P5～8）で構成されるものと、（P9～12）で構成されるものが考えられ、竪穴の形状・大きさなどからP1～4で建てられたのち、P5～8を主柱穴とするものに建て替えられ、さらにP9～12を主柱穴とするものに建て替えられたのではないかと考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は8期以降に位置づけられると推定できる。

1202SI（第Ⅲ-353・354図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形が削平されていると考えられる。床面の標高は約53.08mで、この住居埋没後、西側に1178SIが建てられている。主軸の方位はN-17°-Wである。

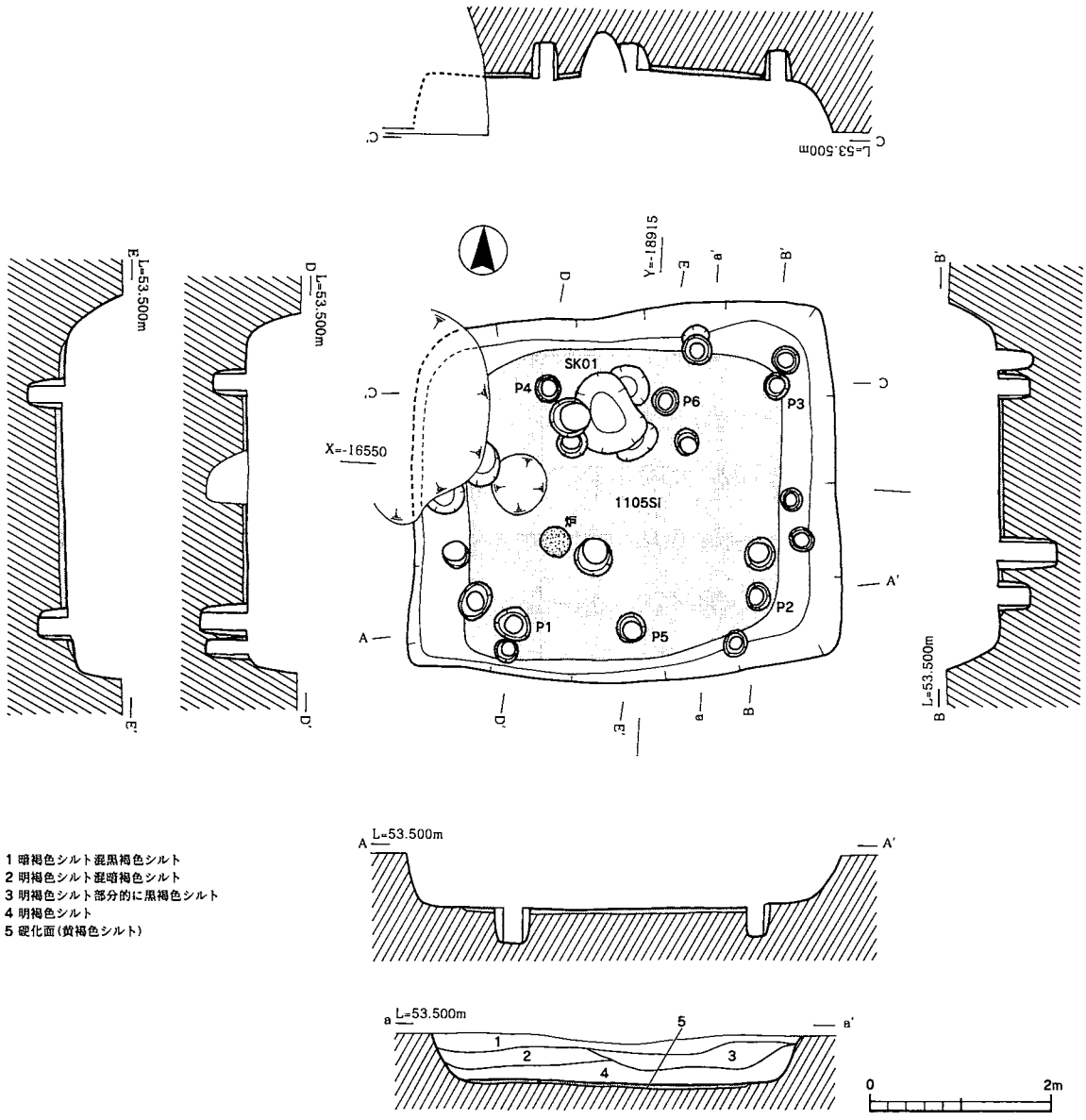
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.4m以上．短軸0.68m以上を測る。残存床面積は、2.68㎡で、検出面からの深さは0.3mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は32～38㎝で、深さは28～41㎝である。柱痕跡の径は11～20㎝である。

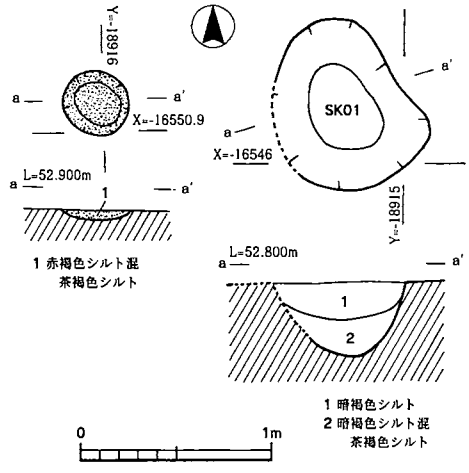
遺物出土状況　住居の埋土から甕口縁部片4、壺口縁部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　東側ほとんどが、調査区外になっているため柱穴は3本しか確認できず、構造は不明である。

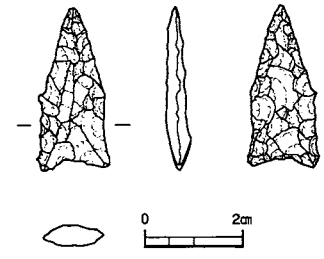
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4B期に位置づけられると推定できる。



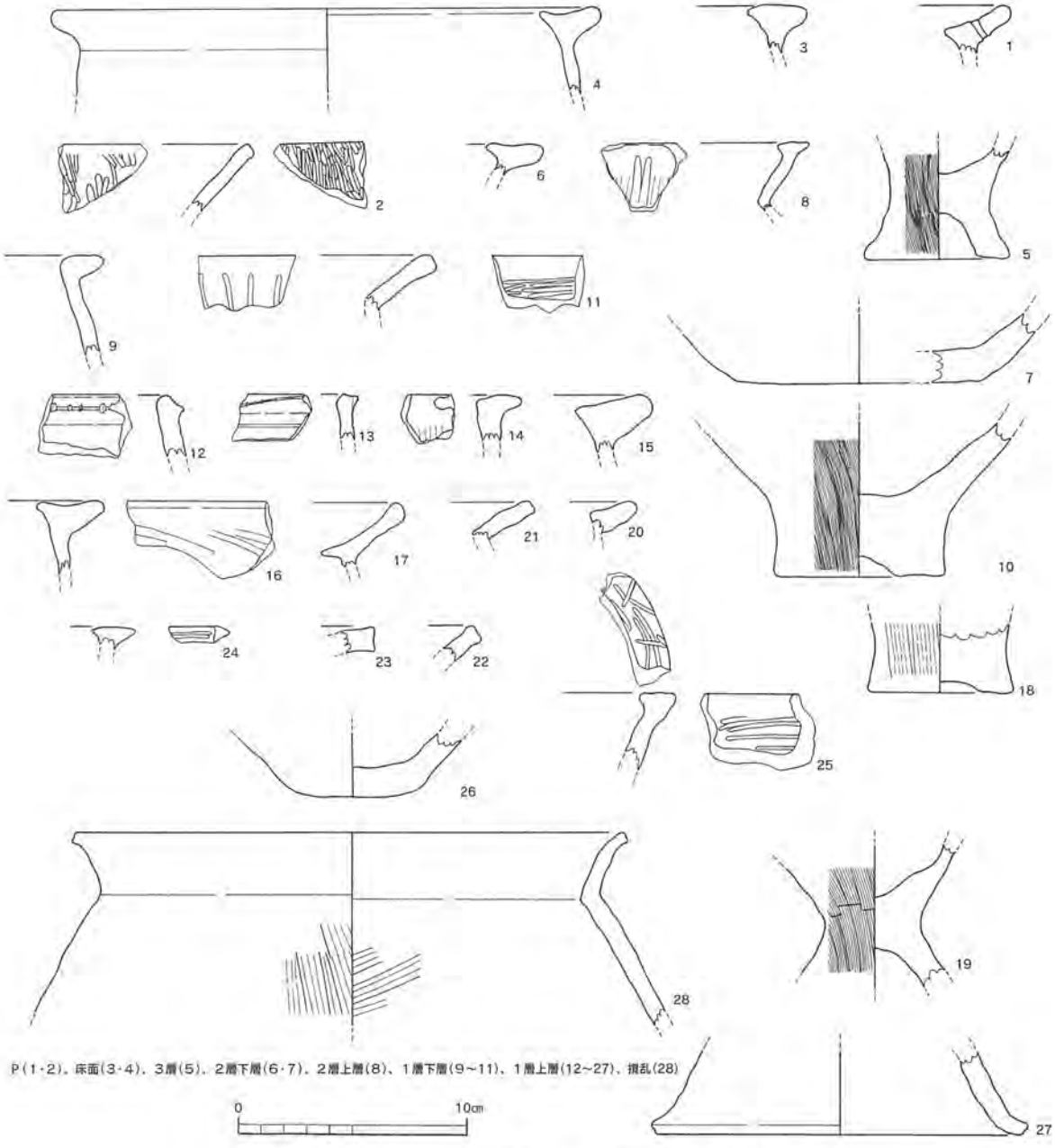
第Ⅲ-358図　1105SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-359図　1105SI内炉・SK01
平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-360図　1105SI
出土石器実測図(2/3)



第Ⅲ-361図　1105SI出土土器実測図(1/3)

1205 SI（第Ⅲ-353・355・357図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.0 mで、この住居埋没後、上層部に1178SIが建てられている。主軸の方位は不明である。

住居形態　平面形態は方形と考えられる。長軸3.62 m以上、短軸1.14 m以上を測る。残存床面積は約0.24 ㎡で、検出面からの深さは0.42 mである。埋土は4層からなる。

柱穴　柱穴の径は26～52 ㎝で、深さは33～85 ㎝である。柱痕跡の径は18～25 ㎝である。

貯蔵穴　住居の東側に位置し、長軸108 ㎝、短軸85 ㎝、深さ45 ㎝で、断面はすり鉢状を呈し、埋土は1層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1・底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　住居のほとんどが他の住居によって壊されており、詳細不明である。時期の推定も困難である。

1178 SI（第Ⅲ -353・356 図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.08 mで、この住居埋没後、西側に 1105SI が建てられている。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 5.54 m以上、短軸 4.30 m以上を測る。残存床面積は 5.32 ㎡で、検出面からの深さは 0.32 mである。埋土は 2 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 24 ～ 44 ㎝で、深さは 32 ～ 56 ㎝である。柱痕跡の径は 19 ～ 27 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 9・底部片 2 が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　東側と南側は他の住居に切られているため、全体の様相をつかむことはできないが、確認しているピットから 4 ＋ 2 本柱構造の竪穴住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 4 B期～ 7 期に位置づけられると推定できる。

1105SI（第Ⅲ -358・359・360・361 図、PL.42）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約 52.8 mである。主軸の方位はN -4°-W である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 4.76 m、短軸 4.14 mを測る。推定床面積は 16.63 ㎡で、残存床面積は 16.10 ㎡である。検出面からの深さは 0.5 mである。硬化面は床面の中央部 2/3 を占めている。埋土は 3 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 25 ～ 50 ㎝で、深さは 19 ～ 66 ㎝である。柱痕跡の径は 16 ～ 34 ㎝である。

炉　住居のほぼ中央部に位置し、長軸 35 ㎝、短軸 33 ㎝、深さ 10 ㎝で、断面は皿状を呈し、埋土は 1 層からなる。

貯蔵穴　住居の北側に位置し、長軸 90 ㎝、短軸 78 ㎝、深さ 39 ㎝で、断面はU字状を呈し、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 36・底部片 5、壺口縁部片 10・底部片 4 が出土している。打製石鏃（第Ⅲ -360 図 1、PL.42）流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴は（Ｐ１～ 6）で構成される 4 ＋ 2 本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 7 期に位置づけられると推定できる。

1190SI（第二・三面）（第Ⅲ -362・364・369 図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.5 mで、この住居埋没後、上層部に 1185SI が建てられている。主軸の方位はN -7°-W である。

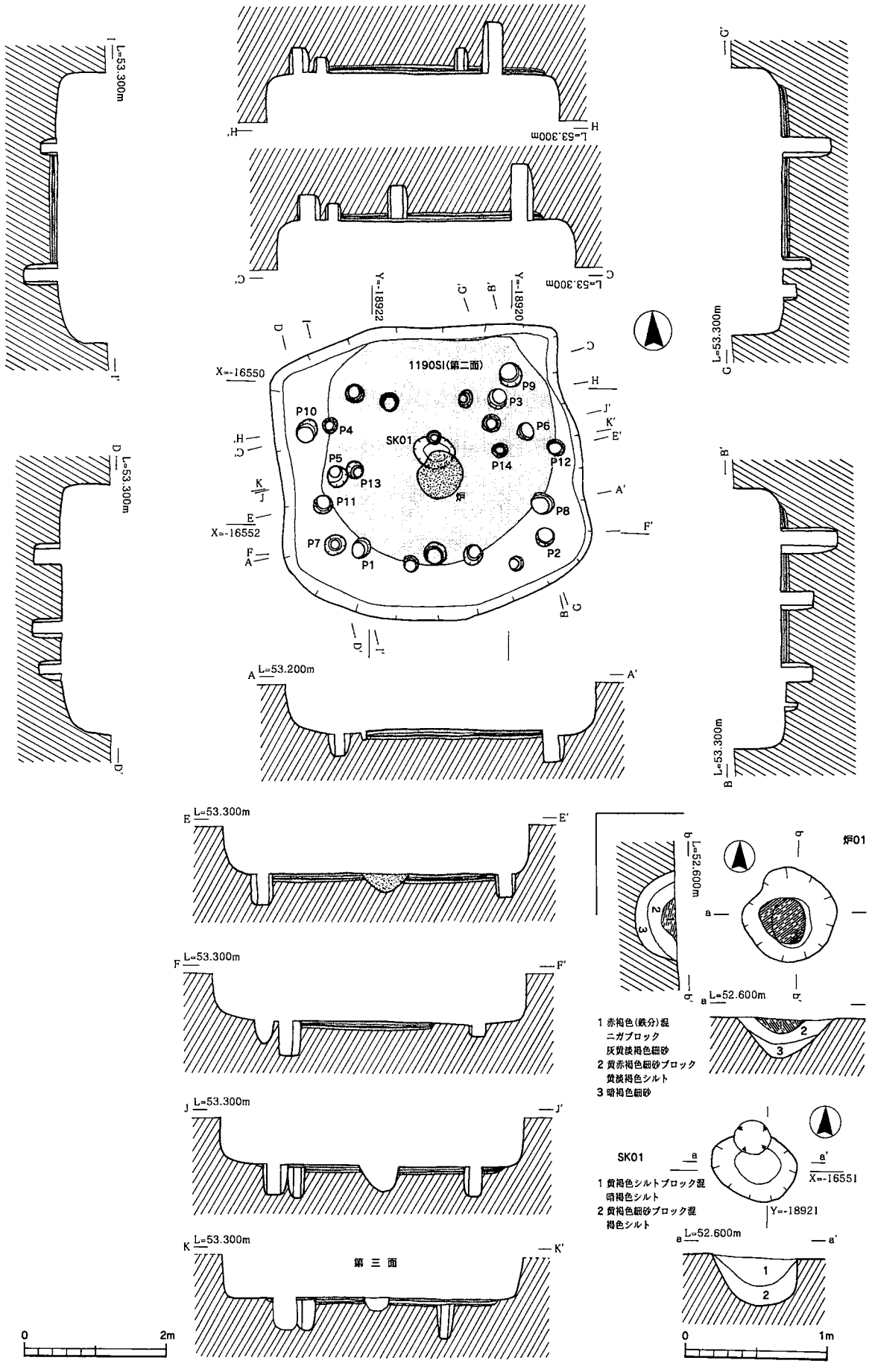
住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸 4.34 m、短軸 4.14 mを測る。床面積は 15.27 ㎡で、検出面からの深さは 0.68 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は 1 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 18 ～ 34 ㎝で、深さは 14 ～ 73 ㎝である。柱痕跡の径は 12 ～ 26 ㎝である。

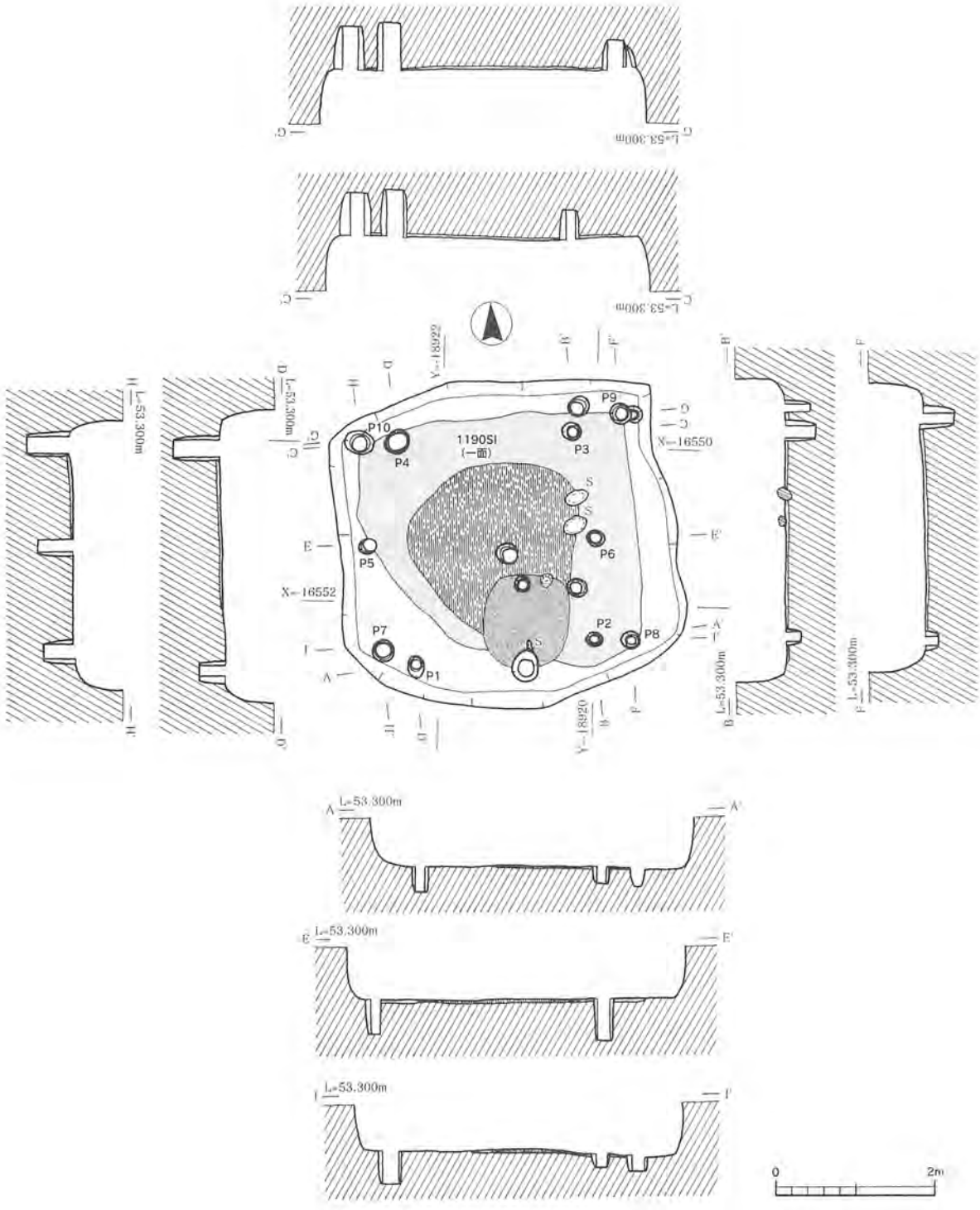
炉　住居の中央部に位置し、長軸 67 ㎝、短軸 67 ㎝、深さ 29 ㎝で、断面はすり鉢状を呈し、埋土は 3 層からなる。

貯蔵穴　住居の中央部に位置し、長軸 60 ㎝、短軸 47 ㎝、深さ 34 ㎝で、断面はU字状を呈し、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土から（一・二面合わせて）、甕口縁部片 8・底部片 3、壺口縁部片 2・底部片 2、鏃



第Ⅲ-362図　1190SI(第二・三面)(1/80)、炉・SK(1/40)　平面・断面図



第Ⅲ-363図　1190SI(第一面)平面・遺構断面図(1/80)

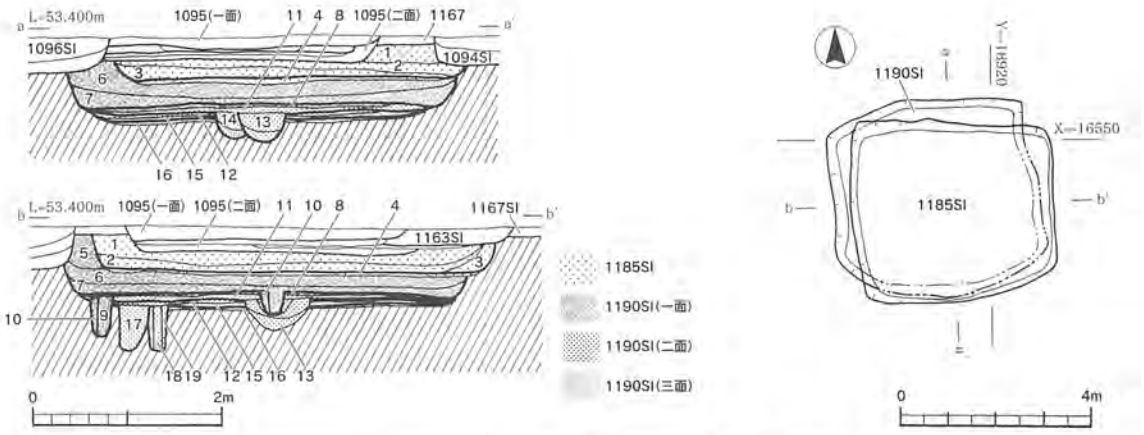
片（第Ⅲ-369図1）が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴はＰ１～６で構成されるものとＰ７～12で構成されるものとが考えられる。上屋が建て替えられたものではないかと考えられる。第三面はP13・14で構成される２本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は３期に位置づけられると推定できる。

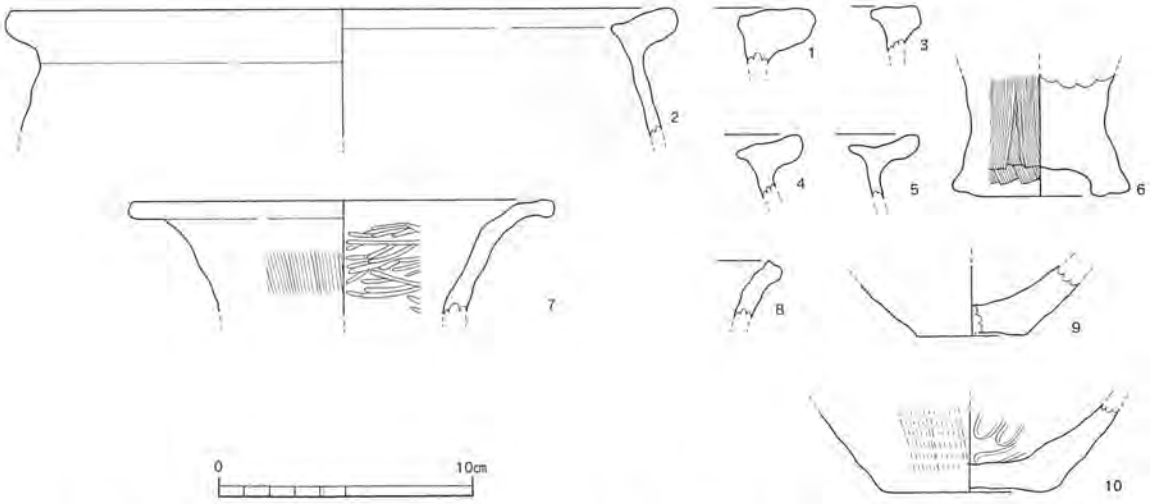
1190 SI（第一面）（第Ⅲ-363・364・365・366・367・368・369図、PL.42・51）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6ｍで、この住居埋没後、上層部に1185SIが建てられている。主軸の方位はＮ-7°-Ｗである。

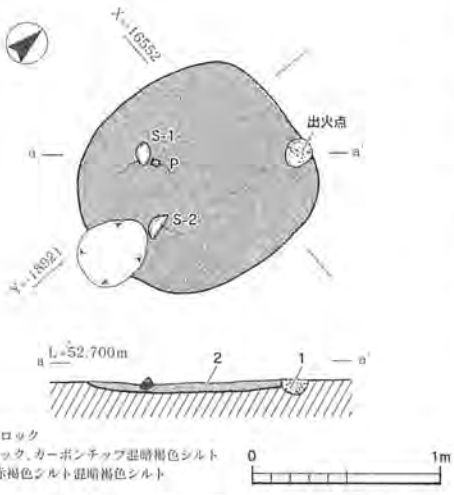


1 黄褐色砂質ブロック混暗褐色シルト　2 赤褐色砂質ブロック混黄褐色砂質土　3 赤褐色砂質ブロック混褐色砂質土　4 硬化面　5 暗褐色シルト混灰褐色シルト
6 淡灰褐色シルトブロック混茶褐色シルト　7 6に赤褐色細砂ブロックが混じる　8 硬化面　9 黄灰色砂質土　10 暗褐色シルト　11 灰褐色砂質土　12 硬化面
13 炉(別図面参照)　14 SK(別図面参照)　15 暗褐色ブロック土　16 硬化面　17 黄灰色細砂　18 暗褐色土　19 淡褐色砂質土

第Ⅲ-364図　1190SI(第一面・二面・三面)、1185SI平面(1/160)・断面(1/80)図



第Ⅲ-365図　1190SI出土土器実測図(1/3)〈第一床面(1・2)、3層(3)、2層(4～10)〉



1 淡朱褐色シルトブロック
赤褐色シルトブロック、カーボンチップ混暗褐色シルト
2 カーボンチップ、赤褐色シルト混暗褐色シルト

第Ⅲ-366図　1190SI(第一面)炭集中部分
平面・断面図(1/40)

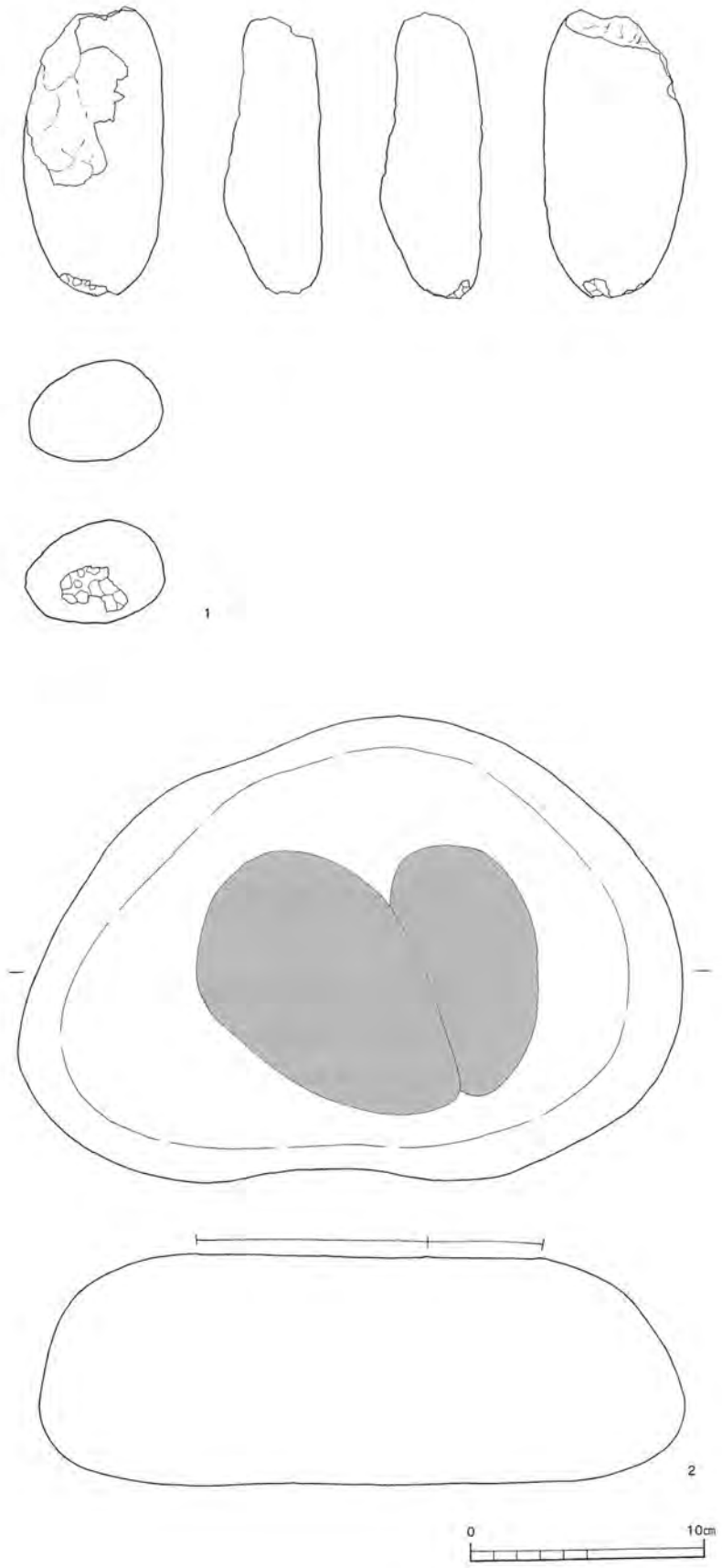
住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸4.34 m、短軸4.14 mを測る。床面積は16.72 ㎡で、検出面からの深さは0.64 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は19～40 cmで、深さは16～62 cmである。柱痕跡の径は12～23 cmである。

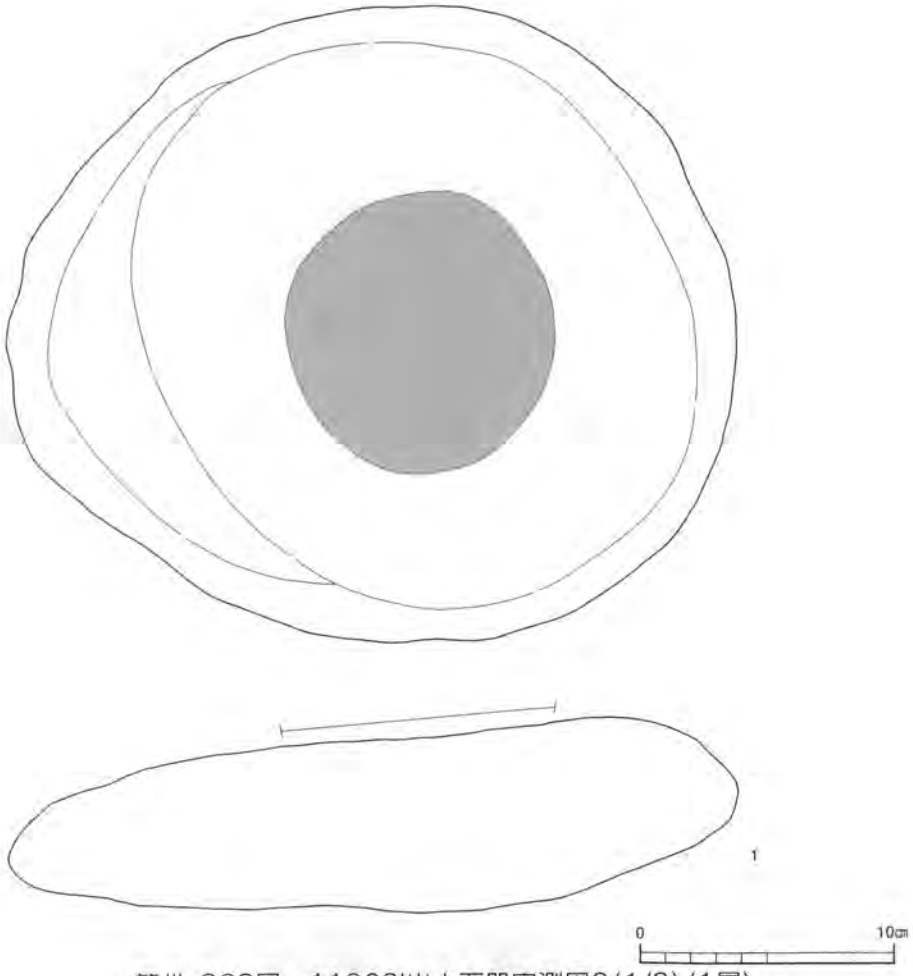
炉　炉の本体としては検出していないが、長軸120 cm、短軸109 cm、深さ5 cmで炭集中部分があり、その中に直径13 cm程の出火点と見られる部分が検出される。また、床中央部に黒く焼けた後が見られる。

遺物出土状況　流れ込みの遺物が出土している。床面から鋳造鉄斧再利用素材鉄片1(第Ⅲ-369図2、PL.51)、1層から不明鉄片1が出土している。

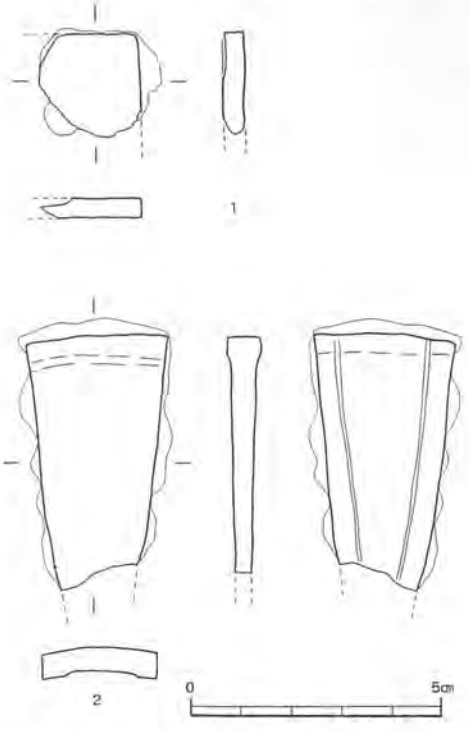
まとめ　主柱穴はP1～4で構成されるものと、P



第Ⅲ-367図　1190SI出土石器実測図1(1/3)〈床面(1・2)〉



第Ⅲ-368図　1190SI出土石器実測図2(1/3)〈1層〉



第Ⅲ-369図　1190SI出土鉄器実測図(2/3)
〈第二床面(1)、第一床面(2)〉

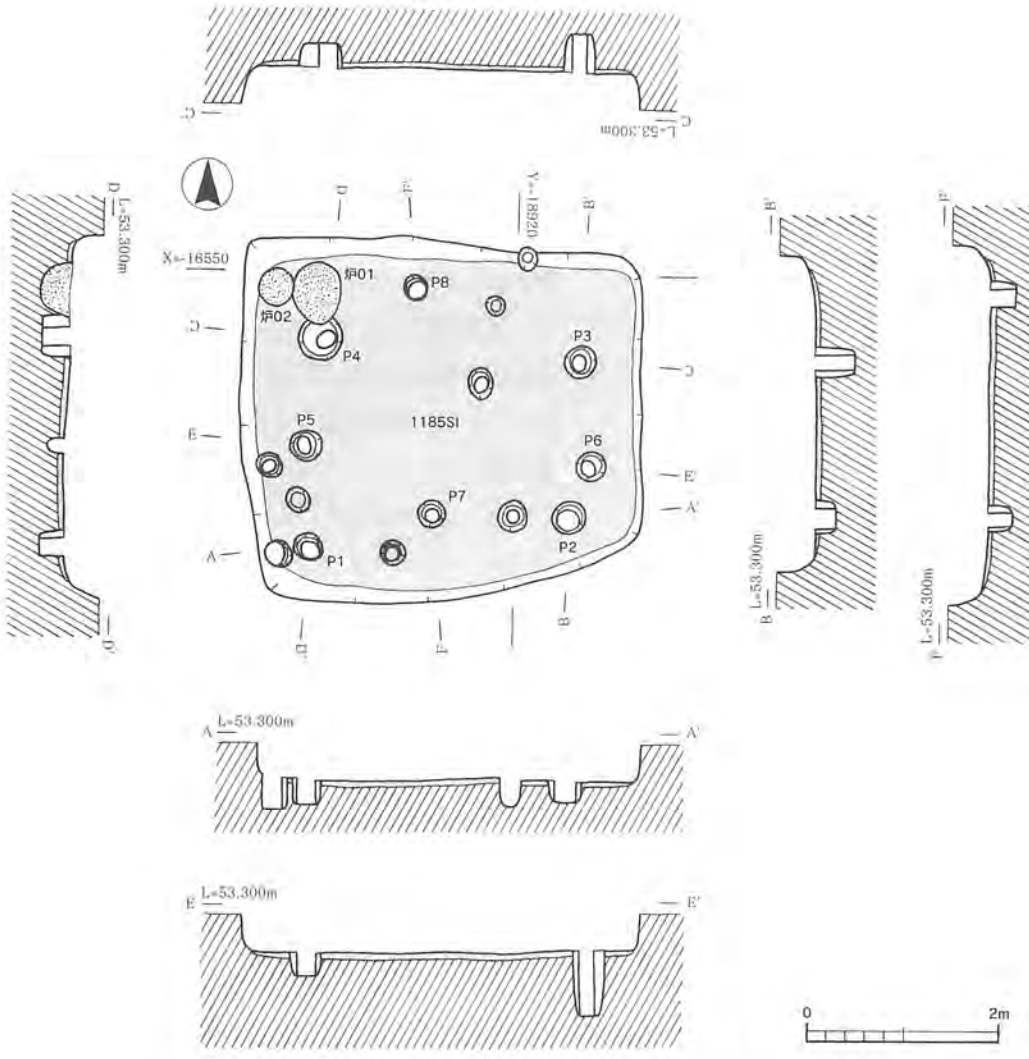
5～8で構成されるものが考えられる。上屋が建て替えられたものではないかと考えられる。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期に位置づけられると推定できる。

1185SI（第Ⅲ-364・370・371・372・373図、PL.29・43）

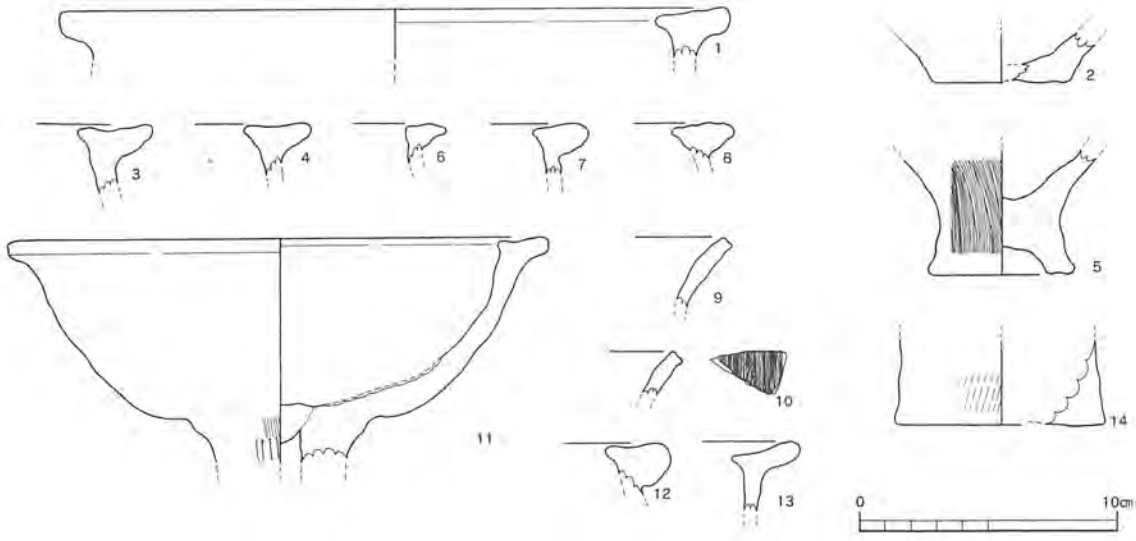
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.88 mで、この住居埋没後、東側に1163SI、南側に1094SIと129SI、北側に1095SI（第二面）、上層部は1167SIが建てられている。主軸の方位はN-1°-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.32 m、短軸3.72 mを測る。床面積は13.68 ㎡で、検出面からの深さは0.35 mである。硬化面はほぼ全面に認められる。埋土は2層からなり、人為的な堆積が見られる。

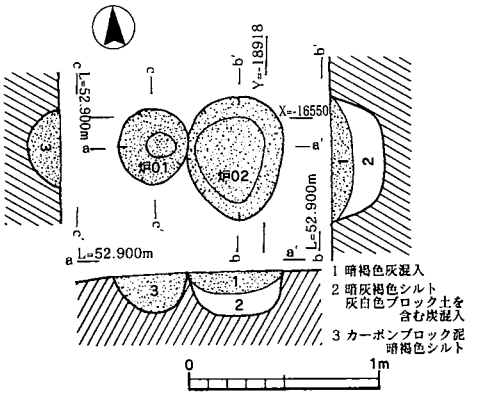
柱穴　柱穴の径は18～44㎝で、深さは10～69㎝である。



第Ⅲ-370図　1185SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-371図　1185SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1・2)、2層(3～6)、1層(7～14)〉



第Ⅲ-372図　1185SI内炉01・02
平面・断面図(1/40)

柱痕跡の径は14～38㎝である。

炉　住居の北西側に位置し、炉01は長軸65㎝、短軸50㎝、深さ28㎝で、埋土は2層からなる。炉02は長軸40㎝、短軸37㎝、深さ18㎝で、埋土は1層からなり、カーボンブロックを含む。断面は2基ともU字状を呈す。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片5、底部片2、壺口縁部片2、底部片1、台付鉢1が出土した。埋土下層から砥石（第Ⅲ-373図1、PL.43）が出土している。いずれも流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　4＋2本柱構造の住居と推定できる。床面積については、上層部を複数の住居に壊されてはいるが、床面は壊されていないため、ほとんど影響はないと考えられる。炉については炉01、炉02共に、住居の北西部に位置している。この炉については、住居の壁際に近いので、何らかの理由で炭・焼土が、集中しているだけで、屋内炉としての機能は果たしていなかったかもしれない。

遺物の出土から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期に位置づけられると推定できる。

1095SI（第二面）（第Ⅲ-374・376・377・380図、PL.7・8・43）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形が削平されていると考えられる。床面の標高は約53.1ｍで、この住居埋没後、東側に1163SI、上層部は1095SI（第一面）と1096SIが建てられている。主軸の方位はN-1°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.16ｍ以上、短軸2.88ｍ以上を測る。残存床面積は8.12㎡で、検出面からの深さは0.26ｍある。埋土は1層からなる。

柱穴　柱穴の径は26～56㎝で、深さは64～11㎝である。柱痕跡の径は16～42㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、一面・二面合わせて甕口縁部片21・底部片1、壺口縁部片3・底部片1、高坏1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。埋土から台石（第Ⅲ-377図・PL43）が出土している。

まとめ　主柱穴2本柱構造の竪穴住居である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4Ｂ期より、さほどさかのぼらない時期に位置づけられると推定できる。

1095SI（第一面）（第Ⅲ-375・376・378・379・380図、PL.42・43）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形が削平されていると考えられる。床面の標高は約53.20ｍで、この住居埋没後、東側に1163SI、1096SIが建てられている。主軸の方位はN-4°-Wである。

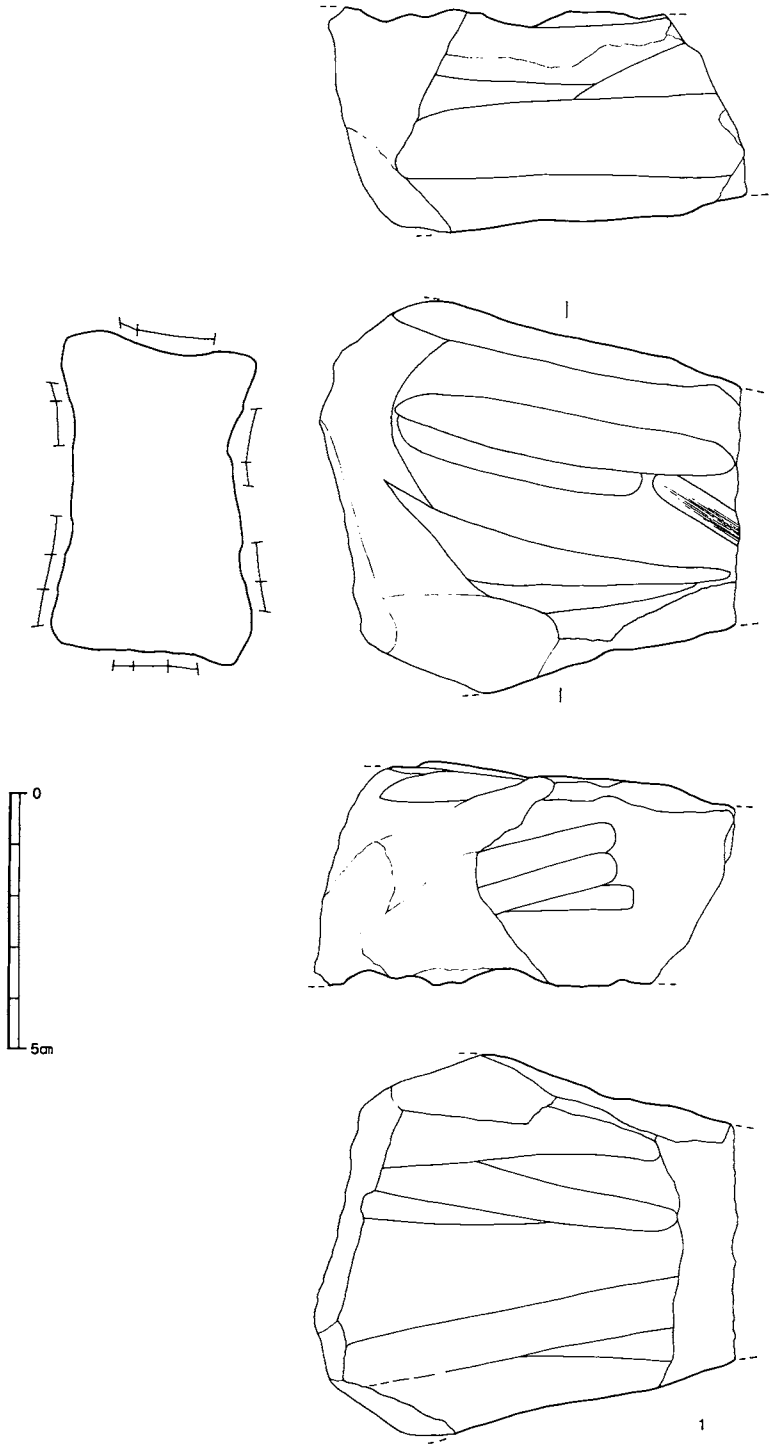
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.46ｍ、短軸3.12ｍ以上を測る。床面積は推測できず、残存床面積は8.12㎡で、検出面からの深さは0.14ｍである。埋土は1層からなる。

柱穴　柱穴の径は18～40㎝で、深さは22～81㎝である。柱痕跡の径は10～34㎝である。

遺物出土状況　一面の住居の埋土から第Ⅲ-376図8～14の遺物が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。埋土から台石（第Ⅲ-378図・PL43）が出土している。

まとめ　主柱穴4本柱構造の竪穴住居である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4Ｂ期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-373図　1185SI出土石器実測図(2/3)〈2層〉

1167SI(第Ⅲ-380・381・382・384図、PL.43)

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.2 mで、この住居埋没後、上層部に1163SI、西側に1095（第一面）と1097SI、南側に1095（第二面）と1094SI、129SIが建てられている。主軸の方位はN -4°-Wである。

住居形態　平面形態は方形と思われ、長軸7.03 m、短軸2.72 m以上を測る。残存面積は5.58 ㎡で、検出面からの深さは0.10 mである。埋土は1層からなり、人為的な堆積が見られる。

柱穴　柱穴は1期のみ検出でき、径は、45㎝、深さは10㎝である。柱痕跡の径は22㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、甕口縁部片1、壺底部片1、管玉1（第Ⅲ-384図）が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　上面を削平されているため詳細は不明である。出土遺物及び住居の新旧関係から3期に位置づけられると考えられる。

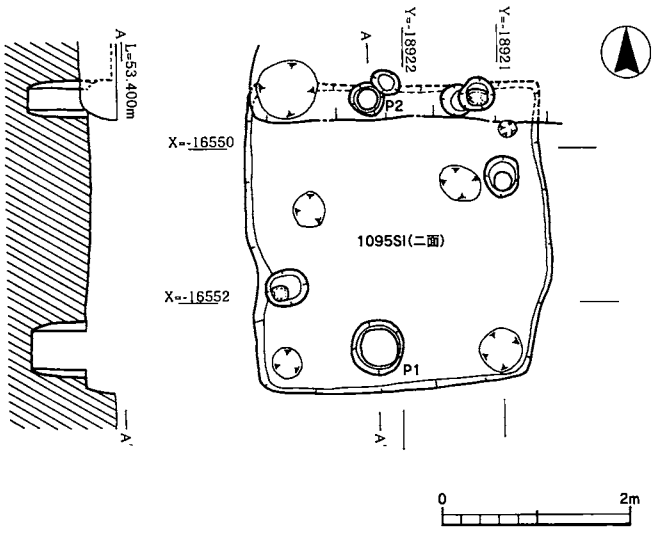
1163SI（第Ⅲ-380・381・383図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、北側に1096SI、西側に1095SI（第一面）が建てられている。主軸の方位はN -3°- Eである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.78 m以上、短軸1.1 m以上を測る。残存面積は2.61 ㎡で、検出面からの深さは0.18 mである。硬化面は一部認められる。埋土は1層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1・底部片1が出土している。

まとめ　西側が1095SIに壊されているため、柱配置など詳細は不明である。
住居の時期は、新旧関係から4B～5期に位置づけられる。



第Ⅲ-374図　1095SI(第二面)　平面・断面図(1/80)

1169 SI（第Ⅲ-385・386・387図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、この住居埋没後、東側に1097SIが建てられている。主軸の方位はN-1°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.24ｍ、短軸4.83ｍを測る。推定床面積は21.05㎡で、検出面からの深さは0.53ｍである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は２層からなる。

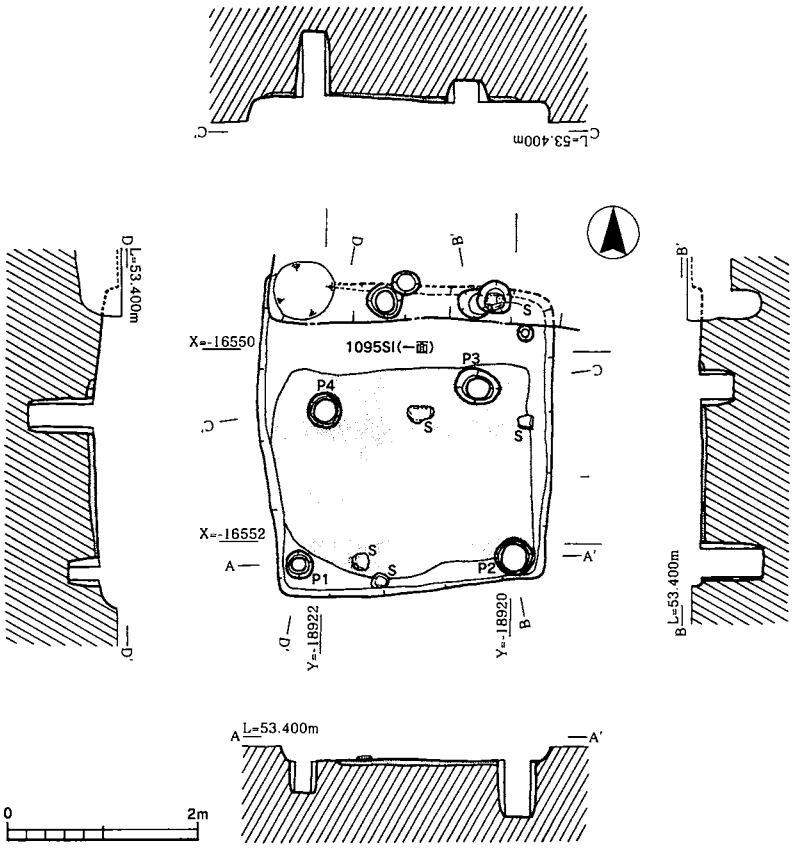
柱穴　柱穴の径は15～53㎝で、深さは34～54㎝である。柱痕跡の径は９～35㎝である。

炉　住居内に２基検出され、炉01は住居の西側に位置し、長軸31㎝、短軸27㎝、深さ13㎝で、炉02は北東側に位置し、長軸40㎝、短軸27㎝、深さ15㎝である。炉01・02ともに断面はU字状を呈し、埋土は２層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕底部片２が出土している。流れ込みの遺物と考えられる。

まとめ　主柱穴は、Ｐ１・２ないしは、Ｐ３・４で構成される２本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期に位置づけられると推定できる。



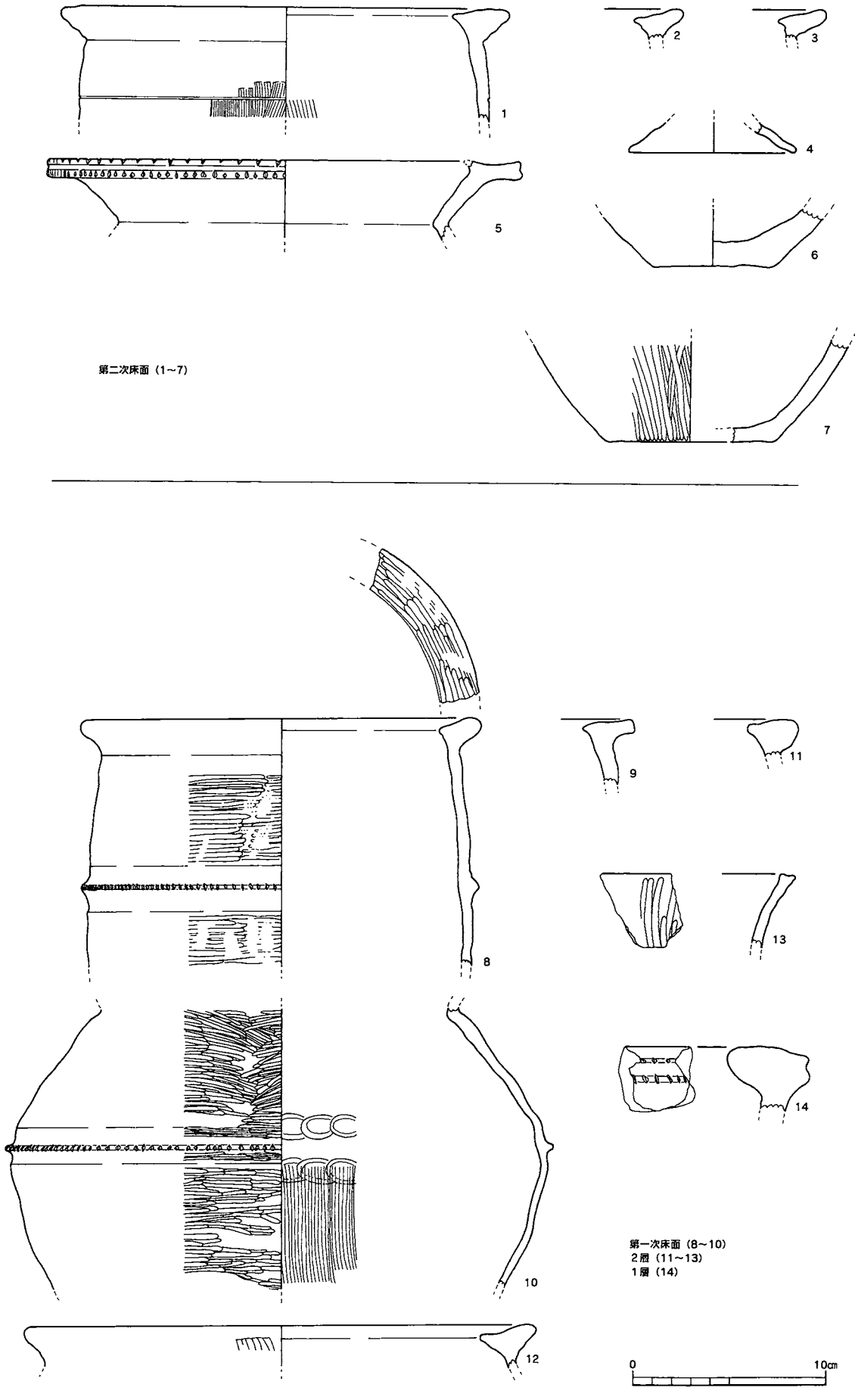
第Ⅲ-375図　1095SI(第一面)　平面・断面図(1/80)

1100SI（第Ⅲ-388・389図）

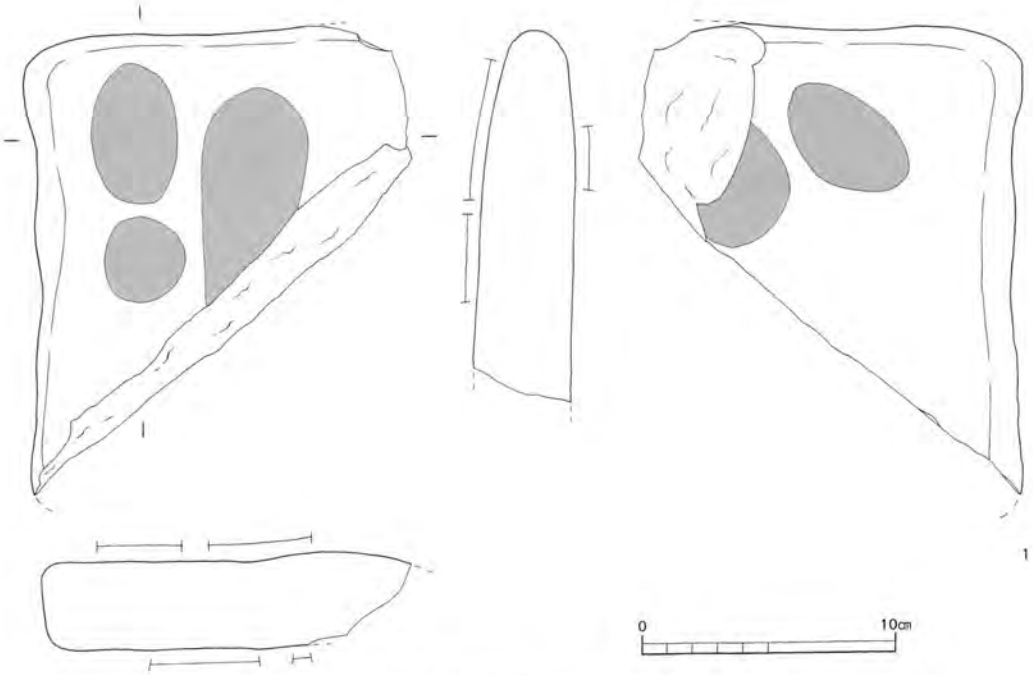
位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9ｍである。この住居埋没後、東側に1097SIが建てられている。主軸の方位はN-8°-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸6.38ｍ、短軸4.65ｍを測る。床面積は24.72㎡、残存床面積は19.5㎡で、検出面からの深さは30㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は２層からなる。

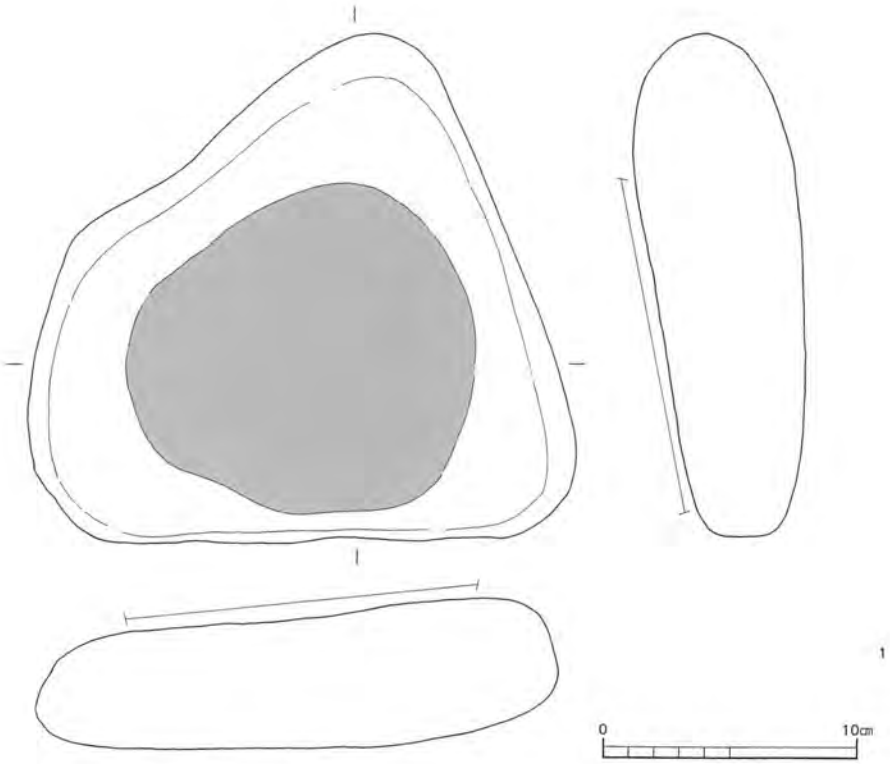
柱穴　柱穴の径は30～37㎝で、深さは43～57㎝である。柱痕跡の径は、18～29㎝である。



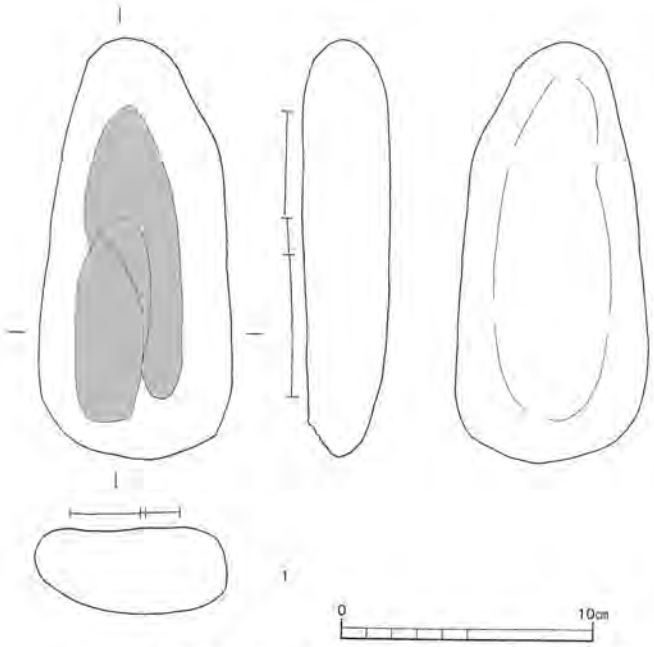
第Ⅲ-376図　1095SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-377図　1095SI(第二面)出土石器実測図(1/3)〈2層〉



第Ⅲ-378図　1095SI(第一面)出土石器実測図1(1/3)〈床面〉



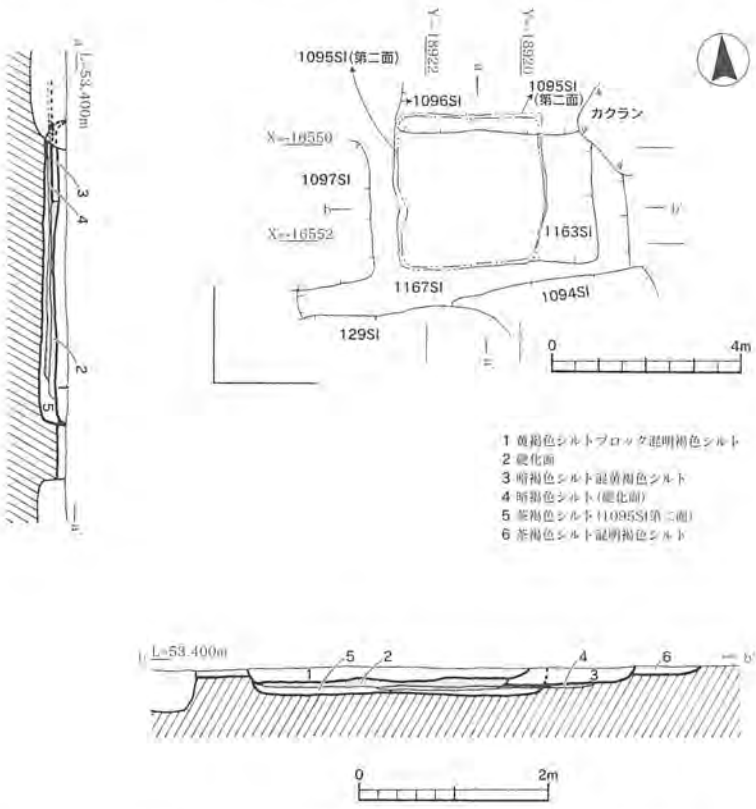
第Ⅲ-379図　1095SI(第一面)出土石器実測図2(1/3)〈床面〉

炉　炉本体としてはないが、住居の東側に直径16㎝の焼土が検出された。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片10・底部片1、壺口縁部片5・底部片1、高坏1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴はP7～9で構成される4本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器から考えて、住居の時期は4A期に位置づけられると推定できる。新旧関係等は、現地調査でよくつかめなかったが、この住居埋没後に1099SIが建てられたと推測される。



第Ⅲ-380図　1095SI(第一面、二面)、1167SI、1163SI
平面・断面図(1/80)〈床面〉

1097SI (第Ⅲ-388・390図、PL.8)

位置　遺跡北西部(2区北部)の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.88 mで、この住居埋没後、北側を撹乱に壊されている。主軸の方位はN-10°-Wである。

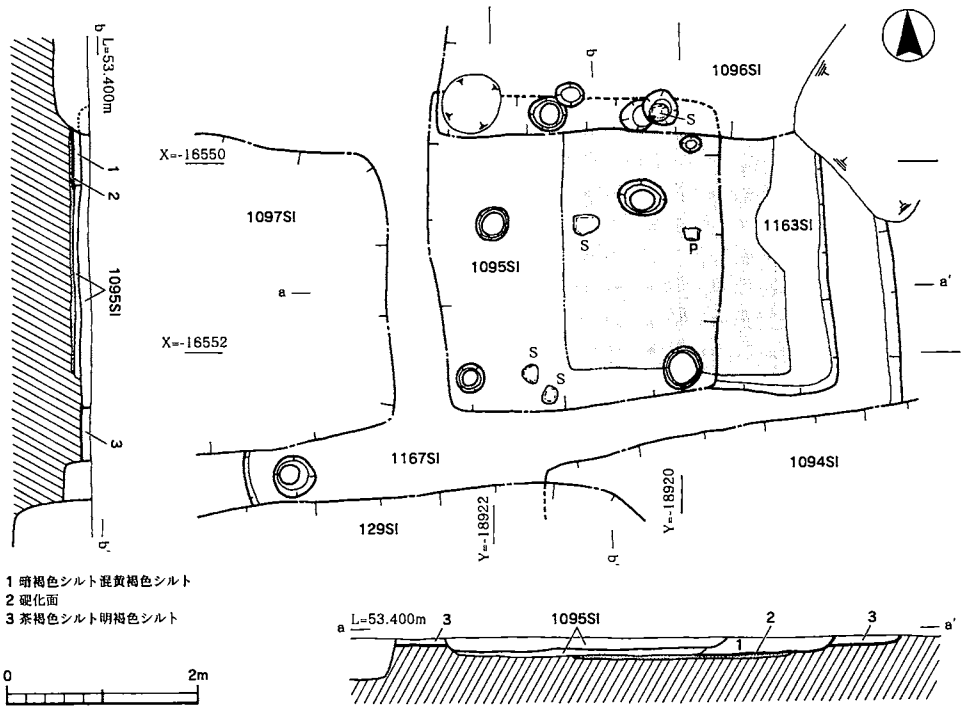
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸3.94 m、短軸3.35 mを測る。推定床面積は10.17㎡、残存床面積は9.78㎡、検出面からの深さは0.38 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～57㎝で、深さは60～81㎝である。柱痕跡の径は14～34㎝である。

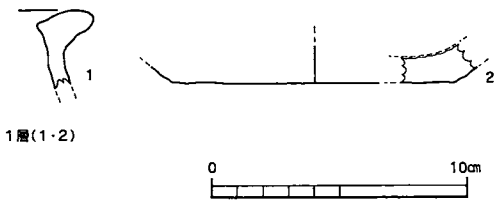
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片12・底部片1、壺口縁部片3・底部片2が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　主柱穴は(P1～6)で構成される4＋2本柱構造が考えられる。

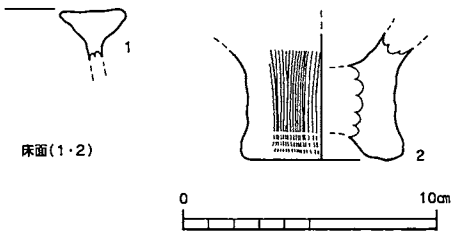
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4B～5期に位置づけられると推定できる。



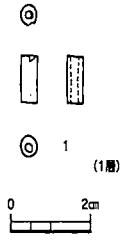
第Ⅲ-381図　1167SI・1163SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-382図　1167SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-383図　1163SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-384図
1167SI出土石器
実測図(2/3)

129 SI（第三面）（第Ⅲ-391・396図、PL.8・51）

位置　遺跡北西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6ｍで、西側中央部は撹乱が入っており、この住居が埋没してから1114SXが掘削されている。主軸の方位はＮ-5°-Ｗである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸10.34ｍ、短軸8.08ｍを測る。推定床面積は67.5㎡、残存床面積は58.36㎡で、検出面からの深さは0.1ｍである。埋土は１層以上からなる。

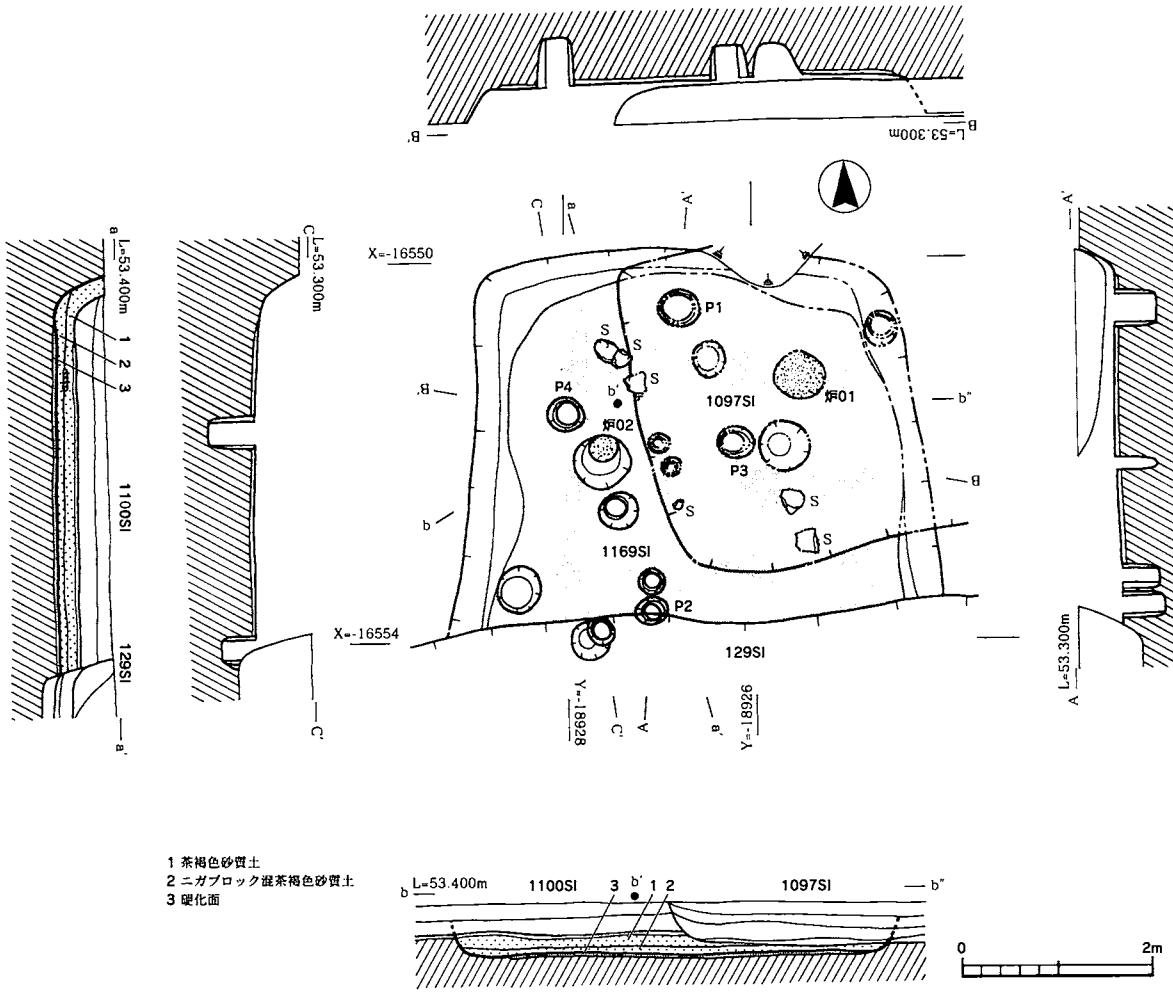
柱穴　柱穴の径は20～60㎝で、深さは15～47㎝である。柱痕跡の径は、10～28㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、Ⅰ～Ⅲ層合わせて甕口縁部片91・底部片19、壺口縁部片65・底部片12、鉢5、高坏1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。最下層から刀子が出土している。

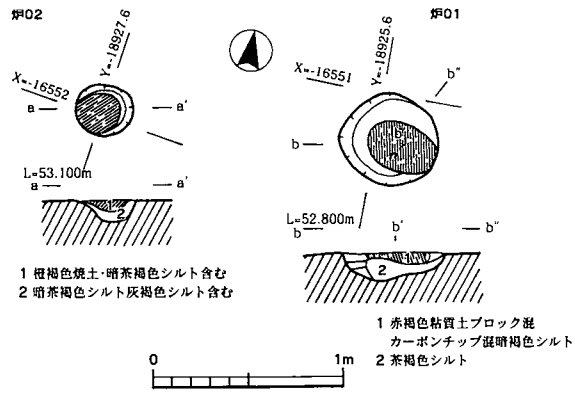
まとめ　竪穴住居の堀り方の深さは60㎝以上と推定される。Ｐ９～11を主柱穴とする４本柱構造と推定される。東側にはベット状遺構が存在する。

柱穴は３基しか検出できなかったが、６本柱以上主柱穴を持つ構造であった可能性が高い。

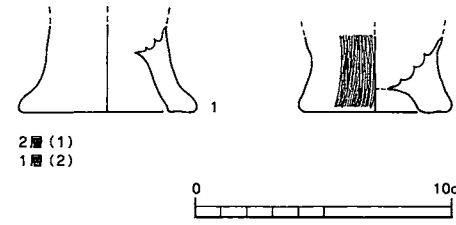
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は８期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-385図　1169SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-386図　1169SI内炉01・02
平面・断面図(1/40)

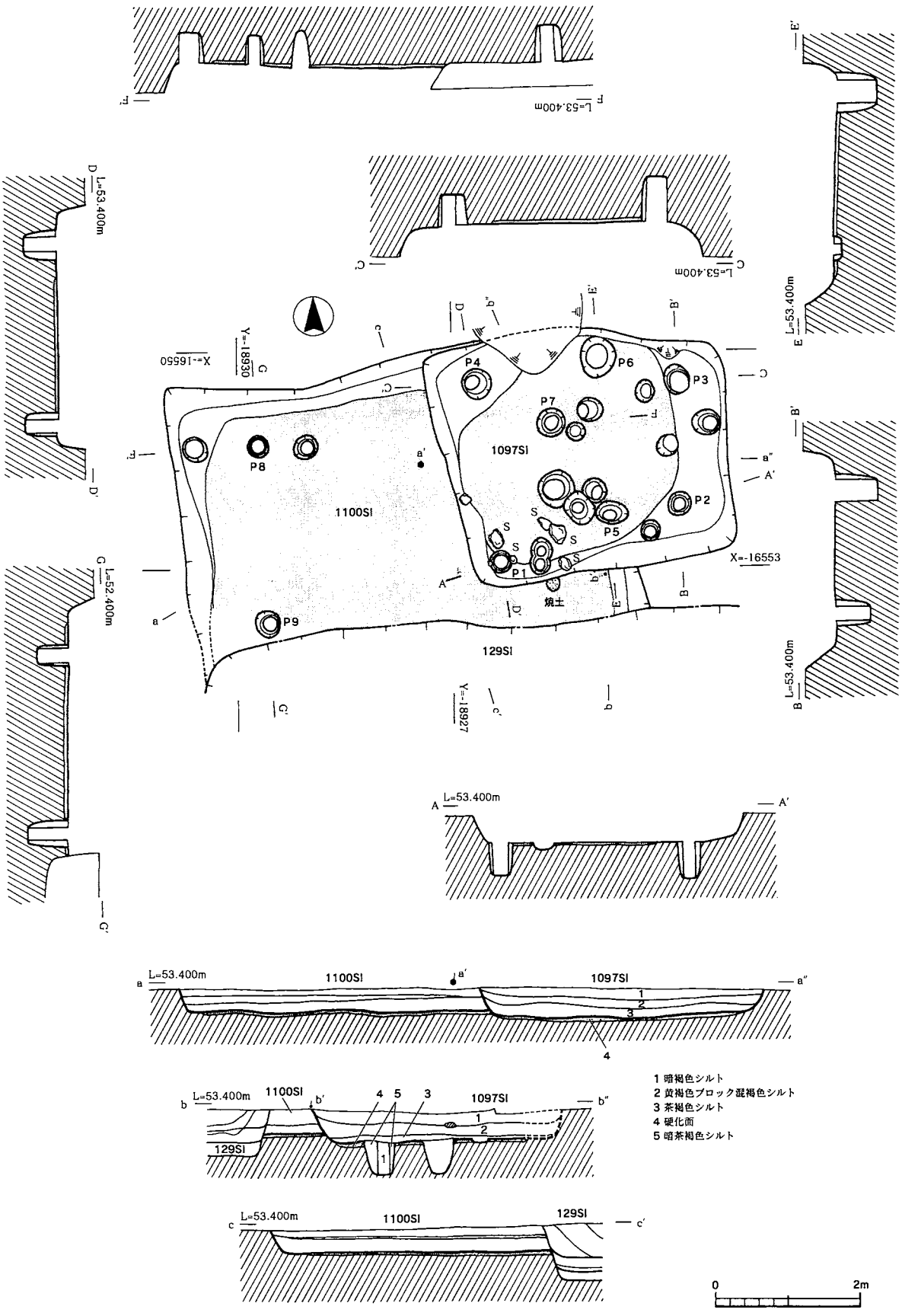


第Ⅲ-387図　1169SI出土土器実測図(1/3)

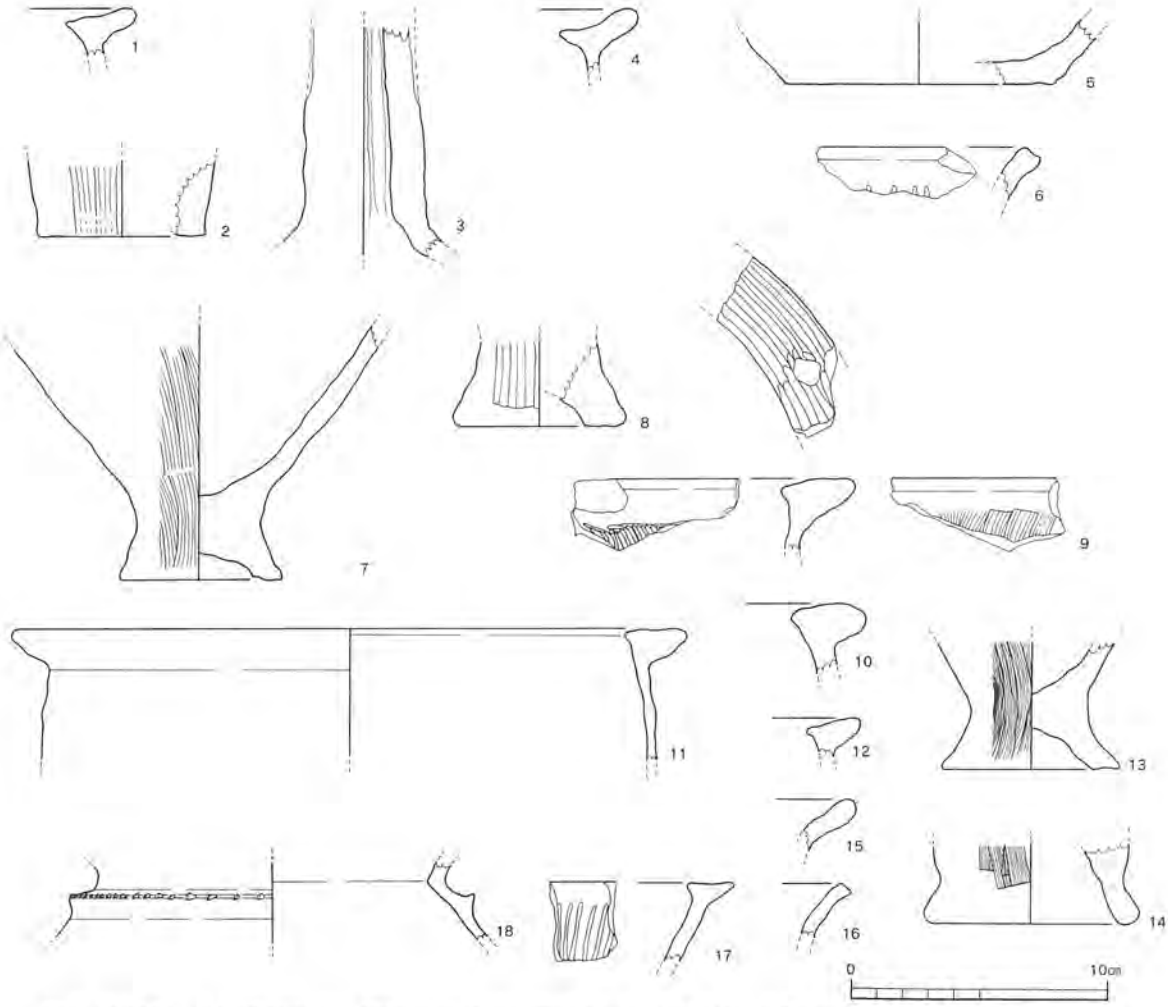
129 SI（第二面）（第Ⅲ-392・393・397・402図、PL.8）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、西側中央部は撹乱が入っており、この住居が埋没してから1114SXが掘削されている。主軸の方位はN -5°-Wである。

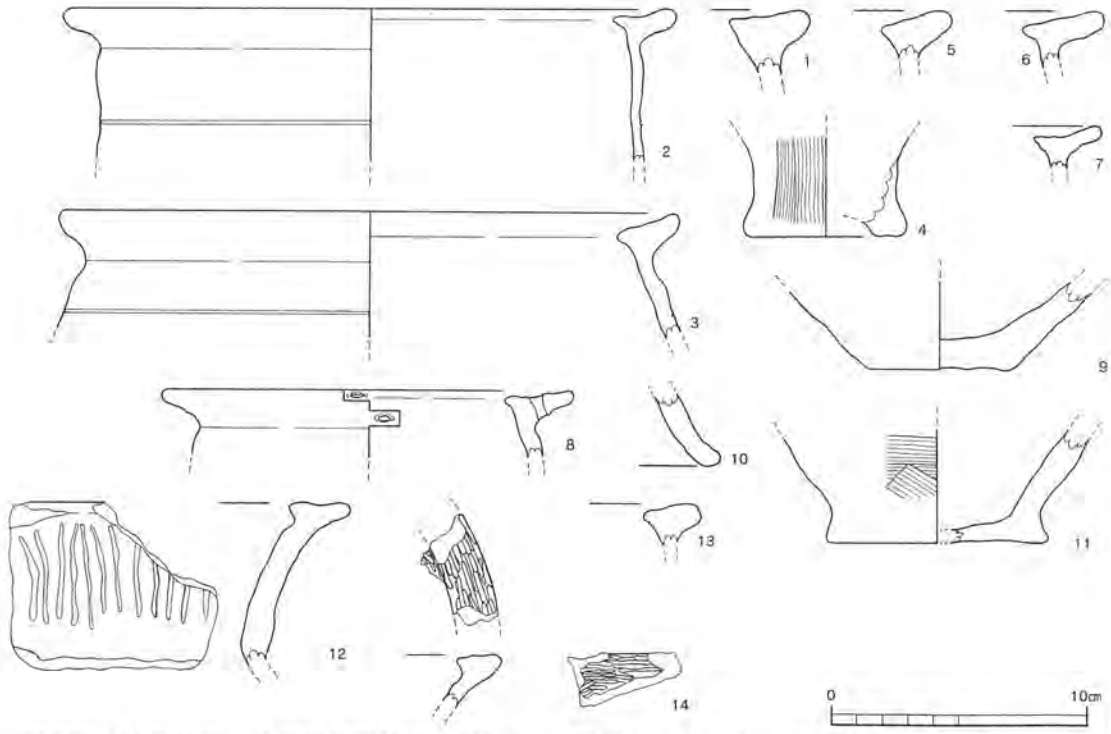
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸10.34 m、短軸8.08 mを測る。推定床面積は67.5 ㎡、残存床面積は58.36 ㎡で、検出面からの深さは0.36 mである。埋土は2層からなる。



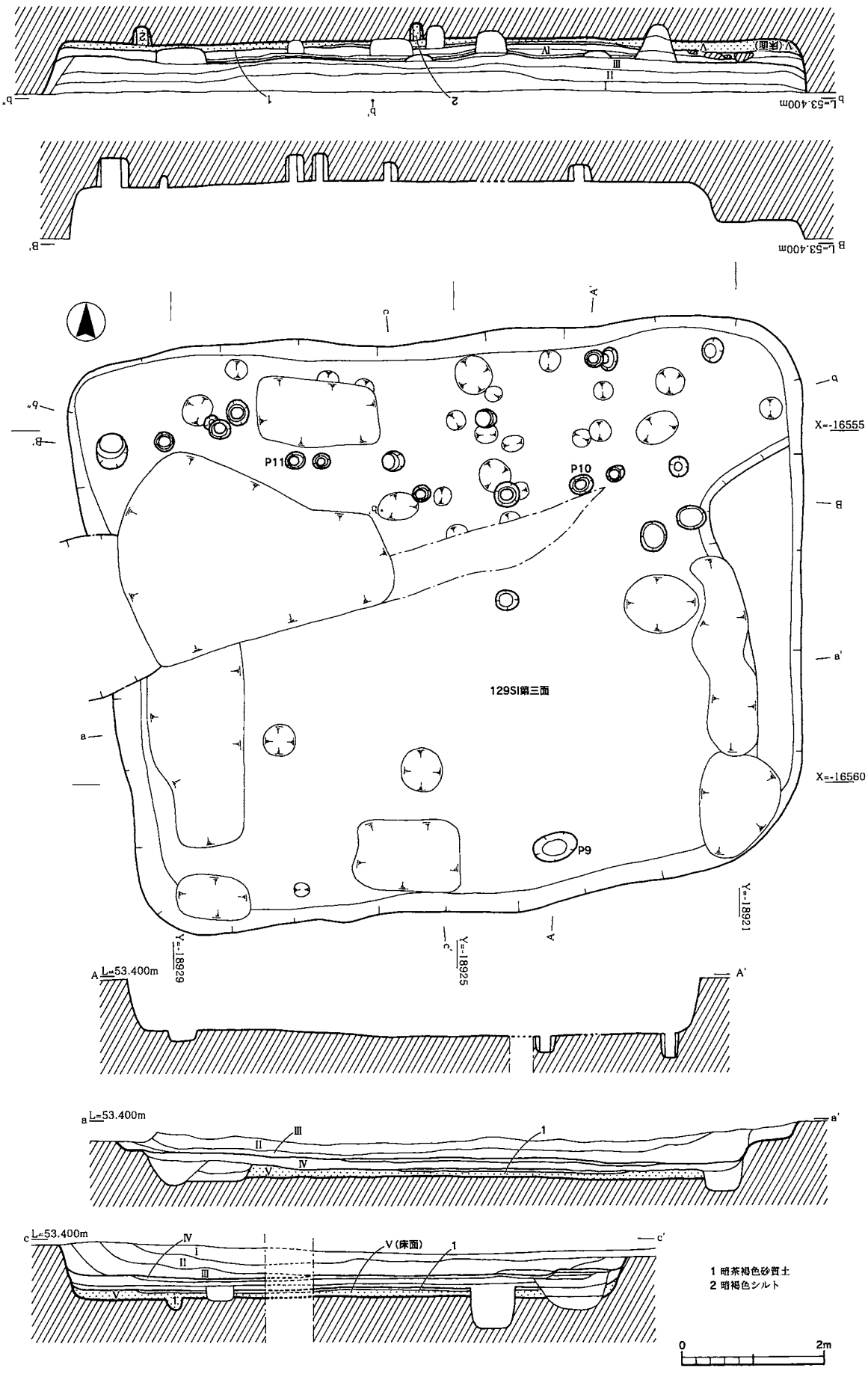
第Ⅲ-388図　1100SI・1097SI　平面・断面図(1/80)



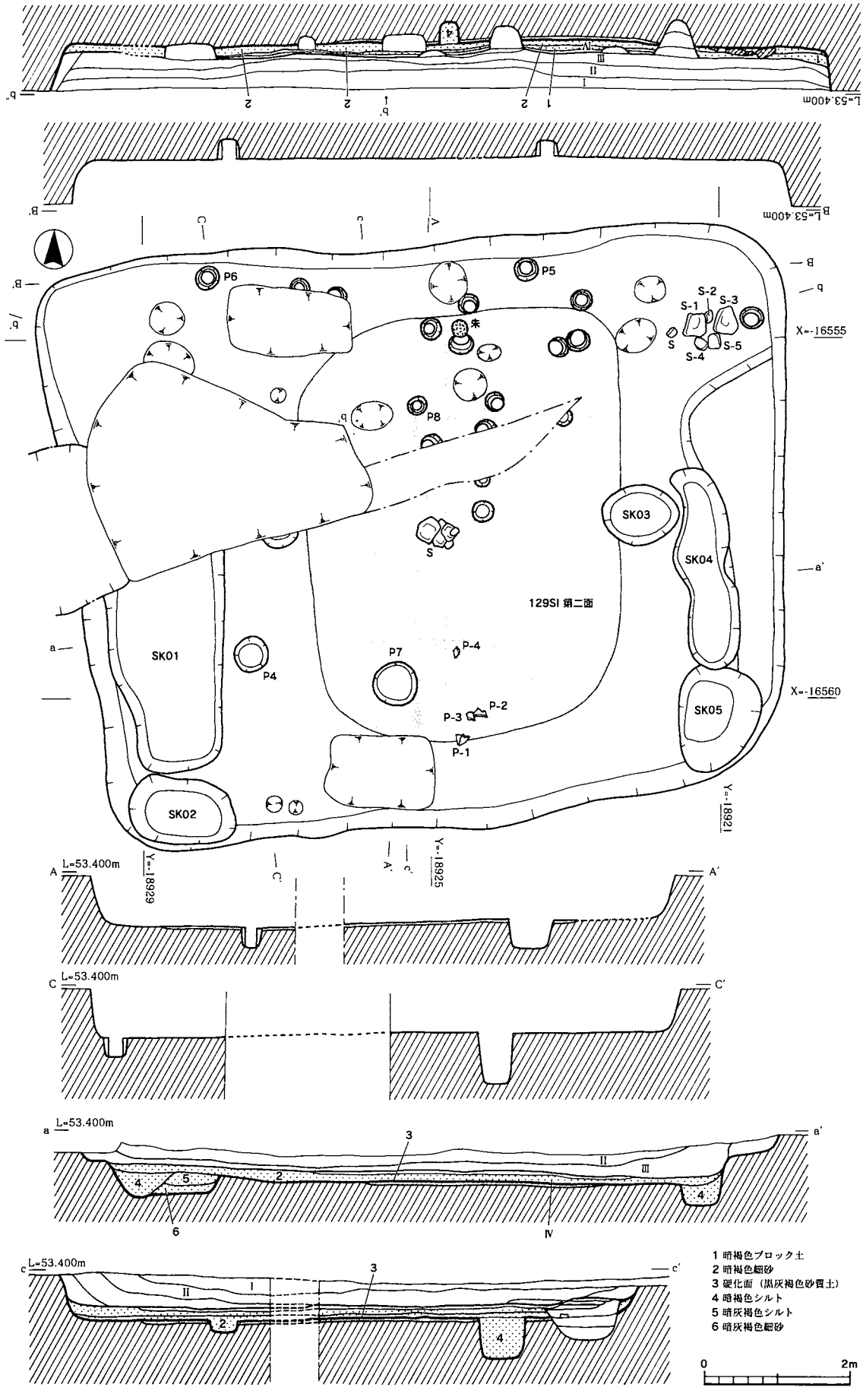
第Ⅲ-389図　1100SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1・2)、肩部(3)、3層(4・5)、3層(6)、1層(7～18)〉



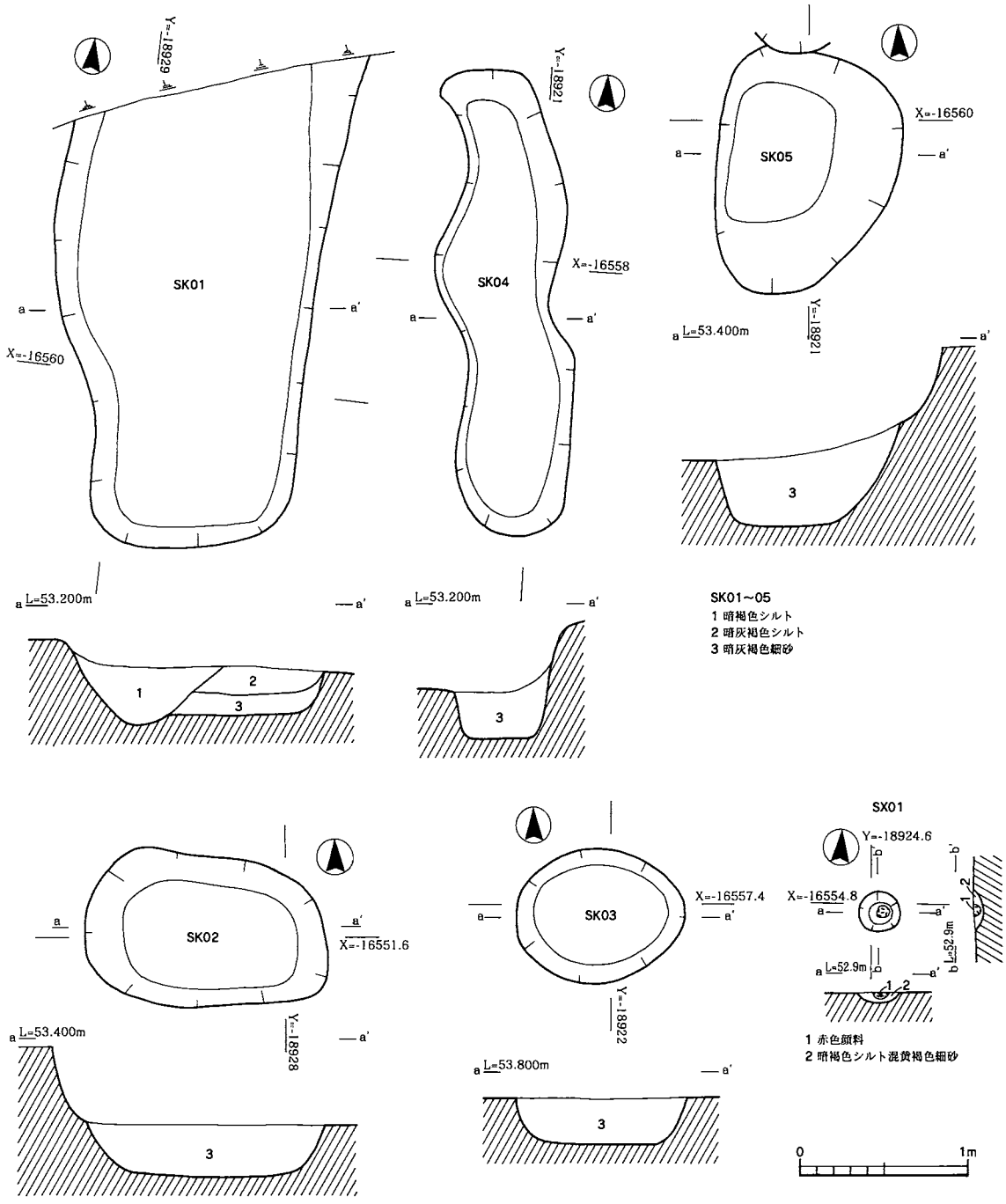
第Ⅲ-390図　1097SI出土土器実測図(1/3)〈P(3・4)、床面(1・2・5～10)、4層(11)、3層(12)、3層(13・14)〉



第Ⅲ-391図　129SI(第三面)　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-392図　129SI(第二面)　平面・断面図(1/80)



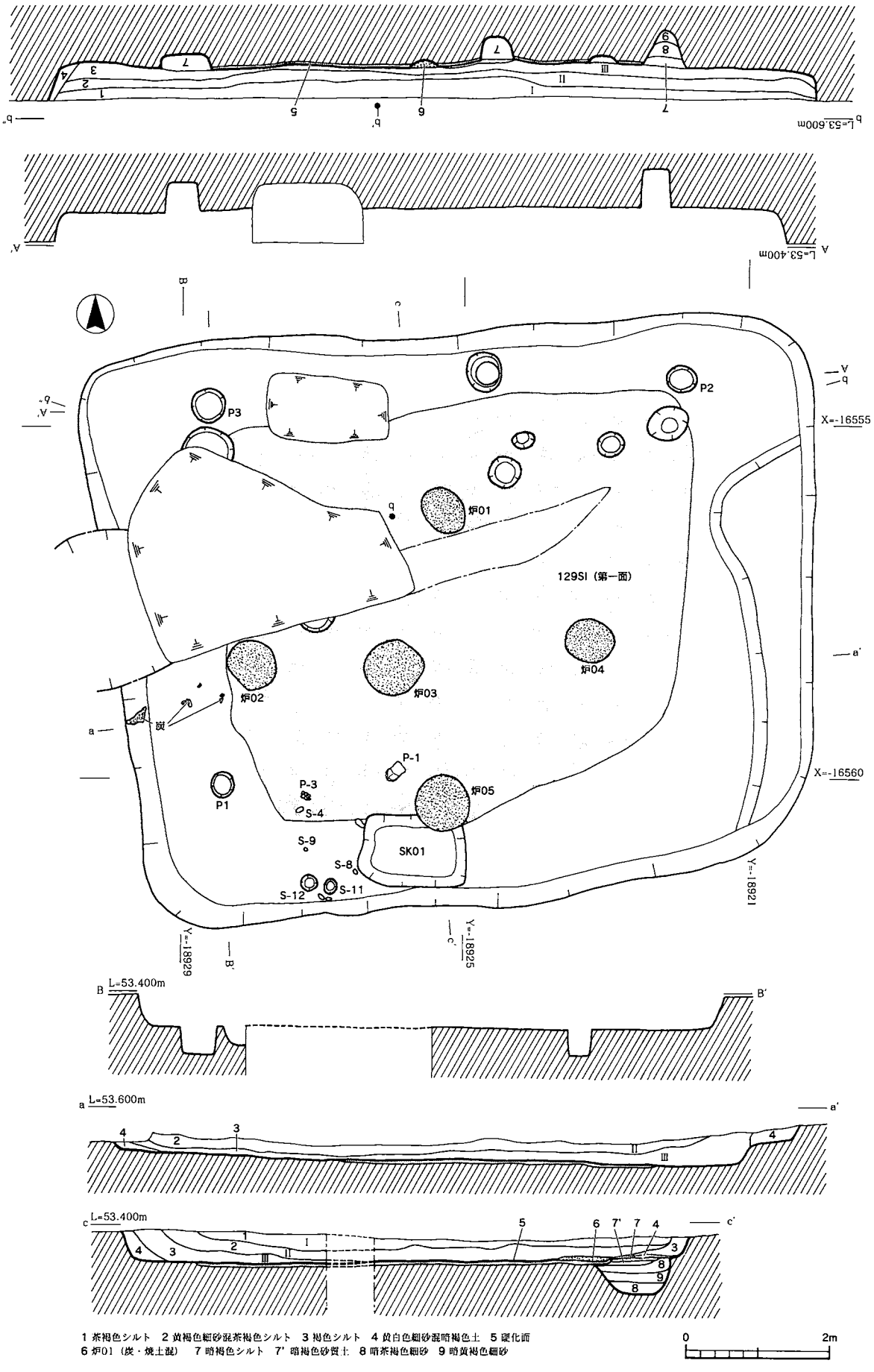
第Ⅲ-393図　129SI(第二面)SK01～05・SX01　平面・断面図(1/40)

柱穴　柱穴の径は20～60㎝で、深さは15～47㎝である。柱痕跡の径は10～28㎝である。

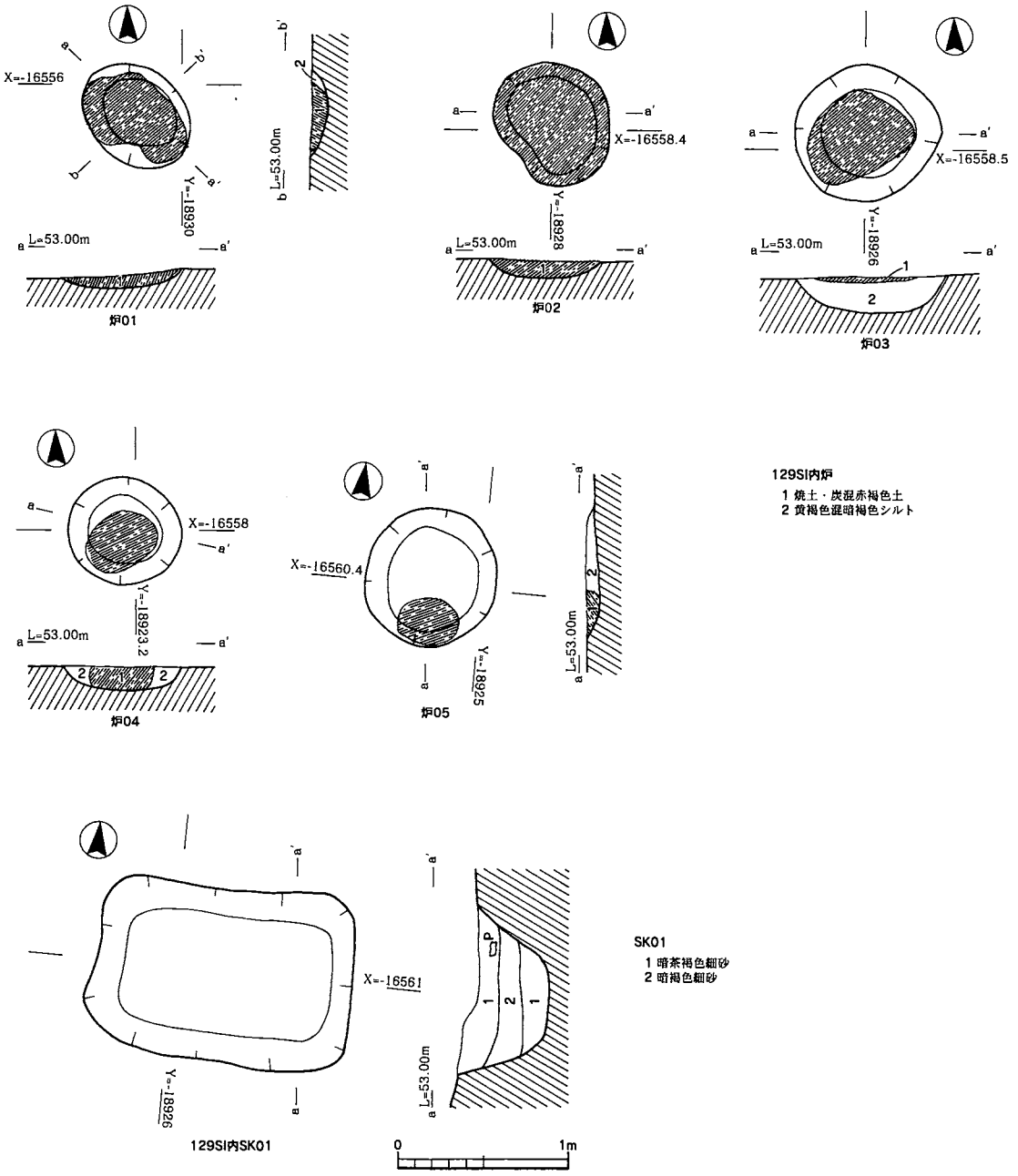
貯蔵穴　住居内に5基検出され、SK01は、住居の西側に位置し、長軸290㎝以上、短軸160㎝、深さ30㎝を測り、断面は皿状の後すり鉢状に掘られ、埋土は3層からなる。SK02は南西の隅に位置し、長軸140㎝、短軸92㎝、深さ31㎝を測り、断面は皿状を呈す。SK03は東側中央部に位置し、長軸101㎝、短軸82㎝、深さ27㎝を測り、断面は皿状を呈す。SK04は東側中央部に位置し、長軸277㎝、短軸57㎝を測り、断面はU字状を呈す。SK05は南東の隅に位置し、長軸143㎝、短軸110㎝、深さ45㎝を測り、断面はU字状を呈す。SK02～05の埋土はいずれも1層からなる。

遺物出土状況　廃棄及び流れ込みの遺物と推定できる。磨製石鏃の破片1と石皿等も出土している。

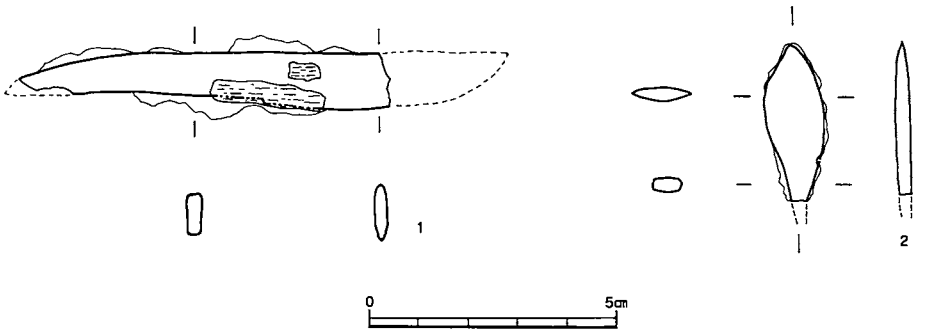
まとめ　竪穴住居の堀り方の深さは50cm以上と推定される。P4～8を主柱穴とする4本柱以上の構造と



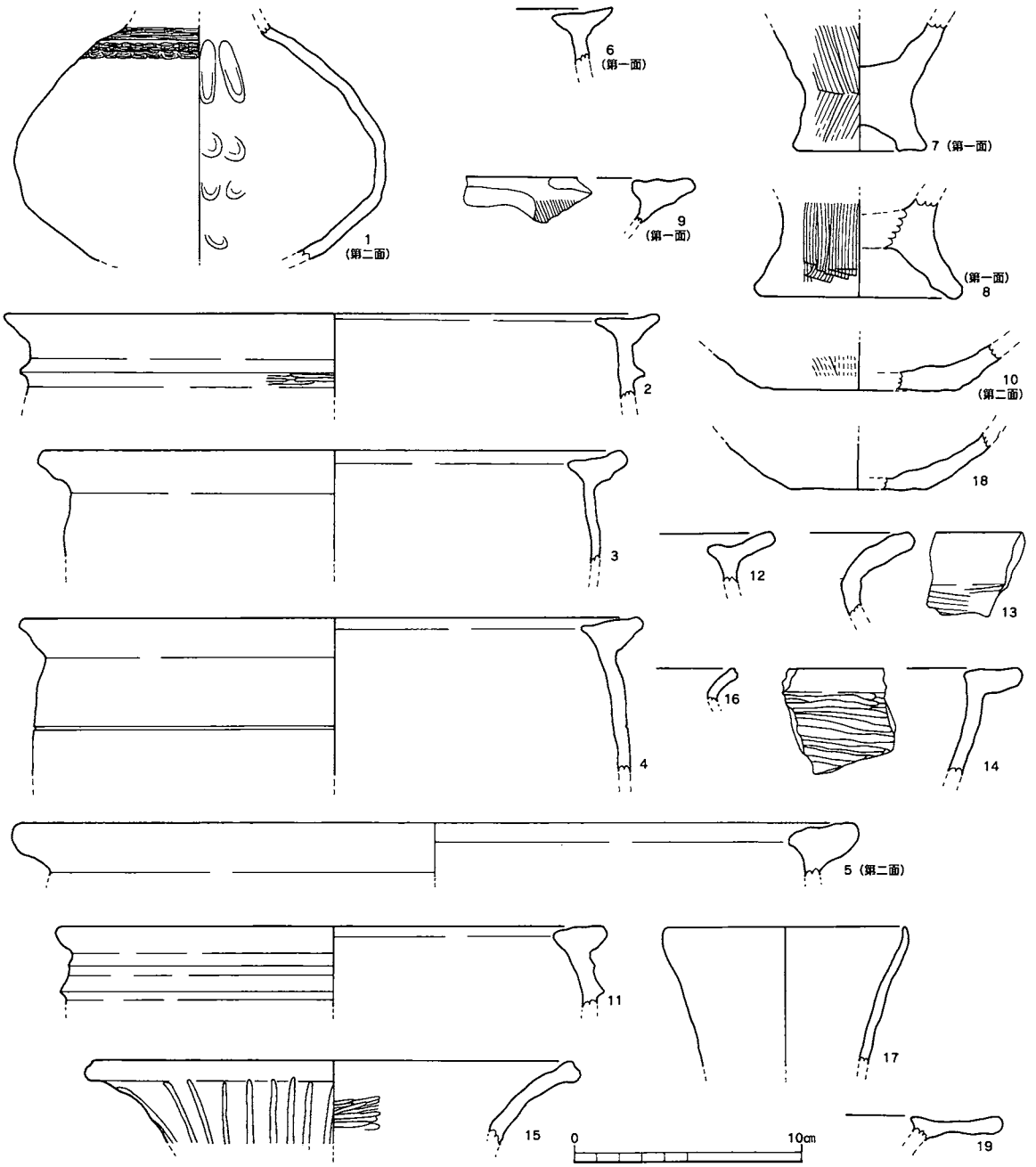
第Ⅲ-394図　129SI（第一面）　平面・断面図（1/80）



第Ⅲ-395図　129SI(第一面)内炉01～05・SK01　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-396図　129SI出土鉄器実測図(2/3)〈第三床面(1)、第一床面(2)〉



第Ⅲ-397図　129SI出土土器実測図1(1/3)〈第二面P(2～4)、床面(1・5～10)、Ⅳ層(11～19)〉

推定される。

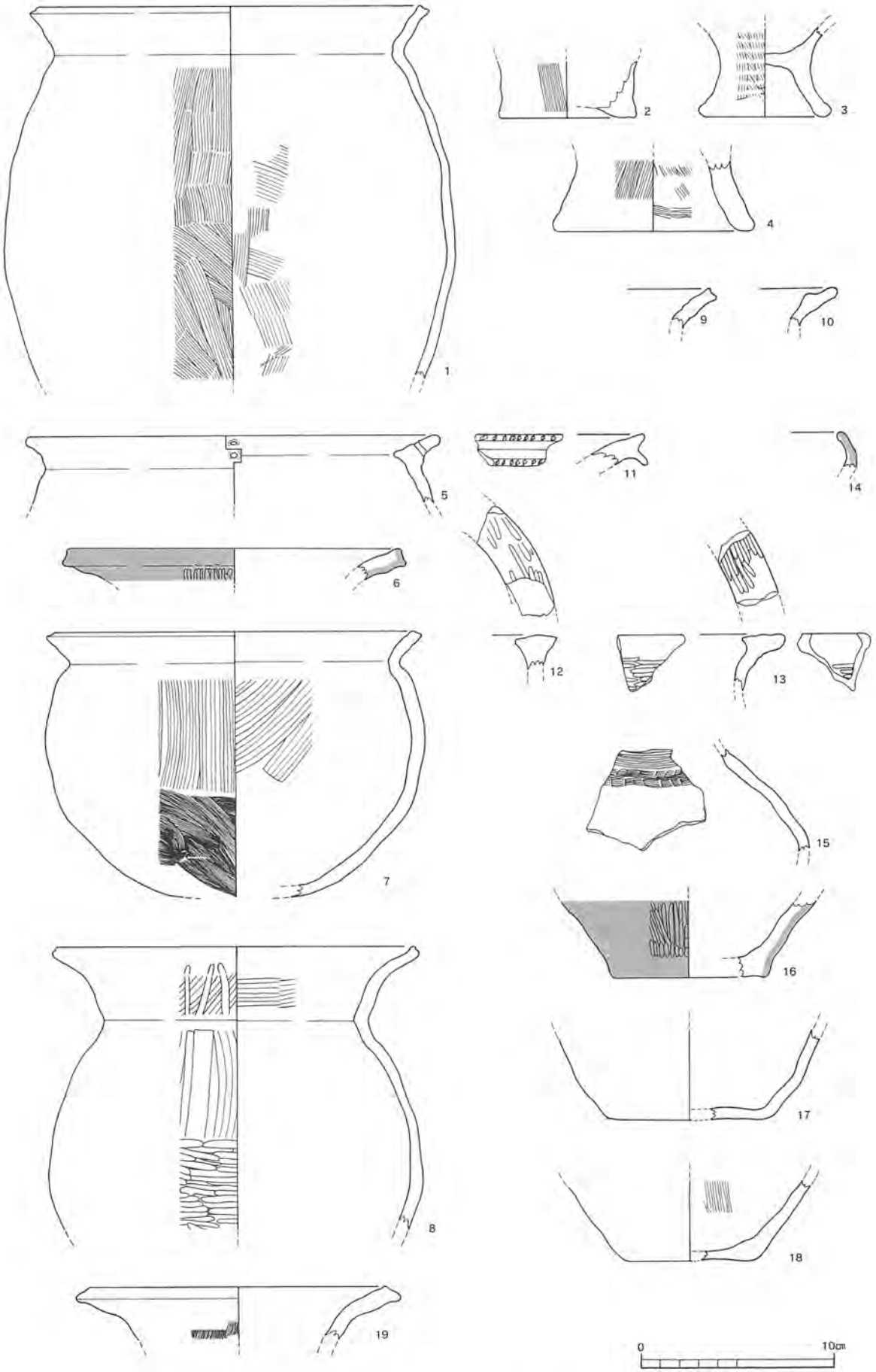
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時7～8期に位置づけられると推定できる。

129 SI（第一面）（第Ⅲ-394・395・396・398・399・400・401図、PL.43・51）

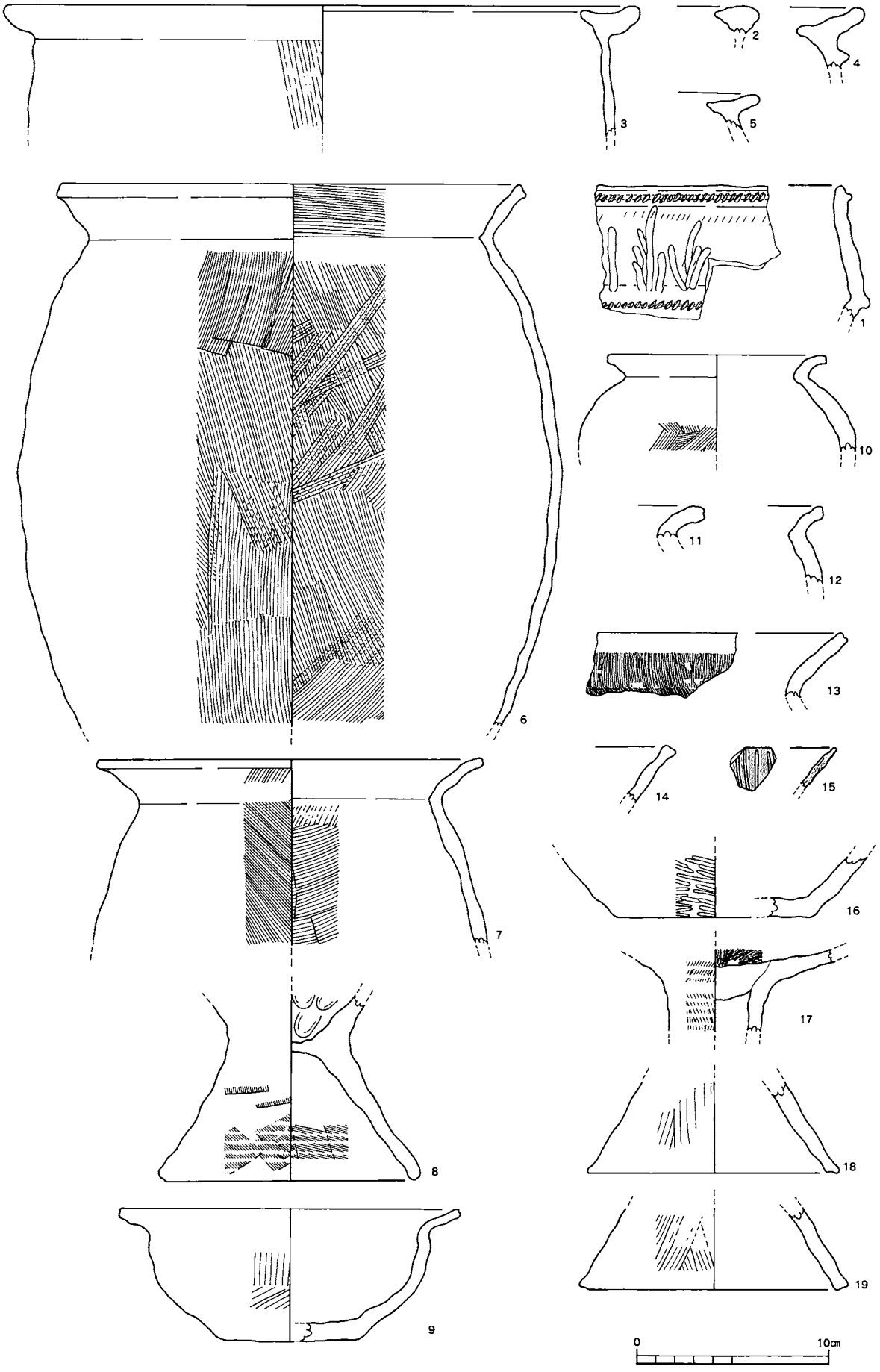
位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9 mで、西側中央部は撹乱が入っており、この住居が埋没してから1114SXが掘削されている。主軸の方位はN -5°-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸10.34 m、短軸8.08 mを測る。推定床面積は67.5 ㎡で、残存床面積は58.36 ㎡、検出面からの深さは0.5 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は1層以上からなる。

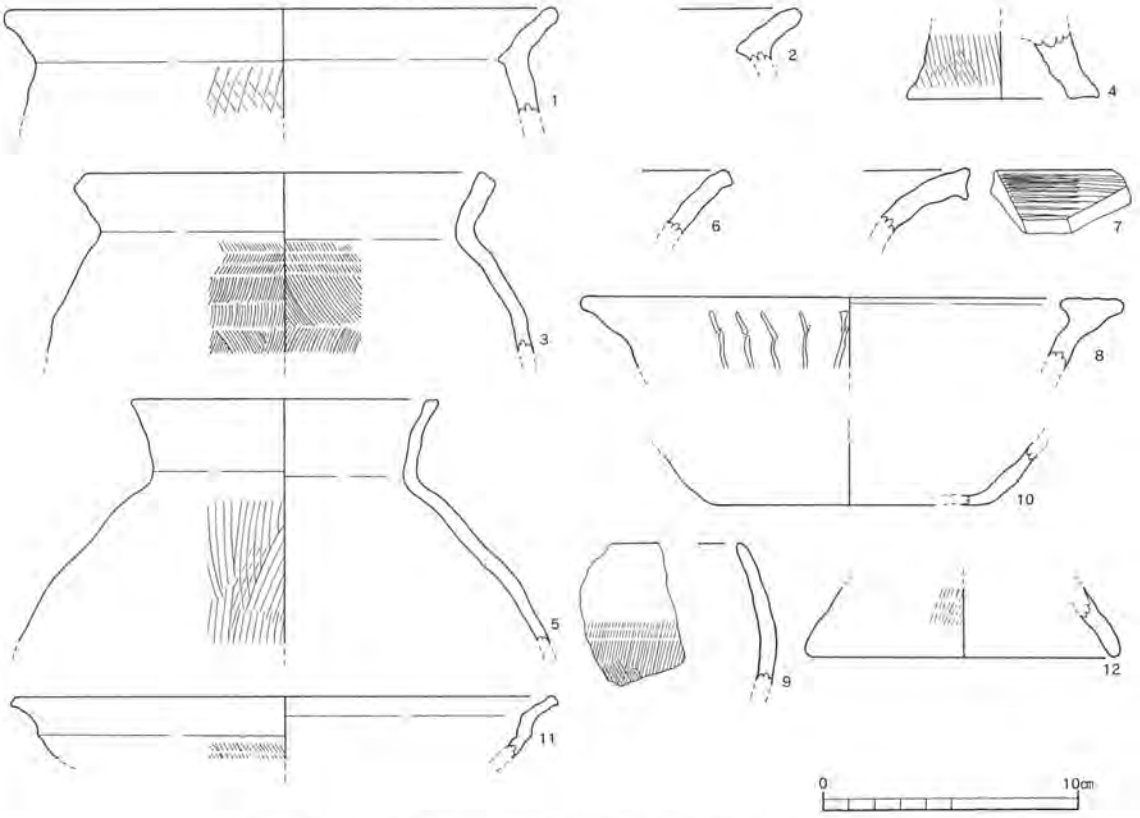
柱穴　柱穴の径は20～60 cmで、深さは15～47 cmである。柱痕跡の径は、10～28 cmである。



第Ⅲ-398図　129SI出土土器実測図2(1/3)〈Ⅲ層(1～19)〉



第Ⅲ-399図　129SI出土土器実測図3(1/3)〈Ⅱ層(1～19)〉



第Ⅲ-400図　129SI出土土器実測図4(1/3)〈Ⅰ層(1～12)〉

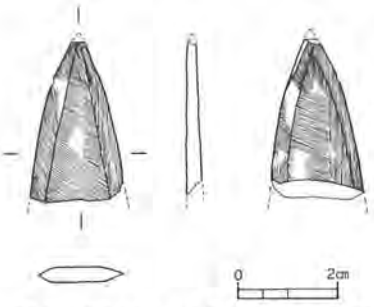
炉　住居内に5基検出された。炉01は住居の北側中央部に位置し、長軸、短軸53㎝、深さ8㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は2層からなる。炉02は住居の西側中央部に位置し、長軸75㎝、短軸63㎝、深さ9㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は1層からなる。炉03は住居の中央部に位置し、長軸86㎝、短軸77㎝、深さ20㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は2層からなる。炉04は住居の東側中央部に位置し、長軸66㎝、短軸62㎝、深さ14㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は2層からなる。炉05は住居の南側中央部に位置し、長軸80㎝、短軸76㎝、深さ8㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は2層からなる。

貯蔵穴　住居の南側中央部に位置し、長軸150㎝、短軸100㎝、深さ48㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　流れ込み及び廃棄の遺物と推定できる。床面から、鉄鏃片（第Ⅲ-396図2）が出土している。

まとめ　竪穴住居の堀り方の深さは60cm以上と推定される。P1～3を主柱穴とする4本柱構造と推定される。東側にベット状遺構を持つ。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7～8期に位置づけられると推定できる。

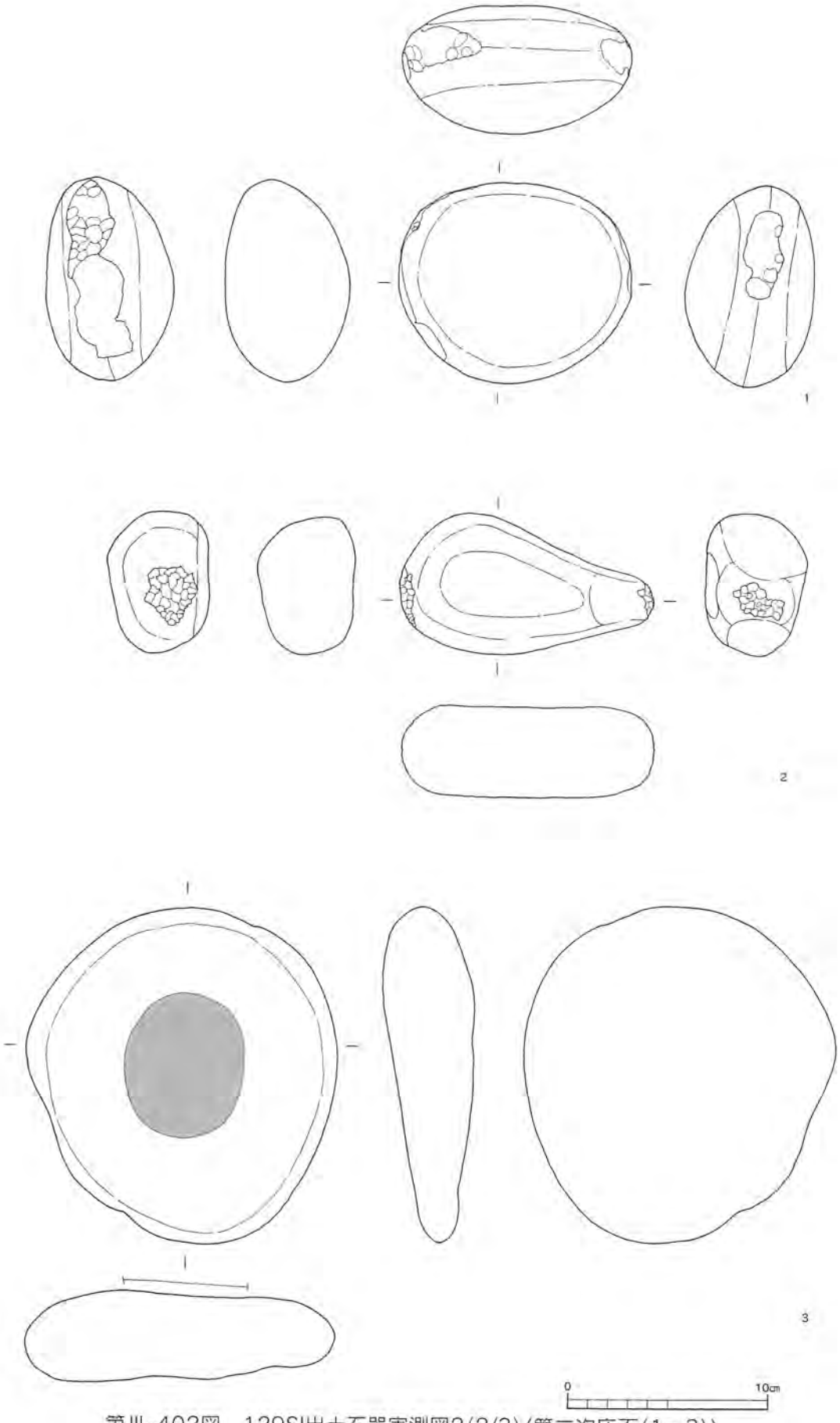


第Ⅲ-401図　129SI出土石器実測図1(2/3)〈3層〉

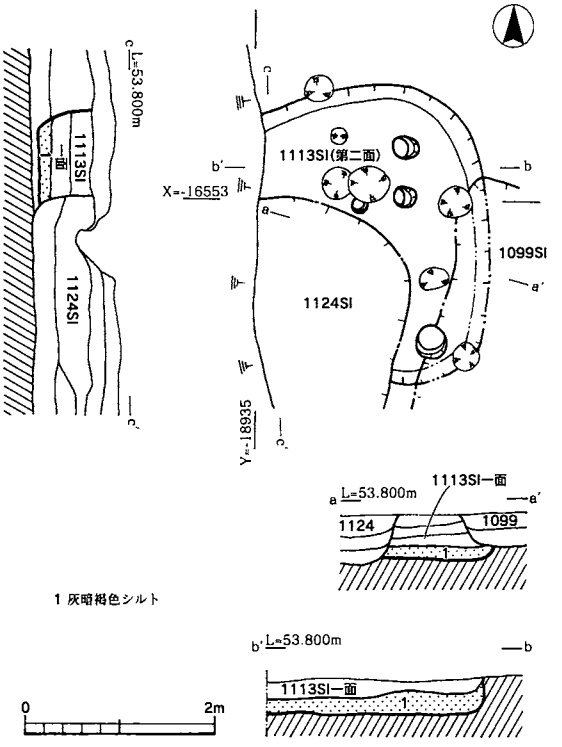
1113SI（第二面）（第Ⅲ-403・404図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されている。床面の標高は約53.1mで、この住居埋没後、南側に1124SI、西側は調査区外、上層部に1113SIに、東側に1099SIが建てられている。主軸の方位はN-7°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.12m以上、短軸2.36m以上を測る。床面積は3.11㎡以上で、残存床面積は3.11㎡、検出面からの深さは0.5mである。埋土は1層からなる。



第Ⅲ-402図　129SI出土石器実測図2(2/3)〈第二次床面(1～3)〉



第Ⅲ-403図　1113SI(第二面) 平面・断面図(1/80)

柱穴　柱穴の径は 17 ～ 33 cmで、深さは 24 ～ 80 cmである。柱痕跡の径は 10 ～ 28 cmである。

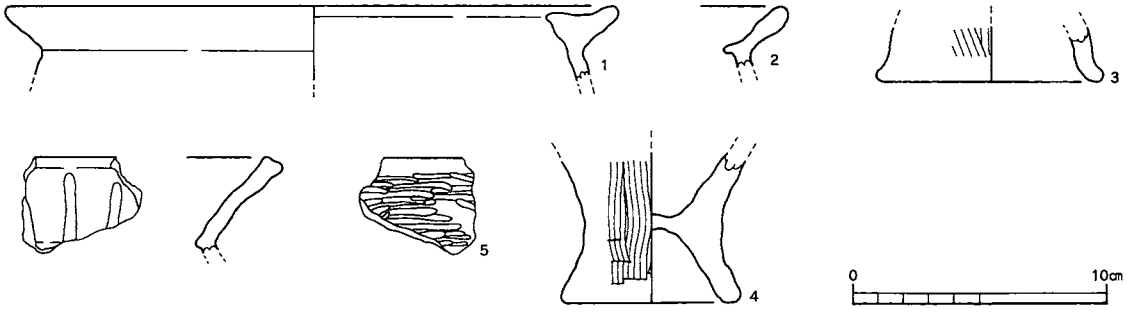
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 4・底部片 1、壺口縁部片 1 が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　西側の大部分が調査区外のため、詳細は不明である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 5 期に位置づけられると推定できる。

1113SI（第一面）（第Ⅲ -404・405 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形のほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.3 m で、この住居埋没後、南側に 1124SI、西側は調査区外、上層部に 1113SI



第Ⅲ-404図　1113SI(第一・二面)出土土器実測図(1/3)〈第二次床面(1)、1層(2～5)〉

（第二面）に、東側に 1099SI が建てられている。主軸の方位はN -7°-W である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 3.12 m以上、短軸 2.36 m以上を測る。床面積は 3.11 ㎡以上、残存床面積は 3.11 ㎡で、検出面からの深さは 0.5 mである。埋土は 1 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 27 ～ 35 cmで、深さは 29 ～ 49 cmである。柱痕跡の径は 14 ～ 29 cmである。

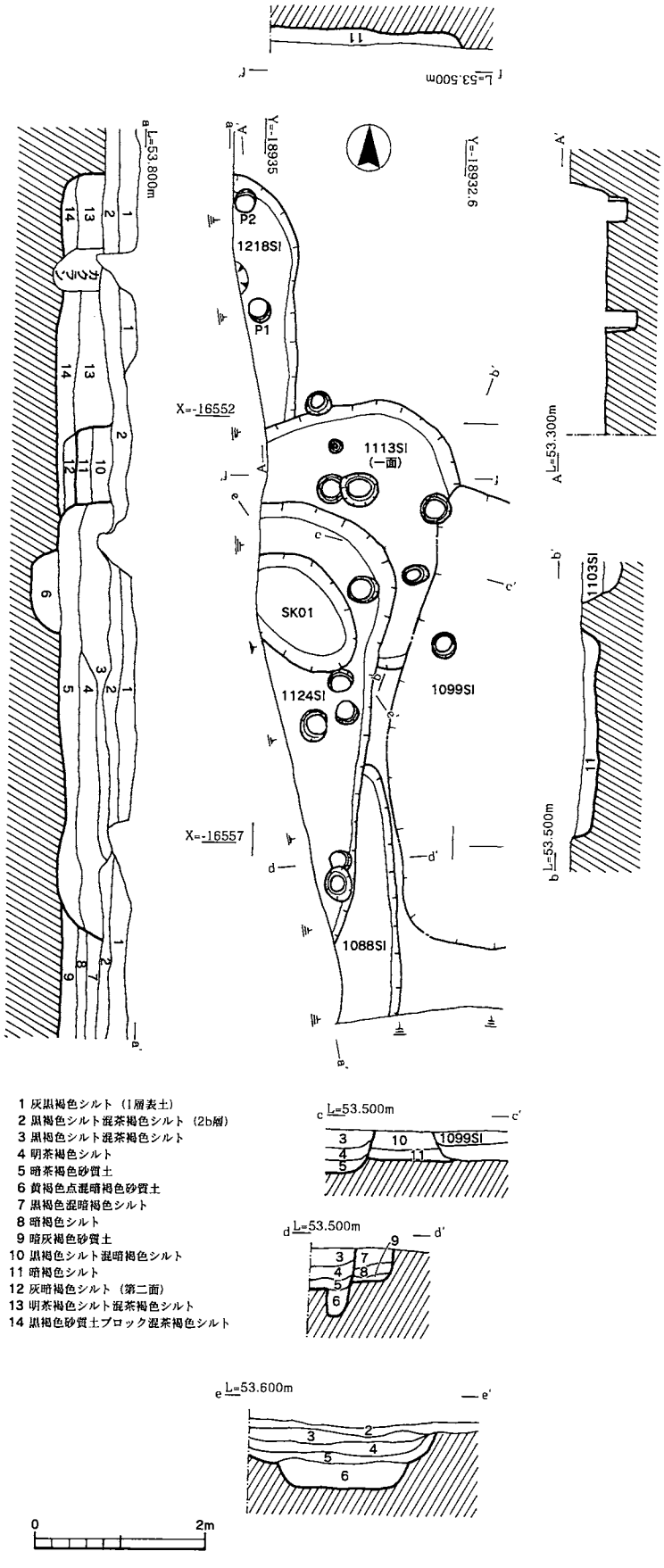
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 4・底部片 1、壺口縁部片 1 が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　西側の大部分が調査区外のため、詳細は不明である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 5 期以降に位置づけられると推定できる。

1218 SI（第Ⅲ -405 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約 52.9 m で、この住居埋没後、南側に 1113SI が建てられ、東側は調査区外である。主軸の方位はN -6°-W である。



第Ⅲ-405図　1113SI(第一面)、1088SI、1124SI、1218SI 平面・断面図(1/80)

住居形態　平面形態は不明、長軸2.98 m以上、短軸0.78 m以上を測る。残存床面積は1.15 ㎡で、検出面からの深さは0.5 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～26 ㎝で、深さは23～36 ㎝である。柱痕跡の径は19～22 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、時期が判明する遺物は、出土していない。

まとめ　ほとんどが調査区外のため詳細は不明である。住居の時期は1113SI等と1103SIとの新旧関係から、4B～5期と推定できる。

1088SI（第Ⅲ-405・406図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.9 mで、この住居埋没後、北側に1124SIが建てられ、西側と南側は調査区外である。主軸の方位はN-8°-Wである。

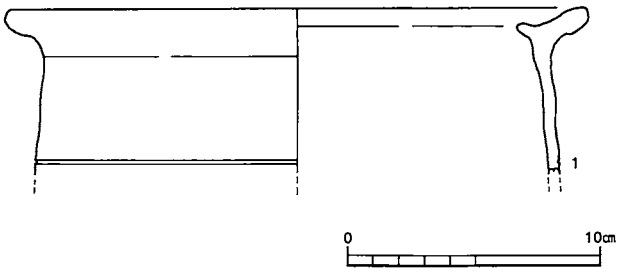
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.00 m以上、短軸1.10 m以上を測る。残存床面積は1.69 ㎡で、検出面からの深さは0.4 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は26～40 ㎝で、深さは28～39 ㎝である。柱痕跡の径は17～20 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2・底部片2、壺口縁部片2が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　ほとんどが調査区外のため、詳細は不明である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から



第Ⅲ-406図　1088SI出土土器
実測図(1/3)〈2層(1)〉

考えて、住居の時期は4B期に位置づけられると推定できる。

1124SI（第Ⅲ-405・407・408図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.8 mである。西側は調査区外である。主軸の方位はN-3°-Eである。

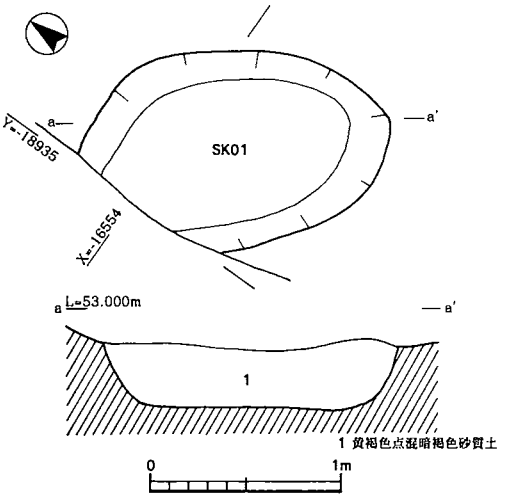
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.10 m以上、短軸1.64 m以上を測る。残存床面積は3.43 ㎡で、検出面からの深さは0.46 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は26～35 cmで、深さは24～40 cmである。柱痕跡の径は20～26 cmである。

貯蔵穴　住居の北東部の隅に位置し、長軸164 cm、短軸105 cm、深さ35 cmを測り、断面は凹字状を呈し、埋土は1層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片3・底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

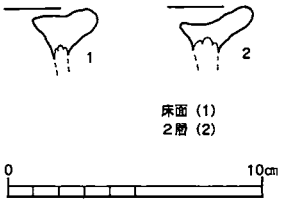
まとめ　西側の大部分が調査区外のため、詳細は不明である。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-407図　1124SI内SK01
平面・断面図(1/40)

1099 SI（第Ⅲ-409・410図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形のほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約53.05 mで、この住居埋没後、北東側に1100SI、東側に1101SIが建てられ、南東側を1114SXに掘削されている。主軸の方位はN-8°-Eである。



第Ⅲ-408図　1124SI出土土器
実測図(1/3)

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.10 m以上、短軸1.76 m以上を測る。床面積は7.75 ㎡以上、残存床面積7.75 ㎡で、検出面からの深さは0.36 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は27～44 cmで、深さは43～56 cmである。柱痕跡の径は20～30 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片4、壺口縁部片1が出土している。

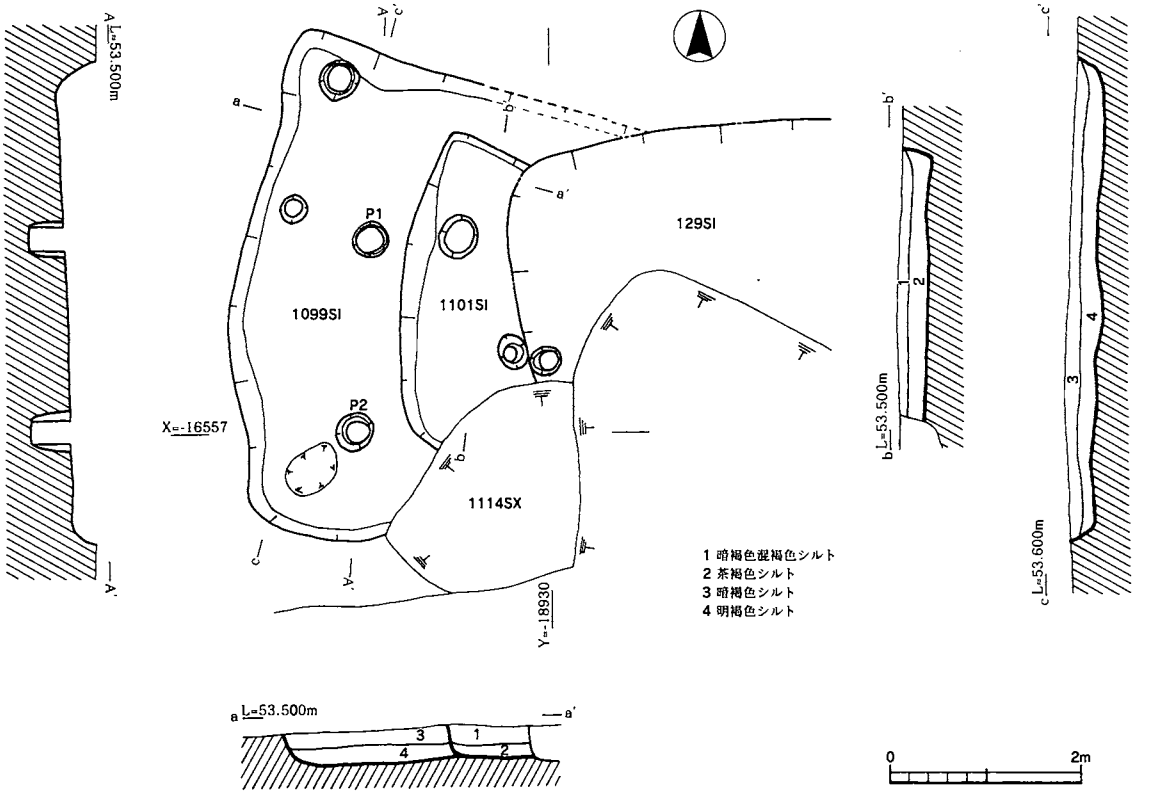
まとめ　主柱穴はP1～2で構成されるものと考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は5期に位置づけられると推定できる。

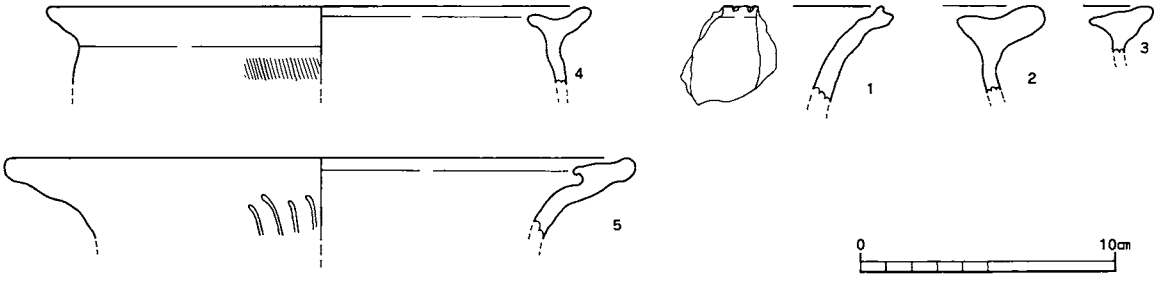
1101 SI（第Ⅲ-409・411・412図、PL.43）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形のほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約53.1 mで、この住居埋没後、東側に129SIが建てられ、南側には1114SXが掘削されている。主軸の方位はN-2°-Eである。

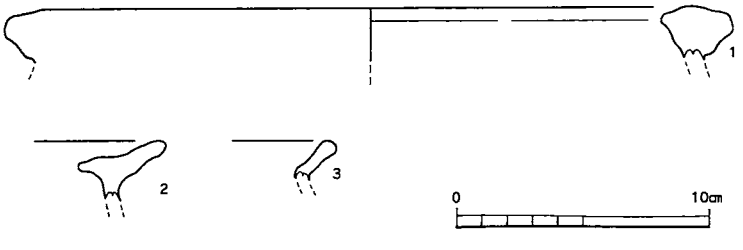
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.77 m以上、短軸1.38 m以上を測る。床面積は2.79 ㎡以上、残存



第Ⅲ-409図　1099SI・1101SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-410図　1099SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1)、1層(2～5)〉



第Ⅲ-411図　1101SI出土土器実測図(1/3)〈1層(1～3)〉

床面積は2.79㎡で、検出面からの深さは0.34 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は30～46 cmで、深さは43～71 cmである。柱痕跡の径は14～38 cmである。

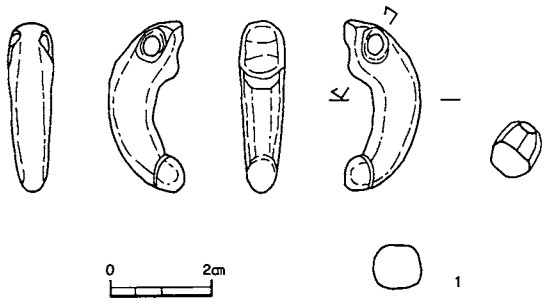
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2、壺口縁部片1が出土している。上層から勾玉1（第Ⅲ-412図）が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　この住居埋没後、1114SXや129SIが掘削されているため、詳細は不明である。

住居の時期は遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は5～6A期に位置づけられると推定できる。

1133 SI（第Ⅲ-413・416・417図、PL.43）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほとんど留めていると考えられる。床面の標



第Ⅲ-412図　1101SI出土石器実測図(2/3)〈1層〉

高は約52.8 mで、この住居埋没後、南西には1103SIが建てられ、北側は撹乱で壊されている。主軸の方位は真北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.96 m、短軸4.40 mを測る。推定床面積は19.78 ㎡、残存床面積9.24 ㎡で、検出面からの深さは0.24 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は20～33 ㎝で、深さは28～50 ㎝である。柱痕跡の径は14～22 ㎝である。

貯蔵穴　住居の東側に位置し、長軸172 ㎝、短軸130 ㎝、深さ38 ㎝を測る。断面は凹字状を呈し、埋土は2層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片2・底部片1、壺口縁部片1が出土している。埋土上層から、磨製石鏃4が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　P5～6を主柱穴とする2本柱建物の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や甕棺や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期に位置づけられると推定できる。

1103SI（第Ⅲ-413・414・415・418図、PL.29・43）

位置　遺跡北部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほとんど留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、この住居埋没後、西側に1218SI、南側角に1113SIが建てられ、北側・中央部は撹乱に壊されている。主軸方位はN-9°-Wである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.48 m、短軸4.42 mを測る。推定床面積は17.8 ㎡、残存床面積は13.89 ㎡で、検出面からの深さは0.44 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は22～43 ㎝で、深さは31～52 ㎝である。柱痕跡の径は14～26 ㎝である。

炉　住居の中央部に位置し、長軸28 ㎝、短軸26 ㎝、深さ17 ㎝で、断面はU字状を呈する。埋土は1層からなる。

遺物出土状況　住居中央部の広い範囲に撹乱が入り込んでおり、遺物が混入している可能性が高い。磨製石鏃2も出土している。

まとめ　P1～4を主柱穴とする4本柱構造と考えられる。この住居が埋没してから1082SX（甕棺）が据えられていることや出土遺物も含めて考慮すると、住居の時期は、4B期に位置づけられると推定できる。

1215 SI（第Ⅲ-419図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形のほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約52.82 mである。北西側と東側を撹乱に壊され、この住居埋没後、中央部に1106SKが掘削されている。主軸の方位はN-16°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.94 m以上、短軸1.3 m以上を測る。残存床面積は1.45 ㎡で、検出面からの深さは0.25 mである。埋土は2層からなる。

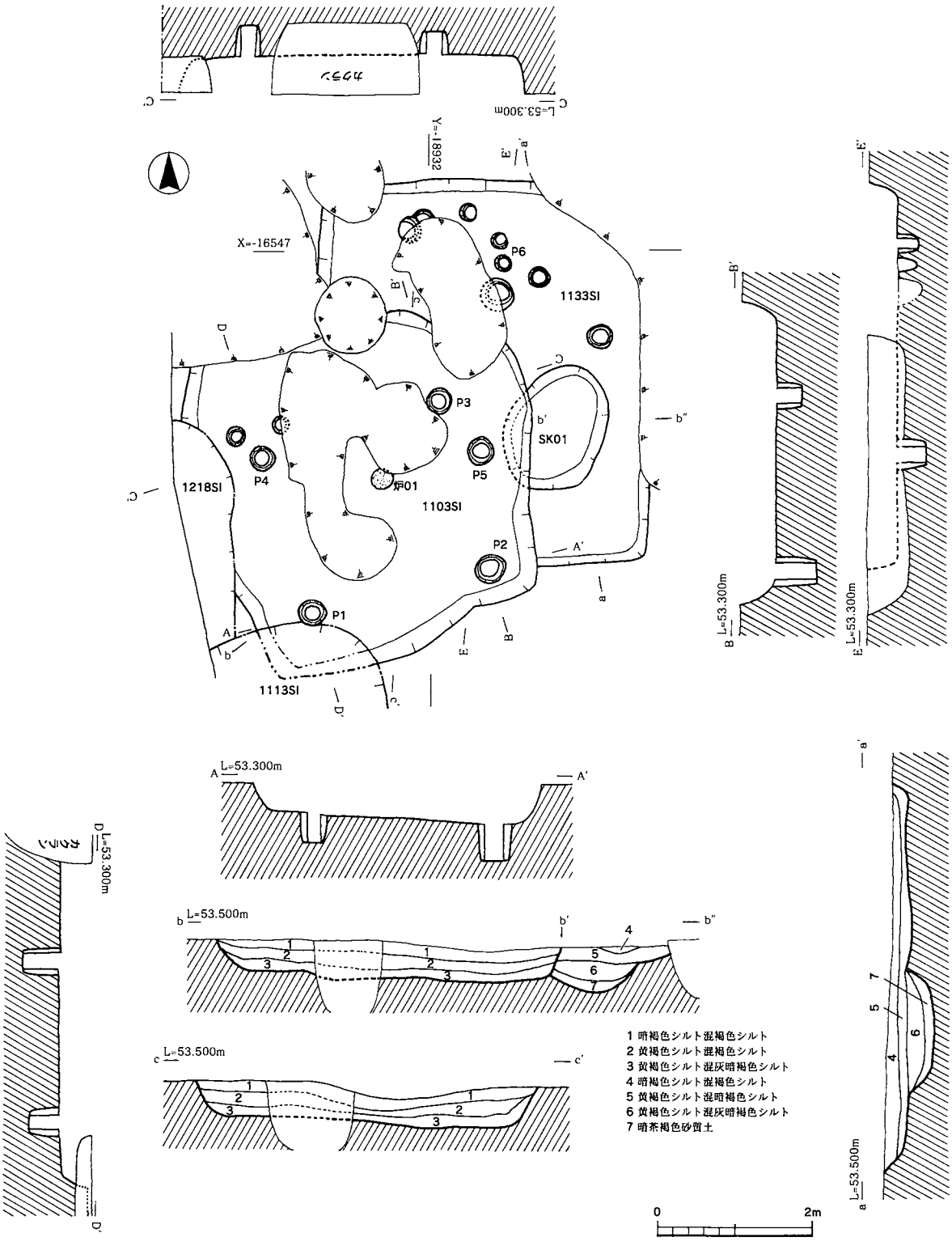
柱穴　柱穴の径は28～38 ㎝で、深さは30～55 ㎝である。柱痕跡の径は17～22 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は、出土していない。

まとめ　屋外土坑との新旧関係から考えて、住居の時期は6A期以前に位置づけられると推定できる。

1121 SI（第Ⅲ-419・421・423図、PL.43）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形のほとんどが削平されていると考えられる。床



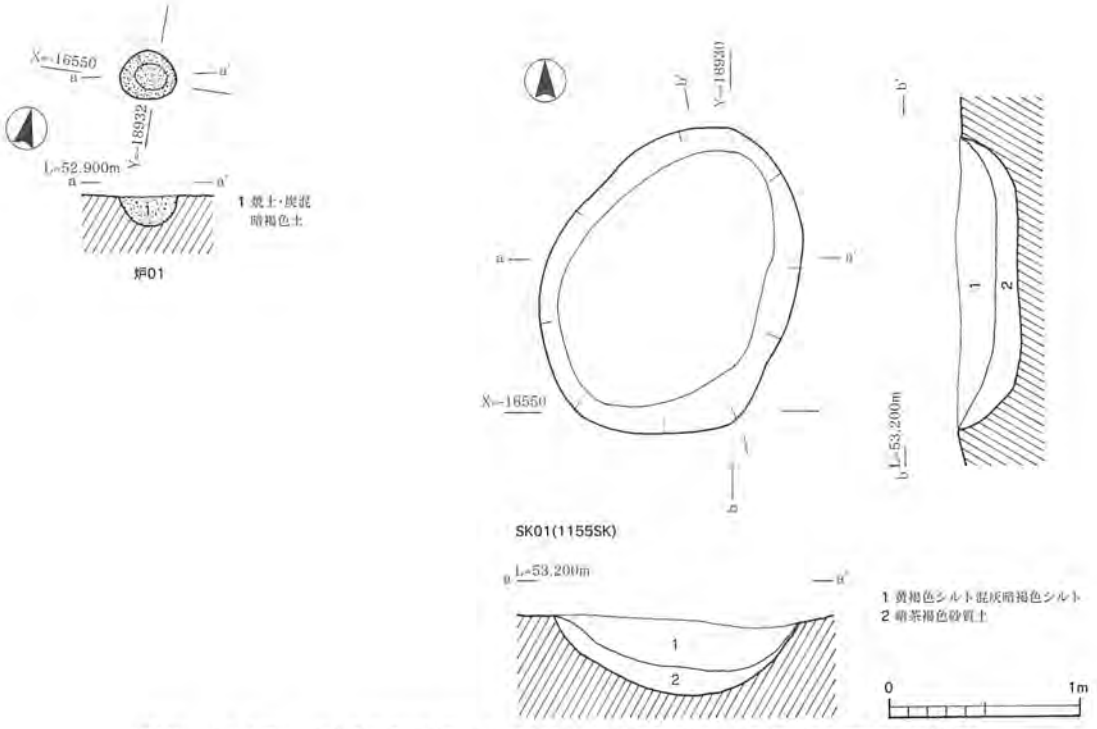
第Ⅲ-413図　1133SI・1103SI　平面・断面図(1/80)

面の標高は約52.7 mで、この住居埋没後、東側に1160SIが建てられ、北側と南側を撹乱に壊されている。主軸の方位はN -18°-Wである。

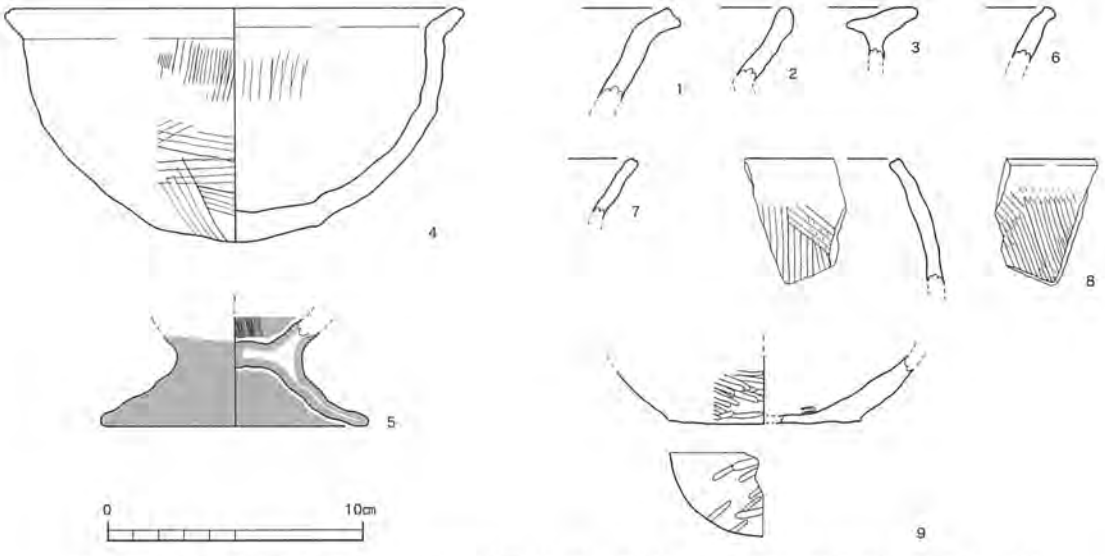
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.88 m以上、短軸0.80 m以上を測る。残存床面積は3.75 ㎡で、検出面からの深さは0.34 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は28～38 ㎝で、深さは34～38 ㎝である。柱痕跡の径は16～23 ㎝である。

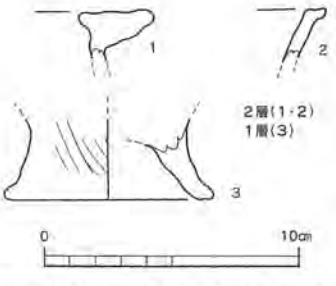
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片7・底部片1、壺口縁部片2が出土している。流れ込みの遺物



第Ⅲ-414図　1103SI内炉01・SK01(1155SK)　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-415図　1103SI出土土器実測図(1/3)〈P(1)、床面(2)、2層(3)、1層(4～9)〉



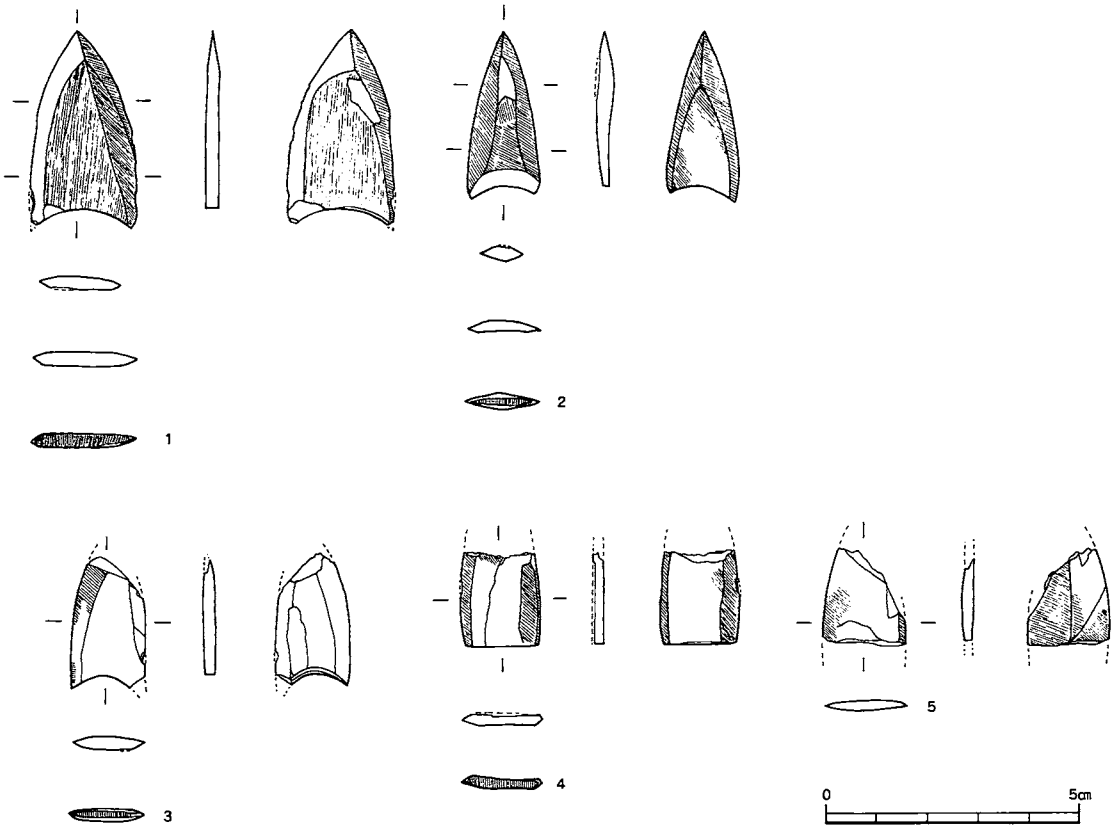
第Ⅲ-416図　1133SI出土土器実測図(1/3)

である。2層から、柱状片刃石斧（第Ⅲ-423図、PL.43）

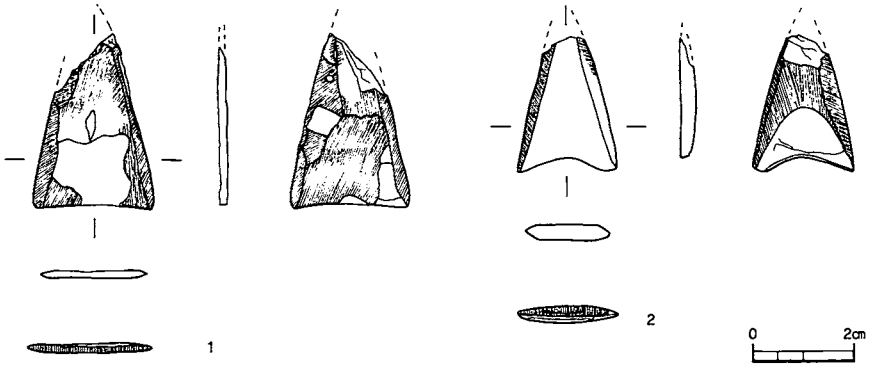
まとめ　主柱穴はＰ１～３で構成される４本柱構造のものと考えられる。住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A～４Ｂ期に位置づけられると推定できる。

1160SI（第Ⅲ-419・420・422図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍである。この住居埋没後、北東部に1119SI、南東部に1096SI、東部に1152SIが建



第Ⅲ-417図　1133SI出土石器実測図(2/3)〈1層(1～5)〉



第Ⅲ-418図　1103SI出土石器実測図(2/3)〈2層(1・2)〉

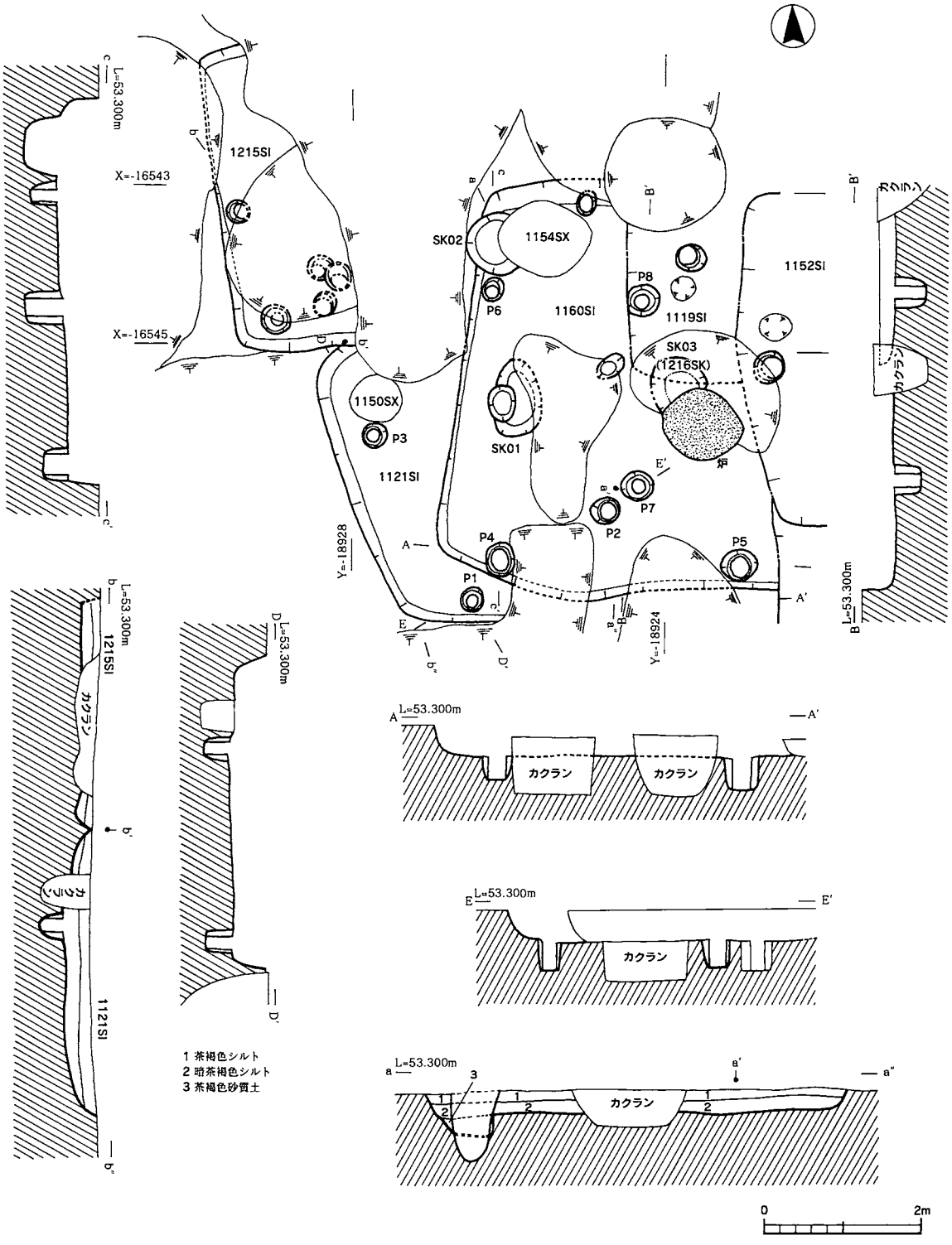
てられている。主軸の方位は真北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.30 m以上、短軸3.64 m以上を測る。残存床面積は12.01 ㎡で、検出面からの深さは0.3 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は27～44 cmで、深さは29～62 cmである。柱痕跡の径は16～38 cmである。

炉　住居の中央部に位置し、長軸100 cm、短軸88 cm、深さ40 cmである。断面はU字状を呈し、埋土は5層からなる。

貯蔵穴　住居内に3基ある。SK01は西側に位置し、長軸99 cm、短軸62 cm、深さ21 cmを測り、断面は凹字状を呈す。SK02は北西部の隅に位置し、長軸80 cm、短軸73 cm、深さ24 cmを測り、断面は凹字状を呈す。SK03は中央部に位置し、長軸74 cm、短軸70 cm、深さ36（推定70）cmを測り、断面はU字状を呈し、埋

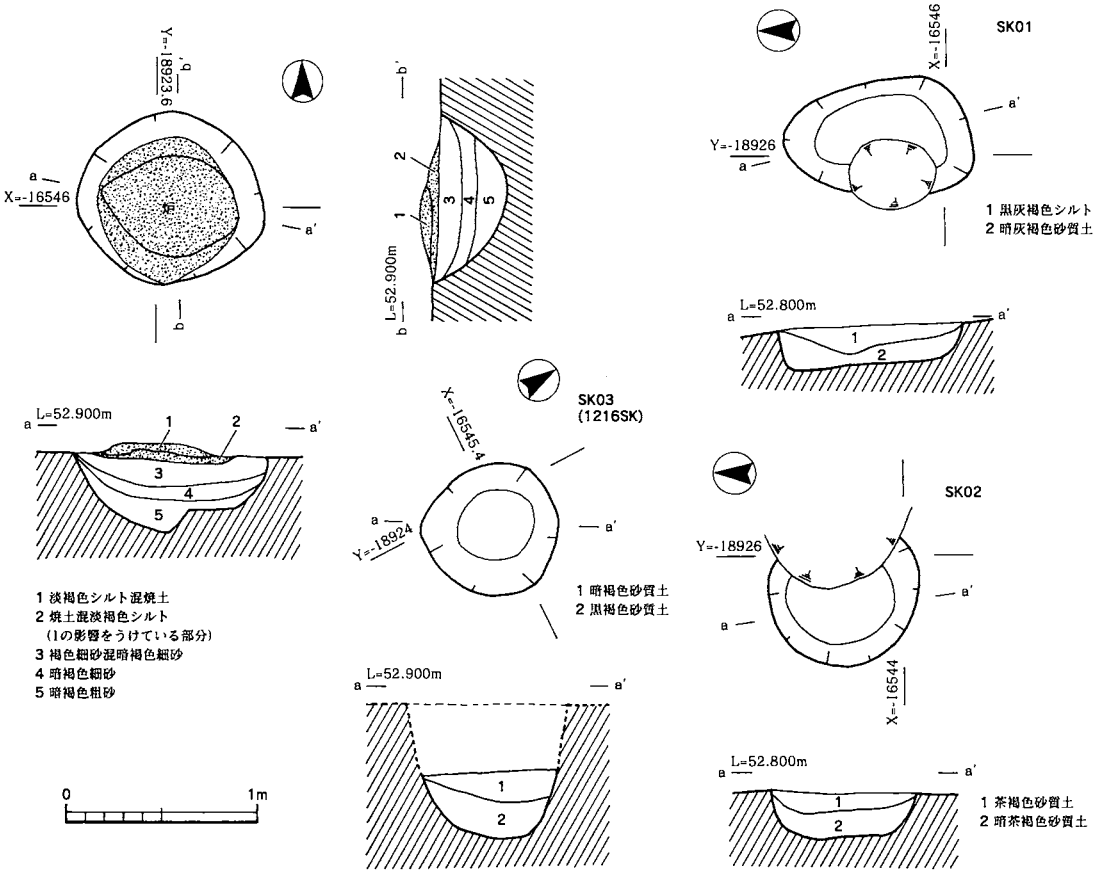


第Ⅲ-419図　1215SI・1121SI・1160SI　平面・断面図(1/80)

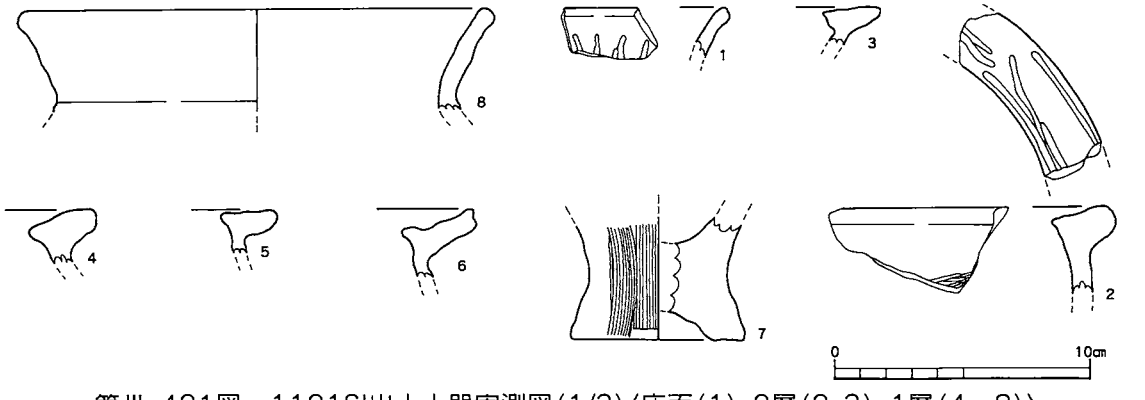
土はいずれも２層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片３、壺口縁部片２・底部片１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

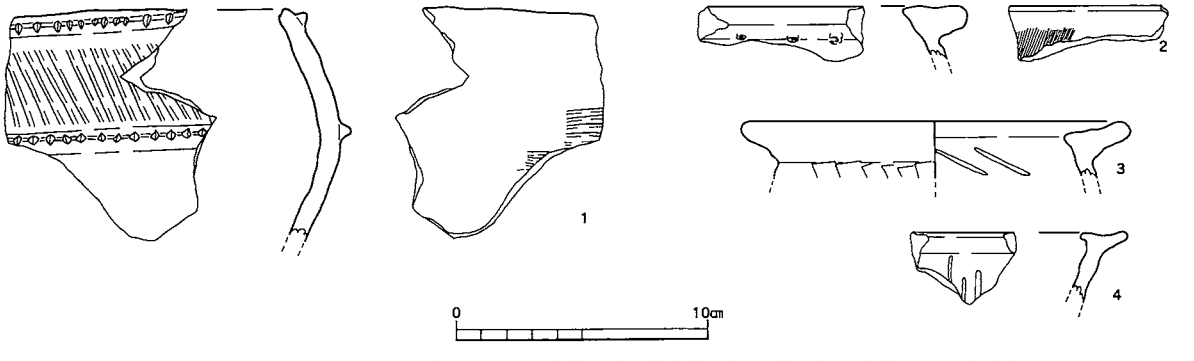
まとめ　主柱穴はＰ４～８で構成されるものと考えられる。この住居が埋没してから 1154SX が据えられている。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 4B 期に位置づけられると推定できる。



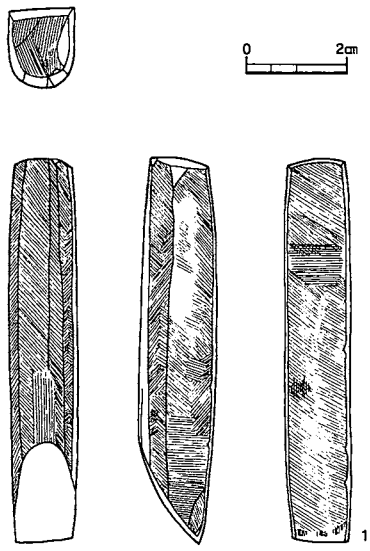
第Ⅲ-420図　1160SI内炉・SK01～03　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-421図　1121SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、2層(2・3)、1層(4～8)〉



第Ⅲ-422図　1160SI出土土器実測図(1/3)〈炉(1・2)、2層(3)、1層(4)〉



第Ⅲ-423図　1121SI出土石器実測図(2/3)〈2層〉

1139SI（第Ⅲ-424図、PL.9）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.6 mで、西、東の両側からと南側を一部撹乱に壊され、また南側に1119SIが建てられている。主軸の方位はN -26°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.40 m以上、短軸3.67 m以上を測る。残存床面積は10.89 ㎡で、検出面からの深さは0.34 mである。硬化面は認められない。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～56 ㎝で、深さは24～57 ㎝である。柱痕跡の径は22～38 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、時期の決定できる遺物は出土していない。

まとめ　東側及び南西部に撹乱が入り込んでいるため、主柱穴の構造が明確ではない。

住居の新旧関係から考えて、住居の時期は３期に位置づけられる可能性が高い。

1119 SI（第Ⅲ-424・426図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.75 mで、この住居埋没後、南東側に1152SIが建てられ、東・西・南側は撹乱に壊されている。主軸の方位はほぼ南北方向である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.44 m、短軸3.94 mを測る。床面積は15.62 ㎡で、残存床面積は7.8 ㎡である。検出面からの深さは0.28 mである。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は26～45 ㎝で、深さは35～60 ㎝である。柱痕跡の径は19～32 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片6、壺口縁部片３が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　Ｐ６～10を柱とする4+2本柱構造のものと考えられる。明確な炉跡は見られないが、中央やや東よりに長軸0.72 m、短軸0.64 m、深さ0.13 mの範囲に炭が集中した部分が見られた。遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は３期～4A期に位置づけられると推定できる。

1152 SI（第Ⅲ-424・425・427図、PL.9）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、この住居埋没後、南側に1096SIが建てられ、東側は撹乱に壊されている。主軸の方位はほぼ真北である。

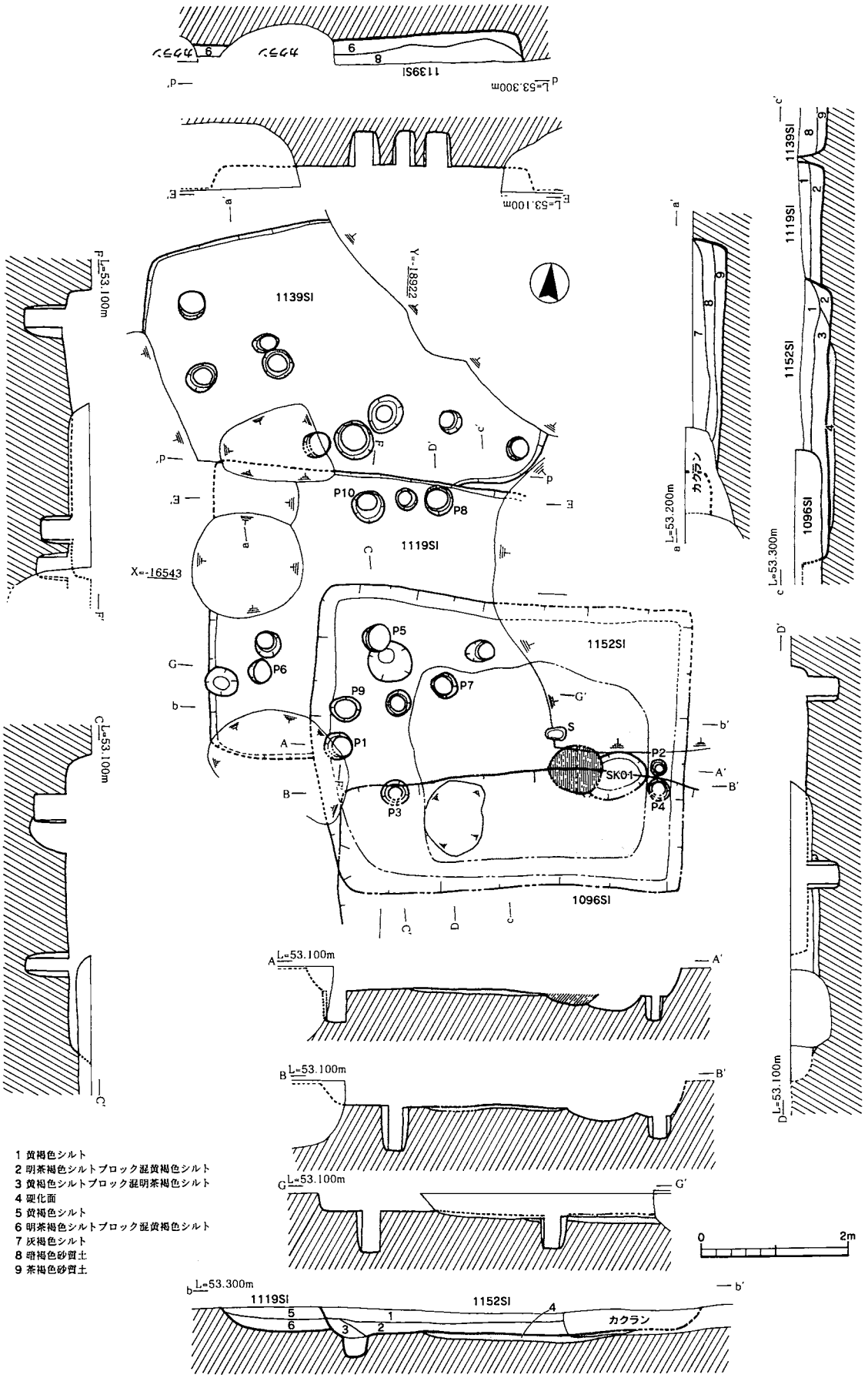
住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸5.20 m、短軸3.90 mを測る。推定床面積は17.5 ㎡、残存床面積は12.46 ㎡で、検出面からの深さは0.29 mである。硬化面は一部認められる。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は22～42 ㎝で、深さは39～60 ㎝である。柱痕跡の径は12～38 ㎝である。

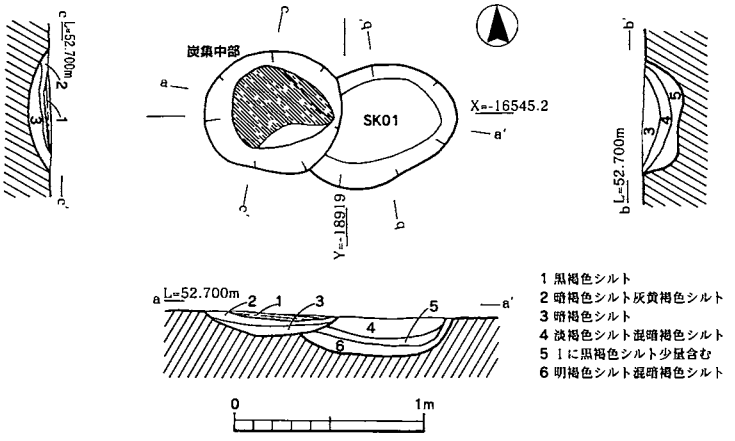
炉　炉本体としてはないが、長軸72 ㎝、短軸64 ㎝、深さ13 ㎝を測る。炭集中部が住居の東側に位置し、断面は皿状を呈する。埋土は３層からなり、上層部に鉄分を多く含む。

貯蔵穴　住居の東側に位置し、長軸86 ㎝、短軸64 ㎝、深さ13 ㎝を測る。断面はU字状を呈し、埋土は３層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片１・底部片１、壺口縁部片１が出土している。流れ込みの遺物



第Ⅲ-424図　1139SI・1119SI・1152SI　平面・断面図(1/80)

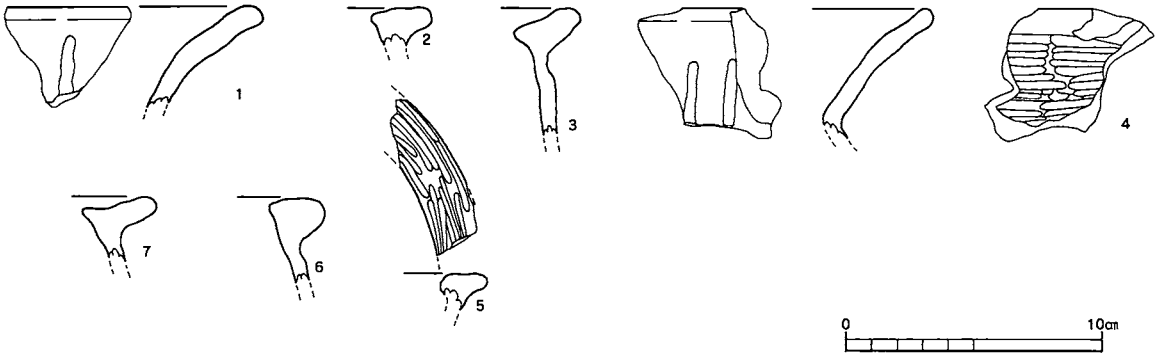


第Ⅲ-425図　1152SI内SK01・炭集中部分　平面・断面図(1/40)

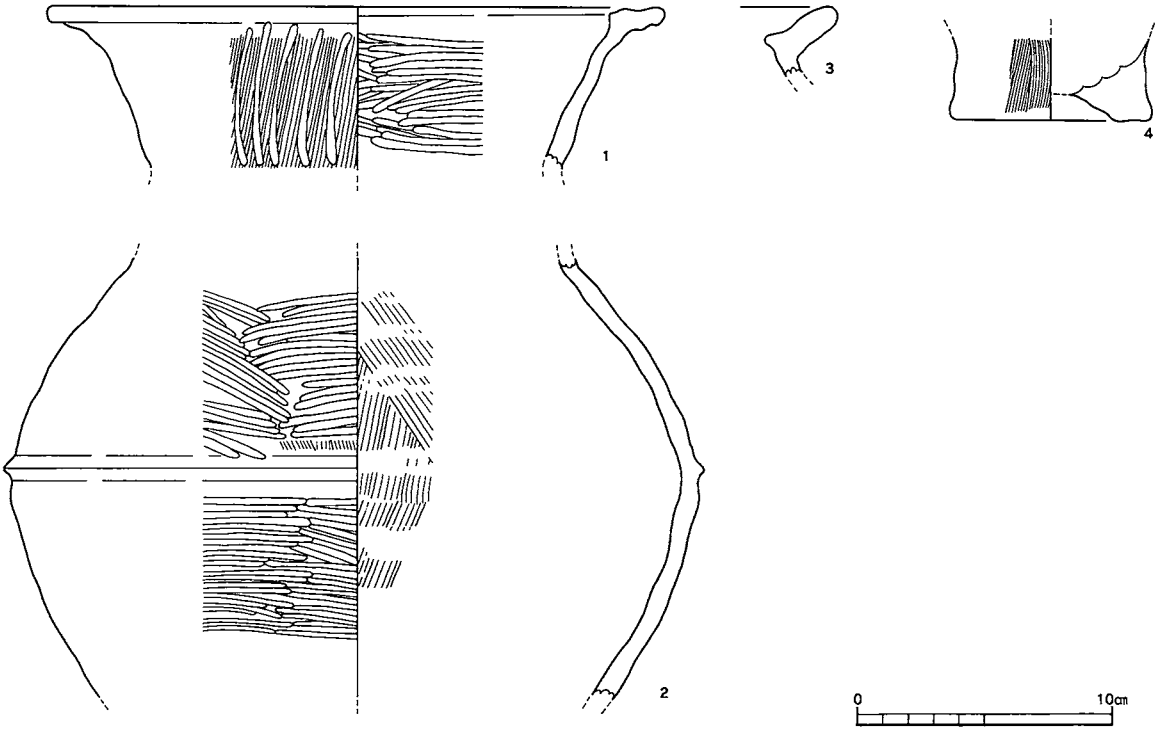
と推定できる。

まとめ　P1・2を主柱穴とする2本柱構造かP3～5を主柱穴とする4本柱構造の住居跡と考えられる。

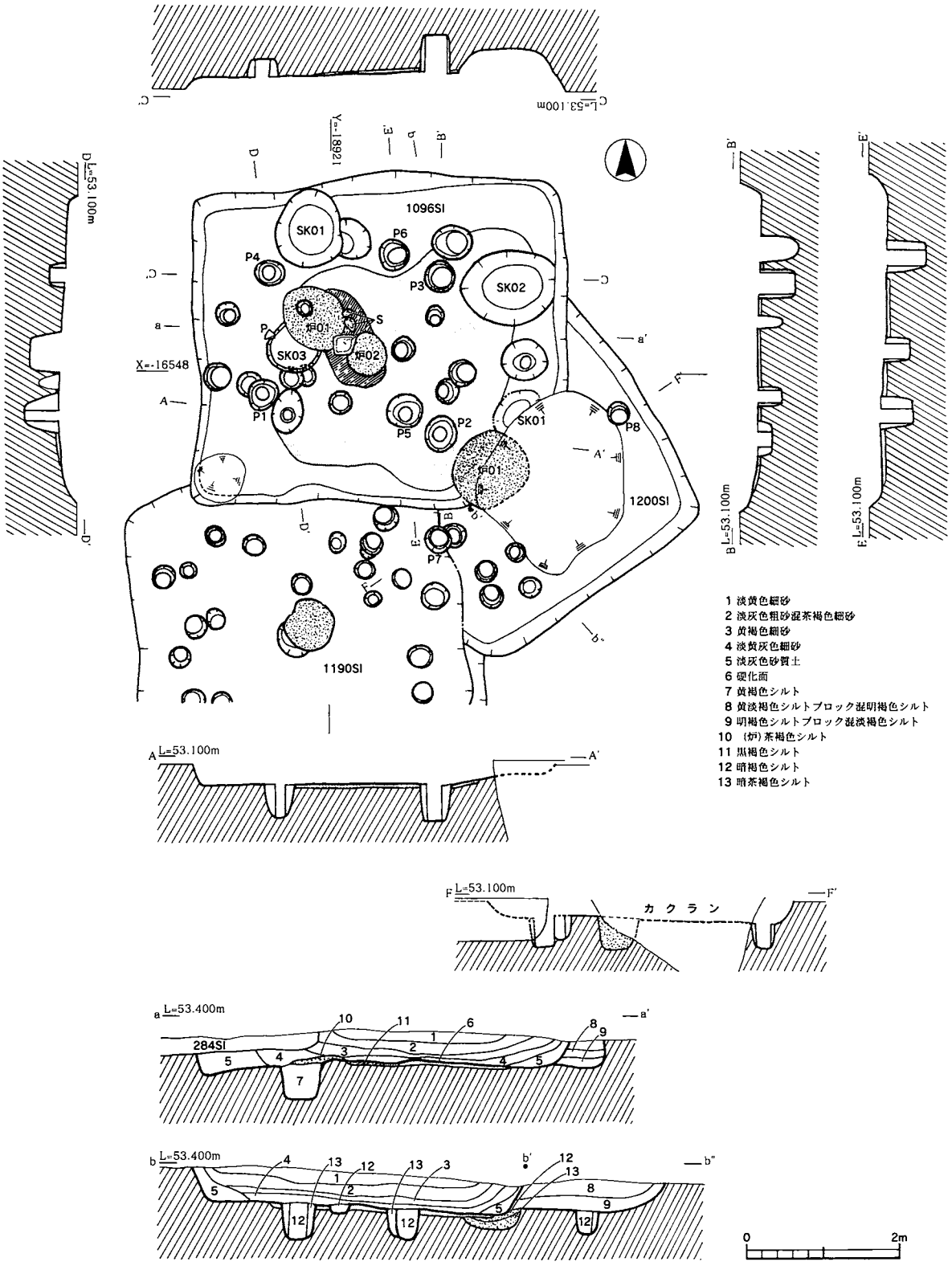
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器から考えて、住居の時期は4A期以降（5期）に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-426図　1119SI出土土器実測図(1/3)〈P(1)、2層(2～5)、1層((6・7)〉



第Ⅲ-427図　1152SI出土土器実測図(1/3)〈SK(1・2)、床面((3・4)〉

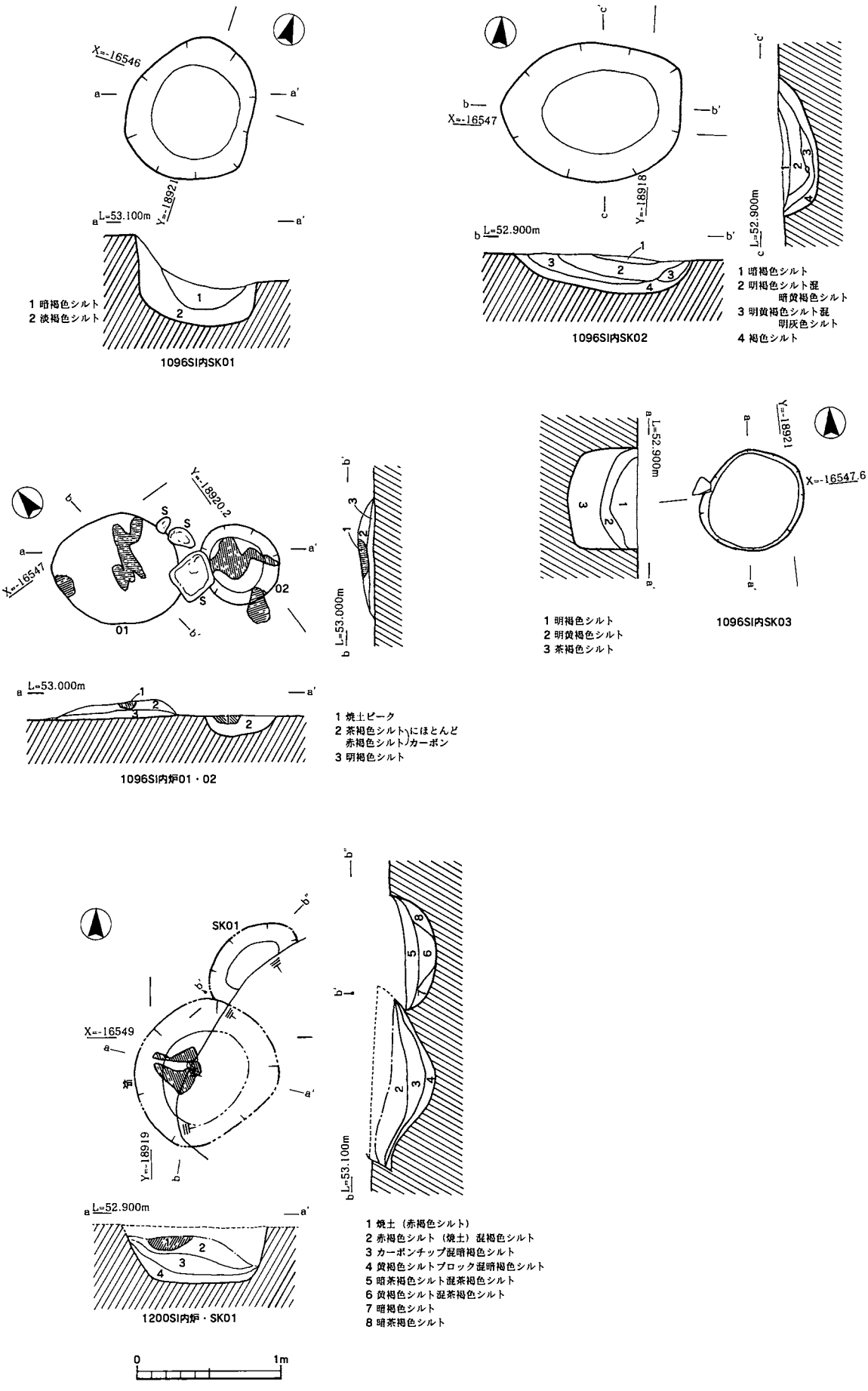


第Ⅲ-428図　1200SI・1096SI　平面・断面図(1/80)

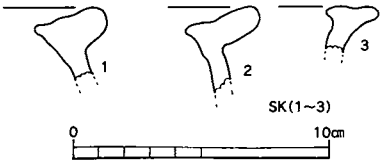
1200SI（第Ⅲ-428・429・430図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.8 mで、この住居埋没後、北側に1096SI、西側に1190SIが建てられている。中央部を撹乱により壊されている。主軸の方位はN -36°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.68 m、短軸3.30 m以上を測る。残存床面積は2.16 ㎡で、検出面



第Ⅲ-429図　1096SI内SK01～03・炉01・02、1200SI内炉・SK01　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-430図　1200SI出土土器実測図(1/3)

からの深さは0.4 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は23～34 cmで、深さは23～71 cmである。柱痕跡の径は、14～24 cmである。

炉　住居の中央部に位置し、長軸105 cm、短軸100 cm、深さ40 cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は3層からと考えられるが、上層部分が撹乱により壊されている。

貯蔵穴　住居の中央部に位置し、長軸72 cm、短軸20 cm以上、深さ30 cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は4層からと考えられるが、上層部分が撹乱により壊されている。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片3が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　住居の時期は、P7・8を主柱穴とする2本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A期以降に位置づけられると推定できる。

1096SI（第Ⅲ-428・429・431・432・433・434・435図、PL.9・10・43・51）

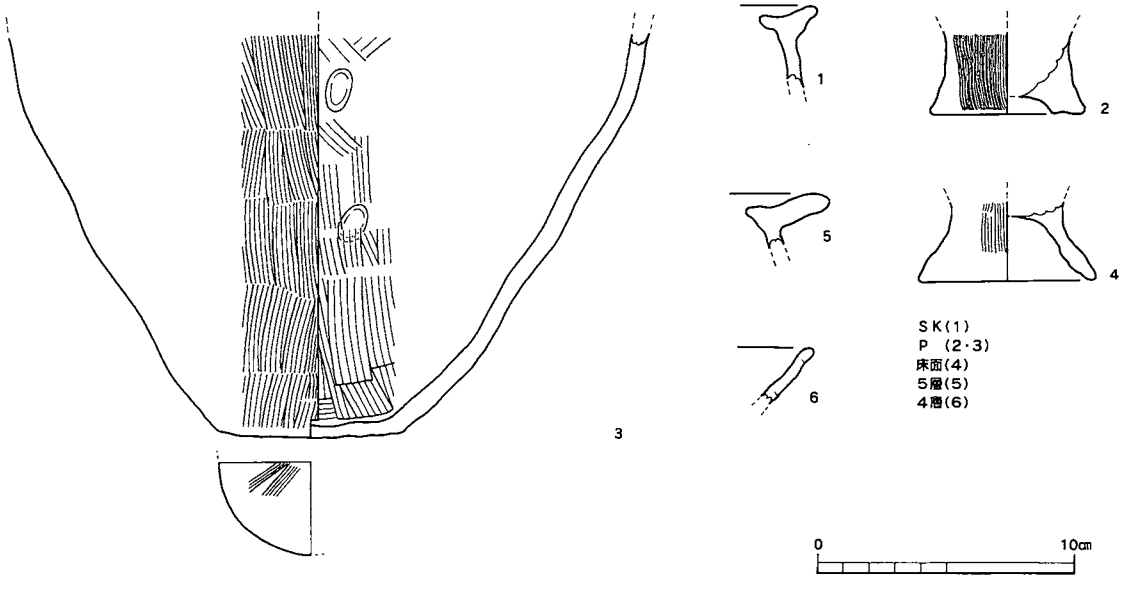
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原に位置する。旧地形は若干削平されていると考えられる。床面の標高は約52.82 mで、南東部を撹乱で壊されている。主軸の方位は真北である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸4.98 m、短軸4.35 mを測る。推定床面積は18.28 ㎡で、残存床面積は17.57 ㎡、検出面からの深さは0.42 mである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は5層からなる。

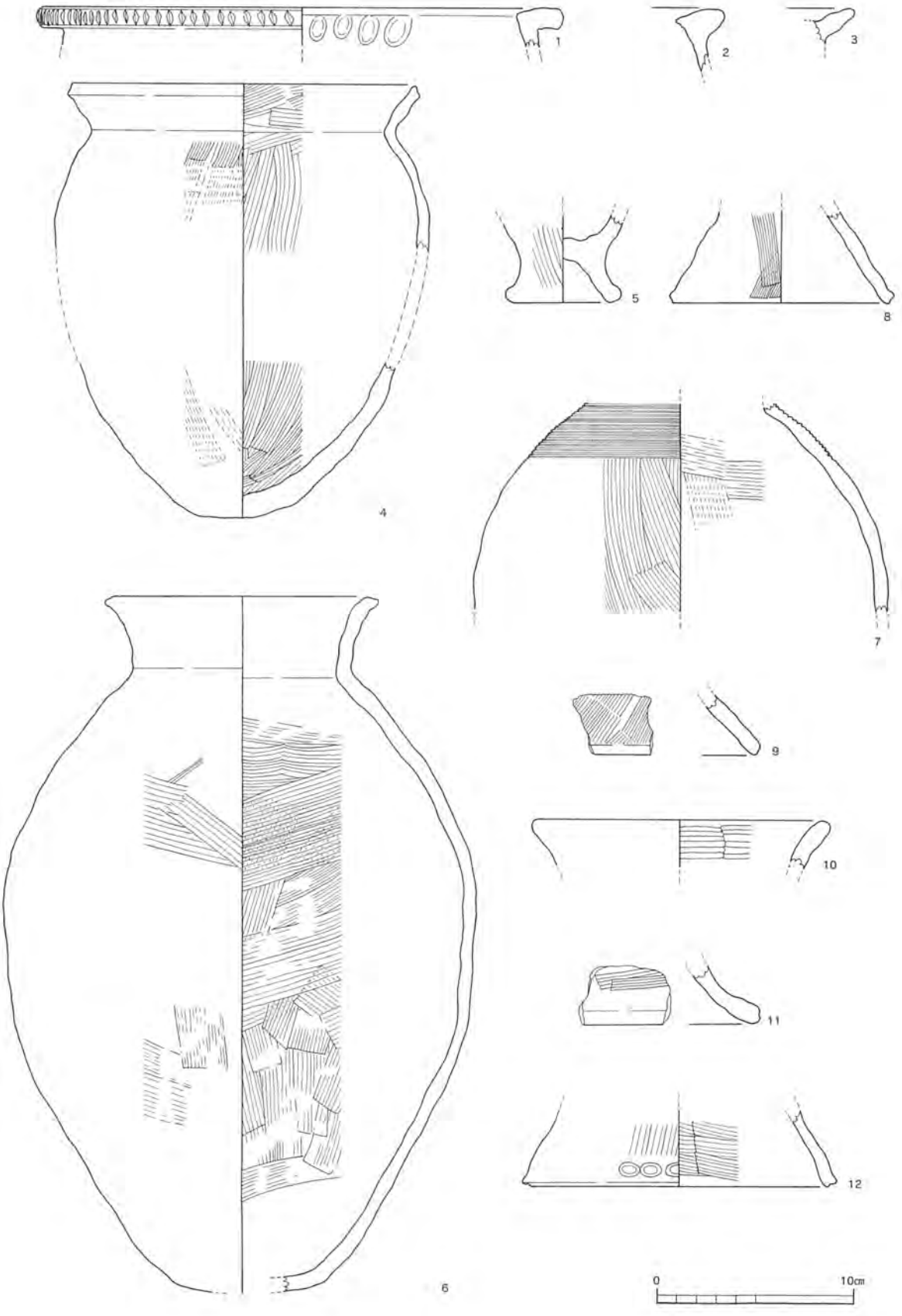
柱穴　柱穴の径は18～62 cmで、深さは18～62 cmである。柱痕跡の径は14～30 cmである。

炉　住居内のほぼ中央部に2基検出された。炉01は、長軸93 cm、短軸77 cm、厚み10 cmに盛り上がっており、本来の炉としての埋土は1層からなる。炉02は、長軸57 cm、短軸52 cm、深さ14 cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は2層からなる。

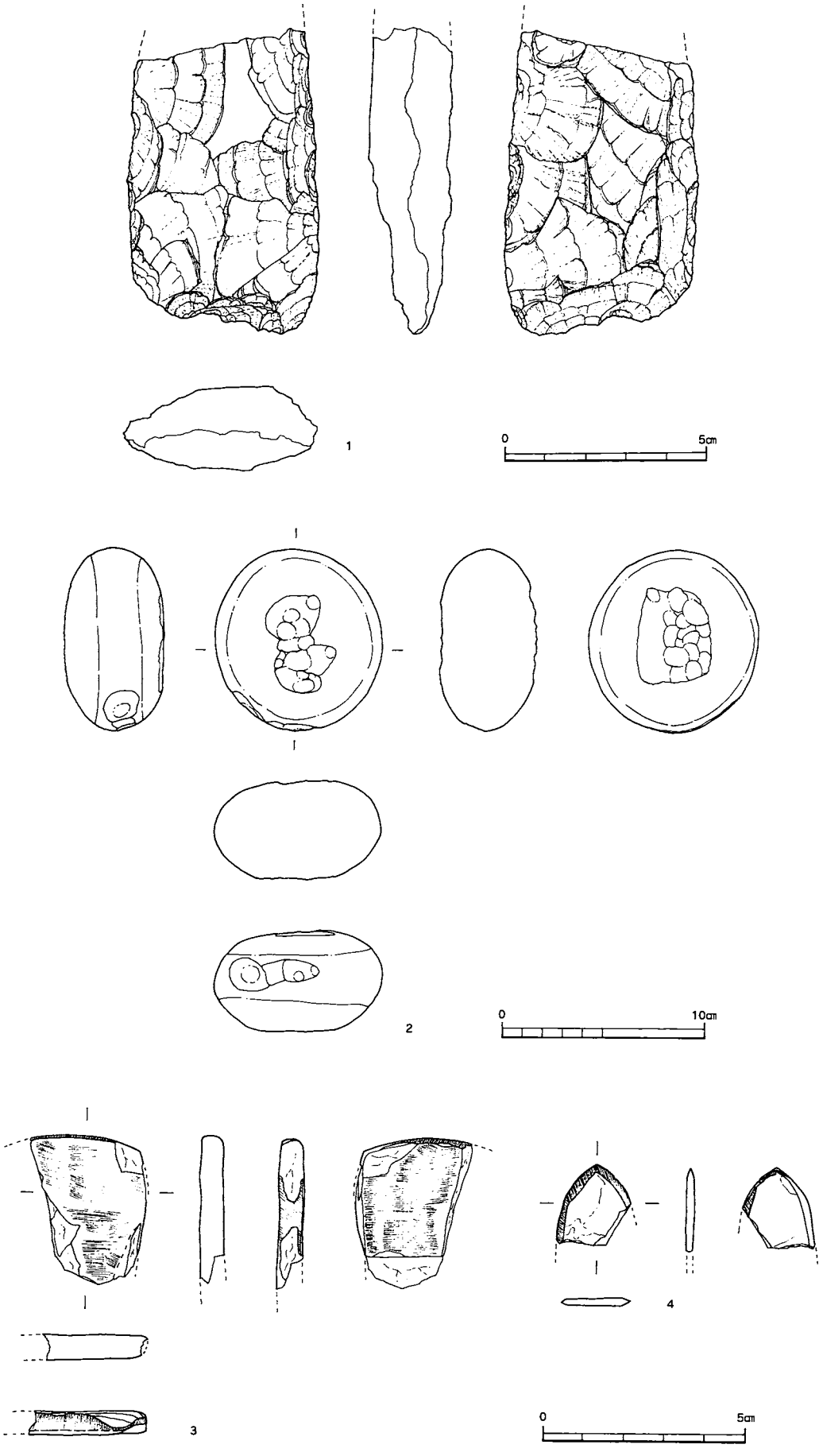
貯蔵穴　住居内に3基検出された。SK01は住居の北側に位置し、長軸100 cm、短軸86 cm、深さ62 cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は2層からなる。SK02は東側に位置し、長軸130 cm、短軸95 cm、深さ26



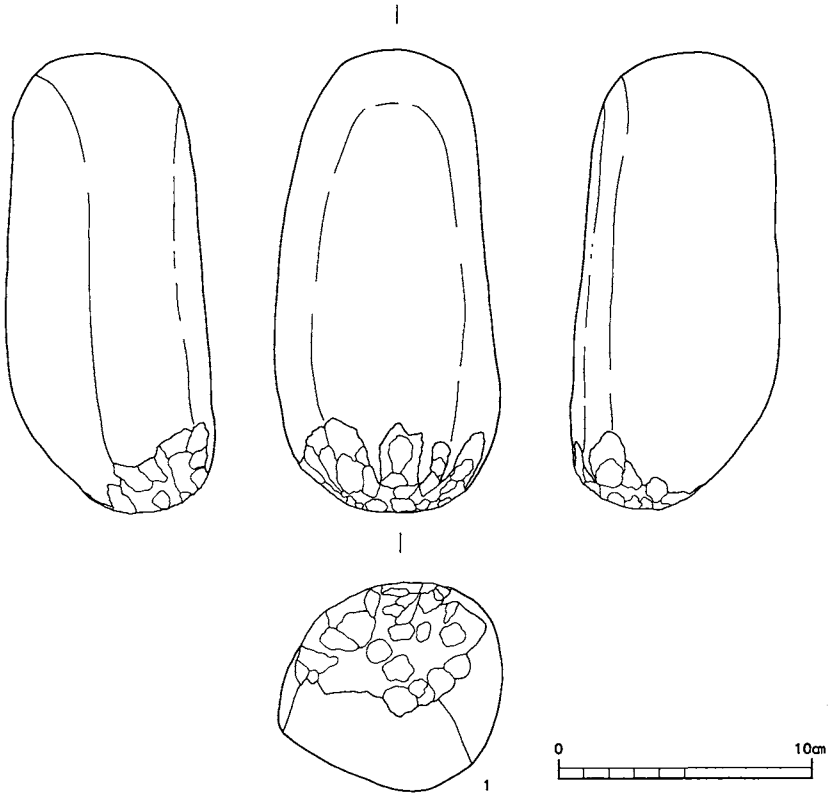
第Ⅲ-431図　1096SI出土土器実測図1(1/3)



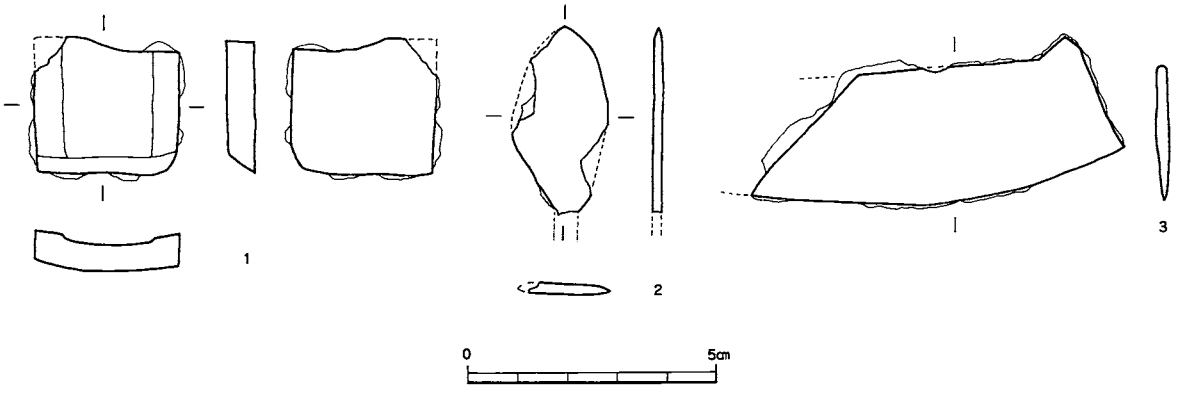
第Ⅲ-432図　1096SI出土土器実測図2(1/3)〈3層(1～9)、2層(10～12)〉



第Ⅲ-433図　1096SI出土石器実測図1(2/3)〈SK(1)、4層(3)、3層(4)〉(1/3)〈床面(2)〉



第Ⅲ-434図　1096SI出土石器実測図2(1/3)〈床面(1)〉



第Ⅲ-435図　1096SI出土鉄器実測図(2/3)〈床面(1・2)、4層(3)〉

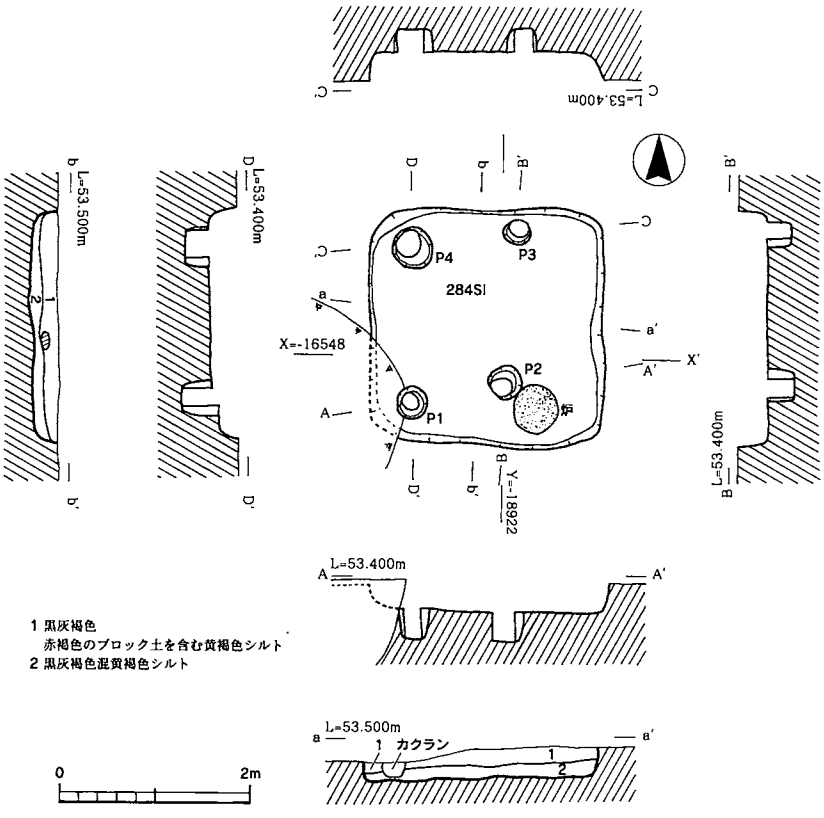
cmを測る。断面はⅢ状を呈し、埋土は4層からなる。SK03はほぼ中央部に位置し、長軸72cm、短軸70cm、深さ48cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片4・底部片3、壺口縁部片9・底部片1が出土している。床面（炉の周辺）から敲石（磨石）2（第Ⅲ-433図2・434図1）が、貯蔵穴内から打製石斧（第Ⅲ-433図1）が、3層から磨製石鏃・4層から石包丁片（第Ⅲ-433図4・3）が出土している。床面から鋳造鉄斧・鉄鏃（第Ⅲ-435図1・2）が、4層から鉄鎌（第Ⅲ-435図3）が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

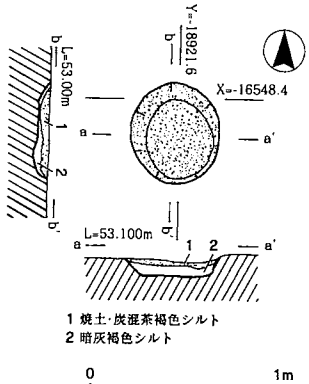
まとめ　主柱穴はP1～6で構成される4＋2本柱構造の住居とが考えられる。住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は8期に位置づけられると推定できる。

284 SI（第Ⅲ-436・437・438図）

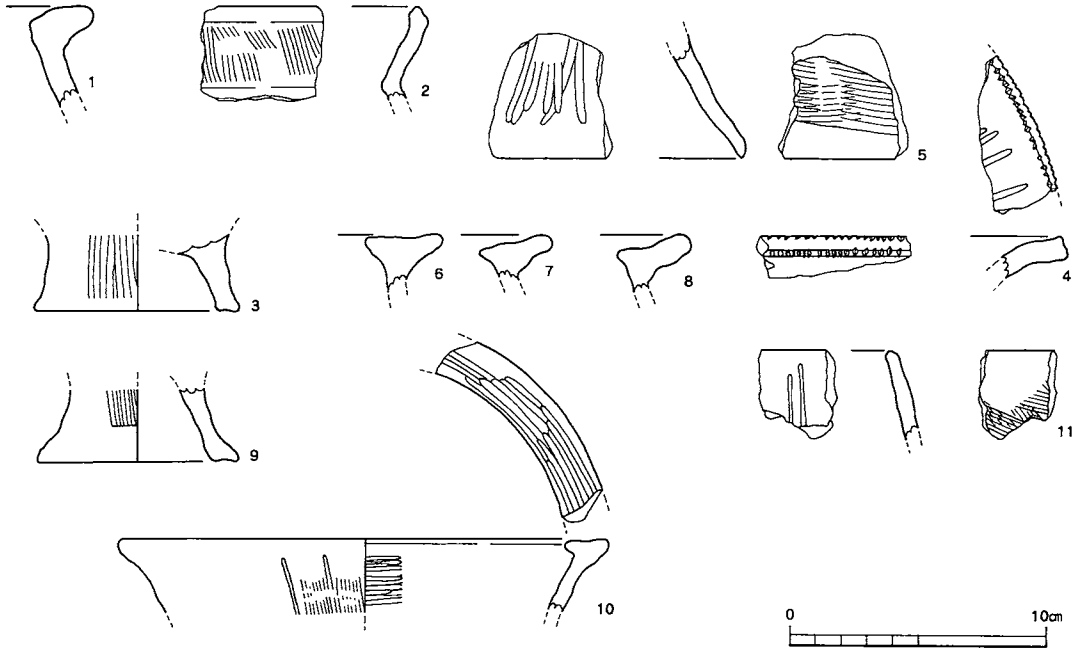
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は



第Ⅲ-436図　284SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-437図　284SI内炉
平面・断面図(1/40)



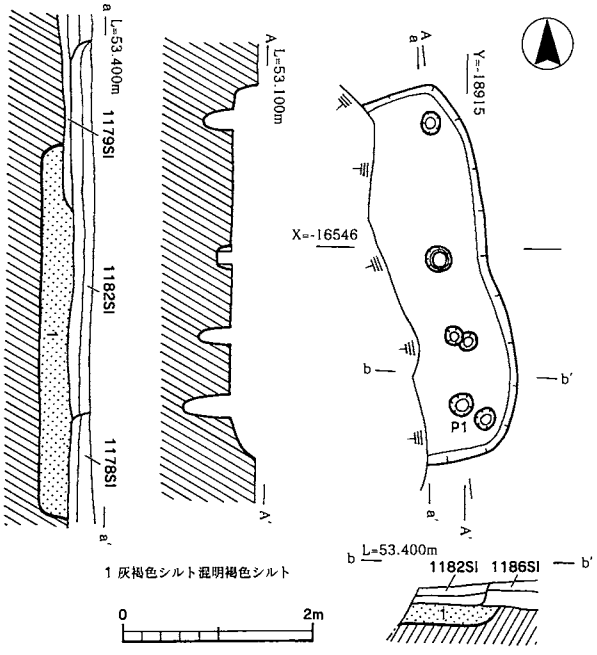
第Ⅲ-438図　284SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1～5)、1層(6～11)〉

約 53.0 mで、南西部の隅は撹乱で壊されている。主軸の方位はほぼ真北である。

住居形態　平面形態は正方形を呈し、長軸・短軸ともに 2.46 mを測る。推定床面積は 5.31 ㎡で、検出面からの深さは 0.3 mである。埋土は 2 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 23 ～ 43 cmで、深さは 24 ～ 41 cmである。柱痕跡の径は 19 ～ 29 cmである。

炉　住居の南東の隅に位置し、長軸 53 cm、短軸 46 cm、深さ 12 cmを測る。断面は皿状を呈し、埋土は 2 層



第Ⅲ-439図　1206SI　平面・断面図(1/80)

からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片5・底部片5、壺口縁部片4、鉢1が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　P1～4を主柱穴とする4本柱で構成されるものと考えられる。住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は8期以降に位置づけられると推定できる。

1206 SI（第Ⅲ-439図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約52.73 mで、1182SIの下層に位置する。西側は、撹乱に壊されている。主軸の方位はN-12°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.94 m以上、短軸0.80 m以上を測る。残存床面積は約3.5 ㎡で、検出面からの深さは0.44 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径17～26 cmで、深さは14～33 cmである。柱痕跡は1基のみ検出され、径は13 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、壺底部片1、無頸壺1が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　撹乱により西側が削平されており、詳細が不明である。検出した柱穴位置から4本柱構造もしくは4＋2本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4A～6B期に位置づけられると推定できる。

1186 SI（第Ⅲ-440・441・443・444図、PL.10）

位置　遺跡北西部（2区北部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約53.0 mで、この住居埋没後、西側に1182SI、南側に1178SIが建てられている。また、東側は調査区外のため推定できない。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.42 m以上、短軸1.60 m以上である。残存床面積は4.51 ㎡である。検出面からの深さは0.3 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は22～45 cmで、深さは16～64 cmである。柱痕跡の径は16 cm～28 cmである。

貯蔵穴　住居の北側に位置し、長軸78 cm、短軸37 cm、深さ50 cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は3層からなる。

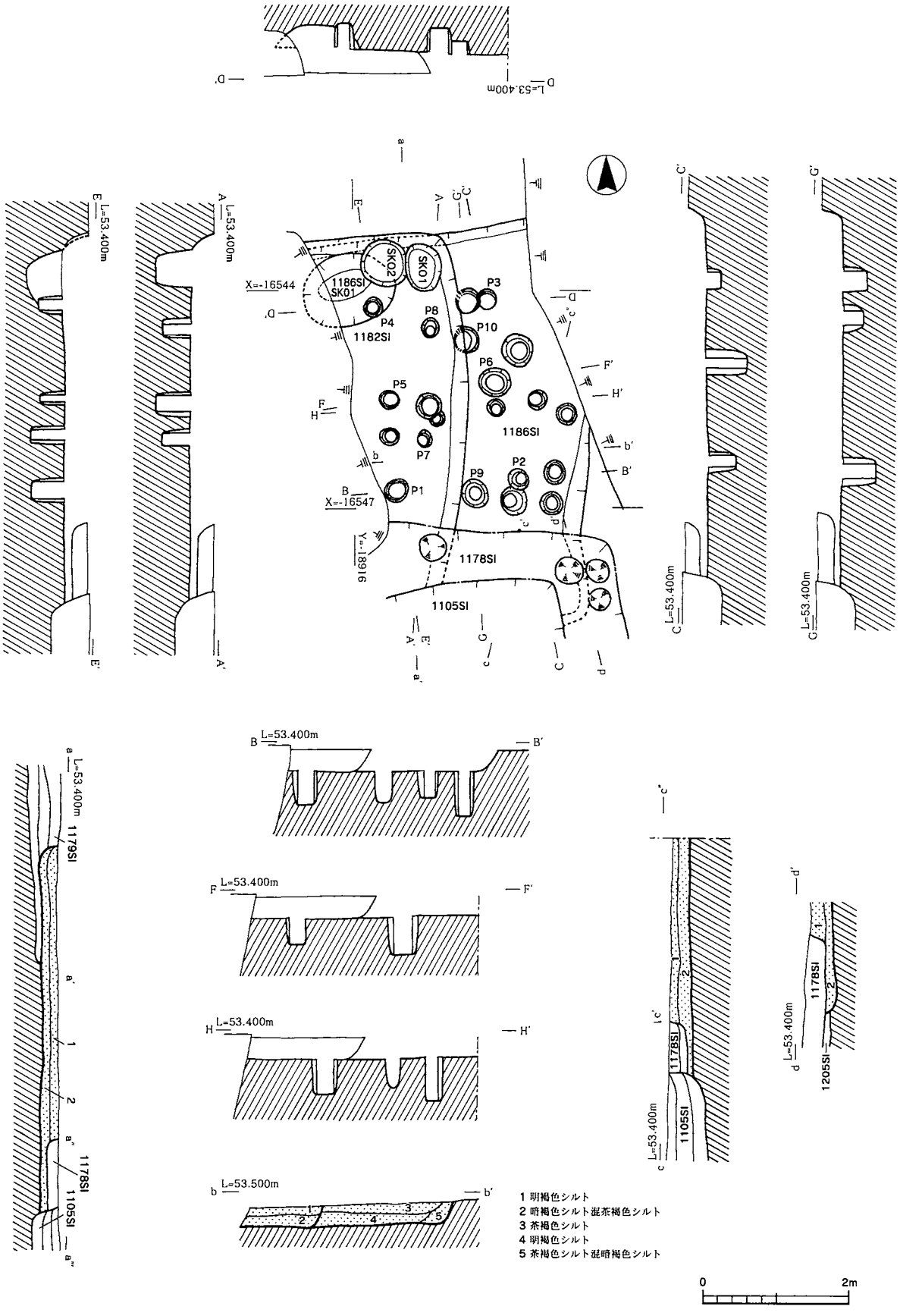
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片1、鉢1が出土している。上層から棒状鉄器が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　主柱穴がP1～4で構成される4本柱構造の住居と推定できる。

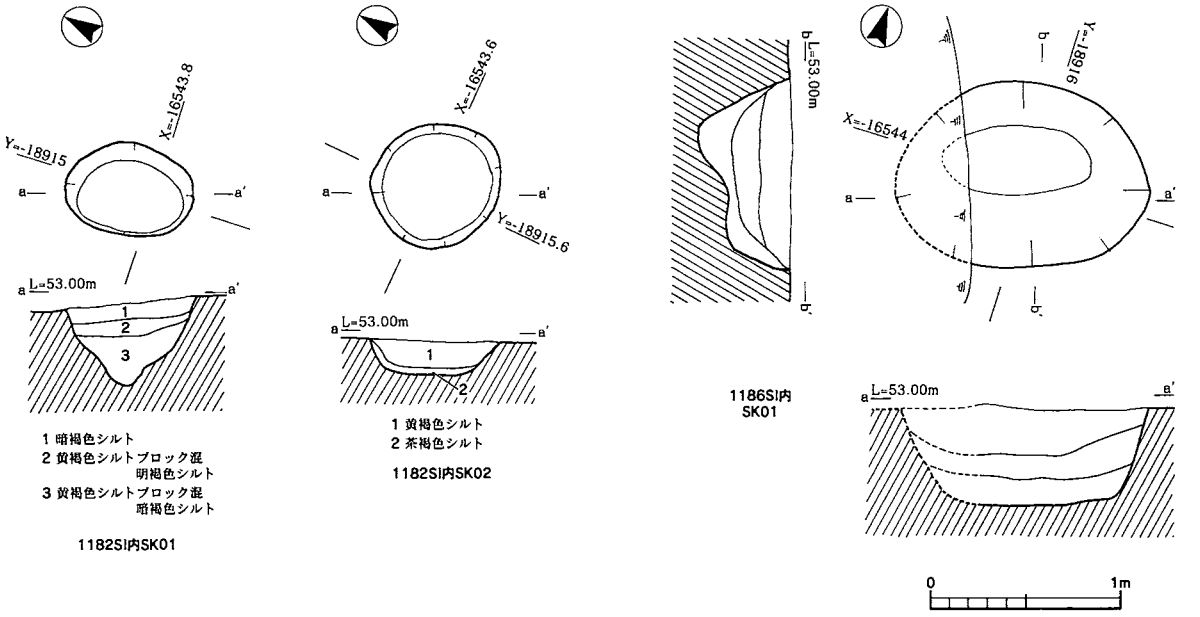
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は3期に位置づけられると推定できる。

1182 SI（第Ⅲ-440・441・442図、PL.10）

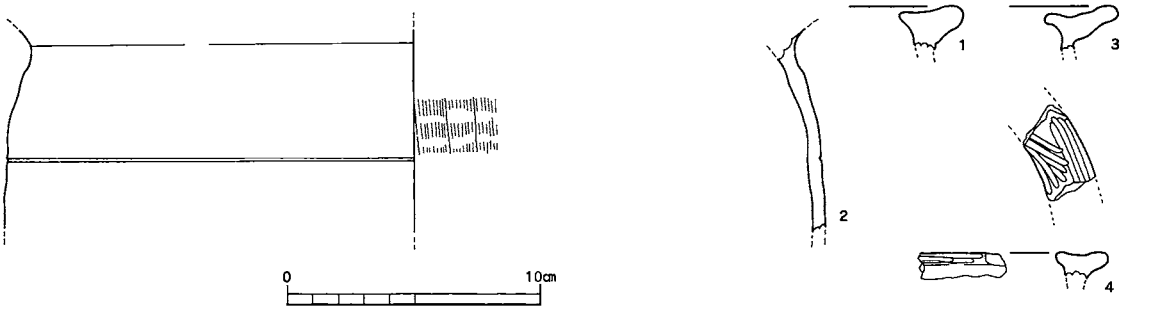
位置　遺跡北西部（2区北部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高



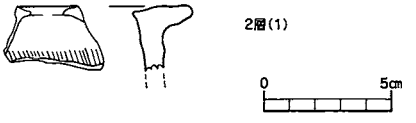
第Ⅲ-440図　1186SI・1182SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-441図　1182SI内SK01・02、1186SI内SK01　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-442図　1182SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1)、1層(2～4)〉

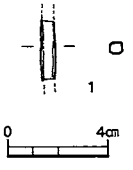


第Ⅲ-443図　1186SI出土土器実測図(1/3)

は約53.0 mで、この住居が埋没してから西側は撹乱、南側は1178SIが掘削されている。主軸の方位はN-15°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.00 m以上、短軸1.60 m以上を測る。残存床面積は6.01 ㎡で、検出面からの深さは0.21 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は22～26㎝で、深さは34～61㎝である。柱痕跡の径は14～17㎝である。



第Ⅲ-444図　1186SI出土鉄器実測図(2/3)〈1層〉

貯蔵穴　住居内に2基確認されているが、両方とも住居内の北東の隅に位置する。SK01は、長軸68㎝、短軸50㎝、深さ44㎝を測る。断面はすり鉢状を呈し、埋土は3層からなる。SK02は、長軸67㎝、短軸65㎝、深さ22㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は2層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土から甕口縁部片2、鉢口縁部片が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　P9・10が主柱穴の一部とする構造と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B期以降に位置づけられると推定できる。

第Ⅲ-445図　1189SI・1179SI　平面・断面図(1/80)

1189 SI（第Ⅲ -445 図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約 52.9 mである。この住居の埋没後、南側は 1179SI、北西側は 1188SI が建てられている。西側は撹乱に壊され、東側は調査区外である。主軸の方位はN -14°-E である。

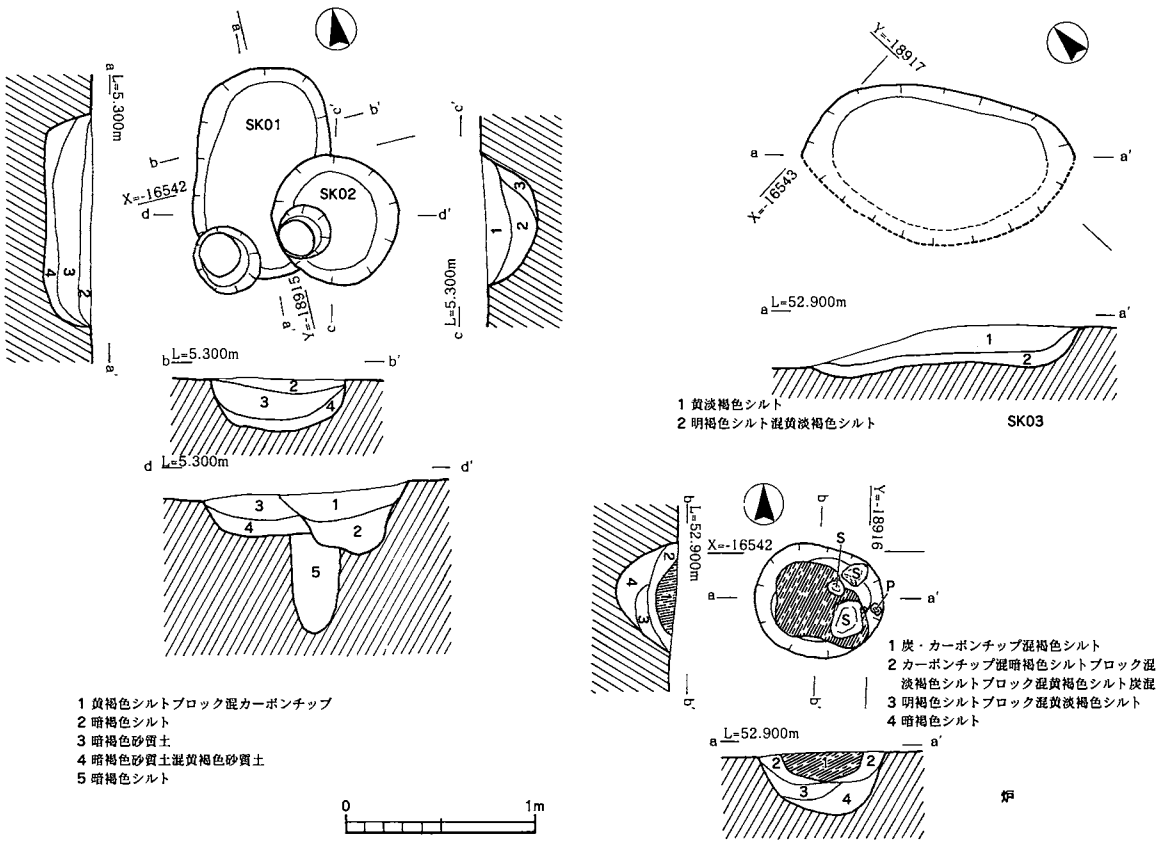
住居形態　平面形態は不明で、長軸 2.10 m以上、短軸 1.86 m以上を測る。残存床面積は 3.37 ㎡で、検出面からの深さは 0.1 mである。埋土は 1 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 17 ～ 34 ㎝で、深さは 30 ～ 55 ㎝である。柱痕跡の径は 11 ～ 22 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　残存している部分が少ないため、詳細は不明である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 5 期以前に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-446図　1179SI内SK01～03、炉　平面・断面図(1/40)

1179 SI（第Ⅲ-445・446・447図、PL.10）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.82 mで、西側を撹乱に壊されている。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸5.00 m以上、短軸3.62 m以上を測る。残存床面積は11.34 ㎡で、検出面からの深さは0.45 mである。硬化面は一部認められる。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は12～42 cmで、深さは20～73 cmである。柱痕跡の径は12～30 cmである。

炉　住居の中央部に位置し、長軸67 cm、短軸57 cm、深さ33 cmを測る。断面はU字状を呈する。埋土は４層からなり、上層に炭とカーボンチップが混入している。

貯蔵穴　住居内に３基あり、そのうち２基は東側で切り合って検出した。SK01は、長軸111 cm、短軸68 cm、深26 cm、断面は凹字状を呈す。SK02は、長軸70 cm、短軸65 cm、深さ27 cmを測り、断面はすり鉢状を呈す。SK03は南西部に位置し、長軸143 cm、短軸62 cm以上、深さ33 cmを測る。断面は皿状を呈す。埋土はいずれも２層からなる。

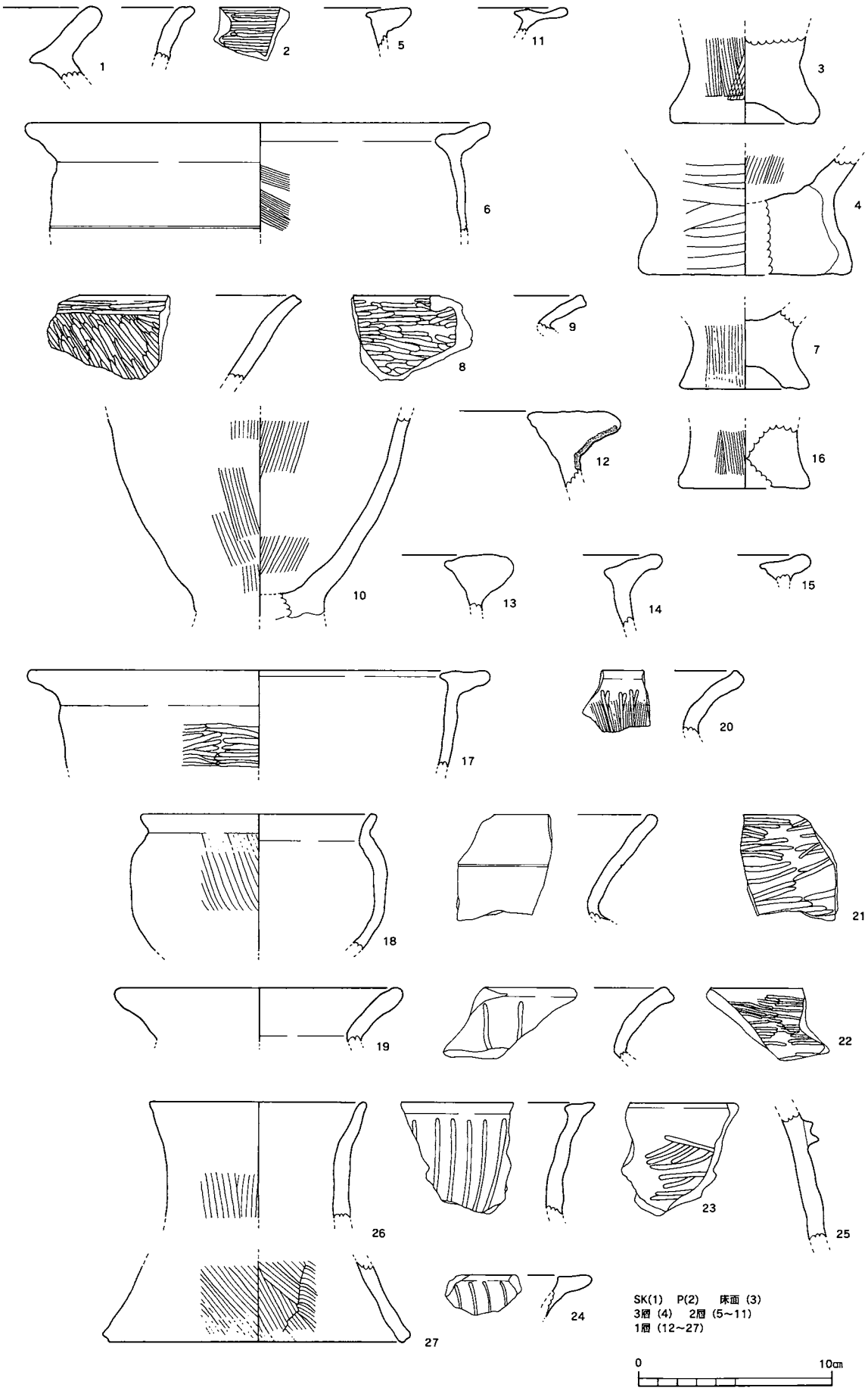
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片25・底部片6、壺口縁部片10が出土している。流れ込みの遺物であると推定できる。

まとめ　P1～6を主柱穴とする４＋２本柱構造の住居と考えられる。

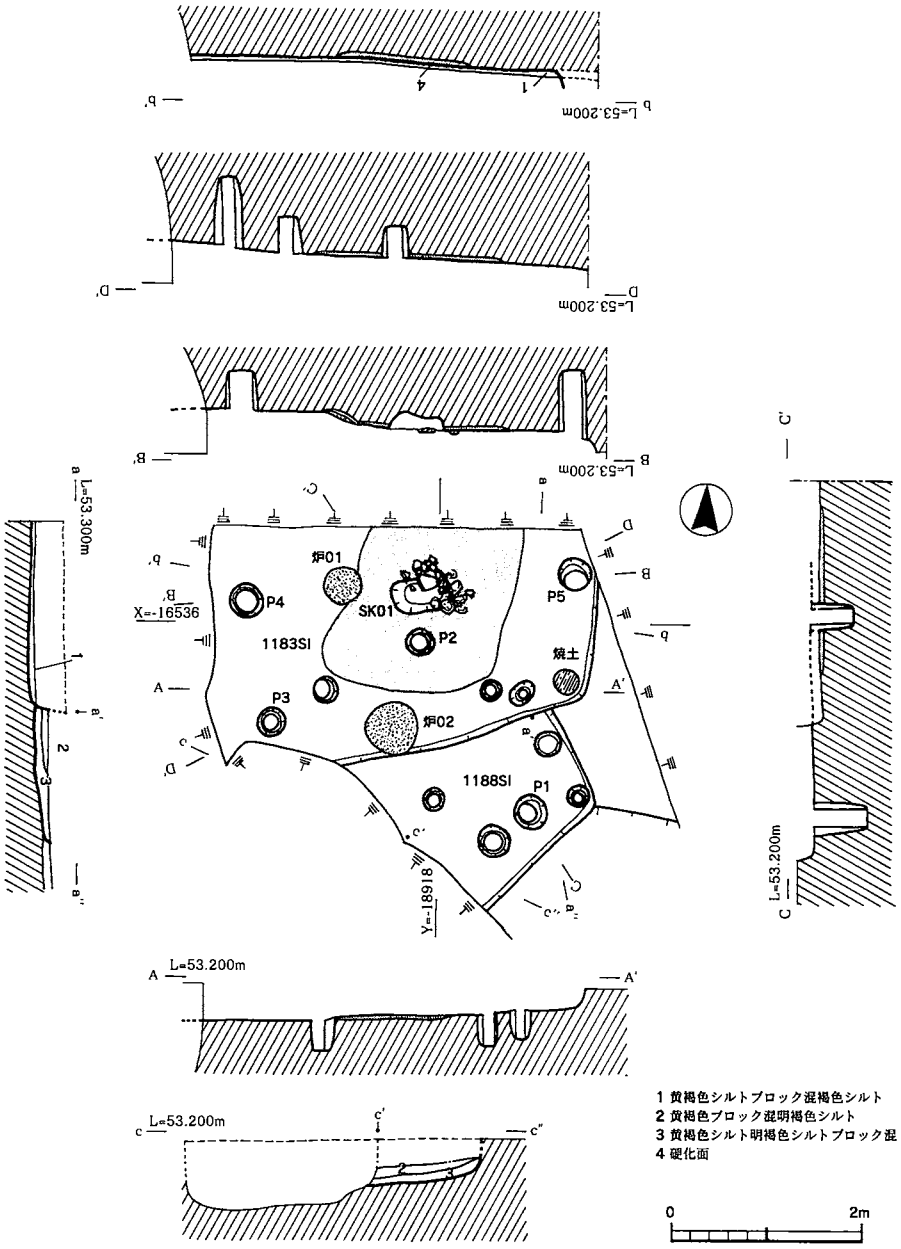
遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6B期に位置づけられると推定できる。

1188 SI（第Ⅲ-448・451図）

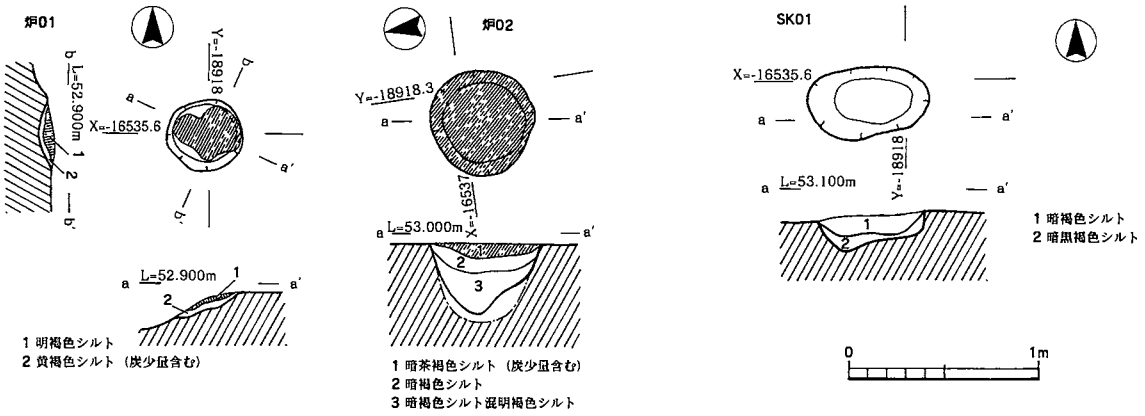
位置　遺跡北西部（２区北部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.64 mで、この住居埋没後、北側に1183SIが建てられ、西側は撹乱により壊されている。主軸の方



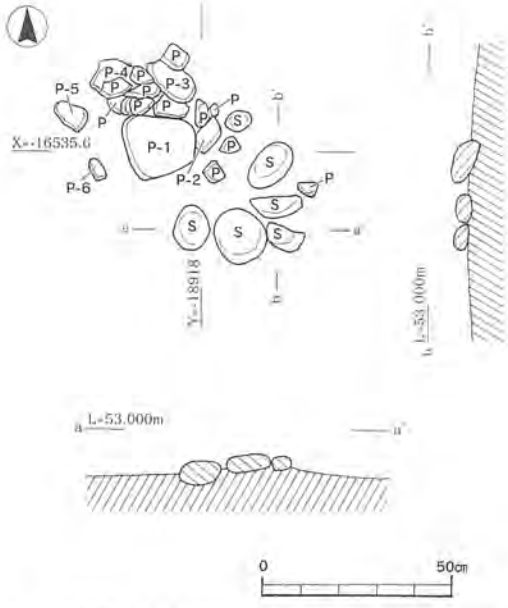
第Ⅲ-447図　1179SI出土土器実測図(1/3)



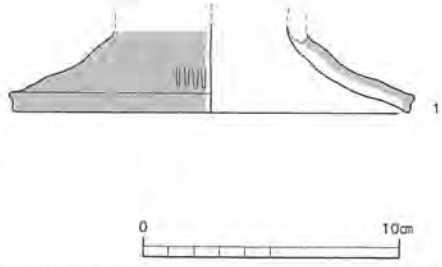
第Ⅲ-448図　1188SI・1183SI　平面・断面図(1/80)



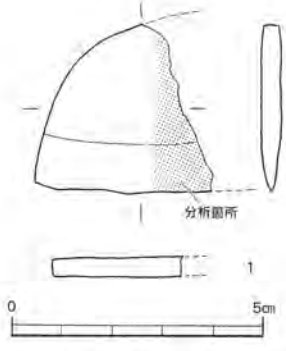
第Ⅲ-449図　1183SI内炉01・02、SK01　平面・断面図(1/40)



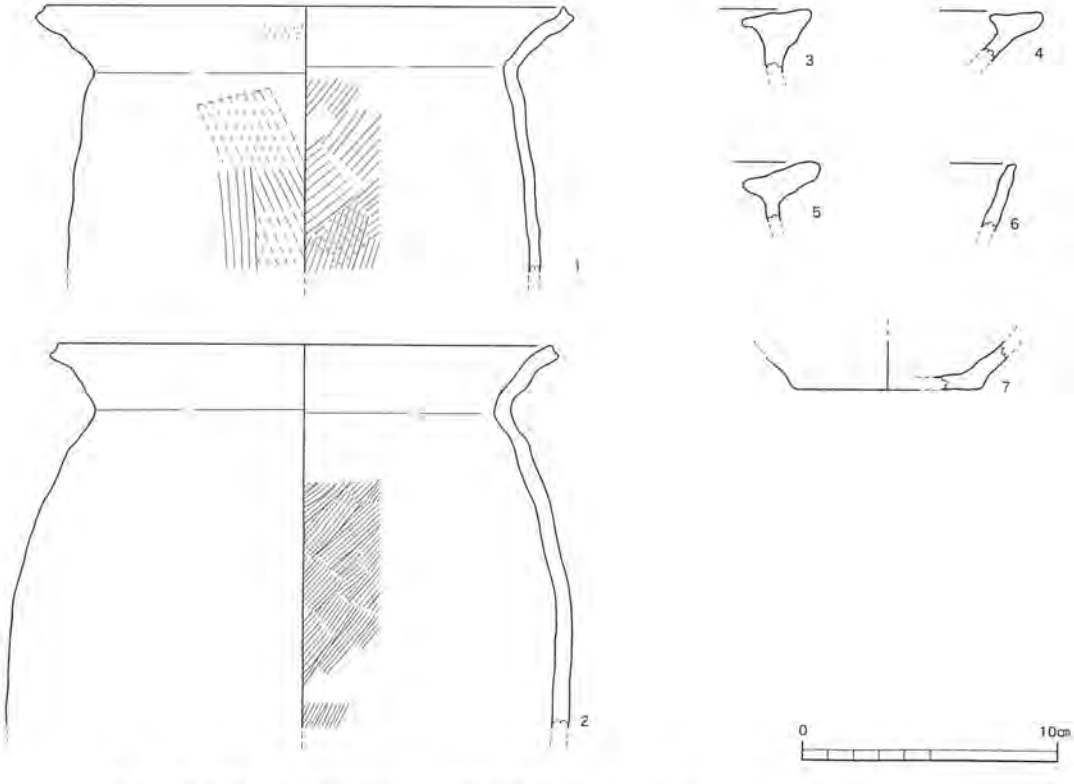
第Ⅲ-450図　1183SI内集石　平面・断面図(1/20)



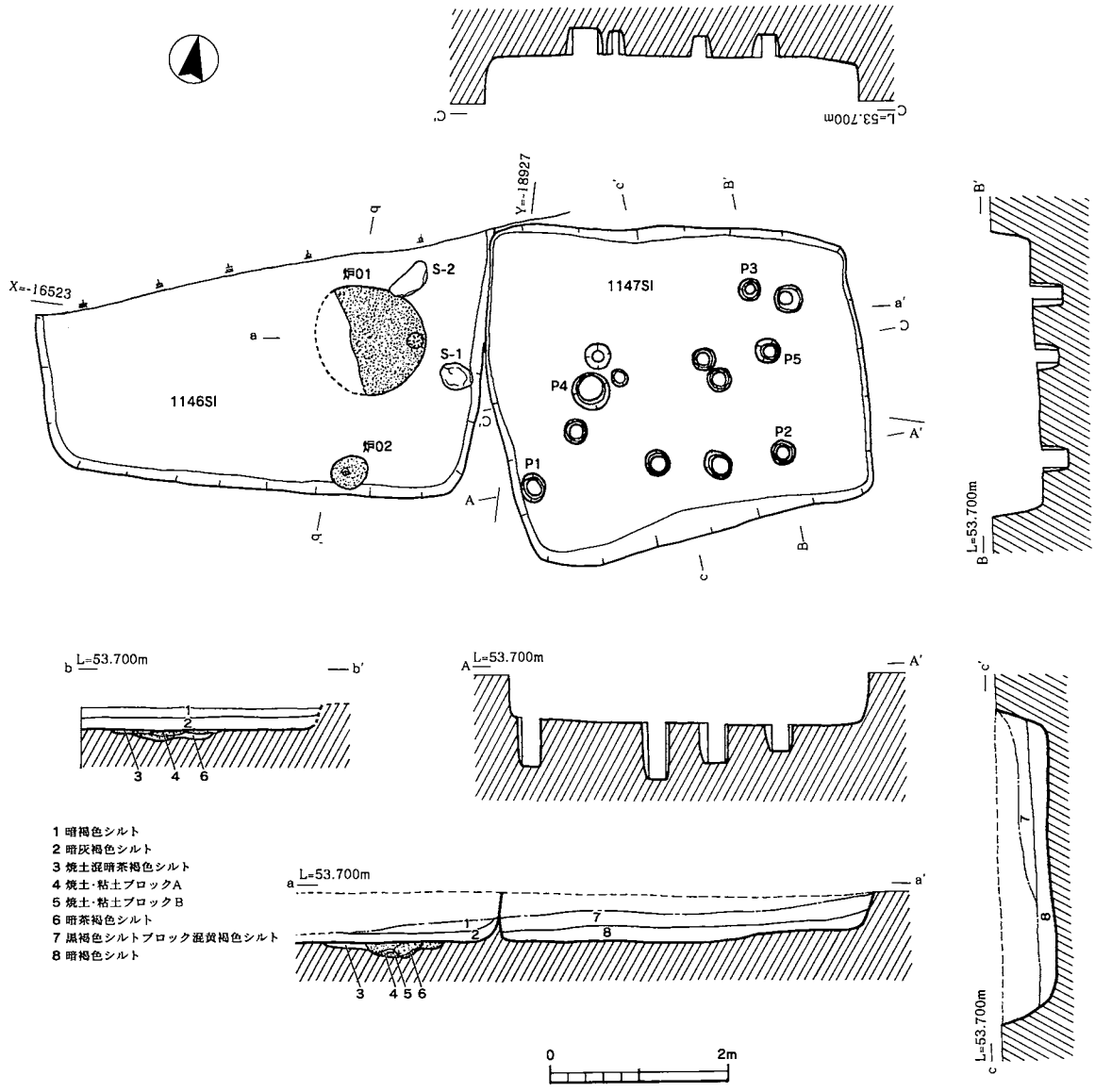
第Ⅲ-451図　1188SI出土土器実測図(1/3)



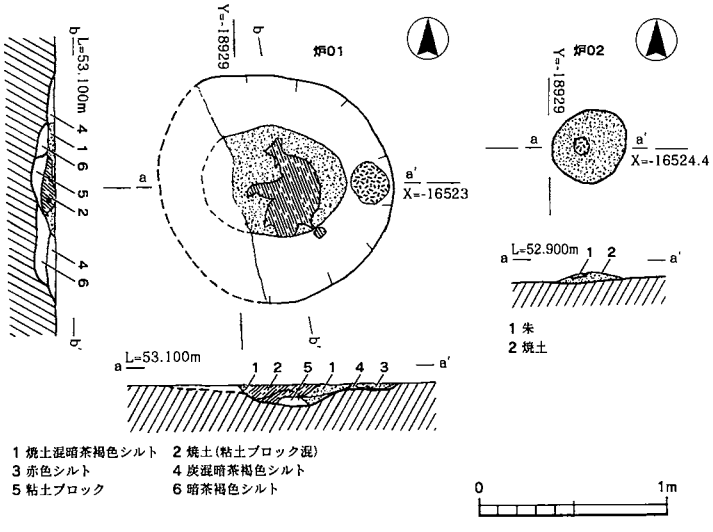
第Ⅲ-452図　1183SI出土鉄器実測図(2/3)〈床面〉



第Ⅲ-453図　1183SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1・2)、1層(3～7)〉



第Ⅲ-454図　1147SI・1146SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-455図　1146SI内炉01・02　平面・断面図(1/40)

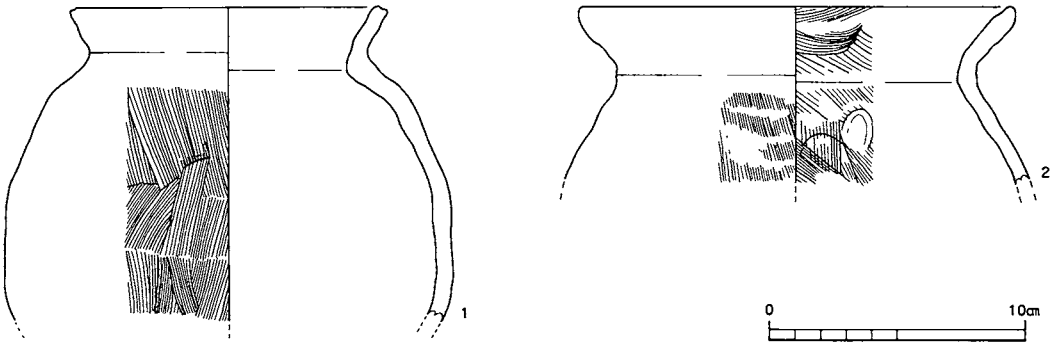
位はN -37°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.06 m以上、短軸1.50 m以上を測る。残存床面積は2.17 ㎡で、検出面からの深さは0.18 mである。埋土は2層からなる。

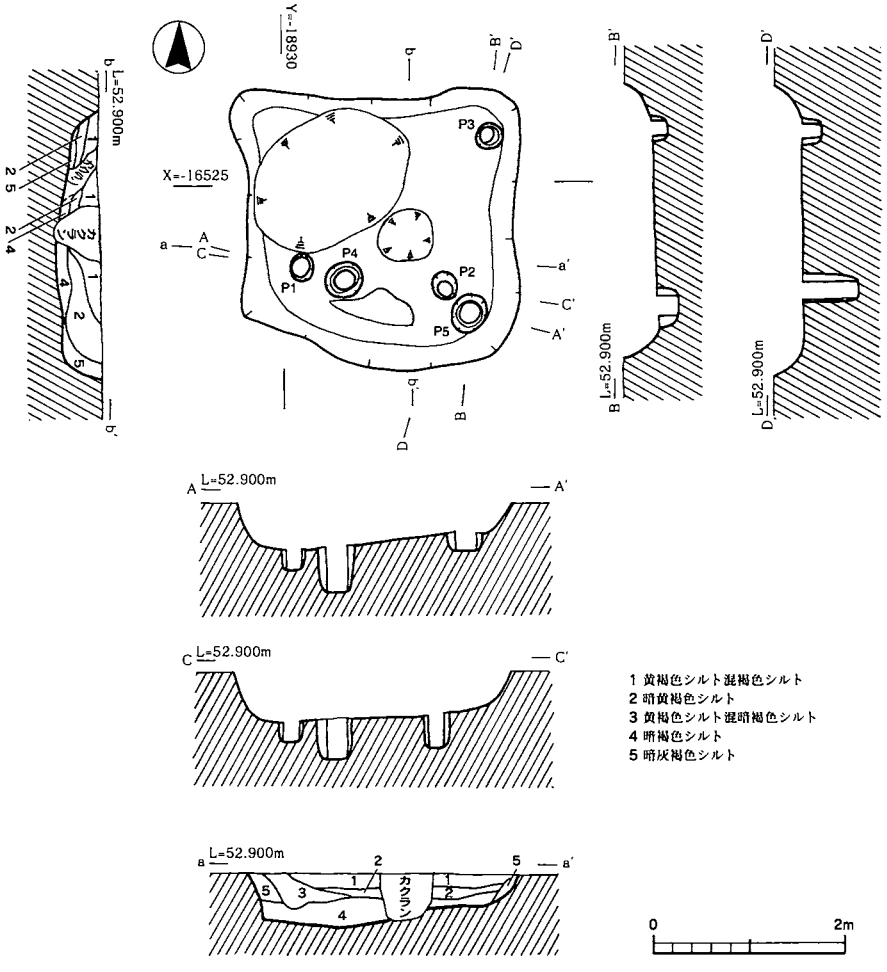
柱穴　柱穴の径は20～35㎝で、深さは25～75㎝である。柱痕跡の径は14～21㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、高坏脚部片1が出土している。流れ込みの遺物であると推定できる。

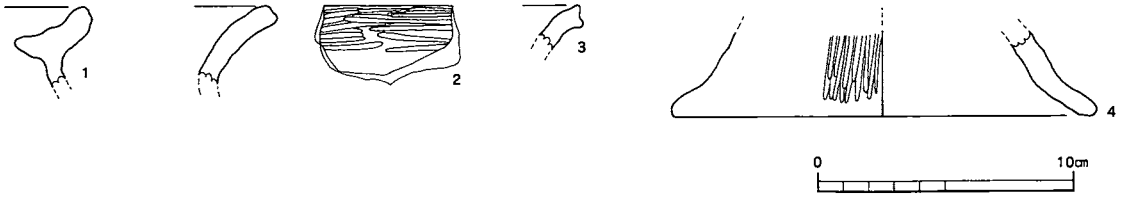
まとめ　P1～3を主柱穴とする4本柱



第Ⅲ-456図　1146SI出土土器実測図(1/3)〈1層(1・2)〉



第Ⅲ-457図　1145SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-458図　1145SI出土土器実測図(1/3)〈1層(1～4)〉

構造の住居と考えられる。住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は５期に位置づけられると推定できる。

1183 SI（第Ⅲ -448・449・450・452・453 図、PL.51）

位置　遺跡北西部（２区北部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約 52.82 mで、北側・西側と南西側は撹乱により壊され、東側は調査区外である。主軸の方位はＮ -1°- Ｗである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 4.05 m、短軸 2.40 mを測る。残存床面積は 8.22 ㎡で、検出面からの深さは 0.19 mである。硬化面は一部認められる。埋土は１層からなる。

柱穴　柱穴の径は 20 ～ 34 ㎝で、深さは 30 ～ 85 ㎝である。柱痕跡の径は 11 ～ 26 ㎝である。

炉　住居内に２基ある。炉 01 は北側に位置し、長軸 40 ㎝、短軸 40 ㎝、深さ８㎝を測る。断面形態は不明で、埋土は２層からなり、上層部は自然流路に壊されている。炉 02 は南側に位置し、長軸 55 ㎝、短軸 55 ㎝、深さ 37 ㎝を測る。断面はＵ字状を呈し、埋土は３層からなる。

貯蔵穴　住居の北側に位置し、長軸 55 ㎝、短軸 35 ㎝、深さ 18 ㎝を測る。断面は皿状を呈し、埋土は２層からなる。

遺物出土状況　床面直上から鉄斧片（第Ⅲ -452 図）が出土している。住居の埋土からは、甕口縁部片５、壺口縁部片４・底部片１、鉢１が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　Ｐ４・５を主柱穴とする２本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は７期に位置づけられると推定できる。

1147SI（第Ⅲ -454 図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約 53.1 mで、この住居埋没後、西側に 1146SI が建てられている。主軸の方位はＮ -13°-Ｗである。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 4.25 m、短軸 3.46 mを測る。床面積は 12.28 ㎡で、検出面からの深さは 0.32 mである。埋土は２層からなる

柱穴　柱穴の径は 18 ～ 44 ㎝で、深さは 28 ～ 60 ㎝である。柱痕跡の径は 10 ～ 30 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　Ｐ１～３・４・５を主柱穴とする４＋２本柱構造の住居と考えられる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は７期以前に位置づけられると推定できる。

1146 SI（第Ⅲ -454・455・456 図、PL.29）

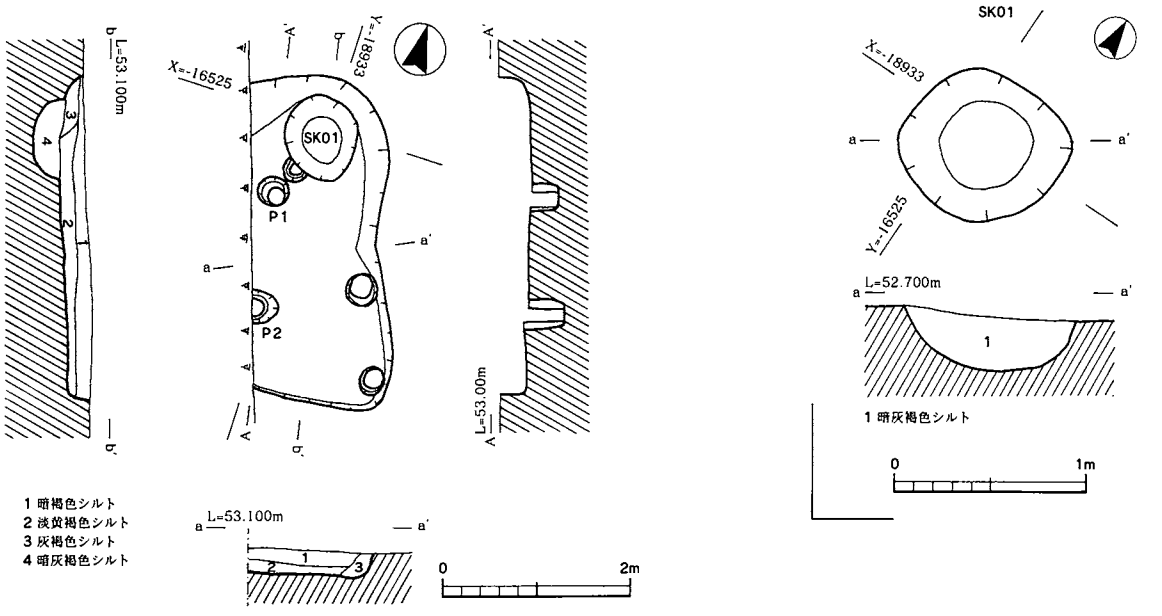
位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.0 mで、この住居埋没後、南側に 1145SI が建てられ、北側は撹乱により壊されている。主軸の方位はＮ -1 °- Ｅである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 5.00 m以上、短軸 2.50 m以上を測る。残存面積は 9.57 ㎡で、検出面からの深さは 0.25 mである。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴は検出できなかった。

炉　住居内に２基検出された。炉 01 は長軸 120 ㎝、短軸 110 ㎝以上、深さ 14 ㎝で、断面は皿状を呈す。埋土は６層からなる。炉 02 は住居の南側に位置し、長軸 42 ㎝、短軸 37 ㎝、厚み５㎝の盛り上がりが確認できた。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片１、壺口縁部片１が出土している。廃棄もしくは流れ込みの遺



第Ⅲ-459図　1143SI・SK01　平面・断面図(1/80)(1/40)

物と推定できる。

まとめ　南側の壁際で焼土を検出したが、焼失した痕跡の可能性もある。住居構造は、推定が困難である。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7期に位置づけられると推定できる。

1145 SI（第Ⅲ-457・458図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約52.28 mで、この住居埋没後、北西部側に1140SKに掘削されている。主軸の方位は真北である。

住居形態　平面形態はほぼ正方形を呈し、長軸2.85 m、短2.83 mを測る。推定床面積は5.76 ㎡、残存床面積は4.51 ㎡で、検出面からの深さは0.54 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～42 cmで、深さは16～58 cmである。柱痕跡の径は15～21 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土から甕口縁部片3、壺口縁部片2が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　P1～3ないしP3～5を主柱穴とする4本柱構造の住居と推定できる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7期以降に位置づけられると推定できる。

1143 SI（第Ⅲ-459図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.6 mで、西側は撹乱に掘削されている。主軸の方位はN-20°-Wである。

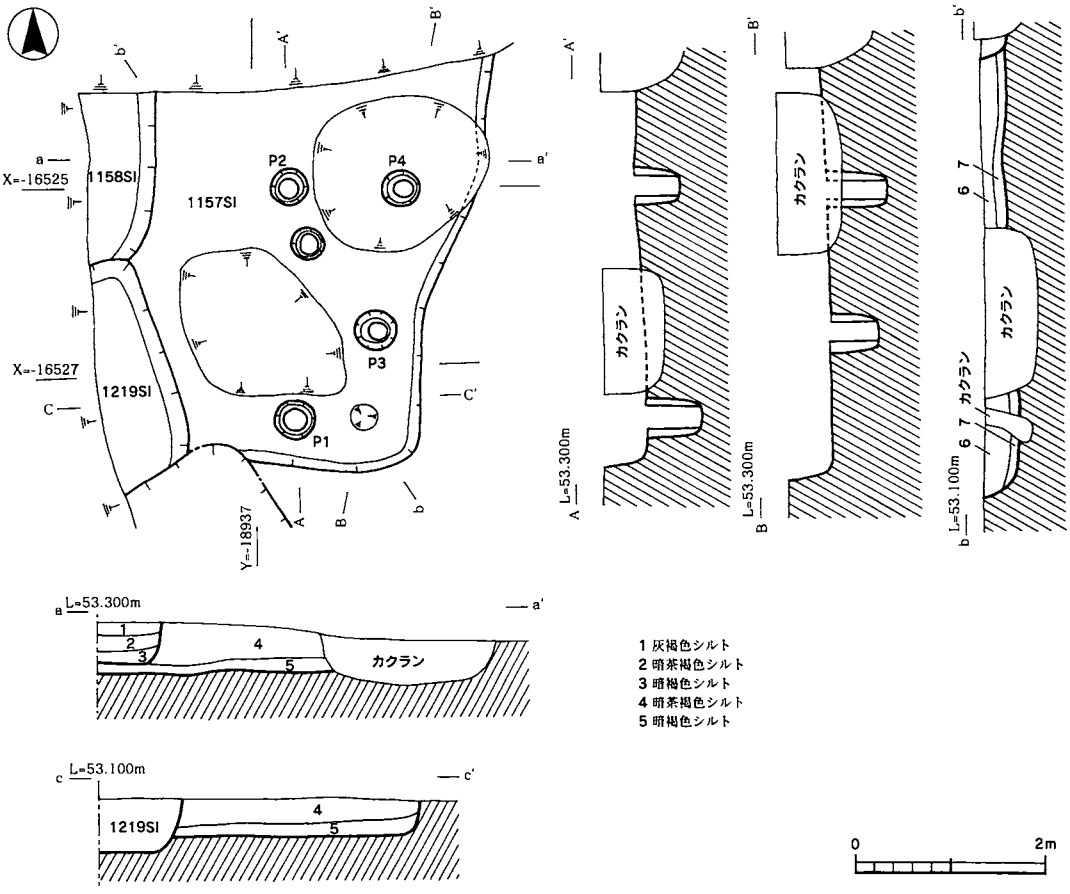
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.50 m以上、短軸1.30 m以上を測る。残存面積は3.57 ㎡で、検出面からの深さは0.27 mである。埋土は3層からなる。

柱穴　柱穴の径は25～35 cmで、深さは29～41 cmである。柱痕跡の径は18～24 cmである。

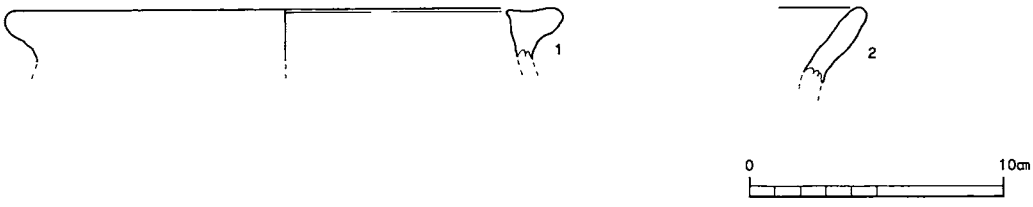
貯蔵穴　住居の北側に位置し、長軸92 cm、短軸78 cm、深さ28 cmを測る。断面はU字状を呈し、埋土は1層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

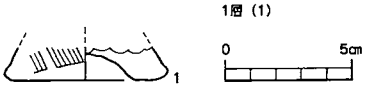
まとめ　P1・2を主柱穴とする2本柱構造の住居と推定できる。時期の推定は困難である。



第Ⅲ-460図　1157SI・1158SI・1219SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-461図　1157SI出土土器実測図(1/3)〈1層(1・2)〉



第Ⅲ-462図　1158SI出土土器実測図(1/3)

1157SI（第Ⅲ-460・461図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形が削平されていると考えられる。床面の標高は約52.66 mで、この住居埋没後、西側に1158SIと1219SI、南西側に1162SIが建てられて、北側に撹乱、東側に1225SK中央部に1149SKに掘削されている。主軸の方位はN-4°-Eである。

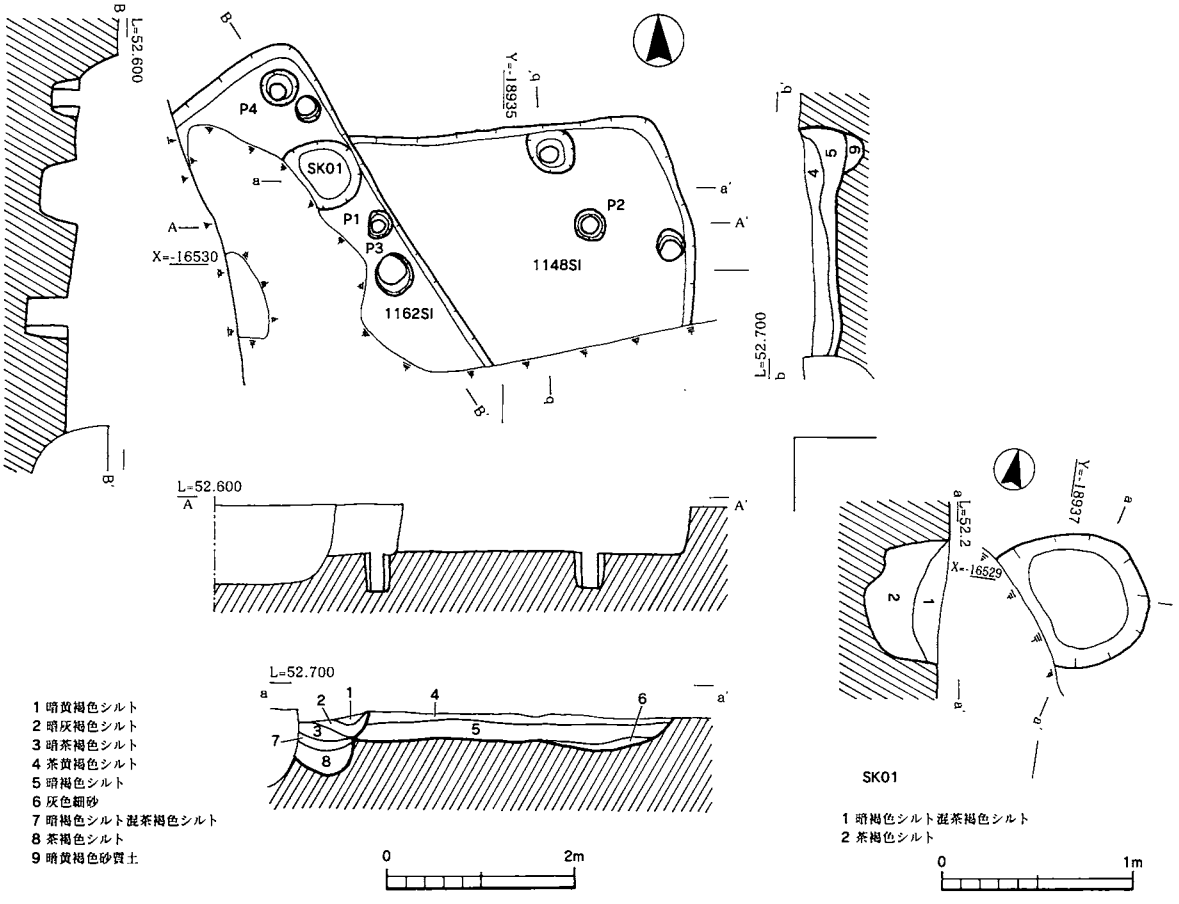
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.02 m以上、短軸3.24以上を測る。残存床面積は9.69 ㎡で、検出面からの深さは0.54 mである。埋土は２層からなる。

柱穴　柱穴の径は33～45 ㎝で、深さは48～63 ㎝である。柱痕跡の径は20～26 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片２が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　Ｐ１・２を主柱穴とする住居と推定できる。

遺物の出土状況から考えて住居に直接伴うと断定できる土器はないが、出土土器や住居の新旧関係から考え



第Ⅲ-463図　1148SI・1162SI・SK　平面・断面図(1/80)(1/40)

て、住居の時期は6A～B期に位置づけられると推定できる。

1158 SI（第Ⅲ-460・462図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.8 mで、この住居埋没後、南側に1219SIが建てられ、北側は撹乱に掘削され、西側は調査区外である。主軸の方位はほぼ南北方向である。

住居形態　平面形態は不明で、長軸1.78 m以上、短軸0.70 m以上を測る。残存床面積は0.96 ㎡で、検出面からの深さは0.44 mである。埋土は3層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕底部片1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　ほとんどの部分が調査区外のため詳細は不明である。住居の新旧関係から6B期以降と推定できる。

1219 SI（第Ⅲ-460図）

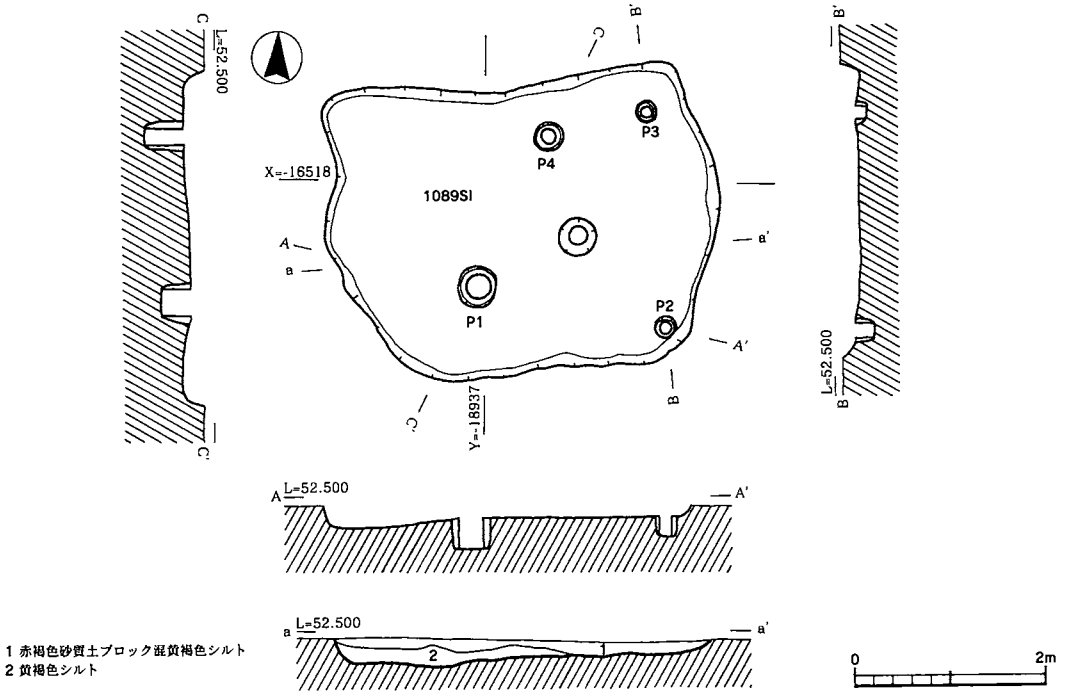
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は52.5 mで、この住居埋没後、南側に1162SIが建てられ、西側は調査区外である。主軸の方位はN-10°-Wである。

住居形態　住居は方形を呈し、長軸2.33 m以上、短軸0.90 m以上を測る。残存床面1.28 ㎡で、検出面からの深さは約0.34 mである。埋土は不明である。

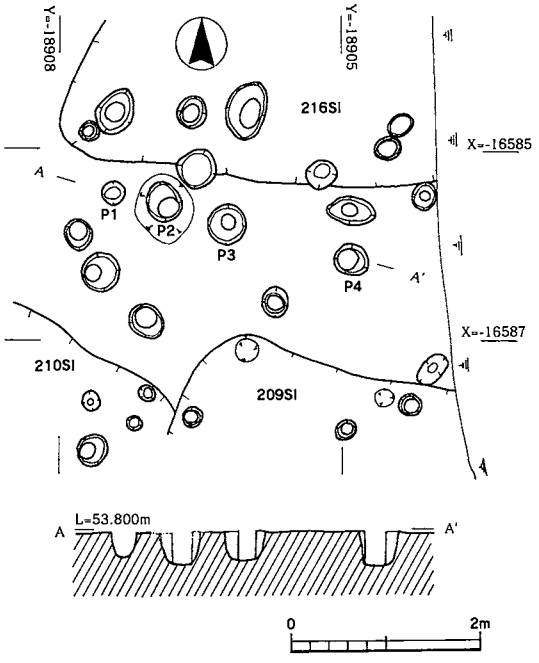
まとめ　1158SIとの新旧関係により、6B期以降と推定できる。

1148 SI（第Ⅲ-463図）

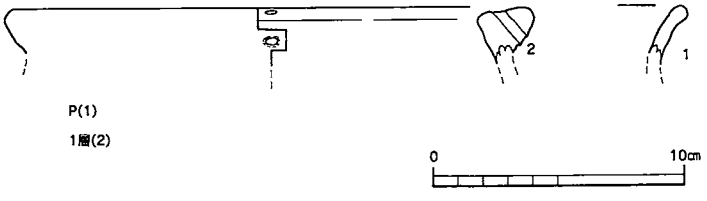
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標



第Ⅲ-464図　1089SI　平面･断面図(1/80)



第Ⅲ-465図　279SX(Pit群)
平面･断面図(1/80)



第Ⅲ-466図　279SX出土土器実測図(1/3)

高は約52.0 mで、この住居埋没後、西側に1162SIが建てられ、南側は撹乱によって壊されている。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.92 m以上、短軸2.50 m以上を測る。残存床面積は6.27 ㎡で、検出面からの深さは0.5 mである。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は24～34 ㎝で、深さは34～46 ㎝である。柱痕跡の径は13～25 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　P1･2を主柱穴とする4本柱構造の住居の可能性が高い。時期の推定が困難である。

1162SI（第Ⅲ-463図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約52.0 mで、北西部から中央部を通り南部にかけては幅広く撹乱に切られ、西側は、調査区外である。主軸の方位はN-21°-Wである。

住居形態　住居は方形を呈し、長軸4.00 m、短軸1.46 mを測る。残存床面積は3.53 ㎡で、検出面からの深

さは 0.26 mである。埋土は３層からなる。

柱穴　柱穴の径は 26 ～ 44 ㎝で、深さは 17 ～ 43 ㎝である。柱痕跡の径は 17 ～ 20 ㎝である。

貯蔵穴　住居の東側に位置し、長軸 70 ㎝、短軸 64 ㎝、深さ 41 ㎝を測り、断面はＵ字状を呈し、埋土は２層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　調査区の大部分が撹乱に壊されているため詳細は不明であるが、Ｐ３・４を主柱穴とする４本柱構造の住居の可能性が高い。

住居の時期は、住居の新旧関係から６Ｂ以降と推定できる。

1089 SI（第Ⅲ -464 図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。床面の標高は約 52.25 mである。主軸の方位はＮ -11°-W である。

住居形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 4.25 m、短軸 2.92 mを測る。床面積は 9.98 ㎡で、検出面からの深さは 0.12 mである。埋土は２層からなる。

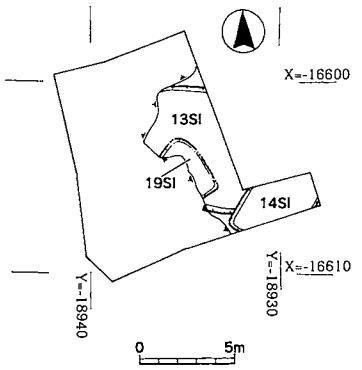
柱穴　柱穴の径は 21 ～ 43 ㎝で、深さは 13 ～ 48 ㎝である。柱痕跡の径は 12 ～ 27 ㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土から、時期の決定できるような遺物は出土していない。

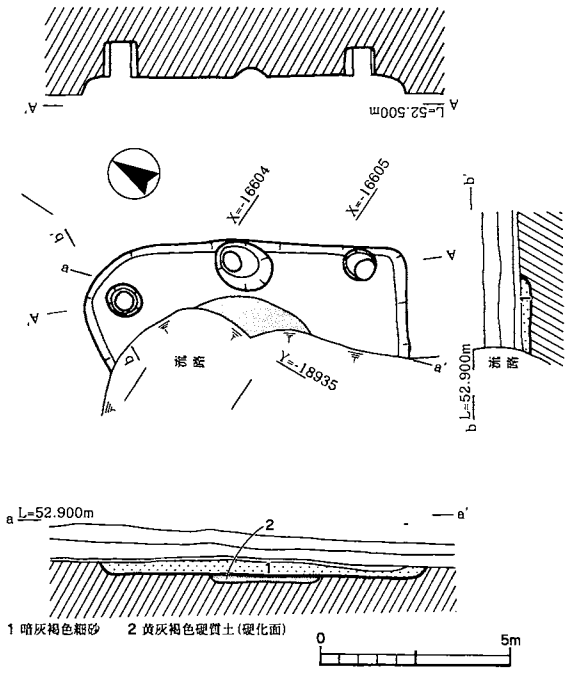
まとめ　P1 ～ 4 を主柱穴とする構造と推定できる。時期の特定は困難である。

279 S X（Pit 群）（第Ⅲ -465・466 図）

掘り方径 25 ～ 40 ㎝、深さ 30 ～ 40 ㎝、柱の径 15 ～ 20 ㎝ほどの柱群を検出した。規則的な配列をなしておらず、上面を削平された竪穴住居跡の柱穴と推定できる。



第Ⅲ-467図　No.82調査区
第三次検出遺構配置図(1/400)



第Ⅲ-468図　19SI　平面・断面図(1/80)

②九電鉄塔 No.82 調査区の調査

(第三次検出遺構)　19 S I (第Ⅲ-467・468・469 図)

位置　遺跡南西部 (No.82 区南部) の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.3 mで、この住居埋没後、13 S I が建てられている。主軸の方位はN -33°-Wである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 3.38 m、短軸 0.92 m以上を測る。残存床面積は 3.1 ㎡で、検出面からの深さは 14 cmである。硬化面は一部認められる。埋土は 1 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 32 ～ 61 cmで、深さは 32 ～ 39 cmである。柱痕跡の径は、18 ～ 22 cmである。

遺物出土状況　埋土からは、甕口縁部片 2・壺口縁部片が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　西部が後世の自然流路(もしくは、水路)に壊されているため、詳細は不明であるが、検出した柱穴の配置から考えて、4 本柱ないし、4 + 2 本の柱構造の住居と推定できる。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 4 A期に位置づけられると推定できる。

14 S I (第Ⅲ-467・470・471・472 図)

位置　遺跡南西部 (No.82 区南部) の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.4 mで、この住居埋没後 05 S I・03 S I が建てられている。

主軸の方位はN -33°-E である。

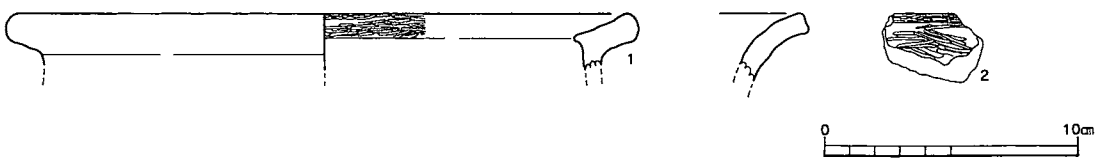
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸 3.8 m以上、短軸 3.36 mを測る。残存床面積は 7.1 ㎡で、検出面からの深さは 84 cmである。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は 3 層からなる。

柱穴　柱穴の径は 19 ～ 30 cmで、深さは 27 ～ 74 cmである。柱痕跡の径は、13 ～ 22 cmである。

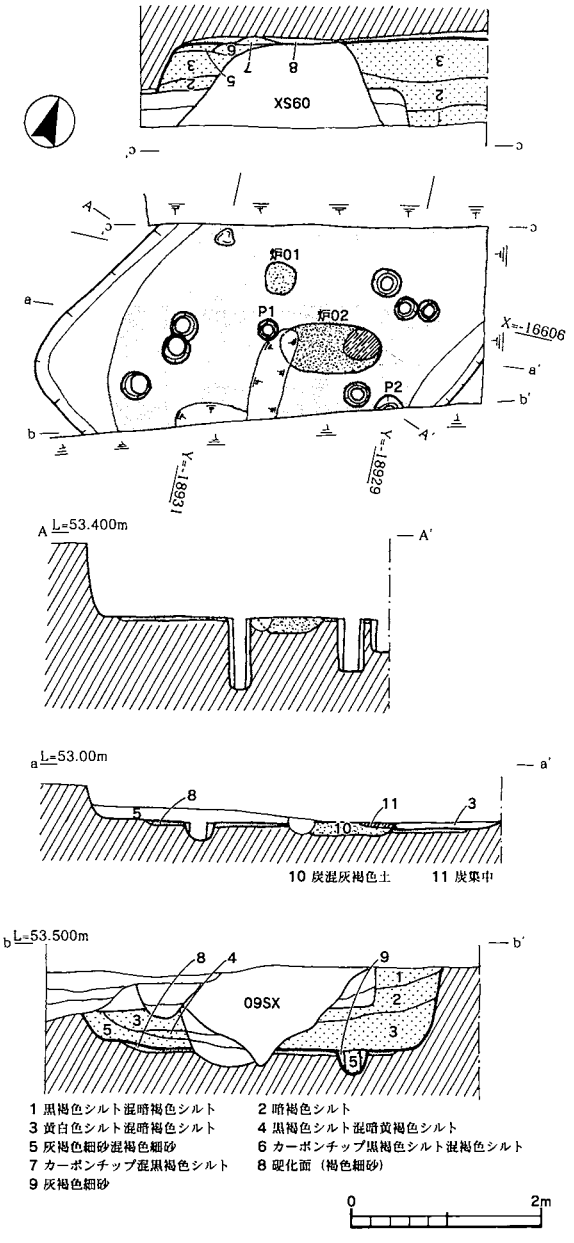
炉　住居内に 2 基検出され、01 は住居内の中央に位置し、長軸 34 cm、短軸 34 cm、深さ 2.0 cmである。02 は住居内の中央に位置し、長軸 98 cm、短軸 45 cm、深さ 15 cmである。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片 43・底部片 11、壺口縁部片 6、底部片 1、赤彩の鉢 1 (第Ⅲ-472 図 15) が出土している。

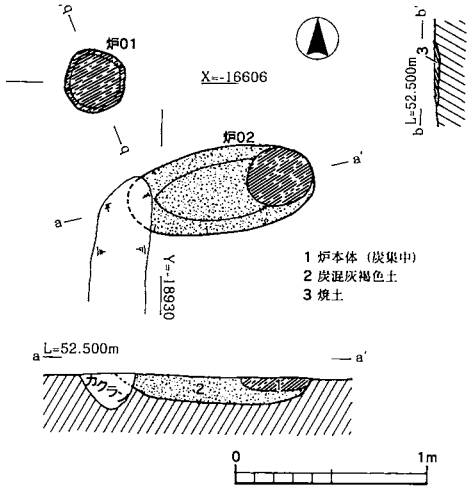
まとめ　出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は 5 期に位置づけられると推定できる。



第Ⅲ-469図　19SI出土土器実測図(1/3)〈P(1・2)〉



第Ⅲ-470図　14SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-471図　14SI内炉01・02
平面・断面図(1/80)

13ＳＩ（第Ⅲ-467・473・474・475図）

位置　遺跡南西部（No.82区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.4ｍで、この住居埋没後、02ＳＩ・07ＳＩ・05ＳＩ・08ＳＩ・01ＳＩが建てられている。主軸の方位は、Ｎ-2°-Ｅである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸6.4ｍ以上、短軸3.5ｍ以上を測る。残存床面積は18.7㎡で、検出面からの深さは42㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は5層からなるレンズ状堆積である。

柱穴　柱穴の径は22～44㎝で、深さは23～52㎝である。柱痕跡の径は、14～30㎝である。

貯蔵穴　住居内の南側に位置し、長軸52㎝、短軸50㎝、深さ23㎝である。

遺物出土状況　柱穴や床面から遺物が出土しているが、流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　東側は調査区外、西側は撹乱に壊されているため詳細は不明である。Ｐ1～5等を主柱穴とする可能性がある。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は4Ｂ期に位置づけられると推定できる。

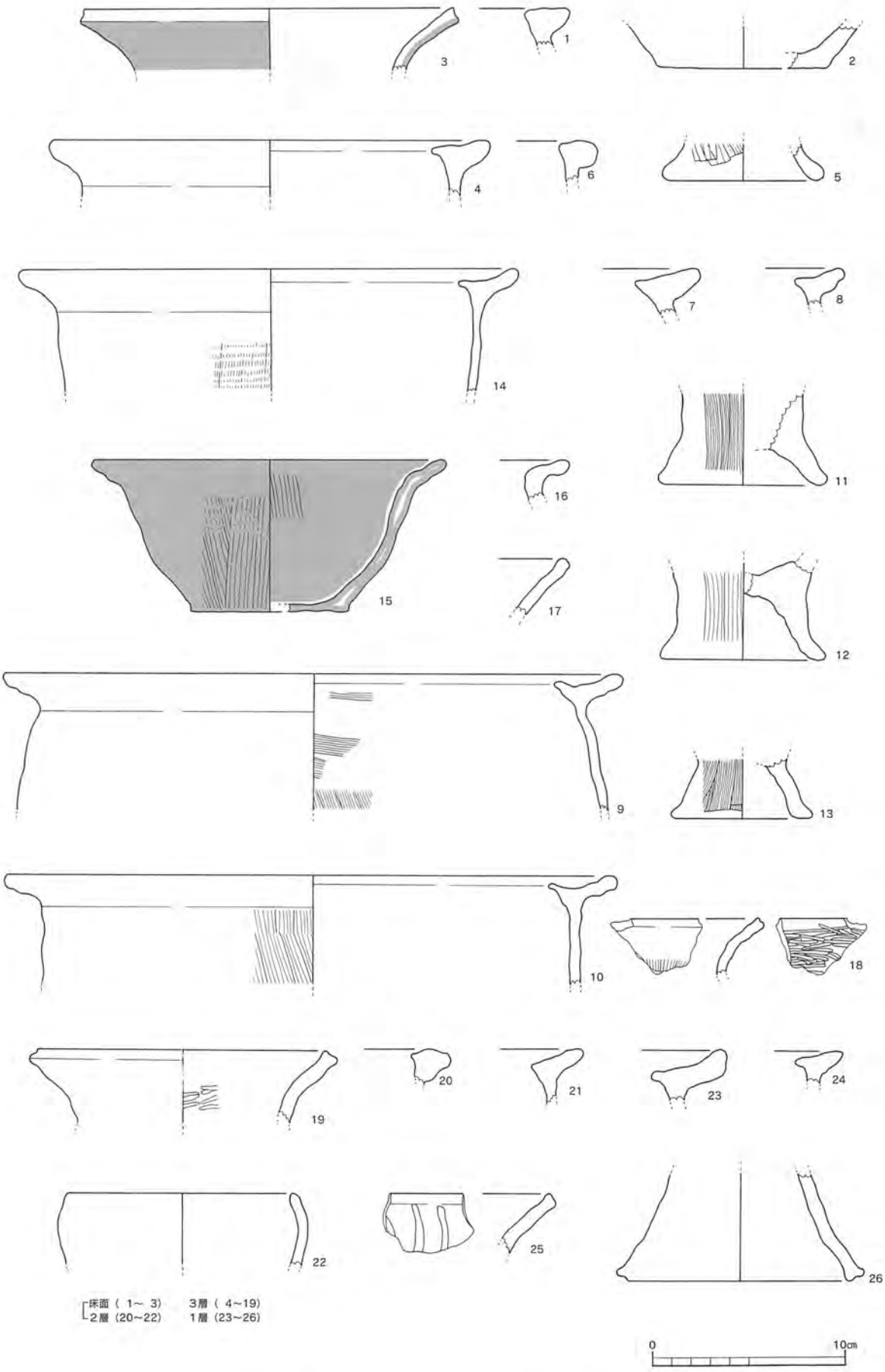
（第二次検出遺構）02ＳＩ（第Ⅲ-476・477・478図、PL.11）

位置　遺跡南西部（No.82区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9ｍで、この住居埋没後、08ＳＩ・07ＳＩが建てられている。主軸の方位は、Ｎ-6°-Ｅである。

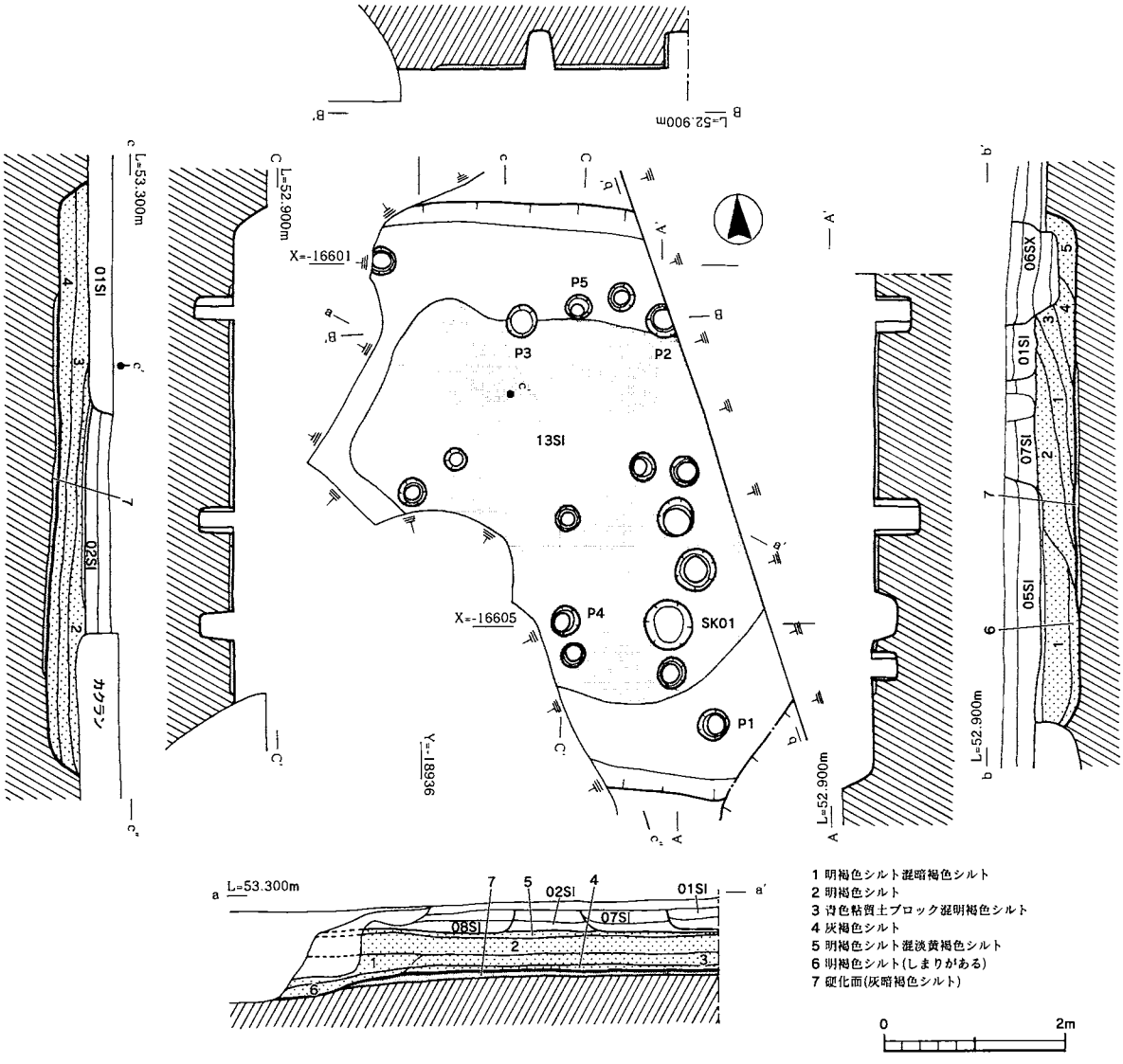
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.45ｍ以上、短軸1.66ｍ以上を測る。残存床面積は1.7㎡で、検出面からの深さは16㎝である。硬化面は床中央部1/2に認められる。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は、14～30㎝で、深さは21～48㎝である。柱痕跡の径は、10～18㎝である。

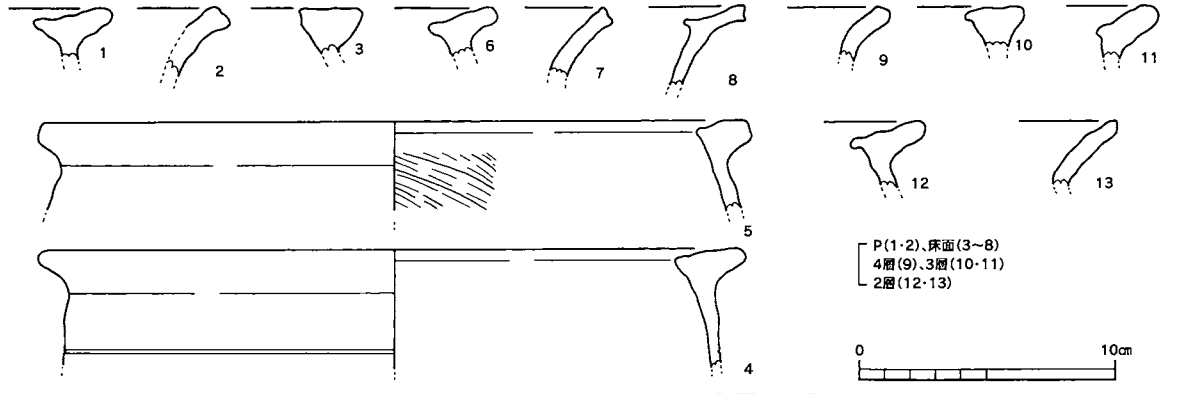
遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片13・底部片5、壺口縁部片3が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。



第Ⅲ-472図　14SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-473図　13SI　平面・断面図(1/80)



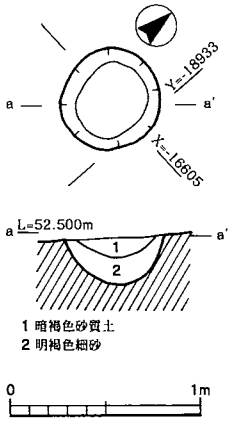
第Ⅲ-474図　13SI出土土器実測図(1/3)

まとめ　西側が撹乱により壊されているため柱構造等不明である。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は5期に位置づけられると推定できる。

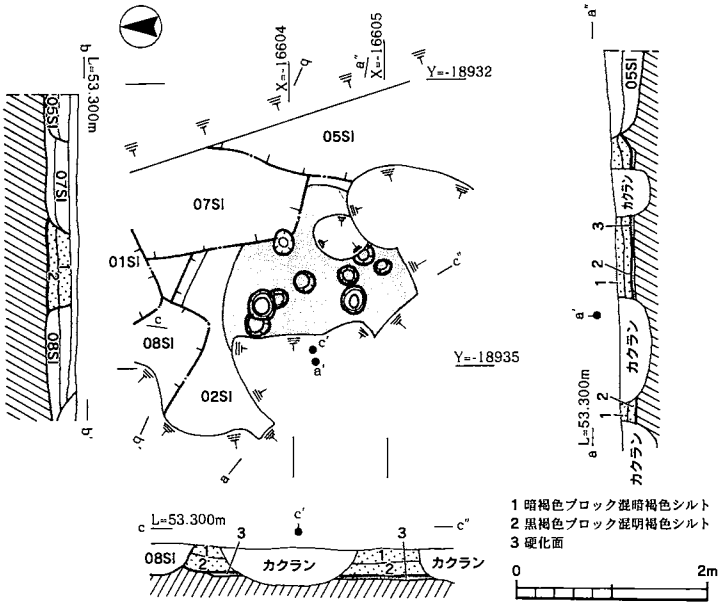
08 S I（第Ⅲ-478・479・480図）

位置　遺跡南西部（No.82区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.84 mで、この住居埋没後東部に01SIが建てられている。主軸の方位はN -25°-Wである。

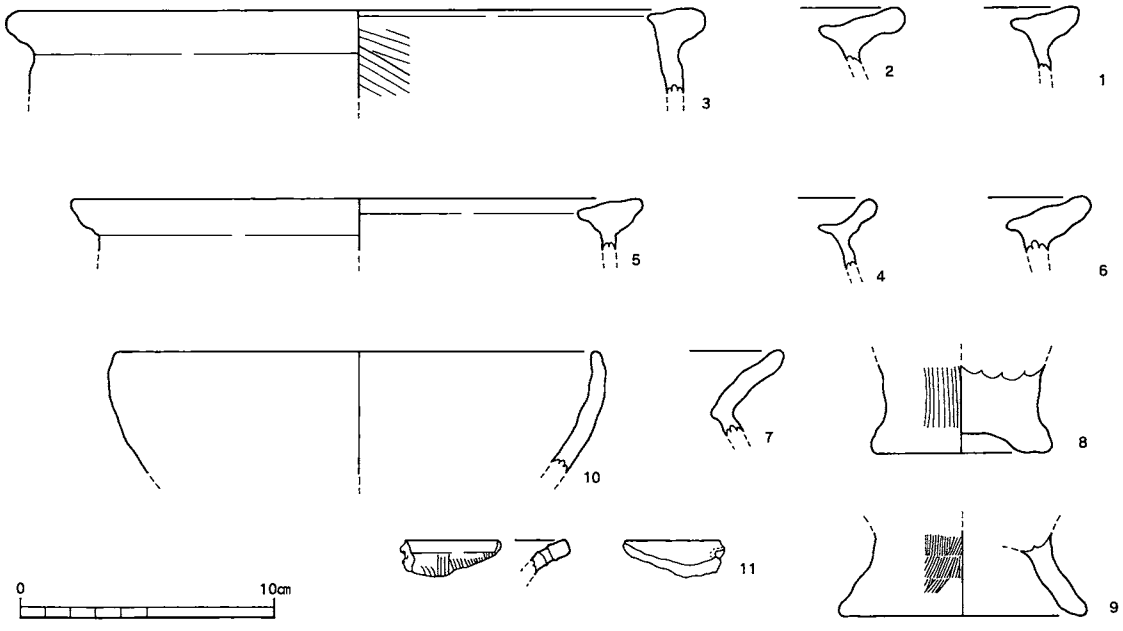
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸1.0 m以上、短軸0.8 m以上を測る。残存床面積は約1.0 ㎡で、検出



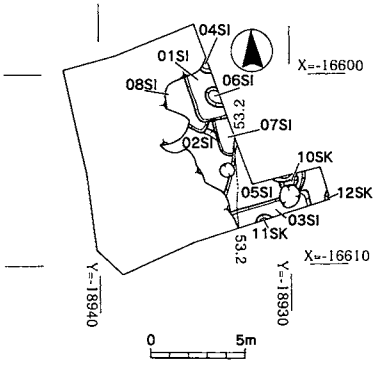
第Ⅲ-475図　13SI内SK01
平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-476図　02SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-477図　02SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1・2)、2層(3)、1層(4～11)〉



第Ⅲ-478図　No.82調査区
第二次検出遺構配置図(1/400)

面からの深さは25㎝である。硬化面は認められない。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は27～30㎝で、深さは41～45㎝である。柱痕跡の径は、14～19㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片9・底部片5、壺口縁部片3、短頸壺1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　西側が撹乱により壊されているため詳細は不明である。検出できた柱の配置から柱構造の推定は困難である。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A～6B期に位置づけられると推定できる。

07 S I（第Ⅲ-478・479・482図、PL.11）

位置　遺跡南西部（No.82区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9ｍで、この住居埋没後05SIが建てられている。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸1.95ｍ以上、短軸1.06ｍ以上を測る。残存床面積は1.33㎡で、検出面からの深さは24㎝である。硬化面は認められない。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は14～24㎝で、深さは25～41㎝である。柱痕跡の径は、9～14㎝である。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は、第Ⅲ-482図1のみである。流れ込みの遺物である。

まとめ　東側が調査区外のため詳細は不明であるが、検出できた柱配置から4＋2本柱構造の住居と考えられる。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は6A～6B期に位置づけられると推定できる。

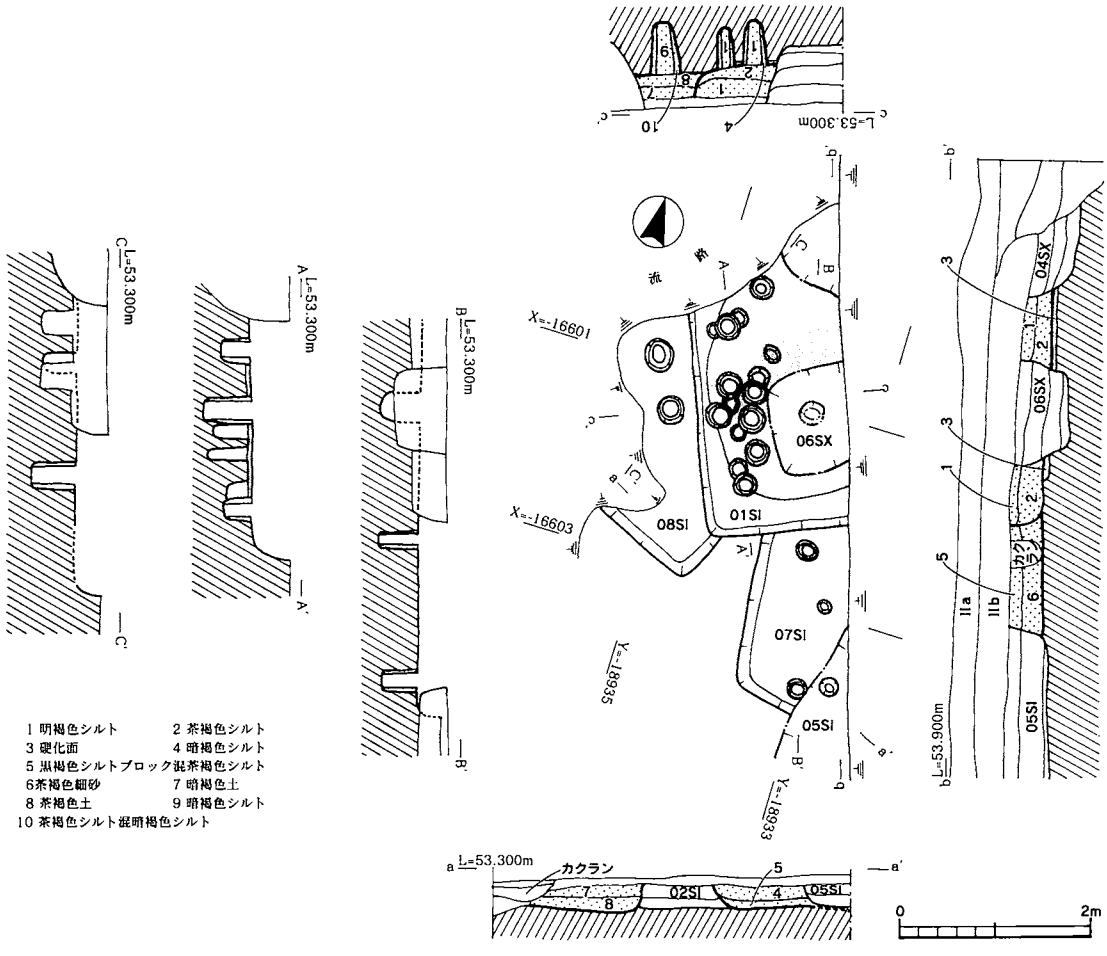
01 S I（第Ⅲ-478・479・481図、PL.29）

位置　遺跡南西部（No.82区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、この住居埋没後、04ＳＸが掘削されている。主軸の方位はＮ-25°-Ｗである。

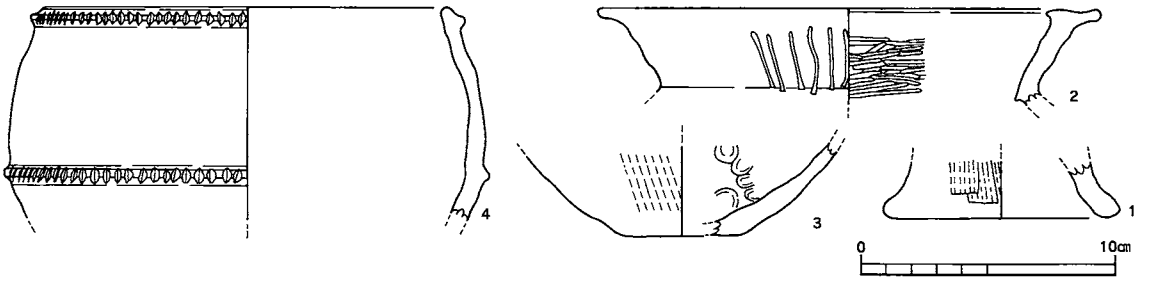
住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.7ｍ以上、短軸1.6ｍ以上を測る。残存床面積は2.7㎡で、検出面からの深さは40㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は2層からなる。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片9・底部片5、壺口縁部片3、短頸壺1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

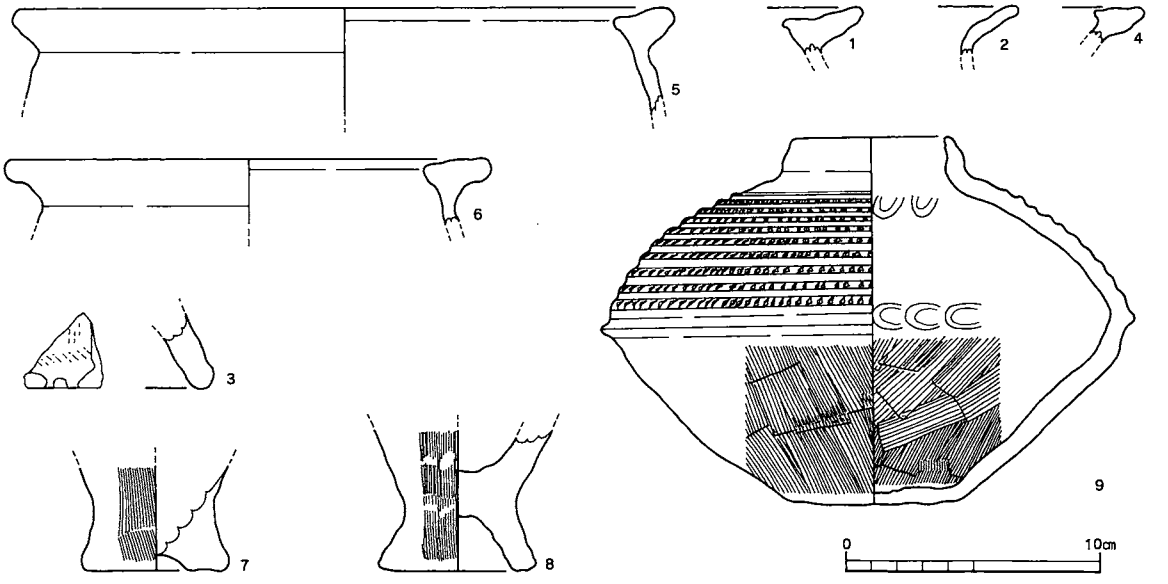
まとめ　東側が調査区外のため詳細は不明であるが、検出できた柱配置から4＋2本柱構造の住居と考えられる。また、出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7期に位置づけられると推定できる。



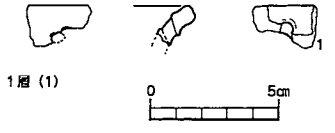
第Ⅲ-479図　08SI・07SI・01SI　平面・断面図(1/80)



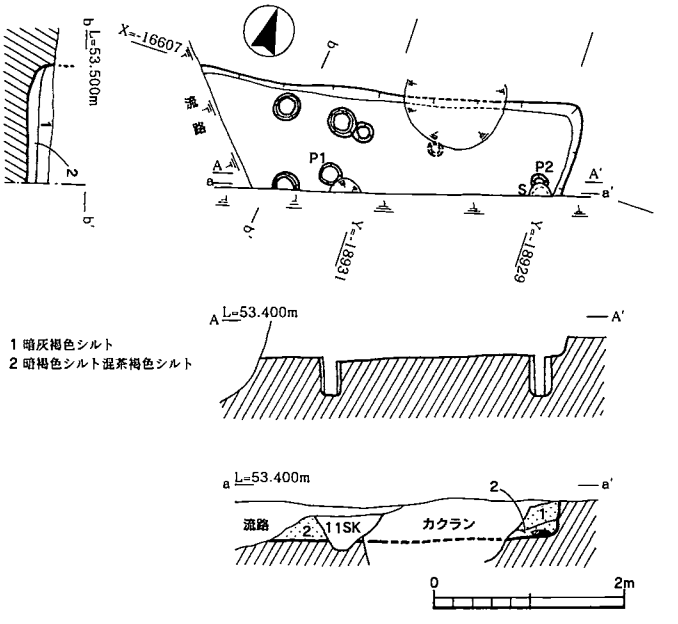
第Ⅲ-480図　08SI出土土器実測図(1/3)〈P(1)、2層(2・3)、1層(4)〉



第Ⅲ-481図　01SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～4)、2層(5～7)、1層(8・9)〉



第Ⅲ-482図　07SI出土土器実測図(1/3)



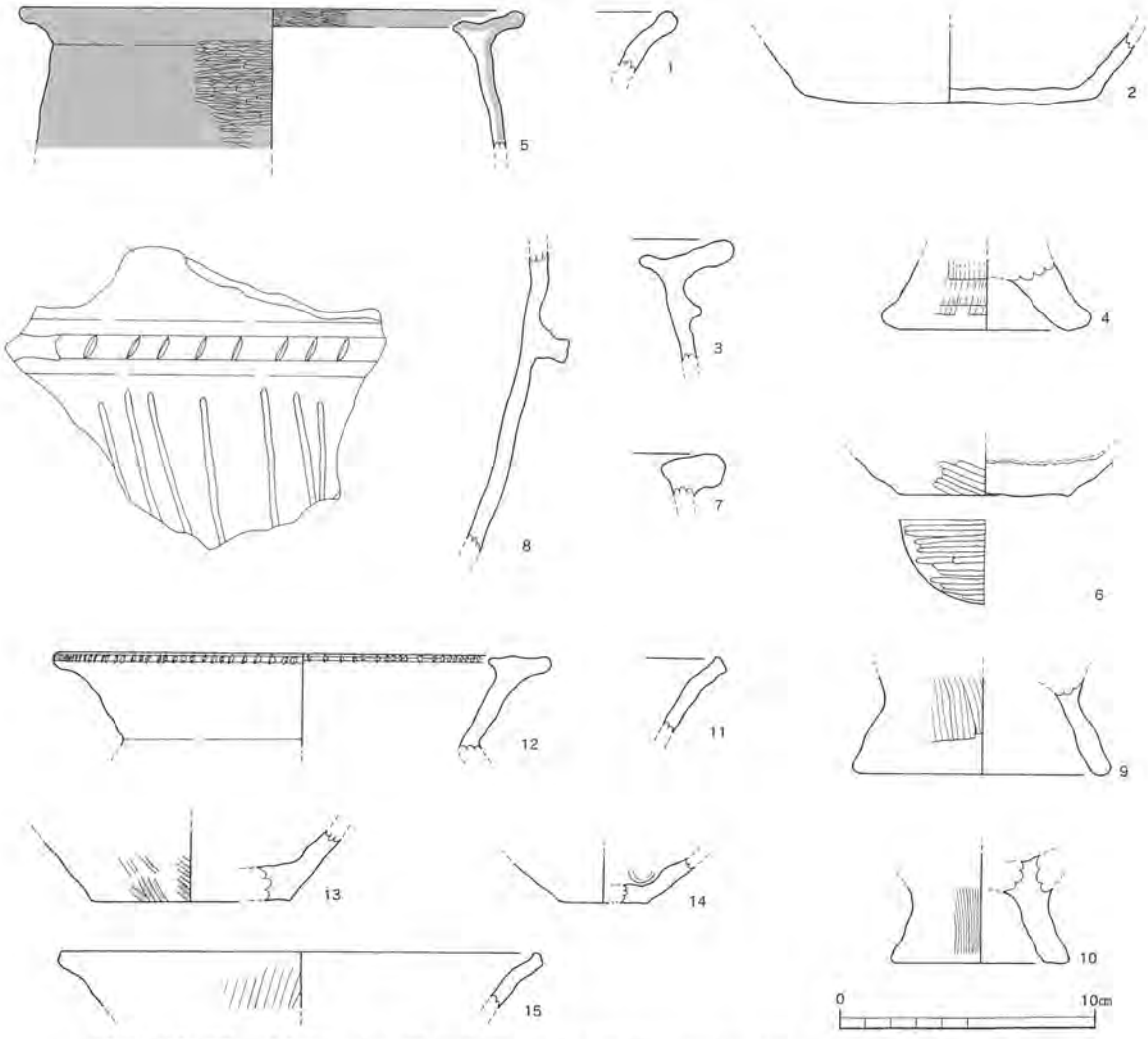
第Ⅲ-483図　03SI　平面・断面図(1/80)

03ＳＩ(第Ⅲ-478・483・484図、PL.11)

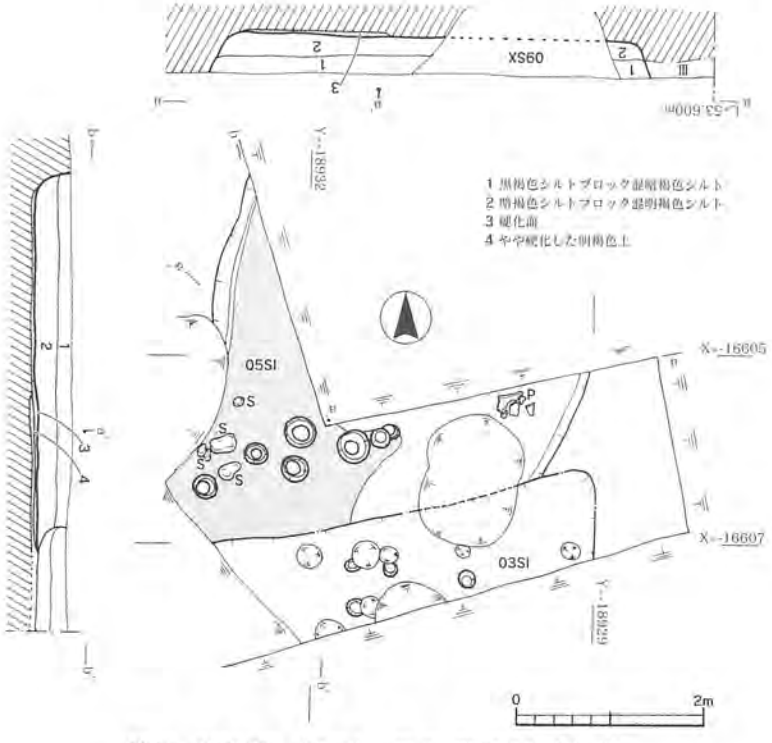
位置　遺跡南西部（No.82区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、この住居埋没後、11ＳＫが掘削されている。主軸の方位はN-12°-Eである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸3.74ｍ以上、短軸0.96ｍ以上を測る。残存床面積は3.55㎡で、検出面からの深さは42㎝である。硬化面は一部認められる。埋土は2層からなる。

柱穴　柱穴の径は14～30㎝で、深さは21～55㎝である。柱痕跡の径は、9～19㎝である。



第Ⅲ-484図　03SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～6)、2層(7～14)、1層(15)〉



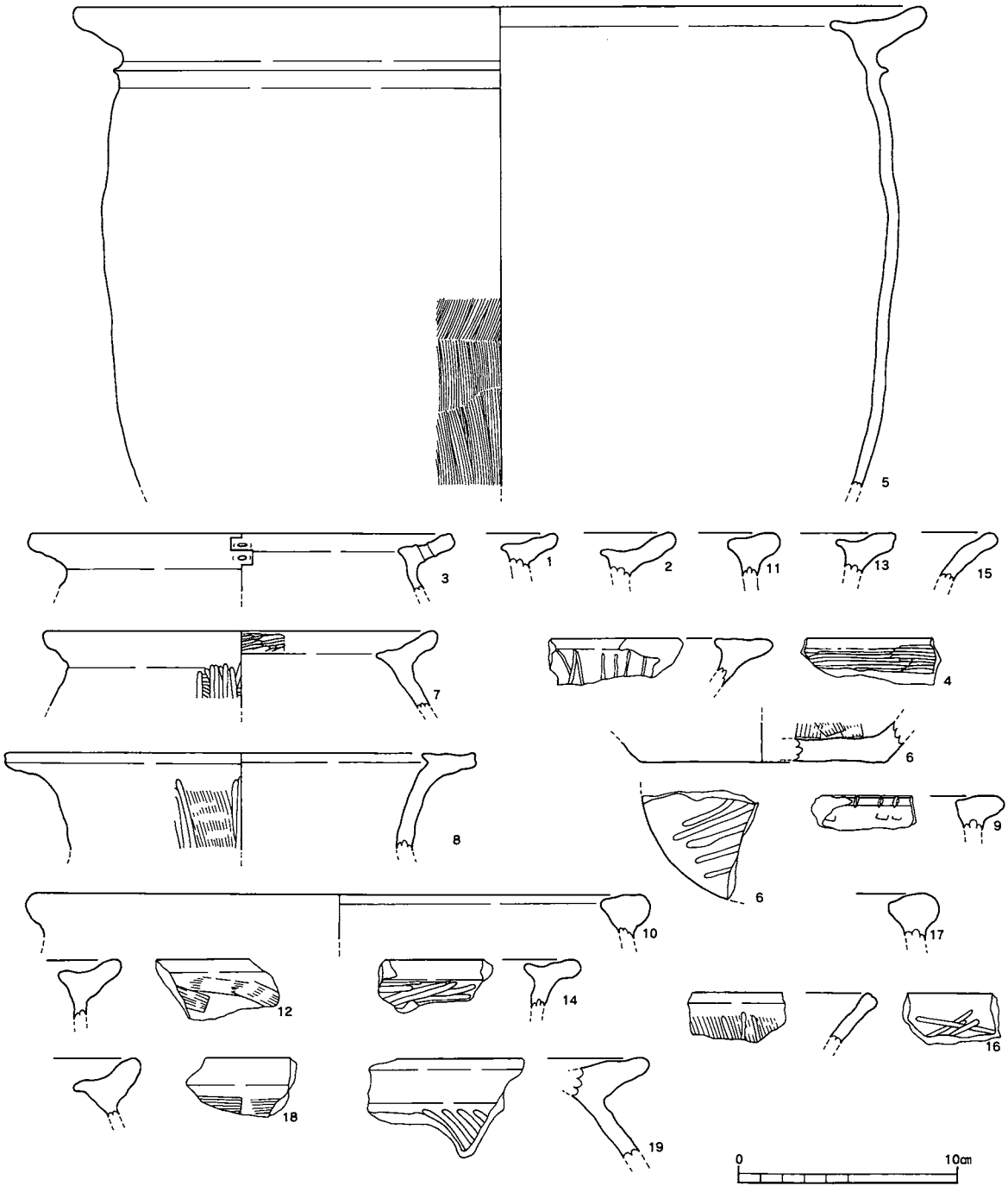
第Ⅲ-485図　05SI　平面・断面図(1/80)

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片9・底部片5、壺口縁部片3、短頸壺1が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　柱穴はいくつか検出しているが、住居が南側に伸びるため、柱構造は明確でない。出土土器や住居の新旧関係から考えて、住居の時期は7期に位置づけられると推定できる。

05ＳＩ（第Ⅲ-478・485・486図、PL.11）

位置　遺跡南西部（No.82区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.85ｍで、



第Ⅲ-486図　05SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～4･5)、P(3)、2層(7･8)、1層(9～19)〉

この住居埋没後03SIが建てられ09ＳＸが掘削されている。主軸の方位はN -21°-Eである。

住居形態　平面形態は方形を呈し、長軸4.0ｍ以上、短軸3.8ｍ以上を測る。残存床面積は10.2㎡で、検出面からの深さは40㎝である。硬化面は中央部に認められる。埋土は2層からなる人為的な堆積がみられる。

柱穴　柱穴の径は15～31㎝で、深さは31～43㎝である。柱痕跡の径は、11～20㎝である。

遺物出土状況　住居の埋土からは、甕口縁部片20、底部片1、壺口縁部片3、底部片1が出土している。

まとめ　主柱穴の配置等は不明である。07SIとの新旧関係から考えて、住居の時期は6B期に位置づけられると推定できる。

③東西水路調査区の調査（第Ⅲ-487図、PL.11）

23ＳＩ（第Ⅲ-487・488・489図）

位置　遺跡西部（東西水路Ａ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている。床面の標高は約52.5ｍで、この住居埋没後、北部に12ＳＩ・19ＳＸが掘削されている。主軸の方位はほぼ南北である。

住居形態　住居形態は不明で、長軸4.4ｍ、短軸1.3ｍ以上を測る。検出床面積は4.56㎡で、検出面からの深さは40㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は4層からなる。

遺物出土状況　埋土から甕の口縁部片や底部等が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　遺物の出土状況と住居の新旧関係から時期的には、4A期と推定できる。

27ＳＩ（第Ⅲ-487・490図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｂ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.4ｍで、この住居埋没後、東側に25ＳＩが建てられている。主軸の方位は不明である。

住居形態　住居形態は不明で、長軸2.5ｍ以上、短軸1.4ｍ以上を測る。検出床面積は3.5㎡で、検出面からの深さは30㎝である。硬化面は不明で、埋土は2層からなる。

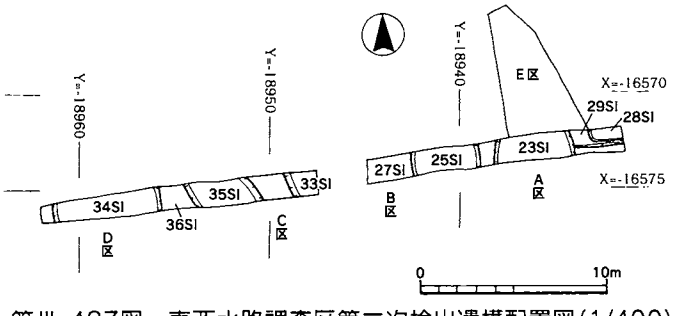
遺物出土状況　埋土中から、甕4点（破片のみ）が出土しているが、流れ込みの遺物と考えられる。時代の推定できる資料はない。

まとめ　遺物出土状況や住居の新旧関係から4A期以前と考えられる。

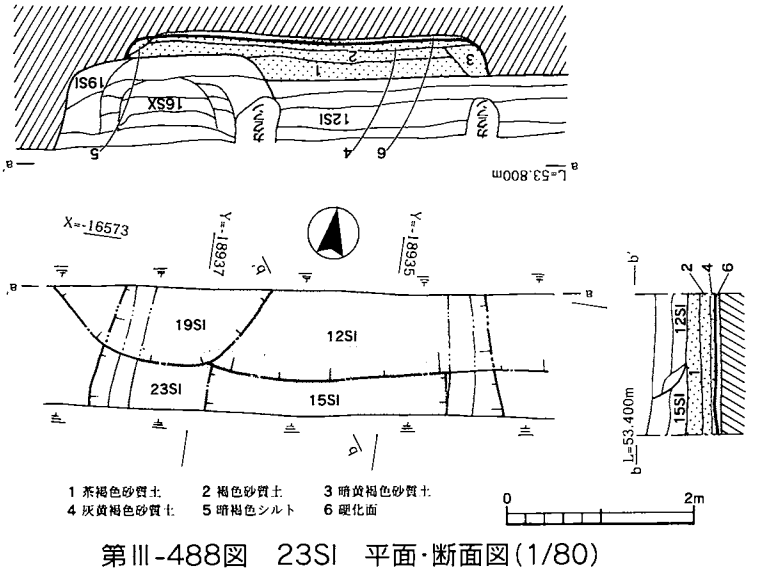
25ＳＩ（第Ⅲ-487・490・491図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｂ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.3ｍで、この住居埋没後、北側に18ＳＩが建てられている。主軸の方位はＮ-10°-Ｗである。

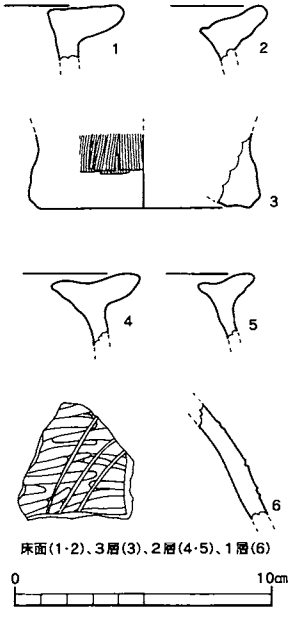
住居形態　住居形態は不明で、長軸3.6ｍ、短軸1.3ｍ以上を測る。検出床面積は2.0㎡で、検出面からの深さは



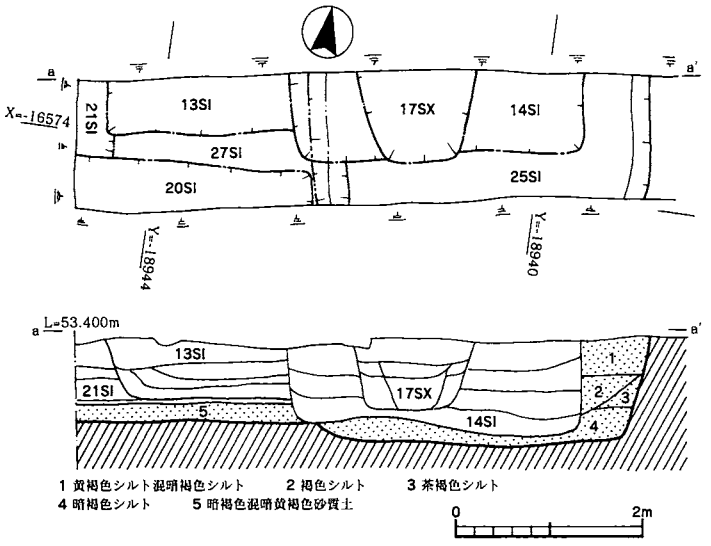
第Ⅲ-487図　東西水路調査区第二次検出遺構配置図(1/400)



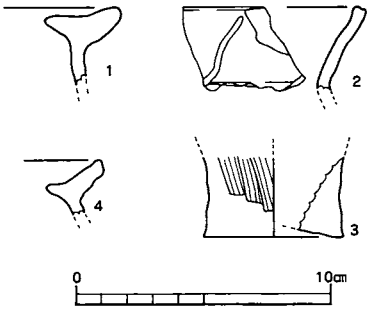
第Ⅲ-488図　23SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-489図　23SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-490図　27SI・25SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-491図　25SI出土土器実測図(1/3)
〈3層(1)、2層(2・3)、1層(4)〉

110㎝である。硬化面は不明で、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　埋土からは、甕4点、壺2点、甕の底部1点、突帯1点が出土している。流れ込みの遺物のみと推定できる。最下層から1点出ているが、住居が埋まる段階での流れ込みである。

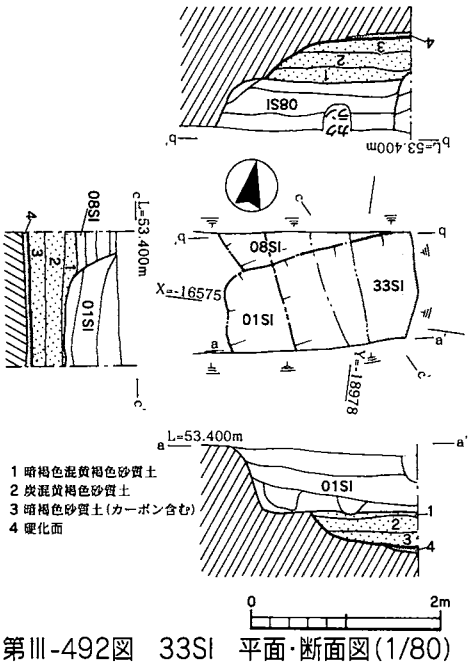
まとめ　住居の新旧関係や遺物の出土状況から4B期と考えられる。

33 S I (第Ⅲ-487・492・493図)

位置　遺跡西部(東西水路C調査区)の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている。床面の標高は約52.3mで、この住居埋没後01SI、33SIが建てられている。主軸の方位は不明である。

住居形態　住居形態は不明で、長軸1.5m以上、短軸1.2m以上を測る。検出床面積は1.2㎡で、検出面からの深さは40㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は3層からなる。

遺物出土状況　床面直上に壺の口縁部片が1点あるのみである。



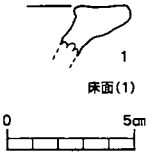
第Ⅲ-492図　33SI　平面・断面図(1/80)

まとめ　遺構の新旧関係や遺物の出土状況から4A期と考えられる。

35 S I (第Ⅲ-487・494図)

位置　遺跡西部(東西水路C調査区)の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている。床面の標高は約52.2mで、この住居埋没後西部に36 S I、上層には03SIが建てられている。主軸の方位はN-47°-Wである。

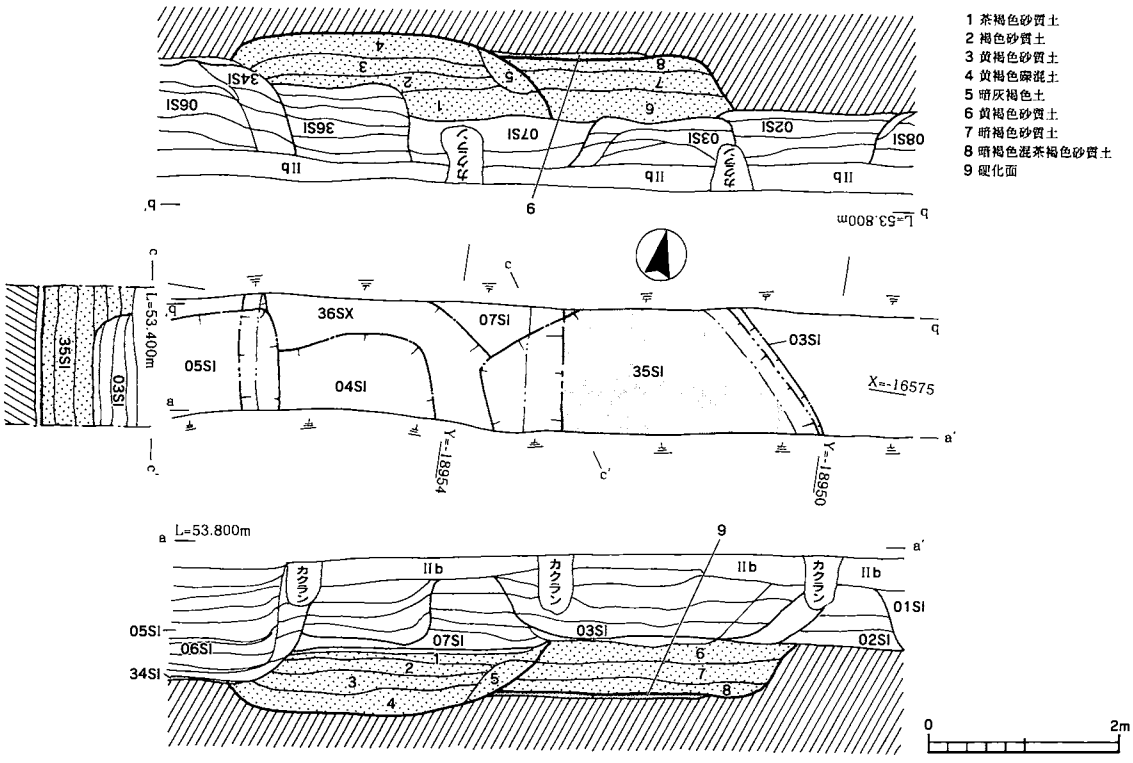
住居形態　住居形態は不明で、長軸2.2m以上、短軸1.5m以上を測る。残存床土器面積は2.54㎡で、検出面からの深さは70㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は3層からなる。



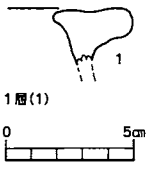
第Ⅲ-493図　33SI出土土器実測図(1/3)

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　遺物出土状況や住居の新旧関係から5期以前と考えられる。



第Ⅲ-494図　35SI・36SX　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-495図
36SX出土土器
実測図(1/3)

36 S X（第Ⅲ -487・494・495 図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｃ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.0 ｍで、この住居埋没後西部に 34SI、04SI、上層に 07SI 東部に 03SI が建てられている。主軸の方位は不明である。

住居形態　住居形態は不明で、長軸 3.5 ｍ、短軸 1.2 ｍ以上を測る。検出床面積は 3.0 ㎡で、検出面からの深さは 90 ㎝である。硬化面は不明、埋土は 4 層からなる。

遺物出土状況　1 層から甕の口縁部片（第Ⅲ -495 図 1）が出土している。

まとめ　遺物出土状況や住居の新旧関係から４Ａ期以前と考えられる。

32 S I（第Ⅲ -496・499・501 図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｄ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.3 ｍで、この住居埋没後東部に、34 ＳＩが建てられている。主軸の方位は不明である。

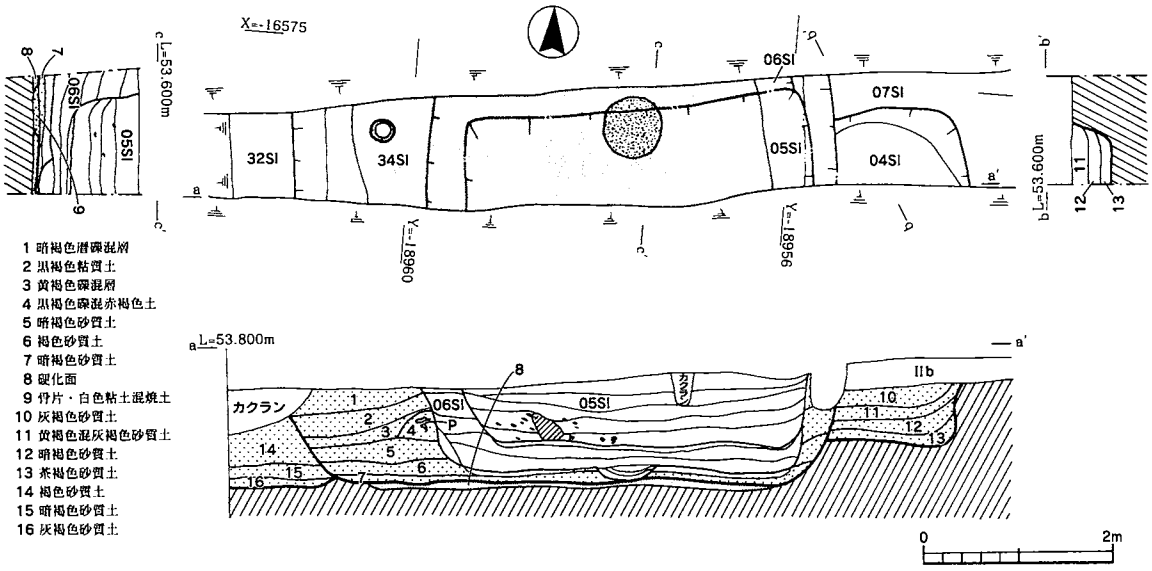
住居形態　住居形態は不明で、長軸 1.0 ｍ以上、短軸 0.7 ｍ以上を測る。検出床面積は 0.7 ㎡で、検出面からの深さは 80 ㎝である。硬化面は不明。埋土は 3 層からなる。

遺物出土状況　埋土から甕 2 点、壺 1 点・鉢 1 点（赤色顔料）突帯 2 点、長脚台細片（8 ～ 10 点）甕、壺細片少数が出土している。いずれも流れ込みの遺物である。

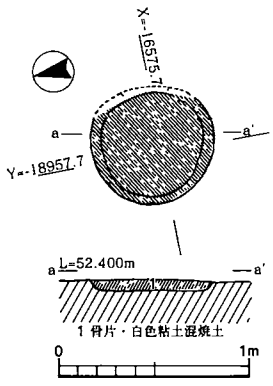
まとめ　遺物の出土状況から住居の時期は 6A 期と考えられる。

04 S I（第Ⅲ -496・498・501 図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｃ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 52.7 ｍで、この住居埋没後、西部は 34 ＳＩが建てられている。主軸の方位はＮ -19 °-Ｗである。



第Ⅲ-496図　32SI・04SI・34SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-497図　34SI内炉
平面・断面図(1/40)

住居形態　住居は方形を呈し、長軸1.4 m以上．短軸0.8 m以上を測る。検出床面積は0.66 ㎡で、検出面からの深さは60 ㎝である。硬化面は認められない。埋土は4層からなる。

遺物出土状況　埋土から甕8点、壺2点、壺底部1点、突帯4点、赤色顔料を彩色した土器が2点、甕の長脚部5点（細片）が出土している。床面直上からは、甕口縁部片・脚台付底部が出土している。1～3層から流れ込みの遺物が少量出土している。

まとめ　住居の新旧関係や遺物の出土状況から住居の時期は6B～7期と考えられる。

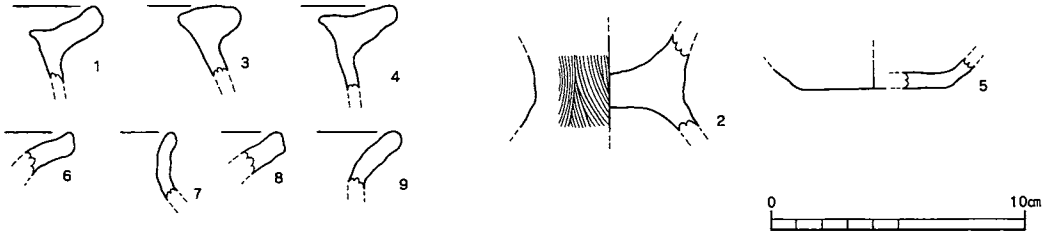
34ＳＩ（第Ⅲ-487・496・497・500図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｄ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.4 mで、この住居埋没06ＳＩが建てられている。主軸の方位はＮ-7°-Ｗである。

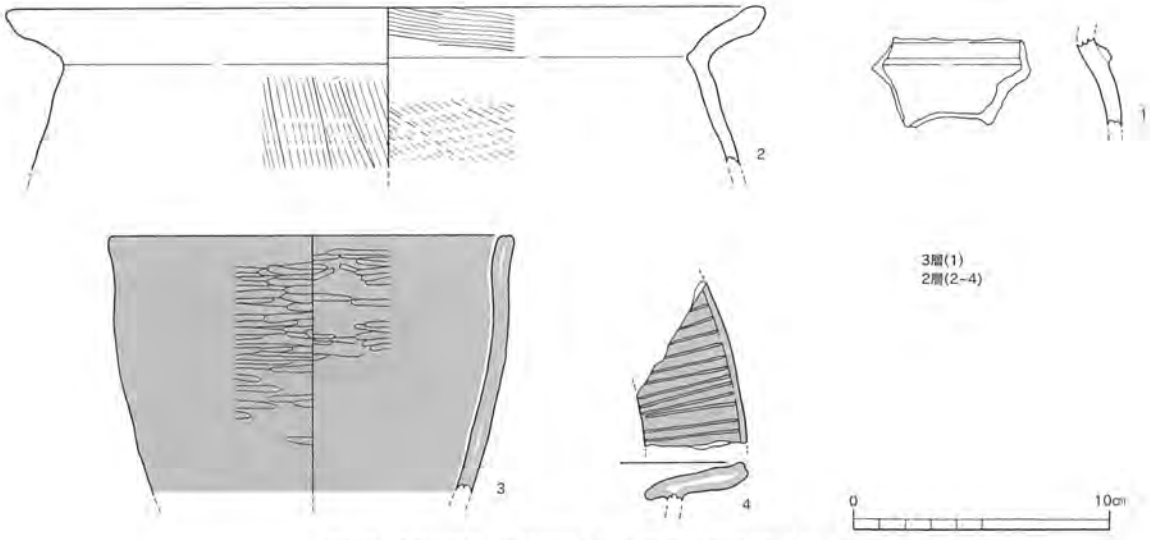
住居形態　住居形態は不明、長軸5.8 m、短軸1.2 m以上を測る。検出床面積は6.12 ㎡で、検出面からの深さは110 ㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は5層からなる。

炉　長軸65 ㎝、短軸65 ㎝、深さ10 ㎝を測る。

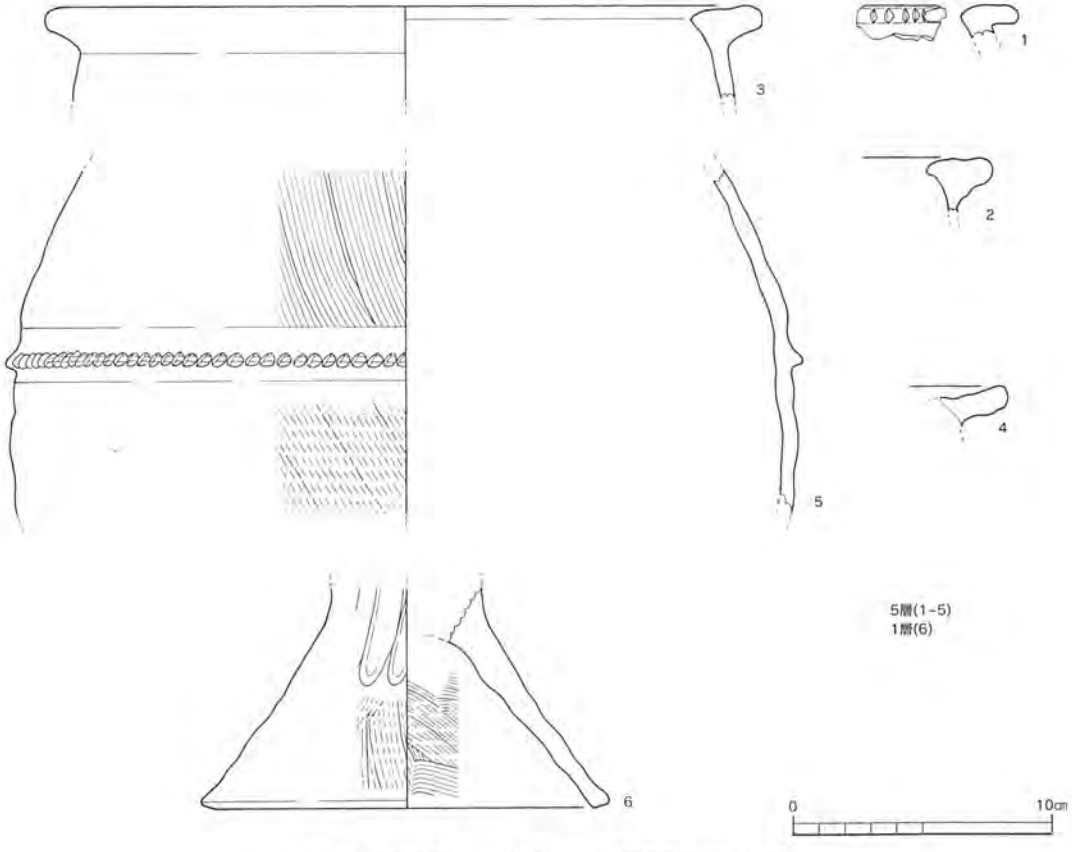
遺物出土状況　埋土から甕4点、壺1点、高坏（脚）1点、突帯2点、壺大型片2点、細片3個体以上が出土しているが、ほとんどが流れ込みで、床面直上から1点出土している。上層から第Ⅲ-500図6の甕の脚部が出土しているが、住居の新旧関係から混入の可能性が高い。



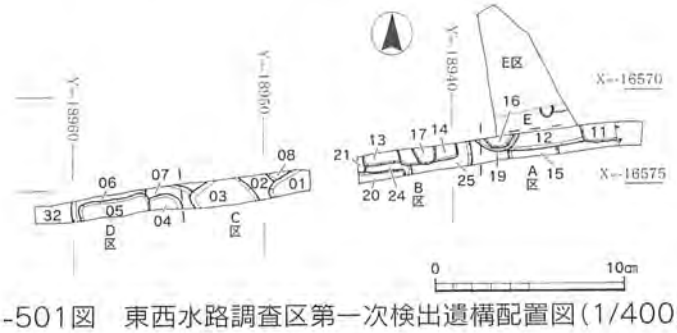
第Ⅲ-498図　04SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1・2)、3層(3～5)、2層(6・7)、1層(8・9)〉



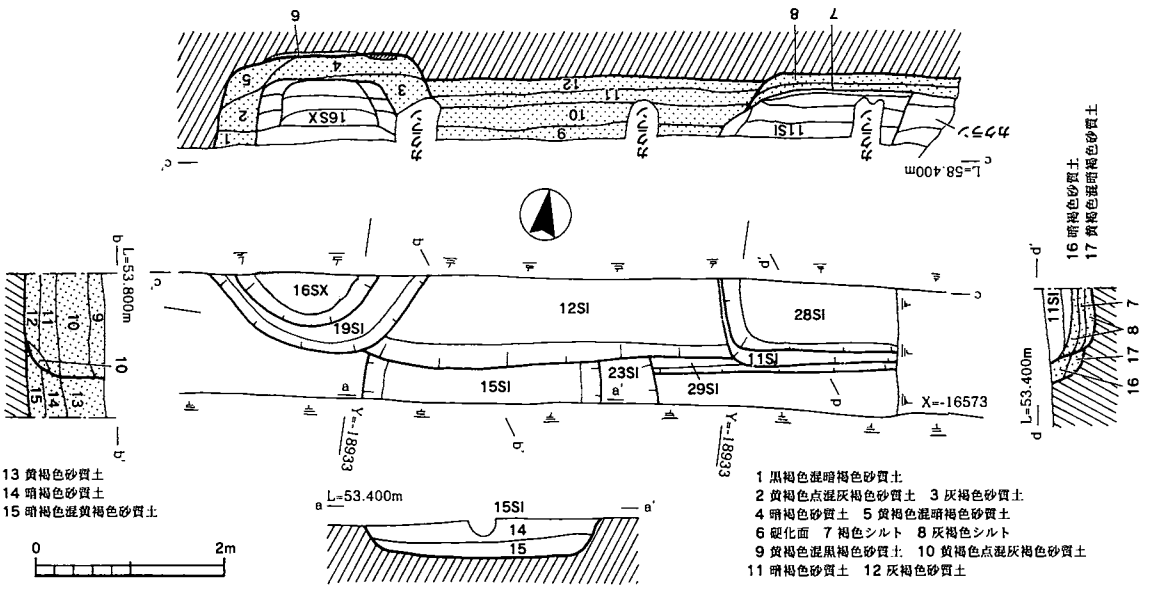
第Ⅲ-499図　32SI出土土器実測図(1/3)



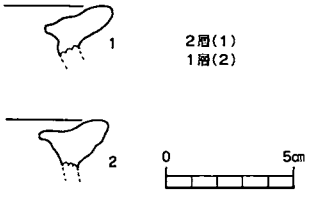
第Ⅲ-500図　34SI出土土器実測図(1/3)



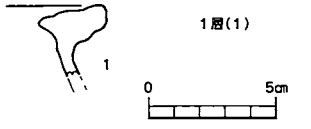
第Ⅲ-501図　東西水路調査区第一次検出遺構配置図(1/400)



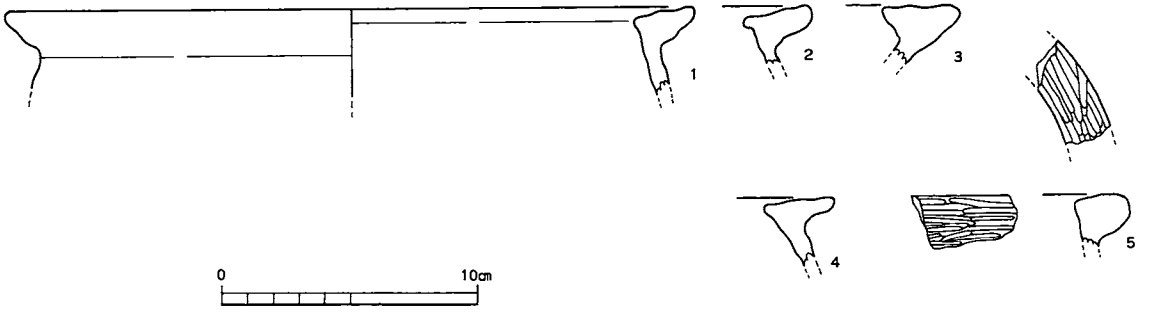
第Ⅲ-502図　29SI・15SI・12SI・28SI・19SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-503図　15SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-504図　19SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-505図　12SI出土土器実測図(1/3)〈4層(1・2)、3層(3)、2層(4・5)〉

まとめ　住居の新旧関係や遺物の出土状況から住居の時期は6A期と考えられる。

29 S I（第Ⅲ-487・502図）

位置　遺跡西部（東西水路A調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9 mで、この住居埋没後12SI及び11・28SIが建てられている。主軸の方位は不明である。

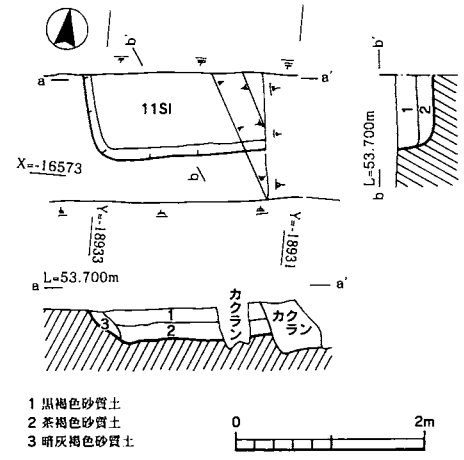
住居形態　住居形態は不明で、長軸2.6 m以上、短軸0.3 m以上を測る。検出床面積は0.09 ㎡で、検出面からの深さは30 cmである。硬化面は不明で、埋土は2層からなる。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

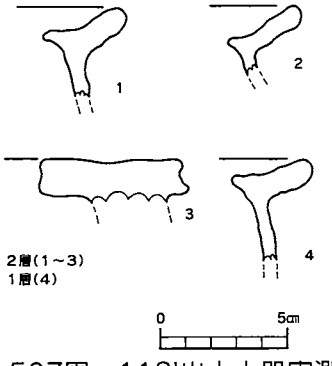
まとめ　住居の新旧関係から3～4A期と考えられる。

15 S I（第Ⅲ-501・502・503図、PL.11）

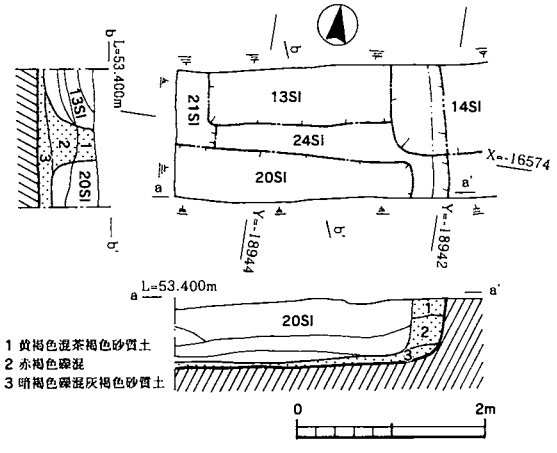
位置　遺跡西部（東西水路A調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の



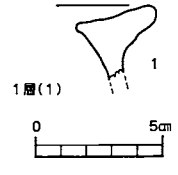
第Ⅲ-506図　11SI　平面・断面図(1/80)



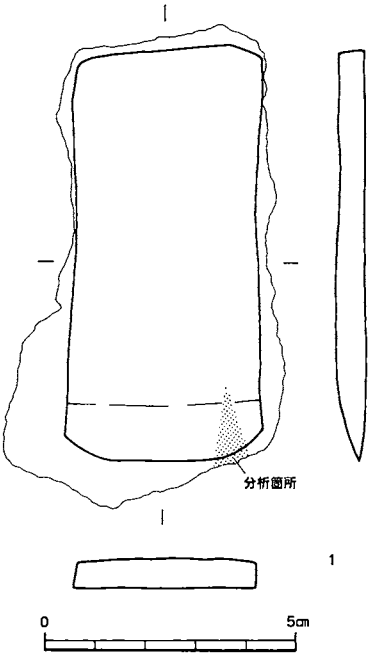
第Ⅲ-507図　11SI出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-509図　24SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-510図
24SI出土土器
実測図(1/3)



第Ⅲ-508図　11SI出土鉄器実測図(1/3)

標高は約53.0ｍで、この遺構埋没後北部に12ＳＩが建てられている。主軸の方位は不明だが、北西（南東）方向に主軸を持つ可能性が高い。

住居形態　遺構の形態は不明で、上記のように主軸を考えると長軸2.5ｍ、短軸0.4ｍ以上を測る。検出床面積は０.８㎡で、検出面からの深さは40㎝である。硬化面は不明で、埋土は２層からなる。

遺物出土状況　甕破片多数（甕棺破片５点以上）、突帯１点、塗り１点が出土している。いずれも流れ込みの遺物であると推定できる。

まとめ　遺物の出土状況や住居の新旧関係から住居の時期は4A期と考えられる。規模や位置から考て23SI埋没課程で土坑として利用されたと考えられる。

12ＳＩ（第Ⅲ-501・502・505図）

位置　遺跡西部（東西水路Ａ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている。床面の標高は約52.9ｍで、この住居埋没後に東部に11ＳＩ、西部に19ＳＸが掘削されている。主軸の方位はほぼ座標軸に沿う。

住居形態　住居形態は方形と推定でき、長軸3.8ｍ以上、短軸0.9ｍ以上を測る。検出床面積は2.1㎡で、検出面からの深さは60㎝である。硬化面は不明で、埋土は４層からなる

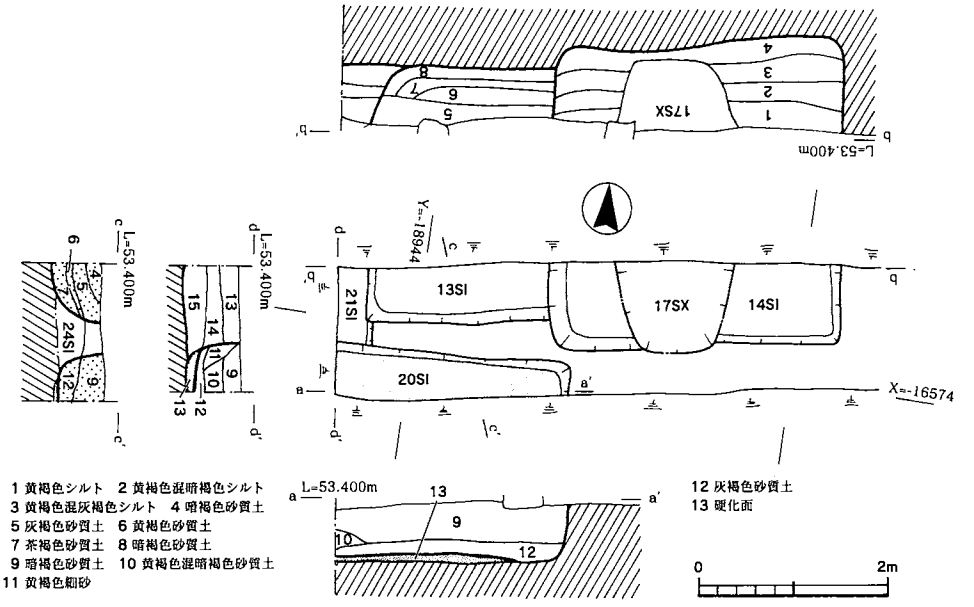
遺物出土状況　埋土から甕５点、(胴部片多い、４個体以上)、壺３点、突帯３点、赤色顔料土器１点、いずれも流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　遺物の出土状況や住居の新旧関係から住居の時期は4A期と考えられる。

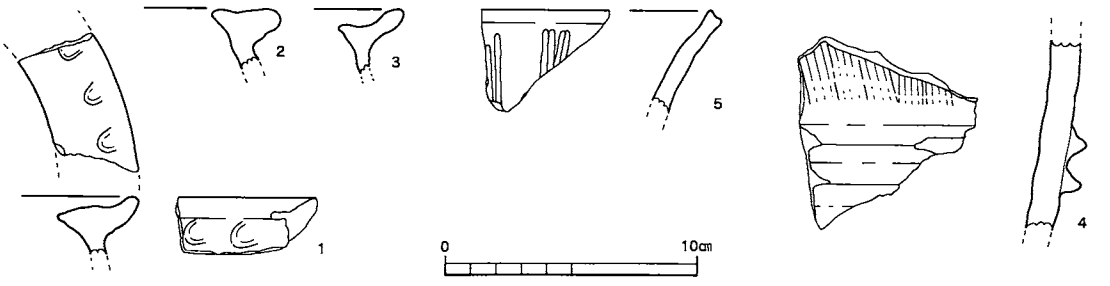
28ＳＩ（第Ⅲ-487・502図）

位置　28ＳＩは、遺跡西部（東西水路Ａ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、主軸の方位はＮ-12°-Ｗである。

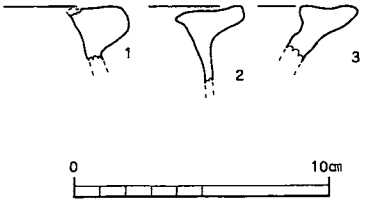
住居形態　住居は方形呈し、長軸1.9ｍ以上、短軸0.7ｍを測る。検出床面積は0.96㎡で、検出面からの深



第Ⅲ-511図　21SI・20SI・13SI・14SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-512図　20SI出土土器実測図(1/3)〈2層(1)、1層(2～5)〉



第Ⅲ-513図　13SI出土土器実測図(1/3)

さは30㎝である。硬化面は不明で、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　床面の標高が20㎝程差異があるが、11SIとほぼ同一の平面形態を持つことから建て替えの可能性もある。11SIの出土遺物から考えて、4B～5期と推定できる。

19 S I (第Ⅲ-501・502図)

位置　遺跡西部(東西水路A調査区)の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7mで、主軸の方位は不明であるが、北西方向にややふれると推定される。

住居形態　住居はほぼ楕円形を呈し、長軸2.3m以上、短軸0.9m以上を測る。検出床面積は1.6㎡で、検出面からの深さは110㎝である。硬化面は不明で、埋土は3層からなる。

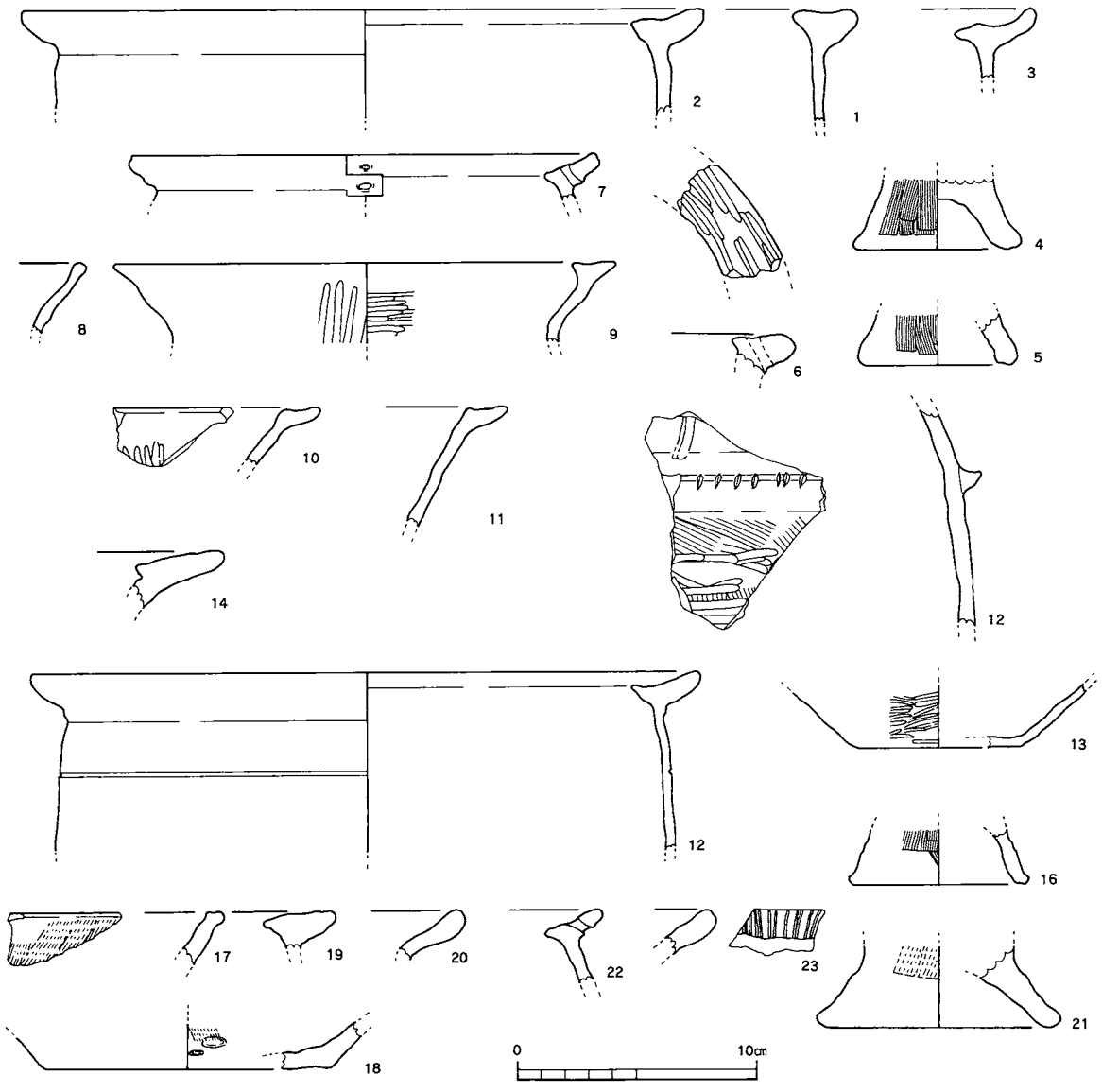
遺物出土状況　埋土からは甕細片、胴部のみで流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　遺物の出土状況と住居の新旧関係から4A～6Aと推定できる。

11 S I (第Ⅲ-501・506・507・508図)

位置　遺跡西部(東西水路A調査区)の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.2mで、主軸の方位はN-12°-Wである。

住居形態　住居は方形を呈し、長軸1.8m以上、短軸0.9m以上を測る。検出床面積は1.44㎡で、検出面か



第Ⅲ-514図　14SI出土土器実測図(1/3)〈4層(1～14)、3層(15～18)、2層(19)、1層(20～22)〉〈13SI・14SIトレンチ(23)〉

らの深さは30㎝である。硬化面は不明で、埋土は2層からなる。

遺物出土状況　甕5点、壺1点、突帯1点。板状鉄斧（第Ⅲ-508図1）が1点出土している。ほとんどが流れ込みの遺物で、床面直上の遺物は出土していない。

まとめ　遺物の出土状況から住居の時期は5期と考えられる。

24 S I（第Ⅲ-501・509・510図）

位置　遺跡西部（東西水路B調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6 mで、住居埋没後、西部に21 S Iが建てられている。主軸の方位はN-13°-Wである。

住居形態　住居形態は不明で、長軸2.9 m以上．短軸1.4 m以上を測る。検出床面積は3.78 ㎡で、検出面からの深さは70㎝である。硬化面は不明で、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　埋土1層から甕2点、突帯1点が出土している。

まとめ　遺物出土状況や住居の新旧関係から4A期と考えられる。

21 S I（第Ⅲ-501・511図）

位置　遺跡西部（東西水路B調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている。床面の標高は約52.7

mで、この住居埋没後東部には13ＳＩ、南部には20ＳＩが建てられている。主軸の方位は不明である。

住居形態　住居形態は不明で、長軸0.6 m以上．短軸0.7 m以上を測る。検出床面積は0.24 ㎡で、検出面からの深さは60 ㎝である。硬化面は不明で、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　　時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　住居の新旧関係から4A～6A期と推定できる。

20ＳＩ（第Ⅲ-501・511・512図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｂ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8 mで、主軸の方位はＮ-7°-Ｅである。

住居形態　住居は方形を呈し、長軸2.5 m以上．短軸0.6 m以上を測る。検出床面積は1.2 ㎡で、検出面からの深さは60 ㎝である。硬化面は不明で、埋土は2層からなる。

遺物出土状況　埋土から甕（細片6個体以上、甕棺片を含む。）壺4点、高坏1点、突帯3点、黒曜石の剥片1点が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　遺物出土状況や住居の新旧関係から4B期以降と考えられる。

13ＳＩ（第Ⅲ-501・511・513図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｂ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.7 mで、この住居埋没後東部に14ＳＩが建てられている。主軸の方位はＮ-9°-Ｅである。

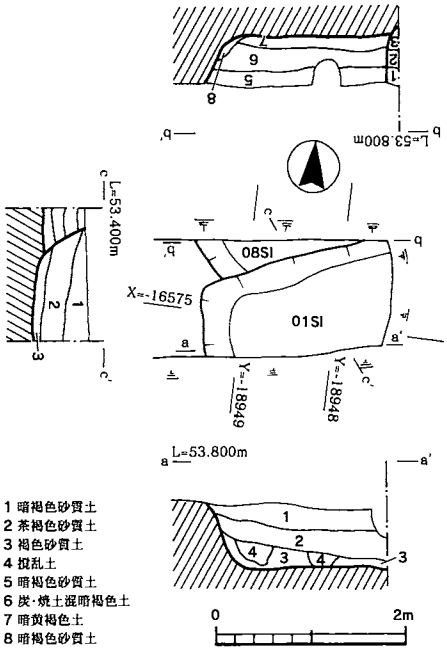
住居形態　住居は方形を呈し、長軸1.9 m以上．短軸0.6 m以上を測る。検出床面積は0.9 ㎡で、検出面からの深さは50 ㎝である。硬化面は認められない。埋土は4層からなる。

遺物出土状況　埋土から甕3点（3個体以上）壺5点（うち、赤色顔料土器1点）突帯4点出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

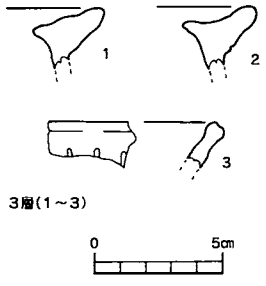
まとめ　住居の新旧関係や遺物の出土状況から4B～6A期と考えられる。

14ＳＩ（第Ⅲ-501・511・514図）

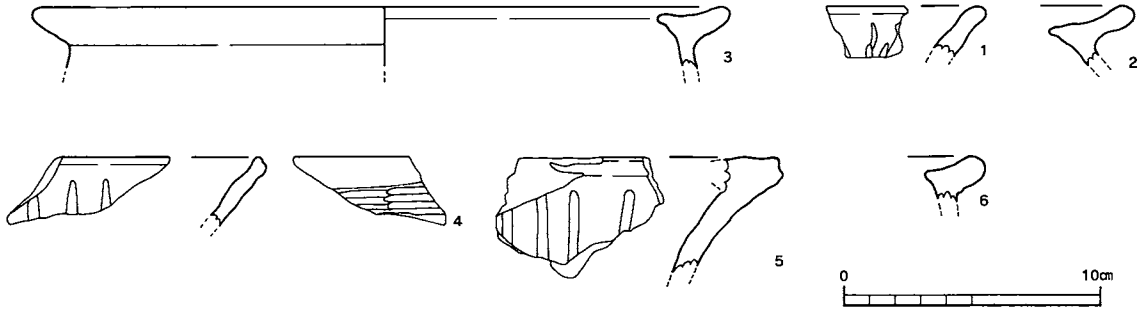
位置　遺跡西部（東西水路Ｂ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地



第Ⅲ-515図　08SI・01SI
平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-516図　08SI
出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-517図　01SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、3層(2・3)、2層(4・5)、1層(6)〉

形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.3 mで、この住居埋没後17ＳＸが掘削されている。主軸の方位は不明である。

住居形態　住居は方形を呈し、長軸2.5 m、短軸0.4 mを測る。検出床面積は0.5 ㎡で、検出面からの深さは40 ㎝である。硬化面は不明で、埋土は4層からなる。

遺物出土状況　埋土から甕19点（細片多数）壺4点、鉢5点、底部4点、脚台付底部3点、突帯8点、塗り2点、縄文土器1点（黒色磨研．浅鉢）石鏃（4層）が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　遺物の出土状況から6A期と推定できる。

08ＳＩ（第Ⅲ-501・515・516図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｃ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8 mで、この住居埋没後南部に01ＳＩが建てられている。主軸の方位は不明である。

住居形態　住居形態は不明で、長軸2.0 m以上、短軸0.4 m以上をはかる。検出床面積は0.15 ㎡で、検出面からの深さは50 ㎝である。硬化面は不明、埋土は3層からなる。

遺物出土状況　1～4層の間に、流れ込みの遺物が1～2点ずつ入っているのみである。埋土から併せて甕4点、壺1点、底部1点、赤色顔料を施した土器が2点が出土している。

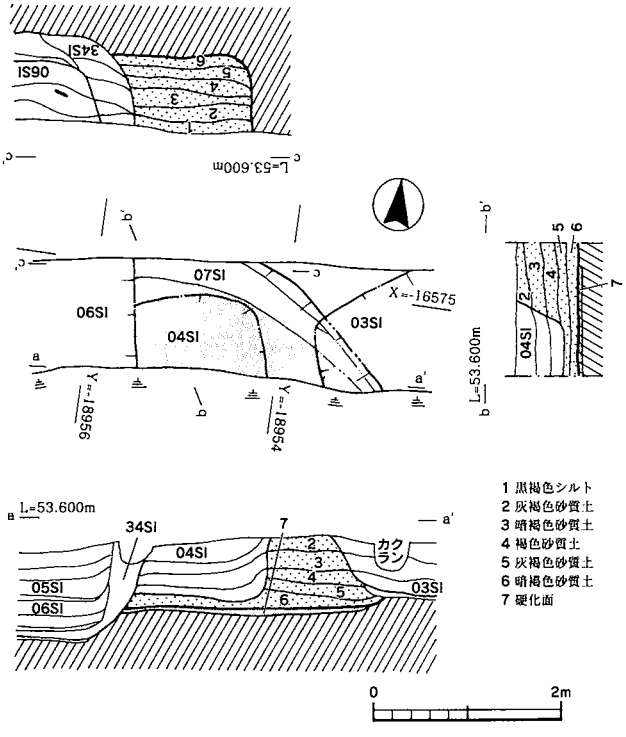
まとめ　遺構の新旧関係や遺物の出土状況から4B期と考えられる。

01ＳＩ（第Ⅲ-501・515・517図）

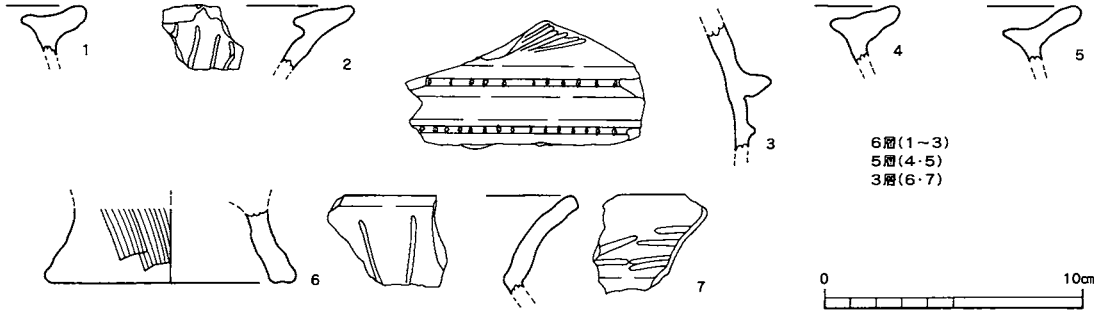
位置　遺跡西部（東西水路Ｃ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6 mで、主軸の方位はＮ-12°-Ｗである。この住居は08SI、33SI埋没後建てられている。

住居形態　住居はほぼ方形を呈し、長軸2.0 m以上、短軸1.0 m以上を測る。検出床面積は1.36 ㎡で、検出面からの深さは60 ㎝である。硬化面は不明で、埋土は3層からなる。

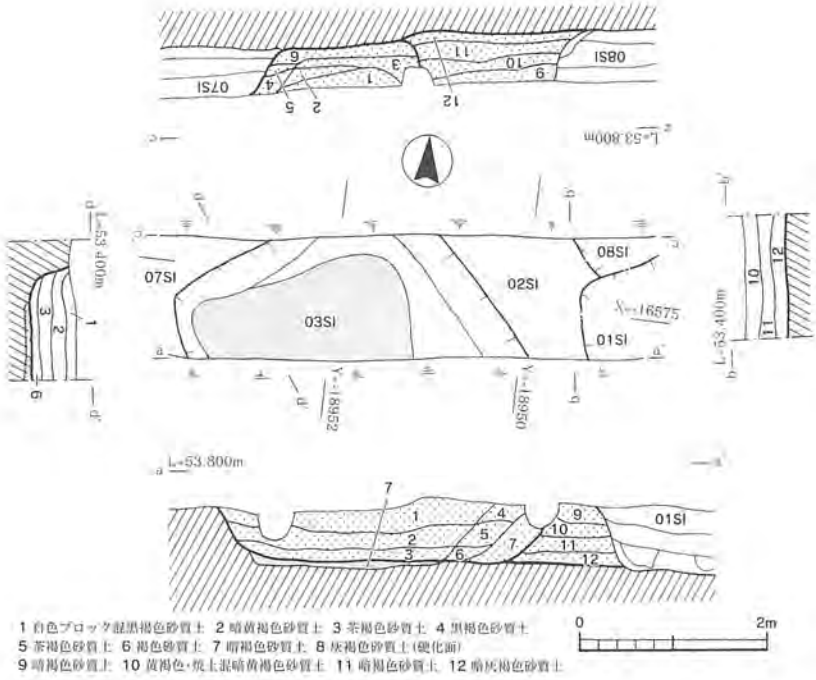
遺物出土状況　ほとんどが流れ込みの遺物である。4層に壺・甕等の破片が多く含まれている。床面からは壺口縁部が出土している。住居



第Ⅲ-518図　07SI　平面・断面図(1/80)

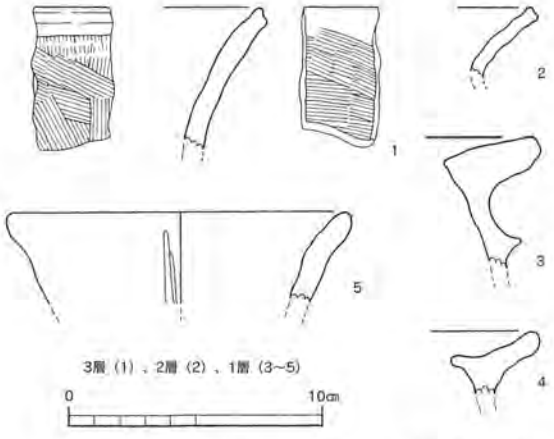


第Ⅲ-519図　07SI出土土器実測図(1/3)



1 白色ブロック混黒褐色砂質土 2 暗黄褐色砂質土 3 茶褐色砂質土 4 黒褐色砂質土
5 茶褐色砂質土 6 褐色砂質土 7 暗褐色砂質土 8 灰褐色砂質土(硬化面)
9 暗褐色砂質土 10 黄褐色・炭土混暗黄褐色砂質土 11 暗褐色砂質土 12 暗灰褐色砂質土

第Ⅲ-520図　02SI・03SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-521図　02SI出土土器実測図(1/3)

の埋土から壺片4点、甕片7点（うち、突帯付きが4点、丹塗りのものが1点）が出土している。また4層埋土から、石包丁1点、石鏃1点が出土している。

まとめ　遺構の新旧関係や遺物の出土状況から5期と考えられる。

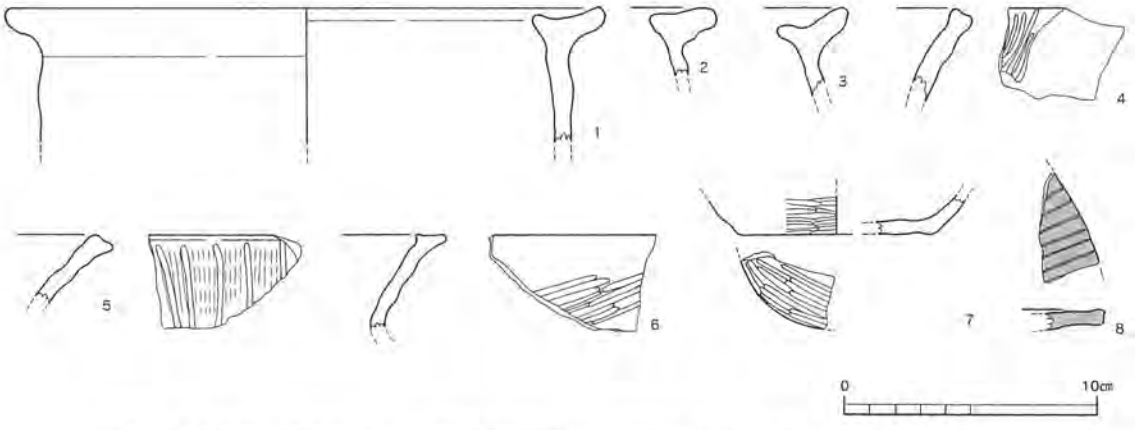
07SI（第Ⅲ-501・518・519図）

位置　遺跡西部（東西水路C調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6mで、主軸の方位は不明である。この住居埋没後、04SIが建てられている。

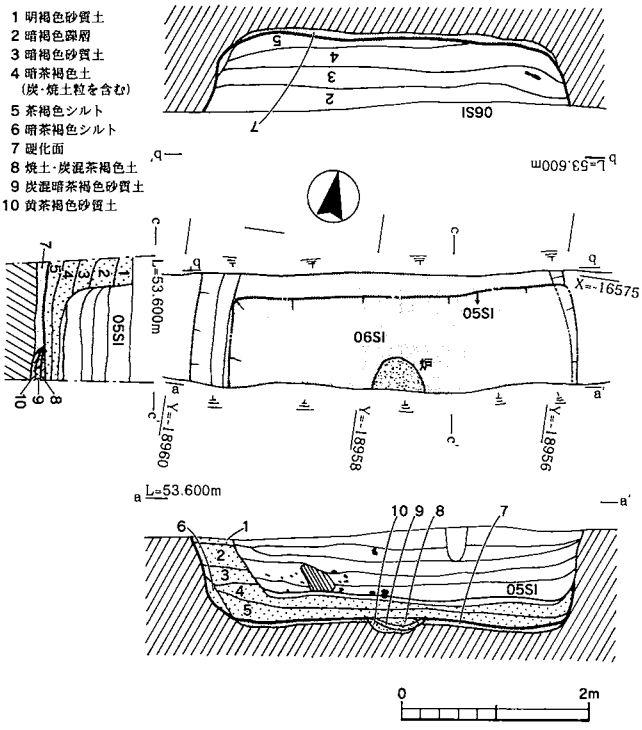
住居形態　住居形態は不明で、長軸2.5m以上、短軸1.2m以上を測る。検出床面積は2.16㎡で、検出面からの深さは70㎝である。硬化面は不明、埋土は5層からなる。

遺物出土状況　甕4点、壺3点、脚台付底部1点、突帯4点（うち、沈線入り1点）甕細片4個体以上が出土している。3・4層に出土が多く、6層（硬化面下）に1点あるが、床面直上出土の遺物はない。

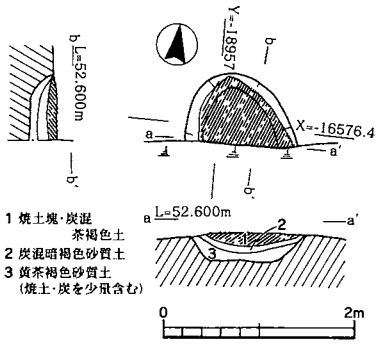
まとめ　住居の新旧関係や遺物の出土状況



第Ⅲ-522図　03SI出土土器実測図(1/3)〈3層(1)、2層(2~4)、1層(5~8)〉



第Ⅲ-523図　06SI　平面・断面図(1/80)



第Ⅲ-524図　06SI内炉
平面・断面図(1/40)

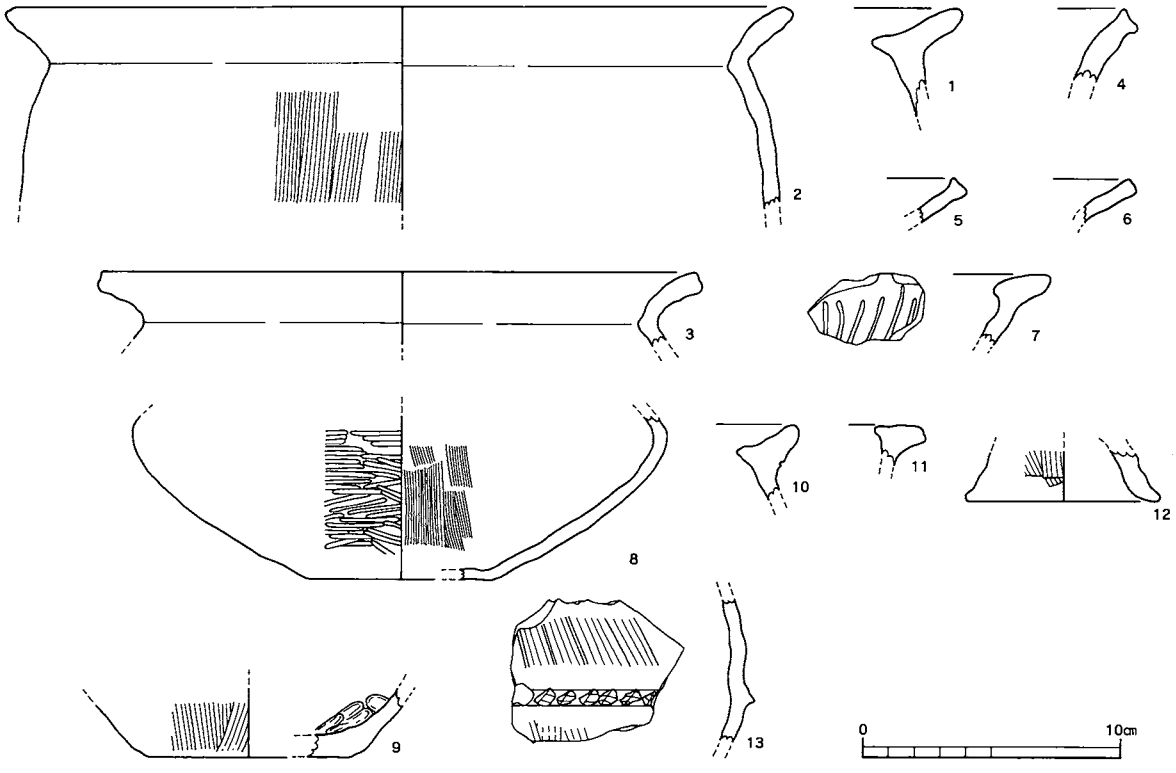
から住居の時期は５期と考えられる。

02ＳＩ（第Ⅲ-501・520・521図）

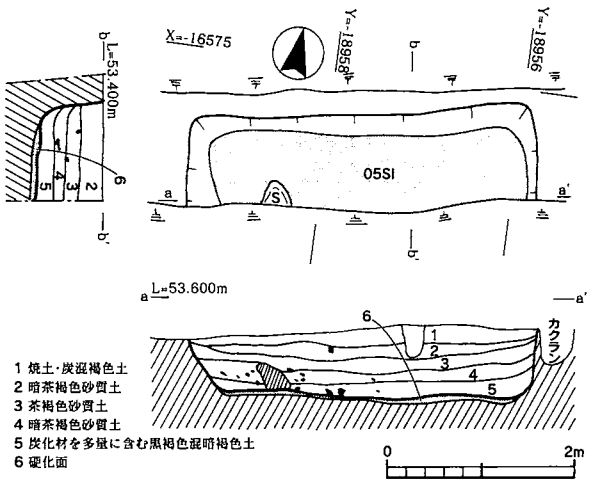
位置　遺跡西部（東西水路Ｃ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、この住居埋没後、東部には01と08ＳＩが、西部には03ＳＩが建てられている。主軸の方位は不明である。

住居形態　住居形態は不明、長軸1.5ｍ以上．短軸1.0ｍ以上を測る。検出床面積は1.5㎡で、検出面からの深さは70㎝である。硬化面は不明。埋土は３層からなる。

遺物出土状況　埋土からは、壺７点、甕３点、突帯付き３点（うち、沈線入り２点）、丹塗りのもの１点、１層埋土からは、黒曜石が１点出土している。流れ込みの遺物と推定できる。床面出土の遺物はない。



第Ⅲ-525図　06SI出土土器実測図(1/3)〈床面(1～9)、3層(10～12)、1層(13)〉



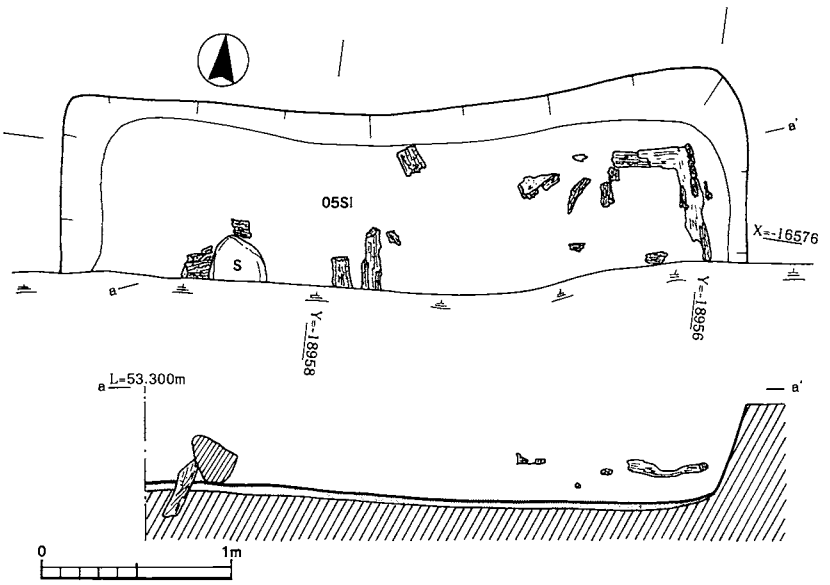
第Ⅲ-526図　05SI　平面・断面図(1/80)

まとめ　住居の時期は、住居の新旧関係や遺物の出土状況から住居の時期は４Ｂ～５期と考えられる。

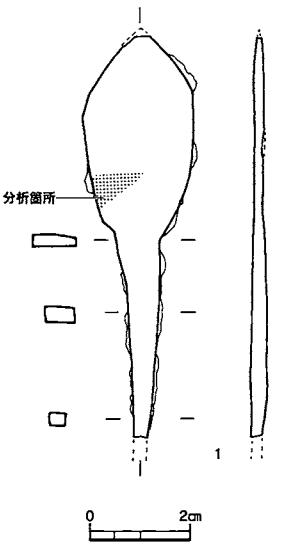
03ＳＩ（第Ⅲ-501・520・522図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｃ調査区）の氾濫源上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.8ｍで、主軸の方位はＮ-33°-Ｗである。

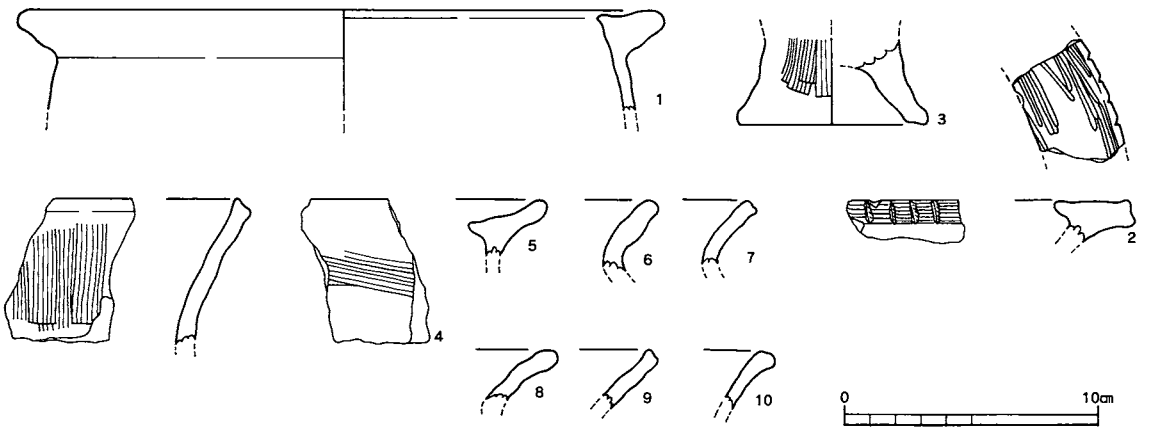
住居形態　住居は方形を呈し、長軸3.0ｍ.短軸1.35ｍ以上を測る。検出床面積は2.8㎡、検出面からの深さは70㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は３層からなる。



第Ⅲ-527図　05SI内炭化材出土状況　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-529図　05SI出土鉄器実測図(2/3)



第Ⅲ-528図　05SI出土土器実測図(1/3)〈4層(1・2)、3層(3・4)、1層(5～10)〉

遺物出土状況　埋土から甕８点、壺５点（うち１点は赤彩した土器）、赤彩した高坏も出土している。床面直上の遺物は壺口縁部が１点である。いずれも流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　遺物の出土状況から住居の時期は6A期と考えられる。

06ＳＩ（第Ⅲ-501・523・524・525図）

位置　遺跡西部（東西水路Ｄ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約53.1ｍで、主軸の方位はＮ-3°-Ｗである。

住居形態　住居形態は不明で、長軸3.8ｍ．短軸1.2ｍ以上を測る。検出床面積は4.08㎡で、検出面からの深さは80㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は４層からなる。

遺物出土状況　甕７点・壺３点・底部２点・脚台付底部１点・突帯５点・赤彩土器片１点が出土している。１～３層までほぼ同量の遺物が出土している。４層床面近くに壺、甕の口縁部、底部が多く出土している。

まとめ　住居の新旧関係や遺物の出土状況から住居の時期は6B期と考えられる。

05ＳＩ（第Ⅲ-501・526・527・528・529図、PL.51）

位置　遺跡西部（東西水路Ｄ調査区）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.6ｍで、主軸の方位はＮ-17°-Ｗである。

住居形態　住居は方形を呈し、長軸3.7ｍ．短軸1.0ｍを測る。検出床面積は3.04㎡で、検出面からの深さは70㎝である。硬化面は広い範囲に認められる。埋土は４層からなる。

遺物出土状況　甕６点・壺８点・高坏１点・脚台付底部２点・突帯５点・赤色顔料を塗布した土器１点・鉄鏃が出土している。１～４層の遺物の量は同じくらいである。いずれも流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　遺物の出土状況から住居の時期は７期と考えられる。

（3）屋外土坑

２区55基、82区７基検出されている。後述する土坑墓との区別が必ずしも明確ではないが、明らかに墓域の中で墓の可能性が高いもの（例 九電鉄塔調査区仮・新No.61）は、土坑墓の中で記述している。

①２区の調査（第Ⅲ-530図）

1234ＳＫ（第Ⅲ-531図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.4ｍで、この土坑埋没後、東側に1233ＳＫが掘削されている。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.55m以上、深さ0.75ｍを測る。埋土は３層からなる。断面の形態はＵ字状である。

遺物出土状況　断面で確認できたのみで、遺構内出土土器を特定できなかった。

まとめ　土坑の時期は、183ＳＩが埋没してから掘削していることから７期以降と考えられる。

1233ＳＫ（第Ⅲ-531図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.6ｍで、183SI、1234ＳＫが埋没してから掘削している。

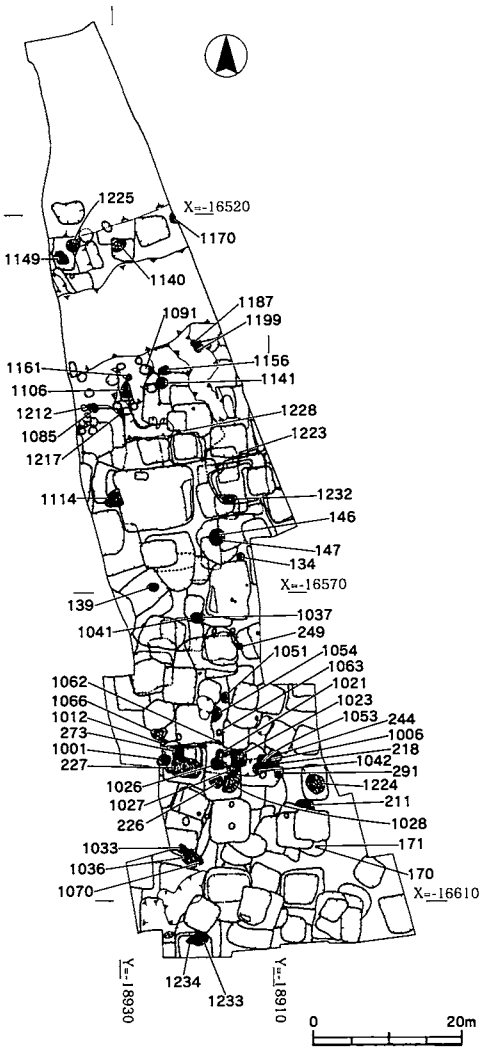
土坑形態　平面形態は楕円形を呈する。長軸2.1m、短軸1.6m、深さ0.7ｍを測る。埋土は６層からなる。断面の形態は凹字状である。

遺物出土状況　断面で確認できたのみであり、遺構内出土土器を特定できなかった。

まとめ　土坑の時期は、183SIとの新旧関係から７期以降と推定される。

1033ＳＫ（第Ⅲ-531・532図、PL.35）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.4ｍで、長軸方向はＮ-28°-Ｅである。



第Ⅲ-530図　2区屋外土坑配置図(1/1000)

土坑形態　平面形態は方形を呈し、長軸1.6 m、短軸1.3m、深さ0.45 mを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。

まとめ　土坑の時期は、1017SI埋没後に掘削されていることや、遺物の出土状況から6A期以降と考えられる。

1036 S K（第Ⅲ-531・532・533図、PL.51）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.1 mで、1017 S Iと1070 S K埋没後掘削されている。長軸方向はN-45°-Wである。

土坑形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.0 m以上、短軸1.9m、深さ0.25 mを測る。埋土は3層からなる。断面の形態はU字状である。

遺物出土状況　流れ込みの遺物が出土している。

まとめ　土坑の時期は、1017 S I埋没後に掘削されていることや、遺物の出土状況から6～7期と考えられる。

1070 S K（第Ⅲ-531・532図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.0 mで、この土坑埋没後、北西側に1036 S Kが掘削されている。長軸方向はN-42°-Eである。

土坑形態　平面形態は方形を呈する。長軸0.95m、短軸0.74m、深さ0.5 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態はU字状である。

まとめ　土坑の時期は、この土坑埋没後に1036SKが掘削されていることと遺物の出土状況から4A期と考えられる。

1224 S K（第Ⅲ-531・532図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。検出面の標高は約53.9 mで、長軸方向はN-40°-Wである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸2.85m、短軸2.25m、深さ0.32 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は皿状である。

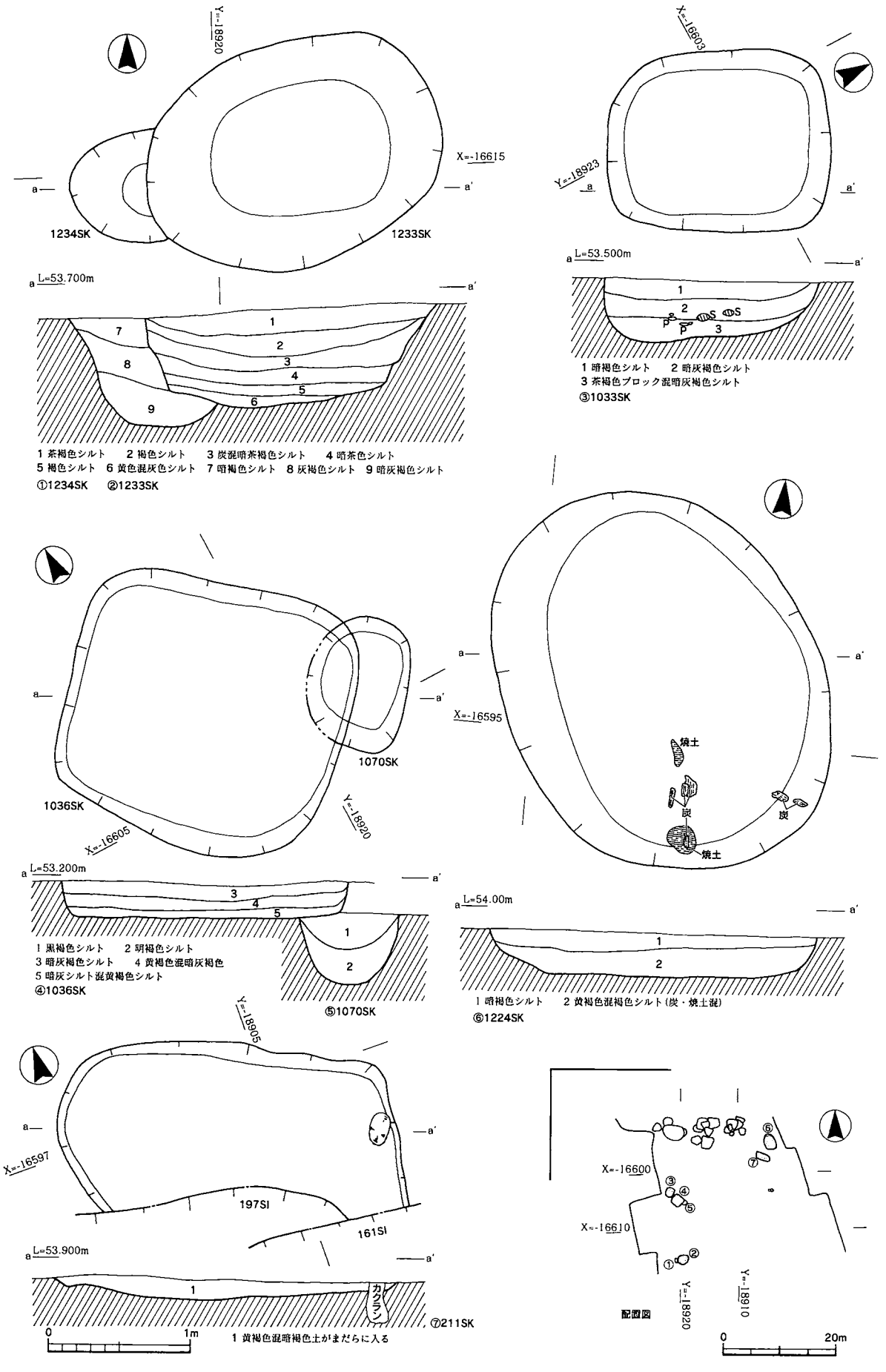
まとめ　土坑の時期は、207 S Iが埋没してから掘削されていることから、5期以降と考えられる。

211 S K（第Ⅲ-531図）

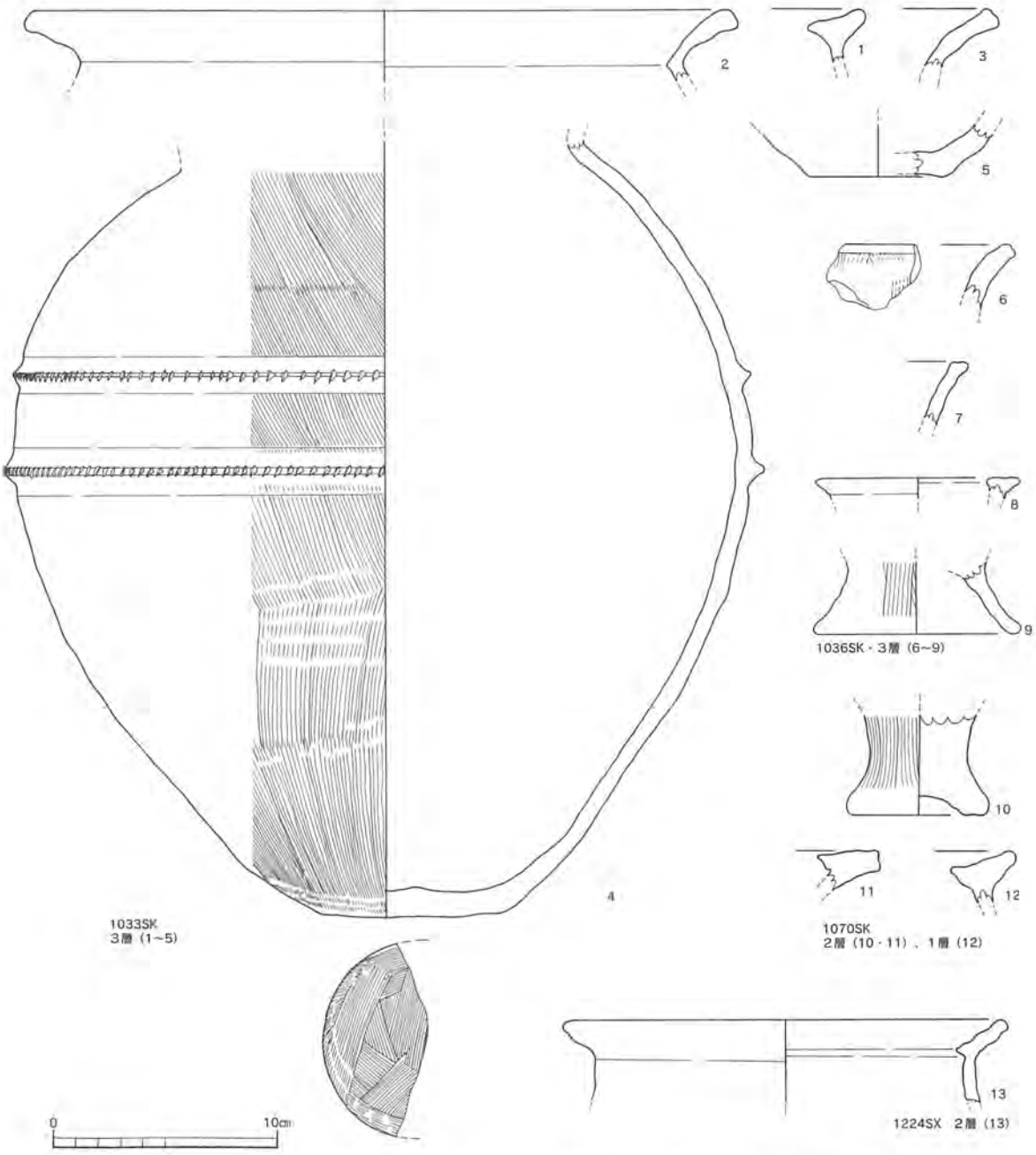
位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。検出面の標高は約53.8 mで、この土坑埋没後、南側に197 S I・161 S Iが建てられている。長軸方向はN-70°-Wである。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸2.4m、短軸1.0m以上、深さ0.15 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は皿状である。

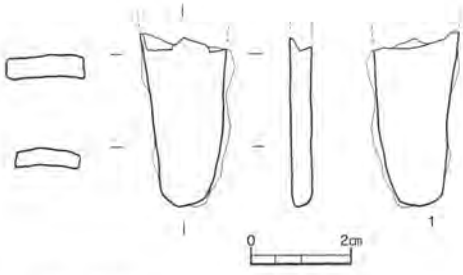
まとめ　この土坑埋没後、197 S Iと161 S Iが建てられていることから、この土坑の時期は4B期以前と考えられる。



第Ⅲ-531図　屋外土坑1　1234・1233・1033・1036・1070・1224・211SK　平面・断面図(1/40)、配置図(1/1000)



第Ⅲ-532図　1033SK・1036SK・1070SK・1224SK出土土器実測図(1/3)



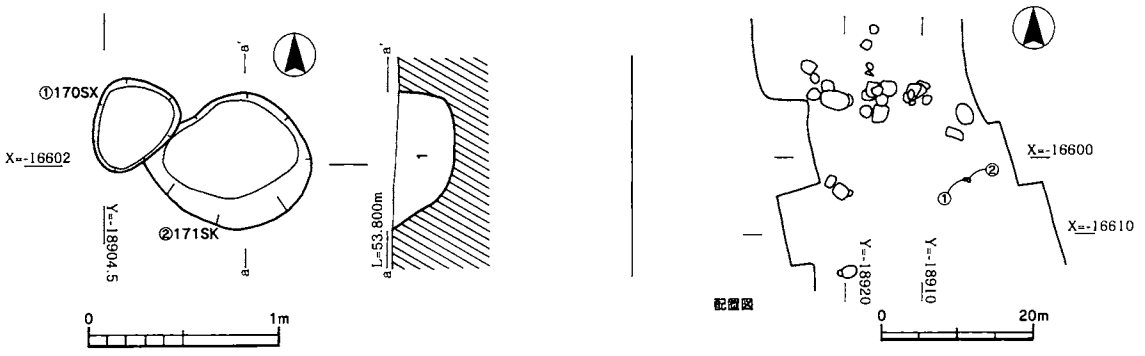
第Ⅲ-533図　1036SK出土鉄器
実測図(2/3)〈2層〉

171 S K（第Ⅲ-534・537図）

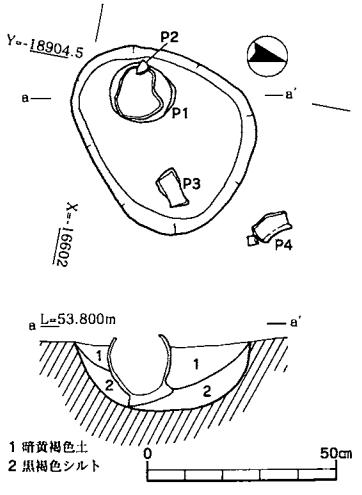
位置　遺跡中央部(2区南部)の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。検出面の標高は約53.8 mで、この土坑埋没後、北西側170 S X、196 S Iが掘削されている。長軸方向はN -55°-Eである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.73m、深さ0.3 mを測る。埋土は1層からなる。断面の形態はU字状である。

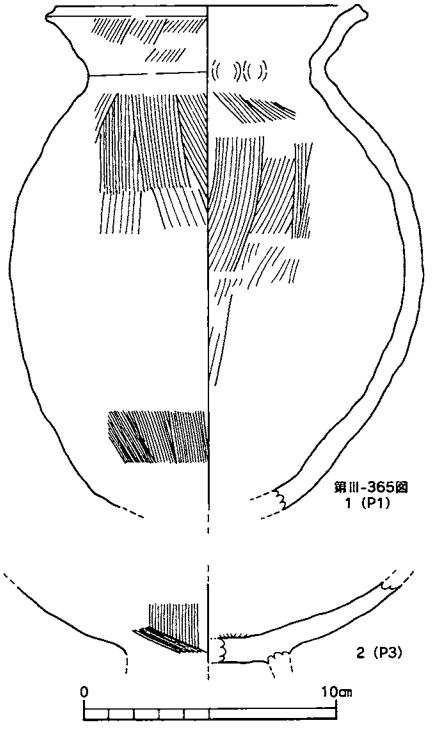
まとめ　土坑の時期は、遺物の出土状況から4 B期と考えられる。



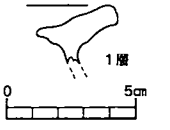
第Ⅲ-534図　屋外土坑10　171SK・170SX　平面・断面図(1/40)配置図(1/1000)



第Ⅲ-535図　170SX遺物出土状況
平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-536図　170SX出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-537図
171SK出土土器
実測図(1/3)

170 S X（第Ⅲ -534・535・536 図、PL.35）

位置　遺跡中央部（2 区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。床面の標高は約 53.8 mで、196 S I と 171 S K埋没後、掘削されている。長軸方向はN -40 °-E である

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.5m、短軸 0.4m、深さ 0.16 mを測る。埋土は 2 層からなる。断面の形態はU字状である。

遺物出土状況　第Ⅲ -536 図 1 は、倒立した状況で出土した。人為的に埋められたと推定できる。

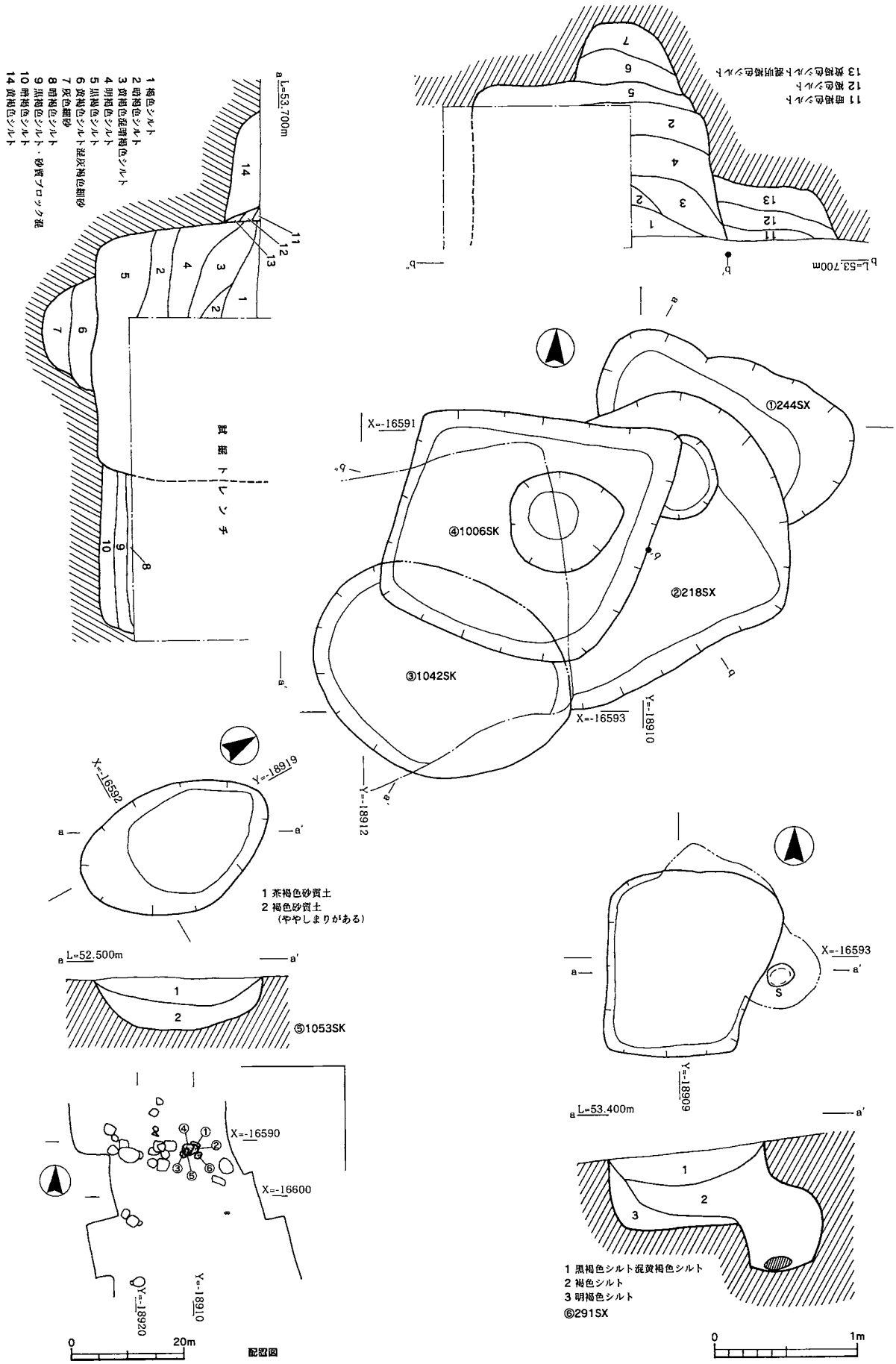
まとめ　土坑の時期は、遺物の出土状況から 7 期と考えられる。

244 S X（第Ⅲ -538・542 図、PL.44）

位置　遺跡中央部（2 区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。検出面の標高は約 53.6 mで、この遺構埋没後、南西側に 218 S Xが掘削されている。長軸方向はN -70 °-W である。

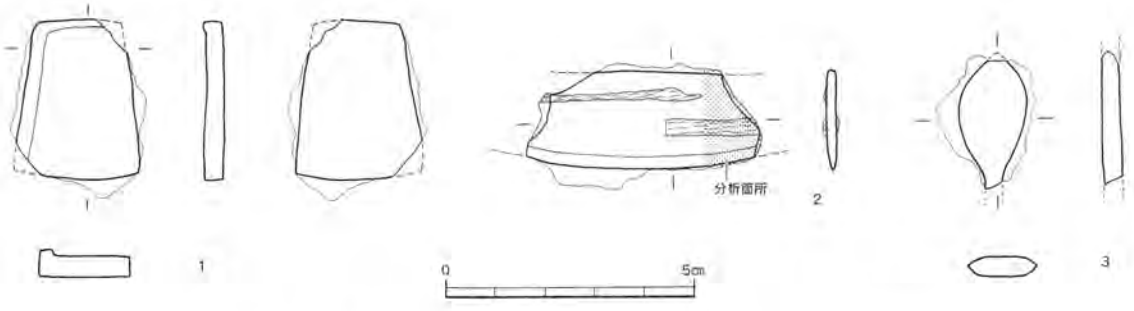
土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 1.9m、短軸 0.6m 以上、深さ 0.25 mを測る。埋土は 1 層からなる。断面の形態は皿状である。

まとめ　この遺構の時期は，遺構の新旧関係から 6 期以前と考えられる。

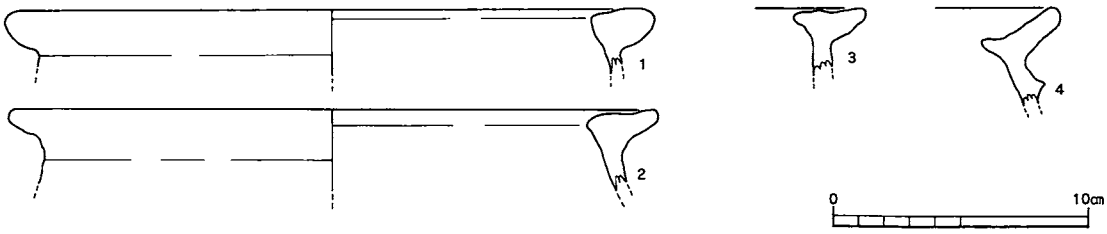


第Ⅲ-538図　屋外土坑2　244・218・291SX、1042・1006・1053SK　平面・断面図(1/40)配置図(1/1000)

第Ⅲ-539図　218SX出土土器実測図(1/3)〈SK(1・2)、3層(3・4)、2層(5～12)、1層(13～23)〉



第Ⅲ-540図　218SX出土鉄器実測図(2/3)〈2層(1・2)、1層(3)〉



第Ⅲ-541図　1006SK出土土器実測図(1/3)〈4層(1)、3層(2～4)〉

218ＳＸ（第Ⅲ-538・539・540図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形はほとんどが削平されていると考えられる。検出面の標高は約53.6ｍで、253SI埋没後掘削されており、この遺構埋没後、東側に1006ＳＸが掘削されている。長軸方向はＮ-70°-Ｅである。

土坑形態　平面形態は方形を呈し、長軸2.0m以上、短軸1.8m以上、深さ0.4ｍを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　3～5期の土器が出土している。

まとめ　253ＳＩ埋没後掘削していることや、遺物の出土状況から土坑の時期は6B期以降と考えられる。

1042ＳＫ（第Ⅲ-538図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。検出面の標高は約52.7ｍで、(上層を試掘トレンチで削平されているため低い)、この遺構埋没後、北東側に1006ＳＫ・南部に229ＳＸが掘削されている。長軸方向はＮ-60°-Ｗである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.8ｍ以上、短軸1.1ｍ以上、深さ0.2以上を測る。埋土は2層からなる。断面形態はＵ字状である。

まとめ　この遺構埋没後1006ＳＫと229ＳＸが掘削されていることから、6B期以前と考えられる。

1006ＳＫ（第Ⅲ-538・541図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。検出面の標高は約53.6ｍで、253ＳＩ埋没後掘削されており、この土坑埋没後、北東側に220ＳＩが建てられている。長軸方向はＮ-75°-Ｗである。

土坑形態　平面形態は方形を呈し、長軸1.8m、短軸1.7m、深さ1.5ｍを測る。埋土は7層からなる。断面の形態は凹状とＵ字状の2段掘りである。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。

まとめ　土坑の時期は253ＳＩ埋没後掘削されていることや遺物の出土状況から6Ｂ期以降と考えられる。

1053ＳＫ（第Ⅲ-538図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約52.4ｍである。長軸方向はＮ-10°-Ｗである。

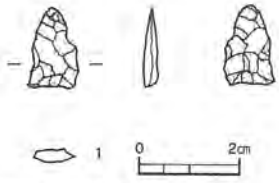
土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸0.9m、深さ0.4ｍを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。

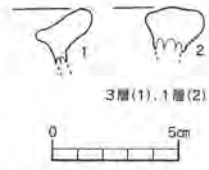
まとめ　土坑の時期は、埋没してから1006ＳＫと1042ＳＸが掘削されていることから、6Ｂ期以前と考えられる。

291ＳＸ（第Ⅲ-538・543・544図）

位置　遺跡中央部（2区南部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されていると考えられる。検出面の標



第Ⅲ-542図　244SX
出土石器実測図(2/3)〈2層〉



第Ⅲ-543図　291SX
出土土器実測図(1/3)

高は約53.2ｍで、253ＳＩの埋没後掘削されている。長軸方向はＮ-4°-Eである。

土坑形態　平面形態は方形を呈し、長軸1.5ｍ、短軸1.2m、深さ1.1ｍを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は袋状の2段掘りである。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。

まとめ　この遺構は、253SIとの新旧関係から6Ｂ期以降と考えられる。

1027ＳＫ（第Ⅲ-545・547図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約52.9ｍである。1064ＳＩ埋没後、掘削され、埋没後は上層部に212ＳＩ、北側には1021ＳＸと228ＳＸが掘削されている。長軸方向はＮ-15°-Ｗである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.7m以上、短軸1.6m、深さ0.25ｍを測る。埋土は2層からなる。断面の形態はＵ字状である。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。

まとめ　土坑の時期は、1064ＳＩとの新旧関係から4A～6A期と考えられる。

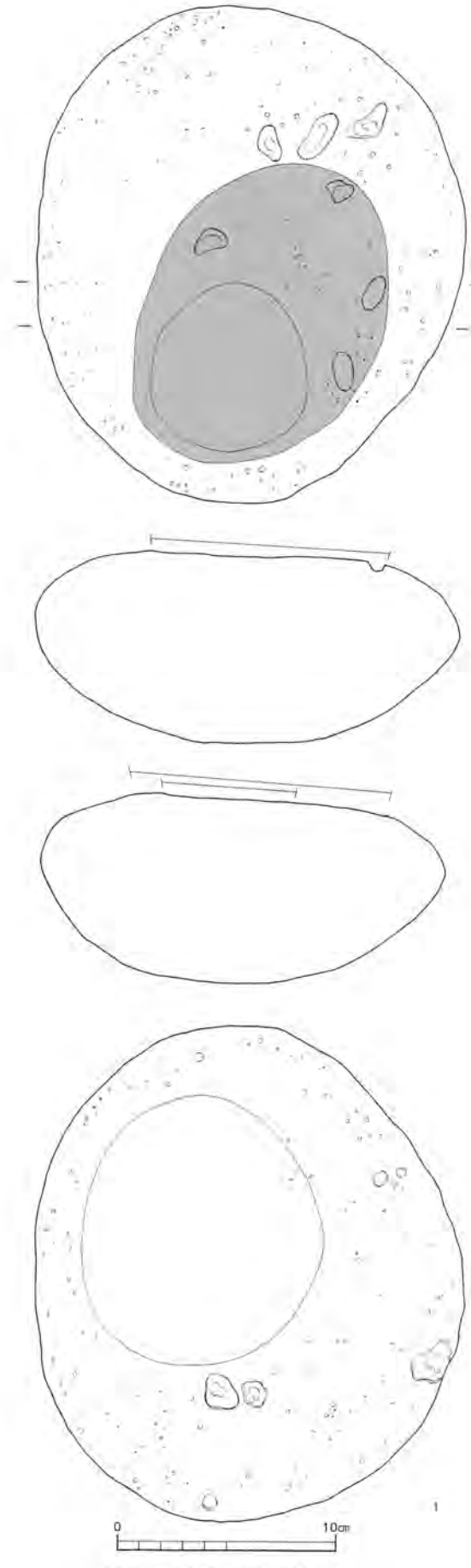
1026ＳＫ（第Ⅲ-545・548・549図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.4ｍで、この土坑埋没後、南側に212ＳＩが建てられ、北東側に1021ＳＸが掘削されている。埋没後1064ＳＩが建てられている。長軸方向はＮ-85°-Ｗである。

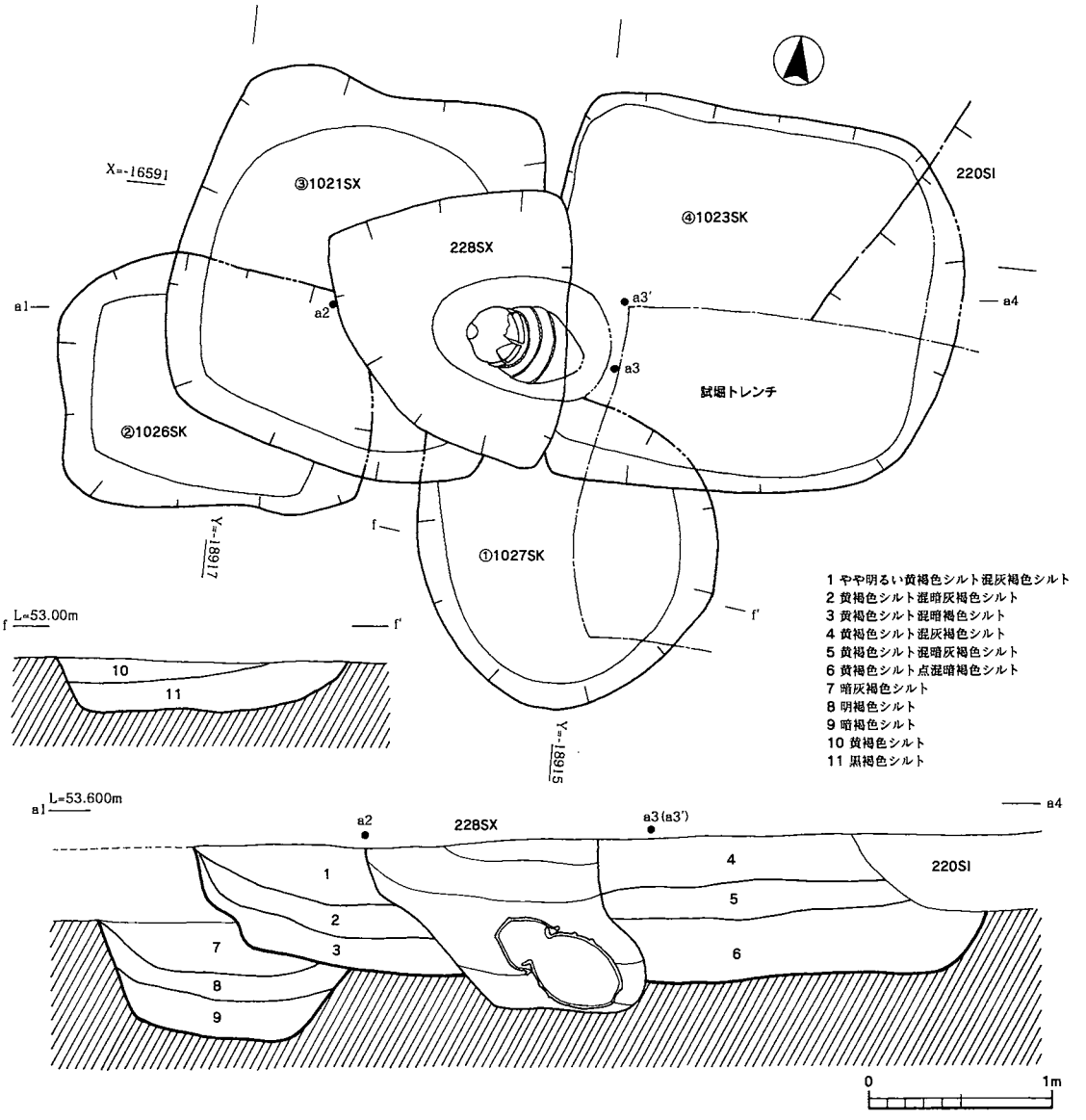
土坑形態　土坑は方形を呈し、長軸1.7m、短軸1.3m、深さ1.0ｍを測る。埋土は2層からなる。断面の形態はＵ字状である。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。

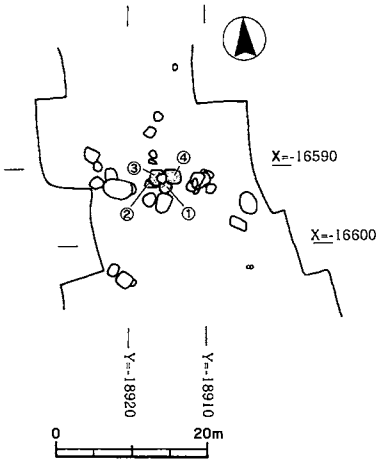
まとめ　土坑の時期は、1064ＳＩとの新旧関係と遺物の出土状況から4A期の可能性がある。



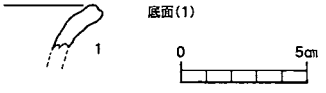
第Ⅲ-544図　291SX
出土石器実測図(2/3)



第Ⅲ-545図　屋外土坑3　1027・1026・1021・1023SK・(228SX)　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-546図　屋外土坑3
配置図(1/1000)



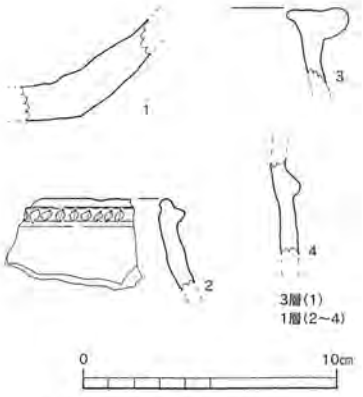
第Ⅲ-547図
1027SK出土土器実測図(1/3)

1021 S K（第Ⅲ -545・550 図）

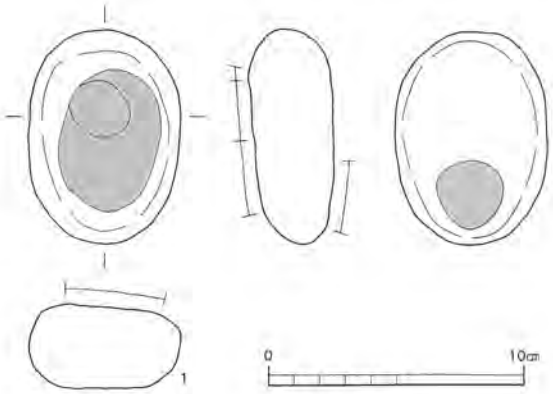
位置　遺跡南西部（2 区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.4 mである。1064 S I と 1026 S X と 1027 S K埋没後掘削され、埋没後、東側に 228 S Xが据えられている。長軸方向はN -5 °-E である。

土坑形態　平面形態は方形を呈し、長軸 2.0m、短軸 2.0m、深さ 0.7 mを測る。埋土は 3 層からなる。断面の形態はU字状である。

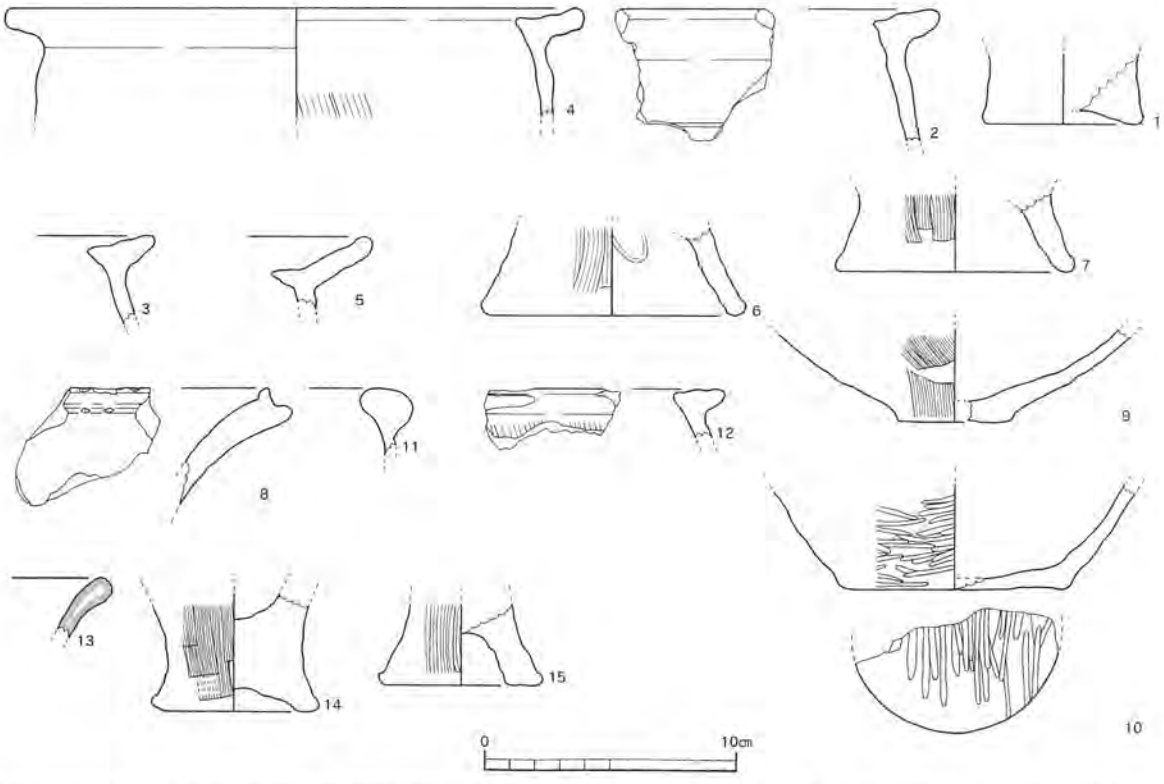
遺物出土状況　埋土から甕口縁部片 34、壺口縁部片 12、甕底部片



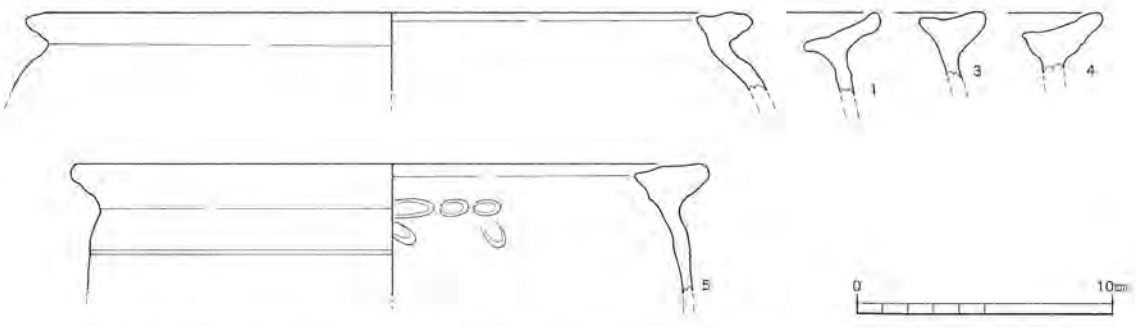
第Ⅲ-548図　1026SK
出土土器実測図(1/3)



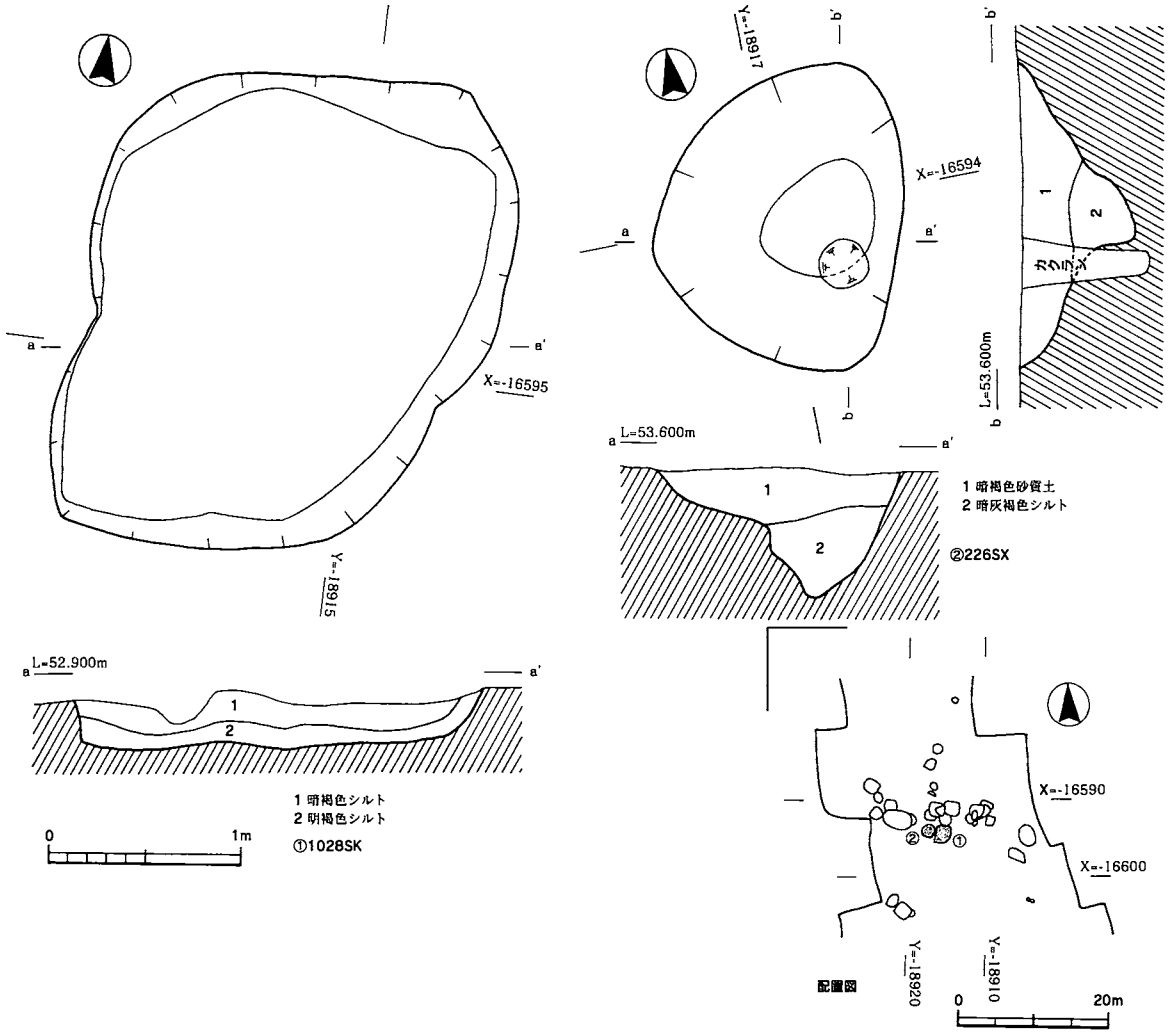
第Ⅲ-549図　1026SK
出土石器実測図(1/3)



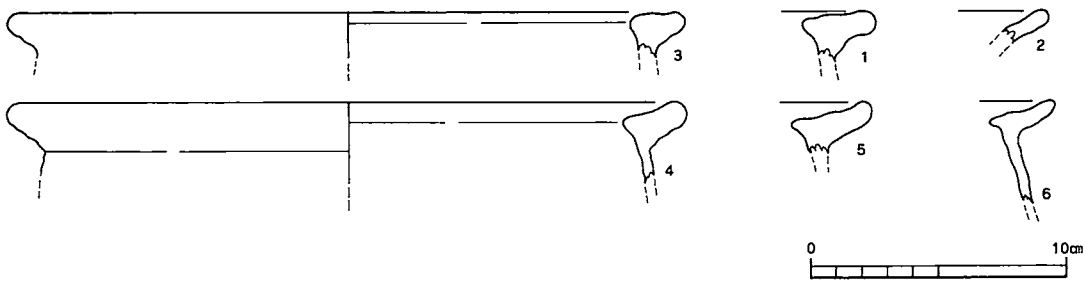
第Ⅲ-550図　1021SK出土土器実測図(1/3)〈床面(1)、3層(2～6)、2層(7～9)、1層(10～15)〉



第Ⅲ-551図　1023SK出土土器実測図(1/3)〈4層(1)、3層(2)、2層(3･4)、1層(5)〉



第Ⅲ-552図　屋外土坑4　1028SK・226SX　平面・断面図(1/40)、配置図(1/1000)



第Ⅲ-553図　226SX出土土器実測図(1/3)〈2層(1・2)、1層(3～6)〉

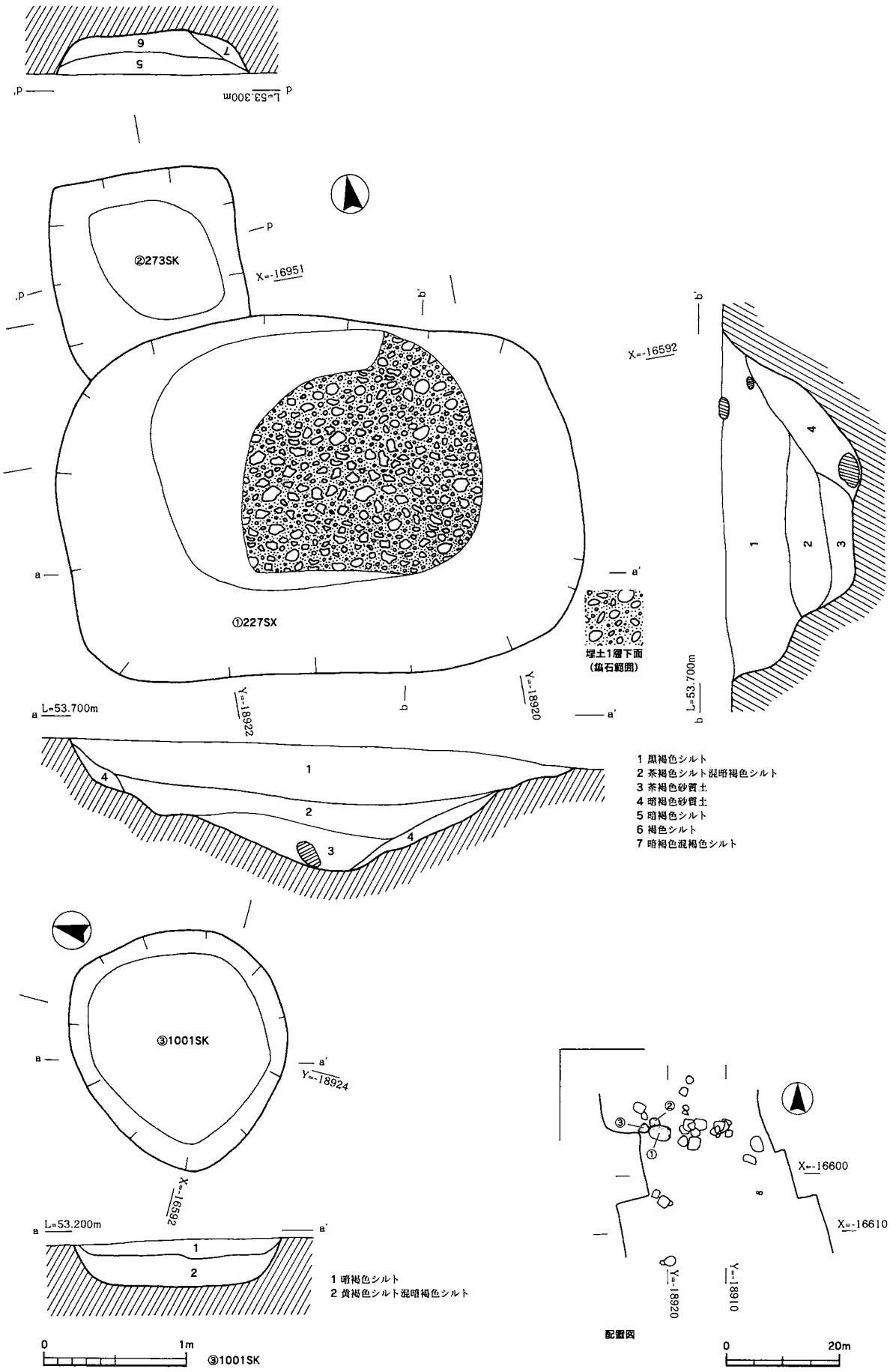
8、壺底部片4が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　土坑の時期は、1064SIとの新旧関係と遺物の出土状況から5期と考えられる。

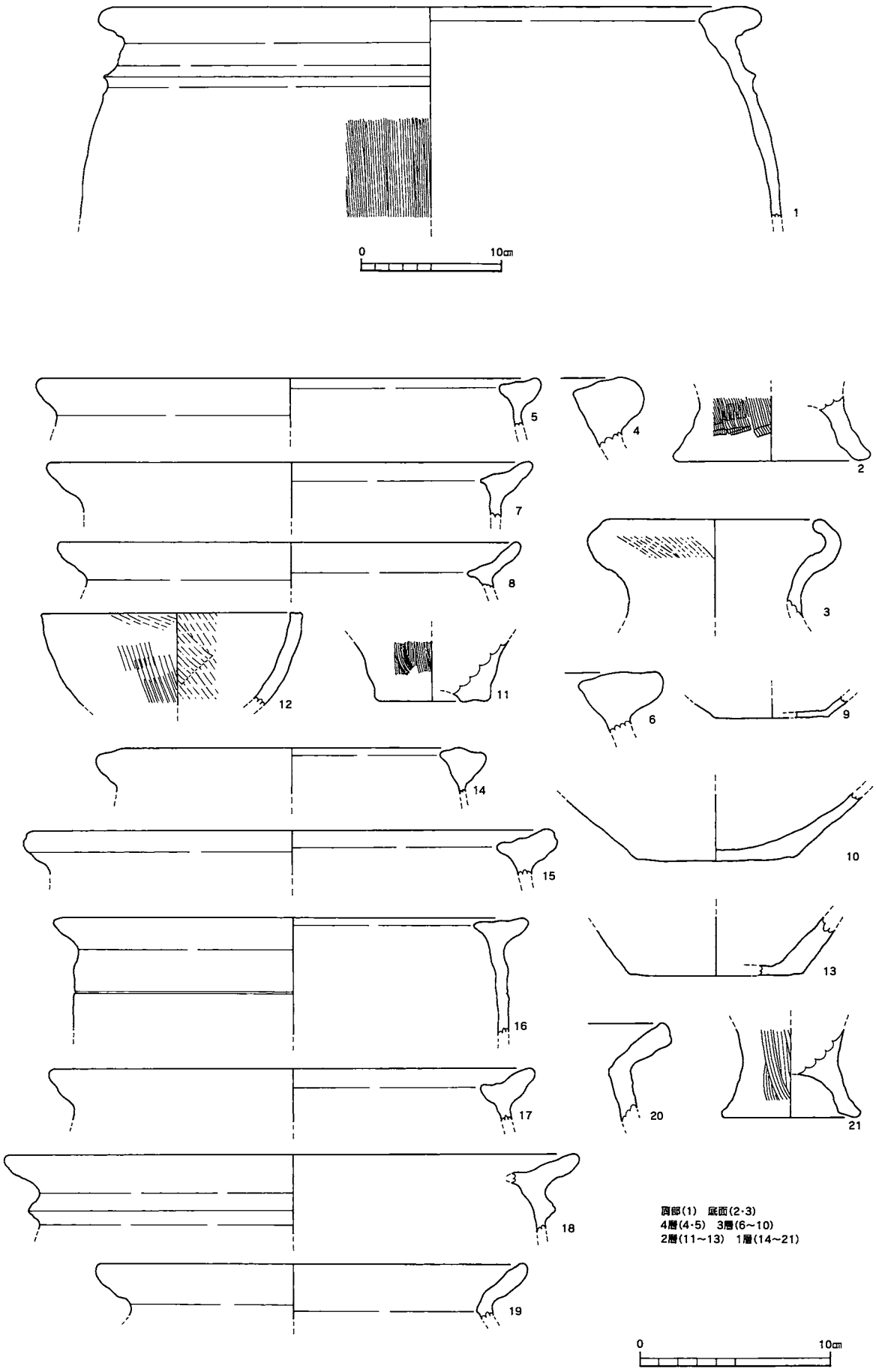
1023 S K（第Ⅲ -545・551 図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.4 mで、この遺構は、1027 S K埋没後掘削され、埋没後に西部に228 S Xが据えられている。長軸方向はN -85°-Wである。

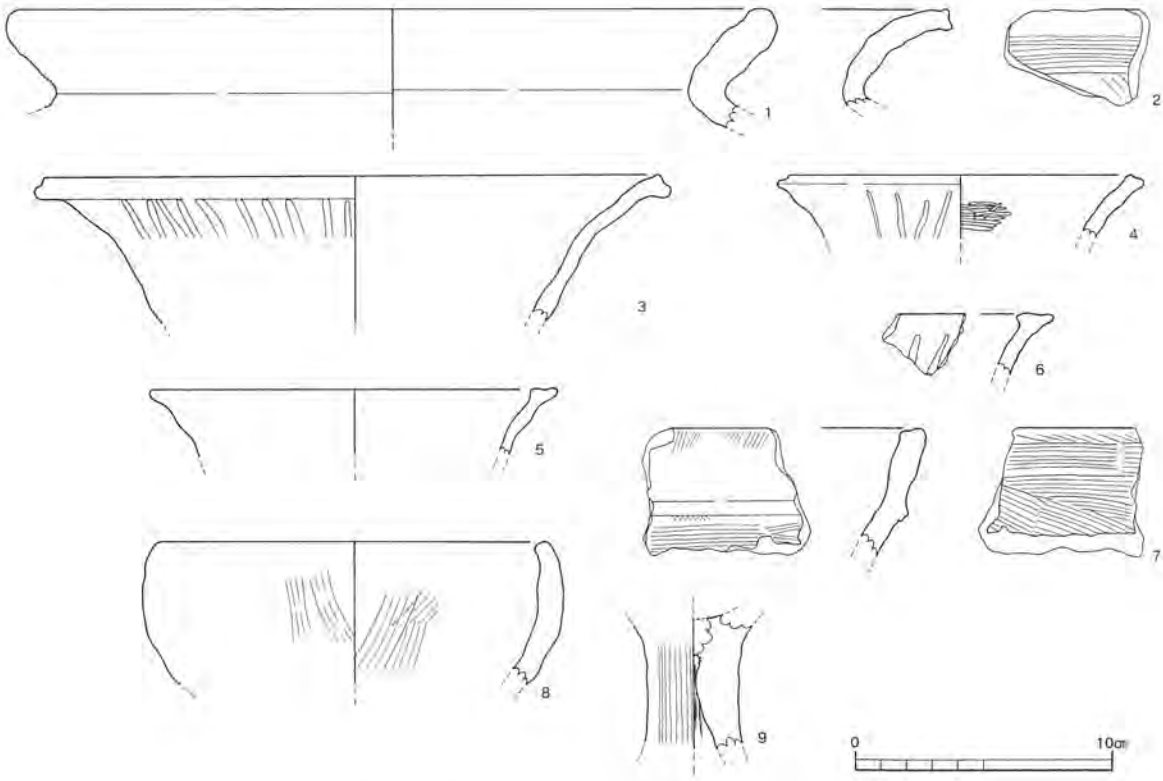
土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸2.2m以上、短軸2.0m、深さ0.8 mを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は凹状である。



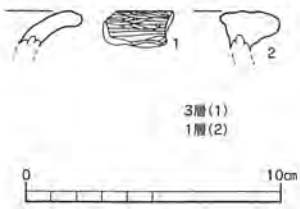
第Ⅲ-554図　屋外土坑5　227SX・273SK・1001SK　平面・断面図(1/40)配置図(1/1000)



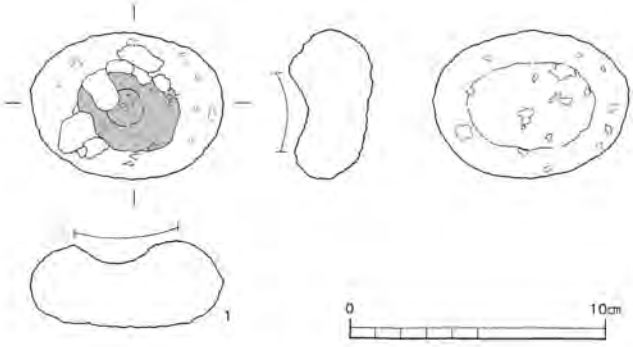
第Ⅲ-555図　227SX出土土器実測図1(1/4・1/3)



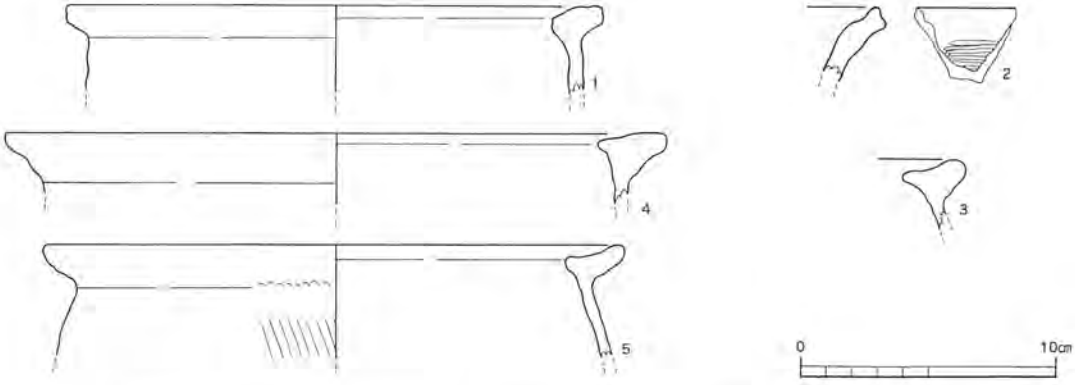
第Ⅲ-556図　227SX出土土器実測図2(1/3)〈1層(1～9)〉



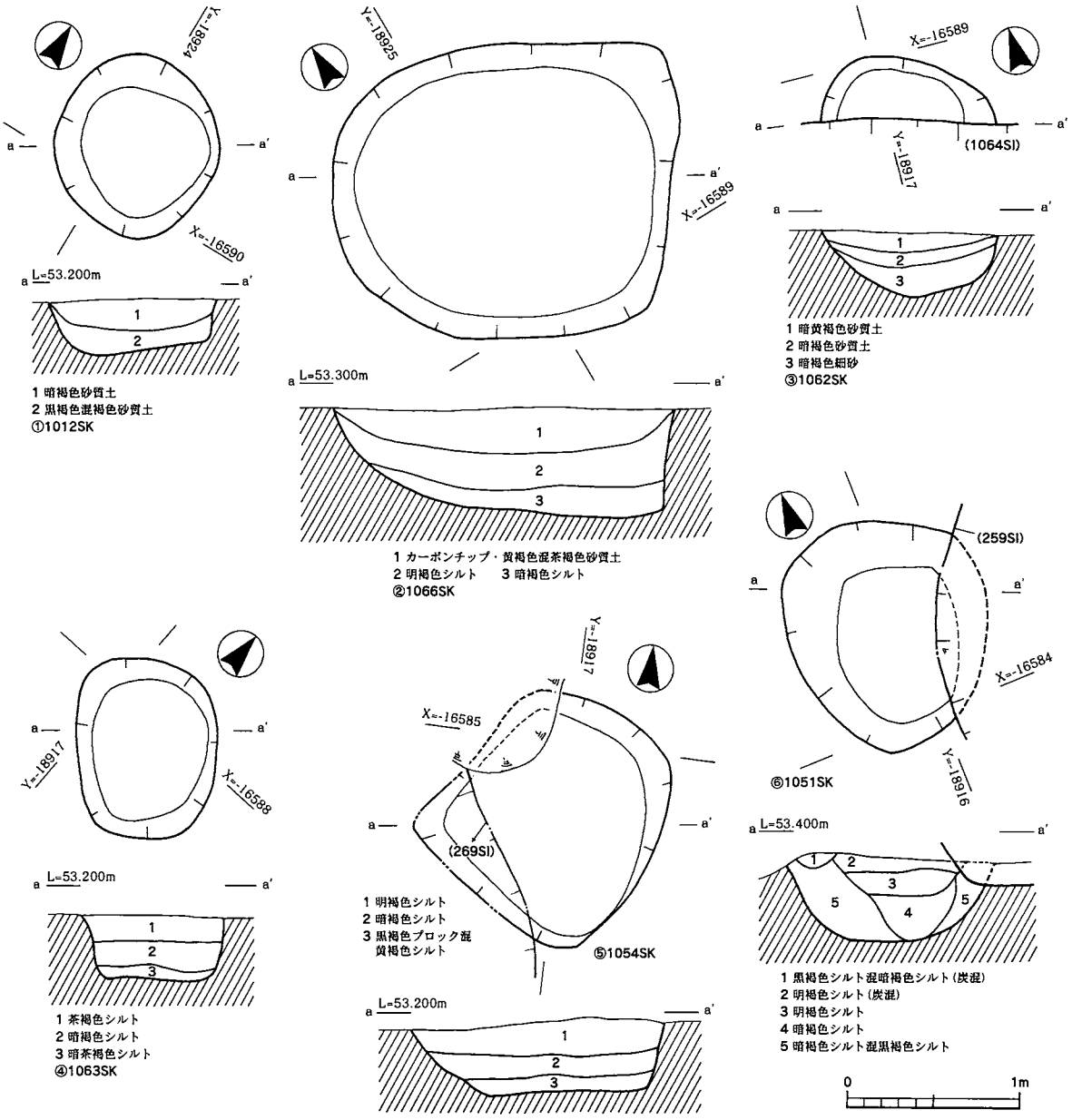
第Ⅲ-557図　1001SK
出土土器実測図(1/3)



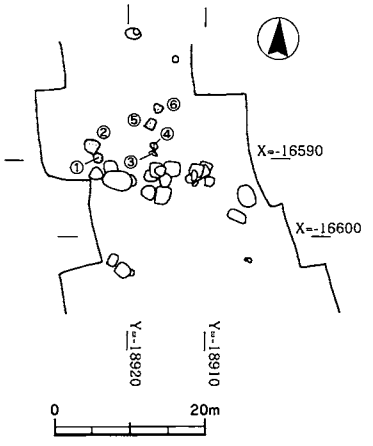
第Ⅲ-558図　227SX出土石器実測図(1/3)〈1層〉



第Ⅲ-559図　273SK出土土器実測図(1/3)〈2層(1～4)、1層(5)〉



第Ⅲ-560図　屋外土坑6　1012・1066・1062・1063・1054・1051SK　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-561図　屋外土坑6　配置図
(1/1000)

遺物出土状況　骨・歯と流れ込みの土器が出土している。

まとめ　骨・歯が出土していることから、土坑墓と推定でき、時期は、遺構の新旧関係と、遺物の出土状況から５期と考えられる。

1028ＳＫ（第Ⅲ-552図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約52.8ｍで、長軸方向はＮ-15°-Ｅである。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸2.6m、短軸2.3m、深さ0.3ｍ以上を測る。埋土は２層からなる。断面の形態はＵ字状である。

まとめ　深さが浅く、212SIが建てられる以前の土坑の可能性が考

えられることから７期以前と考えられる。

226 ＳＸ（第Ⅲ -552・553 図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.5 ｍで、212 ＳＩ埋没後掘削されている。長軸方向はＮ -40°-E である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 1.6m、短軸 1.3m、深さ 0.7 ｍを測る。埋土は２層からなる。断面の形態はＶ字状である。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。

まとめ　土坑の時期は、212 ＳＩとの新旧関係と遺物の出土状況から７期以降と考えられる。

273 ＳＫ（第Ⅲ -554・559 図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている。検出面の標高は約 53.2 ｍで、286 ＳＩ埋没後掘削され、この土坑埋没後南側に 227 ＳＫが掘削されている。長軸方向はほぼ南北である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 1.4m 以上、短軸 1.3m、深さ 0.3 ｍを測る。埋土は３層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。

まとめ　土坑の時期は、遺構の新旧関係と遺物の出土状況から 4A 期と考えられる。

227 ＳＸ（第Ⅲ -554・555・556・558 図、PL.44）

位置　227 ＳＫは、遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.6 ｍで、273 ＳＫ、286 ＳＩが埋没後掘削されている。長軸方向はＮ -85°-W である。

土坑形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 3.7m、短軸 2.5m、深さ 0.9 ｍを測る。埋土は４層からなる。断面の形態はＶ字状である。

遺物出土状況　埋土から甕の口縁部片 12、壺の口縁部片８、鉢１、無頸壺、壺底部片３、甕底部片３が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。又、埋土１層下面に流れ込みの石が集まって出土している。

まとめ　土坑の時期は、遺構の新旧関係と遺物の出土状況から 6A 期と考えられる。

1001 ＳＫ（第Ⅲ -554・557 図）

位置　遺跡南西部（２区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.2 ｍで、286 ＳＩ埋没後掘削されている。長軸方向はＮ -85°-E である。

土坑形態　平面形態は円形を呈し、長軸 1.6m、短軸 1.6m 以上、深さ 0.34 ｍを測る。埋土は２層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　流れ込みの遺物が出土している。

まとめ　土坑の時期は、286 ＳＩとの新旧関係から 4A 期以降と考えられる。

1012 ＳＫ（第Ⅲ -560 図）

位置　遺跡南西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.1 ｍで、1029 ＳＩ埋没後掘削されている。長軸方向はＮ -28°-W である。

土坑形態　平面形態は円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 1.0m、深さ 0.3 ｍを測る。埋土は２層からなる。断面の形態は皿状である。

まとめ　土坑の時期は、1029 ＳＩ埋没後掘削されていることから３期以降と考えられる。

1066 ＳＫ（第Ⅲ -560 図）

位置　遺跡南西部（２区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.2 ｍで、長軸方向はＮ -60°-W である。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 2.0m、短軸 1.7m、深さ 0.6 mを測る。埋土は３層からなる。断面の形態は皿状である。

まとめ　土坑の時期の推定は困難である。

1062 ＳＫ（第Ⅲ -560 図）

位置　遺跡南西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.1 mで、この土坑埋没後、南側に 1064 ＳＩが建てられている。長軸方向はN -60 °-W である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 1.0m 以上、短軸 0.4m 以上、深さ 0.4 mを測る。埋土は３層からなる。断面の形態はＵ字状である。

まとめ　土坑の時期は、1064 ＳＩとの新旧関係から 4A 期以前３期の可能性が高い。

1063 ＳＫ（第Ⅲ -560 図）

位置　遺跡南西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.1 mで、長軸方向はN -50 °- Wである。

土坑形態　平面形態は長方形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.8m、深さ 0.4 mを測る。埋土は３層からなる。断面の形態は皿状である。

まとめ　土坑の時期の推定は困難である。

1054 ＳＫ（第Ⅲ -560 図）

位置　遺跡南西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.2 mで、この土坑埋没後、南西部に 269 ＳＩが建てられ、北西側は撹乱により壊されている。長軸方向はN -30 °-E である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 1.4m 以上、短軸 1.2m、深さ 0.4 mを測る。埋土は３層からなる。断面の形態は皿状である。

まとめ　土坑の時期は、269 ＳＩとの新旧関係から 6A 期以前と考えられる。

1051 ＳＫ（第Ⅲ -560 図）

位置　遺跡南西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.2 mで、この土坑埋没後、東側に 259 ＳＩが建てられている。長軸方向はN -20 °-E である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.9m 以上、深さ 0.5 mを測る。埋土は５層からなる。断面の形態はＵ字状である。

まとめ　土坑の時期は、259 ＳＩとの新旧関係から５期以前と考えられる。

249 ＳＸ（第Ⅲ -562・563・564 図、PL.44）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.4 mで、233 ＳＩ埋没後掘削されている。長軸方向はN -45 °-E である。

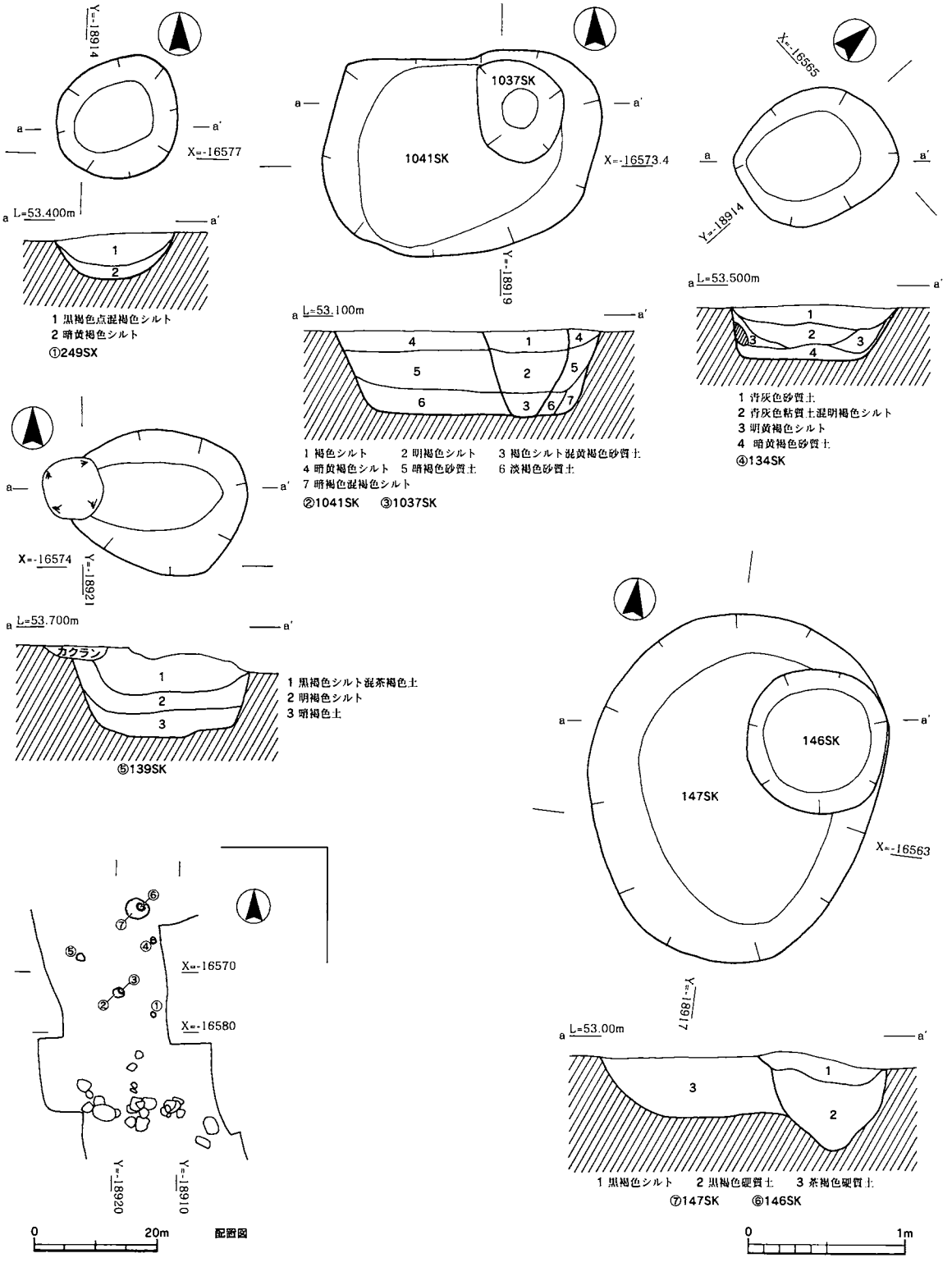
土坑形態　平面形態は円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.8m、深さ 0.3 mを測る。埋土は２層からなる。断面の形態はＵ字状である。

まとめ　土坑の時期は、233 ＳＩとの新旧関係から 4A 期以降と考えられる。

1041 ＳＫ（第Ⅲ -562 図）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.0 mである。この遺構は 143 ＳＩ埋没後掘削され、埋没後、中央部に 1037 ＳＫが掘削されている。長軸方向はN -90 °- Eである。

土坑形態　平面形態は方形を呈し、長軸 1.8m、短軸 1.3m、深さ 0.54 mを測る。埋土は３層からなる。断面の形態は凹字状である。



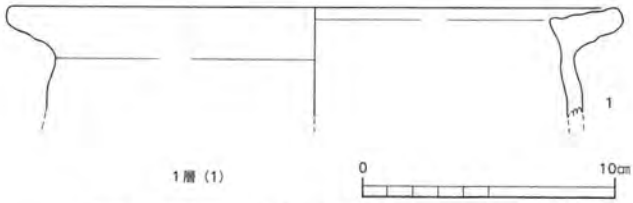
第Ⅲ-562図　屋外土坑7　249SX・1041・1037・134・139・146・147SK　平面・断面図(1/40)
配置図(1/1000)

まとめ　土坑の時期は、143ＳＩとの新旧関係から4A～4B期以降と考えられる。

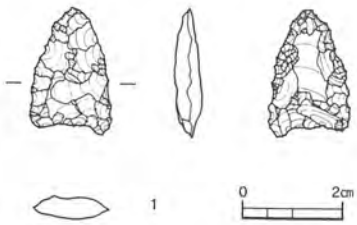
1037ＳＫ（第Ⅲ-562図）

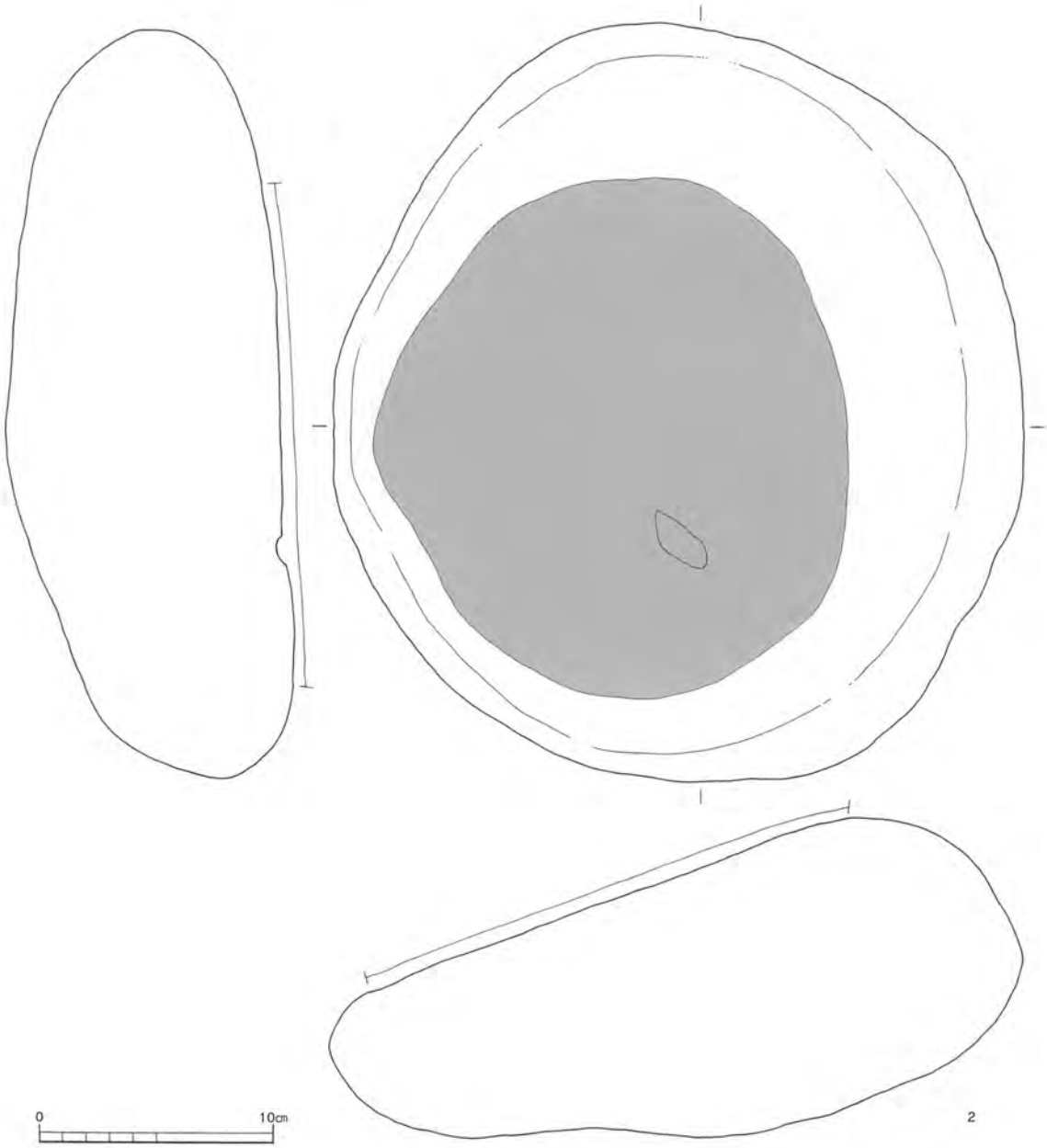
位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置し、旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.0ｍで、149SI、143SIと1041SX埋没後掘削している。長軸方向はN-35°-Wである。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.55ｍを測る。埋土は3層からなる。断

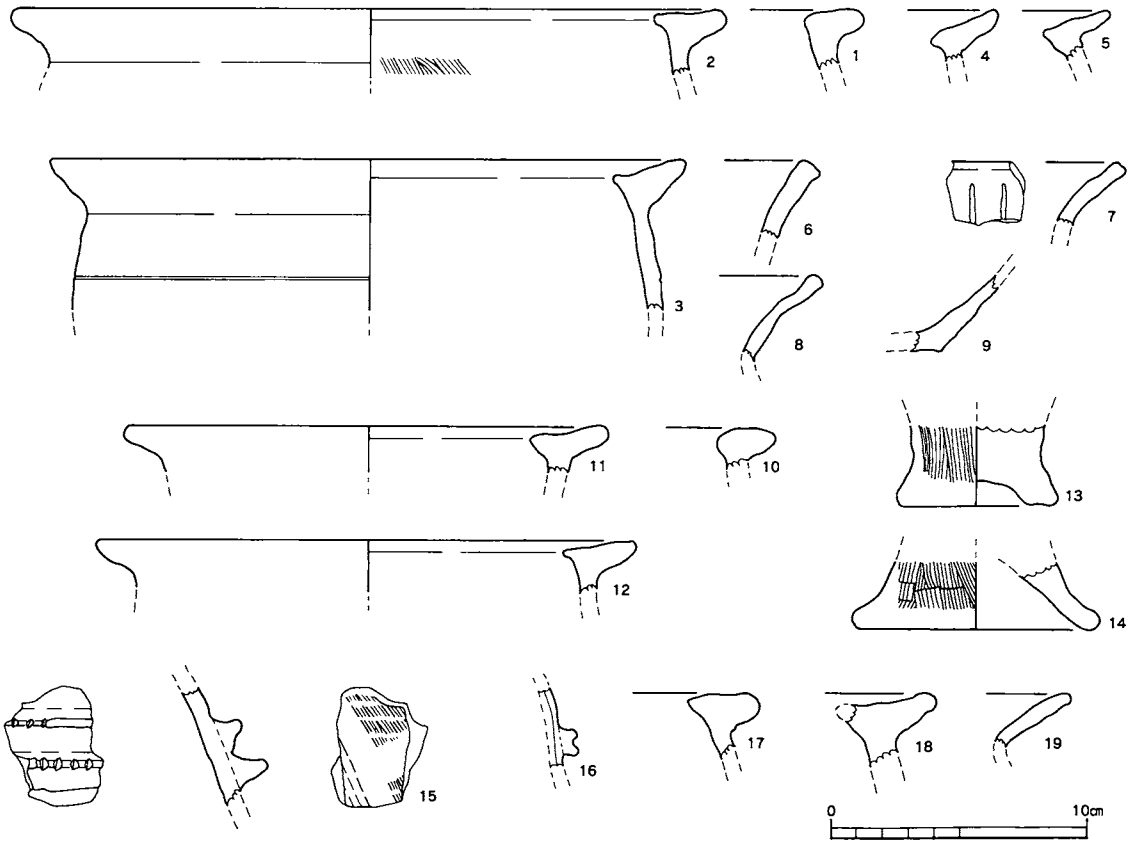


第Ⅲ-563図　249SX出土土器実測図（1/3）

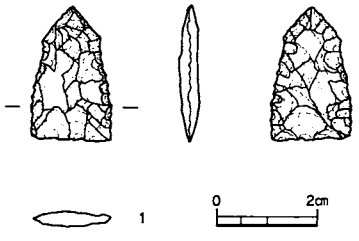




第Ⅲ-564図　249SX出土石器実測図（2/3）〈2層（1）〉（1/3）〈1層（2）〉



第Ⅲ-565図　134SK出土土器実測図(1/3)〈3層(1～9)、2層(10～16)、1層(17～19)〉



第Ⅲ-566図　134SK出土石器実測図(2/3)〈1層〉

面の形態はV字状である。

まとめ　土坑の時期は、遺構の新旧関係から4A～4B期以降と考えられる。

134ＳＫ（第Ⅲ-562・565・566図、PL.44）

位置　遺跡北西部（2区中央側）の氾濫原に位置し、旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.4ｍで、長軸方向はＮ-10°-Ｅである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.1ｍ、短軸0.9m、深さ0.3ｍを測る。埋土は4層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　埋土から甕口縁部片22・底部片5、壺口縁部片4・底部片1が出土している。いずれも、流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　土坑の時期は、遺物の出土状況から5期と考えられる。

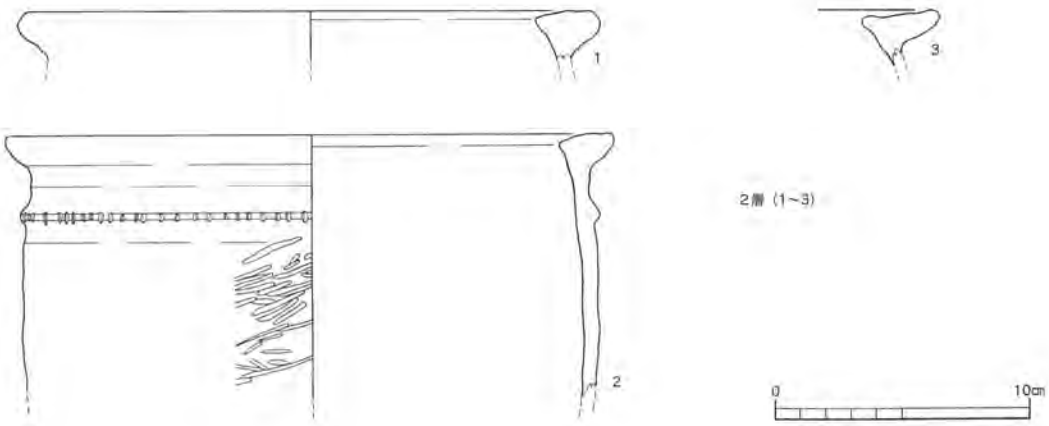
139ＳＫ（第Ⅲ-562・567・568図、PL.44）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.6ｍで、この土坑埋没後、西部には1237ＳＸが掘削されている。長軸方向はＮ-90°-Ｅである。

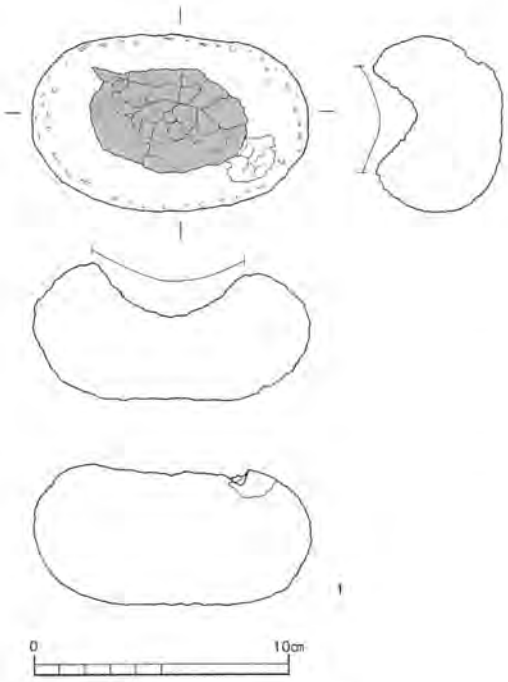
土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.1m以上、短軸0.9m、深さ0.6ｍを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は凹字状である。

遺物出土状況　埋土から甕口縁部片5が出土している。流れ込みの土器と推定できる。

まとめ　土坑の時期は、1237ＳＸとの新旧関係と、遺物の出土状況から4Ｂ期以降と考えられる。



第Ⅲ-567図　139SK出土土器実測図（1/3）



第Ⅲ-568図　139SK出土石器
実測図（1/3）〈1層〉

147 ＳＫ（第Ⅲ -562 図）

位置　遺跡中央部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出標高は約 53.4 mで、この土坑埋没後北東側に 146 ＳＫが掘削されている。長軸方向はＮ -5 °-Ｗである。

土坑形態　平面形態は円形を呈し、長軸 2.2m、短軸 2.0m、深さ 0.4 mを測る。埋土は 1 層からなる。断面の形態は凹状である。

まとめ　土坑の時期は、113 ＳＩ埋没後掘削された遺構であることから、7 期以降と考えれる。

146 ＳＫ（第Ⅲ -562 図）

位置　遺跡中央部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出標高は約 53.4 mで、147 ＳＫ埋没後掘削されている。長軸方向はＮ -5 °-Ｗである。

土坑形態　平面形態は円形を呈し、長軸 1.0m、短軸 0.9m、深さ 0.76 mを測る。埋土は 2 層からなる。断面の形態はＶ字状である。

まとめ　113 ＳＩがある程度埋まってからできた遺構であることから、7 期以降と考えられる。

1232 ＳＫ（第Ⅲ -569 図）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.5 mで、138 ＳＩが埋没してから掘削されたと考えられる。長軸方向はＮ -85 °- Ｗである。

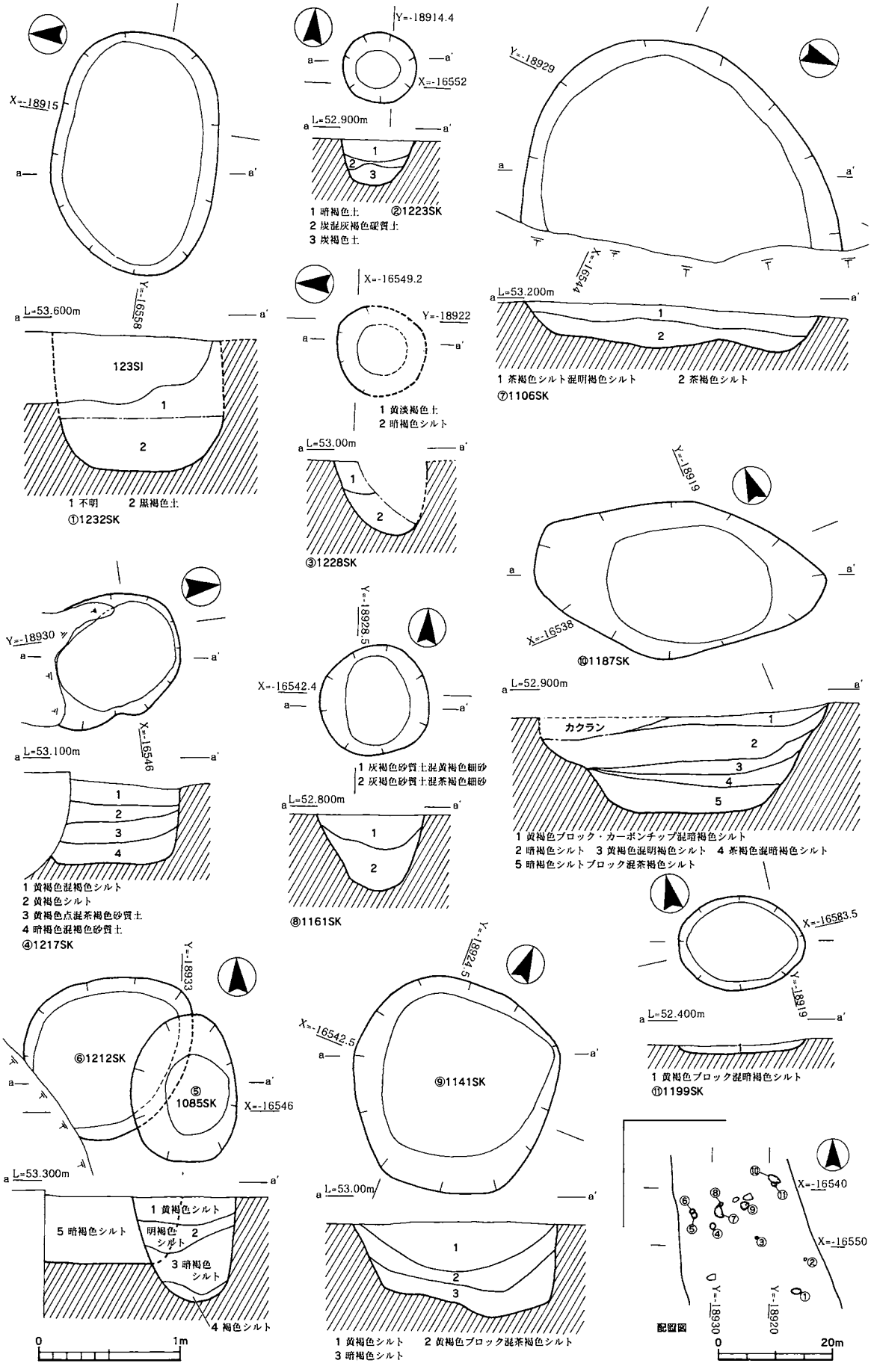
土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 1.7m、短軸 1.2m、深さ 1.0 mを測る。埋土は 2 層からなる。断面の形態はＵ字状である。

まとめ　土坑の時期は、遺構の新旧関係から 6A ～ 8 期と考えられる。

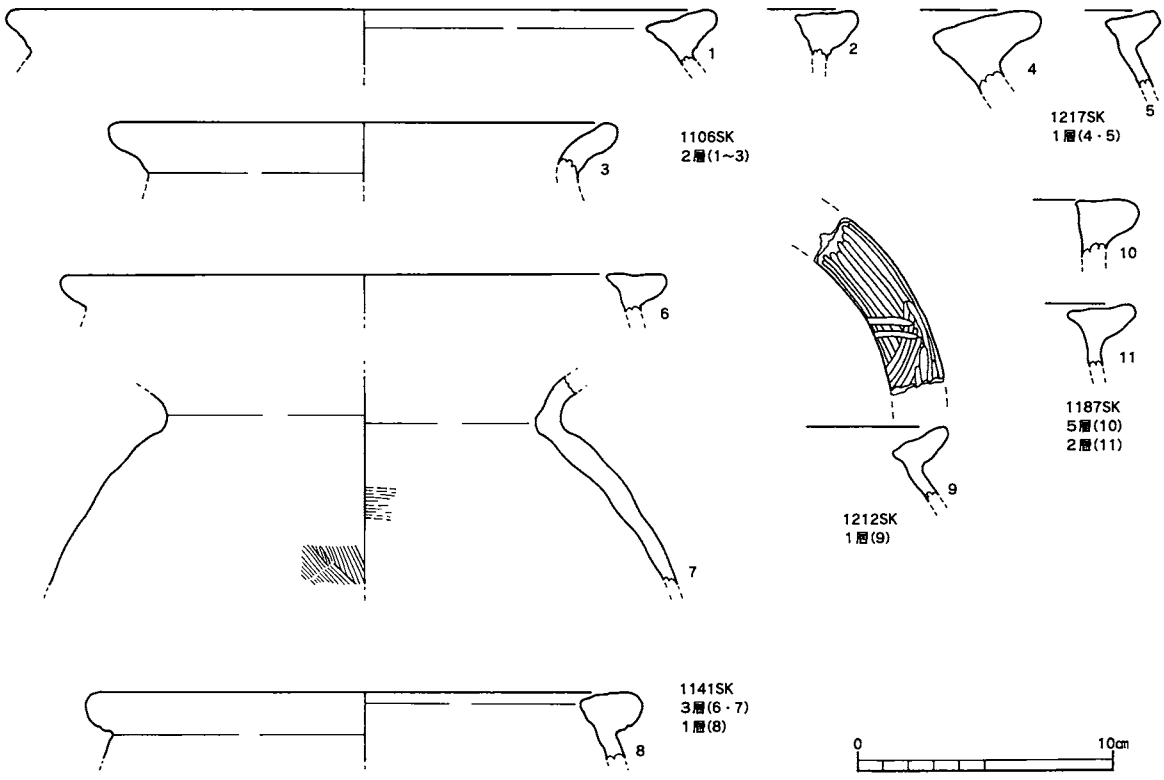
1223 ＳＫ（第Ⅲ -569 図）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.8 mで、1105 ＳＩ以前の遺構と推定できる。長軸方向はＮ -90 °- Ｅである。

土坑形態　平面形態は円形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.55m、深さ 0.3 mを測る。埋土は 3 層からなる。断面



第Ⅲ-569図　屋外土坑8　1232・1223・1228・1217・1085・1212・1106・1161・1141・1187・1199SK
平面・断面図(1/40)配置図(1/1000)



第Ⅲ-570図　1106・1217・1141・1212・1187SK出土土器実測図(1/3)

の形態はU字状である。

まとめ　土坑の時期は、1105ＳＩ埋没後掘削されていることから、7期以前と考えられる。

1228ＳＫ（第Ⅲ-569図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.0ｍで、284SI埋没後掘削されている。長軸方向はＮ-90°-Ｅである。

土坑形態　平面形態は円形を呈し、長軸0.65m、短軸0.6m、深さ0.5ｍを測る。埋土は2層からなる。断面の形態はU字状である。

まとめ　土坑の時期は、遺構の新旧関係から、8期以降と考えられる。

1217ＳＫ（第Ⅲ-569・570図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.1ｍで、撹乱により南西部は壊されている。長軸方向はＮ-15°-Ｗである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.3m以上、短軸0.84m、深さ0.55ｍを測る。埋土は4層からなる。断面の形態は凹状である。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。(第Ⅲ-570図4・5)

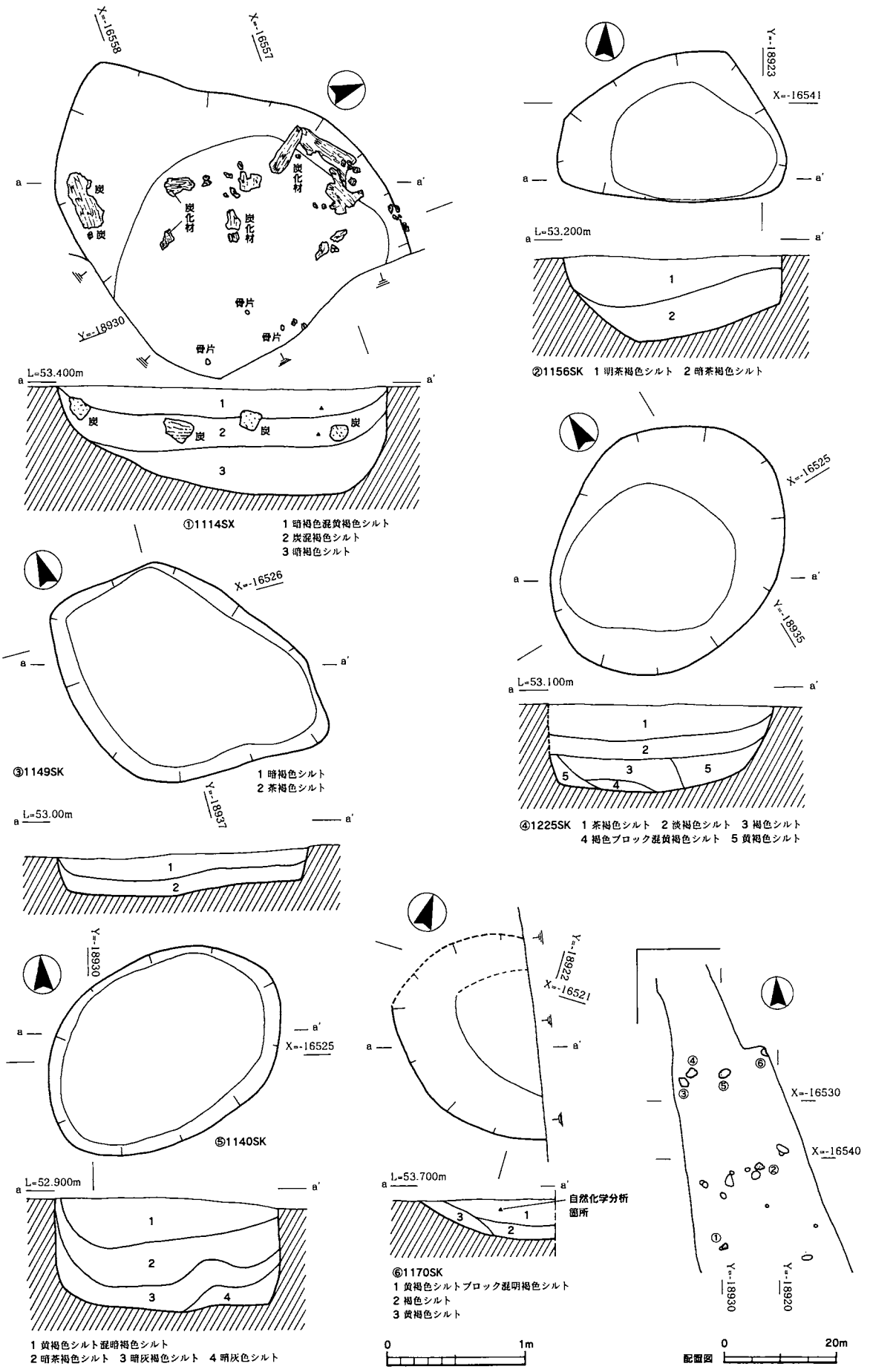
まとめ　土坑の時期は、遺物の出土状況から3期と考えられる。

1085ＳＫ（第Ⅲ-569図）

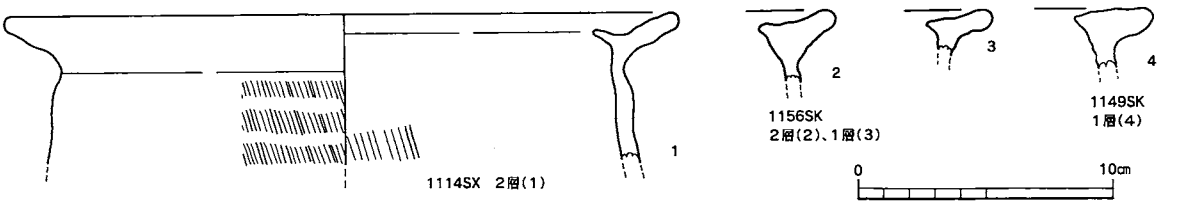
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.3ｍで、1212ＳＫ埋没後掘削されている。長軸方向はほぼ南北である。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.8m、深さ0.8ｍを測る。埋土は4層からなる。断面の形態はU字状である。

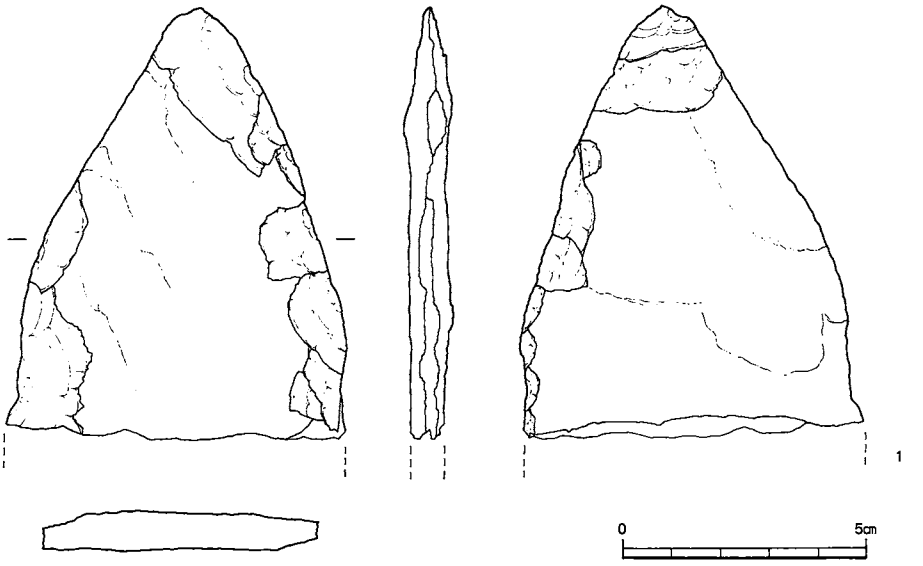
まとめ　土坑の時期は、埋土から時期の推定できる遺物は出土していないため時期の推定は困難である。



第Ⅲ-571図　屋外土坑9　1114SX・1156・1149・1225・1140・1170SK　平面・断面図(1/40)
配置図(1/1000)



第Ⅲ-572図　1114SX・1156SK・1149SK出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-573図　1140SK出土石器実測図(2/3)

1212 S K（第Ⅲ -569・570 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.3 mで、この土坑埋没後、東側に 1085 S Kが掘削され、上層部は撹乱により壊されている。長軸方向はN -60°-E である。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 1.2m 以上、短軸 0.5m 以上、深さ 0.6 mを測る。埋土は 1 層からなる。断面の形態はU字状である。

遺物出土状況　流れ込みの土器が出土している。（第Ⅲ -570 図 9）

まとめ　土坑の時期は、埋土から時期の推定できる遺物は出土していないため時期の推定は困難である。

1106 S K（第Ⅲ -569・570 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.2 mで、1215SK 埋没後掘削され、東側は撹乱に壊されている。長軸方向はN -45°-E である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 1.6m 以上、短軸 2.2m、深さ 0.3 mである。埋土は 2 層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　時期の推定できる流れ込みの遺物が数点出土している。（第Ⅲ -570 図 1 ～ 3）

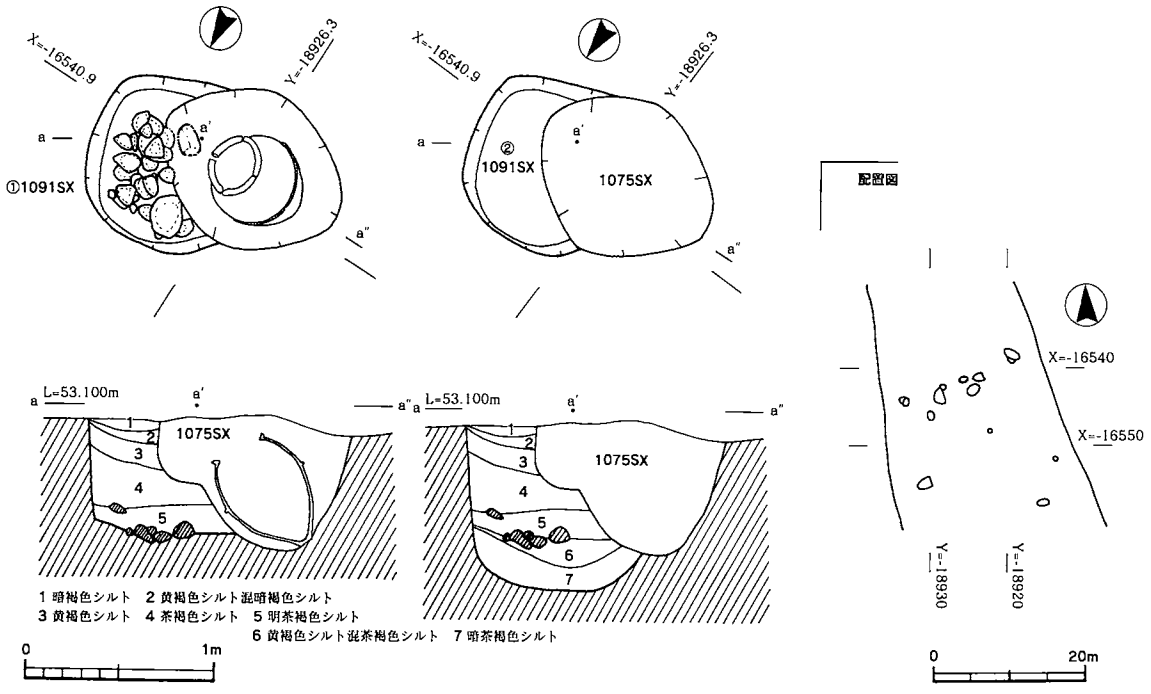
まとめ　土坑の時期は、遺物の出土状況から 5 ～ 6A 期と考えられる。

1161 S K（第Ⅲ -569 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.8 mで、長軸方向はN -0°- Eである。

土坑形態　平面形態は円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0. 8m、深さ 0.54 mを測る。埋土は 2 層からなる。断面の形態はU字状である。

まとめ　土坑の時期の推定は困難である。1215SI 埋没後の廃棄土坑の可能性も考えられる。



第Ⅲ-574図　1091SX(①一面・②二面)　平面・断面図(1/40)　配置図(1/1000)

1141 S K（第Ⅲ -569・570 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.8 mで、1119 S I、1160 S I 埋没後掘削されている。長軸方向はN -4 °- Wである。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 1.5m、短軸 1.4m、深さ 0.6 mを測る。埋土は 3 層からなる。断面の形態は凹状である。

遺物出土状況　時期の推定できる流れ込みの遺物数点が出土している。（第Ⅲ -570 図 6・7）

まとめ　土坑の時期は、1119 S I と 1160 S I との新旧関係及び出土遺物から、6A 期と考えられる。

1187 S K（第Ⅲ -569・570 図）

位置　1187 S Kは、遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.8 mで、1188 S I、1199 S K埋没後掘削されている。長軸方向はN -60 °-Wである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 2.0m、短軸 1.1m、深さ 0.7 mを測る。埋土は 5 層からなる。断面の形態は凹字状である。

遺物出土状況　時期の推定できる甕の破片等の土器が出土している。（第Ⅲ -570 図 10・11）

まとめ　土坑の時期は、遺構の新旧関係遺物の出土状況から 5 期以降と考えられる。

1199 S K（第Ⅲ -569 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.3 mで、この土坑埋没後 1187 S Kが掘削されている。撹乱により上層の大部分が壊されている。長軸方向はN -78 °- Eである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.7m、深さ 0.1 m以上を測る。埋土は 1 層からなる。断面の形態は凹字状である。

まとめ　土坑の規模・時期の推定は困難である。

1114 S X（第Ⅲ -571・572 図）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標

高は約53.4 mで、1099 S I と 1101 S I と 129 S I が埋没してから掘削されている。長軸方向はN -75°-Eである。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸2.4m以上、短軸2.0m、深さ0.8 mを測る。埋土は3層からなる。断面の形態はU字状である。

遺物出土状況　炭化物と骨が出土している。また流れ込みの土器が出土している。

まとめ　土坑の時期は、129 S I が埋没してから掘削されていることや、遺物の出土状況から8期以降と考えられる。墓の可能性がある。

1156 S K（第Ⅲ -571・572 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.1 mで、1119 S I と 1139 S I が埋没後掘削されている。長軸方向はN -75°-Wである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸1.0m、深さ0.6 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態はU字状である。

遺物出土状況　時期の推定できる土器が数点出土している。（第Ⅲ -572 図 2・3）

まとめ　土坑の時期は、遺構の新旧関係から4 B期と考えられる。

1149 S K（第Ⅲ -571・572 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約52.9 mで、1157 S I 埋没後掘削されている。長軸方向はN -50°-Wである。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸2.2m、短軸1.4m、深さ0.3 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は凹状である。

遺物出土状況　甕の口縁部片2が出土している。流れ込みの遺物である。

まとめ　土坑の時期は、1157 S I との新旧関係と、遺物の出土状況から6B期以降と考えられる。

1225 S K（第Ⅲ -571 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.0 mで、1157 S I 埋没後掘削されている。長軸方向はN -60°-Eである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.9m、短軸1.5m以上、深さ0.6 mを測る。埋土は5層からなる。断面の形態はU字状である。

まとめ　土坑の時期は、1157 S I との新旧関係から6 B期以降と考えられる。

1140 S K（第Ⅲ -571・573 図、PL.44）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約52.8 mで、1145 S I 埋没後掘削されている。長軸方向はN -60°- Wである。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.9m、短軸1.3m、深さ0.8 mを測る。埋土は4層からなる。断面の形態は凹状である。

まとめ　土坑の時期は、1145 S I との新旧関係から、7期以降と考えられる。

1170 S K（第Ⅲ -571 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）に位置する。旧地形は削平されている。床面の標高は約53.6 mで、北西部は撹乱により壊され、北東部は調査区外にかかる。

土坑形態　平面形態は不定形を呈する。長軸0.95m以上、短軸0.65m以上、深さ0.3 mである。埋土は3層からなる。断面の形態は不定形である。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

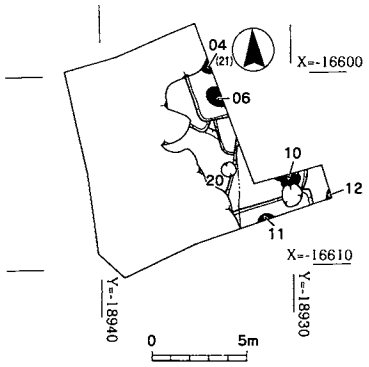
1091 ＳＸ（第Ⅲ -574 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.1 ｍで、東側は 1075 ＳＸによって壊されている。主軸方向はＮ -12 °-W である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 0.9m 以上、短軸 0.85m、深さ 0.85 ｍである。埋土は 7 層からなる。断面の形態はＵ字状である。6・7 層が堆積してから 5 ～ 15 ｃｍの河原石を敷いている。2 面の使用が考えられる。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　1075 ＳＸに壊されていることから 4A 期以降と考えられる。



第Ⅲ-575図　No.82調査区
屋外土坑配置図(1/400)

②九電鉄塔 No.82 調査区の調査（第Ⅲ -575 図）

12 ＳＸ（第Ⅲ -576・578 図）

位置　遺跡南西部（82 区南東部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.3 ｍで、調査区外に伸びる。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 0.56m 以上、短軸 0.21m 以上、深さ 0.35 ｍ、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　埋土から、壺の口縁部が 1 点出土している。

まとめ　14SI 埋没後掘削されているからこの遺構の時期は、5 期以降と考えられる。

10 ＳＫ（第Ⅲ -576・578 図）

位置　遺跡南西部（No.82 区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 53.1 ｍで、この遺構埋没後北部に 09 ＳＸ（流路）が掘削されている。

土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 1.06m 以上、短軸 0.9m、深さ 0.36 ｍ、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　埋土から、甕口縁部片 1、甕底部片 1、壺口縁部片 2 が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　05SI の埋没後掘削されていることから、この遺構の時期は 7 期以降と推定できる。

11 ＳＫ（第Ⅲ -576・578 図）

位置　遺跡南西部（No.82 区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 53.1 ｍで、上層部は流路（09 ＳＸ）により壊されている。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 0.72m 以上、短軸 0.31m 以上、深さ 0.36 ｍ、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　埋土から、甕口縁部片 1、壺口縁部片 1 が出土している。流れ込みの遺物と推定できる。

まとめ　03SI の埋没後掘削されていることから 、この遺構の時期は 7 期以降と推定できる。

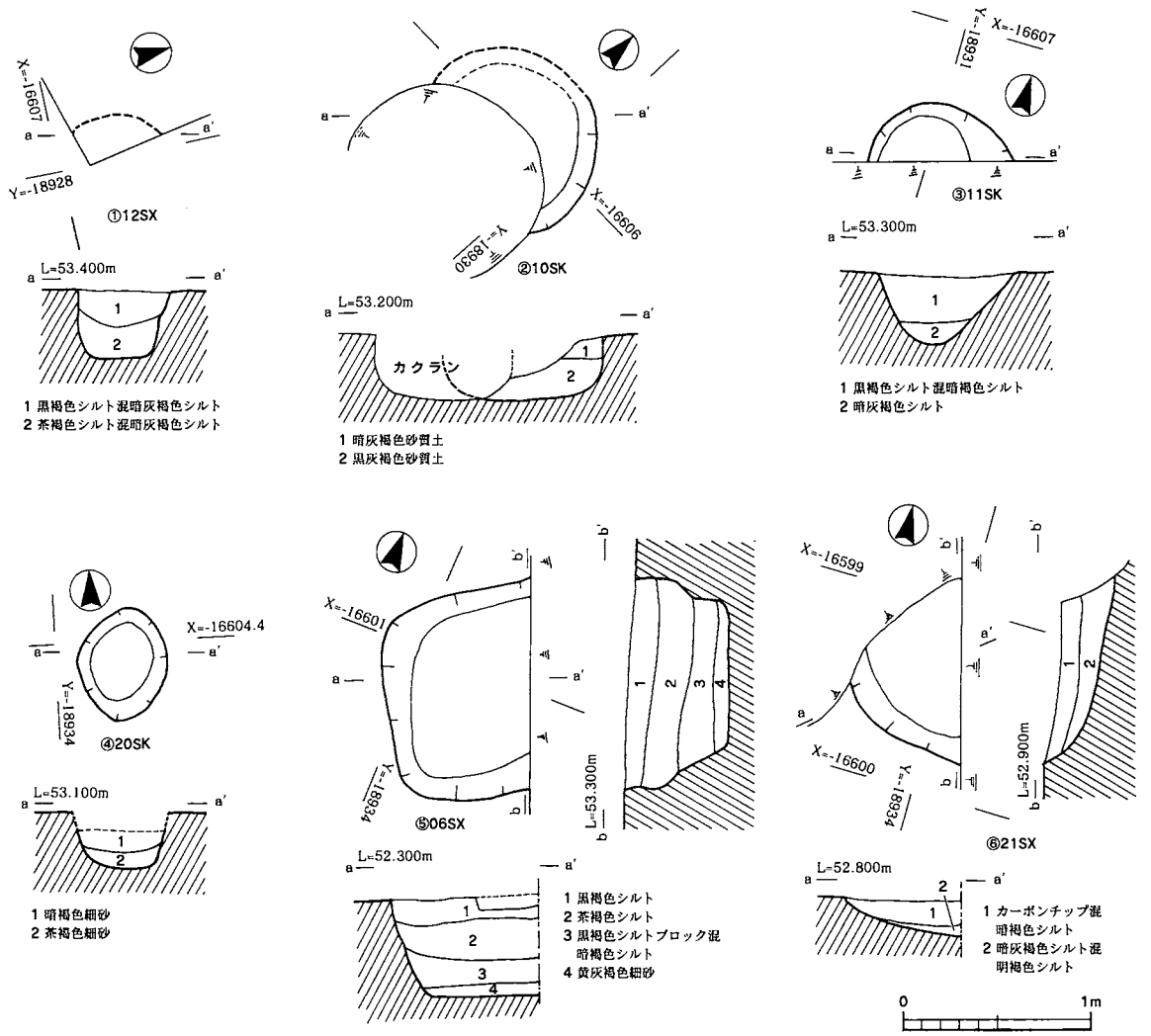
20 ＳＫ（第Ⅲ -576 図）

位置　遺跡南西部（82 区中央部）氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.9 ｍで、南東側は撹乱により壊されている。主軸方向はＮ -17°-E である。

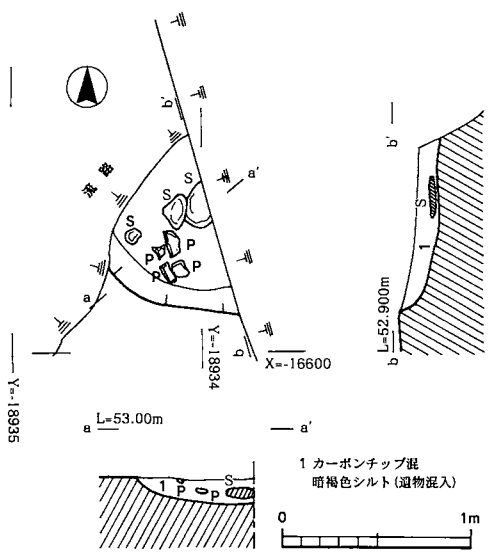
土坑形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.56m、短軸 0.48m、深さ 0.20 ｍ、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

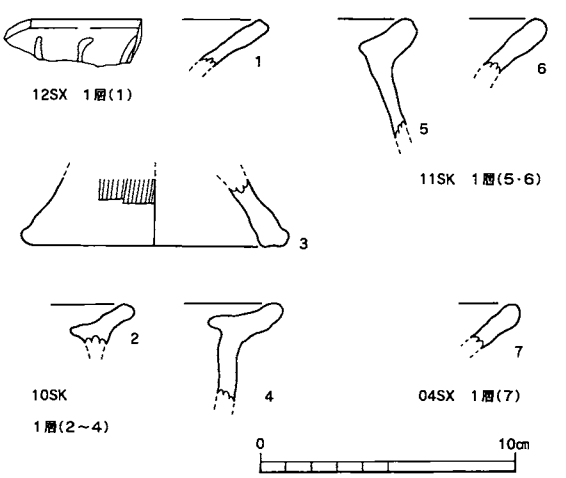
まとめ　検出面は、やや低い高さで検出したが、深さ等や状況から判断して 02SI 埋没後に掘削されたと推定され、5 期以降と推定できる。



第Ⅲ-576図　12SX・10SK・11SK・20SK・06SX・21SX　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-577図　04SX　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-578図　12SX・10SK・11SK・04SX
出土土器実測図(1/3)

06 ＳＸ（第Ⅲ -576 図）

位置　遺跡南西部（№82 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.2 ｍで、東側は調査区外である。主軸方向はＮ -20°-Ｗである。

土坑形態　平面形態は方形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.79m、深さ 0.55 ｍ、埋土は 4 層からなる。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　01SI の埋没後掘削されていることから 、この遺構の時期は 7 期以降と推定できる。

21 ＳＸ（第Ⅲ -576 図）

位置　遺跡南西部（№82 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.78 ｍで、北西部は流路により壊され、東側は調査区外である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 0.97m 以上、短軸 0.60m 以上、深さ 0.22 ｍ、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　上層の04ＳＸには甕の胴部片が廃棄されているが､時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　01SI の埋没後掘削されていることから 、この遺構の時期は 7 期以降と推定できる。

04 ＳＸ（第Ⅲ -577・578 図）

位置　遺跡南西部（№82 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.78 ｍで、北西部は流路により壊され、東側は調査区外である。21SX の上層部である。

土坑形態　平面形態は不定形を呈し、長軸 0.97m 以上、短軸 0.60m 以上、深さ 0.12 ｍ、埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　01SI の埋没後掘削されていることから 、この遺構の時期は 7 期以降と推定できる。

（4）屋外炉（第Ⅲ-579図）

２区の後世の削平がほとんど及んでいない部分で検出している。19 基検出している。検出面は、Ⅱｂ層からⅢ層にかけてである。

239SX（第Ⅲ-580・581図）

位置　遺跡南西部（2 区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.3 ｍである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.95m、短軸 0.85m、深さ 0.1 ｍを測る。埋土は 1 層からなる。断面の形態は、Ｕ字状である。

遺物出土状況　炉内に流れ込んだ状況で、弥生土器の甕の口縁部（第Ⅲ -581 図 1・2）等が出土している。

まとめ　埋土には、焼土や炭は検出されていないが、20 ㎝程の河原石が詰め込まれており、その石が焼けていることから、灰穴炉の可能性がある。時期は、流れ込みの遺物から、６期と推定できる。

252SX（第Ⅲ -580 図）

位置　遺跡南西部（2 区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。検出面の標高は約 53.5 ｍである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.68m、短軸 0.45m 以上、深さ 0.06 ｍを測る。埋土は 1 層で焼土を含む。断面の形態は、Ⅲ状である。

まとめ　屋外炉の時期は、235SI が埋没後利用されてをいることから考えて、4A 期以降と推定できる。

251SX（第Ⅲ -580・581・582 図、PL.44）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている。検出面の標高は約 53.4 ｍ

で、西側と北側は撹乱により壊されている。

炉形態　平面形態は不整円形を呈し、長軸 0.32m 以上、短軸 0.3m 以上、深さ 0.07 mを測る。埋土は２層からなる。断面の形態は、皿状である。

遺物出土状況　流れ込みの弥生土器の甕の破片が出土している。

まとめ　遺構の新旧関係がないため、時期は決定しがたいが、流れ込みの遺物から３期以降と推定される。

250SX（第Ⅲ -580 図）

位置　遺跡中央部（2 区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。検出面の標高は約 53.47 m である。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.45m、短軸 0.38m、深さ 0.07 mを測る。埋土は２層からなる。断面の形態は皿状である

まとめ　屋外炉の時期は、234SIが埋没した後利用されていることから考えて、6A 期以降と推定される。

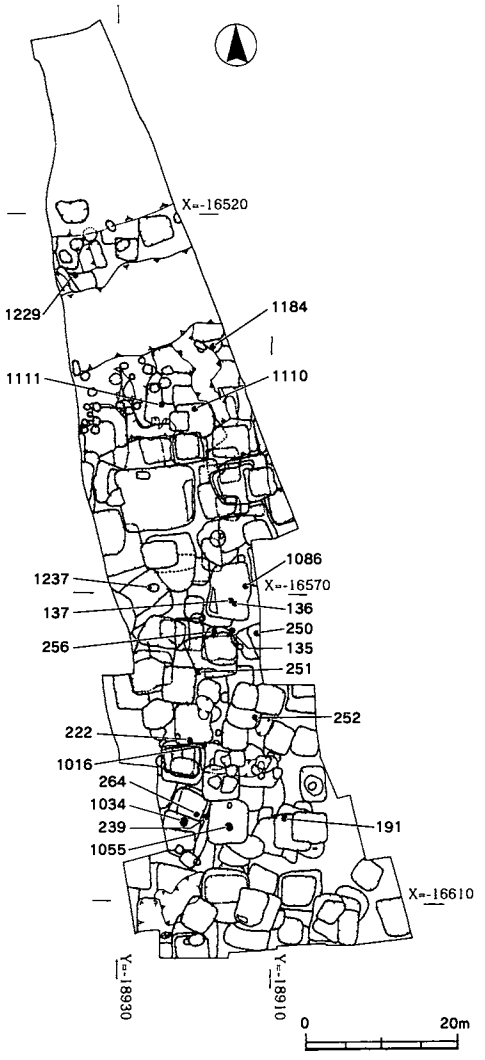
137SX（第Ⅲ -580・581 図）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。検出面の標高は約 53.45 m である。

炉形態　平面形態は不整円形を呈し、長軸 0.75m、短軸 0.55m、深さ 0.17 mを測る。埋土は２層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　炉内に流れ込んだ状況で、弥生土器の甕の口縁部片が出土している。

まとめ　132SIが埋没した後利用されていることから考えて７期以降と推定される。



第Ⅲ-579図　2区屋外炉配置図(1/1000)

136SX（第Ⅲ -580・581 図）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。検出面の標高は約 53.55 mである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.65m、短軸 0.5m、深さ 0.13 mを測る。埋土は２層からなる。断面の形態は、皿状である。

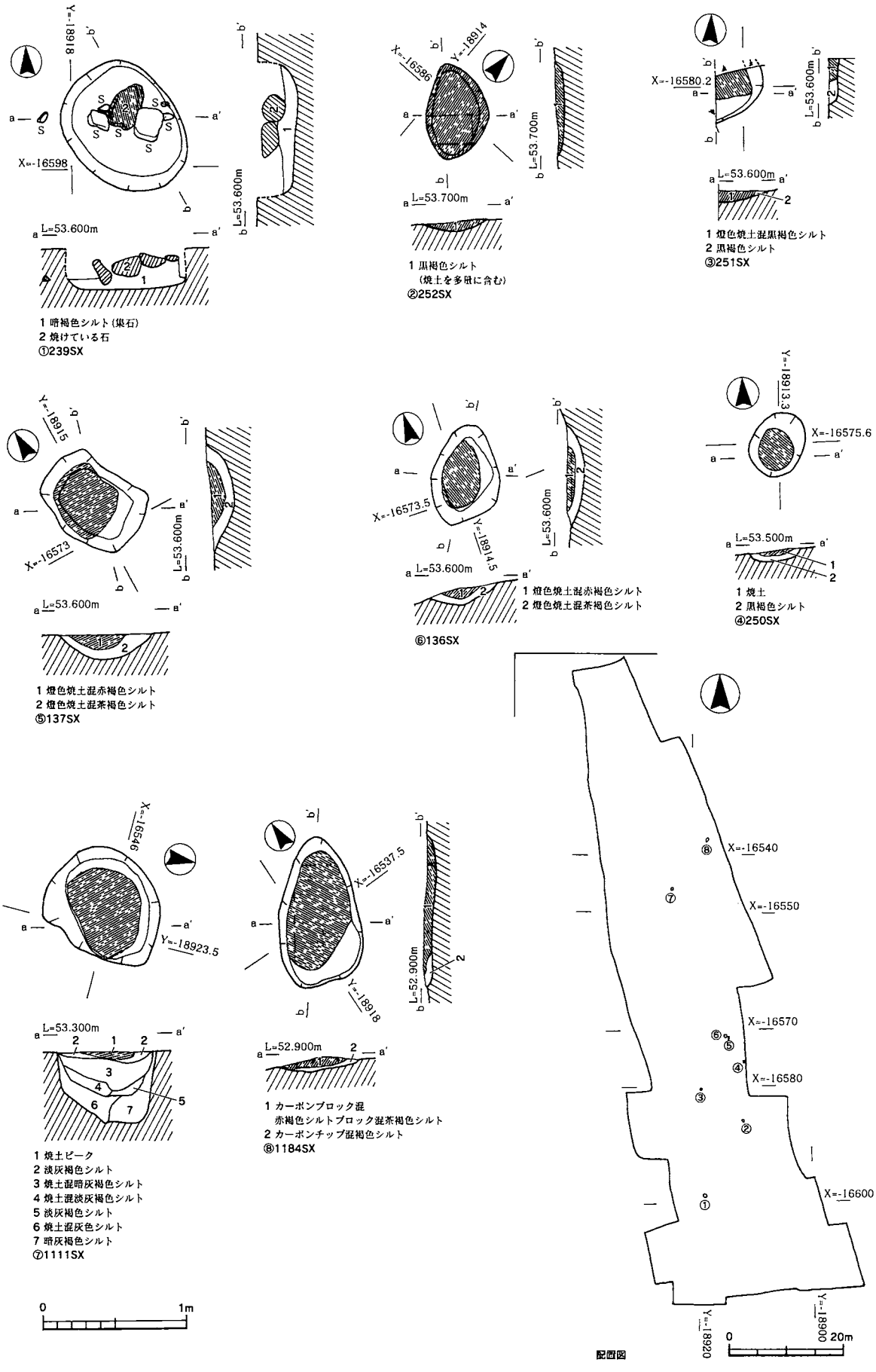
遺物出土状況　流れ込んだ状況で上層に弥生土器の甕が出土している。

まとめ　132SI が埋没した後利用されていることから考えて、７期以降と推定される。

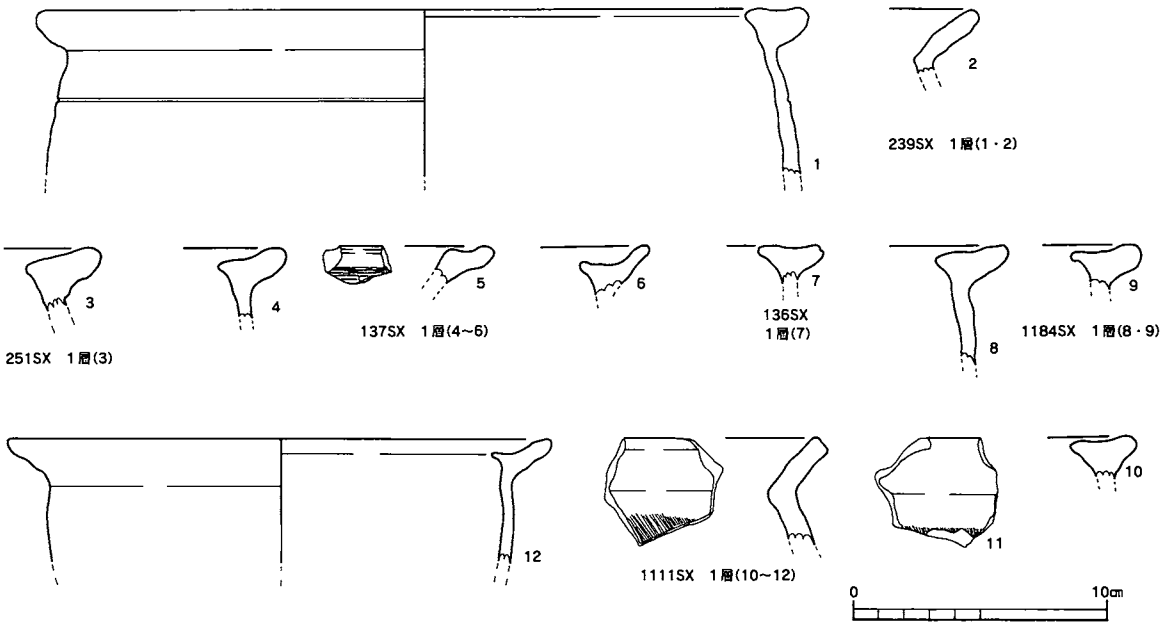
1111SX（第Ⅲ -580・581 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 52.9 mである。

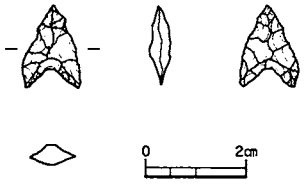
炉形態　平面形態は不整円形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.7m、深さ 0.5 mを測る。埋土は７層からなる。断面の形態は、すり鉢状である。



第Ⅲ-580図　屋外炉1　239・252・251・250・137・136・1111・1184SX　平面・断面図(1/40)
配置図(1/1000)



第Ⅲ-581図　239・251・137・136・1111・1184SX出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-582図　251SX出土石器実測図(2/3)

遺物出土状況　炉内の上層に流れ込んだ状況で、弥生土器の甕が出土した。

まとめ　深さが約50㎝と深い。炉というよりは焼土坑である。様々な時期の弥生土器の甕が出土しているが、この炉は1119SI埋没後であることや、出土土器から4A期以降と推定できる。

1184SX（第Ⅲ-580・581図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の自然堤防上に位置する。旧地形は削平されている。検出面の標高は約52.85mである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸1.05m、短軸0.58m、深さ0.06mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は、皿状である。

遺物出土状況　埋土に流れ込んだ弥生土器の甕等が出土している。

まとめ　出土土器や1188SIの埋没後利用されたことから5期以降に属すると推定できる。

135SX（第Ⅲ-583図）

位置　遺跡中央部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.6mである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸0.95m、短軸0.7m、深さ0.4mを測る。埋土は4層からなる。断面の形態はすり鉢状である。

まとめ　深さが約40㎝と深い。炉というよりは焼土坑である。時期は遺構の新旧関係もなく、時期の推定できる遺物もないため不明である。

1237SX（第Ⅲ-583・584図）

位置　遺跡北西部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.5mである。139SK、126SI埋没後利用されている。

炉形態　平面形態は円形をし、長軸0.4m、短軸0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は、皿状である。

まとめ　屋外炉の時期は、遺構の新旧関係から、6A期以降と推定できる。

1110SX（第Ⅲ-583・584図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.2 mである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸0.9m以上、短軸0.85m以上、深さ0.38 mを測る。埋土は4層からなる。断面の形態は、すり鉢状である。

まとめ　深さ38㎝、埋土3層と土坑状を呈する。貯蔵穴を炉に転用した可能性がある。1096SIが埋没後利用されていることから、7期以降と推定される。

1055SX（第Ⅲ-585図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.2 mで、南側は撹乱により壊されている。190SI埋没後に炉として利用されている。

炉形態　平面形態は楕円形をし、長軸1.05m以上、短軸0.9m以上、深さ0.2 mを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は皿状である。炭・焼土を多量に含む。

まとめ　屋外炉の時期は、190SIが埋没した後であることから考えて、7期以降と推定される。

1034SX（第Ⅲ-585図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.1 mである。1040SI埋没後、炉として利用されたと推定される。

炉形態　平面形態は円形を呈し、長軸1.3m以上、短軸1.2m以上、深さ0.22 mを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は、皿状である。

まとめ　屋外炉の時期は、1040SI埋没後であることから考えて、7期以降と推定される。

191SX（第Ⅲ-585・586図）

位置　191ＳＸは、遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.8 mである。

炉形態　平面形態は不整円形を呈し、長軸0.85m、短軸0.8m、深さ0.18 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は皿状である。

遺物出土状況　炉内に流れ込んだ状況で、弥生土器の甕の口縁部（第Ⅲ-586図4）・底部（第Ⅲ-586図5）等が出土している。

まとめ　屋外炉の時期は、出土遺物や165SIが埋没した後利用されていることから考えて、6A期以降と推定される。

264 SX（第Ⅲ-585・586図）

位置　遺跡南西部（2区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.36 mである。

炉形態　平面形態は円形を呈し、長軸0.62m、短軸0.58m、深さ0.2 mを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は、皿状である。

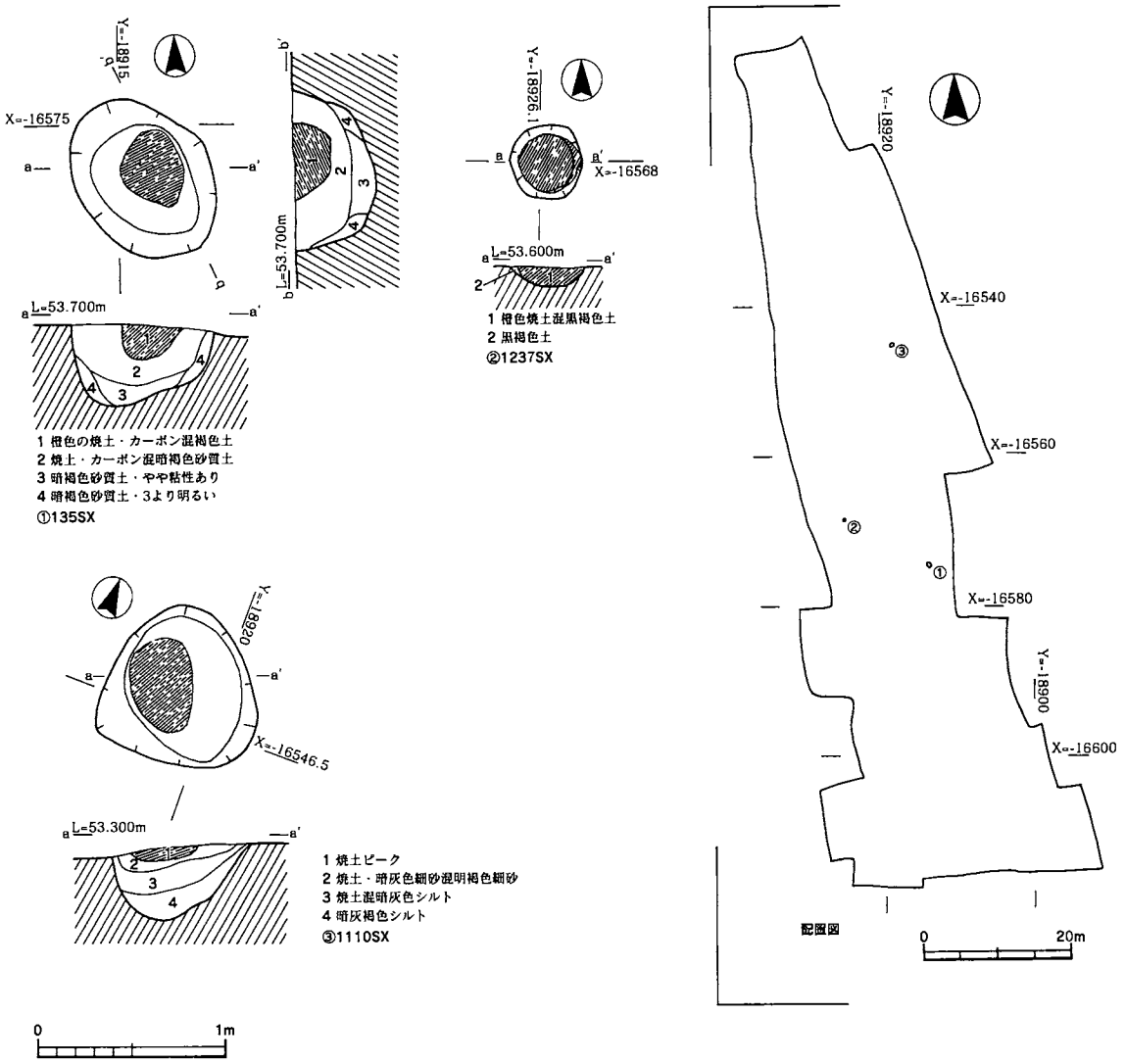
遺物出土状況　流れ込みと考えられる弥生土器の甕（第Ⅲ-586図1）・壺（第Ⅲ-586図2）が出土している。

まとめ　1019SIが埋没した後利用されていることや遺物の出土状況から、4Ｂ期以降に属すと推定される。

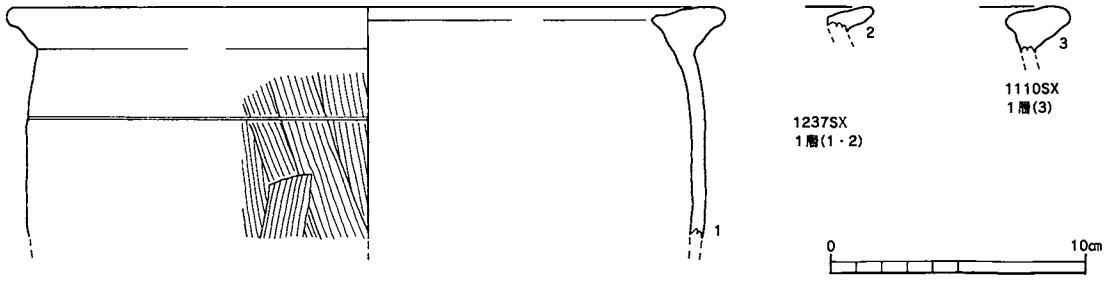
1016 SX（第Ⅲ-585・586図）

位置　遺跡中央部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めている考えられる。検出面の標高は約53.2 mである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸0.45m、短軸0.2m以上、深さ0.18 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は、すり鉢状である。上層に焼土を顕著に含む。



第Ⅲ-583図　屋外炉2　135・1237・1110SX平面・断面図(1/40)、配置図(1/1000)



第Ⅲ-584図　1237SX・1110SX出土土器実測図(1/3)

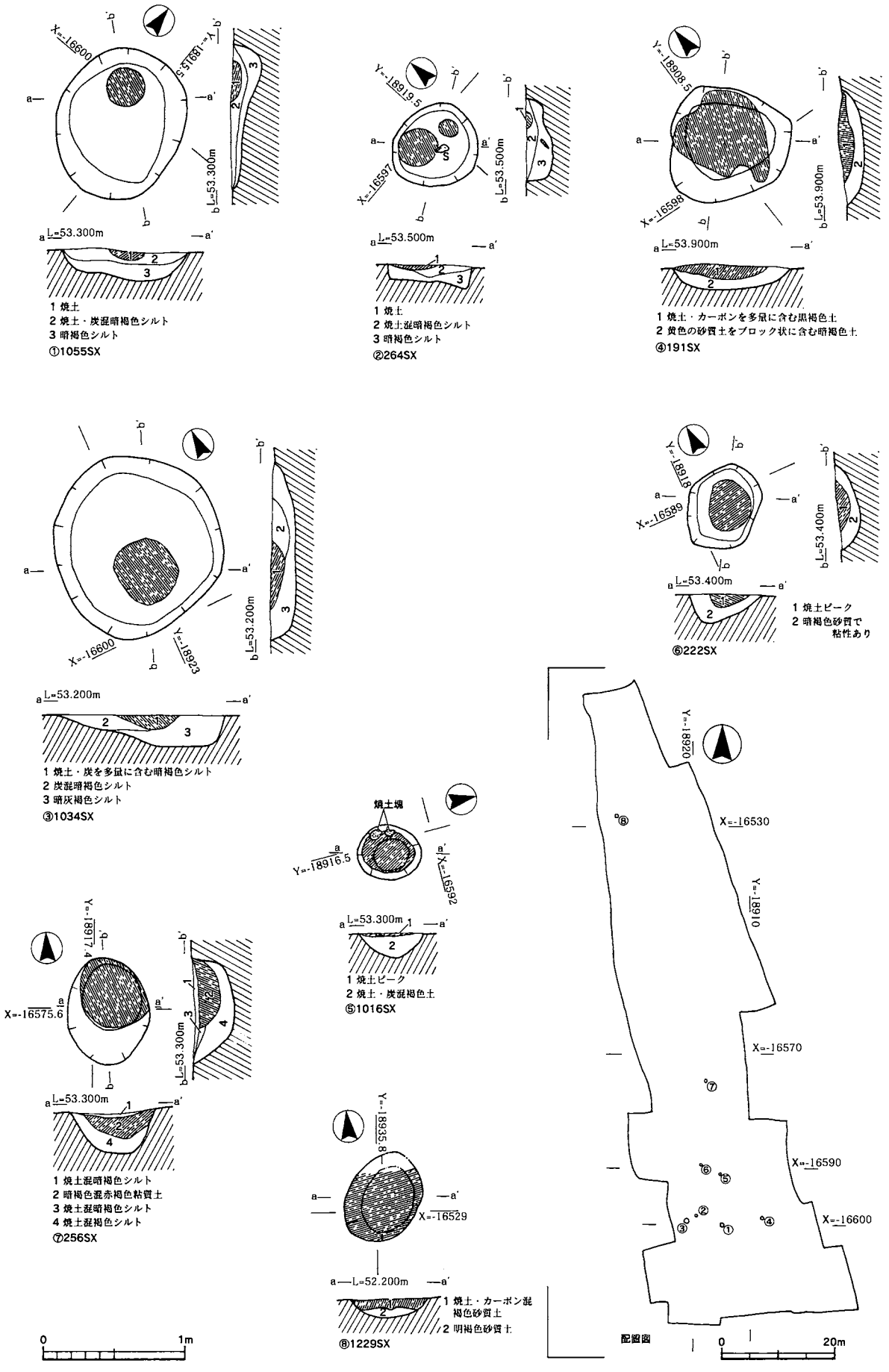
遺物出土状況　下層から弥生土器の甕の口縁部等が出土している。

まとめ　出土土器は古い様相だが、埋没後 1021SK が掘削されていることから、5 期以降と考えられる。

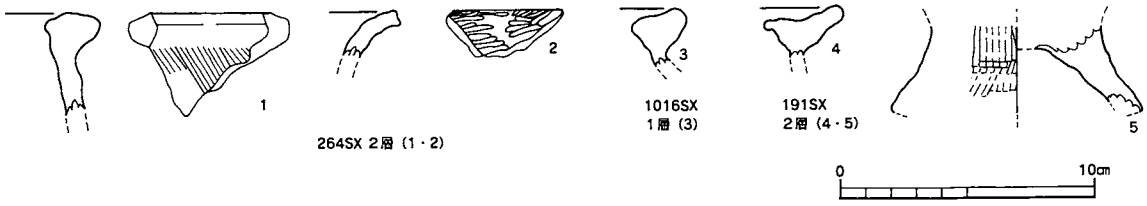
222 S X（第Ⅲ -585 図）

位置　遺跡中央部（2 区南部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.3 mである。269SI・1046SI 埋没後掘削している。

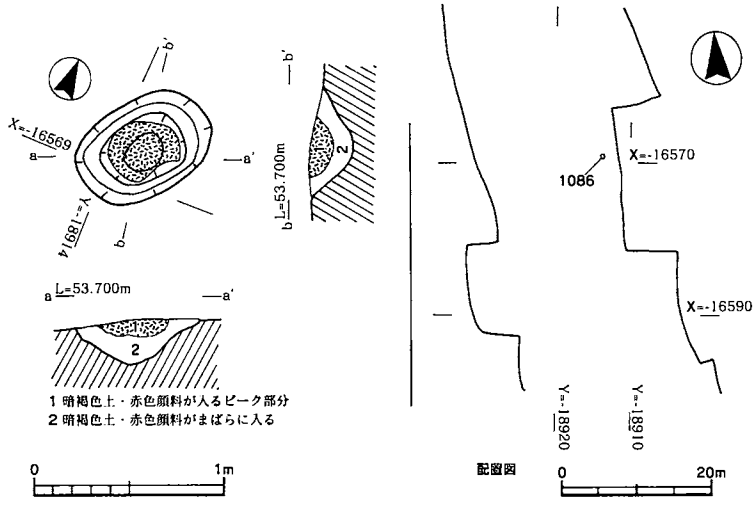
炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.6m、短軸 0.5m、深さ 0.2 mを測る。埋土は２層からなる。断面



第Ⅲ-585図　屋外炉3　1055·264·1034·191·1016·222·256·1229SX　平面·断面図(1/40)、配置図(1/1000)



第Ⅲ-586図　264SX・1016SX・191SX出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-587図　1086SX　平面・断面図(1/40)、配置図(1/1000)

の形態は、すり鉢状である。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　269SI、1046SI埋没後掘削されていることから、6A期以降と推定される。

256SX（第Ⅲ-585図）

位置　遺跡中央部（2区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約53.3 mである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸0.75m、短軸0.6m、深さ0.28 mを測る。埋土は3層からなる。断面の形態は、すり鉢状である。

遺物出土状況　時期の推定できる遺物は出土していない。

まとめ　時期の推定が困難である。

1229SX（第Ⅲ-585図）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約52.1 mである。1148SI埋没後掘削している。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸0.63m以上、短軸0.5m、深さ0.13 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態は、皿状である。上層に炭を含む。

まとめ　時期の推定が困難である。

1086SX（第Ⅲ-587図）

位置　遺跡中央部（2区中央部）自然堤防上に位置する。旧地形を削平されていると考えられる。検出面の標高は約53.5 mである。

炉形態　平面形態は楕円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.28 mを測る。埋土は2層からなる。断面の形態はすり鉢状である。

まとめ　遺構の新旧関係もなく、時期の推定できる遺物が出土していないため、時期は不明である。赤色顔料が上層から出土しており、ある程度埋まった段階で顔料を貯蔵していた可能性が高い。

第Ⅲ-588図　梅ノ木遺跡　弥生時代遺構配置図(1/1000)

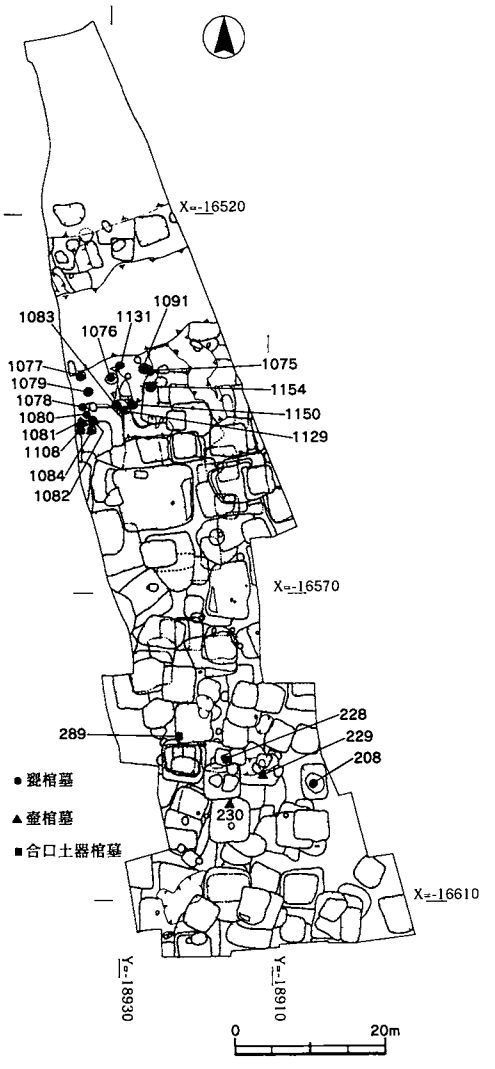
(5) 土器棺墓（第Ⅲ-588図）

①2区の調査（第Ⅲ-589図）

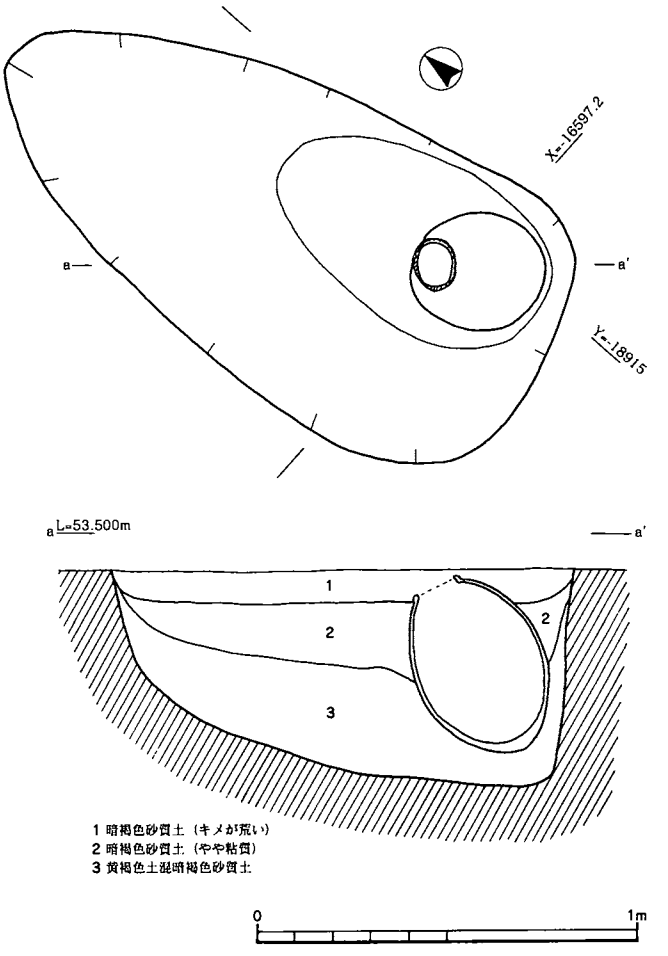
230ＳＸ（第Ⅲ-590・591・592図、PL.13・30）

位置　遺跡北西部（2区南側）の自然堤防上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。190SIが埋没した後据えられている。土器の最深部の標高は約52.9ｍである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺棺である。口縁部の方向はN-31°-Eで、正位置からの傾斜角度は29°である。口縁部を人為的に打ち欠き、口径（頸部径）14㎝・最大胴部径32.9㎝・底径5.9㎝・器高50㎝である。胴部下半に焼成後の穿孔がある。掘り方は東側壁面をやや斜めに掘り込み、楕円形を呈する。掘り方は長



第Ⅲ-589図　2区土器棺墓配置図(1/1000)



第Ⅲ-590図　230SX　平面･断面図(1/20)

軸 161 cm・短軸 75 cm・深さ 56 cmで、埋土は 3 層からなる。

遺物出土状況　壺棺の埋土から骨片が出土している。

208 S X（第Ⅲ -593・594・595 図、PL.34）

位置　遺跡中央部（2 区中央部）自然堤防上に位置し、旧地形は削平され、土器棺部分上部まで壊されている。土器の最深部の標高は約 53.6 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺で、口縁部方向は南西方向と推定される。掘り方の上部の形態は残存する部分で不整形を呈する。長軸 1.2 m・短軸 1.0 m・深さ 0.2 mである。掘り方の埋土は 3 層からなる。

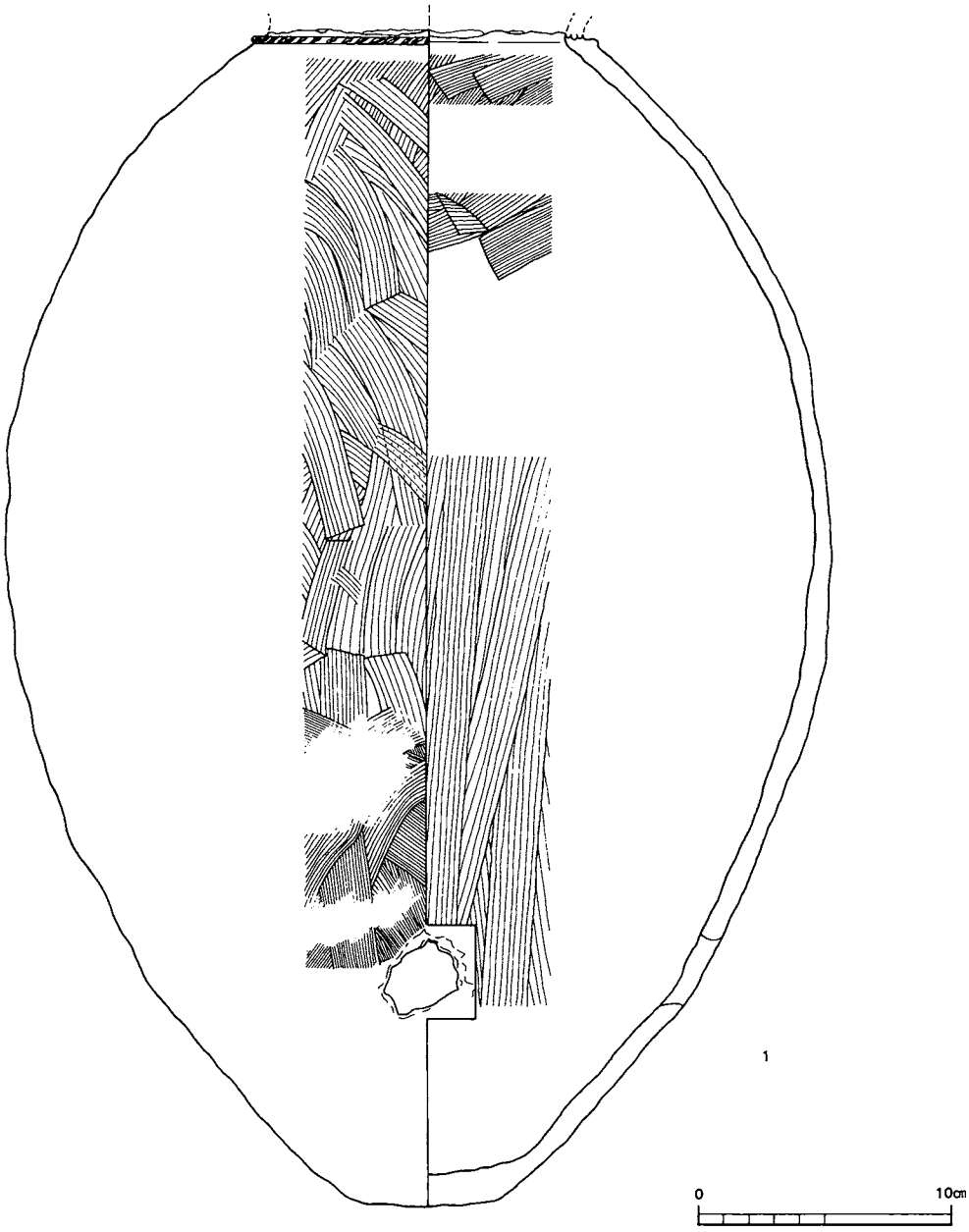
遺物出土状況　骨片、歯は検出できなかった。流れ込みの土器（第Ⅲ -595）も出土している。

229 S X（第Ⅲ -596・597・598 図、PL.13・30）

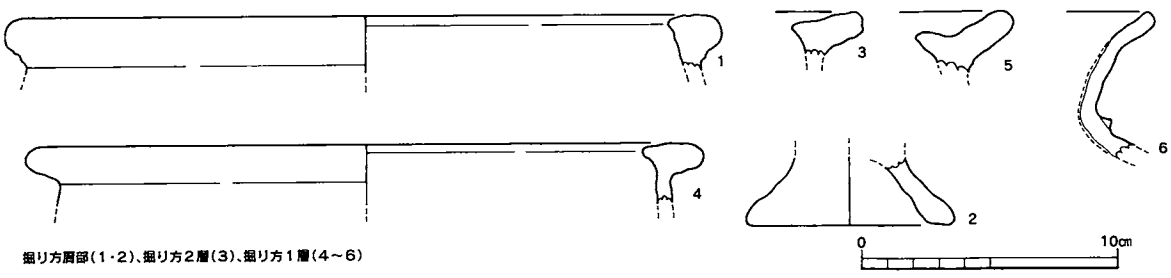
位置　遺跡北西部（2 区南側）の氾濫原上に位置する。旧地形をほとんど留めている。253SI 埋没後に据えられている。土器の最深部の標高は約 52.7 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺で、口縁部方向はN-81 °-W、正位置からの傾斜角度は 29 °である。口縁部は打ち欠かれている。口径 20 cm、最大胴部径 40 cm、底径 5 cm、器高 41 cmである。埋土は 3 層からなる。掘り方は２段堀で上部の形態は不定形である。長軸 230 cm、短軸 140 cm以上、深さ 84 cmで、東側壁面を斜めに掘り込み、掘り方の埋土は 8 層からなる。

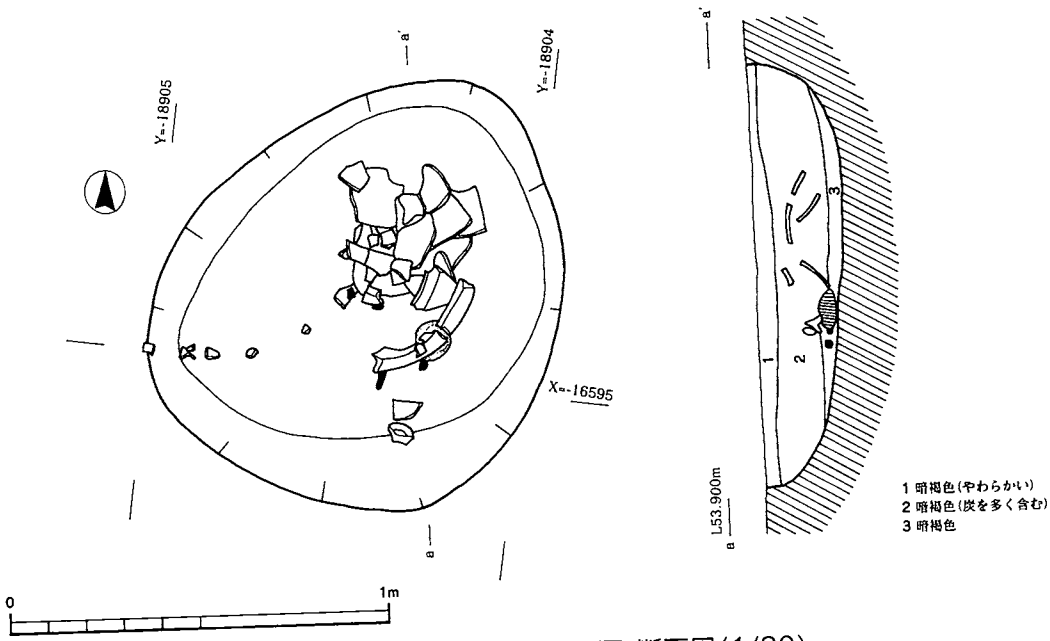
遺物出土状況　骨片・歯などは検出できなかった。



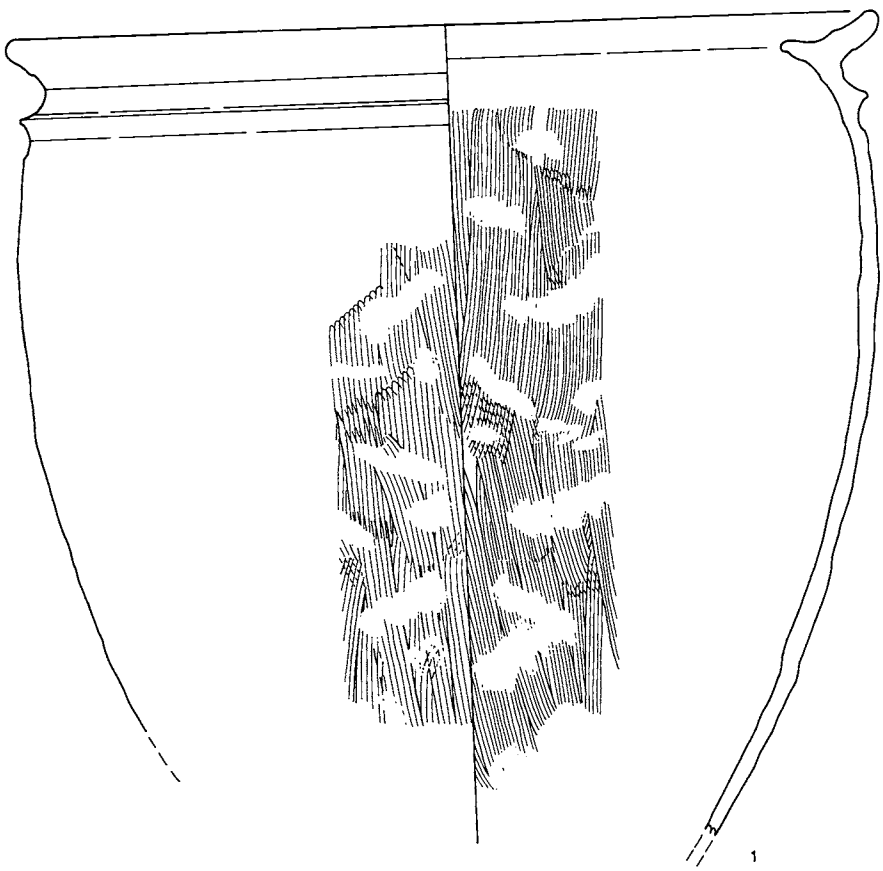
第Ⅲ-591図　230SX(壷棺)実測図1(1/3)

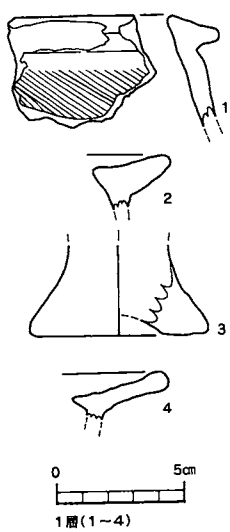


第Ⅲ-592図　230SX出土土器実測図2(1/3)

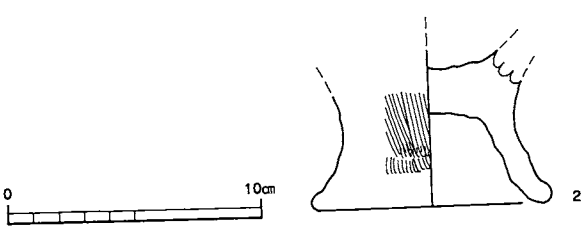


第Ⅲ-593図　208SX　平面・断面図(1/20)

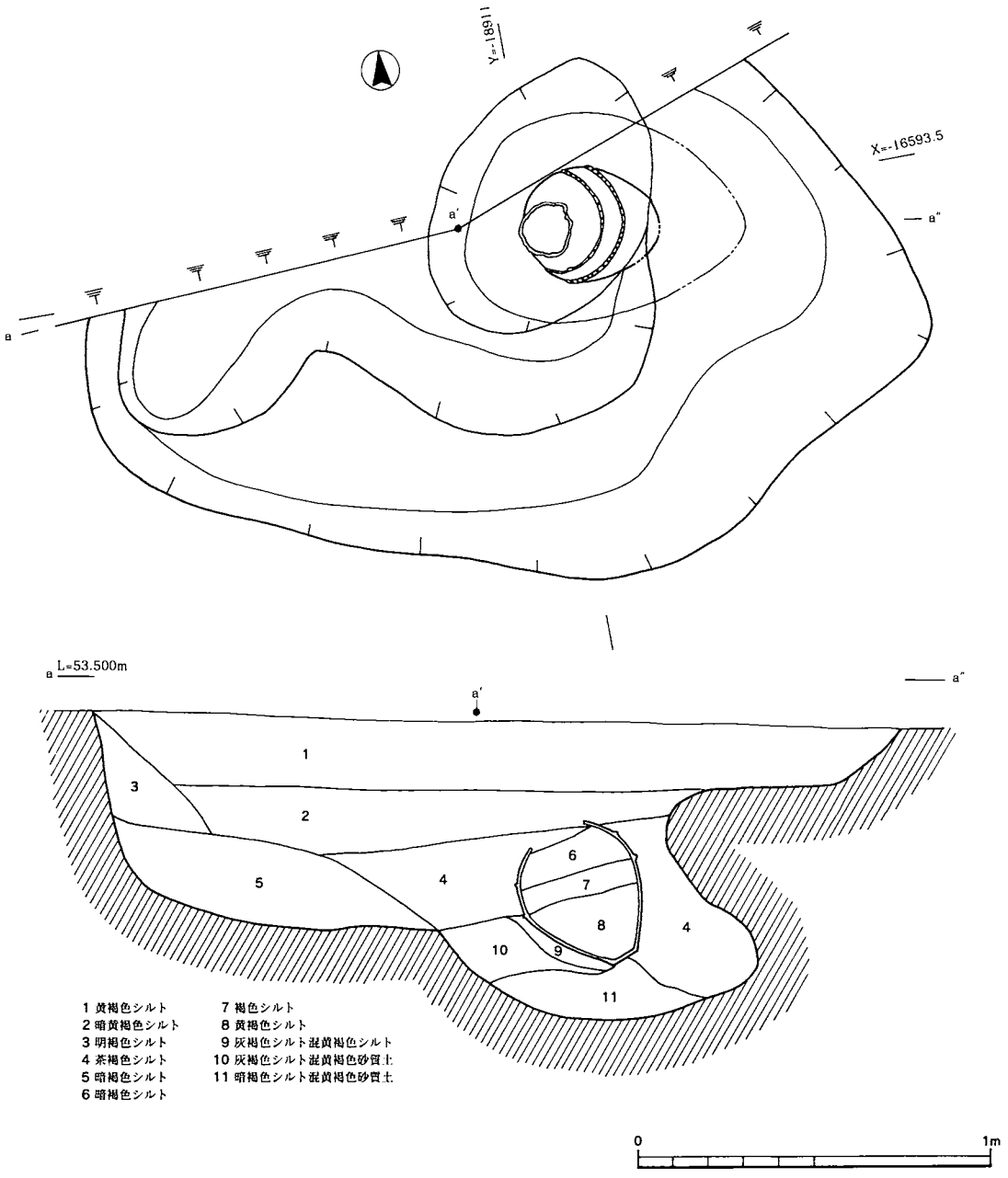




第Ⅲ-595図　208SX出土土器実測図2(1/3)



第Ⅲ-594図　208SX(甕棺)実測図1(1/3)



第Ⅲ-596図　229SX　平面･断面図(1/20)

228 S X（第Ⅲ -599・600・601・602 図、PL.13・30）

位置　遺跡北西部（2 区南側）の氾濫原上に位置する。旧地形をほとんど留めている。1021SK 埋没後据えられている。土器の最深部の標高は約 52.5 mである。

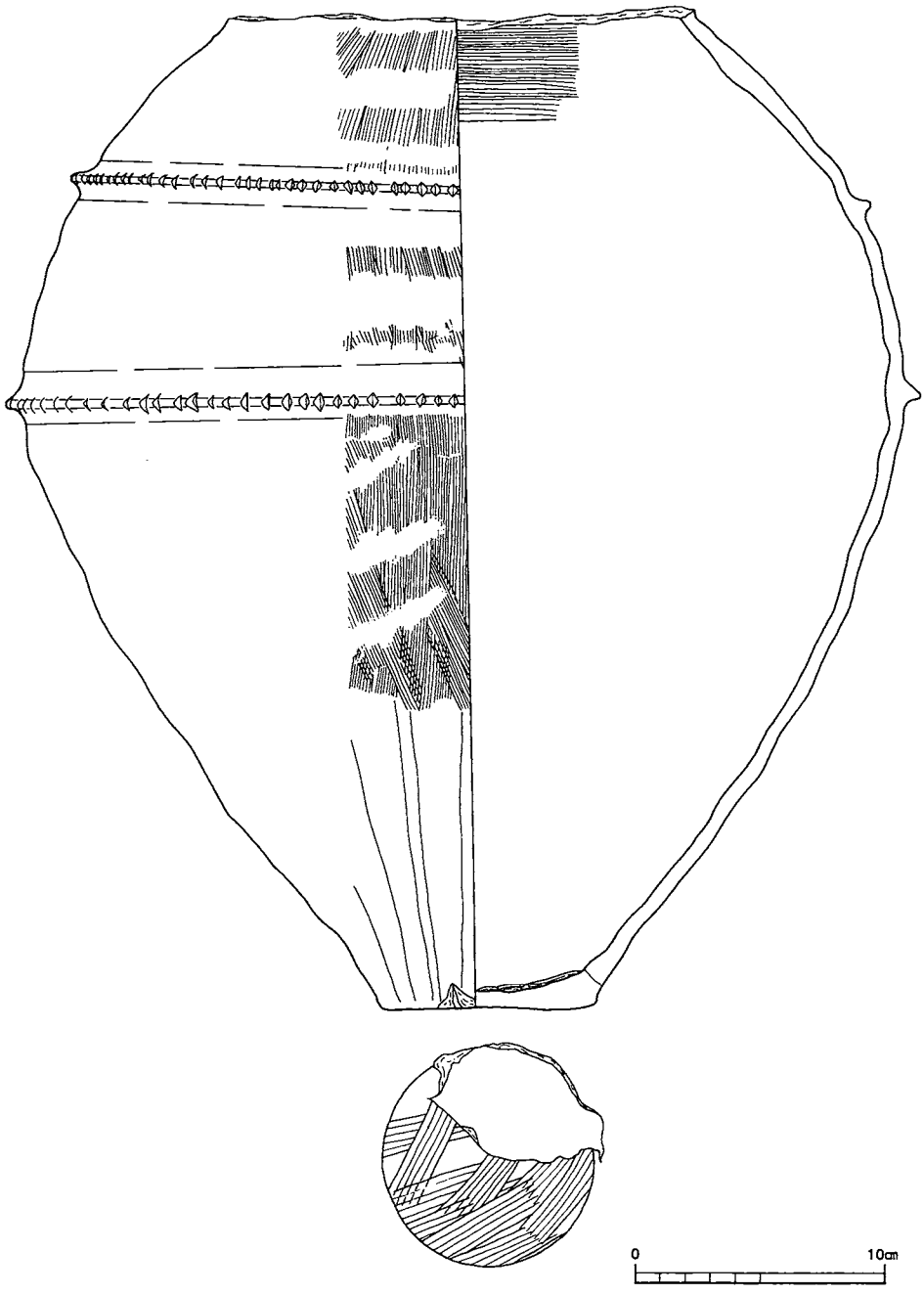
土器棺墓形態　この土器棺墓は壺と鉢の合口の土器棺で、下の土器棺の口縁部方向は N-80 °-W、正位置からの傾斜角度は 58 °である。下の壺は、口径 27.3 ㎝、最大胴部径 42.6 ㎝、底径 6 ㎝、器高 49.3 ㎝で、上の鉢は、口径 31.7 ㎝、最大胴部径 30.1 ㎝、底径 9.9 ㎝、器高 30.1 ㎝、深さ 94 ㎝である。掘り方の構造は 2 段堀で東側壁面を斜めに掘り込み、掘り方の埋土は 5 層からなる。

遺物出土状況　土器棺内から骨片、歯が出土している。

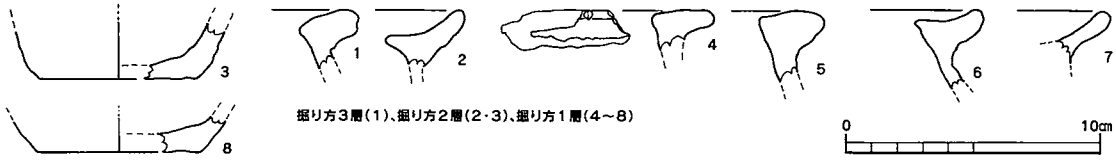
289 S X（第Ⅲ -603・604・605・606 図、PL.13・30）

位置　遺跡北西部（2 区中央部）の氾濫原上に位置する。旧地形をほとんど留めている。269SI 埋没後に据えられている。土器の最深部の標高は約 52.3 mである。

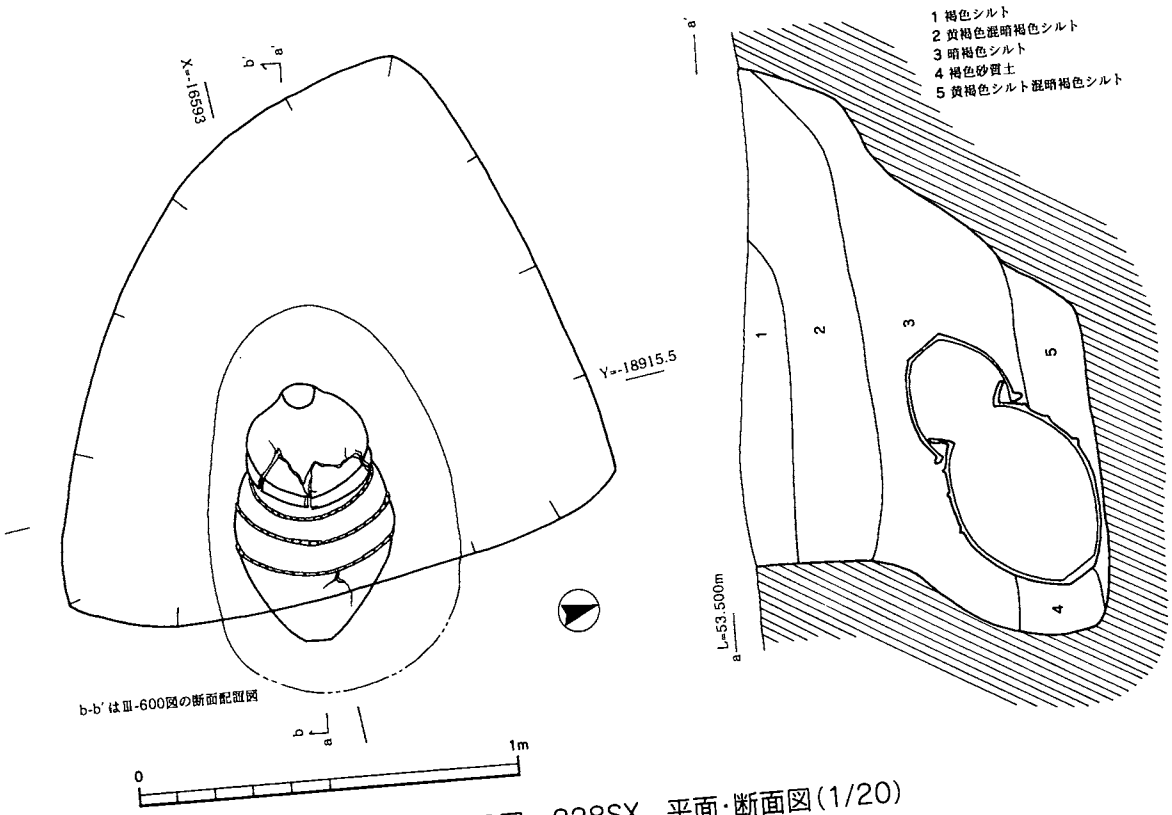
土器棺墓形態　この土器棺墓は甕の合口甕棺で、口縁部方向は N-88 °-E で正位置からの傾斜角度は 45 °であ



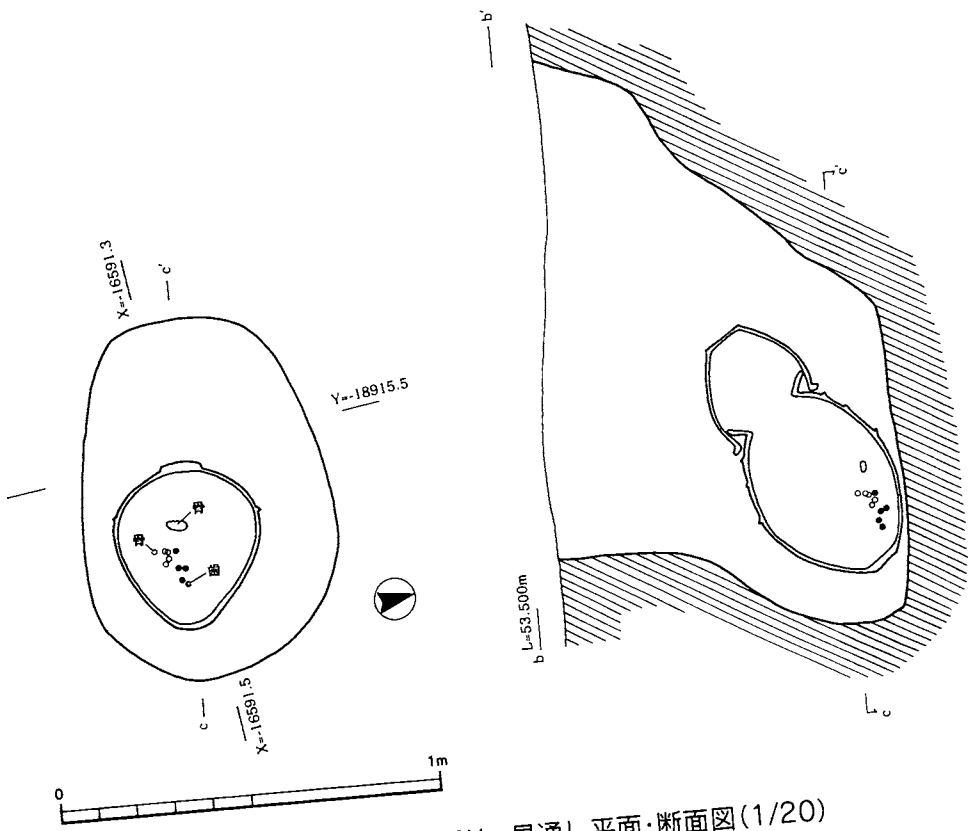
第Ⅲ-597図　229SX(壷棺)実測図1(1/3)



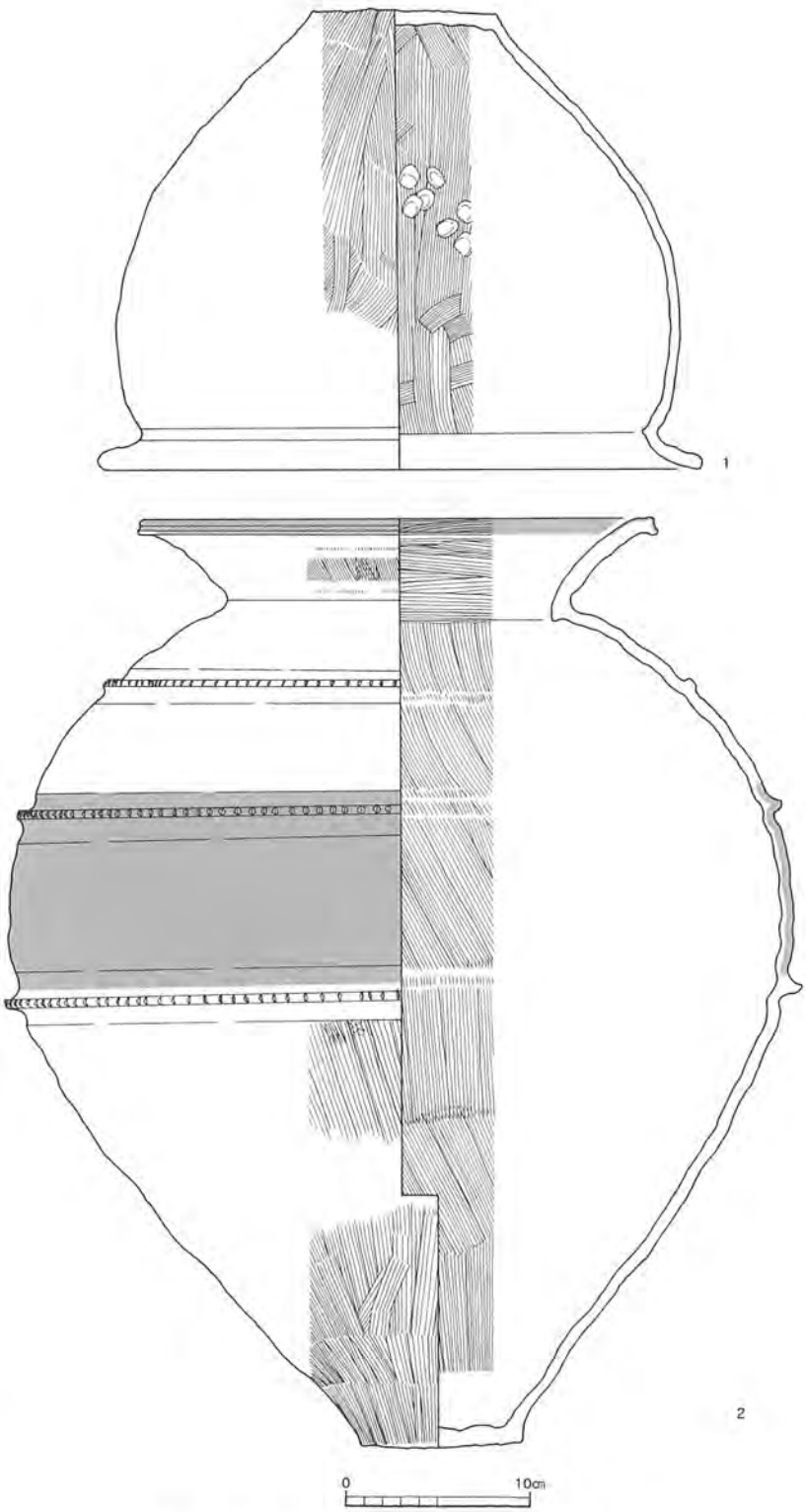
第Ⅲ-598図　229SX出土土器実測図2(1/3)



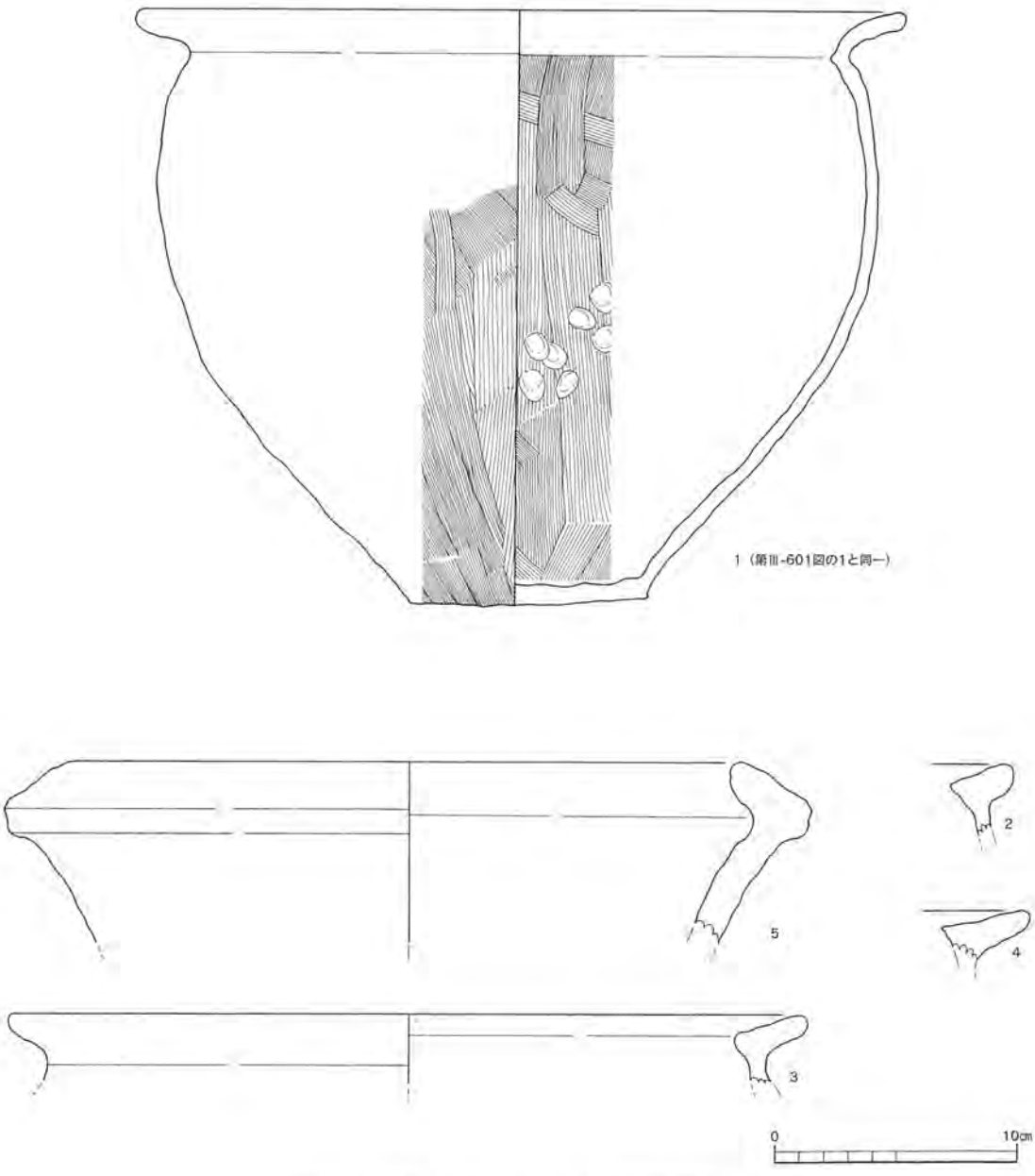
第Ⅲ-599図　228SX　平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-600図　228SX　見通し平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-601図　228SX(鉢・壷棺)実測図1(1/4)



第Ⅲ-602図　228SX出土土器実測図2(1/3)
〈合口土器棺上甕(1)、掘り方肩部(2)、掘り方3層(3～5)〉

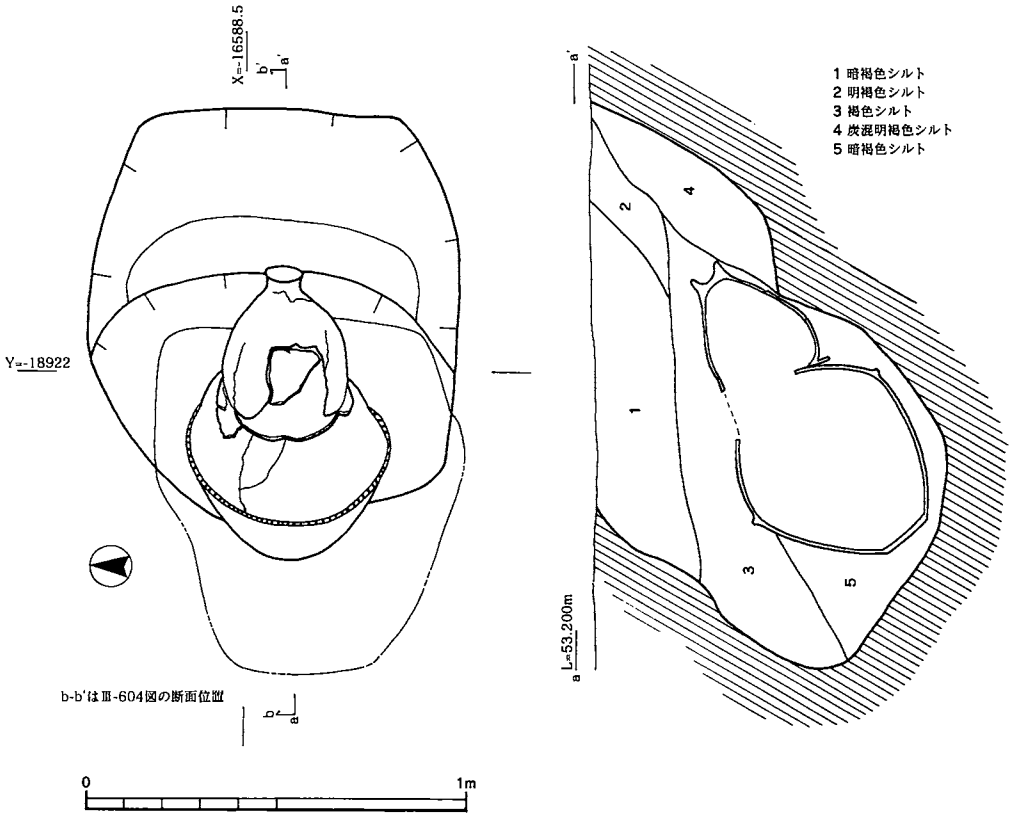
る。上甕は、口径30㎝、最大胴部径29㎝、底径10㎝、器高35㎝で下甕は、口径22㎝、最大胴径50㎝、底径14㎝、器高51㎝である。掘り方の構造は2段堀で上部の形態は隅丸方形を呈する。長軸106㎝・短軸97㎝・深さ92㎝で、掘り方の埋土は5層からなる。西側壁面を斜めに掘り込み、甕棺を埋納している。

遺物出土状況　骨片、歯を検出した。

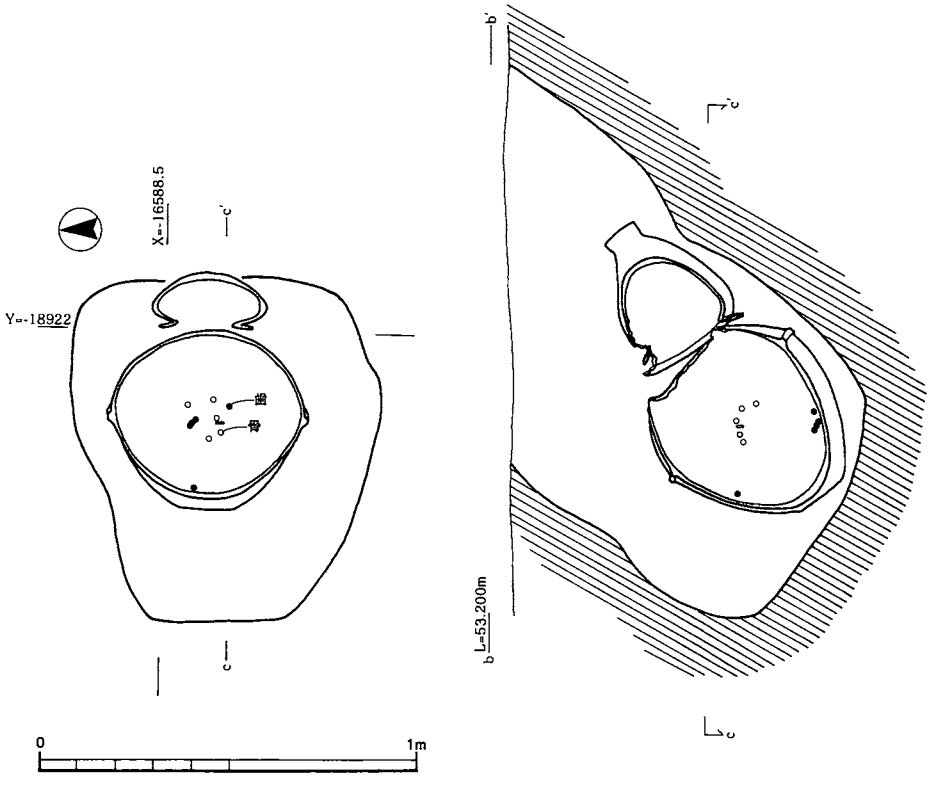
1129 S X（第Ⅲ-607・609・610図、PL.13・31）

位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。撹乱で上部の掘り方が壊されている。土器の最深部の標高は約52.5 mである。

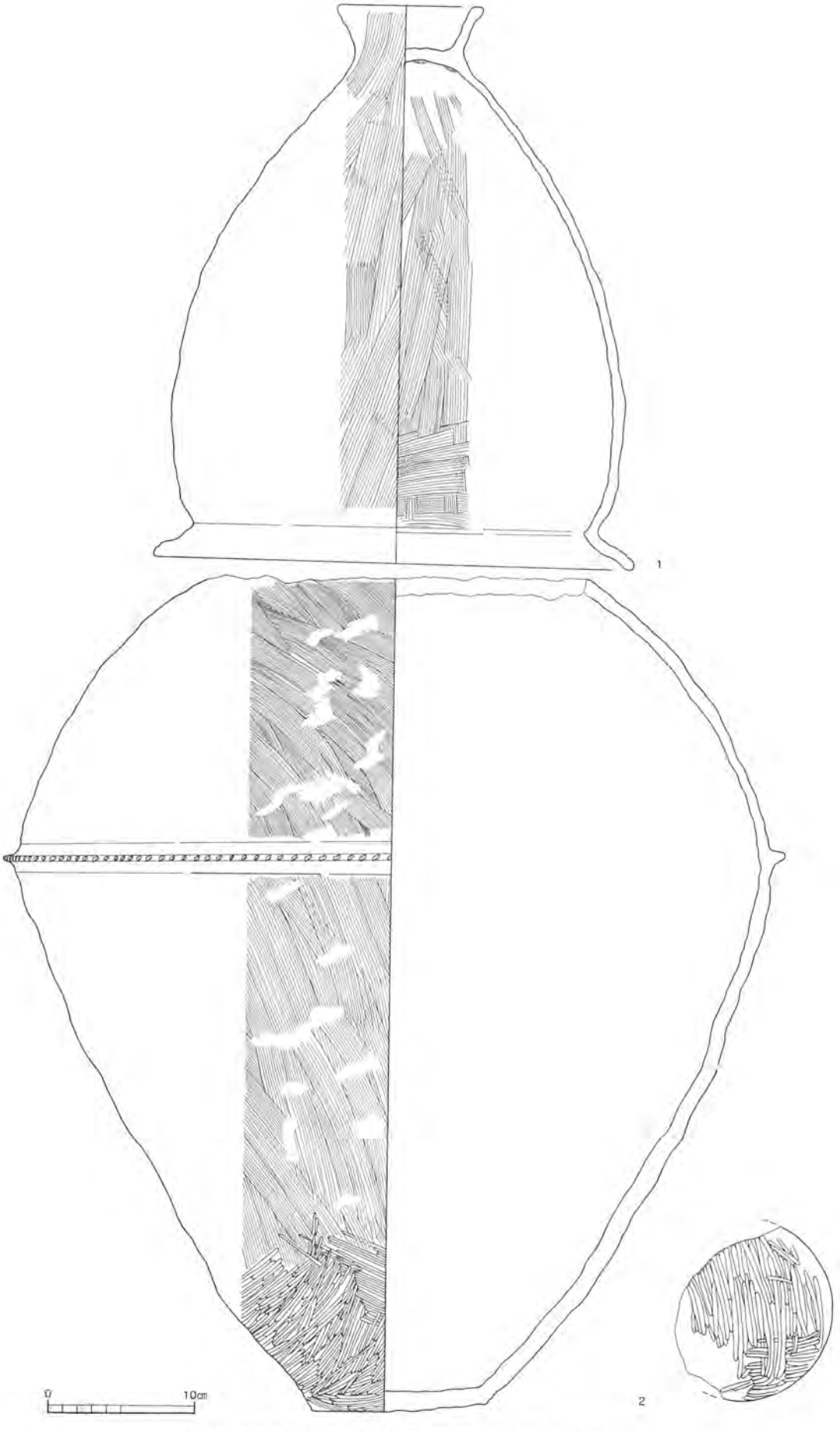
土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。口縁部方向はN-93°-Wで、正位置からの傾斜角度は36°である。口径28.3㎝、最大胴部径48.1㎝、底径は約15.1㎝、器高55.8㎝である。掘り方の構造は2段堀である。上部の形態は楕円形で、長軸107㎝、短軸83㎝、深さ76㎝で、埋土は3層からなる。斜めに掘り込ん



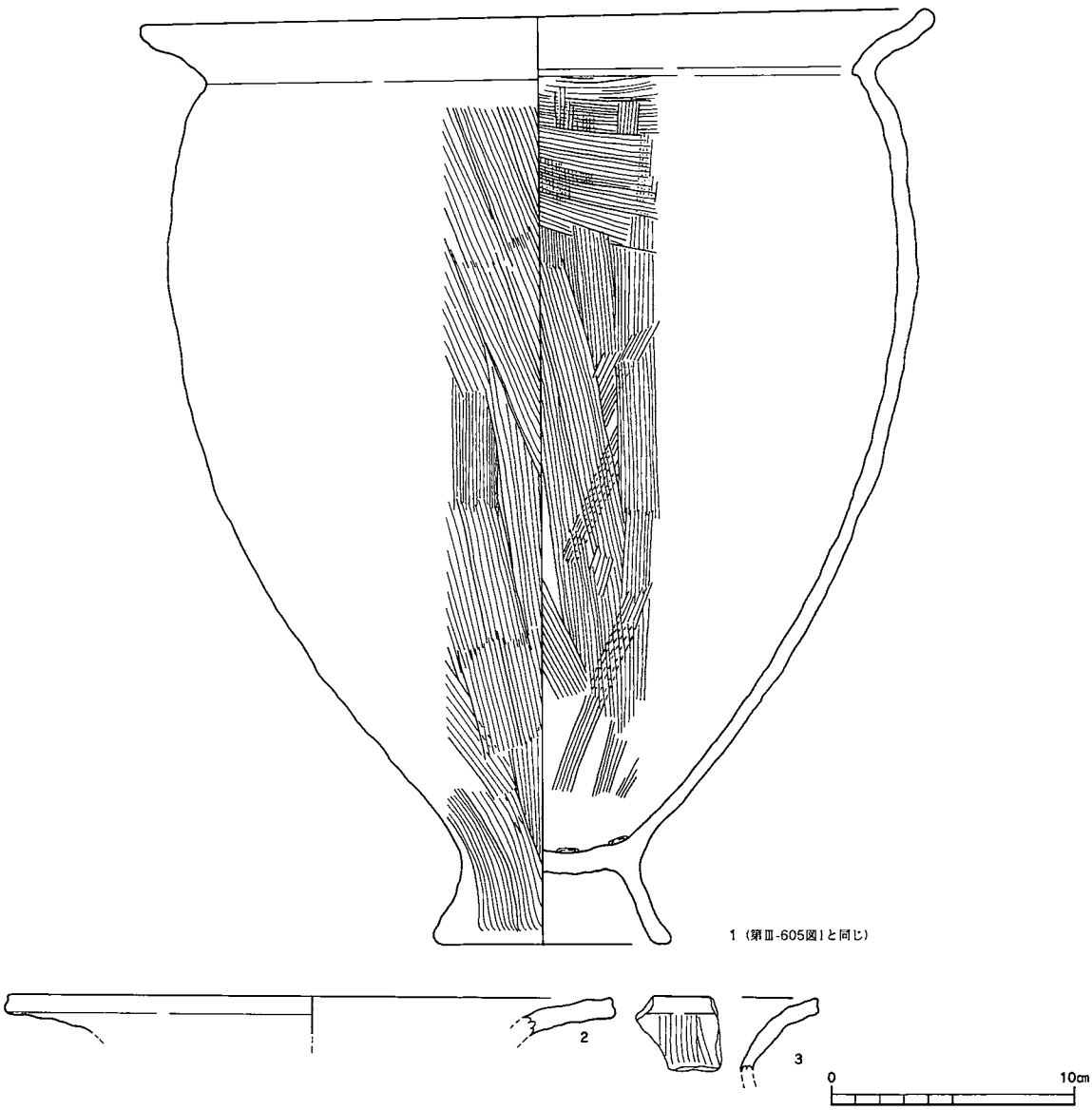
第Ⅲ-603図　289SX　平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-604図　289SX　見通し平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-605図　289SX(甕棺・壷棺)実測図1(1/4)



第Ⅲ-606図　289SX出土土器実測図2（1/3）〈合口土器棺上甕（1）、掘り方4層（2）、掘り方1層（3）〉

だ土坑床面に比較的平らな石を据え、底部を欠いた甕棺を設置し、口縁部の周囲に蓋石を支える石材を配し、蓋石を据えている。

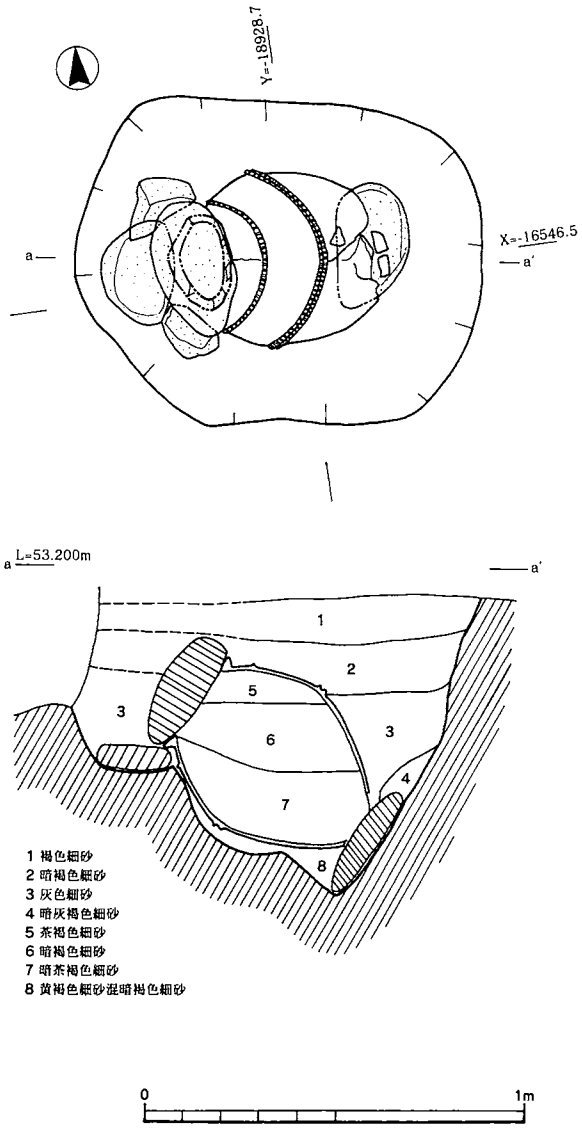
遺物出土状況　甕棺埋土３層中より、骨片を検出した。

1150 S X（第Ⅲ-608・611・612図、PL.13・31）

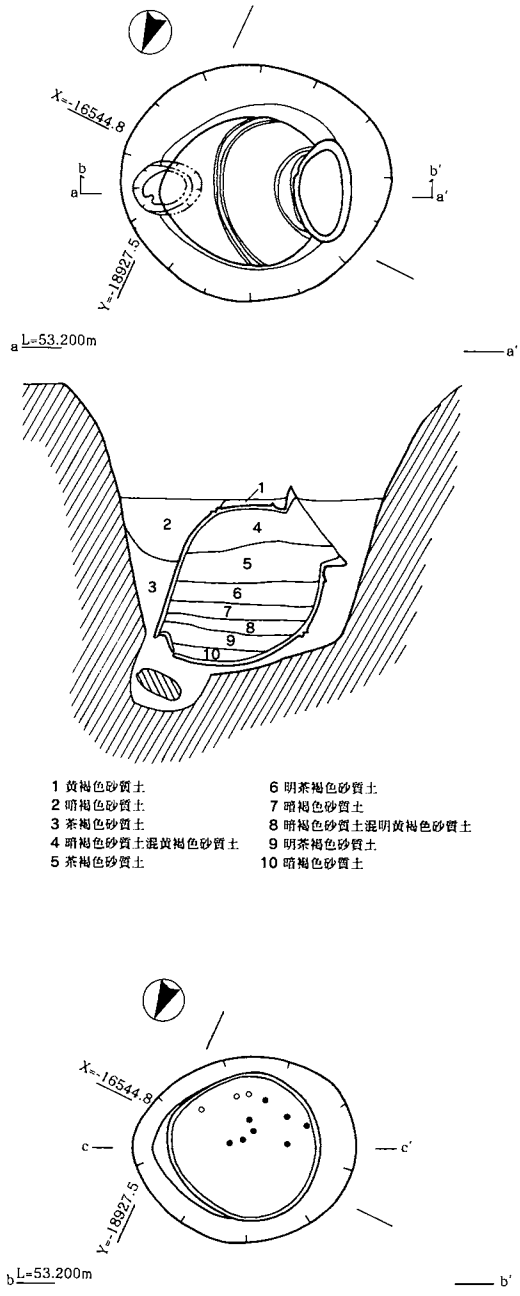
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されている。土器の最深部の標高は約52.4mである。1121SI埋没後に据えられている。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺棺で、口縁部方向はN-115°-W、正位置からの傾斜角度は53°、口径25cm・最大胴部径40cm、底径は測定不能で、器高53cm、埋土は7層からなる。掘り方は長軸69cm・短軸61cm・深さ85cmで、埋土は3層からなる。土坑底面近くに平らな石を配し、その上に底を打ち欠いた壺棺を設置している。

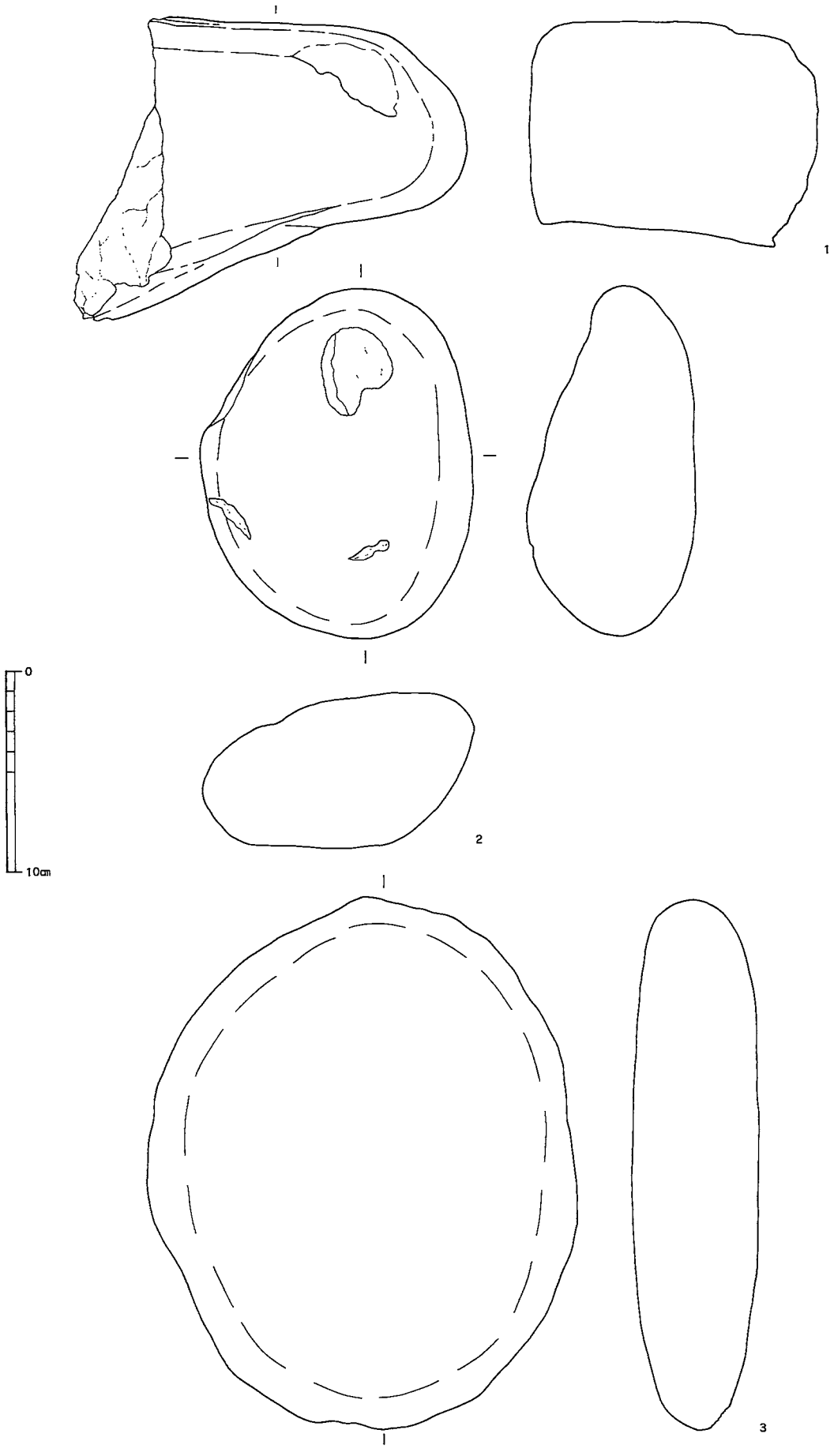
遺物出土状況　壺棺内から骨片、歯を検出した。



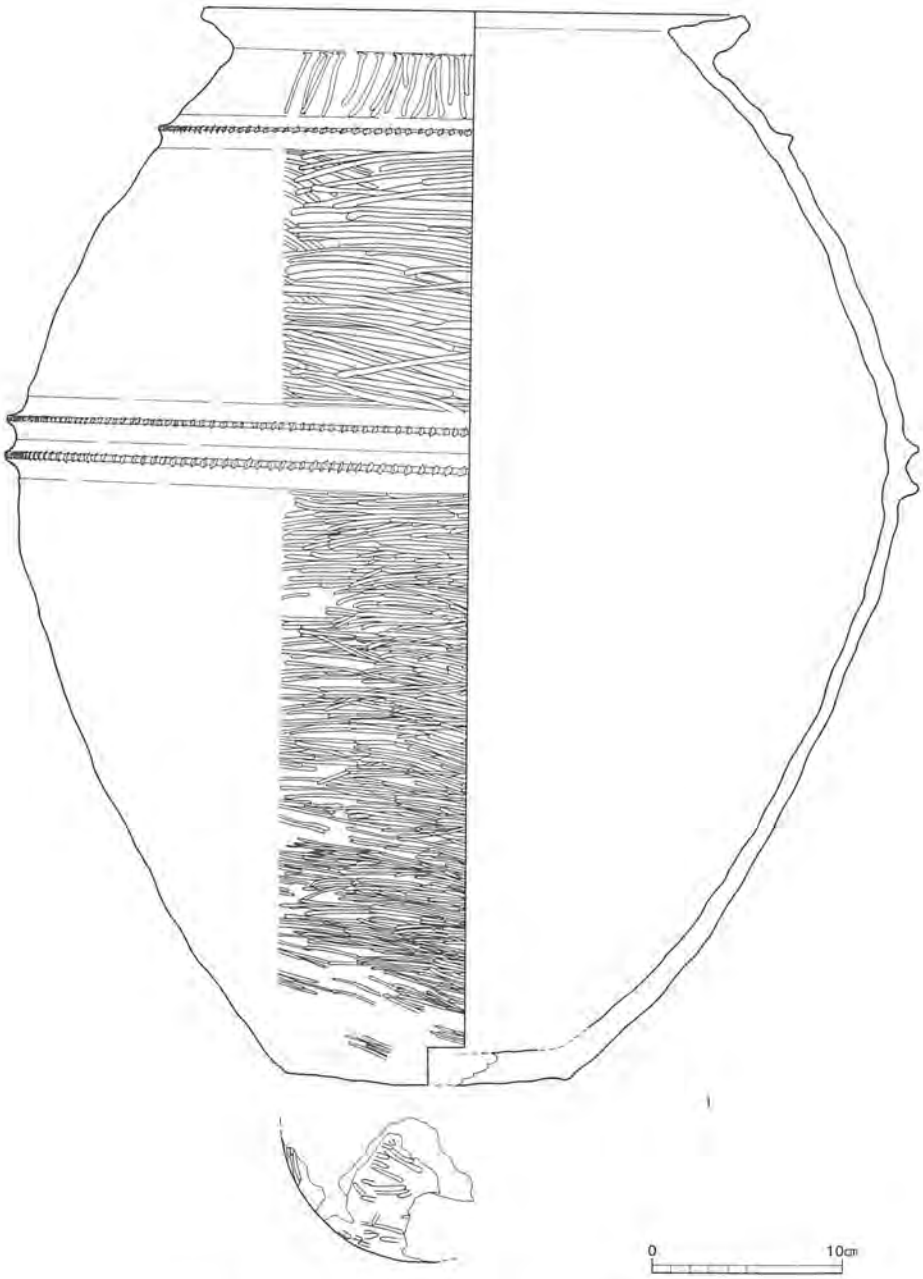
第Ⅲ-607図　1129SX　平面・断面図(1/20)



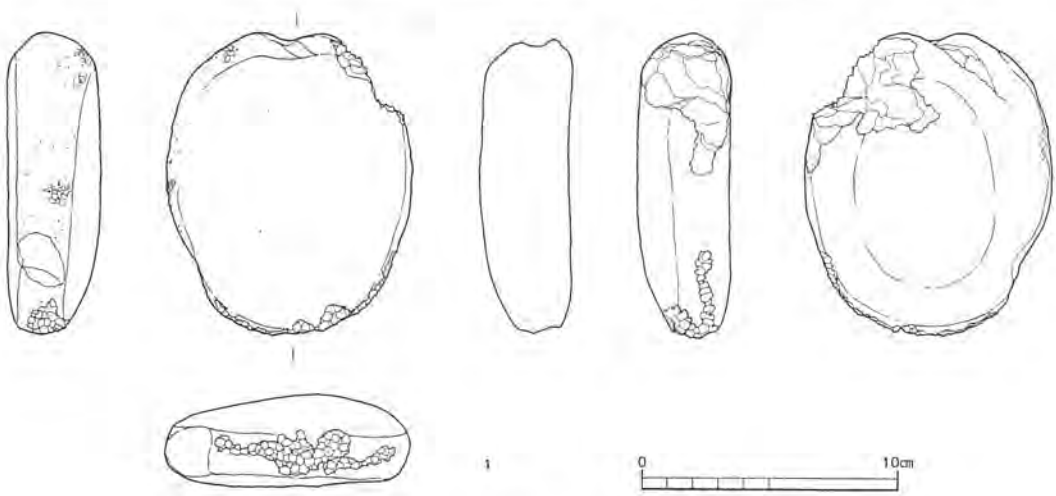
第Ⅲ-608図　1150SX
平面・断面図、見通し平面・断面図(1/20)



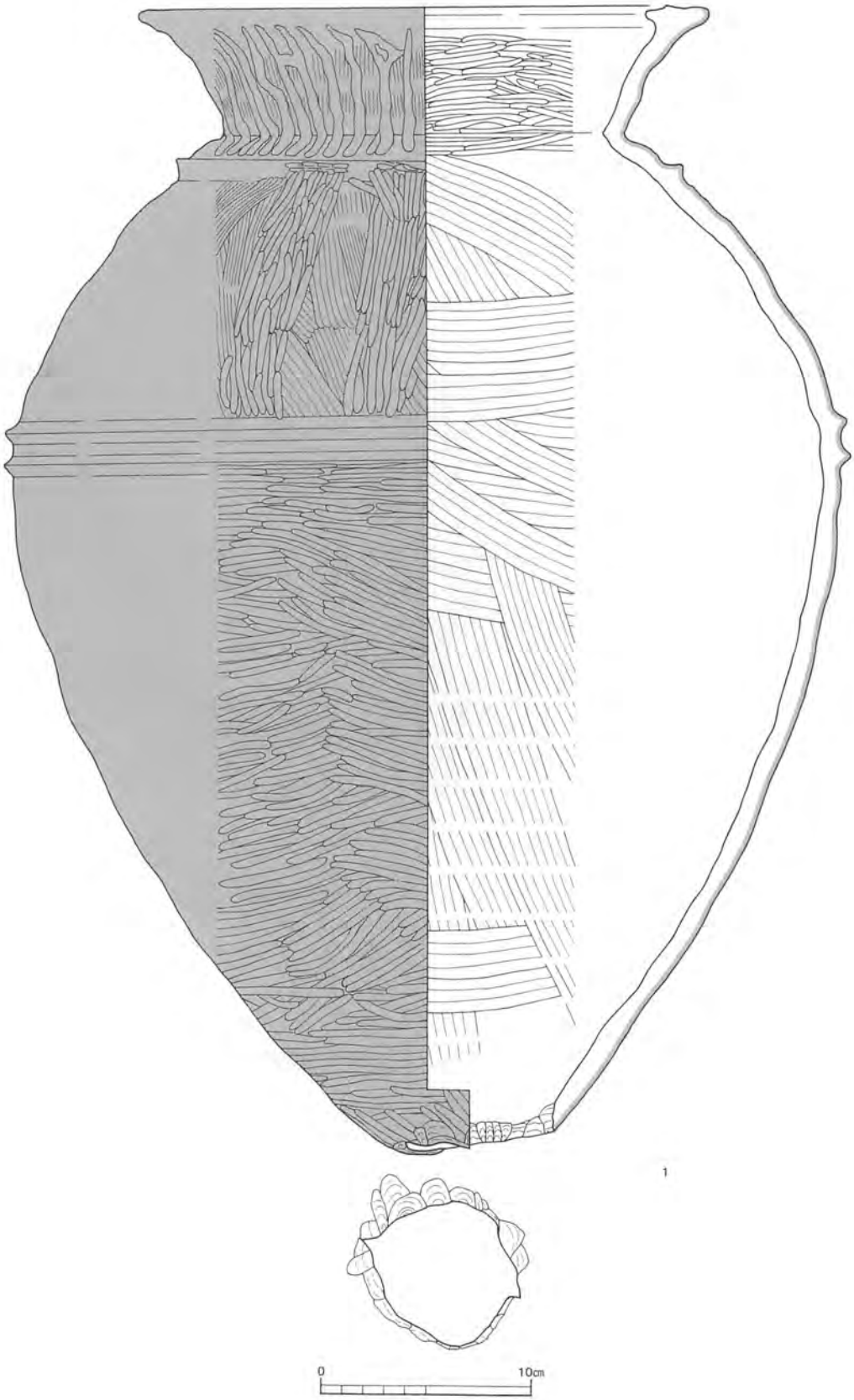
第Ⅲ-609図　1129SX甕棺据石(1・2)、基底石(3)実測図(1/3)



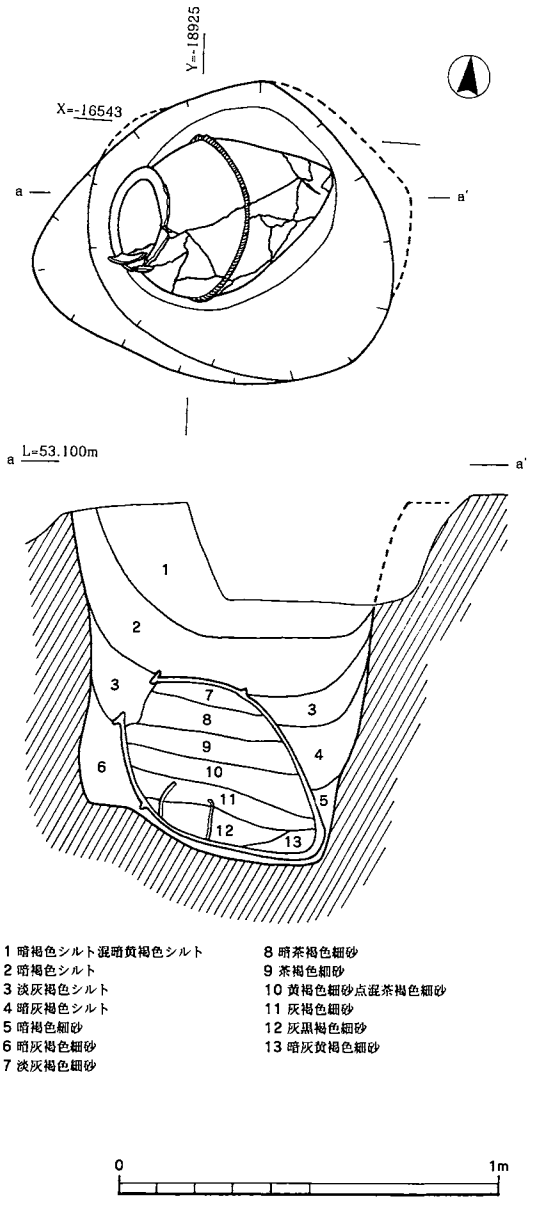
第Ⅲ-610図　1129SX(胴丸甕棺)実測図(1/4)



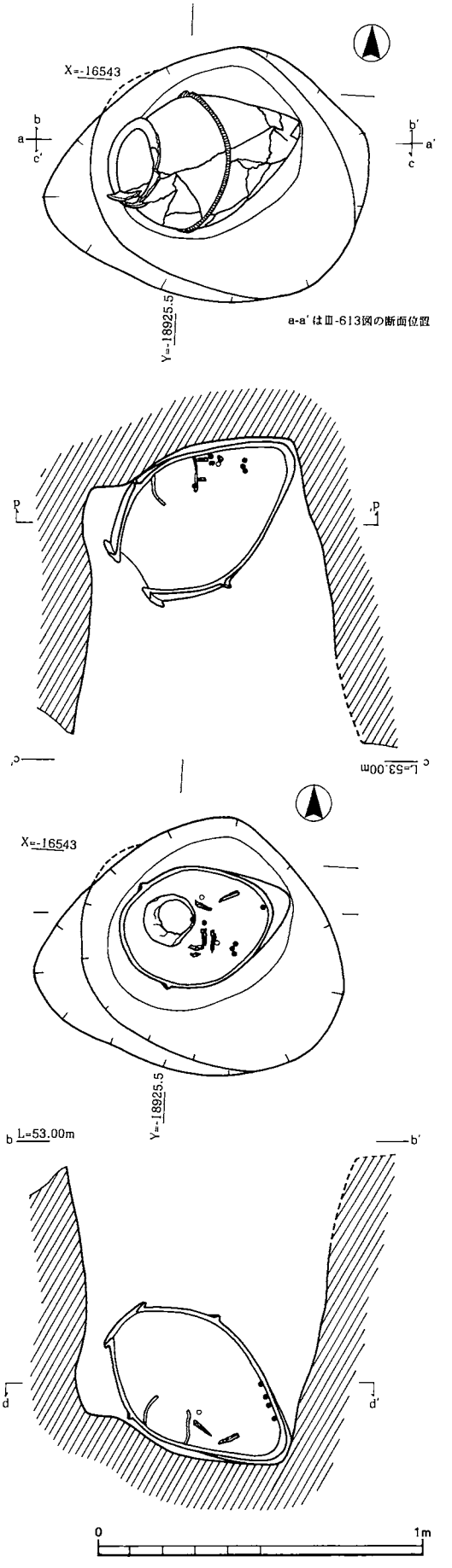
第Ⅲ-611図　1150SX甕棺基底石実測図(1/3)



第Ⅲ-612図　1150SX(壷棺)実測図(1/3)



第Ⅲ-613図　1154SX　平面・断面図(1/20)



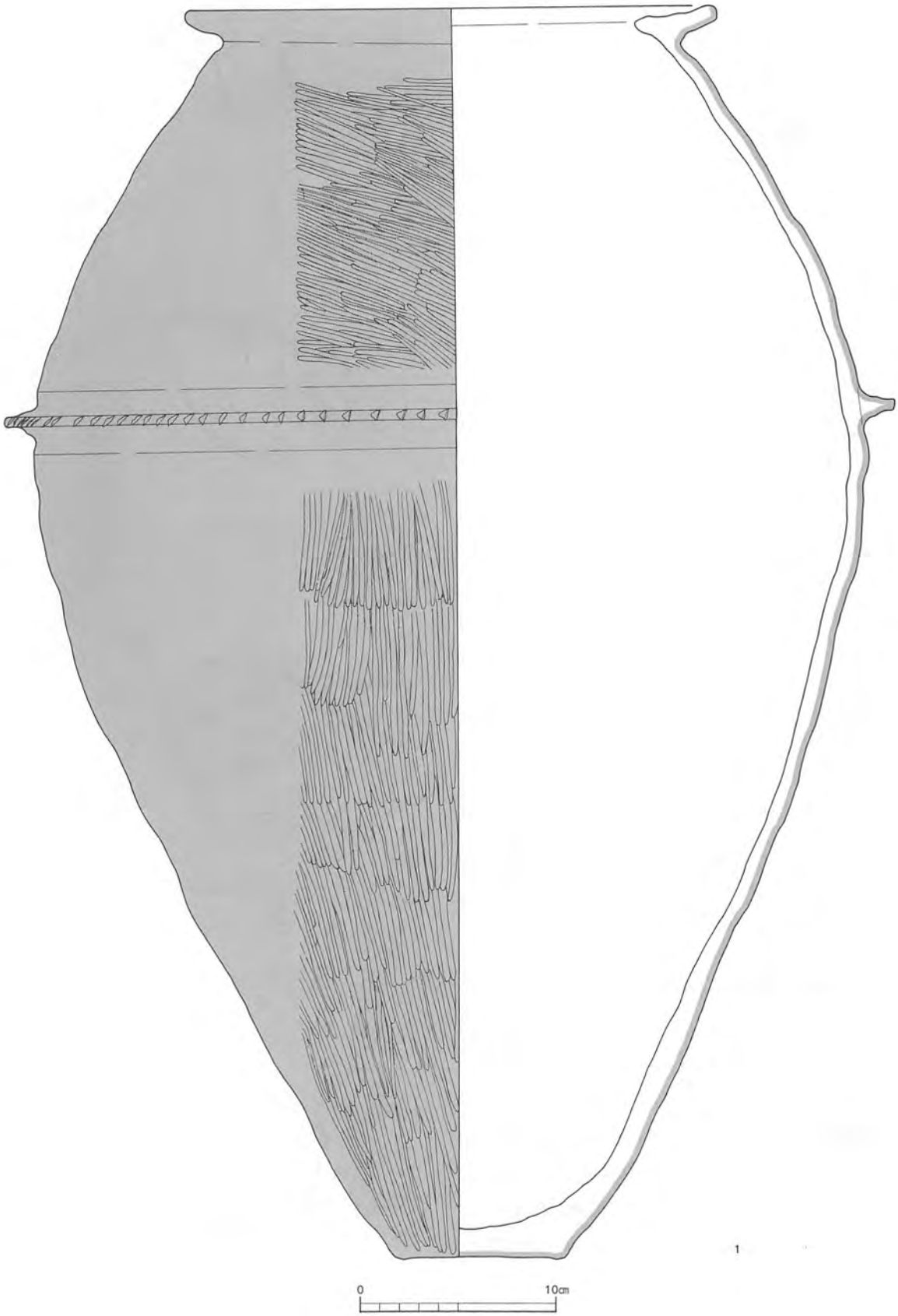
第Ⅲ-614図　1154SX　平面・見通し平面・見通し断面図(1/20)

1154 S X (第Ⅲ-613・614・615図、PL.14・31)

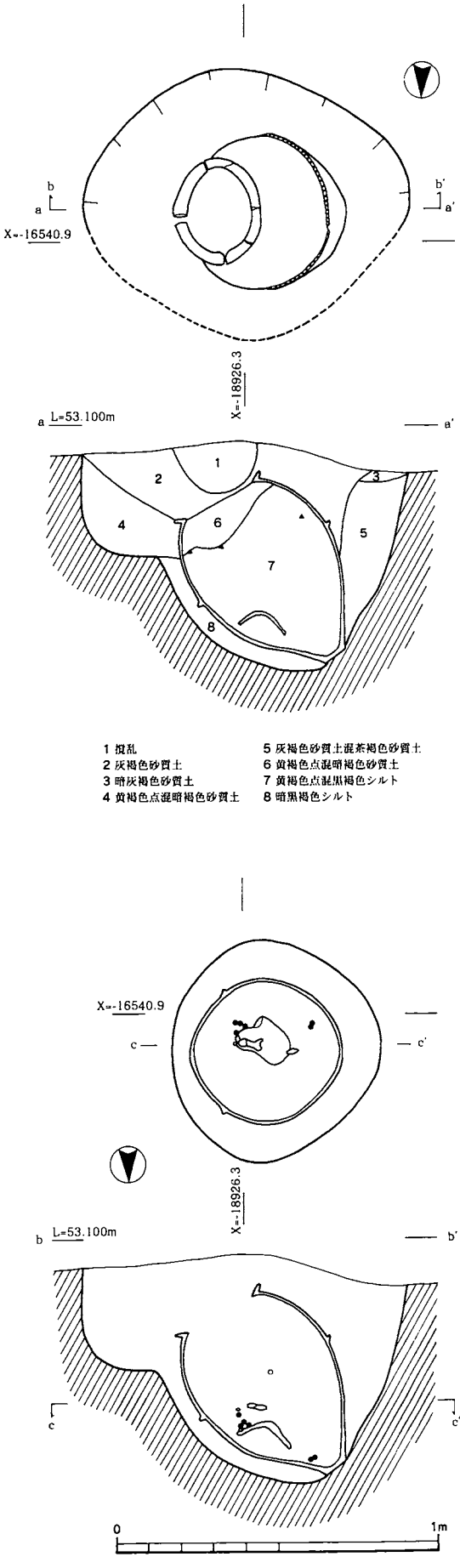
位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。旧地形はほとんど留めている。土器の最深部の標高は約52.0 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺棺である。主軸方向はN-105°-W、正位置からの傾斜角度は 49°、口径27 cm・最大胴部径45.1 cm、底径8 cm、器高63.1 cm、埋土は 7 層からなる。掘り方は長軸 100 cm・短軸 78 cm・深さ 94 cmで、掘り方の埋土は 6 層からなる。掘り方は縦方向に深く掘り込んでいる。

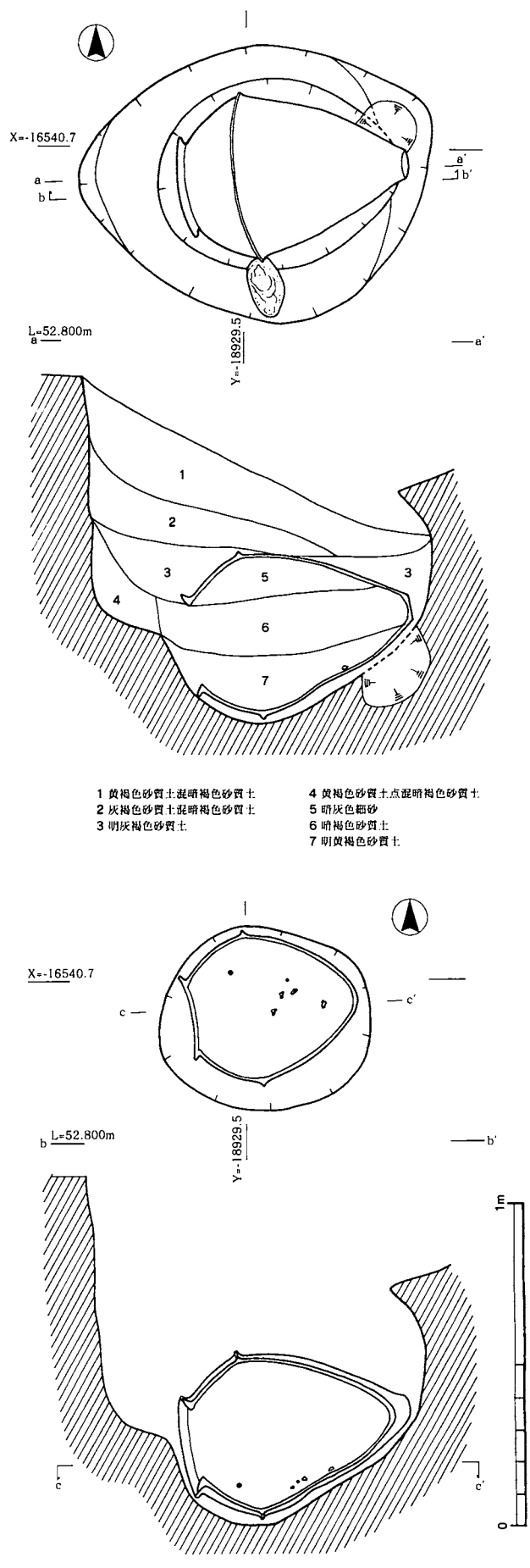
遺物出土状況　壺棺内より頭蓋骨、骨片、歯を検出した。



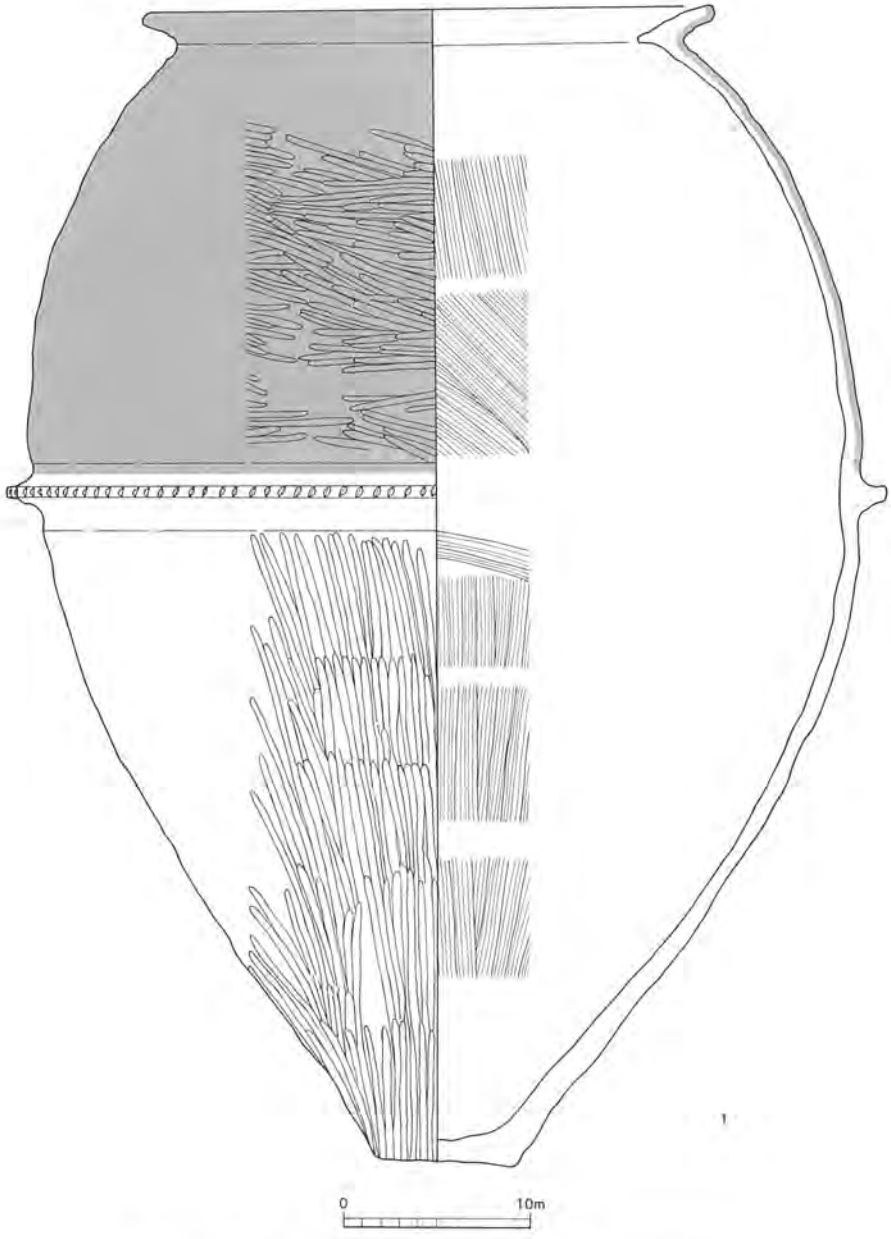
第Ⅲ-615図　1154SX(胴丸甕棺)実測図(1/3)



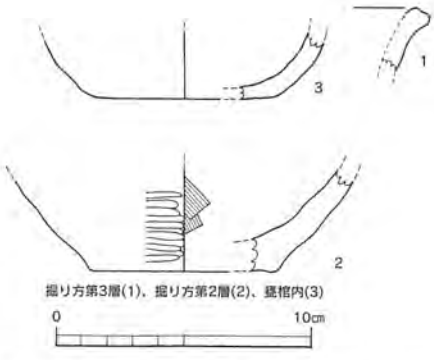
第Ⅲ-616図　1075SX　平面・断面図
見通し平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-617図　1131SX　平面・断面図
見通し平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-618図　1075SX(胴丸甕棺)実測図1(1/4)



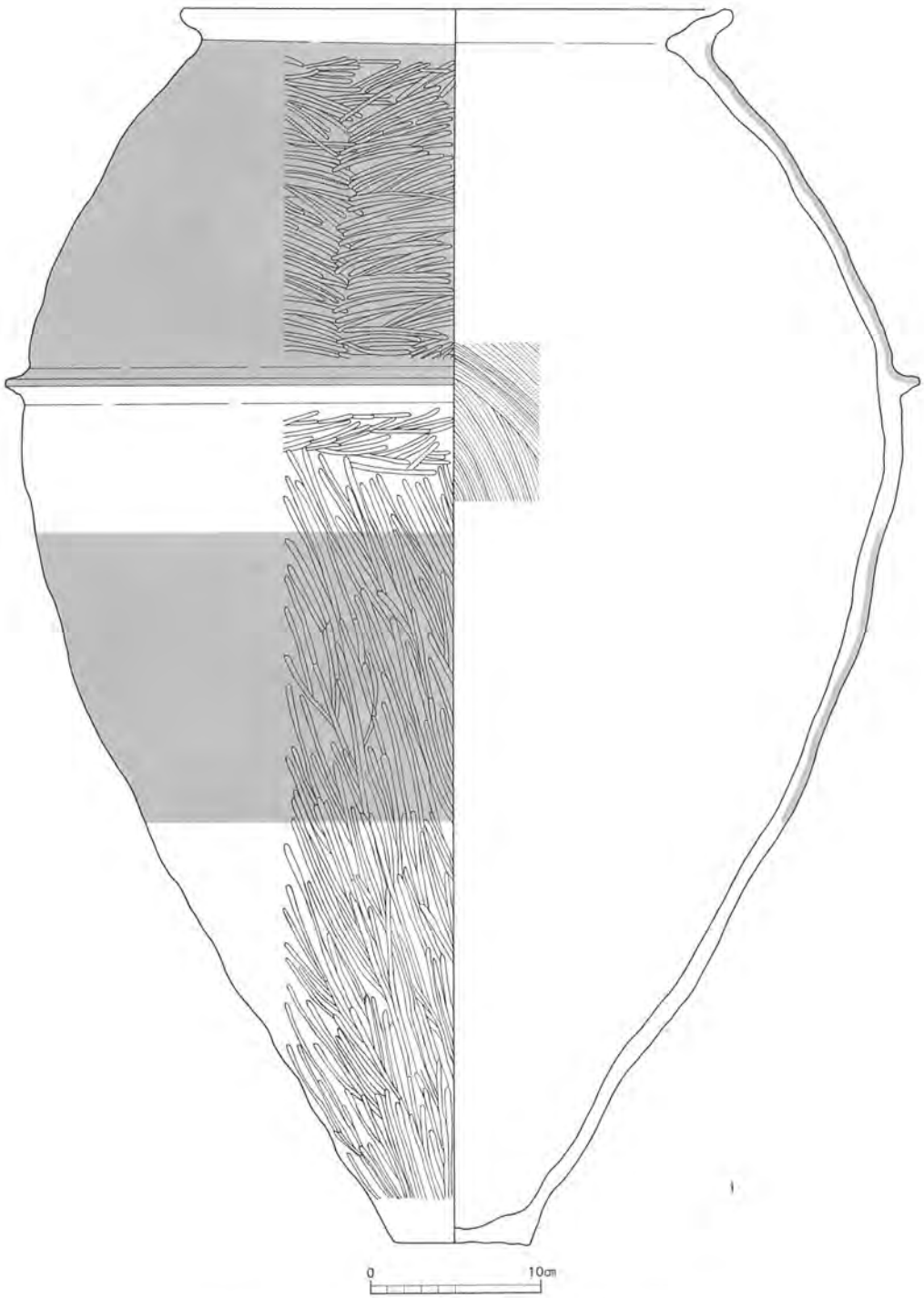
第Ⅲ-619図　1075SX出土土器実測図2(1/3)

1075ＳＸ（第Ⅲ-616・618・619図、PL.14・31）

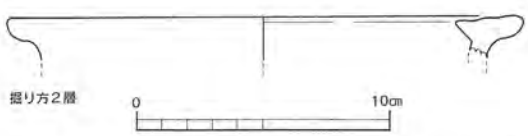
位置　遺跡北西部（2区北側）の氾濫原上に位置する。掘り方は南側一部を除いて上層は攪乱で壊されている。土器の最深部の標高は約52.4ｍである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。土器の口縁部の方向はＮ-90°-Ｅで、正位置からの傾斜角度は37°、口径29.8㎝、最大胴径46.5㎝、底径7.5㎝、器高61㎝である。掘り方の構造は２段堀で、上部の形態は楕円形で、長軸101㎝、短軸83㎝以上、深さ69㎝である。掘り方の埋土は６層からなる。

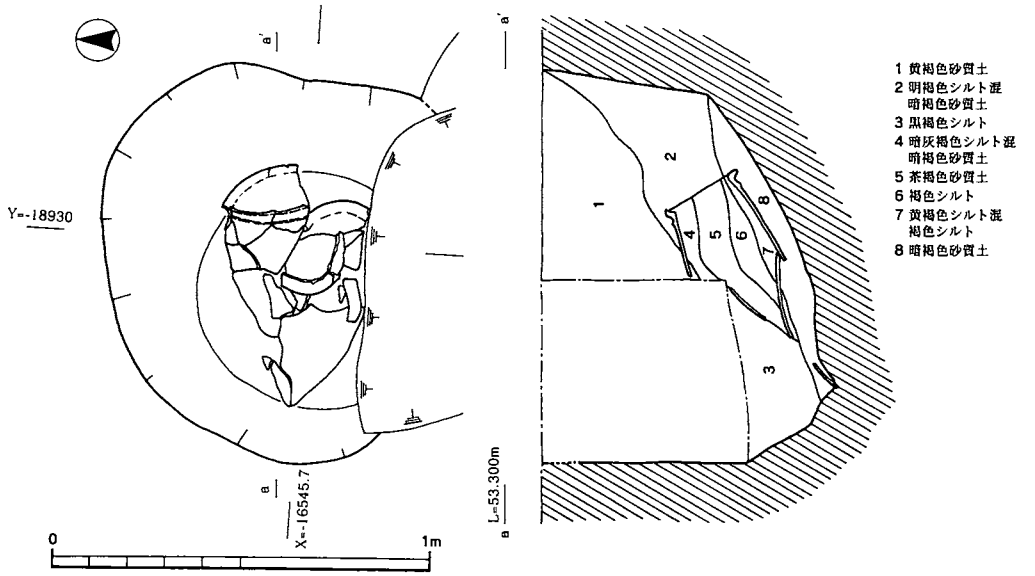
遺物出土状況　甕棺内部より頭蓋骨の一部、骨片、歯を検出した。また、その周囲に炭が多数認められた。



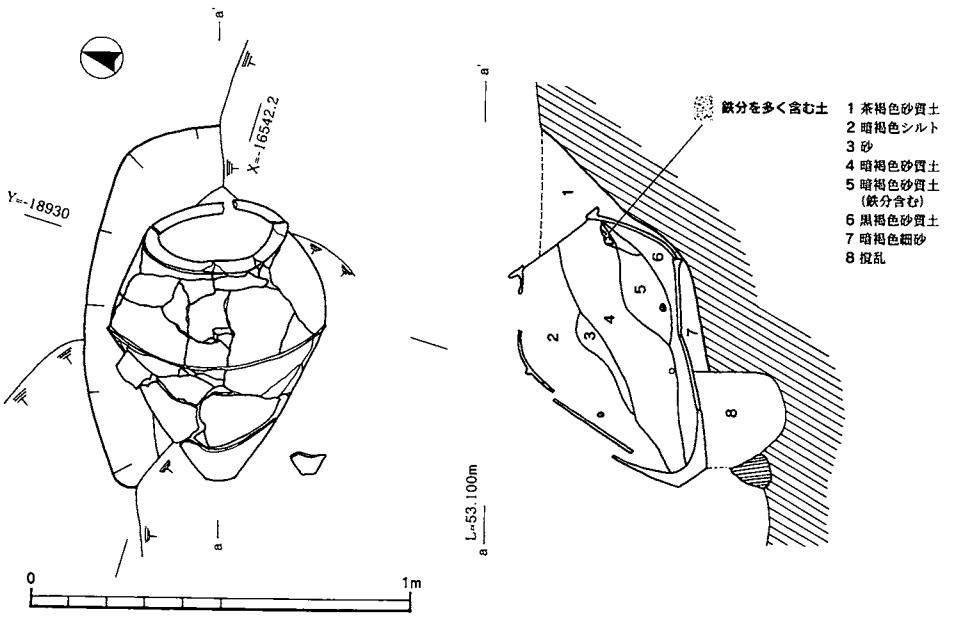
第Ⅲ-620図　1131SX(胴丸甕棺)実測図1(1/4)



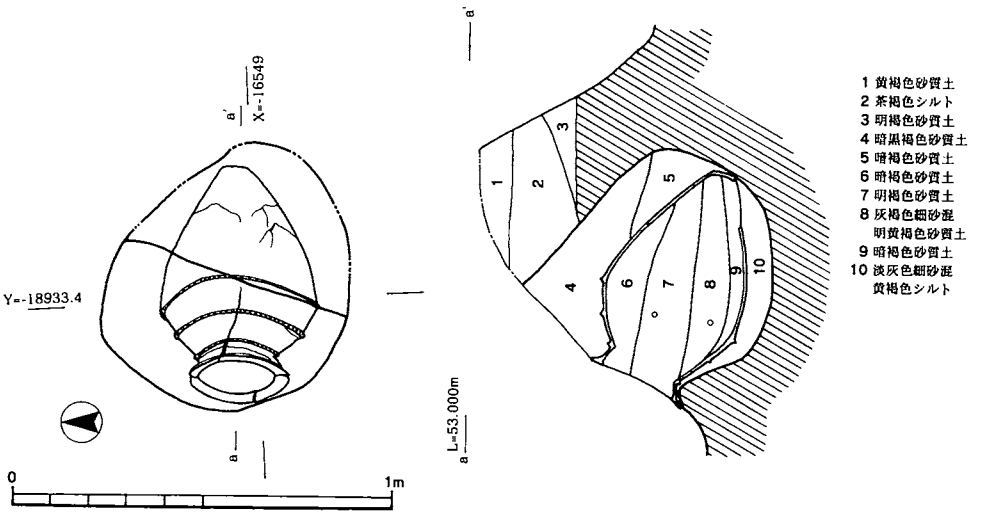
第Ⅲ-621図　1131SX出土土器実測図2(1/3)



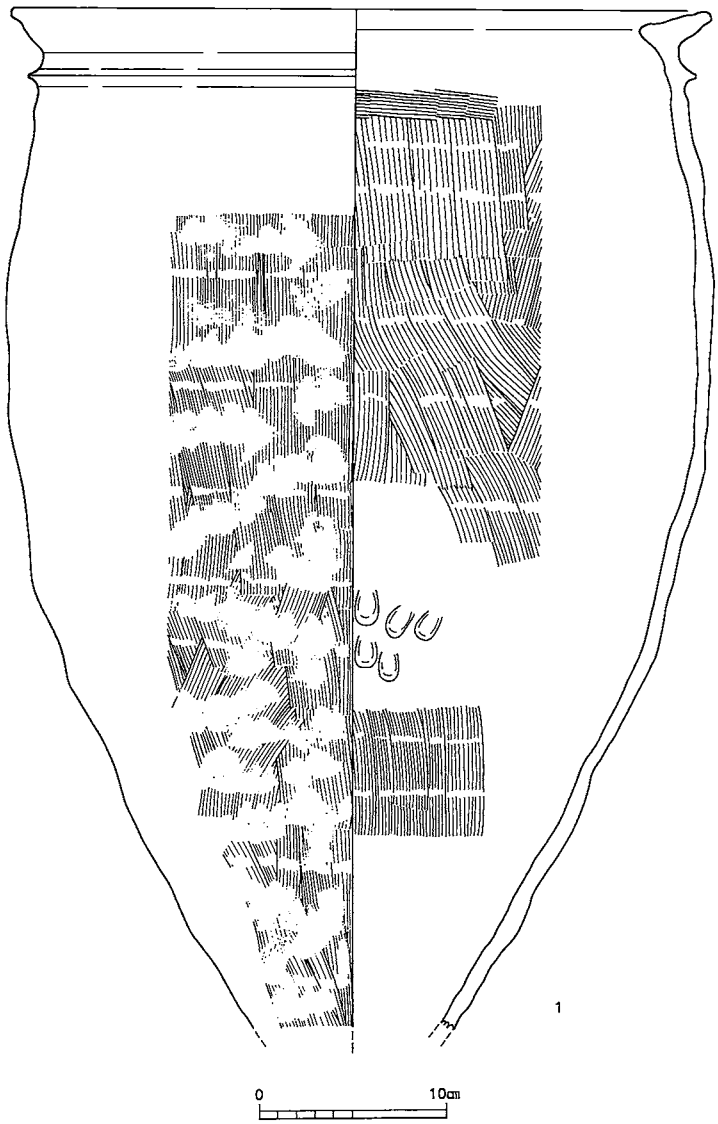
第Ⅲ-622図　1083SX　平面・断面図(1/20)



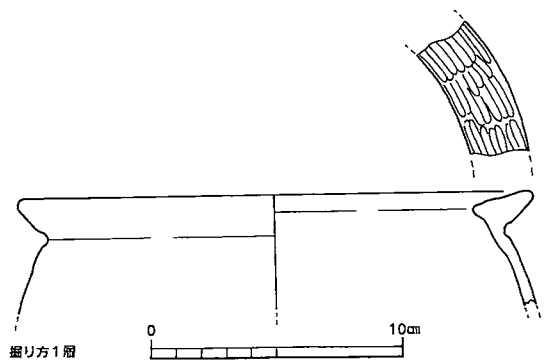
第Ⅲ-623図　1076SX　平面・断面図(1/20)



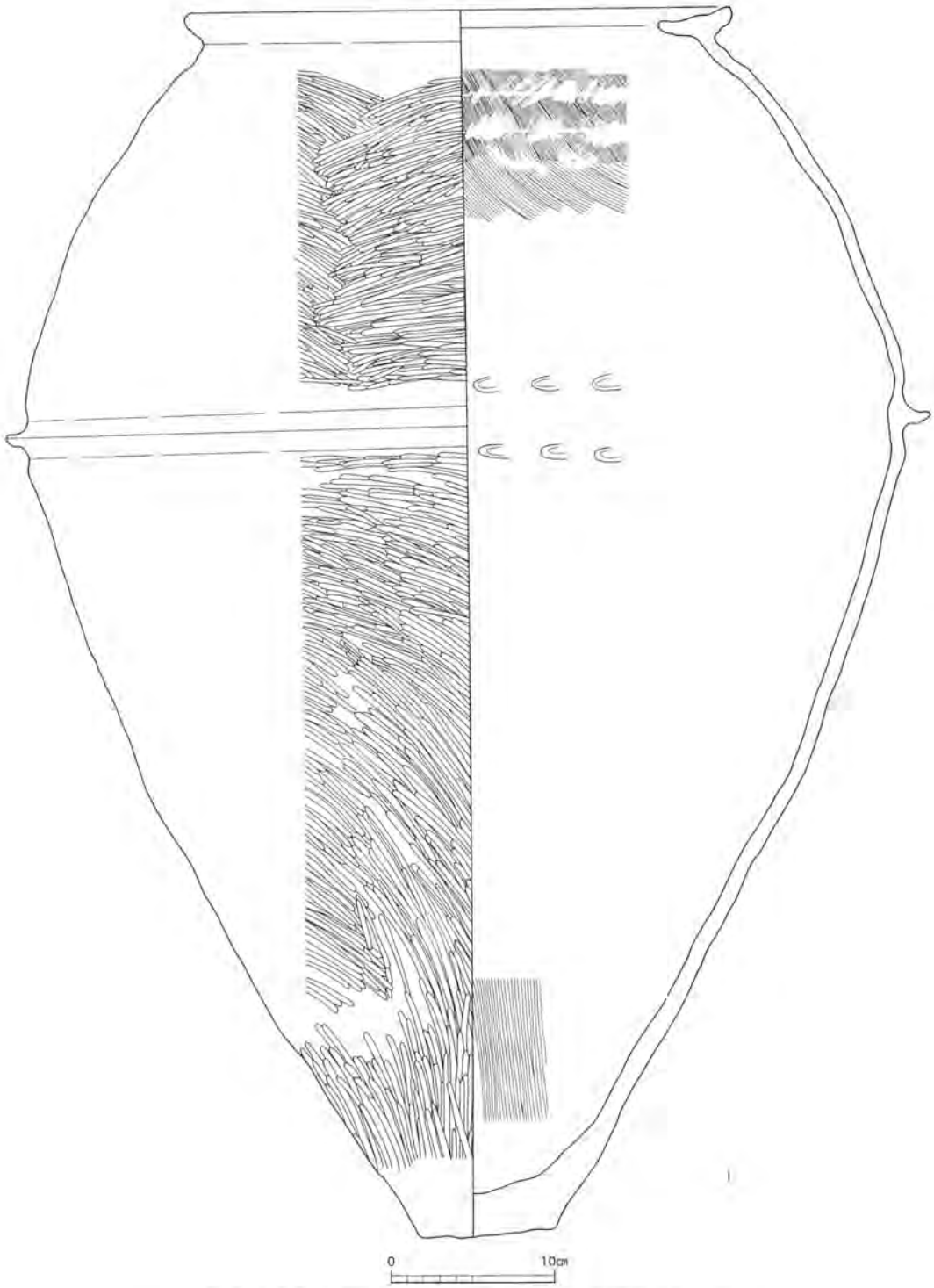
第Ⅲ-624図　1084SX　平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-625図　1083SX(甕棺)実測図(1/4)



第Ⅲ-626図　1076SX出土土器実測図2(1/3)



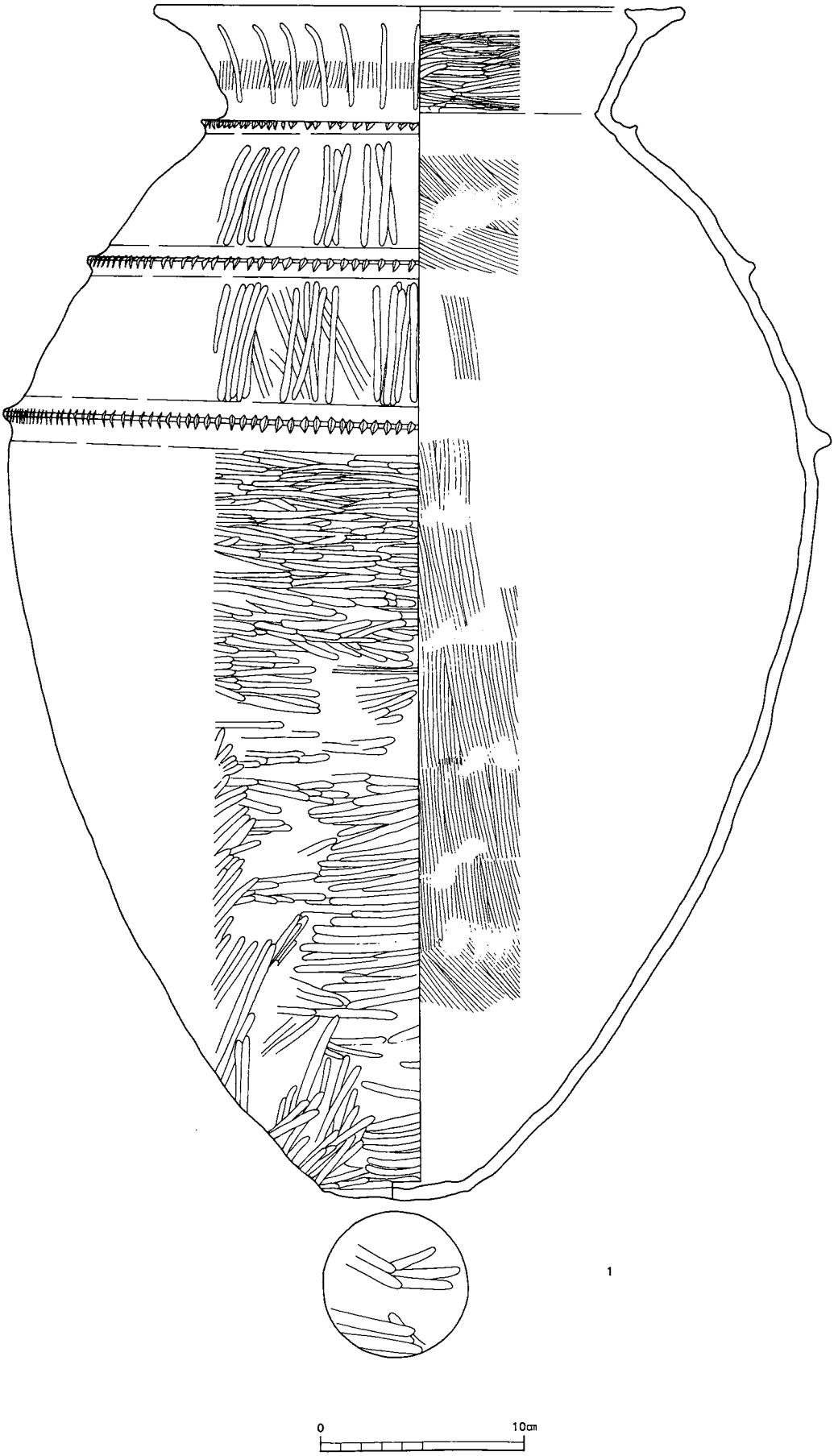
第Ⅲ-627図　1076SX(胴丸甕棺)実測図1(1/4)

1076 S X（第Ⅲ -623・626・627 図、PL.12・14・32）

位置　遺跡北西部（2 区北側）北側の氾濫原上に位置する。撹乱で上部の掘り方が壊されている。土器の最深部の標高は約 52.5 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺で、口縁部方向はN-73°-E、正位置からの傾斜角度は 32°である。口径 30 cm、最大胴径 51 cm、底径 9 cm、器高 71.5 cmである。掘り方は長軸 96 cm以上、短軸 71 cm以上、深さ 50 cm以上で、撹乱により西側は壊されている。掘り方の埋土は 2 層からなる。

遺物出土状況　甕棺埋土の上層、下層に骨片が少量認められた。また、甕棺埋土より、炭を少量検出した。



第Ⅲ-628図　1084SX(壷棺)実測図1(1/3)

1131 S X（第Ⅲ-617・620・621 図、PL.14・32）

位置　遺跡北西部（2区北側）の氾濫原上に位置する。掘り方は南側一部を除いて上層は撹乱で壊されている。土器の最深部の標高は約 51.6 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。口径 32 ㎝、最大胴径 48 ㎝、底径 8 ㎝、器高 70 ㎝で、口縁部方向はN-96°-Wで、正位置からの傾斜角度は 99°である。掘り方の構造は2段堀である。上部の形態は楕円形で、長軸 104 ㎝・短軸 86 ㎝・深さ 108 ㎝で、掘り方の埋土は 4 層からなる。縦方向に掘り込んだ掘り方の底面を、甕棺に併せてさらに丸く掘り込み、口縁を東側に向けて、横向きにほぼ水平に埋納している。

遺物出土状況　甕棺埋土下層より骨片、歯を検出した。

1083 S X（第Ⅲ-622・625 図、PL.14・32）

位置　遺跡北西部（2 区北側）の氾濫原上に位置する。南側を撹乱で壊されており、土器も原位置から多少ずれ落ちている。土器の最深部の標高は約 52.4 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。口縁部方向はN-80°-E、正位置からの傾斜角度は 65°である。口径 37 ㎝、最大胴径 37 ㎝、底径・器高とも測定不能である。掘り方の上面の平面形態は楕円形で、長軸 100 ㎝、短軸 68 ㎝以上、深さ 81 ㎝で、掘り方の埋土は 4 層以上からなる。

遺物出土状況　棺内からは認められなかったが、掘り方の上層部から骨片を検出した。

1084 S X（第Ⅲ-624・628 図、PL.12・32）

位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。1103SI 埋没後に据えられている。掘り方の上面は撹乱により壊されている。土器棺の最深部の標高は約 52.3 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺棺で、口縁部方向はN-87°-W、正位置からの傾斜角度は 66°である。口径 27 ㎝、最大胴径 39 ㎝、底径 6 ㎝、器高 61 ㎝で、埋土は 4 層からなる。残存する掘り方は長軸 80 ㎝、短軸 71 ㎝、深さ 78 ㎝で、掘り方の埋土は 3 層からなる。

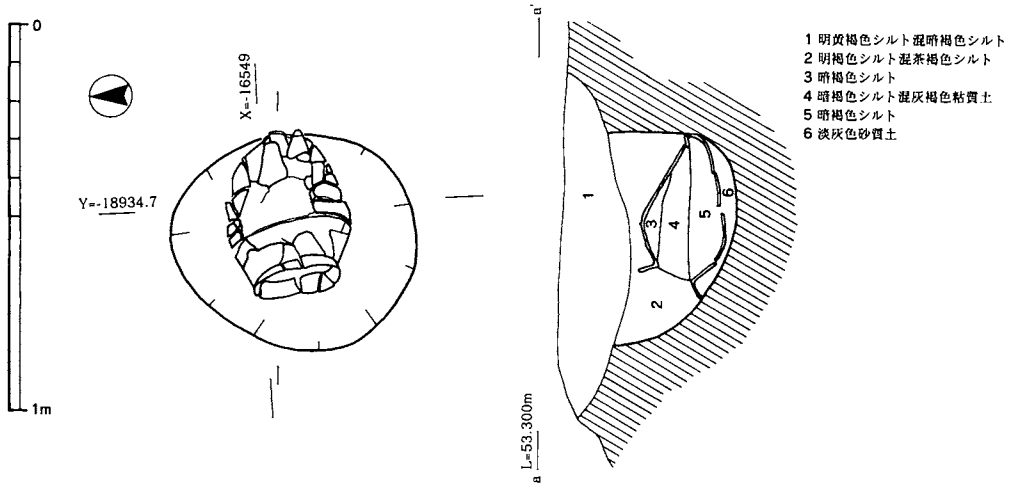
遺物出土状況　土器棺埋土から骨片を検出した。

1082 S X（第Ⅲ-633・634・635 図、PL.12・15・33）

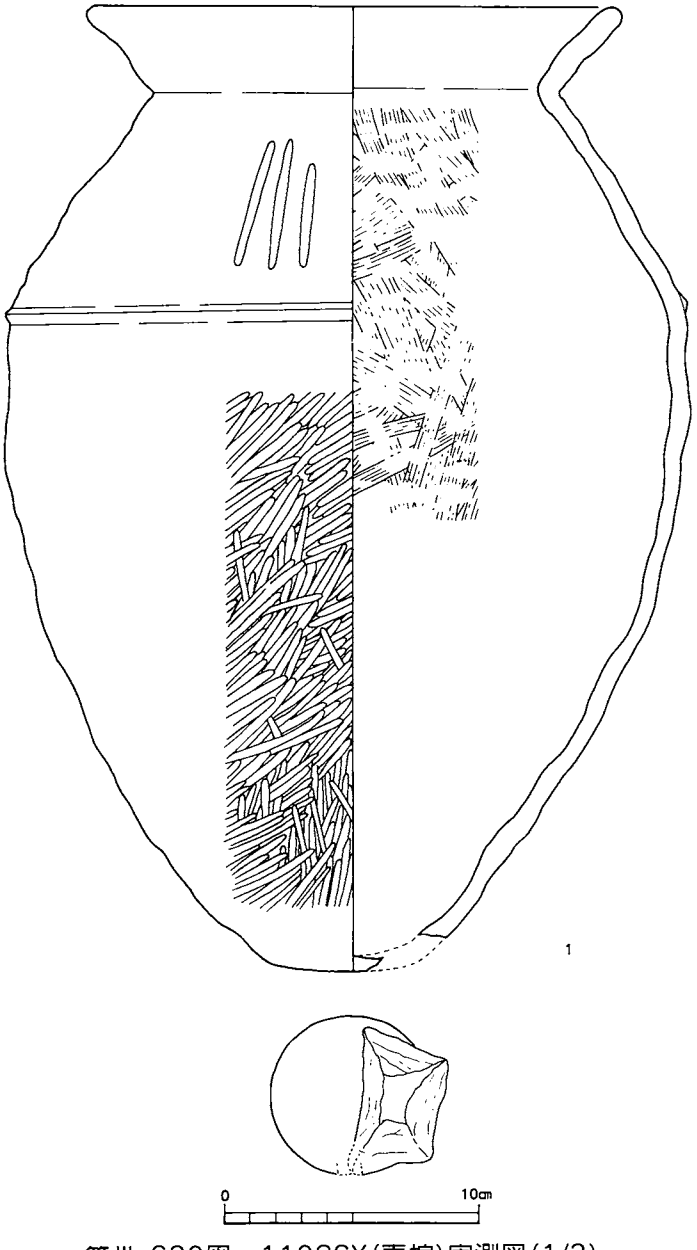
位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。土器の最深部の標高は約 52.5 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺棺である。口縁部方向は、N-99°-W で正位置からの傾斜角度は、42°である。口径 20.8 ㎝・最大胴部径 32 ㎝、底径 5.2 ㎝、器高 44.4 ㎝である。残存する掘り方は、長軸約 90 ㎝、短軸約 70 ㎝で、土器棺の軸より北側に若干振れる。深さ約 55 ㎝で、上部及び西側は削平されている。掘り方の埋土は 3 層からなる。断面の形状は 2 段掘りを呈する。

遺物出土状況　土器棺の埋土の最下層から骨片を検出した。



第Ⅲ-629図　1108SX　平面・断面図(1/20)



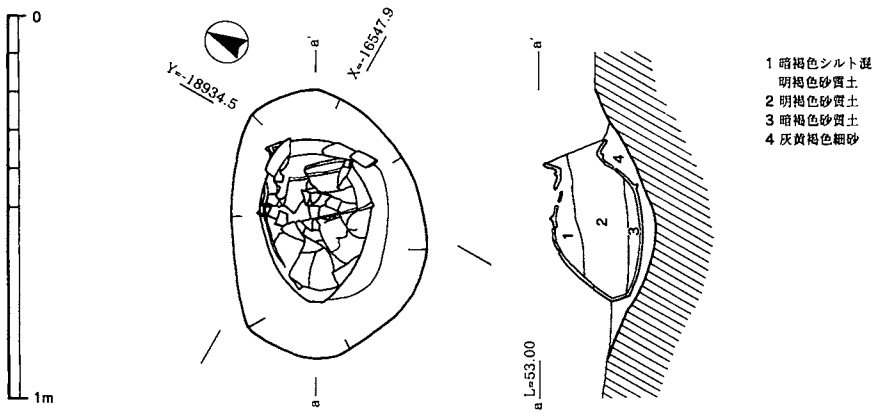
第Ⅲ-630図　1108SX(壺棺)実測図(1/3)

1108 S X（第Ⅲ-629・630図、PL.14・33）

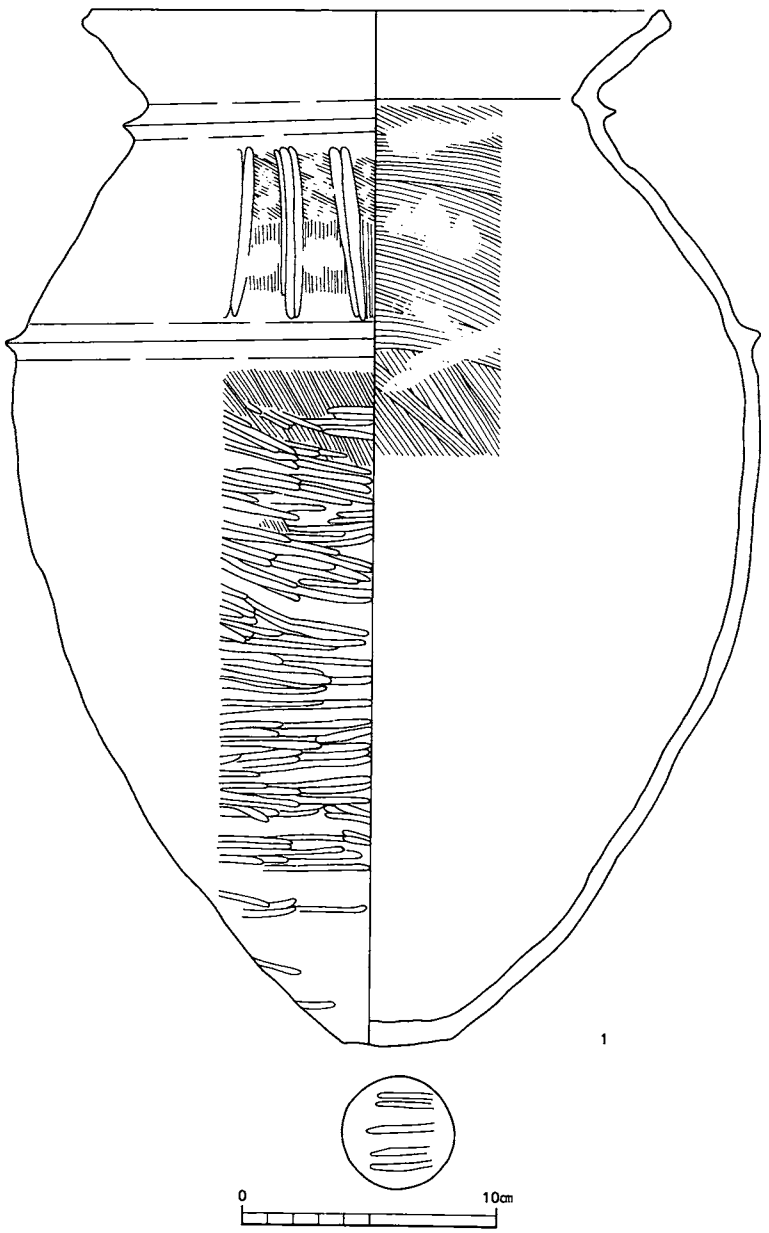
位置　遺跡北西部（2区北側）の氾濫原上に位置する。1103SI埋没後据えられたと推定できる。土器の最深部の標高は約52.8 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺棺で、口縁部方向はN-96°-W、正位置からの傾斜角度は76°である。口径17 cm・最大胴径23 cm・底径6 cm・器高39 cmで、埋土は3層からなる。掘り方の上面の形態は土器の中軸に対して横長の楕円形で、長軸65 cm・短軸56 cm・深さ46 cmである。掘り方の埋土は3層からなる。

遺物出土状況　骨、歯とも検出できなかったが、壺棺内より、炭を検出した。



第Ⅲ-631図　1081SX　平面･断面図(1/20)



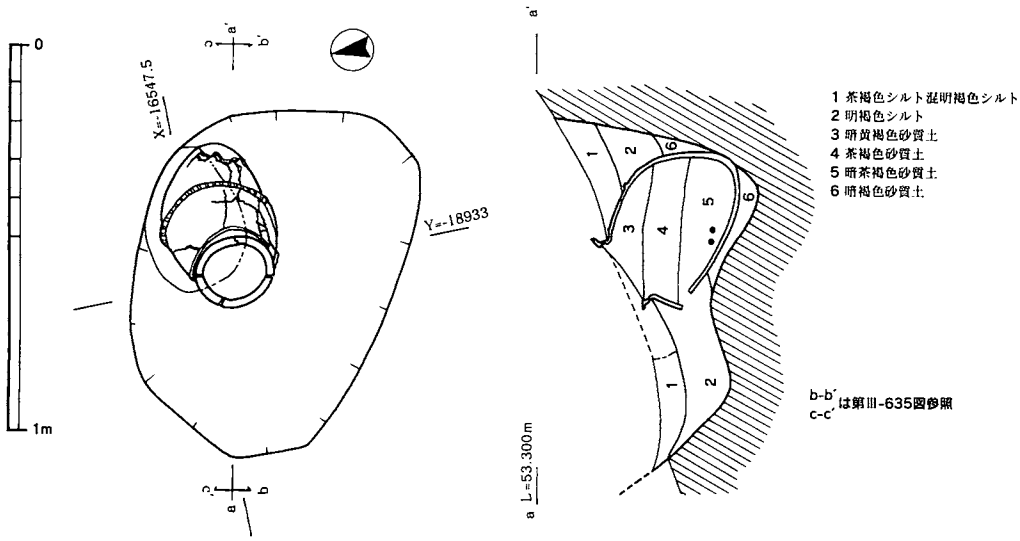
第Ⅲ-632図　1081SX(壺棺)実測図(1/3)

1081 S X（第Ⅲ-631・632図、PL.12・15・33）

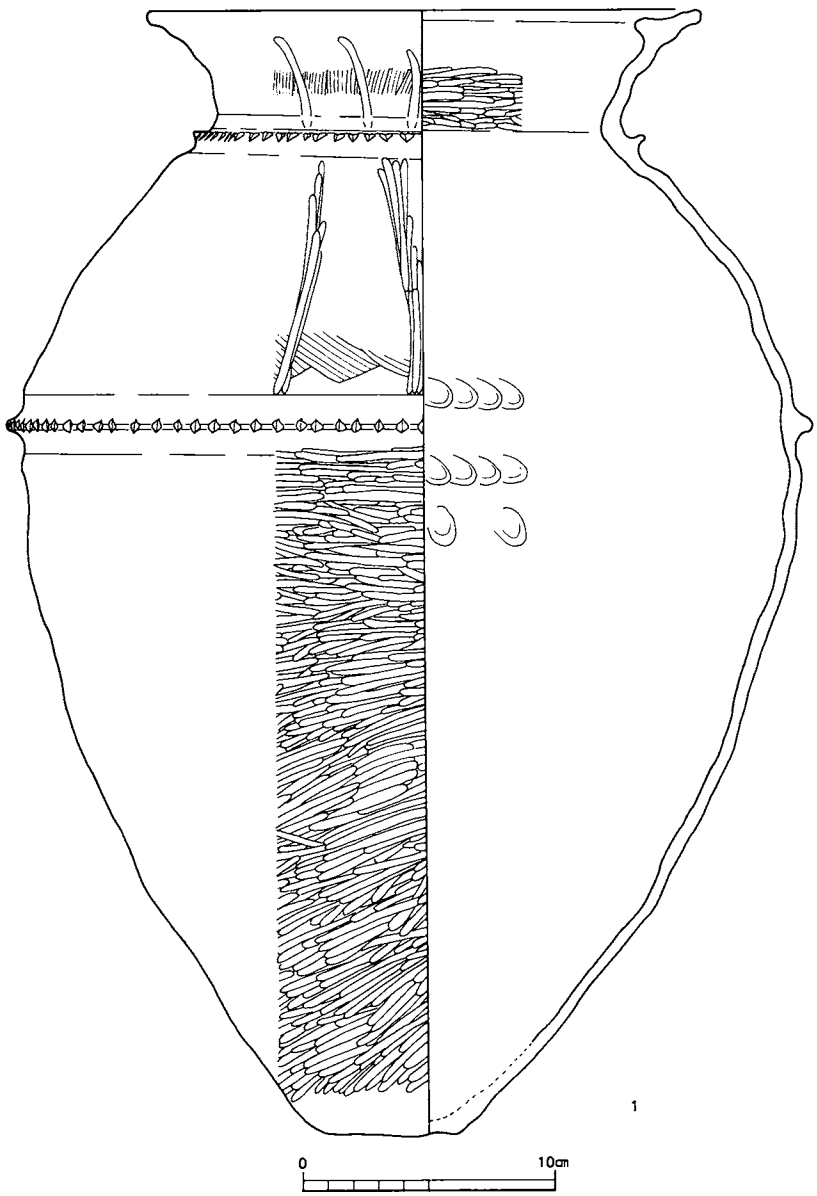
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。撹乱により上層部は壊されている。土器の最深部の標高は約52.7 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺棺である。口縁部方向はN-60°-E、正位置からの傾斜角度は72°である。口径17㎝、最大胴径25㎝、底径5㎝、器高40㎝である。掘り方は長軸70㎝、短軸52㎝、深さ13㎝以上で、上層部は、撹乱により削平されているため、掘り方の埋土は1層からなる。

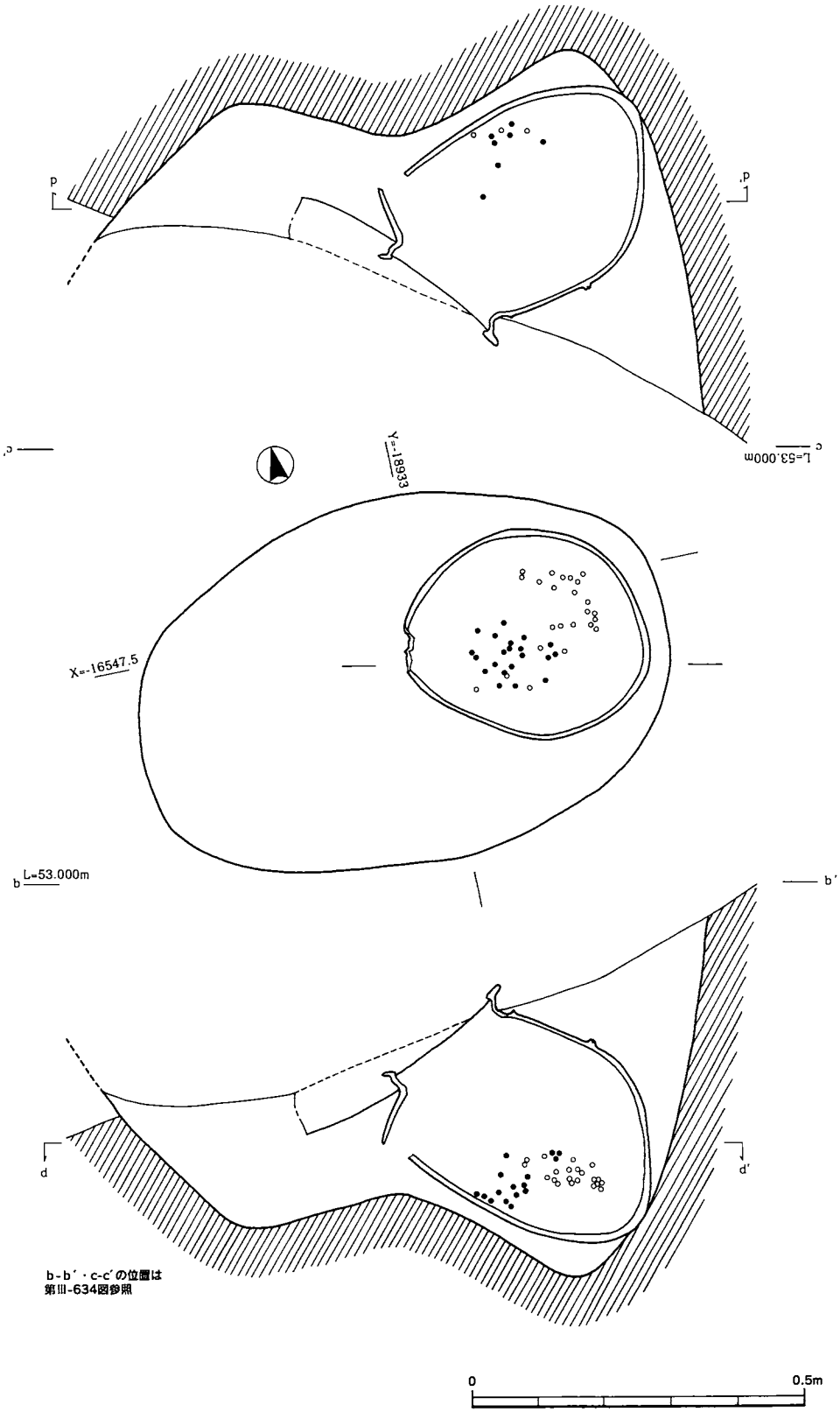
遺物出土状況　骨・歯は検出できなかった。



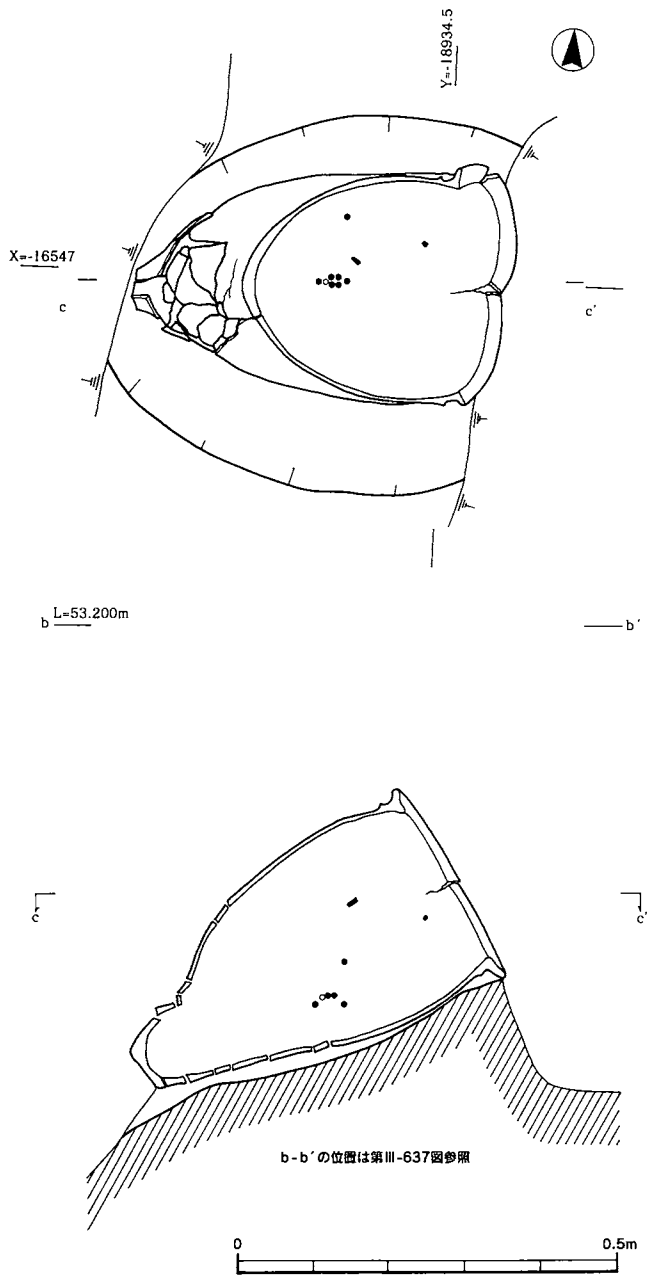
第Ⅲ-633図　1082SX　平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-634図　1082SX(壷棺)実測図(1/3)



第Ⅲ-635図　1082SX　見通し平面・断面図(1/10)



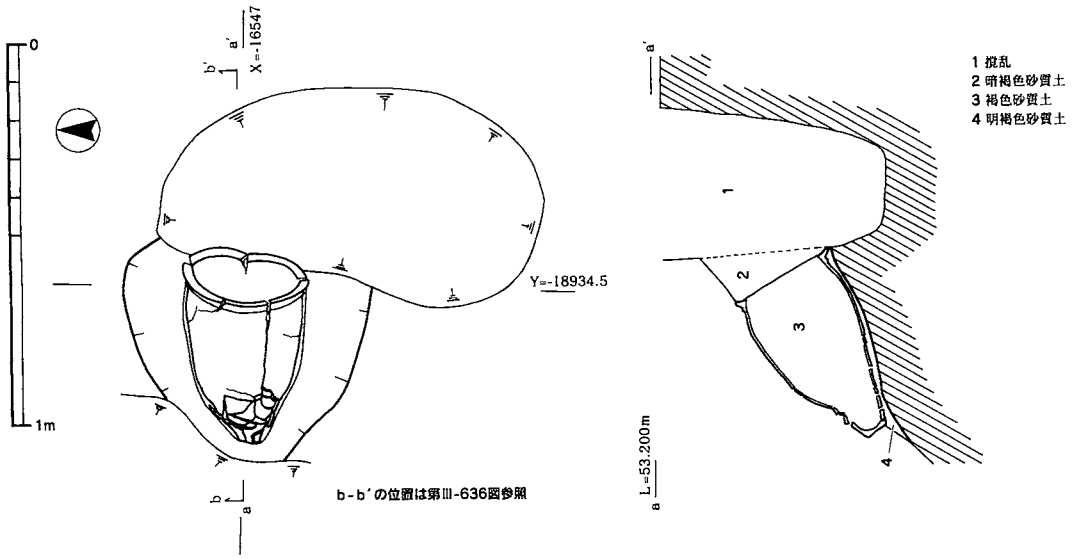
第Ⅲ-636図　1080SX　見通し平面・断面図(1/10)

1080 S X（第Ⅲ -636・637・638 図、PL.15・33）

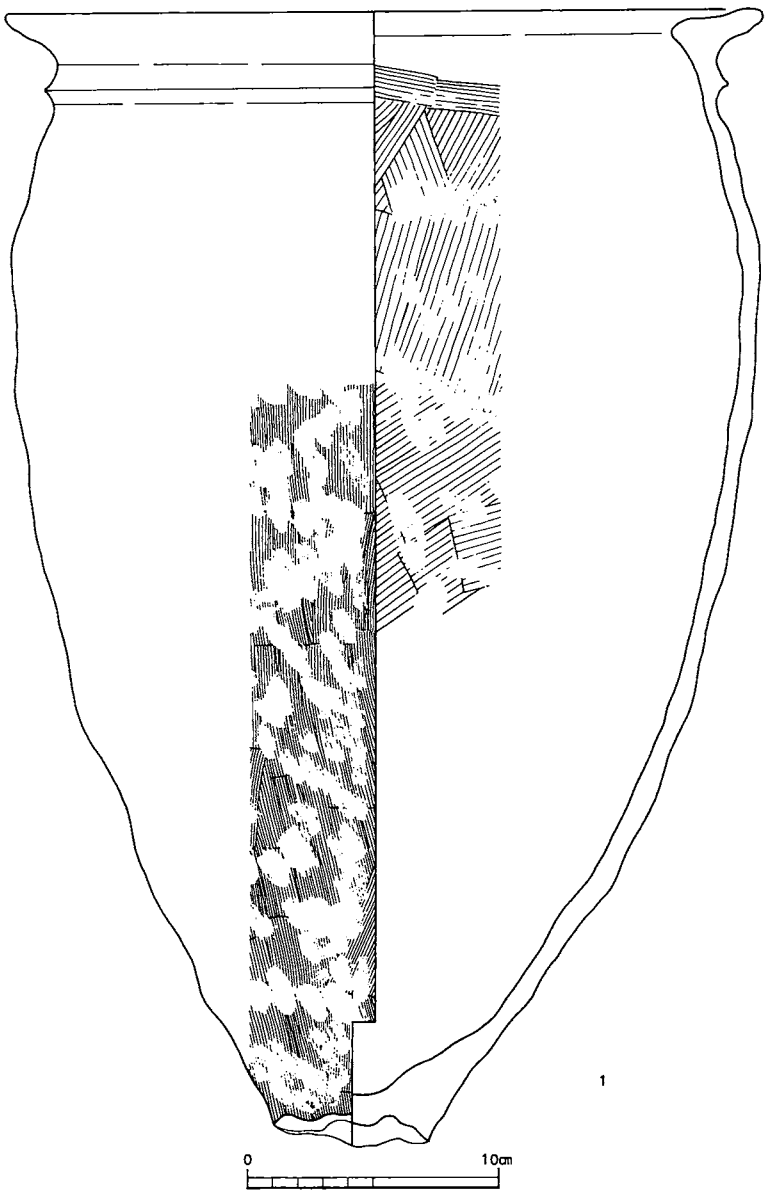
位置　遺跡北西部（2 区北部）の氾濫原上に位置する。撹乱で掘り方の上部、特に東側が壊されている。土器の最深部の標高は約 52.6 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。口縁部方向は N-92 °-W で、正位置からの傾斜角度は 36 °である。口径 30 cm、最大胴部径 29.4 cm、底径 6.2 cm、器高 44.0 cmである。残存する掘り方は長軸 65 cm、短軸 49 cm以上、深さ 55 cm以上で、上層部は撹乱に削平されている。掘り方の埋土は 2 層以上からなる。

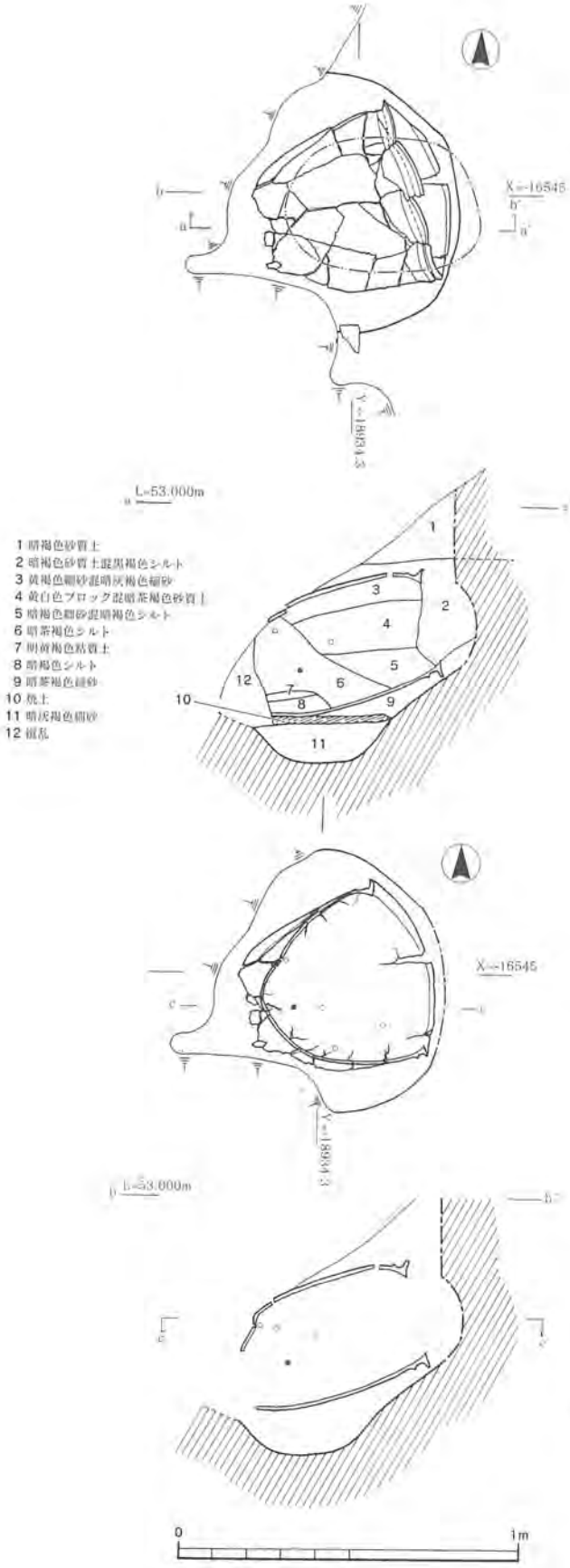
遺物出土状況　甕棺埋土上～中層より骨、歯を検出した。



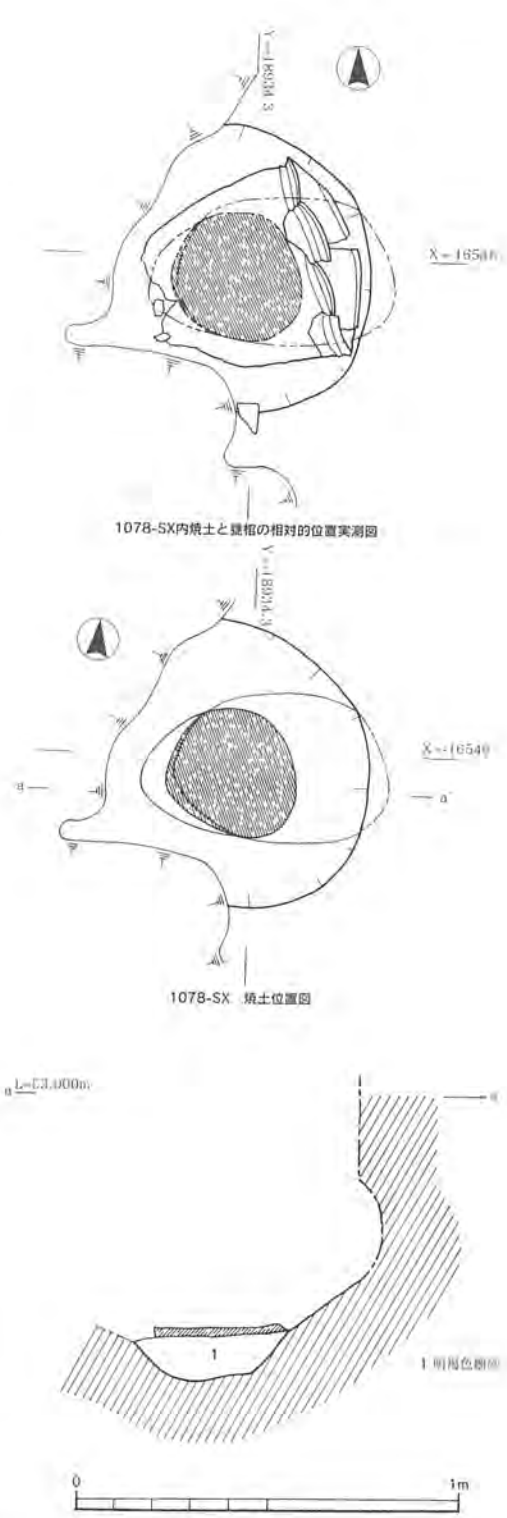
第Ⅲ-637図　1080SX　平面・断面図(1/20)



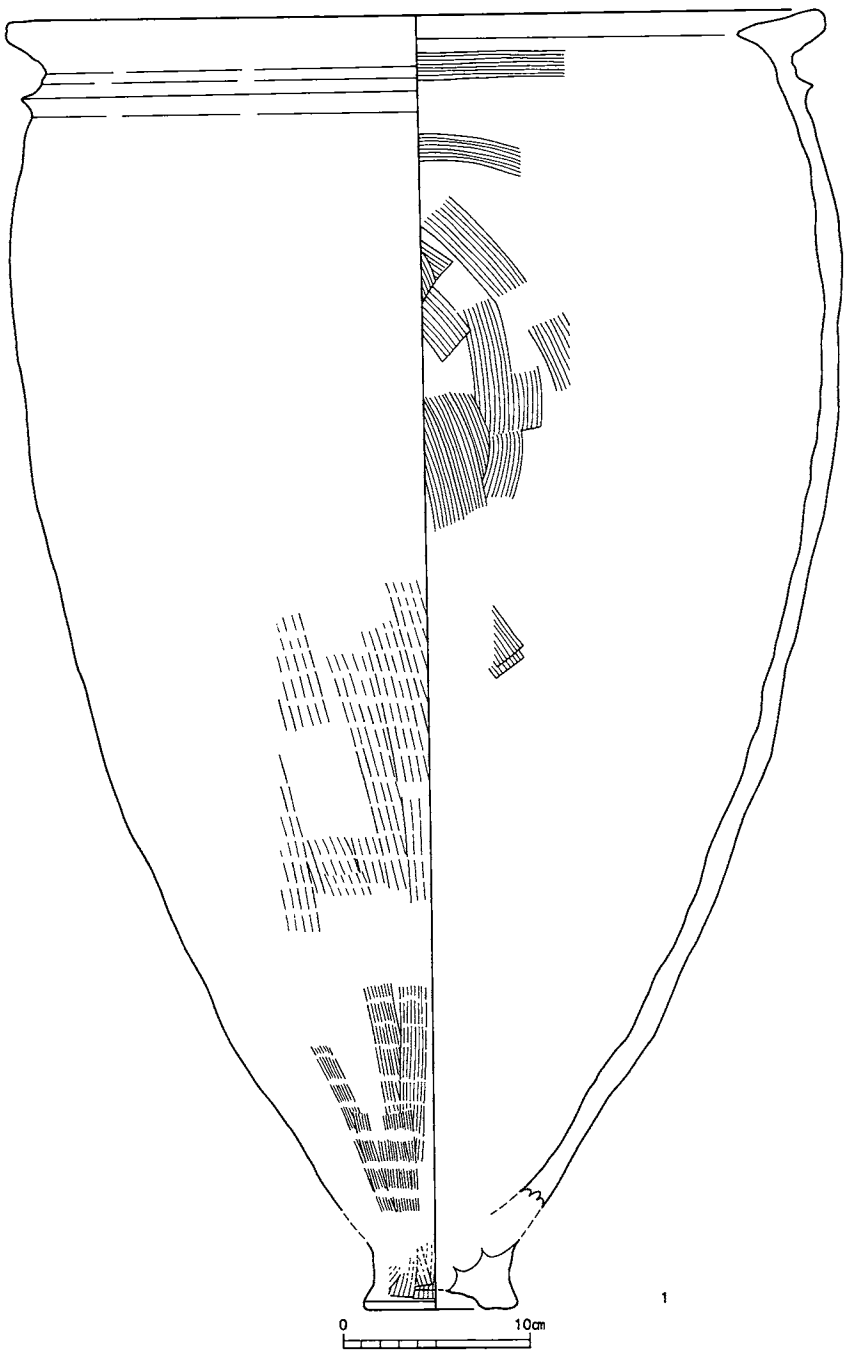
第Ⅲ-638図　1080SX(甕棺)実測図(1/3)



第Ⅲ-639図　1078SX　平面・断面図
見通し平面・断面図(1/20)



第Ⅲ-640図　1078SX　平面・断面図(1/20)



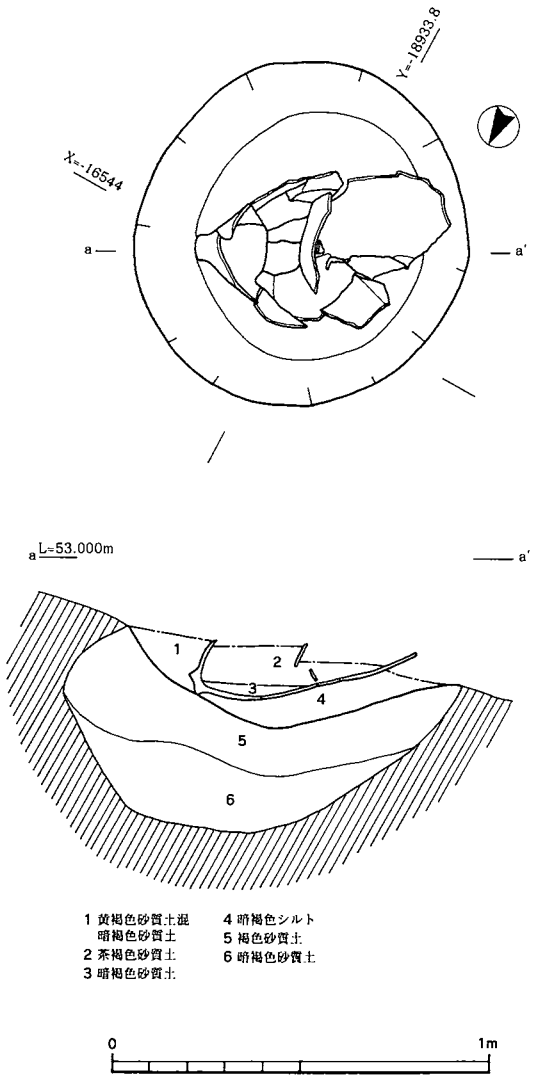
第Ⅲ-641図　1078SX(甕棺)実測図(1/4)

1078 S X（第Ⅲ -639・640・641 図、PL.12）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する。掘り方上層部と西側は、撹乱に削平されている。土器の最深部の標高は約 52.4 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。口縁部方向はN-75°-Eで、正位置からの傾斜角度は36°である。口径 42.5 cm、最大胴径 43.7 cm、底径 7.8 cm、器高 66.1 cmである。掘り方は残存する部分で長軸 64 cm以上、短軸 75 cm、深さ 80 cm以上の楕円形で、上層部と西側は、撹乱に削平されている。埋土は４層からなる。

遺物出土状況　土器棺埋土から骨、歯ともに検出した。



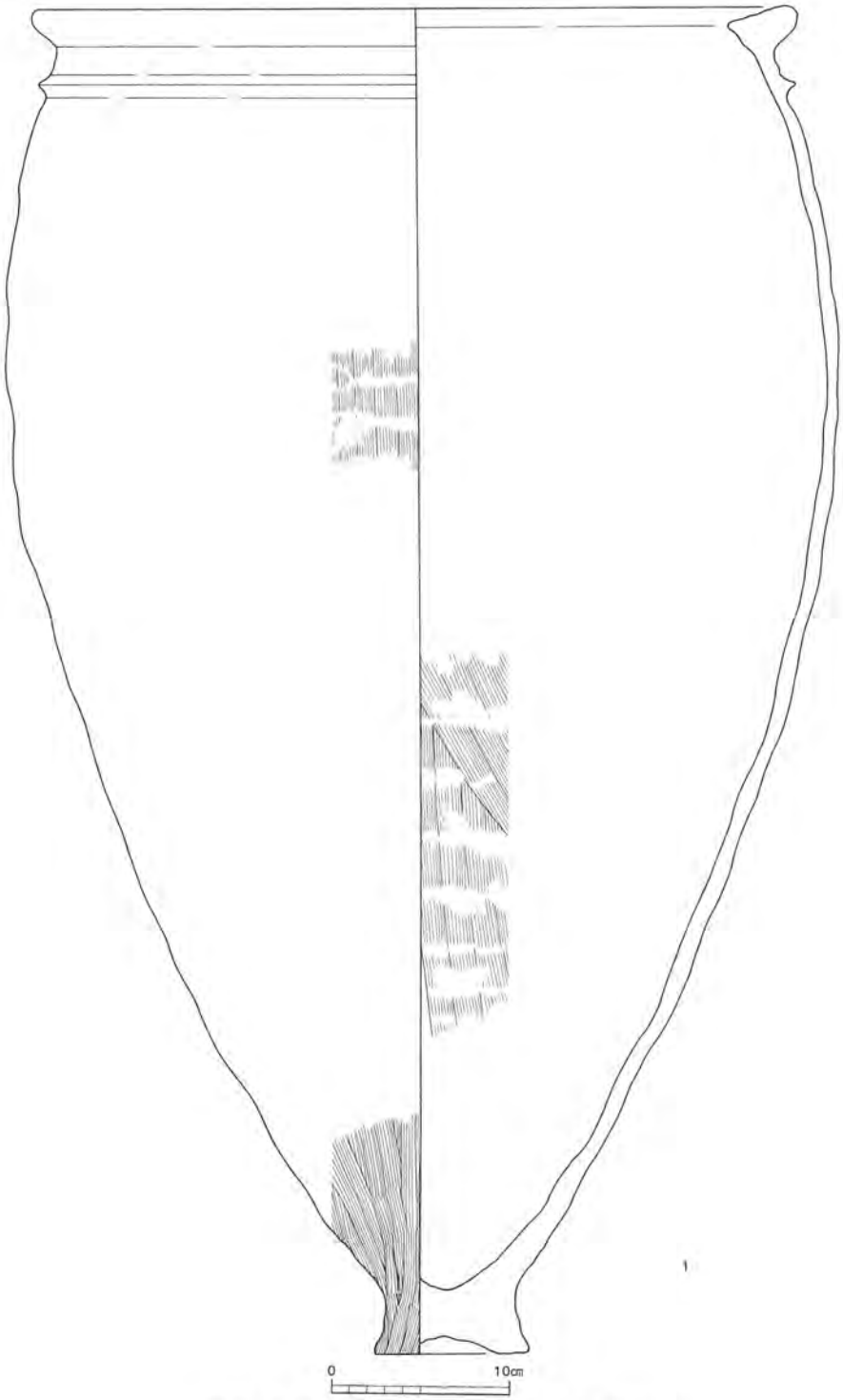
第Ⅲ-642図　1079SX　平面･断面図(1/20)

1079 S X（第Ⅲ -642・643 図、PL.12・15・34）

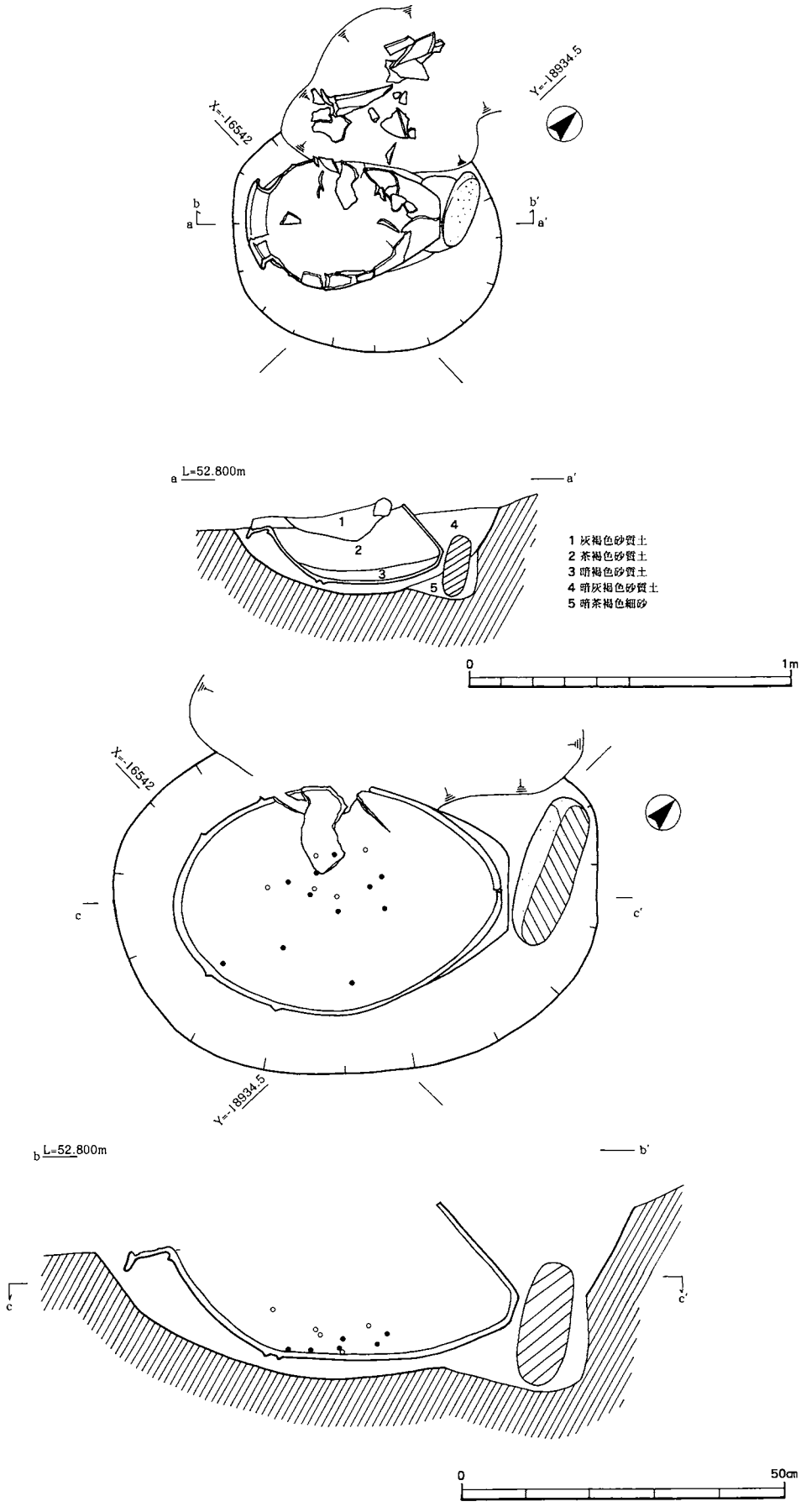
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。掘り方上層部と西側は、撹乱に削平されている。土器の最深部の標高は約 52.6 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。口縁部方向はN -118°- Wで、正位置からの傾斜角度は推定約 65°である。口径 42.2 cm、最大胴部径 46.5 cm、底径 8.8 cm・器高 73.2 cmである。残存する部分の掘り方は径約 90 cmの円形で、深さは 30 cm以上を測る。掘り方の埋土は 2 層以上からなる。さらに、掘り方の下層が 25 cm以上掘削できる。2 層の埋土を持つ。

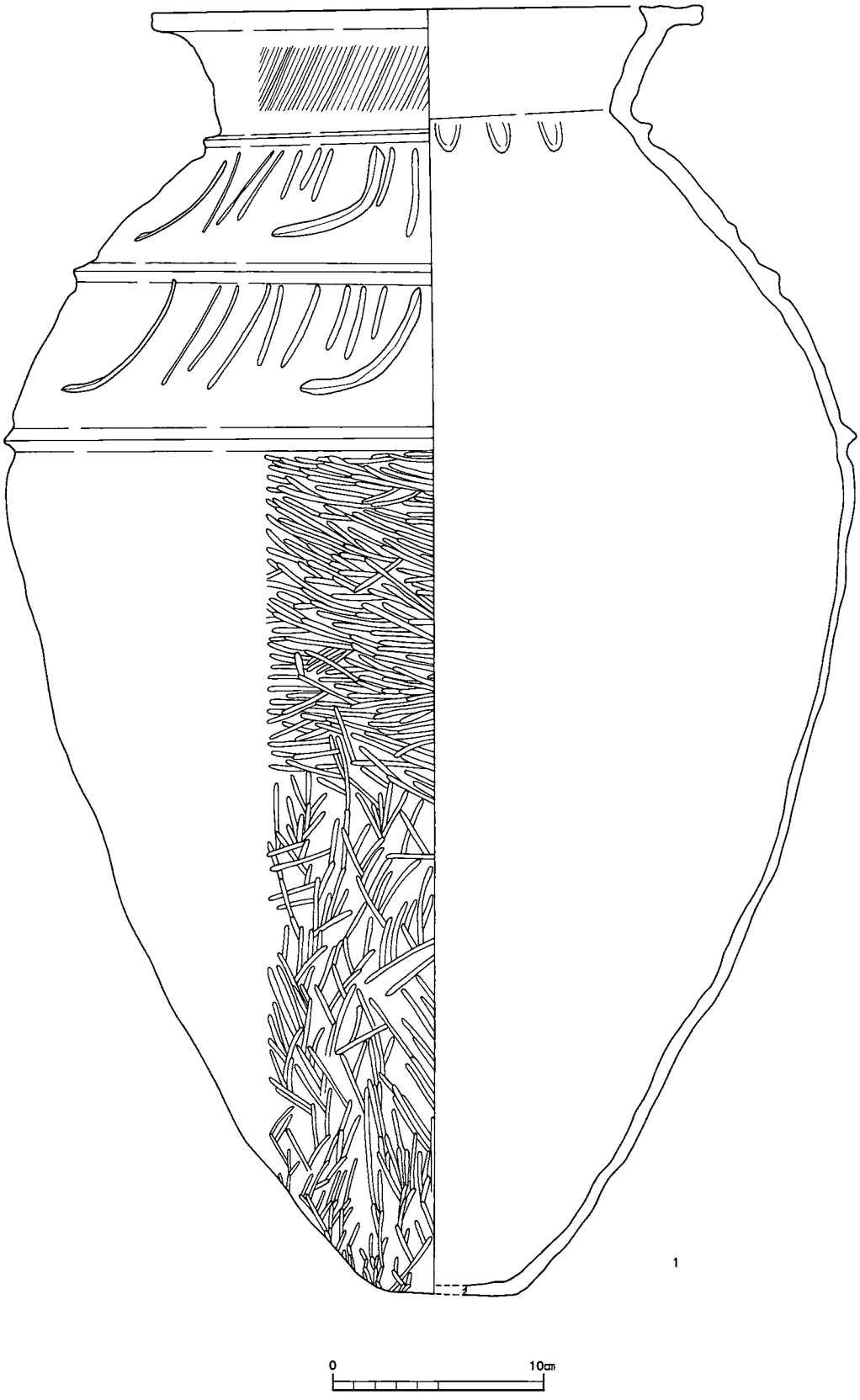
遺物出土状況　土器棺埋土から骨、歯とも検出した。



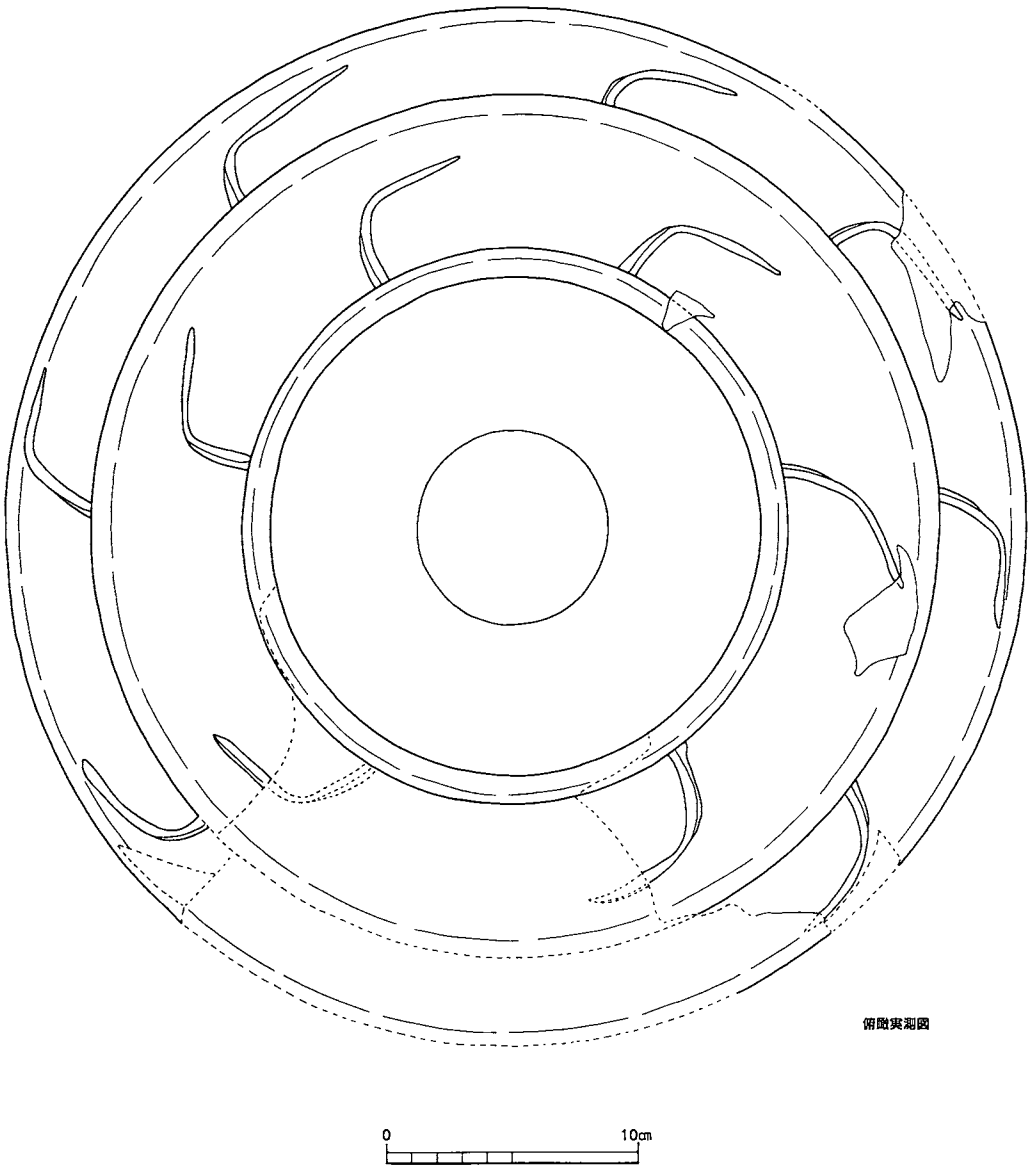
第Ⅲ-643図　1079SX(甕棺)実測図(1/4)



第Ⅲ-644図　1077SX平面・断面図(1/20)　見通し平面・断面図(1/10)



第Ⅲ-645図　1077SX(壷棺)実測図1(1/3)



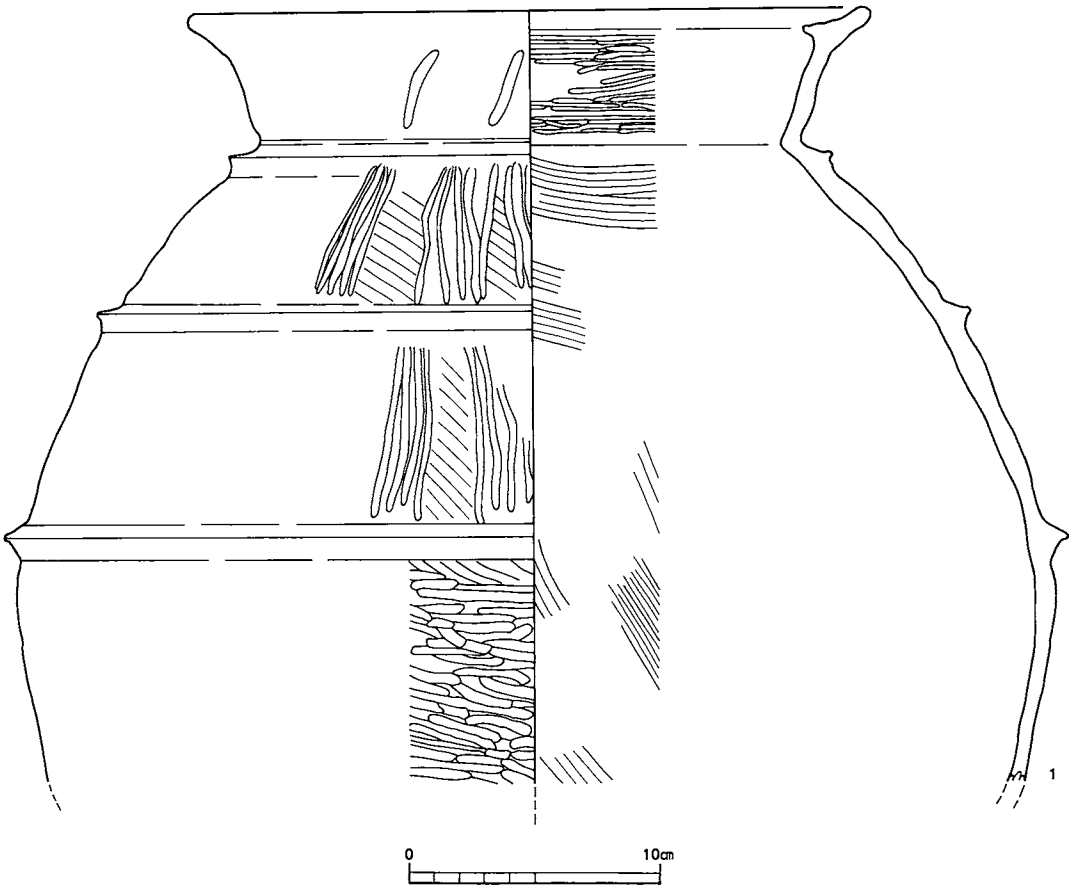
第Ⅲ-646図　1077SX(壷棺)実測図2(1/3)

1077 S X（第Ⅲ-644・645・646・647・648図、PL.12・15・34）

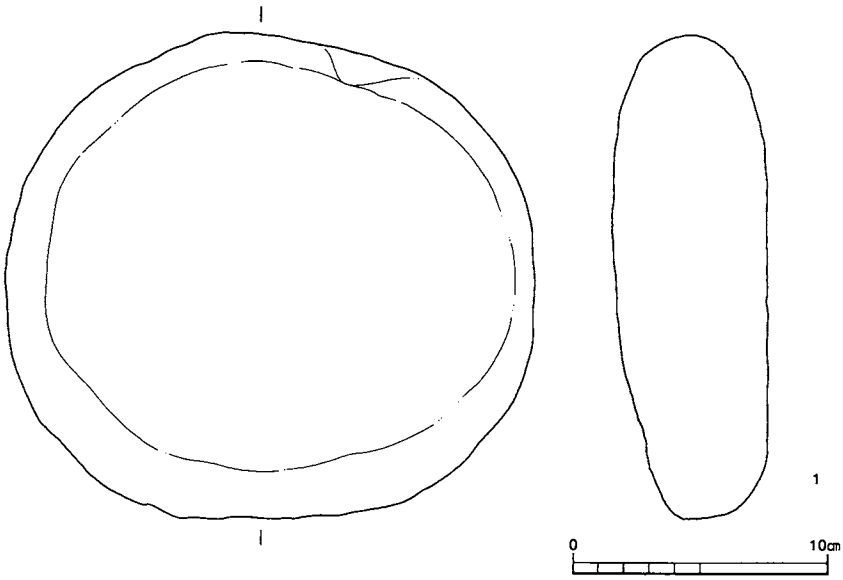
位置　遺跡北西部（2区北部）の氾濫原上に位置する。上層部は土器棺の上部まで撹乱により壊されている。土器の最深部の標高は約52.5 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壷棺で、口縁部方向はN-136°-Wで、正位置からの傾斜角度は70°である。口径26.0 cm、最大胴径39.7 cm、底径7.4 cm、器高58.1 cmである。掘り方の残存する形態は楕円形で、長軸84 cm、短軸75 cm以上、深さ26 cm以上である。上層部は撹乱されている。掘り方の埋土は2層以上からなる。掘り方の最深部に、壷棺底部に対し平面的に接するよう石を立て、甕棺の安定性を高めるよう図っている。

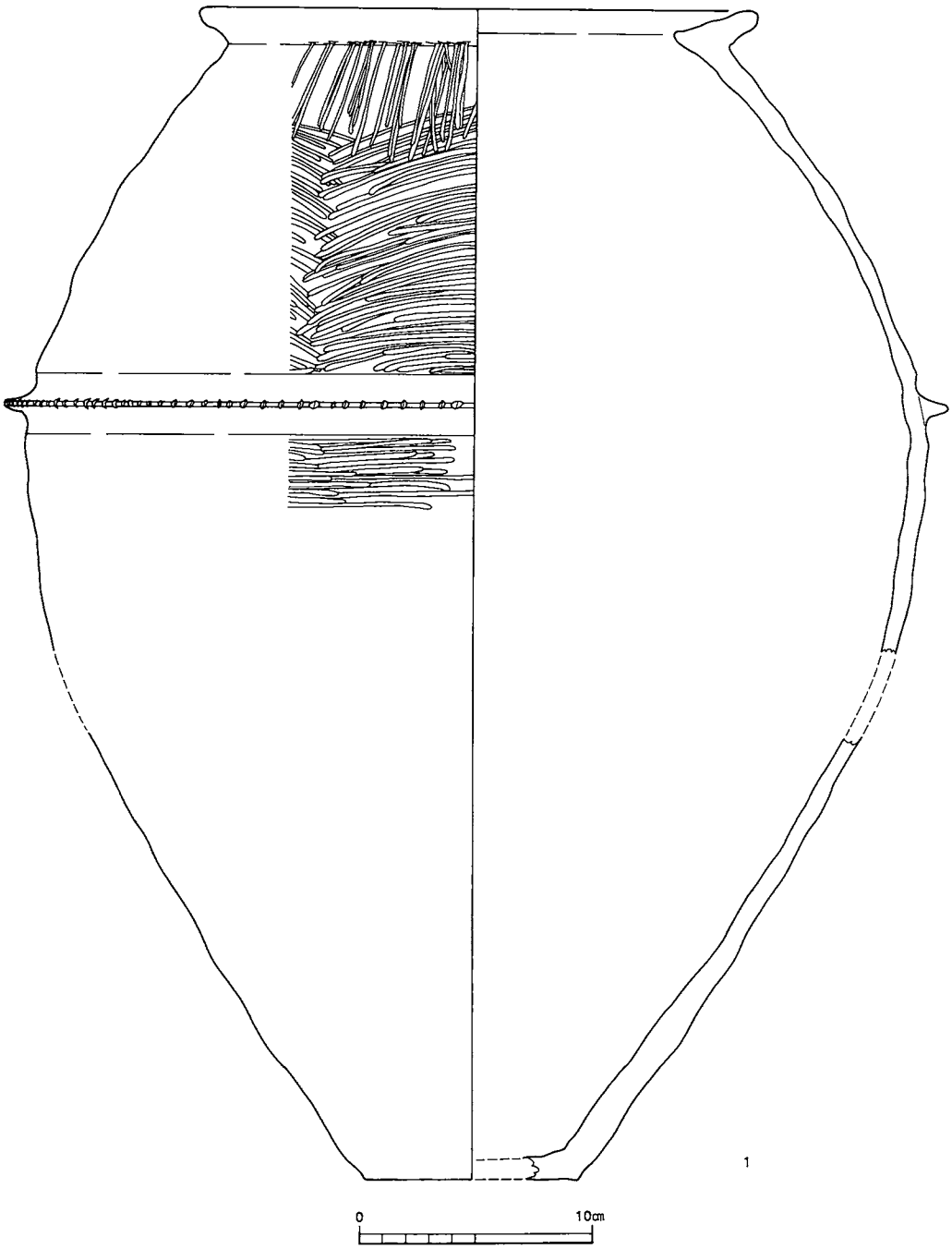
遺物出土状況　骨片・歯が、甕棺内下方に集中して出土した。



第Ⅲ-647図　1077SX(壷棺)実測図3(1/3)〈掘り方1層(1)〉



第Ⅲ-648図　1077SX壷棺基底石実測図(1/3)



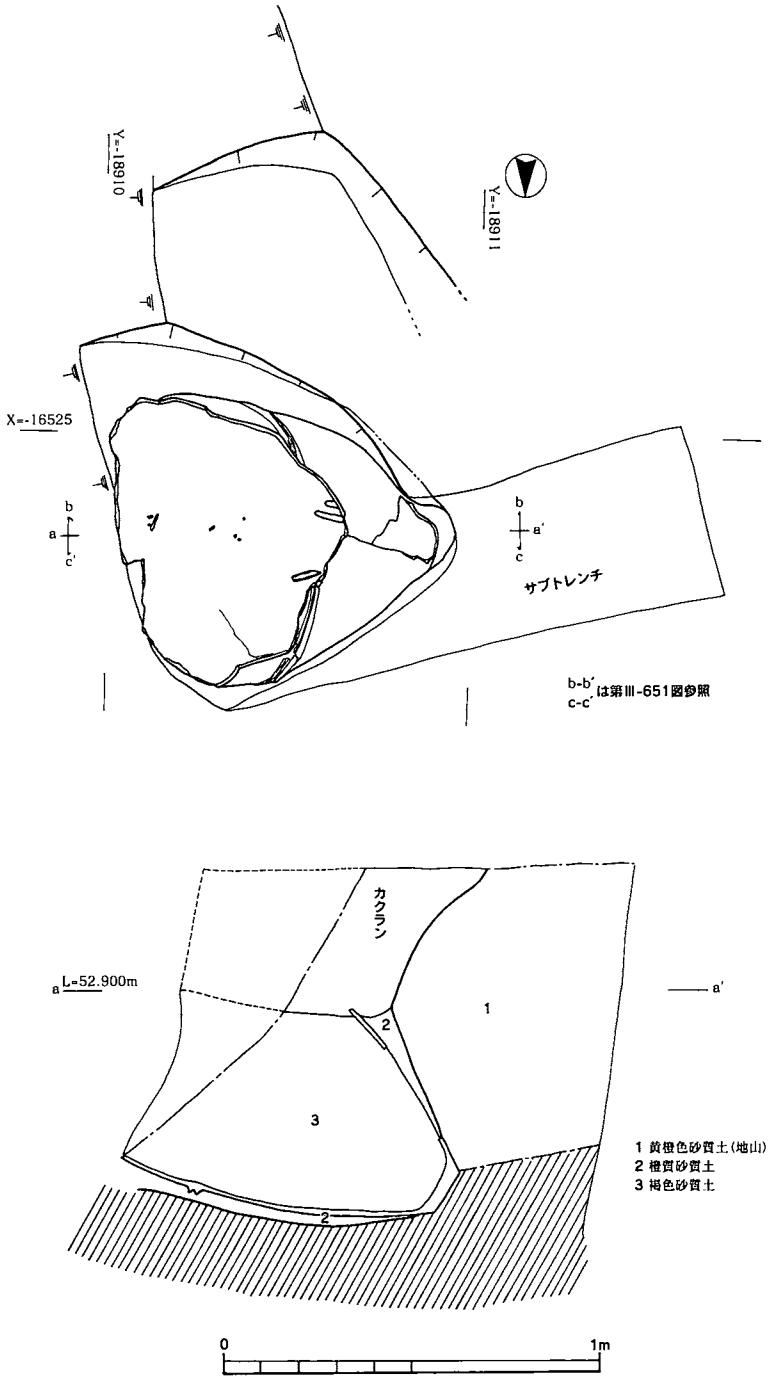
第Ⅲ-649図　1210SX(胴丸甕棺)実測図(1/3)

1210 S X（第Ⅲ -649 図）

位置　遺跡北西部（２区北部）の氾濫原上に位置する撹乱の南側肩部から出土した。出土状況は明確でないが、土器棺と推定できる。

土器棺墓形態　この土器棺墓はいわゆる胴丸形甕棺で、口径 23.6 ㎝、最大胴部径 39.0 ㎝、底径 9.0 ㎝、器高 49.8 ㎝である。

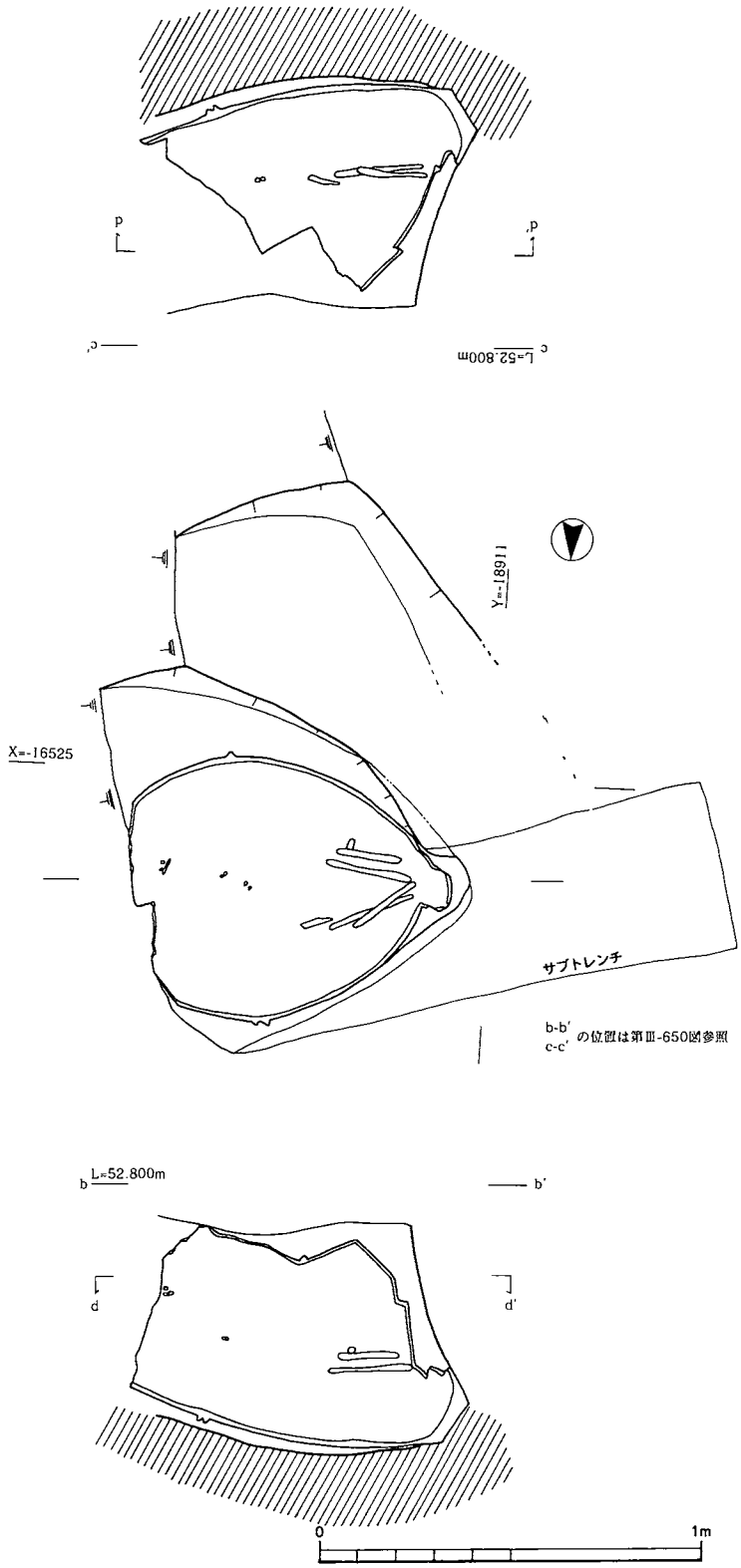
遺物出土状況　土器棺埋土から骨、歯とも検出した。



第Ⅲ-650図　1238SX　平面・断面図(1/20)

②道路橋脚P18調査区の調査

平成８年度２区の発掘調査中、隣接の橋脚の工事時に土器棺２基が発見されて緊急調査を実施した。そのため、２基とも土器の半分以上が失われてしまっていた。特に 1238SX は、口縁部から胴部上半が失われており、詳細な土器棺の構造や土器型式が明確ではない。



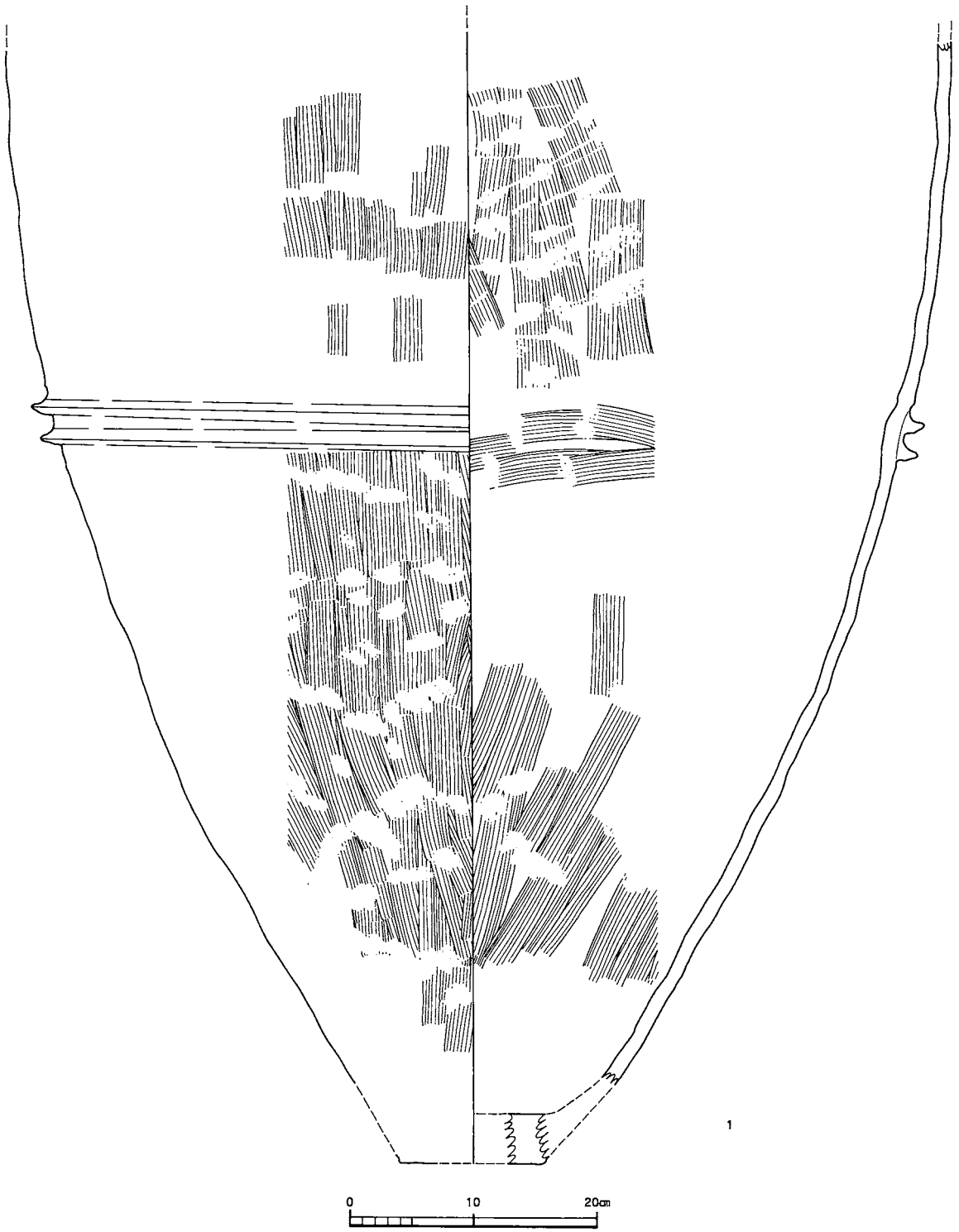
第Ⅲ-651図　1238SX　見通し平面・断面図(1/20)

1238SX（第Ⅲ-650・651・652図、PL.35）

位置　遺跡北部（道路橋脚P18調査区の西側）に位置する。近世以降の耕作の溝等で、土器棺の上部まで撹乱により壊されている。土器の最深部の標高は約52.3 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。口縁部方向はほぼ東向きで、正位置からの傾斜角度は55～60°と推定される。底径約12 cm、器高89 cm以上である。1次墓坑は上部を削平されているが、残存する形態は楕円形で長軸130 cm、短軸150 cm以上、深さ95 cm以上である。

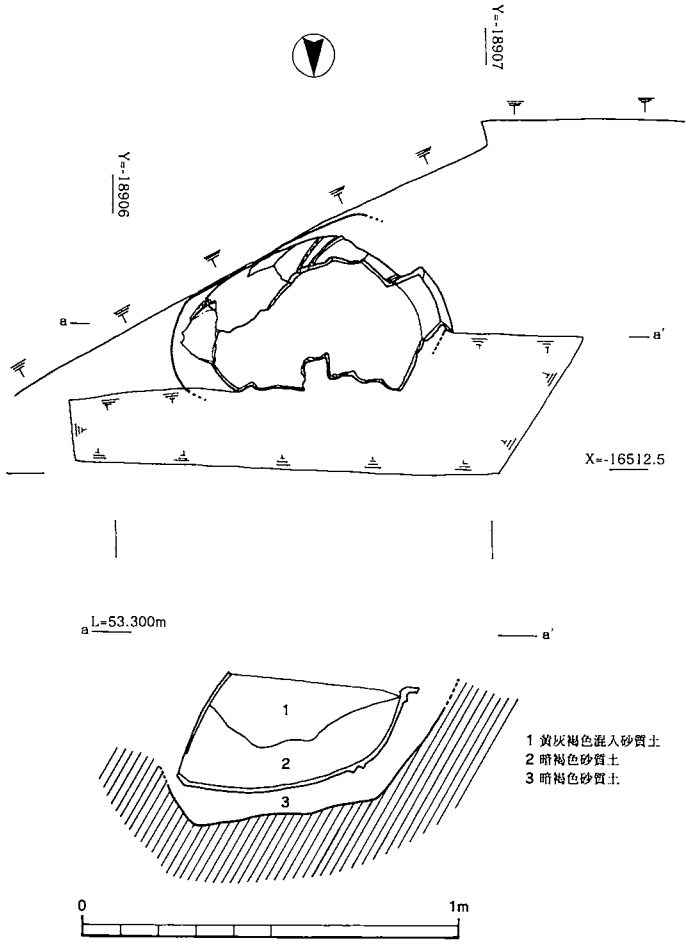
遺物出土状況　大腿骨・歯が甕棺内から出土した。



第Ⅲ-652図　1238SX(甕棺)実測図(1/5)

土器棺　内外面に丁寧なハケ調整を施し、丁寧にナデ消している。突帯は、張り付けのものが２条付けられている。断面は、三角形を呈する。胎土に雲母が多く混入し、他の土器の胎土とは異なる。搬入品の可能性もある。

まとめ　土器棺の掘り方の形状は、おそらく２段墓壙であろう。また、口縁部が欠損して、土器型式は明確ではないが、胴部下半の器形などから推定して、須玖式の大型カメ棺と推定される。



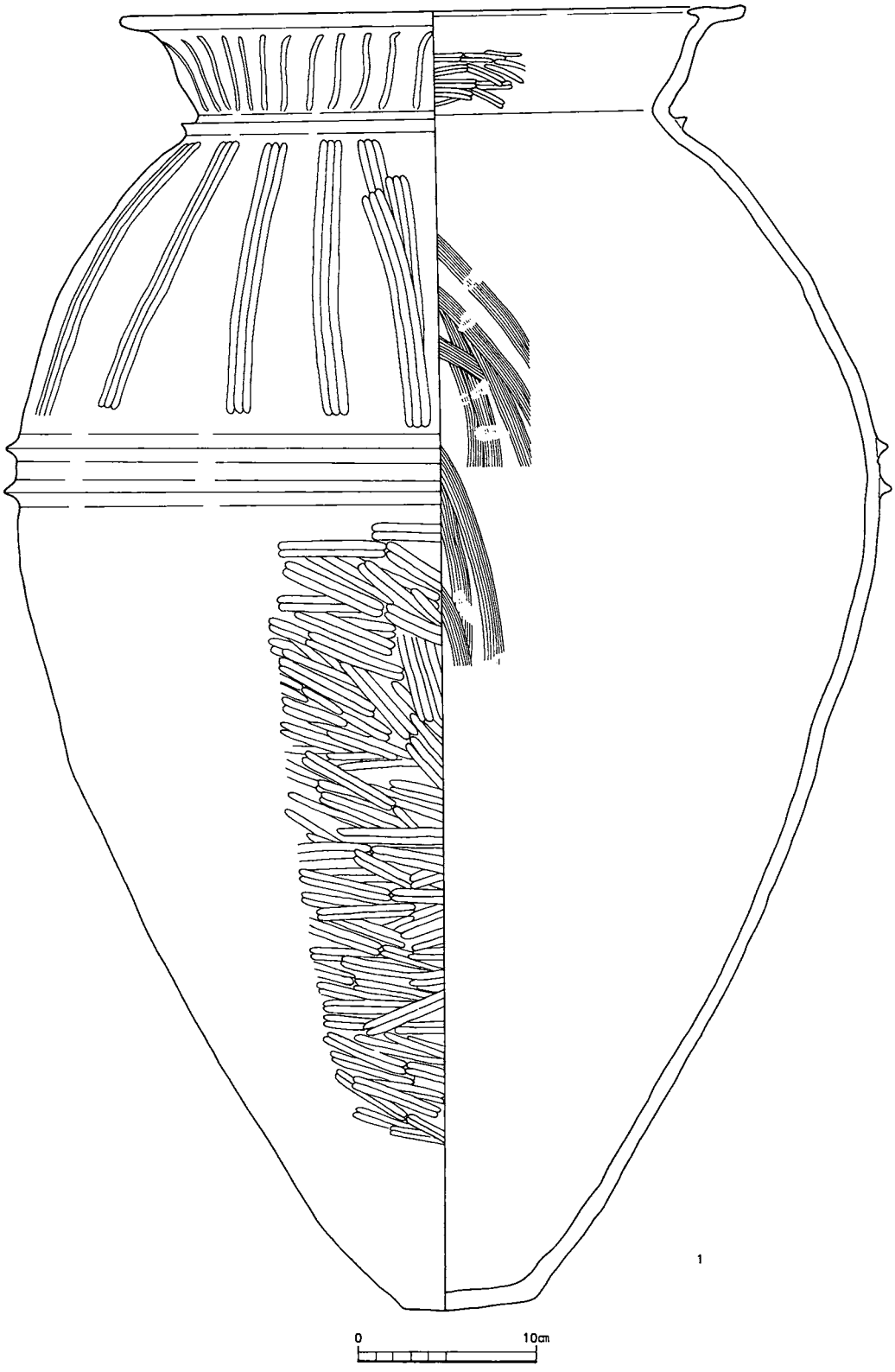
第Ⅲ-653図　1239SX　平面･断面図(1/20)

1239SX（第Ⅲ-653・654図、PL.35）

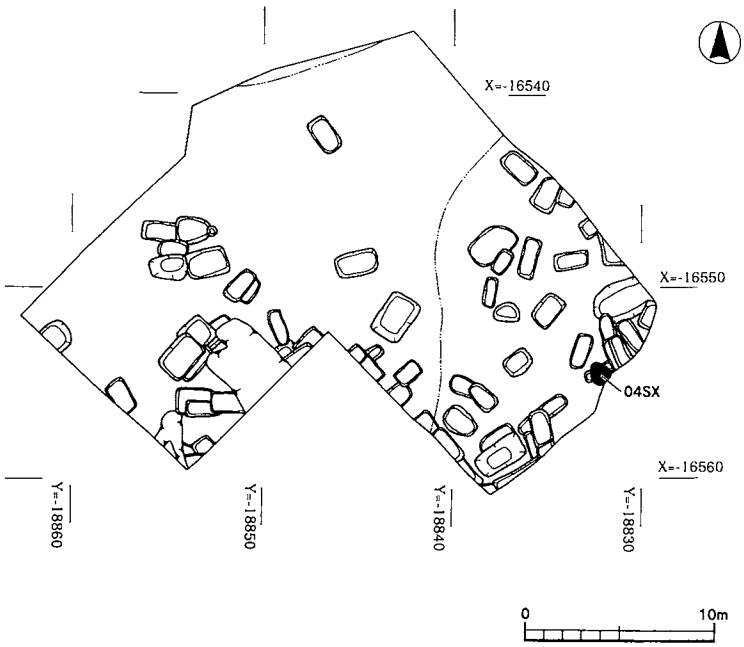
位置　遺跡北部（道路橋脚 P18 調査区の北側）に位置する。近世以降の耕作の溝等で、土器棺の半分が壊された状況で出土した。土器の最深部の標高は約 52.9 mである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は壺棺である。口縁部方向はほぼ西向きで、正位置からの傾斜角度は約65°と推定される。口径約 35 cm・器高約 72.5 cmである。掘り方は土器に近接してわずかに検出できた。規模等の詳細は不明である。

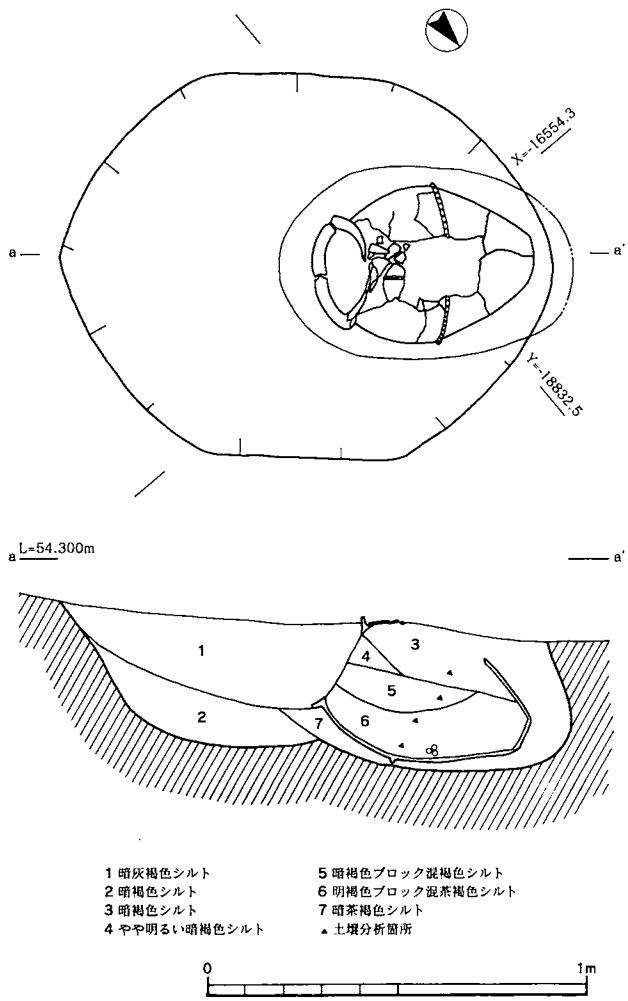
遺物出土状況　土器棺内から、遺物は出土していない。



第Ⅲ-654図　1239SX(壷棺)実測図(1/4)



第Ⅲ-655図　新No.61調査区土器棺墓位置図(1/400)



第Ⅲ-656図　新No.61調査区04SX　平面・断面図(1/20)

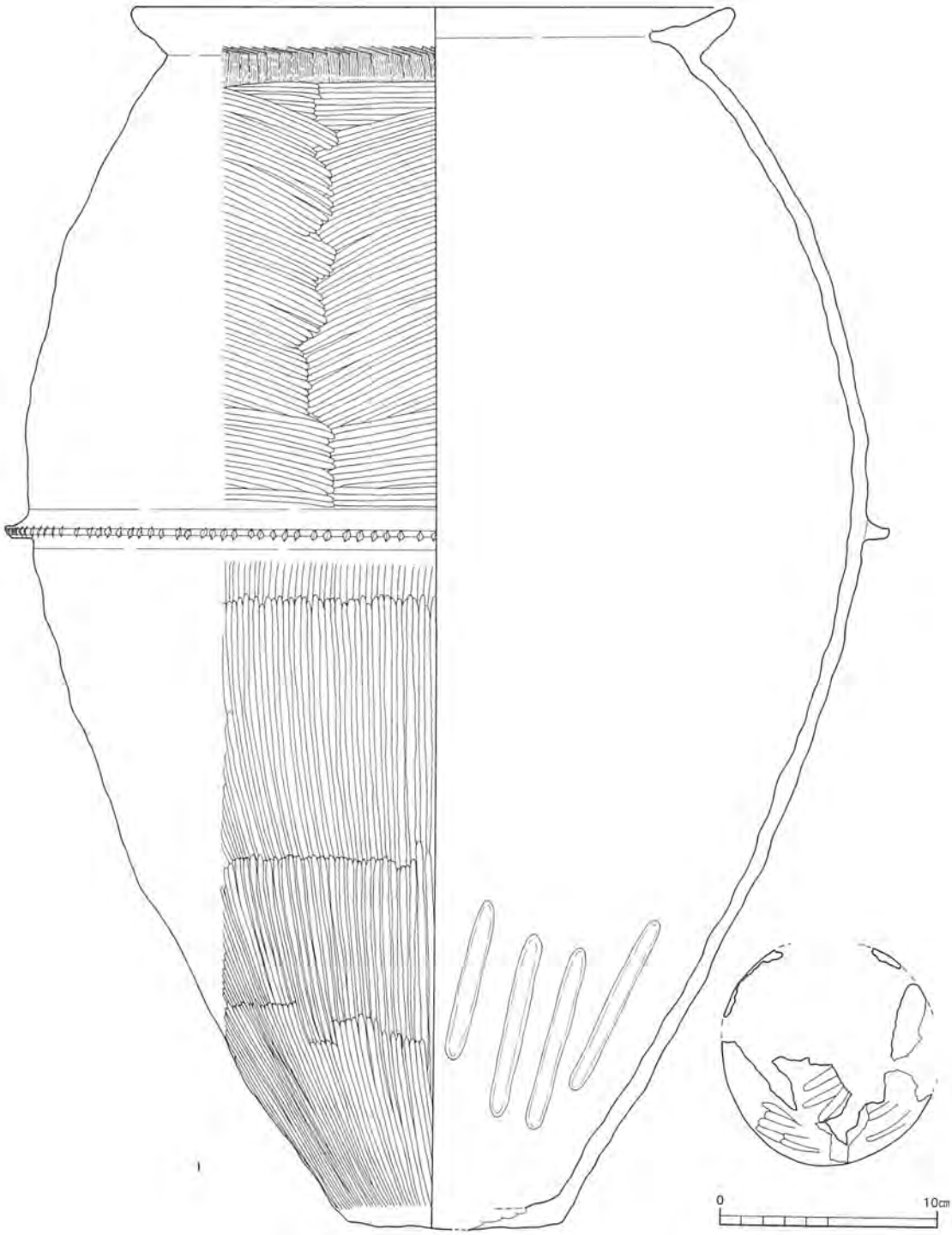
③九電鉄塔新No.61調査区の調査（第Ⅲ-655図、PL.16）

04ＳＸ（第Ⅲ-656・657・658図、PL.15・16・34）

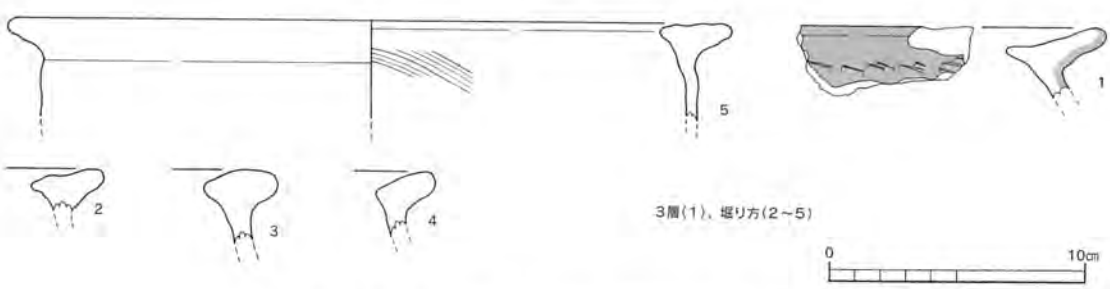
位置　遺跡北東部（九電鉄塔新No.61区南東部）の氾濫原上に位置する。旧地形は削平されている。土器棺の最深部の標高は約52.8ｍである。

土器棺墓形態　この土器棺墓は甕棺である。口縁部方向はＮ-125°-Ｅで、正位置からの傾斜角度は70°である。口径27.7㎝、最大胴径40.8㎝、底径10.1㎝、器高54.4㎝である。残存する掘り方は楕円形で、長軸129㎝、短軸99㎝、深さ40㎝である。掘り方の埋土は３層以上からなる。

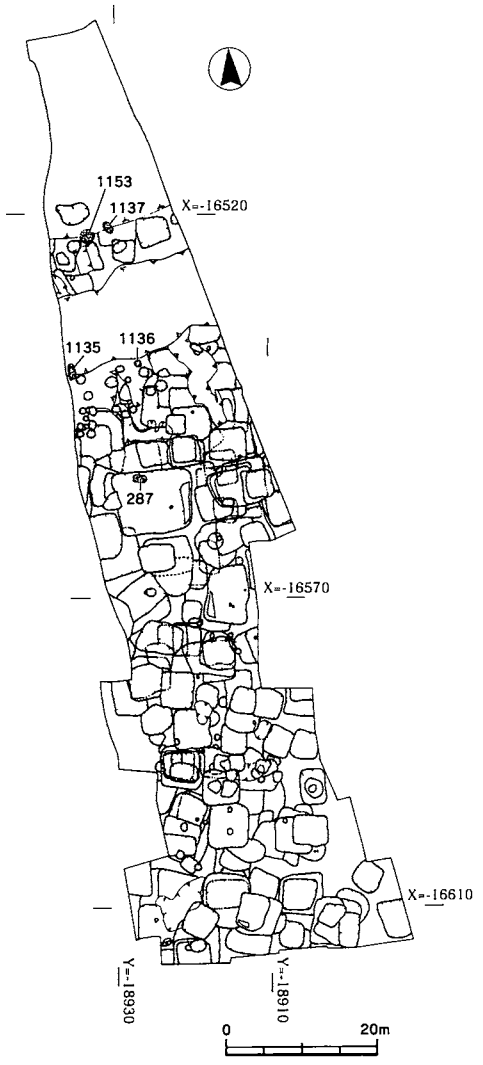
遺物出土状況　１㎜程度の骨片が集中している部分をカメ棺埋土下方で検出した。



第Ⅲ-657図　04SX(胴丸甕棺)実測図(1/3)



第Ⅲ-658図　04SX出土土器実測図(1/3)



第Ⅲ-659図　2区木棺墓・土壙墓配置図 (1/1000)

(6) 木棺墓・土壙（墓）

確認調査で検出したものを除くと65基以上の木棺墓を検出した。また、土坑墓と推定できるものも2区で2基出土した。

①2区の調査（第Ⅲ-659図、PL.16）

ア.木棺墓

287SX（第Ⅲ-660図、PL.16）

位置　遺跡北西部（2区中央部）に位置する。129SIの床面で検出した。

形態　掘り方内の堆積状況から、木棺墓の可能性が高い。掘り方は、隅丸長方形を呈し、長軸170㎝、短軸90㎝である。木棺部と推定できるのは、長軸約135㎝、短軸約65㎝である。埋土はそれぞれ2層からなる。

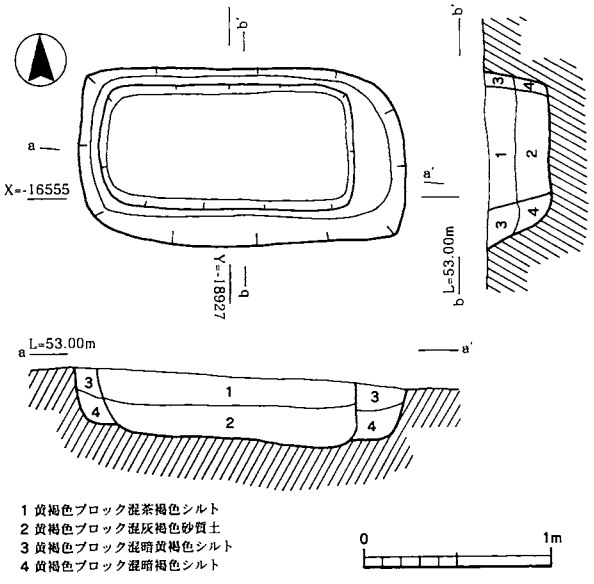
遺物出土状況　土器等の遺物や骨片や歯等は出土していない。

1135SX（第Ⅲ-661・662図、PL.16）

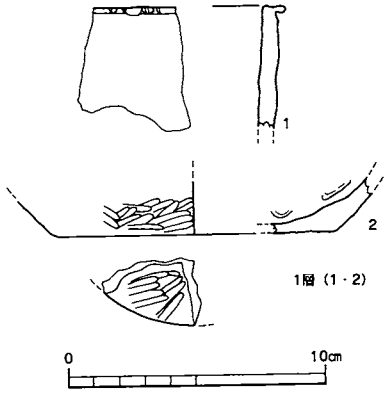
位置　遺跡北西部（2区北部）に位置する。

形態　掘り方内の堆積状況から、木棺墓の可能性が高い。掘り方は、長方形を呈し、長軸198㎝、短軸125㎝である。木棺部と推定できるのは、長軸約155㎝、短軸約75㎝である。埋土はそれぞれ3層からなる。

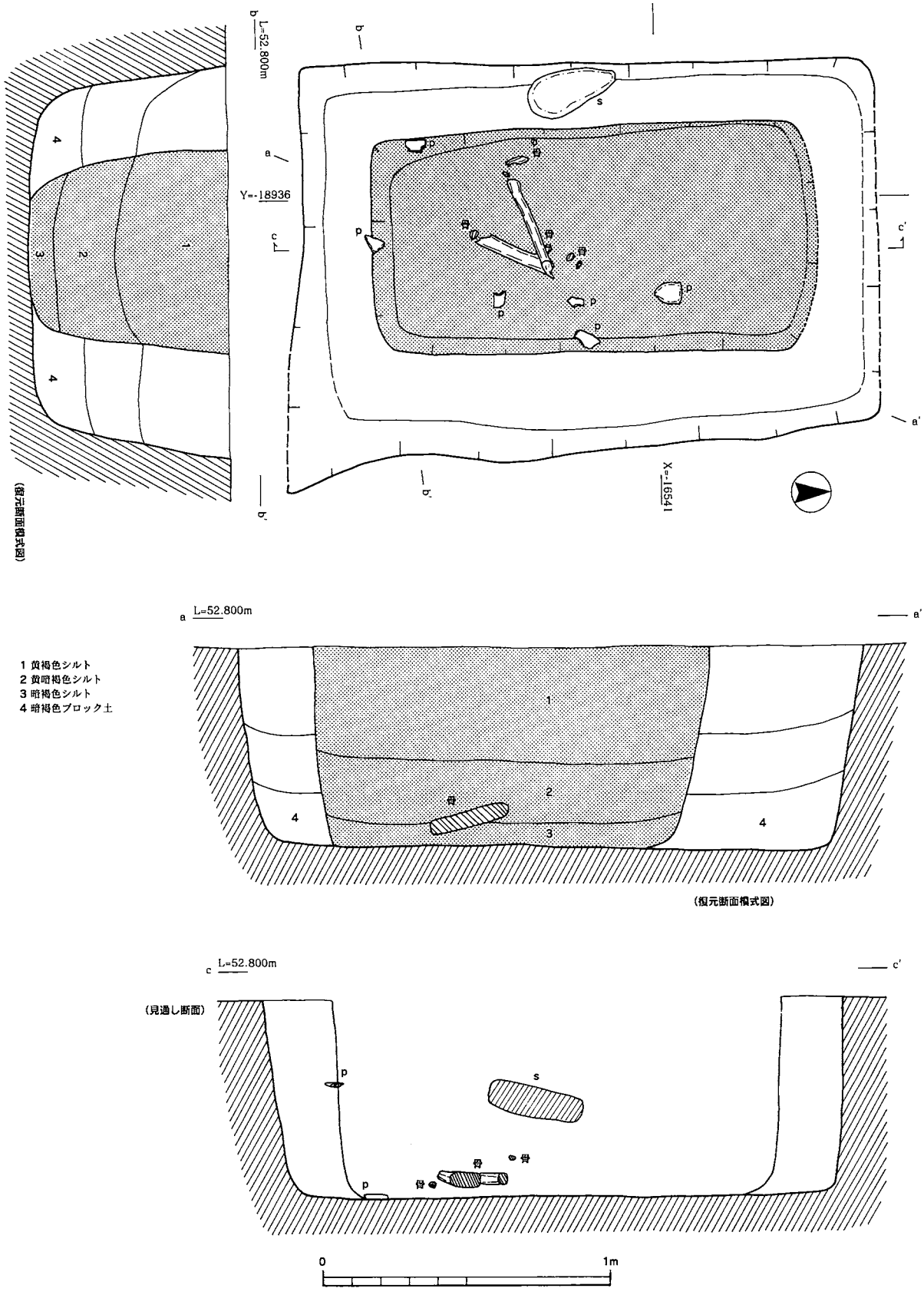
遺物出土状況　木棺墓と推定できる範囲から、大腿骨や骨片を出土した。また、流れ込みの遺物と推定できるが、土器片も出土している。（第Ⅲ-661図）



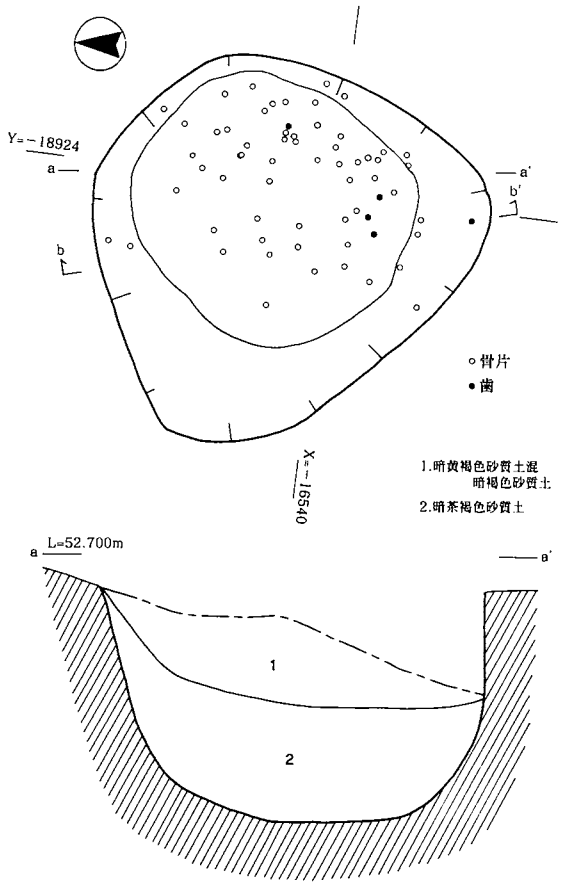
第Ⅲ-660図　287SX　平面・断面図(1/40)

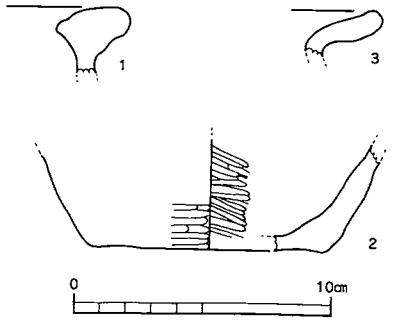


第Ⅲ-661図　1135SX出土土器実測図(1/3)

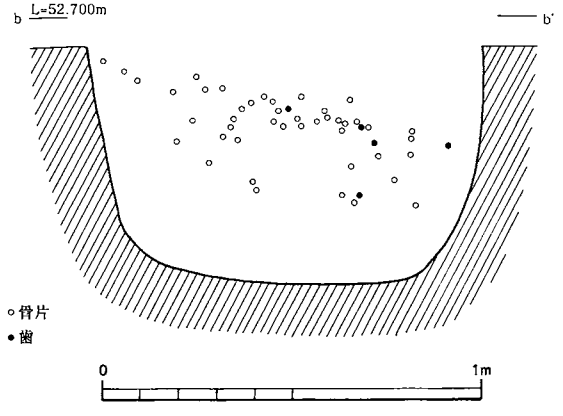


第Ⅲ-662図　1135SX　平面・断面図(1/20)





第Ⅲ-664図　1136SX出土土器実測図(1/3)
〈2層(1・2)、1層(3)〉



第Ⅲ-663図　1136SX　平面図・断面(上)、見通し断面(下)図(1/20)

1136 S X（第Ⅲ -663・664 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）に位置する。底面の標高は、約 52.0m である。

形態　約 1 mの不定形な楕円形を呈する。深さは約 60 cmで、埋土は 2 層からなる。断面はU字状を呈する。

遺物出土状況　残存状況は良好でないが、歯や骨片が点在して出土している。それらは、底面より 15 cmから出土し、北側が検出面ほぼ上面まで南側が、検出面上面より 20 cm低い部分まで出土している。

まとめ　骨片及び歯の出土状況から、頭位方向は北向きと推定できる。時期は、流れ込みの遺物（第Ⅲ -664 図 -3）から 6A 期以降と推定できる。

1137SX（第Ⅲ -665 図）

位置　遺跡北西部（2 区北部）に位置する。底面の標高は、約 52.2m である。

形態　楕円形を呈し、長軸 60 cm、短軸 50 cm、深さ 10 cm以上である。

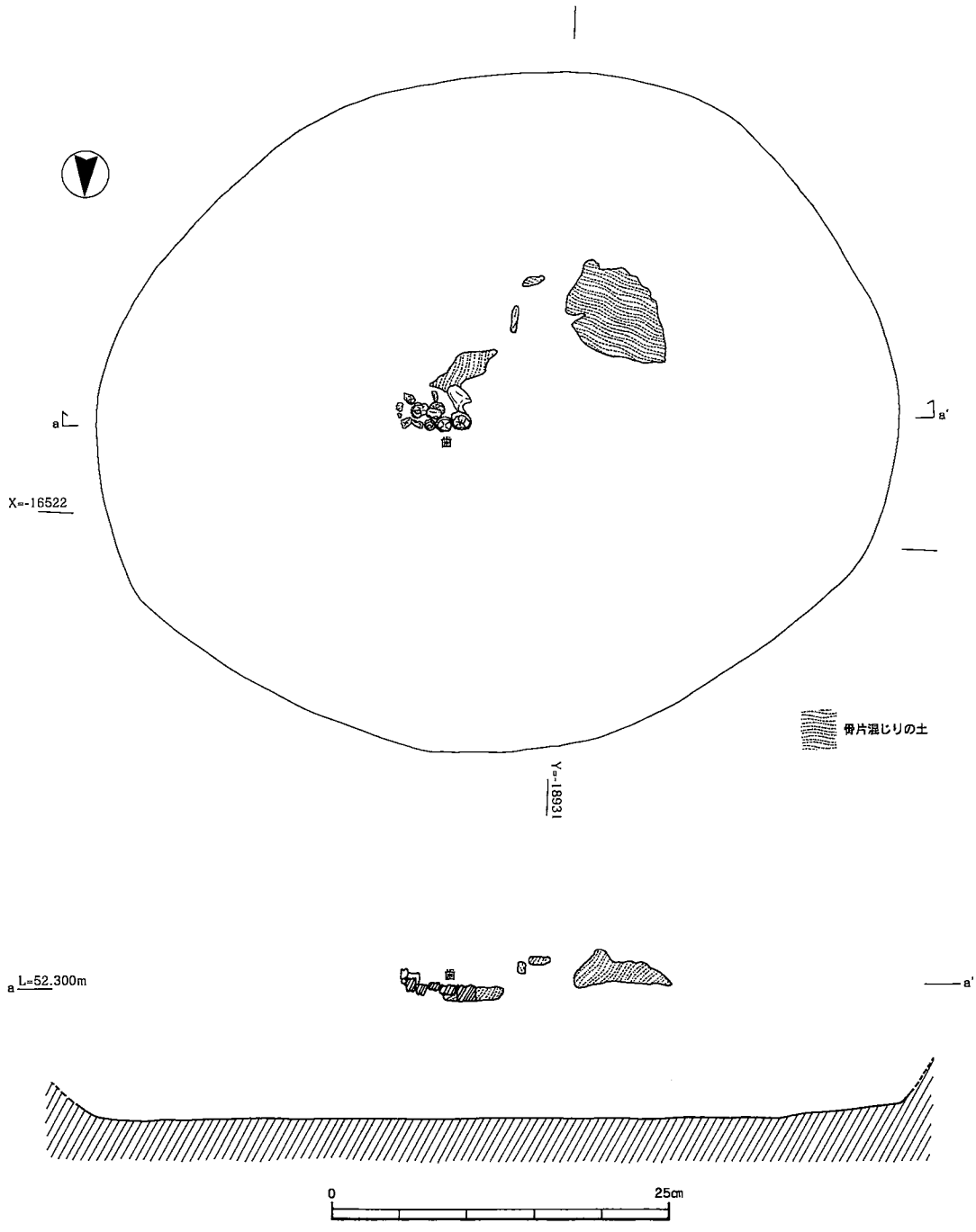
遺物出土状況　底面より 9 cm程浮いた状況で歯 7 本以上、骨片が出土した。

1153 S X（第Ⅲ -666・667 図、PL.16）

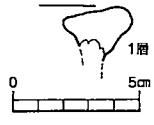
位置　遺跡北西部（2 区北部）に位置する。底面の標高は、約 52.2m である。

形態　楕円形を呈し、長軸 96 cm、短軸 80 cm、深さ 48 cmである。断面の形状が凹字状を呈する。

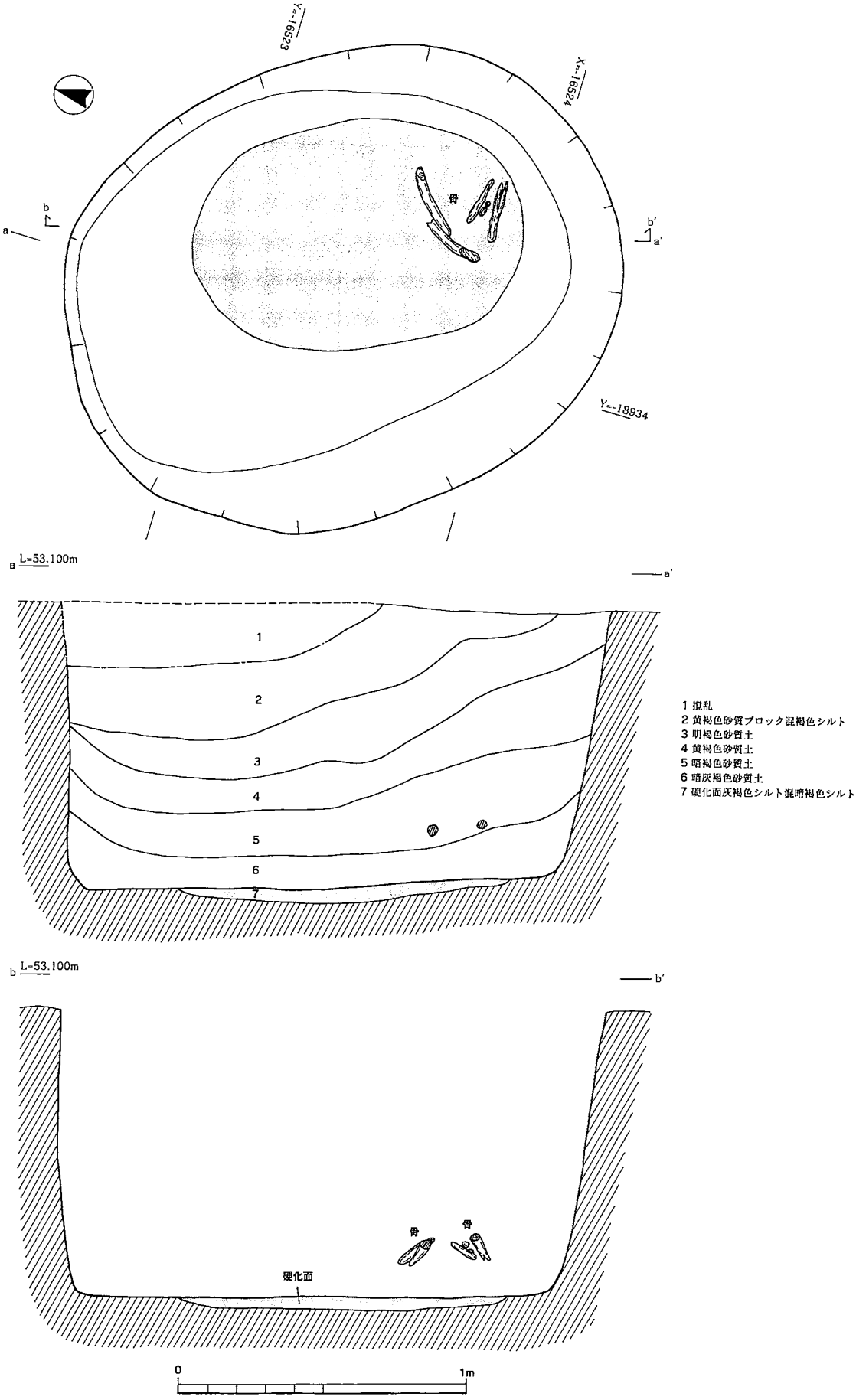
遺物出土状況　底面より 5 cm程浮いた状況で、骨片が 4 本以上出土した。



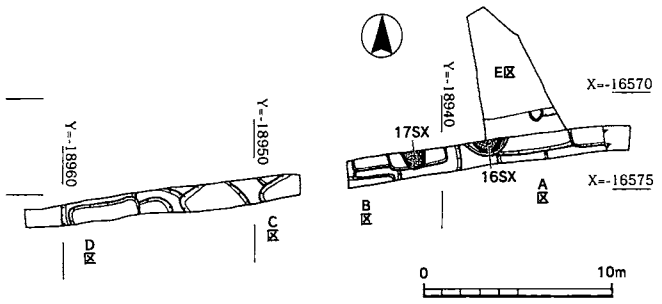
第Ⅲ-665図　1137SX　平面図・見通し断面図(1/5)



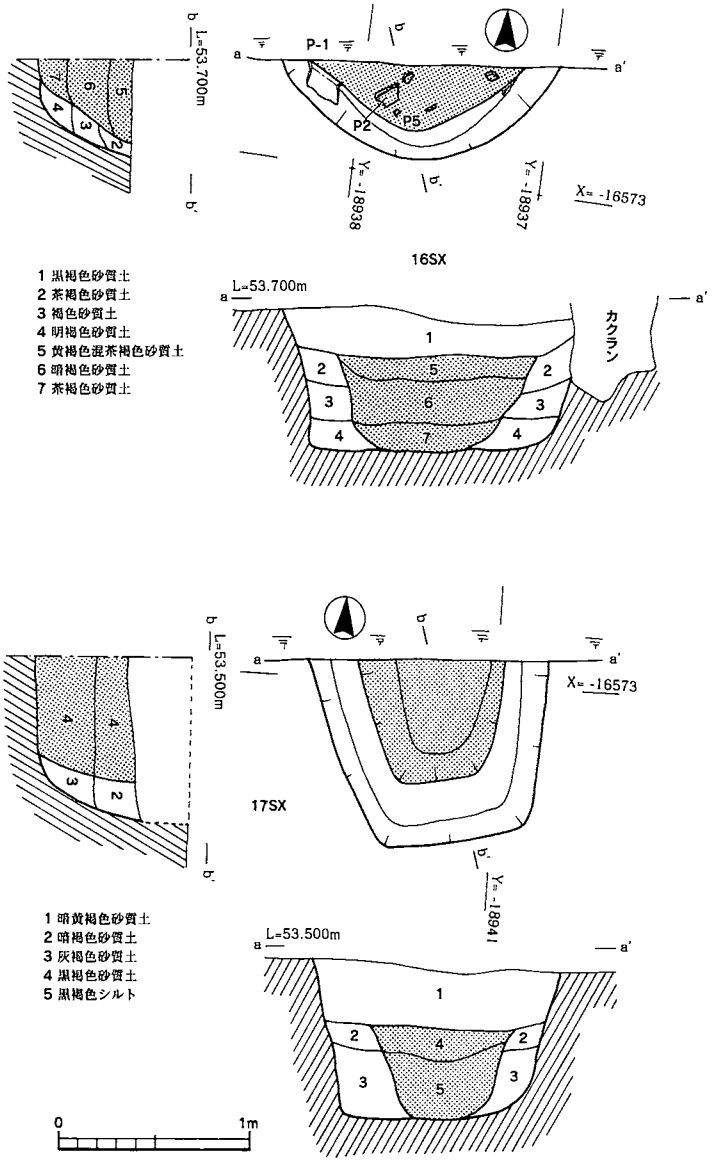
第Ⅲ-666図　1153SX　出土土器実測図(1/3)



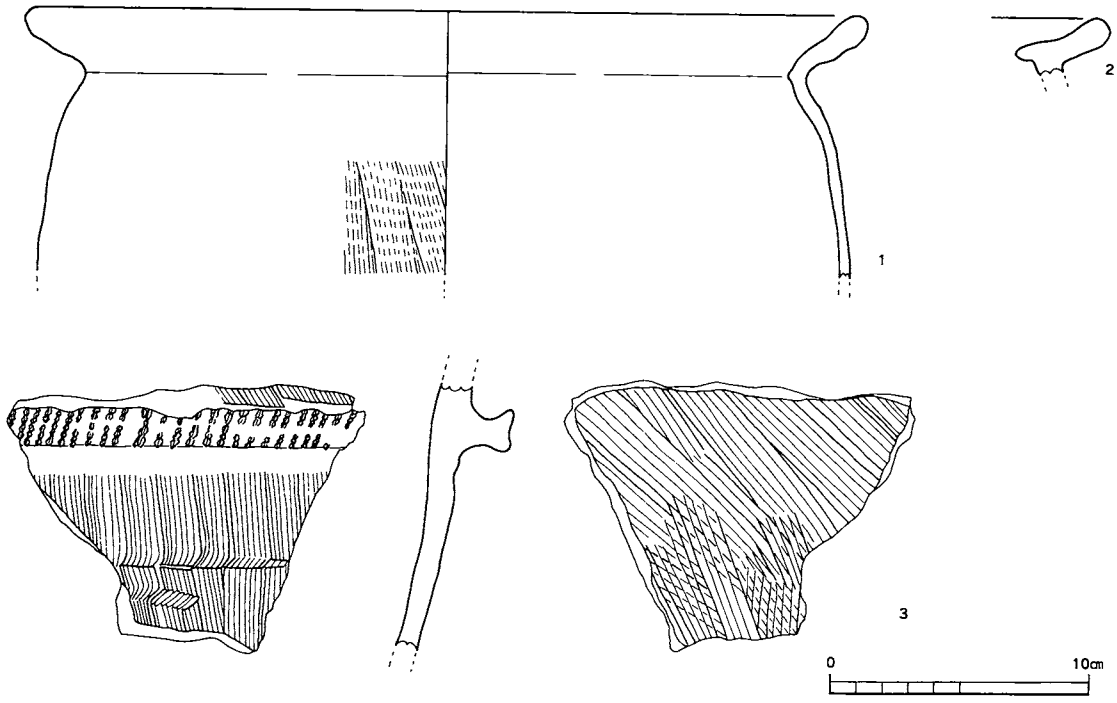
第Ⅲ-667図　1153SX　平面・断面(上)、見通し断面(下)図(1/10)



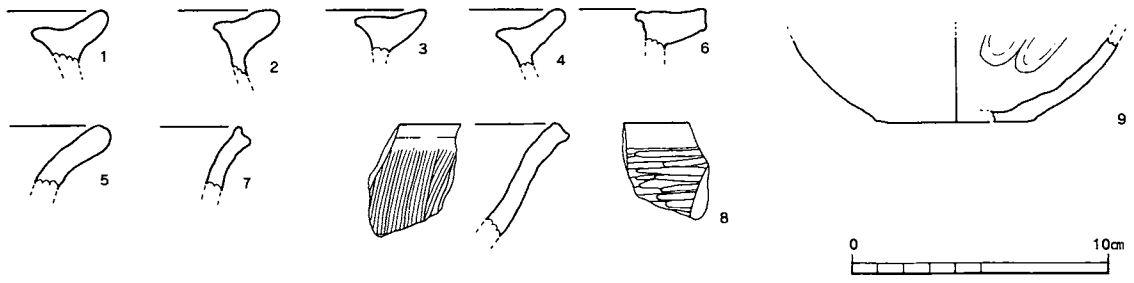
第Ⅲ-668図　東西水路調査区　木棺墓配置図(1/400)



第Ⅲ-669図　16SX・17SX　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-670図　16SX出土土器実測図(1/3)〈No.1(1)、No.2(3)、No.3(2)〉



第Ⅲ-671図　17SX出土土器実測図(1/3)〈木棺部(1)掘り方2層(2～9)〉

②東西水路調査区の調査（第Ⅲ-668図）

16SX（第Ⅲ-669・670図）

位置　遺跡西部（東西水路A調査区）に位置する。底面の標高は、約52.9mである。

形態　調査区外に大半が伸びるため詳細は不明であるが、主軸方向は、北西-南東方向と推定でき、断面の形状は凹面を呈する。木棺部と推定される断面は、U字状を呈する。

遺物出土状況　木棺部内部に廃棄もしくは流れ込んだ状況で土器が出土している。(第Ⅲ-670)

17SX（第Ⅲ-669・671図）

位置　遺跡西部（東西水路B調査区）に位置する。底面の標高は、約52.6mである。

形態　主軸方向は、南北よりやや西側に振れる。掘り方は隅丸方形を呈し、短軸120cm以上を測る。木棺部と推定される部分は、70cm以上と推定される。深さ約80cmである。断面の形状が凹字状を呈する。

③九電鉄塔新No.61調査区の調査（第Ⅲ-672～686図、PL.16）

ア.木棺墓

55基以上の木棺墓と推定できる遺構を検出した。

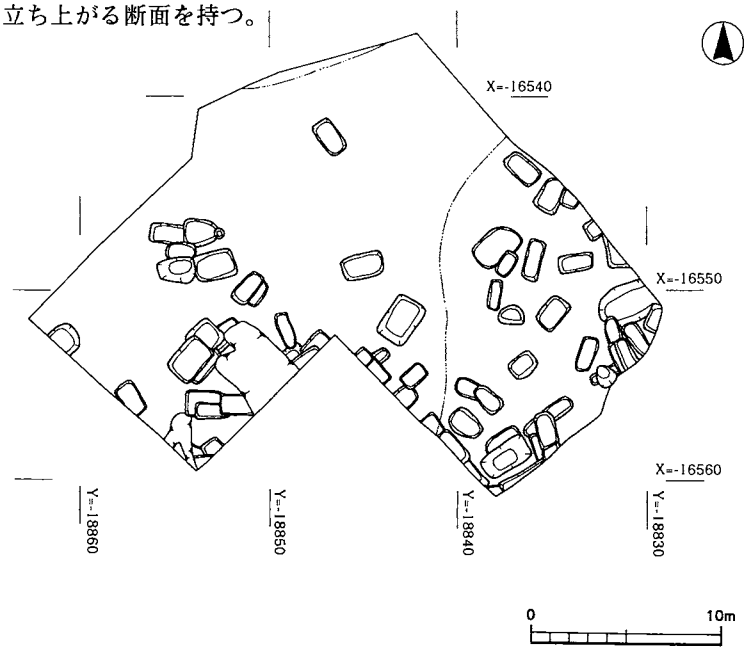
位置　遺跡の北東部で氾濫原上に位置する。1次調査の際、検出した土器棺群及び廃棄土坑の北西側である。

形態　法量等詳しくは、表2を参照されたい。断面の形状が、2重に検出される。掘り方と木棺部と想定した。但し、木棺部まで重複して検出されるため、木棺の抜き取り痕跡と理解すべきものもある。

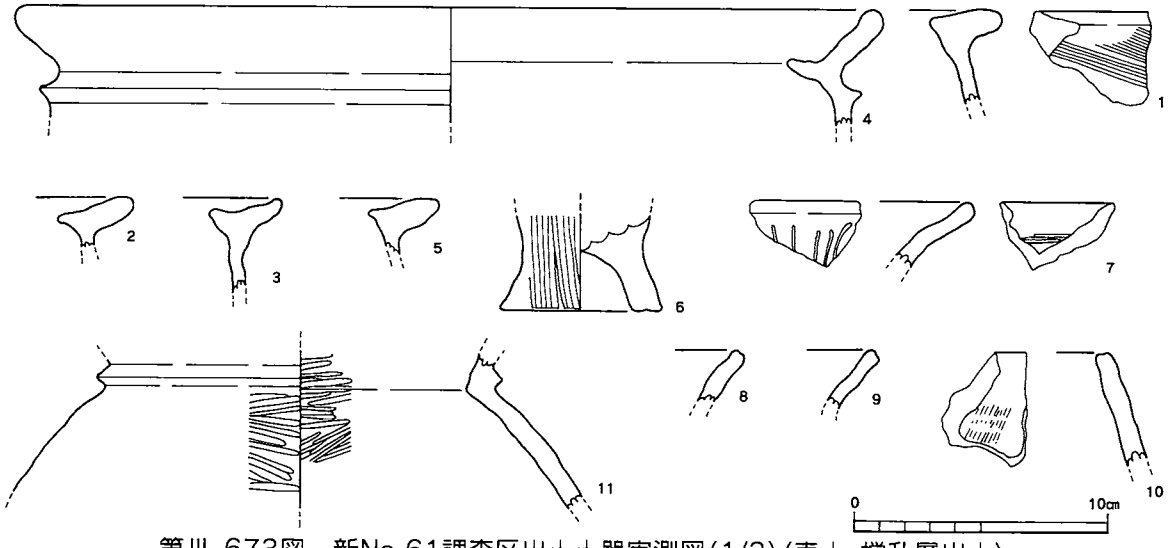
掘り方の法量は、長さ1.4～2.6 m、幅0.6～1.8 m、木棺及び抜き取り痕跡は、長さ1.2～1.6 m、幅0.34～1.0 m、検出した深さは、0.18～0.66 mである。

主軸方向は、頭位方向を推定できるものが少数のため、国土座標第Ⅱ系の北からの振れで表記した。主軸の方位は、大別して4つ、細別して6つ存在する。

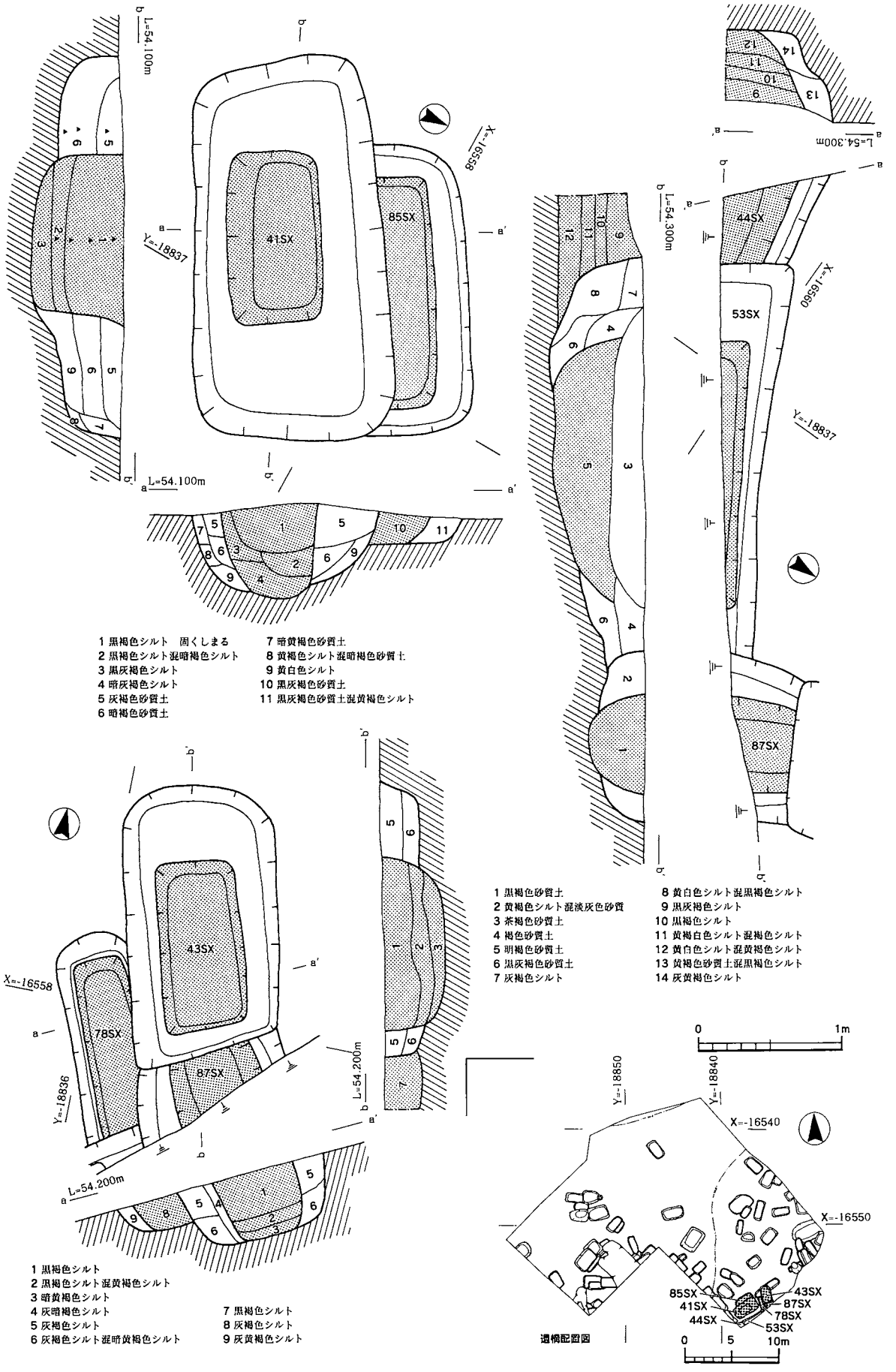
平面形態は、隅丸方形が多く、楕円形を呈するものも存在する。断面の形状は、掘り方は、U字状を呈するものがほとんどである。木棺部と推定されるものの断面は、明瞭なものはほとんどない。痕跡を若干残しているものは、47SX、03SX、06SX等に限定される。大多数は、掘り方より内側に検出面ないし途中まで垂直もしくは、U字状に立ち上がる断面を持つ。



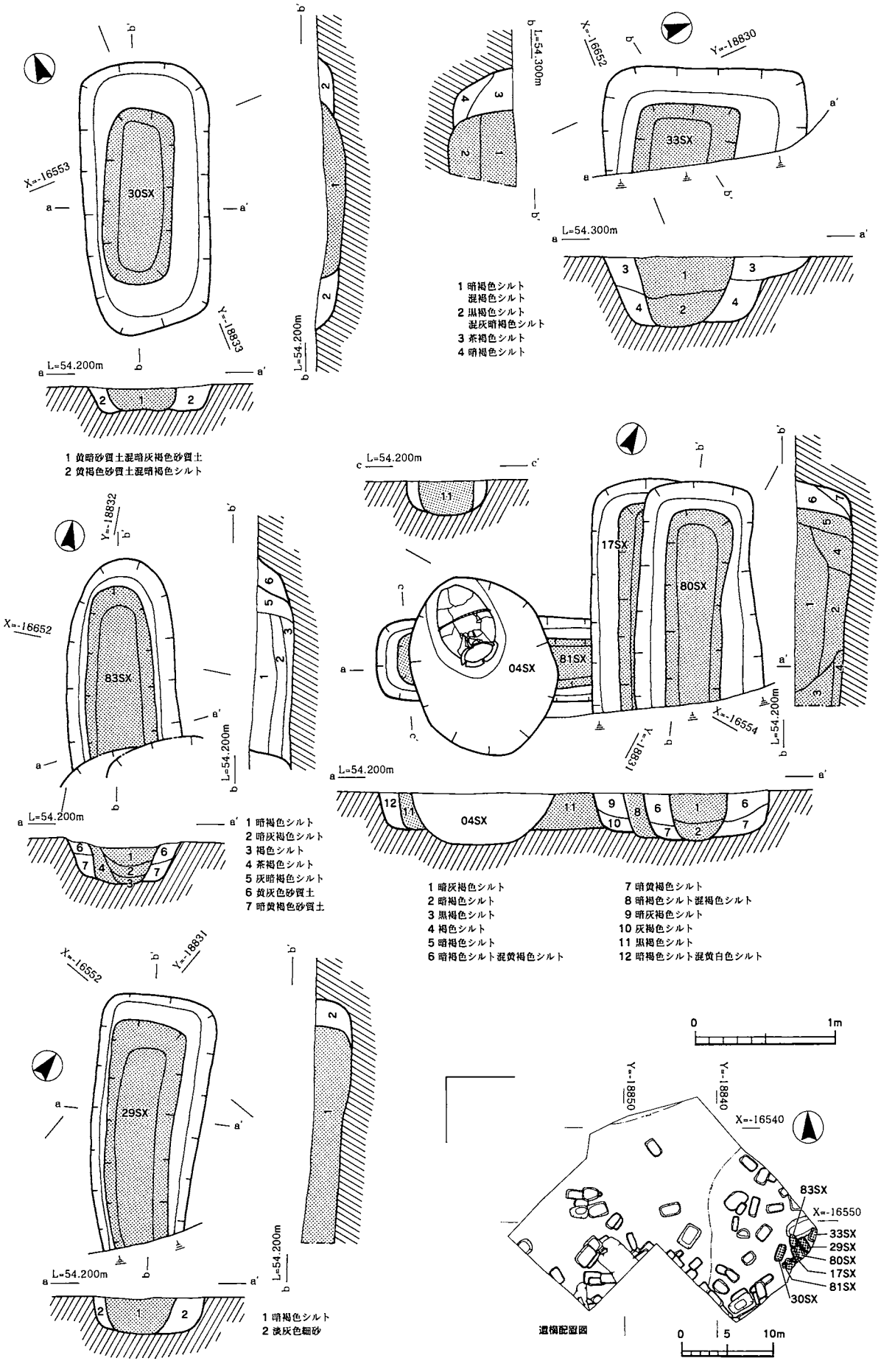
第Ⅲ-672図　新No.61調査区遺構配置図(1/400)



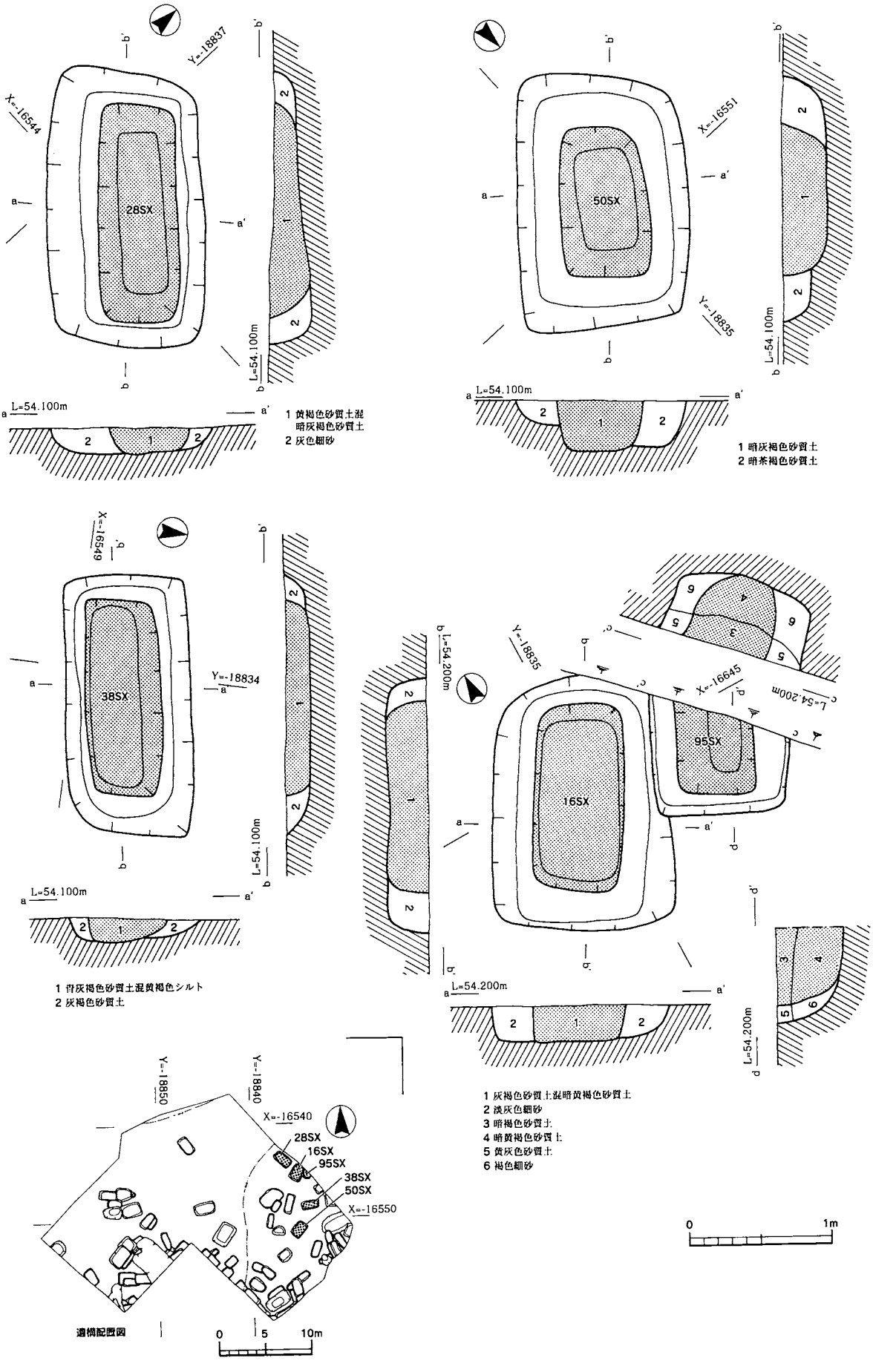
第Ⅲ-673図　新No.61調査区出土土器実測図(1/3)〈表土・撹乱層出土〉



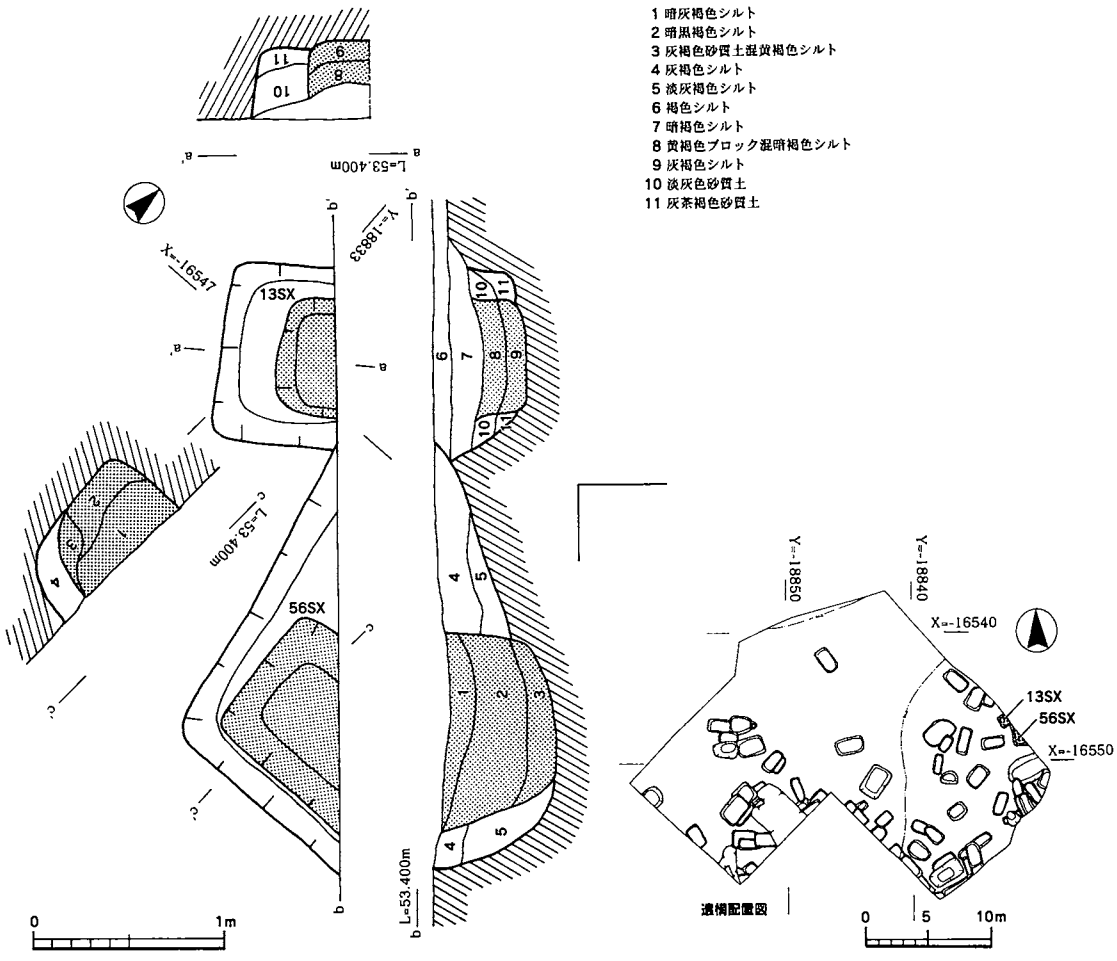
第Ⅲ-674図　85·41·44·53·87·78·43SX　平面·断面図(1/40)



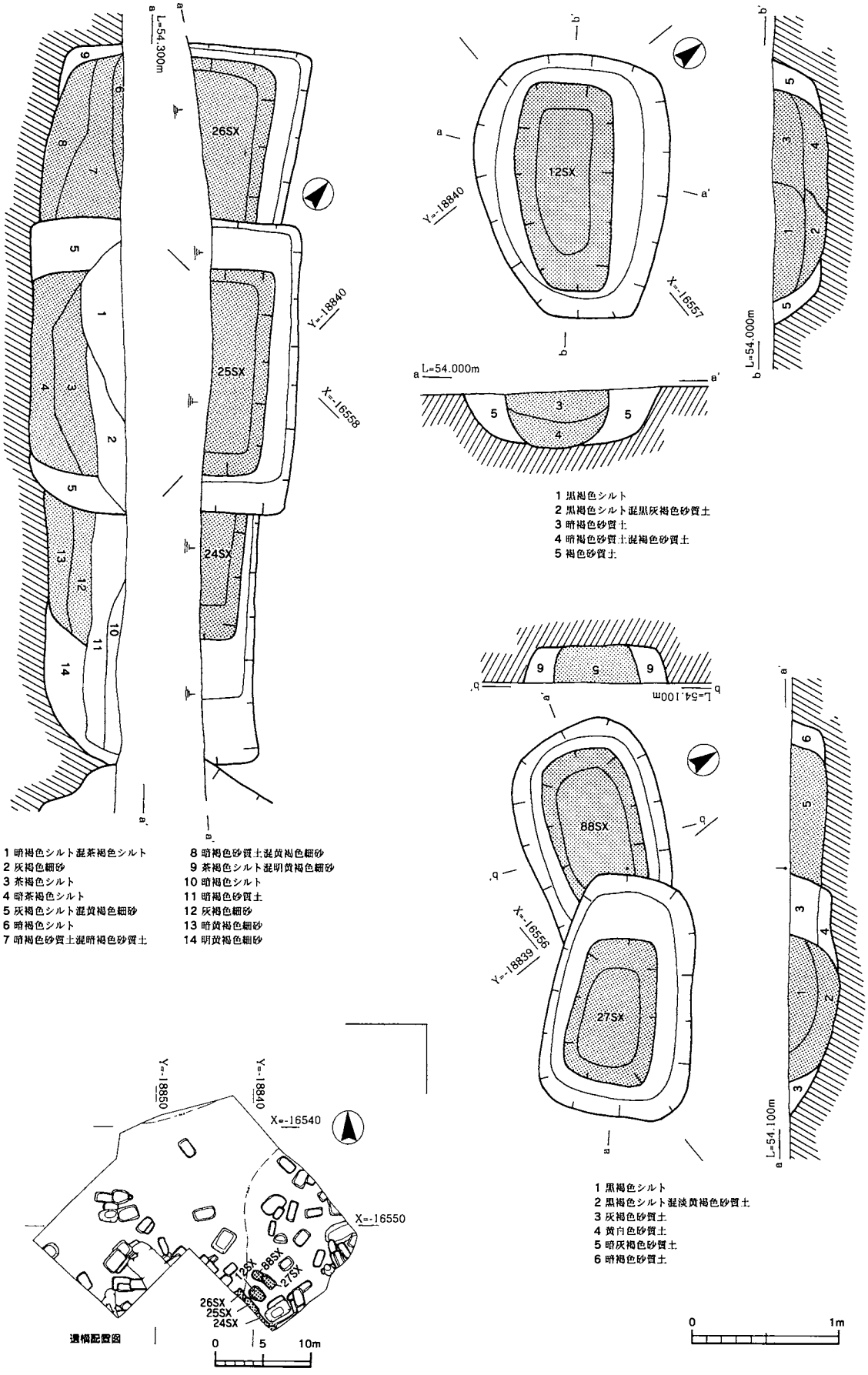
第Ⅲ-675図　30·33·83·81·17·80·29SX　平面·断面図(1/40)



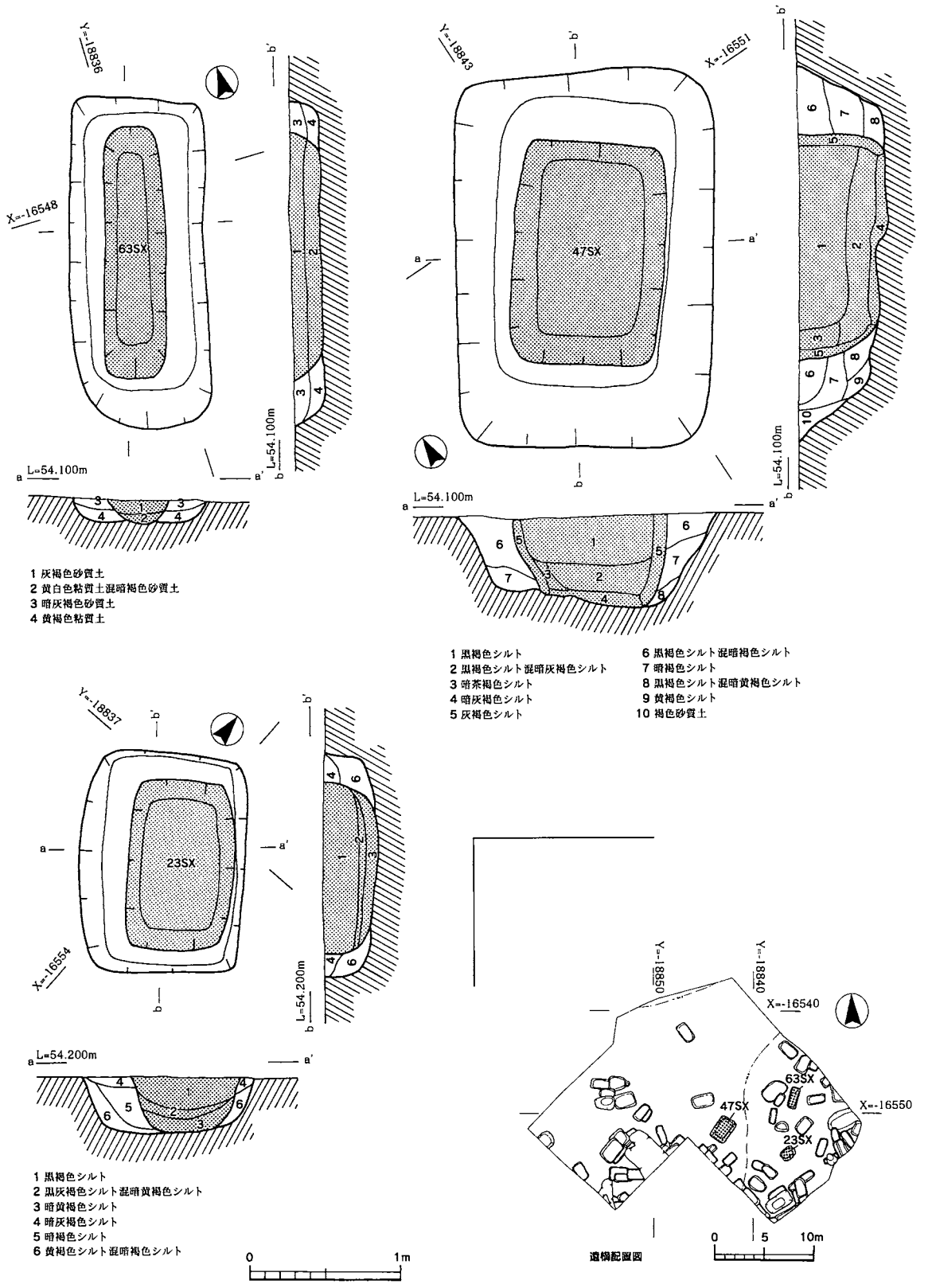
第Ⅲ-676図　28・50・38・16・95SX　平面・断面図(1/40)



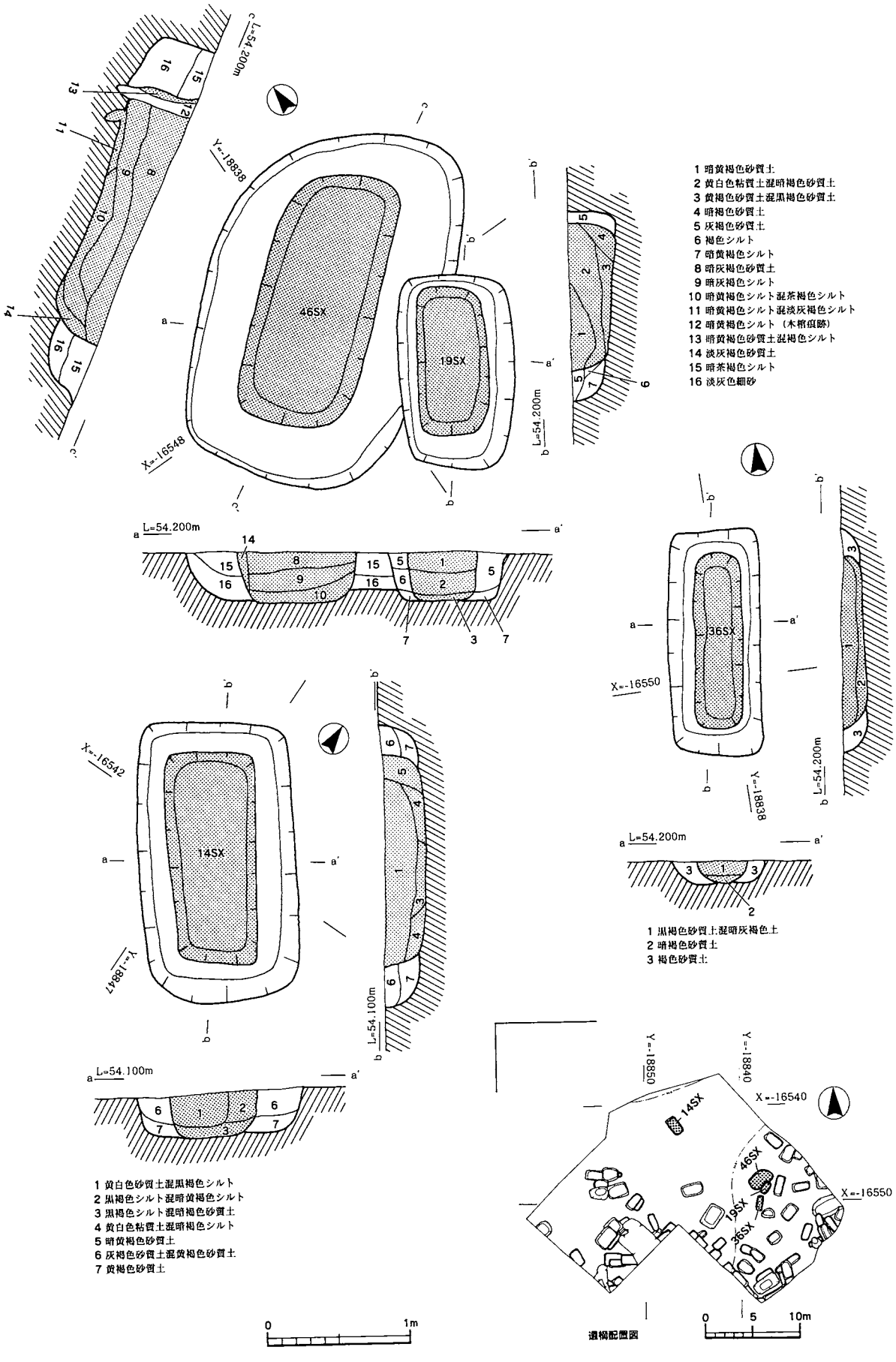
第Ⅲ-677図　13·56SX　平面·断面図(1/40)



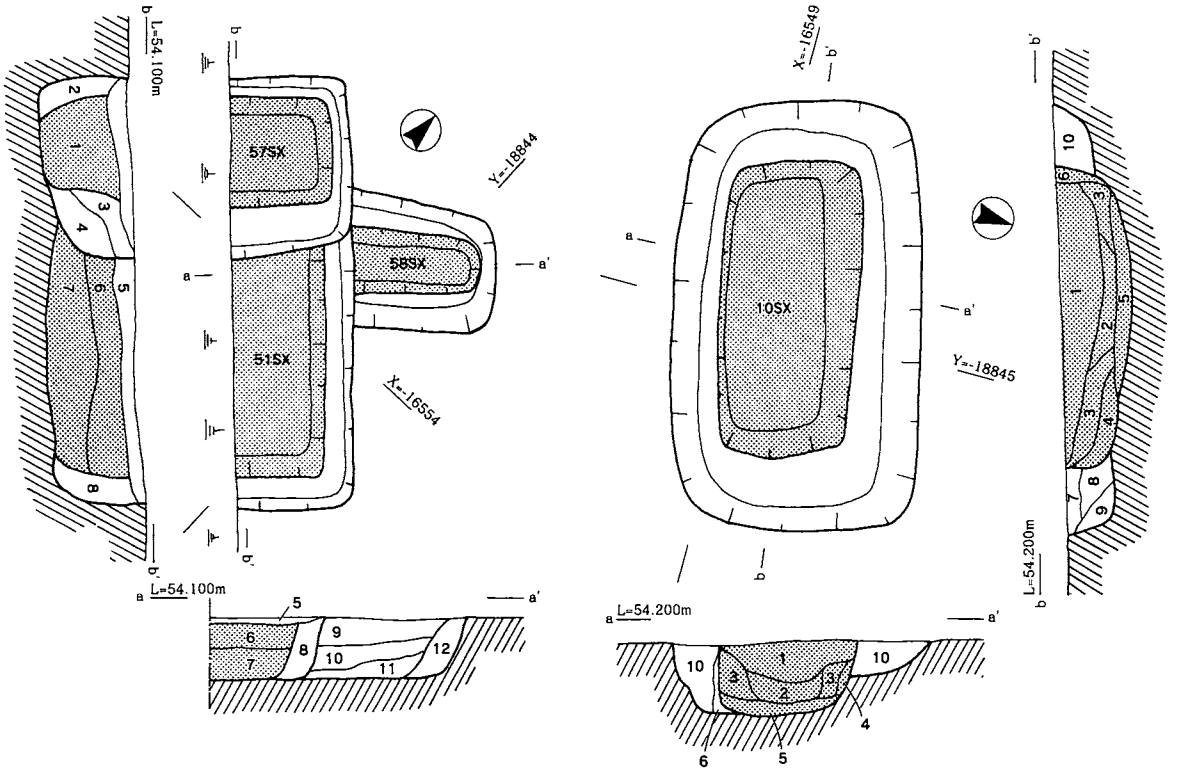
第Ⅲ-678図　24・26・25・12・88・27SX　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-679図　63・47・23SX　平面・断面図(1/40)

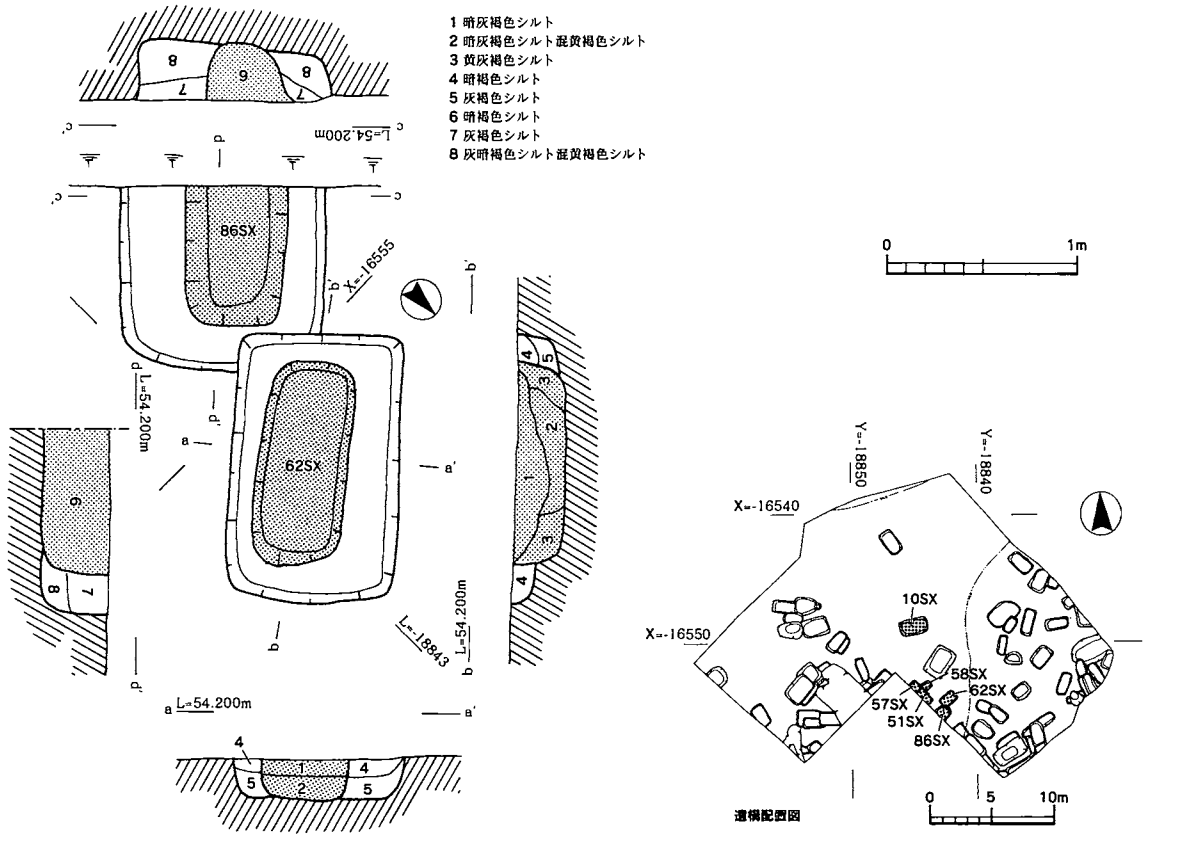


第Ⅲ-680図　46・19・36・14SX　平面・断面図(1/40)



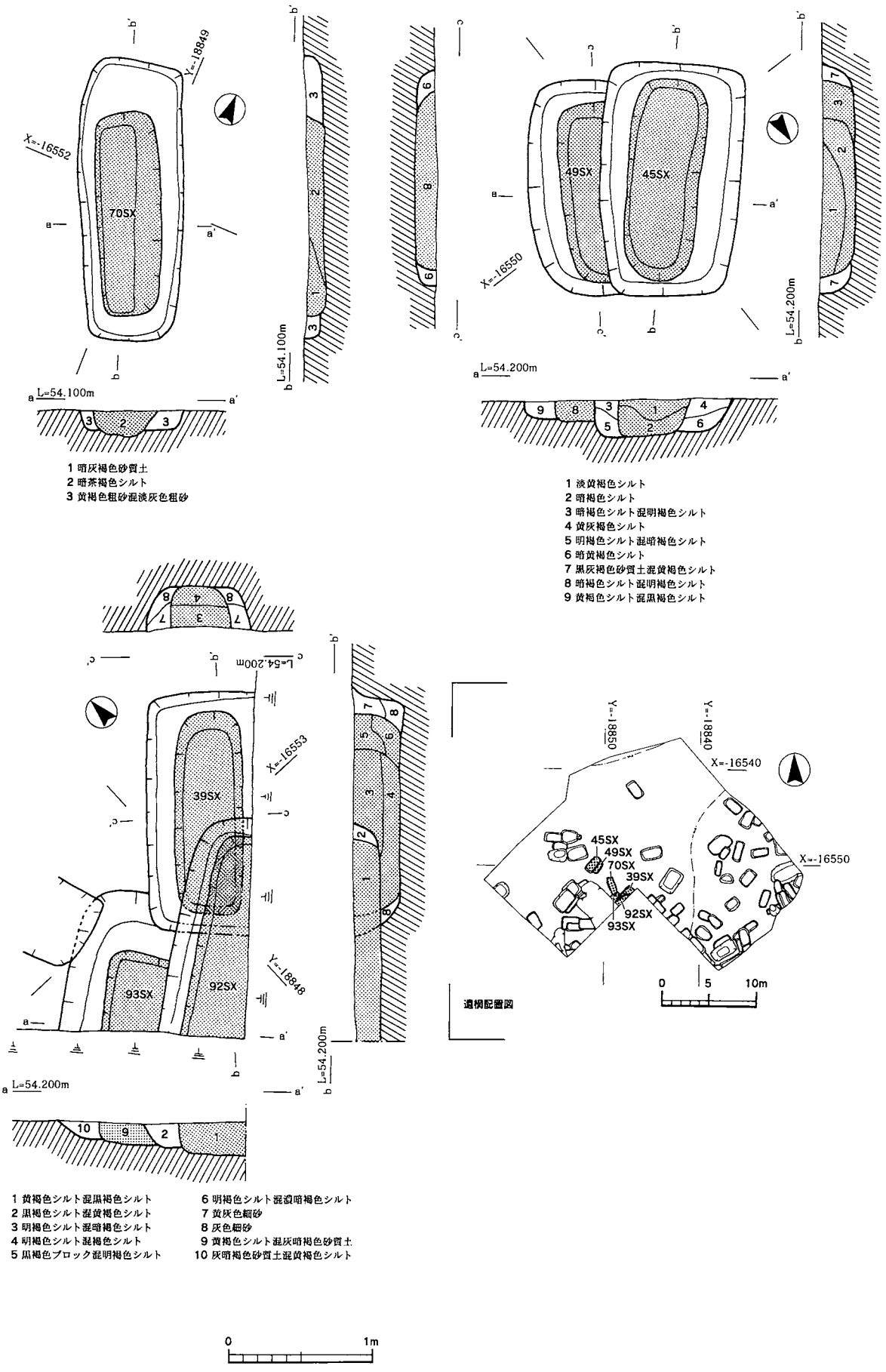
1 灰褐色砂質土
2 灰褐色シルト
3 暗灰褐色シルト
4 明黄褐色細砂混暗灰褐色シルト
5 暗灰褐色砂質土
6 灰褐色砂質土
7 灰褐色シルト混明黄褐色細砂
8 灰褐色シルト混黄褐色砂質土
9 暗褐色シルト
10 黄白色粘質土混暗褐色シルト
11 褐色シルト
12 暗褐色シルト混黄褐色シルト

1 暗褐色シルト
2 明黄褐色シルト混暗褐色シルト
3 黄褐色シルト混黒褐色シルト
4 明黄褐色砂質土混暗黄褐色砂質土
5 暗黄褐色砂質土
6 黒褐色ブロック混暗褐色シルト
7 黒褐色ブロック混暗黄褐色砂質土
8 黄褐色砂質土
9 灰黄褐色砂質土
10 明黄褐色シルト混暗黒褐色シルト

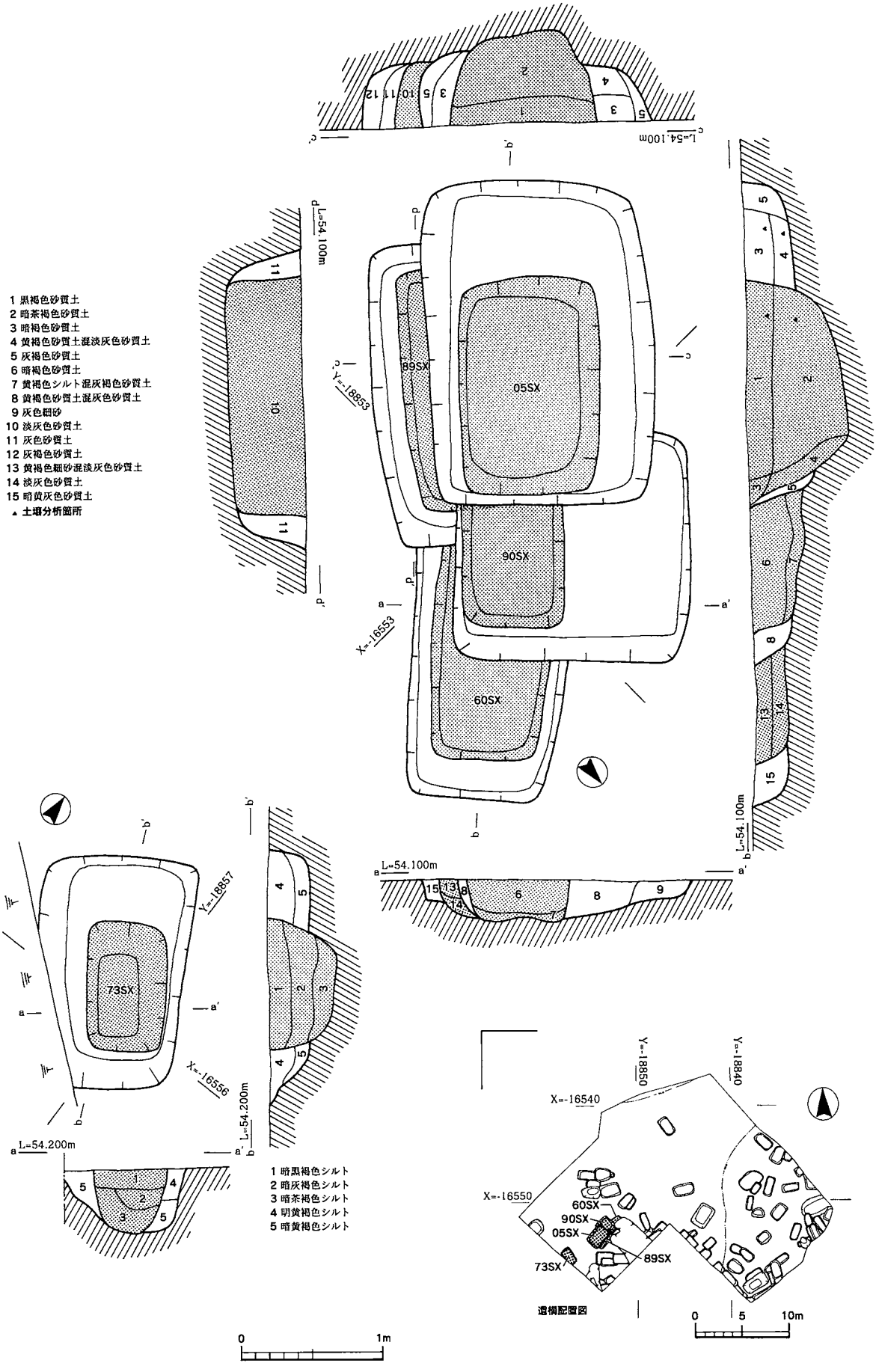


1 暗灰褐色シルト
2 暗灰褐色シルト混黄褐色シルト
3 黄灰褐色シルト
4 暗褐色シルト
5 灰褐色シルト
6 暗褐色シルト
7 灰褐色シルト
8 灰暗褐色シルト混黄褐色シルト

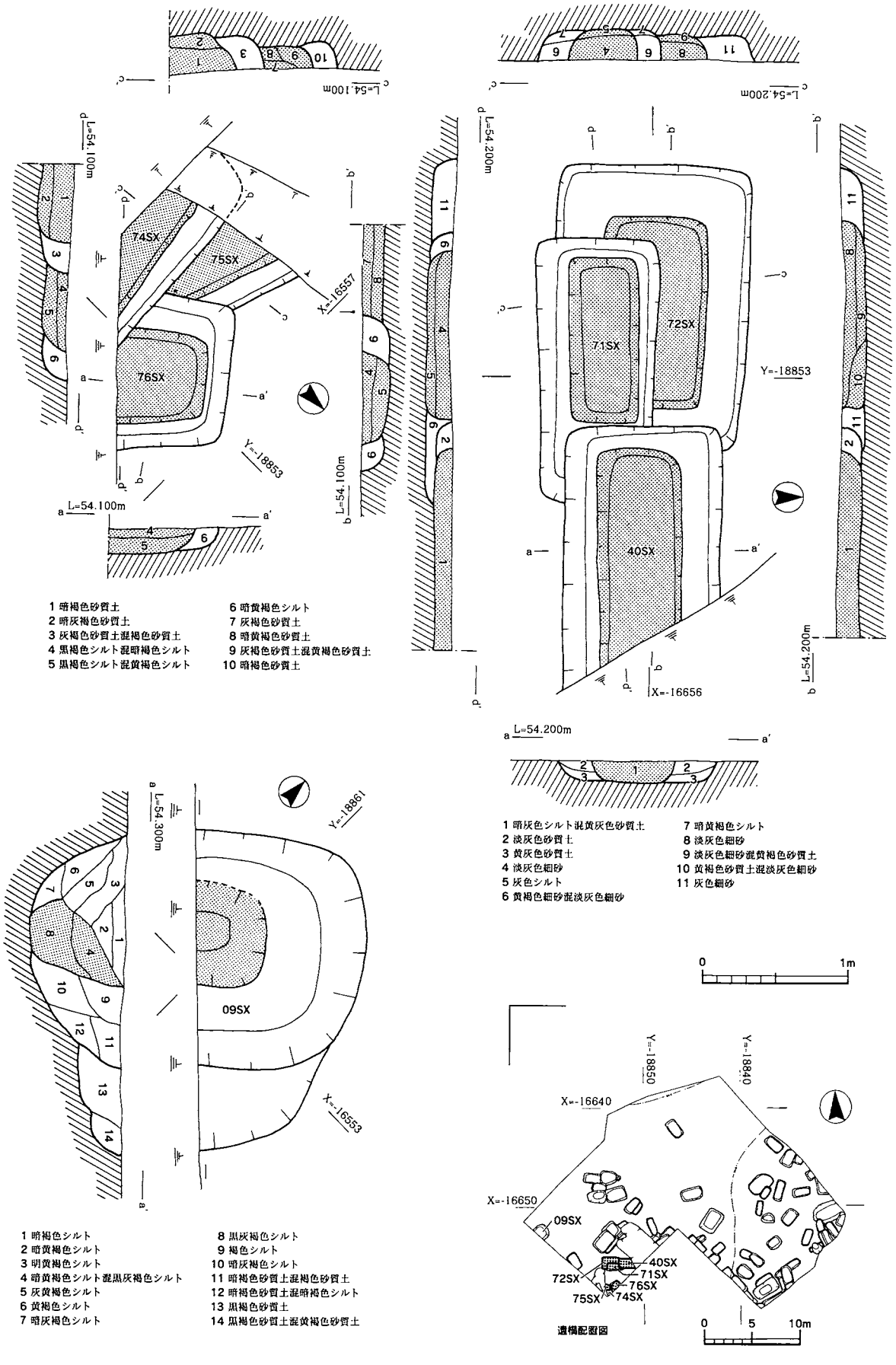
第Ⅲ-681図　58・51・57・10・86・62SX　平面・断面図(1/40)



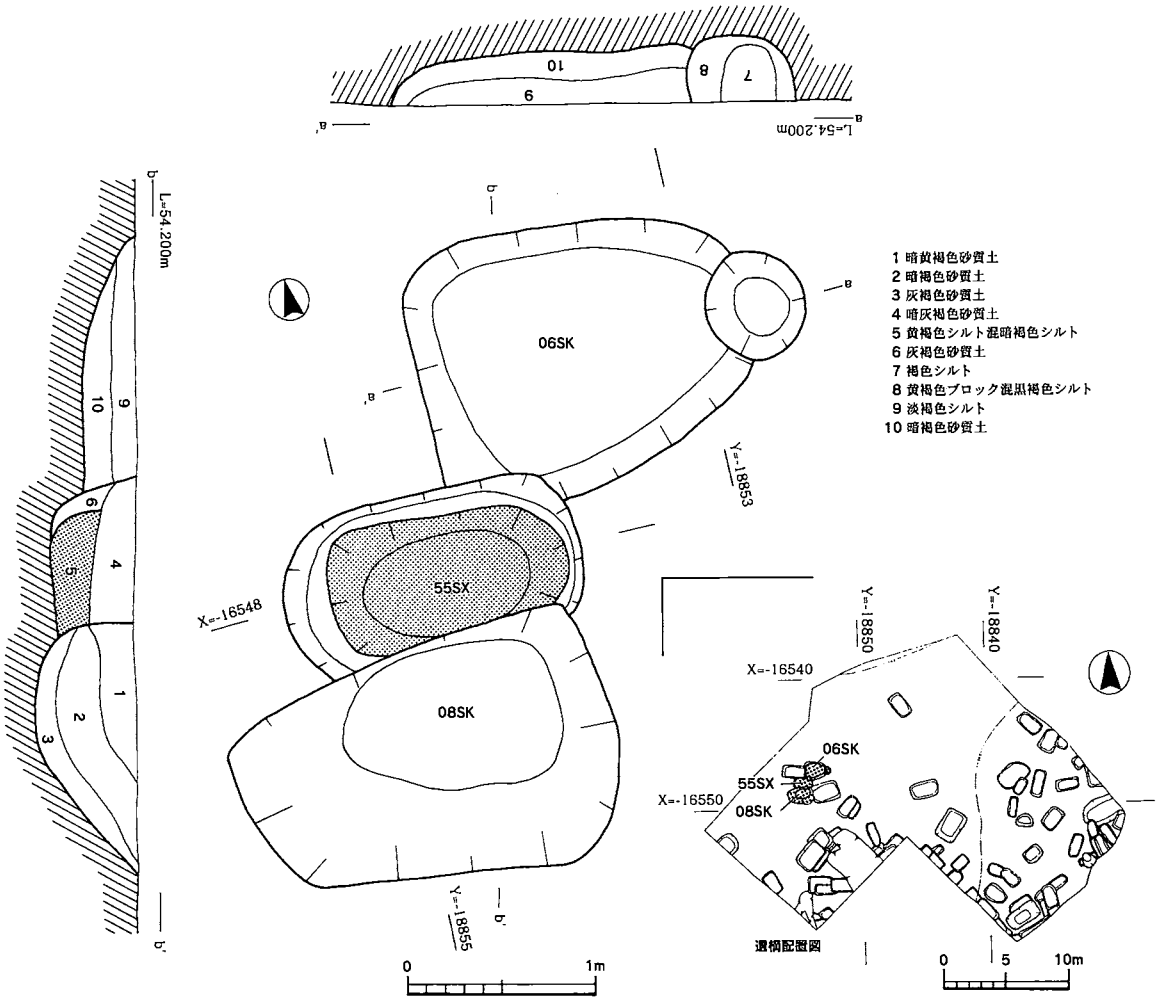
第Ⅲ-682図　70·45·49·92·39·93SX　平面·断面図(1/40)



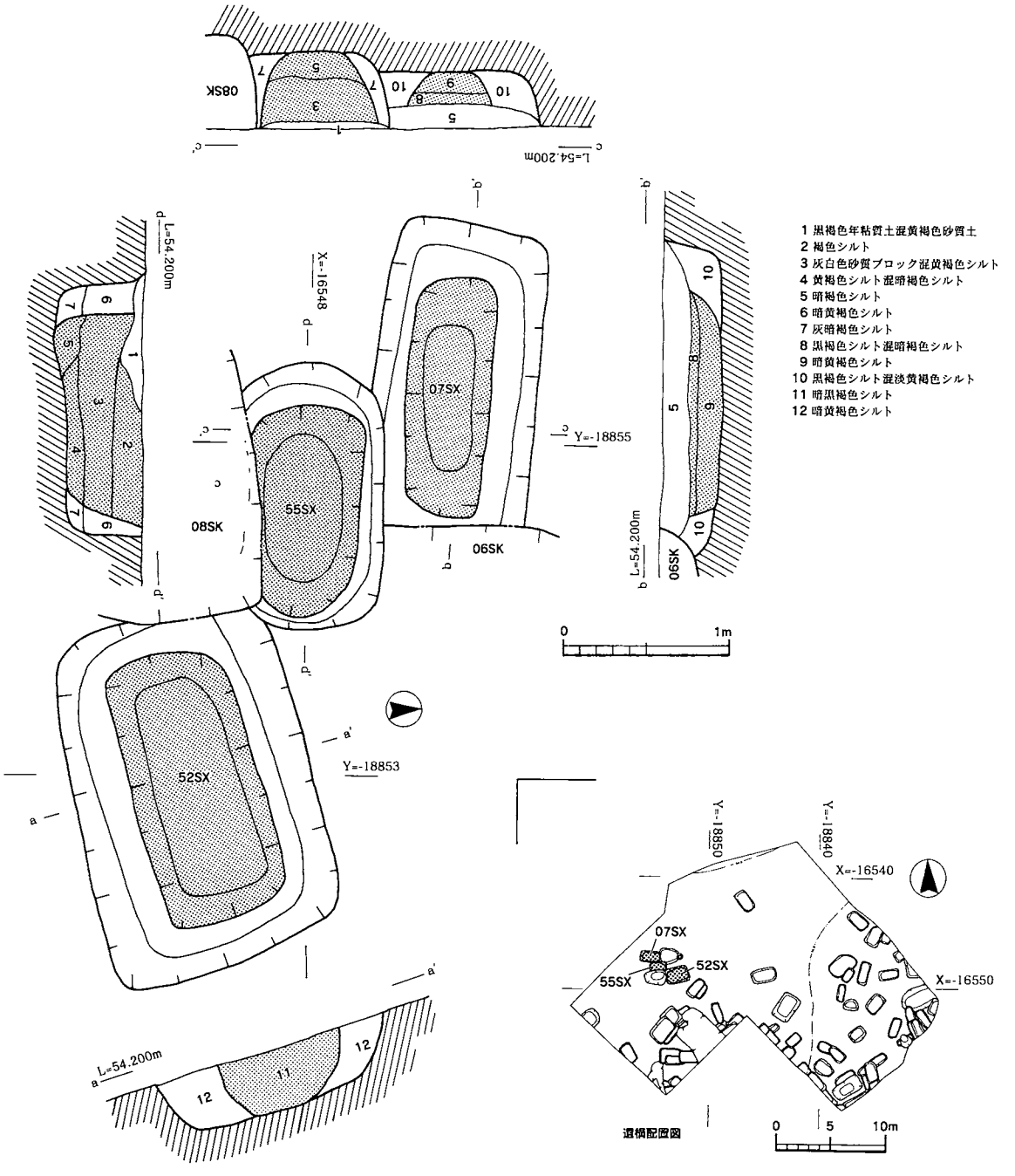
第Ⅲ-683図　60・89・90・05・73SX　平面・断面図(1/40)



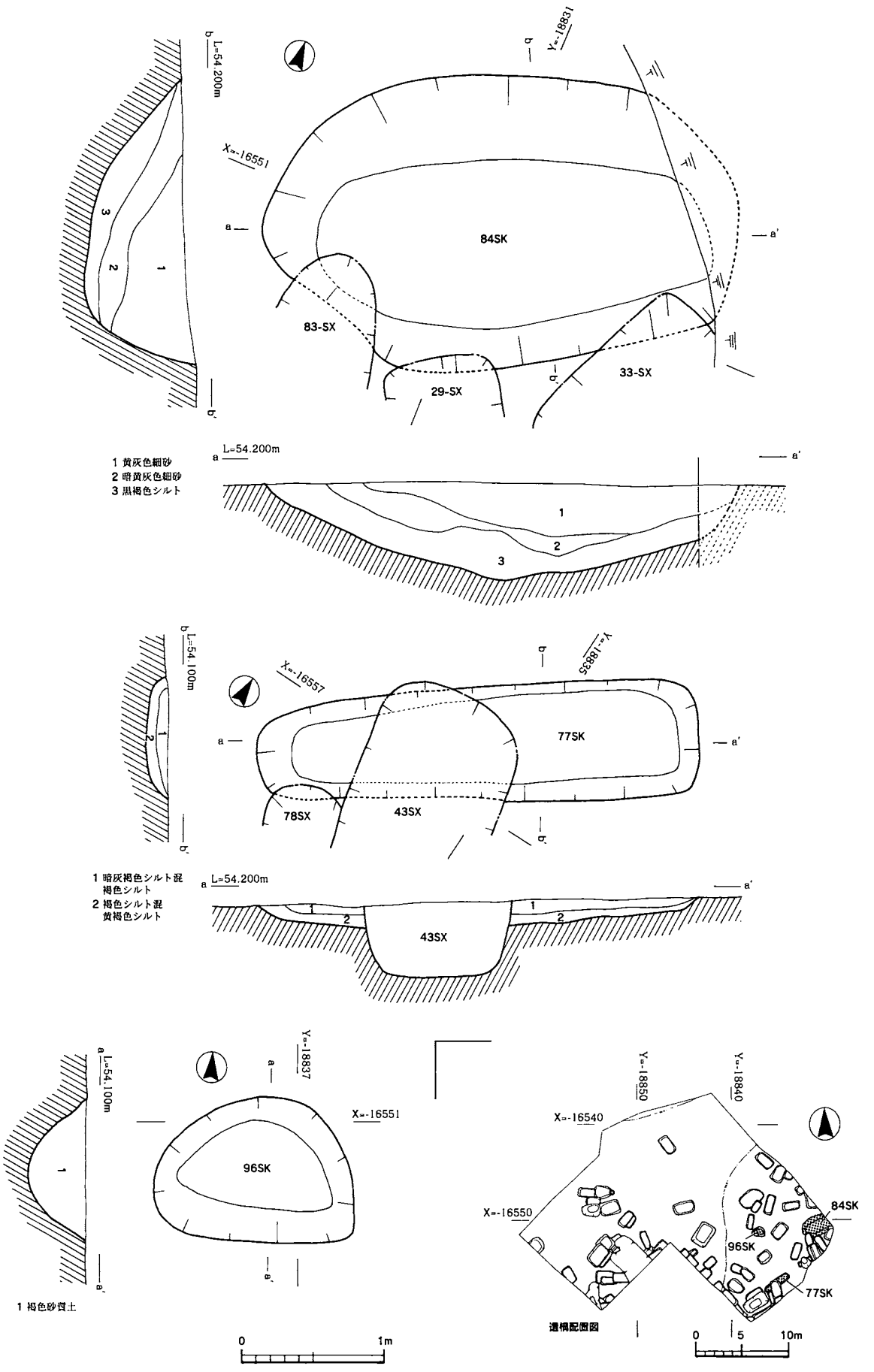
第Ⅲ-684図　75・76・74・72・71・40・09SX　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-685図　06・08SK・55SX　平面・断面図(1/40)



第Ⅲ-686図　55·07·52SX　平面·断面図(1/40)



第Ⅲ-687図　84・77・96SK　平面・断面図(1/40)

イ.土壙（墓）の調査

84SK（第Ⅲ-687図）

位置　遺跡北東部（九電新 No.61 調査区の東部）に位置する。

形態　幅約 200 ㎝、長さ 300 ㎝以上の土坑もしくは溝と推定できる。埋土がレンズ状堆積のため、土坑の可能性が高い。断面の形状はU字状を呈し、埋土は 3 層に分けられる。木棺の痕跡はない。

77SK（第Ⅲ -687 図）

位置　遺跡北東部（九電新 No.61 調査区の南東部）に位置する。

形態　幅約 80 ㎝、長さ 310 ㎝の土坑である。断面の形状はU字状を呈し、埋土は 2 層に分けられる。木棺の痕跡はない。

96SK（第Ⅲ-687図）

位置　遺跡北東部（九電新 No.61 調査区の東部）に位置する。

形態　幅約 140 ㎝、長さ 100 ㎝の土坑である。断面の形状はV字状に近いU字状を呈する。埋土は 3 層に分けられる。木棺の痕跡はない。

まとめ　84SK、77SK、96SK ともに断面はU字状を呈する。断面に木棺や再掘削の痕跡を持たない。遺物の出土状況もほとんどなく、流れ込みの細片のみである。周りの遺構出土状況から見ても墓域に当たる可能性が高く、上記の 3 基の遺構は、土壙墓の可能性が高い。

④九電鉄塔仮No.61調査区の調査（PL.16）

ア.木棺墓

07SX（第Ⅲ-688図）

位置　遺跡北東部（九電仮 No.61 調査区の北部）に位置する。

形態　主軸方向は、N-30°-E で、掘り方は隅丸方形を呈し、長軸 140c m、短軸 90 ㎝以上を測る。木棺部は、長軸 105 ㎝、短軸 60 ㎝と推定される。深さ約 30 ㎝である。断面の形状が凹字状を呈する。

09SX（第Ⅲ -688 図）

位置　遺跡北東部（九電仮 No.61 調査区の北部）に位置する。

形態　主軸方向は、N-20°-E で、掘り方は隅丸方形を呈し、長軸 120 ㎝、短軸 60 ㎝以上を測る。木棺部は、長軸 85 ㎝、短軸 25 ㎝と推定される。深さ約 25 ㎝である。断面の形状が凹字状を呈する。

イ.土壙（墓）

01SK（第Ⅲ-688図）

主軸方向は、ほぼ南北方向で、方形を呈する。断面形状から木棺墓の可能性がある。深さ 40 ㎝である。

06SK（第Ⅲ-688図）

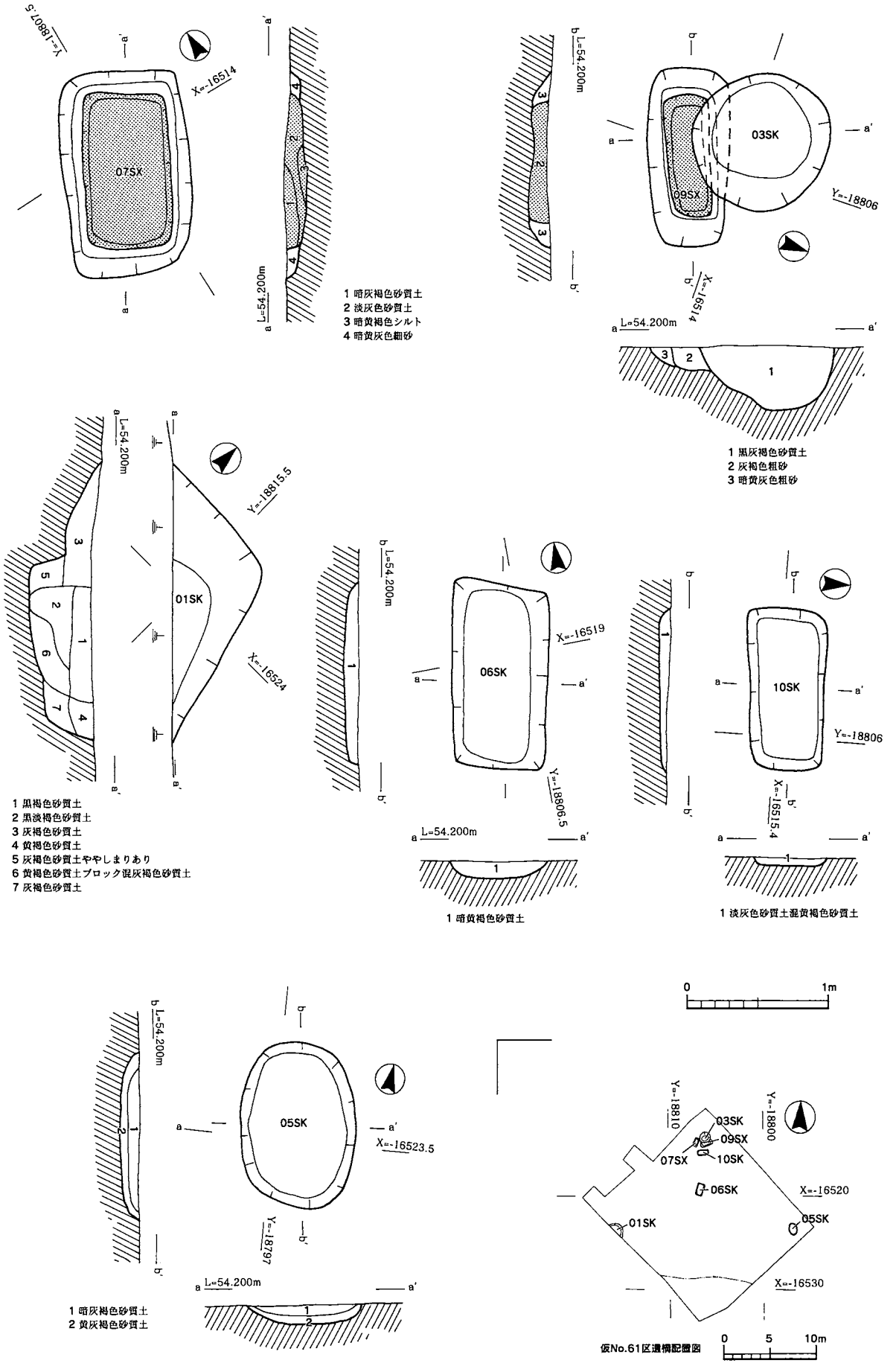
底面の標高は、約 53.9 m で 主軸方向は、N-10°-E で、掘り方は隅丸方形を呈し、長軸 110 ㎝、短軸 70 ㎝、検出した深さ約 20 ㎝を測る。断面の形状がU字状を呈する。

10SK （第Ⅲ-688図）

底面の標高は、約 54.0 m で、主軸方向は、ほぼ東西方向である。隅丸方形を呈し、長軸 110 ㎝、短軸 60 ㎝、検出した深さ 5 ㎝を測る。

05SK（第Ⅲ-688図）

底面の標高は、約 53.9m である。主軸方向は、N-7°-W である。掘り方は楕円形を呈し、長軸 115 ㎝、短軸 0.8 m以上を測る。検出した深さは、12 ㎝で埋土は 2 層である。断面の形状がU字状を呈する。

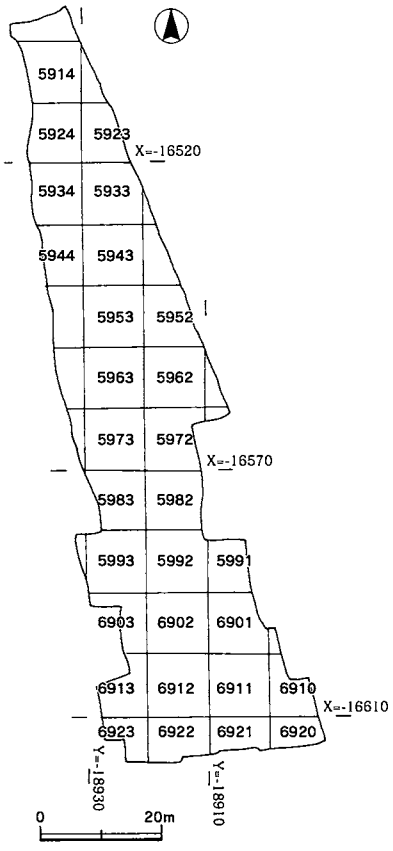


第Ⅲ-688図　仮No.61調査区07・09SX、03・01・06・10・05SK　平面・断面図(1/40)

挿図番号	遺構番号	小地区グリット	主軸方位	底面標高(m)	平面形態	断面形態	底面積(㎡)(残存面積)	掘り方長軸(m)(木棺部長軸)	掘り方短軸(m)(木棺部短軸)	掘り方深さ(cm)(木棺部深さ)	掘り方層数(木棺部埋土)	特記事項	主軸方位分類
第Ⅲ-674図	85SX	5864d	N-57° -E	53.7	Ⅱ	B	(0.41)	2.04(1.6)	0.6(0.4)	17.0(17.0)	1層(1層)		D
第Ⅲ-674図	41SX	5864d	N-55° -E	53.3	Ⅰ	A	0.44	2.65(1.2)	1.37(0.67)	44.0(64.0)	3層(3層)		D
第Ⅲ-674図	44SX	5874a	N-75° -E	53.6	Ⅳ	C	(0.09)	不明	不明	62.0(52.0)	2層(4層)		D
第Ⅲ-674図	53SX	5864d.5874a	N-55° -E	53.6	Ⅰ	C	(0.19)	不明	不明	47.0(40.0)	4層(1層)		D
第Ⅲ-674図	87SX	5864c.d	N-30° -W	53.8	Ⅳ	B	(0.12)	0.5以上(0.5以上)	1.02(0.65)	32.0(40.0)	1層(1層)		C
第Ⅲ-674図	78SX	5864d	N-26° -W	53.8	Ⅰ	B	(0.29)	1.5以上(1.3以上)	0.52(0.36)	22.0(22.0)	1層(1層)		C
第Ⅲ-674図	43SX	5864c.d	N-15° -W	53.6	Ⅱ	A	0.48	1.85(1.19)	1.07(0.6)	40.0(50.0)	3層(3層)		C
第Ⅲ-675図	30SX	5864b	N-30° -E	53.9	Ⅰ	B	0.34	1.9(1.2)	0.9(0.5)	20.0(15.0)	1層(1層)		B
第Ⅲ-675図	33SX	5863a	N-62° -W	53.6	Ⅱ	C	(0.14)	0.6以上(0.4以上)	1.45(0.72)	48.0(48.0)	2層(2層)		B
第Ⅲ-675図	83SX	5864b	N-12° -W	53.7	Ⅲ	B	(0.32)	1.4以上(1.2以上)	0.79(0.5)	30.0(25.0)	2層(4層)		C
第Ⅲ-675図	81SX	5864b	N-63° -E	53.8	Ⅰ	B	(0.07)	1.5以上(1.4以上)	0.6(0.34)	26.0(26.0)	1層(1層)		D
第Ⅲ-675図	17SX	5864b	N-25° -W	53.7	Ⅰ	B	(0.05)	1.6以上(1.5以上)	0.7以上(0.3以上)	28.0(30.0)	2層(1層)		C
第Ⅲ-675図	80SX	5864b	N-22° -W	53.7	Ⅰ	B	(0.29)	1.5以上(1.3以上)	0.77(0.4)	30.0(30.0)	2層(2層)		C
第Ⅲ-675図	29SX	5864b	N-31° -W	53.8	Ⅰ	B	(0.36)	1.7以上(1.5以上)	0.8(0.5)	27.0(27.0)	1層(1層)		C
第Ⅲ-676図	28SX	5854a	N-49° -W	53.7	Ⅱ	B	0.39	1.94(1.53)	1.11(0.57)	18.0(18.0)	1層(1層)		C´
第Ⅲ-676図	50SX	5864a.b	N-34° -E	53.7	Ⅱ	A	0.28	1.8(1.05)	1.2(0.63)	20.0(30.0)	1層(1層)		D´
第Ⅲ-676図	38SX	5854c	N-78° -E	53.8	Ⅰ	B	0.44	1.8(1.39)	0.9(0.56)	18.0(18.0)	1層(1層)		A
第Ⅲ-676図	16SX	5854a.b.c.d	N-27° -E	53.8	Ⅱ	B	0.63	1.81(1.3)	1.26(0.64)	20.0(20.0)	1層(1層)		B
第Ⅲ-676図	95SX	5854b.c	N-25° -E	53.6	Ⅱ	B	(0.08)	0.9以上(0.6以上)	1.0(0.55)	50.0(50.0)	2層(2層)		B
第Ⅲ-677図	13SX	5854c	N-57° -E	52.8	Ⅱ	B	(0.12)	0.6以上(0.3以上)	0.95(0.62)	20.0(20.0)	2層(2層)		D
第Ⅲ-677図	56SX	5854c	N-82° -E	52.7	Ⅱ	C	(0.18)	0.8以上(0.5以上)	1.5以上(0.7)	40.0(40.0)	2層(3層)		C
第Ⅲ-678図	24SX	5864d.5874a	N-43° -E	53.6	Ⅰ	B	(0.11)	1.8以上(0.9以上)	0.4以上(0.3以上)	50.0(30.0)	1層(2層)		C´
第Ⅲ-678図	26SX	5865c	N-30° -W	53.5	Ⅱ	B	(0.3)	1.2以上(0.9以上)	0.8以上(0.6以上)	55.0(55.0)	1層(2層)		C´
第Ⅲ-678図	25SX	5864d.5865c	N-42° -W	53.5	Ⅱ	B	(0.32)	1.98(1.4)	0.6以上(0.4以上)	70.0(40.0)	1層(2層)		C´
第Ⅲ-678図	12SX	5864d.5865c	N-47° -W	53.5	Ⅳ	B	0.37	1.8(1.42)	1.34(0.67)	30.0(40.0)	1層(2層)		C´
第Ⅲ-678図	88SX	5864c	N-66° -E	53.8	Ⅳ	B	(0.26)	1.0(0.8)	0.94(0.64)	25.0(25.0)	1層(1層)		C´
第Ⅲ-678図	27SX	5864d	N-47° -W	53.7	Ⅱ	C	0.26	1.66(0.86)	0.96(0.59)	30.0(35.0)	2層(2層)		C´
第Ⅲ-679図	63SX	5854d	N-15° -E	53.8	Ⅰ	B	0.26	2.1(1.7)	0.9(0.4)	20.0(20.0)	2層(2層)		B
第Ⅲ-679図	47SX	5865b	N-37° -E	53.4	Ⅱ	B	0.75	2.5(1.5)	1.74(1.0)	50.0(50.0)	5層(5層)	土層を見てみると、木棺部と推定できる部分に、木材痕跡あり	D´
第Ⅲ-679図	23SX	5864a	N-50° -E	53.7	Ⅱ	B	0.38	1.46(1.01)	1.12(0.7)	36.0(36.0)	3層(3層)		D
第Ⅲ-680図	46SX	5854d	N-51° -E	53.6	Ⅱ	A	0.96	2.5(1.8)	1.7(0.84)	50.0(40.0)	2層(5層)		D
第Ⅲ-680図	19SX	5854d	N-33° -E	53.7	Ⅱ	B	0.34	1.34(1.0)	0.8(0.5)	35.0(35.0)	3層(4層)		B
第Ⅲ-680図	36SX	5854d.5864a	N-8° -E	53.9	Ⅰ	B	0.21	1.6(1.2)	0.64(0.34)	16.0(16.0)	1層(2層)		B
第Ⅲ-680図	14SX	5855a	N-33° -W	53.7	Ⅱ	B	0.63	1.96(1.48)	1.12(0.61)	30.0(32.0)	2層(5層)		C´
第Ⅲ-681図	58SX	5865b	N-48° -E	53.7	Ⅰ	B	(0.12)	0.8以上(0.7以上)	0.7(0.33)	34.0(34.0)	1層(3層)		D
第Ⅲ-681図	51SX	5865b	N-44° -W	53.6	Ⅱ	B	(0.42)	1.3以上(1.0以上)	0.6以上(0.5以上)	34.0(40.0)	1層(2層)		C´
第Ⅲ-681図	57SX	5865a.b	N-48° -E	53.5	Ⅱ	B	(0.18)	0.6(0.5以上)	0.94(0.6)	50.0(38.0)	3層(1層)		D
第Ⅲ-681図	10SX	5855c.d	N-75° -E	53.7	Ⅰ	A	0.65	2.25(1.55)	1.33(0.73)	39.0(39.0)	5層(5層)		A
第Ⅲ-681図	86SX	5865c	N-48° -E	53.7	Ⅱ	B	(0.18)	1.0(0.7以上)	1.09(0.54)	30.0(30.0)	2層(1層)		D
第Ⅲ-681図	62SX	5865b	N-51° -E	53.7	Ⅱ	B	0.37	1.4(1.1)	0.9(0.48)	20.0(20.0)	2層(3層)		D
第Ⅲ-682図	70SX	5865a	N-25° -W	53.8	Ⅰ	A	0.26	1.95(1.42)	0.76(0.46)	14.0(18.0)	1層(2層)		C
第Ⅲ-682図	49SX	5856c.5866b	N-27° -E	53.9	Ⅱ	B	(0.22)	1.5(1.26)	0.5以上(0.3以上)	12.0(15.0)	1層(1層)		D
第Ⅲ-682図	45SX	5856c.5866b	N-38° -E	53.8	Ⅱ	B	0.44	1.64(1.42)	1.0(0.52)	25.0(26.0)	5層(3層)		D
第Ⅲ-682図	93SX	5865a	N-55° -E	53.8	Ⅱ	B	(0.16)	1.0以上(0.6以上)	0.6以上(0.4以上)	14.0(14.0)	1層(1層)		D
第Ⅲ-682図	39SX	5865a	N-45° -E	53.7	Ⅱ	A	(0.26)	1.65(1.39)	0.7以上(0.46以上)	36.0(34.0)	2層(4層)		D
第Ⅲ-682図	92SX	5865a	N-53° -E	53.8	Ⅰ	B	(0.27)	1.5以上(1.1以上)	0.6以上(0.4以上)	16.0(22.0)	1層(1層)		D
第Ⅲ-683図	60SX	5866b	N-45° -E	53.8	Ⅱ	A	(0.5)	1.8以上(1.4以上)	1.1(0.82)	23.0(22.0)	1層(2層)		D
第Ⅲ-683図	89SX	5866b	N-39° -E	53.5	Ⅰ	B	(0.17)	2.14(1.7)	0.5以上(0.2以上)	51.0(51.0)	1層(1層)		D
第Ⅲ-683図	90SX	5866b	N-43° -E	53.7	Ⅱ	A	(0.47)	1.62(0.8以上)	1.66(0.74)	28.0(38.0)	1層(2層)		D
第Ⅲ-683図	05SX	5866a.b	N-46° -E	53.3	Ⅱ	A	1.02	2.26(1.53)	1.62(1.02)	46.0(62.0)	3層(4層)		D
第Ⅲ-683図	73SX	5866d	N-35° -W	53.6	Ⅱ	A	0.17	1.65(0.91)	1.07(0.57)	42.0(48.0)	2層(3層)		C´
第Ⅲ-684図	75SX	5866c	N-74° -W	53.8	Ⅳ	B	(0.14)	0.6以上(0.6以上)	0.6以上(0.5以上)	19.0(14.0)	1層(3層)		A
第Ⅲ-684図	76SX	5866c	N-42° -W	53.8	Ⅱ	B	(0.28)	0.7以上(0.5以上)	1.08(0.64)	18.0(18.0)	1層(2層)		C´
第Ⅲ-684図	74SX	5866c	N-85° -E	53.7	Ⅳ	B	(0.16)	1.0以上(0.7以上)	0.5以上(0.5以上)	22.0(24.0)	1層(2層)		A
第Ⅲ-684図	72SX	5866c	N-86° -W	53.8	Ⅱ	B	(0.38)	1.94(1.34)	1.36(0.72)	14.0(16.0)	1層(3層)		A
第Ⅲ-684図	71SX	5866c	N-89° -W	53.8	Ⅰ	B	0.28	1.82(1.14)	0.82(0.49)	18.0(16.0)	1層(2層)		A
第Ⅲ-684図	40SX	5866c	N-90° -W	53.9	Ⅰ	B	(0.59)	1.8以上(1.5以上)	1.09(0.58)	15.0(15.0)	2層(1層)		A
第Ⅲ-684図	09SX	5867b	N-48° -E	53.5	Ⅳ	A	(0.07)	1.2以上(0.6以上)	1.62(0.7)	66.0(66.0)	2層(10層)		D
第Ⅲ-685図	08SK	5856c.d	N-86° -W	53.7	Ⅰ	B	0.7	2.06(1.18)	1.2(0.75)	54.0(54.0)	1層(3層)		A
第Ⅲ-685図	06SK	5856c	N-89° -E	53.8	Ⅳ	B	1.35	2.18(1.66)	1.46(1.08)	30.0(30.0)	1層(2層)		A
第Ⅲ-685図	55SX	5856c.d	N-88° -W	53.6	Ⅳ	B	(0.45)	1.6(1.28)	0.8以上(0.6以上)	45.0(22.0)	2層(1層)		A

木棺墓の形態　掘り方の平面形態　＊楕円形に近い隅丸長方形（Ⅰ）　＊隅丸方形（Ⅱ）　＊長楕円形（Ⅲ）　＊その他（Ⅳ）
掘り方の断面形態　＊二段の彫り込みを持つ（A）　＊段を持たないもの（B）　＊その他（C）
主軸方位分類は第Ⅴ-16図による

表２　九電鉄塔新No.61調査区木棺墓法量表



第Ⅲ-689図　2区グリッド分割図
(1/1200)

(7) 遺物包含層・撹乱の遺物

①2区・東西水路調査区の土器

ア.2区遺物包含層の遺物

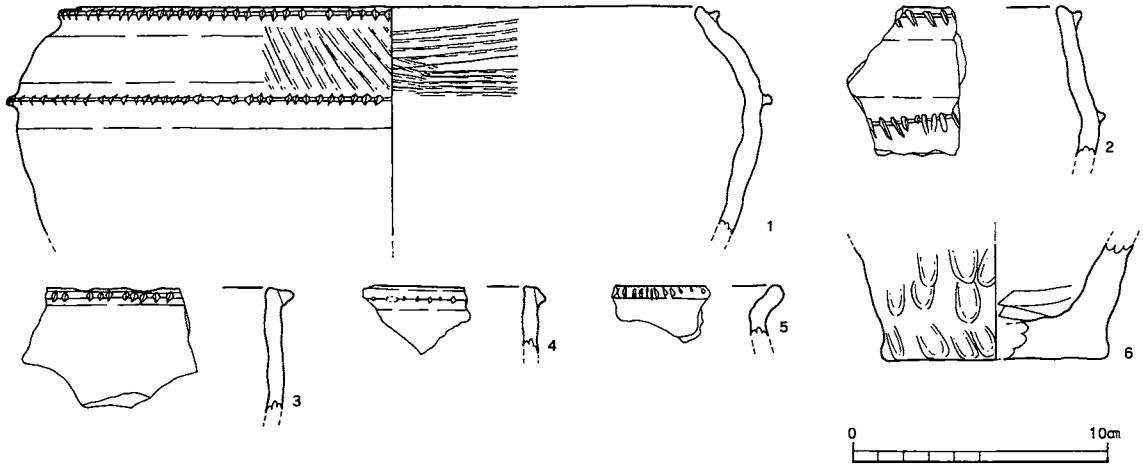
(a) 突帯文土器（第Ⅲ-690図PL.36）

1は、口縁端部よりやや下がった位置と胴部に反時計回りに施文した2条の刻み目突帯文を持つ。口縁部は内傾する。口縁部付近の外面に横ナデ調整を行っているものの、左上がりの条痕文、内面に横方向の条痕文を顕著に残す。1160SI出土土器（第Ⅲ-422図1）が類似する形態を持つ。九電調査No.82調査区08SI出土土器（第Ⅲ-480図4）は、内外面にナデ調整を施すものの、形態的には類似する。

2は、1と同様に2条の突帯文を持つもので、口縁部が内傾からやや直立すると推定できるものである。刻み目が鋭利な工具で施されていると推定でき、刻み目の長さが6mmも残存する部位があり、刻み目幅も狭いことを特徴とする。縦方向に工具を当てたと推定できる。

3は、口縁部が直行し、刻み目をほぼ口縁端部に貼り付けている。内外面はナデ調整である。1135SX出土土器（第Ⅲ-661図1）が類似した形態を持つ。4は、3と類似するが、突帯の断面がほぼ三角形状を呈することが特徴で、刻み目が小さく施されている。

2区の弥生時代竪穴住居からも突帯文土器が出土しているが、住居埋土の項でレイアウトして提示している。以下に列記する。参考にされたい。129SI（第Ⅲ-399図1）、1135SX（第Ⅲ-661図1）、1105SI（第Ⅲ-361図12・13）、1172SI（第Ⅲ-346図8）、272SI（第Ⅲ-226図5）、1173SI（第Ⅲ-352図7）、1026SK（第Ⅲ-548図2）等である。



第Ⅲ-690図　2区遺物包含層出土夜臼式～板付式土器実測図(1/3)

(b) 弥生土器（第Ⅲ-691図、PL.36）

包含層出土土器の傾向を概説する。5973・5983 Gに５～６期に推定される高坏５個体、袋状口縁壷等が出土している。また、5952・5953・5943・5942 Gから３～４期に相当する甕が顕著に出土している。その他、袋状口縁壷は6923・6911・5993 Gから出土している。

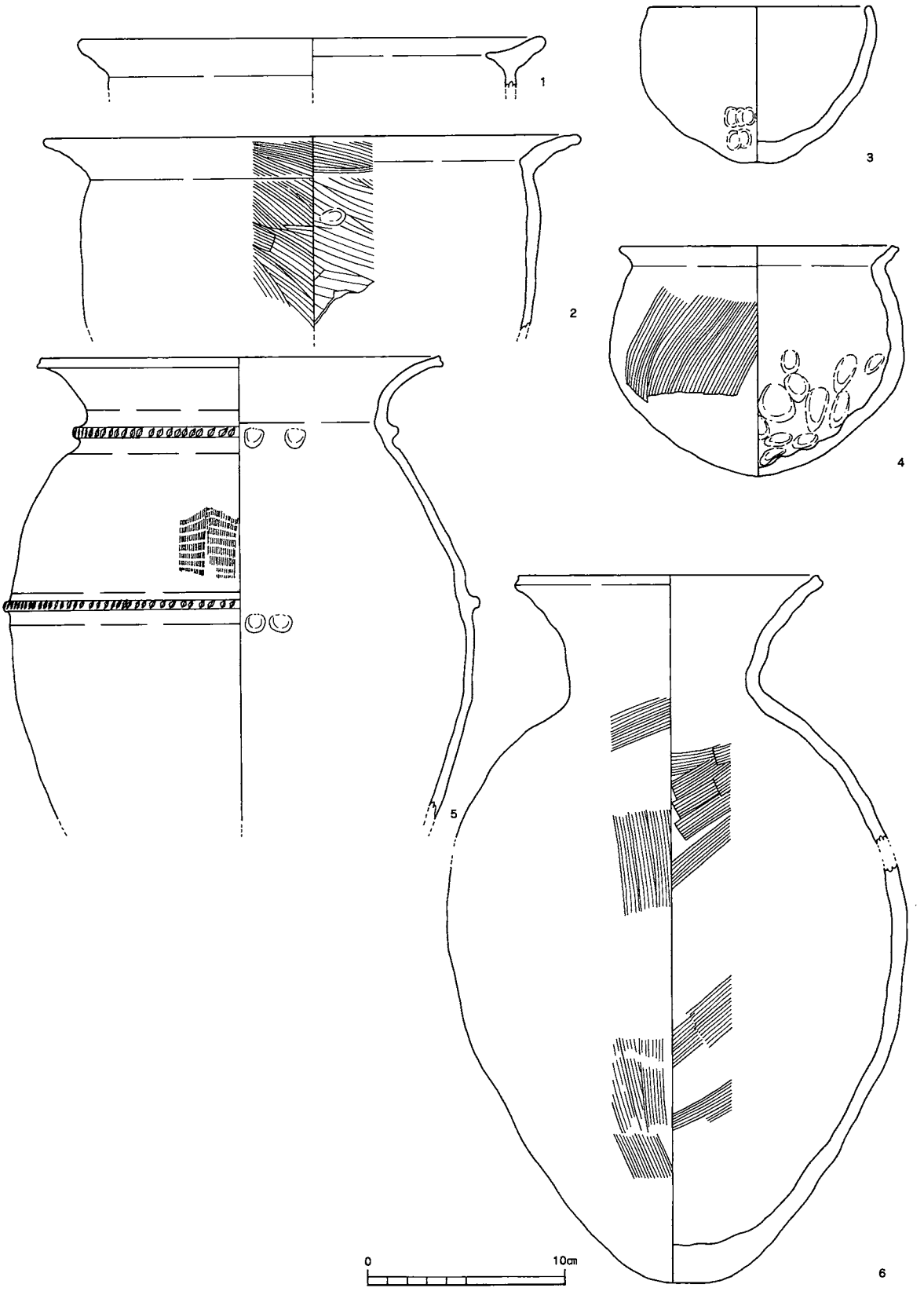
実測図は、特徴的なものや器形が復元できるものを一部提示した。２は口縁部が外反しながらも「く」の字になるもので、口縁部の器壁の厚さが7mmと厚みがある器形である。

３は、無頸壺（鉢）で底部が顕著でなく、ほぼ丸底である。胴部下半外面に顕著な指ナデを施す。

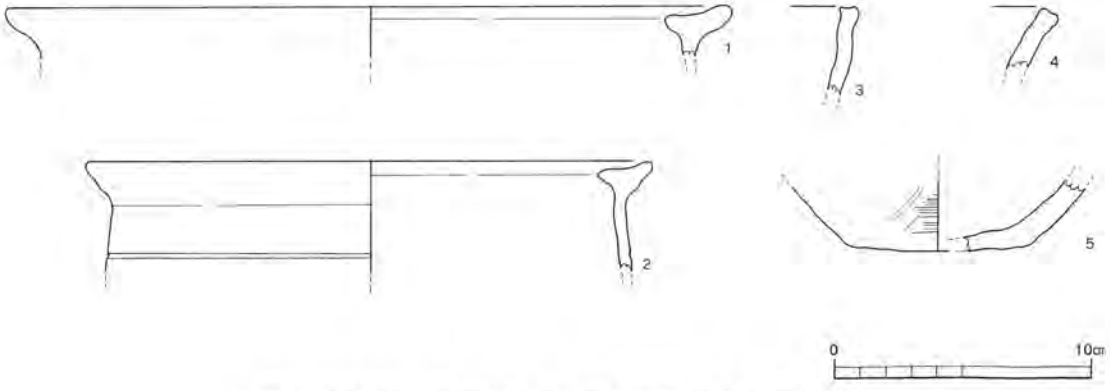
４は、壺で、やや外反する約1.5㎝の長さの短い口縁部が付く。底部は丸底からやや尖底である。胴部上半に右上がりのハケ目を施す。底部から胴部下半内面に指ナデが４～５段に残存する。

５は、壺で頸部と胴部最大径に刻み目突帯文を貼り付けている。口縁部は端部を押さえており、平坦面を持つ。胴部は１次調整タテハケで、２次調整は、ナデ調整を丁寧に施している。５（～6A期）に位置づけると考えられる。（第Ⅵ章参照）

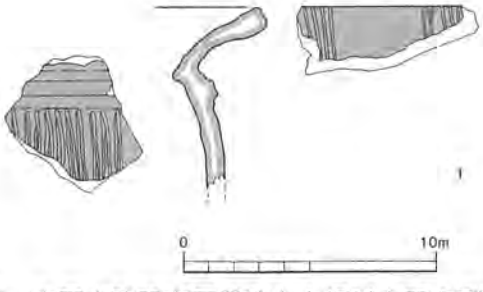
６は、壺で口縁部が大きく外反する。口縁端部は平坦面を持つ。胴部最大径を胴部上半に持つ。底部は、丸みを帯び、丸底に近い。底部の厚みは1.8㎝と厚みがある。内外面は、ハケが遺存するが、丁寧になでている。



第Ⅲ-691図　2区遺物包含層出土弥生土器実測図(1/3)



第Ⅲ-692図　東西水路E地区出土土器実測図(1/3)

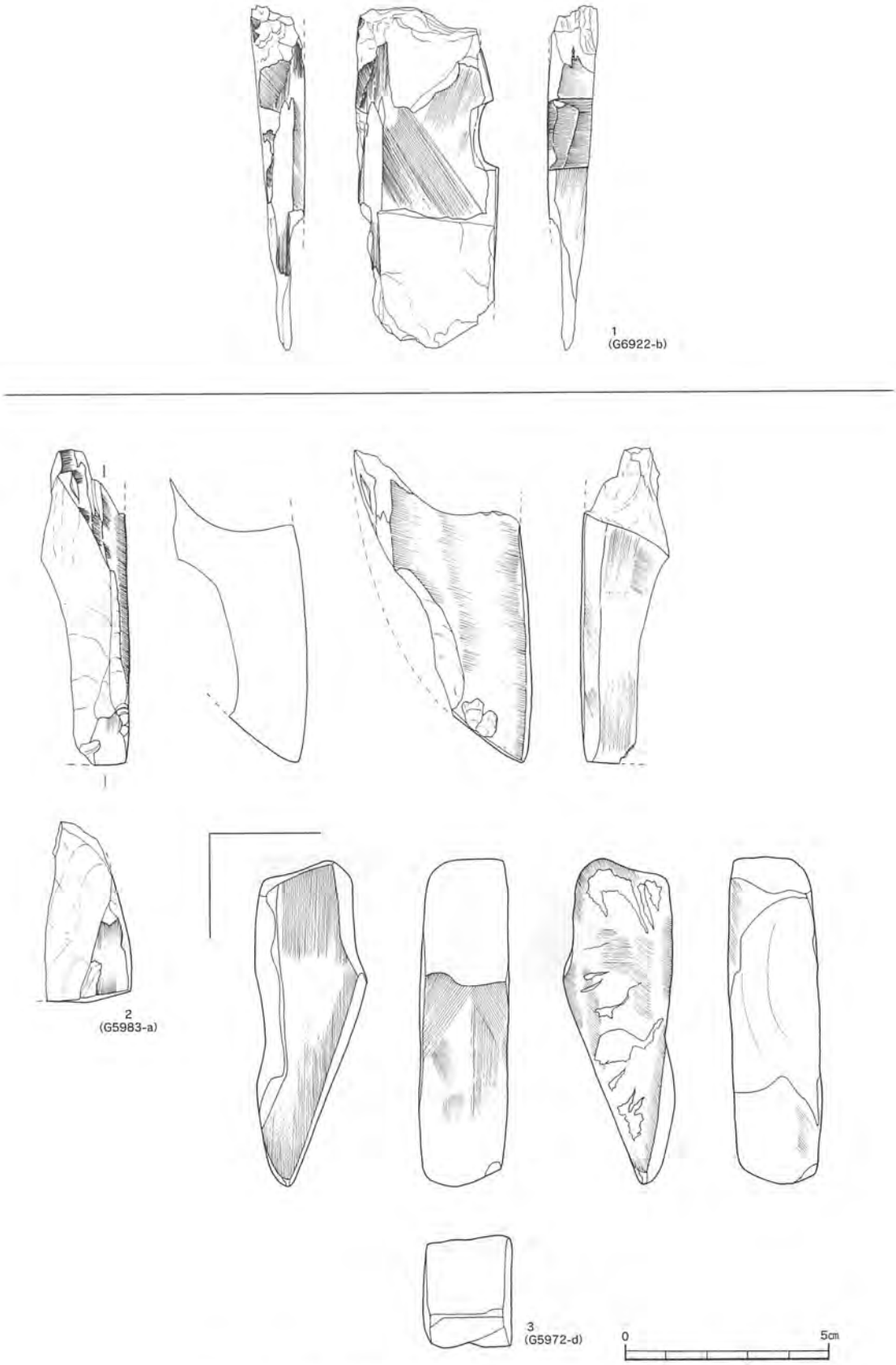


第Ⅲ-693図　東西水路調査区撹乱出土顔料土器実測図(1/3)

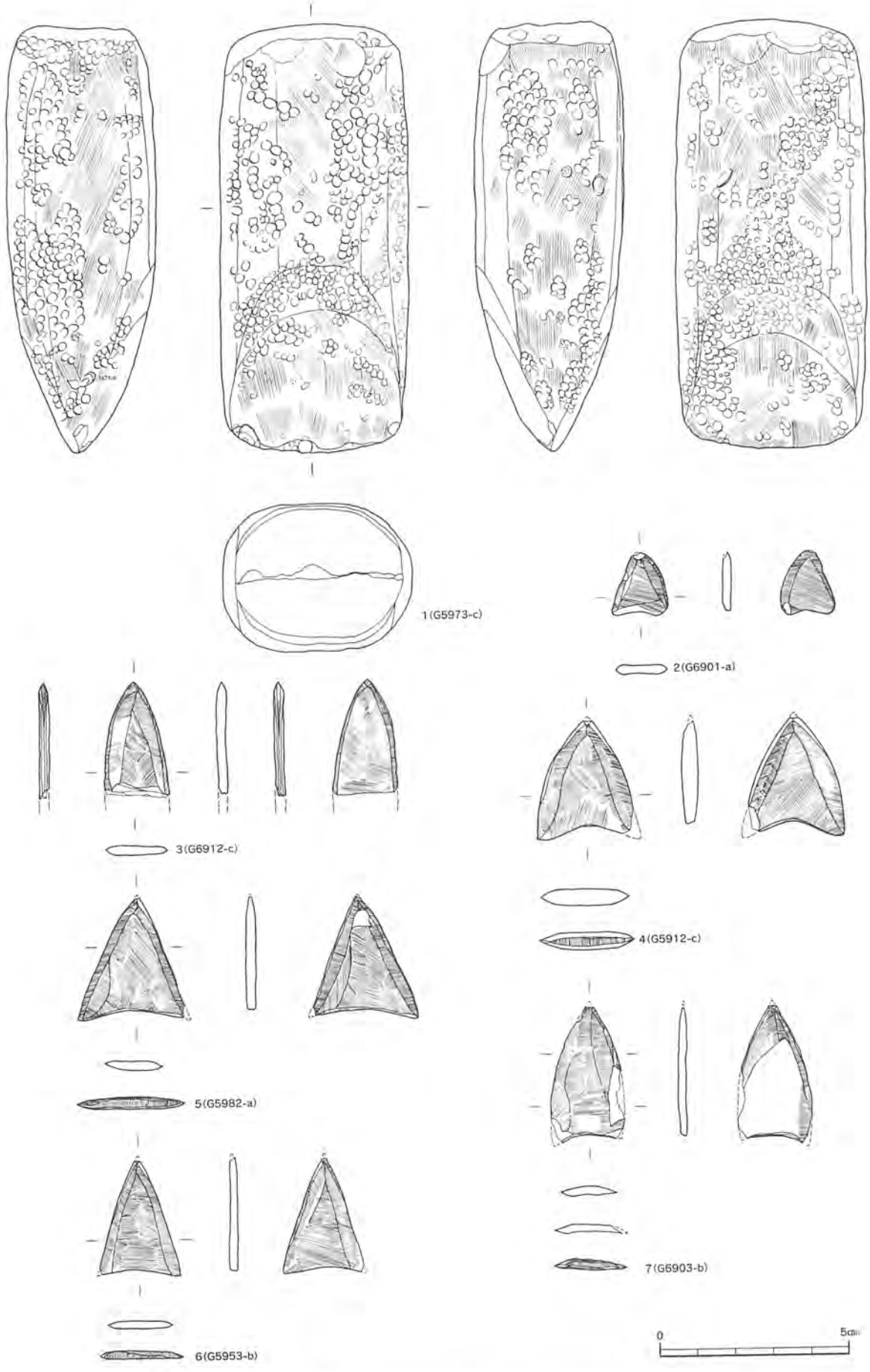
イ.東西水路E地区遺物包含層の遺物（第Ⅲ-487図、第Ⅲ-692図）

東西水路調査区のうち、県道益城菊陽線の高架部分にすり付く水路にかかる橋部分（第Ⅲ-487図参照）の遺物包含層出土土器である。掘削深度が遺構面まで及ばなかったため、遺物包含層の一部を調査した。その出土土器が、第Ⅲ-692図である。

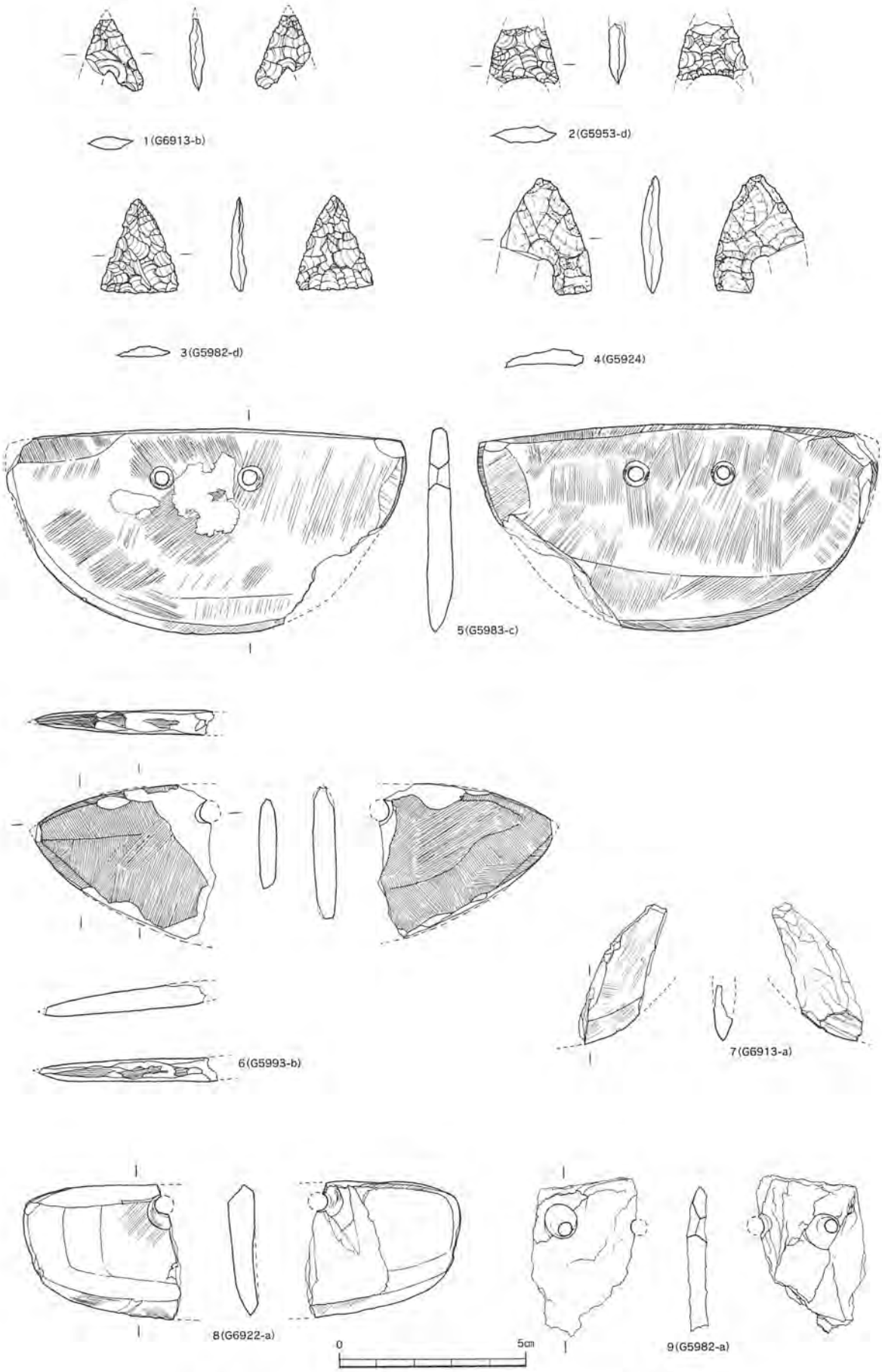
また、東西水路調査区から赤色顔料を施した土器も出土している。（第Ⅲ-693図）口縁部が「く」の字形に外反するもので、口縁部内面に5条以上を1単位とするヘラ描の暗文を施す。胴部外面上半にも暗文を丁寧に施している。



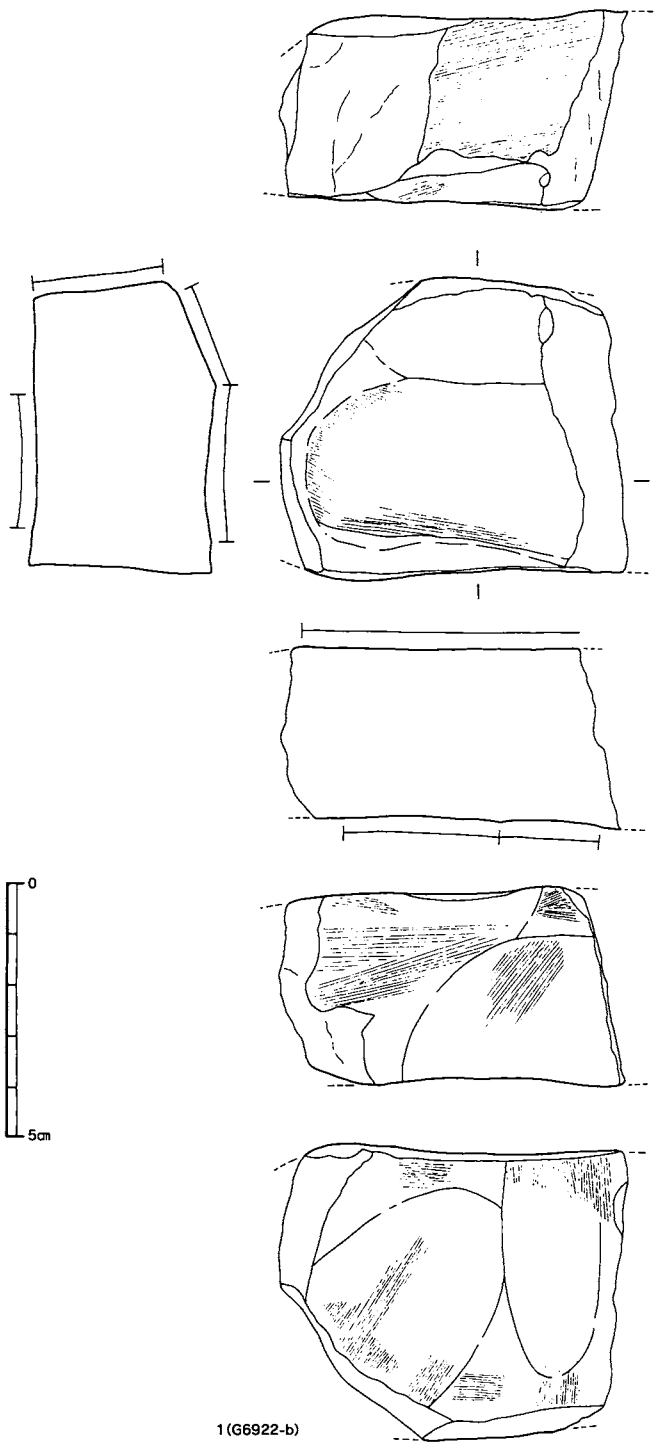
第Ⅲ-694図　2区遺物包含層出土石器実測図1(2/3)



第Ⅲ-695図　2区遺物包含層出土石器実測図2(2/3)



第Ⅲ-696図　2区遺物包含層出土石器実測図3(2/3)



第Ⅲ-697図　2区遺物包含層出土石器実測図4(2/3)

② 2区の石器

ア.2区遺物包含層の遺物

a.磨製石斧（第Ⅲ-694図、第Ⅲ-695図、PL.44）

（第Ⅲ-694図）

1は、凝灰岩質頁岩を石材とする抉入片刃石斧で、抉部の一部が残存する。抉部は横方向に丁寧に研磨している。側面ほかは斜め方向や縦・横方向等不定方向に研磨している。2は、硬砂岩製の片刃石斧で刃部の一部のみ残存する。側面は刃部に平行に研磨している。形態から抉入片刃石斧の可能性が高い。3は、砂岩製の片刃石斧で研磨痕を残す。左側面は刃部に平行して4段、右側面は刃部に直交して研磨している。上面は不定方向に研磨している。砥石に転用された可能性もある。

（第Ⅲ-695図）

1は、輝石安山岩、カンラン石製の太形蛤刃石斧で長さ1.5㎝程の断続的な研磨痕跡を持つ。製作時の敲打痕を顕著に残す。

b.磨製石鏃（第Ⅲ-695図、PL.45）

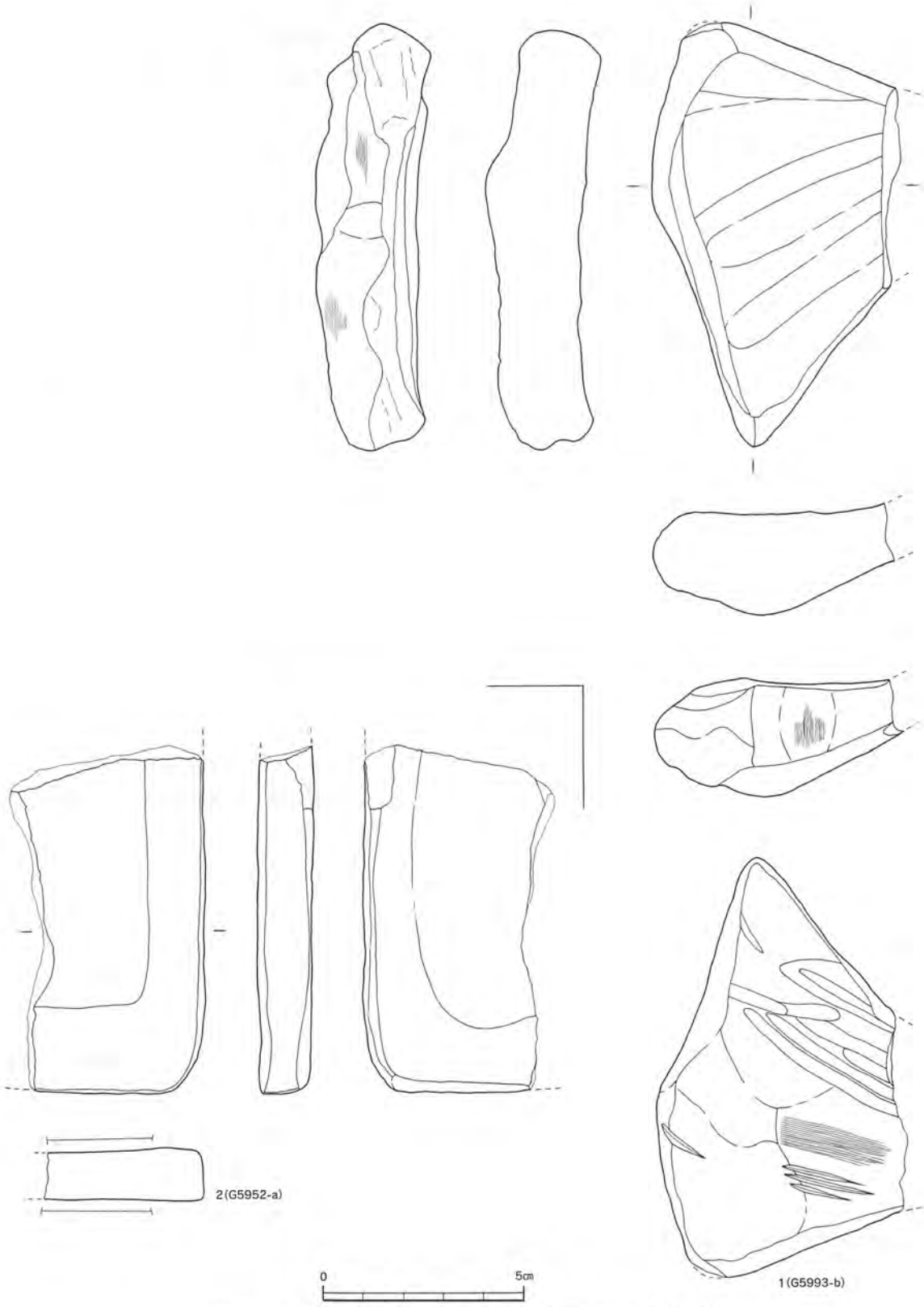
2は、全長1.7㎝と小型で左右非対称である。欠損した磨製石鏃を研磨して再利用したか、製作途中と考えられる。基部は凹状を呈する。4・7は、刃部の角度が曲線を描く。5・6は、刃部が直線的につく。3・7の刃部の付け方は、1mm程の範囲に刃の方向研磨により施す。4・6は、4.5～6㎝と刃部の幅が広い。全長/幅の値は、4・5は1に近いが、6は1.5、3・7は、約2で先端部は鋭利である。

c. 打製石鏃（第Ⅲ-696図、PL.45）

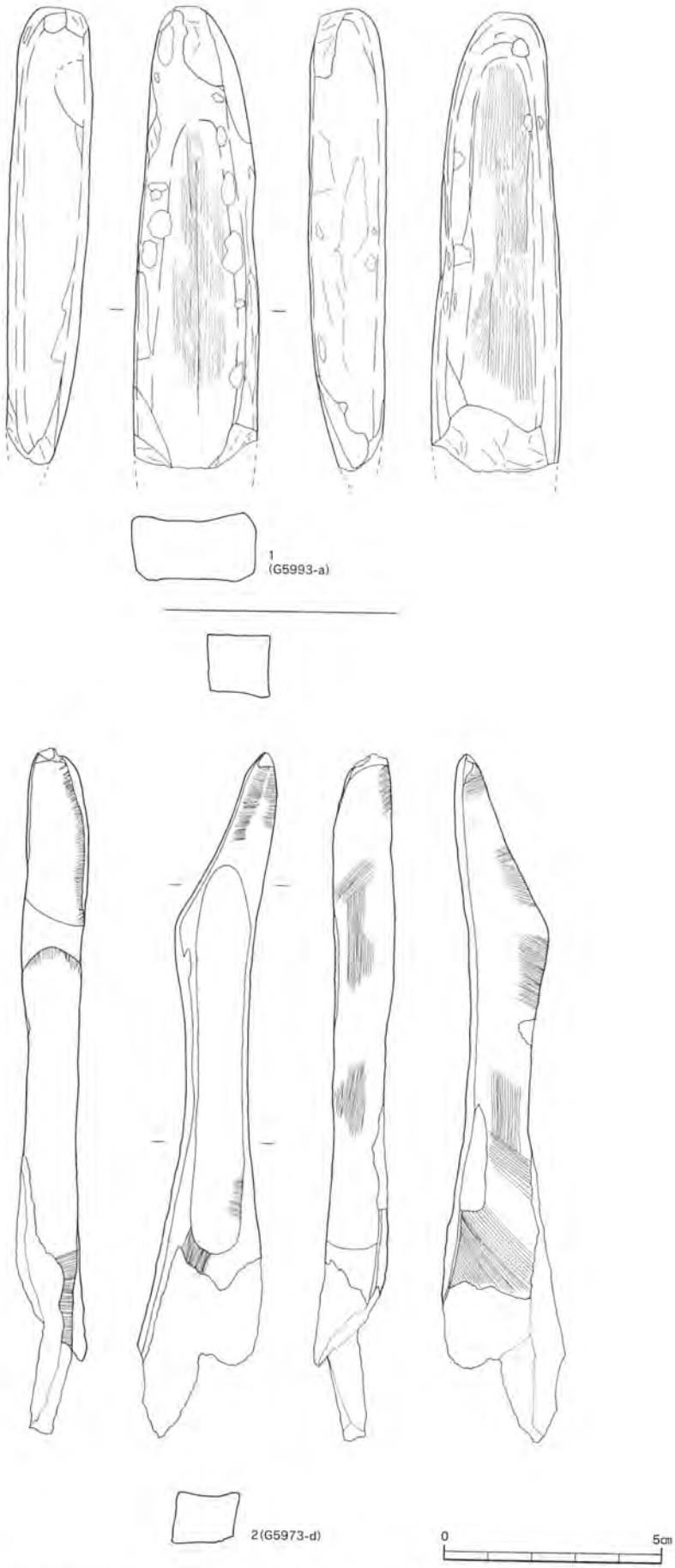
様々な型式のものが多数出土している。縄文の石鏃との区別が困難である。本来は、縄文時代の石鏃として説明すべきものが多いと考える。すべて無茎石鏃である。脚部を形成する抉入部から3型式に分類できる。1・4は抉入部が円形に剥離しているものである。2は、緩やかに抉入部を作り出しているものである。3は基部を水平に製作している。

d.石製穂積具（第Ⅲ-696図、PL.45）

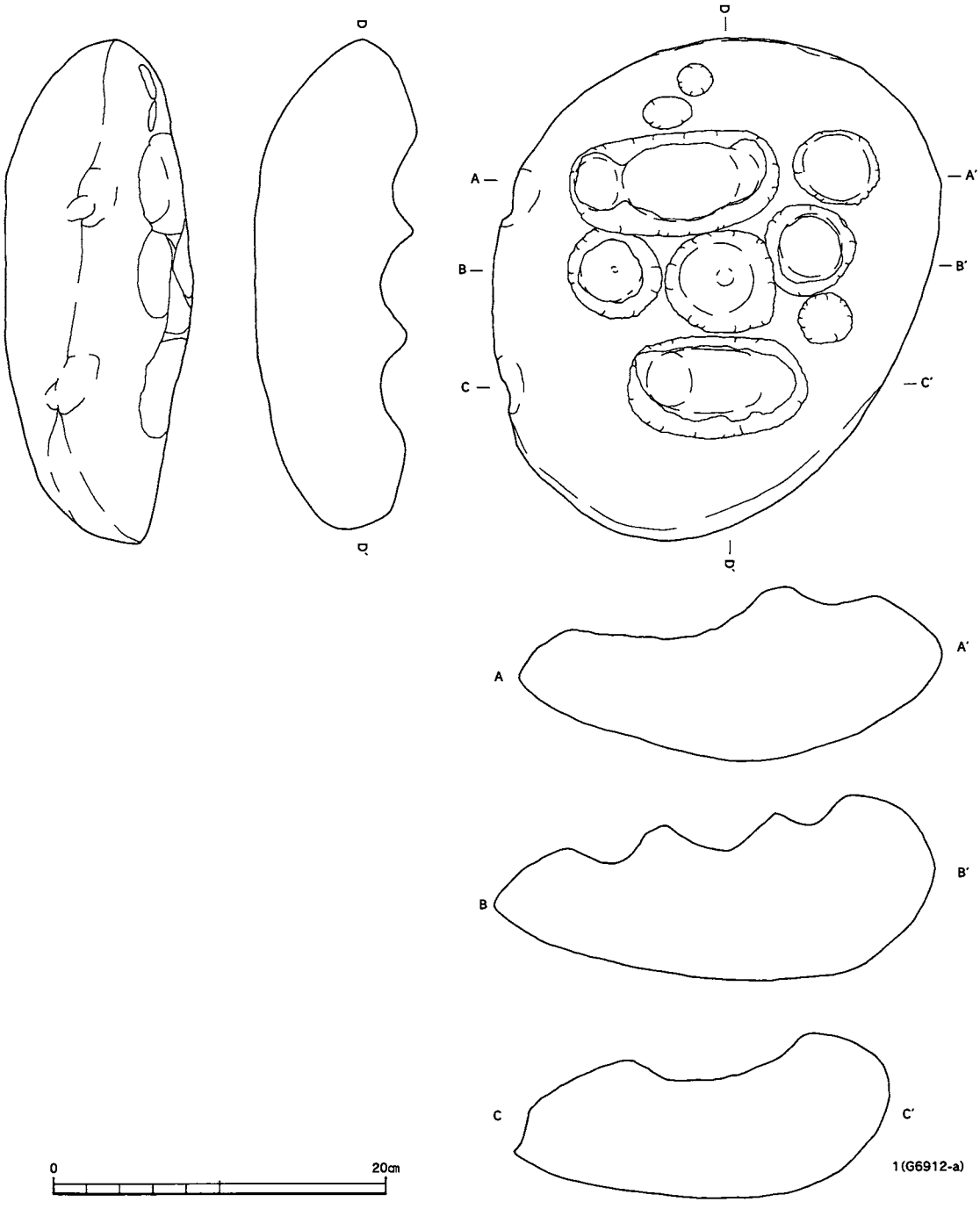
5は結晶片岩（黒色片岩）製、6は黒色片岩製、7は硬砂岩製、8は結晶片岩製、9は緑色片岩製である。



第Ⅲ-698図　2区遺物包含層出土石器実測図5(2/3)



第Ⅲ-699図　2区遺物包含層出土石器実測図6(2/3)



第Ⅲ-700図　2区遺物包含層出土石器実測図7(1/4)

ほぼ完形は、5のみで、孔径0.4㎝、孔背間距離1.3㎝、二孔間距離2.3mを測る。研磨痕跡が刃部に直交している。8は基部が直線的に伸びるタイプで、5は使用頻度が少なく、8は多いと推定できる。いずれも両面穿孔だが、9は片面からの穿孔がやや斜めになっている。

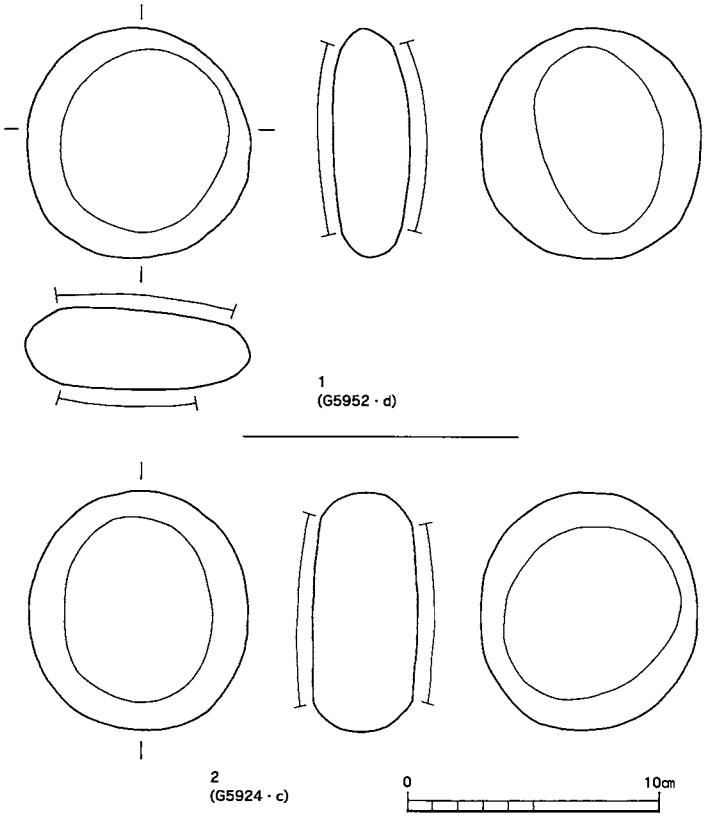
e.砥石（第Ⅲ-697・698・699図、PL.45）

基本的に特定の面のみを使用しているものは無く、全面に使用痕跡を残存する。

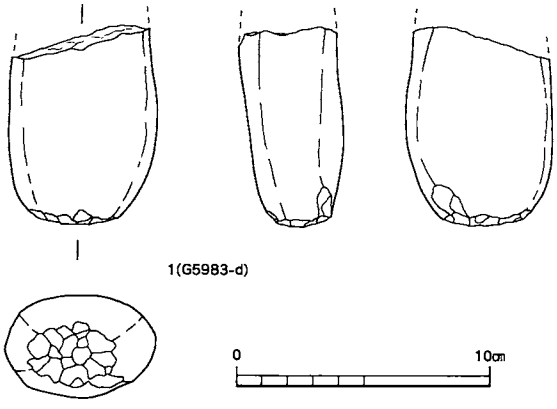
第Ⅲ-698図1は、裏面に幅3mmの使用痕と断面が深く刻まれた使用痕を残す。金属器等の研磨に使用された可能性がある。第Ⅲ-699図2は、使用痕跡が顕著であり、使用形態を推察する上で良好な資料である。

f.石皿（第Ⅲ-700図、PL.47）

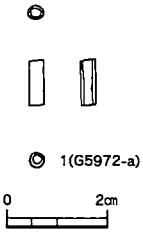
長軸30.0㎝、短軸27.05㎝、厚み5.3㎝の扁平な楕円形を呈する。径5～6㎝、深さ0.8～1.6㎝の窪



第Ⅲ-701図　2区遺物包含層出土石器実測図8(1/3)



第Ⅲ-702図　2区遺物包含層出土石器実測図9(1/3)



第Ⅲ-703図　2区遺物包含
層出土石器実測図10(2/3)

みが中央付近に4つ残存する。また、その両脇に長軸11～12㎝、短軸6㎝、深さ約1.5㎝の楕円形の窪みが残存する。赤色顔料がそれぞれの窪みにかすかに残存する。顔料を磨りつぶす際に使われたものと推定できる。

g.磨石（第Ⅲ-701図）

径9㎝の円形を呈し、厚み3㎝を測る。平坦面の2面に磨り痕跡が残存する。

h.敲石（第Ⅲ-702図）

破損して全長は不明である。端部に2.7～3.6㎝の範囲に打撃痕跡が残存する。

i.管玉（第Ⅲ-703図、PL.45）

碧玉製で、全長9mm、幅3mmで孔径1.5mmを測る。

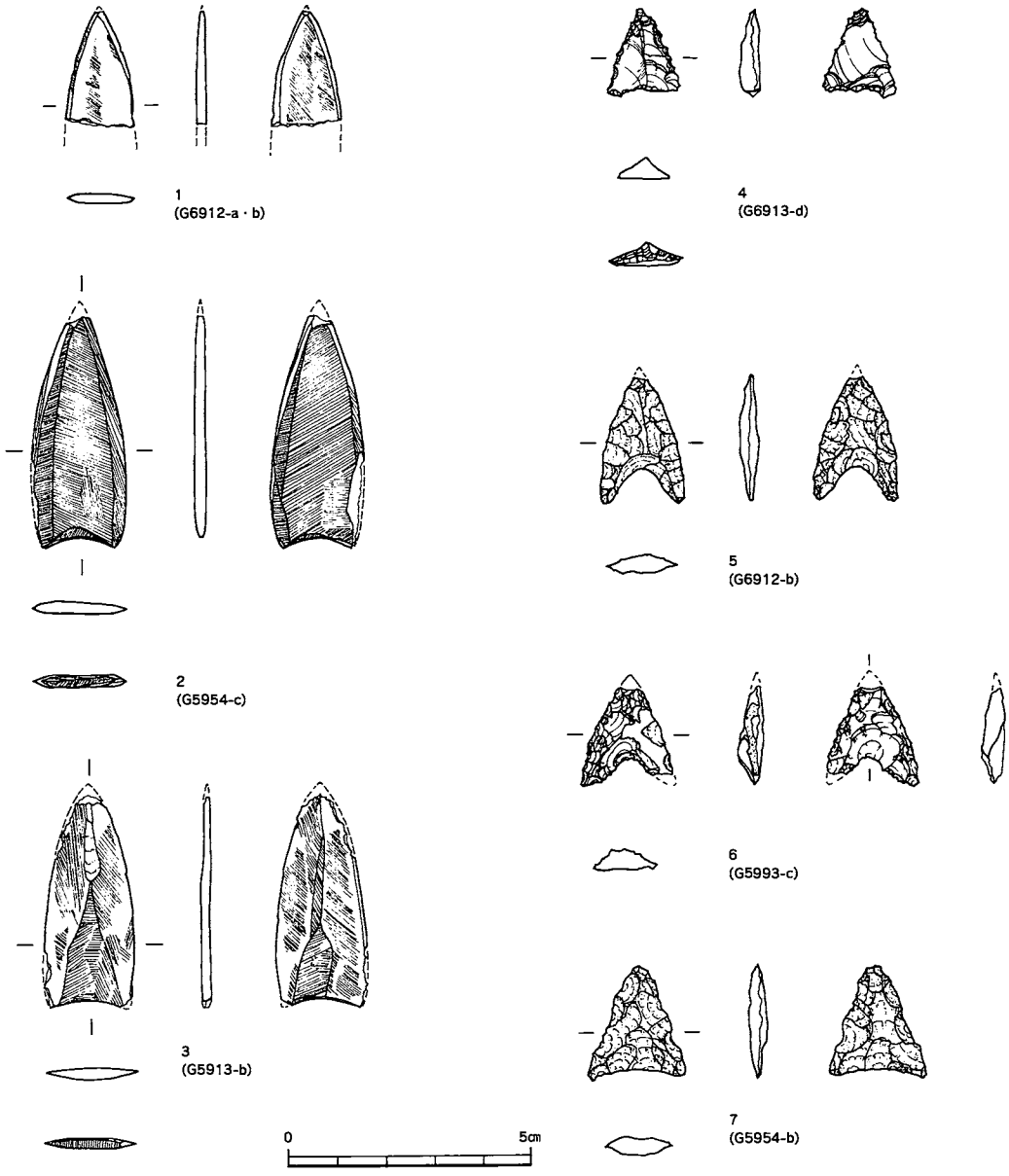
イ.撹乱の遺物（第Ⅲ-704～706図）

a.磨製石鏃（第Ⅲ-704図、PL.46）

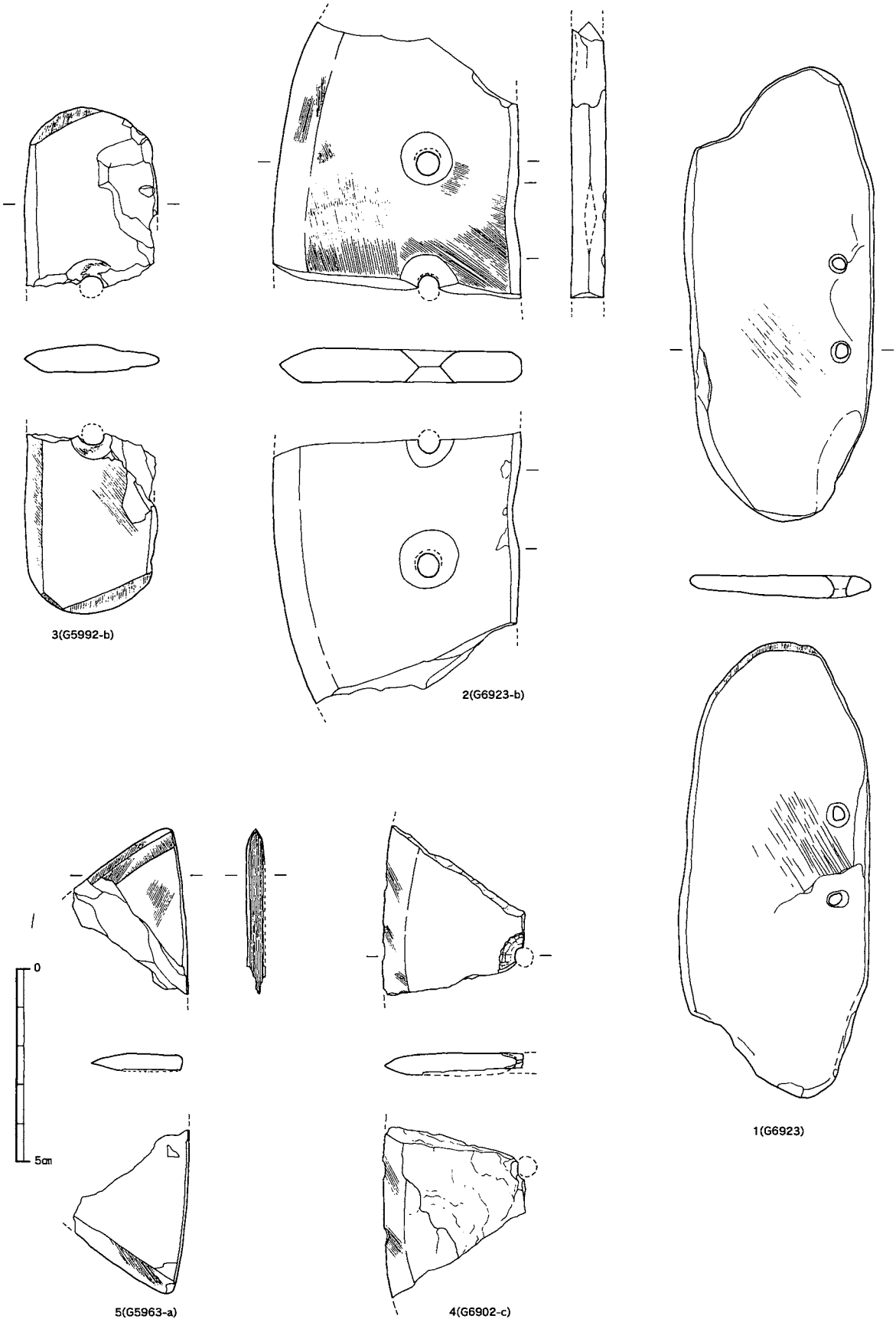
1は、基部が欠損して詳細は不明である。斜め方向に研磨している。2・3は、全長/幅の値は2.5以上である。2は、丁寧に刃部を形成している。その幅は、1.5～3mmである。3は、中央に稜を形成し、基部（抉入部）にも三角形状に面を形成し、研磨している。

b.打製石鏃（第Ⅲ-704図、PL.46）

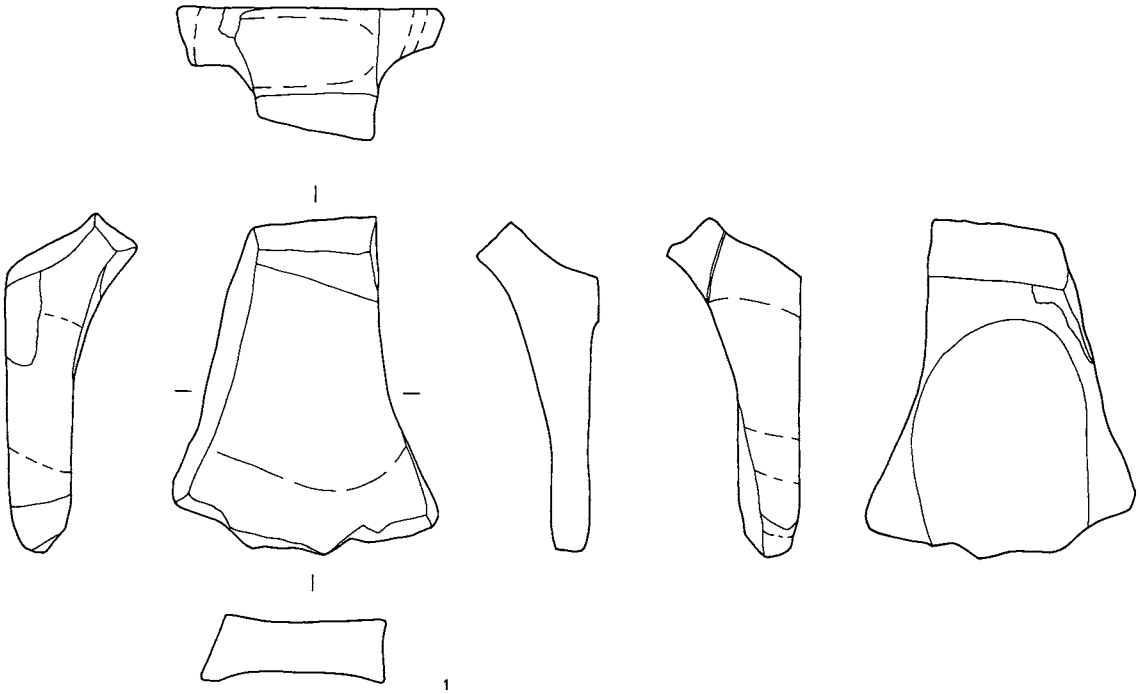
第Ⅲ-696図の打製石鏃同様縄文時代の石鏃の可能性が高い。4は黒曜石製の剥片鏃である。5・6は抉入部が深度6～7.5㎝で深い型式である。5は安山岩製、6は黒曜石製である。7は安山岩製でやや逆Y字形を呈する。



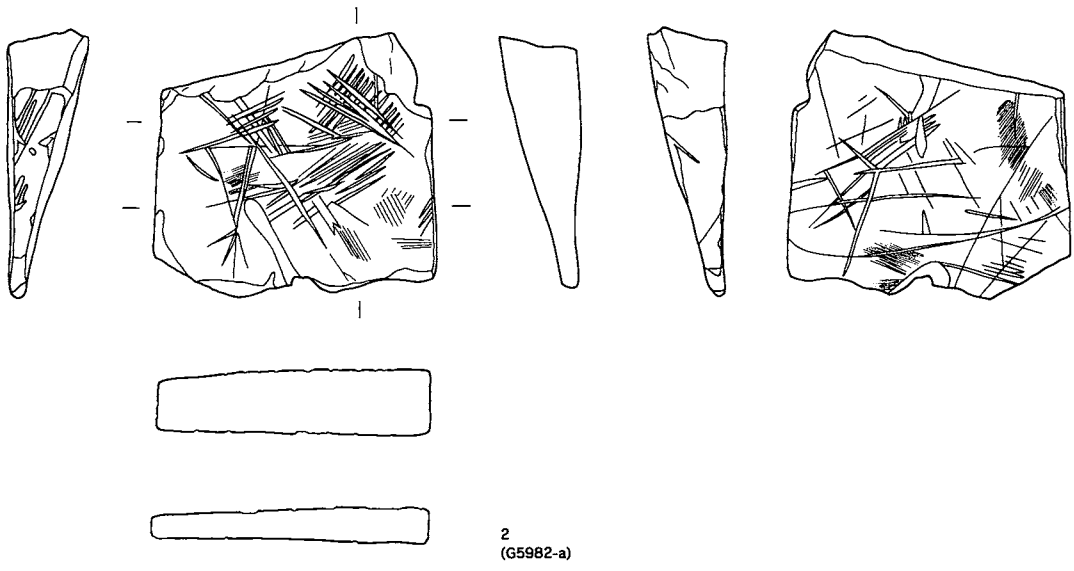
第Ⅲ-704図　2区撹乱出土石器実測図1(2/3)



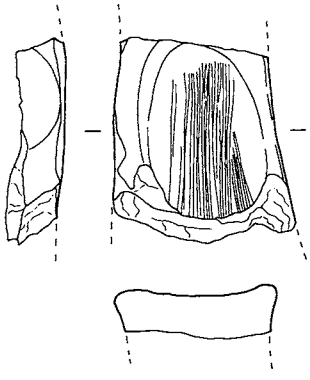
第Ⅲ-705図　2区撹乱出土石器実測図2(2/3)



1
(G6910-d、G6920-a)



2
(G5982-a)



3
(G6902-b)

0 5cm

第Ⅲ-706図　2区撹乱出土石器実測図3(2/3)

c.石製穂摘具（第Ⅲ-705図、PL.46）

1は輝石安山岩製で、孔背間距離0.8㎝、二孔間距離2.25㎝を測る。2は黒色片岩製で孔背間距離2.4㎝、二孔間距離3.3㎝を測る。3は凝灰岩製で孔背間距離1.7㎝を測る。

d.砥石（第Ⅲ-706図、PL.47）

1・3は片面に凹面を持つ型式である。3は凹面に縦方向の研磨痕が遺存する。

③2区の鉄器（第Ⅲ-707～710図）

ア・イ、遺物包含層・撹乱の遺物

a.鉄斧（第Ⅲ-707図、PL.51）

1・4・5は鋳造鉄斧を再利用した素材である。2・3・6は、片刃の板状鉄斧である。

7は、全長11.5㎝の袋状鉄斧で中央が基部や刃部より狭くなる形態を持つ。袋部の断面は、楕円形に近い六角形を呈する。木質が長さ9㎝以上残存する。9は、手鎌（鉄製摘鎌）の基部の折り返し部分と推定できる。

b.鉄鏃（第Ⅲ-708・710図、PL.51・52）

全体の型式が把握するものが少量である。茎部を持つもの（第Ⅲ-708図1・5、第Ⅲ-710図2・4・5）、基部に抉入部を持つもの（第Ⅲ-708図4、第Ⅲ-710図1）がある。

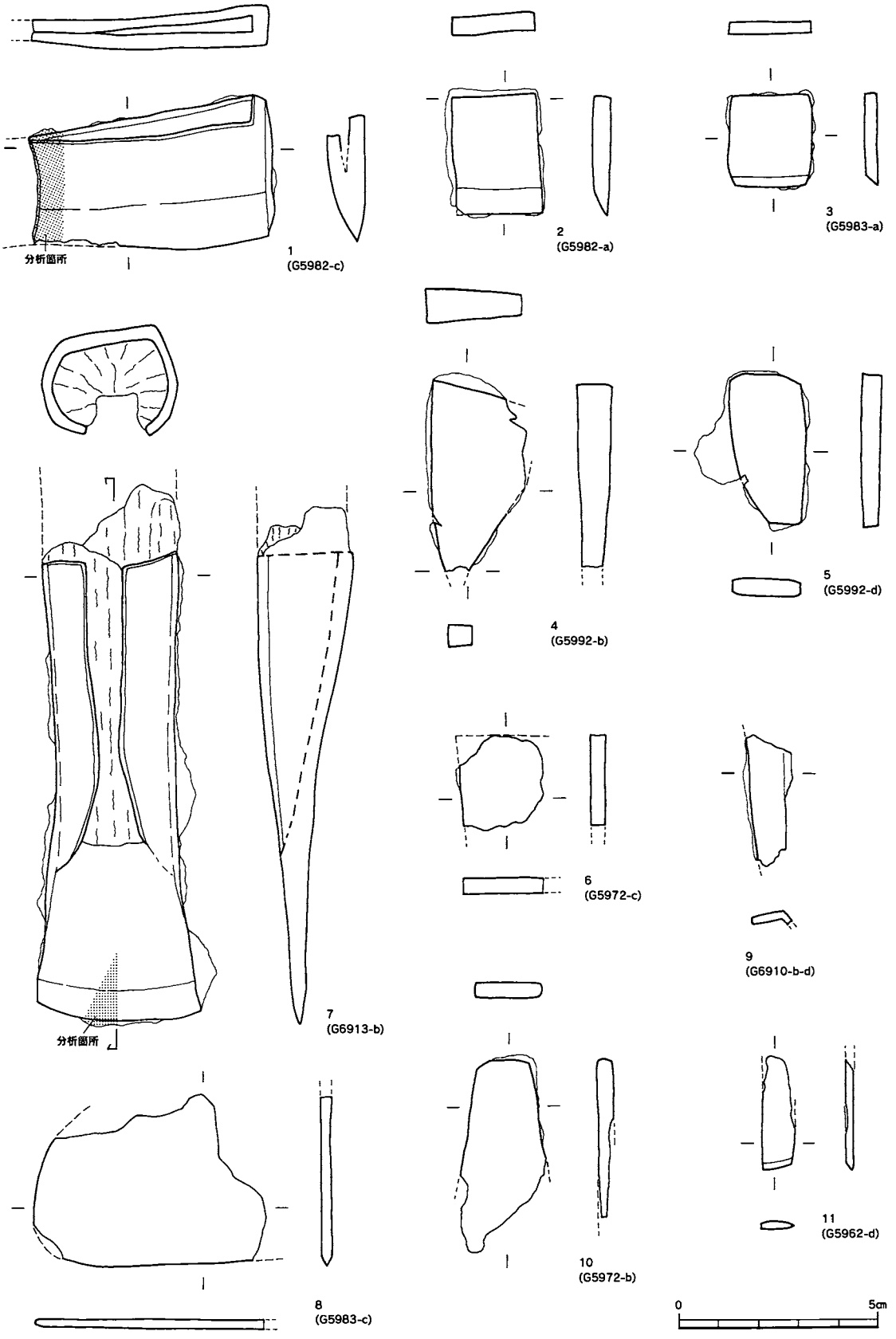
c.工具類（第Ⅲ-709・712図、PL.52）

第Ⅲ-709図1は金具、2はやりがんなか、鉄鏃と推定できる。ただ刃部が明瞭ではない。3は鉄製摘鎌、4は、曲刃鎌と推定できる。5・6は刀子で、7・8は棒状鉄器である。7は、釘の可能性もある。

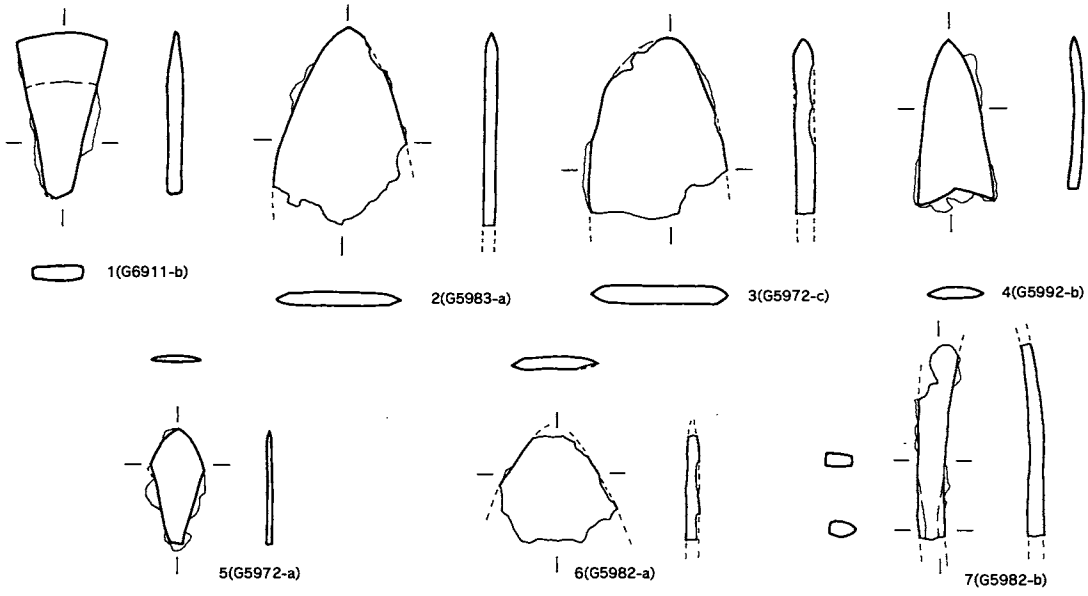
第Ⅲ-712図1は、やりがんなと推定できる。

d.その他（第Ⅲ-710図）

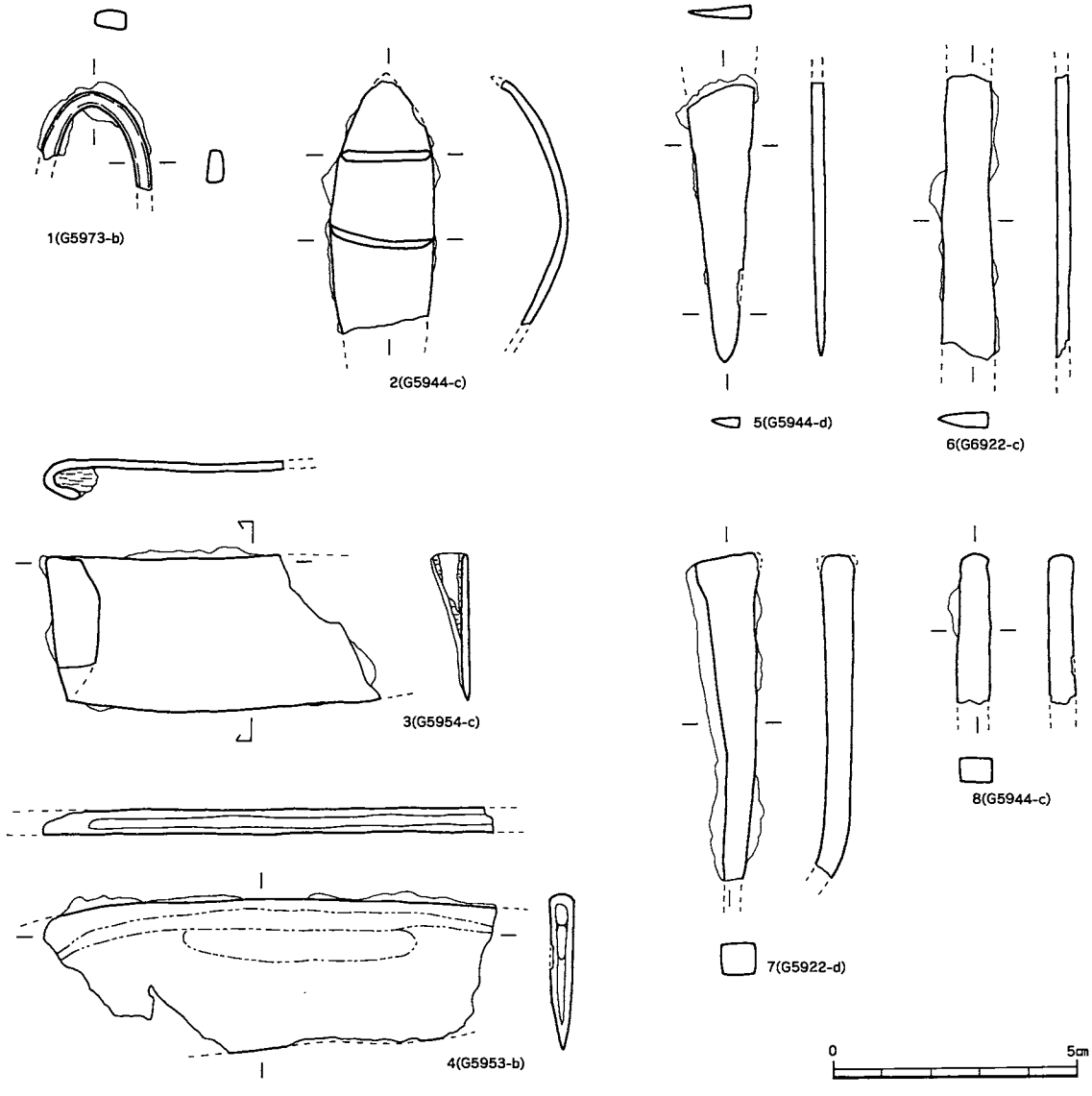
6は、柄部と推定される部分に径3mm程の穿孔がある。剣等の柄の可能性がある。



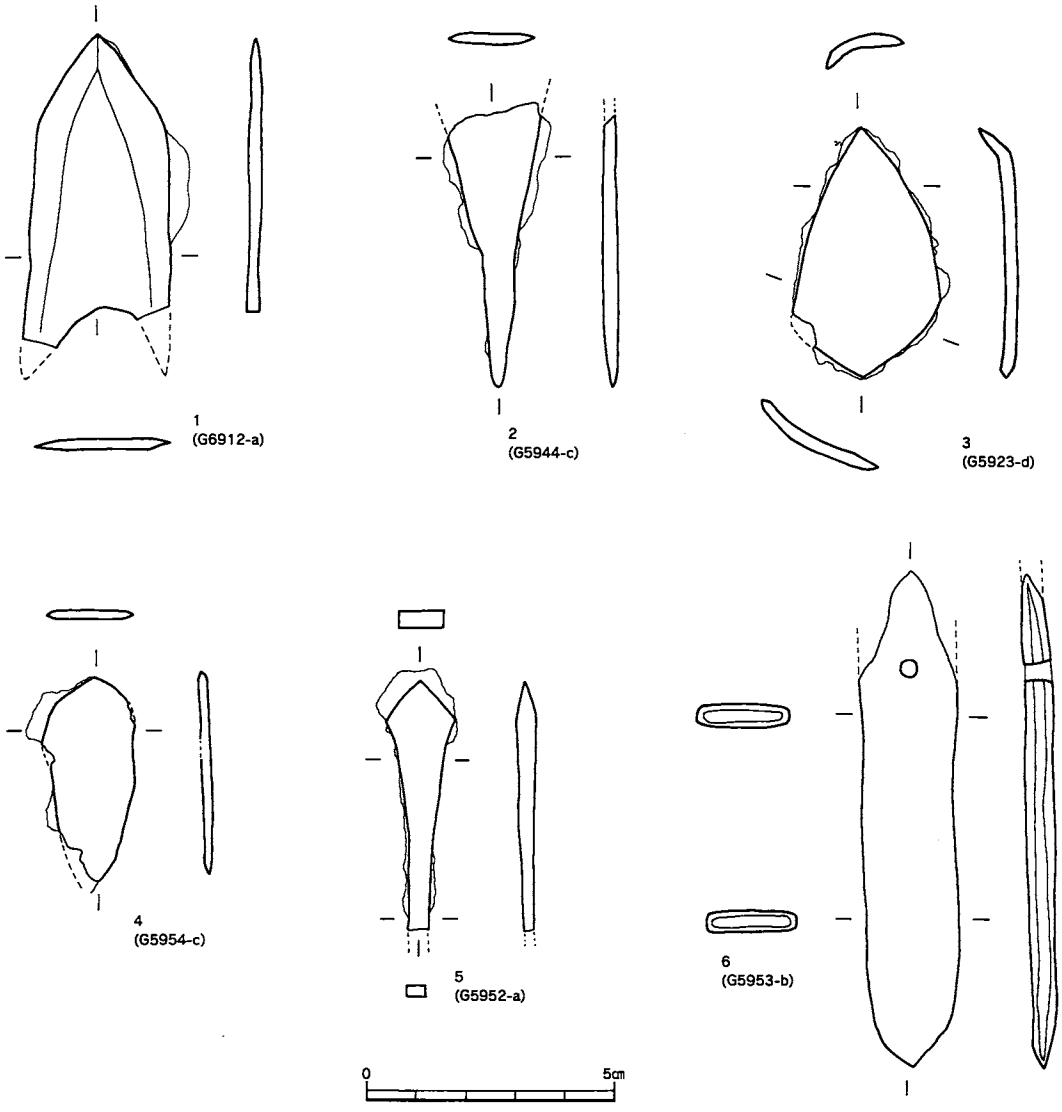
第Ⅲ-707図　2区遺物包含層出土鉄器実測図1(2/3)



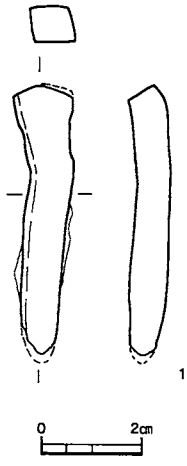
第Ⅲ-708図　2区遺物包含層出土鉄器実測図2(2/3)



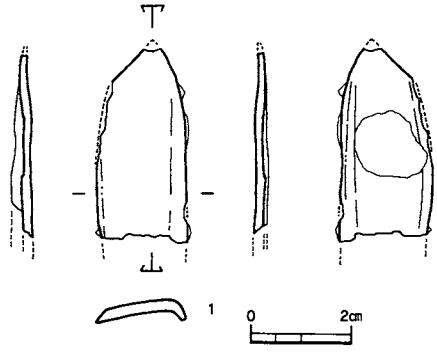
第Ⅲ-709図　2区撹乱出土鉄器実測図1(2/3)



第Ⅲ-710図　2区撹乱出土鉄器実測図2(2/3)



第Ⅲ-711図
No.82調査区遺物包含層出土
鉄器実測図(2/3)



第Ⅲ-712図　東西水路調査区
遺物包含層出土鉄器実測図(2/3)

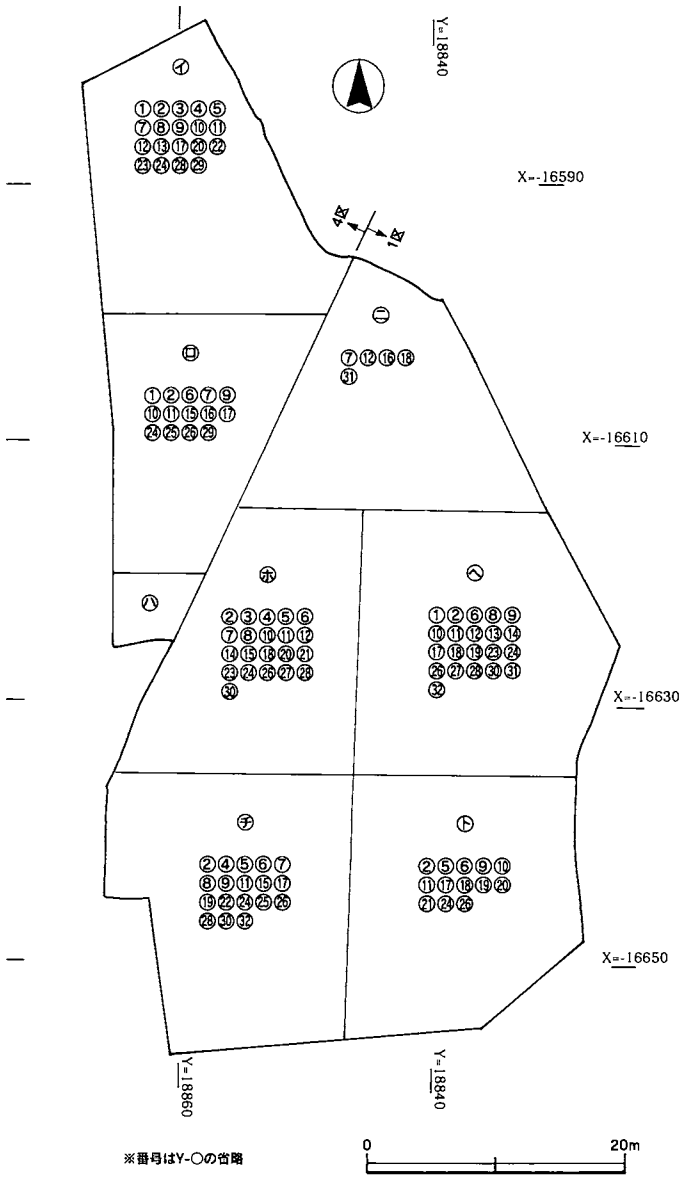
④ 1・4区出土の土器

弥生時代前期の様相を残すものが出土している。(第Ⅲ-718図1、第Ⅲ-720図12・15・第Ⅲ-722図8・9)や、中期でも初頭に位置づけられるであろう土器（第Ⅲ-718図2、第Ⅲ-720図1）が1区ヘ・ト地区から出土している。

また、新しい様相を持つ土器としては、第Ⅲ-717図6の波状文を胴部上半に施す壺、第719図15の重弧文を持つ壺、第725図7の壺、第Ⅲ-719図20の高坏、第720図17の高坏が挙げられる。

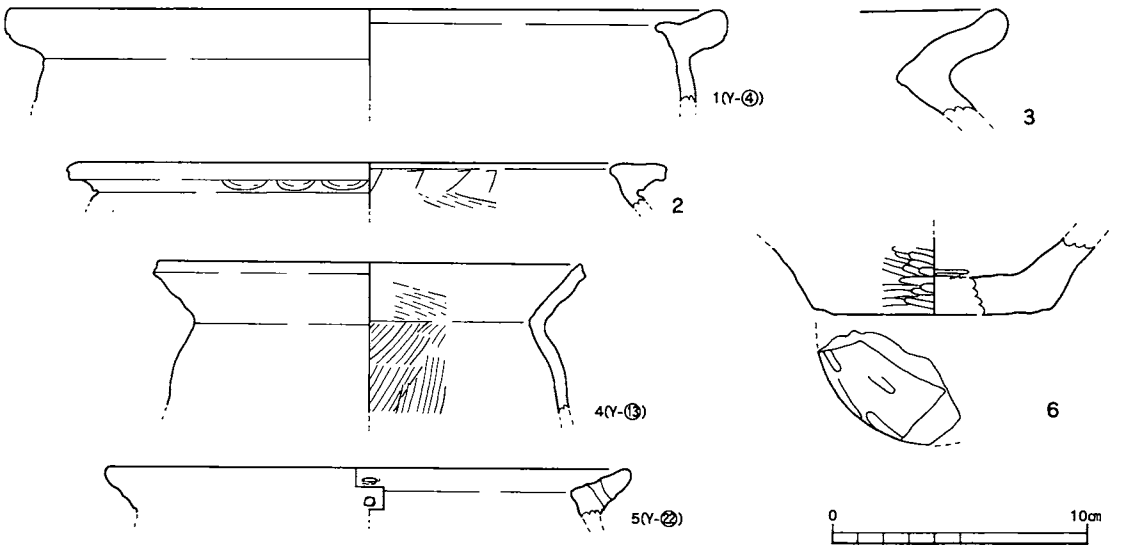
調査区全域では、前期末～中期の初頭の土器から、後期の中葉までの土器が型式的に断絶することなく出土している。

器種の復元としては、口縁部が穿孔された短頸壺が注目される。第Ⅲ-724図6・7の短頸壺は胴部外面を丁寧にヘラミガキしており、また第Ⅲ-720図8は、口縁部形態からそれらに先行するもと推定でき、甕の口縁部の変遷過程と類似することを推定させる。また、無頸壺も第Ⅲ-725図で3個体出土している。第Ⅲ-725図12は、外面をタテハケ、内面をヘラなでにより調整しており、口縁端部が内側に屈曲している。第Ⅲ-725図13に後出するものと推定できる。

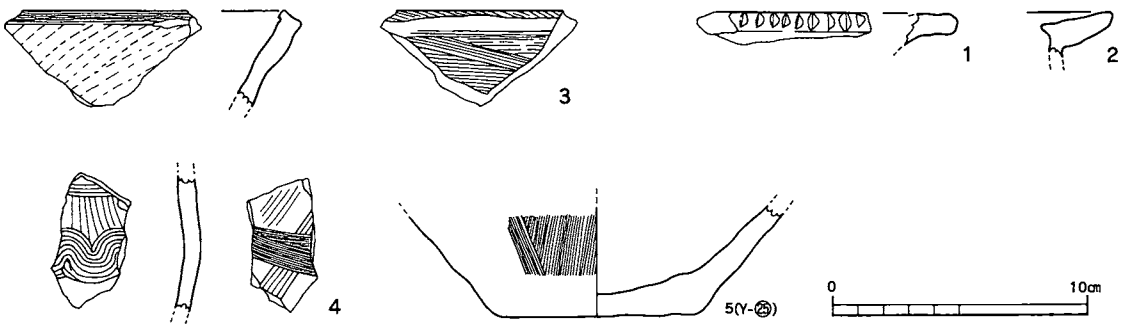


第Ⅲ-713図　1・4区弥生土器(Y)出土分布図(1/600)

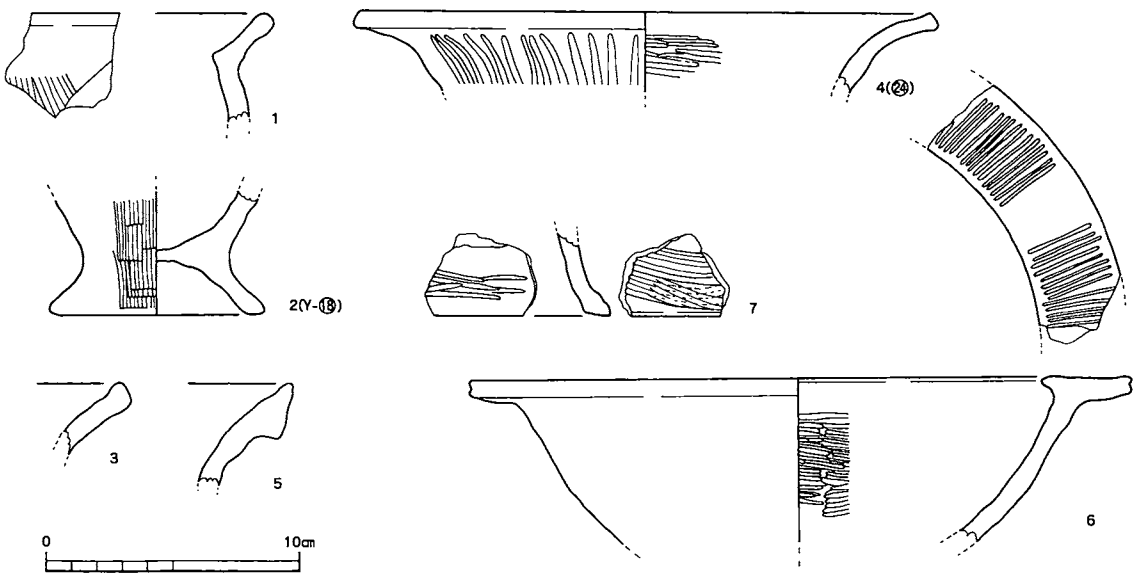
また、第Ⅲ-718図12・13、第Ⅲ-722図2～7等のように大型の土器棺として使用されたと推定できる土器が出土している。縄文時代の遺構面まで削平されているため明確ではないが、1・4区ないしは、周辺に土器棺墓群の存在が推定できる。



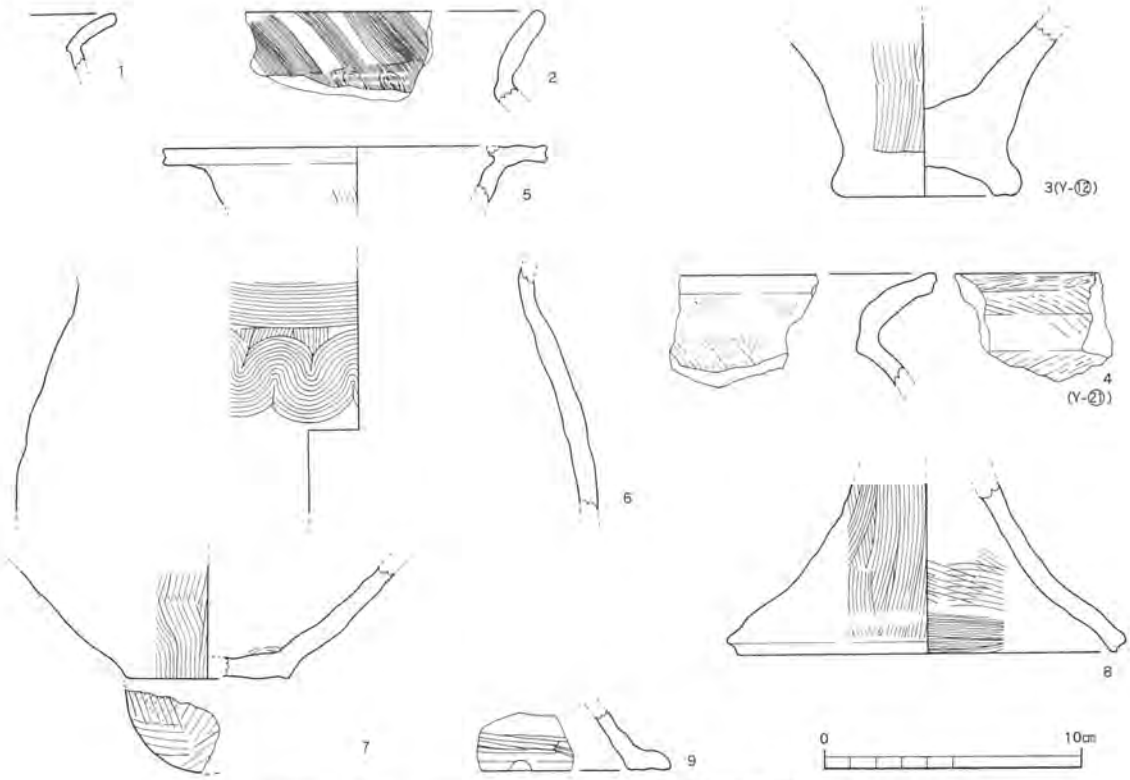
第Ⅲ-714図　4区イ地区出土弥生土器実測図(1/3)



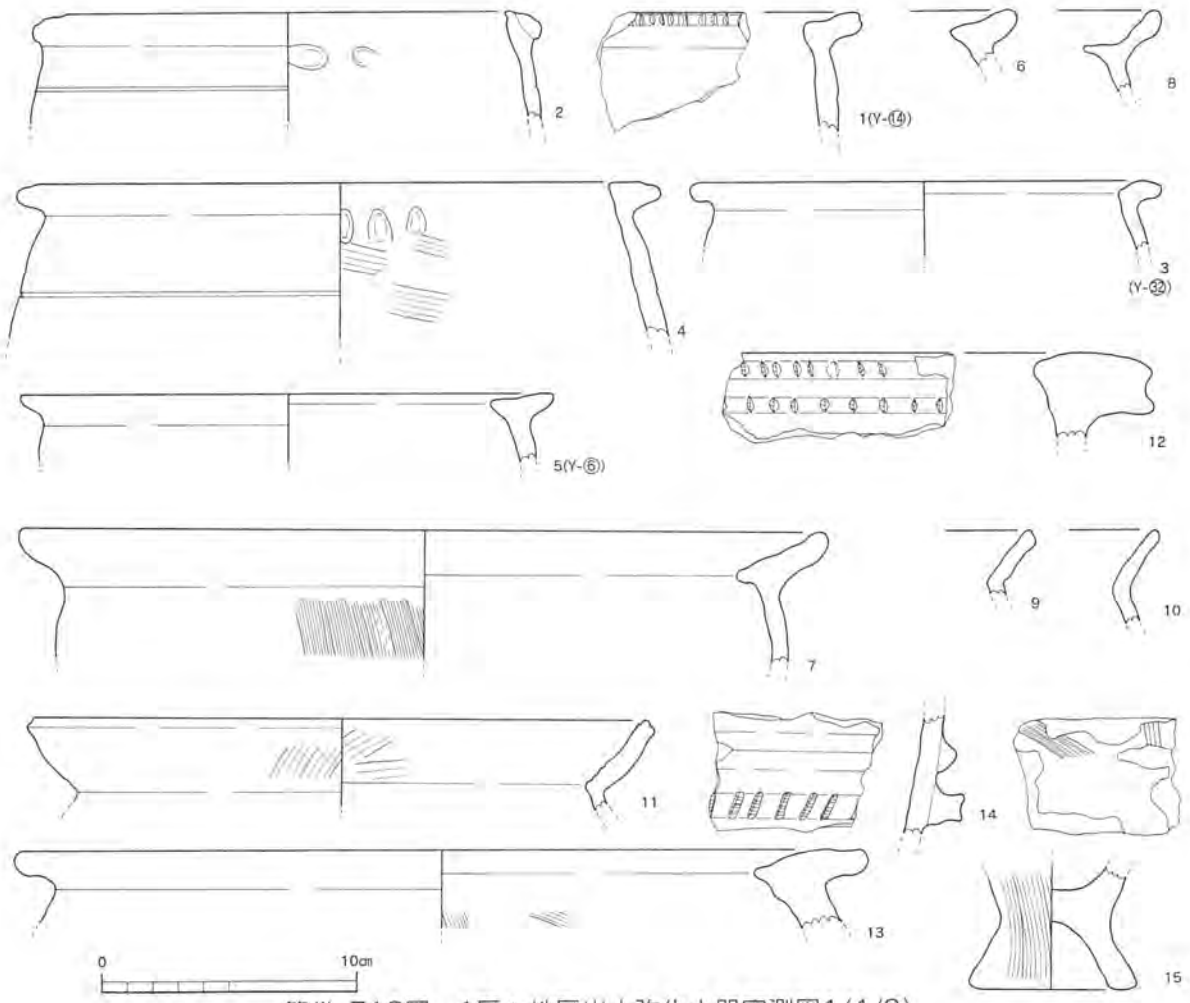
第Ⅲ-715図　4区ロ地区出土弥生土器実測図(1/3)



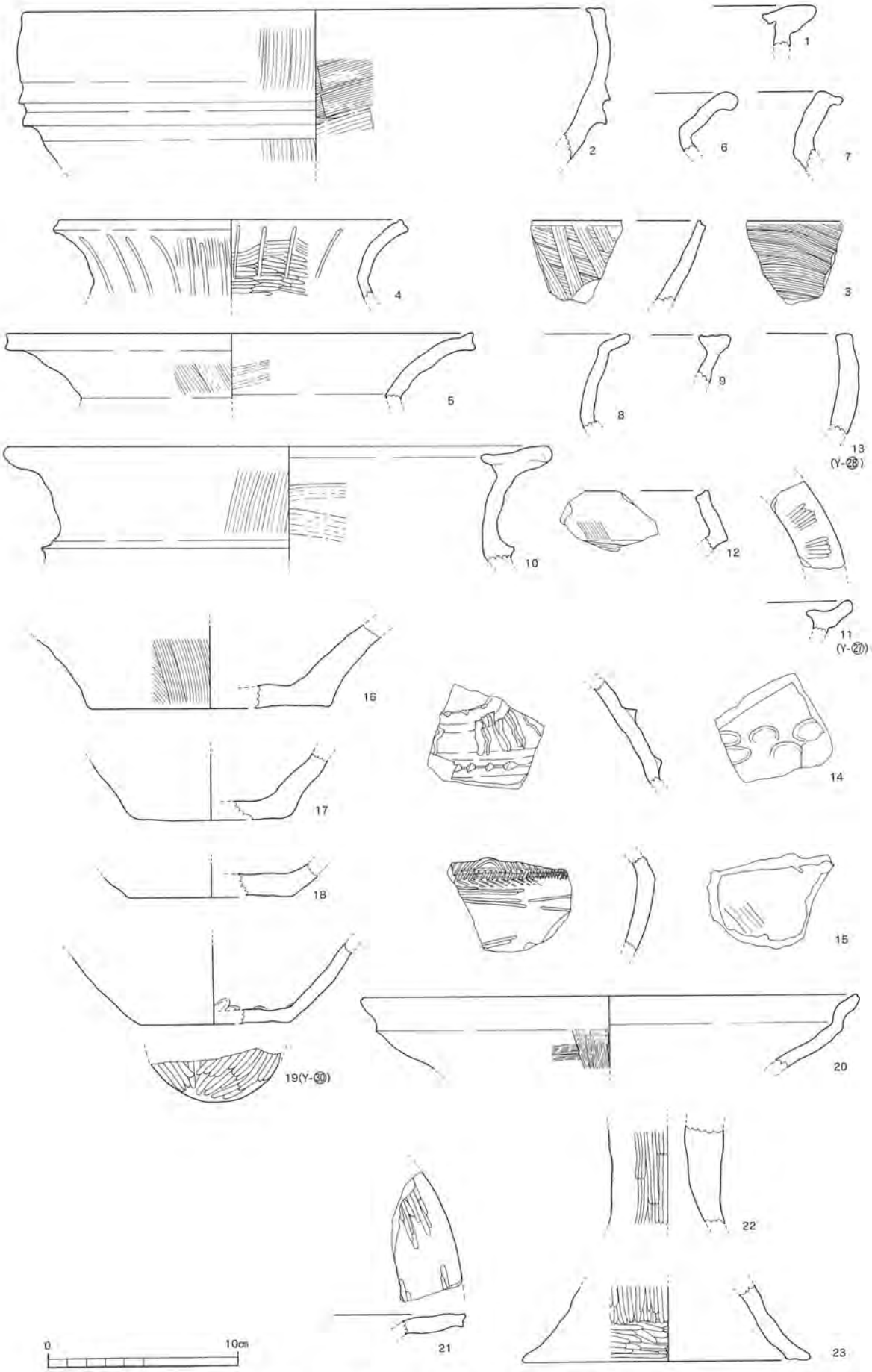
第Ⅲ-716図　1区二地区出土弥生土器実測図(1/3)



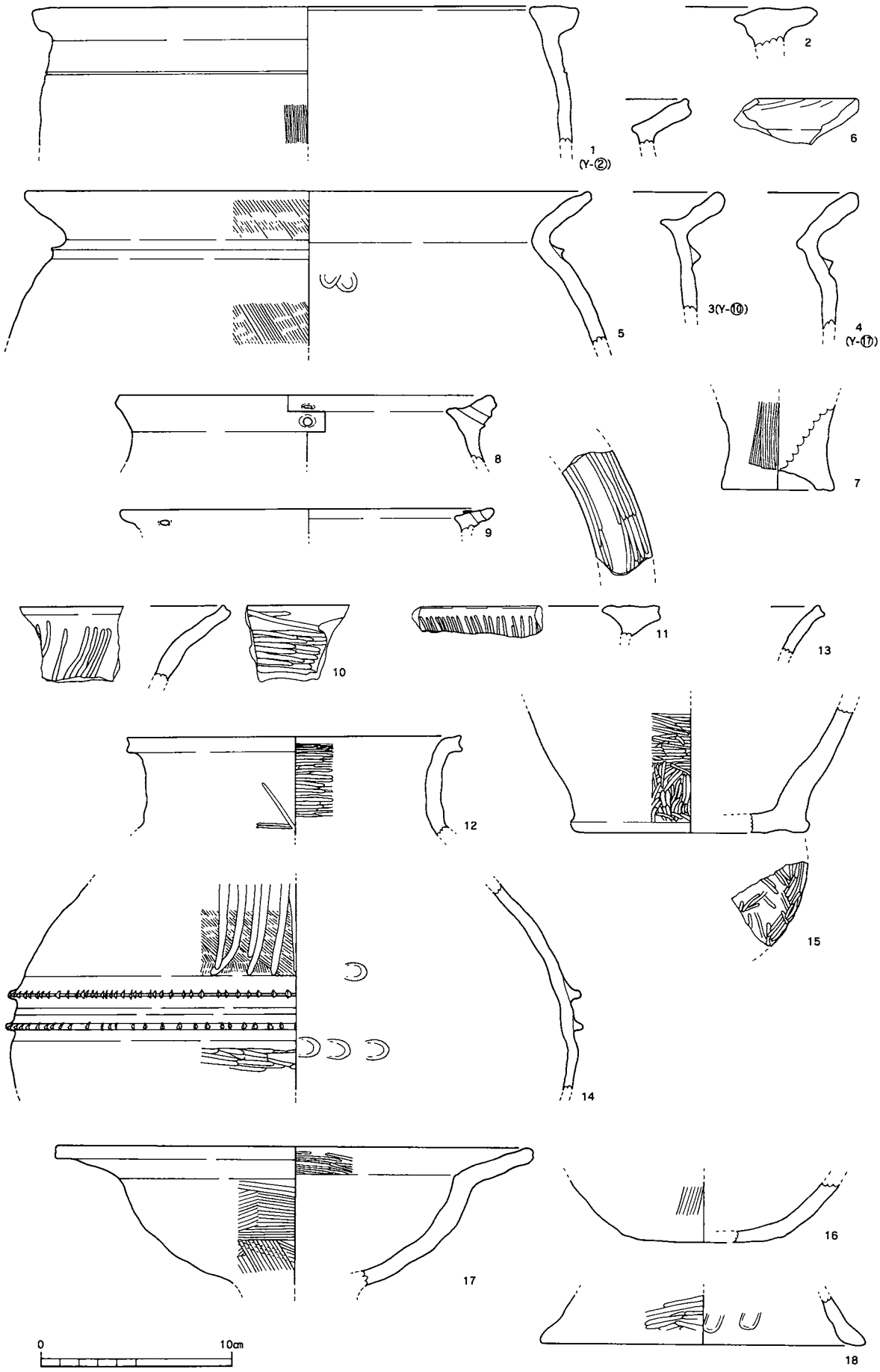
第Ⅲ-717図　1区ホ地区出土弥生土器実測図(1/3)



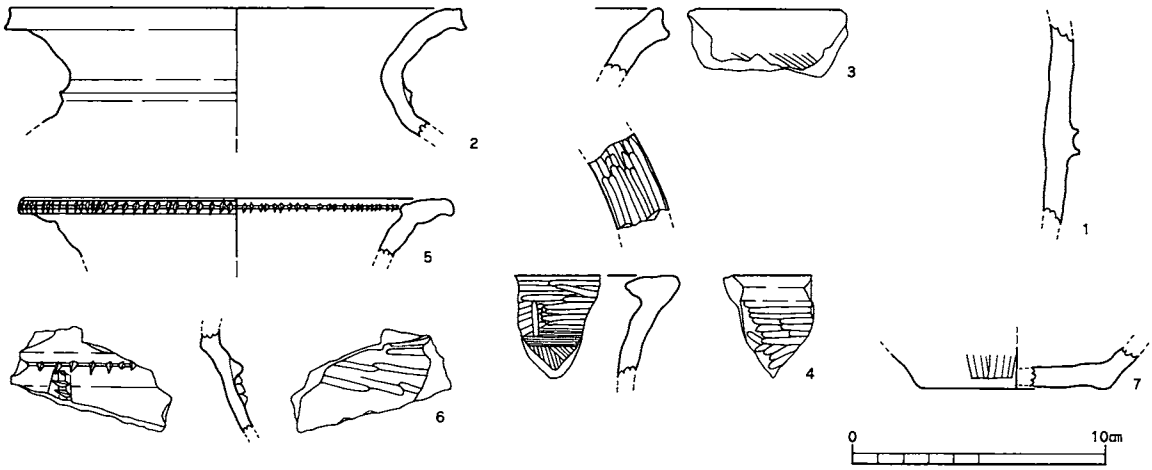
第Ⅲ-718図　1区ヘ地区出土弥生土器実測図1(1/3)



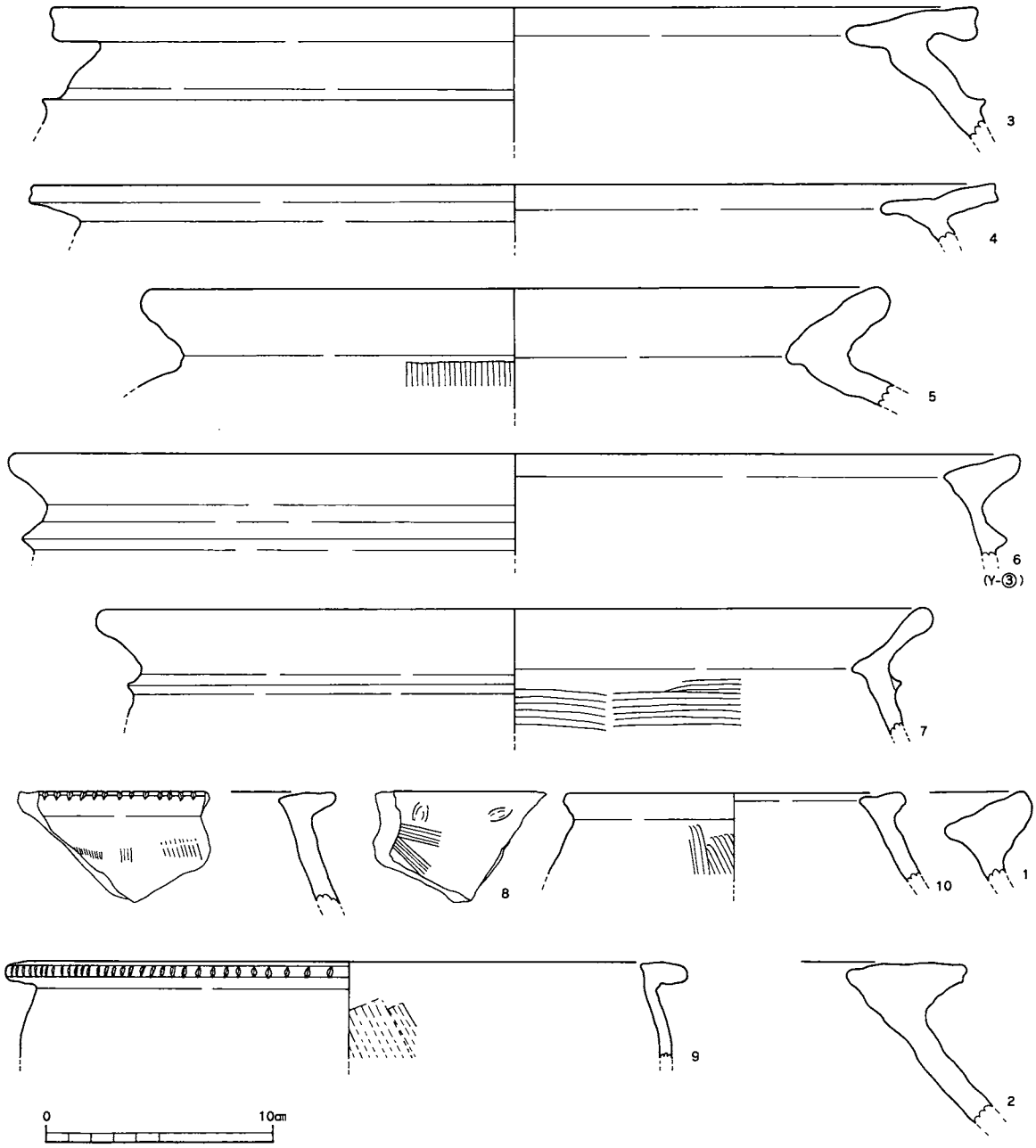
第Ⅲ-719図　1区へ地区出土弥生土器実測図2(1/3)



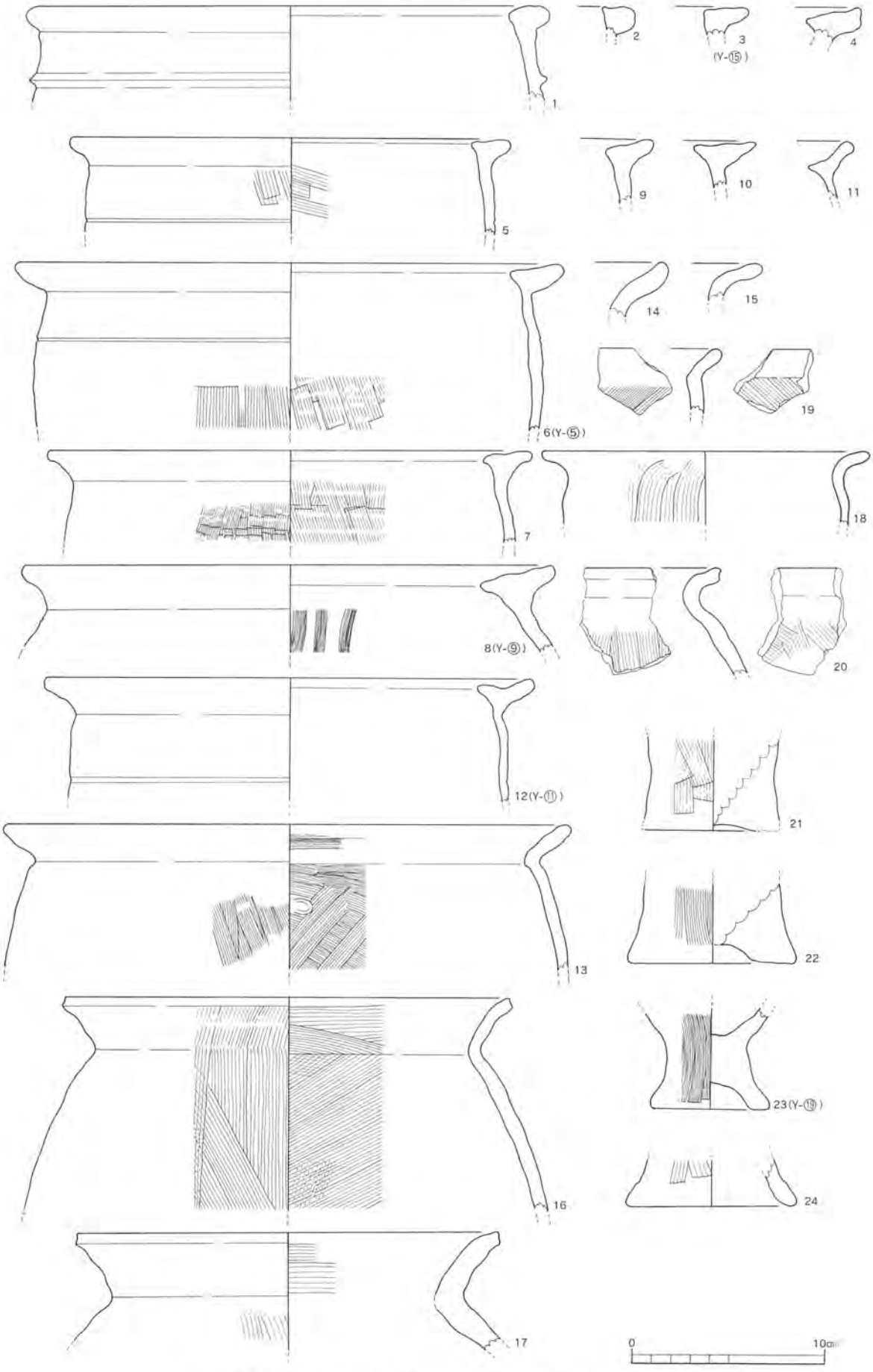
第Ⅲ-720図　1区ト地区出土弥生土器実測図(1/3)



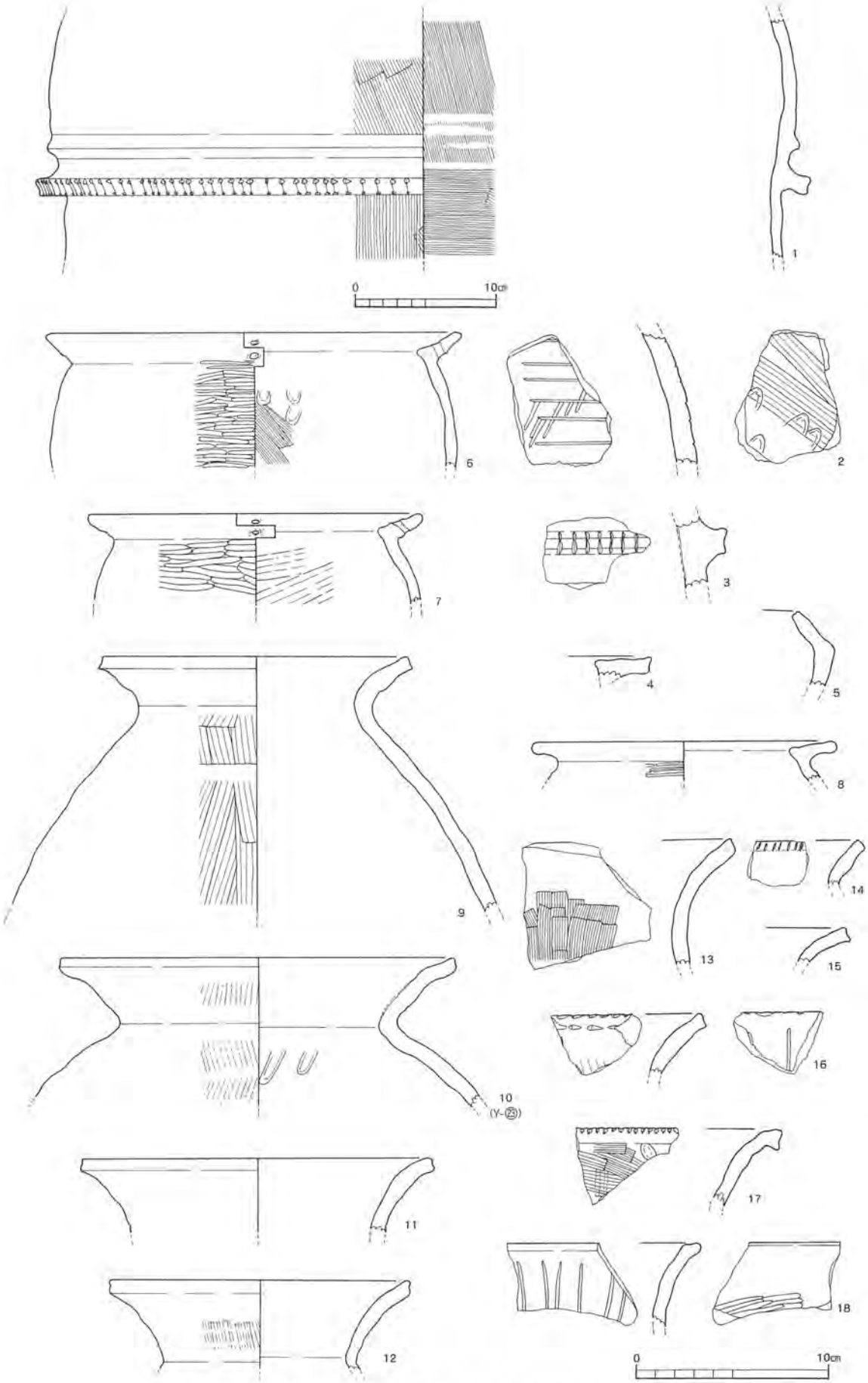
第Ⅲ-721図　1区チ地区出土弥生土器実測図(1/3)



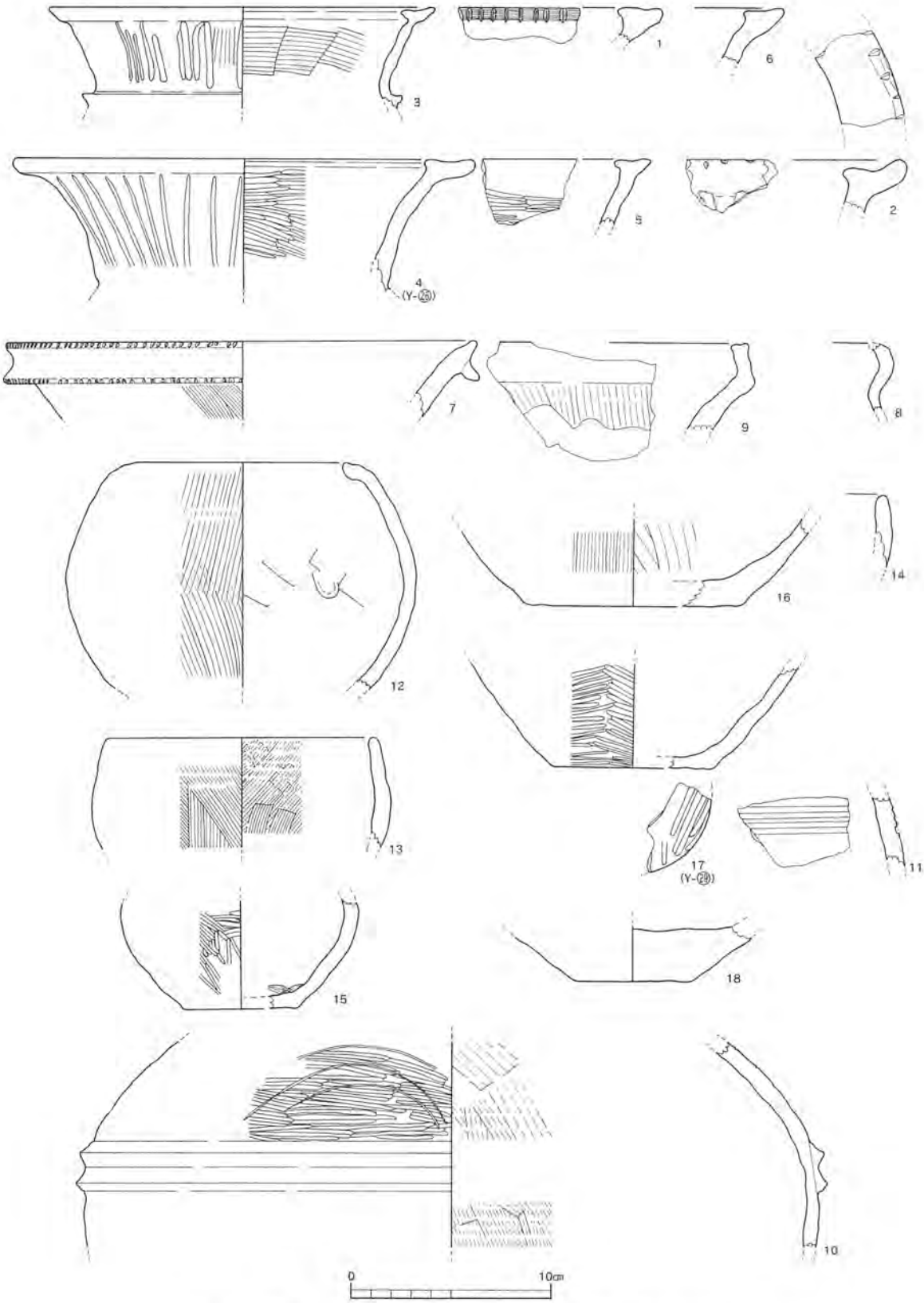
第Ⅲ-722図　1･4区用水路出土弥生土器実測図1(1/3)



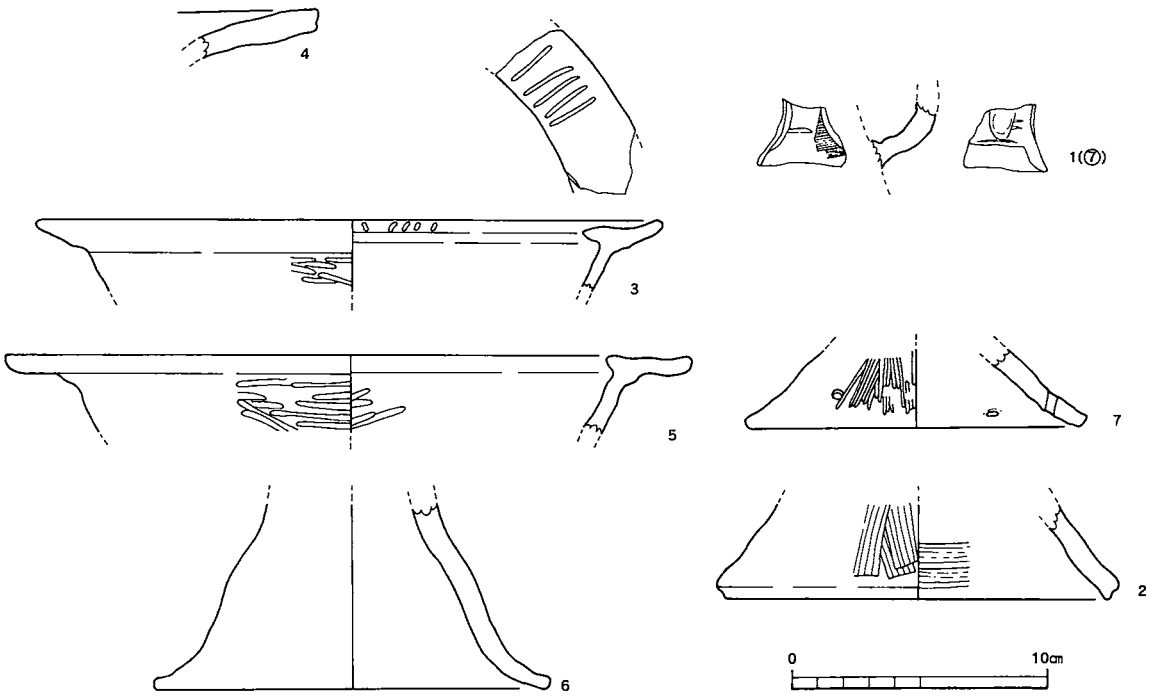
第Ⅲ-723図　1・4区用水路出土弥生土器実測図2(1/3)



第Ⅲ-724図　1・4区用水路出土弥生土器実測図3(1/2)(1/3)



第Ⅲ-725図　1・4区用水路出土弥生土器実測図4(1/3)



第Ⅲ-726図　1･4区用水路出土弥生土器実測図5(1/3)

⑤1・4区の鉄器

1・4区からは、弥生時代の確実な遺構を検出していない。出土状況から弥生時代の鉄器と確実に言えるものもない。形態等から推定したものである。

a.鉄斧（第Ⅲ-727・729図、PL.52）

第Ⅲ-727図1は、板状鉄斧で、第Ⅲ-727図2・第Ⅲ-729図1・2は、鋳造鉄斧を再利用した素材鉄片である。特に第Ⅲ-729図1・2は、2条突帯斧を再利用したもので、後者は、1側縁に刃部を形成している。第Ⅲ-729図4は、片刃の板状鉄斧である。刃部の方が基部より1cm以上広い。また、第Ⅲ-729図5は、袋部の断面形が楕円形で、基部より刃部の方が広い袋状鉄斧である。

b.鉄鏃（第Ⅲ-727・728図、PL.52）

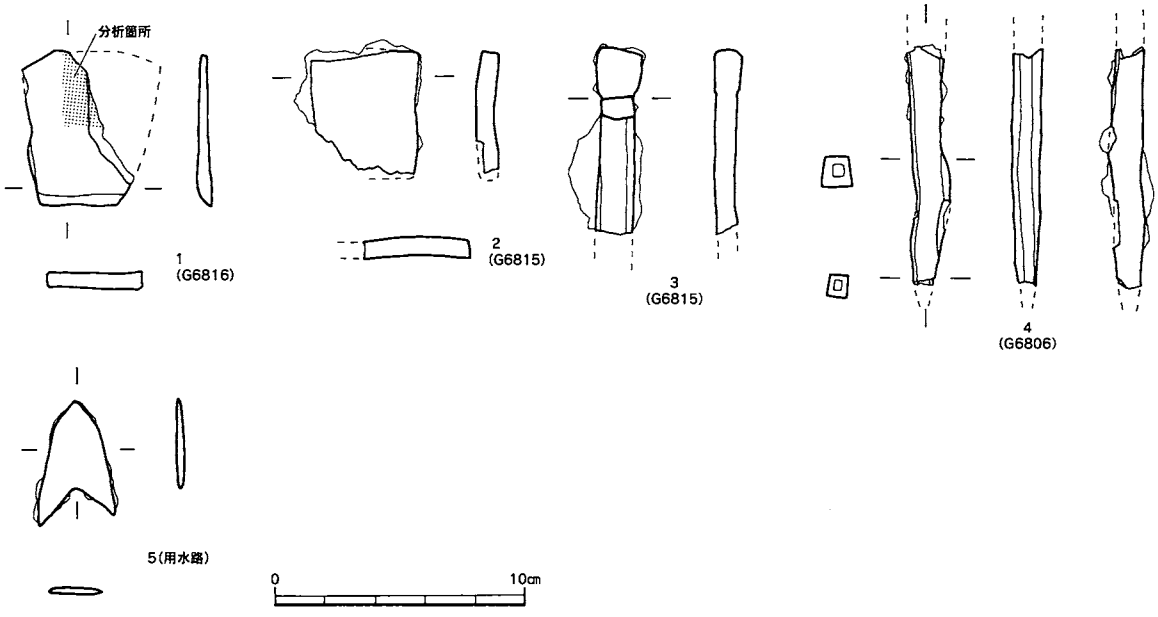
基部に抉入部を持つもの（第Ⅲ-728図6・7）がある。第Ⅲ-727図5は、抉入部の部分が非対称形である。製作途中ないしは、三角鉄片の可能性が高い。

c.工具類（第Ⅲ-728・729図、PL.52）

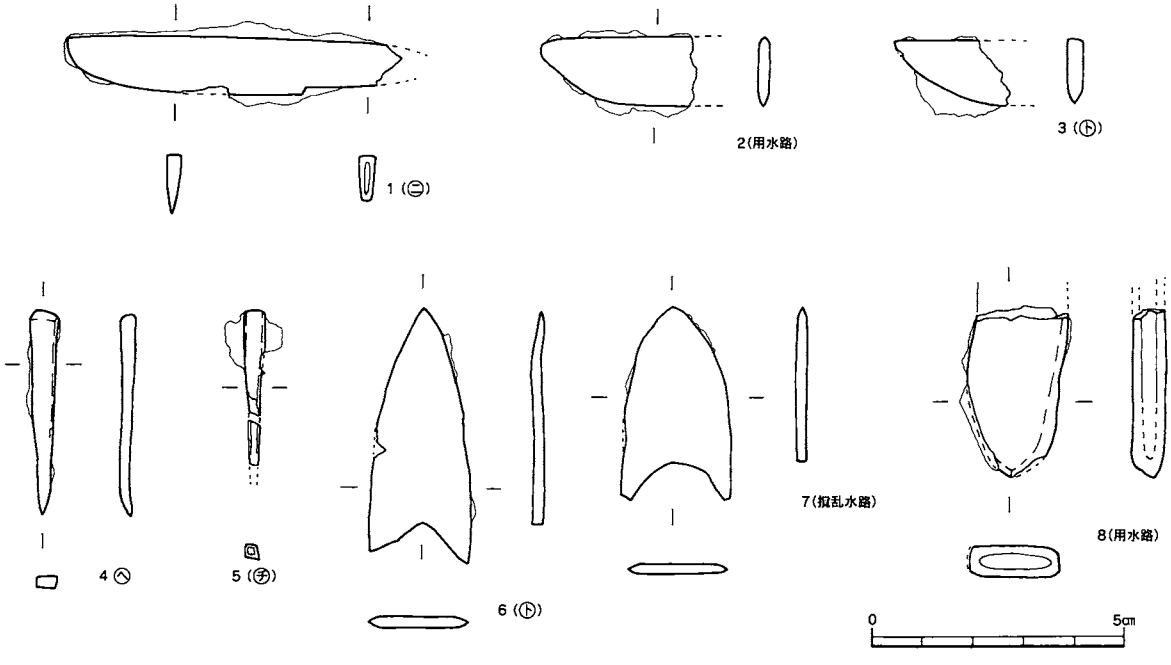
第Ⅲ-728図1～3は、刀子である。1は、区（まち）の部分が若干見られる。 第Ⅲ-729図6～9は、やりがんなと推定できる。刃部の使用痕形態等から凹面を上部にして使用したもの、凸面を上部にして使用したと推定できるものがある。

d.その他（第Ⅲ-727・728図、PL.52）

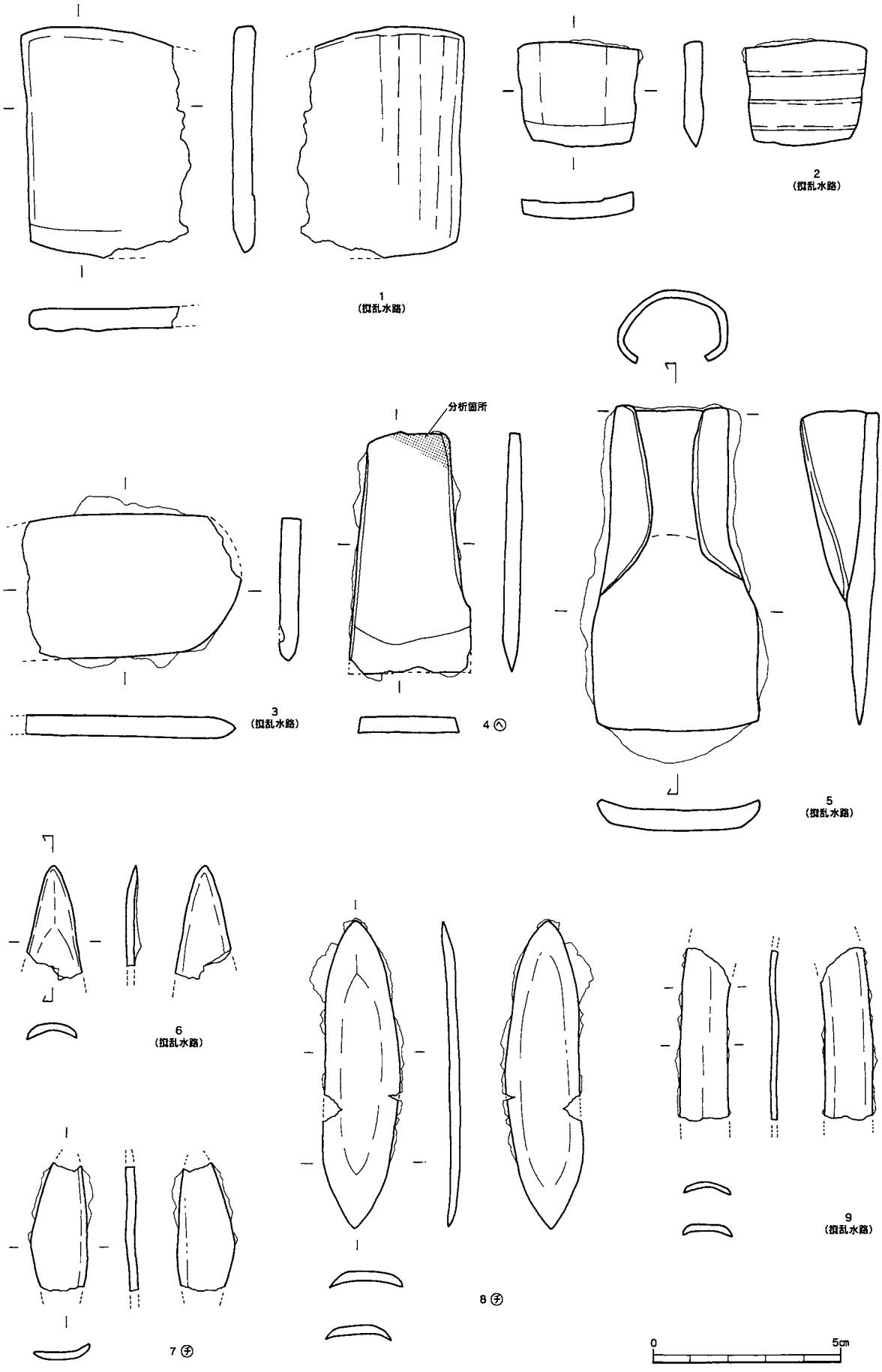
第Ⅲ-728図8は、柄部と推定される部分に径3㎜程の穿孔がある。剣等の、柄の可能性がある。第Ⅲ-727図3・4、第Ⅲ-728図4・5は、棒状の鉄片である。第Ⅲ-727図4、第Ⅲ-728図4・5は、先端部がとがっている。後2者は、基部の径も6㎜で、穿孔具として用いられた可能性もある。



第Ⅲ-727図　4区出土鉄器実測図(2/3)



第Ⅲ-728図　1区出土鉄器実測図2(2/3)



第Ⅲ-729図　1区出土鉄器実測図1(2/3)

熊本県文化財調査報告第 199 集

梅ノ木遺跡　II
上巻

発行年月日　平成 13 年 3 月 31 日

編集・発行　熊本県教育委員会

〒862-8609　熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号

印刷　啓文社（株）

〒861-3102　熊本県上益城郡嘉島町下六嘉 1765

TEL.096-368-8100

12	教委	教文
②	008	

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 199 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：梅ノ木遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日